增訂改版

露西亞文法

(例題·露文和譯·語彙附)

グレーボフ(*Глебов С.*)編纂

1917

東京

大倉書店發行

緒　言

本書は專ら教科用の目的を以て編纂せしものにして決して獨修書たるに非ず、總して露語研究の獨修書は何れの邦に於ても之を完全に編纂せし例なし、且つ之を編纂し得べからず、露語を修學するは至難なれば初學者は多少教師の直接指導を仰がざるを得ず

既に教科用の目的を以て編せし故に本書は概して文法上の主要なる法則は悉く收めて之を解釋したり、其組織は高等露文法書に據り體裁順序は希臘拉典の文法書に則りたり

文典中の規則に輕重ありて或る規則は重要なる故に最初より之を習得すべく又或る規則は左程主要ならざるを以て、後に之を習得して可なり、而して細密なる規則の如きは露語の一斑に通ぜし後に於て之を習得すべきものなり、是故に本書に於ては通例の順序に從て全體の規則を說述したれとも活字の大小に由て規則の輕重を判別せり即ち〔甲〕主要なる規則を述へし章の題字は五號活字を以て印刷し主要ならざる規則の章の題字には六號活字を用ひたり〔乙〕五號活字を用ひたる章中に於て六號活字を交へたる部分は主要ならざる規則なる故に最初は之を學ぶの必要なきものなり〔丙〕又六號活字を以て題字を印刷したる章中に於ても五號活字と六號活字とを混用したるは活字の大小を以て規則の輕重を示せしなり

文法の領解を容易ならしむるには實例を引用するに如くはなし、是故に本書には常に實例を引用せり但し各規則說明の後に直に之を引用せしもあり或は卷末 (305—378) に附記せしものもあり、又或る例題の如きは殊更に右兩處に重複したり

文法說述の際及び文法適用の例題に於て各規則を應用したる語或は語尾等に注意せしめんが爲に殊更に草體活字を使用し初學者をして直に規則の存する點を明瞭ならしむ

此例題に關する編者の注意は〔第一〕平易簡明を旨とし、易より難に簡より繁に導くの方針を取りて最初 (§§ 6—10) 詞類、文句の組立等に關する概要を擧けたり、〔第二〕露語に於ては如何なる語句、如何なる短文にても動詞を用ひざるを得ず、然るに其動詞の變化たるや (現在、未來) 繁雜細密極まりて初學者は勿論、多少露語を修めし者と雖、之に熟通するを至難とす

るを以て、最初の用例即ち名詞、形容詞、代名詞の概略を叙述の際に引用の例には專ら動詞の過去のみを使用せり、過去は不規則動詞と雖、敢て初學者の會得に難からず但し以上の例中に於て現在の變化をも使用せし一動詞あり быть 是れなり、[第三]名詞を叙説する章に及びては用例の領域を廣めて名詞の外に動詞 быть の現在、正則動詞の過去並に凡て語尾の變化を要せざる語類即ち動詞の不定法、副詞、前置詞、間投詞を使用す是れ領解の容易なるに因てなり、形容詞を叙説する章に至りては前章に於て既に使用せし語類に形容詞を加入して以て適切なる例を用ひ代名詞と數詞の章に於ても同しく代名詞、數詞と共に既に修學せし詞類を應用して例を組立つ、動詞の章に至りて初めて其現在と未來の變化を用ひて例題を構成す、この章より以下に於て引用せし例には凡て變化すべき詞類を自由自在に使用せり、本書用例編成の方法は以上述べたる如し、此方法の簡便なるや最初より修學者をして飜譯を爲すを得せしめ且つ其文意、語法を明晰に會得せしむるに足るべし

初學者をして例題の領會を易からしめんが爲に[甲]前篇中にも處々に於て文章學に關する主要なる規則を挟みたり、是れ例題飜譯の爲に缺くべからざるものなるを以てなり[乙]例題には悉く力點を施したり[丙]卷尾に字引を附し例題中に使用せし語を悉く拾集せり、且又例題の最初數章に於ては索引の煩なからしめんが爲に各章中の用語を拾ひて毎章の首端に列記し之に和譯を附したり[丁]現今日本に於て露語に精通せし人多からざるを以て修學者の便を計り例題全體の和譯をも卷末に附したり

文典に附するに九十七篇の短文を以てす、是れ文法中に引用せし例題は連續なき斷片的の短句に過ぎざれば初學者に多少流暢なる露文を通讀せしめんが爲なり、此諸篇は露國刊行の讀本中より摘錄したれども初學者の學力に準して往々文躰を變易し難解の語句は平易に改作し且つ之に對する和譯を附したり

從來露語研究の日本人は概して發音綴字を學びし後は直ちに會話及譯讀を試みんと欲する傾あれども斯かる修學の方法は大に害あり、露語は歐洲諸國語中に於て至難なるものなり、其故は五種の詞類(名詞、形容詞、代名詞、數詞、動詞)極めて多端に其語尾を變化し且つ其變化とても不規則的のもの多く殊に通常の用語に於て不規則を極めたる變化式を使用することと甚しければなり、是故に露語に通ずとは語類の意義を解するのみならずして其語尾の變化の法則をも熟知するを謂ふなり、若し變化の法則に熟

通せざる時はよしや苦學の功を積むとも其語派の精神、作意の趣味を咀嚼する能はずして徒に文字に拘泥し字を逐ひ意を失ひ直譯的の 妥當ならざる譯解或は曲解を爲すに至らんのみ、況んや斯くして通話を爲し文を綴ることを得べけんや、露語の通話を爲し露文に精通せんと欲する者は主として其詞類の研究、殊に語尾の變化を熟知するを要す、語尾の變化を習熟すると共に逐次多種の語類を暗記するを要す、斯かる方法を以て文法を研究せば歩武遲緩なるが如く 感ずるものあるとも 後日必ず其成功の 大なるは期して待つべし

露語の特質右の如くなるを以て之を學ぶ者は 須らく次の 順序を 踐むを要す〔甲〕主として變化の詞類に通ずること 〔乙〕既に變化詞類に關する要則に通せし後に於て初て 譯讀に 着手すべきこと 〔丙〕其他主要ならざる規則と不變化詞類と文章學との研究は譯讀と同時に之を行ふも可ならん
聊か本書編纂の趣旨及用意を述べて序言とす

編　者　識

目　次 (Оглавлéние)

前　篇　詞　學

頁

§ 1 露西亞文字及ビ其音 1
§ 2 綴音及ビ讀方 1
§ 3 綴音及ビ力點 3
§ 4 特殊ノ發音 3
§ 5 文字ノ區別及其轉化 4
§ 6 詞類 5
§ 7 名詞 (概論) 6
§ 8 代名詞 (概論) 7
§ 9 動詞 (概論) 7
§ 10 文句及其組織 7
§ 11 動詞ノ變化 (概論) 10
§ 12 過去 (概論) 11
§ 13 動詞 быть 12
§ 14 語尾 ть ノ前ニ母音ヲ有スル動詞ノ過去 13

10 名　詞 (1)

§ 15 名詞ノ變化 14
§ 16 名詞ノ第一式變化 16
§ 17 硬變化及ビ軟變化 16
§ 18 承前 17
§ 19 母音變化 19
§ 20 喉音變化 20
§ 21 上顎音變化 20
§ 22 第一式變化中ノ不規則 21
§ 23 第一式變化ノ單數不規則 23
§ 24 第一式變化ノ複數不規則 24
§ 25 第二式變化 29
§ 26 硬變化及軟變化 29
§ 27 母音變化 30
§ 28 喉音變化 31
§ 29 上顎音變化 31
§ 30 第二式變化中ノ不規則 32
§ 31 第三式變化 33
§ 32 第三式變化中ノ不規則 34
§ 33 第四式變化 35
§ 34 合同シタル二箇ノ名詞ノ變化 35
§ 35 外國語及ビ外國苗字ノ變化 36
§ 36 單數ノミヲ使用スル名詞 36
§ 37 複數ノミヲ使用スル名詞 37
§ 38 總性 38
§ 39 粗大纖小撫愛卑下的名詞 38
§ 40 人名 39

20 形　容　詞 (2)

§ 41 形容詞 40
§ 42 形容詞ノ變化 41
§ 43 硬變化 42
§ 44 軟變化 42
§ 45 喉音變化 43
§ 46 上顎音變化 43
§ 47 語尾 овъ, евъ; инъ, ынъ ヲ有スル物主形容詞 43
§ 48 語尾 овъ, евъ, инъ, ынъ ヲ有スル地名及苗字 45
§ 49 語尾 ій, ьс, ьй ヲ有スル物主形容詞 46
§ 50 名、父稱、姓 47
§ 51 客語トシテノ形容詞 48
§ 52 承前 50
§ 53 性質副詞 .....
§ 54 過大的、薄弱的、撫愛的形容詞及副詞 52
§ 55 比較ノ段級 53
§ 56 比較級 53
§ 57 最勝級 55
§ 58 副詞ノ比較級 57
§ 59 比較ノ級 (再說) 57

30 代　名　詞 (4)

§ 60 代名詞 61
§ 61 人代名詞 61
§ 62 再歸代名詞 63
§ 63 物主代名詞 64
§ 64 指示代名詞 65
§ 65 疑問代名詞 66
§ 66 關係代名詞 68

§ 67 定代名詞 70
§ 68 不定代名詞 71
§ 69 相互代名詞 73
§ 70 否定代名詞 73
§ 71 個數代名詞 74

數　詞

§ 72 數詞 76
§ 73 個數詞及ビ順序數詞 77
§ 74 個數詞組成法 79
§ 75 個數詞ノ變化 79
§ 76 個數詞ノ支配 81
§ 77 順序數詞ノ組織 84
§ 78 順序數詞ノ變化 84
§ 79 或ル順序數詞ノ特有ノ意義 85
§ 80 時日、年數、世紀 85
§ 81 年齡 86
§ 82 概略計算 87
§ 83 集合數詞 87
§ 84 分數詞 89
§ 85 純粹ノ分數詞 91
§ 86 時刻 92
§ 87 數詞的副詞 93

動　詞

§ 88 動詞ノ質 94
§ 89 動詞ノ體 98
§ 90 動詞ノ體(承前) 101
§ 91 動詞ノ法 103
§ 92 動詞ノ時 103
§ 93 動詞ノ法(承前) 106
§ 94 形動詞 108
§ 95 形容詞トシテノ形動詞 111
§ 96 副動詞 112
§ 97 動詞ヨリ生ズル名詞 113
§ 98 動詞ヨリ生ズル形容詞 114
§ 99 助動詞 быть 115
§ 100 語尾 ть 及 ться ヲ有スル動詞ノ變化式 116
§ 101 被動詞 118
§ 102 無人稱動詞 120
§ 103 正則動詞及ビ不規則動詞 121
§ 104 語尾 ть ノ前ニ母音ヲ有スル正則動詞ノ變化表 122
§ 105 語尾 ть ノ前ニ母音ヲ有スル不規則動詞 130
§ 106 二個ノ子音ヲ語尾ニ包有スル動詞 142
§ 107 語尾 чь ヲ有スル動詞 148
§ 108 不完成體 148
§ 109 完成體 152
§ 110 多回體 153
§ 111 一回體 156
§ 112 多式動詞 157
§ 113 缺乏動詞 157
§ 114 法ト時トノ使用ニ關スル特例 158

前　置　詞

§ 115 前置詞 162
§ 116 生格ノミヲ支配スル前置詞 163
§ 117 與格ノミヲ支配スル前置詞 къ 169
§ 118 役格ノミヲ支配スル前置詞 про, чрезъ, сквозь 173
§ 119 造格ノミヲ支配スル前置詞 надъ 174
§ 120 前置格ノミヲ支配スル前置詞 при 175
§ 121 役格ト造格ヲ支配スル前置詞 за .. 176
§ 122 役格ト造格ヲ支配スル前置詞 подъ 180
§ 123 役格ト前置格ヲ支配スル前置詞 предъ 181
§ 124 役格ト前置格ヲ支配スル前置詞 въ 181
§ 125 役格ト前置格ヲ支配スル前置詞 на 187
§ 126 役格ト前置格ヲ支配スル前置詞 о, объ 193
§ 127 與格ト役格ト前置格ヲ支配スル前置詞 по 196
§ 128 生格ト役格ト造格ヲ支配スル前置詞 съ 199
§ 129 語ニ綴合シテ使用スル前置詞 202

7 副詞

§ 130 副詞 208
§ 131 關係副詞ノ組成 213
§ 132 副詞ヲ前置詞ノ意義ニテ使用スル事 216

接續詞

§ 133 接續詞 217
§ 134 接續詞ノ種類 219

間投詞

§ 135 間投詞 220
§ 136 母音及子音ノ發音幷ニ使用法 221
§ 137 文字ヲ大書スル場合 226
§ 138 語ノ分移法 227
§ 139 語ノ簡略 227
§ 140 語ノ成分 228
§ 141 附字 230
§ 142 語中ノ音ノ變更 232

8 後篇

§ 143 文章學 235
§ 144 文句ノ部分 235
§ 145 主語 235
§ 146 客語 236
§ 147 主語ト客語トノ一致 239
§ 148 無人稱文句 242
§ 149 定語 246
§ 150 附語 248
§ 151 補語 250
§ 152 狀況語 252
§ 153 對語 253
§ 154 挿語 253
§ 155 語ト語ノ一致幷ニ語類ノ支配力 254
§ 156 生格 254
§ 157 與格 260
§ 158 役格 264
§ 159 造格 265
§ 160 前置格 271
§ 161 文章論 271
§ 162 定語的副文章 273
§ 163 定語的文章ノ簡略 276
§ 164 補語的副文章 282
§ 165 場所ノ狀況副文章 285
§ 166 時ノ狀況副文章 286
§ 167 動態狀況副文章 288
§ 168 原因狀況副文章 291
§ 169 目的狀況副文章 292
§ 170 條件的副文章 293
§ 171 讓步的副文章 294
§ 172 挿句 294
§ 173 段落 295
§ 174 句切符號 298
文法適用ノ例題 305
文法適用露文例題ノ和譯 378
譯讀文例 416
譯讀文例ノ和譯 471
字引 503

前　編

詞　學　(Этимоло́гія)

§ 1. 露西亞文字及ヒ其音

凡テ語 (сло́во) ハ綴音 (слогъ) ヲ合シテ成リシモノナリ、例ハ日本語ノ「人」ト云フ語ハ二個ノ綴音ヲ合シテ成リ、「雖」ト云フ語ハ四個ノ綴音、「男」ト云フ語ハ三個ノ綴音、「女」ト云フ語ハ二個ノ綴音、「布」ト云フ語モ二個ノ綴音ヲ合シテ一語ヲ成ス、綴音ハ音 (звукъ) ヲ綴合セシモノニシテ例ハ「布」ト云フ語ノ綴音ハ二個ニシテ音ハ四個ナリ、「女」ト云フ語ノ音モ四個ナリ

音ハ二種ニシテ母音ト子音ナリ、母音ヲハ單獨ニテ發音スルヲ得レドモ、子音ハ之ニ反シテ母音ト綴合シテ以テ發音スルヲ能クスベシ

日本ノ伊呂波ハ五個ノ母音(アイウエオ)ト一個ノ子音(ン)ヲ除クノ外、悉ク綴音(即チ子音ト母音ノ綴合)ニシテ例ハ「ロ」「ハ」「ニ」「ホ」等ノ如キハ皆ナ一子音ト一母音ヲ綴合セシモノナリ、試ニ「ロ」ノ發音ヲ延長スル時ハ母音「オ」ノミ聞ユルニ至ラン、「ハ」ノ發音ヲ延長セバ「ア」ノ音ノミ殘リ聞ヘン、然ルニ露西亞ノ伊呂波ニ於テハ 母音モ子音モ皆ナ各々獨立ノ音ニシテ而シテ獨立ノ文字ヲ成ス、故ニ若シ露西亞文字ヲ以テ日本伊呂波ノ一字ヲ記セントスルニハ(母音ト一子音「ン」ヲ除クノ外)二文字ヲ要ス

露西亞文字ノ總數ハ三十六(*)、

А а *a* (*а*)	Й й *ĭ* (*и*)	С с *c* (s) (эсъ)	Ъ ъ *ъ* (ёръ)
Б б *б* (b) (*бе*)	І і *i* (*и*)	Т т *m* (t) (те)	Ы ы *ы* (*ы*)
В в *в* (w) (вѣ)	К к *к* (k) (ка)	У у *у* (*у*)	Ь ь *ь* (ерь)
Г г *г* (g) (ге)	Л л *л* (l) (эль)	Ф ф *ф* (ph) (эфъ)	Ѣ ѣ *ѣ* (*е*) (ять)
Д д *д* (d) (дѣ)	М м *м* (m) (эмъ)	Х х *х* (h) (ха)	Э э *э* (*е*)
Е е *е* (*е*)	Н н *н* (n) (энъ)	Ц ц *ц* (ts) (це)	Ю ю *ю* (*у*)
Ж ж *жс* (*ж*) (жѣ)	О о *о* (*о*)	Ч ч *ч* (ch) (ча)	Я я *я* (*я*)
З з *з* (z) (зе)	П п *п* (p) (пе)	Ш ш *ш* (sh) (ша)	Θ θ *θ* (th) (фита)
И и *и* (*и*)	Р р *р* (r) (эръ)	Щ щ *щ* (sch) (ща)	V v *ѵ* (*и*) (ижица)

§ 2. 綴音及ヒ讀方

子音文字ハ Ъ ノ字ヲ除クノ外ハ日本ノ假名ヲ以テ其發音ヲ正當ニ表ハス能ハズ(但シ Н ノ字ト雖、日本ノ「ン」ハ鼻音ナレ𪜈露西亞ノ Н ハ舌音タルノ差アリ)、既ニ述ベシ如ク露西亞文字ハ一字毎ニ一音ヲ成セドモ、日本ノ

(*) 英語ヲ知ル人ノ爲ニ括弧内ニ羅馬字ヲ記シテ其讀音ヲ示シ且ツ悉クノ子音ト二母音ノ名稱ヲ其後ノ括弧内ニ示セリ、日本ノ假名ヲ附シタル母音ノ名稱ハ其假名ノ示スガ如クナリ

假名ハ一字毎ニ一綴音ヲ成シ且ツ露西亞語ニハ日本語ニ全ク無キ所ノ音ヲ有ス、之ヲ以テ露西亞文字ノ發音ハ能ク耳ヲ以テ聞キ受クルニ非レバ到底完全ヲ期シ難シ、露西亞文字ニ日本ノ假名ヲ振リテ其讀方ヲ示スハ吾人ノ嘉ミセザル所ニシテ之ヲ實驗ニ徵スルニ斯クテハ反テ發音上ニ弊害ヲ生ズ

讀方ト同時ニ習字ヲ學ブヲ可トス、而シテ之ニ通ゼシムル際ニハ日本語ノ例題ヲ以テ文法大意ヲ敎示スルヲ要ス、即チ日本語ノ例ヲ引用シテ以テ詞類ノ大要ト文章ノ組織及ビ其契合ノ法ヲ說明スベシ、之ヲ說明スルノ例トシテ §§ 7—11 ヲ應用スルモ可ナラン

讀例ハ本書卷末ノ例題ノ部ニ存ス

1. 母音 e 及 ѣ ハ共ニ同一ノ音ナレモ、之ヲ書スルニ際シテハ相混同スベカラズ、ѣ ハ e ヨリ稀ニ使用ス

2. 若シ e ノ字ニ力點 (§ 3,3 參照) ヲ打ツ時ハ ё (ヨ) ト發音ス、例ハ берёза=берёза (樺), жёны=жёны (妻等)等ノ如シ、但シ多少ノ例外アリテ、力點ヲ打チタル場合ニテモ ё ト發音セザルコアリ、例ハ сёрдце (心), жёнщина (女)

3. 母音 э ハ純粹ノ露西亞語中ニハ之ヲ使用スルコ僅少ニシテ、或ル外國語 (露西亞語中ニ使用スル所ノ) 中ニ存ス、例ハ экза́менъ (試驗), поэ́тъ (詩人)

4. 母音 и ト i ト ѵ ハ同一ノ音ナレモ、之ヲ書スルニ際シテ相異リ、且ツ其使用規則アリ、и ハ子音ノ前ニノミ書ス例ハ кни́га (書), писа́ть (書ク) i ハ母音ト半母音 й ノ前ニノミ書ス例ハ имѣ́ніе (所有田地), пріѣ́хать (乘來ル), хоро́шій (善キ). ノ使用法ハ и ト同シク子音ノ前ニ立ツベキナレモ此文字ノ使用ハ至テ僅少ニシテ希臘語ヨリ轉用セシ少數ノ語中ニ於テノミナリ、然カモ現今ハ殆ト之ヲ使用スルコナク、и ノ字ヲ以テ代用ス、例ハ сунодъ=синодъ (敎務省)

5. 半母音 й ハ母音ノ後ニ於テノミ使用シ其發音ハ и ヲ短ク輕ク發スル心地ヲ以テスベシ、例ハ война́ (戰爭), чай (茶)

6. 半子音 ъ (твёрдый знакъ) ト ь (мя́гкій знакъ) ハ獨立ノ音ヲ有セズシテ、此二字ハ共ニ其前ニ立ツ子音ノ止メ方ノ硬軟ヲ示ス記號ニ過キズ即チ ъ ハ硬ニシテ ь ハ軟ヲ表ス、但シ上顎音 (口蓋音ト稱スルモ可ナラン) ж, ч, ш, щ ノ後ニ立ツ半子音 ъ ト ь ハ同一ノ止メ方ヲ成シ ъ ノ立チシ時モ ь ノ立チシ時モ發音ハ同一ト成ル例ハ ножъ (庖刀), рожь (裸麥), мечь (劍), ночь (夜)、母音文字ノ後ニハ此半子音ヲ使用スル能ハズ、發音上之ヲ許サヾレバナリ、而シテ ъ ト ь ハ專ラ語ノ末尾ニ使用シ、中間ニ於テ使用スルハ稀ナリ、例ハ братъ (兄弟), братъ (取ル); у́гольъ (隅), у́голь (炭); съѣсть (喰盡ス), пальто́ (外套)

備考 露西亞語ノ語尾ハ之ヲ書ス時ハ必ズ母音カ半母音カ半子音ヲ以テ結尾トシ決シテ子音ヲ以テスルコナシ、故ニ子音ヲ結尾トシタルモノ、

如ク聞ユル語ヲ書スルニハ半子音 ъ 或ハ ь ヲ附スルヲ要ス例ハ Куданъ (九段), сенъ (錢), энъ (圓).

7. о ハ ф ト同シキ音ニシテ希臘語ヨリ轉用セシ僅少ノ語ニ於テノミ之ヲ使用ス

§ 3. 綴音及ビ力點

1. 綴音トハ日本ノ假名ノ如キモノニシテ、一語ヲ成スニ一個若シクハ數個ノ綴音ヲ以テス例バ я (我), ты (汝), онъ (彼), чай (茶) ノ如キ語ハ一綴音ニシテ сло́-во (語), во-да́ (水), вой-на́ (戰爭) ノ如キハ二綴音、у-че-ни́къ (生徒)ハ三綴音、грам-ма́-ти-ка (文典), и-мѣ́-ні-е (所有田地)ハ四綴音ナリ、綴音ハ一個ノ母音若シクハ之ニ子音、半母音 й ヲ合シテ成ル、故ニ一語中ニ含有スル綴音ノ數ハ其語中ニ存スル母音ノ數ト相均シ

2. 語トシテ母音ヲ有セザルハナシ、子音ノミニテハ發音スルニ困難ナリ、въ, къ, съ 等ノ語ハ常ニ獨立シテ存スル能ハズ恰モ日本語ノ「ヨリ」「カラ」「ニ」「ヲ」等ノ如ク、他ノ語ニ附隨シテ、始メテ意味ヲ有スベシ、即チ其後ニ立チシ語ト共ニシテ存立スルヿヲ得ベシ、故ニ之ヲ發音スル際ニモ斯カル語ハ其後ニ立チシ語ト合併シテ恰モ一語ヲ成スガ如クス、例ハ *въ до́мѣ* =*вдо́мѣ*; *въ кла́ссѣ*=*вкла́ссѣ*; *къ на́мъ*=*кна́мъ*; *къ бра́ту*=*кбра́ту*; *съ на́ми* =*сна́ми*; *съ бра́томъ*=*сбра́томъ*.

3. 一語中ニ於テ(若シ一綴音ノ語ナラザレバ)必ス聲ヲ高ク張リ揚ケテ發音スベキ一綴音アリ、之ヲ力點 (ударе́ніе) ト名ツク例ハ у-чи́-тель (教員), се-стра́ (姉妹)、力點ハ語尾ノ變化ニ從テ轉動スルヿ多シ、例ハ учи́тель—учителя́ (教師等); сестра́—сёстры (姉妹等)、然レ𪜈力點ノ轉動ニ關スル規則ハ概シテ無キモノト認ムベシ、故ニ實地的ニ之ヲ習得スルヨリ外ニ詮ナシ、但シ多少此規則ト見做スベキモノ無キニシモ非ザレ𪜈、ソハ後ニ說明スベシ、外國人ニ取テ露語ノ力點ハ一種ノ難物タルヲ以テ吾人ハ本書ニ使用ノ露語ニ一々力點ヲ附シタリ

4. 概シテ露文ニハ力點ノ符號ヲ用ユルヿナシ、但シ同一ノ語ニシテ力點ノ異ナルニ由テ其意義ヲ異ニスルモノニハ時トシテ之ヲ附スルヿアリ、例ハ

а́тласъ 地圖	атла́съ 繻子	жа́ркое 暑キ	жарко́е 燒肉
большо́й 大ナル	бо́льшій ヨリ大ナル	за́мокъ 城塞	замо́къ 錠
Го́спода 主ソ.	господа́ 諸君	пла́чу 我ハ泣ク	плачу́ 我ハ拂ノ
ви́на 酒類	вина́ 罪過	сто́итъ 價値ヲ有ス	стои́тъ 立ツ
доро́га 道路	дорога́ 高價ナリ	у́же ヨリ狹シ	уже́ 既ニ

§ 4. 特殊ノ發音 (§ 136 參照)

露語ノ純正ナル發音ニ熟達スルハ外國人ノ殊ニ苦シム所ニシテ、實際ノ熟練ニ依ルニ非レバ到底達シ得ベキモノニアラズ、此事ノ日本人ニ一層困難ナル所以ハ既ニ述ブルガ如ク日本語中ニ無キ發音ヲ使用スルヿ多キニ由テナリ、而シテ露語發音ノ規則ヲ一々記述スベクモ非ラズ且ツ其要ナ

シ、抑モ發音ハ規則ヲ學ヒテ後ニ熟達スベキモノナラズシテ實際ノ習練ヲ唯一ノ方法トスルニ若クハナシ、今玆ニ其大要ノミヲ記スベシ

1. 母音 o ハ力點ヲ有スル時ハ字音ノ儘ニ發音ス、例ハ столь (卓), домъ (家)、而シテ力點ナキ時ハ殆ト a ト同シク發音ス、但シ a ヨリハ幾分カ輕ク發音ス例ハ отéцъ (父)ハ殆ト aтéцъ ノ如ク、водá (水)ハ殆ト вадá ノ如ク、дорóга (道路)ハ殆ト дарóга ノ如ク發音ス、但シ名格ノ語尾ニ於テ o ノ母音ヲ有スル時ハ力點ナキ場合ニデモ a ノ如クハ發音セズ例バ слóво, пи́во (麥酒) 等ナリ、其他ノ場合ニ於テハ語尾ニ立チテモ力點ナケレバ o ハ a ノ如ク發音ス

2. 母音 я ハ力點ヲ有セザレバ殆ト e ノ如ク發音ス、例ハ япóнецъ (日本人)ハ eпóнецъ, яйцó (卵)ハ eйцó, прямóй (直ナル)ハ премóй.

3. 母音 a ハ上顎音 ж, ч, ш, щ ノ後ニ立チテ力點ヲ有セザル時ニハ殆ト e ノ如ク發音ス、例ハ часы́ (時計)ハ чесы́, лóшадь (馬)ハ лóшедь.

4. 母音 e ハ上顎音 ж, ч, ш, щ 及ビ ц ノ後ニ立チテ力點ヲ有スル時ハ o ト發音ス、然レ𪜈 o ト書スベカラズ(例外ハ § 5, 6 參照)例ハ жёлтый (黃色ナル)—жóлтый, чёрный (黑キ)—чóрный, шёлкъ (絹)—шолкъ.

5. 子音 г ハ形容詞、代名詞、數詞ノ生格 (аго, ого, яго, его ノ語尾) ニ於テハ常ニ в ノ如ク發音ス、即チ次ノ如シ

аго ノ發音ハ *ава* ト成ル、例ハ добр*аго*—добр*ава* (善良ナル何々ノ)

óго ハ *ова*	золотóго— золотóва		(金製ノ何々ノ)
óго ハ *авó*	одногó — однавó		(一ノ何々ノ)
яго ハ *ева*	сúняго — сúнева		(青キ何々ノ)
его ハ *евó*	моегó — моевó		(我ガ何々ノ)

備考 1. 其他ノ子音モ時トシテ多少異例ノ發音ヲ成スナキニシモ非ザレ𪜈初學ノ者ハ子音ノ發音ヲバ凡テ (г ノ字ヲ除クノ外)字音ノ儘ニ行フテ可ナリ、初學ノ際、之ニ苦心スルハ無益ノ勞ニシテ到底成効シ得ベカラズ

備考 2. 日本人中ニハ往々、動詞ノ語尾 ться 及 тся ヲ тса 及 тца ト發音シ或ハ тьца 及 ттца ト發音スル弊アレ𪜈是レ宜シク避ケザルベカラズ

§5. 文字ノ區別及ビ其轉化 (§ 142 參照)

1. 文字ノ總數ハ三十六ニシテ其中、母音十一 a, e, и, i, o, y, ѣ, э, ю, я, v. 半母音一 й. 半子音二 ъ ト ь. 殘餘ノ二十二字ハ子音ナリ、而シテ全體ノ三十六字ヲ四類ニ區別ス

2. 母音ト半子音ヲハ硬軟ノ 二種ニ分ツ 而シテ硬文字ノ 軟文字ニ對應スル次表ノ如シ

硬文字	а	о	у	ы	ъ
軟文字	я	е	ю	и	ь

3. 母音 ъ ハ軟種ニシテ母音 э ハ硬種ニ屬ス、但シ此二母音ト半母音 й ニハ對應ノ文字ナシ

4. 母音 ъ ハ名詞ノ語尾ニ於テ母音 і ノ後ニ決シテ使用スルコトナシ、斯カル場合ニハ常ニ母音 и ヲ以テ之ニ代ユ即チ іъ ノ代リニ ии ヲ使用ス

5. 子音文字ハ發音ノ際各々口中ノ 或部分ニ 關係ヲ有スルヲ以テ 之ヲ次ノ如ク分類ス

唇音文字 б, в, м, п, ф
舌音文字 л, н, р
喉音文字 г, к, х
齒音文字 д, з, с, т
上顎音文字 ж, ч, ш, щ } ц
ц ハ上顎並ニ齒ニ關係ヲ有ス

6. 母音 ы, я, ю ヲ喉音 г, к, х. 上顎音 ж, ч, ш, щ ノ後ニ發音スル際、時トシテ此母音ハ其儘ニ聞ユルコトナキニシモ非ザレドモ之ヲ書スルニハ常ニ其對應ノ母音 (§ 5, 2) и, а, у ヲ代用ス

備考 僅少ノ外國語(露語トシテ使用ノ)ニハ此規則ノ例外アリ、即チ其本國人ノ發音ヲ 其儘保存セントテ母音 ы, я, ю ヲ書スルアリ、例ハ брошю́ра (小册書)

7. 母音 и, я, ю ヲ子音 ц ノ後ニ發音スルニ際シ、此母音ノ聞ユルコトナキニシモ非ザレドモ之ヲ書スルニハ常ニ其對應ノ母音 (§ 5, 2) ы, а, у ヲ代用ス

備考 或外國語ハ例外ナリ、例ハ медицина (醫學), полиция (警察)

8. 上顎音 ж, ч, ш, щ 及ビ子音 ц ノ後ニ於テ母音 е ハ力點ヲ有スレバ о ノ如ク發音ス (§ 4, 4) 而シテ名詞ト形容詞ノ語尾ニ於ケル場合ニハ常ニ о ノ字ヲ書ス即チ жё, чё, шё, щё, цё ノ代リニ жо, чо; шо, що, цо トヽ書スレドモ又 е ノ字ヲ書スコトヲモ得ベシ 但シ動詞ノ語尾ニ於ケル場合ニハ必ズ е ノ字ヲ書ス

9. 喉音文字ハ語尾ノ變化ノ際、其對應ノ上顎音文字ニ轉スルコトアリ

喉音文字	г	к	х	ск
上顎音文字	ж	ч	ш	щ

10. 齒音文字モ語尾ノ變化ノ際、其對應ノ上顎音文字ニ轉スルコトアリ

齒音文字	д	з	с	т	ст	ц
上顎音文字	ж, жд	ж	ш	ч	щ	ч

11. 齒音文字 т ハ喉音文字 г 或ハ к ト合スル時ニハ上顎音 ч ニ變スルコトアリ、即チ г＋т＝ч, к＋т＝ч.

12. 齒音文字 т ハ齒音文字 д 或ハ т ト合スル時ハ齒音文字 с ニ轉スルコトアリ即チ д＋т＝с; т＋т＝с.

13. 語尾ニ於テ唇音文字ト軟母音ト並立スル場合ニハ發音ヲ清調ナラシメン爲ニ、時トシテ舌音文字 л ヲ其間ニ入ルコトアリ、即チ б＝бл, в＝вл, м＝мл, п＝пл, ф＝фл.

§ 6. 詞 類 (ча́сти ре́чи)

如何ナル語モ若シ之ヲ一個ノ語トシテ見ル時ハ必ズ詞類ノ一ニ屬ス、詞類ハ九アリ

名詞 (и́мя существи́тельное) 代名詞 (мѣстоиме́ніе) 前置詞 (предло́гъ)
形容詞 (и́мя прилага́тельное) 動詞 (глаго́лъ) 接續詞 (сою́зъ)
數詞 (и́мя числи́тельное) 副詞 (нарѣ́чіе) 間投詞 (междоме́тіе)

§7. 名 詞 (и́мя существи́тельное)

名詞ハ事物ノ名稱ナリ、例ハ人、木、雨、高サ、貧困等ノ如シ

I. 事物ニハ感觸的ト想念的ノ二種アリ、感觸的事物 (чу́вственный предме́тъ) トハ吾人ノ五感ヲ以テ感覺シ得ベキ事物ニシテ例ハ 卓、火、響音、風等ノ如シ、想念的事物 (отвлечённый предме́тъ) ハ之ヲ抽象シ想念スルヲ得ベキモノナリ、例ハ良心、幼年、智力、喜樂等ノ如シ

感觸的事物ニハ有生ト無生トノ別アリ、有生物 (одушевлённый предме́тъ) トハ生命アリテ活動自在ナル物、例ハ人、猛獸、兄弟、鷲等ナリ、無生物 (неодушевлённый предме́тъ) トハ凡テ活動力ナキ物、例ハ石、家、船、風、瀧等ナリ

有生物ニハ人格的 (ли́чный) 事物、靈生的 (духо́вный) 事物等モ存ス、人格的事物トハ人類ニ屬スル物ニシテ例ハ父、兄、車夫、乳母等、靈生的事物トハ形體ヲ有セザル實體ニシテ例ハ神、靈魂、天使、惡魔等ナリ

II. 名詞ハ凡テ其表示スル事物ノ意義ニ依テ次ノ如ク 類別セラル即チ固有名詞、普通名詞、集合名詞、物質名詞ナリ

1. 固有名詞 (со́бственное и́мя) トハ人名、地名等ニシテ例ハ彼得帝、東京、富士山等ナリ、固有名詞ノ頭字ハ之ヲ大書スルヲ規則トス

2. 普通名詞 (нарица́тельное и́мя) トハ事物ノ部類或ハ種類ノ總名ナリ、例ハ人、河、町、湖、筆、父、兄弟

3. 集合名詞 (собира́тельное и́мя) トハ群類、團合ヲ以テ一物ヲ組成スル所ノ事物ナリ例ハ聯隊、大隊、畜群、林

4. 物質的名詞 (вещественное и́мя) トハ細微ノ物質ノ合同シテ成リシ物體ノ名稱ナリ例ハ砂、水、墨汁、粉、酒、鐵、牛乳

III. 名詞ハ思想ノ發表ノ方法ニ從テ之ヲ組大的ト纖小的トニ別ツコトアリ(§ 39 參照)

1. 組大的名詞 (увели́чительное и́мя) ハ事物ヲ通常ヨリ大キク表示ス、例ハ дом (家)ハ дом*и́ще* (大ナル家); рука́ (手)—руч*и́ща* (大ナル手)

2. 纖小的名詞 (уменьши́тельное и́мя) ハ事物ヲ通常ヨリ小サク表示ス、例ハ дом—до́м*ик*ъ (小ナル家); рука́—ру́ч*ка* (小ナル手、柄)

§8. 代 名 詞

人代名詞 (ли́чное мѣстоиме́ніе) ノ事

實例ヲ以テ之ヲ說明センニ「主人ハ家僕ニ曰ク我ハ町ニ往ク故ニ汝ハ家ニ留リテ我ガ兒ヲ見張レヨ、彼レハ我ガ居ラヌトキハ甚タ惡戲ヲ爲ス」ト云フ此文句ニ於テ「我」ハ「主人」ト云フ名詞ノ代リニ立チ又「汝」ハ「家僕」ト云フ名詞ノ代リナリ、又「彼」ハ「我ガ兒」ノ代リナリ

又一ノ實例ヲ示サン「主人等ハ僕婢等ニ命シテ曰ク我等ハ外出セン汝等

ハ家ニ留守シテ小兒等ニ注意セヨ彼等ハ我等ノ不在ナル時ハ甚タ惡戲ヲ爲ス」此例ニ於テ「我等」ハ「主人等」ノ代語、「汝等」ハ「僕婢等」ノ代語ヲ爲ス

斯ノ如ク凡テ名詞ノ 代用ヲ爲ス詞類ヲ代名詞ト名ツク、故ニ「我」「我等」「汝」「汝等」「彼」「彼等」等ノ語ハ皆ナ代名詞ニシテ然カモ人代名詞ナリ、如何トナレバ人身名詞ノ代用ヲ爲ス

「我」及ビ「我等」ハ發話人自身ノ代名ヲ爲ス、故ニ之ヲ 第一人稱 (пéрвое лицó) 代名詞ト名ツク、「汝」「汝等」ハ話ヲ聞ク人ノ代名ヲ爲ス故ニ之ヲ第二人稱 (второе лицó) 代名詞ト名ツク、「彼」「彼等」ハ話柄トナリタル人ノ代名ヲ爲ス故ニ之ヲ第三人稱 (трéтье лицó) 代名詞ト名ツク、但シ第三人稱ハ人ノミニ限ラズ凡テノ事物ノ代名ヲモ爲スト知ルベシ、而シテ第三人稱代名詞ハ名詞ノ如ク男女中ノ三性ヲ有ス

		單數			複數		
第一人稱	我	я	(三性共通)	我等	мы	(三性共通)	
第二人稱	汝	ты	(三性共通)	汝等	вы	(三性共通)	
第三人稱	彼	онъ	(男性)	彼等	они́	(男性)	
		онó	(中性)		они́	(中性)	
		онá	(女性)		онú	(女性)	

Вы ト云フ代名詞ハ複數ナレモ一人ヲ指シテ云フ時ニモ若シ其人ニ尊敬ヲ表スルナレバ之ヲ用フ、即チ日本語ノ「貴君(アナタ)」ニ相當ス、又 ты ハ自分ヨリハ位地ノ卑キ者ニ對シテ之ヲ用フ「手前、オマヘ」ニ相當ス、亦ハ親類同志、或ハ朋友、同僚間ニ於テモ親近ノ意ヲ以テ之ヲ用フ

§ 9. 動 詞 (глагóлъ)

動詞トハ或事物ノ動作若クハ狀態ヲ表示スル語ナリ、例バ「生徒ハ書ヲ讀ム」ト云ヘバ「讀ム」ハ動詞ニシテ生徒ノ爲シ居ル動作ヲ表ス「又生徒ハ坐ス」ト云ヘバ「坐ス」ハ其狀態ヲ表ス「讀ム」「坐ス」等ハ何レモ動詞ナリ

唯 быть (存在ス) ト云フ動詞ノミハ一種特別ノ動詞ニシテ敢テ事物ノ動作或ハ狀態ヲ表スルニ非ズメ事物ノ存在ヲ表ス、故ニ之ヲ存在動詞ト稱ス

§ 10. 文句及其組織ノ事

凡テ言語ヲ以テ表示スル思想ハ之ヲ文句 (предложénie) ト云フ (文章トモ成句トモ譯ス) 例バ「生徒ハ書ヲ讀ム」「金ハ鑛物ナリ」「父ハ慈愛深シ」「冬ハ寒シ」等皆各一文句ヲ成ス

文句ノ組織

1. 主語 (подлежáщее) 「生徒ハ讀ム」ト云フ文句ハ生徒ノ事ヲ言ヒ「金ハ鑛物ナリ」ト云フ文句ハ金ノ事ヲ言フ、斯ノ如ク文句ニ於テ言ヒ表ハス所ノ事物ヲ主語ト名ツク、之ヲ以テ 前記ノ例ニ於テハ「生徒」「金」「父」「冬」ハ共ニ主語ナリ

2. 客語 (сказýемое) 前例ニ付テ見ルニ主語「生徒」ハ讀ムト云ヒ「父」ハ慈愛深シト云ヒ斯ク主語ノ事ヲ言ヒ表ハスモノヲ客語ト稱ス 即チ「讀ム」「慈

深シ」等ハ客語ナリ、又「鳥ハ飛ブ」ト云フ文句ナレバ「鳥」ハ主語「飛ブ」ハ客語ナリ「冬ハ寒カリシ」ト云ヘバ「冬ハ」主語ニテ「寒カリシ」ハ客語ナリ、是レニ由テ考フルニ若シ客語ニ對シテ「誰レハ」「何物ハ」ト問ヲ發スル時ハ主語ハ必ズ之レニ應ズベク、又主語ニ對シテ問ヲ發シ「何々ハ何ヲ爲スヤ」「何々ハ如何ニ成リシヤ」ト云ヘバ客語ハ必ズ之レニ應答ス

客語ガ主語ノ動作若クハ狀態ヲ表示スル場合ニハ常ニ動詞ト成ル

又主語ノ性質ヲ表示スル場合ニハ客語ハ常ニ名詞或ハ形容詞ト成リ且ツ быть ト云フ動詞ニ伴ハル、此動詞 быть ハ斯カル場合ニハ主語ト客語ノ連結 (связь) ヲ成ス日本語ニ於テハ常ニ此連結ヲ用フ、例バ「彼ノ人ハ汝ノ兄弟テアルカ」ト問ヒ「左樣、兄弟デアル」ト答フ、此「アル」ハ露語ノ быть ニ相當ス、而シテ露語ニテハ連結ガ現在ニ立ツ時ハ多クハ此連結ヲ省略ス、勿論日本語ニテモ之ヲ略スルコアリ殊ニ俗話ニ於テ然ルヲ見ル

動詞 быть ハ主語ト客語ノ連結ト成ル時ハ「ナリ」「デアル」「デ居ル」「ニ成ル」「ト成ル」ノ意ヲ有ス、例ハ「彼女ハ我ガ母ナリ」、「彼ハ我ガ友ナリ」、「ペンハ佳良ナリ」、「彼ハ士官トナラン」

動詞 быть ハ主語ト客語ノ連結タルノミナラズ獨立ノ客語トモ成ル、例ハ「茶碗ハ卓ノ內ニ存ス」「兄ハ現時、田舍ニ居ル」「世間ニハ種々ノ人々ガ存ス」「河ニハ魚ガ存ス」「地中ニハ火ガ存ス」此種ノ動詞「居ル」「在ル」「存ス」(быть) ハ獨立ノ客語ナリ、斯ノ如ク獨立ノ客語ト成リシ動詞 быть ハ「存在ス」「有ス」ノ意義ヲ有ス

3. 定語 (опредѣле́ніе) 「勉强ナル生徒ハ學業ニ進步ヲ爲ス」ト云フ文句ニ於テ「勉强ナル」ノ語ヲ以テ此生徒ノ他生徒ニ比シテノ特異點ヲ表示ス

「兄ノ長男ハ村ニ歸リタリ」ト云フ文句ニ於テ「兄ノ」ノ一語ヲ以テ他ノ兄弟ト區別シ又「長」ト云フテ兄ノ子ノ中ヨリ唯一人即チ長子ヲ特別ス

斯ク名詞若クハ代名詞ニ關係ヲ有シテ一ノ事物ト他ノ事物トヲ特別スル語ハ之ヲ定語ト稱ス、定語ハ「如何ナル」「何人ノ」「何物ノ」ト云フ問ニ應ス、故ニ定語ト成ルハ大抵名詞、形容詞、代名詞ナリ

4. 補語 (дополне́ніе) 「今日我ハ書物ヲ買フタ」ト云ハズシテ唯「今日我ハ買フタ」トノミニテハ物足ラズ其意味判然セズ、故ニ自然ト「何ヲ買タカ」ノ問モ起ルベシ、是ニ於テ書物ナラ書物ヲ買フタト之ヲ補足スルノ必要ヲ生ズ

又「昨日敎師ハ生徒ヲ譽メタ」ト云ハズシテ唯「昨日敎師ハ譽メタ」ニテハ其意味不完全ニシテ必ズ「誰ヲ譽メタ」トノ問ヲ生ズ、故ニ「生徒ヲ」ト云フ補足ヲ要スルニ至ル

而シテ第一例ノ「書物ヲ」ト云フ語ハ「買フタ」ト云フ動詞ニ關係シ第二例ノ「生徒ヲ」ト云フ語ハ「譽メタ」ト云フ動詞ニ應ス、斯ク動詞ヲ補足スル語ヲ補語ト稱ス

補語ハ「誰ヲ」「何ヲ」「誰ニ」「何ニ」「誰ニテ」「何ニテ」「誰ノコ」「何ノコ」等ノ問ニ應ズ例バ「今日我ハ手紙ヲ兄弟ニ出シタ」「手紙ハ鉛筆ニテ書タ」「手紙ニ於テ我ハ兄弟ニ我不幸ヲ通知シタ」

5. 狀況 (обстоя́тельство)

補語ニ關係ヲ有スルハ狀況語ナリ

(甲) 場所ノ狀況 (обстоя́тельство ме́ста) 場所ノ狀況トハ「何處ニ於テ」「何處へ」「何處ヨリ」等ノ問ニ應ズル語ナリ、例バ「書物ハ机ノ上ニ在ル」「彼ハ學校ニ往ク」「父ハ既ニ町ヨリ歸レリ」

(乙) 時ノ狀況 (обстоя́тельство вре́мени) 時ノ狀況トハ「何時」「如何ニ久シク」「何時ヨリ」「何時マデ」等ノ問ニ應ズル語ナリ例バ「昨日我ハ病氣ナリシ」「彼ハ二週間通學セズ」「彼ハ一月ヨリ三月マデ凡ソ二ケ月間旅行シタ」

(丙) 動態ノ狀況 (обстоя́тельство о́браза де́йствія)「如何樣ニ」トノ問ニ應ズル語ナリ、例バ「彼ハ甚タ宜シク答ヘタ」「我ハ鐵道ニ依テ歸レリ」

(丁) 原因ノ狀況 (обстоя́тельство причи́ны)「何ニ由テ」トノ問ニ應スル語ナリ例バ「彼ハ病氣ニ由テ缺席セリ」

(戊) 目的ノ狀況 (обстоя́тельство це́ли)「何ノ爲ニ」トノ問ニ應スル語ナリ例バ「彼ハ買物ノ爲ニ町ニ趣タ」「銘々自己ノ利益ノ爲ニ勉强スルナリ」

以上述ベシ所ニ由テ見レバ一文句中ニ於テ重要ノ位置ヲ占ムルハ主語ト客語ニシテ此二語ハ如何程簡單ナル文句ニ於テモ必ズ存スベキモノナレバ之ヲ文句ノ主要部分ト稱ス

而シテ定語、補語、狀況等ハ文句ノ內ニ存スルコモ存セザルコモアリテ第二流ノ位地ニ立ツナリ

殊ニ客語ハ文句內ニ於テ重要ナルモノニテ 客語ノ數ニ依テ文句ノ數ヲ知リ得ベシ、例バ「昨日我ハ書物ヲ讀ダ」ト云ヘバ客語ハ一個ニシテ文句モ一ナリ又、「昨日我ハ書物ヲ讀ミ而シテ手紙ヲ書タ」ト云ヘバ客語タル動詞二個ナリ、故ニ文句モ二タルベシ、又、「我ガ父ハ村ニ於テ生レ、生活シ、死亡シタリ」ト云ヘバ三個ノ動詞即チ三客語ヲ含ム、故ニ文句モ三タルベシ勿論此儘ニテハ略躰ナレモ之ヲ次ノ如キ三文句ト爲シ得ベシ「我ガ父ハ村ニ生レタリ」「我ガ父ハ村ニ生活シタリ」「我ガ父ハ村ニ死シタリ」

日本語ニテハ一文句ヲ組織スル各ノ語ハ殆ト一定ノ順序ヲ以テ排列セラルヽガ如シ即チ客語ハ大抵文句ノ結尾ニ立チ客語ニ附隨スル語ハ其前ニ立チ、主語ハ文句ノ首端ニ立チ、主語ニ附隨スル語ハ主語ノ前ニ立ツ例バ「我ガ兄ノ長男ハ昨日面白キ書物ヲ伯父ヨリ貰フタリ」

露語ニハ文句ヲ組織スル各語ノ排列ニ關スル一定ノ規則ナシト雖、大抵客語ハ文句ノ結尾ニ立タズシテ中間ニ位シ、客語ニ附隨スル語ハ或ハ客語ノ前ニ立チ(狀況語ノ如キ)或ハ其後ニ立ツ(補語ノ如キ)コアリ、而シテ主語ハ常ニ文句ノ首端ニ位シソレニ附從ノ語ハ其前ニモ立チ(形容詞ヨリ成ル定語)或ハ其後ニモ立ツ(名詞ヨリ成ル定語)、故ニ上ニ引用シタル語ノ排列順序ヲ直譯スレバ次ノ如シ「長男ハ我ガ兄弟ノ、昨日、貰タ、ヨリ、伯父、面白キ、書物ヲ」

又疑問ヲ含ム文句ニ於テハ其疑問ニ勢力アル語ヲ首端ニ立ツ「昨日貴君ハ此書物ヲ讀ミマシタカ」或ハ「貴君ハ昨日此書物ヲ讀ミマシタカ」或ハ「此書物ヲ昨日貴君ハ讀ミマシタカ」

日本語ニ於テモ斯ク言フコヲ得ベシ但シ露語ニテハ此外ニ動詞ヲモ首端ニ立ツルヲ得、例ハ「讀ミマシタカ昨日貴君ハ此書物ヲ」

首端ニ立ツ語ハ常ニ疑問ノ要點ナリ、故ニ一樣ノ文句ナレモ疑問點ノ異ナルニ從テ斯ク其語ノ排列ヲ異ニス

§ 11. 動詞ノ變化 (спряже́ніе гла́гола)

1. 動詞ハ三ツノ時ヲ有ス

(甲) 現在 (насто́ящее вре́мя) 例ハ「生徒ハ書ヲ讀ミ居ル」ト云フ文句ニ於テ「讀ミ居ル」ト云フ語ハ其生徒ノ現在ノ動作ヲ表ス

(乙) 過去 (проше́дшее вре́мя) 例ハ「生徒ハ書ヲ讀ンダ」ト云フ文句ニ於テ「讀ンダ」ト云フ語ハ其生徒ノ過キ去リシ動作ヲ表ス

(丙) 未來 (бу́дущее вре́мя)「生徒ハ書ヲ讀ムナラン」ト云フ文句ノ「讀ムナラン」ハ今話柄トスル所ノ生徒ノ未來ノ動作ヲ表ス

2. 動詞ハ四ツノ法 (наклоне́ніе) ヲ有ス

(甲) 直說法或ハ發話法 (изъяви́тельное наклоне́ніе) 前記ノ例ニ於テ動詞「讀ミ居ル」「讀ンダ」「讀マントス」ハ實際ニ其動作ノ行ハルヽヿ (讀テ居ル) 或ハ行レタ (讀ンダ) 行ハレントスル (讀マントス) ヲ示ス、總シテ實行ノ動作ヲ表示スル動詞ナレバ直說法ヲ用フ

(乙) 接續法 (сослага́тельное наклоне́ніе) 例バ「若シモ快晴デアッタナラバ我ハ遊歩ニ行キシナラン」ト云フ文句ニ於テ「行キシナラン」ハ豫想ヲ表スルノミニシテ其動作ハ確實ナラズ斯ノ如ク事實ノ行ハルヽヤ否ヤノ假定的ナル場合ニハ接續法ヲ用フ

(丙) 命令法 (поveли́тельное наклоне́ніе) 若シモ他人ニ對シテ命令若クハ希望ヲ表スル時ニハ命令法ヲ用フ例バ「何トゾ家ニ入リ賜ヘ」「此處ニ來レ」等ノ如シ而シテ「入リ賜ヘ」ト云ヘバ我ガ希望ヲ表ス「來レ」ハ命令ヲ表ズ、但シ此法ヲ用ヒタル動詞ノ希望ハ純粹ノ希望ニ非ズシテ命令的希望タリト知ルベシ

備考 日本語ニ於ケル命令法ニハ概シテ第二人稱ヲ使用ス例バ「汝ハ來レ」「貴君等來リ賜ヘ」

露語ノ命令法ニハ第二人稱ノミナラズ第三人稱ヲモ第一人稱ヲモ使用ス

命令法ノ第三人稱ハ殊ニ多ク使用セラル、例ハ「彼ハ我カ許ニ來ルベシ」「彼等ハ我カ許ニ來ルベシ」

複數ノ第一人稱ハ殊ニ談話ニ於テ多ク使用セラレ、發話者ガ他人ニ向テ自身ト共ニ或ル事ヲ行ハンコヲ勸メ或ハ相談スルノ意ヲ有ス、例ハ「我等ハ散歩ニ行カン、我等ハ散歩ニ行カウデハナイカ」「我等ハ此事ヲハ他人ニハ話サヾラン、他人ニ話サヌ事ニシマセウ」

(丁) 不定法 (неопредѣлённое наклоне́ніе) 例バ「學ブコハ有益ナリ」「學ブコヲ欲ス」等ノ文句ニ於テ「學ブコ」ト云フノミニテハ何レモ發動ヲ現ハサズシテ第一例ノ「學ブコ」ハ主語ニシテ第二例ノ「學ブコ」ハ「欲ズ」ノ補語トナル

此動詞ハ其動作ノ行ハル、時期ヲモ 又何人ガ 其動作ヲ爲スヤヲモ 確定セズ故ニ之ヲ不定法ト稱ス、動詞ノ斯カル形式ハ稍々名詞ニ近シ

不定法ハ各動詞ノ未ダ變化セザル 原態ニシテ 其語尾ハ 各動詞相同シカラザレモ多クハ ть ト. ться ニ終ル又 ти, тись (тися ノ代リニ) чь, чься ニ終ルモアリ、例バ чита́ть (讀ム), занима́ться (修業スル), идти́ (行ク), нести́сь (進行スル、運バル), печь (煎ル), пе́чься (肝煎ル、己レヲ暖ムル)

斯ノ如ク動詞ハ三個ノ時ト四個ノ 法ニ依テ變化ス 其外尚ホ 數ト人稱ニ依テ變化ス

3. 數 (число́) 數ハ二アリ單數ト複數ナリ例バ「生徒ハ書ヲ讀ム」「生徒等ハ書ヲ讀ム」第一例ノ動作ハ一人ニ屬ス、第二例ノ動作ハ多人數ニ屬ス、日本語ニ於テハ動詞ニ單複數ナキ故ニ若シ唯「讀ム」ト云フ動詞ノミヲ以テセバ一人ノ動作ナルヤ或ハ幾人ノ動作ナルヤ判然セズ、露西亞ノ動詞ハ單複數ノ語尾ニ依テ其動作ノ 一人ニ屬スルヤ或ハ 多人數ニ屬スルヤヲ直チニ知リ得ルノ便アリ

4. 人稱 (лицо́) 人稱ハ三アリ、「我ハ 讀ム」ト云ヘバ第一人稱 (пе́рвое лицо́)、「汝ハ讀ム」ハ第二人稱 (второ́е лицо́)、「彼レハ讀ム」ハ第三人稱 (тре́тье лицо́) ナリ、日本語ニテハ人稱ニ從テ動詞ハ變化スルコトナク「我」モ「汝」モ「彼」モ皆ナ同シク「讀ム」ト成ル、露西亞語ニテハ人稱ノ異ナルニ從テ動詞ノ語尾モ變化スル故ニ動詞ノ語尾ノミヲ 見テモ其動作ノ 何レノ人稱ニ 屬スルヤヲ知リ得ベシ、但シ動詞ノ過去ノミハ例外ニシテ三人稱共ニ一樣ノ語尾ヲ有ス

5. 動詞ガ時ト法ト數ト人稱ニ依テ變化スルヲ動詞ノ變化 (спряже́ние) ト稱ス

§ 12. 過 去 (проше́дшее вре́мя)

1. 動詞ノ過去ハ單數ト複數ヲ有シテ 其語尾ヲ 變化ス且ツ 過去ノ單數ニ於テハ性ニ依テモ變化ス 即チ主語若シ 男性ナル時ハ其客語タル 動詞ノ過去ノ語尾ハ單數ニ於テ лъ 或ハ ъ ト成リ、主語若シ中性ナル時ハ ло ト成ル、女性ナル時ハ ла ト成ル、而シテ лъ (或ハ ъ), ло, ла ハ各々三人稱共通ナリ、複數ニ於テ三性ハ三人稱共ニ同シク ли ノ語尾ト成ル

單			複 數
男性	中性	女性	三 性 共 ニ
лъ (或ハ ъ)	ло	ла	ли

2. 過去ハ不定法ヨリ生ズ、即チ不定法ノ語尾 ть ヲ過去ノ語尾ニ變更スルナリ

3. 大概ノ動詞ノ過去單數ノ男性ノ語尾ハ лъ ナリ、而シテ ъ ノ一字ノミヲ過去ノ語尾トスル動詞ハ僅少ニシテ、斯カル動詞ハ不定法ニ於テ чь ノ語尾ヲ有ス、或ハ ть ノ語尾ノ前ニ子音ヲ有スルヲ常トス、例ハ печь (煎ル), нести́ (携フ) 等ノ如シ、此種ノ動詞ハ概シテ不規則動詞ナリ

§ 13. 動詞 быть (在ル、居ル、ナリ § 10, 2 參照)

I. 過去

1. 定式 (положи́тельная фо́рма)

單數		複數	
я	бы-лъ, бы-ло́, бы-ла́.	мы	бы-ли́
ты	бы-лъ, бы-ло́, бы-ла́.	вы	
онъ	бы-лъ	они́	
оно́	бы-ло́	они́	
она́	бы-ла́	онѣ́	

2. 否定式 (отрица́тельная фо́рма)

否定ノ際ハ не (不) ト云フ語ヲ動詞ノ前ニ立ツルヲ常トス

單數		複數	
я ты онъ, оно, она	не былъ, не было́, не была́	мы вы они́, они́, онѣ́	не были́

3. 疑問式 (вопроси́тельная фо́рма)

疑問ノ際ニハ ли (乎) ト云フ語ハ動詞ノ後ニ立ツ、而シテ疑問ノ際ノ動詞ハ概シテ主語ノ前ニ立ツヲ常トス.

單數

былъ ли я? было́ ли я?
была́ ли я?
былъ ли ты? было́ ли ты?
была́ ли ты?
былъ ли онъ? было́ ли оно?
была́ ли она?

複數

были́ ли мы?
были́ ли вы?
были́ ли они́, они́, онѣ́?

單數

не былъ ли я? не было́ ли я?
не была́ ли я?
не былъ ли ты? не было́ ли ты?
не была́ ли ты?
не былъ ли онъ? не было́ ли оно?
не была́ ли она?

複數

не были́ ли мы?
не были́ ли вы?
не были́ ли они́, они́, онѣ́?

備考 動詞 быть ノ過去ハ其力點ヲ常ニ前述ノ如ク附ス、即チ最後ノ母音ニ附ス、然レ𪜈時トシテ、殊ニ談話ニ於テ力點ヲ前立ノ母音ニ轉ズルコアリ即チ綴音 бы ニ力點ヲ附ス、又否定式ニ於テハ時トシテ力點ヲ не ニ附スコアリ、即チ例ハ было́, бы́ло, не́ было.

4. 否定 не ハ動詞ノミニ限ラズ凡テ否定ニセラルヽ語ノ前ニ立ツモノトス、例バ Я не былъ здѣсь (我ハ此處ニ居ラザリシ). Я не здѣсь былъ, а тамъ. (我ガ居リシハ此處ニ非ラズシテ彼處ナリ)

5. 疑問 ли ハ (第一)疑問ノ點トナル語ノ後ニ立ツ、例バ Былъ *ли* оте́цъ до́ма?—Да, былъ (父ハ家ニ居リシヤ、然リ、居リシ). До́ма *ли* была́ мать?—Да, она была́ до́ма (母ハ家ニ居リシヤ、然リ、彼レハ居リシ)、是故ニ疑問辭 ли ハ客語ノミニ限ラス他ノ諸語ニ附用セラルベシ (第二)若シ文中ニ疑問

ヲ含ミシ語ノ存スル時ハ、別ニ疑問辭 ль ヲ使用スルニ及バズ(何トナレバ其語中ニ既ニ疑問ヲ包有ス例バ *Кто* былъ дóма? (家ニハ誰レガ居リシ)、*Гдѣ* былá мать? (母ハ何處ニ居リシ)

(第三) 談話ニ於テハ疑問ヲ包有スル語ノ存セザルトモ疑問辭ヲ省略スルコトアリ、但シ斯カル場合ニハ疑問ヲ掛ケラレタル語ヲ殊更高聲ニ發音ス、Дóма ли былъ отéцъ? (家ニ居ルヤ父ハ) Отéцъ былъ дóма? (父ハ家ニ居ルヤ) (第四) 談話ニ於テハ ли ノ代リニ疑問辭 *рáзвѣ* 及ビ *неужéли* ヲ使用スルコト多シ、此二語モ疑問ノ意ヲ表スレドモ рáзвѣ ハ怪疑ヲ懷キテ發スル問ニシテ其答ハ肯定的タランコトヲ豫想ス、неужéли ハ奇異ノ感ヲ抱キテ發スル問ニシテ其答ハ否定的タランヲ豫想ス、例ハ *Рáзвѣ* вы былú тамъ? —*Да*, я былъ тамъ (貴君ハ果シテ彼處ニ在リシヤ、然リ、我レハ彼處ニ在リシ)、*Неужели* вы былú тамъ? —*Нѣтъ*, я тамъ не былъ (貴君ハ豈ニ彼處ニ在リシヤ、否ト我ハ彼處ニ在ラザリシ)。

III. 現在

動詞 быть ノ現在ハ二式ヲ有シテ一ハ客語トシテ用ヒ一ハ連結トシテ用ユ

1. 客語トシテ之ヲ用ユル際ニハ есть, есть ли ト成リ、定式ノ單複兩數ノ諸人稱皆然リ、否定式ハ нѣтъ, нѣтъ ли ト成リ、同ジク單複兩數ノ諸人稱皆然リ

而シテ есть ハ時トシテ其意義ノミヲ文中ニ含ミテ而シテ省略セラルコアレドモ есть ли, нѣтъ, нѣтъ ли ハ決シテ省略セラルヽコトナシ

備考 客語ガ нѣтъ ト成リシ時ハ其主語ハ名格トナラズシテ生格ト成ル (§ 18, 3 參照)

2. 連結トシテ使用スル動詞 быть ノ定式ハ есть, есть ли ニシテ否定式ハ не есть, не есть ли ナリ二式共ニ單數ノ諸人稱ニ共通ナリ 複數ニ於テハ суть, суть ли (定式), не суть, не суть ли (否定式) ト成リ三人稱共通ナリ

而シテ形容詞ガ客語タル時ハ常ニ此連結ヲ省略ス又名詞ガ客語タル時モ大抵之ヲ省略スレドモ時トシテハ其際主語ト客語ノ間ニ橫線 (тирé) ヲ施スコアリ

	定式		否定式	
	單數	複數	單數	複數
客語トシテ	есть	есть	нѣтъ	нѣтъ
連結トシテ	есть	суть	не есть	не суть

§ 14. 語尾 ть ノ前ニ母音ヲ有スル動詞ノ過去

1. 語尾 ть ノ前ニ母音ヲ有スル動詞ノ過去ハ動詞 быть ト同一ノ變化式ヲ有ス、例ハ動詞 читáть (「讀ム」) ノ過去ハ下表ノ如シ

單數			複數		
я ты	чита́-лъ, чита́-ло, чита́-ла	(我ハ讀ミタ) (汝ハ讀ミタ)	мы вы	чита́-ли	(我等ハ讀タ) (汝等ハ讀タ)
онъ чита́-лъ оно́ чита́-ло она́ чита́-ла		(彼ハ讀ミタ)	они́ они́ они́		(彼等ハ讀タ)

2. 語尾 ться ノ前ニ母音ヲ有スル動詞ノ過去ハ前記ノ動詞(ть ノ語尾ヲ有スル)ノ如ク變化スレドモ唯之ニ ся ヲ附加ス但シ單數ノ男性ノ語尾タル ть ヨリ半子音 ь ヲ除去ス其他ノ語尾ニ於テハ發調ヲ清クセン爲ニ ся ヲ變シテ сь ト成ス即チ下表ノ如シ

單數			複數
男性	中性	女性	男、中、女性共ニ
-лся	лось	лась	лись

例ハ動詞 занима́-ться (修業ス)ノ過去ノ變化ハ

я ты	занима́-лся занима́-лось занима́-лась	我ハ 汝ハ	修業セリ	мы вы	我等ハ 汝等ハ
онъ оно́ она́	занима́-лся занима́-лось занима́-лась	彼ハ	修業セリ	они́ они́ онѣ	彼等ハ

занима́-лись 修業セリ

§15. 名詞ノ變化

名詞ハ三ノ性ト二ノ數ト七格ヲ有ス

I. 名詞ノ三性ハ男性 (му́жескій родъ), 女性 (же́нскій родъ), 中性 (сре́дній родъ) ナリ

1. 人類ニ關スル生物名詞ノ性ハ其語ノ意義ヨリシテ之ヲ探知スルヲ得ベシ、凡テ男ノミ能クスベキ職業或ハ身分ヲ表スル語ハ男性ニ屬ス、例ハ父 (оте́цъ) 兄弟 (братъ) 伯父 (дя́дя) 祖父 (дѣ́душка) 兵卒 (солда́тъ) 少年 (ю́ноша) 車夫 (извóщикъ) 教師 (учи́тель) 等ナリ、女ノミ能クスベキ身分業務ヲ表スル語ハ女性ニ屬ス、例ハ母 (мать) 姉妹 (сестра́) 妻 (жена́) 小間使 (го́рничная) 女教員 (учи́тельница). 此類ノ名詞ニシテ中性ニ屬スルハ唯一語アルノミ兒童 (дитя́) 是レナリ

備考 總性 (о́бщій родъ) ノ事ハ § 38 參照

2. 其他ノ名詞ノ性ハ單數ノ名格ノ語尾ニ依テ之ヲ定メ得ベシ

備考 露語ニ於テハ他ノ歐羅巴諸國語ト同シク、有生物ノミナラズ無生物モ想念物モ皆ナ性ヲ有ス

男性ニ屬スル名詞ノ語尾ハ ъ, й, ь ナリ例ハ классъ (教室), *чай* (茶), слова́рь (辭書)

女性ニ屬スル名詞ノ語尾ハ а, я, ь ナリ例ハ ко́мната (部屋), не́дѣля (週間), ло́шадь (馬)

中性ニ屬スル名詞ノ語尾ハ о, е, мя ナリ例ハ сло́во (語), мо́ре (海), и́мя (名).

3. ь ヲ語尾トスル名詞ハ男性ニ屬スルモノト女性ニ屬スルモノトアリ、而シテ其名詞ガ如何ナル性ニ屬スルヤハ生格ニ依テ之ヲ知リ得ベシ

4. 粗大的名詞ト纖小的名詞ノ性ハ其語尾ニ依テハ知リ得ベカラズシテ其元體ヲ探究セザレバ其性ヲ定メ難シ

II. 名詞ハ單數ト複數ノ兩數ヲ有ス、事物一個ニ關スル時ハ單數ヲ用

ヒ、二個以上ノ多數ノ事物ニ關スル時ハ複數ヲ用ユ、單數ニモ複數ニモ各々語尾アリ、然レ共單數ノ語尾ヲ用ユレバ殊更ニ一ト云フ數詞ヲ用ヒズトモ其意義通ズルヲ以テ 露語ニ於テハ一個ノ何々ト云フ場合ニハ一ト云フ數詞ヲ用ヒザルヿ多シ、故ニ之ヲ日本語ニ譯スル時ハ一ト云フ數詞ヲ加入セザレバ意義ノ明瞭ヲ缺クヿアリ、能ク注意スベキ事ナリ

備考 露語ニ於テハ單數ノミヲ用ヒテ複數ヲ全ク用ヒザル名詞アリ、又複數ノミヲ有シテ單數ノ無キ名詞アリ (§§ 36-37)

III. 1. 名詞ハ七格ヲ有ス即チ次ノ如シ

名格	(именительный падежъ)	造格	(творительный падежъ)
生格	(родительный падежъ)	前置格	(предложный падежъ)
與格	(дательный падежъ)	呼格	(звательный падежъ)
役格	(винительный падежъ)		

2. 此格ノ意義ハ次ノ如シ (代名詞 кто (誰) что (何) ノ變化ヲモ共ニ記スルハ最初ヨリ之ヲ知ルノ必要アルニ因テナリ)

	單數			單數	
名格	кто (誰ハ)	親友ハ	что	(何ハ)	海ハ
生格	кого́[1] (誰ノ)	親友ノ	чего́[3]	(何ノ)	海ノ
與格	кому́[2] (誰ニ)	親友ニ	чему́	(何ニ)	海ニ
役格	кого́[1] (誰ヲ)	親友ヲ	что	(何ヲ)	海ヲ
造格	кѣмъ (誰ニテ)	親友ニテ	чѣмъ	(何ニテ)	海ニテ
前置格	о комъ (誰ノヿ)	親友ノヿ	о чёмъ	(何ノヿ)	海ノヿ
呼格	кто (誰ヤ)	親友ヤ	что	(何ヤ)	海ヤ

3. 日本語ニハ前置格ナルモノ無シ露語ノ此格ハ獨立ノ格ニ非スシテ常ニ前置詞ヲ用ユベキ格ナリ、故ニ之ヲ前置格ト名ツク、他ノ諸格ニモ名格ト呼格ノ外ハ前置詞ヲ用ユルヿアリ、

備考 前置格ニ於テ殊ニ多ク使用スル前置詞ハ場所ヲ表示スル所ノ въ (「ニ於テ」ノ意) на (「ノ上ニ於テ」ノ意) при (「ノ際」或ハ「ノ傍ニ於テ」ノ意) 及 о (「ノ事」ノ意) 等ナリ

4. 呼格ハ常ニ名格ト同シキモノナリ

IV. 數ト格ニ依テ名詞ノ語尾ノ變スルヲ名詞ノ變化 (склоне́ніе) ト稱ス、名詞ノ變化式ハ四種ナリ

第一式變化ニ屬スル名詞ハ	ъ, ь, й, о, е	ノ語尾ヲ有ス、
第二式變化ニ屬スル名詞ハ	а, я	ノ語尾ヲ有ス
第三式變化ニ屬スル名詞ハ	ь	ノ語尾ヲ有ス
第四式變化ニ屬スル名詞ハ	мя	ノ語尾ヲ有ス

備考 1. 日本ノ名詞ニハ語尾ノ變化ナシト云フモ可ナリ、唯、「ガ」「ノ」「ニ」「ヲ」等ノ附接ヲ以テ名詞ヲ變化スルノミ、露語ニ於テハ名詞ノ格ヲ變ジテ以テ其名詞ニ種々ノ意義ヲ附ス

備考 2. ь ノ語尾ヲ有スル名詞ハ第一式變化ニ屬スルモノト第三式變化ニ屬スルモノトアリ、第一式變化ニ屬スルモノハ男性ニシテ第三式變化ニ屬スルモノハ女性ナリ、露人ハ文法ヲ知ラズトモ常ニ耳ヲ以テ之ヲ聞キ慣レ居ルヲ以テ其變化ヲモ其性ヲモ推知スルヲ得レ共、外國人ハ之ヲ判別スルヿ困難ナリ、故ニ外國人專用ノ露語辭書ニハ斯カル名詞ノ生格或ハ性ヲ附記スルヲ常トス

---

(1) кого́ ハ каво́ ト發音ス (§ 4, 5). (2) каму́ ト發音ス (§ 4, 1). (3) чево́ ト發音ス (§ 4, 5)

§ 16 名詞ノ第一式變化 (пéрвое склонéніе)

1 第一式變化ニ屬スル名詞ハ其名格ニ於テ ъ, ь; й, о, е, ノ語尾ヲ有スルモノナリ

2. ъ, ь, й, ノ語尾ヲ有スル名詞ハ男性ニ屬シ、о, е ノ語尾ヲ有スル名詞ハ中性ニ屬ス

3. 男性ノ生物名詞ハ單複數共ニ役格ト生格ヲ同クシ、無生物名詞ノ役格ハ單複數共ニ名格ト同シク、又 о ト е ノ語尾ヲ有スル中性名詞ハ單複數共ニ役格ト名格ヲ同クス

§ 17. 硬變化 (твёрдое) 及ビ軟變化 (мя́гкое)

1. ъ ト о ノ語尾ヲ有スル名詞ハ硬變化ニ屬シ、ь ト е ノ語尾ヲ有スル名詞ハ軟變化ニ屬ス

2 硬變化ト軟變化ノ差異ハ(第一)硬變化ニ於テハ諸格ノ語尾ガ硬母音及ビ硬半子音ニ變シ、軟變化ニ於テハ對應ノ軟母音及軟半子音ニ變ス (§ 5,1) (第二)複數ノ生格ノ語尾ヲ相異ニス

		男性		中性	
	格	硬變化	軟變化	硬變化	軟變化
單數	名、呼	кла́сс-ъ 教室	прія́тел-ь 友人	сло́в-о 語	мо́р-е 海
	生	кла́сс-а	прія́тел-я	сло́в-а	мо́р-я
	與	кла́сс-у	прія́тел-ю	сло́в-у	мо́р-ю
	役	名格ト同シ	生格ト同シ	сло́в-о	мо́р-е
	造	кла́сс-омъ	прія́тел-емъ	сло́в-омъ	мо́р-емъ
	前置	о кла́сс-ѣ	о прія́тел-ѣ	о сло́в-ѣ	о мо́р-ѣ
複數	名、呼	кла́сс-ы	прія́тел-и	слов-а́	мор-я́
	生	кла́сс-*овъ*	прія́тел-*ей*	слов-ъ	мор-*е́й*
	與	кла́сс-амъ	прія́тел-ямъ	слов-а́мъ	мор-я́мъ
	役	名格ト同シ	生格ト同シ	слов-а́	мор-я́
	造	кла́сс-ами	прія́тел-ями	слов-а́ми	мор-я́ми
	前置	о кла́сс-ахъ	о прія́тел-яхъ	о слов-а́хъ	о мор-я́хъ

3. 中性ノ名詞ハ單數ノ生格ト複數ノ名格ヲ同クス (а 或ハ я) 而シテ大抵此兩格ハ力點ヲ以テ差別スルヲ得ベシ 即チ單數ノ生格ニ於テハ單數ノ名格ト同シキ綴音ニ力點ヲ施シ複數ノ名格ニ於テハ他ノ綴音ニ力點ヲ移ス例バ

	單數生格	複數名格		單數生格	複數名格
сло́во 語	сло́ва	слова́	о́зеро 湖	о́зера	озёра
мо́ре 海	мо́ря	моря́	письмо́ 手紙	письма́	пи́сьма
окно́ 窓	окна́	о́кна	пятно́ 汚點	пятна́	пя́тна
зе́ркало 鏡	зе́ркала	зеркала́	стекло́ 硝子	стекла́	стёкла

4. 若シ中性名詞ノ語尾ノ前ニ二個ノ子音相並ブ時ハ複數ノ生格ニ於テハ（語尾ハ半子音 ъ ナリ）聲調ヲ清クセンガ爲メ即チ子音ノ多ク相並バザランガ爲ニ大概ハ母音 о 或ハ е ヲ挿入ス、又單數名格ノ語尾 о ノ前ニ半子音 ь ヲ有スル名詞ハ複數ノ生格ニ於テ必ス此半子音ヲ變シテ е ト成ラシム例ハ 例. чувство

окно́	ノ複數性格ハ	о́конъ	пятно́	,,	пя́тенъ
стекло́		стёколъ	письмо́	,,	пи́семъ

備考 1. 外國語ヨリ轉用シタル名詞ニテ о е ノ語尾ヲ有スルモノハ一切變化セズ此類ノ名詞ニテ殊ニ多ク使用スルハ ко́фе (珈琲), пальто́ (外套), э́хо (反響) 等ナリ (§ 35, 2-3參照)

備考 2. 殊ニ多ク使用スル前置詞ハ大略次ノ如シ詳細ナル說述ハ、(§§ 116-128 參照)

безъ (ナク) ハ生格ヲ要求スル所ノ前置詞

въ (во) (內ニ向フテ、內ニ於テ) 及ビ на (上ニ向フテ、上ニ於テ) ハ役格ト前置格ニ使用セラレ、въ ハ凡テ物ノ內部ヲ示ス、на ハ物ノ外面ヲ示ス、而シテ役格ノ въ ハ事物ノ內部ニ向テ進行スル意義ヲ有シ、又、役格ノ на ハ事物ノ外面ニ向テ進行スル意義ヲ有ス、前置格ノ въ ハ事物ノ內部ニ在留ノ意義ヲ有シ、前置格ノ на ハ事物ノ外面ニ在留ノ意義ヲ有ス

до (マデ) ハ生格ヲ要求シ、事物ニ到達スルヲ表ス

за (ノ爲ニ) ハ造格ヲ要求シテ目的ヲ表ス、又、役格ヲ要求スル時ハ事物ノ蔭ニ向テ進ムヲ表シ、造格ノ際ニハ蔭ニ在留スルヲモ表ス

изъ (ヨリ) 及ビ отъ (カラ) ハ生格ヲ要求シ、前者ハ事物ノ內部ヨリ遠ザカル意義ヲ有シ後者ハ事物ノ表面ヨリ遠ザカル意義ヲ有ス

изъ-за (後面、蔭ヨリ) ハ生格ヲ要ス

изъ-подъ (下ヨリ) ハ生格ヲ要求シ、事物ノ隱レタル下方ヨリ進向スルヲ表ス

къ (ко) ハ與格ヲ要求シ、事物ニ向ヒ進ムヲ表ス

на ハ въ ヲ參照

надъ (上ニ) ハ造格ヲ要求シテ事物ノ上方ニ在留スル場所ヲ表ス

отъ ハ изъ ヲ參照

по (ヨリテ、ヅヽ) ハ與格ヲ要求シテ、事物ノ表面ニヨリテ進行スル意義ヲ有ス

подъ (下ニ) ハ役格ト造格ヲ要求シ、役格ニ於テ事物ノ下方ニ進行スルヲ表シ、造格ニ於テハ下方ニ在留スルヲ表ス

предъ (пе́редъ) (前ニ) ハ造格ト役格ヲ要求シ、役格ニ於テハ事物ノ前面ニ進行ヲ表シ、造格ニ於テハ前面ニ在留スルヲ表ス

при (ニ際シテ、傍ニ於テ) ハ前置格ヲ要求ス

съ (со) ハ生格ヲ要求シ「上表面ヨリ」ノ意ヲ有ス、又造格ヲ要求スル時ハ「ト共ニ」ノ意ヲ有ス

у ハ生格ヲ要求ス、而シテ生物ニ關シテ使用セラルヽ時ハ其物ノ所有タル意義ト其物ガ或ル場所ニ在留スル意義ヲ有ス、又、無生物ニ關スル時ハ其物ニ接近ノ意義ヲ有ス

§ 18. (承 前)

1. 甲ノ名詞ガ乙ノ名詞ノ定語ト成ル時ニハ甲ノ名詞ハ（日本語ニ於テモ然ルカ如ク）生格ト成ル、但シ甲ノ名詞ハ乙ノ名詞ノ後ニ立ツヲ規則トス、例ハ гость пріятеля (友人ノ客), домъ учи́теля (敎師ノ家)

2. 他動詞(役格ヲ要求スル動詞ナリ)ニ従フ補語ガ名詞ナル時ハ役格ト成ル、例ハ Я купи́лъ стака́нъ (我ハコップヲ買ヘリ) Она́ купи́ла стака́нъ (彼女ハコップヲ買ヘリ). 若シ他動詞ガ否定式ヲ成ス時ハ其定語タル名詞ハ生格ト成ル、例ハ Я *не* купи́лъ стака́на (我ハコップヲ買ハザリシ). Она *не* купи́ла стака́новъ.

3. 動詞 быть ガ客語トシテ現在ノ否定式 нѣтъ, нѣтъ ли (§ 13, II, 1) タル時ハ主語ハ名格ノ代リニ生格ト成ル、例ハ Стака́нъ (есть) въ столѣ́ (コップハ卓ノ内ニ在リ). Стака́на *нѣтъ* въ столѣ́ (コップハ卓ノ内ニ在ラズ). Стака́нъ на столѣ́ (コップハ卓ノ上ニ在リ) Стака́новъ *нѣтъ* на столѣ́ (コップハ卓ノ上ニアラズ)

4. 動詞 быть 及ビ其他ノ動詞ハ過去ノ變化ニ於テ前述ノ否定式 (§ 13, I, 2, 3) ノ外ニ又一種ノ否定式ヲ有ス、例ハ не было, не было ли? не пріѣ́хало (乗來ラズ), не пріѣ́хало ли? 等ノ如シ、此式ハ單數ノ中性ナレ𣘑、單複兩數ノ諸人稱ニ共通シテ使用スルヲ得ベシ、而シテ客語ガ此式ノ動詞ナル時ハ主語ハ名格ノ意義ヲ有スルトモ常ニ生格ト成ルベシ、即チ斯カル文句内ニハ表面上(形式的)ヨリ觀レバ主語ナキヲ以テ、此種ノ動詞ノ否定式ヲ無人稱式 (безли́чная фо́рма) ト稱ス、此無人稱式ハ概シテ事物ヲ定メズシテ指示スル場合ニ使用スル𠮟多シ、例ハ Стака́нъ (一定ノコップヲ指ス) *не* бы́лъ въ столѣ́. Стака́на (ドレト一定セズシテ云フ) *не́* бы́ло въ столѣ́. Стака́ны *не* бы́ли въ столѣ́. Стака́новъ *не́* бы́ло въ столѣ́. Го́сти (待受ケタル客ヲ指ス) *не* пріѣ́хали. Гостей́ (誰レト指定セズシテ凡テ客人ヲ指ス場合ナリ) *не* пріѣ́хало.

5. 動詞 быть ハ屢々 имѣ́ть (所有ス)ト云フ動詞ノ意義ニテ使用セラルヽアリ、然ル場合ニハ事物ヲ所有スル人物ハ名格ト成ラズシテ生格ト成リ且ツ前置詞 у ト共ニス又所有セラルヽ事物ハ役格ト成ラズシテ名格ト成ル、即チ「誰ハ何ヲ所有ス」ト云フ代リニ「誰ニハ何ガ有ル」ト云フ、Прія́тель имѣ́лъ стака́нъ (友人ハコップヲ所有セリ)＝*У* прія́теля *былъ* стака́нъ (友人ニハコップ有リシ)、Прія́тель имѣ́лъ стака́ны＝*У* прія́теля *были́* стака́ны. 其際若シ動詞 быть ガ否定式ヲ爲スナレバ前ニ述ベシ規則ニ依テ名詞ハ名格ノ代リニ生格ト成ル、例ハ *У* прія́теля *не́* было стака́на, стака́новъ. *У* прія́теля *нѣтъ* стака́на, стака́новъ (友人ニハコップ無シ)

6. 名詞ノ前ニ ско́лько (幾何), нѣ́сколько (若干), мно́го (多ク), ма́ло (少シク), ниско́лько (毫モ)其他凡テ事物ノ度量、計數等ヲ表スル語ノ存立スル場合ニハ(假令斯カル語ノ存セザルトモ其意味ヲ文中ニ含ムナレバ)名詞ハ常ニ生格ト成ル *Сколько* стака́новъ въ столѣ́? (卓内ニコップノ幾干ハ存スルヤ) —Въ столѣ́ *мно́го* стака́новъ, *ма́ло* стака́новъ, *нѣсколько* стака́новъ.

7. 若シ ско́лько, нѣ́сколько, мно́го, ма́ло, ниско́лько ノ語ト共ニスル所ノ名詞ガ主語タル時ハ動詞タル客語ハ常ニ單數ト成ル、但シ此動詞ガ過去ナル時ハ單數ノ中性ト成ル、例ハ *Ско́лько* стака́новъ стоя́ло въ столѣ́? —Въ

столѣ́ было́ *мно́го* стака́новъ (были ト言フ丁能ハズ)(卓ノ内ニ幾個ノコップガ立チ居リシヤ、卓ノ内ニハ多クノコップガ存シタリ)

§ 19. 母音變化 (Гла́сное скло́не́ніе)

1. 母音變化ニ屬スルハ男性ニ於テハ ій ノ語尾ヲ有スル名詞及ビ ій ノ前ニ一個ノ母音ヲ有スル名詞ナリ、中性ニ於テハ ie 及 ье ヲ語尾トスル名詞ナリ

備考 語尾 ье ハ或ル名詞ニ於テハ ie ヲ簡略シテ生ゼシモノナル故ニ斯カル名詞ニ於テハ語尾 ье ノ代リニ語尾 ie ヲ使用シ得ベシ例ハ несча́стье＝несча́стіе (不幸)

2 母音變化ハ軟變化ナリ、此變化ノ特異ハ單數ノ前置格ト複數ノ生格ニ存ス

3. 男性、〔甲〕語尾 ій ノ前ニ母音 (і ノ字ノミハ例外) ヲ有スル名詞ハ單數ノ前置格ニ於テ正則的ノ語尾 ѣ ヲ有スレモ、ій ノ語尾ヲ有スル名詞ハ然ラズシテ и ノ語尾ヲ前置格ニ有ス、如何トナレバ語尾ニ於テ ѣ ノ字ハ母音 і ノ後ニ立ツ丁能ハズシテ常ニ и ヲ以テ之ニ代ユルヲ規則トス (§ 5, 4.)〔乙〕ій ノ語尾ヲ有スル名詞ハ凡テ複數ノ生格ニ於テハ軟變化ノ語尾 ей トナラズシテ евъ ノ語尾ト成ル

4. 中性、〔甲〕單數ノ前置格、語尾 ie ヲ有スル名詞ハ前置格ニ於テ常ニ ѣ ヲ語尾トセズシテ и ヲ語尾トス (§ 5, 4). 而シテ ье ヲ語尾トスル名詞ノ前置格ニ關シテハ之ヲ二種トス、即チ最後ノ綴音ニ力點ヲ有セザルモノハ前置格ニ於テ и ヲモ ѣ ヲモ語尾トスルヲ得ベシ(大概ハ и ヲ使用ス)、又最後ノ綴音ニ力點ヲ有スルモノハ (ье́) 前置格ニ於テ常ニ ѣ ヲ語尾トス、〔乙〕複數ノ生格ニ於テハ ie ヲ語尾トスル名詞モ ье ヲ語尾トスル名詞モ共ニ同シク ій ノ語尾ト成ル

	格	男性		中性		
		時機	人名	所有地	不幸	鎗
單數	名、呼	слу́ча-й	Васи́лі-й	имѣ́ні-е	несча́сть-е	копь-ё
	生	слу́ча-я	Васи́лі-я	имѣ́ні-я	несча́сть-я	копь-я́
	與	слу́ча-ю	Васи́лі-ю	имѣ́ні-ю	несча́сть-ю	копь-ю́
	役	名格ト同一	生格ト同一	имѣ́ні-е	несча́сть-е	копь-ё
	造	слу́ча-емъ	Васи́лі-емъ	имѣ́ні-емъ	несча́сть-емъ	копь-ёмъ
	前置	о слу́ча-*ѣ*	о Васи́лі-*и*	объ имѣ́ні-*и*	о несча́сть-*и*(*ѣ*)	о копь-*ѣ*
複數	名、呼	слу́ча-и	Васи́лі-и	имѣ́ні-я	несча́сть-я	ко́пь-я
	生	слу́ча-*евъ*	Васи́лі-*евъ*	имѣ́ні-*й*	несча́сті-*й*	ко́пі-*й*
	與	слу́ча-ямъ	Васи́лі-ямъ	имѣ́ні-ямъ	несча́сть-ямъ	ко́пь-ямъ
	役	名格ト同一	生格ト同一	имѣ́ні-я	несча́сть-я	ко́пь-я
	造	слу́ча-ями	Васи́лі-ями	имѣ́ні-ями	несча́сть-ями	ко́пь-ями
	前置	о слу́ча-яхъ	о Васи́лі-яхъ	объ имѣ́ні-яхъ	о несча́сть-яхъ	о ко́пь-яхъ

5. 年中ノ月ニ關シテ若シ「何月ニ於テ」ノ意ナル時ハ之ヲ前置格トシテ前置詞 въ ヲ用ユ、月ノ名稱ハ其頭文字ヲ大書シ或ハ大書セザルモ可ナリ

Янва́рь 一月 *въ январѝ*	Май 五月 *въ ма́и*	Сентя́брь 九月 *въ сентя́брѝ*
Февра́ль 二月 *въ февралѝ*	Іюнь 六月 *въ ію́нѣ*	Октя́брь 十月 *въ октя́брѝ*
Ма́рть 三月 *въ ма́ртѣ*	Іюль 七月 *въ ію́лѣ*	Ноя́брь 十一月 *въ ноя́брѝ*
Апрѣ́ль 四月 *въ апрѣ́лѣ*	А́вгустъ 八月 *въ а́вгустѣ*	Дека́брь 十二月 *въ дека́брѝ*

§ 20. 喉音變化 (Гортáнное склонéніе)

1. 語尾ノ前ニ喉音 г, к, х ヲ有スル名詞ハ喉音變化ニ屬ス
2. 喉音變化ハ硬變化ナリ
3. 此變化式ノ特異ハ複數ノ名格ニ存ス、喉音ノ後ニハ母音 ы ヲ使用セズシテ對應ノ母音 и ヲ以テ之ニ代用スベキガ (§ 5, 6) 故ニ此變化ニ屬スル男性名詞ノ複數ノ名格ハ ы タルベキ代リニ и ト成ル、而シテ ко ノ語尾ヲ有スル中性名詞ハ複數ノ名格ニ於テ不規則ノ變化ヲ成ス即チ а ト成ルベキ代リニ и ト成ル

備考 ко ノ語尾ヲ有スル名詞ノ外ニ此變化ニ屬スル中性名詞ハ種々ノ不規則ヲ有ス

	男性		中性	
格	單數	複數	單數	複數
名、呼	учени́к-ъ 生徒	ученик-*и*	я́блок-о 林檎	я́блок-*и*
生	ученик-а́	ученик-о́въ	я́блок-а	я́блок-ъ
與	ученик-у́	ученик-а́мъ	я́блок-у	я́блок-амъ
役	生格ト同一	生格ト同一	я́блок-о	я́блок-*и*
造	ученик-о́мъ	ученик-а́ми	я́блок-омъ	я́блок-ами
前置	объ ученик-ѣ́	объ ученик-а́хъ	объ я́блок-ѣ	объ я́блок-ахъ

§ 21. 上顎音變化 (Нёбное склонéніе)

1. 語尾 ъ 及ビ е ノ前ニ上顎音 ж, ч, ш, щ 並ニ子音 ц ヲ有スル名詞ハ上顎音變化ニ屬ス
2. 上顎音變化ハ軟變化ナリ、之ヲ二種ニ小別ス、即チ純粹ノ上顎音變化ト語尾 цъ, це 或ハ цо ヲ有スル名詞ノ變化ナリ
3. 上顎音 ж, ч, ш, щ ノ後ニハ軟母音 я ト ю ヲ用ヒズシテ對應ノ硬母音 а ト у (§ 5, 6) ヲ代用スベキガ故ニ軟變化ノ諸格ニ於テ軟母音 я ト ю ノ存スル場合ニハ常ニ硬母音 а ト у ヲ代用ス
4. 中性名詞ハ此外、複數ノ生格ニ於テ特異ヲ有ス即チ軟半子音 ь ヲ語尾トセズシテ硬半子音 ъ ヲ語尾トス
5. 子音 ц ノ後ニハ軟母音 и, я, ю ヲ用ヒズシテ對應ノ硬母音 ы, а, у ヲ代用 (§ 5. 7) スベキ故ニ цъ ヲ語尾トスル名詞ハ軟變化ノ諸格ニ於テ軟母

音 и, я, ю ノ存スル場合ニハ常ニ硬母音 ы, a, у ヲ代用ス、且又語尾 иъ ヲ有スル名詞ハ複數ノ生格ニ於テ ей ノ代リニ евъ ヲ語尾トス

6. 語尾 ие ヲ有スル名詞ハ此變化式ニ屬スル中性名詞ト同シク變化ス

7. 此變化ニ屬スル中性名詞ノ力點ガ語尾ニ存スルナレバ é ノ語尾ヲ ё ト發音スベキ故ニ (§ 4, 4) 之ヲ o ト書スルモ可ナリ (§ 5, 8) 即チ жé, чé, шé, щé, цé ノ代リニ жо, чо, шо, що, цо トモ書スルヲ得ベシ

		男性	中性	男性	中性
單數	名、呼	同僚、朋友	學校	月	顏
	生	това́рищ-ъ	учи́лищ-е	мѣ́сяц-ъ	лиц-ё(о́)
	與	това́рищ-а	учи́лищ-а	мѣ́сяц-а	лиц-а́
	役	това́рищ-у	учи́лищ-у	мѣ́сяц-у	лиц-у́
	造	生格ト同一	учи́лищ-е	名格ト同一	лиц-ё(о́)
	前置	това́рищ-*емъ*	учи́лищ-*емъ*	мѣ́сяц-*емъ*	лиц-ёмъ(о́мъ)
		о това́рищ-ѣ	объ учи́лищ-ѣ	о мѣ́сяц-ѣ	о лиц-ѣ́
複數	名、呼	това́рищ-*и*	учи́лищ-а	мѣ́сяц-*ы*	ли́ц-а
	生	това́рищ-*ей*	учи́лищ-*ъ*	мѣ́сяц-*евъ*	лиц-ъ
	與	това́рищ-амъ	учи́лищ-амъ	мѣ́сяц-амъ	ли́ц-амъ
	役	生格ト同一	учи́лищ-а	名格ト同一	ли́ц-а
	造	това́рищ-ами	учи́лищ-ами	мѣ́сяц-ами	ли́ц-ами
	前置	о това́рищ-ахъ	объ учи́лищ-ахъ	о мѣ́сяц-ахъ	о ли́ц-ахъ

8. 語尾 ще ヲ有スル粗大的名詞ト語尾 це ヲ有スル纖小的名詞ハ複數ノ名格ト生格ニ於テ不規則ノ語尾ヲ有ス (§ 24, 18)

§ 22. 第一式變化中ノ不規則

備考 不規則ハ通常多ク 使用スル語ニモ在リ 又使用ノ 稀ナル語ニモ存ス、故ニ初學者ハ概シテ不規則大躰ニ通ズレバ可ナラン、斯カル不規則ハ本書ニ於テハ殊更ニ草體ノ活字ヲ以テ之ヲ記ス

第一式變化ノ不規則ハ單複兩數ノ諸格ニ關スルモノト、單數ノミノ諸格ニ關スルモノト、複數ノミノ諸格ニ關スルモノトアリ

單複兩數ノ諸格ニ關スル不規則

1. 語尾 ъ 及 ь ノ前ニ二個ノ子音ヲ有スル名詞中ニハ單數ノ名格ニ於テ音調ヲ清クセン爲ニ (子音ノ多ク並列セザラン爲ニ) 母音 о 或ハ е ヲ挿入ス例バ ребёнкъ ノ代リニ ребёнокъ (孩兒), отцъ ノ代リニ оте́цъ (父)、此種ノ名詞ヲ變化スル際ニハ母音 о 或ハ е ヲ除去ス、如何トナレバ單數ノ名格ノ外ニハ三個ノ子音並列スルコトナケレバナリ

語尾 ёнокъ ヲ有スル名詞全體ト語尾 окъ ヲ有スル多クノ名詞及ビ其他ノ或名詞ハ母音 о ヲ除去スベキ名詞ニ屬ス

語尾 ецъ (лепъ ノ語尾ヲ 有スルモノ及ビ ецъ ノ前ニ子音ヲ 有スルモノ

§ 22, 2, 3)ヲ有スル名詞、殊ニ нецъ ト рецъ ヲ語尾トスル名詞及ビ其他或名詞ハ母音 е ヲ除去スベキ名詞ニ屬ス例ハ

ребёнокъ 小兒	ребёнк-а, у...	конéцъ 終	конц-á, ý...
замóкъ 錠	замк-á, ý...	инострáнецъ 外國人	инострáнц-а, ý...
пятóкъ 五個	пятк-á, ý...	японéцъ 日本人	японц-á, у...
десятокъ 十個	десятк-а, у...	пéрецъ 胡椒	пéрц-а, у...
рынокъ 市場	рынк-а, у...	отéцъ 父	отц-á, у...
огóнь 火	огн-я́, ю...	купéцъ 商人	купц-á, у...
сонъ 睡眠	сн-а, у...	день 日	дн-я, ю...
ротъ 口	рт-а, у...	вéтеръ 風	вéтр-а, у...

備考 1. 斯ノ如ク挿入母音 о ト е ヲ除去スルハ此母音ノ前ニ一個ノ子音ノミ存スル場合ニ限ルナリ、二個ノ子音ヲ存スル場合ニハ之ヲ除去セズ例バ мертвéцъ (死人), мертвец-á, ý...

備考 2. 但シ或ル僅小ノ語ハ例外ニシテ挿入母音 е ノ前ニ二個ノ子音ヲ有スレドモ此母音ヲ除去スヽ例ハ истéцъ (原告), истц-á, истц-ý...

2. 語尾 хецъ 及 екъ ノ前ニ舌音 л, н, р 齒音 з, с, т ヲ有スル名詞、即チ лёкъ, нёкъ, рёкъ, зёкъ, сёкъ, тёкъ (此等ノ語尾ヲ有スルハ纖小名詞ナリ)ヲ語尾トスル名詞ハ變化ノ際諸格ニ於テ挿入母音 е ヲ半子音 ь ニ變ス例ハ

владéлец-ъ 持主	владéльц-а, у...	денёкъ 日	деньк-á, ý...
пáлецъ 指	пáльц-а, у...	огонёкъ 火	огоньк-á, ý...
кошелёкъ 錢嚢	кошелькá, ý...	пузырёкъ 球嚢	пузырьк-á, ý...

3. 母音 е ノ前ニ舌音 л ヲ有スル次ノ三名詞モ變化ノ際母音 е ヲ半子音 ь ニ變ス левъ 獅子 льв-а, у... лёдъ 氷 льд-а, у... лёнъ 亞麻 льн-а, у...

4. 語尾 епъ ト екъ ノ前ニ母音ヲ有スル名詞ハ凡テ變化ノ際母音 е ヲ半母音 й ニ變ス例ハ

европéецъ 歐洲人	европéйц-а, у...	корéецъ 朝鮮人	корéйц-а, у...
китáецъ 支那人	китáйц-а, у...	ручеёкъ 小河	ручейк-á, ý...

5. 次ノ三語ハ變化ノ際母音 ё ト я ヲ半母音 й ニ變ズ заёмъ 借貸 займ-á, у... наёмъ 傭 наймá, у... зáяцъ 兎 зáйц-а, у...

6. 語尾 ей ヲ有スル次ノ六語ハ母音 е ヲ半子音 ь ニ變ズ

воробéй 雀	воробь-я́, ю...	соловéй 鶯	соловь-я́, ю...
муравéй 蟻	муравь-я́, ю...	ýлей 蜜蜂ノ巢	ýль-я, ю...
ручéй 小流	ручь-я́, ю...	чúрей 腥物(鰯ノ類)	чúрь-я, ю...

7. пóлдень (正午)ト云フ名詞ハ生格以下ノ諸格ニ於テ母音 ý ヲ挿入シテ力點ヲ此母音ニ打チ單數ノ前置格ニ於テ ь ノ代リニ и ノ語尾ヲ受ク即チ

пóлдень, полýдня, полýдню, пóлдень, полýднемъ, *по* полýдни (午後)

8. 人名ヲ表スル名詞ガ ій ノ語尾ノ前ニ一子音ヲ有スル時ハ語尾ノ母音 і ヲ半子音 ь ニ變スルコトヲ得ベシ例バ Василíй, Васúлія 或ハ Васúлья, Васúлію 或ハ Васúлью....

9. 有生物ヲ表スル男性名詞ノ役格ハ生格ト同一 (§ 16, 3) ナレトモ集合名詞ノ有生物ヲ表スルモノハ役格ヲ生格ト同クセズシテ名格ト同クス例ハ народъ (人民) ノ役格ハ народъ (單數)

наро́ды (複數)ニシテ полкъ (軍隊)ノ役格ハ полкъ, полки́ ナリ

10 昔話、神傳神話等ノ人物、怪獸、其他虛誕ノ想像ナリトモ男性名詞ノ語尾ヲ有シテ有生物ヲ表スル物ハ凡テ其役格ヲ生格ト同一ニス、此故ニ將棊骨牌ナドノ王ノ如キモ役格ハ生格ト同一ナリ例ハ коро́ль (骨牌ノ王)ハ役格 короля́, короле́й. 又 Марсъ (軍神、火星)ハ Ма́рса.

11. 語尾 тель ヲ有スル男性名詞ハ概シテ有生物ヲ表ス故ニ此語尾ヲ有スル男性名詞中ニ無生物ヲ表スルモノ(僅少ナレ𪜈)モ其役格ヲ生格ト同一ニス例ハ числи́тель (分數ノ分子)ノ役格ハ числи́теля (單數), числи́телей (複數)ニシテ знамена́тель (分母)ノ役格ハ знамена́теля (單數), знамена́телей (複數)ナリ

§ 23. 第一式變化ノ單數ニ於ケル不規則

1. Христо́съ (基督)ノ變化ハ ос ノ二字ヲ除去ス即チ Христо́съ, Христ-а́, у́, а́, о́мъ, ѣ́ (§ 23, 6)

2. Госпо́дь (主ト譯シテ基督教ノ神ノミニ用フベキモ元來尊稱ナルヲ以テ複數ハナシ)ハ其語尾ヨリスレバ軟變化ニ屬スベキナレトモ硬變化ニ從フ即チ Госпо́дь, Го́спод-а, у, а, омъ, ѣ (§ 23, 6)

3 語尾 ъ ト ь ヲ有スル名詞中ニハ單數ノ生格ニ於テ正則ノ а ト я ノ語尾ノ外、又別ニ不規則ノ語尾 у ト ю (即チ與格ト同一ナル)ヲ受クルモノアリ、斯カル不規則ノ變化ヲ爲スハ次ノ諸名詞ナリトス

〔甲〕 物質ヲ表スル名詞ガ數、度量、重量等ヲ表スル語ト共ニスル時、例ハ

~~чай (茶)ハ ча́ю~~	стака́нъ ча́ю (茶ノ一杯)
са́харъ (砂糖)ハ са́хару	кусо́къ са́хару (砂糖ノ一塊)
таба́къ (煙草)ハ табаку́	фунтъ табаку́ (煙草ノ一斤)
рисъ (米)ハ ри́су	пудъ ри́су (米ノ一プート)
шёлкъ (絹)ハ шёлку	кусо́къ шёлку (絹ノ一片)
мѣлъ (白墨)ハ мѣ́лу	кусо́къ мѣ́лу (白墨ノ一塊)

備考 但シ此種ノ名詞ハ數量ヲ表セザル語ト共ニスル時ハ其生格ハ正則的タルベシ例ハ арома́тъ ча́я (茶ノ香氣), цвѣтъ са́хара (砂糖ノ色), за́пахъ табака́ (煙草ノ香), вкусъ ри́са (米ノ味)等

〔乙〕 集合名詞及ビ無形事物ヲ表スル或名詞ハ殊ニ否定文句ニ於テ此不規則生格ヲ用ユ、但シ其他ノ場合ニハ之ヲ使用セザルヲ可トス例ハ

наро́дъ ハ наро́да 又 наро́ду	крикъ (叫聲)ハ кри́ка 又 кри́ку
разъ (一度) ра́за 又 ра́зу	шумъ (喧騷)ハ шу́ма 又 шу́му

〔丙〕 俗語及ビ談話ニ於テハ各種ノ生格前置詞ト共ニ此不規則生格ヲ使用スルコト多シ、又雅言ニモ或名詞ハ生格前置詞ト共ニ之ニ使用スルコトアリ、而シテ或名詞ハ此不規則ノミヲ使用シ正則的生格ヲ全ク用ヒザルナリ、即チ前置詞ト綴合シテ副詞ノ體ヲ成ス所ノ名詞ナリ、例ハ

са́харъ	безъ са́хару (а) 砂糖ナクシテ	родъ 誕生	о́тъ роду 誕生ヨリ
лѣсъ	изъ лѣ́су (а) 林中ヨリ	верхъ 上	съ ве́рху (а), све́рху 上ヨリ
крикъ	отъ кри́ку (а) 叫聲ニヨリテ		до ве́рха, до́-верху 上マデ
	изъ-за кри́ку (а) 叫聲ヨリシテ	низъ 下	съ ни́зу (а), сни́зу 下ヨリ
ка́шель	отъ ка́шлю (я) 咳ニヨリテ		до ни́за, до́-низу 下マデ

4 語尾ъトь ヲ有シテ無生物ヲ表スル或名詞ハ前置格ニ於テ前置詞въト共ニシテ正則ノ語尾ѣノ代リニюノ或ハюノ語尾ヲ受ケ力點ヲ語尾ニ打ツ、但シ此種ノ名詞中、正則ノ語尾ьヲ前置格ノ語尾トスルコトモアレドモ是レハ至テ稀ナリ、此不規則變化ヲ爲ス名詞ハ概シテ一綴音ノ語ニシテ、二綴音ノ語ハ至テ僅少ナリ、今茲ニ最モ多ク用ユルモノヲ揭ク

адъ 地獄 въ адý, въ áдѣ
бокъ 脇、側 въ бокý
верхъ 上 въ верхý, вверхý
видъ 見、形狀 въ видý(ニ因テ)
въ вúдѣ(形狀ヲ以テ)
глазъ 眼 въ глазý
годъ 年 въ годý
гробъ 棺 въ гробý, во гробѣ
край 端、地方 въ крáю(端ニ於テ),
въ крáѣ(地方ニ於テ)
лѣсъ 林 въ лѣсý
низъ 下 въ низý, внизý
плѣнъ 擒 въ плѣнý
полкъ 軍隊 въ полкý
рай 天國 въ рáю, въ рáѣ
ротъ 口 во ртý
садъ 園 въ садý
úголь 隅 въ углý
часъ 時間 въ часý(第何時ニ於テ)
въ чáсѣ(一時間ニ於テ)
шёлкъ 絹 въ шелкý
шкапъ 戸棚 въ шкапý

5. 語尾ъトь ヲ有シテ無生物ヲ表スル或名詞或ハ前置格ニ於テ前置詞на トь共ニシテ正則ノ語尾ѣノ代リニюノ或ハюノ語尾ヲ受ケ力點ヲ語尾ニ打ツ、此種ノ名詞モ多クハ一綴音ニシテ、二綴音ナルハ至テ僅少ナリ

берегъ 岸 на берегý
бокъ 脇 на бокý
вѣкъ 世紀 на вѣкý
лобъ 額 на лбу
лугъ 草原 на лугý
край 端、地方 на крáю
мостъ 橋 на мостý
носъ 鼻 на носý
полъ 床 на полý
родъ 生 на родý
úголъ 隅 на углý
шагъ 步 на шагý

6. 呼格ハ凡テ名格ト同一ナリ、但シ次ニ記スル四名詞ノミヲ例外トス Госпóдь 主, Богъ 神, Іисýсъ 耶蘇, Христóсъ 基督

此四語ノ呼格ハ古代露語即チ現時モ教會經文中ニ用ユル「スラウヤン」語ノ變化ヲ其儘使用シテ Гóсподи! Бóже! Іисýсе! Христé! ト成ル

§24 第一式變化ニ於ケル複數ノミノ不規則

1. 或ル男性名詞ハ複數ノ名格ニ於テ正則ノ語尾ы 或ハиノ代リニ不規則語尾aa 或ハяヲ受ク即チ單數ノ生格ト同一ナレド力點ヲ語尾ニ打ツノ差異アリ、但シ此種ノ名詞中ニハ複數ノ名格ニ於テ正則ノ語尾ы 或ハиヲモ受クルコアリ、正則語尾ハ殊ニ書籍用語ニ於テ使用シ不規則語尾ハ談話ニ於テ使用ス、次ニ揭クルハ最モ多ク使用スル此種ノ名詞ナリ

бéрегъ, *á* 岸
бокъ, *á* 脇
вéксель, *я* 信用手形
вéчеръ, *á* 晩
вóлосъ, *ы*, *á* 毛髪
глазъ, *á* 眼
годъ, *ы*, *á* 年
гóлосъ, *á* 聲
гóродъ, *á* 市府
грúфель, *я* 石筆
дирéкторъ, *ы*, *á* 長
дóктоpъ, *á* 醫師

домъ, á, ы 家
ко́локолъ, *á* 鐘
край, *я́* 端、地方
кре́йсеръ, *á* 巡洋艦
ку́черъ, *á* 馭者
ле́карь, *я́* 醫者
лугъ, *á* 草原
лѣсъ, *á* 林
ма́стеръ, *á* 職工
о́рденъ, *á* 勳章
о́стровъ, *ă* 島
офице́ръ, *ы*, *á* 士官
па́русъ, *á* 帆
пи́сарь, *я́* 書記
по́варъ, *а* 料理人
по́гребъ, *á* 穴藏
по́ясъ, *ы*, *á* 帶
профе́ссоръ, *ы*, *á* 教授
ре́кторъ, *ы*, *á* 校長
рогъ, *á*, *и* 角
рука́въ, *á* 袖
снѣгъ, *á*, *и* 雪
сортъ, *á* 等類
сто́рожъ, *á* 番人
хлѣвъ, *á* 家畜小屋
хо́лодъ, *á* 寒氣
я́корь, *я́* 碇
ю́нкеръ, *á* 下士官

2. 或ル名詞ハ複數ノ諸格ニ於テ半子音 ь ヲ挿入シテ次ノ如キ語尾ヲ成ス

名格 ья　與格 ьямъ　造格 ьями
生格 ьевъ 或ハ ей　役格(名格或ハ生格ト同)　前置格 ьяхъ

此種ノ名詞中、複數ノ名格ニ於テ語尾ニ力點ヲ有セザルモノハ生格ニ於テ ьевъ ノ語尾ヲ受ケ又同シク語尾ニ力點ヲ有スルモノハ ей(半子母 ь ヲ除去シテ)ノ語尾ヲ受ク、但シ此中ノ或ル名詞ハ正則的ノ複數變化ヲモ爲セドモ之ヲ使用スルハ稀ナリトス而シテ通常多ク使用スル不規則的ノ複數ハ事物ヲ集合體ノ意味ニテ使用スル場合ナリトス、而シテ名詞 де́рево ノ正則複數ハ「材木」ノ意ヲ有シ、又 ка́мень ハ概シテ正則複數ヲ多ク使用ス

брать 兄弟 бра́т-
брусъ 角材 бру́с-
гроздъ 葡萄ノ房 гро́зд-
де́рево 樹木、材木 дере́в-
} ья, ьевъ

дерев-а́, 材木 ъ, а́мъ

дно 底 до́н-ья, ьевъ...
другъ 親友 друз-ья́, е́й...
звено́ 連環 зве́н-ья, ьевъ...
зять 壻 зят-ья́, е́й...
ка́мень 石 каме́н-ья, ьевъ...

ка́мн-и, ей, ямъ

клинъ 尖木 кли́н-
клокъ 片、束 кло́ч-
} ья, ьевъ

князь 公爵 княз-ья́, е́й, ья́мъ

ко́лосъ 穗 коло́с-
колъ 材 ко́л-
} ья, ьевъ

крыло́ 翼 кры́л-
крюкъ 鈎 кры́ч-
} ья, ьевъ...

кумъ 洗禮ノ父 кумов-ья́, е́й 及 ьевъ
лоску́тъ 布ノ裁片 лоску́т-
перо́ ペン、羽 пе́р-
по́лозъ 橇ノ滑桁 поло́з-
поле́но 薪片 поле́н-
пру́тъ 樹ノ枝 пру́т-
стру́къ 豆類ノ莢 стру́ч-
струпъ 痂 стру́п-
стулъ 椅子 сту́л-
сукъ 枝 су́ч-
у́голь 炭 у́гол-

у́гл-и, ей, ямъ

хлопъ 棉花 хло́п-
ши́ло 太針(錐) ши́л-

} ья, ьевъ

備考 1. 名詞 дно ハ複數ニ於テ о ヲ挿入セラル、語尾 къ ヲ有スル名詞ノ喉音 к ハ上顎音 ч ニ變ズ又名詞 другъ ノ喉音 г ハ齒音 з ニ變ス、名詞 кумъ ハ овь ノ挿入ヲ受ケ二撮ノ生格ヲ有ス

備考 2. 名詞 не́другъ(仇敵)ハ複數ニ於テ正則變化ヲ爲ス即チ не́друг-*и*, *овъ*, *амъ*...

3. 次ニ揭クル名詞ハ單數ニ於テ二樣ノ意義ヲ有シ且ツ複數ノ名格ニ於テハ二樣ノ變化ヲ爲シ一ツハ正則的ニシテ ы 或ハ и ノ語尾ヲ受ケ、一ツハ不規則的ニシテ а 或ハ я ノ語尾ヲ受ケ力點ヲ語尾ニ打ツ、而シテ正則的名格ト不規則的名格ハ各相異リタル意義ヲ有ス、其他ノ諸格ニ於テハ同一ニ正則的變化ヲ爲セドモ其意義ノ異ナルニ從テ力點ヲ異ニス即チ名格ニ於テ不規則的語尾ヲ受クルモノハ生格以下ノ諸格ニ於テ力點ヲ語尾ニ打チ、又名格ニ於テ正則的語尾ヲ受クルモノハ他ノ格ニ於テモ概シテ語尾ニ力點ヲ打タズ

мѣхъ 毛皮、吹革 мѣх*и́* 吹革 } óвъ, áмъ...
мѣх*á* 毛皮 }

óбразъ 形狀、像 óбраз-*ы* 形狀, овъ, амъ...
образ-*á* 像, óвъ, áмъ...

служи́тель 勤務者、小使, служи́тел-*и*, ей, ямъ...
служител-*я́* 小使, éй, ямъ...

учи́тель 教誨者、教員 учи́тел-*и*, ей, ямъ...
учител-*я́* 教員, éй, я́мъ ..

хлѣбъ パン、穀物 хлѣ́б-*ы*, овъ, амъ
хлѣб-*á* 穀物, óвъ. áмъ...

цвѣтъ 花、色 цвѣт-*ы́* 花 } óвъ. áмъ...
цвѣт-*á* 色 }

4. 次ニ揭クル名詞ハ單數ニ於テ二樣ノ意義ヲ有シ且ツ複數ノ諸格ニ於テモ二樣ノ變化ヲ爲シ變化ノ異ナル(正則ト不規則)ニ從テ其意義ヲ異ニス、不規則ノ變化ハ複數諸格ニ於テ ь, овь (§ 24,2 ノ名詞ノ如ク變化ス), ес ノ挿入ヲ受ケ或ハ一子音ヲ除去ス

зубъ 齒、鋸等ノ齒 зу́б-*ы* 口中ノ齒, *óвъ*, *áмъ*...
зу́б-*ья* 鋸櫛等ノ齒, *ьевъ*, *ьямъ*...

колѣ́но 膝、節、族 колѣ́н-*а* 膝、支族, *ъ*, *амъ*...
колѣ́н-*и* 膝, *ей*, *ямъ*...
колѣ́н-*ья* 竹等ノ節, *ьевъ*, *ьямъ* ..

ко́рень 根、根菜 ко́рн-*и* 根, *éй*, *я́мъ*...
коре́н *ья* 根菜, *ьевъ*, *ьямъ* ..

листъ 枝、木葉 лист-*ы́* 枝, *óвъ*, *áмъ*...
ли́ст-*ья* 木葉, *ьевъ*, *ьямъ* ..

мужъ 夫、人士 му́ж-*и* 人士, *éй*, *áмъ*...
муж-*ья́* 夫, *éй*, *ья́мъ*...

не́бо 天、天國 нёб-*еса́*, *éсъ*, *еса́мъ*...

нёбо 口中ノ上顎 нёб-*а*, *ъ*, *амъ*...

сынъ 男士、子息 сын-*ы́* 男士, *óвъ*, *áмъ*...
сын-*овья́* 子息, *ове́й*, *овья́мъ*....

су́дно 船艦、木製ノ器 су́дн-*а* 木具, су́д-*ен*ъ, су́дн-*ам*ъ
сул-*а́* 船艦, *о́в*ъ, *а́м*ъ...
чу́до 奇蹟、畸形物 чу́д-*а* 畸形物, *а*, *а́м*ъ...
чуд-*еса́* 奇蹟, *ес*ъ, *еса́м*ъ...

備考 не́бо ハ天ト云フ意義ヲ以テ複數ヲ使用スルハ韻文ニ限ル

5. роди́тель(父親)ト云フ名詞ハ複數ニ於テハ роди́тел-и, ей, ямъ... ト成リ「兩親」ノ意義ヲ有ス、而シテ此語ノ單數ヲ使用スルハ甚タ稀ニシテ通常оте́цъ ヲ用ユ

6. 語尾 анинъ 及 я́нинъ ヲ有スル凡テノ名詞ハ複數ニ於テ ин ノ二字ヲ除去シ且ツ其名格ハ不規則的語尾 е ヲ受ク、例ハ христі-а́н*ин*ъ (基督敎徒) христіа́н-*е*, ъ, амъ... кресть-я́н*ин*ъ (農民) крестья́н-*е*, ъ, амъ... 此種ノ名詞中、屢々用ユルモノヲ揭クレバ англича́н*ин*ъ (英國人), горожа́н*ин*ъ (市民), дворя́н*ин*ъ (士族), мѣща́н*ин*ъ (町人), славя́н*ин*ъ (スラウ人)等ナリ

7. 次ニ揭クル名詞ハ語尾 аринъ 或ハ яринъ 或ハ инъ ヲ有シテ複數ニ於テハ ин ノ二字ヲ除去ス

ба́р*ин*ъ(旦那) ба́р-*а*, ъ, амъ...
болга́р*ин*ъ(ブルガリヤ人) болга́р-ы, ъ, амъ...
боя́р*ин*ъ(露國古代ノ貴族)боя́р-*е*, ъ, амъ...
господи́н*ъ*(君) господ-*а́*, ъ, а́мъ...
тата́р*ин*ъ(韃靼人) тата́р-ы, ъ, амъ
хозя́*ин*ъ(主人) хозя́*ев*-*а*, ъ, амъ
шу́р*ин*ъ(妻ノ兄弟) шу́р-*ья*, *ьев*ъ, *ьям*ъ

8. 語尾 ёнокъ ヲ有スル名詞ハ(禽獸ノ雛兒ヲ表ス)複數ニ於テ ёнок ヲ除去シテ ят ヲ挿入ス(單數ニ於テハ凡テ母音 о ヲ除去ス §22, 1) 例ハ реб-ёнокъ(小兒) реб-я́т-а, ъ, амъ... кот-ёнокъ(猫ノ兒) кот-я́т-а, ъ, амъ...

此種ノ名詞中、屢々用ユルモノハ жеребёнокъ(子馬), поросёнокъ(子豕), телёнокъ (犢), цыплёнокъ(鷄ノ雛), ягнёнокъ(小羊)等ナリ

9. 然レ𪜈次ニ揭クル名詞ハ語尾 ёнокъ ヲ有スレ𪜈此通則ニ反シテ變化ス

бѣс-ёнокъ(惡鬼ノ子) бѣс-*ен*-я́т-а, ъ, амъ
волч-ёнокъ(子狼)волч-*ён*к-и, овъ, амъ
волч-а́т-а, ъ, амъ
галч-ёнокъ(寒鴉ノ子)галч-*ён*к-и, овъ, амъ
галч-а́т-а, ъ, амъ
гус-ёнокъ(鵞ノ子) гус-*еня́т*-а, ъ, амъ
жид-ёнокъ(猶太人ノ子供)жид-*еня́т*-а, ъ, амъ
льв-ёнокъ(獅ノ兒)льв-*ёнк*-и, овъ, амъ
мыш-ёнокъ(鼠ノ子)мыш-*ёнк*-и, овъ, амъ
мыш-*ен*-я́т-а, ъ, амъ
тигр-ёнокъ(虎ノ子) тигр-*ёнк*-и, овъ, амъ
черт-ёнокъ(惡鬼ノ子)черт-*еня́т*-а, ъ, амъ
щ-ено́къ(犬ノ子) щ-*енк*-и́, о́въ, а́мъ
щ-*еня́т*-а, ъ, амъ

10. 名詞 внукъ (孫) ハ複數ニ於テ 正則的ニ變化スレ𪜈又不規則的ナルコトアリ вну́к-и, овъ, амъ (成人セシ孫)或ハ вну*ч*-а́*т*-а, ъ, амъ (幼稚ナル孫)

11. 次ノ四名詞ハ語尾 ъ ヲ有スレ𪜈複數ニ於テ軟變化ヲ爲ス

(людъ) 民 лю́д-*и* 人々, *е́й*, *ямъ*
сосѣ́дъ 隣人 сосѣ́д-*и*, *е́й*, *ямъ*
холо́пъ (奴隷ノ農民) холо́п-*и*, *е́й*, *ямъ*
чёртъ (惡鬼) че́рт-*и*, *е́й*, *я́мъ*

людъ ト云フ語ハ古語ニシテ現時ハ此語ノ單數ヲ使用セズシテ человѣ́къ ト云フ語ヲ以テ之ニ代ユ、且ツ複數ノ造格ハ不規則ニシテ通常ノ語尾 я́ми ノ代リニ ьми ヲ爰ケ людьми́ ト成ル

12. 而シテ человѣ́къ ハ複數ニ於テ「人々」ト云フ意義ナレバ людъ ノ複數ヲ用ヒ лю́ди, люде́й, лю́дямъ, люде́й, людьми́, о лю́дяхъ ト變化ス、然レ𪜈「幾人」ト人數ヲ述ブル時ニハ человѣ́къ ノ複數ヲ用ユ、但シ名格ヲハ使用セズ且ツ其生格ハ單數ノ名格ト同一ナリ、即チ человѣ́къ (生格) (§ 24, 14), человѣ́камъ (與格), человѣ́къ (役格), человѣ́ками (造格), о человѣ́кахъ (前置格).

13. 名詞 годъ (年) ハ複數ヲモ用ヒラルレ𪜈又別ニ лѣто (夏ト云フ意義ナレ𪜈古代ハ年ト云フ意義ヲ有シタリ) ト云フ語ノ複數ヲ以テ此語ノ複數ニ代用ス

годъ　го́д-ы 或ハ год-а́ (§ 24, 1), год-о́въ, а́мъ
　　лѣт-а́, ъ, а́мъ...

而シテ如何ナル場合ニ годъ ノ複數ヲ用ヒ又如何ナル場合ニ лѣто ノ複數ヲ用ユベキヤハ後ニ之ヲ說明セン (§ 71, 3 丙)

14. 語尾 ъ ヲ有スル或ル名詞ハ複數ノ生格ニ於テ通常ノ語尾 овъ ノ代リニ ъ ヲ受ク即チ複數ノ生格ト單數ノ名格ハ同一トナル

此種ノ名詞中、最モ屢々使用スルハ

арши́нъ 尺度(我二尺三寸)
во́лосъ 髮 воло́съ (複、生格)
глазъ 眼
гренаде́ръ 身丈撰拔兵(精兵)
гуса́ръ 輕騎兵
драгу́нъ 龍騎兵
каде́тъ 幼年校生
разъ 度タビ、回
ре́крутъ 新兵
сапо́гъ 靴
солда́тъ 兵卒
ту́рокъ 土耳古人
ула́нъ 鎗騎兵
человѣ́къ 人
чуло́къ 靴足袋

15. 語尾 ье (力點ヲ語尾ニ打タザル所) ヲ有スル或ル名詞ハ複數ノ生格ニ於テ正則ノ ій ノ代リニ ьевъ ノ語尾ヲ受ク、此種ノ名詞中、屢々用ユルモノハ

ку́шанье 食物 ку́шань-*евъ*
пла́тье 衣服 пла́ть-*евъ*
подмасте́рье 下職 подмасте́р-*ьевъ*
помѣ́стье 所領地 помѣ́ст-*ьевъ* 及 *ій*

16. 語尾 ство 及 сто ヲ有スル中性並ニ語尾 о ノ前ニ二子音相並ヒ其一子音ガ з, с, р ナル中性名詞ハ複數ノ生格ニ於テ此二子音ノ間ニ母音 о 或ハ е ヲ挿入セズ (§ 17, 4) 例ハ

иску́ство 藝術 иску́ствъ
лека́рство 藥 лека́рствъ
мѣ́сто 場所 мѣстъ
гнѣздо́ 巣 гнѣ́здъ
ремесло́ 工藝 ремёслъ
го́рло 喉 горлъ

17. 次ニ揭クル中性名詞ハ複數ニ於テ種々ノ不規則ヲ有ス

во́йско 軍隊 войск-*а́*, ъ, а́мъ...
о́блако 雲 облак-*а́*, *о́въ*, а́мъ...
о́ко(=глазъ) 眼 о́ч-и, *е́й*, а́мъ...
(очко) очк-и́ 眼鏡 *о́въ*, а́мъ...
плечо́ 肩 пле́ч-*и* (或ハ а), ъ, амъ...
ружьё 小銃 ру́ж-ья, *ей*, ьямъ...
со́лнце 太陽 со́лнц-*ы*, *евъ*, амъ...
у́хо 耳 у́ш-*и*, *е́й*, а́мъ...
яйцо́ 卵 я́йц-а, *яи́цъ*, я́йц-амъ...

во́йско ト о́блако ハ名詞ニ於テ и (§ 20, 3) ノ代リニ а ヲ語尾トス且ツ о́блако ノ生格ハ ъ ノ代リニ овъ ヲ受ク、око ハ喉音 к ヲ上顎音 ч ニ變シ生格ニ於テ ъ ノ代リニ ей ヲ受ク、очко ノ單數ハ現時ノ露語界ニ於テハ全ク使用セラルヽコナシ且ツ複數ノ生格ニ於テ ъ ノ代リニ овъ ヲ受ク、плечо́ ハ名格ニ於テ二樣ノ語尾ヲ有ス正則的 а ト不規則的 и ナリ、ружьё ハ生格ニ於テ ій ノ代リニ ей ノ語尾ヲ有ス、солнце ハ名格ト生格ニ於テ男性ノ如ク變化ス、ухо ハ喉音 х ヲ上顎音 ш ニ變シ且ツ名格ト生格ニ於テ不規則ヲ有ス、яйцо́ ハ生格ニ於テ半母音 й ヲ母音 и ニ變ス

18. 語尾 ще ヲ有スル粗大的名詞 (§ 39, 1-2) 及語尾 це ヲ有スル纖少的名詞ハ複數ノ名格ト生格ニ於テ男性ノ語尾ヲ受ク例ハ

доми́ще 家 доми́щ-*и*, *ей*, амъ... полоте́нце 手拭 полоте́нц-*ы*, *евъ*

19. 名詞ノ語尾ヲ有スル姓(苗字)及或ル市府ノ名稱ハ特異ノ變化ヲ爲スコアリ (§ 48, 2)

20. 人ノ狀態ノ移動ヲ表スル時、例ハ新シキ役務等ニ就任スルヲ表スル時ニハ役格前置詞 въ ヲ用ヒ且ツ其役務或ハ狀態ヲ表スル名詞ヲハ複數ト爲ス其際此名詞ガ若シ有生物ナレバ之ヲ集合名詞ト見做スヲ以テ其役格ヲ名格ト同一タラシム(§ 16, 3 及 § 22, 9 參照)、例バ гость(客) ハ Идти́ *въ* го́сти (госте́й ノ代リニ)客ニ往ク、чино́вникъ(官吏)ハ Поступи́ть *въ* чино́вники (чино́вниковъ ノ代リニ)官吏ニ就職ス、офице́ръ(士官)ハ Произвести́ *въ* офице́ры(-овъ ノ代リニ)士官ニ叙ス

但シ或ル場合殊ニ僧侶ノ職位ニ叙任スルコトヲ述フル時ニハ其叙任ノ職位ヲ單數ニシ役格モ正則的ニ生格ト同一タラシムルコトモアリ例ハ царь (王)ハ Избра́ть въ цари́ (царе́й ノ代リニ) 或ハ въ царя́ (王ニ撰立ス)、епи́скопъ (主教)ハ Посвяти́ть во епи́скопы 或ハ во епи́скопа(主教ニ叙任ス)

§ 25. 第二式變化 (Второ́е склоне́ніе)

名格ノ語尾 а 及 я ヲ有スル名詞ハ第二式變化ニ屬ス、是レハ皆ナ女性ナリ、但シ男性ノ人物ヲ表スル名詞例ハ дѣ́душка (祖父), дя́дя (伯父), ю́ноша (青年), судья́ (裁判官)等ハ例外ナリ

此變化式ノ單數ノ役格ハ у 或ハ ю ヲ語尾トス、複數ノ役格ハ第一式變化ノ如ク有生物ナル時ハ生格ト同シク、無生物ナル時ハ名格ト同一ナリ

§ 26. 硬變化及軟變化

1. а ノ語尾ヲ有スル名詞ハ硬變化ニ屬シ я ノ語尾ヲ有スル名詞ハ軟變化ニ屬ス、硬變化ノ諸格ノ語尾ハ硬母音或ハ硬半子音ニシテ、軟變化ハソレニ對應ノ軟母音或ハ軟半子音ナリ (§ 5, 2)

	硬變化		軟變化	
格	單數	複數	單數	複數
名、呼	ко́мнат-а 室	ко́мнат-ы	недѣ́л-я 週間	недѣ́л-и
生	ко́мнат-ы	ко́мнат-ъ	недѣ́л-и	недѣ́л-ь
與	ко́мнат-ѣ	ко́мнат-амъ	недѣ́л-ѣ	недѣ́л-ямъ
役	ко́мнат-*у*	名格ト同一	недѣ́л-*ю*	名格ト同一
造	ко́мнат-ою(ой)	ко́мнат-ами	недѣ́л-ею(ей)	недѣ́л-ями
前置	о ко́мнат-ѣ	о ко́мнат-ахъ	о недѣ́л-ѣ	о недѣ́л-яхъ

2. 第二式變化ニ於テハ單數ノ生格ト複數ノ名格ハ同一ノ語尾ヲ有ス(ы 或ハ и)、或ル名詞殊ニ二綴音名詞ニ於テハ此兩格ハ力點ノミヲ以テ相異ナル、即チ生格ニ於テハ單數ノ名格ト同一ノ綴音上ニ力點ヲ有シ複數ノ名格ニ於テハ他ノ綴音ニ力點ヲ轉ス例ハ

голова́ 頭 головы́ го́ловы	жена́ 妻 жены́ жёны
вода́ 水 воды́ во́ды	сестра́ 姉妹 сестры́ сёстры
земля́ 地 земли́ зе́мли	

5. 或ル僅少ノ名詞ハ單數ノ役格ニ於テモ力點ヲ他ノ綴音ニ轉ズ例バ
голова́—го́лову, вода́—во́ду, земля́—зе́млю.

§ 27. 母音變化 (Гла́сное склоне́ніе)

1. 語尾 я ノ前ニ或ル一個ノ母音ヲ有スル名詞及ビ語尾 ья ヲ有スル名詞ハ母音變化ニ屬ス

2. 此變化ハ軟變化ナリ、此變化ノ特異ハ單數ノ與格、單數ノ前置格、複數ノ生格ニ存ス

3. 語尾 я ノ前ニ或ル一個ノ母音(і ノ字ノ外)ヲ有スル名詞ハ與格ト前置格ニ於テハ正則的ニ(即チ軟變化ノ如ク) ѣ ヲ語尾トス、然ルニ複數ノ生格ニ於テハ ь ノ代リニ й ヲ語尾トス

4. 語尾 ія ヲ有スル名詞ハ單數ノ與格ト前置格ニ於テ ѣ ノ代リニ и ヲ語尾トス如何トナレバ і ノ字ノ後ニ直チニ ѣ ノ字ヲ使用スル能ハズ(§ 5,4)、又複數ノ生格ニ於テハ й ヲ語尾トス

5. 語尾 ья ヲ有スル名詞ハ二種類アリ、甲ハ其名格ニ於テ最後ノ綴音ニ力點ヲ有セズ、乙ハ力點ヲ最後ノ綴音ニ有ス(即チ ья́ ヲ語尾トス)

甲ハ單數ノ與格ト前置格ニ於テ ѣ ヲモ и ヲモ語尾トスレ𪜈、殊ニ ѣ ヲ語尾トスルヿ多シ(§ 19,4 參照)而シテ複數ノ生格ニ於テハ й ヲ語尾トシ且ツ半子音 ь ヲ母音 і ニ轉ス即チ ій ヲ語尾トス

乙(即チ ья́ ヲ語尾トスル名詞)ハ與格ト前置格ニ於テハ ѣ ノミヲ語尾トシ複數ノ生格ニ於テハ й ヲ語尾トシ且ツ半子音 ь ハ母音 е ニ轉シテ ей ノ語尾ト成ル

		蛇	姓、家族	無邪氣ノ戯女(イタズラ)	裁判官
單數	名、呼	змѣ-я́	фами́лі-я	шалу́нь-я	судь-я́
	生	змѣ-и́	фами́лі-и	шалу́нь-и	судь-и́
	與	змѣ-ѣ́	фами́лі-*и*	шалу́нь-ѣ	судь-ѣ́
	役	змѣ-ю́	фами́лі-ю	шалу́нь-ю	судь-ю́
	造	змѣ-ёю(ёй)	фами́лі-ею(ей)	шалу́нь-ею(ей)	судь-ёю(ёй)
	前置	о змѣ-ѣ́	о фами́лі-*и*	о шалу́нь-ѣ(或ハ и)	о судь-ѣ́
複數	名、呼	змѣ́-и	фами́лі-и	шалу́нь-и	су́дь-и
	生	змѣ-*й*	фами́лі-*й*	шалу́ні-*й*	суде́-*й*
	與	змѣ-я́мъ	фами́лі-ямъ	шалу́нь-ямъ	судь-я́мъ
	役	生格ト同一	名格ト同一	生格ト同一	生格ト同一
	造	змѣ-я́ми	фами́лі-ями	шалу́нь-ями	судь-я́ми
	前置	о змѣ-я́хъ	о фами́лі-яхъ	о шалу́нь-яхъ	о судь-я́хъ

§ 28. 喉音變化 (Гортáнное склонéніе)

1. 語尾 a. ノ前ニ喉音 г, к, х ヲ有スル名詞ハ喉音變化ニ屬ス
2. 此變化ハ硬變化ナリ、此變化ノ特異ハ單數ノ生格ト複數ノ名格トニ存ス、喉音ノ後ニハ母音 ы ヲ使用セズ (§ 5,6) 之ヲ以テ此喉音變化ノ語尾 ы ハ對應ノ母音ニ換ヘラル

格	單數	複數	單數	複數	單數	複數
名、呼	кни́г-а 書物	кни́г-*и*	рук-а́ 手	ру́к-*и*	му́х-а 蠅	му́х-*и*
生	кни́г-*и*	книг-ъ	рук-*и́*	рук-ъ́	му́х-*и*	мух-ъ
與	кни́г-ѣ	кни́г-амъ	рук-ѣ́	рук-а́мъ	му́х-ѣ	му́х-амъ
役	кни́г-у	名格ト同一	ру́к-у	名格ト同一	му́х-у	生格ト同一
造	кни́г-ою(ой)	кни́г-ами	рук-о́ю (ой)	рук-а́ми	му́х-ою(ой)	му́х-ами
前置	о кни́г-ѣ	о книг-ахъ	о рук-ѣ́	о рук-а́хъ	о му́х-ѣ	о му́х-ахъ

§ 29. 上顎音變化 (Нёбное склонéніе)

1. 語尾 a ノ前ニ上顎音 ж, ч ш, щ 及ビ ц ヲ有スル名詞ハ上顎音變化ニ屬ス
2. 上顎音變化ハ軟變化ナリ、之ヲ二種ニ分チ純粋ノ上顎音變化ト語尾 ца ヲ有スル名詞ノ變化トス
3. 上顎音ノ後ニハ軟母音 я ト ю ヲ使用セズシテ對應ノ а ト у ヲ代用ス (§ 5,6) 此故ニ上顎音變化ニ於テハ軟母音 я ト ю ノ語尾タルベキ諸格ニハ а ト у ヲ代用シ且ツ複數ノ生格ノ語尾ハ軟半子音 ь ナラズシテ硬半子音 ъ ナリ
4. 子音 ц ノ後ニハ軟母音 и, я, ю ヲ使用セズシテ對應ノ硬母音 ы, а, у (§ 5,7) ヲ代用スベキ故ニ語尾 ца ヲ有スル名詞ハ軟變化ニ於テ軟母音 и, я, ю ノ語尾タルベキ諸格ニハ ы, а, у ヲ代用シ且ツ複數ノ生格ハ ъ ヲ語尾トス

格	單數	複數	單數	複數	單數	複數
名、呼	свѣч-а́ 蠟燭	свѣ́ч-и	гру́ш-а 梨	гру́ш-и	учени́ц-а 女生徒	учени́ц-ы
生	свѣч-и́	свѣч-ъ	гру́ш-и	груш-ъ	учени́ц-ы	учени́ц-ъ
與	свѣч-ѣ́	свѣч-а́мъ	гру́ш-ѣ	гру́ш-амъ	учени́ц-ѣ	учени́ц-амъ
役	свѣч-у́	名格ト同一	гру́ш-у	名格ト同一	учени́ц-у	生格ト同一
造	свѣч-ёю(ёй)	свѣч-а́ми	гру́ш-ею(ей)	гру́ш-ами	учени́ц-ею(ей)	учени́ц-ами
前置	о свѣч-ѣ́	о свѣч-а́хъ	о гру́ш-ѣ	о гру́ш-ахъ	объ учени́ц-ѣ	объ учени́ц-ахъ

5. 此變化式ニ屬スル名詞ニ於テ力點ヲ е ニ打ツ時ハ ё ノ代リニ о ヲ書スルモ可ナリ (§ 5,8) 例ハ свѣчёю ハ свѣчóю ト書スルモ可ナリ

6. 一週間ノ諸日ニ關シテハ「何曜日ニ於テ」ト云フ意義ナル時ハ前置詞 въ ト共ニ役格ヲ用ヒ又「何曜日毎ニ」ノ意義ナル時ハ前置詞 по ト共ニシテ複數ノ與格ヲ用ユ、此諸曜日ハ其頭文字ヲ大ニ書シテモ小ニ書シテモ可ナリ。

Воскресе́нье日曜日	*въ* воскресе́нье日曜日ニ於テ	*по* воскресе́ньямъ日曜毎ニ
Понеде́льникъ月曜日	*въ* понеде́льникъ	*по* понеде́льникамъ
Вто́рникъ火曜日	*во* вто́рникъ	*по* вто́рникамъ
Среда́水曜日	*въ* сре́ду	*по* среда́мъ
Четве́ргъ木曜日	*въ* четве́ргъ	*по* четверга́мъ
Пя́тница金曜日	*въ* пя́тницу	*по* пя́тницамъ
Суббо́та土曜日	*въ* суббо́ту	*по* суббо́тамъ

§ 30. 第二式變化中ノ不規則

此變化中ノ不規則ハ殊ニ複數ノ生格ニ關スルモノ多シ

1. 人名ヲ表ス名詞ガ ія ノ語尾ノ前ニ一個ノ子音ヲ有スレバ母音 і ヲ半子音 ь ニ變スルヨヲモ得ベシ例ハ Марія＝Ма́рья, Маріи＝Ма́рьи, Маріи＝Ма́рьѣ.

2. 名詞 слю́на (唾)ハ複數ニ於テ軟變化ヲ爲ス слю́н-и, ей, ямъ..

3. 名詞 дыра́ (隙穴)ハ二種ノ複數ヲ有ス、正則的複數ハ дыр-ы́, ъ, а́мъ... 而シテ不規則的複數ハ ь ノ字ヲ挿入セラレ § 24, 2 ニ示シタル第一式變化ノ名詞ノ如ク變化ス即チ ды́р-ья, ьевъ, ьямъ 不規則的複數ハ集合體ノ意義ヲ有スル場合ニ使用セラル

4. 名詞 ку́рица (牝雞)ハ單數ニ於テハ「牝雞」ノ意義ノミナレド複數ニ於テハ二樣ノ意義ヲ有シ正則ト不規則ノ兩變化ヲ成ス、正則ノ複數ハ「牝鷄」ノ意義ナレド、不規則ノ複數ハ「雌雄雞即チ庭鳥」ノ廣意ヲ有ス

ку́рица (單數) ку́р-ы (不規複) кур-ъ, амъ... 又 ку́рии-ы (正複) ку́рии-ъ, амъ...

5. 第二式變化ニ屬スル名詞ノ名格ニ於テ語尾ノ前ニ二個ノ子音相並ブモノハ複數ノ生格ニ於テ (§ 17, 4 參照) 聲調ヲ清クスルガ爲メ即チ子音ノ相並ブヿ多カラザラン爲ニ語尾 о 或ハ е ヲ挿入ス、若シ又語尾ノ前ニ半子音 ь 或ハ半母音 й ノ立ツ時ハ複數ノ生格ニ於テ此半子音或ハ半母音ハ е ニ變ス例ハ

оши́бка 誤謬 оши́бокъ	спи́чка 燐寸 спи́чекъ	тюрьма́ 獄 тю́ремъ
ку́кла 人形 ку́колъ	папиро́ска 卷烟草 папиро́сокъ	ня́нька 姆 ня́некъ
ви́лка 肉刺 ви́локъ	дере́вня 村 дере́нь	копѣ́йка 一錢 копѣ́екъ
ло́жка 匙 ло́жекъ	земля́ 地 земе́ль	лине́йка 尺ノサシ лине́екъ
салфе́тка 口拭 салфе́токъ	сва́дьба 婚禮 сва́деб	хозя́йка 主婦 хозя́екъ

備考 1. 二個ノ名詞 война́ (戰爭)ト про́сьба (請願)ノミハ複數ノ生格ニ於テ йトьヲ е ニ變ゼズ即チ войнъ, просьбъ ト成ル

備考 2. 語尾 ста ヲ有スル名詞並ニ語尾ノ二子音中ニ з 或ハ р ヲ有スル名詞ハ複數ノ生格ニ於テ о 或ハ е ノ挿入ヲ受ケズ例ハ верста́ 里程 (我九町餘)ハ вёрстъ, па́рта (教場卓)ハ па́ртъ, звѣзда́ (星)ハ звѣздъ 然レド、若シ子音 з 及 р ト共ニ к 或ハ他ノ二子音並列スル時ハ一母音ヲ挿入ス例ハ ска́зка (昔話)ハ ска́зокъ, ма́рка (印紙)ハ ма́рокъ, сестра́ (姉妹)ハ сестёръ.

6. 語尾 ня ノ前ニ子音或ハ半子音 ь 或ハ半母音 й ヲ有スル名詞ハ常ニ複數ノ生格ニ於テ ь ノ語尾ノ代リニ ъ ヲ受ク(其際或ハ母音 о 及ビ е ヲ挿入シ或ハ ь 及ビ й ヲ е ニ變更ス)例ハ

ба́рышня 令嬢 ба́рышенъ　　колоко́льня 鐘樓 колоко́ленъ　　спа́льня 寢室 спа́ленъ
ба́сня 喩話 ба́сенъ　　пѣ́сня 歌 пѣ́сенъ　　цырюльня 理髪店 цырю́ленъ
ку́хня 庖厨 ку́хонъ　　со́тня 百個 со́тенъ

7. 語尾 ня ノ前ニ子音ヲ有スル或ル名詞ハ 此規則ニ反シテ複數ノ生格ニ於テ語尾 ь 或ハ ей ヲ受ク、此種ノ名詞中、最モ屢々使用スルモノハ

ви́шня 櫻 ви́шенъ　　ня́ня 姆 ня́ней　　плу́тня 巧騙 плу́тней
又ハ ви́шенъ　　клешня́ 蟹ノ鋏 клешне́й　　сплётня 搆説 сплётенъ
дере́вня 村 дереве́нь　　то́ня 網打場 то́ней　　又ハ сплётней

8. 語尾 жа, ча, ша, ща ノ前ニ子音ヲ有スル名詞ハ音調ヲ清クセンガ爲ニ複數ノ生格ニ於テハ語尾 ъ ノ代リニ ей ヲ受ク例ハ вожжа 手綱 вожже́й, каланча́ 火見櫓 каланче́й, ханжа́ 偽敬神家 ханже́й.

9. 語尾 жа, ча, ша, ща ノ前ニ母音ヲ有スル或ル名詞ハ複數ノ生格ニ於テ ей ノ語尾ヲ受ク、然レモ或ル名詞ハ同シク又正則的語尾 ъ ヲモ受ク、例ハ

ю́нота 青年 ю́ношей　　свѣ́ча 蠟燭 свѣ́чъ 又 свѣче́й
ро́ща 森 рощъ 及 ро́щей　　тёща 妻ノ母 тёщъ 又 тёщей

10. 語尾 дя, зл, ря, тя ヲ有スル或ル名詞モ同シク ь ノ代リニ ей ノ語尾ヲ受ク例ハ

дя́дя 伯父 дя́дей　　ра́спря 爭論 ра́спрей
стезя́ 細路 стезе́й　　тётя 伯母 тётей

§ 31. 第三式變化 (Тре́тье скло́не́ніе)

1. 第三式變化ニ屬スルハ語尾 ь ヲ有スル名詞ナリ、此名詞ハ女性ナリ、但シ путь (道)ト云フ一語ノミハ此變化式ニ屬スレド男性ナリ

備考　語尾 ь ノ前ニ上顎音 ж, ч, ш, щ ヲ有スル名詞及ビ ость, сть, знь ヲ語尾トスル名詞ハ皆ナ女性ニシテ第三變化式ニ屬ス、語尾 ь ヲ有シテ抽象的概念ヲ表スル名詞ハ概シテ第三變化式ニ屬ス

2. 此變化ノ單數ノ役格ハ名格ト同一ニシテ、複數ノ役格ハ第一式第二式ノ如ク、有性物ナレバ生格ト同一ニシテ無生物ナレバ名格ト同一ナリ

3. 第三式ハ軟變化ト上顎音變化ノミナリ、上顎音變化ハ母音 я ノ立ツベキ諸格ニ於テ母音 а ヲ代用スルノミヲ以テ軟變化ト異ナルナリ

	軟變化		上顎音變化	
格	單數	複數	單數	複數
名、呼	ло́шад-ь 馬	ло́шад-и	ночь 夜	но́ч-и
生	ло́шад-и	лошад-е́й	но́ч-и	ноч-е́й
與	ло́шад-и	лошад-я́мъ	но́ч-и	ноч-а́мъ
役	ло́шад-ь	生格ト同一	ночь	名格ト同一
造	ло́шад-ью	лошад-я́ми	но́ч-ью	ноч-а́ми
前置	о ло́шад-и	о лошад-я́хъ	о но́ч-и	о ноч-а́хъ

§ 32. 第三式變化中ノ不規則

1. 名詞 мать (母) ト дочь (子女)ハ ep ヲ挿入シテ下表ノ如ク變化ス

格	單 數	複 數	單. 數	複 數
名、呼	мат-ь 母	ма́т-*ер*-и	доч-ь 息女	до́ч-ер-и
生	ма́т-*ер*-и	мат-*ер*-ей	до́ч-*ер*-и	доч-*ер*-е́й
與	ма́т-*ер*-и	мат-*ер*-я́мъ	до́ч-*ер*-и	доч-*ер*-я́мъ
夜	мат-ь	мат-*ер*-е́й	доч-ь	доч-*ер*-е́й
造	ма́т-*ер*-ью	мат-*ер*-я́ми	до́ч-*ер*-ью	доч-*ер*-я́ми
前置	о ма́т-*ер*-и	о мат-*ер*-я́хъ	о до́ч-*ер*-и	о доч-*ер*-я́хъ

2. 次ニ記スル五名詞ハ單數ノ造格ヲ除クノ外、諸格皆ナ母音 о ヲ除去シテ變化ス又 це́рковь (教會、會堂)ハ複數ニ於テ上顎音變化ニ従フ

вошь 虱 вши, вши, вошь, во́шью, о вши, вши...

ложь 僞 лжи, лжи, ложь, ло́жью, о лжи...

любо́вь 愛 любви́, любви́, любо́вь, любо́вью, о любви́...

рожь 裸麥 ржи, ржи, рожь, ро́жью, о ржи...

це́рковь 教會 це́ркви, це́ркви, це́рковь, це́рковью, о це́ркви...

複數ハ це́ркви, церквей, церква́мъ, це́ркви, церква́ми, о церква́хъ.

備考 若シ любовь ト云フ語ガ女子ノ固有名詞ヲ成スナレバ母音 о ハ變化ノ際保存セラル即チ Любо́в-ь, и, и, ь, ью, и.

3. по́лночь (夜半) ト云フ名詞ハ по́лдень (§ 22, 7) ト同シク母音 у ヲ挿入シテ力點ヲ此母音ノ上ニ打ツ即チ по́лноч-ь, полу́ноч-и, полу́ноч-и, по́лночь, полу́ноч-ью, по полу́ноч-и (夜半後)

4. 單數ノ造格ノ語尾 ью ノ ь ハ時トシテ(殊ニ其前ニ二個ノ子音相並ヒタル時)母音 і ニ變ス即チ造格ノ語尾ハ ью ノ代リニ ію ト成ル例ハ

ра́дость (喜悅) ра́достью = ра́достію　　по́мощь (助) по́мощью = по́мощію

ста́рость (老年) ста́достью = ста́достію　　цѣ́ль (目的) цѣ́лью = цѣ́лію

5. путь ト云フ語ハ(男性ニシテ)單數ノ造格ニ於テハ不規則ノ語尾ヲ有シ путёмъ ト成ル即チ語尾 ь ヲ有スル男性名詞ノ如シ

6. 或ル一綴音ノ名詞ハ前置詞 въ 及 на ト共ニスレバ前置格ニ於テ力點ヲ最後ノ綴音ニ打ツ例ハ

грязь 汚穢　въ грязи́　　дверь 扉　на двери́

пыль 埃塵　въ пыли́　　цѣпь 鎖　на цѣпи́

7. са́жень (尺度、我七尺强) ト云フ語ハ複數ノ生格ニ於テ正則的ト不規則的トノ二種ノ語尾ヲ有ス сажене́й 及ビ са́жень

8. 或名詞ノ複數造格ノ語尾 ями ノ母音 я ハ時トシテ半子音 ь ニ變ズルコアリ殊ニ俗語及ビ詩歌ニ於テ然リトス即チ ями ノ代リニ ьми ノ語尾ヲ用フ例ハ лошадя́ми ノ代リニ лошадьми

9. дитя́(小兒)ト云フ語ハ女性ニ非スシテ中性名詞ナレ𪜈其變化ノ式ハ第三式ニ從フト見做シテ可ナリ

此名詞ハ單數ニ於テ ят ノ挿入ヲ受ケ複數ニ於テハ母音 и ヲ ь ニ變ズ且ツ單複兩數ノ造格ノ語尾ハ不規則ナリ

現時 дитя ノ單數ハ名格ト役格ノ外之ヲ使用セズ、名格ト役格ノ使用スラモ至テ稀ニシテ通常此語ト同意義ナル ребёнокъ ト云フ語ヲ代用ス дитя́ ノ複數ハ諸格共ニ之ヲ使用ス、ребёнокъ ノ複數ハ種々ノ意義ヲ有シ「若キ強キ勇壯ナル男子」(兵士ニ對シテ用ユ)、或ハ「成長シタル男子」(農民間ニ於テ使用ス)等ノ意アリ

格	單數		複數	
名、呼	дит-я́	ребёнок-ъ (§ 22, 1)	де́т-и	ребя́т-а (§ 24, 8)
生	(дит-я́т-и)	ребёнк-а	де́т-ей	ребя́т-ъ
與	(дит-я́т-и)	ребёнк-у	де́т-ямъ	ребя́т-амъ
役	дит-я́	ребёпк-а	де́т-ей	ребя́т-ъ
造	(дит-я́т-ею)	ребёнк-омъ	де́т-ьми́	ребя́т-ами
前置	(о дит-я́т-и)	о ребёнк-ѣ	о де́т-яхъ	о ребя́т-ахъ

§ 33. 第四式變化 (Четвёртое склоне́ніе)

1. 語尾 мя ヲ有スル名詞ハ第四變化式ニ屬ス、此名詞ハ皆ナ中性ナリ

2. 此名詞ハ單複兩數ニ於テ ен ヲ挿入シ單數ニ於テハ第三式ノ如ク變化シ(造格ノミハ第一式ノ如ク)複數ニ於テハ第一式ノ中性(語尾 о ヲ有スル)ノ如ク變化ス

格	單數	複數	單數	複數
名、呼	вре́м-я 時	врем-*ен*-а́	и́м-я 名	им-*ен*-а́
生	вре́м-*ен*-и	врем-ён-ъ	и́м-*ен*-и	им-ён-ъ
與	вре́м-*ен*-и	врем-*ен*-а́мъ	и́м-*ен*-и	им-*ен*-а́мъ
役	вре́м-я	врем-*ен*-а́	и́м-я	им-*ен*-а́
造	вре́м-*ен*-емъ	врем-*ен*-а́ми	и́м-*ен*-емъ	им-*ен*-а́ми
前置	о вре́м-*ен*-и	о врем-*ен*-а́хъ	о и́м-*ен*-и	о им-*ен*-а́хъ

3. 此種ノ名詞ハ露語全體ニ於テ十アルノミ、上表ニ記シタル二語ノ外、次ノ八語ナリ

бре́мя 重荷　　зна́мя 旗　　пле́мя 人種　　се́мя 種子

вы́мя 牝獸ノ乳房　　пла́мя 炎　　стре́мя 鐙　　те́мя 頭ノ上部

4. стре́мя ト се́мя ハ複數ノ生格ニ於テ ёнъ ノ代リニ янъ ノ語尾ヲ受ク即チ стремя́нъ 及ビ семя́нъ ト成ル

§ 34. 合同シタル二個ノ名詞ノ變化

1. 二個ノ名詞相並ヒテ合同シタル時、例ハ「彼得堡市」「アムル河」等ノ變化ハ二語共ニ各々變化ス例ハ

го́родъ Петербу́ргъ, го́рода Петербу́рга, го́роду Петербу́ргу...
рѣка́ Аму́ръ, рѣки́ Аму́ра, рѣкѣ́ Аму́ру, рѣку Аму́ръ ..

但シ此二語中ノ一ガ文章或ハ船ノ名稱ナル時ハ其名稱ニハ標號(„ ")ヲ附シテ變化ノ際ニハ此標號内ニ入レタル語ヲバ變化セズ例ハ
парохо́дъ „Россія" 汽船「ロシヤ」號, парохо́да „Россія", парохо́ду „Россія"..
сочине́ніе „Дымъ" (文章「烟」), сочине́нія „Дымъ", сочине́нію „Дымъ"....

2. 若シ二個ノ名詞合同シテ恰モ一語ヲ成スガ如キ塲合ニハ後ノ一語ノミ變化ス例ハ
генера́лъ-майо́ръ 陸軍少將, генера́лъ-майо́ра, генера́лъ-майо́ру...

§ 35. 外國語及ビ外國苗字ノ變化

露語中ニ使用スル外國語ハ變化スルモアリ變化セザルモアリ

1. 語尾 ъ, ь (即チ露文字ニ移シテ 語尾ニ半子音 ъ 或ハ ь ノ立ツベキモノ), й, а, я ヲ有スル語ハ變化スベシ、變化ノ規則ハ純粋ノ露語ノ如ク ъ, ь, й ノ語尾ヲ有スル語ハ第一式變化ニ從ヒ а ト я ノ語尾ヲ有スル語ハ第二式變化ニ從フ例ハ

Куда́н-ъ, а, у, ъ, омъ, ѣ (九段)
эй-ъ, а, у, ъ, омъ, ѣ, ы, овъ... (圓)
Сенда́-й, я, ю, й, емъ, ѣ (仙臺)
Іокога́м-а, ы, ѣ, у, ою, ѣ (横濱)

2. 其他ノ母音 (а ト я ヲ除クノ外)ヲ語尾トスル語ハ凡テ變化セズ故ニ o 及ビ e ヲ語尾トスル語ノ如キモ變化セズ例バ Токіо, Кобе, ри (里), цёо (町).

露語中ニ於テ屢々使用セラルヽ外國語ハ ко́фе (珈琲), пальто́ (外套), э́хо (反響), пари́ (賭ケ)等ナリ

備考 現今或文人等ハ пальто́ ト云フ語ノ複數名格役格トシテ по́льта ヲ使用シ、э́хо ノ單數造格トシテ э́хомъ ヲ使用ス

3. 凡テ母音(а ト я ヲ除クノ外)ヲ語尾トスル外國語ハ若シ有生物ヲ表示スルナレバ之ヲ男性ト見做ス、若シ無生物ヲ表示スルナレバ中性ト見做スベシ、但シ ко́фе ト云フ語ノミハ例外ニシテ男性ナリ、又或文人等ハ ко́фе ノ代リニ ко́фей ト云フ新語ヲ用ユ、此新語ハ男性ノ變化ヲ爲ス

4. 外國ノ苗字ニシテ ъ, ь, й ヲ語尾トシ男子ノ苗字ナル時ハ變化スレ共其他ノ語尾ヲ有スル苗字ハ變化セズ又 ъ, ь, й ヲ語尾トスルモ女子ノ苗字ナレバ變化セズ例ハ

Господи́нъ Мицуи́ 三井さん, Господи́на Мицуя, Господи́ну Мицую...
Госпожа́ Мицуи́ 三井 (夫人、令嬢), Госпожи́ Мицуи́, Госпожѣ́ Мицуи́...

§ 36. 單數ノミヲ使用スル名詞

單數ノミニ限リテ使用スル名詞ハ次ノ如シ

1 固有名詞、例ハ Россія, Япо́нія, Петербу́ргъ, Сахали́нъ (樺太), Аму́ръ

2 物質名詞、例ハ чай 茶, са́харъ 砂糖, таба́къ 煙草, соль 鹽, вода́ 水, вино́ 酒, молоко́ 乳, зо́лото 金, серебро́ 銀, желѣзо 鐵

備考　次ノ如キ場合ニハ物質名詞ト雖モ複數ヲ使用スベシ

〔甲〕 同一ノ物質ニテモ其種類、品等ノ異ナル場合、例ハ鑛泉 (минера́льныя во́ды. 果實ノ水 (фрукто́выя во́ды) (杏水、蜜柑水等)、酒モ白葡萄酒、赤葡萄酒其他銘酒類ニ關スル時、茶モ綠茶、紅茶、磚茶等ヲ云フ時ハ然リ

〔乙〕 物質ヲ表示スル名詞ガ別ノ意義ヲ有シテ其別ノ意義ニテ其名詞ヲ使用スル場合、例ハ бума́га ハ「紙」ト云フ意義ノ外、「書類」「文書」等ノ意ヲ含ム故ニ 書類等ノ意義ニテ之ヲ使用スル場合ニハ複數ヲモ用ユ

3. 心情或ハ事物ノ狀態性質等ヲ表示スル名詞、例ハ прилежа́ніе (勤勉), внима́ніе (注意), ра́дость (喜悅), го́ре (憂慮), гнѣвъ (憤怒), мо́лодость (若年), справедли́вость (公義), бѣлизна́ (白色), тишина́ (安靜), шумъ (喧騷)

4. 持續ノ動作ヲ表シテ動詞ヨリ生シタル名詞、例ハ ѣзда́ 乘行, да́вка 壓迫, тѣснота́ 狹隘

§ 37. 複數ノミヲ使用スル名詞

露語ニ於テハ單數ヲ有セズシテ複數ノミヲ使用スル名詞アリ

I. 此種ノ名詞ノ性ト變化式ハ其名格ト生格ノ語尾ニ依テ之ヲ知リ得ベシ

1. 語尾 ы 或ハ и ヲ有シテ其生格ノ語尾 овъ 或ハ евъ ヲ有スル名詞ハ男性ナリ例ハ часы́ (時計), часо́въ ; 但シ очки́ (眼鏡) очко́въ (§ 24, 17) ノミハ中性ナリ、此語ハ古語 очко́ ト云フ中性名詞ヨリ生ジタルニ依ル

2. 語尾 ы 或ハ и ヲ有シ而シテ生格ノ語尾ハ ъ 或ハ ей ナル時ハ女性名詞ナリ例ガ де́ньги (金錢), де́негъ ; но́жницы (鋏), но́жницъ ; кани́кулы (夏冬季休業), кани́кулъ ; са́ни (橇), сане́й ; 但シ бу́дни (平日), бу́дней ノミハ男性ナリ此語ハ男性名詞 день ヨリ生ジタルニ由ル

3. 語尾 а ヲ有スル複數名詞ハ中性ナリ、其生格ハ ъ ヲ語尾トス例ハ черни́ла (インキ), черни́лъ ; воро́та (門), воро́тъ.

II. 複數ノミヲ使用スル名詞ハ

1. 二個以上ノ部分ヨリ成リ立ツ事物ヲ表スル名詞、例バ бры́ки(ъ) ズボン, вѣ́сы (о́въ) 衡, кре́сла (кре́селъ) 安樂椅子, са́ни(е́й) 橇, воро́та(ъ) 門, кальсо́ны(ъ) ズボン下, но́жницы (ъ) 鋏, часы́(о́въ) 時計

2. 小部分ヲ集合シテ一物ヲ成スガ如キ事物ヲ表スル名詞、例ハ де́ньги (де́негъ) 金錢, носи́лки (носи́локъ) 轎, сли́вки (сли́вокъ) 綿乳, дрова́(ъ) 薪, обо́и (обо́евъ) 壁紙, щи (щей) 玉菜ノシル

3. 時期ヲ表スル或ル名詞、〔甲〕 бу́дни(ей) 平日, су́мерки (су́мерокъ) 黃昏, су́тки (су́токъ) 一晝夜

〔乙〕 休日、例ハ свя́тки (свя́токъ) 基督誕生祭後一週間, кани́кулы(ъ) 夏期冬期休暇

〔丙〕 齋期、例ハ филиппо́вки(вокъ) 基督誕生祭前四十日間, петро́вки(вокъ) 使徒ペトル祭前ノ齋期

〔丁〕 儀式日、例ハ именины(ъ) 命名日, крести́ны(ъ) 洗禮式, по́хороны(ъ) 葬式

4. 或ル市府ノ名稱、例ハ Аѳи́ны(ъ), Бендеры(ъ), Ѳи́вы(ъ). 日本ノ長崎 Нагаса́ки(ъ) ノ如キモ該地在留ノ露人ハ此種ノ名詞トシテ常ニ之ヲ變化ス

§ 38. 總性 (Общій родъ) (§ 7, I, 1 以下參照)

或ル名詞ハ男性ニモ女性ニモ共通ス、之ヲ總性(或ハ通性)名詞ト稱ス、斯カル名詞ノ性ヲハ文中ノ語脈ヲ察スレバ之ヲ知リ得ベシ、此名詞ノ語尾ハ a 或ハ я ナリ、總性名詞ハ概シテ缺點ヲ表示スルモノナリ、殊ニ多ク使用スルモノヲ擧グレバ

бродя́га 流浪者	лѣвша́ 左利キ	пья́ница 飮拔ケ
бѣдня́жка 不幸者、憫ナル者	*малю́тка* 小兒	самоу́чка 獨習者
вы́скочка 出過キ者	невѣ́жда 無作法者、無學	свято́ша 僞聖人
горемы́ка 薄命者	неря́ха シダラナシ(不潔者)	скря́га 吝嗇者
деревёнщина 田舍者、野鄙人	обжо́ра 大食者	*сирота́* 孤
за́йка 吃	пла́кса 泣メソ	у́мница 利口者
калѣ́ка 不具者	повѣ́са 烈戲者	уби́йца 人惡シ
ла́комка 美味ヲ好ム人	проны́ра 奸策者	ханжа́ 僞神敬者

例ハ Онъ сирота́ и она́ сирота́. Они́ сиро́ты. Онъ сиро́ты.

§ 39. 粗大 (увеличи́тельное) 纖小 (уменьши́тельное) 撫愛 (ласка́тельное) 卑下 (презри́тельное) 的名詞

事物ハ之ヲ大ニシ或ハ小ニシ或ハ 善美ニ或ハ 粗惡ニ表現スルコヲ 得ベシ、故ニ通常ノ名詞ノ外ニ粗大的、纖小的、撫愛的、卑下的等ノ名詞ヲ用ユ、此種ノ名詞ハ通常ノ語尾ヲ 變シテ成ルモノニシテ 其性ハ何ツレモ 其根原タル通常名詞ト同一ナリトス但シ дѣти́на ト云フ粗大的名詞ノミハ中性名詞 дитя́ ヨリ生ジタレモ、男性ニ屬ス、如何トナレバ「青年男子」ノ意義ヲ有ス

1. 粗大名詞ハ事物ノ廣大或ハ粗鄙ヲ表シ其語尾ハ次ノ如シ

男性	*ище, ина*	домъ (家)	дом-*и́ще*,	дом-*ина*
中性	*ище, ина*	дитя́ (小兒)	дѣт-*ище*,	дѣт-*и́на*
女性	*ища*	рука́ (手)	руч-*и́ща*,	кни́га (書物) кни́ж-*ища*

備考 語尾 ище ヲ有スル粗大名詞ハ不規則變化ヲ爲ス (§ 24, 18)

2. 纖小名詞ハ事物ヲ柔婉的ニ表現ス或ハ撫愛名詞ノ如ク事物ニ對シ優愛ヲ表ス、然レモ時トシテハ卑下名詞ノ 如ク事物ノ微々輕小タルヲ表ス、其語尾ハ次ノ如シ

男性 *икъ, ичекъ; окъ, очекъ, ёкъ, ецъ*

садъ (園) са́д-*икъ*, домъ—до́м-*икъ*, столъ—сто́л-*икъ*, ножъ (庖刀) но́ж-*икъ*, но́ж-*ичекъ*; лѣсъ (林) лѣс-*о́къ*, лѣс-*о́ч-екъ*; кусо́къ (片) кус-*о́ч-екъ*, другъ (親友) друж-*о́къ*, друж-*о́ч-екъ*; день (日) ден-*ёкъ*, пузы́рь (水球) пузыр-*ёкъ*, копе́ль (囊) копел-*ёкъ* (錢囊), братъ (兄弟) бра́т-*ецъ*.

備考 1. 纖小名詞ノ語尾母音 о ハ變化ノ際、之ヲ除去シ又母音 е ハ或ハ之ヲ除去シ或ハ ь ニ變ス (§ 22, 1, 2, 4)

中性 *ко, чко, ецко, ышко, цо, це* кольцо́ (環) коле́ч-*ко*, дитя́ (小兒) ди́тят-*ко*, вре́мя (時) вре́м-*ецко*, у́хо (耳) у́ш-*ко*, перо́ (羽、ペン) пёр-*ышко*, со́лнце

(太陽) со́лн-*ышко*, де́рево (木) дерев-*цо́*, блю́до (皿) блю́д-*це*, полотно́ (麻) полоте́н-*це*.

備考 2. 語尾 це ヲ有スル纖小名詞ハ不規則變化ヲ爲ス (§ 24, 18)

女性 *ка*, *ица*. рука́ (手) ру́*ч-ка*, кни́га (書物) кни́*ж-ка*, нога́ (足) но́*ж-ка* ла́вка (店) ла́во*ч-ка*, пти́ца (鳥) пти́*ч-ка*, сестра́ (姉妹) сестр-*и́ца*, вода́ (水) вод-*и́ца*

3. 撫愛名詞ハ事物ニ對シ 慈愛ヲ表ス而シテ 男性ト女性ノ 語尾ハ同一ニシテ *ушка*, *юшка*, *енька*, *енка* (但シ енка ノ語尾ハ、ня ヲ語尾トスル名詞ノ複數ノ生格ニ於テ 例外ヲ爲シ ъ ヲ語尾トス § 30, 6) 及ヒ中性ノ 語尾ハ *ышко*.

ушка: дѣдъ (祖父) дѣ́д-*ушка*, мать (母) ма́т-*ушка*, сосѣ́дъ (隣人) сосѣ́д-*ушка*, тётя (伯母) тёт-*ушка*

юшка: дя́дя (伯父) дя́д-*юшка*, ня́ня (保姆) ня́н-*юшка*, во́ля (意志) во́л-*юшка*

енька: па́па (阿父) па́п-*енька*, ма́ма (阿母) ма́м-*енька*, рѣка́ (河) рѣ́ч-*енька*

енка: пѣ́сня (歌) пѣ́с-*енка*, спа́льня (寢室) спа́л-*енка*

ышко: со́лнце (太陽) со́лн-*ышко*, перо́ (ペン) пёр-*ышко*.

4. 卑下名詞ハ事物ニ對シテ卑下ヲ表ス、其語尾ハ

男性 *и́шка*, *ышка* (有生物ニ使用ス), *ишко*, *ышко* (無生物ニ使用ス) ма́льчикъ (童子) мальч-*и́шка*, воръ (窃盜) вор-*и́шка*, домъ (家) дом-*и́шко*.

中性 *ишко*, дѣ́ло (事業) дѣл-*и́шко*.

女性 *и́шка*, *ёнка*, *о́нка* посте́ль (床布) посте́л-*ишка*, дѣ́вочка (少女) дѣвчё*нка*, ло́шадь (馬) лошад-*ёнка*, кни́га (書籍) книж-*о́нка*.

§ 40. 人名

人名ニモ粗大的、纖小的、撫愛的、卑下的語尾ヲ附スルコアリ

人名ニ粗大的語尾ヲ使用スルハ至テ下等ナル俗語ニ於テノミトス、其語尾ハ殊ニ уха, юха, ха, га ナリ

人名ニ對シテハ纖小的語尾ハ撫愛的語尾ト同一トナル

撫愛的ト卑下的 人名ハ 多種ノ語尾ヲ有シテ或ル 人名ニ用ユル撫愛的卑下的語尾ノ如キハ 全ク其根原タル人名ノ 何タルヤヲ知リ 難カラシムルニ至ル程ナリ 各人名ニ附用スル 撫愛的、卑下的語尾ニ關スル 一定ノ規則ハ到底表示シ難クシテ實際上ニ之ヲ習得スルヨリ外ニ途ナシト知ルベシ、今其例トシテ二三ノ人名ニ關スル此種ノ語尾ヲ茲ニ揭ゲン

男性			女性		
通常使用ノ人名	撫愛的人名	卑下的人名	通常使用ノ人名	撫愛的人名	卑下的人名
Алекса́ндръ	Са́ша	Са́шка	Алекса́ндра	Са́ша	Са́шка
	Са́шенька	Сашу́тка		Са́шенька	Сашу́тка
Ива́нъ	Ва́ня	Ва́нька		Шу́ра	Шу́рка
	Ванюша	Ванюшка		Шу́рочка	

	Ва́ничка	
	Ива́нушка	
Никола́й	Ко́ля	Ко́лька
	Ко́ленька	Нико́лька
	Нико́ля	Никола́шка
	Нико́ленька	
	Нико́лушка	

Еле́на	Лёля	Лёнка
	Лёня	Алёнка
	Ле́ночка	
	Лёночка	
Марія	Ма́ша	Ма́шка
	Ма́шенька	Ма́шутка
	Ма́ня	Ма́нька
	Ма́нечка	

§ 42. 形容詞 (И́мя прилага́тельное)

1. 形容詞ハ какóй? (如何ナル), какóвъ? (如何ナルモノ) 或ハ чей? (何人ノ)ノ問ニ應シテ事物ノ特徴ヲ示ス、形容詞ハ性質的 (ка́чественное) 物主的 (притяжа́тельное) 關係的 (относи́тельное) ニ分類ス而シテ或ル文典ニ於テハ關係形容詞ヨリシテ狀況的 (обстоя́тельственное) ヲ分チテ一種ノ形容詞ト爲ス

1. 性質的 (ка́чественное) 形容詞、是レハ 如何ナル ヿ云フ問ニ應スル形容詞ニシテ凡テ事物ノ性質若シクハ特性ヲ表シ其事物ノ品質、形狀、行動、色彩等ノ如何ヲ示ス、例ハ до́брый (善良ナル), у́мный (智アル), трудолюби́вый (勉强ナル), си́ній (青キ), стро́гій (嚴正ナル)

2. 物主的 притяжа́тельное) 形容詞、是レハ事物カ人或ハ動物ニ屬スルヲ示ス語ニシテ、例ハ ученико́въ (生徒ノ) учени́ческій (生徒タルノ); офице́ровъ (士官ノ), офице́рскій (士官タルノ); отцо́въ (父ノ), отцо́вскій (父タルノ); во́лчій (狼ノ), соба́чій (犬ノ)

3. 關係的 (относи́тельное) 形容詞 性質的形容詞及ビ物主形容詞以外ノ形容詞ハ悉ク關係形容詞ニ屬ス、是レハ事物ノ出生或ハ事物ヲ製作セシ材料或ハ數量程度等ニ對スル事物ノ關係ヲ示ス語ニシテ例ハ городско́й (市府ノ), золото́й (金製ノ、黃金ノ); городско́й обы́чай (市ノ風習即チ市民ノ風習)

4. 狀況的 (обстоя́тельственное) 形容詞、此形容詞ハ關係形容詞ノ一種ニシテ唯々事物ガ場所或ハ時間ニ對スル關係ヲ示ス形容詞ナリ大概ハ副詞ヨリ生ス、例ハ дереве́нскій (村ノ), городско́й (市府ノ), здѣшній (此地ノ), та́мошній (彼地ノ), сего́дняшній (今日ノ), вчера́шній (昨日ノ), бли́зкій (近キ), далёкій (遠キ), восто́чный (東ノ), за́падный (西ノ), се́верный (北ノ), южный (南ノ); городско́й домъ (市ノ家即チ市ニ在ル家)

備考. 形容詞ニハ一語ニシテ數多ノ意義ヲ有スルモノアリ、故ニ其意義ニ應ジテ其語ノ附屬スヘキ種類ヲ定ムヘシ、例ハ деревя́нный ト云フ形容詞ハ「木製」ト云フ意義ナレハ關係形容詞ニシテ「無感覺ナル」ト云フ意義ナレハ性質形容詞ナリ сердéчный ハ「心臟ノ」ト云フ意義ナレハ關係的ニシテ「熱情ノ」ト云フ意義ナレハ性質的ナリ бли́зкій ハ「近キ」ト云フ意義ナレハ狀況的ニシテ「親密ナル」ト云フ意義ナレハ性質的形容詞トナル

1. 露語ノ形容詞ヲ日本語ニ譯スル際ニハ多クハ「何々ノ」ト譯スルヨリシテ初學者ハ之ヲ名詞ノ生格ト混同シ易スケレトモ能ク前後ノ意義ヲ推考シテ「何々タルノ」「何々タルベキノ」「何々トシテノ」「何々ニ屬スル所ノ」「何々ヲ有スル所ノ」「何々的ノ」「何々然タル」等凡テ之ヲ用ユル場合ト其種類トヲ察シテ樣々ニ譯スベキヤ明カナリ

2. 形容詞ノ男性ノ名格ノ語尾ハ *ый, ий, ой,* ナリ例ハ хорóший (善良ナル), синий (青キ), злóй (心惡シキ), дорогóй (貴重ノ), отцóвъ (父ノ) 等ナリ、而シテ通常多ク使用スル語尾ハ ый 或ハ ий ニシテ ой ノ語尾ハ一綴音ノ形容詞若シクハ力點ヲ語尾ニ打ツ形容詞ノミニ存ス、語尾 ъ ハ或ル物主的形容詞ノミニ存ス

3. 形容詞ヲハ常ニ名詞ト共ニ使用ス、唯々或ル形容詞ノミハ名詞ト共ニセズシテ而カモ名詞ノ意義ニテ使用サル、アリ斯カル形容詞ノ傍ニ立ツベキ所ノ名詞ハ省畧セラレシナリ、例ハ больнóй トイフ形容詞ハ「病アル」ト「病アル人」ノ意義ヲ有シ、後者ノ意義ナレバ「人」トイフ名詞ヲ用ヒズシテ其意味ノミヲ含マセタルナリ、знакóмый ハ「知ル所ノ」ト「知人」ノ意義ヲ有シ、後者ノ意義ナレバ同シク「人」トイフ名詞ヲ省キタルナリ

備考 此種ノ形容詞(即チ名詞ノ意義ニテ使用サル、形容詞)中、常ニ多ク使用サル、モノハ次ノ如シ

бýлочная パン屋	жáркое 焼夫リタル肉	нѣмóй 唖者	прихóжая 玄關扣室
вселéнная 全世界	живóтное 動物	передняя 玄關扣室	пѣвчій 唱歌者
глухóй 聾者	кладовáя 物置	пирóжное 甘味ト脂ヲ加ヘシパン	слѣпóй 瞽人
гóрничная 小間使	лёгкое 肺	пóдданный 臣民(國籍ノ)	столóвая 食室
городовóй 巡査	насѣкóмое 昆蟲	полицéйскій 警察官	хромóй 跛者
гостúная 客間	нúщій 乞食	приданое 嫁ノ持參	часовóй 歩哨

§ 42. 形容詞ノ變化

形容詞ハ三性(男女中)ト二數(單複)ト七格ヲ有ス

1. 單數ニ於テハ男性ト中性ハ名格ト役格ヲ除クノ外、諸格ノ語尾ヲ同一ニス

2. 單數ノ役格ハ〔甲〕男性ニ於テハ關係ヲ有スル名詞ガ無生物ナル時ハ名格ト同一トナリ有生物ナル時ハ生格ト同一タリ、〔乙〕中性ニ於テハ常ニ名格ト同一タリ〔丙〕女性ハ獨立ノ役格語尾ヲ有ス

3. 複數ニ於テハ名格ヲ除クノ外、三性共ニ各格ノ語尾ヲ同一ニス、而シテ中性ト女性ハ名格ノ語尾ヲ同クシ男性ハ獨立ノ名格語尾ヲ有ス

4. 複數ノ役格ハ三性共ニ其關係ヲ有スル名詞ガ無生物ナル時ハ名格ト同一ニシテ有生物ナル時ハ生格ト同一タリ

5. 形容詞ノ變化式ハ三アリテ、一ツハ性質形容詞全體、關係形容詞全體、狀況形容詞全體、及ビ物主形容詞ノ大半(即チ ый ヲ語尾トスル物主形容詞全體ト ий ヲ語尾トスル或ル物主形容詞)ノ變化式ナリ、又一ツハ語尾 ъ ヲ有スル物主形容詞ノ變化式ナリ、又一ツハ語尾 ий ヲ有スル或ル物主形容詞(即チ ий, ье, ья)變化式ナリ、斯ノ如クシテ物主形容詞ハ種々ニ變化スレドモ、他ノ形容詞ハ皆ナ一定ノ變化式ニ從ヲ

6. 形容詞ノ變化式 (語尾 ъ 及 ій, ье, ьй ヲ有スル物主形容詞ヲ除クノ外) ハ硬變化、軟變化、喉音變化、上顎音變化ニ分類シ、此諸種ノ變化ノ差異ハ名詞ノ變化ニ於ケルガ如ク其使用スル母音ノ差異ニ存ス

備考 此變化式ニ從テ多クノ代名詞及ビ順序數詞全體モ變化ス

§ 43. 硬變化 (Твёрдое склоне́ние)

1. 語尾 ый 及 ой ヲ有スル形容詞ハ硬變化ニ屬ス
2. 硬變化ニ於テハ諸格ノ語尾ニ硬母音ヲ用ユ (§ 5, 2)

格	單數			複數		
	男性	中性	女性	男性	中性	女性
名、呼	до́бр-ый	до́бр-ое	до́бр-ая	до́бр-ые	до́бр-ыя	до́бр-ыя
生	до́бр-аго (§ 4, 5)		до́бр-ой	до́бр-ыхъ		
與	до́бр-ому		до́бр-ой	до́бр-ымъ		
役	生物ナレバ生格 無生物ナレバ名格	до́бр-ое	до́бр-ую	生物ニ屬スル時ハ生格ト同ク無生物ハ名格ト同シ		
造	до́бр-ымъ		до́бр-ою (ой)	до́бр-ыми		
前置	о до́бр-омъ		о до́бр-ой	о до́бр-ыхъ		

3. 語尾 ой ヲ有スル形容詞ノ單數ノ男中兩性ノ生格ハ аго トナラズシテ о́го (發音ハ о́ва ナリ) ト成ル例ハ злой́ (心惡シキ) ノ生格ハ зло́го ニシテ портно́й (裁縫師) ノ生格ハ портно́го ナリ золото́й (黃金ノ) ノ生格ハ золото́го ナリ

4. 形容詞ハ名詞ニ從屬スルヲ以テ其性モ數モ格モ名詞ト相同クス例ハ

男性	中性	女性
до́брый оте́цъ 善キ父	стально́е перо́ 鋼ペン	гри́фельная доска́ 石板
до́браго отца́	стально́го пера́	гри́фельной доски́
до́брому отцу́	стально́му перу́	гри́фельной доскѣ́
до́браго отца́	стально́е перо́	гри́фельную доску́
до́брымъ отцо́мъ	стальны́мъ перо́мъ	гри́фельною доско́ю
о до́бромъ отцѣ́	о стально́мъ перѣ́	о гри́фельной доскѣ́
до́брые отцы́	стальны́я пе́рья	гри́фельныя до́ски
до́брыхъ отцо́въ	стальны́хъ пе́рьевъ	гри́фельныхъ до́сокъ
до́брымъ отца́мъ	стальны́мъ пе́рьямъ	гри́фельнымъ доска́мъ
до́брыя отцы́	стальны́я пе́рья	гри́фельныя до́ски
до́брыми отца́ми	стальны́ми перьями	гри́фельными доска́ми
о до́брыхъ отца́хъ	о стальны́хъ пе́рьяхъ	о гри́фельныхъ доска́хъ

備考 末尾ノ例題ニ存スル形容詞ヲハ最初ハ宜シク名詞ト共ニシテ變化セシムベシ

§ 44. 軟變化 (Мя́гкое склоне́ние)

1. 語尾 ій ヲ有スル形容詞ハ軟變化ニ屬ス
2. 軟變化ノ語尾ニハ軟母音ヲ使用ス (§ 5, 2)

格	單數			複數		
	男性	中性	女性	男性	中性	女性
名、呼	си́н-ій	си́н-ее	си́н-яя	си́н-іе	си́н-*ія*	си́н-*ія*
生	си́н-яго(§ 4,5)		си́н-ей	си́н-ихъ		
與	си́н-ему		си́н-ей	си́н-имъ		
役	名格或八生格ト同	си́н-ее	си́н-юю	名格或八生格ト同シ		
造	си́н-имъ		си́н-ею(ей)	си́н-ими		
前置	о си́н-емъ		о си́н-ей	о си́н-ихъ		

§ 45. 喉音變化 (Гортáнное склонéніе)

1. 語尾ノ前ニ喉文字 г, к, х ヲ有スル形容詞ハ喉音變化ニ屬ス
2. 喉音變化ハ硬變化ナリ、但シ喉子音ノ後ニハ母音 ы ヲ用ヒズ(§ 5,6)シテ對應ノ母音 и ヲ代用ス

格	單數			複數		
	男性	中性	女性	男性	中性	女性
名、呼	стрóг-ій	стрóг-ое	стрóг-ая	стрóг-іе	стрóг-*ія*	стрóг-*ія*
生	стрóг-аго(§ 4,5)		стрóг-ой	стрóг-ихъ		
與	стрóг-ому		стрóг-ой	стрóг-имъ		
役	名格或八生格ト同	стрóг-ое	стрóг-ую	名格或八生格ト同シ		
造	стрóг-имъ		стрóг-ою(ой)	стрóг-ими		
前置	о стрóг-омъ		о стрóг-ой	о стрóг-ихъ		

§ 46. 上顎音變化 (Нёбное склонéніе)

1. 語尾ノ前ニ上顎文字 ж, ч, ш, щ ヲ有スル形容詞ハ上顎音變化ニ屬ス
2. 上顎音變化ハ軟變化ナリ、上顎子音ノ後ニハ軟母音 я ѣ ю ハ用ヒズ(§ 5,6)シテ對應ノ硬母音 а ѣ ы ヲ代用ス

格	單數			複數		
	男性	中性	女性	男性	中性及女性	
名、呼	свѣ́ж-ій	свѣ́ж-ее	свѣ́ж-ая	свѣ́ж-*іе*	свѣ́ж-*ія*	
生	свѣ́ж-аго(§ 4,5)		свѣ́ж-ей	свѣ́ж-ихъ		
與	свѣ́ж-ему		свѣ́ж-ей	свѣ́ж-имъ		
役	名格或八生格ト同	свѣ́ж-ее	свѣ́ж-ую	名格或八生格ト同シ		
造	свѣ́ж-имъ		свѣ́ж-ею(ей)	свѣ́ж-ими		
前置	о свѣ́ж-емъ		о свѣ́ж-ей	о свѣ́ж-ихъ		

§ 47. 語尾 овъ, евъ, инъ, цынъ ヲ有スル物主形容詞

物主形容詞ヲ二種ニ小別ス 一ハ事物ガ人ゃニ屬スルヲ表シ 一ハ動物ニ屬スルヲ表ス(§ 41 I 2)

第一種(即チ事物ガ人々ニ屬スルヲ表スル形容詞)ヲ細別シテ種類的(родовóе)及ビ人的(лúчное)トス

種類的物主形容詞ハ事物ガ種類全體ニ屬スルヲ表シテ其語尾ハ概シテ свій トナル、例ハ отцóвскій (父タルノ), материнскій (母タルノ), учéническій (生徒タルノ), учúтельскій (敎師タルノ), офицéрскій (士官タルノ), солдáтскій (兵卒タルノ)等ナリ、此種ノ形容詞ハ性質形容詞ノ如ク變化ス(§ 45)

1. 人的物主形容詞ハ事物ガ或ル一定ノ一個人ニ關スルヲ表ス例ハ отцóвъ (或ル父ノ) жéнинъ (或ル妻ノ), дя́динъ (或ル伯父ノ). сестрúнъ (或ル姉妹ノ), ученúковъ (或ル生徒ノ), учúтелевъ (或ル敎師ノ), офицéровъ (或ル士官ノ), солдáтовъ (或ル兵士ノ)等ナリ、尙ホ種類的ト人的トノ區別ヲ說明センニ「父タルノ」トハ例バ子ニ對スル父タルノ義務等ノ場合ヲ指シ「或ル父ノ」トハ例バ「朋友ノ父ノ家」「我カ父ノ財產」等ノ場合ヲ指ス即チ前者ハ通有的ニシテ後者ハ偶有的ナリ

2. 此形容詞ノ語尾ハ *овъ*(男性), *ово*(中性), *ова*(女性); *евъ*(男性) *ево*(中性), *ева*(女性); *инъ*(男性), *ино*(中性), *ина*(女性); *ынъ*(男性), *ыно*(中性), *ына*(女性) シテ特別ノ變化式ヲ有ス

3. 此變化式ハ名詞ノ變化ト形容詞ノ變化トヲ混合セシモノニシテ或ル格ノ語尾ハ名詞ノ如ク或ル格ノ語尾ハ通常ノ形容詞ノ如シ例バ

格	單數			複數
	男性	中性	女性	男女中性共ニ
名、呼	отцóв-ъ	отцóв-о	отцóв-а	отцóв-ы
生	отцóв-а		отцóв-ой	отцóв-ыхъ
與	отцóв-у		отцóв-ой	отцóв-ымъ
役	名格或ハ生格ト同	отцóв-о	отцóв-у	名格或ハ生格ト同シ
造	отцóв-ымъ		отцóв-ою(ой)	отцóв-ыми
前置	объ отцóв-омъ		объ отцóв-ой	объ отцóв-ыхъ

4. 人的形容詞ハ人物ヲ表示スル名詞ヨリ生ズ即チ人名、親族、役職等ヲ表示スル名詞ノ生格ノ語尾ヲ變シテ此形容詞ノ語尾ヲ附ス、其法ハ次ノ如シ若シ名詞ノ生格ノ語尾 а ナル時ハ此名詞ヨリ生スル人的形容詞ノ語尾ハ овъ, ово, ова トナル、若シ名詞ノ生格ノ語尾 я ナル時ハ евъ, ево, ева トナル若シ名詞ノ生格ノ語尾 и 或ハ ы ナル時ハ инъ, ино, ина トナル若シ名詞ノ生格ノ語尾 ы ナル時ハ ынъ, ыно, ына トナル例ハ

а—овъ	Ива́нъ	Ива́н-*а*	ива́н-*овъ*, *ово*, *ова*
	Пе́тръ	Петр-*а́*	петр-*о́въ*, *о́во*, *о́ва*
	учени́къ	ученик-*а́*	ученик-*о́въ*, *о́во*, *о́ва*
	Христо́съ	Христ-*а́*	Христ-*о́въ*, *о́во*, *о́ва*
	офице́ръ	офице́р-*а*	офице́р-*овъ*, *ово*, *ова*
я—евъ	Андре́й	Андре́-*я*	андре́-*евъ*, *ево*, *ева*
	Никола́й	Никола́-*я*	никола́-*евъ*, *ево*, *ева*
	учи́тель	учи́тел-*я*	учи́тел-*евъ*, *ево* *ева*

и—инъ	дя́дя	дя́д-*и*	дя́д-*инъ*, *ино*, *ина*
	ня́ня	ня́н-*и*	ня́н-*инъ*, *ино*, *ина*
а—ина	Ѳома́	Ѳом-*ы*	Ѳом-*и́нъ*, *ино́*, *ина́*
	жена́	жен-*ы*	же́н-*инъ*, *ино*, *ина*
	сестра́	сестр-*ы*	сестр-*и́нъ*, *ино́*, *ина́*
ица—ицынъ	царица	царѝц-*ы*	царѝц-*ынъ*, *ыно*, *ына*
	сестрица	сестрѝц-*ы*	сестрѝц-*ынъ*, *ыно*, *ына*

5. 女ニ記スル名詞ヨリ生ズル物主形容詞ハ不規則的ナリ

Госпо́дь—Го́спо́д-*ень*, не; ня
братъ—бра́т*нинъ*, о, а
дочь—дочерѝ́нъ, о, а

зя́ть—зя́т*нинъ*, о, а
мужъ—му́ж*нинъ*, о, а
Яковъ—яковлевъ, о, а

6. 人的形容詞 Го́спо́день (主ノ) ノ語尾ハ不規則ニシテ ъ ノ代リニ ь ヲ有シ其變化モ不規則ニシテ諸格ニ於テ母音 е ヲ省キ且ツ軟變化ノ語尾ヲ受ク

格	單數			複數
	男性	中性	女性	男中女性
名	Го́спо́ден-*ь*	Го́спо́дн-*е*	Го́спо́дн-*я*	Го́спо́дн-*и*
生	Го́спо́дн-*я*		Го́спо́дн-ей	Го́спо́дн-ихъ
與	Го́спо́дн-*ю*		Го́спо́дн-ей	Го́спо́дн-имъ
造	名格或ハ生格ト同 Го́спо́дн-*а*		Го́спо́дн-*ю*	名格或ハ生格ト同
前置	Го́спо́дн-имъ		Го́спо́дн-ею(ей)	Го́спо́дн-ими
	о Го́спо́дн-емъ		о Го́спо́дн-ей	о Го́спо́дн-ихъ

備考 Го́спо́дній (主ノ) ト云フ形容詞ハ正則的ニシテ синій ノ如ク變化ス

7. 形容詞 Христо́въ (基督ノ) ノ前置格ハ凡テ正則的ナリ例ハ въ ученіи Христо́в-*омъ* (基督ノ敎ニ於テ)、獨リ по рождествѣ Христо́в-*ѣ* (基督誕生後即チ紀元後) ト云フ塲合ニ於テハ不規則ニシテ омъ タルベキ語尾ヲ ѣ ト爲ス、此語ハ通常簡略シテ по Р. Х. ト書ス

§ 48 語尾 овъ, евъ, инъ, цынъ ヲ有スル地名及苗字

1. 斯ノ如キ語尾ヲ有スル地名及苗字ハ名詞ト謂ハンヨリハ寧ロ形容詞ト見做シテ可ナリ、勿論意義ヨリ見レバ名詞ナレ共其變化ハ物主的人形容詞ナリ (§ 47)

2. 此種ノ地名及苗字ト物主的人形容詞トノ差異ハ〔第一〕前者ハ人名ヲ始メ凡テ有生物無生物ノ差別ナク如何ナル名詞ヨリモ生ズレ共後者ハ人ヲ表示スル名詞ヨリノミ生ズ〔第二〕單數ノ男性ト中性ノ前置格ニ於テ前者ハ ѣ ノ語尾ヲ受ケ (名詞ノ如ク) 後者ハ омъ ノ語尾ヲ受ク

	單數		複數	
格	男性	女性	男女性	
名	Бородúн-ъ 苗字	Бородин-á	Бородин-ы	Бородин-б 村ノ名
生	Бородин-á	Бородин-бй	Бородин-ыхъ	Бородин-á
與	Бородин-ý	Бородин-бй	Бородин-ымъ	Бородин-ý
役	Бородин-á	Бородин-ý	Бородин-ыхъ	Бородин-б
造	Бородин-ымъ	Бородин-бю(бй)	Бородин-ыми	Бородин-ымъ
前置	о Бородин-ѣ	о Бородин-бй	о Бородин-ыхъ	о Бородин-ѣ

3. 市府ノ名 Гдовъ, Кіевъ, Óрловъ, Псковъ, Ростóвъ, Хáрьковъ 等ハ造格ニ於テ ымъ ノ語尾ニ非スシテ омъ ノ語尾ヲ受ケ即チ名詞 (ъ ノ語尾ヲ有スル) ノ如ク諸格ニ於テ變化スルモノニシテ是ハ後ニ詳說ス

4. 形容詞的地名及苗字ハ物主的人形容詞ノ如ク名詞ノ生格ヨリ生ズ但シ多少不規則モ存スレドモ是ハ後ニ詳說ス

5. 形容詞的地名及苗字ハ同一ノ語ニシテ地名トモ苗字トモ成ルコトアリ而シテ人名ヨリ生セシモノハ地名及苗字ノミナラズ又物主形容詞トモ成ルコトアリ、例ハ

名詞	同生格	物主形容詞	苗字	市名	村名
Никола́й 人名	Никола́-я	никола́-евъ	Никола́-евъ	Никола́-евъ	Никола́-ево
царúца 女王	царúц-ы	царúц-ынъ	Царúц-ынъ	Царúц-ынъ	Царúц-ыно
орёлъ 鷲	орл-á	無シ	Орл-óвъ	Óрл-овъ	Орл-óво
лисúца 狐	лисúц-ы	無シ	Лисúц-ынъ	無シ	Лисúц-ыно
борода́ 髯	бород-ы	無シ	Бород-úнъ	無シ	Бород-инó
пýшка 大砲	пýшк-и	無シ	Пýшк-инъ	無シ	Пýшк-ино
крылó 翼	крыл-á	無シ	Крыл-óвъ	無シ	Крыл-óво

§ 49. 語尾 ій, ье, ья ヲ有スル物主形容詞

1. 事物ガ動物ニ屬スルヲ表スル物主形容詞ハ ый 及 ій ヲ語尾トス而シテ ый ノ語尾ヲ有スルモノハ正則的ニ變化ス (дóбрый ノ變化式ト同シ)、ій ノ語尾ハ特殊ノ變化ヲ成ス

2. 此語尾 ій ハ軟變化式 (сúній ノ如ク)ナレド諸格ニ於テ 半子音 ь ヲ挿入シ且ツ單數ノ中性女性ノ名格ト役格並ニ複數ノ名格ノ語尾ハ簡畧的ナリ例ハ

格	單數			複數
	男性	中性	女性	男女中性共ニ
名、呼	вóлч-ій (狼ノ)	вóлч-ье	вóлч-ья	вóлч-ьи
生	вóлч-ьяго (§ 4, 5)		вóлч-ьей	вóлч-ьихъ
與	вóлч-ьему		вóлч-ьей	вóлч-ьимъ
役	名格或ハ生格ト同	вóлч-ье	вóлч-ью	名格或ハ生格ト同シ
造	вóлч-ьимъ		вóлч-ьею(ьей)	вóлч-ьими
前置	о вóлч-ьемъ		о вóлч-ьей	о вóлч-ьихъ

3. 此種ノ變化式ニ從テ或ル少數ノ形容詞(動物ヲ表セザル)モ變化ス、例ハ次ノ數語ノ如キハ最モ多ク使用セラルヽモノナリ

Бо́жій 神ノ	дѣви́чій 處女ノ	рыба́чій 漁夫ノ
вдо́вій 寡婦ノ	охо́тничій 狩獵ノ	разбо́йничій 盜賊ノ

4. Бо́жій ト云フ形容詞ハ又別ノ變化式ヲ有ス即チ半子音 ь ヲ挿入セズシテ變化ス

格	單數			複數
	男性	中性	女性	男中女性
名	Бо́жі-й	Бо́жі-е	Бо́жі-я	Бо́жі-и
生	Бо́жі-я		Бо́жі-ей	Бо́жі-ихъ
與	Бо́жі-ю		Бо́жі-ей	Бо́жі-имъ
役	名格或ハ生格ト同	Бо́жі-е	Бо́жі-ю	名格或ハ生格ト同
造	Бо́жі-имъ		Бо́жі-ею(ей)	Бо́жі-ими
前置	о Бо́жі-емъ		о Бо́жі-ей	о Бо́жі-ихъ

5. 語尾 ій, ье, ья ヲ有スル物主形容詞ハ名詞ノ語尾ヲ形容詞ノ語尾ニ變更シテ以テ成ル、概シテ名詞ノ語尾ノ前ニ喉子音或ハ齒子音ノ存スル時ハ形容詞ニ至リテ此子音ハ對應ノ上顎(§ 5, 9-10) 子音ニ變ス、若シ又他ノ子音ノ存スル場合ニハ名詞ヨリ形容詞ニ移リテモ其儘之ヲ保持ス例ハ

Богъ 神 Бо́жій	коза́ 牝山羊 ко́зій
пастухъ 牧夫 пасту́ший	медвѣдь 熊 медвѣжій
ко́шка 猫 копа́чій	овца́ 牝羊 овечій
коро́ва 牝牛 коро́вій	пти́ца 鳥 пти́чій

§50. 名(и́мя) 父稱(о́тчество) 姓(фами́лія)

露西亞人ハ姓名ノ外ニ父稱ヲ有ス 父稱トハ父ノ名ヨリシテ「誰ノ子」「誰ノ女」ト呼稱スルヲ云フ

1. 名、露西亞ノ人名ハ一定シタルモノニシテ、自分勝手ニ考出シタル名ヲ附スル能ハズ、故ニ男ニハ男ノ用ユベキ一定ノ名アリ、女ニハ女ノ用ユベキ一定ノ名アリ、而シテ 何ツレモ正則的ニ名詞ノ變化ニ從フ、但シ同一ノ人名ニ粗大的、撫愛的、卑下的ノ變化式アルコトハ既ニ述ベタルガ如シ(§

2. 父稱 父稱ノ語尾ハ次ノ如シ

男性	овичъ	евичъ	ичъ
女性	овна	евна	инична(инишна)

父稱ハ正則的ニ名詞ノ變化ニ從フ、即チ男子ノ父稱ハ男性變化ニ屬シ女子ノ父稱ハ女性ノ變化ニ屬ス

父稱ハ父ノ名ノ單數ノ生格ヨリ生ズ、若シ父ノ名ハ單數ノ生格ニ於テ а ノ語尾ヲ受クル時ハ父稱ノ語尾ハ овичъ,овна ト成ル若シ單數ノ生格ニ於テ я ノ語尾ヲ受クル時ハ父稱ノ語尾ハ евичъ, евна ト成ル、若シ單數ノ生格ニ於テ ь 或ハ и ノ語尾ヲ受クル時ハ父稱ノ語尾ハ ичъ, инична ト成ル例ハ

Ива́нъ	Ива́н-*а*	Ива́н-*овичъ*,	Ива́н-*овна*
Пётръ	Петр-*а́*	Петр-*о́вичъ*,	Петр-*о́вна*
Никола́й	Никола́-*я*	Никола́-*евичъ*,	Никола́-*евна*
Васи́лій	Васи́ль-*я*	Васи́ль-*евичъ*,	Васи́ль-*евна*
Ѳома́	Ѳом-*ы́*	Ѳом-*и́чъ*,	Ѳом-*и́нична*
Лука́	Лук-*и́*	Лук-*и́чъ*,	Лук-*и́нична*

備考 二三ノ父稱アリ不規則ノ出生ヲ成ス例ハ

Я́ковъ	Я́ков-а	Я́ков-*л*-евичъ,	Я́ков-*л*-евна
Ники́та	Ники́т-ы	Ники́т-ичъ,	Ники́т-*инична*

3. 姓 露西亞ノ姓ノ語尾ハ〔甲〕овъ, евъ, инъ, ынъ 等ニシテ此等ノ姓ハ殊ニ中央露西亞ニ行ハレ其變化ハ物主的人形容詞ト同シク (§ 47, 3) 〔乙〕ій (殊ニ скій) 及 ои ニシテ此姓ハ殊ニ西部露西亞ニ行ハル其變化ハ性質形容詞ト同シク〔丙〕о ニシテ此姓ハ多クハ南部露西亞ニ行ハレ全ク變化セズ

中央露	西部露	南部露
Иван-*о́въ*	Иван-*о́вскій*	Иван-*е́нко*
Петр-*о́въ*	Петр-*о́вскій*	Петр-*е́нко*
Ѳом-*и́нъ*	Ѳом-*и́нскій*	Ѳом-*е́нко*

4. 名ト父稱ト姓ヲ並ブレバ下ノ如ク成リ且ツ其變化ハ下表ノ如シ

Ива́нъ Ива́новичъ Ивано́въ Алекса́ндръ Алекса́ндровичъ Александро́вскій

Ива́на Ива́новича Ивано́ва Алекса́ндра Алекса́ндровича Александро́вскаго

Ива́ну Ива́новичу Ивано́ву Алекса́ндру Алекса́ндровичу Александро́вскому

А́нна Ива́новна Ивано́ва Александра Алекса́ндровна Александро́вская

А́нны Ива́новны Ивано́вой Александры Алекса́ндровны Александро́вской

А́ннѣ Ива́новнѣ Ивано́вой Александрѣ Алекса́ндровнѣ Александро́вской

§ 51. 客語トシテノ形容詞

1. 性質形容詞及或ル(僅少ノ)狀況形容詞ト關係形容詞ハ前ニ述ベタル語尾 ый, ій, ой (男性) ое, ее (中性) ая, яя (女性) ノ外ニ又別ノ語尾 ъ, ь (男性) о, е (中性) а, я (女性) ヲ有ス、前者ハ完全語尾ニシテ後者ハ簡略語尾或ハ斷尾 (усѣчённое) ナリ 例ハ добр-*ый*, добр-*ое*, добр-*ая* ハ完全語尾ニシテ добр-*ъ*, добр-*о*, добр-*а* ハ簡略語尾即チ斷尾ナリ

2. 完全語尾ノ形容詞ハ七格ヲ有シ、文句ニ於テ常ニ名詞ノ定語トナル即チ「如何ナル」或ハ「何々ノ」ノ意義ヲ有ス、簡略語尾ノ形容詞ハ名格ノミヲ有シ、文句ニ於テハ定語トナラズシテ常ニ客語トナリ、而シテ助動詞 быть (時トシテ стать「ト成ル」又ハ сдѣлаться「ト成ル」) ト共ニシテ以テ主語ニ應

シ性ト數ニ於テ主語ト一致ス例ハ Отéцъ товáрища *какóй человѣкъ*? (朋友ノ父ハ如何ナル人ナルヤ) —Отéцъ товáрища дóбрый *человѣкъ* (朋友ノ父ハ善良ナル人ナリ). Отéцъ товáрища *какóвъ*? (朋友ノ父ハ如何ナルモノナルヤ) —Отéцъ товáрища добръ (朋友ノ父ハ善良ナリ) Дóбрая мать (善キ母) —мать добрá (母ハ善良ナリ). Дóбрые родúтели (善良ナル兩親)—родúтели дóбры (兩親ハ善良ナリ).

完全語尾ノ形容詞ハ常ニ定語トノミ成ル故ニ此完全語尾ヲ定語尾 (опредѣлённое окончáніе) トモ名ツク、又簡略語尾ノ形容詞ハ常ニ客語トノミ成リテ決シテ定語ト成ラズ故ニ之ヲ不定語尾 (неопредѣлённое окончáніе) トモ名ツク

3. 完全語尾ノ形容詞ハ時トシテ客語ト成ルコトアリ 例ハ Отéцъ товáрища дóбрый. 此文句ハ略體ナリ、若シ之ヲ完全ニ言ヒ表ハセバ Отéцъ товáрища дóбрый *отéцъ* 或ハ человѣкъ ト成ル、又 Сегóдня погóда óчень хорóшая ト云フ文句ハ略體ニシテ之ヲ完全ニ言ヒ表ハセバ Сегóдня погóда óчень хорóшая *погóда* (今日天氣ハ甚タ宜シキ天氣ナリ) ト成ル、此故ニ略體文句ニ於テ客語ト成ルハ形容詞ニ非ズシテ實ハ其形容詞ニ關係ヲ有スル名詞ナレトモ其名詞ヲ省略シタルナリ、而シテ之ヲ省略シクル所以ハ同一ノ語ヲ重復スルハ徒ニ思想ノ簡明ヲ害スルニ因テナリ

備考 或ル性質形容詞ハ斷尾式 (即チ簡略語尾) ヲ有セズ、之ヲ以テ斯カル形容詞ガ客語ト成ル時ハ完全語尾ヲ使用ス、§ 52, 1

4. 既ニ述ベタル如ク形容詞ノ不定語尾ハ名詞ノ語尾ト同一ナリ即チ

單數			複數
男性	女性	中性	男女中性共ニ
ъ (ь)	а я	о е	ы и

硬變化ニ屬スル形容詞ハ不定語尾 (即チ簡略語尾或ハ斷尾) ニ於テ硬音ヲ有シ、軟變化ニ屬スル形容詞ハ不定語尾ノ女性中性、複數諸性ニ於テハ軟音ヲ有スレド男性ノミハ硬半子音ъヲ有ス (但シ сúній ト云フ一語ノミハ男性ノ語尾トシテьヲ有ス). 喉音變化ニ屬スル形容詞ハ單數ノ語尾ъ, о, е 複數ノ語尾軟母音иヲ有シ上顎音變化ニ屬スル形容詞ハ單數ニ於テъ, е, а 複數ニ於テ иヲ語尾トス

備考 二綴音ノ形容詞ハ不定語尾ノ女性ニ於テハ大概最後ノ綴音ニ力點ヲ打ツヲ常トス

單數	дóбр-ый	дóбр-ое	дóбр-ая	單數	стрóг-ій	стрóг-ое	стрóг-ая
	добр-ъ	дóбр-о	добр-á		стрóг-ъ	стрóг-о	строг-á
複數	дóбр-ые	дóбр-ыя	дóбр-ыя	複數	стрóг-іе	стрóг-ія	стрóг-ія
	дóбр-ы				стрóг-и		
單數	сúн-ій	сúн-ее	сúн-яя	單數	свѣ́ж-ій	свѣ́ж-ее	свѣ́ж-ая
	сúн-ъ	сúн-е	сúн-я		свѣ́ж-ъ	свѣ́ж-е	свѣ́ж-á

複數 сúн-ie сúн-iя сúн-iя　　複數 свѣ́ж-ie свѣ́ж-ия свѣ́ж-ия
сúн-и　　свѣ́ж-и

5. 動詞 быть ハ主語ト客語ノ連結ト成ル際、若シ此動詞ガ現在ナレバ之ヲ省略シテ其意ノミヲ文中ニ存シ、過去未來ナレバ之ヲ用ユルヲ常トス例ハ

я	добръ, о, á	мы	дóбры	я	былъ, о, а	строгъ, о, á	мы были стрóги
ты	добръ, о, á	вы	дóбры	ты	былъ, о, а	строгъ, о, á	вы были стрóги
онъ	добръ	они	дóбры	онъ	былъ	строгъ	они были стрóги
оно	дóбро	они	дóбры	оно	было	стрóго	они были стрóги
она	добрá	онѣ	дóбры	она	была	строгá	онѣ были стрóги

стрóгій учúтель 嚴格ナル教師
стрóгая учúтельница 嚴格ナル女教師
стрóгіе учителя́ 嚴格ナル教師等
стрóгія учúтельницы 嚴格ナル女教師等
сúнее мóре 青キ海
сúнія моря́ 青キ海
свѣ́жій вóздухъ 新鮮ノ空氣

учúтель строгъ 教師ハ嚴格ナリ
учúтельница строгá 女教師ハ嚴ナリ
учителя́ стрóги 教師等ハ嚴格ナリ
учúтельницы стрóги 女教師等ハ嚴格ナリ
мóре сúне 海ハ青シ
моря́ сúни 海ハ青シ
вóздухъ былъ свѣ́жъ 空氣ハ新鮮ナリシ

6. 形容詞ガ客語タル場合ニハ大概主語ノ後ニ立ツヲ常トス然レドモ又主語ノ前ニ立ツコヲモ得ベシ 例ハ Вчерá погóда была хорошá.＝Вчерá хорошá былá погóда (昨日天氣ハ宜クアリシ)

7. 若シ形容詞ノ完全語尾ノ前ニ二個ノ子音相並ビ立ツ時ハ簡略語尾ノ男性ニ於テ聲調ヲ清クセン爲ニ母音 e 或ハ o ヲ挿入ス、但シ其二子音中ノ最後ノ文字ガ к ナル時ハ母音 o ヲ挿入シ、其餘ノ場合ニハ凡テ母音 e ヲ挿入ス、又完全語尾ノ前ニ半母音 й 或ハ半子音 ь ヲ有スル形容詞ハ簡略語尾ノ男性ニ於テハ聲調ヲ清クセン爲ニ此 й 或ハ ь ヲ母音 e ニ變ス、例ハ

сла́дкій 甘キ сла́докъ, сла́дк-о, а́, и
кúслый 酸キ кúселъ, кúсл-о, а, ы
нýжный 必要ナル нýженъ, нýжн-о, а́, ы
тѣ́сный 狹キ тѣ́сенъ, тѣ́сн-о, а́, ы
спокóйный 安カナル спокóенъ, спокóйн-о, а, ы
стрóйный 整然タル стрóенъ, стрóйн-о, а, ы
больнóй 病アル бóленъ, больн-о́, а́, ы
печáльный 悲シキ печáленъ, печáльн-о, а, ы

§ 52. 承前

1. 或ル性質形容詞ハ簡略語尾ヲ有セズ、例ハ голубóй (空色ノ), кáрій (栗色ノ)

2. 語尾 стый ヲ有スル形容詞及語尾ノ前ニ相並ビタル二個ノ子音ヲ有シテ其二子音中ノ後ノ一個ガ舌音 р ナル所ノ形容詞ハ簡略語尾ノ男性ニ於テ母音 е ヲ挿入セズ、例ハ

чи́стый 清キ чистъ, о, а, ы
каме́ни́стый 石多キ каменист-ъ, о, а, ы
гори́стый 山多キ гори́ст-ъ, о, а, ы
холостóй 獨身ノ(男ニ限ル) хóлост-ъ, ы

добрый 善キ добр-ъ, о, á, ы
бстрый 鋭キ бстр-ъ, о, á, ы
храбрый 勇敢ナル храбр-ъ, о, а, ы

3, 下ニ記シタル形容詞ノ簡略語尾ハ不規則ナリ

безукори́зне́нный 非難スル所ナキ	безукори́знен-ъ, -ненн-о, а, ы
досто́йный 適當ナル	досто́инъ, досто́йн о, а, ы
дре́вній 古代ノ	дре́вень, дре́вн-о 及 е, древна́, дре́вн-а 及 и
злой 惡心ナル	зол-ъ, зло, зла, злы
ме́дле́нный 緩ナル	ме́длен-ъ, ме́длен-о, а, ы
по́лный 滿チタル、肥滿ノ	по́лонъ, полн-о́, а́, ы
соле́ный 鹽漬ノ、鹹ナル	со́лон-ъ, о, а, ы

безукори́зненный 及 ме́дленный ハ男性ニ於テ二個ノ子音 нн ノ間ニ母音 е ヲ挿入セスシテ一個ノ н ヲ除去ス достóйный ハ中性ト複數ニ於テ二數ノ語尾ヲ有ス злой 及 по́лный ハ子音ノ間ニ е ヲ挿入セスシテ о ヲ挿入ス соле́ный ハ諸性ニ於テ е ヲ о ニ變ス

4. большóй (大ナル) ト云フ形容詞ハ 客語トナル時ニハ вели́кій ト云フ形容詞ノ簡畧語尾 вели́к-ъ, о, á, и ヲ代用ス

5. 或ル形容詞ハ簡畧語尾ニ於テ別ニ又異リタル意義ヲモ有ス、例ハ до́лжный(當然ノ)ハ до́лженъ, должн-о́, á, ы (可キナリ、負債アリ)

6. 或ル形容詞ハ完全語尾ト簡畧語尾トニ於テ 相異リタル意義ヲ有ス例ハ живóй (活潑ナル) жив-ъ, о, á, ы (生キテ居ル); ви́дный (容貌ノ雄ナル、顯要ノ) ви́ден-ъ, ви́дн-о, а (見ユ、明カナリ)

7. 或ル形容詞ハ完全語尾ヲ有スレモ現今ハ唯簡略語尾ノミヲ使用ス例ハ (слы́шный) слы́шенъ, слы́шн-о, а, ы (聞コユ)

8. 形容詞 радъ, о, а, ы (喜ハシ)ハ完全語尾ヲ有セズシテ簡畧語尾ノミヲ使用ス

備考 同シク二個ノ形容詞 любъ (氣ニ入ル)及ビ горáздъ (巧ミナリ)モ此種類ニ屬ス

§ 53. 性質副詞 (Ка́чественное нарéчіе)

1. 性質形容詞並ニ又或ル狀況形容詞及關係形容詞ヨリ副詞ヲ生ス、此副詞ハ形容詞ノ中性語尾 ое 及 ее ヲ畧シテ о 及 е ト成スニ在リ、故ニ此副詞ハ形容詞ノ簡畧語尾ノ中性ト形式ヲ同クシ毫モ異ナル所ナシ、е ノ語尾ニ終ル所ノ副詞ハ至テ稀ナリ、且ツ概シテ斯カル副詞ハ轉用ノ意義ヲ有ス

хоро́шій 宜シキ	хоро́ш-ее	хорош-о́ (副詞モ同意義ナリ)
дорого́й 貴重ナル	дорог-о́е	до́рог-о (同上)
ти́хій 靜ナル	ти́х-ое	ти́х-о (同上)
гро́мкій 音聲高キ	гро́мк-ое	гро́мк-о (同上)
кра́йній 極端ノ	кра́йн-ее	кра́йн-е (極メテ)
односторо́нній 偏シタル	односторо́нн-ее	односторо́нн-е (偏シテ)

2. 形容詞ノ簡略語尾ノ中性ト副詞トノ差別ハ文句ノ語氣ニ依テ之ヲ明ニスルヲ得レモ、要スルニ、若シ名詞ニ直接ノ關係ヲ有スレバ形容詞ニシテ、若シ動詞ニ直接ノ關係ヲ有スレバ副詞ナリ、例ハ Перó хорошó (形容詞ナリ) Вы написáли хорошó (副詞ナリ). Зóлотó дóрого (形容詞ナリ). 黃金ハ高價ナリ Вы заплатúли дóрого (副詞ナリ). 貴君ハ高價ニ拂フタリ

§ 54. 過大的 (увеличúтельное) 薄弱的 (уменьшúтельное) 撫愛的 (ласкáтельное) 形容詞及副詞

1. 多クノ形容詞モ名詞ノ如ク過大的、薄弱的、撫愛的變化式ヲ有ス、此等ノ變化式ハ通常變化式ノ如クナリ而シテ又簡略語尾ヲモ有ス

2. 此等ノ變化式ノ語尾ハ次ノ如シ

過大的 *óхонькій ёхонькій ёшенькій* (用ユルヿ稀ナリ)

備考 過大的變化式ハ俗語ニ於テノミ專ラ使用ス

薄弱的 *овáтый eвáтый*
撫愛的 *енькій онькій*

	過大的	薄弱的	撫愛的
крáсн-ый	красн-*ёхонький* (深紅ノ)	красн-*овáтый* (赤ミガカリタル)	крáсн-*енький*
	ехонек	*овáть*	*енек*
	красн-*ёшенький*		
	ёшенек		
мáл-ый	мал-*ёхонький* (極小ナル)	мал-*оватый* (小ブリナル)	мáл-*енький*
	ёхонек	*оватъ*	*енек*
	мал-*ёшенький*		
	ёшенек		

3. 撫愛的形容詞ハ殊ニ纖小的及撫愛的名詞ト共ニ使用ス例ハ крáсненький цвѣтóчекъ (赤キ花), мáленький мáльчикъ (小童)

4. 通常變化式ノ形容詞並ニ撫愛的形容詞ニ пре ヲ綴合スルヿアリ *пре* ハ「至テ」「極テ」ノ意ニシテ性質ノ豐富ヲ表示ス. 例ハ *прéумный* (至テ智ナル) *преглýпый* (至テ愚ナル)、*премáленький* (極小ナル).

5. 次ニ記スル語尾ヲ有スル形容詞モ過大的形容詞ト見做シテ可ナリ、如何トナレバ此種ノ語尾モ事物ノ性質ノ豐富ヲ表示ス例ハ

атый	рогáтый 角アル	*оватый*	суковáтый 枝多キ
итый	даровúтый 才能アル	*еватый*	нозревáтый 多孔ナル
астый	зубáстый 齒多キ	*авый*	дырáвый 竅多キ
истый	каменúстый 石多キ	*ивый*	сварлúвый 爭好キノ

6. 性質形容詞ノ如クス或ル性質副詞モ過大的、薄弱的、撫愛的語尾ヲ有ス、即チ過大的、薄弱的撫愛的形容詞ノ中性語尾 о е ヲ略シテ о ト成セバ可ナリ 例ハ

過大的	бѣлёшенькій	бѣлёшенькое	бѣлёшенько
薄弱的	бѣловáтый	бѣловáтое	бѣловáто
撫愛的	бѣленькій	бѣленькое	бѣленько
пóздно (遲ク)	позднёхонько	позднóвато	позднéнько
рáно (早ク)	ранёхонько	рановáто	ранéнько

§ 55. 比較ノ段級 (Сте́пени сравне́нія)

1. 露語ニ於テハ比較級ヲ有スルハ性質形容詞及僅少ノ狀況形容詞、關係形容詞ナリ、狀況形容詞ト關係形容詞ハ殊ニ意義ヲ轉シテ性質形容詞ノ意義ヲ以テ使用セラルヽ場合ニ於テ比較級ヲ有ス (§ 41, I, 4 備考)

2. 級ハ三アリ 元級 (положи́тельная) 比較級 (сравни́тельная) 最勝級 (превосхо́дная) ナリ

元級ハ事物ノ性質ヲ比較セズシテ單ニ之ヲ表スルモノナリ、例ハ хоро́шій (宜キ), стро́гій (嚴格ナル), худо́й (惡シキ、瘦セタル), приле́жный (勤勉ナル).

比較級ハ一事物ノ性質ガ他ノ事物ノ同性質ニ優劣高下ナルヲ示ス 即チ甲ハ乙ヨリモ善シトカ惡シトカ等ヲ示ス、例ハ「父ハ母ヨリモ善良ナリ」、「兄ハ弟ヨリモ勤勉ナリ」

最勝級ハ〔第一〕一事物ガ或ル性質ニ於テハ他ノ同種類ノ諸事物ニ優ルヲ示ス〔第二〕或ハ又或ル事物ガ或ル性質ニ非常ニ富ムコトヲ示ス、例ハ「彼レハ我カ知人中ノ最モ善良ナル人ナリ」「我カ兄ハ其同僚中ノ最モ勤勉ナル者ナリ」「彼レハ至極善良ナル人ナリ」

§ 56. 比較級 (Сравни́тельная сте́пень)

比較級ハ二ツノ形式ヲ有ス、一ハ比較級ガ定語ト成ル際ニ用ヒ、一ハ客語トナル際ニ用ユル形式ナリ

1. 定語ト成ル際ニ使用スル形式ハ合成式ニシテ 元級ノ形容詞ノ前ニ *бо́лье* (ヨリ多ク) 或ハ *ме́нье* (ヨリ少ク) ト云フ語ヲ附用ス、例ハ до́брый ナレハ *бо́лье* до́брый (ヨリ善キ) ト成リ、дорого́й ナレハ *бо́лье* дорого́й (ヨリ高價ナル) ト成リ、худо́й ナレハ *бо́лье* худо́й (ヨリ瘦セタル) ト成ル、此合成式ノ變化ニ於テハ附用語ノ бо́лѣе ハ變化セズシテ形容詞ノミ變化ス、例ハ бо́лѣе до́брый, бо́лѣе до́браго, бо́лѣе до́брому ..

或ル形容詞ハ定語ト成ル際ニ 又別ノ比較形式ヲモ有ス、此形式ハ ший, шее, шая (§ 57, I, 1) ノ語尾ヲ有ス、然レモ斯ノ如キ形容詞ハ餘リ多カラス

2. 客語ト成ル際ニ使用スル比較形式ハ二アリ、一ハ合成式、一ハ單一式ナリ

〔甲〕 合成式 (составна́я фо́рма) 此合成式ハ定語ノ合成式ノ如ク元級形容詞ノ前ニ *бо́лье* 或ハ *ме́ньше* ヲ附用ス、但シ此際ノ形容詞ハ簡略語尾ノミヲ使用ス、例ハ до́брый ナレバ *бо́льше* до́бръ, о. *а́*, ы ト成リ дорого́й ナレハ *бо́льше* до́рогъ, о, *а́*, и ト成リ худо́й ナレハ *бо́льше* худъ, о, *а*, *ы* ト成ル

〔乙〕 單一式 (проста́я фо́рма) 單一式ハ形容詞ノ語尾 ый, ій, ой ヲ *ье* (略スレハ *ьй*) 及 *е* ニ變更シテ以テ成ル、而シテ大概ノ形容詞ハ比較語尾 ѣе (ѣй) ヲ使用ス、唯、語尾ノ前ニ喉音、齒音ヲ有スル形容詞ノミハ比較語尾 е ヲ使用シ且ツ其際喉音及齒音ヲ對應ノ上顎音ニ變ス (§5, 9-10) 例ハ до́бр-ый ハ добр-*е́е* (*ьй*) ト成リ дорог-о́й ハ доро́*ж*-*е* ト成リ худ-о́й ハ ху́*ж*-*е* ト成ル

此單一的比較式ハ 文章ニ於テモ 談話ニ於テモ 合成的比較式ヨリモ多ク

使用セラルヽナリ、合成式ヲハ談話ニ於テハ殆ンド使用セズ、但シ單一式ヲ有セザル形容詞ニ限リテ之ヲ使用ス

元級	定語タル比較級	客語タル比較級
до́брый	*бо́лѣе до́брый*	〔甲〕 *бо́лѣе* добръ 〔乙〕 добр-*ѣе*
дорого́й	*бо́лѣе до́рого́й*	〔甲〕 *бо́лѣе до́рогъ* 〔乙〕 дорбж-*е*
худо́й 惡シキ、痩セタル	1. *бо́лѣе* худо́й 多ク痩セタル 2. ху́д-*ший*(§57,I,1) 尚惡シキ	〔甲〕 *бо́лѣе* худъ 〔乙〕 ху́ж-*е*

3. 若シ比較サル・事物ヲ表出スル場合ニハ兩形式共ニ *чѣмъ* 或ハ *не́жели* (ヨリ) ト云フ語ヲ插入シ且ツ比較サル、事物ヲ名格ニス、例ハ Бо́лѣе до́браго человѣка, чѣмъ (не́жели) онъ, я ещё не встрѣча́лъ (彼レヨリ多ク善ナル人ヲ我ハ未ダ見受ケズ). Я купи́лъ *болѣе дорогу́ю* кни́гу, не́жели (чѣмъ) вы купи́ли (貴君ノ買ヒシヨリ高價ナル書ヲ我ハ買ヘリ). Оте́цъ *бо́лѣе* добръ, чѣмъ (не́жели) мать. = Отецъ добрѣе, чѣмъ мать. Каранда́шъ *бо́лѣе* до́рогъ, чѣмъ перо́. = Каранда́шъ доро́же, чѣмъ перо́ (鉛筆ハペンヨリ高シ)

4. 比較級單一式ノ特例

〔甲〕 客語トシテ使用スル比較單一式ノ插入語 чѣмъ 及 не́жели ハ之ヲ省略スルヿヲ得ベシ若シ之ヲ省略スル時ハ比較サル、事物ヲ生格ト成ス、例ハ Оте́цъ добрѣе, *чѣмъ* (*не́жели*) мать = Оте́цъ добрѣе ма́тери. Каранда́шъ доро́же *чѣмъ* (*не́жели*) *перо́* = Каранда́шъ доро́же пера́.

〔乙〕 又此單一式ニ於テ 比較ノ度ヲ强ムル爲ニ *гора́здо* (ハルカニ) 及 *несравне́нно* (比ラベニナラヌ程) ヲ附用シ又比較ノ度ヲ弱ムル爲ニ *по* (少シ) ヲ前綴ス 例ハ *гора́здо* добрѣе (ハルカ善シ), *несравне́нно* добрѣе (比ベニク) ヲ前綴ス 例ハ *гора́здо* добрѣе (ハルカ善シ), *несравне́нно* добрѣе (比ベニナラヌ程善シ), *подобрѣе* (少シ善シ); *гора́здо* доро́же (ハルカ高價ナリ), *несравне́нно* доро́же (比ベニナラヌ程高價ナリ) *подоро́же* (少シ高價ナリ); *гора́здо* ху́же (ハルカ惡シ), *несравне́нно* ху́же (比ベニナラヌ程惡シ), *поху́же* (少シ惡シ).

〔丙〕 此單一式ヲ時トシテ定語ノ比較級ニモ使用スルヿアリ、殊ニ談話ニ於テ然リ、例ハ Добрѣе человѣка (бо́лѣе до́браго человѣка ノ代リ), чѣмъ онъ, я ещё никогда́ не встрѣча́лъ (彼ヨリ善キ人ヲ我ハ未ダ曾テ見受ケザリシ). Вы отыска́ли бра́ту кварти́ру доро́же (бо́лѣе дорогу́ю кварти́ру ノ代リ), чѣмъ онъ проси́лъ (兄弟ノ願望セシモノヨリモ高價ナル借家ヲ汝ハ兄弟ニ探シ出セリ). Я хотѣлъ наня́ть домъ подоро́же (домъ бо́лѣе дорого́й ノ代リ) (我ハ今少シ高價ノ家ヲ借ルヲ欲セリ).

備考 本來此等ノ文句ニハ助動詞 быть ヲ省略セシナリト雖シテ比較語ハ實ハ此助動詞ニ直接ノ關係ヲ有ス、茲ニ揭ゲタル第一例ノ добрѣе человѣка ハ человѣка, который былъ бы подобрѣе ヲ簡略セシナリ、第二例ノ кварти́ру доро́же ハ кварти́ру, кото́рая (есть) доро́же ヲ簡略セシナリ、第三例ノ домъ подоро́же ハ домъ, кото́рый былъ бы подоро́же ヲ簡略セシナリ

§ 57. 最勝級 (Превосхóдная стéпень)

最勝級モ元級及ビ比較級ト同シク二ツノ形式ヲ有ス、一ハ定語ト成ル際ニ使用シ一ハ客語ト成ル際ニ使用ス

I. 定語ト成ル際ニ使用スル形式、此形式ハ數種ニ分カル其中一種ハ單一式ニシテ其他ハ皆ナ合成式ナリ

1. 單一式、此式ハ *пѣйшій, пѣйшее, пѣйшая* 及 *áйшій, áйшее, áйшая* 及 *ший, шее, шая* 等ノ語尾ヲ有ス、而シテ元級形容詞ノ語尾 ый, ой, ій ヲ是等ノ語尾ニ變更スルヲ以テ成ル、此式ハ談話ニハ餘リ多ク使用セズ

本來 *нѣйший, áйший, ший* ノ語尾ハ最勝級ノ語尾ニ非スシテ比較級ノ語尾ナリ、然レドモ現時ハ *нѣйший* 及 *áйший* ノ語尾ヲ有スル形容詞ヲハ概シテ最勝級ノ意義ニノミ使用シ比較級トシテ使用スルヿ甚タ稀ナリ、而シテ *ший* ノ語尾ヲ有スル形容詞ハ悉ク比較級ノ意義ヲ以テ使用シ、時トシテハ(殊ニ俗語ニ於テ力點ヲ轉動シテ)元級ノ意義ヲ以テモ之ヲ使用ス、比較級ニ *ший* ノ語尾ヲ有スル形容詞ノ最勝級ハ大抵(悉クニハ非ザレモ) *нѣйший* 或ハ *áйший* ヲ語尾トス

大概ノ形容詞ハ *нѣйший* ヲ最勝級ノ語尾トス、唯、語尾ノ前ニ喉音ヲ有スル形容詞ハ *áйший* ヲ最勝級ノ語尾トス、又 *ший* ヲ比較級ノ語尾トスルモノハ不規則的ニ比較級ヲ組成ス

дóбрый	добр-*пѣйший* (最勝級)		
стрóгій 嚴ナル	строж-*áйший* (最勝級)		
стáрый 年長ノ、古ルキ	стáр-*ший* (比較級)	стар-*пѣйший* (最勝級)	стáрый (元級)
высóкій 高キ	вы́с-*ший* (比較級)	высоч-*áйший* (最勝級)	
худóй 惡シキ	хýд-*ший* (比較級)		

例ハ Отéцъ товáрища *добрѣйший* человѣкъ (朋友ノ父ハ最良ノ人ナリ) Мать *добрѣйшая* жéнщина (母ハ最良ノ婦人ナリ)

2. 合成式、此式ニハ四種アリ

〔甲〕 第一種ハ元級形容詞ニ代名詞 *сáмый* (「最モ」ノ意義) ヲ附用シ或ハ又單一式最勝級ノ形容詞ニ代名詞 *самый* ヲ附用シテ成ル、殊ニ元級形容詞ニ代名詞 сáмый ヲ附用スルノ式ハ最モ多ク行ハル 式ニシテ如何ナル形容詞ト雖、此式ヲ用ヒテ可ナリ又文章ニモ談話ニモ此式ヲ使用ス

дóбрый	*сáмый* дóбрый	*сáмый* добрѣйший
стрóгій	*сáмый* стрóгій	*сáмый* строжáйший
худóй	*сáмый* худóй	*сáмый* хýдший
стáрый	*сáмый* стáрый	*сáмый* стáрший, *сáмый* старѣйший

〔乙〕 第二種ハ單一的最勝級ト合成的最勝級ニ *изъ всѣхъ* (凡テノ者ノ中ヨリ) ト云フ二語ヲ附スルヲ以テ成ル、例ハ

дóбрый	добрѣйший *изъ всѣхъ*	
	сáмый дóбрый *изъ всѣхъ*	
	сáмый добрѣйший *изъ всѣхъ*	
стрóгій		строжáйший *изъ всѣхъ*
		сáмый стрóгій *изъ всѣхъ*
		сáмый строжáйший *изъ всѣхъ*

若シ *изъ всѣхъ* ノ傍ニ其關係ヲ有スル名詞ノ存スル時ハ *всѣхъ* ヲ省畧スルトモ其意ハ通スル故ニ之ヲ省畧スルモ可ナリ、例ハ Онъ са́мый до́брый *изъ всѣхъ бра́тьевъ* = Онъ са́мый до́брый *изъ бра́тьевъ* (彼ハ兄弟全體中最モ善ルナ者).

〔丙〕 第三種ハ о́чень (甚タ) весьма́ (至極) ヲ元級形容詞ニ附シテ以テ成ル、但シ весьма́ ハ殊ニ書文ニ用ユ

до́брый	*о́чень* до́брый, *весьма́* до́брый
стро́гій	*о́чень* стро́гій, *весьма́* стро́гій
худо́й 痩セタル	*о́чень* худо́й, *весьма́* худо́й

〔丁〕 第四種ハ *пре, наи, все, раз* 等ヲ元級、比較、最勝形容詞ニ前綴シテ以テ成ル、但シ此前綴ハ凡テノ形容詞ニ附用スベキモノニハ非ス、又 раз ハ俗語ニノミ使用ス

до́брый	*предо́брый*	*предобры́йшій*
стро́гій	*престро́гій*	*наистрожа́йшій*
худо́й 惡シキ。痩タル	*прехудо́й* 至テ痩セタル	*наиху́дшій* 極ク惡シキ
ми́лости́вый 仁惠ナル	*всеми́лости́вый*	*всеми́лости́вѣйшій* 大仁惠ナル
весёлый 愉快ナル	*развесёлый*	

〔戊〕 談話ニ於テハ元級形容詞ヲ重復シテ以テ 最勝級ノ意ヲ表スルコアリ 其際後ニ立ツ形容詞ニ *пре* ヲ前綴スルヲ常トス、例ハ

до́брый—*предо́брый*, стро́гій—*престро́гій*, худо́й—*прехудо́й*

III. 客語ト成ル際ニ使用スル最勝級ノ形式、此形式ハ悉ク合成的ナリ

1. 單一的比較級ニ *всѣхъ* 及 *всего́* ヲ附シテ成ル、всѣхъ ハ形容詞ガ名詞ニ關係ヲ有スル際ニ用ヒ、всего́ ハ形容詞ガ中性名詞ニ關係ヲ有スル際或ハ形容詞ガ副詞ノ意義ニテ使用サル、際ニ用ユ

до́брый	*добре́е всѣхъ*	
стро́гій	*стро́же всѣхъ*	
худо́й	*ху́же всѣхъ*	*ху́же всего́*

Оте́цъ *добре́е всѣхъ* въ семе́йствѣ (父ハ家族ニ於テ誰ヨリ善人ナリ). Онъ *ху́же всѣхъ* бра́тьевъ (彼ハ兄弟中一番惡シ) Здоро́вье отца́ не хорошо́, бра́та то́же пло́хо, но здоро́вье сестры *ху́же всего́* (父ノ健康ハ良カラズ、兄弟モ同シク不良ナリ 然レ𪜈姉妹ノ健康ハ一番惡シ) Онъ и всегда́ писа́лъ пло́хо, но вчера́ написа́лъ *ху́же всего́* (彼ハ常ニモ拙ク書セリ然レ𪜈昨日ハ一番惡ク書セリ).

2. 簡略語尾ノ元級形容詞ニ *о́чень* 及 *весьма́* ヲ附用シテ成ル、例ハ

до́брый	*о́чень* добръ, *весьма́* добръ
стро́гій	*о́чень* строгъ, *весьма́* строгъ

3. 簡略語尾ノ形容詞ニ *все* ヲ前綴シテ成ル、例ハ *всеми́лостиво* 此形式ハ或ル形容詞ニノミ限リテ使用シ且ツ多クハ高調ノ文句ニ於テ使用ス、而シテ俗語ニ於テハ пре, наи, раз ヲモ綴ニハ前綴スルコアリ

元　級	定語トシテノ最勝級	客語トシテノ最勝級
дóбрый стрóгій худóй	單一式 добр-*ѣйшій* строж-*áйшій* хýд-*шій* (定語トシテノ比較級) 合成式 甲 *сáмый* дóбрый, *сáмый* добрѣ́йшій 乙 добрѣ́йшій *изъ всѣхъ*, *сáмый* дóбрый *изъ всѣхъ*, *сáмый* добрѣ́йшій *изъ всѣхъ* 丙 *óчень* дóбрый, *весьмá* дóбрый 丁 *предóбрый*, *предобрѣ́йшій*, *наидóбрый*, *наидобрѣ́йшій*, *всемúлостивый*, *всемúлостивѣйшій*, *развесёлый* 戊 дóбрый-*предóбрый*, стрóгій-*престрóгій*, худóй-*прехудóй*	1. *добрѣ́е всѣхъ* *хýже всегó* 2. *óчень* добръ, *весьмá* добръ 3. *всемúлостивъ*

§58. 副詞ノ比較級

性質的副詞并ニ簡略語尾ヲ有スル關係的狀況的形容詞ヨリ生セシ副詞ハ比較ノ級ヲ有ス即チ o 或ハ e ヲ語尾トスル元級ノ外ニ比較級ト最勝級ヲ有ス、

副詞ノ比較級モ最勝級モ形容詞ノ如ク二種ノ形式ヲ有ス即チ單一式ト合成式ナリ而シテ副詞ノ比較級ノ單一式ハ *ne nй* 或ハ *e* ヲ語尾トシ最勝級ノ單一式ハ *нѣшне* 及 *айшс* (*ше*ハ無シ) ヲ語尾トス、

副詞ノ比較級最勝級ノ合成式ハ形容詞ノ合成式ト同ジキ方法ヲ以テ組成セラル、但シ談話ニ於テ使用スル或ル副詞ノ最勝級ニハ副詞ヲ重復シテ其中間ニ前置詞 на ヲ挿入スルノ式モアリ其際ハ力點ヲ前置詞ニ打ツ、例ハ строго-*на*-строго, (極々嚴重ニ) крѣ́пко-*на*-крѣпко (極々堅ク)

副詞ノ元級	同比較級	同最勝級
стрóго	стрóж-*е* *бóлѣе* стрóго	строж-*áйшс* стрóже *всегó* *прес*трóго, *прес*трож*áйшс*, *наи*строж*áйшс* стрóго-*прес*трóго стрóго-*на*-строго

§59. 比較ノ級 (再說)

§§ 56-57 ニ於テ述ヘタル如ク比較ノ級ノ單一式ハ二種ナリ、一ハ客語タルノ比較級ニシテ ѣe (ѣй) 及 e ヲ語尾トス、一ハ定語タルノ最勝級ニシテ ѣйшій, айшій, шій ヲ語尾トス而シテ元級ノ語尾ノ前ニ唇音或ハ舌音ヲ有

スル形容詞ハ比較級ニ於テハ ъe ノ語尾ヲ、最勝級ニ於テハ ъйшій ノ語尾ヲ受ク、又元級ノ語尾ノ前ニ喉音ヲ有スル形容詞ハ比較級ニ於テハ e ノ語尾ヲ、最勝級ニ於テハ айшій ノ語尾ヲ有ス、又不規則的ニ比較級ヲ組成スル形容詞ハ比較級ニ於テ e 及 ший ノ語尾ヲ受ク、勿論是等ノ概則ニ反スル破格モ存スルコアリ、

既ニ述ヘシ如ク 比較級ノ單一式ハ合成式ヨリモ使用スルコ多クシテ、概シテ合成式ヲ使用スルハ甚タ稀ナリ、然レモ最勝級ノ單一式ハ談話ニ於テハ殆ト之ヲ使用セズシテ專ラ文章ニ於テ使用ス、且ツ最勝級ノ單一式ヲ全ク有セザル形容詞モ多シ、斯カル場合ニハ са́мый トヽ云フ代名詞ヲ元級ニ附加シテ最勝級ノ合成式ヲ組成スルヲ常トス、如何ナル形容詞ト雖 са́мый ヲ附加シテ最勝級ヲ成スヲ得ルナリ

1. 語尾ノ前ニ唇音 *б, в, м, п* ヲ有スル形容詞ハ比較級ニ於テ *ше* (*ший*) ヲ語尾トシ最勝級ニ於テハ *ъйший* ヲ語尾トス、例ハ

	元級	比較級 (客語及副詞ノ)	最勝級
б	слáб-ый 弱キ	слаб-*ше*	слаб-*ъйший*
в	лѣни́в-ый 怠惰ノ	лѣни́в-*ше*	лѣни́в-*ъйший*
м	прям-о́й 直ナル	прям-*ше*	прям-*ъйший*
п	глу́п-ый 愚ナル	глуп *же*	глуп-*ъйший*
例外	дешёв-ый 安價ナル	дешéвл-*е*	

2. 語尾ノ前ニ舌音 л, н, р ヲ有スル形容詞ハ比較級ニ於テ ъe (ѣй) ヲ語尾トシ最勝級ニ於テハ ъйшій ヲ語尾トス、例ハ

	元級	比較級	最勝級
л	бѣл-ый 白キ	бѣл-*ше*	бѣл-*ъйший*
н	чёрн-ый 黑キ	черн-*ше*	черн-*ъйший*
р	до́бр-ый 善ナル	добр-*ше*	добр-*ъйший*

備考 形容詞 се́верный (北ノ), ю́жный (南ノ), восто́чный (東ノ), за́падный (西ノ), се́веро-восто́чный (東北ノ), се́веро-за́падный (西北ノ), ю́го-восто́чный (東南ノ), ю́го-за́падный (西南ノ) ハ比較級ヲハ唯々單一的ノミヲ有シ、最勝級ハ唯々合成的ノミヲ有ス即チ се́верн*ъе*, *са́мый* се́верный ; южн*ъе*, *са́мый* ю́жный 等ノ如シ、

例外	кра́сн-ый 赤キ	красн-е́е 及 (кра́ш-*е* ヨリ美ナリ)	красн-е́йший
	ма́л-ый 少ナキ、小ナル	*ме́н*-ѣе 及 *ме́ньш*-е *ме́нь*-ший (меньшо́й 俗話ノ元級)	мал-е́йший
	по́здн-ій 遲キ	(поздн-е́е) 及 по́зж-*е*	поздн-е́йший
	пре́жн-ій 以前ノ	пре́жд-*е* (副詞トシテ使用ス) ———	
	ра́нн-ій 早キ	(ра́н-ѣе) 及 ра́ньш-*е* ———	
	ста́р-ый 年長ナル、古ルキ	стар-е́е 及 ста́рш-*е* ста́ршій (старшо́й 俗話ノ元級)	стар-е́йший

3. 語尾ノ前ニ喉音 *г, к, х* ヲ有スル形容詞ハ比較級ニ於テ *е* ヲ語尾トシ最勝級ニ於テ *айшій* ヲ語尾トス而シテ喉音ハ對應ノ上顎音(§ 5, 9)ニ變ズ、即チ *г* ハ *ж* ニ *к* ハ *ч* ニ *х* ハ *ш* ニ變更ス

元級	比較級	最勝級
г стро́*г*-ій 嚴重ナル	стро́*ж*-е	стро*ж*-а́йшій
к кре́пк-ій 堅固ナル	кре́пч-е	крѣпч-а́йшій
х ти́х-ій 靜ナル	ти́ш-е	тиш-а́йшій

例外　語尾 *кій* ヲ有スル形容詞中ニハ不規則的ノ比較級ト最勝級ヲ有スルモノ多シ

例ハ喉音 к ヲ ч ニ變セズシテ他ノ子音ニ變シ或ハ比較級ニ於テ語尾ヲ е ト成サズシテ ѣе ト成シ或ハ語尾 кій ノ前ニ存スル子音ヲ省略スル等ノ如シ、次ニ揭クル形容詞ハ皆然リ

бли́*зк*ій 近キ	бли́*ж*-е	ближ-а́йшій
бо́йкій 敏捷ナル	бо́йч-е, (бойч-*ѣе*)	無シ
вели́кій 大ナル	*бо́л-ѣе, бо́льш-е* (большо́й ヨリ出ヅ.) *бо́ль-шій*	велич-а́йшій
высо́кій 高キ	вы́ш-е	высоч-а́йшій
га́*дк*ій 見惡クキ	га́*ж*-е	無シ
гла́*дк*ій 平滑ナル	гла́*ж*-е	無シ
глубо́кій 深キ	глу́б*ж*-е	глубоч-а́йшій
го́рькій 苦カキ	го́р*ч*-е. гор*ч-ѣе*, (го́р*ш*-е 苦ルシク) (го́р-шій ヨリ苦ルシキ)	гор*ч*-а́йшій (激甚ナル)
далёкій 遠キ	да́л-*ѣе*, да́льш-е	*дальн-ѣйшій* (да́льній ヨリ出ヅ)
ди́кій 野蠻ナル	ди́ч-е, (дич-*ѣе*)	無シ
до́лгій 久シキ	до́льш-е, дол-*ѣе*	долж-а́йшій
жа́лкій 憫然ナル	жа́лч-е, (жалч-*ѣе*)	無シ
жи́*дк*ій 稀淡ナル	жи́*ж*-е	無シ
зво́нкій 朗音ノ	зво́нч-е, (звонч-*ѣе*)	
коро́*тк*ій 短キ	коро́ч-е	*кратч*-а́йшій (кра́ткій ヨリ出ヅ)
лёгкій 輕キ、易スキ	ле́гч-е	легч-а́йшій
ло́вкій 巧手ナル	ло́вч-е, (ловч-*ѣе*)	無シ
ме́лкій 細小ナル	ме́льч-е	мельч-а́йшій
ме́рзкій 厭フベキ	мерз-*ѣе*	мерз-*ѣйшій*
ни́зкій 低キ、卑シキ	ни́*ж*-е ни́з-шій	нижс-а́йшій
рѣ́дкій 稀レナル	рѣ́*ж*-е	рѣдч-а́йшій
сла́бкій 弱ルキ	сла́б*ж*-е	無シ
сла́дкій 甘味ナル	сла́*щ*-е	сладч-а́йшій
то́нкій 細キ	то́ньш-е	тонч-а́йшій
тя́*жк*ій 苦雜ナル		тягч-а́йшій
у́зкій 狹キ	у́*ж*-е	無シ
широ́кій 廣キ	ши́р-е	широч-а́йшій

語尾 óнькій 及 éнькій ヲ有スル撫愛的形容詞 (§ 54, 2) ハ比較級ヲ有セス而シテ最勝級ハ合成式ノミヲ有ス例ハ ма́ленькій ノ最勝級ハ *са́мый* ма́ленькій 及 *према́ленькій* ナリ

4. 語尾ノ前ニ上顎音 ж, ч, ш, щ ヲ有スル形容詞ハ合成式ノミノ比較級ヲ有ス但シ此種ノ或ル形容詞ハ(殊ニ俗語ニ於テ)單一式ノ比較級(ѣe ヲ語尾トスル)ヲ有ス例ハ

ж	свѣ́жій 新鮮ノ	свѣж-*ѣ́е*
ч	горя́чій 熱キ	горяч-*ѣ́е*
щ	то́щій 痩セタル	тощ-*ѣ́е* 及 то́щ-*е*

例外

бо́льшо́й 大ナル、多クノ	бо́л-ѣе, бо́льш-*е*	*велич-а́йшій*
	бо́ль-шій	
хоро́шій 佳良ナル	*лу́чш-е*	
	лу́ч-шій	

5. 語尾ノ前ニ齒音 *д, з, с, т, ст* ヲ有スル形容詞

1. 語尾ノ前ニ齒音 д ヲ有スル形容詞ハ比較級ニ於テ е ヲ語尾トス其際齒音 *д* ハ對應ノ上顎音 *ж* ニ變ス (§ 5, 10) 而シテ斯カル形容詞ノ最勝級ハ *ѣйшій* ヲ語尾トスルモアリ或ハ又齒音 д ヲ變更セズシテ *шій* ヲ語尾トスルモアリ

д	молодо́й (младо́й) 若カキ	моло́*ж-е*
		мла́*д-шій*
	твёрдый 堅固ナル	твёр*ж-е*
	худо́й 惡シキ	ху́*ж-е*
		ху́*д-шій*

例外 若シ худо́й ヲ「痩セタル」ノ意義ニテ使用スル際ニハ其比較級ハ ѣe ヲ語尾トシ、最勝級ハ合成式ヲ用ユ、сѣдо́й モ同シク比較級ハ ѣe ヲ語尾トシ最勝級ハ合成式ヲ用ユ худо́й 痩セタル худ-*ѣ́е*, сѣдо́й 白髮ノ сѣд-*ѣ́е*.

2. 語尾ノ前ニ齒音 *з* 及 *с* ヲ有スル形容詞ハ比較級モ最勝級モ合成式ヲ用フルヲ常トス、但シ斯カル形容詞中ニ ѣe ヲ比較級ノ語尾トスルモアリ殊ニ俗語ニ於テ然リトス例ハ

з	си́зый 鳩羽色ノ	сиз-*ѣ́е*
с	лы́сый 禿ケタル	лыс-*ѣ́е*

3. 語尾ノ前ニ齒音 т 及 ст ヲ有スル形容詞ヲハ二種ニ分チテ

〔甲〕 事物ノ豐富ヲ表スル語尾 *а́тый, и́тый, ова́тый, ева́тый, а́стый, и́стый* ヲ有スル過大的形容詞 (§ 54, 5) ハ比較級ノ語尾ヲ ѣe トシ最勝級ハ合成式ノミヲ用フ例ハ

т	борода́тый 髯多キ	борода́т-*ѣе*
	дарови́тый 才能アル	дарови́т-*ѣе*
	сукова́тый 枝多キ	сукова́т-*ѣе*
ст	души́стый 芳香ノ	души́ст-*ѣе*
例外	бога́*т*ый 富ミタル	бога́*ч-е*

〔乙〕其他ノ形容詞ハ比較級ノ語尾ヲ *e* トシ其際歯音 *m* 及 *cm* ヲ對應ノ上顎音 (§ 5, 10) ニ變シ (即チ *m* ハ *ц* ニ *cm* ハ *щ* ニ) 最勝級ハ歯音ヲ變ゼズシテ *ѣйшій* ヲ語尾トス例ハ

m	крутóй 嶮ナル、急激ナル	кру́*ц-е*	
cm	густóй 濃キ	гу́*щ-е*	
	простóй 平易ナル、單純ナル	про́*щ-е*	
	тóлстый 太キ	тó*лщ-е*	
	ча́стый 屢ナル、密ナル	ча́*щ-е*	
	чи́стый 清キ、純粋ノ	чи́*щ-е*	
例外	жёлтый 黄色ノ	*желт-ѣе*	無シ
	святóй 聖ナル	(*свят-ѣе*)	свят-е́йшій
	сы́тый 満腹ノ	*сыт-ѣе*	無シ

§ 60. 代名詞 (Мѣстоиме́nie)

1. 代名詞トハ名詞或ハ形容詞或ハ數詞ノ代用ヲ爲ス詞類ナリ、是ヲ以テ、代名詞ハ其使用ニ依テ二種ニ分カルベシ 即チ名詞的代名詞 (мѣстоиме́nie-существи́тельное) ト形容詞的代名詞 (мѣстоиме́ nie-прилага́тельное) ナリ、名詞的代名詞ハ名詞ノ體ヲ爲シテ使用セラル例ハ я (我レ), ты (汝), онъ (彼レ), кто ? (誰レ), что ? (何) 等ニシテ此種ノ代名詞ハ其數、多カラズ、而シテ形容詞的代名詞ハ形容詞ノ體ヲ爲シテ使用セラル、例ハ мой (我ガ), твóй (汝ノ), какóй ? (如何ナル) 等ニシテ此種ノ代名詞ハ形容詞ノ如ク常ニ名詞ニ關係ヲ有シ、其關係スル所ノ名詞ト性、數、格ヲ以テ一致ス、但シ或ル形容詞的代名詞ハ § 41, II, 3 ノ形容詞ノ如ク時トシテ 名詞ト共ニセズシテ使用セラレ且ツ名詞ノ體ヲ爲ス、詳密ノ說述 後ニ在リ

2. 代名詞ハ單一的ト合成的ノ二種アリ例ハ я (我), ты (汝), кто (誰) 等ハ單一的ニシテ никтó (誰レモ), нискóлько (幾干モ、毫モ), кто-нибу́дь (誰ナリカ) 等ハ合成的ナリ語尾 ый, ій, ой ヲ有スル代名詞ハ形容詞ノ如キ變化ノ式ヲ有シ其他ノ代名詞ハ概シテ不規則的ニ變化ス

3. 代名詞ノ種類ハ次ノ如シ

人代名詞 (ли́чное)	定代名詞 (опредѣли́тельное)
再歸代名詞 (возвра́тное)	不定代名詞 (неопредѣлённое)
物主代名詞 (притяжа́тельное)	相互代名詞 (взаи́мное)
指示代名詞 (указа́тельное)	個數代名詞 (коли́чественное)
疑問代名詞 (вопроси́тельное)	否定代名詞 (отрица́тельное)
關係代名詞 (относи́тельное)	

備考　個數代名詞及否定代名詞ハ他ノ代名詞ノ分類ニ入ルヽヲ常トスレ𪜈本書ニ於テハ學習ニ便ナラシメン爲ニ斯クハ分類セリ

§ 61. 人代名詞 (Ли́чное мѣстоиме́nie)

1. 人代名詞ハ я (我), ты (汝), онъ (彼), мы (我等), вы (汝等), они (彼等) ナリ

2. 人代名詞ハ不規則的變化ヲ成ス、其役格ハ單複兩數共ニ生格ト同一ナリ但シ сНЪ ノ女性ノ單數ノ役格ハ ёё ト成ル而シテ其性格 ей モ同ク ёё ト發音ス

	單數					複數			
			彼レ(男性)	彼レ(中性)	彼レ(女性)		汝等、貴君	彼等(男中性)	彼等(女性)
名	я 我	ты 汝	онъ	оно	онá	мы 我等	вы	онú	онЪ́
生	меня́	тебя́	(н) его (§ 4, 5)		(н) ея́	насъ	васъ	(н) ихъ	
與	мнѣ́	тебѣ́	(н) ему́		(н) ей	намъ	вамъ	(н) имъ	
役	меня́	тебя́	(н) его́		(н) её	насъ	васъ	(н) ихъ	
造	мно́ю (о́й)	тобо́ю (о́й)	(н) имъ		(н) е́ю (ей)	на́ми	ва́ми	(н) ими	
前置	о мнѣ	о тебѣ	о нёмъ		о ней	о насъ	о васъ	о нихъ	

3. 代名詞 онъ ハ前置詞ト共ニ使用セラル、時ハ其聲調ヲ清ラカナラシメン爲ニ н ノ字ヲ前綴ス、例ハ у него́, у ней́, у нихъ; къ нему, къ ней, къ нимъ; съ нимъ, съ не́ю, съ ни́ми 等ナリ

4. 人代名詞ハ前置詞 по (三個ノ格ヲ支配スル所ノ) ト共ニスル時ハ 如何ナル 意義ヲ有スル場合ニテモ唯々前置格ヲ以テノミ使用セラル、即チ по мнѣ, по тебѣ, по нему́, по ней, по насъ, по васъ, по нихъ.

5. (§ 18, 4 參照)

У меня́ есть. 我ハ有ス、我レニ存ス Есть ли у меня́? 我ハ有スルヤ、我ニ存スルヤ
У тебя́ есть. 汝ハ有ス、汝ニ存ス Есть ли у тебя́? 汝ハ有スルヤ、汝ニ存スルヤ
У него́ есть. 彼ハ有ス、彼ニ存ス Есть ли у него? 彼ハ有スルヤ、彼ニ存スルヤ
У ней́ есть. 彼女ハ有ス、彼女ニ存ス Есть ли у ней́? 彼女ハ有スルヤ、彼女ニ存スルヤ
У насъ есть. 我等ハ有ス、我等ニ存ス Есть ли у насъ? 我等ハ有スルヤ、我等ニ存スルヤ
У васъ есть. 汝等ハ有ス、汝等ニ存ス Есть ли у васъ? 汝等ハ有スルヤ、汝等ニ存スルヤ
У нихъ есть. 彼等ハ有ス、彼等ニ存ス Есть ли у нихъ? 彼等ハ有スルヤ、彼等ニ存スルヤ
У меня́ нѣтъ. 我ハ有セズ、我ニ存セズ Нѣтъ ли у меня? 我ハ有セザルヤ、我ニ存セザルヤ
У тебя́ нѣтъ. 汝ハ有セズ、汝ニ存セズ Нѣтъ ли у тебя? 汝ハ有セザルヤ、汝ニ存セザルヤ
У него́ нѣтъ. 彼ハ有セズ、彼ニ存セズ Нѣтъ ли у него? 彼ハ有セザルヤ、彼ニ存セザルヤ
У ней́ нѣтъ. 彼女ハ有セズ、彼女ニ存セズ Нѣтъ ли у ней? 彼女ハ有セザルヤ、彼女ニ存セザルヤ
У насъ нѣтъ. 我等ハ有セズ、我等ニ存セズ Нѣтъ ли у насъ? 我等ハ有セザルヤ、我等ニ存セザルヤ
У васъ нѣтъ. 汝等ハ有セズ、汝等ニ存セズ Нѣтъ ли у васъ? 汝等ハ有セザルヤ、汝等ニ存セザルヤ
У нихъ нѣтъ. 彼等ハ有セズ、彼等ニ存セズ Нѣтъ ли у нихъ? 彼等ハ有セザルヤ、彼等ニ存セザルヤ
У меня́ былъ, о, а, и. 我ハ有シタリ、我ニ存シタリ Былъ, о, а, и ли у меня? 我ハ有シタリシヤ、我ニ存シタリシヤ

У тебя былъ, о, а, и. 汝ハ有シタリ、汝ニ存シタリ

У него былъ, о, а, и. 彼ハ有シタリ、彼ニ存シタリ

У нея не былъ, о, а, и. 彼女ハ有セザリシ、彼女ニ存セザリシ

У насъ не было. 我等ハ有セザリシ、我等ニハ無カリシ

У васъ не было. 汝等ハ有セザリシ、汝等ニハ無カリシ

У нихъ не было. 彼等ハ有セザリシ、彼等ニハ無カリシ

Былъ, о, а, и ли у тебя? 汝ハ有シタリシヤ、汝ニ存シタリシヤ

Былъ, о, а, и ли у него? 彼ハ有シタリシヤ、彼ニ存シタリシヤ

Не былъ, о, а, и ли у нея? 彼女ハ有セザリシヤ、彼女ニ存セザリシヤ

Не было ли у насъ? 我等ハ有セザリシヤ、我等ニハ無カリシヤ

Не было ли у васъ? 汝等ハ有セザリシヤ、汝等ニハ無カリシヤ

Не было ли у нихъ? 彼等ハ有セザリシヤ、彼等ニハ無カリシヤ

6. 若シ主語ガ動詞ノ不定法ニシテ而シテ客語ガ形容詞タル時ハ此形容詞ハ必ズ單數ノ中性(斷尾式)ニ立ツ而シテ斯カル場合ノ動詞 быть (主語ト客語ノ連結)ハ必ズ無人稱的ニ使用セラル即チ單數ノ第三人稱ニ立ツ、過去ニ於テハ中性ノミニ立ツ即チ было, не было ト成ル而シテ現在ニ於テハ連結タル есть ハ省略セラレ唯々其意味ヲ文中ニ含ムノミナリ、且ツ主語ガ不定法タル時ハ其補語タル有生物ハ與格ト成ル、例ハ

Мнѣ мо́жно взя́ть кни́гу. (我ニハ此書ヲ取ルヿガ出來ル)

Мо́жно ли *мнѣ* взя́ть кни́гу? (我ニハ此書ヲ取ルヿハ出來ルヤ即チ我ハ此書ヲ取リテモ可ナルヤ)

Ему́ ну́жно (на́до) за́втра ѣ́хать. (彼ニハ明日乘往クヿヲ要ス、即チ彼ハ明日乘往カヌバナラヌ)

На́до ли *ей* писа́ть пи́сьма? (彼女ハ手紙ヲ書クヿハ必要ナルヤ、彼女ハ手紙ヲ書ク必要アルヤ)

Ему́ необходи́мо было обрати́ться къ до́ктору. (彼ニハ醫者ニ診察ヲ請フヿノ必要アリシ)

Намъ жа́лко было разстава́ться съ нимъ. (我等ニハ彼ト訣別スルヿガ惜シカリシ)

Не вре́дно ли *вамъ* кури́ть таба́къ? (貴君ニハ喫煙ハ害ナラズヤ)

Прія́тно ли *вамъ* бы́ло встрѣ́тить ихъ? (彼等ヲ迎フルヿハ貴君ニハ快ナリシヤ)

Имъ тру́дно было учи́ть уро́къ. (日課ヲ學フヿハ彼等ニハ困難ナリシ)

主語タル不定法動詞ニ應スル所ノ客語タル形容詞ノ意義ヲ以テ副詞 нельзя́ (ナラヌ)及ヒ名詞лѣнь (怠リ)ハ屢々使用セラル、例ハ *Нельзя́* ли *мнѣ* ви́дѣть отца́? (父ヲ見ルヿハ我レニハナラズヤ) *Ему мнѣ* было переписа́ть сочине́ніе. (文章ヲ淸書スルヿハ彼レニハ怠リトナリシ、文章ノ淸書ヲ彼ハ怠リシ)

7. 動詞 быть ハ性質副詞 ве́село (樂ク), ску́чно (退屈ニ), хо́лодно (寒ク), прохла́дно (小寒ム ク), жа́рко (暑ク), жа́лко (惜シ), жаль (憂念), (жаль ハ變化スベカラザル名詞ナリ)等ト共ニシテ常ニ無人稱的ニ使用セラル (前規則ヲ參照)、而シテ之ニ對スル有生物ハ與格ト成ル、例バ *Мнѣ* здѣсь ве́село (我ニハ此處ニ樂シ). Не ску́чно ли *вамъ* было тамъ? (彼處ニ於テ貴君ニハ退屈ナラザリシヤ). *Ему́* жа́рко (彼ニハ暑シ). *Имъ* было хо́лодно (彼等ニハ寒カリシ). Ра́звѣ не *жаль* (жа́лко) *вамъ* его? (貴君ニハ豈ニ彼ハ惜カラズヤ)

§ 62. 再歸代名詞 (Возвра́тное мѣстоиме́ніе)

再歸代名詞ハ себя́ (己レ)ト云フ一語ノミナリ

人代名詞ガ主語タラズシテ主語ニ關係ヲ有スル場合ニ於テ再歸代名詞ハ人代名詞ノ代用ヲ爲ス而シテ此代名詞ハ主語ノ代用ヲ爲ス事ナキ故ニ名格ヲ有セズ

再歸代名詞ノ複數ハ單數ト同一ナリ、其變化ハ себя́ (生格), себѣ́ (與格), себя́ (役格), собо́ю (造格), о себѣ́ (前置格).

備考　自動詞ニ接尾スル際ニハ再歸代名詞　себя́　ハ簡略ニシテ　ся　或ハ　сь　ト成ル、例ハ одѣва́ть *себя́* (自身ニ衣服ヲ着セル)＝одѣва́ться (着服ス)

§63. 物主代名詞 (Притяжа́тельное мѣстоиме́ніе)

1. 物主代名詞ハ事物ガ人ニ屬スルヲ表ス

第一人稱	мой, моё, моя (我レノ)	нашъ, на́ше, на́ша, (我等ノ)
第二人稱	твой твоё, твоя́ (汝ノ)	вашъ, ва́ше, ва́ша (汝等ノ、貴君ノ)
第三人稱	его́ его́, ея (彼レノ)	ихъ (彼等ノ)
	свой, своё, своя́ (己レノ)	
	чей, чье, чья (誰ノ) § 65, 3	

2. 變化式

格	單數			複數	單數			複數
	男性	中性	女性	男中女性	男性	中性	女性	男中女性
名	мо-й́	мо-ё	мо-я́	мо-и́	наш-ъ	на́ш-е	на́ш-а	на́ш-и
生	мо-его́ (§ 4,5)		мо-е́й	мо-и́хъ	на́ш-его (§ 4,5)		на́ш-ей	на́ш-ихъ
與	мо-ему́		мо-е́й	мо-и́мъ	на́ш-ему		на́ш-ей	на́ш-имъ
役	名格或ハ生格	мо-е́	мо-ю́	名格或ハ生格	名格或ハ生格	на́ш-е	на́ш-у	名格或ハ生格
造	мо-и́мъ		мо-е́ю(ей)	мо-и́ми	на́ш-имъ		на́ш-ею(ей)	на́ш-ими
前置	о мо-ём		о мо-е́й	о мо-и́хъ	о на́ш-емъ		о на́ш-ей	о на́ш-ихъ

代名詞 твой 及 свой ハ мой ト同シキ變化式ヲ有ス

ваш ハ нашъ ト同シキ變化式ヲ有ス而シテ вашъ ハ「貴君ノ」ト云フ敬意ヲ以テモ使用セラル

物主代名詞 его́, ея́, ихъ, ハ變化セズ例ハ его братъ, его брата, его брату... 此物主代名詞ハ前置詞ト共ニスルニ際シテ　н　ノ字ヲ語頭ニ附加セズ此點ニ於テ人代名詞 онъ ト異ナル例ハ Я былъ у него́ (人代名詞) и *у его́* 物主代名詞) сы́на (我ハ彼レノ處ト彼レノ子息ノ處ニ居タリ)、Сестра́ получи́ла письма́ отъ *нея́* (人代名詞) и *отъ ея́* (物主代名詞) до́чери. (姉妹ハ彼女ト彼女ノ息女ヨリ手紙ヲ得タリ)、

代名詞 свой ハ各物主代名詞ノ代リニ使用セラル

3. 物主代名詞ノ代リニ人稱代名詞ノ與格ヲ用フルコトアリ例ハ Онъ *мнѣ* братъ (мой братъ ノ代リ). (彼ハ我ノ兄弟ナリ)、Онъ *тебѣ́* (твой ノ代リ) другъ. (彼ハ汝ノ親友ナリ)、Она была *ей* (ея ノ代リ) подру́га. (彼女ハ彼女ノ女友ナリシ)、

4. 比較級ヲ用フル際ニ чѣмъ 或ハ не́жели (ヨリ) ヲ省略スル時ハ人代名詞ノ生格ノ代リニ物主代名詞ノ生格ヲ用フルコトアリ例ハ Вы написа́ли лу́чше, чѣмъ я (貴君ハ我ヨリ宜シク書キタリ)＝Вы написа́ли лу́чше *меня́*＝Вы написа́ли лу́чше *моего́*.

5. 物主代名詞 Ва́ше, Его́, Ея́, Ихъ ハ各相當ノ爵位、身分ニ對スル敬稱ト共ニシテ敬意ノ意ヲ表ス即チ Вы ト稱スル代リニ Ваше 何々ト稱シ、Онъ ト稱スル代リニ Его 何々ト稱ス、例ハ Ва́ше Вели́чество (陛下), Его́ Вели́чество (陛下), Ея́ Вели́чество (皇后陛下), Ихъ Вели́чества (兩陛下)、(§ 147, 7 備考)

§ 64. 指示代名詞 (Указа́тельное мѣстоиме́ніе)

指示代名詞ハ事物及事物ノ性質ヲ指示ス
指示代名詞ニハ常用ト稀用ノ二種アリ

1. 常用ノ指示代名詞ハ

э́тотъ, э́то э́та (此ノ)
тотъ, то, та (ソノ)
тако́й, тако́е, така́я (斯ノ如キ)
тако́въ, таково́, такова́ (斯ノ如キモノ)
сто́лько (§ 71,3) (ソレ程)

格	單數			複數	單數			複數
	男性	中性	女性	男中女性	男性	中性	女性	男中女性
名	э́тот-ъ	э́т-о	э́т-а	э́т-и	тот-ъ	т о	т-а	т-ѣ
生	э́т-ого (§ 4,5)		э́т-ой	э́т-ихъ	т-ого́ (§ 4,5)		т-ой	т-ѣхъ
與	э́т-ому		э́т-ой	э́т-имъ	т-ому́		т-ой	т-ѣмъ
役	名格或ハ生格	э́т-о	э́т-у	名格或ハ生格	名格或ハ生格	т-о	т-у	名格或ハ生格
造	э́т-имъ		э́т-ою(ой)	э́т-ими	т-ѣмъ		т-о́ю(ой)	т-ѣми
前置	объ э́т-омъ		объ э́т-ой	объ э́т-ихъ	о т-омъ		о т-ой	о т-ѣхъ

э́тотъ 及 тотъ ノ中性タル это (コレハ) 及 то (ソレハ) ハ單複兩數ノ性ノ如何ニ拘ラズ凡テ事物ヲ指シテ主語トナル、而シテ斯ク主語トナル場合ハ二アリ〔第一〕名詞ガ客語ト成リシ際ニ於テ、例ハ Это—мой оте́цъ, а то—моя́ мать. (コレハ我父ナリ、シテ、ソレハ我母ナリ) 〔第二〕此代名詞ガ全體ノ文句ヲ指ス際ニ於テ、例ハ Кто звалъ меня́?—*Это* я васъ звалъ (誰カ我ヲ呼ヒシヤ、コレハ我レガ汝ヲ呼ヒシナリ)

тако́й ハ形容詞ノ如ク變化ス

тако́въ ハ名格ノミヲ客語トシテ使用サル、ノミ、其他ノ格ハ使用セズ(本來此代名詞ハ稀用指示代名詞 таковой ヲ簡略シタルモノナリ)

2. 稀用代名詞ハ

сей, сіе́, сія (コノ)
о́ный, о́ное, о́ная (ソノ)
таковой́, о́е, а́я (斯ノ如キ)
э́такій, ое, ая (此樣ナル)

格	單數			複數
	男性	中性	女性	男中女性
生	се-й́	сі-ё	сі-я́	сі-и́
	с-его́ (§ 4,5)		с-ей́	с-ихъ
	с-ему́		с-ей	с-имъ
造 前置	名格或ハ生格	сі-ё	сі-ю́	名格或ハ生格
	с-имъ		с-е́ю(ей)	с-и́ми
	о с-ёмъ		о с-ей́	о с-ихъ

óный, таковóй, э́такій ハ形容詞ノ如ク變化ス

凡テ此等ノ代名詞ハ書籍上ノ文章或ハ公文書ニ於テ使用ス、但シ сей ハ或ル名詞ト共ニシテ副詞ノ體ヲ成シ談話的文句ニモ使用ス、例ハ *сегóдня* (=*сегó дня*) (今日), *сей* чáсъ (即時ニ), *сию́* минýту (即刻), *до сих* поръ (是迄)

§ 65. 疑問代名詞 (Вопроси́тельное мѣстоиме́ніе)

1. 疑問代名詞ハ疑問ヲ含有スル文句ニ於テノミ之ヲ使用ス、若シ文句中ニ疑問代名詞ノ存スル時ハ疑問辭 ли ヲ使用スルニ及ハズ、如何トナレハ疑問ハ既ニ此代名詞中ニ含有スレバナリ

2. 疑問代名詞ハ次ノ如シ

кто? 誰	какóвъ, б, á, ы? 如何樣ナルモノ
что? 何	чей, чьё, чьи? 誰レノ
котóрый,-ое,-ая? 孰レノ	скóлько? 幾許 § 71,3
какóй,-ое,-ая? 如何ナル	(кой=котóрый) 孰レノ

3. 變化式

	單數			複數
			男性 中性 女性	男中女性
名	кто	что	чe-й чь-ё чь-я	чь-и
生	когó	чегó	чь-егó(§4,5) чь-ей	чь-ихъ
與	кому́	чему́	чь-ему́ чь-ей	чь-имъ
役	когó	что	名格或ハ生格 чь-ё чь-ю	名格或ハ生格
造	кѣмъ	чѣмъ	чь-и́мъ чь-ёю(ей)	чь-и́ми
前置	о комъ	о чёмъ	о чь-ёмъ о чь-ей	о чь-ихъ

若シ代名詞 кто? ガ主語タル時ハ其客語ハ單數トモ複數トモ成ルコトヲ得ベシ即チ主語ハ一人ナルヤ或ハ多人數ナルヤ其意義ニ應スルナリ、例ハ Кто пріѣхалъ? (誰ハ來リシヤ)—Пріѣхалъ отéцъ (父ハ來レリ). *Кто* пріѣха*ли*? (ドナタ方ハ來リシヤ)—Пріѣхали отéцъ и мать (父ト母ハ來レリ). Кто строгъ? (誰ハ嚴重ナルヤ)—Строгъ отéцъ (父ハ嚴重ナリ). *Кто* стрóги? (誰々ハ嚴重ナルヤ)—Стрóги учителя́ (教師等ハ嚴重ナリ)

疑問代名詞 кто? 及 что? ハ前置詞 по ト共ニスル時ハ其前置詞ハ如何ナル意義ヲ有スルトモ必ズ前置格ヲ以テノミ使用セラル即チ по комъ? по чёмъ? 代名詞 что 與格ハ前置詞 по ト共ニ使用セラルヽ時ハ代名詞タラズシテ副詞ノ意義ヲ有ス、即チ почему́? (何故ニ。何ニ由テ)

котóрый 及 какóй ハ形容詞ノ如ク變化ス

какóвъ ハ名格ノミヲ有シ、客語トシテ使用セラル(本來此語ハ稀用代名詞 каковóй ヨリ生セシナリ).

代名詞 чей ハ物主形容詞ノ如ク變化ス即チ語尾 ій, ье, ья ヲ有スル形容詞 (вóлчій ノ如キ § 49,2) ノ如シ、而シテ此代名詞ハ常ニ人格ヲ有スル者ヲ表示シ且ツ кто ノ生格ノ代リニ使用セラル、此代名詞ハ其關係ヲ有

スル名詞ト一致スル=性ト數ト格ヲ以テス、例ハ чей ребёнокъ, чьего́ ребёнка, чьему́ ребёнку... чьи дѣти (§ 32,9), чьихъ дѣте́й, чьимъ дѣтя́мъ....

代名詞 кой ハ使用至テ稀ニシテ僅ニ書籍上ニ於テノミ使用セラル、此代名詞ハ мой ト同ク變化ス但シ力點ハ必ズ кó ノ上ニ立ツ單數ノ名格ト役格ハ全ク使用セズ、кóего, кóему, кóимъ....

4. 代名詞 кто 及 что ハ常ニ名詞ノ如キ意味ニテ使用セラル、其他ノ疑問代名詞ハ形容詞ノ如キ意味ニテ使用セラル

котóрый ハ事物ノ順序ヲ表ス. Котóрый тепéрь часъ? (今ハ第幾時ナルヤ). Котóрый онъ сынъ: стáршій или мла́дшій? (彼レハ幾番目ノ子ナルヤ兄カ或ハ弟カ)

какóй ハ事物ノ品質ヲ表ス. Какóй онъ сынъ: хорóшій или нехорóшій? (彼レハ如何樣ナル子ナルヤ、善キ子ナルヤ或ハ善カラザル子ナルヤ).

5. 談話ノ際ニハ時トシテ какóй ヲ котóрый ノ意義ニテ使用スルコアリ、然レ𪜈此代用ハ使用セザルヲ可トス Котóрое сегóдня числó? ノ代リニ Какóе сегóдня числó? (今日ハ幾日ナルヤ).

代名詞 какóй ノ代リニ что ト за ヲ共用スルコアリ、是レハ客語ガ名詞タル場合ニ於テノミナリ. *Какóй* онъ человѣкъ? = *Что* онъ *за* человѣкъ? (彼レハ如何樣ナル人ナルヤ) какóй 及 какóвъ ノ代リニ副詞 какъ ヲ用フルコアリ、例ハ *Какóво* ва́ше здоро́вье? = *Какъ* ва́ше здоро́вье? (貴君ノ健康ハ如何).

代名詞 скóлько ノ代リニ時トシテハ что ヲ用フ、例ハ Что нóваго? (何ニカ少シハ新シキ事アルヤ) Что слёзъ тамъ бы́ло! (彼處ニ淚ヲ流セシコ幾許ゾヤ)

6. 疑問代名詞ハ時トシテ疑問ヲ表セズシテ感歎、稱贊ノ意ヲ表ス、例ハ Какóй прекра́сный сегóдня день! (今日ハ如何ナル好日ゾヤ).

7. 疑問代名詞ヲ重復シテ事物ノ種々雜多ナルヲ表スルコアリ但シ其際動詞ヲ否定式ニ立ツレ𪜈、否定ノ意ニハ非ズ、例ハ *Кого́-кого́* я не вида́лъ тамъ? (彼處ニ於テ我ハ見タトモ見タトモ多クノ人ヲ見タ)、*Какíхъ-какíхъ* люде́й тамъ нѣтъ! (彼處ニハ種々樣々ノ人々ガ在ル).

8. 若シ疑問代名詞ガ數個ノ文句ノ首端ニ相續キテ並ヒ立ツ時ハ斯カル疑問代名詞ハ疑問ノ意義ヲ有セズシテ「甲ハ」「乙ハ」「丙ハ」ノ意義ヲ有ス、例ハ Ученики́ ти́хо сидѣ́ли и занима́лись: *кто* чита́лъ, *кто* писа́лъ, *кто* рисова́лъ (生徒等ハ靜ニ坐シテ勉强セリ即チ甲ハ讀ミ、乙ハ書キ、丙ハ畵キタリ).

9. 若シ主語ガ不定法動詞ニシテ而シテ之レニ或ル疑問代名詞或ハ時ト場所ノ疑問副詞 когда́? гдѣ? куда́? отку́да? 等ガ關係ヲ有シ且客語ハ形容詞 мóжно (出來得ル), ну́жно (必要ナリ), на́до (要用ナリ), необходи́мо (必要ナリ), хорошó (可ナリ、宜シ) 等 (§ 61,6) ナル時ハ、屢々此客語ヲ省略ス殊ニ現在ニ立ツ時ハ之ヲ省略シテ唯々其意味ノミヲ文中ニ止ム、勿論其省略セラレタル客語ヲハ前後ノ文意ニ依テ之ヲ知リ易シ、例ハ *Кого́ мнѣ* спроси́ть объ э́томъ? = *Кого́ мнѣ* ну́жно 或ハ мóжно спроси́ть объ э́томъ? (此事ヲ我ハ誰ニ問フベキヤ)、Что мнѣ тепе́рь (на́до) дѣ́лать? (今我ハ何ヲ爲スベキヤ)、О чёмъ мнѣ было съ нимъ говори́ть? (我ニハ何事ヲ彼レト話ス可キナリシヤ)、Скóлько мнѣ (ну́жно) заплати́ть ему́? (我ニハ彼ニ幾許ヲ拂フベキヤ)、Когда́ ему́ придти́ къ вамъ? (彼ハ貴君ノ處ニ何時、往クベキヤ) Куда́ дѣ́тямъ идти́ гуля́ть? (兒童ハ何處ニ遊ビニ往クベキヤ)、

Гдѣ мнѣ положи́ть поку́пки？（我ハ買物ヲ何處ニ置クベキヤ）、Отку́да мо́жно доста́ть эту кни́гу？（此書ヲ何處ヨリ求メ得ベキヤ）

§ 66. 關係代名詞 (Относи́тельное мѣстоиме́ніе)

1. 關係代名詞ハ疑問代名詞ト同一ナレモ唯其意義ヲ異ニス

кто ソノ者	како́въ 如キ所ノ
что ソノ物	чей ソノ者ノ
кото́рый ソレ	ско́лько (§ 71) ダケ、程
како́й 如キ所ノ	(кой＝кото́рый)

2. 關係代名詞ノ變化式ハ疑問代名詞ノ變化式ノ如シ

3. 文章ニ二種アリ、主文章ト副文章、是レナリ、而シテ副文章 (прида́точное предложе́ніе) 即チ第二流ノ文章ハ常ニ此關係代名詞ヲ首端ニ用ヒテ以テ主文章 (гла́вное предложе́ніе) ニ關係ヲ有ス、副文章ハ常ニ主文章中ノ或ル語ヲ說明スルモノナリ

關係代名詞ノ詳密ナル說述ハ後ニ副文章ヲ說述ノ際ニ於テスベシ、今此處ニ於テハ概シテ副文章ノ二類ニ關スル大略ノ說明ヲ爲スベシ 即チ關係代名詞ヲ以テ始マル所ノ副文章 (間接疑問 ко́свенный вопро́съ) 及ヒ定語的副文章 (опредѣли́тельное прида́точное предложе́ніе) ノ說明是レナリ

4. 間接疑問 (ко́свенный вопро́съ) Кто вчера́ былъ у бра́та？（昨日、誰ハ兄弟ノ許ニ來リシヤ）、Я ещё не слы́шалъ, *кто вчера́ былъ у бра́та*（昨日、兄弟ノ許ニ來リシハ誰ナリシヤヲ我ハ未ダ聞カズ）. 此二文章中ニ於テ、前ノ文章ハ獨立ノ文章ニシテ是レ即チ疑問文章ナリ、之ヲ直接疑問 (прямо́й вопро́съ) ト稱ス、然レモ後ノ文章ニ於テハ是レト同一ナル文句ハ獨立文章タラズシテ他ノ文章 (即チ я не слы́шалъ) ニ關係ヲ有スル文章トナリ而シテ其文章ノ客語 слы́шалъ ヲ說明ス、是レ所謂副文章ナリ、偖又、疑問代名詞ヲ以テ始マリ且ツ他ノ文章ノ客語ニ關係ヲ有スル所ノ副文章ハ補語的文章 (дополни́тельное предложе́ніе) ト名ツケラル、此補語的文章ハ即チ間接疑問ナリ、О чёмъ они разгова́ривали？（彼等ハ何事ヲ話セシヤ）是レハ直接疑問ナリ、Онъ не говори́лъ мнѣ, *о чёмъ они разгова́ривали*（彼等ハ何事ヲ話セシヤヲ、彼ハ我ニ言ハザリシ）是レ間接疑問ナリ、Ско́лько онъ заплати́лъ за кни́гу？（彼ハ書籍ノ爲ニ幾許ヲ拂ヒシヤ）是レ直接疑問ナリ、Я не зналъ, *ско́лько онъ заплати́лъ за кни́гу*（彼ハ書籍ノ爲ニ幾許ヲ拂ヒシヤヲ、我ハ知ラザリシ）是レ間接疑問ナリ

露語ニ於テハ間接疑問ヲ以テ疑問文章ト見做サズ、是故ニ間接疑問ノ終尾ニハ疑問記號ヲ附セズ（前例ニ就テ見テモ明カナリ）、但シ間接疑問ガ關係ヲ有スル所ノ主文章ガ疑問ヲ有スル場合ニ於テノミ、間接疑問ノ終リニ疑問記號ヲ附ス、例ハ Зна́ли *ли* вы, кто вчера́ былъ у бра́та？（昨日兄弟ノ許ニ誰レガ來リシヤヲ貴君ハ知リシヤ）.

間接疑問ハ概シテ直接ニ主文章ニ連續ス（前例ニ依テ明カナリ）、但シ時トシテ副文章ノ關係代名詞ニ對シテ主文章ニ於テハ指示代名詞 тотъ ヲ用

ユル事アリ、若シ此指示代名詞 тотъ ガ文面ニ存スル時ハ必ズ主文章ノ動詞ノ要求ニ從フ、即チ其要求スル所ノ格ニ立ツ、例ハ Я ещё не слы́шалъ *о томъ*, кто вчера́ былъ у бра́та (昨日兄弟ノ許ニ誰レガ來リシヤ其事ヲ我ハ未ダ聞カザリシ).

○ 5. 定語的副文章(詳密ハ §§ 162-163參照)、若シ副文章ガ關係代名詞 кто, что, кото́рый, како́й ヲ以テ始マリ而シテ主文章ノ動詞ニ關係セズシテ動詞以外ノ他ノ語ニ關係ヲ有スル時ハ此副文章ヲ定語的副文章ト稱ス、斯カル場合ニ副文章ノ此關係代名詞ニ對應スルハ主文章ノ指示代名詞ナリ、即チ次表ノ如シ

代名詞 кто	ニ對應スルハ	тотъ (但シ名詞ト共ニセズ)
代名詞 что	ニハ	то (但シ名詞ト共ニセズ)
代名詞 кото́рый	ニハ	тотъ ト共ニ名詞ガ對應ス
代名詞 како́й	ニハ	такой ト共ニ名詞ガ對應ス

例ハ *Тотъ* сча́стливъ, *кто* дово́ленъ собо́ю (自身ノ現狀ニテ滿足ナル者、其者ハ幸福ナリ). Это-*тотъ*, *кто* приходи́лъ вчера́ (是レハ昨日來リシ者、其者ナリ). *То*, *о чемъ* онъ говори́лъ, о́чень интере́сно (彼ガ話シタル所ノソレハ甚タ面白シ) Сего́дня васъ спра́шивалъ *тотъ господи́нъ*, *кото́рый* приходи́лъ вчера́ (昨日來リシ所ノ、ソノ人ハ今日貴君ハ居ルヤト問フタリ) Я купи́лъ *таку́ю кни́гу*, *кака́я* у васъ (貴君ノ許ニ在ル如キ左樣ノ書物ヲ我ハ買フタリ).

指示代名詞 тотъ, то, тако́й ハ代名詞 что, кото́рый, какой ニ對應スル場合ニ於テ屢々省略セラレテ唯其意ヲ文中ニ止ムルコトアリ、例ハ Сего́дня васъ спра́шивалъ (тотъ) господи́нъ, кото́рый приходи́лъ вчера́. Я купи́лъ (таку́ю) кни́гу, кака́я у васъ.

定語的副文章ハ語句ノ意義ニ因テ主文章ノ後ニモ、或ハ其前ニモ(稀ナレド)或ハ其中間(殊ニ屢々使用セラル)ニモ立ツ、何ツレモ半點ヲ以テ主文章ト區分セラル、例ハ Это тотъ господи́нъ, кото́рый приходи́лъ вчера́ къ отцу́ (是レハ昨日父ノ許ニ來リシ所ノ其人ナリ). Кто довленъ собо́ю, тотъ сча́стливъ (自身ノ現狀ニテ滿足ナル者、其者ハ幸福ナリ). Кни́га, кото́рую мы чита́ли вчера́, очень интере́сна (昨日我等ガ讀ミシ所ノ書ハ大ニ面白シ)

6. 代名詞 кто, что, кото́рый, како́й ハ主文章中ニ關係ヲ有スル語(名詞或ハ形容詞)ト性及數ヲ以テ一致ス、然レドモ其格ハ副文章中ノ動詞或ハ名詞或ハ前置詞ノ要求ニ從フモノトス、例ハ Та кни́га, кото́рую мы чита́ли, интере́сна (我等ガ讀ミシ所ノソノ書ハ面白シ) 此文中ノ кото́рую ハ кни́га ニ關係ヲ有スル故ニ女性ノ單數ト成リシナリ而シテ役格ト成リシ所以ハ動詞 чита́ть ノ要求ニ應セシ故ナリ、又 Кни́ги, за которыми ты присыла́лъ, ещё у бра́та (汝ガ取リニ遣ハセシ書籍ハ未タ兄弟ノ許ニ在リ). 此文中ノ за кото́рыти ハ кни́ги ニ關係ヲ有スル故ニ女性ノ複數ト成リシナリ、而シテ造格ト成リシハ前置詞 за ノ要求ニ應シタルナリ

7. 若シ關係代名詞ノ格ガ動詞ニ從ハズシテ名詞ニ關スル時ハ此關係代

名詞ハ其名詞ノ後ニ立ツモノトス、例ハ Тотъ това́рищъ, кни́гу кото́раго (кото́раго кни́гу ノ代リニ) я далъ вамъ на-дня́хъ, вчера́ приходи́лъ за не́ю. 之ヲ直譯セントスルニハ副文章ヲ括弧内ニ入レザルヲ得ズ即チ「カノ朋友(其人ノ書籍ヲ先日我ハ汝ニ與ヘタリ)ハ書籍ノ爲ニ昨日來レリ」

§ 67. 定代名詞 (Опредѣли́тельное мѣстоиме́ніе)

1. 定代名詞ハ次ノ如シ

весь 凡テノ
вся́кій 誰レモ皆、孰レモ皆、有ラユル
ка́ждый 各ノ
самъ 自身
самый 自ラ、最モ、丁度
сто́лько (§ 71) ソレ程

2. 其變化式

格	單數			複數	單數			複數
	男性	中性	女性	男中女性	男性	中性	女性	男中女性
名	вес-ь	вс-ё	вс-я	вс-ѣ	сам-ъ	сам-о́	сам-а́	са́м-и
生	вс его́ (§ 4,5)		вс-ей	вс-ѣхъ	сам-ого́(§4,5)		сам-о́й	сам-и́хъ
與	вс-ему́		вс-ей	вс-ѣмъ	сам-ому́		сам-о́й	сам и́мъ
役	名或ハ生 вс-ё		вс-ю	名或ハ生	名或ハ生 сам-о́		сам-ое(сам-у́)	名或ハ生
造	вс-ѣмъ		вс-е́ю(ей)	вс-ѣми	сам-и́мъ		сам-о́ю(ой)	сам-и́ми
前置	о вс-ёмъ		о вс-ей	о вс-ѣхъ	о сам-о́мъ		о сам-о́й	о сам-и́хъ

всякій ト ка́ждый ト са́мый ハ形容詞ノ如ク變化ス

3. весь ハ二種ノ意義ヲ有ス、即チ一個ノ事物ノ 全體ヲ表ス、斯カル場合ニハ形容詞 цѣ́лый(全キ) ト同意義ト成リ、此形容詞ヲ代用スルモ可ナリ、例ハ весь годъ—цѣ́лый годъ (終年), весь стака́нъ—цѣ́лый стака́нъ (コップ一杯) 等ナリ、或ハ多數ノ事物ノ全數ヲ表ス、斯カル場合ニハ形容詞 цѣ́лый トハ同意義タラズ、例ハ всѣ э́ти дни (此諸日皆ナ)—цѣ́лые э́ти дни (此諸日、朝ヨリ晩マテ悉ク), всѣ ста́ка́ны (悉クノコップ)—цѣ́лые стака́ны (滿チタルコップ悉ク)、此代名詞ノ中性всё ハ名詞ト共ニセズシテ單獨ニ使用セラルヽ多シ、斯カル場合ニハ多數ノ事物ヲ表シテ「完ク」「丸ルデ」「凡テ」「一切」等ノ意ヲ有ス

此代名詞ノ生格 всего́, всѣхъ, изъ всѣхъ ハ最勝級ヲ表ス際ニ使用セラレ、多クノ事物全體ヨリ秀テタルヲ表ス爲メニス (§ 57)

4. всякій ハ概シテ事物ノ性質ヲ示ス、但シ同時ニ事物ノ數ニモ關スルコアリ、例ハ На свѣтѣ есть всякіе лю́ди: и че́стные и безче́стные, и у́мные и глу́пые, и бога́тые и бѣ́дные (世ノ中ニハ諸種ノ人アリ、廉潔ナル人モ不正ナル人モ、智者モ愚者モ、富者モ貧者モアリ). 此文ニ於テハ всякій ハ性質ヲ示ス、Всякій ученикъ зналъ э́то (孰レノ生徒モ之ヲ知レリ) 此文ニ於テハ всякій ハ優等生モ劣等生モ勉強ナル生徒モ怠惰ナル生徒ヲモ指ス即チ生徒ノ性質ニ關ス、然レモ亦同時ニ生徒ノ數ニモ關セザルニモ非ズ 又

вся́кій день гуля́лъ лѣтомъ 夏ニ我ハ如何ナル日ニモ (晴天ニモ雨天ニモ). 散歩セリ

5. каждый ハ事物ノ數或ハ順次ヲ表ス、例ハ Ка́ждый учени́къ зналъ э́то (各生徒ハ之ヲ知レリ) 此文ニ於テハ ка́ждый ハ甲ノ生徒モ乙ノ生徒モ丙ノ生徒ヲモ凡テ指ス、Онъ ка́ждый день ходи́лъ въ учи́лище (彼レハ毎日學校ニ往ケリ). 即チ月曜、火曜、水曜ト相次テ毎日往キシヲ表ス

備考 1. вся́кій ハ單數ノ名詞ニモ複數ノ名詞ニモ使用セラルレトモ ка́ждый ハ單數ニ立チタル名詞ニノミ使用セラル、例ハ ка́ждый день 或ハ ка́ждый годъ 等ノ如シ (ка́ждые дни 或ハ ка́ждые го́ды トハ言フ能ハズ)、但シ單數ヲ有セザル名詞ニ對シテハ複數ヲ用フ例ハ ка́ждыя воро́та (各ノ門).

備考 2. ка́ждый ハ數多ノ事物ヲ一括シテ集合體トシタル名詞ニ對シテモ又複數ヲ用フ、例ハ ка́ждые два дня (二日毎ニ)

6. самъ ハ事物ノ獨立或ハ不羈ナルヲ表ス

(甲) 人格ヲ有スル名詞ト共ニ用フ、例ハ Самъ Богъ (神自身), самъ оте́цъ (父自身), сама́ мать (母自身). (乙) 無生物ナリトモ有生物ノ意義ニテ使用スル時ハ此代名詞ト共ニスルコアリ例ハ Само́ Не́бо (天自身)、(丙) 人代名詞及再歸代名詞ト共ニス例ハ я самъ, ты самъ, онъ самъ, она сама́, самого́ себя́, само́й себя́... (丁) 順序數詞ト共ニス § 79, 3.

7. са́мый ハ事物ノ直接ナルヲ表ス而シテ殊ニ無生物名詞ト指示代名詞ト共ニ使用セラル э́тотъ са́мый (此物自身), тотъ са́мый (其物自身), тотъ же са́мый (其物自身、ソレト同一ノ), тако́й же са́мый (ソレト同樣ナル)

性質形容詞ト共ニシテ самый ハ最勝級ヲ組成ス (§57, I, 2) 此等ノ代名詞ハ二個相共ニ變化ス、例ハ

э́тотъ са́мый, э́того са́маго, э́тому са́мому...
э́то са́мое, э́того са́маго, э́тому са́мому...
э́та са́мая, э́той са́мой, э́той са́мой...

э́то самое и есть (ソレガ即チソレナリ)

§ 68. 不定代名詞 (Неопредѣлённое мѣстоиме́ніе)

不定代名詞ハ二種ニシテ單一的ト合成的ナリ

1.—1. 單一的ハ

оди́нъ 或ル
друго́й 又別ノ、他ノ
ино́й 別ノ、或ル
про́ч-ее,-іе,-ія 其餘
мно́г-ое,-іе,-ія 許多

2. 其變化式

格	單數			複數	
	男性	中性	女性	男中性	女性
名	оди́н-ъ	одн-о́	одн-а́	одн-и́	одн-ѣ́
生	одн-ого́ (§ 4, 5)		одн-о́й	одн-и́хъ	одн-ѣ́хъ
與	одн-ому́		одн о́й	одн-и́мъ	одн-ѣ́мъ
役	名格或ハ生格	одн-о́	одн-у́	名格或ハ生格ト同シ	
造	одн-и́мъ		одн-о́ю(ой)	одн-и́ми	одн-ѣ́ми
前置	объ одн-о́мъ		объ одн-о́й	объ одн-и́хъ	объ одн-ѣ́хъ

другóй 及 инóй ハ 形容詞ノ如ク變化ス

прóчее 及 мнóгое ハ 單數ニ於テハ中性ノミヲ使用シ且ツ名詞ト共ニスルヿナシ、譯スレバ「其餘ノ事」及「許多ノ事」ナリ、但シ複數ニ於テハ三性ヲ使用シ、變化ハ形容詞ノ如シ

3. 本來 одúнъ ハ 數詞ニシテ「一」ト云フ意義ナレヒ露語ニ於テハ此語ヲ數詞トシテヨリモ代名詞トシテ使用スル事多シ、代名詞トシテ使用セラルヽ場合ニハ此語ハ「或ル」ト云フ意義ヲ有シ(單數ニ於テ)、複數ニ於テハ「或ル」及「何々バカリ」ノ 意義ヲ有ス、而シ одúнъ ト другóй ト對比シテ使用セラルヽ場合ニハ「甲ハ何々乙ハ何々」等ノ「甲」ト「乙」ノ意ニ當ル或ハ「一ツハ何々、一ツハ何々」ノ意ニ當ル

одинъ ハ代名詞 тотъ ト共ニ使用セラルヽ時、即チ одúнъ и тотъ же トナル時ハ「同一ナル」ノ意義ヲ有ス而シテ二語相共ニ變化ス即チ одúнъ и тотъ же, одно́ и то́ же́, одна́ и та́ же ; одного́ и того́ же, одно́й и той же ... 等ナリ

4. инóй 及 прóчее ハ 談話體文句ニ於テハ殆ント使用セラルヽヿナシ

III. 合成的不定代名詞.

1. 此代名詞ハ 不定ヲ表スル附字ヲ疑問代名詞ノ 前後ニ附合シテ 組立テラル、即チ то, нибудь, лúбо, кóе (或ハ кой ト略ス), нѣ 等ノ附字ニシテ前ノ三箇ハ疑問代名詞ノ後ニ附合シ其他ハ疑問代名詞ノ前ニ附合ス、нибудь ト лúбо ハ同一ノ意義ヲ有スレヒ либо ハ 談話ニハ使用セズシテ書籍文殊ニ高尚ナル文章ニ使用シ、нибудь ハ 專ラ談話ニ使用ス、但シ悉クノ疑問代名詞ニ此等ノ附字ヲ附合スヘキニハ非ズ

кто-*то* 誰ナリシカ	кто-*нибýдь* (*лúбо*) 誰ナリカ、何人カ	*кóе*(*кой*)-кто 誰レカ少シハ、某々	*ни*кто 或人
что-*то* 何ナリシカ	что-*нибýдь* (*лúбо*) 何ナリカ、何物カ	*кóе*-что 何カ少シハ、多少	*ни*что 或物
котóрый-*то* ドレナリシカ	котóрый-*нибýдь* (*лúбо*) ドレナリカ	(無シ)	*ни*котóрый, *ни*кóй 或者
какóй-*то* 或ル	какóй-*нибýдь* (*лúбо*) 如何樣ノナリカ	*кóе*-какóй 如何樣ナル物カ少シハ	(無シ)
чей-*то* 誰レノナリシカ	чей-*нибýдь* (*лúбо*) 誰ノナリカ	*кóе*-чей 誰ノナリシカ少シハ	(無シ)
скóлько-*то* 幾干ナリシカ	скóлько-*нибýдь* (*лúбо*) 幾干ナリカ、何程カ	(無シ)	*ни*сколько 若干

2. 合成的不定代名詞ハ 凡テ疑問代名詞ノ如ク變化ス 但シ其附字ハ變化セズ、例バ

кто-то, кого́-то, кому́-то, кого́-то, кѣмъ-то, о комъ-то

что-нибýдь, чего́-нибудь, чему́-нибудь, что-нибýдь, чѣмъ-нибýдь, о чёмъ-нибýдь

кóе-кто, кóе-кого́, кóе-кому́, кóе-кого́, кóе-кѣмъ, кóе-о-комъ

若シ附字 кое (кой) ヲ有スル不定代名詞ノ傍ニ前置詞ノ立ツヘキ時ハ附字ノ後ニ之ヲ立ツ、例バ у кой-кого ノ代リニ кой-у-кого ト成ル къ кое-кому ノ代リニ кое-къ-кому

нѣкто ハ名格ノミヲ使用ス нѣчто ハ名格ト役格ノミヲ使用ス　нѣкто 及ビ нѣчто ハ談話ニハ使用スルコトナクシテ同一ノ意義ヲ有ス кто-то, что-то, одинъ, какой-то 等ヲ使用ス、

нѣкій ヲハ使用スル コト稀ニシテ僅ニ書籍上ニ於テノミ使用ス、語尾ノ變化ニ特異アリ、即チ下表ノ如シ

名格	нѣк-ій нѣк-ое	нѣк-ая	нѣкі-е нѣкі-я
生格	нѣко-его	нѣко-ея	нѣкі-ихъ
與格	нѣко-ему	нѣко-ей	нѣкі-имъ
役格	нѣко-его	нѣк-ую	нѣкі-ихъ
造格	нѣкі-имъ	нѣко-ею	нѣкі-ими
前置格	о нѣко-емъ	о нѣко-ей	о нѣкі-ихъ

§ 69. 相互代名詞 (Взаи́мное мѣстоиме́ніе)

相互代名詞ハ другъ дру́га (相互ニ、交モ) 及 оди́нъ друго́го (相互ニ、交モ) ナリ

1. другъ дру́га 此代名詞ハ 有生物ニ對シテノミ 使用セラル而シテ數ト性ニ應シテ變スルコトナシ、變化ノ際ニハ後ノ語ノミ變化シテ前ノ語ハ變化セズ、前置詞ヲ用ユル場合ニハ 此兩語ノ間ニ 挿入スルヲ 常トス例ハ Мы ча́сто быва́ли другъ *у* друга (я у него ノ代ニ) (我等ハ屢々相互ニ往來シタリ)、Ва́ша сестра́ и моя́ неда́вно *поссо́рились* другъ *съ* дру́голъ (сестра́ съ сестро́ю) (汝ノ姉妹ト我カ姉妹ハ先日相互ニ爭フタリ)

(名格) 無シ　(與格) другъ дру́гу　(造格) другъ дру́гомъ
(生格) другъ дру́га (役格) другъ дру́га　(前置格) другъ о дру́гѣ

2. оди́нъ друго́го 此代名詞ハ有生物ニ對シテモ無生物ニ對シテモ使用セラル、然レモ之レヲ使用スルハ概シテ稀ナリ、此代名詞ハ性ト數ヲ有シ兩語共ニ變化ス、變化ノ際ニハ其代用タル名詞ノ性ト 數ト格ト一致ス、而シテ前置詞ハ兩語ノ間ニ挿入セラル、例バ Братъ и сестра́ о́чень *люби́ли* одинъ другу́ю (即チ оди́нъ братъ другу́ю сестру́), они ча́сто быва́ли одинъ *у* друго́й (兄ト妹ハ互ニ甚ダ相愛セリ、彼等ハ屢々相往來セリ)

3. 此代名詞ハ時トシテハ相互ヨリハ寧ロ連續ヲ表示スル場合アリ例ハ Дома́ въ го́родѣ оди́нъ лу́чше друго́го (市中ノ家屋ハ何レモ華美ナリ、市中ノ家屋ハ市内ニ進ミ行クニ從ツテ益々華美ナリ)、斯カル場合ニハ此代名詞 (оди́нъ друго́го) ノ代リニ оди́нъ одного́ ヲ使用スル事ヲモ得ベシ即チ Дома́ въ го́родѣ одинъ одного́ лу́чше. Мы бѣжали одинъ *за* други́мъ = Мы бѣжа́ли одинъ за одни́мъ (我等ハ相連リテ走レリ) Кни́ги лежа́ли одна́ на одно́й (=одна́ на друго́й) (書籍ハ相重リテ存セリ)

§ 70. 否定代名詞 (Отрица́тельное мѣстоиме́ніе)

1. 否定代名詞ハ疑問代名詞ニ否定 ни ヲ附加シテ以テ成ル

*ни*кто́ 誰レモ……ナシ
*ни*что́ 何モ……ナシ
*ни*чей 誰ノモ……ナシ
*ни*кото́рый ドレモ……ナシ
*ни*како́й 如何ナル……モナシ
ни оди́нъ 一ノ……モナシ
*ни*ско́лько 毫モ……ナシ (§ 71, 3)

2. 否定代名詞ハ疑問代名詞ノ如ク變化ス、而シテ其傍ニ前置詞ヲ立ツヘキ場合ニハ附字ノ後ニ之ヲ立ツ例バ никто́, никого́, никому́, никого́, никѣмъ, ни о комъ

3. 否定代名詞ハ否定文句ニ於テノミ使用セラル即チ客語ニ否定 не ノ存スル場合ニ於テス

4. 否定代名詞 никото́рый ハ殆ト使用セラルヽコナク、常ニ他ノ否定代名詞 ни оди́нъ никто, ничто 等ヲ以テ之ニ換ユ

II. 否定代名詞 никто́ 及 ни́что́ ノ第二式

此式ニ於テハ代名詞 никто́ 及 ничто́ ハ否定ヲ ни トセズシテ не トス成シ而シテ力點ハ常ニ此否定ノ上ニ附ス、其變化ハ第一式ト異ナラズ、前置詞ノ立ツベキ時ハ同シク否定ノ後ニ立ツ

名格	(никто)		(ничто)	
生格	не́кого	не́ *у* кого	не́чего	не́ *отъ* чего
與格	не́кому	не́ *къ* кому	не́чему	не́ *къ* чему
役格	не́кого (§ 4, 5)	не́ *на* кого	не́чего	не́ *за* что
造格	не́кѣмъ	не́ *съ* кѣмъ	не́чѣмъ	не́ *съ* чѣмъ
前置格	не́ *о* комъ		не́ *о* чемъ	

此式ニ於テ否定代名詞 никто 及 ничто ヲ使用スル場合ハ、否定 не ガ動詞 быть ヨリシテ代名詞 кто 及 что ニ轉動スル際ナリ、之ニ由テ не＋кто 及 не＋что トス成ル、而シテ斯カル否定 не ノ轉動ハ定語的文章ヲ簡略スル場合ニ於テノミ行ハル、§ 163, W 2 參照

§ 71. 個數代名詞 (Коли́чественное мѣстоиме́ніе)

1. 個數代名詞ハ次ノ如シ

ско́лько 幾許、ダケ	疑問代名詞トモ關係代名詞トモ成ル
сто́лько (ソレ程)	指示代名詞トモ成ル
*нѣ*сколько (若干) ско́лько-*то* (幾干ナリシカ), ско́лько-*нибудь* (幾干ナリカ) トモ)	不定代名詞トモ成ル
*ни*ско́лько (毫モ)	否定代名詞トモ成ル
мно́го, ма́ло, немно́го	定代名詞トモ成ル

2. 是等ノ語ハ凡テ代名詞トシテモ副詞トシテモ使用セラル

是等ノ語ガ文章ニ於テ名詞ニ關係スル時ハ代名詞ノ意義ト成ル例ハ Ско́лько учениковъ ещё не пріѣхало? (幾人ノ生徒ハ未ダ來ラザルヤ)—Мно́го учениковъ ещё не пріѣхало (多クノ生徒ハ未タ來ラズ). 此文章ニ於テハ сколько 及 много ハ代名詞ナリ、而シテ代名詞タル故ニ是等ノ語ハ變化ス、又動詞ニ關係スル時ハ是等ノ語ハ副詞ト成ル、例ハ Ско́лько вчера́ вы занима́лись? (昨日貴君ハ何程勉强セシヤ)—Вчера я занима́лся мно́го (昨日我ハ多ク勉强セリ). 此文章ニ於テハ сколько 及 много ハ副詞ナリ

3. ско́лько, сто́лько, нѣсколько, ниско́лько.

(甲) 此代名詞ハ凡テ形容詞ノ喉音變化式ニ從フ(即チ строгій § 45, 2 ノ

如ク變化ス)、但シ複數ノミヲ有シテ單數ヲ有セズ、而シテ名格ト役格(役格ハ常ニ名格ト同一ナリ)ニ於テハ特異ノ語尾 o (ия ノ代リニ)ヲ有ス、例ハ

名格 скóльк·о	與格 скóльк-имъ	造格 скóльк-ими
生格 скóльк-ихъ	役格 名格ト同シ	前置格 о скóльк-ихъ

備考　若シ代名詞 нискóлько ト共ニ前置詞ガ立ツ時ハ、其前置詞ハ附字 ни ノ後ニ立ツ、例ハ *ни за скóлько* (за нисколько ノ代リニ)

(乙) 是等ノ代名詞ト共ニ名詞ノ立ツ時ハ、其名詞ハ名格ニ於テ生格ノ語尾ヲ受ク且ツ有生名詞ト無生名詞ニ論ナク凡テ斯カル場合ノ名詞ノ役格ハ名格ト同一タルベシ即チ斯カル名詞ハ役格ニ於テモ生格ノ語尾ヲ受ク、其他ノ諸格ニ於テ　是等ノ代名詞ハ名詞ト一致ス、

若シ斯カル名詞ト共ニ形容詞ノ存スル時ハ、其形容詞ハ諸格ニ於テ名詞ト一致ス、例ハ

名格 скóлькo человѣкъ (§ 24,12)	нѣсколько рýсскихъ книгъ
生格 скóлькихъ человѣкъ	нѣсколькихъ рýсскихъ книгъ
與格 скóлькимъ человѣкамъ	нѣсколькимъ рýсскимъ книгамъ
役格　名格ト同一	名格ト同一
造格 скóлькими человѣками	нѣсколькими рýсскими книгами
前置格 о скóлькихъ человѣкахъ	о нѣсколькихъ рýсскихъ книгахъ

備考　名詞(並ニ名詞ト共ニスル形容詞モ)ハ個數代名詞ト共ニスル際ニ於テモ單數ヲ使用セヲルヽヿアリ、斯カル場合ノ名詞ノ單數ハ概シテ事物ニ就キテ言フ場合ナリ、複數ヲ使用スル時ハ必ズ數量ヲ表示ス、Въ э́той рѣкѣ мно́го ры́бы (此河ニハ魚ハ多シ) 此文ノ意味ハ河中ニ魚ハ多シト單ニ言フナリ、Сего́дня я пойма́лъ нѣсколько бо́льши́хъ ры́бъ и мно́го малыхъ (今日 我ハ大ナル魚數匹ト小ナル魚數匹ヲ捕ヘタリ) 而シテ單數ヲ使用スル場合、即チ單ニ之ヲ言フ時ハ個數代名詞ハ二格ノミニ限リテ使用セラル即チ名格ト役格ナリ、На столѣ лежа́ло мно́го бума́ги (卓上ニ紙ハ多ク存セリ)、此文ノ主語ハ名格ト異レリ

(丙) 名詞 годъ ハ此種ノ代名詞ト共ニシテ變化スル時ニハ三個ノ格(即チ名格、生格、役格)ノ爲ニハ лѣто (§ 24,13) ヲ使用シ、其他ノ格ニ於テハ通常ノ變化ヲ爲ス、即チ下表ノ如シ

名格 скóлько *лѣтъ*	役格　名格ト同一
生格 скóлькихъ *лѣтъ*	造格 скóлькими года́ми
與格 скóлькимъ года́мъ	前置格 о скóлькихъ года́хъ

備考　пять 以上ノ數詞(§ 76, 9)ト共ニ此ノ名詞カ變化スル時モ斯ノ如シ

(丁) 前置詞 по (ヅヽノ意味ニテ使用ノ)ガ與格ヲ要求シテ而シテ此種ノ代名詞ト共ニスル時ハ不規則ヲ有シテ у ヲ語尾トス而シテ之ニ添フタル名詞ハ必ズ生格ト成ル例ハ *по* скóльк*у* человѣкъ (по скóлькимъ человѣкамъ ノ代リニ), *по* нѣскольк*у* рублей (по нѣсколькимъ рубля́мъ ノ代リニ)、

(戊) 此代名詞ハ諸格ノ變化ヲ爲スヲ得ベケレモ、大概ノ場合ニハ(名格、與格、役格ヲ除クノ外)此代名詞ノ代リニ他ノ同意義ナル語ヲ使用スルヲ常トス、例ハ И наконе́цъ со сто́лькими

затрудне́ніями онъ дости́гъ свое́й цѣ́ли (トウ々々、彼ハ斯程ノ困難ヲ以テ其目的ニ達セリ). 此文章ニ於テハ со сто́лькими затрудне́ніями ノ代リニ съ таки́мъ мно́жествомъ затрудне́ній (斯カル多数ノ困難ヲ以テ)ト云フ辭句ヲ使用スルヲ可トス

(已) 若シ個數代名詞ト共ニスル所ノ名詞カ主語タル時ハ、其客語タル形容詞ハ複數ト成ル例ハ *Нѣсколько* учени́ковъ больны́ (生徒ノ數名ハ病氣ナリ)、而シテ其客語ハ動詞タレバ單數ト成ル (§ 18, 7) 例ハ *Ско́лько* учени́ковъ пріѣха*ло*? (生徒ノ幾名ハ來リシヤ)

4. много, мало, немного

(甲) 代名詞トシテノ此語ハ變化スレモ、唯二格ノミヲ有ス即チ名格ト役格ナリ、而シテ此種ノ代名詞ト共ニスル所ノ名詞ハ常ニ生格ト成ル、例ハ На столѣ лежа́ло мно́го но́выхъ книгъ (名格). Онъ купи́лъ много новы́хъ книгъ (役格).

其他ノ諸格ヲハ有セズ、若シ名格、役格以外ノ語ヲ使用スベキ場合ニハ此代名詞ノ代リニ他ノ代名詞ヲ使用ス、即チ много ノ代リニ мно́гіе ヲ、мало ト немно́го ノ代リニ немно́гіе ト нѣсколько ヲ使用ス、但シ前置詞 по (「ヅヽ」ノ意ニテ)ト共ニスル時ハ此種ノ代名詞ハ語尾ヲ у ト爲ス例ハ *по* мно́гу листо́въ (枚數ノ多クヅヽ), *по* немно́гу групъ (梨ノ少數ヅヽ)

若シ此種ノ代名詞ト共ニスル名詞ガ主語タル時ハ、客語ハ形容詞ニテモ動詞ニテモ、名詞ガ他ノ個數代名詞ト共ニスル場合ノ如ク使用セラル (§ 71,3, 戊)

(乙) 副詞トシテハ此種ノ語ハ比較ノ級ト表情ノ級ヲ有ス、即チ次ノ如シ

元級	比較級	最勝級	表情級
мно́го	бо́лѣе	бо́лѣе всего́	(много́нько)
ма́ло	ме́нѣе	ме́нѣе всего́	мало́ва́то, мале́нько
немно́го	無シ	無シ	немно́жко, (немно́жечко)

§ 72. 數詞 (Имя числи́тельное)

數詞ハ事物ノ數量ヲ表ハス詞類ニシテ 常ニ名詞ニ 對シテ 形容詞ノ如キ關係ヲ有ス

數詞ヲ分チテ二種ト爲ス、一ツヲ個數詞 (коли́чественное) ト稱シ、一ヲ順序數詞 (поря́дковое) ト稱ス、個數詞ハ сколько? (幾干ナルヤ)ノ問ニ應スルモノニシテ事物ノ員數ヲ表示ス、順序數詞ハ который? (孰レノ、幾番目ノ)ノ問ニ應ジテ事物ノ順序ヲ表示ス

集合數詞 (собира́тельное) 並ニ分數詞 (дробное) ハ個數詞ニ屬ス

§ 73 個數詞及ビ順序數詞

個數詞 (коли́чественное)	順序數詞 (поря́дковое)
1 оди́нъ	*пе́рвый, ое, ая*
2 два	*второ́й*
3 три	*тре́т-ій, ье, ья*

4	четы́ре	четвёртый
5	пять	пя́тый
6	шесть	шесто́й
7	семь	седьмо́й
8	во́семь	восьмо́й (осьмо́й)
9	де́вять	девя́тый
10	де́сять	деся́тый
11	оди́ннадцать	оди́ннадцатый
12	двѣна́дцать	двѣна́дцатый
13	трина́дцать	трина́дцатый
14	четы́рнадцать	четы́рнадцатый
15	пятна́дцать	пятна́дцатый
16	шестна́дцать	шестна́дцатый
17	семна́дцать	семна́дцатый
18	восемна́дцать (осм-)	восемна́дцатый (осм-)
19	девятна́дцать	девятна́дцатый
20	два́дцать	двадца́тый
21	два́дцать оди́нъ	два́дцать пе́рвый
22	—— два	—— второ́й
30	три́дцать	тридца́тый
33	—— три	тридцать тре́тій
40	со́рокъ	сороково́й
41	сорокъ оди́нъ	сорокъ пе́рвый
44	—— четы́ре	—— четвёртый
50	пятьдеся́тъ	пятидеся́тый
55	—— пять	пятьдеся́тъ пя́тый
60	шестьдеся́тъ	шестидеся́тый
66	—— шесть	шестьдеся́тъ шесто́й
70	се́мьдесятъ	семидеся́тый
77	—— семь	се́мьдесятъ седьмо́й
80	вбсемьдесятъ	восьмидеся́тый
88	—— во́семь	во́семьдесятъ восьмо́й
90	девяно́сто	девяно́стый
99	—— де́вять	девяно́сто девя́тый
100	сто	со́тый
101	сто оди́нъ	сто пе́рвый
102	сто два	сто второ́й
110	сто де́сять	сто деся́тый
120	сто два́дцать	сто двадца́тый
121	сто два́дцать оди́нъ	сто двадцать пе́рвый

200	две́сти	*двух*-со́тый
205	—— пять	две́сти пятый
300	три́ста	трёх-со́тый
315	—— пятна́дцать	три́ста пятна́дцатый
400	четы́реста	четырёх-со́тый
500	пятьсо́тъ	пятисо́тый
600	шестьсо́тъ	шестисо́тый
700	семьсо́тъ	семисо́тый
800	восемьсо́тъ	восьмисо́тый
900	девятьсо́тъ	девятисо́тый
1000	ты́сяча	ты́сячный
1001	ты́сяча оди́нъ	ты́сяча пе́рвый
1010	—— де́сять	—— деся́тый
1011	—— оди́ннадцать	—— оди́ннадцатый
1100	—— сто	—— со́тый
1120	—— сто два́дцать	—— сто двадца́тый
1200	—— две́сти	—— *двух*-со́тый
2000	две́ ты́сячи	*двух*-ты́сячный
2002	—— —— два	две́ тысячи второ́й
2222	две́ ты́сячи две́сти два́дцать два	— — — — второ́й
3000	три ты́сячи	трёх-ты́сячный
4000	четы́ре ты́сячи	четырёх-ты́сячный
5000	пять ты́сячъ	пяти́-ты́сячный
6000	шесть ты́сячъ	шести́-ты́сячный
7000	семь ты́сячъ	семи́-ты́сячный
8000	во́семь ты́сячъ	восьми́-ты́сячный
9000	де́вять ты́сячъ	девяти́ ты́сячный
10.000	де́сять ты́сячъ	десяти́-ты́сячный
10.001	—— —— одинъ	де́сять ты́сячъ пе́рвый
10.011	—— —— оди́ннадцать	—— —— оди́ннадцатый
10.100	—— —— сто	—— —— со́тый
11.000	оди́ннадцать ты́сячъ	оди́ннадцати-ты́сячный
20.000	два́дцать тысячъ	двадцати́-ты́сячный
30.000	три́дцать ты́сячъ	тридцати́-ты́сячный
40.000	со́рокъ ты́сячъ	сорока́-ты́сячный
42.225	со́рокъ две́ ты́сячи две́сти два́дцать пя́ть	— — — — — пя́тый
100.000	сто ты́сячъ	сто-ты́сячный
125.000	сто два́дцать пять ты́сячъ	сто два́дцати́-пяти́-ты́сячный

200.000	двѣсти тысячъ	*двухъ-сотъ* тысячный
1.000.000	милліо́нъ	милліо́нный
2.000.000	два милліо́на	*двухъ*-милліо́нный
10.000.000	де́сять милліо́новъ	*десяти*-милліо́нный
100.000.000	сто милліо́новъ	сто-милліо́нный
1.000 000.000.000	биллліо́нъ	биллліо́нный

§ 74. 個數詞組成法

1. 一ヨリ十迄ノ個數詞ハ基數ニシテ語根ト語尾ヨリ成リ且ツ他ノ數詞ヲ組成スルノ基根ト成ル

2. 十一ヨリ十九迄ノ個數詞ハ一位數詞ニ надцать ノ語尾ヲ附加シテ以テ成ル、此語尾ハ前置詞 на (「上ニ」ノ意義)ト дцать (即チ десять ヲ略シタルモノ)ヲ合併シタルナリ、即チ「十ノ上ニ一二」等ノ意義ト成ル

3. два́дцать (20) 及 три́дцать (30) ハ一位ノ數詞ニ дцать ヲ附加シテ一語ヲ成ス

4. пятьдеся́тъ (50), шестьдеся́тъ (60), се́мьдесятъ (70), во́семьдесятъ (80) ハ一位數詞ニ десятъ ヲ附加シテ以テ成ル、此附加ハ десять ヲ略シタルニハ非ズシテ деся́тковъ (即チ десятокъ ノ複數ノ生格)ヲ略シタルモノナル故ニ語尾ハ ь ナラズシテ ъ ト成ル、десятокъ ハ「十個」ノ意義ナリ、此 десятъ ヲ附加シタル數詞ハ二語各々共ニ變化ス、例バ「五十」ト云フ數詞ハ五モ十モ双方共ニ變化ス

5. со́рокъ (40) ト сто (100) ハ單獨ノ原詞ナリ、девяно́сто (90) ハ сто ヨリ生ゼシナリ

6. 百位數詞ハ一位數詞ト сто トヲ附合シテ成ル、其際 сто ハ恰モ名詞ノ如キ樣ヲ成ス故ニ (§ 76,2) 一位數詞ト附合スレバ生格ト成ル、即チ三ト四ノ後ニ立ツ所ノ сто ハ單數ノ生格ト成リ五ヨリ九マデノ數ニ立ツ所ノ сто ハ複數ノ生格ト成ル、但シ двѣсти (200) ノミハ其組成ハ不規則的ナリ、

7. ты́сяча (1000) ハ原詞ナリ、日本語ニハ萬ト云フ數詞ノ特稱アリテ十萬、百萬ト數フレド露語ニ於テハ他ノ歐洲語ト同ジク千ヲ以テ милліо́нъ (百萬)マデノ基數ト成シ十千、百千ト數フ

千位數詞ノ組成ハ略ホ百位數詞ノ如クシテ、ты́сяча ヲ名詞ト見做ス故ニ之レニ附合スル數詞ガ одинъ ナル時ハ тысяча ハ單數ノ名格ト成リ два, три, четыре ナル時ハ單數ノ生格ト成リ其他ノ數ナレバ複數ノ生格ト成ル (§ 76, 2)

8. милліо́нъ ハ百萬以上ノ數詞ノ基數ト成リ、ты́сяча ト同シク名詞ノ體ヲ成ス故ニ之ニ附合スル數詞ノ如何ニ由テ或ハ單數ノ名格生格ト成リ或ハ複數ノ生格ト成ル

9. 合成數詞ハ日本語ト同ジク一位ニ十位ヲ附加シ十位ニ百位ヲ附合シ百位ニ千位ヲ附合シ幾千幾百幾十幾個ト組成ス例ハ五千六百七十八ト云フ數ナル時ハ五ト六ト七ト八ノ數ハ組成ノ際ニハ語尾ヲ變ゼズ、勿論格ニ依テ變化スル際ニハ各數悉ク相共ニ變化ス

§ 75. 個數詞ノ變化

個數詞ハ皆悉ク變化ス

1. оди́нъ ハ性ト數ヲ有シテ代名詞ノ оди́нъ (§ 68, I, 2) ト同ジク變化ス

2. два, три, четы́ре ハ各々格ニ從テ變化ス且ツ два ハ性ヲモ有ス

3. 語尾 ь ヲ有スル數詞ハ凡テ名詞ノ第三式變化ニ從テ變化ス即チ ло́шадь (§ 31, 3)ノ單數ノ如ク變化ス во́семь ハ變化ノ際ニ生格ト與格ト前置格ニ於テ母音 e ヲ半子音 ь ニ變更ス

4. 50, 60, 70, 80 ハ語尾 ь ニ非ズシテ ъ ヲ有スレ𪜈同ジク名詞ノ第三式變化ニ從テ變化ス但シ此等ノ數詞ハ二語ヲ附合セシモノナル故ニ二語共ニ變化ス

5. со́рокъ, девяно́сто, сто ハ名格ト役格ノ外ハ語尾 a ヲ受ク

6. 幾百ト云フ場合ノ數詞 сто ハ中性名詞 слово ノ複數ノ如ク變化ス (§ 17)

7. ты́сяча ハ女性名詞 свѣча́ (§ 29) ノ如ク變化シ милліо́нъ ハ男性名詞 классъ (§ 17) ノ如ク變化ス、而シテ ты́сяча ト милліо́нъ ハ名詞ノ如ク見做サレ單數ト複數ヲ有ス

8. 合成數詞ニ於テハ各數相共ニ變化ス

男中性 女性						
два *дв*ѣ	три	четы́ре	во́семь	пятьдеся́тъ	со́рокъ	сто
дву́хъ	*трёхъ*	*четырёхъ*	*осьми́* (*восьми́*)	*пяти́-десяти́*	*сорока́*	*ста*
двумъ	*трёмъ*	*четырёмъ*	*осьми́* (*восьми́*)	*пяти́-десяти́*	*сорока́*	*ста*
名格或ハ生格ニ同シ			во́семь	пятьдеся́тъ	со́рокъ	сто
двумя́	*тремя́*	*четырьмя́*	*восемью́* (*осьмью́*)	*пятью́-десятью́*	*сорока́*	*ста*
о *двух*ъ	о *трёх*ъ	о *четырёх*ъ	на *осьми́* (*восьми́*)	о *пяти́-десяти́*	о *сорока́*	о *ста*

名	дв*ѣ́*сти	три́ста	четы́реста	пятьсо́тъ
生	*дву́хъ*-сотъ	трёхъ-сотъ	четырёхъ-сотъ	*пяти́*-сотъ
與	*дву́мъ*-стамъ	трёмъ-стамъ	четырёмъ-стамъ	*пяти́*-стамъ
役	名格ト同シ			
造	*двумя́*-стами	трел ста́ми	*четырьмя́*-стами	*пятью́ ста́ми*
前置	о *дву́хъ*-стахъ	о трёхъ-стахъ	о четырёхъ-стахъ	о *пяти́*-стахъ

двадцать три	де́вять сотъ со́рокъ шесть	три ты́сячи сто пять-деся́тъ
двадцати трёхъ	девяти́ сотъ сорока́ шести́	трёхъ ты́сячъ ста пяти́-десяти́
двадцати трёмъ	девяти́ стамъ сорока́ шести́	трёмъ ты́сячамъ ста пяти́-десяти́
двадцать три	девять сотъ сорокъ шесть	три ты́сячи сто пять-деся́тъ
двадцатью *тремя́*	девятью́ ста́ми сорока́ шестью́	*тремя́* ты́сячами ста пятью́-десятью́
о двадцати трёхъ	о девяти́ стахъ сорока́ шести́	о трёхъ ты́сячахъ ста пяти́-десяти

§ **76.** 個數詞ノ支配 (則チ個數詞ガ名詞形容詞動詞ニ對スル關係)

1. 數詞 один ハ露語ニ於テハ之ヲ使用スルヿ餘リ多カラズ、如何トナレバ單數ヲ用ヒシ語ナレバ既ニ一個ナル事ハ明白ナリ、然レモ或ル事物ノ一個ヲ指シテ言ハント欲スル塲合ニハ殊更ニ之ヲ使用スルヿアリ、數詞トシテノ один ノ複數ヲ使用スルハ複數ノミヲ有スル名詞(§ 37 例ハ часы)ニ關シテノミナリ

數詞ノ один ハ代名詞ノ один (§ 68, I) ト同シク性ト數ト格ヲ以テ名詞ト一致ス例ハ

один кра́сный каранда́шъ, одного́ кра́снаго каранда́ша ..(一ノ赤キ鉛筆)
одно́ стально́е перо́, одного́ стально́го пера́...(一ノ鋼ペン)
одна́ но́вая ру́чка, одно́й но́вой ру́чки, одно́й но́вой ру́чкѣ...(一ノ新キ軸)
одни́ стѣнны́е часы́, одни́хъ стѣнны́хъ часо́въ...(一ノ柱時計)

備考 數詞 одинъ ハ時トシテ形容詞 еди́нственный (唯一ノ) ノ意義ニテ使用セラルヽヿアリ、然ル塲合ニハ形容詞ノ如ク過大的形容 (§ 54, 2) ヲ有ス但シ之ヲ使用スルハ客語タル塲合ニシテ且ツ斷尾式ヲ以テスル即チ одинъ-одинёхонекъ 或ハ одинёшенекъ (唯獨リナリ)

2. 凡テノ數詞(одинъ ヲ除クノ外)ハ若シ名詞ニ關係ヲ有シテ共ニ並立ツ時ハ其名詞ハ生格ト成ル但シ два, три, четыре ノ後ニ立ツ名詞ハ單數ノ生格タルベク其他ノ數詞ノ後ニ立ツ名詞ハ複數ノ生格ト成ルベシ、是レ數詞ノ名格タル塲合ノ規則ニシテ 其他ノ諸格ニ於テハ數詞ハ 凡テ 數ト格ヲ以テ名詞ト一致ス、但シ два ハ性ヲ有スル故ニ性ヲ以テモ名詞ト一致ス例ハ два карандаша́, двухъ карандаше́й, двумъ карандаша́мъ...

двѣ ру́чки, двухъ ру́чекъ, двумъ ру́чкамъ, двѣ ру́чки, двумя́ ру́чками...
три мужчи́ны (§ 83, 4), трёхъ мужчи́нъ, трёмъ мужчи́намъ, трёхъ мужчи́нъ...
четы́ре же́нщины, четырёхъ же́нщинъ, четырёмъ же́нщинамъ...
пять дѣте́й (§ 83, 4), пяти́ дѣте́й, пяти́ дѣтя́мъ, пять дѣте́й, пятью́ дѣтьми́...
де́сять челове́къ, десяти́ челове́къ, десяти́ челове́камъ, де́сять челове́къ...
со́рокъ ученико́въ, сорока́ ученико́въ, сорока́ ученика́мъ, со́рокъ ученико́въ...
пятьдеся́тъ солда́тъ, пяти́десяти солда́тъ, пяти́десяти солда́тамъ...

備考 1. 若シ事物ヲ數ヘ並ブルニ際シテ數詞ヲ名詞ノ後ニ立ツル時ハ其名詞ハ複數ノ生格ト成ル、如何ナル數詞ト雖モ此規則ニ從フベキガ故ニ одинъ ト雖モ、然リトス、例ハ Я купилъ: одну́ ру́чку, два пера́, три каранда́ша и четы́ре гри́феля. Я купи́лъ: ру́чекъ—одну́, пе́рьевъ—два, каранда́шей—три, гри́фелей—четы́ре (我ガ買ヒシハ ペン軸ハ唯一本、ペンハ總テ二個、鉛筆ハ總テ三本、石筆ハ總テ四本ナリ).

備考 2. 個數詞 два, три, четы́ре ニ關係スル名詞ハ單數ノ生格ト成ルベキ規則タルガ故ニ、單數ヲ有セサル名詞 (§ 37) 例ハ часы ニ對シテハ此等ノ個數詞ヲ使用スル能ハザルヲ以テ、同一ノ意義ヲ有スル集合數詞 (§ 83) ヲ代用ス

3. 數詞ニ關係シテ立ツ所ノ 形容詞ハ必ズ複數ト成ル即チ два, три, четы́ре ノ後ニ立ツモノハ複數ノ名格或ハ生格ト成ル(數ヲ主トセズシテ кто? 或ハ что? ノ問ニ應ズル塲合ノ形容詞ハ名格ト成ル事ハ概シテ稀ナリ、又數ヲ主トシタル塲合即チ ско́лько? ノ問ニ應ズル形容詞ハ生格ト成

ル、是レ大ニ注意スベキ規則ナリ）其他ノ數詞ノ後ニ立ツ形容詞ハ皆ナ生格ト成ル、而シテ名格ト役格ノ外ハ形容詞ハ其關係ヲ有スル名詞及數詞ト一致ス

два стáршихъ (或ハ стáршіе) брáта, двухъ стáршихъ брáтьевъ...(二人ノ兄)

четы́ре мла́дшихъ (或ハ мла́дшія) сестры́, четырёхъ мла́дшихъ сестёръ... (二人ノ妹)

пять хоро́шихъ (хоро́шіе ト云フ能ハズ) това́рищей, пяти́ хоро́шихъ това́рищей (五人ノ良友)

со́рокъ на́шихъ ученико́въ, сорока́ на́шихъ ученико́въ ..(四十人ノ我カ生徒)

4. 合成數詞(即チ幾千幾百幾十幾個)ノ場合ニ於テ名詞及形容詞ノ格ハ其合成數詞ノ最終ノ數ニ支配セラル、但シ名格以外ノ諸格ニ於ケル名詞ト形容詞ハ數詞ト相一致ス

два́дцать оди́нъ рубль, двадцати́ одного́ рубля́, двадцати одному́ рублю́...

два́дцать *двѣ* копѣ́йки, двадцати́ двухъ копѣ́екъ

два́дцать *четы́ре* ру́сскихъ (或ハ ру́сскія) кни́ги, двадцати́ четырёхъ ру́сскихъ книгъ ..(廿四冊ノ露書)

два́дцать *пять* япо́нскихъ книгъ, двадцати́ пяти́ япо́нскихъ книгъ

двѣ́сти *три* япо́нскихъ (或ハ япо́нскіе) солда́та, двухъ-сотъ трёхъ япо́нскихъ солда́тъ (二百三ノ日本兵)

ты́сяча двѣ́сти *пять* ру́сскихъ солда́тъ (千二百五ノ露兵)

5. 若シ生物名詞ガ數詞 два, три, четы́ре ニ關係ヲ有スル時ハ其役格ハ生格ト同一タルベシ然レ共此三數詞ガ合成數詞ノ最終數ト成リテ生物名詞ニ關係ヲ有スル時ハ其役格ハ名格ト同ジカルベシ、例ハ

名格	два человѣка	два́дцать два человѣка
役格	двухъ человѣкъ	два́дцать *двух* человѣка (два́дцать двухъ человѣкъ ニ非ラズ)

6. 百位ノ個數詞 200, 300, 400, 500, 600, 700, 800, 900 及 тысяча ト милліо́нъ ノ後ニ立ツ所ノ名詞ト形容詞ハ複數ノ生格ト成ル、變化ノ際ニハ數詞ノミ變化シテ名詞ト形容詞ハ其儘複數ノ生格ニ立チテ變化セズ、例ハ

двѣ́сти бума́жныхъ рубле́й, двухъ-сотъ бума́жныхъ рубле́й, двумъ-стамъ бума́жныхъ руле́й (紙幣二百圓)

ты́сяча япо́нскихъ солда́тъ, ты́сячи япо́нскихъ солда́тъ, ты́сячъ япо́нскихъ солда́тъ (一千ノ日本兵)

милліо́нъ копѣ́екъ, милліо́на копѣ́екъ, милліо́ну копѣ́екъ (百萬錢)

備考 里程ヲ數フル際ニハ百位數詞ノ後ニ立ツ名詞モ格ニ依テ變化ス、例ハ

двѣ́сти вёрстъ (二百里), двухъ со́тъ вёрстъ, двумъ-ста́мъ верста́мъ

7 前置詞 по (ヅヽト云フ意味ヲ以テ使用ノ) ガ與格ヲ要求シ而シテ數詞ト共ニスル時ハ特例ヲ有ス即チ次ノ如シ

(甲) 數詞 одинъ ハ正則的ニ使用セラル、即チ與格ト成ル、例ハ *по* одному́ рублю́ (一圓ヅヽ), *по* одно́й копѣ́йкѣ (一錢ヅヽ)

(乙) 數詞 два, три, четы́ре 及ビ十位、百位、千位、ノ數ニテモ最後ノ數位ニ立ツ數ガ此ノ數

ナル時、例ハ 22, 33, 104, 等及ビ 200, 300, 400 ト云フ數ナル時ハ與格タルベキ代リニ役格ヲ使用ス但シ此役格ハ有生ノ名詞ト無生ノ名詞ニ論ナク凡テ名格ト同一ト成ル(本來前置詞 *no* トト共ニスル數詞ハ名格ト成ルト云フテ可ナルベキ筈ナレ𪜈、前置詞ハ概シテ名格ト共ニスルモノニ非ザルヲ以テ斯クハ稱スルニ至リシナリ)、例ハ *no* два мужчи́ны (по двумъ мужчи́намъ ノ代リニ), *no* дв*ѣ* же́нщины, *no* три пера́, *no* два́дцать два́ ученика́, *no* дв*ѣ*сти рубле́й (по двумъ-стамъ рубле́й ノ代リニ), *no* три́ста челов*ѣ*́къ

(丙) 其他ノ數詞ハ正則的ニ使用セラル即チ與格ト成ル、但シソレト共ニスル所ノ名詞ハ與格タラズシテ生格ト成ル、例ハ *no* пяти́ рубле́й (по пяти́ рубля́мъ ノ代リニ), *no* 10-ти́ коп*ѣ*́къ, *no* 60-ти лѣ́тъ (五圓ヅヽ、十錢ヅヽ、六十年ヅヽ)

(丁) 數詞 90 及ビ 100 ハ同シク與格ヲ使用スレド𪜈、正則與格語尾 *a* ノ外ニ屢々不規則語尾 *y* ヲ使用ス、例ハ *no* сту 或ハ *no* ста рубле́й, *no* девино́сту 或ハ *no* девино́ста коп*ѣ*́ек*ъ*

8. 日本語ニ於テハ事物ヲ數フルニ際シテ數ト事物トノ間ニ其事物ノ種類ヲ說明スル名詞ヲ插ム事アリ、例ハ一人ノ男、二匹ノ馬、三軒ノ家等ノ如シ、露語ニ於テモ稀ニハ斯ノ如キ說明ノ語ヲ插用スルコアリ、例ハ人間ヲ數フルニハ челов*ѣ*́къ (§24, 14) 或ハ時トシテ душа́ (靈魂) ト云フ語ヲ、動物ヲ數フルニハ голова́ (頭) 或ハ шту́ка (個) ヲ、書籍ヲ數フルニハ экземпля́ръ (部) ヲ用フル等之ナリ、而シ斯カル名詞ヲ插用シテ變化スル際ニハ此插用ノ名詞ハ數詞ト共ニ變化シ、其後ニ立ツ名詞ハ常ニ生格ト成リテ變化セズ

(名)	десять челов*ѣ*́къ солда́тъ (十人ノ兵)	(役)	десять челов*ѣ*́къ солда́тъ
(生)	десяти́ челов*ѣ*́къ солда́тъ	(造)	десятью́ челов*ѣ*́ками солда́тъ
(與)	десяти́ челов*ѣ*́камъ солда́тъ	(前置)	о десяти́ челов*ѣ*́кахъ солда́тъ

9. 名詞 годъ ト共ニ個數詞ヲ使用スル際ニハ (但シ одинъ ハ例外ナリ) 與格、造格、前置格ニ於テ годъ ヲ用ヒ、其他ノ格ニ於テハ лѣ́то ヲ用フ、лѣ́то ハ夏ト云フ意義ナリ然レ𪜈古代ハ年ト云フ意義ノ語ナリシ

два, три, четы́ре го́да	пять *лѣтъ*
двухъ, трёхъ, четырёхъ *лѣтъ*	пяти́ *лѣтъ*
двумъ, трёмъ, четырёмъ года́мъ	пяти́ года́мъ
два, три, четы́ре го́да	пять *лѣтъ*
двумя́, тремя́, четырьмя́ года́ми	пятью́ года́ми
о двухъ, о трёхъ, о четырёхъ года́хъ	о пяти́ года́хъ

備考 名詞 годъ ト共ニ個數詞ヲ使用スルハ殊ニ年齡ヲ數フル際ニ多シトス

10. 若シ個數詞ト共ニスル所ノ名詞ガ主語タル時ハ客語タル形容詞ハ常ニ複數ト成ル、例ハ Эти *два* пера́ не хороши́ (此二個ノペンハ佳ナラズ). *Пять* мои́хъ това́рищей больны́ (五人ノ我ガ同僚ハ病氣ナリ).

前記ノ場合ニ於テ若シ動詞ガ客語タル時ハ、單數トモ複數トモ成ル、其際、ско́лько? ノ問ヲ含ム時ニハ動詞ハ單數ト成ル、例ハ *Ско́лько* това́рищей прі*ѣ*́хало къ вамъ? (朋友ノ幾人ハ貴君ノ許ニ來リシヤ)—Ко мнѣ

прі́ѣхало *два* това́рища (二人ノ朋友ハ我ガ許ニ來レリ). *Ско́лько* книгъ лежа́ло на столѣ́? (幾冊ノ書ハ卓上ニ存セシヤ)—На столѣ́ лежа́ло *пять* книгъ (卓上ニハ五冊ノ書ハ存セリ). 若シ кто? 或ハ что? ノ問ヲ含ム時ハ動詞ハ複數ト成ル、例ハ *Кто* прі́ѣхалъ къ вамъ?—Ко мнѣ́ прі́ѣха*ли три* това́рища. *Что* лежа́ло на столѣ́?—На столѣ́ лежа́*ли пять* книгъ. 但シ時々複數ノ代リニ單數ヲ使用シ、單數ノ代リニ複數ヲ使用スルコモアリ、複數ノ代リニ單數ヲ使用スルハ (что? ノ問ヲ含ミ、 сколько? ノ問ニ非ザル場合) 主語ガ無生格ナル時ニ限ル、例ハ Что лежа́ло на столѣ́?—На столѣ́ лежа́ло (лежали ノ代リニ) *два карандаша́*. 又、單數ノ代リニ複數ヲ使用スルハ (ско́лько? ノ問ヲ含ミ、что? ノ問ニ非ザル場合) 主語ガ有生物ニシテ、殊ニ主語ト共ニ定語ノ存スル時ニ限ル、例ハ Ско́лько офице́ровъ прі́ѣхало?—Прі́ѣха*ли* (прі́ѣхало ノ代リニ) *три* ру́сскихъ *офице́ра*.

§ 77. 順序數詞ノ組織

1. 順序數詞ハ悉ク形容詞ノ語尾ヲ有シテ ый 或ハ ой (若シ力點ガ最終ノ母音ニ立テバ) ニ終ル、但シ тре́тій ノミハ ій ヲ語尾トス

2. 順序數詞ハ 凡テ 個數詞ノ語尾ヲ變シテ 以テ 成ル、但シ пе́рвый トвторо́й ノミハ例外ニシテ特別ノ語根ヨリ成ル

3. 一位ノ順序數詞中、тре́тій, четве́ртый, седьмо́й ハ插入ヲ有シ восьмо́й ハ母音 е ノ代リニ半子音 ь ヲ有ス、又 осьмо́й ト書スコモアリ

4. сороково́й ハ ов ヲ插入シ、со́тый ハ о ヲ、ты́сячный ト мілліо́нный ハ н ヲ插入ス

5. 幾千幾百幾十幾番目ト云フ合成順序數詞ノ組成ハ最終位ニ立ツ一數詞ノミヲ順序數詞トシ其他ハ凡テ個數詞ヲ用フルモノトス、例ハ

два́дцать *оди́нъ* (21)—два́дцать *пе́рвый*, пятьдеся́тъ пять (55)—пятьдеся́тъ пя́тый, две́сти пять (205)—две́сти пя́тый, три́ста пятна́дцать (315)—три́ста пятна́дцатый, ты́сяча де́вять-сотъ *оди́нъ* (1901)—ты́сяча де́вять-сотъ *пе́рвый*

6. 個數詞 50, 60, 70, 80 (即チ ъ ヲ語尾トスルモノ) 幷ニ百位、千位、百萬位ノ個數詞ヲ順序數詞ニ變スル際ニハ之ヲ生格ノ體ニ成ス、例ハ

пятьдеся́тъ (50)—пяти́деся́тый, две́сти (200)—*двухъ*-со́тый, двѣ ты́сячи—*двухъ*-ты́сячный, де́сять ты́сячъ—десяти́-тысячный, два́дцать пять ты́сячъ—двадцати́-пяти́-ты́сячный, три милліо́на—трёхъ-милліо́нный

§ 78. 順序數詞ノ變化

1. 順序數詞ハ凡テ形容詞ノ如ク變化ス、即チ ый ノ語尾ヲ有スルモノハ до́брый (§ 43) ノ如ク變化ス、而シテ ой ノ語尾ヲ有スル順序數詞ノ單數ノ生格ハ ого (аго ニアラズ) ト成ル、例ハ второ́й ハ второ́го ト成リ сороковóй ハ сороковóго ト成ル、而シテ тре́тій ノミハ物主形容詞 волчій (§ 49) ノ如ク變化シ тре́тій, тре́т-ье, тре́т-ья; тре́т-ьяго, тре́т-ьей; тре́т-ьему, тре́т-ьей..... ト成ル

2. 順序數詞ハ形容詞ノ如ク性ト數ト格ヲ以テ名詞ト一致ス、例ハ
пе́рвый годъ, пе́рваго года, пе́рвому году.....(第一年)
второ́е число́, второ́го числа́, второ́му числу́.....(第二日)
втора́я ночь, второ́й но́чи, второ́й но́чи .....(第二ノ夜)
тре́тьи су́тки, тре́тьихъ су́токъ, тре́тьимъ су́ткамъ.....(第三晝夜)
3. 合成順序數詞ハ最終位ノ數ノミ變化シテ其他ノ數ハ依然變化セズ
два́дцать второ́й N (но́меръ), два́дцать второ́го N (но́мера).....(二十二號)
две́сти со́рокъ пя́тый челове́къ, две́сти со́рокъ пя́таго челове́ка...
ты́сяча де́вять-сотъ второ́й годъ, ты́сяча де́вять-сотъ второ́го го́да .. ..

§ 79. 或ル順序數詞ノ特有ノ意義

1. 或ル順序數詞ハ形容詞ノ如ク事物ノ性質ヲ表示スルコアリ、例ハ пе́рвый ハ事物最貳ノ意義ヲ表スルコアルヲ以テ最勝級ヲ有シ са́мый пе́рвый (隨一ノ), первейший (最上々ノ) トモ成ル

2. 帝王ニハ同一ノ名ヲ有スル者多キヲ以テ之ヲ區別セン爲ニ「第幾世」ト稱號ヲ附スルニ際シ順序數詞ヲ用フ、此稱號タル順序數詞ハ羅馬數字ヲ以テ記スルヲ常トス例バ Импера́торъ Никола́й II (Второ́й) (皇帝ニコライ二世)

3. 代名詞 самъ トト共ニスル順序數詞ハ事物ヲ其數ニ加入シタルヲ表示ス、例ハ Онъ самъ деся́тый въ семе́йствѣ (彼ヲ入レテ家族ハ十人ナリ)、而シテ一ヨリ十マデノ順序數詞ハ самъ トト共ニ使用セラレヅ、時トシテハ其語尾ヲ簡略スルコアリ、例ハ самъ пя́тый =самъ пятъ 又、穀物等ノ收獲ニ關シテ самъ ヲ使用スルコアリ、例ハ Урожа́й самъ четыре, самъ де́сять (收獲ハ四倍、十倍)、現今ノ文法ハ斯カル場合ニハ順序數詞ヲ用ヒズシテ個數詞ヲ用フ、

4. 順序數詞 ты́сячный トト共ニ а́рмія, во́йско, ко́рпусъ (軍團) 等ノ語ガ立ツ時ハ順序ヲ表スルニ非スシテ軍隊ノ兵員ヲ表示スルナリ、例ハ десяти́-ты́сячное во́йско (一萬人ノ軍隊), двадцати́-пяти́-ты́сячная а́рмія (二萬五千人ノ陸軍)

§ 80. 時日、年數、世紀

1. 日 (число́)、年 (годъ)、世紀 (вѣкъ, столѣтіе) ハ必ズ順序數詞ヲ以テ之ヲ表ス

2. 何月ノ何日ト云フ場合ニ於テ、若シ月ヲ示サズシテ日ノミ存スル時ハ число́ (日) ト云フ語ヲ使用スベシ、例ハ Сего́дня пе́рвое число́ (今日ハ朔日ナリ). Сего́дня второ́е число́ (今日ハ二日ナリ). 若シ又月ノ名稱ヲ示セシ場合ニハ順序數詞ノミヲ稱シテ число トト云フ語ヲ略スベシ、例ハ Сего́дня пе́рвое февраля́ (今日ハ二月ノ朔日ナリ). Сего́дня второ́е февраля́ (今日ハ二月ノ二日ナリ).

3. 何年何月何日ト云フ場合ニハ年ハ月ノ定語ト成リ、月ハ日ノ定語ト成ルヲ以テ年モ月モ生格ト成リ排列ノ順序ハ (§ 18,1) 日ヲ最初ニ立テ次ニ月ヲ立テ最後ニ年ヲ立ツ即チ日本語トハ逆ナリ、Сего́дня пе́рвое февраля́ 1901-го го́да (今日ハ一千九百一年二月一日ナリ).

4. когда́ ノ問ニ應ズル際ニハ日ハ常ニ生格ト成ルヲ規則トス、例ハ

Когда́ онъ роди́лся?—Онъ роди́лся пе́рваго числа́ (彼レハ何日ニ生レシヤ、彼レハ朔日ニ生レタリ)、故ニ когда ノ問ニ應ジテ日ト共ニ年月ヲモ答フベキ場合ニハ其年月ヲモ生格ト成スベシ、Онъ роди́лся 1-го февраля́ 1901-го го́да (彼ハ一千九百一年二月一日ニ生レタリ)

5. 時トシテ когда ノ問ニ應スル際ニ年ト月ハ前置詞 въ ヲ用ヒテ前置格ト成ルコアリ即チ年ト月ノミヲ示シテ日ヲ示サヾル場合ノ如クス (§ 19, 5). 斯カル場合ニ於テハ最初ニ年ヲ立テ次ニ月ヲ立テ最後ニ日ヲ立ツ、Онъ роди́лся въ 1901-омъ году́ (§ 23, 4), въ февра́лѣ 1-го числа́ 或ハ Онъ роди́лся въ 1901-омъ году́ 1-го февраля́ (彼ハ千九百一年二月一日ニ生レタリ)

6. 公用文ニ於テ年月日ヲ記スルニハ概シテ最初ニ年ヲ記シ次ニ月ヲ記シ最後ニ日ヲ記ス且ツ通常使用スル число́ ト云フ語ノ代リニ день ヲ用フ、例ハ Токіо 1901-го го́да, февраля́ 1-го дня 通常ノ書翰ニ於テハ既ニ述ヘシ如ク Токіо 1-го февраля́ 1901 года トモ書シ或ハ時トシテ年ヲ最初ニ書ス例ハ Токіо. 1901 го года 1-го февраля.

7. 歴史上ニ有名ナル事件ヲ指シテ言フ時ニハ千位ト百位ノ年數ヲ略スルコトモアリ、例ハ 1812-ый годъ ノ代リニ單ニ 12-ый годъ トモ言フ

8. 現世紀ノ何十年代ト云フ場合ニハ世紀ヲ略シテ單ニ「何十年ニ於テ」ト云フ但シ複數ヲ用フ、若シ現世紀ナヲサレバ столѣтіе 或ハ вѣкъ (世紀) ト云フ語ヲモ用フ、例ハ шестидесятые го́ды (是レ現世紀ノ六十年代ナリ. семидеся́тые го́лы въ про́шломъ столѣтіи 或ハ въ про́шломъ вѣкѣ (前世紀ノ七十年代)

9. 何世紀ト書ス際ニハ概シテ羅馬數字ヲ以テ世紀ノ數ヲ表ス、例、XX (двадца́тый) вѣкъ XIX столѣтіе

§ 81. 年齢

1. 年齢ノ計算ハ誕生ノ日ヲ起點トシ、今年ノ誕生日ヨリ翌年ノ誕生日マデヲ一ケ年ト計算シ一年未滿ノ月數ハ之ヲ放棄ス

2. 年齢ノ計算ニハ個數詞ヲ用フルコモアリ又順序數詞ヲ用フルコモアリ、個數詞ヲ以テスル時ハ滿幾年ヲ計算スルナリ、順序數詞ヲ以テスルハ一箇年未滿ノ現ニ經過シツヽアル年ヲモ加ヘ計算スルナリ、例ハ昨年三月七日ニ誕生セシ者ハ今年三月六日マデハ「第一年目」ノ年齢ナリ又今年三月七日ヨリ明年三月六日マデノ間ハ「第二年目」ノ年齢經過中ナリ、此經過中ノ年ヲモ計算スル時ニハ順序數詞ヲ用フルモノトス、故ニ例ハ年齢十五才二ケ月ノ者ヲ個數詞ニテ計算スレバ單ニ十五年ト稱ス、而シテ順序數詞ヲ以テ之ヲ計算スレバ第十六年ト稱スベシ

3. 個數詞ヲ以テ年齢ヲ定ムルニ際シテ二樣ノ方法アリ、〔甲〕人ノ名稱ヲ與格ニ立テ年齢ヲ名格ニ立ツ、其際ノ客語ハ必ズ單數ニ立ツ、且ツ過去ニ於テハ中性ヲ用フ、〔乙〕或ハ人ノ名稱ヲ名格ニ立テ年齢ヲ生格ニ立ツ、例ハ Ско́лько *вамъ* лѣтъ? (汝ハ年ハ幾許ナルヤ). *Мнѣ* 10 лѣтъ, (我ニハ十才) 19 лѣтъ, 20 лѣтъ, 21 годъ, 22 года. *Мнѣ было* 20 лѣтъ. Ско́лькихъ онъ лѣтъ? (彼ハ幾才ノ者ナルヤ)—Онъ десяти́ лѣтъ (彼ハ十才ノ者), 19-ти лѣтъ. 20-ти лѣтъ, 21-го года, 22-хъ лѣтъ.

4. 順序數詞ヲ以テ年齢ヲ定ムルニ際シテハ人ノ名稱ヲ與格ニ立テ年齢ヲ名格ニ立ツ例ハ Котóрый *вамъ* годъ? (汝ハ生年幾年目ナルヤ)—*Мнѣ* 10-ый годъ, 19-ый годъ, 20-ый годъ, 21-ый годъ, 22-ой годъ. Этому ребёнку 5-ый годъ. ト云ヘバ既ニ滿四年ヲ過キテ第五年目經過中ナルヲ示ス.

§ 82. 概略計算 (Приблизи́тельный счётъ)

概略計算ニハ種々ノ方法アリ、次ニ述ルガ如シ

1. 數詞ヲ後ニ立テ之ニ關スル名詞ヲ前ニ立ツ、例ハ

два го́да 二年 го́да два 凡ソ二年
три мѣ́сяца 三ケ月 мѣ́сяца три 凡ソ三ケ月
четы́ре недѣ́ли 四週間 недѣ́ли четы́ре 凡ソ四週間
пять рубле́й 五圓 рубле́й пять 凡ソ五圓
шесть челове́къ 六人 челове́къ шесть 凡ソ六人
де́сять разъ 十回 разъ де́сять 凡ソ十回

斯ク數詞ヲ後ニセシ時ハ其數ノ概略ヲ示スモノニシテ「凡ソ幾許」ノ意ナリ

2. 日本語ト同シク露語ニテモ「二三日」「四五年」「五六百人」等ノ語ヲ使用ス、是レ概略ノ計算ナル故ニ數語ヲ後ニ立ツルモ可ナリ、或ハ數ト數トノ間ニ接續詞 или ヲ挿入スルモ可ナリ、例ハ пять-шесть дней=пять или шесть дней=дней пять-шесть, 30-40 копѣ́екъ, двѣ́сти-три́ста рубле́й, три-четы́ре ты́сячи челове́къ

3. 副詞 почти́ (殆ト) 及 о́коло (「凡ソ何々程」ノ意ニシテ生格ヲ要求ス) ヲ用ヒテ概略ヲ表ス、почти́ 10 рубле́й, о́коло 20-ти фу́нтовъ (殆ト十圓、凡廿斤程).

4. 前置詞 до (「迄」ノ意ニシテ生格ヲ要求ス) съ (「程」ノ意ニシテ役格ヲ要ス) подъ (「接近」ノ意ニシテ役格ヲ要ス) за (接近ノ意ニシテ役格ヲ要ス) ヲ用フ、前置詞 съ トニ共スル數詞ハ大抵其關係ヲ有スル名詞ノ後ニ立ツ、前置詞 подъ 及 за ハ年齢ヲ指定スル際ニノミ使用セラル、подъ ハ壯年期ノ各十代即チ三十代、四十代、五十代等ニ接近スルヲ表ス、而シテ за ハ同シク壯年期ノ各十代ヲ少シク超過セシヲ表ス、例ハ до десяти́ рубле́й, съ де́сять рубле́й=рубле́й съ де́сять, подъ 50 лѣ́тъ (五十才近ク), за 50 лѣ́тъ (五十才少シク超過)

5. 幾許ヨリ幾許マデト云フ場合、即チ отъ (ヨリ) ト до (マデ) ヲ用フ、отъ пяти до семи́ фу́нтовъ, отъ 20 до 25 рублей.

6. безъ ма́лаго (「少シ缺ケル」ノ意), съ чѣ́мъ-то (「幾許ト少シ許リ」), съ небольши́мъ (少シ餘計), сли́шкомъ (何々餘リ). безъ ма́лаго 10 рублей (十「ルーブル」ガ少シ缺ケル), съ чѣ́мъ то 10 рублей (十「ルーブル」ト少シ許リ), съ небольши́мъ 10 рублей (十「ルーブル」ト少シ餘), сли́шкомъ 10 рублей (十「ルーブル」餘).

§ 83. 集合數詞 (Собира́тельное числи́тельное)

同種類事物ノ團體或ハ分類ヲ表示スル數詞ハ之ヲ集合數詞ト稱ス

1. 集合數詞ハ次ノ如シ

о́ба 兩方	дво́е 二個	пя́теро 五個	во́смеро 八個
	тро́е 三個	ше́стеро 六個	девя́теро 九個
	че́тверо 四個	се́меро 七個	деся́теро 十個

2. 凡テ此集合數詞ハ形容詞ノ語尾ヲ以テ變化ス而シテ оба ハ性ヲモ有シ男性ト中性ニ於テハ語尾ノ前ニ母音 о ヲ有シ女性ニ於テハ ѣ ヲ有ス、двое ト трое ハ軟式ノ變化ヲ成ス、其他 (еро ニ終ルモノ) ハ硬變化ヲ成ス

	男 中 性	女 性	三性共通	同 ク
名	óб-а	óб-ѣ	двó-е	чéтвер о
生	обó-ихъ	обѣ́-ихъ	дво-и́хъ	четвер-ы́хъ
與	обó-имъ	обѣ́-имъ	дво-и́мъ	четвéр-ы́мъ
役	有生物ナレバ生格ト、無生物ナレバ名格ト同シ		有生物ハ生格ト、無生物ハ名格ト同シ	
造	обó-ими	обѣ́-ими	дво-и́ми	четвер ы́ми
前置	объ обó-ихъ	объ обѣ́-ихъ	о дво-и́хъ	о четвер-ы́хъ

3. (甲) 名詞及形容詞ハ數詞 оба ト共ニ立ツ時ハ數詞 два, три, четыре (§ 76, 2-3) ト共ニ立ツ時ノ如クス、但シ女性名詞ハ оба ノ後ニハ複數ノ名格ト成ルヿヲ得ベシ оба стáршихъ (或ハ стáршіе) брáта обóихъ стáршихъ брáтьевъ, обóимъ стáршимъ брáтьямъ (兩兄)

обѣ руки́, обѣ рýки, обѣ сестры́, обѣ сёстры (兩手)

обѣ млáдшихъ сестры́ 或ハ млáдшія сёстры, обѣ́ихъ млáдшихъ сестёръ, обѣ́имъ млáдшимъ сестрáмъ (兩妹)

(乙) 前置詞 по (ヅヽノ意) ト共ニスル時ニハ數詞 оба ハ正則的ニ與格トモ成リ或ハ不規則的ニ役格トモ成ル例ハ по обѣ́имъ сторонáмъ, по óбѣ стóроны (兩方ヅヽニ)

(丙) 名詞 полъ (男女ノ性) 及 родъ (種類) ト共ニスル時ニハ數詞 оба ハ複數ノ生格ヲ用ヒズシテ單數ノ生格ヲ用フ、Дѣ́ти обóего пóла (男女ノ小兒)

(丁) 若シ集合數詞 оба ト共ニ立チタル名詞ガ主語タル時ハ、其客語ハ形容詞ニテモ動詞 (數詞 оба ニ應スル動詞ハ必ズ кто? ノ問ニ答フ) ニテモ複數ト成ル、Обѣ сестры́ краси́вы (兩人ノ姉妹ハ美貌ナリ) Оба брáта уѣ́хали (兩人ノ兄弟ハ立去リタリ)

4. (甲) двое ヨリ десятеро マデノ集合數詞ハ或ル名詞ニ限リテノミ共ニ使用セラル〔第一〕生物ノ名詞ハ男性ノミニ限リテ使用セラレ (братъ, отéцъ ノ類)〔第二〕中性名詞ハ唯 дитя́ ノミニ限リ〔第三〕殊ニ複數ノミヲ有スル無生物名詞ト共ニ使用セラル (§ 37) 例ハ часы́ ノ如シ、而シテ女性ノ生物名詞及凡テ無生物名詞 (複數ノミヲ有スル名詞ヲ除クノ外) ト共ニ使用セラルヽヿナシ、故ニ總性名詞 (§ 38) ト共ニ此種ノ數詞ヲ使用セシ際ニハ其名詞ハ必ズ男性タルヤ明カナリ例ハ шéстеро сирóтъ ト云ヘバ男子ノ孤兒六人ヲ指スナリ、然レ𪜈 шесть человѣ́къ сирóтъ ト云ヘバ男女ノ孤兒六人ヲ指セシナリ

(乙) 此種ノ數詞ハ名詞及形容詞ト共ニ立ツ時ハ пять, шесть 等ノ如クス (§ 76,2-3)

двóе стáршихъ брáтьевъ, двоúхъ стáршихъ брáтьевъ...
трóе млáдшихъ дѣтéй, троúхъ млáдшихъ дѣтéй ...(末ノ三兒)
чéтверо золотыхъ часóвъ, четверыхъ золотыхъ часóвъ...(金時計四個)

(丙) 此種ノ數詞ハ前置詞 по (「ヅヽ」ノ意) ト共ニスレバ不規則的ニ役格ヲ使用ス而シテ此役格ハ常ニ名格ト同一ナリ § 76, 7. (乙) 例ハ *по* двóе дѣтéй, *по* трóе человѣ́къ, *по* двóе часóвъ

(丁) 若シ集合數詞 (數詞 оба ハ 3 (丙) 參照) ト共ニスル所ノ名詞ガ主語タル時ハ、其客語タル形容詞及ヒ動詞ハ個數詞ニ對スル場合ト同シクシテ立ツ (§ 76, 10). 例ハ Скóлько васъ было? (貴君等ハ幾人ナリシヤ)—Насъ былó двóе (我等ハ二人ナリシ). Сколько часóвъ лежáло въ столѣ? (卓中ニ幾個ノ時計ハ存セシヤ)—Въ столѣ́ лежáло двое часóвъ (卓中ニハ二個ノ時計ハ存セリ)、Кто приходúлъ? (誰ハ來リシヤ)—Приходúли двóе брáтьевъ (二人ノ兄弟ハ來リシ) Что лежáло на столѣ́? (卓上ニ何ハ在リシヤ)—На столѣ лежáли (或ハ лежáло) двóе часóвъ (卓上ニハ二個ノ時計ハ存セリ)

5 或ル名詞ハ集合數詞ノ意義ヲ有ス、殊ニ多ク使用セラルヽ此種ノ名詞ハ次ノ如シ

(甲) 無生物名詞ト共ニ使用スルハ пáра (一對), пятóкъ (五個), десятокъ (十個), дю́жина 十二個), десть (紙一帖即廿四葉), сóтня (百個), стопá (紙廿帖) 例ハ пáра сапóгъ (靴一, пятóкъ я́блокъ (林檎五個), десятокъ сливъ (李十個), дю́жина карандашéй (鉛筆一ダース), десть бумáги (紙一帖), сóтня апельсúновъ (蜜柑百個), стопá бумáги (紙廿

(乙) 貨幣ノ名稱 пятачёкъ (五コペカ), грúвенникъ (十コペカ), пятиалтынный (十五コペカ), двугрúвенный (二十コペカ), четвертáкъ (廿五コペカ, полтúнникъ (五十コペカ), рубль (一ルーブル)

(丙) 駕馬ノ數 пáра, трóйка; четвёрка, четверúкъ, пятёрка, пятерúкъ, шестёрка, шестерúкъ

(丁) 骨牌ノ點數 двóйка, трóйка, четвёрка, пятёрка, шестёрка, семёрка, восмёрка, девя́тка, деся́тка

(戊) 產兒 двóйня (雙兒), трóйня (三ツ兒)

§ 84 分數詞 (Дрóбное числúтельное)

分數詞ハ二種アリ一ハ名詞ノ如ク使用シ一ハ純粹ノ分數ナリ

名詞ノ體ヲ成シテ使用セラルヽ分數詞

1. 此分數詞ハ треть ($\frac{1}{3}$), чéтверть ($\frac{1}{4}$), половúна ($\frac{1}{2}$), полтора ($1\frac{1}{2}$), полторáста ($1\frac{1}{2} \times 100 = 150$)

2. треть 及 чéтверть ハ名詞ノ第三式變化ヲ成ス即チ лóшадь (§ 31) ノ如ク、половúна ハ第二式變化即チ кóмната (§ 25) ノ如ク變化ス

3. 數詞 треть, чéтверть, половúна ハ名詞ノ體ヲ成ス故ニ他ノ數詞ト共ニスル時ハ通常ノ規則ニ從フ

однá половúна я́блока, однóй половúны я́блока; одной половúнѣ я́блока
двѣ половúны грýши, двýхъ половúнъ грýши, двумъ половúнамъ грýши

двѣ тре́*ти* версты́, *двух*ъ третье́*й* ве́рсты́, *двум*ъ трем*я́м*ъ версты́...
три че́тверт*и* часа́, трёх*ъ* четверте́*й* часа́, трём*ъ* четверт*я́м*ъ часа́...

4. треть, че́тверть, полови́на ハ個數ト共ニスル時ハ前置詞 съ ヲ以テ個數ト合一シ而シテ變化ノ際ニハ個數ノミ變化シ分數詞ハ諸格ニ於テ依然變化セズ、然レ𪜈若シ треть, четверть, половина ノ前ニ數詞ノ立ツ時(即チ三分ノ二、二分ノ一等ト成ル場合)ハ個數ト分數ノ間ニ接續詞 и ヲ用ヒ而シテ變化ノ際ニハ個數モ分數モ共ニ變化ス

$2\frac{1}{3}$=два *съ* тре́тью, двухъ *съ* тре́тью, двумъ *съ* тре́тью...
$3\frac{1}{4}$=*три съ* че́твертью, трёхъ *съ* че́твертью, трёмъ *съ* че́твертью
$4\frac{1}{2}$=четы́ре *съ* полови́ною, четырёхъ *съ* полови́ною, четырёмъ съ полови́ною...
$5\frac{2}{3}$=пять и двѣ тре́*ти*, пяти́ и *двух*ъ третье́*й*, пяти́ и *двум*ъ третя́*м*ъ...
$6\frac{3}{4}$=шесть и *три* че́тверт*и*, шести́ и трёх*ъ* четверте́*й*...

5. 分數ヲ有スル個數ト共ニ立ツ名詞ハ個數ニ支配セラル、但シ唯一ノ例外ハ數詞 одинъ ト分數トノ間ニ接續詞 и ヲ入レタル場合ニシテ之ト共ニ立ツ名詞ハ分數ニ支配セラル、

три съ че́твертью ча́са ($3\frac{1}{4}$ 時間)	*пять* и три че́тверти часо́въ
пять съ че́твертью часо́въ	*одна* съ полови́ною верста́
три и три че́тверти ча́са	одна́ и *три* че́тверти версты́

6. полови́на ハ名詞ト綴合シテ一語ヲ成ス場合ニハ略シテ пол 或ハ полъ (若シ綴合ノ名詞ガ母音ヨリ始マル時ハ)ト成リ而シテ其名詞ハ單數ノ生格ト成ル、例ハ *по́л*часа, (半時間) *пол*мину́ты, (半分間) *полъ*-о́строва, (島ノ半分) *полъ*-им*ѣ*нія (半地)而シテ變化ノ際ニハ(單數ノ役格ノ外) у ノ字ヲ挿入ス例ハ

	單數	複數	單數	複數
名	полго́да (半年)	пол-*у*-го́ды	полмину́ты (半分時)	пол-*у*-мину́ты
生	пол-*у*-го́да	пол-*у*-годо́въ	пол-*у*-мину́ты	пол-*у*-мину́тъ
與	пол-*у*-го́ду	пол-*у*-года́мъ	пол-*у*-мину́тѣ	пол-*у*-мину́тамъ
役	полго́да	пол-*у*-го́ды	полмину́ты	пол-*у*-мину́ты
造	пол-*у*-го́домъ	пол-*у*-года́ми	пол-*у*-мину́тою	пол-*у*-мину́тами
前置	о пол-*у*-го́дѣ	о пол-*у*-года́хъ	о пол-*у*-мину́тѣ	о пол-*у*-мину́тахъ

備考 пол 或ハ полъ ト綴合シタル名詞ガ名格ト成リテ居ル時ハ其意義ヲ全ク異ニス例ハ полдня́ ハ「半日」ノ意ナレ𪜈 по́лдень ハ「正午」ノ意ナリ、полночи ハ「半夜」по́лночь ハ「夜半」полъ-о́строва ハ「島ノ半分」полуо́стровъ ハ「半島」ナリ、而シテ по́лдень 及 по́лночь ハ諸格ニ於テ у ノ字ヲ挿入ス (§ 22,7 ; § 32,3)

7. полъ ト綴合シタル語ノ傍ニ形容詞ガ定語或ハ客語ト成リテ立ツ時ハ常ニ複數ト成ル例ハ Я ждалъ васъ цѣ́лые по́лчаса и э́ти по́лчаса показа́лись мнѣ безконе́чными (我ハ全半時間汝ヲ待テリ、而シテ此半時間ハ我ニハ無限ノ如ク見ヘタリ).

8. полтора́ 及 полтора́ста ハ變化ノ際、役格外ノ諸格ニ於テ母音 у ヲ挿入ス而シテ力點ハ必ズ此挿入ノ母音ニ打ツ、此變化ハ數詞 сто ト同ジク、諸格ニ於テ а ヲ語尾トス、又 полтора ノ女性ノ名格ト役格ノ語尾ハ男性ト異ナリテ ы ト成ル

格	男中性	女性	三性共通
名	полтора	полторы́	полтора́ста
生	полу́тора		полу́тораста
與	полу́тора		полу́тораста
役	полтора́	полторы́	полтора́ста
造	полу́тора		полу́тораста
前置	о полу́тора		о полу́тораста

9. полтора́ ハ又別ノ變化式ヲ有ス 但シ之ヲ使用スルハ至テ 稀レナリ、 此變化式ニ於テハ полтора ハ單數ト複數ヲ有シテ、單數ニ於テハ男性ト中性ノ共通語尾及ビ女性ノ語尾ヲ有ス、此變化式ニ於テモ役格ノ外、單數ノ諸格ニ於テ母音 у ヲ挿入シ力點ヲ此母音ニ打ツ

格	男中性	女性	三性共通(複數)
名	полтора́	полторы́	полу́торы
生	полу́тора	полу́торы	полу́торыхъ
與	полу́тору	полу́торѣ	полу́торымъ
役	полтора́	полторы́	полу́торы
造	полу́торымъ	полу́торою	полу́торыми
前置	о полу́торѣ	о полу́торѣ	о полу́торыхъ

10. 名詞及形容詞ハ полтора́ ト合セシ際ニハ два, три, четыре ノ後ニ立チシ際 (§76, 2-3) ト同ジク使用セラル而シテ полтора́ста ト合セシ際ニハ пять, шесть ノ後ニ立チシ際ト同ジク使用セラル、例ハ

полтора́ зре́лыхъ (或ハ зре́лыя) я́блока, полу́тора зре́лыхъ я́блокъ...

полтора́ста ру́сскихъ фу́нтовъ, полу́тораста ру́сскихъ фу́нтовъ...

11. 前置詞 по (「ヅヽ」ノ意) ト共ニシタル полтора́ 及 полтора́ста ハ與格トナラズシテ役格ト成ル、例ハ *по* полтора́ рубля́, *по* полторы́ копе́йки, *по* полтора́ста рубле́й

12. 數詞 полтора́ 及 полтора́ста ト共ニスル名詞カ主語タル時ハ其客語ハ形容詞ニテモ動詞ニテモ使用法ハ個數詞 (§76, 10) 集合數詞 (§83, 4(丁)) ニ關スル場合ト同一ナリ、例ハ *Полтора́ста* э́тихъ я́блокъ о́чень до́роги (此百五十ノ林檎ハ甚ダ高價ナリ). У меня́ бы́ло въ карма́нѣ (ско́лько?) *полтора́* рубля́ (我レニハ懐中ニ一圓半アリタリ). Сего́дня у́тромъ прибы́ли въ го́родъ (кто?) *полтора́ста* солда́тъ (今朝市内ニ百五十ノ兵卒ハ來レリ).

§ 85. 純粋ノ分數詞

1 分數ヲ發語スルニハ先ツ母子ヲ發語シ、次ニ分母數ヲ發語シ最後ニ часть ト云フ語ヲ發語ス、但シ часть ト云フ語ハ常ニ發語セラルヽコトナク、省略シテ其意ノミヲ文中ニ留ム 例ハ $\frac{3}{4}$ ハ日本語ニテハ分母ヨリ發語シテ分子ニ及ボセドモ露語ニテハ分子ヨリ發語シテ分母ニ及フ即チ「三、四分ノ」ノ意義ト成ル

分子ニハ必ズ個數詞ヲ使用シ分母ニハ必ズ順序數詞ヲ使用スルガ故ニ露語ノ分數ハ個數詞ト順序數詞ト名詞 часть ヲ以テ組織セラルヽナリ

2 分數ハ變化ヲ成ス、變化ノ際ニハ三個ノ語、各々變化ス即チ (甲) 分子ハ個數詞ナル故ニ分數ノ名格ナル時ニハ、分子モ名格タルベク其他ノ格ニ於テハ分子ハ名詞 часть ト格ヲ一致スベシ (乙) 分母ハ順序數詞ナルヲ以テ、分數ノ諸格ニ於テ、名詞 часть ト同格タルベシ (丙) 而シテ名詞 часть ハ凡テノ名詞ト同ジク個數詞ト共ニ立ツ時ハ其個數如何ニ依テ格ヲ變ス 即チ分子タル個數詞ガ одинъ ナル時ハ часть ハ單數ノ名格タルベク、分子ガ два, три, четыре ナル時ハ часть ハ單數ノ生格タルベク、分子ガ五ヨリ以上ノ數ナル時ハ часть ハ複數ノ生格タルヘシ、而シテ分數ガ名格以外ノ格ニ立ツ際ニハ分子モ分母モ共ニ名詞 часть ト一致スヘシ、例ハ

$\frac{1}{3}$ одна́ тре́тья (часть), одно́й тре́тьей (ча́сти)...
$\frac{2}{3}$ двѣ тре́тьихъ (ча́сти), двухъ тре́тьихъ (часте́й)...
$\frac{3}{4}$ три четвёртыхъ (ча́сти), трёхъ четвёртыхъ (часте́й)...
$\frac{5}{6}$ пять шестыхъ (часте́й), пяти шестыхъ (часте́й)..
$\frac{10}{12}$ десять два́дцать-тре́тьихъ (часте́й), десяти двадцать-тре́тьихъ (часте́й)..

3. 分數ハ接續詞 и ヲ以テ個數ト合シ變化ノ際ニハ個數ト共ニ各々變化ス

$3\frac{5}{8}$ три и пять осьмыхъ, трёхъ и пяти осьмыхъ, трёмъ и пяти осьмымъ ..
$6\frac{7}{10}$ шесть и семь деся́тыхъ, шести и семи деся́тыхъ .

4 單純ノ分數ト共ニ立ツ名詞ハ常ニ單數ノ生格ト成リテ 分數ハ變化スルモ名詞ハ變化セス、個數ト合一セシ分數ト共ニ立ツ名詞ハ個數ニ支配セラル、但シ個數 одинъ ト合一セシ分數ト共ニ立ツ名詞ハ分數ニ支配セラレ常ニ單數生格ト成ル

$\frac{3}{5}$ рубля = *три* пя́тыхъ рубля́
$3\frac{2}{5}$ рубля = *три* и двѣ пя́тыхъ рубля́
$5\frac{2}{5}$ рублей = *пять* и двѣ пя́тыхъ рубле́й
$1\frac{2}{5}$ рубля = одинъ и *двѣ* пя́тыхъ рубля́
$1\frac{5}{8}$ рубля = одинъ и *пять* осьмы́хъ рубля́

§ 86 時刻

1. 幾時幾分ト云フ場合ノ「分ハ」日本語ニ於ケルカ如ク個數詞ヲ以テ之ヲ表ス但シ既ニ經過セシ「分」ヲ表示スルノ外ニ又殘餘ノ「分」ヲ表示スルコアリ、即チ幾時マデニ幾分ノ殘餘アルヲ言フ之ハ一時間ヲ兩分シテ後半即チ三十分以後ナル場合ニ用フルヲ常トス、例ハ 2 мину́ты, 5 мину́ть, 10 мину́ть, 25 мину́ть, 40 мину́ть 或ハ безъ 20-ти мину́ть (即チ例ハ五時四十分ナレバ「六時ニ二十分足ラズ」ト云フヲ得ベシ), 50 мину́ть 或ハ безъ 10-ти мину́ть, 55 мину́ть 或ハ безъ 5-ти мину́ть 而シテ通常 15 мину́ть ノ代リニ *четверть* ヲ、 30 мину́ть ノ代リニ *половина* ヲ 45 мину́ть ノ代リニ *три че́тверти* 或ハ *безъ че́тверти* ヲ用フ、

2. 時刻ハ個數詞ヲ以テモ順序數詞ヲ以テモ之ヲ表示スルコヲ得ベシ

〔甲〕 個數詞ヲ以テ幾時幾分ト述ブレバ其時刻ノ經過セシヲ表ス、又幾時ニ幾分足ラズト述ブレバ其時刻マデニ幾分ノ間餘アルヲ表ス、часъ (一

時), два часа́, пять часо́въ, 10 часо́въ, 12 часо́въ, 4 часа́ 10 мину́тъ, 6 часо́въ (15 мину́тъ ノ代リ =) *съ че́твертью*, 7 часо́въ 25 мину́тъ, 8 часо́въ (30 мину́тъ ノ代リ =) *съ полови́ною*, 9 часо́въ 40 мину́тъ 或ハ 10 часо́въ безъ 20-ти мину́тъ, 10 часо́въ (45 мину́тъ ノ代リ =) *три че́тверти* 或ハ 11 часо́въ (безъ 15-ти мину́тъ ノ代リ =) *безъ че́тверти*, 11 часо́въ 55 мину́тъ 或ハ 12 часовъ безъ 5 мину́тъ

〔乙〕 順序數詞ヲ以テハ經過中ノ時刻ヲ表ス、即チ第一時ト云ヘバ十二時ヨリ一時マデノ間ヲ指ス、第二時トハ一時ヨリ二時マデノ間ヲ指ス、第十二時トハ十一時ヨリ十二時マデノ間ヲ指ス、故ニ第二時ノ十分ト云フハ一時十分ナリ、而シテ此際ノ「第何時ノ」ト云フ「時」ハ「分」ニ對シテ定語ト成リ常ニ生格ニ立ツ且ツ часъ (時) ト云フ語ハ大抵之ヲ略シテ其意ノミヲ留ム、例ハ 2 часа 5 мину́тъ＝тре́тьяго (часа) пять мину́тъ, 3 часа 10 мину́тъ＝четвёртаго 10 минутъ, 4 часа съ че́твертью＝5-го че́тверть, 5 часо́въ съ полови́ною＝6-го полови́на, 6 часо́въ 20 мину́тъ＝7-го 40 мину́тъ, 7 часовъ и три че́тверти 或ハ 8 часо́въ безъ че́тверти＝8-го три че́тверти, 9 часовъ безъ пяти́ мину́тъ＝9-го 55 мину́тъ.

§ 87. 數 詞 的 副 詞

數詞ヨリ副詞ヲ生ス

1. 「幾許ヅヽ」ト云フ場合ニ前置詞 по ヲ用ヒテ個數詞 (§ 76,7) 集合數詞 (§ 84,3) 分數詞ヨリ副詞ヲ生ズ例ハ по одному́, по одно́й, по́ два, по́ двѣ, по́ три, по пяти́, по десяти́, по́ ста ; по дво́е, по тро́е, по пя́теро, по полтора́, по полтора́ста

2. 「幾度ヅヽ」ト云フ場合ニ於テ個數詞ニ разъ (度)ヲ接尾シテ副詞ヲ成ス且ツ一ヨリ四マデノ數ニハ жды ノ接尾ヲ附シテモ成ル

оди́нъ разъ＝одна́*жды* (一度。嘗テ)	пять разъ	два́дцать разъ
два ра́за＝два́*жды*	шесть разъ	сто разъ
три ра́за＝три́*жды*	де́сять разъ	ты́сяча разъ
четы́ре ра́за＝четы́ре*жды*	оди́ннадцать разъ	милліо́нъ разъ

備考 算術乘法ノ九々表ニ之ヲ用フ、例ハ два́жды два четыре (二二ケ四), пя́тью во́семь со́рокъ (五八、四十)

одна́*жды*	пятью́	девятью́
два́*жды*	шестью́	десятью́
три́*жды*	семью́	оди́ннадцать разъ
четы́ре*жды*	восемью́	два́дцать разъ

即チ一ヨリ四マデハ жды ノ接尾ヲ用ヒ、五ヨリ十マデハ個數詞ノ造格ヲ用ヒ十一ヨリ以上ハ個數詞ト разъ ヲ合用シテ九々表ノ初ノ乘數ト爲ス

3. 「幾個共同シテ」或ハ「幾人共同シテ」ト云フ場合ニハ

*вдво́ём*ъ (二人共同シテ)	*вшестеро́м*ъ	*вдесятеро́м*ъ
*втро́ём*ъ (三人共同シテ)	*всемеро́м*ъ	*по* оди́ннадцати *вмѣстѣ* (十一人ヅヽ共ニ)
*вчетверо́м*ъ (四人共同シテ)	*ввосмеро́м*ъ	*по* двадца́ти *вмѣстѣ*
*впятеро́м*ъ (五人共同シテ)	*вдевятеро́м*ъ	

4 「幾倍」ト云フ場合ニハ集合數詞ヨリシテ或ハ個數詞ヨリシテ成ル

вдво́е = въ два ра́за	вше́стеро = въ шесть разъ	вдеся́теро = въ де́сять разъ
втро́е = въ три ра́за	все́меро = въ семь разъ	въ оди́ннадцать разъ
вчетве́ро = въ четы́ре ра́за	ввосмеро = въ во́семь разъ	въ сто разъ
впя́теро = въ пять разъ	вдевя́теро = въ де́вять разъ	въ тысячу разъ

5 「幾分ス」即チ幾個ノ部分ニ分カツト云フ場合ニハ集合數詞ト個數詞ヲ以テス

на́двое	на двѣ ча́сти	на шесть часте́й
на́трое	на три ча́сти	на десять часте́й
на́четверо	на четы́ре ча́сти	.....

6 「第一ニハ」「第二ニ…」等ノ順次ヲ表スル場合ニハ順序數詞ト前置詞 въ ヲ用フ

во пе́рвыхъ	въ-четвёртыхъ	въ-седьмы́хъ
во-второ́хъ	въ-пя́тыхъ	въ-восьмы́хъ
въ-тре́тьихъ	въ-шестыхъ	въ-девя́тыхъ

動　詞

§. 88. 動　詞　・　質 (Зало́ги глаго́ла)

動詞ハ事物ノ動作或ハ狀態ヲ表示ス、動詞ノ表示スル動作ハ二種アリ即チ一ノ事物ノ動作ガ他ノ事物ニ移ルアリ或ハ移ラザルアリ、例ハ「我ハ手紙ヲ書ク」ト云ヘバ「書ク」ト云フ動作ハ他ノ事物タル「手紙」ニ移ルナリ、又「我ハ勉強ス」ト云ヘバ「勉強ス」ト云フ動作ハ他ノ事物ニ移ラズシテ動作者自身ニ止マルナリ

動詞ヲ以テ表示スル動作ノ種類ヲ質 (зало́гъ) ト名ツク、質ハ六種アリ дѣйстви́тельный (自動), возвра́тный (再歸), взаи́мный (相互), страда́тельный (被動), сре́дній (中), о́бщій (總)

備考　動詞ノ質ヲ明カニ知ルノ必要ナルハ殊ニ之ニ依テ補語ノ格ヲ定ムルヲ以テナリ、或ル質ノ動詞ノ後ニ立ツ補語ハ前置詞ナクシテ役格ト成ル、斯カル補語ヲハ直補語 (прямо́е дополне́ніе) ト名ツク、又或ル質ノ動詞ノ後ニ立ツ補語ハ他ノ諸格ト成リテ前置詞ト共ニシ或ハ前置詞ト共ニセザルトアリ、斯カル補語ヲハ斜補語 (ко́свенное дополне́ніе) ト名ツク

1. 自動質 (дѣйстви́тельный зало́гъ)、　1. 自動詞(能動詞ト譯スルモ可ナラン)ハ他ノ事物ニ動作ノ移ルヲ表示ス而シテ自動詞ノ傍ニハ常ニ其動作ノ達及スル事物ヲ指示ス、若シ此事物ヲ指示セザル時ハ文章ノ明瞭ヲ缺クニ至ラン例ハ我ハ書ク」ト單ニ言ヒシノミニテハ何ヲ書クヤラ明瞭ナラス又我ハ見タリ」ト單ニ言ヒシノミニテハ同シク明瞭ナラズ、故ニ思想ヲ補足シテ何ヲ」書ク何ヲ」見タリ誰ヲ」見タリトスルハ必要ナリ、總シテ自動詞ハ誰ヲ或ハ何ヲ」ノ問ニ應スルモノナリ

2. 自動詞ノ後ニ立ツ補語ハ「誰ヲ」或ハ「何ヲ」ノ問ニ答ヘテ役格トナリ前置詞ヲ設ケズ即チ他ノ語ヲ要セズシテ直接ニ動詞ニ應ズル故ニ之ヲ прямо́е дополне́ніе (直補語或ハ直接補語) ト名ツク

備考 1. 斯ノ如キ自動詞若シ直補語ヲ缺ク時ハ思想ノ明瞭ヲ缺ク、然ノミナラズ斯クテハ動作ノ性質タルヲ失フ事アリ、例ハ「我ハ讀ミナガラ遊戯ノ事ヲ思ヒ居ル」ト云フ文句ニ於テ單ニ「讀ミナガラ」トシテハ何ヲ讀ムヤラ明白ナラザル故ニ「讀ミナガラ」ハ事物ノ動作ヨリモ寧ロ事物ノ狀態ヲ表スルニ近シト云フベシ

備考 2. 時トシテ直補語ハ役格ノ代リニ生格ト成ルコアリ (§ 151, III)

3. 自動詞ハ不定法ニ於テ語尾 ть (母音ノ後ナレバ), ти (子音ノ後ナレバ) чь ヲ有ス而シテ決シテ ся ヲ語尾トセズ、例ハ чита́-ть (讀ム), писа́-ть (書ク), говори́-ть (言フ), дѣла́-ть (行フ, нес-ти́ (持チ運ブ), вез-ти́ (運輸ス), бере́чь (守ル), пе́чь (燒ク、煎ル)

4. 自動詞ヨリシテ出生スル動詞ハ再歸動詞 (возвра́тный) 相互動詞 (взаи́мный) 被動詞 (страда́тельный) ナリ

II. 再歸動詞 (возвра́тный)、一ノ事物ヨリ發セシ動作ガ他ノ事物ニ移ラズシテ再ビ其動作ヲ發セシ事勿ニ戻ルヲ表スルハ再歸動詞ナリ、再歸動詞ハ自動詞ヨリ出生ス即チ自動詞ニ再歸代名詞 себя (略シテ ся 或ハ сь ト成ス、ся ハ子音ノ後ニ附シ сь ハ母音ノ後ニ附ス) ヲ附シテ成ル、故ニ再歸動詞ノ不定法ハ ться, тись, чься ヲ語尾トス例ハ одѣва́ться (衣服ヲ自ラ着ル), умыва́ться (自身ノ體ヲ自ラ洗フ) учи́ться (學ブ即チ自身ヲ教フ), хвали́ться (自慢ス即チ自身ヲ譽ム), нести́сь (自身ヲ持運ブ即チ疾行ス) бере́чься (自衛ス)

III. 相互動詞 (взаи́мный)、相互動詞ハ二個以上ノ事物ガ相互ニ動作ヲ及ボスヲ表ス、相互動詞ノ後ニハ съ кѣмъ? (誰ト共ニ) 或ハ съ чѣмъ? (何ト共ニ) ノ問ヲ設クルヲ得ヘシ而シテ相互動詞ノ傍ニハ前置詞 съ 或ハ相互代名詞 (§ 69) ヲ使用スルヲ常トス例ハ「彼ハ屢々兄弟ト爭ヘリ」「彼等ハ屢々相互ニ爭ヘリ」

2. 相互動詞ノ不定法ハ常ニ語尾 ться ヲ有ス、例ハ встрѣча́ться (相逢フ), ссо́риться (相爭フ), дра́ться (喧嘩ス), сража́ться (戰闘ス), подружи́ться (相親ム)、又僅少ノ相互動詞ハ ть ヲ語尾トス例ハ разгова́ривать (談話ス), воева́ть (交戰ス)

備考 ся ヲ語尾トスル相互動詞ニ於テハ此語尾 (ся) ハ再歸動詞ニ於ケルガ如キ直補語ヲ成スニ非スシテ數個ノ事物ノ相互ノ動作ヲ表示スルノミ

IV. 被動詞 (страда́тельный)、I. 被動詞(所動詞ト譯スルモ可ナラン)ハ他ノ事物ヨリ動作ヲ被ムルヲ表ス、勿論、被動的事物ト雖モ、文句ニ於テ主語タルヲ得ヘシ、被動詞ニ對シテハ常ニ кѣмъ? (誰ニテ) 或ハ чѣмъ? (何ニテ) ノ問ヲ發スルヲ得ヘシ、例ハ「生徒ハ教師ニテ譽メラレタリ」「兄弟ハ母ニテ罰セラレタリ」「是レハ父ニテ我レニ命セラレシ」

2. 如何ナル文句ニ於テモ被動詞ヲ自動詞ニ變スルヿヲ得ヘシ、即チ名格ニ立チシ語ヲ役格ト成シ、造格ニ立チシ語ヲ名格ト成シ被動詞ヲ自動詞ニ轉スレハ可ナリ、例ハ「生徒ハ教師ニテ譽メラレテアツタ」=「教師ハ生徒

ヲ譽メタ」、「是ハ我ニ父ニテ命ゼラレタ」=「父ハ是ヲ我ニ命ジタ」、「兄弟ハ母ニテ罰セラレタリ」=「母ハ兄弟ヲ罰シタリ」

備考　然レ𪜈如何ナル文句ニ於テ モ 自動詞ヲ被動詞ニ 變シ得ヘキトハ謂フ能ハズ唯、直補語ノ存スル場合ニ於テノミ之ヲ 能クスヘシ、若シ自動詞ノ傍ニ斜補語 (即チ前置詞ヲ有スル役格或ハ役格以外ノ諸格ニ立ツ補語) ノ存スル場合ニハ自動詞ハ被動詞ニ轉ズル 能ハズ、例ハ「我レハ手紙ヲ書ケリ」ト云フ文句ニ於テハ自動詞「書ケリ」(написáлъ) ヲバ被動詞ニ轉ズルヲ得ベシ、如何トナレバ直補語ヲ有ス、即チ「手紙ハ我ニテ書カレタリ」、然レ𪜈「我レハ鉛筆ニテ書ケリ」ト云フ文句ニ於テハ自動詞「書ケリ」ヲ被動詞ニ轉ズル能ハズ、如何トナレバ直補語ヲ有セザレバナリ

3　被動詞ノ 出生ニハ二種アリ、(第一) 自動詞ニ ся 或ハ сь ヲ接尾シテ成ル例ハ　дѣ́латься (致サル、), чита́ться (讀マル), говори́ться (言ハル) 等ナリ、(第二) 自動詞ノ 被動的形動詞ニ 助動詞 быть ヲ合成シテ成ル、例ハ *быть* люби́мымъ (愛セラル、者トナル), *быть* по́сланнымъ (使ハサル、者トナル)

V.　中動詞 (сре́дний)、I 中動詞ハ事物ノ狀態ヲ表ス即チ事物ヨリ發セシ動作ガ事物自身中ニ行ハレテ他ノ事物ニ移ラザルナリ、例ハ　цвѣсти́ (咲ク), спать (寢ル), лежа́ть (臥ス), полнѣ́ть (肥滿ス), блѣднѣ́ть (蒼白トナル) 或ハ動作ガ他ノ事物ニ移ルトモ直接ニ移ラズシテ間接ヲ以テス、идти́ (行ク), ѣ́хать (乘行ク), игра́ть (演ス、戲ル) 等ノ如シ例ハ Братъ *уѣ́халъ* въ дере́вню (兄弟ハ村ニ出立セリ)。Я *пойду́* въ учи́лище (我ハ學校ニ行カン)、斯ノ如ク中動詞ノ後ニハ「誰ヲ」кого? 或ハ「何ヲ」что? ノ問ヲ發スル能ハズ又前置詞ヲ有セザル役格ヲ用フル能ハズシテ凡テ中動詞ニ對スル 補語ハ役格ナレバ前置詞ヲ用ヒ然ラザレバ他ノ格ヲ要ス

備考　然レ𪜈日本語ヲ標準トシテ露語ノ動詞ノ質ヲ定ムル能ハズ、例ハ「叩ク」ト云フ動詞ハ日本語ニテハ「何ヲ叩ク」ト云フ故ニ之ヲ標準トスレバ「叩ク」ハ自動詞タルガ如クナレ𪜈露語ノ стуча́ть (叩ク) ハ中動詞ニシテ стуча́ть *въ* дверь (戸ニ叩ク) ト云フ、或ハ стрѣля́ть (射擊ス) ハ中動詞ニシテ стрѣля́ть *изъ* ружья́ (銃ヨリ射擊ス) ト云フ、日本語ニテハ「鉄砲ヲ打ツ」「銃ヲ射擊ス」ト云フ故ニ之ヲ標準トスレバ自動詞ト見做スノ謬ヲ生ズベシ

2.　中動詞ノ不定法モ ть, ти, чь ノ語尾ヲ有ス例ハ быть, быва́ть, стать (成ル、始ム、カ、ル), жить (住居ス), сиде́ть (坐ス=腰掛ケル), ходи́ть (步行ス), е́хать (乘行ス), лежа́ть (臥ス、横ハル), спать (寢ル), цвѣсти́ (咲ク), течь (流ル)

備考　中動詞 быть, быва́ть, стать ハ助動詞ト名ツケラル、斯ク名ツケラルル所以ハ主語ト客語ノ連結ト成リ又他ノ動詞ノ變化ヲ助クルニ因テナリ

3.　始發體 (начина́тельный) ノ動詞モ中動詞ニ屬ス、始發體トハ事物ガ漸次ニ或ル性質ヲ受ケテ漸次ニ變易スルヲ表ス 動詞ナリ、始發體動詞ハ ть, нуть 及 ать (上顎音ノ後ニ立ツ語尾ニシテ至テ稀ナリ) ヲ語尾トシ常ニ形容詞ヨリ出生ス 或ハ稀ニハ名詞ヨリ出生スルモアリ、此動詞ハ「漸次」

ノ意義ヲ含ム故ニ之ヲ日本語ニ譯スル際ニハ「漸々何々トナル」トスルヲ常トス例ハ блѣдный ハ「蒼白キ」ニシテ блѣднѣть ハ「段々蒼白クナルナリ

блѣ́дный蒼白ナル	блѣдне́ть	по́лный肥ヘタル	полне́ть	сухо́й 乾キタル	со́хнуть
бе́лый 白キ	бѣле́ть	худо́й痩セタル	худе́ть	вя́лый 凋衰ノ	вя́нуть
кра́сный 赤キ	красне́ть	глухо́й 聾ナル	глохнуть	дорого́й貴重ノ	дорожа́ть
молодо́й 若カキ	молоде́ть	слѣпо́й 盲目ノ	слѣпнуть	коне́цъ 終局	конча́ть
ста́рый 老タル	старе́ть	зя́бкій 冷寒ナル	зя́бнуть	у́мница 悧口者	у́мничать

始發體動詞ハ其出生セシ形容詞ト становиться（ト成ル）ト云フ動詞ヲ以テ代用セラル。コヲ得ベシ例ハ блѣднѣть＝становиться блѣднымъ, полнѣть＝становиться по́лнымъ, глохнуть＝становиться глухи́мъ

4. 前置詞ヲ中動詞ニ綴合シテ自動詞ト成スコトアリ例ハ *прожи́ть*（消費ス）, *просиде́ть*（坐リ通ス）, *проспа́ть*（寢過シテ事ヲ行ハズ）, *объѣ́хать*（乘リ回ル）, *переѣ́хать*（乘リ切ル）

VII. 總動詞（о́бщій） 1. 總動詞ハ其意味ヨリスレハ中動詞ト同シク其動作ハ直接ニ他ノ事物ニ移ラザルナリ 即チ總動詞ノ補語ハ前置詞ヲ有セザル役格タル能ハズ、而シテ總動詞ハ語尾ヲ以テ中動詞ト相異ナル、總動詞ノ語尾ハ必ズ ся 或ハ сь ヲ有ス、例ハ стара́ться（勉ム、盡力ス）, лѣни́ться（怠ル）, надѣ́яться（望ヲ抱ク、信賴ス）, смѣ́яться（笑フ）, горди́ться（傲慢ス）,

2. 總動詞ニハ必ス ся ノ語尾アリ、勿論、再歸動詞、相互動詞ニモ ся ノ語尾アレモ此等ノ動詞ノ語尾 ся ヲ棄ツルトモ別ノ動詞ト成ル、然ルニ總動詞ノ語尾 ся ヲ棄ツレハ全ク露語ニ無キ語トナル例ハ стараться, лѣниться, надѣяться 等ノ語ハ全ク無シ、但シ語尾 ся, сь ヲ放棄シテモ通用シ得ベキ動詞ガ總動詞ニ屬スルコヲモ得ベシ（其意義ヨリスレバ）、斯ル場合即チ ся,сь ヲ放棄シタル場合ニハ全ク異リタル意義トナル例ハ занима́ть（興味ヲ與フ）—занима́ться（修業ス、勉强ス）、但シ斯カル動詞ハ僅少ナリ

備考 1. 語尾 ся,сь ハ動詞ノ質ニ由テ本來其意ヲ異ニス、再歸動詞ノ語尾 ся ハ直補語ヲ成シ「自身ヲ」ト云フ意ニシテ動作者、自身ニ動作ノ歸リ戻ルヲ表ス、相互動詞ニ於テハ語尾 ся ハ數個ノ事物ノ動作ガ交モ相移ルヲ表ス、被動詞ニ於テハ此語尾ハ主位ニ立ツ事物ガ第二位ニ立ツ事物ヨリ動作ヲ受クルヲ表ス、總動詞ニ於テハ此語尾ハ動作ガ他ノ事物ニ移ラズシテ動作スル事物自身ニ止マルヲ表ス、若シ移ルコトアルトモ直接ナラズ

備考 2. 凡テ動詞ノ質ハ其語尾ニ由テ之ヲ判別シ難シ如何トナレハ或ル動詞ハ種々ノ意義ヲ有シテ種々ノ質ト成ル、例ハ дра́ться ハ幾種ノ質トモ成ル、Пла́тье дерётся（衣服ハ破レル）ト云ヘハ再歸動詞ナリ、Ма́льчики деру́тся（童子等ハムシリ合フ）ト云ヘハ相互動詞ナリ Онъ дерётся（彼ハ自裂（ジレル））ト云ヘハ總動詞ナリ、又 биться モ幾種ノ質ヲ有ス Ры́ба бьётся объ лёдъ（魚ハ氷ニ身ヲ跳チ付ク）ト云ヘハ再歸動詞ナリ、Посу́да бьётся прислу́гою（食器ハ召使ニ破毀セラル）ト云ヘハ被動詞ナリ、Бойцы́ бью́тся другъ съ друго́мъ（角力者ハ互ニ相撲チ合フ）ト云ヘハ相互動詞ナリ、Онъ уже давно́ бьётся надъ э́тою зада́чею（彼レハ既ニ久シク此問題ニ苦心セリ）ト云ヘハ總動詞ナリ、又 играть モ然リ例ハ Игра́ть пье́су（戯曲ヲ演ス）ト云ヘハ自動詞ナリ、Де́ти игра́ютъ（小兒ハ遊戯ス）ト云ヘハ中動詞ナリ、

§ 89. 動詞ノ體 (Ви́ды глаго́л)

既ニ述ベシ如ク (§ 88) 動詞ハ事物ノ動作或ハ狀態ヲ表示ス、而シテ其動作或ハ狀態ハ長ク持續スルモアリ、完結スルモアリ、完結セザルモアリ、或ハ一回ニテ結了ヲ告クルアリ或ハ數回重復スルモアリ、斯カル狀態ヲ表スル爲ニ動詞ハ多少其語根ヲ變動スル之ヲ動詞ノ體 (вид глаго́ла) ト名ヅク

動詞ノ體ハ概シテ二トス、不完成體(或ハ持續體)幷ニ完成體(或ハ結了體)ナリ其外、多回體ト名ヅクルアリテ不完成體ニ屬シ、一回體ト名ヅクルハ完成體ニ屬ス、故ニ動詞ノ體ハ凡テ四種ナリ

I 不完成體 (несоверше́нный) 或ハ持續體 (дли́тельный) (§ 103) 1. 此體ハ動作或ハ狀態ノ持續スルヲ表シ其始メト終リニハ關係セズ、例ハ Вчера́ я *чита́лъ* кни́гу, *писа́лъ* письмо́ и *рисова́лъ* карти́ну (昨日我ハ書物ヲ讀ミ手紙ヲ書キ繪ヲ畫キ居レリ)、此中ノ動詞 читалъ, писалъ, рисовалъ ハ昨日或ル時間内ニ於テ我ハ之ヲ行ヒタリトノ意ヲ表シ、果シテ其書物ヲ讀ミ終リシヤ、手紙ヲ書キ終リシヤ、繪ヲ畫キ終リシヤ、又之ヲ始メシ何時ナリヤ等ニ關係セズ、

2. 此體ハ動作ノ常ニ行ハルヽ、或ハ動作ノ重復スルヽ動作ノ習慣的ナル等ヲ表示スル故ニ概シテ副詞 обы́кновенно (通常), постоя́нно (不斷), всегда́ (常ニ), ежедне́вно (每日), ча́сто (屢々), иногда́ (時々) 等ト共ニ使用セラル、或ハ是等ノ副詞ガ文面ニ存セザルトモ其意ヲ含ム場合ニハ使用セラル、例ハ Онъ *обыкновéнно занима́лся* по вечера́мъ (彼ハ通例、晚ニ勉强セリ). Я *нѣсколько разъ чита́лъ* э́ту кни́гу (我ハ數回此書ヲ讀ミタリ) Я *ежедне́вно ходи́лъ* къ отцу́ (我ハ每日父ノ許ニ往ケリ). Онъ *ча́сто писа́лъ* бра́ту (彼ハ屢々兄弟ニ書シタリ)、

3. 此體ハ現在、過去、未來ノ三ツノ時ヲ有ス、此體ノ未來ノ式ハ所謂合成式 (сло́жное бу́дущее) ニシテ助動詞 быть 或ハ стать ト共ニス、例ハ чита́ть ト云フ動詞ノ現在ハ я чита́ю (我ハ讀ミ居ル) 過去ハ я чита́лъ (我ハ讀ミ居レリ) 未來ハ я бу́ду (或ハ ста́ну) чита́ть (我ハ讀ムナラン)

4. 不完成體ニ屬スルモノハ前置詞ヲ前綴セザル所ノ凡テノ動詞ナリ、例ハ чита́ть, писа́ть, знать, говори́ть, красне́ть (赤クナル), быть пѣть (歌フ), станови́ться (段々…ナル)

II 完成體 (соверше́нный) (§ 109) 1. 此體ハ動作ノ持續ヲ表スルニ非ズシテ其動作ノ行ハル、瞬刻 (моме́нтъ) ヲ表ス或ハ唯其始メ若シクハ其終リノミヲ表シテ、持續スルヤ否ヤニ關係セズ、例ハ Вчера́ я *прочита́лъ* кни́гу, *написа́лъ* письмо́ и *нарисова́лъ* карти́ну. 此中ノ動詞 прочита́лъ, написа́лъ, нарисова́лъ ハ動作ノ終結セシノミヲ表ス、 Братъ побѣжа́лъ въ ла́вку (兄弟ハ店ニ駈ケツケタリ)、此中ノ動詞 побѣжа́лъ ハ動作ノ始發ノミヲ表シ即チ駈ケ出シタル瞬刻ノミヲ表ス

2. 完成體ハ一次ニ限ル所ノ動作若シクハ狀態ヲ表スル故ニ多クハ副詞 ра́зомъ (一擧シテ、直チニ), разъ (嘗テ、或ル一度), вдругъ (俄ニ), неожи́данно (不意ニ), не ла́нно (心ナラズシテ) 等ノ後ニ使用セラル、假令此等

ノ副詞ガ文面ニ存セザルトモ其意味ヲ含ム場合ニハ概シテ完成體ヲ使用ス

3. 完成體ハ過去ト未來トノミヲ有シテ現在ヲ有セズ、且ツ現在ヲ有スベキ所以ナシ如何トナレバ完成體ハ既ニ終結セシ動作ヲ表シ、現在ハ未ダ終結セズシテ持續シツヽアル動作ヲ表ス、完成體ノ未來ハ合成式ヲ用ヒズシテ單一式 (простóе) ヲ用フ、例ハ прочитáть (通讀ス) ハ現在ヲ有セズ、過去ハ я прочитáлъ (我レハ通讀シタリ)、未來ハ я прочитáю (我ハ通讀セン)、

4. 完成體ハ不完成體ニ前置詞ヲ綴合シテ以テ成ル、是ヲ以テ不完成體ノ動詞モ若シ之ニ前置詞ヲ綴合スレハ完成體ト成ル、故ニ前置詞ト綴合スル根元的 (коренно́е) 語尾ヲ有スル動詞ハ凡テ完成體ニ屬ス、例ハ *про*читáть (通讀ス), *вы*читать (讀取ル), *пере*читáть (復讀ス), *на*писáть (書キ終ル), *за*писáть (書キ附ケル), списáть (寫シ取ル), *пере*писáть (淸書ス、寫ス), *узна́ть* (知リ得ル), *вы*говорить (言出ス、責付ス), *по*краснѣть (赤面ス、赤クナル), *при*бы́ть (到着ス), *за*бы́ть (忘ル), *запѣ́ть* (歌ヒ出ス), *про*пѣ́ть (歌ヒ通ス).

III 多回體 (многокра́тный) (§ 110) 1. 多回體モ不完成ノ如ク動作ノ始ト終ニ關セズシテ唯其持續ヲ表ス、故ニ其意味ヨリ見レハ多回體ハ一種ノ不完成體ニ過ギス、然レモ不完成體ト異ナル點アリ、〔甲〕多回體ハ過去ニ於ケル動作或ハ狀態ヲ表スルノミナルヲ以テ現在ト未來ヲ有セズ、〔乙〕多回體ハ數次行ハレシ動作ヲ表ス、例ハ чи́тывать—чи́тывалъ, гова́ривать—гова́ривалъ, знава́ть—знава́лъ.

2. (不完成體 несоверше́нный) 現今ノ露語ニ於テハ多回體ハ殆ト使用セラレズ、故ニ殆ト獨立ノ用ヲ成サヾレモ他ノ動體ヲ組成スルニ就テ非常ノ勢力ヲ有ス、即チ多回體ハ前置詞ト綴合シタル動詞ヲシテ不完成體ヲ組成スル基根ト成ル、抑モ露語ノ動詞ノ過半ハ前置詞ト綴合シタル動詞ナリ、且ツ或ル動詞ノ如キハ前置詞ト綴合セザレハ使用セラル、コトナキモノアリ、此等ノ動詞ハ凡テ完成體ニ屬ス、而シテ此種ノ動詞ヨリシテ不完成體ヲ組成セントスルニハ多回體ノ語尾ヲ以テ之ニ附スルヲ要ス、即チ前置詞ヲ綴合シタル動詞ヲ以テ其不完成體ヲ造ラントスルニハ其動詞ノ根元的語尾ヲ去リテ之ニ多回體ノ語尾ヲ附着スルニ在リ、斯ノ如ク不完成體動詞ニ前置詞ヲ綴合シテ以テ完成體ヲ造ルガ如ク、多回體ノ語尾ヲ有スル動詞モ前置詞ト綴合シテ以テ不完成體ヲ組成スルモノナリ、

3. 多回體ノ語尾ヲ有スル前置詞ト綴合スレバ是レ純粹ノ不完成體動詞ト成ル即チ動作ノ持續ヲ表シ且ツ現在、過去、未來ノ三時ヲ有スルモノト成ル (未來ハ合成式ヲ用フ)、例ハ перечи́тывать ノ現在ハ я перечи́тываю 過去ハ я перечи́тывалъ 未來ハ я бу́ду перечи́тывать ナリ、是故ニ不完成體ノ動詞ハ二種ニシテ〔甲〕前置詞ト綴合セズシテ而シテ根元的語尾ヲ有スル動詞〔乙〕前置詞ト綴合シ且ツ多回體ノ語尾ヲ有スル動詞、是ナリ

4. 多回體ノ語尾ハ根元的ニ比スレバ長キモノナリ、其不定法ノ語尾ハ ать ト ить ニ限ル、而シテ ать ノ語尾ハ殊ニ多シ、ывать, ивать, вать, ирать, има́ть 等ハ皆 ать ニ基キタル語尾ナリ、或ハ ать ノ語尾ノ前ニ喉音、及ビ上顎音ヲ有スルモノアリ、其他ノ子音ヲ語尾 ать ノ前ニ有スル多

回體動詞ハ至テ僅少ナリ、而シテ ать ノ語尾ノ前ニハ舌音ヲ有スルモノアリ或ハ лять ヲ語尾トシ其前ニ唇音ヲ有スルモノアリ、例ハ

不完成體（根元的語尾）	多回體語尾（獨立ノ用ヲ成サズ）	完成體（根元的語尾）	不完成體（多回體ノ語尾）
чита́ть 讀ム	чи́тывать	прочита́ть	прочи́тывать 通讀ス
		перечита́ть	перечи́тывать 復讀ス
быть 在ル、居ル	быва́ть	забы́ть	забыва́ть 忘ル
писа́ть 書ク	пи́сывать	записа́ть	запи́сывать 書付ク
		списа́ть	спи́сывать 寫ス
		надписа́ть	надпи́сывать 表書ス、上ニ書ス
		переписа́ть	перепи́сывать 清書ス
(каза́ть)	(ка́зывать)	приказа́ть	прика́зывать 命ス
		разсказа́ти	разска́зывать 物語ル
говори́ть 言フ	гова́ривати	вы́говорить	выгова́ривать 言出ス、責付ス
зна́ть 知ル	зна́вать	узна́ть	узна́вать 識得ス
брать 取ル	(бира́ть)	собра́ть	собира́ть 集ム
(мере́ть)	(мира́ть)	умере́ть	умира́ть 死ス
(я́ть)	(има́ть)	поня́ть	понима́ть 領會ス
		приня́ть	принима́ть 受ク
мо́чь 能クス	(мог-а́ть)	помо́чь	помога́ть 助ク
течь 流ル	(тек-а́ть)	вы́течь	вытека́ть 流出ス
(оружи́ть)	(оружа́ть)	вооружи́ть	вооружа́ть 武裝ス
(лучи́ть)	(луча́ть)	получи́ть	получа́ть 領收ス、得ル
(ча́ть)	(чина́ть)	нача́ть	начина́ть 始ム
ступи́ть 步ス	ступа́ть	наступи́ти	наступа́ть 到ル、踏ム
(гради́ть)	(граждя́ти)	награди́ть	награжда́ть 賞ス
(во́лить)	(воля́ть)	позво́лить	позволя́ть 許ス
(ясни́ть)	(ясня́ть)	объясни́ть	объясня́ть 說明ス
(треб-и́ть)	(треб-ля́ть)	употреби́ть	употребля́ть 使用ス
гото́вить 備フ	(гото́в-ля́ть)	пригото́вить	приготовля́ть 準備ス

Я запи́сывалъ э́ту рѣчь, но не всю записа́лъ 我ハ此演說ヲ筆記セリ然レ𪜈悉クヲ筆記セシニ非ス)、此文ノ запи́сывалъ ハ不完成體ニシテ、записа́лъ ハ完成體即チ完結ヲ表ス、Онъ переписывалъ э́ту статью, но ещё не переписа́лъ (彼ハ此文ヲ淸書シタリ、然レ𪜈未ダ淸書シ終ラズ)、переписывалъ ハ不完成體ニシテ переписа́лъ ハ完成體ナリ、Онъ разска́зывалъ намъ объ э́томъ дѣлѣ подро́бно, но, вѣроя́тно, ещё не всё разсказа́лъ (彼ハ我等ニ此事ヲ精シク物語リタレ𪜈、多分未ダ悉皆ヲ物語リ盡セシニ非ス)、Прежде я получа́лъ отъ родны́хъ пи́сьма ка́ждую недѣ́лю, но въ э́томъ мѣ́сяцѣ ещё не получи́лъ ни одного́ письма́ (我ハ以前ハ親戚ヨリ每週手紙ヲ得タレ𪜈此月ハ未ダ一ノ手紙ヲモ得ザリシ)、Онъ пріѣ́халъ въ дере́вню, когда́ наступи́ла

весна́, а возврати́лся въ го́родъ, когда ужё наступи́ла зима́ (春ガ來リカヽリシ頃、彼ハ田舍ニ乘往ケリ、シテ冬ガ全ク來リタル時、市府ニ歸レリ).

斯ノ如ク、前置詞ト綴合シタル動詞ハ如何ナル體ニ屬スルヤヲ知ラントスルニハ其語尾ニ注意スルヲ要ス、即チ若シ其語尾ガ單一的(根元的)タル時ハ完成體ニ屬シ、若シ多回體的ナル時ハ不完成體ニ屬ス

備考 1. 動詞 быва́ть ハ其形式ヨリスレバ動詞 быть ヨリ出生セシ多回體ナレトモ前置詞ト綴合セズシテ不完成體トナリテ使用セラル、故ニ現在過去未來ノ三時ヲ有ス、而シテ быва́ть ハ быть ト異ナリテ動作ノ重復ヲ表ス、例ハ *Вчера я былъ* въ Іокога́мѣ (昨日我ハ横濱ニ往タリ). Зимо́ю *я ча́сто быва́лъ* въ Іокога́мѣ (冬ハ我レ屢々横濱ニ往キタリ).

備考 2. 多回體ノ語尾ヲ有スル不完成體ノ動詞ハ皆ナ母音變化 (§ 104, I) ニ屬ス即チ語尾 ть ノ前ニ立ツ所ノ母音 а 或ハ я ハ變化中ニモ其儘保持セラル

IV. 一回體 (однокра́тный 或ハ мгнове́нный 瞬間體) (§ 111) 1. 此體ハ完成體ノ如ク動作ノ結了、完結セシヲ表スルガ故ニ現在ヲ有セズシテ、過去ト未來ノミヲ有ス但シ未來ハ單一的ナリ、例ハ кри́*кнуть* (叫ブ) ノ過去ハ кри́*кнулъ* 未來ハ кри́*кну*

2. 一回體ハ不定法ニ於テ必ズ нуть ノ語尾ヲ有ス

3. 一回體ニ屬スル動詞ハ二類ニ分ツヲ得ベシ〔甲〕一ツハ瞬間ニ行ハルヽ動作ナル故ニ其動作ノ始ト終ハ同時ナリ、此類ノ動詞ハ概シテ耳目ノ感觸ニ關係ヲ有スル動作ヲ表ス、例ハ кри́*кнуть* (叫ブ), сту́*кнуть* (叩ク), хло́*пнуть* (バタリト扉ヲ閉ヅ)

〔乙〕又一ツハ瞬間ニ行ハルヽ動作ニハ非レトモ其終リハ何時ナリシヤヲ判然シ難キ動作ヲ表スルモノナリ、其動作必ズシモ耳目ノ感觸ニ關スルニ非ズ、例ハ привы́*кнуть* (慣ル), обману́*ть* (欺ク), отве́*ргнуть* (排斥ス), исче́*знуть* (消滅ス) 等ノ如シ

此種ノ動詞ハ嚴密ニ言ヘバ完成體ニ屬ス、然レトモ其形式ヨリスレバ一回體ニ屬ス、如何トナレバ語尾 нуть ヲ有ス

備考 1. 或ル完成體動詞ハ其意味ヨリスレバ一回體ト毫モ異ナル所ナキモ唯 нуть ヲ語尾トセザルノミ例ハ дать (與フ), взять (取ル), схвати́ть (摑ム)

備考 2. 一回體動詞ト始發體ノ中動詞 (同ジク нуть ノ語尾ヲ有スル) § 88, V, 3 トヲ混同スベカラズ、始發體中動詞ハ事物ノ移動スル狀態ヲ表シ且ツ不完成體ニ屬ス

備考 3. 斯ノ如ク、語尾 нуть ヲ有スル動詞ハ三種ノ體ニ分カル (甲) 一回體 (乙) 完成體 (丙) 不完成體是レナリ

§ 90. 動詞ノ體 (承前)

1. 不完成體、不完成體ニ屬スルハ 1. 根元的語尾ヲ有シ而シテ前置詞ト綴合セザル動詞全體ナリ、語尾 нуть ヲ有スル中動詞モ此種ニ屬ス、例外ハ次ノ如シ (甲) 語尾 нуть ヲ有スル一回體動詞、(乙) 根元的語尾ヲ有シテ

前置詞ト綴合セザル動詞ガ完成體ニ屬スルコトアリ、但シ僅少ニシテ總數二十九ノミナリ (§ 109, II, 2) 例ハ дать (與フ), купи́ть (買フ). ко́нчить (終ル), стать (始ム、立ツ)、2. 多回體動詞全體、3. 多回的語尾ヲ有シテ前置詞ト綴合シタル動詞全體、4. 其外、例外トシテ根元的語尾ヲ有シ且ツ前置詞ト綴合シタル僅少ノ動詞ハ不完成體ニ屬ス、(本來此種ノ動詞ハ完成體ニ屬シテ可ナルベキナレトモ)

II. 完成體、完成體ニ屬スルハ 1. 根元的(多回的ニ非ズ)語尾ヲ有シ而シテ前置詞ト綴合ノ動詞全體ナリ、此種ノ動詞中ヨリ例外ヲ成スハ僅少ノ動詞ナリ、例ハ входи́ть (入ル), выходи́ть (出ヅ) (§ 108, 5), по́мнить (記憶ス), сожале́ть (惜ム) (§ 109, II, 1, 乙) 等ハ不完成體ニ屬ス、2. 語尾 нуть ヲ有スル一回體ノ動詞全體、3. 例外トシテ前置詞ト綴合セザル廿九個ノ動詞 (實ハ不完成體ニ屬シテ可ナルベキナレトモ)

不完成體	完成體
1. чита́ть 讀ム	1. *про*чита́ть 通讀ス
писа́ть 書ク	*на*писа́ть 書終ル
знать 知ル	*у*зна́ть 知リ得ル
говори́ть 言フ	*вы́*говорить 言出ス
красне́ть 赤クナル	*по*красне́ть 少シク赤クナル
быть 在ル、居ル	*за*бы́ть 忘ル
пе́ть 歌フ	*про*пе́ть 歌ヒ終ル
со́*хнуть* 乾燥ス (§ 88, V, 3)	2. кри́к*нуть* 叫フ
вя́*нуть* 凋衰ス	сту́к*нуть* 叩ク
зя́б*нуть* 凍ユ	привы́к*нуть* 慣ル
2. чи́тывать 屢々讀ム	1. *вы́*читать 讀取ル
говáривать 屢々言フ	*про*говори́ть 言ヒ終ル
знáвать 屢々知ル	*разу*зна́ть 判知ス
бывáть 屢々在ル	*при́*быть 到着ス
3. *пере*чи́тывать 屢々復讀ス	*пере*чита́ть 復讀シ終ル
§ 89, III, 4 參照	§ 89, III, 4 參照
4. входи́ть 入ル § 108, 5	3. дать 與フ § 109, II, 2
*вы*ходи́ть 出ル	купи́ть 買フ
по́мнить 記憶ス § 109, II, 1, 乙	ко́нчить 終ヘル
*со*жале́ть 惜ム	стать ナル、カヽル、立ツ

備考 此表ニヨリテ見ルモ凡テ動詞ハ前置詞ト綴合スルモノ多キコト明カナリ、前置詞ト綴合スル動詞ハ前置詞的動詞 (предло́жный глаго́ль) ト名ケラル、總シテ前置詞ハ動詞ト綴合スレバ其動詞ニ種々ノ意義ヲ附ス、例ハ чита́ть (讀ム), *про*чита́ть (通讀ス), *пере*чита́ть (復讀ス), *вы́*читать (讀取ル) ...等ナリ時トシテハ全ク其動詞ノ根元的意義ヲ變ズルコトアリ、例ハ быть (在ル、居ル、有ル)ヨリ生ズル *при*бы́ть (增ス、到來ス), *за*бы́ть (忘ル)等、идти́ (行ク)ヨリ生ズル *най*ти́ (見出ス)等ノ如シ、動詞ニ前綴スル前置詞ニ關シテハ詳細 § 129 參照

§ 91. 動詞ノ法 (Наклоне́ние глаго́ла) (§ 114. I)

動詞ハ四ツノ法ヲ有ス、不定法、直說法、接續法、命令法是レナリ

I. 不定法 (неопредѣлённое наклоне́ние). 1. 動詞ハ不定法ニ於テ ть, ться, ти, тись, чь, чься 等ノ語尾ヲ有ス、凡テ語尾ノ前ニ母音ヲ有スル動詞ハ ть, ться ヲ語尾トス例ハ чита́-ть, чита́-ться, дѣ́ла-ть, дѣ́ла-ться, имѣ́-ть, имѣ́-ться, ду-ть, бы-ть, говори́-ть 等ノ如シ、而シテ語尾ノ前ニ子音ヲ有スル動詞ハ ти, тись ノ語尾ヲ有ス是レ三個ノ子音相並ビテ聲調ヲ害ハザラン爲メナリ、例ハ нес-ти́, нес-ти́сь, вез-ти́, вез-ти́сь. 但シ語尾ノ前ニ子音ヲ有スル動詞ニ ть, ться ノ語尾ヲ使用スルコトモアリ、聲調ヲ害ハザレバ斯クシテ可ナリ、例ハ нести́ トモ несть トモ書ス、語尾 чь, чься ハ簡略シタルモノニテ чь ハ гть 或ハ кть ノ略ナリ、例ハ мочь (能フ)=мог-*ть*, бере́чь (守ル)=бере́г-*ть*, печь (煎ル)=пек-*ть*, течь (流ル)=тек-*ть*

2. 動詞ノ不定法ノ語尾 ть, ться, ти, тись ハ語根(幹)ト接合スルニ二樣ノ法アリ〔甲〕或ル動詞ハ語根ト語尾ヲ接合スルニ挿入ヲ用ヒズ、斯ノ如キ動詞ヲ原形的 (первообра́зный) 動詞ト名ツク、例ハ бы-ть, да́-ть (與フ), ду-ть (吹ク), пѣ́-ть (歌フ), нес-ти (携フ), вез-ти (運フ) 等ノ如シ

〔乙〕大概ノ動詞ハ語尾ト語根ノ間ニ一ノ母音或ハ二三ノ母音ヲ挿入ス、斯カル動詞ヲ組成的 (произво́дный) 動詞ト名ツケ其挿入セシ文字ヲ動詞ノ表徴 (приме́та глаго́ла) ト名ツク例ハ

а	пис-*а́*-ть 書ス	*ава*	узн-*ава́* ть 知ル
я	смѣ́-*я́*-ться 笑フ	*ива*	разгова́р-*ива* ть 談話ス
и	говор-*и́*-ть 言フ	*ыва*	запи́с-*ыва*-ть 筆記ス
е	тер-*е́*-ть 拭フ	*ова*	рис-*ова́* ть 畫ク
ъ	ви́д-*ъ*-ть 見受ク	*ева*	гор-*ева́*-ть 憂フ
ва	бы-*ва́*-ть 居ル	*ну*	со́х-*ну*-ть 乾燥ス

3. 不定法ハ其意味ニ於テハ殆ト名詞ト同シキガ故ニ時トシテハ名詞ヲ以テ不定法ノ代用ヲ成スコアリ、例ハ чита́ть—чте́ние (誦讀), молча́ть—молча́ние (緘默) 等ノ如シ、而シテ不定法ハ名詞ト同シク主語トモ補語トモ成リ稀ニハ定語トモ成ルナリ、Молча́ть (=молча́ние)—поле́зно (緘默ハ有益ナリ)此文ニ於テハ不定法ハ主語ト成レリ、Я научи́лъ бра́та чита́ть (=чте́нію) (我ハ兄弟ニ讀方ヲ敎ヘタリ)此文句ニ於テハ不定法ハ補語ト成レリ、Иску́сство рисова́ть (=рисова́нія) не легко́. (繪畫ノ術ハ容易ナラズ)此文ニ於テハ不定法ハ定語ト成レリ

4. 時トシテ不定法ハ未來、接續法、命令法 (§ 114, I) ノ代リニ使用セラル

5. 不定法ハ動詞ノ原態ナリ、故ニ現在、過去、未來、其他接續法、命令法モ皆ナ不定法ヨリ生ズ

§ 92. 動詞ノ時 (Вре́мя)

直說法 (изъявительное наклоне́ние) ハ現在、過去、未來ノ三時ヲ有ス

I. 現在 (настоя́щее вре́мя) 1. 現在ハ單復ノ二數ト三個ノ人稱トヲ有ス(性ハ無シ)、而シテ現在ノ變化ハ二式ヲ有シ各式共ニ硬、軟ノ二種ニ分カ

タル、單數ノ第一人稱ノ語尾ハ第一式モ第二式モ同一ナリ(即チ軟變化ナレバ軟母音 ю ヲ、硬變化ナレバ硬母音 у ヲ用フ)、其他ノ諸人稱ニ於テハ第一式ト第二式ハ變化ヲ異ニス、即チ第一式變化ニ於テハ語尾 е 及 у 或ハ ю ヲ用ヒ第二式變化ニ於テハ語尾 и 及 а 或ハ я ヲ用フ、殊ニ復數ノ第三人稱ニ於テハ第一式モ第二式モ各異リタル軟變化ト硬變化ノ語尾ヲ有ス、即チ第一式ノ軟變化ハ軟母音 ю ヲ、硬變化ハ硬母音 у ヲ語尾中ニ用ヒ、第二式ノ軟變化ハ軟母音 я ヲ、硬變化ハ硬母音 а ヲ語尾中ニ用フ、之ヲ要スルニ第一式ニ於テモ第二式ニ於テモ 硬變化ト軟變化ノ差異ハ 單數ノ第一人稱ト複數ノ第三人稱ニ存スルナリ、其他ノ各人稱ニ於テハ軟硬共ニ同一ノ語尾ヲ有ス但シ第一式ト第二式トノ差別ハ依然トシテ存ス

		第一式變化		第二式變化		第一式ノ實例		第二式ノ實例	
	人稱	軟	硬	軟	硬	軟	硬	軟	硬
						чита́-ть 讀ム	пла́ка-ть 泣ク	говори́-ть 言フ	учи́-ть 教フ
單	1	*ю*	*у*	*ю*	*у*	чита́-*ю*	пла́ч-*у*	говор-*ю́*	уч-*у́*
	2	*ешь*		*ишь*		чита́-*ешь*	пла́ч-*ешь*	говор-*и́шь*	у́ч-*ишь*
數	3	*етъ*		*итъ*		чита́-*етъ*	пла́ч-*етъ*	говор-*и́тъ*	у́ч-*итъ*
複	1	*емъ*		*имъ*		чита́-*емъ*	пла́ч-*емъ*	говор-*и́мъ*	у́ч-*имъ*
	2	*ете*		*ите*		чита́-*ете*	пла́ч *ете*	говор-*и́те*	у́ч-*ите*
數	3	*ютъ*	*утъ*	*ятъ*	*атъ*	чита́-*ютъ*	пла́ч-*утъ*	говор-*я́тъ*	у́ч-*атъ*

2 語尾 ся ヲ有スル動詞ハ凡テ變化ノ際ニ於テ 母音ノ後ニハ語尾ハ сь ト成ル但シ硬半子音 ъ ハ語尾 ся ノ前ニ於テハ除去セラルレトモ、軟半子音 ь ハ保持セラル例ハ

人稱	第一式變化 занима́-ться 修業ス		第二式變化 учи́-ться 學ブ	
	單數	複數	單數	複數
1	занима́-юсь	занима́-емся	уч-у́сь	у́ч-имся
2	занима́-ешься	занима́-етесь	у́ч-ишься	у́ч-итесь
3	занима́-*ется*	занима́-*ются*	у́ч-*ится*	у́ч-*атся*

3 第一式變化ノ際、動詞ノ語尾ニ力點ヲ有スルナレバ語尾母音 é ハ通例ノ如ク ё ト發音ス然レ𪜈名詞ノ變化ノ如ク上顎音(ж, ч, ш, щ)ノ後ニ於テ此母音ハ o(§5, 8)ニ變ズルヿナク必ズ е ト書ス、例ハ

人稱	ид-ти (ит-ти) 行ク	беречься (берег-ться) 自衛ス
1	ид-у́	берег-у́сь
2	ид-е́шь = ид-ёшь	бере́ж-е́шься = береж-ёшься
3	ид-е́тъ = ид-ётъ	береж-е́тся = береж-ётся
1	ид-е́мъ = ид-ёмъ	береж-е́мся = береж-ёмся
2	ид-е́те = ид-ёте	береж-е́тесь = береж-ётесь
3	ид-у́тъ	берег-у́тся

4. 現在ハ不定法ヨリ生ズ、即チ不定法ノ語尾ヲ去リテ之ニ現在ノ語尾ヲ附ス、其際(甲)不定法ノ語尾ノ前ニ存スル母音ハ或ル動詞ニ於テハ保持セラレ或ル動詞ニ於テハ除去セラル、(乙)或ル動詞ニ於テハ母音ノミナラス綴合ノ子音モ除去セラル(丙)或ル動詞ニ於テハ母音ヲ除去シテ子音ヲ保存シ或ハ其子音ヲ他ノ子音ニ變更スルコアリ(丁)或ル動詞ハ變化ノ語尾ノ前ニ新ニ子音 л ヲ挿入ス、故ニ動詞ハ現在ノ變化ノ語尾ニ關シテハ二式ヲ有スレモ此語尾ト語幹ヲ接合スルニ關シテハ八分類ヲ成ス其外、二子音(即チ ти)及 чь ヲ語尾トスルモノハ特異ヲ有ス、詳細ハ動詞ノ變化表(§ 104, §§ 106-107) ヲ參照スベシ

5. 現在ヨリ生スルモノハ(第一)命令法(第二)自動詞ノ現在ノ形動詞及同副動詞(第三)被動詞ノ現在ノ形動詞及同副動詞ナリ

II. 過去 (прошéдшее врéмя) (§ 114. II. III) 1. 語尾 ть ノ前ニ母音ヲ有スル動詞ノ過去ハ單數ニ於テハ лъ, ло, ла 複數ニ於テハ ли ノ語尾ヲ受ク。而シテ凡テ過去ハ不定法ヨリ生ス (§§ 12 14)

2. 不定法ニ於テ語尾ノ前ニ子音ヲ有スル(即チ二子音ヲ語尾トスル)動詞及語尾 чь (即チ同シク 二子音 гть 或ハ кть) ヲ有スル動詞ノ過去ハ單數ノ男性ノ語尾 лъ ヲシテ聲調ヲ清クセン爲ニ(即チ三個ノ子音ヲ並列セザラン爲ニ)子音 л ヲ除去シ唯 ъ ノミヲ語尾トス、若シ ся ヲ語尾トスル場合ニハ § 92, I, 2 ノ規則ニ依テ半子音 ъ ヲモ除去ス、語尾 ть ノ前ニ母音ヲ有スル或ル動詞(即チ нуть 及 ереть ヲ語尾トスルモノ)モ此種類ニ屬ス例ハ

нес-ти́ 携フ	берéчь 護ル	берéчься 自衞ス	озя́б-*ну*-ть 凍ユ	у*мере́*-ть 死ス
нёс-ъ	берёг-ъ	берёг-*ся*	озя́б-ъ	у́мер-ъ
нес-ло́	берег-ло́	берег-ло́сь	озя́б-ло	умер-лс
нес-ла́	берег-ла́	берег-ла́сь	озя́б-ла	умер-ла
нес-ли́	берег-ли́	берег-ли́сь	озя́б-ли	умер-ли́

3. 過去ヨリ生スルハ 1. 接續法 2. 自動詞ノ過去ノ形動詞及ビ副動詞、3 被動詞ノ過去ノ形動詞及ビ副動詞ナリ

III. 未來 (бу́дущее врéмя) (§ 114, IV) 1. 未來ハ二式ヲ有ス、一ハ合成式ニシテ不完成體動詞 (§ 89, I, 3) ノ爲ニ使用シ、一ハ單一式ニシテ完成體動詞 (§ 89, II, 3) ノ爲ニ使用ス

2. 合成的未來ハ不完成體動詞ノ不定法ト助動詞 быть 或ハ稀ニハ стать (「成ル」但シ有意識的ノ「成ル」ナリ)ノ未來ヨリシテ成ル、且ツ助動詞ノミ變化シテ不定法ノ動詞ハ變化セズ(但シ быть ト стать ノ未來ハ不規則ナリ)、

合成的未來ノ變化式

1	я	бу́д-*у*	ста́н-*у*	}	чита́*ть* 讀ム
2	ты	бу́д-*ешь*	ста́н-*ешь*		учи́*ть* 教フ
3	онъ, оно, она	бу́д-*ет*ъ 或ハ	ста́н-*ет*ъ		писа́*ть* 書ク
1	мы	бу́д-*ем*ъ	ста́н-*ем*ъ		говори́*ть* 言フ
2	вы	бу́д-*ете*	ста́н-*ете*		занима́*ться* 勉强ス
3	они, они, онѣ	бу́д-*ут*ъ	ста́н-*ут*ъ		стара́*ться* 努力ス

3. 單一的未來ハ 完成體ノ不定法ヨリ 生シ凡テ不完成體ノ現在ノ如ク變化ス例ハ

	*про*чита́-ть 通讀ス	*вы́*учи-ть 學終ル	*по*стара́-ться 努力ス
1	прочита́-*ю*	вы́уч-*у*	постара́-*юсь*
2	прочита́-*ешь*	вы́уч-*ишь*	постара́-*ешься*
3	прочита́-*етъ*	вы́уч-*итъ*	постара́-*ется*
1	прочита́-*емъ*	вы́уч-*имъ*	постара́-*емся*
2	прочита́-*ете*	вы́уч-*ите*	постара́-*етесь*
3	прочита́-*ютъ*	вы́уч-*атъ*	постара́-*ются*

	現在	未來
不完成體	чита́-ть	чита́-*ю*	*бу́ду* 或ハ *ста́ну* чита́*ть*
完成體	*про*чита́-ть 無シ		*про*чита́-*ю*

4. 未來ヨリシテ命令法ノ複數第一人稱ヲ生ズ

§ 93. 動詞ノ法（承前）

I. 接續法 (сослага́тельное наклоне́ние) (§ 114, V) 1. 接續法ハ假定、豫想、條件、希望等ヲ表スルガ故ニ之ヲ「可能法」トモ意譯ス (§ 114, V) 此法ハ過去ニ接續詞 бы (「デアリシナラン」) ヲ添ユルヲ以テ成ル、例ハ

я	чита́-*лъ бы*	讀ミシナラン	жела́-*лъ бы* 望ミシナラン
	чита́-*ло бы*		жела́-*ло бы*
ты	чита́-*ла бы*		жела́-*ла бы*
онъ	чита́-*лъ бы*		жела́-*лъ бы*
оно	чита́-*ло бы*		жела́-*ло бы*
она	чита́-*ла бы*		жела́-*ла бы*
мы вы они, онѣ	чита́-*ли бы*		жела́-*ли бы*

2. 若シ бы ヲ含有スル接續詞例ハ е́сли бы, чтобы 等ガ接續法ノ傍ニ使用セラルヽ時ハ動詞ニ添フベキ бы ヲバ省略シテ使用セズ、*Е́сли бы* вы слу́шали (е́сли слу́шали бы вы ノ代リニ) меня́, было бы хорошо́ (若シ我ニ從ヒシナランニハ眞カリシナランニ). Хотѣ́лось бы, *чтобы* они пріѣ́хали (пріѣ́хали бы ノ代リニ) ра́ньше (彼等ハ尙早ク來ランコヲ望マシ).

II. 命令法 (повели́тельное наклоне́ние (§ 114, VI) 命令法ハ命令、希望、請願、招待、勸諭等ノ意ヲ表ス

命令法ハ 單複兩數ノ 第二人稱ニ於テノミ 獨立的ノ語尾ヲ有シ第一人稱ト第三人稱ニ於テハ獨立ノ語尾ヲ有セズ、

1. 複數ノ第一人稱、命令法ハ複數ノミノ第一人稱ヲ有シ、單數ニ於テハ第一人稱ヲ有セズ何トナレバ自身ニ向テ命令ヲ發スベキ所以ナシ、

複數ノ第一人稱ハ發話者ヨリシテ勸請、諭告ヲ他人ニ向テ表シ而シテ發

話者自身モ共ニ其動作ニ關與スルノ意ヲ有ス、此式トシテ未來複數第一人稱ヲ使用ス、但シ其際 мы ト云フ代名詞ヲハ省略ス

命令ヲ發スルニ際シテ鄭重、敬意ヲ加ヘ其命令ヲ和ラグル場合、若シクハ數人ニ向フテ發話スル場合ニハ之ニ те ヲ接尾ス

	未　來	命　令　法
不完成體	*мы бу́демъ чита́ть*	*бу́демъ чита́ть, бу́демте чита́ть*
完成體	*мы* прочита́емъ	прочита́емъ, прочита́емте

備考、時トシテハ不完成體動詞ノ不定法ニ次ノ三動詞ヲ附用シテ命令法ノ複數第一人稱ノ式ヲ作ルコアリ、即チ начнёмъ, начнёмте; ста́немъ, ста́немте, дава́йте ノ三動詞ナリ、例ハ Начнёмъ чита́ть (讀ミカヽリマセウ) ста́немте писа́ть (書キ始メマセウ), дава́йте игра́ть (戯ビマセウ、演ジマセウ)

2. 第二人稱、命令法ノ第二人稱ハ單數ニ於テハ й, и, ь 複數ニ於テハ йте, ите, ьте ヲ語尾トス、即チ複數ニ於テハ單數ノ語尾ニ те (敬重辭) ヲ附加ス

命令法ノ第二人稱ハ不完成體動詞ニ於テハ現在ノ複數ノ第三人稱ヨリ生ズ又完成體動詞ニ於テハ 未來 複數 第三人稱ヨリ 生ズ 即チ 第三人稱ノ 語尾 ютъ, утъ, ятъ, атъ 等ヲ前記ノ命令法ノ語尾ニ變換ス

第三人稱ニ於テ語尾ノ前ニ母音ヲ有スル動詞ハ命令法ニ於テ й, йте ノ語尾ヲ受ク、第三人稱ニ於テ語尾ノ前ニ二子音ヲ有スル動詞並ニ一子音ヲ有シテ不定法ノ最終母音ニ力點ヲ有スル動詞ハ 命令法ニ 於テ и, ите ノ語尾ヲ受ク、又不定法ニ於テ最終母音ニ力點ヲ有セズシテ且ツ語尾ノ前ニ二子音ヲ有セザル動詞ハ命令法ニ於テ ь, ьте ノ語尾ヲ受ク(殊ニ舌音 л, н, р 及上顎音 ж, ч, ш, щ ノ後ニ於テ ь, ьте ノ語尾ヲ受ク)

	й, йте	*и, ите*		*ь, ьте*	
		記憶ス	言フ	信ス	泣ク
不定法	чита́-ть 讀ム	по́мни-*ть*	говори́-ть	ве́ри-ть	пла́ка-ть
複數第三人稱	чита́-*ютъ*	по́мн-*ятъ*	говор-*ятъ*	ве́р-*ятъ*	пла́ч-*утъ*
命令單數第二人稱	чита-*й*	по́мн-*и*	говор-*и*	ве́р-*ь*	плач-*ь*
命令複數第二人稱	чита *йте*	по́мн-*ите*	говор-*ите*	ве́р-*ьте*	пла́ч-*ьте*

3. 第三人稱、命令法ノ第三人稱ハ常ニ合成式ヲ爲ス、即チ不完成體動詞ニ於テハ現在ノ第三人稱ニ пусть ヲ添ヘ、完成體動詞ニ於テハ未來ノ第三人稱ニ пусть ヲ添ヘテ成ル、稀ニハ пусть ノ代リニ пускáй ト云フ語ヲ用フルコアリ

現在或ハ未來ノ第三人稱	命令法ノ第三人稱
онъ, оно, она чита́*етъ*	*пусть* (*пускáй*) онъ, оно, она чита́-*етъ*
они, онѣ чита́-*ютъ*	*пусть* (*пускáй*) они, онѣ чита́-*ютъ*
онъ, оно, она *про*чита́-*етъ*	*пусть* (*пускáй*) онъ, оно, она *про*чита́-*етъ*
они, онѣ *про*чита́-*ютъ*	*пусть* (*пускáй*) они, онѣ прочита́*ю-тъ*

備考　高調ノ文(例ハ詔勅)及ヒ韻文ニ於テハ пусть ト пускáй ノ代リニ да ヲ使用ス、例ハ почитáть (敬ス)ト云フ動詞ナレバ да почитáетъ онъ, оно, она; да почитáютъ они, онѣ

4. 命令法全體ノ表ハ下ノ如シ

人稱	單　數	複　數
1	無シ	бýдемъ читáть, бýдемте читáть *про*читá-емъ, *про*читá-емте
2	читá-*й*, говор-*и*, плáч-ь *про*читá-*й*	читá-*йте*, говор-*ите*, плáч-ьте *про*читá-*йте*
3	*пусть* (*пускáй*) онъ, оно, она читá-*етъ* *пусть* (*пускай*) онъ, оно, она *про*читá-*етъ*	*пусть* они, онѣ читá-*ютъ* *пусть* они, онѣ *про*читá-*ютъ*

5. 凡テノ人稱ニ ка ヲ添ヘテ命令、請願ノ意ヲ和ラグルコトアリ、例ハ читай-*ка*, читайте *ка*, *пусть-ка* онъ читает*ъ*, будемъ-*ка* читать, будемте-*ка* читать 等ナリ

6　肯定式ニ於テハ完成體ノ動詞ヲ以テモ不完成體ノ動詞ヲ以テモ命令法ヲ組成スレドモ、否定式ニ於テハ不完成體ノミヲ以テ命令法ヲ組成スルヲ常トス、勿論完成體動詞ニ於テモ命令法ノ否定式ヲ有スレドモ、斯カル場合ニハ概シテ對應ノ不完成體動詞ヲ用ヒテ否定式ヲ組成スルヲ常トス、例ハ

不完成體		完成體	
читáй	*не* читáй	*про*читáй	*не* читáй (意味ハ完成體ト成ル)
говори́те	*не* говори́те	*скажи́те*	*не* говори́те (同上)
разска́зывайте	*не* разска́зывайте	*разскажи́те*	*не разска́зывайте* (同上)

備考　完成體動詞ノ否定式ノ命令法ハ時トシテ談話ニ於テ使用セラレ且ツ條件ヲ表ス (§ 114. VI, 2)

§ 94　形動詞 (Причáстие) (§114. VII) 形動詞ノ定義及ヒ動詞トシテノ形動詞

形動詞トハ動詞ヨリ生ゼシ形容詞ヲ云フ、故ニ形容詞ノ如ク какóй? (如何ナル)ノ問ニ應ス例ハ читá-*ющий* (讀ム所ノ), читá-*вший* (讀ミシ所ノ), читá-*емый* (讀マル、所ノ), чи́та-*нный* (讀マレシ所ノ).

動詞トシテノ形動詞ハ自動質ト被動質、完成體ト不完成體、現在ト過去ヲ有ス但シ未來ヲハ有セズ、唯一ノ例外ハ быть ニシテ此動詞ノミハ形動詞ノ未來ヲ有ス

I　自動的形動詞、是レハ自ラ動作スル所ノ事物ヲ表スル故ニ自動詞ヨリノミナラズ凡テ他ノ諸動詞(被動詞ヲ除クノ外)ヨリモ生ズルコヲ得ベシ

自動的形動詞ハ完全 (по́лное) 語尾ノミヲ有スルヲ以テ常ニ定語ト成ルノミ

1. 自動的形動詞ノ現在、是レハ щій, щее, щая ノ語尾ヲ有シテ直說法ノ現在ノ複數第三人稱ヨリ生ズ即チ第三人稱ノ語尾 тъ ヲ換ヘテ щій ト成スナリ、故ニ第一式變化ニ屬スル動詞ノ自動的形動詞ノ現在ハ ющій 或ハ ущій ヲ語尾トシ第二式變化ニ屬スル動詞ハ ящій 或ハ ащій ヲ語尾トス、例ハ

複數第三人稱	чита́-*ютъ*	пла́ч-*утъ*	говор-*ятъ*	у́ч-атъ	занима́-*ются*
形動詞現在	чита́-*ющій*	пла́ч-*ущій*	говор-*ящій*	уч-*ащій*	занима́-*ющійся*

2. 自動的形動詞ノ過去、是レハ вшій, вшее, вшая 或ハ шій, шее, шая ヲ語尾トシ直說法過去ノ單數第一人稱ヨリ生ズ即チ第一人稱ノ語尾 лъ ヲ вшій, вшее, вшая ニ換ヘ或ハ ъ ノミヲ шій, шее, шая ニ換ヘテ成ル

過去第一人稱 чита́-*лъ* люби́-*лъ* нёс-*ъ* у́мер-*ъ* занима́-*лся*

形動詞過去 чита́-*вшій* люби́-*вшій* нёс-*шій* уме́р *шій* занима́-*вшійся*

II. 被動的形動詞、是レハ被動ノ狀態ヲ表スル形動詞ナリ、故ニ自動詞ノミヨリ生スルヿヲ得ベシ、但シ前置詞ト綴合シテ自動詞ト成ル所ノ中動詞(§ 88, V, 4) ヨリモ生スルヿヲ得ベシ例ハ *про*-жи́ть (「消費スノ意義ヲ有スル塲合), *про*-йти́ (「學科ヲ踏ム」ノ意義ヲ有スル塲合)、等

被動的形動詞ハ完全語尾簡略語尾ヲ有ス、完全語尾ハ定語ト成リ簡略語尾ハ客語ト成ル

1. 被動的形動詞ノ現在、此現在ノ完全語尾ハ мый, мое, мая ニシテ簡略語尾ハ мъ, мо, ма ナリ、即チ直說法ノ現在ノ複數第一人稱ヨリ生ス

此際第一式變化ノ動詞ニ於テハ (甲) 若シ複數ノ第一人稱ノ語尾 емъ ノ前ニ母音或ハ子音 л ノ存スル時ハ形動詞ニ於テモ е ノ字ヲ保存シテ емый ノ語尾ト成ル (乙) 若シ語尾 емъ ノ前ニ л ノ字以外ノ子音ヲ有スル時ハ емъ ノ е ノ字ハ形動詞ニ於テ о ト成ル即チ омый ノ語尾ト成ル(力點ハ必ズ о ノ字ニ打ツ)、又第二式變化ニ於テハ母音 и ヲ常ニ形動詞ニモ保存シテ имый ノ語尾ト成ル且ツ大概ハ形動詞ノ語尾 и ノ字ニ力點ヲ打ツ

	第一式變化					第二式變化
不定法	чита́-ть	колеба́-ть	нес-ти́	иска́-ть	печь(пек-ть)	люб-*ить*
複數第一人稱	чита́-*емъ*	коле́бл-*емъ*	нес-*ёмъ*	и́ш-*емъ*	печ-*е́мъ*	лю́б-*имъ*
形動詞現在	чита́-*емый*	коле́бл-*емый*	нес-*о́мый*	иск-*о́мый*	пек-*о́мый*	люб-*и́мый*

2. 被動的形動詞過去、此過去ノ完全語尾ハ нный, нное, нная (二個ノ н) 簡略語尾ハ нъ, но, на (一個ノ н) 或ハ完全語尾 тый, тое, тая 簡略語尾 тъ, то, та ト成ル、此過去ハ直說法ノ過去ヨリ生ス(或ル動詞ハ然ラズ)即チ語尾 лъ 或ハ ъ ヲ形動過去ノ語尾ニ換ヘテ成ル (但シ不定法ヨリ形動過去ヲ生ズルヿヲモ得レ𪜈斯クテハ不規則トナル)

1 直說法過去ニ於テ алъ, ялъ, ѣлъ, илъ ヲ語尾トスル多綴動詞ハ нный, нная, нное ノ形動過去ノ語尾ヲ受ク又、不定法ニ於テ二個ノ子音或ハ чь ヲ語尾ニ有スルモノモ、此形動過去ノ語尾ヲ受ク

此際 (甲) 直說法過去ニ於テ алъ, ялъ, ѣлъ ノ語尾ヲ有スルモノハ形動詞ニ於テ母音 а, я, ѣ ヲ保持ス、即チ а́нный, я́нный, ѣ́нный ノ語尾ト成ル、(乙) 而シテ илъ ノ語尾ヲ有スルモノハ形動詞ニ於テ母音 и ヲ е ニ變ス即チ енный ノ語尾ト成ル、且又 илъ ノ前ニ唇音ノ存スル動詞ハ形動詞ニ於テ舌音 л ヲ挿入シ、若シ илъ ノ前ニ齒音ノ存スル動詞ハ形動詞ニ於テ之ヲ對應ノ上顎音ニ變ス (丙) ти 及 чь ノ語尾ヲ有スル動詞ハ被形動詞ノ過去ニ於テ е ヲ受ケテ е́нный ノ語尾ト成ル、但シ斯ノ如キ動詞ノ形動過去ハ直說法過去或ハ不定法ヨリ生セスシテ、(不完成體ナレバ) 現在單數ノ第二人稱ヨリ生シ、(完成體ナレバ)未來ノ單數第二人稱ヨリ生ズ

(甲)	чит-*áть* 讀ム	чит-*áл*ъ	чи́т-*анный*
	потер-*я́ть* 失フ	потер-*я́л*ъ	поте́р-*янный*
	ви́д-*еть* 見ル	ви́д-*ел*ъ	ви́д-*енный*
(乙)	объясн-*и́ть* 說明ス	объясн-*и́л*ъ	объясн-*ённый*
	куп-*и́ть* 買フ	куп-*и́л*ъ	ку́п-*ленный*
	приглас-*и́ть* 招ク	приглас-*и́л*ъ	приглаш-*ённый*
	уплат-*и́ть* 返濟ス	уплат-*и́л*ъ	упла́ч-*енный*
(丙)	нес-*ти́* 携フ	нес-ёшь	не́с-*енный*
	вес-*ти́* 導ク	вед-ёшь	ве́д *енный*
	най-*ти́* 見出ス	найд-ёшь	на́йд-*енный*
	спе́чь 煎ル	спек-ёшь	спе́к-*енный*
	сжечь 燒ク	сожж-ёшь	сожж-*ённый*

2. ать ノ語尾ヲ有スル一綴動詞モ нный, нное, нная ヲ語尾トス、但シ語尾ノ前ニ存スル母音 а ハ被形動詞過去ニ於テハ保持セラル、即チ анный ノ語尾ト成ル、而シテ此式ヲ用フルハ多クハ前置詞ト綴合セシ動詞ニシテ、若シ前置詞ト綴合セザル動詞ナレハ此被形動的過去ノ式ノ代リニ動詞ヨリ出生セシ形容詞ヲ使用スルヲ常トス、其形容詞ハ ный (一個ノ н) ヲ語尾トシテ意義ハ被形動詞ト同一ナリ

зв-ать 呼フ зв-а́ный (形容詞) — созв-а́ть 呼集ム со́зв-*анный* (形動詞)
тк-ать 織ル тк-а́ный (形容詞) — сотк-а́ть 織込ム со́ть-*анный* (形動詞)
собр-а́ть 集ム собр-а́лъ со́бр-*анный*, посл-а́ть 使ハス по́сл-*анный* (使ハサレシ、使者)

3. 語尾 тый, тое, тая ヲ受クルハ (甲) 一綴動詞 (ать ヲ語尾トスルモノヲ除クノ外).

(乙) оть, нуть, ереть ヲ語尾トスル多綴動詞ナリ、例ハ

(甲)	*забы́-ть* 忘ル	забы́-лъ	забы́-*тый*
	ду-*ть* 吹ク	ду-лъ	ду́-*тый*
	пропе́-ть 歌ヒ通ス	*пропе́-лъ*	*пропе́-тый*
	взя-ть 取ル	взя-лъ	*взя́-тый*
(乙)	раскол-*о́ть* 細ク割ル	раскол-*о́лъ*	раско́л-*отый*
	обма-*ну́ть* 欺ク	обма-*ну́лъ*	обма́-*нутый*
	от-*ере́ть* 拂清ム	стёр-ъ	стёр-*тый*
	зап-*ере́ть* 閉鎖ス	за́пер-ъ	за́пер-*тый*

被形動詞ノ過去ハ殊ニ多ク完成體動詞ヨリ生スルモノヲ使用ス、不完成體ヨリ生ズルモノヲ使用スルハ僅少ナリ(根元的語尾ヲ有スルモノニ限リテ使用セラル)、而シテ多回體動詞、並ニ多回體ノ語尾ヲ有シテ前置詞ト綴合シテ不完成體ニ屬スル動詞ハ被形動詞ノ過去ヲ有セズ、故ニ之ヲ使用スベキ場合ニハ完成體動詞ノ被形動詞過去ヲ代用ス 或ハ根元的語尾ヲ有スル不完成體動詞ノ被形動詞過去ヲ代用ス、例ハ

完成體	被形、過去	根元語尾不完成體	被形過去
перечита́ть	перечи́тано	чита́ть	чи́танный
переговори́ть	переговорено́	говори́ть	говорено́
多回體	被形動、過去	不完成體 (多回體ノ語尾)	被形、過去
чи́тывать	無シ	*перечи́тывать*	無シ
гова́ривать	無シ	*перегова́ривать*	無シ

§ 95. 形動詞(形容詞トシテノ形動詞)

1. 形容詞トシテノ形動詞ハ三性、二數、七格ヲ有シテ 形容詞ノ如ク變化ス、自動的形動詞ハ ущій 及 шій ノ語尾ヲ有シ上顎音變化ヲ成ス即チ свѣжій (§ 46) ノ如ク變化ス、被動的形動詞ハ мый, нный, тый ノ語尾ヲ有シテ硬變化ニ屬ス即チ добрый (§ 43) ノ如ク變化ス

2. 不定法ニ於テ ся ヲ語尾トスル動詞ハ形動詞ニ於テ變化スル際ニモ此語尾ヲ保持ス但シ母音ノ後ニ此語尾ヲ сь ニ變ズルヿナシ、例ハ

名 格		生 格	與 格
чита́*ющ-ій*	чита́*ющ-ее*	чита́*ющ-аго*	чита́*ющ-ему*...
чита́*ющ-ая*		чита́*ющ-ей*	чита́*ющ-ей*...
занима́*ющ-ійся*	занима́*ющ-ееся*	занима́*ющ-агося*	занима́*ющ-емуся*...
занима́*ющ-аяся*		занима́*ющ-ейся*	занима́*ющ-ейся*.

以下略ス 以下略す

3. 形容詞ノ如ク形動詞ハ常ニ性ト數ト格ヲ以テ名詞ト一致ス、例ハ чита́*ющій* учени́къ, чита́*ющаго* ученика́, чита́*ющему* ученику́... чита́*ющая* ученица, чита́*ющей* учени́цы, чита́*ющей* учени́цѣ, чита́*ющую* учени́цу... занима́*ющіеся* ученики́, занима́*ющихся* ученико́въ, занима́*ющимся* ученика́мъ...

4. 形動詞ヲ使用スルニ二種ノ方法アリ

(第一) 定代名詞 кото́рый, кто, что ヲ以テ始マル所ノ定語的副文章 (опредѣли́тельное прида́точное предложе́ніе § 66 5) ヲ簡略スル爲ニ形動詞ヲ使用ス、但シ此簡略ハ如何ナル場合ニ於テモ施シ得ベキニハ非ズシテ、定代名詞ガ名詞ト成ルカ或ハ前置詞ヲ有セザル役格ト成リテ 動詞ガ直說法タル場合ニ限ル (§ 163) 而シテ其簡略トハ定代名詞ヲ除去シ、直說法ヲ形動詞ニ變シ(質ト時ハ以前ノ儘)、且ツ形動詞ヲシテ關係ヲ有スル名詞ト一致セシム例ハ ма́льчикъ, кото́рый чита́етъ = чита́*ющій* ма́льчикъ 此文句ニ於ケル形動詞 чита́ющій ハ自動詞ニシテ現在ナリ如何トナレバ читаетъ ハ自動詞ニシテ現在ナリ、而シテ其關係ヲ有スル名詞 ма́льчикъ ハ男性ニシテ單數ノ 名格ナル故ニ 形動詞モ 男性ノ 單數ノ名格ト 成ル、дѣвочкѣ, кото́рая чита́етъ = чита́*ющей* дѣвочкѣ (讀ミ居ル所ノ少女ニ); ма́льчиковъ, кото́рые чита́*ли* = чита́*вшихъ* ма́льчиковъ (讀ミシ所ノ童子ノ): съ дѣвочка*ми*, кото́рыя чита́*ли* = съ чита́*вшими* дѣвочка*ми* (讀ミシ所ノ少女ト共ニ); въ письмѣ, кото́рое чита́*ется* = въ чита́*емомъ* письмѣ (讀マレ居ル所ノ手紙ニ於テ) въ кни́гѣ, кото́рая чита́*лась* (或ハ *была* чи́*тана*) = въ чи́*танной* кни́гѣ (讀マレシ所ノ書ニ於テ).

(第二) 被形動詞(即チ完全語尾ノ外ニ簡略語尾ヲ有スル)ハ助動詞 быть ト共ニシテ客語ト成リ被動詞ノ形式ヲ作ル (§ 101)

5. 或ル形動詞ハ形容詞ノ意味ヲ以テ使用セラル、例ハ

быть	бу́*дущій*	бу́дущій годъ (來年)
настоя́ть 到ル	настоя́*щій*	настоящее время (現時)

пройти́ 通過ス	проше́дшій	проше́дшее время (過去)
мочь 出來ル	могу́щій	всемогу́щій Богъ (全能ノ神)
люби́ть 愛ス	люби́мый	люби́мое ку́шанье (嗜好ノ食物)
преда́ть 投ス、渡ス	пре́данный	пре́данный другъ (信友)
посла́ть 遣ハス	по́сланный	по́сланный человѣ́къ (使者)
ожида́ть 待ツ	неожи́данный	неожи́данный гость (待受クザリシ客)

形容詞ノ意味ヲ以テ使用セラレツヽ此種ノ或ル形動詞ハ比較ノ級ヲモ有スルコトアリ、例ハ

люби́мый　*са́мый* люби́мый,　люби́мѣйшій

пре́данный 信ナル　пре́даннѣе, *са́мый* пре́данный, преданнѣйшій

§ 96. 副動詞 (Дѣепричáстіе)

副動詞ハ動詞ヨリ生ゼシ副詞ナリ、是レハ каки́мъ о́бразомъ? 如何ナル樣ニテ) 或ハ когда? ノ問ニ應ズ、例ハ чита́-я (讀ミツヽ), чита́-вши (讀ミテ) бу́дучи по́сла-нъ (使ハサレツヽ), бывъ по́сла-нъ (使ハサレテ)

副動詞ハ副詞ナル故ニ變化スルコトナシ、然レ𪜈動詞ノ形式ヲ成ス故ニ形動詞ノ如ク自動ト被動ノ兩質ヲ有シ、完成ト不完成體ヲ有シ、現在ト過去トヲ有ス

自動的副動詞、是レハ動作スル事物ヲ表シ、如何ナル質ノ動詞モ(但シ被動詞ヲ除ク)皆ナ之ヲ有ス

1. 副動詞ノ現在、是レハ я 或ハ а ヲ語尾トシ、直說法ノ現在複數第三人稱ヨリ生ス即チ第一式變化ノ動詞ニ於テハ ютъ 或ハ утъ ヲ變シテ я 或ハ а ト成ス、又第二式變化ノ動詞ニ於テハ ятъ 或ハ атъ ノ тъ ヲ除去スルノミ、又 ся ヲ語尾トスル動詞ノ副動詞ハ常ニ ся ヲ сь ニ變ス、例ハ

現在複數第三人稱	чита́-*ютъ*	пла́ч-*утъ*	говор-*я́тъ*	у́ч-*атъ*	занима́-*ются*
副動詞現在	чита́-*я*	пла́ч-*а*	говор-*я́*	уч-*а́*	занима́-*ясь*

不完成體ノミナラズ或ル(僅少ナレ𪜈)完成體動詞(即チ現在ヲ有セザル)モ副動詞ノ現在ヲ有ス、斯カル動詞ハ未來ヨリシテ副動詞現在ヲ生ズ、例ハ

未來複數第三人稱	*уви́д-ятъ*	*поло́ж-атъ*	*прид-у́тъ*
副動詞現在	*уви́д-я*	*полож-а́*	*прид-я́*

備考、俗語及韻文ニ於テハ或ル動詞ノ自動的副動詞現在ハ通例ノ я 或ル а ノ外ニ ючи 或ハ учи ノ語尾ヲモ有ス、例ハ жить (住ム)ハ жив-*я* トモ жив-*у́чи* トモ成ル сидѣ́ть (坐ス)ハ си́д-*я* トモ си́д-*ючи* トモ成ル припѣва́ть ハ(安樂ニ生活ス) припѣва́-*я* トモ припѣва́-*ючи* トモ成ル、

2. 副動詞ノ過去、是レハ вши (簡略スレバ въ) 或ハ ши ノ語尾ヲ有ス即チ形動詞ト同シク直說法過去ノ語尾 лъ ヲ是等ノ語尾ニ變シテ以テ成ル概シテ前置詞ト綴合セザル動詞ハ вши ノ語尾ヲ有シ、前置詞ト綴合セシ動詞ハ簡略ノ въ ヲ語尾トス、又直說法過去ノ語尾 ъ ヲ有スル動詞ハ ши ヲ副動詞過去ノ語尾トス、而シテ ся ノ語尾ハ常ニ сь ト成ル故ニ вшись ハ決シテ簡略ヲ施サズ即チ вши ヲ въ ト成サズ

副動詞ノ過去ヲ組成スルニ就テハ形動詞ノ過去組成ノ規則ヲ應用スルモノト知ルベシ、例ハ

	чита́-ть	*про*чита́-ть	не-сти́	умере́ть	занима́-ться
形動ノ過去	чита́-вшій	*про*чита́-вшій	нёс-*шій*	умёр-*шій*	занима́-вшійся
副動ノ過去	чита́-вши	*про*чита́-*въ*	нёс-*ши*	умёр-*ши*	занима́-*вшись*

II. 被動的副動詞 1. 被動的副動詞ハ常ニ合成式ヲ成ス即チ、簡略語尾ノ被形動詞ト助動詞 быть ノ副動詞トヲ組合シテ成ル

現在		過去	
бу́дучи чита́-емъ, о, а, ы	讀マレツヽ	бывъ чита́-емъ, о, а, ы	讀マレテ
бу́дучи люб-и́мъ, о, а, ы	愛セラレツヽ	бывъ люб-и́мъ, о, а, ы	愛セラレテ
бу́дучи проч́ит-анъ, о, а, ы	通讀セラレツ	бывъ проч́ит-анъ, о, а, ы	通讀セラレテ
бу́дучи потер́-янъ, о, а, ы	失ハレツヽ	бывъ потер́-янъ, о, а ы	失ハレテ

2. 被動的副動詞ヲ使用スルハ至テ稀ニシテ僅カニ書籍文ニ於テノミ使用シ、談話ニ於テハ殆ト之ヲ使用セズシテ常ニ之ニ代ユルニ接續詞(原因ノ接續詞或ハ時ノ接續詞)ヲ以テス、例ハ бу́дучи люби́мъ ノ代リニ такъ какъ люби́мъ ヲ以テス

III. 副動詞ニ於ケル現在過去未來ノ使用、 1. 主文章ニ於ケル動作ト同時ナル動作ヲ表スル爲ニ副動詞ノ現在ヲ使用ス、故ニ副動詞ノ現在ハ過去ヲモ未來ヲモ表スベシ、例ハ Чита́я письмо́ сы́на, она́ всегда́ пла́четъ (子ノ手紙ヲ讀ミナガラ彼女ハ常ニ泣ク). Чита́я письмо́ сы́на, она́ пла́кала (子ノ手紙ヲ讀ミナガラ彼女ハ泣ケリ). Чита́я письмо́ сы́на, она́ *будетъ* пла́кать (子ノ手紙ヲ讀ミナガラ彼ハ泣クナラン).

2. 主文章ニ於ケル動作ニ先ダツ所ノ動作ヲ表スル爲ニ副動詞ノ過去ヲ使用ス例ハ Прочита́въ письмо́ сы́на, онъ постоя́нно пла́четъ (子ノ手紙ヲ讀ミテ彼ハ常ニ泣ク). Прочита́въ письмо́, она пла́кала. Прочита́въ письмо́, оно *бу́детъ* пла́кать.

IV. 時及ビ原因ノ副文章ヲ簡略スル爲ニ副動詞ヲ使用ス即チ接續詞 когда (ノ時), въ то время какъ (何々セシ際), такъ какъ (何々ナル故ニ) 等ヲ以テ始マル文章ヲ簡略スル爲ニ之ヲ使用ス、但シ主文章ト副文章ニ於テ主語ガ同一ナル場合ニノミ簡略ヲ施スヲ得ベシ、其簡略法ハ接續詞ヲ除去シ、直說法ノ動詞ヲ副動詞ニ變シ、副文章ノ主語ヲ主文章ニ移スニ在リ、例ハ *Когда́* я чита́ю = Чита́я, я... *Такъ какъ* ты зна́ешь = Зна́я ты... *Когда́* я чита́ю кни́гу, я ду́маю (我ハ書ヲ讀ム時ニハ考フ) = Чита́я кни́гу, я ду́маю (書ヲ讀ミツヽ我ハ考フ)

§ 97. 動詞ヨリ生スル名詞 (Отглаго́льное существи́тельное)

或ル動詞ヨリ名詞ヲ生ズ、概シテ斯カル名詞ノ語尾ハ nie (略シテ нье) ナリ、或ハ tie トモ成ル、此等ノ名詞ハ常ニ抽象的概念ヲ表ス、例ハ

зна-ть	知ル	зна́-*nie*	知識	вяза́-ть	編ム	вяза́-*nie*	編物仕事
воспита́-ть	教育ス	воспита́-*nie*	教養	вышива́-ть	刺繍ス	вышива́-*nie*	刺繍
образова́-ть	開發ス	образова́-*nie*	開發	ши-ть	縫フ	ши-*тье*	裁縫

рисова́-ть	畵ク	рисова́-*ніе*	繪畵執筆	прибы́-ть	到着ス	прибы́-*тіе*	到着
молча́-ть	默ス	молча́-*ніе*	沈默	откры́-ть	開ク	откры́-*тіе*	開放、發見

備考 動詞ト語根ヲ同フスル所ノ名詞ト、動詞ヨリ生ゼシ名詞トヲ同一視スベカラズ、前者ノ語尾ハ ніе 及 тіе タラズシテ別ノ語尾ナリ、例ハ воспита́ть (養育ス、教育ス) ヨリ生ゼシ名詞ハ воспита́-*ніе* (養育、教養) ニシテ воспи́та-*нникъ* (被育者、生徒), воспита́-*тель* (教養者、生徒監督) ハ動詞ト根語ヲ同フスル名詞ナリ

§ 98. 動詞ヨリ生スル形容詞 (Отглаго́льное прилага́тельное)

或ル動詞ヨリ形容詞ヲ生ズ、既ニ述ベシ如ク形動詞モ形容詞ノ意味ニテ使用セラルヽヿアレド、形動詞ハ凡テ事物ノ能力、動作ノ態ヲ表シ、形容詞ハ性質、物性、形狀ヲ表ス

1 語尾 чій ヲ有スル形容詞ハ、語尾 щій ヲ有スル現在形動詞ニ對應ス、二者共ニ現在複數第三人稱ヨリ生ス、例ハ

горе́ть 燃ユ	гор-я́ть	горя́-*щій* 燃ユル所ノ	горя́-*чій* 熱性ノ、熱キ
висе́ть 掛カル	вис-я́ть	вися́-*щій* 掛カル所ノ	вися́-*чій* 釣ノ (釣橋等ノ)
стоя́ть 立ツ	сто-я́ть	стоя́-*щій* 立ツ所ノ	стоя́-*чій* 直立ノ、動カザル
мочь 能フ	мо́г-ýть	могу́-*щій* 能フ所ノ	могу́-*чій* 能力アル

горя́*чая* вода́ (熱湯), вися́*чій* замо́къ (海老錠), стоя́*чая* вода (靜水)

2 語尾 вшій 及 шій ヲ有スル過去形動詞ハ語尾 лый ヲ有スル形動詞ト同意義ニシテ而シテ二者共ニ過去ヨリ生ズ例ハ

быть	бы-*вшій*	бы-*лóй* (以前在リシ)
быва́ть	быва́-*вшій*	быва́-*лый* (以前屢々在リシ)
расти́ 發生ス	рóс-*шій*	рóс-*лый* (生育シタル)
возрасти́ 成長ス	возрóс-*шій*	взрóс-*лый* 成長ノ
пожи́ть 年ヲ取ル	пожи́-*вшій*	пожи-*лóй* 年配ノ
уста́ть 疲勞ス	уста́-*вшій*	уста́-*лый* 疲勞ノ

3 語尾 нный ヲ有スル被動的形動詞ハ、語尾 ный ヲ有スル (但シ僅少ナレド нный ノ語尾ヲ有スルモアリ) 形容詞ニ對應ス

語尾 ный (一個ノ н) ヲ有スル形容詞ハ殊ニ ать ノ語尾ヲ有スル一綴動詞ヨリ生ス、此種ノ動詞ハ前置詞ト複合セザル場合ニハ нный ノ語尾ヲ有スル形動詞ヲ有セズシテ常ニ之ニ代フルニ ный ノ語尾ヲ有スル形容詞ヲ以テス

звать 呼ブ	со́зва*нный*	зва*ный*
ткать 織ル	со́тка*нный*	тка*ный*
вари́ть 煮ル	сва́ре*нный*	ва́ре*ный*
жа́рить 炙ル	сжа́ре*нный*	жа́ре*ный*
ра́нить 傷ツケル	изра́не*нный*	ра́не*ный*

4 語尾 нный ヲ有スル形動詞トソレニ對應ノ形容詞トノ差異ハ力點或ハ母音ニ存ス例ハ

уни́зить 卑下ス	уни́женный	уни*жённый* 柔和ナル、順良ナル
покори́ть 征服ス	покорённый	поко́рный 從順ノ
	покорён*ъ*	поко́рен*ъ*
слы́шать 聞ク	(слы́ша*нный*)	(слы́ш*ный*) § 52, 7

	слы́шанъ 聞カル	слы́шенъ 聞ユル
ви́дѣть 見ル	ви́дѣнный 見ユル	ви́денъ 明白ナリ、好貌ナル
	ви́дѣнъ	ви́денъ 明白ナリ、見ユ

§ 99. 助動詞 Быть 在ル、居ル、ト成ル(是レハ不規則ノ動詞ナリ)

I. 此動詞ノ變化

1. 直說法

現 在 (§ 13, II)

1.	я	(есмь)	мы	(есмы́)
2	ты	(еси́)	вы	(есте́)
3.	онъ, оно́, она́	есть	они́, онѣ	суть

前ニモ述ベシ如ク 現今ノ露語ニ於テハ 括弧内ノ變化ヲ 使用セズシテ單數ニテハ三人稱皆共ニ есть ヲ用ヒ複數ニテモ三人稱共ニ суть ヲ使用ス

過 去 (§ 13, I)

1.	я	былъ, было́, была́	мы	былѝ
2.	ты		вы	
3.	онъ, оно, она		они, онѣ	

過去ノミハ此動詞モ正則的ニ不定法ヨリ生ズ

未 來

1.	я	бу́д-у	мы	бу́д-емъ
2.	ты	бу́д-ешь	вы	бу́д-ете
3.	онъ, оно, она	бу́д-етъ	они, онѣ	бу́д-утъ

此未來ハ不規則的ナリ

2. 接續法

1.	я	былъ бы, было́ бы, была́ бы	мы	былѝ бы
2.	ты		вы	
3.	онъ, оно, она		они, онѣ	

此接續法ハ正則的ニ過去ヨリ生ズ

3. 命令法

1.	無シ		бу́демъ
2.	будь ты		бу́д-ьте вы
3.	пусть (пуска́й) бу́детъ	онъ, оно, она	пусть (пуска́й) бу́дутъ они, онѣ

此命令法ハ現在ヨリセズシテ未來ヨリ生ス

4. 形動詞

現在	су́-щій
過去	бы́-вшій
未來	бу́ду-щій

5. 副動詞

現在	бу́ду-чи
過去	бы-въ, бы́-вши
未來	無シ

動詞 быть ハ形動詞ノ未來ヲ有スル唯一ノ動詞ナリ、而シテ此形動詞ハ過去モ現在モ共ニ正則的ニ生ズ、副動詞ノ現在ハ直說法ノ現在ヨリセズシテ未來ヨリ生ズ

備考 1. 此動詞ノ形動現在ハ常ニ形容詞ノ意義ヲ以テ使用セラル且ツ種々ノ意味ヲ有ス例ハ「眞ノ」「純粋ノ」「全キ」等ナリ例ハ Это *сущая* пра́вда (是レハ眞ノ誠ナリ)、又此動詞ノ形動未來モ形容詞ノ意義ヲ以テ使用セラル例ハ Въ *бу́дущемъ* году́ (來年ニ於テ).

備考 2. 動詞 быть ハ種々ノ前置詞ト綴合シテ種々ノ意味ヲ受ク、例ハ *забы́ть* (忘ル). *вы́быть* (罷ム、欠ク), *прибы́ть* (到來ス)等ノ如シ、斯カル動詞ハ完成體ニ屬スル故ニ現在ヲ有セズ、而シテ未來ハ быть ノ式ニ從フ、例ハ забы́ть ハ забу́ду, забы́лъ, забы́лъ бы, забы́вшій, забы́вши

備考 3. 若シ前置詞ト быть トヲ綴合シタル動詞ガ自動詞タル時ハ被動的形動詞過去ヲ有シ且ツ其語尾ハ一綴動詞ノ如ク тый トヲ成ル例ハ забы́-*тый*

II. 1. 動詞 быть ハ客語トモ成リ或ハ連結(主語ト客語ヲ契合スル連結、但シ客語ガ形容詞或ハ名詞タル場合ニ限ル)トモ成ル、客語トシテノ動詞 быть ニ關シテハ § 13, II, 1. § 18. 3-5; § 61, 5 參照

連結トシテノ動詞 быть ニ關シテハ § 13, II, 2; § 51. 2, 5; § 61, 6 參照

2. 動詞 быть ノ不定法ト共ニスル形容詞及名詞ハ造格ト成ル、形容詞ノ簡略語尾ハ格ヲ有セザル故ニ形容詞ガ造格タルベキ場合ニハ完全語尾ヲ用フ、例ハ быть до́бр-*ымъ*,-*ою*,-*ыми*; быть ученико́мъ; быть сы́номъ

3. 動詞 быть ノ傍ニ立ツ客語タル名詞ハ (甲) 現在ナレバ常ニ名格ト成ル其際動詞 быть (即チ есть 及 суть)ハ文面ニ存スルヿ至テ稀ニシテ、多クハ其意味ノミヲ語句ノ中ニ含マシムルナリ、例ハ я учени́къ (我ハ生徒ナリ), ты учени́къ, мы ученны́*и* (乙) 過去、未來等ナレバ造格或ハ名格ト成ル、若シ名詞ガ一時ノ狀態 (вре́менный при́знакъ) ヲ表スルナレバ造格ト成ル、例ハ Я *былъ* учени́ко́мъ (我ハ生徒ナリシ). Онъ *былъ* бы офице́ро́мъ (彼ハ士官タリシナラン). Онъ *бу́детъ* учителе́мъ (彼ハ教師タラントス). Бу́дьте учи́телемъ (教師トナレヨ). 若シ名詞ガ常態 (постоя́нный при́знакъ) ヲ表スルナレバ名格ト成ル例ハ Импера́торъ Алекса́ндръ III (Тре́тій) *былъ* сынъ Импера́тора Алекса́ндра II (Второ́го). 皇帝歷山三世ハ皇帝歷山二世ノ子ナリシ、然レ𪜈此場合ニ於テモ時トシテハ造格ト成ルヿアリ、概シテ客語タル名詞ハ現在ノ外ハ名格ト成ルヿ至テ稀ナリ

3 客語タル形容詞ガ簡略語尾ヲ有セズシテ (或ハ簡略語尾ヲ有スルトモ) 完全語尾ニ於テ立チシ場合ニハ此形容詞ハ實ハ文面上ニ存セザル所ノ名詞ノ定語タル故ニ、此名詞ト格ヲ同クスベキナリ

III. 動詞 быть ガ助動詞ト名ツケラルヽ所以ハ (甲) 主語ト客語トノ連結ト成リ (乙) 又此動詞ヲ用ヒテ不完成體動詞ノ未來 (§ 92, III, 2) 及ビ命令法複數第一人稱 (§ 93, II) ヲ組成シ (丙) 又此動詞ヲ用ヒテ被動詞ノ合成式 (§ 101) ヲ組成スルニ由テナリ

§ 100. 語尾 ть 及 ться ヲ有スル動詞ノ變化式

語尾 ть ヲ有スル動詞		語尾 ться ヲ有スル動詞	
第一式變化	第二式變化	第一式變化	第二式變化
不 定 法			
чита́-ть 讀ム	говори́-ть 言フ	занима́-ться 就業ス	учи́-ться 學ブ

現　在

чита́-ю	говор-ю́	занима́-юсь	уч-у́сь
ешь	и́шь	ешься	ишься
етъ	и́тъ	ется	ится
емъ	и́мъ	емся	имся
ете	и́те	етесь	итесь
ютъ	я́тъ	ются	атся

過　去

чита́-лъ	говори́-лъ	занима́-лся	учи́лся
ло	ло	лось	лось
ла	ла	лась	лась
ли	ли	лись	лись

未　來

бу́д-у 或	ста́н-у	чита́ть. говори́ть, занима́ться. учи́ться
бу́д-ешь 或	ста́н-ешь	
бу́д-етъ 或	ста́н-етъ	
бу́д-емъ 或	ста́н-емъ	
бу́д-ете 或	ста́н-ете	
бу́д-утъ 或	ста́н-утъ	

接續法

чита́-лъ бы	говори́-лъ бы	занима́лся бы	учи́-лся бы
ло бы	ло бы	лось бы	лось бы
ла бы	ла бы	лась бы	лась бы
ли бы	ли бы	лись бы	лись бы

命令法

2.	чита́-й	говор-и́	занима́-йся	уч-и́сь
3.	пусть (пускай) онъ, о, а	чита́-етъ	говор-и́тъ	занима́-ется, у́ч-ится
1.	бу́демъ (ста́немъ)	чита́ть,	говори́ть	занима́ться	учи́ться
2.	чита́-йте	говор-и́те	занима́-йтесь,	уч-и́тесь
3.	пусть (пускай)	чита́-ютъ,	говор-я́тъ,	занима́-ются	у́ч-атся

自動的形動詞現在

чита́-ющій	говор-я́щій	занима́-ющійся	уч-а́щійся

自動的形動詞過去

чита́-вшій	говори́-вшій	занима́-вшійся	учи́-вшійся

被動的形動詞現在

чита́-емый -емъ	無シ	無シ	無シ

被動的形動詞過去

чи́та-нный -нъ	(говор-ённый). говор-ено́	無シ	無シ

自動的副動詞現在

чита́-я говор-я́ занима́-ясь уч-а́сь

自動的副動詞過去

чита́-вши (въ) говори́-вши (въ) занима́-вшись учи́-вшись

被動的副動詞現在

бу́дучи чита́-емъ 無シ 無シ 無シ

被動的副動詞過去

бывъ чи́та-нъ 無シ 無シ 無シ

§ 101. 被動詞

既ニ述ベシ如ク (§ 88, IV, 3) 被動詞ハ二種ノ式ヲ有ス單一式ト合成式是レナリ 單一式ハ自動詞ニ ся ヲ接尾シテ成ル例ハ дѣлать ヨリシテ дѣлаться (致サル、) ヲ、продава́ть ヨリシテ продава́ться (賣ラル、) ヲ、покупа́ть ヨリシテ покупа́ться (買ハル) ヲ生ズ、此式ニ屬スル被動詞ノ變化ハ、自動詞ノ變化ニ ся ヲ語尾トセシト同一ナリ

I. 合成式 1. 此式ハ被形動詞ト助動詞 быть ヨリ組成セラル、但シ不完成體動詞ノ爲ニハ形動詞現在ヲ使用シ (或ル動詞ノ爲ニハ形動詞ノ過去ヲ使用ス)、完成體動詞ノ爲ニハ形動詞過去ヲ使用ス、例ハ

不完成體 (使用ハ稀ナリ)		完成體 (多ク使用セラル)	(前置詞ヲ綴合シテ使用セラル)
(быть чита́емымъ)		быть *проч*и́танным*ъ*	通讀セラレテアル
(быть дѣ́лаемымъ)		быть *сд*ѣ́ланным*ъ*	爲シ終ハラレテアル
(быть продава́емымъ)		быть *про*да́нным*ъ*	賣ラレテアル
(быть посыла́емымъ)		быть *по*сла́нным*ъ*	使ハサレテアル
быть люби́мымъ	愛セラール	быть *в*люблённым*ъ*	戀愛ヲ惹キ起サレテアル (惚レル)
(быть говорённымъ)		быть *ска*за́нным*ъ*	言ハレテアル

2. 不完成體ノ合成式ハ使用セラル、ニ至テ稀ナリ、殊ニ談話ニ於テハ稀ナリトス、唯、形容詞ノ意味ヲ以テ使用セラル、形動詞ニ之ヲ使用ス、例ハ быть люби́мымъ 或ハ過去ノ形動詞ヲ使用スル際 (斯カル場合ハ至テ稀ナリ) ニ之ヲ使用ス、例ハ было говорено́ 通常ハ此合成式ノ代リニ被動詞ノ單一式 (即チ ся ノ語尾ヲ有スル) ヲ用フ、例ハ Эта кни́га была чита́ема мно́ю съ бо́льши́мъ интере́сомъ (此書ハ大ナル興味ヲ以テ我ニテ讀マレタ)=Э́та кни́га чита́лась мно́ю съ бо́льши́мъ интере́сомъ.=或ハ之ニ代フルニ自動詞ヲ以テス Э́ту кни́гу я чита́лъ съ бо́льши́мъ интере́сомъ (此書ヲ我ハ大ナル興味ヲ以テ讀メリ)

完成體動詞ノ合成式ハ談話ニ於テモ書文ニ於テモ最モ多ク使用セラル

II. 被動詞合成式ノ變化

被動詞合成式ノ變化ニ於テハ動詞 быть ガ主語ト客語ノ連結 (§ 51, 5) ノ際ト同ジク (甲) 唯、быть ノミ變化シ形動詞ハ常ニ簡略語尾ヲ使用セラ

レ（客語トシテ）テ性ト數ノミニ依テ變化ス、但シ此合成式ガ不定法タル時ニハ形動詞ハ完全語尾ノ造格ヲ使用セラル、(乙) 現在ニ於テハ быть ハ常ニ省略セラレ唯其意味ヲ文中ニ存スルノミ

不完成體		完成體
(稀ニ使用ノ不完成體ニシテ、通常ハ cя ヲ之ニ接尾シテ以テ使用セラル)	不定法 (屢々使用セラル式)	
быть люби́м-ымъ, ою, ыми (愛セラル)		быть по́слан-ымъ, ою, ыми (遣ハサル)

現在

я, ты	люби́м-ъ, о, а	по́слан-ъ, о, а
онъ	люби́мъ	по́ланъ
оно	люби́мо	по́слано
она	люби́ма	по́слана
мы, вы, они́, онѣ́	люби́мы	по́ланы

過去

я, ты	былъ, была́, было́ люби́м-ъ, о, а	былъ, была́, было́ послан-ъ, о, а
онъ	былъ люби́мъ	былъ послан
оно́	было́ люби́мо	было́ по́слано
она́	была́ люби́ма	была́ по́слана
мы, вы, они́, онѣ́	были́ люби́мы	были́ по́ланы

未來

я бу́ду, ты бу́дешь, онъ, оно, она бу́детъ	люби́мъ, о, а	я бу́ду, ты бу́дешь, онъ, оно, она бу́детъ	послан-ъ, о, а
мы бу́демъ, вы бу́дете, они́, онѣ́ бу́дутъ	люби́мы	мы бу́демъ, вы бу́дете, они́, онѣ́ бу́дутъ	посланы

接續法

я, ты	былъ, была́, было́ бы люби́м-ъ, о, а	былъ, была́, было́ бы по́слан-ъ, о, а
онъ	былъ бы люби́мъ	былъ бы по́сланъ
оно́	было́ бы люби́мо	было́ бы по́слано
она́	была́ бы люби́ма	была́ бы по́слана

мы вы они́, онѣ́	бы́ли бы любимы	мы вы они́, онѣ́	бы́ли бы по́сланы

命令法

бу́дь ты пусть онъ, оно, она бу́детъ	люби́м-ъ, о, а	бу́дь ты пусть онъ, оно, она бу́детъ	по́слан-ъ, о, а
бу́демъ бу́дьте вы пусть они́, онѣ́ бу́дутъ	люби́м-ы	бу́демъ бу́дьте вы пусть они́, онѣ́ бу́дутъ	по́слан-ы

形動詞

現在	люби́м-ый, ое, ая люби́м-ъ, о, а	無シ
過去	無シ	по́сланн-ый, ое, ая по́слан-ъ, о, а

副動詞

現在	бу́дучи люби́м-ъ, о, а	無シ
過去	無シ	бывъ по́слан-ъ, о, а

備考　完成體ハ現在ヲ有セズ、如何トナレバ完成體ハ既ニ完結セシ動作ヲ表ス、故ニ被動詞完成體ノ現在合成式ヲバ過去ノ式(但シ助動詞 быть ト共ニセザル)ト見做スヲ要ス、Письмо́ уже́ *по́слано*. Письмо́ *было́ по́слано* вчера́ 此二例ニ於テ по́слано (есть) 及 было по́слано ハ共ニ完結セシ動作ヲ表ス、然レモ或ル動詞ニ於テハ此種ノ現在ト過去トノ意義ヲ異ニスルコトアリ、例ハ Я *при́нятъ* въ э́томъ до́мѣ хорошо́ (我ハ此家ニ好遇セラル). Я *былъ при́нятъ* въ э́томъ домѣ хорошо́ (我ハ此家ニ好遇セラレタリ) 第一例ノ動詞 при́нятъ (есть) ハ既ニ行ハレシ動作ナレモ今ニ至ルマデ持續シツヽアルヲ表ス、第二例ノ動詞 былъ при́нятъ ハ既ニ行ハレシ動作ニシテ今ハ行ハレツヽアラザルヲ表ス

§ 102. 無人稱動詞(即チ動詞ノ無人稱式)

1. 無人稱動詞トハ單數ノ第三人稱ノミヲ使用スルモノヲ云フ(但シ過去ナレバ單數第三人稱ノ中性ノミヲ用フ)

2. 而シテ斯カル動詞ニ關スル人稱ハ與格ト成ルヲ以テ、文句ハ主語ヲ有セザルモノト成ル、故ニ無人稱動詞ヲ客語トシタル文句ヲ無人稱文句ト名ツク、最モ多ク無人稱式ヲ用ユル動詞ハ

быть ナリ此動詞ノ無人稱式ハ есть, нѣтъ (現在) было, не было(過去), будетъ, не будетъ (未來), было бы, не было бы (接續法) ト成ル、

3. 其他無人稱式ヲ屢々使用スル動詞ハ概略次ノ如シ (§ 148, 4)

	現在	過去	未來
мнѣ тебѣ ему ей намъ вамъ имъ	ка́жется 見受ケラル	каза́лось	(бу́детъ каза́ться)
		показа́лось	пока́жется
	ду́мается 思ハル	ду́малось	(будетъ ду́маться)
		вздо́малось	вздо́мается
	хо́чется 何々シタクナル	хотѣ́лось	使用セズ
		захотѣ́лось	захо́чется
	слѣ́дуетъ 何々ヲ要ス	слѣ́довало	使用セズシテ之ニ換ユルニ ну́жно бу́летъ 或ハ до́лжно бу́детъ ヲ以テス

§ 103. 正則動詞 (Пра́вильный глаго́лъ) 及ビ不規則動詞 (непра́вильный глаго́лъ)

動詞ノ變化ハ正則的ト不規則的ノ二種ニ分カタル、正則動詞ハ一定ノ規則ニ從テ變化ス、不規則動詞ハ此一定シタル規則ニ從ハザル所アリ

正則動詞ハ語尾 ть 及 ться ノ前ニ母音ヲ有ス、其變化式ヲ明瞭ナラシメン爲ニ本書ニハ之ヲ八部類ニ分テ表ニ記セリ、不規則變化ニ屬スルモノハ (甲) 語尾 ть 及 ться ノ前ニ母音ヲ有スル或ル動詞 (§ 105) (乙) 二個ノ子音ヲ語尾中ニ有スル凡テノ動詞 (§ 106) 及語尾 чь ヲ有スル凡テノ動詞 (§ 107) ナリ、二個ノ子音ヲ語尾中ニ有スル動詞ヲ不規則ノ部ニ入レシ所以ハ概シテ此種ノ動詞ハ (僅少ノ例外ハ存スレド) 特異ノ變化ヲ成スヲ以テナリ

動詞ノ變化ニ就テ注意ヲ要スベキ點ハ (第一) 如何ナル母音 或ハ綴音ヲ以テ動詞ノ語尾 ть ハ語幹ニ接合スルヤヲ認ムルニ在リ、是ニ依テ其動詞ノ屬スベキ部類ヲ識別シ得ベケレバナリ、(第二) 其動詞ハ完成體ナルヤ不完成體ナルヤヲ知ルヲ要ス、如何トナレバ是ニ依テ其動詞ハ現在ヲ有スルヤ有セザルヤ、又未來ハ合成式ヲ用フベキヤ或ハ單一式ヲ用フベキヤヲ明ニスルヲ得ベシ

§ 104. 語尾 ть ノ前ニ母音ヲ

		語尾	不定法	現在	形動詞現在
	1	л, н, р } ать	дѣ́ла-ть 致ス	дѣ́ла-	
			зна-ть 知ル	зна́-	
			игра́-ть 戯ル、演ス	игра́-	
		ирать	умира́-ть 死ス	умира́-	
	2	л, н, р } ять	позволя́-ть 許ス	позволя́-	
			объясня́-ть 説明ス	объясня́-	
			повторя́-ть 復ス	повторя́-	
		лять	употребля́-ть 使用ス	употребля́-	
			приготовля́-ть 備フ	приготовля́-	
	3	ы, и, ѣ, у } вать	быва́-ть 在ル、居ル	быва́-	
			спра́шива-ть 問フ	спра́шива-	
			созрѣва́-ть 成熟ス	созрѣва́-	
			обува́-ть 履物ヲ穿タシム	обува́-	
	4	г, к, х } ать	помога́-ть 助ク	помога́-	
			привыка́-ть 慣ル	привыка́-	
I			отдыха́-ть 休息ス	отдыха́-	ю, ешь.... ютъ ющій
		ж, ч, ш, щ, ц } ать	ува́жа-ть 尊敬ス	ува́жа-	
			получа́-ть 得ル	получа́-	
			приглаша́-ть 招ク	приглаша́-	
			запреща́-ть 禁ス	запреща́-	
			отрица́-ть 否定ス	отрица́-	
		м, п } ать	ду́ма-ть 思考ス	ду́ма-	
			покупа́-ть 買フ	покупа́-	
		имать	понима́-ть 解ス	понима́-	
		д, з, с, т } ать	обѣ́да-ть 晝食ス	обѣ́да-	
			по́льза-ть 遣フ	по́льза-	
			броса́-ть 投ス	броса́-	
			чита́-ть 讀ム	чита́-	
	5	ѣть	блѣдни́-ть 蒼白トナル	блѣдни́-	
	6	ѣть	гре́ть 暖ム	гре́-	
	7	ѣть	имѣ́-ть 所持ス、有ス	имѣ́-	
	8	уть	ду-ть 吹ク	ду́-	
	1	а, ѣ } ять	та́я-ть 融ケル	та́- / ся́- } ю, ешь... ютъ	ющій
			ся́я-ть 播ク		

有スル正則動詞ノ變化表

副動詞現在	命令法	過去		形動詞過去	被動詞過去（殊ニ前置詞ヲ前綴シテ用ヒラル）
		дѣ́ла-			с-дѣ́ла- } нный 爲シ終ラレタル
		зна́-			у́-зна- } нный 判知サレタル
		игра́-			с-ы́гра- } нный 演シ終ラレタル
		умира́-			中動詞
		позволя́-			позво́лить ヨリ
		объясня́-			объясни́ть ヨリ
		повторя́-			повтори́ть ヨリ
		употребля́-			употреби́ть ヨリ
		приготовля́-			пригото́вить ヨリ
		бы́ва́-			быть (§ 99, I, 備考 3)
		спра́шива-			спроси́ть ヨリ
		созрѣва́-			無シ 中動詞
		обува́-			(多回體ナル故ニ) обу́ть ヨリ
		помога́-			中動詞
я	й	привыка́-			中動詞
		отдыха́-	дъ,		中動詞
		уважа́-	ло,	вшій	ува́жить ヨリ
		получа́-	ла		получи́ть ヨリ
		пригла́ша́-			пригласи́ть ヨリ
		запреща́-			запрети́ть ヨリ
		отрица́-			無シ
		ду́ма-			вы́-дума-нный 想出セラレタル
		покупа́-			無シ(多回體) купи́ть ヨリ
		понима́-			無シ(多回體) понять ヨリ
		обѣ́да-			無シ(中動詞)
		по́лза-			中動詞
		броса́-			無シ(多回體) бросить ヨリ
		чита́-			про-чи́та-нный 讀ミ終ラレタル
		блѣднѣ́-			無シ(中動詞)
		грѣ-			со-грѣ́-тый 完ク暖メラレタル
		имѣ́-			無シ
		ду-			ду́тый 過大ニセラレタル、虚妄ノ
я	й	та́я-			無シ(中動詞)
		сѣ́я-			по-сѣ́я-нный 播キ終ラレタル

		語尾	不定法	現在		形動詞現在
II	2	авать	*дава́*-ть 與フ	да-	ю, ёшь...ю́тъ	ю́щій
			узна*ва́*-ть 知ル	узна-		
			вста*ва́*-ть 起立ス	вста-		
	3	овать	чу́вствова-ть 感ス	чу́вству-	ю, ешь...ю́тъ	ю́щій
		евать	горева́-ть 憂フ	горю́-		
	4	оть	коло́-ть 割リ碎ク	кол-	ю́, ешь...ю́тъ	ющій
III	1	нуть	зя́бну-ть 凍ユ	зя́бн-	у, ешь...утъ	(ущій)
	2	нуть	кри́кну-ть 叫ブ	кри́кн-		無シ(完成體ナル故ニ)
	3	нуть	привы́кну-ть 慣ル	привы́кн-		
	4	ереть	умере́-ть 死ス	умр-	ру́, рёшь...ру́тъ	無シ(完成體)
			запере́--ть 封鎖ス	запр-		
			тере́-ть 拭フ	тр-		使用セズ
IV		г, к, х, ск ать	бры́зга-ть 振リ掛ク	бры́зжс-	у-, ешь...утъ	ущій
			пла́ка-ть 泣ク	пла́ч-		
			паха́-ть 耕ス	паш-	у́, ешь...утъ	
			иска́-ть 尋ヌ	ищ-		
V	1	а, е, и ить	таи́-ть 秘ス	та-ю́, ёшь...я́тъ		я́щій
			кле́и-ть 貼着ス	кле́-	ю, ишь...ятъ	無シ ящій
			стро́и-ть 建ツ	стро́-		
	2	л, н ить	позво́ли-ть 許ス	позво́л-		
			по́мни-ть 記憶ス	по́мн-		
		р ить	говори́-ть 言フ	говор-ю́, ёшь...я́тъ		я́щій
	3	л, н, р ѣть	боле́ть 病ム (§ 112, 2)	бол-ю́, ёшь...я́тъ		
			звени́-ть 鳴ル	звен-ю́, ёшь...я́тъ		я́щій
			смотре́ть 視ル	смотр-ю́, ишь...ятъ		я́щій
VI	1	ж, ч, ш, щ ать	лежа́-ть 臥ス	леж-у́, ёшь...а́тъ		а́щій
			молча́-ть 默ス	молч-у́, ёшь...а́тъ		а́щій
			слы́ша-ть 聞キ取ル	слы́ш-у, ишь...атъ		ащій
			пища́-ть ピーリト鳴ル	пищ-у́, ёшь...а́тъ		(а́щій)
	2	ж, ч, ш, щ ить	служи́-ть 勤務ス。從事ス	служ-у́, ишь...атъ		ащій
			учи́-ть 教フ	уч-у́, ишь...атъ		а́щій
			спѣши́-ть 急ク	спѣш-у́, ёшь...а́тъ		(а́щій)
			таши́-ть 曳ク	тащ-у́, ишь...атъ		(ащій)

副動詞 現在	命令法	過去		形動詞過去	被動詞過去 (殊ニ前置詞ヲ前提シテ用ヒラル)
ва́-я	*ва́-й*	дава́-	лъ, ло, ла	вшій	無シ(多回體) дать ヨリ
		узнава́-			узнать ヨリ
		встава́-			中動詞
		чу́вствова-			про-чу́вствова-нный 表情ヲ込メタル
я	й	горева́-			無シ(中動詞)
я́	и́	коло́-			рас-ко́ло-*тый* 分碎セラレタル
使用セス	и	зя́б-ъ, ло, ла		*шій*	無シ (中動詞)
無シ		кри́к*ну*-лъ, ло, ла		вшій	無シ
		привы́к-ъ, ло, ла 及ビ		*шій*	
		привы́к*ну*-лъ, ло, ла		вшій	
		у́мер-ъ, ло́, ла́		уме́р-*шій*	無シ (中動詞)
	й	за́пер-ъ, ло́, ла́		запёр-*шій*	за́пер-*тый* 閉鎖セラレタル
使用セズ		тёр-ъ, ло, ла		тёр-*шій*	с-тёр-*тый* 拭ヒ去リタル
а	使用セズ	бры́зга-	лъ, ло, ла	вшій	за-бры́зга- нный 振掛ケ終ラレタル
	ь	пла́ка-			за-пла́ка- нный 泣キ終ラレタル
	й	паха́-			вс-паха- нный 耕シ終ラレタル
	и́	иска́-			вз-ы́ска- нный 尋子出サレタル
я́	и́	тай-	лъ, ло, ла	вшій	у-таё- нный 秘シ終リタル
無シ я	й	кле́и-			за-кле́е- нный 貼着シ終リタル
	й	стро́и-			по-стро́е- нный 建テ終リタル
	ь	позво́ли-			позво́ле- нный 許可サレタル
	и	по́мни-			при-по́мне- нный 想起セラレタル
я	й	говори́-			говоре- нный 言ハレタル
使用セズ	無シ	бо́лъ-			無シ (中動詞)
я	й	звенѣ-			無シ (中動詞)
я́	и́	смотрѣ-			о-смо́рѣ-нный 視終ラレタル
а́	и́	лежа́-	лъ, ло, ла	вшій	無シ (中動詞)
а́	и́	молча́-			
а	(ь)	слы́ша-			у-слы́ша-нный 聞終ラレタル
а́	и́	пища́-			無シ (中動詞)
а́	и́	служи́-			за-слу́же- нный 勤メ終ラレタル
а́	и́	учи́-			вы́-уче- нный 學ヒ終ラレタル
а́	и́	спѣши́-			(無シ 中動詞)
а́	и́	тащи́-			вы́-таще-нный 曳キ出セラレタル

			語尾	不定法.	現在	形動詞現在
VII	1	б	ить	люби́-ть 愛ス	люб-лю́, ишь .ятъ	ящій
			ѣть	скорби́-ть 悼ム	скорб-лю́, и́шь...я́тъ	я́щій
	2	в	вить	гото́ви-ть 備フ	гото́в-лю, ишь...ятъ	яшій
	3	м	ать	дреми́-ть 居眠ル	дрем-лю́, лешь... лютъ	люіцій
			ить	знако́ми-ть 知己ニス	знако́м-лю, ишь ..ятъ	(ящій)
			ѣть	шуми́-ть 騒グ	шум-лю́, и́шь .я́тъ	я́щій
	4	п	ать	щипа́-ть 捻ル	щип-лю́, лешь...лютъ	люіцій
			ить	торопи́-ть 急ガシム	торо́п-лю́, ишь...ятъ	я́щій
			ѣть	терпи́-ть 忍ブ	терп-лю́, ишь .ятъ	я́щій
	5	ф	фить	графи́-ть 罫線ヲ引ク	граф-лю́, и́шь...я́тъ	使用セズ
VIII	1	д	ать	глода́-ть 丸呑ニス	гло-жу́, жешь. .жутъ	(жущій)
			ить	серди́-ть 激怒セシム	сер-жу́, ди́шь...дя́тъ	дя́щій
			ить	осуди́-ть 非議ス	осу-жу́, дишь...дятъ	無シ(完成體)
			ѣть	вы́дь-ть 見受ク	вы́-жу, дишь .дятъ	дящій
	2	з	ать	ре́за-ть 切ル	ре́-жу, жешь жутъ	жущій
			ить	вози́-ть 運ブ	во-жу́, зишь.. зятъ	(зя́щій)
	3	с	ать	писа́-ть 書ク	пи-шу́, шешь .шутъ	шущій
			ить	проси́-ть 請フ	про-шу́, сишь...сятъ	ся́щій
			ѣть	висѣ-ть 掛カル	ви-шу́, си́шь...ся́тъ	ся́щій
	4	т	ать	пря́та-ть 隠クス	пря́-чу, чешь ..чутъ	чущій
			ить	плати́-ть 拂フ	пла-чу́, тишь...тятъ	тя́щій
			ѣть	лети́-ть 飛ン	ле-чу́, ти́шь .тя́тъ	тя́щій
	5	ст	ать	свиста́-ть 嘯ク	сви-щу́, щешь .щутъ	щущій
			ить	чи́сти-ть 清ム	чи́-щу, стишь ..стятъ	стящій
			ѣть	блести́-ть 閃ク	бле-щу́, сти́шь...стя́тъ	стя́щій

Ⅱ 母音變化 (Гла́сное спряже́ніе)

母音變化ハ第一式軟變化ニ屬シ此變化ニ於テハ語尾 ть ノ前ニ立ツ所ノ母音ハ保持セラレ且ツ力點ハ不定法ノ儘ナリ、但シ或ル動詞ノ被形動過去ニ於テハ力點ヲ他ノ母音ニ轉ズルコアリ

母音變化ニ屬スル動詞ハ次ノ如シ

1. 語尾 ать ノ前ニ舌音 л, н, р, ヲ有スルモノ即チ лать, дать, рать ヲ語尾トスルモノナリ、而シテ語尾 ирать ハ多回體ノ語尾ナル故ニ、此語尾ヲ有スル動詞若シ前置詞ト綴合スル時ハ不完成體ノ動詞トナル.

2. 語尾 ять ノ前ニ舌音 л, н, р ヲ有スルモノ即チ лять, нять, рять ヲ語尾トスルモノナリ、大概ノ動詞ニ於テ此語尾ハ多回體ノ語尾ヲ成ス (語尾 лить, нить, рить ヲ有スル動詞ヨリシテ)、而シテ語尾 лять ノ前ニ唇音ヲ有

副動詞 現在	命令法	過去		形動詞過去	被動詞過去 (昧=前置詞ヲ前綴シテ用ヒタル)	
я́	и́	люби-	лъ, ло, ла	вшій	в-люб*ле*-нный 愛レタル	
я́	и́	скорбе́-			無シ (中動詞)	
(я)	ь	гото́ви-			при-гото́*вле*-нный 準備セラレタル	
ля	*ли́*	дрема́-			無シ (中動詞)	
я	ь	зна*ко́ми*-			о-знако́*мле*-нный 通達セラレタル	
я́	и́	шуме́-			無シ (中動詞)	
ля	*ли́*	щипа́-			об-щи́па-нный 捻リ終ラレタル	
я́	и́	торопи́			無シ	
я́	и́	терпе́-			無シ (中動詞)	
я́	и́	графи́-			раз-граф*лё*-нный 畫界セラレタル	
жа	*жи́*	глода́-	лъ, ло, ла	вшій	об-гло́да-	нный 丸呑ニセラレタル
дя́	ди́	серди́			раз-се́р*же*-	激怒セラレタル
無シ (完成體)	ди́	осуди́-			осу*ждё*-	非議セラレタル
дя	смотре́ть ヨリ使用	ви́дѣ-			ви́дѣ-	見終ラレタル
使用セズ	*жь*	ре́за-			раз-ре́за-	分斷セラレタル
зя́	зи́	вози́-			везти́ ヨリ使用	
使用セズ	*ши*	писа́-			на-пи́са-	書キ終ラレタル
ся́	си́	проси́-			вы- про́*ше*-	請ヒ得ラレタル
ся́	си́	висе́-			無シ (中動詞)	
ча	*чь*	пря́та-			с-пря́та-нный 全ク隱サレタル	
тя́	ти́	плати́-			за-пла́*че*-нный 拂濟シタル	
тя́	ти́	лете́-			無シ (中動詞)	
使用セズ	*щи́*	свиста́-			о-сви́ста-нный 嘯キ終ラレタル	
стя	сти	чи́сти-			вы́-чи*ще*-нный 清メ終ラレタル	
стя́	сти́	блесте́-			無シ (中動詞)	

スル動詞ニ於テハ此語尾 (лять) ハ ить (唇音ノ後ニ立ツ所ノ) ヲ語尾トスル動詞ノ多回體語尾ヲ成ス.

3. 語尾 ывать, ивать, ывать, увать ヲ有スル凡テノ動詞、此等ノ語尾ハ皆ナ多回體ノ語尾ナリ

4. 語尾 ать ノ前ニ喉音、上顎音、唇音、齒音ヲ有スル多クノ動詞、概シテ此等ノ動詞ノ語尾 ать ハ多回體ノ語尾ナリ、而シテ語尾 имать ヲ有スル動詞ハ凡テ、前置詞ヲ綴合シテ不規則動詞 ять (§ 105,1) ヲ語根トスル動詞ノ多回體ナリ

5. 語尾 ыть ヲ有スル始發的、中動詞全體 (§ 88, V, 3)

6. 語尾 ыть ヲ有スル一綴動詞全體、此種ノ動詞ハ一綴動詞ナルガ故ニ被形動過去ノ語尾ヲ тый ト成ス

7. 始發的ニ屬セザル多綴動詞.

備考 1. 此種ノ動詞ハ僅カ十八ナリ、即チ

благоговѣть 敬崇ス	запечатлѣть 印象ス	радѣть 配慮ス
болѣть 苦慮ス、痛タム	имѣть 所有ス	разумѣть 會得ス
владѣть 領ス、手ニ入ル	коснѣть 陋僻ス	робѣть 臆ス、怯ル
видѣться 見エル	одолѣть 勝ツ	сожалѣть 痛惜ス
говѣть 齋戒ス	ошалѣть 愚鈍トナル	тяготѣть 傾向ス
жалѣть 憫ム	потѣть 發汗ス	умѣть 能クス

8. 語尾 уть (但シ нуть ニ非ス) ヲ有スル動詞全體、此等ノ動詞ハ語根ニ於テハ皆ナ一綴動詞ナリ、一綴動詞ナル故ニ被形動過去ノ語尾ハ тый ナリ此種ノ動詞ハ僅少ナリ

III 第一式軟變化 (Пéрвое мя́гкое спряже́ніе)

此變化ニ於テハ語尾 ть ノ前ニ存スル母音ハ除去セラル

此變化ニ屬スル動詞ハ次ノ如シ

1. 語尾 ять ノ前ニ母音ヲ有スル動詞、此動詞ノ語尾 ть ノ前ニ存スル母音 я ハ現在ノ變化ニ於テハ除去セラル

2. 語尾 авать ヲ有スル動詞、此動詞ノ語尾 ть ノ前ニ存スル ва ハ現在ニ於テハ除去セラル、但シ直說法ノ現在ト自動的形動詞ノ現在ノミニ限ル其他命令法及被動的形動詞ニ於テハ ва ヲ保持ス、語尾 авать ハ動詞 дать, знать, стать ノ多回體語尾ナリ

3. 語尾 овать 及 евать ヲ有スル動詞、此動詞ノ現在ニ於テハ ова 及 ева ヲ除去シテ ова ノ代リニ у ヲ ева ノ代リニ ю ヲ挿入ス

4. 語尾 оть ヲ有スル動詞、此動詞ハ語尾 ть ノ前ニ存スル о ヲ 現在ニ於テ除去ス、但シ此種ノ動詞ハ僅少ナリ、此語尾ヲ有スル動詞ノ被形動過去ハ тый ヲ語尾トス

III 第一式硬變化 (Пéрвое твёрдое спряже́ніе)

此變化ニ屬スル動詞ハ次ノ如シ

1. 語尾 нуть ヲ有シテ事物ノ狀態ノ移動ヲ表スル中動詞 (§ 88, V, 3). 此動詞ノ現在ニ於テハ語尾ノ前ニ存スル у ヲ除去ス、過去ニ於テハ此種ノ動詞ハ殊ニ前置詞ト綴合シテ使用セラレ常ニ ну ヲ除去シ男性ノ語尾ハ ъ (л ヲ除キタル) ト成ル、形動詞ノ語尾ハ ши́й (вши́й ニ非ス) ト成ル、此動詞ハ形動現在ヲ有スレド、副動現在ヲハ有セズ

2-3. 語尾 нуть ヲ有スル一回體ノ動詞、此動詞ノ未來ハ、前ニ記シタル中動詞ノ現在ノ如クシテ成ル、即チ語尾ノ前ニ存スル母音 у ヲ除去ス、而シテ過去ハ二種ニ分レ (甲)、瞬時ノ音響動作 (§ 89, IV, 3, 甲) ヲ表スル動詞例ハ крикнуть, стукнуть (叩ク), хлопнуть (バタリ閉ツ) 等ノ過去ハ正則的ニシテ綴音 ну ヲ保持ス、(此種ノ動詞ノ過去ヨリ ну ヲ除去シテ間投詞ヲ生ズルコトアリ例ハ крик-нулъ ハ крикъ, стук-нулъ ハ стукъ, хлоп-нулъ ハ хлопъ, § 135, 2)、(乙)、一氣シテ行ハル、ニ非サル動詞 (§ 89, IV, 3, 乙) ノ過去ハ正則的 (ну ヲ保持スル) ト不規則的 (ну ヲ除去スル) ノ二種ヲ有ス、若シ ну ヲ除去スレハ男

性ハ ъ(л ヲ除キタル) ヲ語尾トシ、形動詞ハ шій ノ語尾ト成ル、而テ多ク使用スルハ不規則的過去ナリ

4. 語尾 еретъ ヲ有スル動詞、此種ノ動詞ハ僅カニ三アルノミ、мереть, переть,тереть ナリ、前二者ハ前置詞ト綴合シテ使用セラルヽヲ常トス、而シテ其根元ハ二個ノ子音ナリ、其間ニ二個ノ母音 е ヲ挿入セシハ聲調ヲ清ラカナラシメン爲ナリ、мере-ть ノ根元ハ мрナリ тереть ノ根元ハ тр ナリ、пере-ть ノ根元ハ пр ナリ、故ニ現在ニ於テハ根元タル語幹ニ變化ノ語尾ヲ附ス、過去ニ於テハ語幹タル二子音ノ間ニ一個ノ母音 е ヲ挿入シ男性ハ ъ(л ヲ除キタル) ヲ語尾トスルガ故ニ形動詞ノ語尾ハ шій ト成ル、若シ此種ノ動詞ガ被形動過去ヲ有スルナレハ тый ヲ語尾トス

IV 喉音變化 (Гортáнное спряжéніе)

語尾 атъ ノ前ニ喉音 г, к, х, ск ヲ有スル動詞即チ гать, кать, хать, скать ヲ語尾トスル動詞ハ喉音變化ニ屬ス、此變化ハ第一式硬變化ナリ、此變化ニ於テハ語尾 ть ノ前ニ存スル母音 а ヲ現在ニ於テ除去シ且ツ喉音ハ對應ノ上顎音 (§ 5,9) ニ轉ス

喉音變化ニ屬スル動詞ハ僅少ナリ、如何トナレハ、語尾 áть ノ前ニ喉音ヲ有スル動詞ハ概シテ母音變化ニ屬ス

V 第二式軟變化 (Второ́е мя́гкое спряжéніе)

此變化ノ現在ニ於テハ語尾ノ前ニ存スル母音 и 及 ѣ ヲ除去ス、此變化ニ屬スル動詞ハ次ノ如シ

1. 語尾 ить ノ前ニ母音ヲ有スル動詞、 2. 語尾 ить ノ前ニ舌音ヲ有スル動詞即チ лить, нить, рить ヲ語尾トスル動詞、大概此種ノ動詞ノ多回體語尾ハ лять, аять, рять ナリ

3. 語尾 ѣть ノ前ニ舌音ヲ有スル、即チ лѣть аѣть, рѣть ヲ語尾トスル動詞

VI 上顎音變化 (Нёбное спряжéніе)

此變化ノ現在ニ於テハ、語尾ノ前ニ存スル母音 а 及 и ヲ除去ス
此變化ハ第二式硬變化ナリ、此變化ニ屬スル動詞ハ次ノ如シ

1. 語尾 ать ノ前ニ上顎音 ж, ч, ш, щ ヲ有スル或ル動詞、(但シ悉皆ニ非ス)、此語尾ヲ有スル動詞ハ母音變化ニ屬スルモノ多シ、殊ニ注意スベキハ語尾 ать ヲ有スル動詞全體ニ於テ此上顎音變化ニ屬スル動詞ノミハ第二式ニ依テ變化シ其他ハ皆ナ第一式ニ依テ變化スルコトナリ
2. 語尾 ить ノ前ニ上顎音 ж, ч, ш, щ ヲ有スル動詞全體

VII 唇音變化 (Губно́е спряжéніе)

此變化ニ屬スルハ語尾 ать ノ前ニ唇音 б, в, м, п, ф ヲ有スル或ル動詞幷ニ語尾 ить 及 ѣть ノ前ニ唇音ヲ有スル動詞全體ナリ
而シテ ать ヲ語尾トスル動詞ハ第一式軟變化ニ屬シ、又 ить 及 ѣть ヲ語尾トスル動詞ハ第二式軟變化ニ屬ス

此變化ニ屬スル凡テノ動詞ハ現在ニ於テ(第一)語尾 ть ノ前ニ存スル母音ヲ除去シ(第二)且ツ舌音 л ヲ挿入ス、但シ ать ヲ語尾トスル動詞、即チ第一式變化ニ屬スルモノハ單複兩數ノ諸人稱ニ於テ л ヲ挿入シ而シテ ить ト ѣть ヲ語尾トスル動詞即チ、第二式變化ニ屬スルモノハ單數ノ第一人稱ニ於テノミ л ヲ挿入ス

語尾 ить ヲ有スル動詞ハ被動的形動詞ノ過去ト多回體語尾ニ於テ л ヲ挿入ス

備考 語尾ノ前ニ唇音 в ヲ有スル動詞中、此變化ニ屬スルモノハ唯、вить ヲ語尾トスル動詞ノミナリ、而シテ вать ト вѣть ヲ語尾トスル動詞中、此變化ニ屬スルモノハ一モナシ

VIII. 舌音變化 (Зубно́е спряже́ніе)

此變化ニ屬スルハ ать ヲ語尾トスル或ル動詞及語尾 ить ト ѣть ノ前ニ舌音 д, з, с, т, ст ヲ有スル動詞全體ナリ

語尾 ать ヲ有スル動詞ハ第一式硬變化ニ屬シ、語尾 ить ト ѣть ヲ有スル動詞ハ第二式硬變化ニ屬ス

此變化ニ屬スル凡テノ動詞ハ現在ニ於テ(第一)語尾 ть ノ前ニ存スル母

§ 105. 語尾 ть ノ前ニ母音ヲ有スル不規則

	語尾	不定法	現在	形動詞現在
1	ять	(ять)	им-у, ешь, етъ...утъ	無シ(完成體)
		отня́ть 取上ク、剝奪ス	отним- / отым- / подним- / подым- } у́, ешь...утъ	
		подня́ть 上ク、揚ク		
		заня́ть 借ル、場所ヲ占ム	займ- / найм- / возьм- } у́, ёшь, ётъ...у́тъ	
		наня́ть 雇フ		
		взять 取ル		
		приня́ть 受ク、採ル	прим-у́, ешь, етъ...утъ	
2		мять 揉ム √	мн-у, ёшь, ётъ...утъ	(ущій)
3		(пять)	пн- / распн- } у́, ёшь, ётъ...утъ	無シ(完成體)
		распя́ть 磔ス √		
4	ыть	выть 號咆ス √	во́- / кро́- / мо́- / но́- / ро́- } ю, ешь, етъ...ютъ	ющій
5		крыть 蔽フ		
6		мыть 洗フ		
7		ныть 痛ム、欝ス √		
8		рыть 堀ル √		
9		плыть 航ス、泛ブ	плыв- / слыв- } у́, ёшь, ётъ...у́тъ	у́щій
10		слыть 評判ヲ有ス √		
11		стыть 冷ム √	сты́н-у, ешь, етъ...утъ	使用セズ
12		быть § 99		

音ヲ除去シ(第二)舌音ヲ對應ノ上顎音 (§ 5, 10) ニ變ス即チ ать ヲ語尾トスル動詞(第一式變化ニ屬スル)ハ單複兩數ノ諸人稱ニ於テ、又 ить ト ять ヲ語尾トスル動詞(第二式變化ニ屬スル)ハ單數ノ第一人稱ニ於テノミナリ

語尾 ать ト ять ヲ有スル動詞ノ被動的形動詞過去ハ正則的ナリ、ить ヲ語尾トスル動詞ハ概シテ被動的形動詞ニ於テ舌音ヲ對應ノ上顎音ニ變ス但シ дить ヲ語尾トスル動詞ハ例外ニシテ、或ハ舌音 д ヲ(被形動詞ニ於テ)正則的ニ ж ニ轉シ或ハ жд ニ轉ズ、大概ノ辭書ニ於テハ дить ヲ語尾トスル動詞ニハ其被動的形動詞ヲ附記シテ舌音ノ轉動ヲ明示セリ

備考　上表ニ列記シタル正則動詞ノ變化式ヲ按スルニ (甲) 凡テ ать ヲ語尾トスル動詞ハ第一式變化ニ屬シ僅カニ 上顎音變化 (VI) ニ屬スル動詞ノミ其例外ヲ爲ス、(乙) 而シテ ять ヲ語尾トスル動詞ハ悉皆第一式變化ニ屬ス (丙) 又 ить ヲ語尾トスル動詞ハ悉皆第二式變化ニ屬ス、(丁) 又 ять ヲ語尾トスル動詞モ第二式變化ニ屬スレ𪜈 其中ノ 例外ヲ爲スハ 中動詞ト一綴動詞ト僅少ノ多綴動詞 (1, 5, 6, 7) ナリ

動詞 (最初ハ表中ノ肉太キ數字ヲ番號トセシ不規則動詞ヲ學ブノミニテ足レリ)

副動詞 現在	命令法	過去		形動詞過去	被動詞過去
無シ(完成體)	й	я-лъ, ло, ла		-вшій	(я-тый)
		отня-	лъ, ло, ла		о́тня-*тый*
		無シ			無シ
		подня-			по́дня-тый
		無シ			無シ
		заня			за́ня-
		наня-			на́ня- *тыи*
		взя-			взя́-
		приня-			при́ня-
使用セズ	й	мя-			с-мя
無シ(完成體)	й	ня-		вшій	無シ *тый* 揉通シタル
	й	распя́			распя́-
я	й	вы-	лъ, ло, ла		無シ (中動詞)
		кры-			по-кры- *тыи* 蓋ハレタル、滿タサレタル
		мы-			вы́-мы- 洗ヒ清メラレタル
		ны-			無シ (中動詞)
		ры-			вы́-ры-*тыи* 堀リ終ラレタル
я́	и́	плы-лъ, ло, ла́			無シ (中動詞)
		слы-лъ, ло, ла́			
使用セズ	ь	сты-лъ, ло, ла			

	語尾	不定法	現在	形動詞現在
13	I. 1	*слать* *послáть* 遣ハス	*шл-* *пошл-* } ю́, ёшь, ётъ ..ю́тъ	} 無シ(完成體)
14		*стлать* 布ク	*стел-ю́*, ешь, етъ ..ютъ	(ющій)
15		*гнать* 逐フ	*гон-ю́*, *и*шь, *и*шь...*я*тъ	(ящій)
16		*брать* 取ル	*бер-*	
17		*врать* 虚言ス、空言ス	*вр-*	
18		*драть* 裂破(ムシル)	*дер-* } у́, ёшь, ётъ...утъ	} у́щій(稀ニ用フ)
19		*жрать* 貪食ス	*жр-*	
20		*орáть* 鋤ク	*ор-*	
21		*орáть* 放歌ス、叫歌フ	*ор-у́* 及 *ор-ю́*, ешь ..*о́р-у*тъ 及 *о́р-ю*тъ	*у*щій 及 *ю*щій
22	I. 3	*завѣ́дывать* 管理ス	*завѣ́д-* } ываю, ываешь... ываютъ 及 ую, уешь уютъ	
23		*исповѣ́дывать* 信崇ス	*исповѣ́д-*	ывающій 及 у́ющій
24		*испы́тывать* 試驗ス	*испы́т-* } ываю, ываешь.. ываютъ 及 у́ю, у́ешь у́ютъ	
25		*обя́зывать* 義務ヲ負ハシム	*обя́з-*	
26		*проповѣ́дывать* 説教ス	*проповѣ́д-* ываю 及 ую	
27		*по́тчивать* 食ヲ馳走ス	*по́тчу-*ю, ешь, етъ ..ютъ	ющій
28	I. 4	(*имáть*) *принимáть* 受ク、採用ス	*е́мл-* *пріе́мл-* } ю, ешь, етъ ютъ	} ющій
29	I. 6	*дѣть* 置ク (§ 109, II. 2) *одѣ́ть* 着服セシム	*дѣ́н-* *одѣ́н-* } у, ешь, етъ ..утъ	} 無シ(完成體)
30		*зрѣть* 見ル (§ 112, 2)	*зр-ю*, *и*шь, *и*тъ *я*тъ	(*я*щій)
31		*пѣть* 歌フ	*по-ю́*, ёшь, ётъ ю́тъ	ю́щій
32	II. 1	*вая́ть* 彫ル	*вая́-*	
33		*влія́ть* 感化ス、注入ス	*влія́-*	
34		*зія́ть* 口ヲ開ク	*зія́-*	
35		*пая́ть* 銲ス、鑄着ス	*пая́-*	
36		(*своя́ть*) *усвоя́ть* 領有ス、會得ス	*своя́-* *усвоя́-* } ю, ешь, етъ ..ютъ	} ющій
37		*сія́ть* 輝ク	*сія́-*	
38		*удвоя́ть* 二倍ニス	*удвоя́-*	
39		*утроя́ть* 三倍ニス	*утроя́-*	
40		*боя́ться* 恐ル	*бо-ю́сь*, *и́*шься, *и́*тся ...*я́*тся	*я́*щійся
41		*стоя́ть* 立ツ	*сто-ю́*, *и́*шь, *и́*тъ...*я́*тъ	*я́*щій
42		*плáвать* 泳ク、航ス	*плáва-*ю, ешь, етъ...ютъ	ющій

副動詞 現在	命令法	過去		形動詞過去	被動詞過去
無シ（完成體）使用セズ я	и	сла- посла- стла- гна-	лъ, ло, ла	вшій	сла- по́сла- по́-стла- у́-гна-
使用セズ	и	бра- вра- дра- жра- ора-			взять ヨリ生ズ на́-вра- со́-дра- со-жра-
使用セズ	и	ора			無シ
ывая 及 уя	ывай 及 уй	запове́дыва- испове́дыва- испы́тыва- обя́зыва- пропове́дыва- по́тчива-			
я	й	無シ			無シ
я	и	принима́-			無シ（多回體ナル故ニ）принять ヨリ
я	ь	дъ- одъ-			дъ- одъ-
я	и	зрѣ-			無シ（中動詞）
я	пой	пѣ-			про-пѣ-тый 歌ヒ終リタル
вая- влія- зія- пая- своя- усвоя- сія- удвоя- утроя-			лъ, ло, ла	вшій	с-ва́я-нный 影リ終リタル 無シ（中動詞） с-па́я-нный 鑄着セラレタル 無シ（多回體）усво́ить ヨリ 無シ（中動詞） 無シ（多回體）удво́ить ヨリ утро́ить ヨリ
я	й				
ясь	йся	боя-лся, лось, лась		вшійся	無シ
я	й	стоя-	лъ, ло, ла	вшій	無シ（中動詞）
я	й	пла́ва-		вшій	пере-пла́ва-но

	語尾	不定法	現在	形動詞現在
43		затмева́ть 暗マス	затмева́-ю, ешь, етъ...ютъ	ющій
44		здоро́ваться 面會ノ挨拶ヲ行フ	здоро́ва-юсь; ешься...ются	ющійся
45		намѣрева́ться 志ス	намѣрева́-юсь, ешься...ются	ющійся
46		обурева́ть 惑キ動カス、心ヲ亂ス	обурева́-	ющій
47		увѣщева́ть 勸諭ス	увѣщева́-ю, ешь...ютъ	
48		упова́ть 希望ヲ抱ク	упова́-	
49	II, 4	боро́ться 角力ス	бор-юсь, ешься, емся, ются 被形動詞 бор-и́мый	ющійся
50		моло́ть 碾ク	мел-ю, ешь, етъ...ютъ	ющій
51	III	вя́нуть 凋衰ス	вя́н-у, ешь, етъ...утъ	(ущій)
52		льнуть 粘着ス	льн-у́, ёшь, ётъ...у́тъ	(у́щій)
53		то́нуть 沈没ス	то́н-у, ешь, етъ...утъ	(ущій)
54		(ве́ргнуть) отве́ргнуть 排斥ス	ве́ргн- отве́ргн- } у, ешь, етъ...утъ	無シ（完成體）
55		обману́ть 欺ク	обман-у́, ешь, етъ...утъ	無シ
56		гнуть 曲折ス	гн-у́, ешь, етъ...у́тъ	(у́щій)
57		тяну́ть 延バス、引ク	тян-у́, ешь, етъ...утъ	(ущій)
58	IV	лгать 僞ハル	лг-у, лж-ёшь, ётъ...лгутъ	(лгу́щій)
59		дви́гать 動カス	дви́га-ю, ешь...ютъ 及 дви́жу, ешь...утъ дви́жимый（被形動現在）	-гающій 及 -жущій
60		тка́ть 織ル	тк-у, ёшь, ёгъ...утъ	(ущій)
61		ѣ́хать 乘行ク	ѣ́д-у, ешь, етъ...утъ	(ущій)
62	V, 1	дои́ть 乳ヲ搾ル	до-	使用セズ
63		пои́ть 飲マシム	по- } ю, ишь, итъ...ятъ	
64		кои́ть 裁ツ	кро-	
65		сто́ить 價ヲ有ス	сто́-ю, ишь, итъ...ятъ	ющій
66	V, 2	лить 注ク	ль-ю, ёшь, етъ...ютъ	ющій
67		гнить 朽ル	гни́-ю, ёшь, етъ...ютъ	ющій
68		брить 剃ル	бри́-ю, ешь, етъ ютъ	ющій
69		мы́слить 思想ス	мы́сл-ю 及 мы́шл-ю, мы́сл-ишь...ятъ	яющій
70	○	изостри́ть 鋭クス、磨ク	изощр-ю, изостр-и́шь...я́тъ	無シ（完成體）
71	VI, 1	бѣжа́ть 走ル	бѣгу́, бѣж-и́шь, и́тъ...бѣгу́тъ	бѣг-у́щій

副動詞現在	命令法	過去		形動詞過去	被動詞過去
я	й	затмева-		вшій	無シ (多回體)
ясь	йся	здорóва	лся,лось, лась	вшійся	無シ
ясь	йся	намѣрева́			
я	й	обурева-	лъ,ло,ла	вшій	無シ
		увѣщева́			無シ (多回體)
		упова-			無シ (中動詞)
ясь	и́сь	боро́-лся,лось,лась		вшійся	無シ
я́	и́	моло́-лъ, ло, ла		вшій	с-мо́ло-тый 碾キ終リタル
無シ	ь	вя-*лъ* 及 вя́*ну*-лъ		вя*д*-шій	無シ (中動詞)
	и́	*льну*-	лъ, ло, ла	вшій	
	ь	тон*у́*-			
	и́	верг-ъ, ло, ла 及 ве́ргну-лъ, ло, ла		шій 及 вшій	ве́ргну-тый 及 ве́р*же*-нный
	и́	отве́р-гъ 及 отве́ргну-лъ, ло, ла			отве́ргну-тый 及 отве́р*же*-нный
	使用セズ	обма́*ну*-	лъ, ло, ла	вшій	обма́ну-тый
	и́	*гну*-			со-гну́-тый 曲折サレタル
	и́	тя*ну́*-			рас-тя́ну-тый 延伸サレタル
無シ	и́	лга-	лъ, ло, ла	вшій	無シ (中動詞)
я	й	дви́га-			使用セズ двину́ть ヨリ
無シ	и	тка-			со́-тка-нный 織出サレタル
無シ	по́ѣзжа́й	ѣха-			中動詞
я	*и*	дои́	лъ, ло, ла	вшій	вы́-дое-на-по́е-с-кро́е-нный 搾リ出サレタル 裁チ終ラレタル
я	й	пои́-			
я	и́	крои́-			
無シ	лей	стои-			無シ (中動詞)
я	使用セズ	ли-			вы́-ли-*тый* 注キ出サレタル
я	й	гяи-			無シ (中動詞)
я	и	бри-			бри́-тый
		мы́сли-			вы́-мы*сли*-нный 案出サレタル
無シ (完成體)	и	изостри́-			изо*щр*ё-нный
бѣ-*жа́*	бѣ-*гй*	бѣ*жа́*-			無シ (中動詞)

	語尾	不定法	現在	形動詞現在
72		жать 壓ス	жм-	使用セズ
73		жать 苅ル	жн-	
74		ржать 嘶ク	рж- } ý, ешь, ётъ…ýтъ	
75		(чать)	чн-	無シ (完成體)
		начать 始ム	начн-	
76	VI. 2	жить 住ム	жив-ý, ёшь, ётъ…ýтъ	ýщій
77		почи́ть 安息ス	почі-ю́, ёшь, ётъ…ю́тъ	無シ (完成體)
78		шить 縫フ	шь-ю, ёшь, ётъ…ютъ	(ющій)
79	VII. 1	колеба́ть 搖カス (氣ヲ)	колеба́-ю, ешь…ютъ 及 колéбл-ю, ешь…ютъ	ющій 及 лющій
80		зыби́ться 波動ス	зы́б-люсь, -гешься…лются 及 -и́шься…я́тся	лющійся 及 ящійся
81		(шибить)	щиб-ý, ёшь, ётъ…утъ	無シ (完成體)
		ошибиться 誤ル	ошиб-ýсь, ёшься…утся	
82		бить 打ツ	бь-ю, ёшь, ётъ…ютъ	ющій
83		звать 呼ス	зов- } ý, ёшь…ýтъ	ýщій
84		рвать 裂ク、嘔吐ス	рв-	
85		вить	вь-ю, ешь, етъ…ютъ	ющій
86		благословить 祝福ス (§ 109, II. 2)	блогаслов-лю́ и́шь…я́тъ	無シ (完成體)
87		умертви́ть 殺ス	умерщвлю́, умертв-и́шь, -и́тъ…я́тъ	
88		ревѣ́ть 唸ル	рев-ý, ешь, етъ…утъ	ýщій
89		кайми́ть 緣ヲ付ク	кайм- } ю́, и́шь…я́тъ	я́щій
90		клейми́ть 極印ス、黥ス	клейм-	
91		спать 寢ル	спл-ю, сп-ишь, итъ…ятъ	ящій
92		сы́пать 振リ散ラス	сы́пл-ю, ешь, етъ…ютъ	(ющій)
93		вопи́ть 喚ク	вопі-ю́, ёшь, ётъ…ютъ	ю́щій
94		пить 飲ム	пь-ю, ёшь, ётъ…ютъ	ю́щій
95	VIII	дать 與フ (§ 109, II, 2)	дамъ, дашь, дастъ, дад-и́мъ, дад-и́те, дад-ýтъ	無シ
96		созда́ть 造ル、創作ス	соз-да́мъ, да́шь, да́стъ, дад-и́мъ, дади́те, дад-ýтъ	無シ
97		ждать 待ツ	жд-у, ёшь, ётъ…утъ	(ущій)
98		вы́сидѣть 續ケ座ス	вы́си-жу, дишь…дятъ	無シ (完成體)
99		оби́дѣть 辱シム (§ 109, II, 2)	оби́-жу, дишь…дятъ	
100		соса́ть 吸フ	сос-ý, ёшь…ýтъ	ýщій

副動詞現在	命令法	過去		形動詞過去	被動詞過去
使用セズ	и	жа-	лъ. ло, ла	вшій	жа- тый
		жа-			жа- тый
		ржа-			無シ(中動詞)
無シ(完成體)		ча-			чá-тый
		нача-			нáча-тый
я	и	жи-			無シ(中動詞)
使用セズ	使用セズ	почи́-			
	шей	ши-			с-ши́-тый 縫終ラレタル
я及ля	й及ли	колеба́-	лъ. ло. ла	вшій	по-коле́б-ленный
使用セズ	使用セズ	зыби́-лся. лось, лась		вшійся	無シ(中動詞)
無シ(完成體)	и	шиб-ъ, ло. ла		гівшій	(ши́б-ленный)
	и	отши́б-ся, лось, лась		гівшійся	無シ(中動詞)
使用セズ	бей	би-	лъ. ло. ла	вшій	би́-тый
	и	зва-			со́-зва- 呼出サレタル
		рва-			вы́-рва- 裂取ラレタル нный
	вей	ви-			ви́-тый
я		благослови́-			благослове-нный
無シ		умертви́-			умерщвле-нный
я	и	ревѣ-			無シ(中動詞)
я		каймí-			о-каймле- 縁付ケ終ラレタル
		клеймí-			за-клеймё- нный
無シ	спи	спа-			無シ(中動詞)
я	сыпь	сы́па-			в-сы́па-нный 散布サレタル
я	使用セズ	вопи́-			無シ(中動詞)
使用セズ	пей	пи-			вы́-пи-тый 飲盡サレタル
無シ(完成體)	дай	да-			да́ нный
無シ	создáй	созда-			со́зда- нный
無シ	и́	жда-			無シ
無シ	ди	вы́сидѣ-			вы́сиже-нный
	дь	оби́дѣ-			оби́же-нный
я	й	соса́			вы́-соса-нный 吸出サレタル

	尾語	不定法	現在	形動詞現在
101		форси́ть 虚飾ス	форс-ю́, и́шь...я́ть	я́щій
102		стать 何ヶ シ始ム、立ツ (§ 109, II, 2)	ста́н-	無シ (完成體)
		переста́ть 已ム、廢止ス	переста́н- } у, ешь...утъ	
103		*чти́ть* 敬ス	*чт*-у, ишь, итъ...*ут*ъ	*у*щій
104		*хоти́ть* 欲ス	*хоч*-у́, ешь, етъ, *хот*-и́мъ, *и́*те, я́тъ	желать ヨリ生ズ
105		*верте́ть* 回轉ス	вер-чу́, тишь...тятъ	тя́щій
106		*клевета́ть* 讒ス	клевещ- } у́, ешь...утъ	*у*щій
107		*ропта́ть* 怨言ス	ропщ-	
108		*скрежета́ть* 切齒ス	скрежещ-	
109		*трепета́ть* 戰慄ス	трепещ-	
110		*о-богати́ть* 富マス	обога- } *щу́*, ти́шь...тя́тъ	無シ (完成體)
111		*воз-врати́ть* 返戻ス	возвра-	
112		*со-кра́тить* 短クス、略ス	сокра-	
113		*у-кроти́ть* 鎭ム	укро-	
114		*за-прети́ть* 禁ズ	запре-	
115		*на-сы́тить* 飽カシム	насы́-*щу*, тишь, титъ...тятъ	
116		*по-се́ти́ть* 訪問ス	посѣ- } *щу́*, ти́шь...тя́тъ	
117		*о-тяготи́ть* 煩ハス	отягo-	
118		*по-хити́ть* 奪フ	похи́-*щу*, тишь...тятъ	

1—13 間ノ動詞ハ八部類ノ正則動詞中ニ入ラザルモノナリ

1 一綴動詞 ять 是レハ前置詞ト綴合セザレハ使用セラル、コトナシ、而シテ前置詞ト綴合シタル際不定法ニ於テハ聲調ヲ清ラカナラシメン爲ニ н ヲ挿入ス

過去ハ正則的ニ不定法ヨリ生シテ挿入ヲ使用セズ

未來ニ關シテハ二種ノ場合アリ、(第一)若シ ять ガ子音ニ終ル所ノ前置詞ト綴合スル場合(例ハ前置詞 отъ, полъ съ ノ如キ)ニハ未來ニ於テ挿入 н ヲ保持スルトモ除去スルトモ可ナリ、若シ之ヲ保持スレバ語尾ハ иму, имешь...ト成ル、若シ又 н ヲ除去ズレバ前置詞ノ語尾 ъ ト、未來變化ノ語尾ノ首端ニ立ツ所ノ母音 и(即チ иму ノ ト接合シテ ы ト成ル(ъ + и=ы) 故ニ變化ノ式ハ ыму, ымешь...ト成ル、表中ノ例 отнять, поднять ヲ參照スベシ、(第二)、若シ ять ガ母音ニ終ル前置詞(例ハ за, на, по ノ如キ)ト綴合スレバ未來ニ於テハ挿入 н ヲ必ズ除去スベキヲ以テ其語尾ハ йму, ймёшь...ト成ル заня́ть, наня́ть 等ノ表例ヲ參照

二個ノ動詞 взять 及 приня́ть ハ例外ニシテ、взять ハ子音 ъ ニ終ル前置詞(вз=воз)ト綴合スレドモ н ヲ挿入セズ且ツ變化式ハ特種ニシテ ьму, ьмешь...ト成ル、приня́ть ハ未來ニ於テハ挿入 н ヲ除去スルノミナラズ前置詞ノ語尾タル母音 и ヲモ除去スル故ニ變化式ハ йму, ймешь...ト成ラズシテ

副動詞現在	命令法	過去		形動詞過去	被動詞過去
я́	и́	форси́-			
		ста-			
無シ	ь				無シ（中動詞）
		переста́-			
使用セズ	и	(чти-)	лъ, ло, ла		по-чтё-нный 尊敬サレタル
жела́ть ヨリ生ズ	жела́ть ヨリ生ズ	хотѣ-			無シ（中動詞）
я́	и́	вертѣ-		влій	ве́рче-нный
а	и́	клевета́-			о-клеве́та-нный 讒言サレタル
а	и́	ропта́-			
а	и́	скрежета́-			無シ（中動詞）
а́	и́	трепета́-			
無シ		обогати́-			обога*ще*-
я́		возврати́-			возвра*ще*-
		сократи́-			сокра*ще*-
	ти́	укроти́-			укро*ще*-
		запрети́-			запре*ще*- нный
無シ	ть	насы́ти-			насы́*ще*-
		посѣти́-			посѣ*ще*-
	ти́	отяготи́-			отягo*ще*-
	使用セズ	похи́ти-			похи́*ще*-

иму, имешь ト成ル例ハ при-йму ト成ルベキ代リニ пр-иму́ ト成ル

動詞 ять ノ被形動詞過去ハ一綴動詞タル故ニ語尾 тый ヲ有ス

備考 動詞 ять ノ多回體ハ имать ナリ、此動詞ハ正則的母音變化 (§ 104, I, 4) ノ外ニ不規則變化式 (29) ヲモ有ス

2—3. 此動詞ハ現在ニ於テ母音 я ヲ除去シテ子音 в ヲ挿入ス、而シテ пять ハ前置詞ト綴合セザレバ使用スルヿナシ

4—8. 此動詞ハ現在ニ於テ母音 ы ヲ о ニ變シテ第一式變化ヲ成ス

9—10. 此動詞ハ現在ニ於テ в ヲ挿入ス

11. 此動詞ハ現在ニ於テ н ヲ挿入ス

13—31. 母音變化ニ於ケル例外

13—21. 此動詞ハ語尾 ть ノ前ニ存スル母音 а ヲ現在ニ於テ除去ス、又 слать ハ現在ニ於テ с ヲ ш ニ變ズ、слать ハ前置詞ト綴合シテ使用セラルヽヲ常トス、又 стлать ハ е ヲ挿入ス、гнать ハ о ヲ挿入シテ第二變化ヲ成ス、брать ハ е ヲ挿入ス、драть モ е ヲ挿入ス、орать ハ「鋤ク」ノ意味ナレバ現在ニ於テ單數第一人稱ト複數ノ第三人稱ハ硬ト軟ノ兩式、何ヅレノ變化ヲ用フルモ可ナリ

22.—26. 此動詞ノ現在ハ正則的ト不規則的ノ二樣ノ變化式ヲ有ス、不規則的ハ ОВАТЬ ノ語尾ヲ有スル動詞 (正則表、§ 104, II, 3) ノ如ク ыва ヲ除去シテ у ヲ挿入ス

備考 或人々ハ此種ノ動詞ノ不定法トシテ ОВАТЬ ノ語尾 (ЫВАТЬ ノ代リニ) ヲ使用スレモ、是レ誤謬ナリ、本來此種ノ動詞ニ語尾 ОВАТЬ ヲ附用スルハ古代ノ露語タルバスラウヤン語ニシテ、現時ノ露語ニ於テハ之ヲ使用ス可カラズ

27 此動詞ハ語尾 ОНЯТЬ ヲ有スル正則動詞 (§ 104, II, 3) ノ如ク ИНА ヲ除去シテ у ヲ挿入ス

28. ИМАТЬ ハ ЯТЬ ノ多回體形式ナリ、ИМАТЬ ノ現在ハ正則的ニ母音變化ヲモ成シ又不規則的ニ ёмлю, ёмлешь トモ變化ス、但シ此不規則形式ハ古代露語ノ形式ニシテ現今ハ唯或ル句調ニ限リテノミ使用セラル

29—31 此一綴動詞ハ語尾 ять ヲ有シテ母音變化ニ屬セズ、ДЪТЬ ハ前置詞ト綴合セザレバ使用セラレズ且ツ н ヲ挿入ス、зрѣть ハ現在ニ於テ母音 ѣ ヲ除去シ第二式變化ヲ成ス即チ語尾 рѣть ヲ有スル多綴動詞 (V, 3) ノ如ク變化ス、然レモ此動詞ガ「成熟ス」ノ意味ナル時ハ母音變化ヲ成ス、ПЪТЬ ハ母音 ѣ ヲ о ニ變更シテ ыть (4-8) ノ語尾ヲ有スル動詞ノ如ク變化ス

32.—50. 第一式軟變化ノ例外

32.—39 此動詞ハ現在ニ於テ母音 я ヲ保持シ母音變化ヲ成ス

40.—41. 此動詞ハ現在ニ於テ母音 я ヲ除去スレモ第二式變化ヲ成ス

42. 語尾 авать ヲ有スル動詞ガ現在ニ於テ ава ヲ保持スルハ唯 плавать ノミナリ、此動詞ハ母音變化ニ屬ス

43.—48 此動詞ハ現在ニ於テ ева 及 ова ヲ除去セズシテ母音變化ヲ成ス

49 боро́ться ハ被形動現在ニ於テ語尾 емый ノ代リニ имый ヲ有シテ бори́мый トナル、其他ハ正則的ニ變化ス

50. моло́ть ハ現在變化ニ於テ語幹ノ о ヲ е ニ變シ正則的ニ變化ス

51.—57 第一式硬變化ニ於ケル例外

51 вя́нуть ハ過去ニ於テ二樣ノ式ヲ有ス、一ハ ну ヲ保持シ、一ハ之ヲ除去ス、除去セシ場合ニモ лъ ヲ語尾トス、如何トナレバ母音ニ ъ ヲ附ス能ハズ (вя-ъ ノ代リニ вя-лъ トナル) 被形動過去ニ於テハ л ヲ挿入ス

52. льнуть ハ中動詞ニシテ過去ニ於テハ ну ヲ保持ス、如何トナレバ льъ 或ハ льл トナル發音スル能ハズ

53. то́нуть ハ中動詞ニシテ過去ニ於テハ ну ヲ保持ス、如何トナレバ н ハ此語ノ語根ニ屬ス (例ハ то́ня ハ「投網」或ハ「網打場」ノ意義)

54. ве́ргнуть ハ前置詞ト綴合セザレバ使用セラレズ、過去ニ於テハ二式ヲ有ス、正則的ナレバ ну ヲ除去シ、不規則ナレバ之ヲ保持ス、被形動過去ニ於テモ二式ヲ有シ вергнутый トモ верженный トモ成ル

55 обману́ть ハ一回體動詞ニシテ過去ニ於テハ ну ヲ保持ス、如何トナレバ н ハ此語ノ語根ニ屬ス (обма́нъ ハ詐欺ノ意)

56.—57. 此動詞ハ中動詞ニモ非ス一回體ニモ非ス（自動詞ニシテ不完成體ナリ）、過去ニ於テハ ну ヲ保持ス

58.—61. 喉音變化ノ例外

58. лгать ハ現在ノ單數第一人稱ト複數第三人稱ニ於テ г ヲ жᴛ ニ變更セズ

59. двигать ハ二樣ニ變化ス即チ母音變化ト喉音變化ナリ、被形動現在ハ不規則的ニシテ емый タルベキ代リニ имый ト成ル（即チ движимый）

60. ткать ハ現在ニ於テ к ヲ保持シ之ヲ ч ニ變更セズ

61. ѣхать ハ х ヲ д ニ變ズ且ツ命令法ニ於テハ他ノ動詞ヨリ生ゼシモノヲ使用ス

62.—70. 第二式軟變化ノ例外

62.—64. 此動詞ノ命令法ハ半母音 й ノ代リニ母音 и ニ力點ヲ打チタルヲ語尾トス

65 стóить ノ形動詞現在ハ第一式變化ヲ成シテ ящій ノ代リニ ующій ト成ル

66. лить ハ現在ニ於テ母音 и ヲ半子音 ь ニ變シ、命令法ニ於テハ е ニ變シテ第一式變化ヲ成ス

67. гнить ハ現在ニ於テ母音 и ヲ і ニ變シ第一式變化ヲ成ス

68. брить ハ現在ニ於テ и ヲ ѣ ニ變シ第一式變化ヲ成ス

69. мы́слить ハ現在單數第一人稱ニ於テ正則的ノ外ニ不規則的變化式ヲ有ス即チ с ヲ ш ニ變更ス

70. изостри́ть ハ未來ノ單數第一人稱及被形動過去ニ於テ ст ヲ щ ニ變ス但シ前置詞 изъ ト共ニセザル остри́ть（鋭クス、滑稽ヲ語ル）丼ニ他ノ前置詞ト共ニスル остри́ть ハ正則的ニ變化ス例ハ заостри́ть ハ（鋭クス、滑稽ヲ語リ始ム）заострю, заострённый ト成ル

71.—78. 上顎音變化ノ例外

71. бѣжать ハ單數ノ第一人稱ト複數ノ第三人稱ニ於テ жᴛ ヲ г ニ變シ且ツ複數第三人稱ハ第一式變化ヲ成シ атъ ノ代リニ утъ ヲ語尾トシ бѣгутъ ト成ル、然レ𪜈副動詞現在ハ不規則的ニシテ га ノ代リニ жа ヲ語尾トス

72.—78. 此動詞ハ第一式變化ヲ成ス、且又 жать（刈ル）ハ н ヲ挿入シ、жать（揉ム）ハ м ヲ挿入シ、чать（前置詞ト綴合セザレバ使用セラレズ）ハ н ヲ挿入シ、жить ハ в ヲ挿入ス、почить ハ и ヲ і ニ變ス、шить ハ и ヲ ь ニ變ジ、命令法ニ於テハ之ヲ е ニ變ス

79—94 唇音變化ノ例外

79. колеба́ть ハ現在ニ於テ二樣ニ變化シ母音變化ト唇音變化ヲ成ス被形動過去ハ анный ノ代リニ ленный ヲ語尾トス

80. зыбúться ハ現在ニ於テ正則的ニ第二式ニモ依リ又不規則的ニ第一式ニ依テモ變化ス、而シテ被形動現在ハ第一式ニ從ヒ зыблемый ト成ル

81. шибúть ハ前置詞ト綴合シテノミ使用セラル、而シテ л ヲ挿入セズシテ第一式變化ヲ成ス、過去ニ於テハ母音 и ヲ除去シ ъ ノミヲ語尾トス然レモ形動詞過去ニ於テハ母音 и ヲ保持ス

82. бить ハ л ヲ挿入セズ、現在ニ於テハ и ヲ ь ニ變シ命令法ニ於テハ之ヲ е ニ變ジ、第一式變化ヲ成ス

83. звать ハ л ヲ挿入セズシテ語根ニ о ヲ挿入ス

84. рвать ハ л ヲ挿入セズ

85. вить ハ л ヲ挿入セズ、現在ニ於テハ и ヲ ь ニ變シ、命令法ニ於テハ之ヲ е ニ變シ第一式變化ヲ成ス

86. благословúть ハ被形動過去ニ於テ л ヲ挿入セズ

87. умертвúть ハ未來ノ單數第一人稱及被形動過去ニ於テ т ヲ щ ニ變ス

88. ревéть ハ л ヲ挿入セズシテ第一式變化ニ從フ

89—90. 此動詞ハ л ヲ挿入セズ

91. спать ハ第二式變化ヲ成シ現在單數第一人稱ニ於テノミ л ヲ挿入ス

92. сы́пать 命令法ニ於テ挿入ノ л ヲ除去ス

93. вопúть ハ л ヲ挿入セズ、母音 и ヲ і ニ變シ第一式變化ヲ成ス

94. пúть ハ л ヲ挿入セズ、現在ニ於テ и ヲ ь ニ變シ、命令法ニ於テハ之ヲ е ニ變シ第一式變化ニ從フ、

95—118. 齒音變化ノ例外

95—96. дать ハ完成體動詞ナリ、未來ノ單數ハ特種ノ變化ヲ成シ、複數ノ

	不定法	現在	形動詞現在	命令法
1	вез-ти́ 運ブ	вез-у́, ёшь ýть	ýщій	и́
2	грыз-ть 噛ム	грыз-у́, ёшь ýть	ýщій	и́
3	лѣз-ть 攀ヅ	лѣз-у, ешь уть	ущій	ь
4	нес-ти́ 擔フ、携ン	нес-	ýщій	и́
5	полз-ти́ 這フ	полз-		
6	пас-ти́ 牧ス	пас-		
	спас-ти́ 救フ	спас-	無シ (完成體)	
7	тряс-ти́ 搖ル	тряс-		
8	ид-ти́ (ит-ти́) 行ク	ид-		
9	пой-ти́ 通行ス	пойд-	無シ	
10	пой-ти́ 行キ始ム	пойд-	無シ	под-и́, и́те

ý, ёшь ýть

第一人稱ト第二人稱ハ第二式變化ノ語尾、第三人稱ハ第一式變化ノ語尾ヲ受ク、命令法ハ不規則的ニシテ д ヲ除去ス、被形動過去ハ二個ノ н ヲ有ス、此動詞ハ多クノ前置詞ト綴合シテ使用セラル、時トシテハ全ク異リタル意義ヲ受クルニ至ル、例ハ создáть (創作ス、造ル)、此動詞ハ дать ノ如ク變化ス

97. ждать ハ а ヲ除去スレ𪜈 д ヲ ж ニ變ゼズ

98—99. 此動詞ハ被形動過去ノ語尾ヲ енный (ѣнный ニ非ズ) ト成シ且ツ其際 д ヲ ж ニ變ス

100. сосáть ハ с ヲ ш ニ變ゼズ

101. форси́ть ハ с ヲ ш ニ變ゼズ

102. стать ハ а ヲ除去セズシテ н ヲ挿入ス、此動詞ハ完成體ニシテ多クノ前置詞ト綴合シテ使用セラル且ツ時トシテハ全ク異リタル意義ヲ受クルニ至ル、例ハ перестать (已ム)

103. чтить ハ т ヲ ч ニ變セズ且ツ現在複數第三人稱ニ於テ ятъ ノ代リニ утъ ヲ語尾トス

104 хотѣ́ть ハ現在ノ單數ニ於テノミ т ヲ ч ニ變シ、且ツ單數ハ第一式變化、複數ハ第二式變化ヲ成ス

105 вертѣ́ть ハ被形動過去ニ於テ т ヲ ч ニ變シ且ツ енный (ѣнный ニ非ズ) ヲ語尾トス

106—118. 此動詞中、最初ノ四個ハ第一式變化ヲ成シ、餘ノ九個ハ第二式變化ヲ成シ、皆ナ т ヲ щ ニ變ズ、而シテ第二式變化ニ屬スル九個ハ前置詞ト綴合シテ以テ使用セラル、其他之ニ類スル若干ノ動詞 (即チ тить ヲ語尾トシテ т ヲ щ ニ變ズル) 存スレ𪜈使用ハ至テ稀レナリ

語尾ニ包有スル動詞

過去	形動詞過去	被形動詞過去	多回體ノ語尾 (前置詞ト綴合ノ)
вё-зъ, вез-ло́, ла́, ли́	вёз-	при-ве́з-енный 運ヒ來ラレタル	вози́ть ヨリ生ズ
грыз-ъ, ло, ла	гры́з-	за-гры́з-енный 嚙付レタル	за-грыз-áть
лѣз-ъ, ло, ла	лѣ́з-	中動詞	пере-лѣз-áть 這ヒ越ス
нёс-ъ, нес-ло́, ла́	нёс-	при-не́с-енный 持來ラレタル	носи́ть ヨリ生ズ
полз-	по́лз-	中動詞	вы-полз- 這ヒ出ツ
пас- ъ, ло́, ла́	па́с- шій	(пас-ённый)	(пас- áть
спас-	спа́с-	спас-ённый 救ハレタル	спас-
тряс-	тря́с-	по-тряс-ённый 搖ラレ終リタル	вы-тряс- 振リ出ス
шёл-ъ, *ш*-ло, *ш*-ла, *ш*-ли	*шёд*-	中動詞	ходи́ть
про- *шёлъ*, *шло́*, *шла́*	про- *шёд*-	про́йд-енный	проходи́ть ヨリ生ズ
по-	по*шёд*-	中動詞	походи́ть

	不定法	現在		形動詞現在	命令法
11	грес-ти́ 漕ゲ、掻キ集ム	греб-у́, ёшь...у́ть		у́щій	и́
12	скрес-ть 削	скреб-у́, ёшь...утъ		у́щій	и́
13	блюс-ти́ 遵守ス	блюд-	у́, ёшь...у́тъ	無シ	й
14	(бос-ти́) 突刺ス	бод-		無シ	
	про-бос-ти́ 刺シ通ス	пробод-		無シ	
15	брес-ти́ 靜ニ歩ム	бред-		у́щій	
16	вес-ти́ 導ク	вед-			
17	гряс-ти́ 來ル、到ル	гряд-			
18	клас-ть 置ク	клад-		使用セズ	
19	крас-ть 盜ム	крáд-у, ешь...утъ		(ущій)	
20	пас-ть 落ツ (§ 109, II, 2)	пад-	у́, ёшь...у́тъ	無シ	
	упáс-ть 倒ル	упад-		無シ	
21	пряс-ть 紡ク	пряд-		(у́щій)	
22	сѣс-ть (§ 109, II, 2) 坐ス、腰掛ク	ся́д-у, ешь...утъ		無シ	сяд-ь, ьте
23	ѣс-ть 食フ	ѣмь, ѣшь, ѣсть, ѣд-и́мъ,-и́те, -я́тъ		使用セズ	шь-ь, ьте
24	гнес-ти́ 窘ム、壓搾ス	гнет-	у́, ёшь...у́тъ	ущій	й
25	мес-ти́ 掃ク	мет-			
26	плес-ти́ 編ム	плет-			
27	рос-ти́ (рас-ти́) 生長ス	рост-			
28	(рѣс-ти́)	(рѣт)-		無シ	無シ
	пріобрѣс-ти́ 得ル、享ク	пріобрѣт-		無シ	й
29	(свѣс-ти́)	(свѣт)-	ётъ	無シ	無シ
	разсвѣс-ти́ 夜明ケル	разсвѣт-		無シ	無シ
30	цвѣс-ти́ 咲ク	цвѣт-	у́, ёшь...у́тъ	у́щій	и́
31	(чес-ть)	чт-		у́щій	無シ
	прочéс-ть 通讀ス	прочт-		無シ	и́
32	кляс-ть 詛フ	клян-у́, ёшь...у́ть		у́щій	и́

過去	形動詞過去	被形動詞過去	多回體ノ語尾（前置詞ト結合ノ）
грёб-ъ, греб-ло́, ла́	шій	с-гре́б-енный 掻キ集メラレタル	с-греб-а́ть
скрёб-ъ, скреб-ло́, ла́	шій	со-скре́б-енный 削リ去ラレタル	со-скреб-а́ть
блю-ль, ло́, ла́	блю́д-шій	со-блюд-ённый 遵奉サレタル	со-блюд-а́ть
無シ	無シ	(бод-ённый)	(бод-а́ть)
無シ	無シ	прободённый 刺シ貫カレタル	прободать
брё-ль, бре-ло́, ла́	брёд-шій	無シ	無シ
вё-ль, ве-ло́, ве-ла́	вёд-шій	при-ве́д-енный 伴ヒ来ラレタル	води́ть ヨリ生ズ
使用セズ	使用セズ	無シ	無シ
кла́-	кла́-вшій	положи́ть ヨリ生ズ § 109, III	рас-кла́д-ывать ヨリ生ズ
кра́-	кра́-вшій	у-кра́д-енный 盗ミ去ラレタル	с-кра́д-ывать 盗ミ隠ス
па́-	па́-вшій 及 па́д-шій	無シ	пад-а́ть
упа́-	упа́-вшій	無シ	упад-а́ть
пря́-	пря́д-шій	使用セズ	
сѣ-	сѣ-вшій	無シ	сади́ться ヨリ生ズ
ѣ-	ѣ-вшій	съ-е́д-енный 喰ヒ盡サレタル	съ-ѣд-а́ть
使用セズ	使用セズ	у-гнет-ённый 窘苦サレタル	у-гнет-а́ть
мё-ль, ме-ло́, ме-ла́	мёт-	с-ме́т-енный 掃キ去ラレタル	с-мет а́ть
плё-ль, пле-ло́, пле-ла́	плёт-	с-пле́т-енный 編ミ組マレタル	с-плет-а́ть
рос-ъ, ло́, ла́	ро́с-	無シ	вы-рост-а́ть 大ニ生長ス
(рѣ-ль, ло́, ла́)	(рѣт)-	(рѣт-енный)	(рѣт-ать)
пріобрѣ-ль, ло́, ла́	пріобрѣт-	пріобрѣт-енный 得ラレタル	пріобрѣт-а́ть
(свѣ-ло́)	無シ		(свѣт-а́ть)
разсвѣ-ло́	無シ	無シ	разсвѣт-а́ть
цвѣ-ль, цвѣ-ло́, ла́	цвѣт-шій	無シ	раз-цвѣт-а́ть 満開ス
(чё-ль, ч-ло, ч-ла)	使用セズ	(чт-енный)	чит-а́ть ヨリ生ス
прочё-ль, проч-ло́, ла́	прочита́ть ヨリ生ズ	(прочт-ённый) 通讀サレタル	прочит-а́ть ヨリ生ス
кля-ль, ло́, ла́	кля́-вшій	прб-кля-тый 詛ハレタル	про-клин-а́ть 詛フ

1-10 不定法ノ語尾 ти 或ハ ть ノ前ニ根原ノ子音ヲ保持スル動詞ナリ此動詞中ノ最初ノ七個ハ зти 及 сти ヲ語尾トシ語幹ノ子音 з ト с ヲ有ス、此子音ハ常ニ變化ノ際保存セラル、而シテ此動詞ノ被形動過去ハ凡テ二子音ヲ語尾中ニ包有スル動詞ト同ジク、現在ヨリ生ジ且ツ енный ヲ語尾トス(本來ハ此種ノ動詞ハ一綴動詞ナル故ニ語尾ヲ тый トス爲スベキナレ共)、」動詞 пасти́ (6)(耕ス)ハ 動詞 пасть (20)(落ツ)ト異ナリテ、前置詞ト綴合スル時ハ ти́ ヲ語尾トシ且ツ語尾ニ力點ヲ打ツ例ハ спасти́ (救フ), припасти́ (蓄フ)、然ルニ動詞 пасть ハ前置詞ト綴合スルトモ常ニ ть ヲ語尾トス例ハ упа́сть (倒ル), отпа́сть (離レ落ツ)、

動詞 идти́ (8) ハ語幹ニ子音ヲ有ス、時トシテハ清調ノ爲メニ д ノ代リニ т ヲ用フ、即チ идти́ ノ代リニ итти́ ヲ、此動詞ノ過去ハ他ノ語幹ヨリ生シテ шёлъ ト成ル此語ニ前置詞ヲ綴合シテ自動詞ト成リタルモノハ正則的ニ過去ヨリ生ズ但シ л ヲ挿入シテ шёл-ший (шё-вший ノ代リニ) ト成ル

前置詞ト綴合スル時ハ此動詞ノ不定法ハ йти ト成ル即チ母音 и ハ半母音 й ニ變シ子音 д 或ハ т ハ全ク除去セラル、而シテ現在ニ於テハ йду ト成ル即チ母音 и ハ半母音 й ニ變ス、例ハ пройти (про-идти́ ノ代リニ), пройду́ (про-иду́ ノ代リニ); уйти ハ уйду (у-иду ノ代リニ), отойти́ ハ отойду́ (ото-иду ノ代ニ)、例外タルハ прийти́ ナリ此動詞ニ於テハ идти́ ハ其儘保存セラル、其代リニ前置詞 при ノ母音 и ハ全ク除去セラル即チ придти́ (при-идти́ ノ代リ), приду́ (при-иду́ ノ代リニ)、

動詞 пойти́ (10) ハ命令法ニ於テ語幹ノ半母音 й ヲ除去シテ поди́ (пой-ди ノ代リニ) ト成ル、此動詞ノ過去ハ談話ニ於テハ屢々命令法ノ意義ニ使用セラル例ハ Пошёлъ (поди́ ノ代リニ) вонъ! (出テ往ケ○此處ヲ去レ)

11-12 此二動詞ノ不定法ノ語尾 ти ノ前ニ存スル子音 с ハ清調ノ爲ニ語幹 б ノ代リニ使用セラル、而シテ此文字 б ハ變化ノ際ニ於テ保持セラル、動詞 грести́ ハ前置詞 по ト綴合シテ погреба́ть (埋葬ス) ト成ル時ハ不定法ニ於テ語幹子音 б ヲ保持シ且ツ挿入 с ヲ有ス即チ погре-бс-ти́ ト成ル、

13-23. 不定法ノ語尾 ти 及 ть ノ前ニ語幹子音 д ヲ有シテ清調ノ爲ニ此子音ヲ с ニ變ゼシ動詞即チ дти タルヘキ代リニ сти トナリシ語尾ヲ有スル動詞、

此動詞ニ於テハ語幹子音 д ヲ現在(例外ハ動詞 вѣсть ノミナリ)ト被形動過去ニ於テ保存ス、何トナレハ二個ノ子音ヲ語尾ニ包有スル動詞ノ被形動過去ハ現在ヨリ生スヘキ規則ナリ、而シテ直說法ノ過去ニ於テハ語幹子音 д ハ凡テ除去セラル、然レモ自動詞ノ形動過去ニ於テハ或ル動詞ハ之ヲ保存シ、或ル動詞ハ之ヲ除去ス、

其他注意ヲ要スベキモノハ次ノ如シ、бости́ (14) ハ前置詞ト綴合シテノミ使用セラル且ツ然ル場合ニモ未來ト被形動過去ノミヲ有シ、其他ノ變化ハ動詞 боля́ть ヨリ採用ス、пасть (20) ハ形動過去ニ於テ二式ヲ有シ各式相異リタル意義ヲ有ス、即チ па́вший ハ「落下シタル」ノ意義ナリ па́дший ハ道德的落下即チ「墮落シタル」ノ意義ナリ、然レモ前置詞ト綴合スル場合ニハ па́вший ノ式ノミヲ使用ス、例ハ упа́вший (倒レタル所ノ)、又 съ́сть (22) (完成體ナリ)ハ未來ニ於テ母音 ѣ ヲ母音 л ニ變ズ、

ѣсть (23) (ѣд-ть タルベキ代リニ) ハ現在ノ單數ニ於テ語幹 д ヲ除去シ通常使用セザル式ヲ有ス (動詞 дать § 105, 95 參照)即チ ѣ-мъ, ѣ-шь, ѣ-стъ ト成ル然レモ複數ニ於テハ語幹子音 д ヲ保持シテ第二式變化ニ從フ (二子音ヲ語尾ニ包有スル諸動詞中ニ於テ此動詞ハ唯一ノ動詞ナリ)、被形動現在ト過去ニ於テハ語幹子音 д ヲ保存ス即チ ѣд-енный, ѣдо́-мый.

24-31. 不定法ノ語尾 ти 及 ть ノ前ニ語幹子音 т ヲ有スル動詞ハ此子音ヲ清調ノ爲ニ с ニ變ズ即チ сти ノ代リニ сти ヲ語尾トス (但シ расти́ ハ特例ヲ成ス)、

此種ノ動詞ノ語幹子音 т ハ現在ト自動被動形動詞ノ過去ニ於テ保持セラル、而シテ直接法ノ過去ニ於テハ之ヲ除去ス、

其外動詞 рѣсти (28), свѣсти́ (29), честь (31) ハ前置詞ト綴合セザレバ使用スルヿナシ、且ツ свѣсти́ ハ無人稱的ニノミ使用セラル、即チ單數ノ第三人稱ノミヲ用フ、цвѣсти́ 及 процвѣсти (繁昌ス)ノ過去ハ發音 цвёлъ, процвёлъ ト成ル

расти́ (27) ハ時トシテ расти́ トモ書ス、此動詞ハ特例ヲ爲ス即チ不定法ニ於テ語幹子音 т ハ清調ノ爲ニ全ク除去セラル即チ рос*т*-ти クルベキ代リニ рос-ти́ ト成ル、語幹子音ハ直接法現在ノミニ於テ保持セラレ、直接法ノ過去ト形動詞ニ於テハ之ヲ除去ス、

кля́сть (32) 此動詞ノ語幹子音 н ハ不定法ノ語尾 ть ノ前ニ清調ノ爲ニ с ニ變ズ即チ клян-ть ノ代リニ клас-ть ト成ル、語幹子音 н ハ現在ニ於テノミ保持セラレ、被形動過去ハ тый (енный ニ非ズシテ)ヲ語尾トス且ツ直接法過去ヨリ生ズ.

§ 107. 語尾 чь (即チ ГТЬ

	不定法	現在	形動詞現在	命令法
1	бере́чь 衛ル	бере- ж- } -гу́, жёшь, жёть. гу́ть	гу́щій	ги́
2	жечь 焼ク			
3	лечь 臥ス (§ 109,	ля́-гу, жешь, жеть..гуть		лягъ
4	мочь 能クス (II, 2)	мо-гу́, жешь, жеть..гуть		無シ
5	стере́чь 警固ス	стере-		
6	стричь 剪ム	стри- } гу́, жёшь, жёть,		ги́
7	(прячь запря́чь 駕ス	(пря)- } жёмъ, жёте, гу́ть запря-	無シ 無シ (完成體)	
8	влечь 引入ル。導ク	вле-ку́, чёшь чёть..ку́ть	ку́щій	ки́
9	воло́чь 曳摺ル	воло-ку́, чешь четь..ку́ть		
10	печь 煎ル	пе-		
11	(речь)(=рещи́) изре́чь 發言ス	ре- изре- } ку́, чёшь, чёть, чёмъ, чёте, ку́ть	無シ 無シ	
12	сѣчь 切ル。打ツ	сѣ-		
13	течь 流ル。漏ル	те-		
14	толо́чь 舂ツク	то,т-		

語尾 чь ヲ有スル動詞ハ僅カ十四ナリ、而シテ其中、七ノ動詞ノ語尾 чь ハ гть ヲ簡略セシモノニシテ、餘ノ七動詞ノ語尾 чь ハ кть ヲ簡略セシモノナリ、即チ此動詞ハ凡テ二個ノ子音ヲ語尾ノ内ニ含有シテ而シテ不定法ノ語尾 ть ノ前ニ喉音 г 或ハ к ヲ有スルガ故ニ皆ナ喉音變化ニ屬ス (§ 104, IV)

此動詞ノ變化ノ特異ハ次ノ如シ(甲)現在單數ノ第一人稱ト複數ノ第三人稱ニ於テ喉音 г 及 к ハ對應ノ上顎音ニ轉ゼズシテ其儘保持セラル、(乙)喉音 г 或ハ к ヲ保持スル動詞ノ被形動詞現在ハ о́мый ヲ語尾トス例ハ печь ハ пек-о́мый, влечь ハ влек-о́мый (§ 94, II, 1) (丙) 此動詞ノ被形動過去ハ直說法ノ過去ヨリ生ゼズシテ現在ノ第二人稱ヨリ生ジ、凡テ(一綴モ多綴モ) енный ヲ語尾トス

3. лечь ノ命令法ハ特別ニシテ ъ ヲ語尾トシ лягъ, ля́гте ト成ル

§ 108. 不完成體 (§ 88, I ノ補遺)

運動ヲ表スル或ル動詞ハ二種ノ不完成體ヲ有スルコアリ不定的 (неопредѣлённый) ト定的 (опредѣлённый) 是レナリ

1. 不定的 (неопредѣлённый видъ) 不完成體 (第一) 往復ノ運動或ハ種々

及 кть）ヲ有スル動詞

過去	形動詞過去	被形動過去	多回體ハ語尾
берёг-ъ, ло́, ла́		с-береж-енный 保全サレタル	с-берег-а́ть
жёг-ъ, жг-ло, жг-ла		со-жж-ённый 燒盡サレタル	со-жиг-а́ть
лёг-ъ, лег-ло́, ла́, ли́		無シ（中動詞）	
мог-ъ, мог-ло́, ла́, ли́		無シ（中動詞）	недо-мог-а́ть
стерёг-ъ, стерег-ло́, ла́	шій	предо-стереж-енный 警戒サレタル	предо-стерег-а́ть
стри́г-ъ, ло, ла		о-стри́ж-енный 剪ミ終リタル	о-стриг-а́ть
(пряг-) / запря́г- } ъ, ло́, ла́		(пря́ж-енный) / запря́ж-енный	(пряг-а́ть) / запраяг-а́ть
влёк-ъ, влек-ло́, ла́		при-влеч-ённый 招致サレタル	при-влек-а́ть
воло́к-ъ, ло́, ла́		при-воло́ч-енный 曳キ附ケラレタル	волочи́ть ери
пёк-ъ, пек-ло́, ла́		вы́-печ-енный 焼キ揚ケラレタル	вы-пек-а́ть
(рёк-)	шій	(реч-ённый)	(рек-а́ть)
изрёк-ъ, изрек-ло́, ла́		изреч-ённый 發言サレタル	изрек-а́ть
сѣ́к-ъ, ло, ла		вы́-сѣч-енный 切リ出サレタル	вы-сѣк-а́ть
тёк-ъ, тек-ло́, ла́		無シ（中動詞）	вы-тек-а́ть
доло́к-ъ, толк-ло́, ла́		ис-толч-ённый 搗キコナサレタル	無シ

ノ方向ニ於ケル運動ヲ表示ス例ハ Сего́дня я *ходи́лъ* къ бра́ту.（今日我レハ兄弟ノ許ニ行ケリ）ト云フ文句ノ ходилъ ハ往キテ復リシヲ示ス、Вчера́ я *пое́здилъ* въ дере́вню.（昨日我レハ村ニ乘行ケリ）ト云フ文句ノ *пое́здилъ* ハ往復ノ乘行ヲ示ス、Когда́ я *пое́здилъ* въ дере́вню, я встре́тилъ ва́шихъ бра́та и сестру́（我レハ村ニ乘行キシ際、貴君ノ兄ト妹ヲ見受ケタリ）ト云フ文句ニ於テハ兄ト妹ヲ見受ケシハ往キ途ナルヤ或ハ歸リ途ナルヤ判然セズ、Гдѣ бра́тъ?-Онъ *хо́дитъ* въ саду́.（彼レハ園内ヲ散歩ス）ト云フ文句ノ *ходитъ* ハ種々ノ方向ヲ歩行スルヲ示ス、Смотри́те: пти́ца *лета́етъ* надъ о́зеромъ（見ヨ、鳥ハ湖ノ上ヲ飛ビ居ル）. ノ *лета́етъ* ハ同シク種々ノ方向ヲ成シテ飛行ヲ示ス、(第二)不定的不完成體ハ事物ノ能力ヲ表示ス 例ハ Человѣкъ *хо́дитъ*, пти́ца *лета́етъ*, ры́ба *пла́ваетъ*（人ハ歩行ス、鳥ハ飛ブ、魚ハ泳グ）. 即チ歩行ヲ能クス、泳グヿヲ能クスヲ示ス、Мой мла́дшій ребёнокъ уже *бѣга́етъ*（我ガ末ノ小兒ハチヨロ々々歩ム）. 即チチヨロ々々歩ムヲ得ルヲ示ス、(第三)不定的不完成體ハ運動ニ關スル習慣或ハ恒例ヲ表ス、Я ежедне́вно *хожу́* въ учи́лище.（我レハ每日學校ヘ行ク）、Онъ *хо́дитъ* о́чень ско́ро（彼レハ甚タ速ニ歩行ス）. 即チ歩行ノ速カナル習慣ヲ有スルヲ示ス

2. 定的 (опредѣлённый видъ) 不完成體ハ一定ノ方向ヲ指シタル運動ヲ表示ス且ツ其運行際中ヲ示ス、例ハ Куда́ вы *идёте*?-Я *иду́* къ бра́ту (貴君ハ何處ヘ赴ク所ナルヤ、我レハ兄弟ノ許ニ行ク所ナリ)、此動詞 *идёте* ト *иду́* ハ一定ノ方向ヲ指定ス、Когда́ я *ѣхалъ* въ дере́вню, я встрѣ́тилъ ва́шего бра́та, а когда́ *ѣхалъ* изъ дере́вни, встрѣ́тилъ ва́шу сестру́. 此文句ノ ѣхать ハ一定ノ途ヲ明示ス、Смотри́те : пти́ца *лети́тъ* надъ о́зеромъ. 此動詞 *лети́тъ* ハ一定ノ方向ニ飛ビ居ルヲ示ス

3. 運動ヲ表スル動詞ノ定的ト不定的トノ差異ハ其語根ニ於テ之ヲ識別スルヲ得ヘシ、概シテ不定的ハ定的ニ比スレバ語根ノ文字ヲ多ク包有ス、然レ𪜈此種ノ動詞(即チ定的ト不定的ニ類別セラル、動詞)ハ僅少ニシテ大略次表ノ如シ

不定的	定的	不定的	定的
броди́ть	брести́ 逍遙ス	ла́зить	лѣ́зть 攀ツ
бѣгать	бѣ́жа́ть 奔走ス、走ル	*лета́ть*	лет́ѣть 飛フ
вали́ть	вали́ть 轉動セシム	*носи́ть*	нести́ 携フ、擔フ
води́ть	вести́ 伴フ、導ク	*пла́вать*	плыть 泳ク、航海ス
вози́ть	везти́ 運搬ス	по́лзать	ползти́ 這フ
ворочать	воротить 戻ス	таска́ть	тащи́ть 拽ク
гоня́ть	гнать 逐フ	*ходи́ть*	идти́ 行ク
ката́ть	кати́ть 轉ニカス	*ѣздить*	ѣхать 乘行ク

備考 進動ヲ表スル動詞ト同シク、諸種ノ動詞ハ不完成體ヲ以テ「動作シ得ヘキ能力」或ハ動作ノ「慣熟」或ハ「動作ノ行ハル、際中」ヲ表示ス、然レ𪜈進動ヲ表スル動詞ヲ除クノ外、此種ノ動詞ハ其動作ノ定的ト不定的ヲ表スルニ際シテ特別ノ語尾(形式)ヲ有セズ、此故ニ斯カル動詞ノ意義ヲ探ラントスルニハ前後ノ文脈ニ據ルヨリ外ニ詮術ナシ、例ハ Онъ, говоря́тъ, уже́ *чита́етъ* и *пи́шетъ* (人ハ云フ、彼ハ既ニ讀ミ書キヲ能クスト). Онъ сейча́съ *чита́етъ* или *пи́шетъ* (今彼ハ讀ミ居ル或ハ書キ居ル). 第一例ニ於テハ動詞 чита́етъ 及 пи́шетъ ハ讀ムコト書クコトヲ能クスノ意ニシテ不定體ナリ、而シテ第二例ニ於ケル同一ノ動詞ハ動作ノ現ニ行ハレツ、アルヲ表シテ定體ナリ、Па́льма *растётъ* ме́дленно, а бамбу́къ ско́ро (棕櫚ハ遲緩ニ生長シ、竹ハ急速ニ生長ス). Въ моёмъ саду́ *расту́тъ* па́льма и бамбу́къ (我ガ庭園ニ於テ棕櫚ト竹ハ生長シ在ル). 第一例ノ *растётъ* ハ不定體ナリ、如何トナレバ能力ヲ表ス、第二例ノ *растутъ* ハ定體ナリ、如何トナレバ動作ノ現狀ヲ表ス

4. 動詞ノ原意ヲ轉用スル際ニハ概シテ定的ヲ用フルヲ常トス例ハ дождь идётъ (雨ガ降ル) ト云フテ хо́дитъ ト云ハズ снѣгъ идётъ (雪ガ降ル), градъ идётъ (霰ガ降ル), часы́ иду́тъ (時計ガ進行ス), вести́ жизнь (生活ヲ送ル), вести́ разгово́ръ (談話ヲ成ス), вести́ войну́ (戰爭ヲ交フ), вре́мя бѣ́жи́тъ (時ハ急進ス), вре́мя лети́тъ (時ハ駛ス) 等ニシテ (此例中ノ動作ハ一ノ方向

ヲ指シテ行ハル、ヲ表ス)唯、或ル動詞ニ限リテ原意轉用ノ際ニ不定的ヲ使用スルコアリ例ハ носи́ть оде́жду (衣服ヲ着用ス), носи́ть очки́ (眼鏡ヲ掛ク), ходи́ть за больны́ми (病人ヲ看護ス)、(此例ノ動作ハ諸種ノ方向ニ行ハル、ヲ表ス、例ハ носи́ть оде́жду ハ衣服ヲ着用ノ意ニシテ着シ或ハ脱グノ兩意ヲ有ス)

5. 進動ヲ表スル動詞ハ前置詞ト綴合スレバ定的及不定的ノ性質ヲ失ヒ且ツ不定的動詞ハ通常ノ不完成體ト成リ、定的動詞ハ完成體ト成ル例ハ

不完成體	完成體	不完成體	完成體
*в*ходи́ть	*в*ойти́ 入ル	*пере*ходи́ть	*пере*йти́ 移ル
*вы*ходи́ть	*вы*йти 出ツ	*под*ходи́ть	*под*ойти́ 近ツク
*до*ходи́ть	*до*йти́ 到達ス	*при*ходи́ть	*при*йти́ 來ル
*за*ходи́ть	*за*йти́ 立寄ル	*про*ходи́ть	*про*йти́ 通過ス
*на*ходи́ть	*на*йти́ 見出ス	*у*ходи́ть	*у*йти́ 去ル

次ニ記スル三則ハ此通則ノ例外ヲ爲ス、

6. 既ニ述ベシ如ク、不定體動詞ハ前置詞ト綴合スレバ、不完成體ト成ル、此故ニ進動ヲ表スル動詞ハ多回體ヲ要セズ(§ 89, III, 2)、然レ𪜈次ニ記スル五個ノ動詞ハ前置詞ト綴合シテ以テ不完成體ヲ作ラン爲ニ多回體ノ語尾ヲ受ク(多回體語尾ノ力點ハ必ズ母音 á ニ打ツヲ通則トス)

不定體	多回體語尾	例ハ	
бе́гать	бе́га́ть	*у*бе́га́ть 逃走ス	*из*бе́га́ть 避ク
ла́зить	ла́за́ть	*вы*ла́за́ть 攀上ル	*за*ла́за́ть 這込ム
пла́вать	пла́ва́ть	*пере*пла́ва́ть 船ニテ渡ル	*от*пла́ва́ть 航去ス
по́лзать	по́лза́ть	*вы*по́лза́ть 這出ツ	*от*по́лза́ть 這去ル
е́здить	е́зжа́ть	*при*е́зжа́ть 乘來ル	*у*е́зжа́ть 乘去ル

7. 不定體動詞ハ前置詞 по (「少シ」ノ意ヲ有スル), съ (動作ノ終結ヲ表スル), вы́ (力點ヲ有シテ而シテ動作ノ豐富、充分ナルヲ表スル)ト綴合スル時ハ不定ノ性質ヲ保有ス即諸種ノ方向ニ進動スルヲ表シ且ツ又完成體トモ成ル、然レ𪜈此前置詞ニ他ノ意義ヲ附シテ不定體動詞ニ綴合スル時ハ其不定體動詞ハ不定ノ性質ヲ失ヒテ完成體ト成ル、例ハ

完成不定體	*по*ходи́ть 少シ步行ス	*по*носи́ть 少シ擔フ	*по*вводи́ть 少シ伴フ
不完成體	*по*ходи́ть 似ル	*по*носи́ть 罵ル	無シ
完成不定體	*с*ходи́ть 往復ス	*с*носи́ть 持チ往キ復ヘル	*с*води́ть 伴ヒ往復ス
不完成體	*с*ходи́ть 下タル	*с*носи́ть 特チ下タル	*с*води́ть 伴ヒ下ル
完成不定體	*вы́*ходить 行キ廻ハル	*вы́*носить 多ク擔ス	*вы́*водить 伴ヒ廻ハル
不完成體	*вы*ходи́ть 出ル	*вы*носи́ть 持チ出ル	*вы*водить 伴ヒ出ル

斯ノ如ク動詞例ハ походи́ть ハ「少シク步行ス」ノ意ヲ表スル時ハ諸方向ニ進動スルヲ表シテ而シテ完成體ト成ル、即チ похожу́ ハ未來ト成ル、若シ此動詞カ他ノ意義ヲ有スル時ハ不完成體ト成ル即チ похо́жу ハ現在ト成ル

8. 定體動詞ハ前置詞 по (動作ノ開始ヲ表スル)ト綴合スレバ定的性質ヲ保有ス即チ一定ノ方向ノミヲ指ス所ノ進動ノ始マリヲ表示ス、例ハ

完成定體	過去	未來	完成定體	過去	未來
побѣжа́ть 駈ケル	*побѣжа́лъ*,	*побѣгу́*	*полете́ть* 飛ブ	*полете́лъ*,	*полечу́*
повести́ 伴フ	*повёлъ*.	*поведу́*	*пойти́* 行ク	*пошёлъ*,	*пойду́*
повезти́ 運ブ	*повёзъ*,	*повезу́*	*пое́хать* 乗行ク	*пое́халъ*,	*пое́ду*

§ 109. 完成體 (§ 89, II ノ補遺)

完成體ハ動作ノ完結、成就セシヲ表シ且ツ或ハ動作ノ始メ或ハ動作ノ終リヲ表示ス(但シ動作ノ持續ニ關係セズシテ)、故ニ之ヲ始發體ト結了體ニ小別ス

I 始發體 (начина́тельный видъ) ハ根元的語尾ヲ有スル不完成體動詞ヨリ生シテ而シテ二種ノ方法ヲ以テ組成セラル

1. 始發ヲ表スル完成體動詞 стать (カ、ル), нача́ть (始ム), приня́ться (着手ス), пусти́ться (カ、ル)等ヲ併用シテ、例ハ Онъ *сталъ* чита́ть, *на́чалъ* писа́ть, *принялся* занима́ться, *пусти́лся* бѣжа́ть

此等ノ動詞ハ動作者自身ノ發意ヲ表スル故ニ、凡テ活動力ヲ有スル者ノ動作ノミニ關係ヲ有ス、但シ時トシテハ無生物ヲ擬人視シテ之ヲ使用スルコトアリ、例ハ Ста́ло у́же хо́лодно (既ニ寒クナレリ). У него́ уже́ сталъ игра́ть румя́нецъ на лицѣ (既ニ彼ノ顔ニ赤ミハ現ハレ始メタリ).

2. 進動ヲ表スル不完成體動詞ニ前置詞 за ト по ヲ綴合シテ

前置詞 за ハ一ケ所ヨリ發始シテ諸方面ニ延長スル事物ノ發動ヲ表ス、而シテ其綴合シタル動詞ニ無意識動作ノ性質ヲ附ス、(故ニ стать 及 нача́ть 等トハ反對ニシテ此等ハ有意識動作ノ性質ヲ含ム)、例ハ *забѣга́ть* (馳セカ、ル), *заходи́ть* (歩ミカ、ル), *закрича́ть* (叫ビカ、ル), *запла́кать* (泣キ出ス), *захоте́ть* (欲シカ、ル), *запа́хнуть* (香ヒ始ム). У него уже *заигра́лъ* румя́нецъ на лицѣ (彼ノ顔ニハ赤ミハ現ハレカケタリ). Я услыха́лъ э́то, и моё се́рдце *запры́гало* отъ ра́дости (我レハ之ヲ聞テ我ガ心ハ思ハズ知ラズ喜ニ由テ動搖シ始メタリ)

前置詞 по ハ一ケ所ニ行ハル、進動ノ發始ヲ表シテ殊ニ定體動詞ト綴合シテ使用セラル (§ 108, 8)

II. 結了體 (оконча́тельный видъ) 1. 前置詞ト綴合シテ根元的(多回體ニ非ス)語尾ヲ有スル動詞ハ凡テ結了體ニ屬ス、但シ次表ニ記スルハ例外ナリ

(甲) 不定的進動ヲ表スル動詞ハ前置詞ト綴合スレハ概シテ不完成體動詞ト成ル (§ 108, 5)

(乙) 根元的語尾ヲ有スル或ル動詞ハ前置詞ト綴合スレハ不完成體動詞ト成ル、殊ニ屢々使用セラル、此種ノ動詞ハ次表ノ如シ

безде́льничать 何モ爲サズ居ル	*по́мнить* 記憶ス	*прови́дѣть* 洞見ス
безпоко́иться 心配ス	*предви́дѣть* 先見ス	*содержа́ть* 給養ス。包有ス
безче́стить 名譽ヲ汚ス	*предстоя́ть* 目前ニ立ツ	*содѣ́йствовать* 助勢ス
завѣ́сить 係ル。依ル	*предчу́вствовать* 預感ス	*сожале́ть* 惜ム
ненави́дѣть 憎ム	*преслѣ́довать* 窘逐ス	*состоя́ть* 成立ス

отстоя́ть 遠隔ス　　*прикаса́ться* 觸ル　　*сочу́вствовать* 同感ス
подлежа́ть 從屬ス　　*принадлежа́ть* 附屬ス

備考　前置詞 *без*ъ ト綴合セシ動詞ハ凡テ不完成體ニ屬ス、而シテ此動詞ノ完成體ハ殊ニ他ノ前置詞 *о* ヲ綴合シテ成ルヲ常トス例ハ *обезпоко́иться* (心配ス), *обезче́стить* (名譽ヲ汚ス).

2. 次表ノ二十八動詞ハ前置詞ト綴合セズシテ完成體ニ屬ス(嚴密ニ理ヲ推セバ不完成體ニ屬スベキモノナレモ)、但シ其中七動詞ハ完成體トシテモ不完成體トシテモ使用セラル、如何ナル體ニ屬スベキヤハ前後ノ文意ニ依テ判別セラルベシ、下表ニハ此動詞ト共ニ對應ノ不完成體動詞ヲモ對比セリ、而シテ此不完成體ハ概シテ多回的形式ヲ有ス、

完成體	不完成體	
благослови́ть	*благословля́ть*	祝福ス
бро́сить	*броса́ть*	投ス
велѣть		命ス
дарова́ть		贈與ス
дать	*дава́ть*	與フ
дѣть	*дева́ть*	置ク
женить		娶ハス
казни́ть		刑ス
кончить	*кончать*	終ル
купить	*покупа́ть*	買フ
лечь	*ложи́ться*	臥ス
пои́ть	*пои́ть*	飲シム
мо́лвить		言フ
наслѣдовать		嗣ク

完成體	不完成體	
обі́дѣть	*обижа́ть*	辱カシム
образова́ть		形成ス、生ズ
пасть	*па́дать*	落ツ
плѣни́ть	*плѣня́ть*	擒ニス
простить	*проща́ть*	宥恕ス
пустить	*пуска́ть*	放ツ、許ス
ра́нить		傷ヲ負ハス
родить	*рожда́ть*	生ム
рѣши́ть	*рѣша́ть*	決ス
стать	*станови́ться*	何ヲシカ、ト成ル
ступи́ть	*ступа́ть*	往ク、歩ス
сѣсть	*сади́ться*	坐ル
хвати́ть	*хвата́ть*	攫ム
яви́ть	*явля́ть*	現ハス

111　完成體モ不完成體モ同一ノ根元ヨリ生ス　而シテ之ヲ形成スルニハ或ハ前置詞ヲ動詞ニ綴合シ(例ハ *чита́ть*—*прочита́ть*) 或ハ前置詞綴合ノ動詞ナレバ其根元的語尾ヲ多回體語尾ニ變更ス(例ハ *перечита́ть*—*перечи́тывать*)、但シ次ニ記ス動詞ニ於テハ完成體ト不完成體ハ相異リタル根元ヨリ生ズ

不完成體	完成體	
бить	*уда́рить*	打ツ
брать	*взять*	取ル
класть	*положи́ть*	置ク

不完成體	完成體	
ловѝть	*пойма́ть*	捕フ
говори́ть	*сказа́ть*	言フ

§ 110　多回體 (§ 89, III ノ補遺)

111　既ニ述ヘシ如ク多回體ハ過去ニ於テ屢々行ハレシ動作ヲ表ス、此過去ハ遠過去 (*давнопроше́дшее*) トモ名ツクルヲ得ベシ、如何トナレバ久シキ以前ニ屢々行ハレシ動作ヲ指ス場合ニ之ヲ用フ、且ツ此過去ハ不定的ナリ、如何トナレバ時ヲ指定セズ、假設之ヲ指示スルトモ至テ漠然タリ例

ハ когда́-то (曾テ), въ старину́ (往昔), въ дѣтствѣ (幼時)等ノ如シ、若シ近時屢々行ハレシ事ヲ言ハントスレバ多回體ヲ用ヒズシテ不完成體ヲ用ヒ之ニ ча́сто (屢々), нѣсколько разъ (數度), мно́го разъ (度々), неоднокра́тно (一度ナラズ) 等ヲ附加スルヲ常トス、例ハ *Въ дѣтствѣ* я то́же *чи́тывалъ* э́ту кни́гу (幼時我レモ此書ヲ讀ミタリシ). *Въ про́шломъ году́* я *чита́лъ* э́ту кни́гу *нѣсколько разъ* (昨年我レハ此書ヲ數回讀ミタリ).

2. 多回體ハ辭句ニ修飾ヲ添ユルモノナレモ現今ノ露語界ニハ (殊ニ談話ニ於テハ) 之ヲ使用スルニ至テ稀ナリ、唯、語尾 ывать, ивать ト稀ニハ авать ノ語尾ヲ有スル多回體動詞ノミニ限リテ使用ス、例ハ Когда́-то и я чи́тывалъ э́ту книгу (何時ナリシカ我モ此書ヲ屢々讀ミタリ). Ха́живалъ и я къ нему́. Зна́валъ и я его́. 通常ハ不完成體或ハ完成體ニ быва́ло (§ 114, III) ト云フ無人稱動詞ヲ附加シテ以テ多回體ニ代フ、其他ノ語尾ヲ有スル多回體ヲハ現今ノ露語ニ於テハ全ク使用セス (即チ多回體ノ意義ヲ以テ使用セス)

3. 多回體語尾ヲ有シテ而シテ前置詞ト綴合セシ動詞ハ其根元 (多回體的) ノ語尾ヲ變更シテ不完成體ト成ル (§ 89, III, 2-3)、又多回體語尾ヲ有スル或ル動詞ハ前置詞ト綴合セザルモ不完成體ノ意義ニ於テノミ使用セラル例ハ быва́ть (быть), вида́ть (ви́дѣть), слыха́ть (слы́шать), дава́ть (дать), стрѣля́ть (стрѣли́ть) 等ノ如シ、

此等ノ動詞ハ形式ノミハ多回體的ナレモ、其意義ハ不完成體動詞ナリ、概シテ多回體的語尾ヲ有スル動詞ハ若シ前置詞ト綴合セズシテ使用セラル、ナレバ不完成體ニ屬ス(但シ斯ノ如キ動詞ハ僅少ナリ)、或ル動詞ハ例外ナリ

備考. 此動詞中ヨリノ二動詞 вида́ть 及 слыха́ть ハ唯々過去ノミヲ有シテ、現在、未來ヲ有セズ而シテ現在ト未來ハ вида́ть 及 слы́шать ヨリ用ユ

II 現時ノ露語ニ於テハ多回體動詞ハ前置詞ト綴合セザレバ殆ト使用セラレズ、故ニ之ヲ識得スルノ要ナキガ如クナレトモ、大ニ然ラズシテ各動詞ヨリシテ多回體形式ヲ作成スル方法ヲ知ラザルベカラズ、如何トナレバ多回體ノ形式ハ不完成體前置詞ト綴合ノヲ作成スルノ基根ト成ル、而シテ斯カル不完成體ハ露語ニ於テ最モ多ク使用セラルヽモノナリ、偖、多回體形式(語尾)ヲ作成スル方法ハ大略次ノ如シ

1. 語尾 ать ヲ有シテ第一式變化ニ屬スル多綴動詞ハ ывать ノ語尾ヲ受ク、例ハ

перечита́ть перечи́тывать 復讀ス　　*передѣла́ть* передѣ́лывать 修復ス
записа́ть запи́сывать 筆記ス　　*оклевета́ть* оклеве́тывать 讒ス

2. 語尾 ивать ヲ受クベキモノハ

(甲) 語尾 ать ノ前ニ喉音及唇音ヲ有スル多綴動詞ナリ、但シ聲調ヲ清クセン爲ニ多回體語尾ニ於テハ唇音ノ後ニ л ヲ挿入ス、例ハ

забры́згать забры́згивать 水ヲ振リカケ始ム　*подре́мать* подре́мливать 居眠ル
отмаха́ться отма́хиваться 振リ拂フ

(乙) 語尾 ать ノ前ニ上顎音ヲ有シテ第二式變化ニ屬スル多綴動詞並ニ語尾 ять, ить, ѣть ヲ有スル多綴動詞ナリ、若シ此種ノ動詞ノ語尾ノ前ニ存スル子音ヲ變ズベキ場合ニハ多回體語尾ニ

於テハ大概、對應ノ子音ニ變スルヲ常トス、且ツ此種ノ動詞ノ語幹(末尾ヨリ數ヘタル第二綴)ニ母音 o ノ存スル時ハ多回體語尾ニ於テハ概シテ之ヲ á (力點ヲ有スル)ニ變スルヲ常トス、例ハ

*по*лежа́ть	полёж*ивать*	横ハル	*вы*говорить	выгова́р*ивать*	言出ス、責付ス
*по*молча́ть	пома́лч*ивать*	默ス	*пере*стро́ить	перестра́*ивать*	改築ス、
*по*крича́ть	покри́к*ивать*	叫ブ	возйть	ва́ж*ивать*	運フ
*вы*слушать	выслу́ш*ивать*	聽取ル	носйть	на́ш*ивать*	拽フ、擔フ
осмотре́ть	осма́тр*ивать*	瞰ム、檢視ス	*вы*тащить	выта́ск*ивать*	曳出ス
стре́ля́ть	разстре́л*ивать*	射擊ス	гуля́ть	разгу́л*ивать*	遊歩ス

3. 語尾 ть ノ前ニ母音 (a ヲ除クノ外) ヲ有スル一綴動詞ハ語尾 вать ヲ受ク但シ ать ヲ語尾トスル一綴動詞ガ語尾 вать ヲ受クルハ僅カ三個ノミナリ

быть	бы*ва́ть*	在ル、行ハル	*вы́*пить	вып*ива́ть*	飲盡ス
*у*мы́ться	умыв*а́ться*	手顔ナドヲ洗フ	*вы́*шить	выш*ива́ть*	刺繍ス
*об*у́ть	обув*а́ть*	履物ヲ着ケシム	дать	дав*а́ть*	與ノ
оде́ть	оде́в*а́ть*	着服セシム	знать	знав*а́ть*	知ル
*со*гре́ть	согре́в*а́ть*	暖ム	*вс*та́ть	вста*ва́ть*	起上ル

4. 語尾 ать ヲ受クベキモノハ

(甲) 二個ノ子音即チ ти 及 чь ヲ語尾トスル動詞ナリ、此種ノ動詞ノ多回體語尾 ать ノ前ニハ必ズ根元的子音ヲ有ス、 例ハ

*вы́*грести	выгреб*а́ть*	濬出ル、堀上ル	*при*бере́чь	приберег*а́ть*	貯藏ス
*пере*плести́	переплет*а́ть*	表紙ヲ附ス、編收ム	*из*ре́чь	изрек*а́ть*	發言ス

語尾 сть ヲ有スル動詞中、二ツハ多回體語尾ヲ ать トセズシテ ывать ト成ス、класть—кла́д*ывать* (置ク), красть—кра́д*ывать* (盜ム)

(乙) 二個ノ子音ヲ語根トスル一綴動詞及 ереть ヲ語尾トスル動詞(同シク二個ノ子音ヲ語根トス)ナラバ、此種ノ動詞ノ多回體語尾ニ於テハ語根ノ二子音ノ間ニ母音 ы 或ハ и ヲ挿入ス、是レ聲調ヲ清メン爲メナリ、又 ять ヲ語尾トスル不規則動詞モ此分類ニ屬ス、 例バ

*со*бра́ть	(бр)	соб*ира́ть*	集ム	*с*жать	(жм)	сж*има́ть*	壓縮ス
*обо*жда́ть	(жд)	ож*ида́ть*	待ツ	*у*мере́ть	(мр)	ум*ира́ть*	死ス
*на*ча́ть	(чн)	нач*ина́ть*	始ム	стере́ть	(тр)	ст*ира́ть*	拭ヒ清ム
*по*чти́ть	(чт)	поч*ита́ть*	敬ス	*прия́ть*	(*ят*)	прин*има́ть*	受ク、採用ス

(丙) 語尾 нуть ヲ有スル中動詞ナリ、此種ノ動詞ノ多回體語尾ニ於テハ ну ヲ除去ス、 例ハ

засо́х*нуть*—засыха́ть	乾燥ス	промо́к*нуть*—промока́ть	浸ス

備考、 例外ハ па́хнуть—па́х*ивать* 匂フ(香、臭ノ別ナク)

(丁) 語尾 ить ノ前ニ上顎音及齒音ヲ有スル多綴動詞ナリ、而シテ上顎音ハ大概喉音ニ變シ齒音ハ上顎音ニ變ズ (§ 5, 9—10) 例ハ

предложи́ть	предлага́ть	提議ス、申込ム	*награди́ть*	награ*жда́ть*	賞ス
*во*оружи́ть	вооружа́ть	武裝ス	*возрази́ть*	возра*жа́ть*	駁ス、詰問ス
получи́ть	получа́ть	得ル、貰フ	*возвы́сить*	возвыша́ть	高ム
ко́нчить	конча́ть	終ル	*возврати́ть*	возвра*ща́ть*	返戻ス
сообщи́ть	сообща́ть	傳通ス	*вы́чистить*	вычи*ща́ть*	清ム

(戊) 語尾 ить 及 еть ノ前ニ舌音及唇音ヲ有スル僅少ノ多綴動詞ナリ、例ハ

сгоре́ть	сгора́ть 焼ケル	ошиби́ться	ошиба́ться 誤ル
заки́петь	заки́пать 沸騰ス	вы́рубить	вырубать 伐リ取ル

(己) 力點ヲ語尾 ать ニ有セザル僅少ノ多綴動詞ナリ、此動詞ノ多回體ニ於テハ唯々力點ヲ語尾 ать ニ轉動スルノミナリ、例ハ

完成體	不完成體
дви́гать 動カス	передви́гать	передвига́ть 移動ス
сы́пать 散ラス	вы́сыпать	высыпа́ть 散布ス

5. 語尾 ять ヲ受クベキ

(甲) 語尾 ить ノ前ニ舌音ヲ有スル多クノ動詞ナリ、例ハ

позво́лить	позволя́ть 許ス	дове́рить	доверя́ть 信仕ス
испо́лнить	исполня́ть 遂行ス	затвори́ть	затворя́ть 閉ヅ
объясни́ть	объясня́ть 説明ス	повтори́ть	повторя́ть 復ス

(乙) 語尾 ить ノ前ニ齒音ヲ有スル多クノ動詞ナリ、此種ノ動詞ノ多回體語尾ニ於テハ齒音ノ後ニ л ヲ挿入ス、是レ聲調ヲ清メン爲ナリ、例ハ

употреби́ть	употребля́ть 使用ス	изуми́ться	изумля́ться, 奇異ノ念ヲ起ス
заста́вить	заставля́ть 爲シム	накопи́ться	накопля́ться 積集ス
испра́вить	исправля́ть 修正ス	разграфи́ть	разграфля́ть 罫線ヲ引ク

備考 或ル動詞ハ二個ノ多回體語尾ヲ有ス、其一個ハ語根ヨリ作成シ他ノ一個ヲハ此作成サレタルモノヨリ作成ス、斯カル動詞ハ僅少ナリ、例ハ

ви́деть—вида́ть—ви́дывать 見ル	вы́честь—вычита́ть—вы́чи́тывать 差引ク
слы́шать—слыха́ть—слы́хивать 聞ク	обучи́ть—обуча́ть—обу́чивать 教ユ

§ 111. 一回體 (§ 89, IV)

1 一回體ハ不完成體ニ多回體語尾 нуть ヲ綴合シテ以テ成ル、其際不完成體ノ語尾 ть ノ前ニ存スル母音ハ概シテ除去セラル又語尾 ть ノ前ニ存スル上顎音ハ喉音ニ變スルコト多ク、喉音ト齒音ハ全ク除去セラル、コトアリ、例ハ

дви́гать	дви́нуть 動カス	гро́хать	гро́нуть 觸ル、動カス
дуть	ду́нуть 吹ク	шага́ть	шагну́ть 歩ヲ運フ
кида́ть	ки́нуть 投ス	шепта́ть	шепну́ть 囁ク
крича́ть	кри́кнуть 叫ブ	щеголя́ть	щегольну́ть 身ヲ飾ル
стуча́ть	сту́кнуть 叩ク	хва́стать	хвастну́ть 誇ル、大言ス

動詞 хвастну́ть (誇ル) 及 щегольну́ть (艶装ス) 等ハ直接ニ一回的動作ヲ表セザレトモ、多少此動作ニ伴ハルヽ故ニ一回體ニ屬ス

2. 或ル一回體動詞ハ極メテ瞬速ナル動作ヲ表スルガ故ニ對應ノ不完成體ヲ有セズ例ハ гро́хнуться (墜落ス), очну́ться (目醒ム), хлы́нуть (迸シル).

3. 或ル一回體動詞ハ時トシテハ語尾 нуть ヲ棄テヽ使用セラルヽコアリ、斯カル場合ニハ間投詞ノ如キ意義ニテ使用セラルヽナリ、例ハ двинь, дунь, кинь, крикъ, стукъ

備考 1　語尾 нуть ヲ有シテ而シテ完成體ニ屬スル(一回體ニ屬セザル)所ノ動詞ハ、нуть ノ語尾ヲ直接ニ語幹ニ縫合ス、例：　привык-а́ть (慣ル)—привы́к-нуть,　отверг-а́ть (排斥ス)—отве́рг-нуть, исчез-а́ть (消失ス)—исче́з-нуть.

備考 2　語尾 нуть ヲ有スル中動詞ハ、形容詞ヨリシテ形成セラル (§ 88, V, 3.)

§ 112　多式動詞 (Изоби́лующій глаго́лъ)

多式動詞トハ同一ノ語ニ二種ノ語尾及變化式ヲ有スル動詞ヲ名ック、殊ニ屢々使用セラル、モノハ次ノ如シ

1　意義ハ同一ナレド不定法ニ於テ二種ノ語尾(故ニ變化モ二種ト成ル)ヲ有スル動詞ナリ、例ハ

прочита́ть 讀ミ終ル	прочита-ю	свиста́ть 嘯ク	сви-щу́, щешь
проче́сть 讀ミ終ル	прочт-у	свисте́ть 嘯ク	сви-щу́, сти́шь

2　現在ニ於テ二種ノ變化式ヲ有スル動詞、其中ノ一ハ母音變化ニ屬シ一ハ語尾 ть ノ前ニ存スル子音ノ如何ニ依テ變化ス、例ハ

алка́ть 餓ユ	алка́-ю	及	а́лч-у, ешь
боле́ть 病氣ス、痛ム	боле́-ю	(病氣ス)	бол-ю́, и́шь (痛ム)
бры́згать 振リ掛ク	бры́зга-ю		бры́зж-у, ешь
дви́гаться 動キ進ム	дви́га юсь		дви́ж-усь, ешься
зре́ть 熟ス、見ル	зре́-ю	(熟ス)	зр-ю́, и́шь (見ル)
колеба́ть 搖カス	колеба́-ю		коле́б-лю, лешь
полоска́ть 嗽ク	полоска́-ю		поло-щу́, щешь
колыха́ть 搖ウス ル	колыха́-ю		колы́ш-у́, ешь
маха́ть 振リ廻ス	маха́-ю		ма́ш-у́, ешь
ка́пать 垂滴ス	ка́па-ю		ка́пл-ю, ешь
мета́ть 放リ投ク	мета́-ю		меч-у́, ешь

語尾 ывать ヲ有スル動詞(§ 105, 22-26) モ此種ニ屬ス

語尾 ять ヲ有スル不規則動詞(§ 105, 1) 及其多回體語尾 имать (§ 105, 28) モ此種ニ屬ス、例：

обня́ть 抱ク	обниму́ 及 обойму́	обнима́ть 抱ク	обнима́ю 及 объе́млю
подня́ть 上グ	подниму́ подыму́	поднима́ть 上グ	поднима́ю подъе́млю

3　過去ニ於テ二種ノ變化式ヲ有スル動詞ナリ、例：　вя́нуть (§ 105, 51) 凋ム　вя́нул ъ 及 вя́л ъ

§ 113　缺乏動詞 (Недоста́точный глаго́лъ)

缺乏動詞トハ次ノ如キ諸動詞ヲ名ック

I.　或ル體ヲ有セザル動詞

(甲)　完成體ヲ有セザル動詞、例ハ

обоня́ть 嗅ク	опаса́ться 危ブム	совеща́ться 談合ス
ожида́ть 待ツ	осяза́ть 接觸ス、摩ス	сто́ить 償ヲ有ス

(乙) 不完成體ヲ有セザル動詞、例ハ

опо́мниться 覺(サトル)、己ニ復ヘル　разговори́ться 多言ス　повы́чистить 清掃ス
очути́ться 不意ニ現ハル　разоспа́ться 久シク寢ル　позамара́ть 汚ゴス

(丙) 唯、一回體ノミヲ有スル動詞 (§ 111,2)

2. 變化式ノ或ル部分(例ハ命令法)ヲ有セズシテ、他ノ語ヨリ之ヲ轉用スルモノ、例ハ

вйдѣть ハ смотри́ (смотрѣть ヨリス)
е́хать ハ поѣзжа́й (使用セザル動詞 поѣзжать ヨリ)
слы́шать ハ слу́шай (слушать ヨリス)
хотѣ́ть ハ жела́й (жела́ть ヨリス).

(§ 114 法ト時トノ使用ニ關スル特異例 (§§ 88-96 補足)

1 不定法、不定法ハ或ル場合ニハ

1 未來ノ代リニ使用セラル、即チ或ル動作ガ行ハレザラントノ確信ノ堅固ナルヲ表スル場合ナリ、其際必ス否定ノ не ヲ附用ス、而シテ補語ヲバ與格ト成スベキ故ニ、文句ハ無人稱的ノ形式ヲ成ス、但シ此與格ヲバ名格ニ變ズルコヲ得ベシ、然ル場合ニハ不定法ハ未來ニ變ゼラル、例ハ *Не око́нчить ты* своего́ сочине́нія до но́ваго го́да=*Не око́нчишь ты* своего́ сочине́нія до но́ваго го́да (新年マデニ汝ハ己レノ文章ヲ終ラザラン) 不定法ヲ用ヒタル前文ニ於テハ文章ヲ決シテ終ルマジトノ確信ヲ表シ、未來ヲ用ヒタル後文ニ於テハ單ニ終ラザラント言ヒシノミナリ

通俗ノ談話ニ於テ殊ニ此意義ヲ以テ多回體的不定法ヲ多ク使用ス、例ハ *Бо́льше* уже́ *мнѣ не бывáть*(=*я не бу́ду*) на ро́динѣ и *не ви́дывать*(=*не увижу*) свои́хъ родны́хъ (我レハ最早ヤ故鄉ニ赴ク能ハザラン且ツ我ガ親族ニ面會スル能ハザラン) 動詞 быть ハ否定 не ト共ニセズシテモ發話者ノ信念ノ强キヲ表スル際ニハ使用セラル、例ハ *Быть несча́стію*=*Бу́детъ несча́стіе*「必ズ不幸ハ有ラン」

2. 命令法ノ代リニ使用セラル (甲) 威嚇ヲ含ミタル命令ヲ表シテ必ズ遂行スベキヲ示ス場合ナリ、此際動詞ハ殊更ニ力ヲ强メテ發音セラル、又書文ニ記スル際ニハ感歎記號ヲ附ス例ハ Молча́ть! (默マレ) (乙) 一箇人ニ對スルニ非ズシテ、全體ニ對スル長官ノ命令殊ニ上長官ノ指令、任定等ニ於テ、例 Испо́лнить! (遂行スベキモノナリ) Уво́лить его со слу́жбы (彼ヲ罷免スベキモノナリ).

3. 接續法ノ代リニ使用セラル、故ニ其際 бы ヲ附用ス、斯カル場合ニハ хотѣ́лось бы (何々シタキノダガ), слѣ́довало бы (何々スベキナリ), жела́тельно (望マシ), хорошо́ (宜シキニ), ну́жно (要ス), необходи́мо (必要ナリ) 等ノ語ヲ省略スルヲ常トス、勿論此省略セラレシ語ヲバ前後ノ文意ニ依テ推知シ得ベシ、又斯カル場合ニハ人稱代名詞ハ必ズ與格ト成ルガ故ニ文句ハ無人稱的ノ形式ヲ成ス.

接續法ノ代リニ使用セラル、不定法ハ次ノ如キ意義ヲ有ス

(甲) 願望ノ意ヲ表ス、即チ省略セシ動詞 хотéлось бы ノ意ヲ文中ニ含ム' 例ハ *Окóнчить бы намъ*(=*хотéлось бы намъ окóнчить*) э́ту рабóту поскорéе (願クハ我等、速ニ此事業ヲ終ランコトヲ).

(乙) 勸告、訓諭等ノ意ヲ有ス即チ省略セシ語 хорошо́ бы ノ意ヲ文中ニ含ム或ハ бы ノ代リニ ли 亦ハ развѣ ヲ附用スルコトアリ、ли ヲ附用スル際ニハ必ズ не ヲモ共ニ添フ即チ「何々致サザルヤ」亦ハ「何々致シテハ如何」ノ勸說ノ意ナリ例ハ *Посовѣтоваться бы*(=*хорошо́ было бы посовѣтоваться*) вамъ съ свои́мъ бра́томъ (貴君ハ自身ノ兄弟ト相談シテ可ナランニ)、=*Не посовѣтоваться ли* вамъ (貴君ハ相談シテハ如何)=*Развѣ посовѣтоваться* вамъ (貴君ハソレトモ、相談シテハ如何)

(丙) 事ヲ行フベキ或ハ行フベカラザル必要ノ意ヲ有ス 即チ省略セシ語 ну́жно, до́лжно, слѣ́довало ノ意ヲ文中ニ含ム、斯カル場合ニハ時トシテ бы ノ代リニ было ヲ使用ス *Прочéсть бы*(=*прочéсть было*) вамъ ещё одúнъ разъ (今一回貴君ハ讀ムヲ要ス)(=*вамъ слѣ́довало бы* 或ハ *ну́жно было бы прочéсть* ещё одúнъ разъ). и, я увѣ́ренъ, вы хорошо́ зна́ли бы свой уро́къ (然ル時ハ貴君ハ日課ヲ善ク習得スベシトヲ我ハ確信ス)

" 不完成體及完成體ノ過去

I 時トシテ過去ノ代リニ現在ヲ使用ス、是レ殊ニ目擊セシ事實ヲ傳ヘ話ス際ニ目前ニ行ハル・ガ如ク語氣ヲ活潑ナラシムルヨリシテ生ス、多クハ歷史的談話ニ於テ之ヲ使用スルガ故ニ之ヲ歷史的現在ト稱ス Нача́ло XVIII вѣка достопа́мятно въ исто́ріи Россіи Пётръ Вели́кій *покоря́етъ* (покорилъノ代リ) берега́ фи́нскаго зали́ва; въ странѣ́ безлю́дной и боло́тистой онъ *основы́ваетъ* (основа́лъノ代リ) въ 1703-ьемъ году́ Петербу́ргъ, го́родъ *ростётъ* (ростъノ代リ) бы́стро. че́резъ 10 лѣтъ Пётръ уже́ *объявля́етъ* (объяви́лъノ代リ) его́ столи́цею Россіи(十八世紀ノ始メニ露西亞ノ歷史ニ於テ著名ナリ、彼得大帝ハフインランド灣ノ沿岸ヲ侵略シ、人家ナキ沼地ニ彼ハ一千七百三年ニ於テ彼得堡ヲ建立シ、市府ハ迅速ニ發達シ、十ヶ年ヲ經テ彼得ハ既ニ之ヲ露西亞ノ首都ト發表セリ)

2. 動詞ノ過去(殊ニ完成體ノ)ト無人稱動詞 было トヲ共ニ合用スレハ動作ハ行ハレ始メタレ𪜈持續セザリシヲ表ス或ハ持續シタレ𪜈終結ニ達セザリシヲ表ス Я *сталъ* (*началъ*) *было* чита́ть ва́шу кни́гу, но её взяла́ сестра́ (我ハ貴君ノ書ヲ讀ミカケタルニ姉妹ハ之ヲ持チ去レリ)

"" 多回體ノ過去

通常ノ談話ニ於テハ動詞ニ於テ無人稱動詞 быва́ло ヲ附用シテ以テ多回體過去ノ式ヲ作ル、此無人稱動詞ハ久シキ以前ニ屢々行ハレシ動作ヲ表ス而シテ不完成體ノ過去或ハ現在ト共ニシ又完成體ノ未來(不完成體ノ未來トハ共用セラル、コトナシ)トモ共ニ用ヒラル

I. 不完成體過去ト共ニ用ヒラル、時ハ久シキ以前ニ屢々行ハレシ動作ヲ表ス即チ純粹ノ多回體ト同一ノ意義ヲ有ス Мы ча́сто *ха́живали* къ нему́

＝*Бывáло* мы чáсто *ходúли* къ немý (我等ハ曾テ屢々彼ノ許ヘ赴キタリ) *Бывáло* онъ чáсто *приходúлъ* ко мнѣ (彼ハ曾テ屢々我許ニ來リタリシ)

2. 現在ト共ニ之ヲ用フル時ハ久シキ以前ノ動作ガ恰モ未ダ行ハレツヽアルガ如キ狀態ヲ表ス即チ談話ヲ活動セシムルガ爲ニ之ヲ使用ス *Мы читывали* у негó по цѣлымъ часáмъ＝*Бывáло мы читáемъ* у негó по цѣлымъ часáмъ (我等ハ曾テ彼ノ許ニ於テ數時間打通シテ讀書セリ)

3. 完成體ノ未來ト共ニ之ヲ用ユル時ハ久シキ以前ノ動作ガ恰モ未ダ行ハレツヽアルガ如キ狀態ノ始メ或ハ終リヲ表ス *Бывáло* онъ тóлько *начнётъ* говорúть, вы сейчáсъ же засмѣётесь (彼レガ話シ始ムルヤ否ヤ貴君ハ直チニ笑ヒカケシ、ガ屢々有リシ)

IV 未來 1. 時トシテ未來ノ代リニ現在ヲ使用ス、是レハ動作ガ必ズ行ハルベキヲ言ヒ表ハス時ニ於テス Хотя́ ещё́ и не вполнѣ́ хорошó чýвствую себя́, но зáвтра обязáтельно *пóйду* (пойдý ノ代リ) въ учúлище (我ハ未ダ完ク快復セザレモ、明日ハ必ズ學校ニ赴カン)

2. 完成體ノ未來ハ (甲) 時トシテ現在ノ代リニ使用セラル、是レハ通常行ハル、所(習慣ノ如ク)ノ動作ヲ表ハス際ニ使用セラル Европéецъ, когдá *придетъ* (＝прихóдитъ) въ гóсти, вначáлѣ *раскла́няется* (＝раскла́нивается) съ хозя́йкою, потóмъ съ другúми жéнщинами и наконéцъ съ мужчúнами; япóнецъ, когдá *придётъ* (＝прихóдитъ) въ чýжой домъ, снача́ла *покло́нится* (＝кла́няется) хозя́ину, потóмъ другúмъ мужчúнамъ и наконéцъ жéнщинамъ, въ томъ числѣ́ и хозя́йкѣ (歐羅巴人ハ客ニ赴キシ時ハ先ツ主婦ニ禮シ次ニ他ノ諸婦人ニ禮シ然ル後、男子ニ禮ス、日本人ハ他人ノ家ニ赴キシ時ハ、先ヅ主人ニ禮シ、次ニ他ノ諸男子ニ禮シ、然ル後諸婦人ニ禮ス、即チ同時ニ主婦ニモ禮ス)

(乙) 一ノ動作ガ他ノ動作ニ先ダチ且ツ他ノ動作ニ對シテ通常行ハル、所ノ原因ト成ル場合ニ於テハ、斯ク現在ノ代リニ未來ヲ使用スルハ殊ニ設若的文章ニ於テ多シトス、例ハ Когда удáвъ *проглóтитъ* (＝прогла́тываетъ) свою́ добы́чу, то онъ впадáетъ въ глубóкій сонъ (蟒ガ捕獲物ヲ呑ミ通セシ時ハ熟睡ニ陷ル)

(丙) 或ル動作ヲ行フコトヲ能スルヤ否ヤヲ表シ又、事物ガ或ル事業ヲ遂行シ得ルヤ否ヤヲ表スル場合ニ於テス、斯カル場合ニ於テハ文中ノ省略シタル動詞 мочь (能フ) ノ意ヲ含有スルガ故ニ日本語ニ譯スル際ニハ此動詞ヲモ附加スルヲ要ス、例ハ Гдѣ я могу́ найти́ э́ту кни́гу? (我ハ何處ニ此書ヲ求ムルヲ得ルヤ)—Вы *найдёте* (＝мóжете найти́) её въ магазинѣ́ N. (貴君ハ之ヲ某店ニ於テ求ムルヲ得ベシ)

V 接續法、1. 接續法ハ預想假定ノ動作或ハ狀態ヲ表スルノ外ニ
(甲) 條件及結果ヲ表ス
(乙) 希望ヲ表ス
2. 接續法ノ бы ハ動詞ヨリシテ或ル接續詞 (例ハ чтóбы, éсли бы, хотя

бы)ニ轉用セラルヽノミナラズ凡テ文句ニ於テ預想ノ中心ト成ル所ノ語ノ次ニ立ツヿヲモ得ベシ

VII. 命令法

1. 命令法ノ單數ノ第二人稱ハ時トシテ諸人稱ニ對シテ使用セラル例ハ

чита́й *я*	чита́й *мы*	говори́ *я*	говори́ *мы*
чита́й *ты*	чита́й *вы*	говори́ *ты*	говори́ *вы*
чита́й *онъ, о, о*	чита́й *они, онѣ*	говори́ *онъ, о, а*	говори́ *они, онѣ*

斯カル式ヲ用ヒタル命令法ハ

(甲) 事物ヲ行フベキ或ハ行フベカラザルノ必要ヲ表ス、故ニ不定法ニ долженъ ヲ附用シタルト同一ノ意義ト成ル、例ハ Когда́ свои́ ссо́рятся, чужіе *не вмѣшивайся* (= *пусть не вмѣшиваются* = *не должны вмѣшиваться*. (我ガ方ノ者等ガ爭フ時ハ、他方ノ者ハ干渉スベカラズ)、

(乙) 設若的文章ニ於テハ接續法ノ代リニ之ヲ使用ス故ニ命令ニハ非ズシテ預想假定ヲ表ス、*Говори́* съ нимъ такъ *я* (= *если бы говори́лъ* съ нимъ такъ *я*), онъ разсерди́лся бы на меня́ (我レ若シ彼ト斯ク云ヒシナラバ、彼ハ我ニ向テ憤怒スルナラン)、*Сдѣлай* это *вы* (= *если бы сдѣлали* это *вы*), васъ бы похвали́ли (貴君ガ之ヲ行ヒシナラバ、人ハ貴君ヲ稱賛セシナラン)、*Попроси́* его (*если бы попроси́лъ* его) не братъ, а сестра́, онъ испо́лнилъ бы э́ту про́сьбу (兄弟ナラズシテ若シ姉妹ガ彼ニ願ヒシナラバ、彼ハ此請願ヲ遂行セシナラン)、

(丙) 時トシテ關係代名詞及副詞ト共ニシタル接續法ノ代リニ此式ヲ使用ス *Кто ни приди́* (= *кто бы ни пришёлъ*) къ нему́, онъ *вся́каго* принима́етъ 或ハ онъ *никого́* не прини́маетъ (誰カ彼ノ許ニ赴クトモ、彼ハ誰ヲモ受ク、或ハ彼ハ誰ヲモ受ケヌ)、*О чемъ ни проси́ мы* его́ (= *ни проси́ли бы мы* его), онъ *всегда́* на́шу просьбу́ испо́лнитъ 或ハ онъ *никогда́* на́шей про́сьбы не испо́лнитъ (我等ガ彼ニ何事ヲ願フトモ、彼ハ常ニ我等ノ願ヲ遂行ス、或ハ彼ハ決シテ我等ノ願ヲ遂行セズ)、*Ско́лько ни говори́ вы* ему́ (= *ско́лько бы вы ни говори́ли* ему́), онъ васъ не послу́шаетъ (貴君ガ彼ニ何程言フトモ、彼ハ貴君ノ說ヲ容レザラン)、*Ско́лько они ни стара́йся* (= *ни стара́лись бы*), по́льзы не бу́детъ (彼等ガ何程盡力セシトテ、利益ハ有ラザラン)、

(丁) 疑問ヲ有スル未來ノ代リニ之ヲ使用ス、即チ二個ノ動詞ノ間ニ接續詞 или ヲ挾ミテ「何々センカ或ハ何々セザランカ」ノ場合ニ於テス、斯カル場合ニ於テ若シ主語ガ代名詞 вы ナル時ハ、此式ノ命令法ハ複數ノ第二人稱トモ成ル、例ハ *Зови́ они* его́ къ себѣ́ или *не зови́* (= *будутъ ли они́ звать* его́ къ себѣ́ или *не бу́дутъ*), онъ къ нимъ ни-за-что́ не придётъ (彼等ガ彼ヲ召ビシトモ召ハザルトモ、彼ハ彼等ノ許ニ決シテ赴カザラン) *Проси́ вы* его́ или *не проси́* 或ハ *проси́те вы* его́ или *не проси́те* (= *бу́дете ли вы* его *проси́ть* или *не бу́дете*), онъ не испо́лнитъ ва́шей про́сьбы (貴君ガ彼ニ願フテモ願ハナクテモ、彼ハ貴君ノ請願ヲ遂行セザラン).

2. 完成體ヨリ生ゼシ命令法ノ否定式ハ談話ニ於テノミ使用セラレ且ツ

第二人稱ノミヲ使用ス、而シテ斯カル命令法ハ命令ヲ表スルト云フヨリハ寧ロ惡シキ結果ヲ生ズベキ條件タルヲ表ス但シ其際概シテ其結果ノ如何ヲハ文面ニ表出セズシテ其意義ノミヲ含マシム、例ハ Смотри́те: *не скажи́те* (*не говори́те* ノ代リニ) объ э́томъ това́рищамъ. —А то, что бу́детъ?—Они́ бу́дутъ на насъ серди́ться (注意セヨ、此事ヲ朋友ニ言フ勿レ、若シ然ラズンバ何事ヲ生ゼントスルヤ、彼等ハ我等ニ向ツテ憤激スルナラン)、

VIII. 形動詞、形動詞ハ直說法ノ代リニ使用セラル、(§ 95, 4) 而シテ直說法ノ立ツベキ時(現在、過去、未來)ト同一ノ時ニ立ツ、即チ直說法ガ現在タルベキ場合ニハ形動詞モ現在トナル、例ハ Человѣкъ, *кото́рый* зна́етъ = зна́ющій человѣкъ. Человѣкъ, *который* зна́лъ = зна́вшій человѣкъ.

然レモ副文章ノ動詞ガ若シ主文章ノ動詞ト同時ノ動作ヲ表スル時ハ、副文章ノ動詞(即チ形動詞ト成ルベキ動詞)ハ過去ニ立チ居ルトモ (§ 95. III) 之ヲ現在ノ形動詞ト成シテ可ナリ、例ハ Когда мы вошли́ въ ко́мнату, мы *уви́дьли* многочи́сленную семью́. *сидя́щую* (=*кото́рая* сидѣ́ла=сидѣ́вшую) вокру́гъ стола́ (我等ハ室内ニ入リシ際ニ卓ノ周圍ニ坐シ居ル處ノ多人數ノ一家族ヲ見タリ)、此文ニ於テ現在形動詞 сидя́щую ハ過去形動詞 сидѣ́вшую ノ代リニ使用セラレシナリ、如何トナレハ副文章ノ動詞 сидѣ́ть トハ同時ノ動作ナリ 動詞 вошли́ トハ同時ノ動作ナリ

若シ副文章ノ動詞ガ主文章ノ動詞ト同一ナルヲ表スル時ハタトヒ副文章ノ動詞ガ未來ニ立チ居ルトモ此動詞ヲ現在形動詞ト成シテ可ナリ、(未來ニ立チ居ル動詞ヲバ通常ハ形動詞ト成ス事能ハザレモ)、例ハ Когда мы войдёмъ въ ко́мнату, мы уви́димъ многочи́сленную се́мью, *сидя́щую* (=*кото́рая бу́детъ сидѣ́ть*) вокру́гъ стола (我等ガ室内ニ入ラン時ハ卓ノ周圍ニ座シヲ居ラン所ノ多人數ノ一家族ヲ見ルナラン)、

§ 115. 前置詞 (Предло́гъ)

1. 前置詞ハ變化セザル詞類ナリ、其組織ヨリ見レハ前置詞ヲ二種ニ分ツコトヲ得ベシ即チ單一的例ハ изъ, за, по, при 等、及合成的例ハ изъ-за, поза, попри 等ナリ、前置詞ハ其關係ヲ有スル語ニ綴合スルコトモアリ或ハ綴合セザルコトモアリ、何ツレノ場合ニ於テモ關係ヲ有スル語ノ前ニ立ツ、前置詞ハ其數廿六アリ、其中、四個即チ для, къ, ради, сквозь ハ決シテ語ニ綴合セズ、又 вы, воз, низ, раз, пере ノ五個ハ單獨ニ使用セラルヽ能ハズシテ必ス語ニ綴合ス、其他ノ十七即チ безъ, въ, до, за, изъ, на, надъ, о, отъ. по, подъ, предъ, при, про, съ, у, чрезъ ハ單獨ニテモ使用セラレ、又綴合シテモ使用セラル

2. 若シ前置詞ガ其關係ヲ有スル語ニ綴合セズシテ立ツ時ハ必ス或ル格ヲ支配ス、即チ其關係ヲ有スル語ヲシテ一定ノ格ヲ受ケシム、但シ名格ト呼格ノミヲハ受ケシムルコトナシ、即チ此二格ニハ前置詞ハ全ク關係ナシ、若シ前置詞ノ次ニ立ツ語ガ二個以上ノ子音ヲ語冠トシ而シテ前置詞ガ

半子音ъヲ語尾トスル時ハ、聲調ヲ清クセン爲ニ概シテ前置詞ノ語尾タルъヲ母音 o ニ變ズルヲ常トス

3. 單獨的ニ使用セラル、前置詞ハ種々ノ意義ヲ有シ、固有ノ意義ノ外ニ、轉用ノ意義ヲモ有ス、固有ノ意義ニ於テハ場所、方面（上下、前後、內外等）、位置、離合、接近、距離等ノ意ヲ有ス、轉用ノ意義ニ於テハ時、數、分量、大小、目的、原因其他抽象的ノ關係ヲ表ス、

4. 一個ノ格ノミヲ支配スル前置詞アリ、二個ノ格ヲ支配スル前置詞アリ、三個ノ格ヲ支配スル前置詞モアリ

一個ノ格ノミヲ支配スル前置詞ハ次ノ如シ

生格ヲ支配スルモノハ九アリ безъ, для, ради, до, изъ, изъ-за, изъ-подъ, отъ, у (§ 116)

與格ヲ支配スルモノハ一アリ къ (§ 117)

役格ヲ支配スルモノハ三アリ про, чрезъ, сквозь (§ 118)

造格ヲ支配スルモノハ一アリ надъ (§119)

前置格ヲ支配スルモノハ一アリ при (§ 120)

二個ノ格ヲ支配スル前置詞

役格ト造格ヲ支配スルモノハ三アリ за (§ 121), подъ (§ 122), предъ (§ 123)

役格ト前置格ヲ支配スルモノハ三アリ въ (§ 124), на (§ 125), о (§ 126)

三個ノ格ヲ支配スル前置詞

與格ト役格ト前置格ヲ支配スルモノハ一アリ по (§ 127)

生格ト役格ト造格ヲ支配スルモノハ一アリ съ (§ 128)

§ 116. 生格ノミヲ支配スル前置詞

I. Безъ ハ「無クシテ」ノ意ニシテ事物ノ缺乏或ハ不在ヲ表示シ、前置詞съ (§ 128, III, 1) ト反對ノ意ナリ、例ハ *безъ отца́* (父ナクシテ、父ト共ニセズシテ), *съ отцо́мъ* (父ト共ニ); *безъ дѣла*, (用事ナクシテ), *съ дѣло́мъ* (用事ヲ有シテ); стака́нъ *безъ воды́* (水ナキコップ), стака́нъ *съ водо́ю* (水ヲ有スルコップ); занима́ться *съ* приле́жа́нiемъ (勉勵ヲ以テ修業ス), занима́ться *безъ* приле́жа́нiя (勉勵ナクシテ修業ス)

II. Для ハ「爲ニ」ト譯シテ

1. 事物ニ對スル配慮ヲ表ス、*Для тебя́* я всё сдѣлаю (汝ノ爲ニハ我レ何事ヲモ致サン)

2. 一ノ事物ヲ他ノ事物ノ爲ニ具備スルヲ表ス、стака́нъ *для чая* (茶ノ爲ニスルコップ)、ведро́ *для воды́* (水ヲ入ル、爲ノ手桶)

3. 「何々ニ取リテハ」「何々ニ對シテハ」ノ意、Э́тотъ уро́къ *для насъ* тру́денъ (此課程ハ我等ニ取リテハ困難ナリ).

備考 一ノ事物ノ資質ヲ表スル形容詞ヲ、他ノ有生物ニ對シテ使用スル時ハ中性ニ立ツ (不定法動詞ガ主語タル際) 或ハ無人稱的ニ副詞ノ意義ヲ以テ使用セラルヽ時ハ此形容詞ハ與格 (前置詞ト共ニセザル) ニ立ツ (§ 61, 6) 例ハ Э́тотъ уро́къ намъ тру́дно было́ учи́ть (此課程ヲ習得スルハ我等ニハ困難ナリシ). Мнѣ хо́лодно (我ニハ寒クアル).

4. 目的ヲ表ス、但シ名詞ヲ用ヒテ目的ヲ表スル際ナリ、若シ動詞ヲ用ヒテ目的ヲ表スル時ハ、接續詞 чтобы ヲ使用ス、例ハ Мы у́чимся не *для экза́мена*, а *для зна́нія* (我等ハ試驗ノ爲ナラズシテ識通ノ爲ニ學ブナリ). Мы у́чимся *для пріобрѣте́нія* зна́ній. (我等ハ知識ノ習得ノ爲ニ學ブ). Мы у́чимся, что́бы пріобрѣсти́ зна́нія (我等ハ知識ヲ得ン爲ニ學ブ).

III. Ра́ди ハ для ト殆ド同一ノ意義ヲ有シテ目的ト理由ヲ表ス、然レモ此前置詞ハ使用セラルヽ稀ナリ、又此前置詞ニ限リテ其關係スル語ノ次ニ立ツヿヲモ得ルナリ、*Ра́ди* Бо́га=Бо́га *ра́ди* (神ノ爲ニ、何卒). *Ра́ди* о́бщей по́льзы (公益ノ爲ニ).

IV До ハ「迄」ト譯ス

1. 動作ノ行ハレ達スル場所ノ際限ヲ表シテ殊ニ前置詞 до ト綴合シタル動詞ト共ニ使用セラル、Мы *дошли́ до ре́ки* (我等ハ河マデ達シタリ). Я *дочита́лъ кни́гу до конца́* (我ハ終リマデ書ヲ通讀シタリ).

2. 二箇相隔タリタル事物ノ際間ノ終極ヲ表シテ、前置詞 отъ (距間ノ起點ヲ表スル) (§ 116, VIII, 2) ト對立ス、 Отъ моего́ до́ма *до ре́ки* лишь не́сколько ша́говъ (我家ヨリ河マデハ數歩ノミ).

3. 動作ノ行ハル、時間ノ際限ヲ表ス、*до* 10-*ти* часо́въ: *до са́маго* обѣ́да *до у́жина* (十時マデ、晝食マデ、晩食マデ). Онъ до́жилъ *до ста́рости* (彼ハ老年マデ活キ居タリ).

4. 二箇ノ事物ニ關スル時間ノ際限ヲ表シテ отъ (§ 116, VIII, 3) 及 съ (§ 128, I, 6) ト對立ス Я занима́лся отъ за́втрака *до обѣда*, а онъ отъ трёхъ часо́въ *до пяти́* по-полу́дни (我ハ朝食ヨリ晝食マデ修業セリ、シテ彼レハ午後三時ヨリ五時マデ修業セリ). Онъ про́былъ у нихъ съ утра́ *до ве́чера*, а я съ третьяго *ча́са до пя́таго* (彼ハ朝ヨリ晩マデヲ彼等ノ處ニ送リタリ、我ハ第三時ヨリ第五時マデヲ).

5. 「以前」ト云フ意ヲ表シテ по́слѣ ニ反對ス (пре́дъ § 123, II, 5 ト比考). Онъ возврати́лся домо́й *до* обѣда, *до* 2-*хъ* часо́въ, *до* воскресе́нья, *до* но́ваго го́да (彼ハ晝前ニ家ニ歸レリ)、二時前、日曜日前、新年前、*До* Рождества́ Христо́ва (紀元前).

6. 概算ノ最上數ヲ表シテ отъ (§ 116, VIII, 4) (最小數ヲ表スル) ニ對立ス、*отъ* 10-*ти до* 15-*ти* рубле́й (十留以上、十五留以下), отъ 40 *до* 45-*ти* лѣтъ (四十年以上、四十五年以下), отъ 5-ти *до* 7-*ми* фу́нтовъ (五斤以上、七斤以下).

7. 前置詞 къ ノ意義ニテ名詞 дѣ́ло, про́сьба 及ビ動詞 имѣ́ть, быть (「有ス」ノ意ニテ у ト共ニシ) ト共ニ使用セラル У меня́ *есть до васъ* (=къ вамъ ノ代リ) про́сьба (我ハ貴君ニ對シテ請願ヲ有ス). Како́е у васъ *до него́* (=къ нему́) *дѣ́ло*? (汝等ニハ彼ニ對シテ何ノ用アルヤ).

8. 否定ヲ有スル無人稱文句ニ於テ使用セラル、其際人代名詞ハ與格ト成ル、*Ему́* тепе́рь не *до прогу́лки*: у него́ иду́тъ экза́мены (彼ハ今遊歩ドヲロデハナイ、試驗中ナリ). *Мнѣ* сейча́съ не *до васъ*: мнѣ не́когда (我ニハ今、貴君ヲ相手ニシテ居ラレヌ、我ハ暇ナシ).

9. каса́ться, коснýться ト共ニ使用セラル、此動詞ガ「觸ル」ト云フ義ノ時ハ до ヲ用ヒズ、「論及ス」「關ス」ノ義ナル時ハ до ヲ用フルコモ或ハ用ヒザルコモアリ、例バ Это *до меня́* не *каса́ется* (是レハ我ニ關係ナシ). Онъ *коснýлся меня́* свое́ю руко́ю (彼ハ其手ニテ我ニ觸レタリ). Въ своёмъ разгово́рѣ мы *коснýлись* и *васъ* и *э́того предме́та* (我等ハ自分ノ談話ニ於テ貴君ノ事ニモ又此事物ニモ論及セリ).

10. *Жа́дный до* де́негъ (金錢ニ貪ナル). *Охо́тникъ до* лошаде́й (馬ヲ好ム人、馬道樂) *Охо́тница до* чте́нія рома́новъ (小說愛讀ノ女).

V. изъ ハ「ヨリ」ト譯ス.

1. 事物ノ內部ヨリ進動スルコヲ表シテ、前置詞 въ (§ 124, I, 1 內部ヘ向テノ進行ヲ表スル) ト反對ナリ、此意味ヲ以テ前置詞 вы ト綴合シタル動詞ト共ニ使用セラルヽ多シ、Возьми́те кни́гу *изъ* стола́ (机ノ中ヨリ書物ヲ取出セヨ). Положи́те кни́гу *въ* столъ (机ノ中ヘ書物ヲ入レヨ). Когда́ вы прі́е́хали *изъ* Москвы́ *въ* Петербу́ргъ? (何時、貴君ハ莫斯科ヨリ彼得堡ニ來リシヤ) Вы́йти *изъ* ко́мнаты (室內ヨリ出ツ). Вы́бѣжать *изъ* до́ма (家ヨリ驅出ス).

備考 此意義ヲ轉用シテ抽象的想念ヲ表ス、Вы́йти изъ себя́ (我レヲ忘ル). Потеря́ть *изъ* ви́ду (見失フ、忘却ス). Вы́йти *изъ* затрудне́нія (困難ヲ切リ拔ケル). Вы́йти *изъ* употребле́нія (行ハレズ). Вы́йти *изъ* мо́ды (廢タル).

2. 知識ノ根原ヲ表ス、Я узна́лъ объ э́томъ *изъ* книгъ, *изъ* газе́тъ, *изъ* журна́ловъ *изъ* о́пыта (=по о́пыту) (我レハ之ヲ書籍、新聞、雜誌、經驗ヨリシテ得タリ).

3. 出生、即チ出生地、出生ノ族籍ヲ表ス、其際副詞 ро́домъ (生レハ), по происхожде́нію (出生ハ、出身ハ), по профе́ссіи (職業ハ)等ヲ文面ニ記セズシテ其意ノミヲ文中ニ含マシムルコトモアリ、或ハ之ヲ記スルコトモアリ、但シ其族籍身分等ガ有生物ナル時ハ之ヲ複數ニ立ツ、如何トナレバ斯カル際ニハ族籍身分ハ團體ノ資義ヲ有シテ集合數詞ノ如キモノナレバナリ (前置詞 въ § 24, 20 比考)、例ハ Онъ ро́домъ *изъ* Москвы́, по происхожде́нію *изъ* дворя́нъ (彼レハ生レハ「モスクワ」ニシテ、士族出身ナリ). Онъ *изъ* куп*цовъ* (彼ハ商ニ屬ス).

4. 動詞 дѣлать (製作ス), стро́ить (建築ス), шить (縫フ)等ト共ニ用フル際、其製作、建築ノ材料ヲ表ス、但シ動詞ヲ省畧スルコアリ、例ハ Крова́ти дѣ́лаются *изъ де́рева* и *изъ желѣза* (寢臺ハ木ヨリ製シ又鐵ヨリ製ス). Этотъ я́щикъ *изъ* слоно́вой ко́сти (此箱ハ象牙製ナリ). Этотъ портсига́ръ *изъ* бума́ги (此卷烟草入ハ紙製ナリ).

5. 一個ノ事物ガ部分ヨリ成立ツ時ニ用フ、例ハ Годъ состои́тъ *изъ* 12-*ти* мѣ́сяцевъ (一年ハ十二ケ月ヨリ成ル).

6. 全體ノ數ヨリ摘示シタル一定ノ事物ヲ表ス、時トシテ之ヲ最勝級トシテ使用ス、例ハ Оди́нъ *изъ насъ* (我等ヨリノ一人). Кто-то *изъ ва́шихъ* това́рищей (貴君ノ朋友中ノ誰ナリシカ). Не́которые *изъ* ученико́въ (生徒ヨリノ或ル者等). Онъ са́мый спосо́бный *изъ* мои́хъ това́рищей (彼ハ我ガ朋友中ノ最モ才能アル者ナリ)

7. 事物發現ノ起因或ハ內情ヲ表ス、然レトモ多クハ他ノ前置詞ヲ用フルヲ常トシ之ヲ用フルハ稀ナリ、*изъ* го́рдости (=по го́рдости) (傲慢ヨリシテ), *изъ* честолю́бія (名譽心ヨリシテ) *изъ* благода́рности (感謝ノ心ヨリシテ).

8. 副詞ノ組織中ニ入リテ時日ノ事ニ關ス、*изо* дня въ день (日々相續テ), *изъ* го́да въ годъ (年々相續テ), *и́здавна* (久シキ以前ヨリ), *и́зстари* (往古ヨリ).

9. 動詞 стрѣля́ть (發射)ト共ニシテ武器ヨリスル發射ヲ云フ、但シ「鐵砲ヲ」發射スト云ハズシテ「鐵砲ヨリ」發射ト云フ、*стрля́ть изъ* ружья́, *изъ* рево́львера, *изъ* пу́шки (銃ヨリ發射ス、拳銃ヨリ發射ス、大砲ヨリ發射ス).

VI. Изъ-за「後ヨリ、蔭ヨリ、事故ヨリシテ」ト譯ス

1. 事物ノ後面、背後、裏面等凡テ隱レタル方面及界線外ヨリ進ミ出ルヲ表ス、Вста́ньте *изъ-за стола́* (卓ヨリ起立セヨ). Они уже возврати́лись *изъ-за грани́цы* (彼等ハ既ニ外國ヨリ歸レリ). Она смотрѣ́ла *изъ-за две́ри* (彼女ハ戸ノ蔭ヨリ見タリ).

2. 起因及事故ヲ表ス、「誰ノ事ヨリシテ爭ヲ生ス」等、*Изъ-за чего́* они поссо́рились?—*Изъ-за* пустяко́въ (彼等ハ何事ヨリシテ爭ヒシヤ、些細ノ事ヨリシテ).

VII. изъ-подъ「下ヨリ」ト譯ス、事物ノ下部ヨリ進行スルコトヲ表ス、Змѣя́ вы́ползла *изъ-подъ до́ма* (蛇ハ家ノ下ヨリ這出セリ). Ло́жка упа́ла подъ столъ, доста́ньте её *изъ-подъ стола́* (匙ハ卓ノ下ニ落チリ、之ヲ卓ノ下ヨリ取レヨ).

VIII. отъ「ニ因テ」「ヨリ」「カラ」ト譯ス

1. 事物ノ側面ヨリ進動スルヲ表シ前置詞 къ (事物ニ向テ進行ヲ表ス)ニ反對ス Отодви́ньте стулъ *отъ стола́* (椅子ヲ卓ヨリ離シ動カセヨ). Отодви́ньтесь *отъ меня́* (我レヨリ離レヨ). Придви́ньте стулъ къ столу́ (椅子ヲ卓ノ方ニ寄セヨ).

2. 場所ヲ以テ相隔リタル二物ノ距離ノ起點ヲ表シテ前置詞 до (其距離ノ終極點ヲ表スル)ト對立ス、*Отъ* Петербу́рга *до Москвы́* ско́лько вёрстъ? (彼得堡ヨリ莫斯科マデ幾里ナルヤ)

3. 時ヲ以テ相隔リタル二物ノ時間ノ起點ヲ表シテ前置詞 до (§ 116, IV, 2 同ク終極點ヲ表スル)ト對立ス、*Отъ* Рождества́ Христо́ва до на́шего вре́мени (基督誕生ヨリ現時マデ)、然レトモ時ニ關シテハ此前置詞ヲ用フルヿ餘リ多カラズシテ、同意義ヲ有スル前置詞 съ (§ 128, I, 6)ヲ用フルヲ常トス

4. 概算ノ最小數ヲ表シテ前置詞 до (§ 116, IV, 6) ト對立ス:

5. 事物ヲ避クル防禦ヲ表ス、Зо́нтикъ *отъ дождя́, отъ со́лнца* (雨傘、日傘). *Лека́рство отъ ка́шля* (咳ノ藥).

6. 原因ヲ表ス、 Онъ у́меръ *отъ горя́чки, отъ холе́ры, отъ чахо́тки* (彼レハ熱病、コレラ、肺病ニ因テ死セリ). Дрожа́ть *отъ хо́лода* (寒氣ニ因テ顫ヘル). *Отъ* э́тихъ непрія́тностей онъ заболѣ́лъ (此不愉快ヨリシテ、彼ハ病ニ罹レリ). *Отъ* ра́дости (喜悦ヨリシテ).

7. 事物ノ一部分ヲ成セトモ、其部分ガ全體ヨリ離レタル時、勿論其間ニ立ツベキ形動詞「離レタル」ヲ省略シタルナリ、Цѣпо́чка *отъ* часо́въ (「時計ノ鎖」但シ時計ヨリ離シタル鎖ヲ指ス、時計ニ結ヒ付ケタル鎖ニ非ズ、尚、前置詞 § 116, IX, 4 ヲ比考スベシ). Ключъ *отъ* вися́чаго замка́ (海老錠ノ鍵).

Но́жка *отъ* стола́ (卓ノ脚、即チ卓ヨリ離脱シタル脚). Ве́тка *отъ* де́рева (木ヨリ離シ取タル枝). Взя́ли ли вы ключъ *отъ* пи́сьменнаго стола (貴君ハ書卓ノ鍵ヲ取リシヤ)?

8. 或ル動詞及ソレト同一語根ノ名詞ト共ニシテ、人ヨリ受動スルヲ表ス、例ハ

зави́сѣть отъ кого́?—Это *отъ меня́* не *зави́ситъ* (是レハ我レノ權内ニ非ス)

заслужи́ть что отъ кого́? Онъ *заслужи́лъ* похвалу́ *отъ* свои́хъ учителе́й (彼レハ自分ノ教師ヨリ稱譽ヲ被リタリ).

получа́ть,—чи́ть что отъ кого́?—письмо́ *отъ* бра́та (兄弟ヨリ手紙ヲ受ク).

роди́ться отъ кого́? Онъ *роди́лся отъ* бѣ́дныхъ, но о́чень че́стныхъ роди́телей (貧ナレ𪜈然レ𪜈清廉ナル兩親ヨリ彼ハ生レタリ).

происходи́ть, —изойти́ отъ кого́? Всѣ лю́ди *происхо́дятъ отъ* одного́ челове́ка (人類ハ凡テ一人ヨリ生ズ).

слы́шать, услы́шать отъ кого?—*отъ* знако́мыхъ (知人ヨリ聞ク).

усво́ить отъ кого?—*отъ* това́рища (朋友ヨリ聞ク).

9. 或ル動詞及ソレト同一ノ語根ヨリ生シタル名詞ニ共ニシテ事物ヲ離レ遠サカリ逃カレ免カル等ノ意ヲ表ス、殊ニ多ク使用セラル、此種ノ動詞ハ次ノ如シ

воздержи́ваться,—жа́ться отъ чего?—*отъ* гнѣва (憤怒ヲ制ス).

избавля́ть,—вить кого отъ кого? отъ чего? Онъ изба́вилъ меня́ *отъ* бѣ́ды (彼レハ困難ヨリ我ヲ救ヘリ).—ся отъ кого? отъ чего?—*отъ* враго́въ (敵ヨリ免カル).—отъ бѣ́ды (困難ヨリ免カル).

освобожда́ть,—ди́ть кого отъ кого? отъ чего? Освободи́те меня *отъ* э́тихъ заня́ній (此業務ヨリ我レヲ遁レシメヨ).

отвыка́ть, отвы́кнуть отъ кого? отъ чего? Онъ отвы́къ *отъ насъ* и на́шихъ поря́дковъ (彼ハ我等ノ風習ヲ脱シタリ).

отдѣ́лываться,—латься отъ кого? отъ чего?—*отъ* ску́чнаго господи́на (退屈ナル人ヨリ免カル),—*отъ* экза́меновъ (試驗ヲ免カル)

отпира́ться, отпере́ться отъ чего? Онъ отпира́ется *отъ* своего́ обѣща́нія (約言ヲ取消ス).

отрека́ться. отре́чься отъ чего́? отъ кого́?—*отъ насъ* (誰々ヨリ離脱ス),—*отъ* свои́хъ словъ (言ヒシ事ヲ取消ス).

отрѣша́ть,—ши́ть кого́ отъ чего́?—*Его отрѣши́ли отъ* до́лжности (彼ヲ職ヨリ免セリ).

отуча́ть,—чить кого́ отъ чего́? Я *отучи́лъ* его́ *отъ* э́того (此習慣ヲ脱セシム).

—ся отъ чего́? *Отучи́тесь отъ* дурны́хъ привы́чекъ (惡習ヲ脱セヨ).

предостерега́ть,—ре́чь кого́ отъ чего́? Я *предостерегъ́лъ* его́ *отъ* э́того (我ハ之ヲ彼ニ豫戒シタリ).

предохраня́ть,—ни́ть кого́ отъ чего́? Онъ *предохрани́лъ меня отъ* опа́сности (彼ハ我ヲ危險ヨリ豫防シタリ).

увольня́ть,—нить, уво́лить кого́ отъ чего́? По разстроенному здоро́вью *его уво́льнили* (=уво́лили) *отъ* слу́жбы (健康衰弱ノ爲ニ彼ヲ退職セリ).

удéрживаться,—жáться отъ чего? Я не могъ *удержáться отъ* смѣ́хa (笑ヲ制スル能ハサリシ).

уклоня́ться,—ни́ться отъ чего́? Я *укло́нился отъ э́того* (我ハ之ヲ避ケタリ)

умира́ть,—умере́ть *отъ чего́? съ чего́? какъ?* Онъ *у́меръ отъ* чумы́ (疫病ニテ), *съ* горя (憂苦ヨリシテ), *съ* тоски́ (鬱屈ヨリシテ), наси́льственною смéртью 變死)

IX. *у* ハ「何々ニ」ト譯シ

1. 人ニ關シテ中動詞 быть, быва́ть, жить, находи́ться, служи́ть 等ト共ニシテ、同一ノ場所ニ於テ甲ノ人ガ乙ノ人ニ接近シテ存在スルヲ表ス、Я былъ у отца́ (我ハ父ノ處ニ在リタリ、往タリ). Она *живе́тъ у* ма́тери (彼女ハ母ノ處ニ住居ス) Онъ *слу́житъ у моего́* бра́та (彼ハ我兄ノ許ニ勤務ス).

2. 動詞 быть ト共ニシテ、имѣ́ть ト同一ノ意義ヲ有シ、生物ノ所有ヲ表ス、但シ имѣ́ть ハ抽象的事物ニ關シテ使用スルヿ多シ Я имѣ́ю обыкнове́ніе встава́ть ра́но (我ハ早ク起ル習慣ヲ有ス). Имѣ́ю честь донести́ вамъ (貴下ニ具申スルノ榮譽ヲ有ス、此段申上候也). Имѣ́йте снисхожде́ніе къ несча́стнымъ (不幸ナル者ニ對シテハ寛容ノ心ヲ有セヨ)、而シテ通常ノ事物ニ關シテハ быть ト *у* ヲ共ニ用フ、*У меня́ есть* бра́тья (我ハ兄弟ヲ有ス) *У него́ нѣтъ* пера́ (彼ハペンヲ所持セズ). *Есть ли у нихъ* кни́ги (彼等ハ書籍ヲ所持スルヤ)? *Нѣтъ ли у нихъ* ножа́? (彼等ハ小刀ヲ所持セザルヤ)

3. 無生物ニ關シテハ其物ニ接近シテ存在スルヲ表シ副詞 о́коло (近邊)ヨリモ接近ノ度ヲ強クス、Мы сидѣ́ли *у окна́* (窓ニ接シテ座セリ). Мы сидѣ́ли *о́коло окна́* (窓ノ近傍ニ座セリ) Мой домъ *у са́мого о́зера*, а да́ча *о́коло мо́ря* (我家ハ湖水ニ接シ、別莊ハ海邊ニ在リ).

4. 事物ノ外面ニ存スル一部分ヲ表シ且ツ其事物ニ固着シタル狀態ヲ指ス、即チ其間ニ立ツベキ形動詞「存スル所ノ」ヲ省略シタルナリ (前置詞 отъ § 116, VIII, 7 對照スヘシ)

Цѣпо́чка *у* часо́въ (時計ノ鎖、即チ時計ニ結ヒ付ケ有ル鎖). Дно *у* ведра́ (桶ノ底). Голова́ *у слона́* велика́ (象ノ頭ハ大ナリ) Но́жка *у э́того стола* шата́ется (此卓ノ脚ハ搖レル) Но́жка отъ стола (卓ヨリ離レタル脚).

備考 同一ノ意義ヲ以テ前置詞 на 及 въ (前置格ニ於テ) ヲモ使用ス、例ハ Весно́ю ли́стья *на* всѣ́хъ дере́вьяхъ быва́ютъ зе́лены (春ハ諸木ノ葉綠色トナル). Желто́къ *въ* яйцѣ́ (卵ノ黃身).

5. 或ル動作ノ行ハルヽ際中ニ立會ノ意ヲ表ス、Сего́дня мы *были́ у вечéрни* (今日我等ハ晚課ノ祈禱ニ赴ケリ). Тепе́рь онъ уже́ не *у дѣла* (彼ハ今ハ最早ヤ執務中ナラズ).

6. 或ル動詞ト共ニシテ、人ヨリ事物ヲ受ケ取ル等ノ意ヲ表ス多少ノ例外アリ、前置詞 отъ (§ 116, VIII, 8 比考スベシ)、此種ノ動詞中、殊ニ多ク使用セラルヽハ次ノ如シ.

брать, взять у кого́?—*У кого* вы *взя́ли* э́ту кни́гу? (此書ヲ誰ヨリ持來リシヤ).

выи́грывать, вы́играть что? у кого? Онъ *вы́игралъ у меня́* нѣ́сколько рубле́й (彼ハ賭博ニテ我ヨリ數金ヲ勝チ取リタリ).

выма́нивать,-нить что? у кого? Онъ *выманилъ у отца́* послѣдніе де́ньги (彼ハ父ヨリ金ヲ殘ラズ騙シ取レリ).

доставáть, доста́ть у кого? *У кого* вы *достáли* э́ту кни́гу? (此書ヲ誰ヨリシテ得シヤ).—Я *достáлъ* её *у* одного́ своего́ това́рища (我ハ之ヲ友人ヨリ得タリ).

занимать,-нять что? у кого? Онъ *занялъ у бра́та* де́сять рублей́ (彼ハ兄ヨリ十圓借リタリ)

красть, укра́сть что? у кого? Онъ *укра́лъ у меня́* всѣ де́ньги (彼ハ我ヨリ悉クノ金ヲ盜メリ).

отбивáть,-би́ть что? у кого? Онъ *отби́лъ у насъ* всѣхъ покупа́телей (彼ハ我等ノ買手ヲ離失セシメタリ).

отбирáть, отобрáть что? у кого? Она *отобрáла у него́* э́то письмо́ (彼女ハ此手紙ヲ彼ヨリ取リ上ゲタリ).

отнимáть,-ня́ть что? у кого? Онъ *отнялъ у меня́* кни́гу (彼ハ書籍ヲ我ヨリ取去レリ).

перенимáть,-ня́ть что? у кого? Онъ *перенялъ у отца́* всѣ его́ привы́чки (彼レハ父ヨリ凡テノ父ノ習慣ヲ摸倣シタリ).

покупáть, купи́ть что? у кого? Я *купи́лъ* ло́шадь *у сосѣда́* (我レハ隣人ヨリ馬ヲ買ヘリ).

похищáть,-хи́тить что? у кого? Онъ *похитилъ у меня́* нѣсколько вещей́ (彼レハ數品ヲ我ヨリ奪去レリ).

,проси́ть. попроси́ть *чего́? у кого?* Она *просила у меня́* совѣта (彼女ハ我ニ相談ヲ請ヘリ)—2, *кого? о чёмъ?* Я уже *просилъ* сестру́ объ э́томъ (我ハ此事ニ付テ姉妹ニ請フタリ)—3, § 151, III, 4

спра́шивать, спроси́ть *о чёмъ? у кого?* *Спроси́* объ э́томъ *у бра́та* (此事ヲ兄弟ニ問ヘ)—2, *что? у кого?* *Спроси́те* книгу *у* сестры́ (書籍ノ事ヲ姉妹ニ問合セヨ)—3, *кого?*—ученико́въ (生徒ニ質問ス、生徒ニ問ヲ掛ク) *Васъ спра́шиваетъ* како́й-то господи́нъ (何處ノ人ナルカ貴君ニ面會シタシト云ヒテ來レリ).

тре́бовать, потре́бовать чего? у кого? *Потре́буйте у него́* объясне́нія (彼ヨリ說明ヲ要求セヨ) §151, III, 5

учи́ться, на—*чему́ у кого?* Ру́сскому языку́ я *учу́сь у бра́та*, а му́зыкѣ и рисова́нію *у* сестры́ (我ハ兄ヨリ露語ヲ學ビ、姉ヨリ音樂ヲ學ブ).

§ 117 與格ノミヲ支配スル前置詞 къ

此前置詞ハ事物ニ向テ進行スル一(内部或ハ外部ノ進行)ヲ表ス、或ハ稀ニハ其事物ニ到達セシヲ表ス.

1. 一定ノ事物ニ向テ進行スル一ヲ表シ前置詞 отъ (事物ヲ出發シタル進行)ト方向ヲ反對ス

идти́ *къ до́му* 家ヲ指シテ往ク　　отпра́виться *къ отцу* 父ノ許ニ赴ク
ѣхать *къ рѣкѣ* 川ヲ指シテ乘行ク　　нести́ что-нибу́дь *къ сестрѣ* 姉妹ニ物ヲ持往ク
бѣжа́ть *къ бра́ту* 兄弟ヲ指シテ走ル

2. 此意義ヲ以テ、時トシテ前置詞 на ノ代リニ用ヒ、世界各國等ヲ指シテ進發スルヲ表ス (§ 125, I, 3) 又方位ヲ表ス. Мы до́лго е́хали по направле́нію *къ восто́ку* (на восто́къ ノ代リニ) (我等ハ東ヲ指シテ長ク乘行ケリ). Петербу́ргъ лежи́тъ *къ се́веро-за́паду* (на се́веро-за́падъ ノ代リ) отъ Москвы́ (彼得堡ハ「モスクワ」ヨリ西北ニ在ス).

3. 事物ニ到達スルヲ表シ、前置詞 отъ ニ對立ス、殊ニ при 及 подъ ト綴合シタル動詞ト共ニ使用セラル、例ハ

прилти́ къ до́му 家ニ來ル
прибѣжа́ть къ рѣкѣ 川ニ駈付ケル
прие́хать къ родны́мъ 親族ノ許ニ來ル
подъе́хать къ до́му 家ニ乘リ近ツク
подбѣжа́ть къ рѣкѣ 川ニ走リ近ツク
подойти́ къ бра́ту 兄弟ノ許ニ近寄ル

4. 通達、傳達等ヲ表シテ前置詞 отъ ニ對立ス. Письмо́ *отъ* жены́ *къ му́жу* (妻ヨリ夫ニ與フル手紙). Телегра́мма *отъ* бра́та *къ сестрѣ* (兄弟ヨリ姉妹ニ達スル電報). Насле́дство перешло́ *отъ* отца́ *къ сыновья́мъ*, а *отъ* ма́тери *къ дочеря́мъ* (遺産ハ父ヨリ男子ニ傳ハリ、母ヨリ女子ニ傳ハレリ).

5. 前置詞 при ト綴合シタル動詞ト共ニシテ事物ヲ附合スルヲ表ス、殊ニ多ク使用セラル、此種ノ動詞ハ次ノ如シ.

прибавля́ть,-вить къ чему? 及 кому? *Ему прибави́ли* жа́лованья (俸給ヲ彼ニ增セリ) *Приба́вьте къ* его́ *жа́лованью* не́сколько рубле́й (彼レノ俸給ニ數圓ヲ增加セヨ)

прибива́ть,-би́ть что, къ чему? Дождь *прибилъ* пыль *къ земли́* (雨ハ埃ヲ地ニ打付ケタリ).

привя́зывать,-за́ть что, кого къ чему, къ кому? *Привяжи́те* соба́ку *къ но́жкѣ* стола́ (卓ノ脚ニ犬ヲ縛リ付ケヨ).

приде́лывать,-лать что къ чему? *Придѣлайте къ э́тому столу́* замо́къ (此卓ニ錠ヲ附ケヨ)

прикла́дывать, прилага́ть,-ложи́ть что къ чему? *Къ кни́гѣ прило́жено* оглавле́ніе (書籍ニ目次ヲ附記セリ).

приклеи́вать,-ле́ить что къ чему? *Прикле́йте* э́тотъ листъ *къ тетра́дкѣ* (此一葉ヲ手帳ニ貼着ケヨ).

прикомандирова́ть кого къ чему, къ кому? Его *прикомандирова́ли къ* нашему *полку́* (我ガ聯隊附キトシテ彼ヲ派遣セリ).

присовокупля́ть,-пи́ть что къ чему? *Къ э́тому* я до́лженъ *присовокупи́ть* и сле́дующее (我ハ之ニ加フルニ左ノ事ヲ以テセザルヲ得ズ).

присоедини́ть,-ни́ть что къ чему? *Присоедини́йтесь къ намъ* (我等ト合併セヨ).

приставля́ть,-вить что къ чему? *Поста́вьте* стулъ *къ столу́* (椅子ヲ卓ノ傍ニ据付ケヨ).

пристра́ивать,-ро́ить что къ чему? Его *пристро́или къ* хоро́шему *мѣсту* (彼ヲ好キ役職ニ口入シタリ) *Къ до́му пристро́енъ* фли́гель (家ノ傍ニ長屋ヲ增築ス)

причисля́ть,-лить кого къ чему, къ кому? Его *причи́слили къ* на́шему *министе́рству* (彼ヲ我ガ省ノ役員ニ加ヘタリ).

6. 轉用ノ意義ヲ以テ諸種ノ動詞及ソレト同一語根ノ名詞、殊ニ前置詞 при ト綴合シタル動詞ト共ニ使用ス、例ハ

гото́вить къ чему? Онъ *гото́витъ* уро́ки *къ* за́втрашнему *дню* (彼レハ日課ヲ明日ノ爲ニ準備ス). Я его *гото́вилъ къ поступле́нію* въ учи́лище (我ハ彼レヲ教ヘテ學校入學ノ準備ヲ與ヘタリ).

гото́виться къ чему? Онъ *гото́вился къ* экза́менамъ (彼レハ試驗ヲ受クル準備ヲ成セリ).

ласка́ться, приласка́ться къ кому́? Ко́шка *ласка́ется къ* де́тямъ (猫ハ小供ニ馴レ付ク)

клони́ться къ чему? *Къ чему клони́тся* ва́ша ре́чь? (貴君ノ所說ハ何ニ傾クヤ).

назнача́ться,-чи́ться къ чему? Нашъ полкъ *назнача́ется къ* отправле́нію на войну́ (我ガ聯隊ハ戰爭派遣ニ任定サレタル). Что *назначено къ* за́втрашнему *дню*? (明日分ニ何ヲ課セシヤ)

обраща́ться, обрати́ться къ кому съ чѣмъ? Съ свое́ю про́сьбою *обрати́тесь къ* моему́ *отцу́* (其請願ヲ以テ我ガ父ニ申出デヨ).

относи́ться, нести́сь къ кому? къ чему? Онъ *относится къ подчинённымъ* нехорошо (彼ハ惡シク下級者ニ對ス) Это *къ дѣлу не отно́сится* (是レハ其事ニ關係セズ).

побужда́ть, дить къ чему? Что васъ *побудило къ э́тому*? (何ガ汝ヲ斯ク爲サシメシヤ)

прибѣга́ть,-гнуть съ просьбою къ кому? Онъ *прибѣгъ* съ э́тою про́сьбою *къ своему́ нача́льнику* (彼ハ此請願ヲ以テ長官ニ哀願セリ).

привыка́ть,-кнуть къ кому? къ чему? Онъ уже́ *привы́къ къ намъ* и *къ* нашимъ *поря́дкамъ* (彼ハ既ニ我等ト馴レ且ツ我等ノ風ニ慣レタリ) Привы́чка *къ* труду́ (勞働ノ習慣)

приводи́ть,-вести́ къ чему? *Приводи́ть* къ прися́гѣ (宣誓式ヲ行ハシム).

привя́зываться, за́ться къ кому? Соба́ка *привя́зана къ* челове́ку (犬ハ人ニ馴ツケリ).

приговори́ть къ чему?—*къ* тюре́мному *заключе́нію* (禁錮ニ宣告ス).

привлека́ть,-вле́чь къ чему?—*къ* суде́бной *отвѣтственности* (法廷ニ訴フ).

принадлежа́ть *къ чему*? (*кому*? ニハ къ ヲ用ヒズ) Садъ *принадлежи́тъ къ до́му* (園ハ家ニ附屬ス). Садъ *принадлежи́тъ мнѣ* (園ハ我レノ所有ナリ)

принара́вливаться,-ви́ться къ кому? къ чему?—*къ лю́дямъ* (人ニ投合ス)—*къ мѣ́стнымъ обы́чаямъ* (土地ノ風習ニ應ズ).

присма́триваться,-ре́ться къ кому? къ чему? Онъ ещё *присма́тривается къ нама́ъ* и на́шимъ *поря́дкамъ* (彼ハ我等ノ秩序ヲ注意シテ視察ス).

пристрасти́ться къ чему?—*къ* ка́рточной *игрѣ́* (「カルタ」ニ耽ル).

приставать, —ста́ть къ кому? Зачѣ́мъ вы *пристаёте къ нему́*? (何故ニ汝ハ彼ニ向テウルサク願フヤ).

приступа́ть,-пи́ть къ чему?—*къ* рабо́тѣ, *къ* заня́тіямъ (業務ニ着手ス).

присужда́ть,-суди́ть къ че́му? Его *присуди́ли къ* сме́ртной ка́зни (死刑＝判決セリ).

пріуча́ть,-чи́ть къ чему́? Кто его *пріучи́лъ къ э́тому*? (誰ガ彼ニ之ヲ教授セシヤ).

ревнова́ть *кого къ кому*? Онъ *ревну́етъ* свою́ жену́ *къ ка́ждому* (彼ガ各人ニ對シテ自身ノ妻ヲ疑ヒ嫉妬ス).

склоня́ть,-ни́ть къ чему?—*къ* предпрія́тію (計畫事業ニ賛成セシム).

стреми́ться къ че́му?—*къ* популя́рности (名ヲ賣ルコトニ傾意ス).

7. 自動詞ヨリ生ゼシ或ル名詞ト共ニ使用セラル、此種ノ名詞ハ本來、生格ト成ルベキ理 (§ 156, II, 2) ナレモ、此間ニ「何々ニ關シテ」ト云フ語ヲ省略シ、而シテ前置詞 къ ハ實ハ此省略ノ動詞ニ關係ヲ有ス

любо́вь къ кому? къ чему? *Любо́вь къ* Бо́гу, *къ* лю́дямъ, *къ* ро́динѣ (神ニ對スル愛、人ニ對スル愛、國ニ對スル愛). *Люби́ть* Бо́га, люде́й, ро́дину (神ヲ愛ス、人々ヲ愛ス、生國ヲ愛ス).

не́нависть къ кому? къ чему?—*ко* врага́мъ,-*къ э́тому* мѣ́сту (敵ニ對スル嫌惡、此地ニ對スル嫌惡). Ненави́дѣть враго́въ, это мѣ́сто (敵ヲ惡ム).

почте́ніе къ кому́?—*къ* ста́ршимъ (長者ニ對スル尊敬). Почита́ть ста́ршихъ.

презре́ніе къ кому?—*къ* ни́зшимъ (下等ノ者ニ對スル輕蔑). Презира́ть ни́зшихъ

8. 與格ヲ要求スル動詞ヨリ生セシ名詞ト共ニ使用セラル、此種ノ名詞ハ與格(前置詞ナキ)ト成ルベキ理ナレトモ、此間ニ「何々ニ關スル所ノ」ト云フ語ヲ省略シ、而シテ前置詞 къ ハ實ハ此動詞ニ關係ヲ有ス

вѣ́ра къ кому? къ чему?—*къ* лю́дямъ (人ニ對スル信念),—*ко* всѣ́*кому* слу́х*у* (有ラユル風説ニ對スル信念). Вѣ́рить лю́дямъ, всѣ́*кому* слу́х*у*.

довѣ́ріе къ кому? къ чему?—*къ* това́рищамъ (朋友ニ對スル信用),—*къ* газе́тамъ (新聞ニ對スル信用). Довѣря́ть това́рищамъ, газе́тамъ (朋友ヲ信用ス、新聞ヲ信用ス).

доброжела́тельство къ кому?—*къ* то́варищамъ (朋友ニ對シテノ好意).

за́висть къ кому?—*къ* бра́ту (兄弟ニ對スル羨妬). Зави́довать бра́ту (兄弟ヲ羨ム).

моли́тва *къ* Бо́гу (神ニ向フ祈禱) Моли́ться Богу (神ニ祈ル).

недовѣ́ріе къ кому? къ чему?—*къ* подчинённымъ (屬僚ニ對スル不信任) Не довѣря́ть подчинённымъ (屬僚ヲ信任セズ).

сострада́ніе къ кому? къ чему?—*къ* несча́стнымъ (不幸ナル者ニ對スル同情),—*къ* несча́стію (不幸ニ對スル同情). Сострада́ть несча́стнымъ (不幸ナル者ニ同情ヲ表ス).

усе́рдіе къ кому? къ чему?—*къ* дѣ́лу (事務ニ對スル熱心)

9. 此意義ヲ以テ次ノ如キ名詞ト共ニ使用セラルルコト多シ

охо́та къ чему?—*къ* чте́нію (讀書ノ望).

по́водъ къ че́му?—*къ* войнѣ́ (戰爭ノ起因)

причи́на къ чему?—*къ ссо́рѣ* (爭端ノ原因).
путь къ чему?—*къ успѣ́ху* (進歩ノ途).
руково́дство къ чему?—*къ изуче́нію исто́ріи* (歴史攻究ノ指導).
стра́сть къ чему?—*къ вину́* (酒ノ慾癖).

10. 此意義ヲ以テ次ノ如キ形容詞及、形容詞ト同語根ノ名詞、ト共ニ使用セラル

бли́зкій *къ кому*? къ чему?—*ко мнѣ* (我ガ住居ニ近キ),—*къ мо́рю* (海ニ近キ); 2,—*кому*?—*мнѣ́* (我ニ近キ).

гото́вый къ чему?—*къ отъѣ́зду* (出立ノ用意アル), 2—*на что*?—*на отъѣ́здъ* (出立ニ同意ナリ).

жесто́кій къ кому?—*къ* подчинённымъ (屬僚ニ對シテ殘酷ナル).

почти́тельный къ кому?—*къ ста́ршимъ* (長者ニ對シテ敬意アル).

привѣ́тливый *къ кому*? 及 *съ кѣмъ*?—*къ ни́зшимъ, съ ни́зшими* (下級ノ者ニ對シテ厚遇ナル).

равноду́шный къ кому? къ чему?—*къ намъ* (我等ニ冷遇ナル),—*къ свое́й* службѣ (自身ノ職務ニ冷淡ナル).

спосо́бный *къ чему*?—*къ му́зыкѣ*, (音樂ノ才能アル), 2—*на что*?—*на тако́е дѣ́ло* (斯カル事ヲ行ヒ易キ).

холо́дный къ кому?—*ко мнѣ* (我レニ冷淡ナル).

11. 名詞 дѣ́ло, про́сьба (§ 116, IV, 7.) ト共ニ使用セラル

12. 概畧的ノ時(殊ニ未來ニ關スル)ヲ表ス. Онъ обѣща́лъ возврати́ться *къ двумъ часа́мъ, къ воскресе́нью, къ концу́ го́да* (彼レハ二時頃ニ歸ルヲ約セリ)日曜頃ニ際シテ、年末頃ニ際シテ

13. 副詞ノ意義ヲ以テ他ノ語ト共ニ使用セラル、アリ、例ハ *къ сча́стію* (幸ニシテ), *къ несча́стію* (不幸ニシテ), *къ сожалѣ́нію* (惜哉), *къ тому́ же* (之ニ加フルニ). *Къ сча́стію*, онъ скоро обрати́лся къ до́ктору (幸ニシテ彼ハ速ニ醫者ニ診察ヲ乞ヘリ). *Къ сожалѣ́нію*, меня́ не было до́ма, когда́ онъ приходи́лъ (惜哉、彼ノ來リシ際ニハ我ハ家ニ在ザリシ). *Къ тому́ же* мнѣ и не́когда было (加フルニ、我ニハ暇モナカリシ).

§ 118. 役格ノミヲ支配スル前置詞 про, чрезъ (че́резъ), сквозь.

1. Про. 此前置詞ハ他ノ前置詞ノ代リニ使用セラレ殊ニ俗語ニ於テ使用セラル

1. 話柄及ヒ思想ノ題ト成ル事物ノ事ヲ表シテ前置詞 о ノ代リニ使用セラル、Часто́ ли они́ говори́ли *про меня́* (=обо мнѣ)?(彼等ハ屢々我レノ事ヲ話セリ). Онъ разсказалъ намъ *про всё* (=обо всёмъ)(彼レハ凡テノ事ヲ我等ニ語レリ). Онъ *про васъ* (=объ васъ) ничего́ не зна́етъ (彼ハ貴君ノ事ヲハ毫モ知ラズ).

2. 目的ヲ表シテ前置詞 для ノ代リニ使用ス、但シ或ル文句ニ於テノミナリ、例ハ *про* себя́ (自身ノ爲ニ), *про* всякій слу́чай (若シモノ場合ノ爲ニ), *про* запа́съ (豫備ノ爲ニ)、

II. чрезъ (че́резъ).

I. 事物ノ表面ヲ通リテ進行スルヲ表ス、例バ Ѣхать *че́резъ* рѣ́ку (河ヲ乗越ス). Перепры́гнуть *че́резъ* ровъ (溝ヲ跳越ス)、時トシテハ事物ノ内部ヲ通過スルヲ表ス但シ事物ノ内部ニ存スル部分ヲ轉動セズシテ(前置詞 сквозь ト比考スベシ)例ハ Ѣхать *че́резъ* го́родъ (市中ヲ通過ス). Идти́ *черезъ* лѣсъ (林中ヲ通行ス).

2. 時ニ關シテ「經テ後ニ」ノ意ヲ表シ спустя́ ト同意義ニシテ前置詞 за (§ 121, I, 2.)ニ反ス. *черезъ* часъ (一時間ヲ經テ), *че́резъ* не́дѣлю (一週間ヲ經テ). *черезъ* мѣ́сяцъ, *черезъ* годъ, *черезъ* пять *лѣтъ* (一ケ月ヲ經テ、一年ヲ經テ、五ケ年ヲ經テ). Я возвращу́сь *черезъ* че́тверть ча́са (十五分ヲ經テ後、我ハ歸ラン) Онъ поступи́лъ въ учи́лище *черезъ годъ* (=спустя́ годъ) послѣ васъ, а его братъ *за́ годъ* до васъ (彼ハ貴君ヨリ一ケ年後ニ學校ニ入レリ、シテ彼ノ兄弟ハ貴君ヨリ一ケ年前ニ入校セリ)

3. 時トシテハ「隔テ、」ノ意ヲ有ス、例ハ Въ на́шемъ учи́лищѣ вече́рнія заня́тія быва́ютъ *черезъ день* (我ガ校ニ於テハ夜學課ハ隔日ニ行ハル) Онъ принима́етъ лека́рство *черезъ ка́ждые два ча́са* по столо́вой ло́жкѣ (彼ハ毎二時間ヲ隔テ、食用匙一杯ヅヽ藥ヲ服ス).

4. 「誰ノ手ヲ經テ」ノ意ヲ表ス *черезъ* бра́та, *черезъ* сестру́, *черезъ* знако́мыхъ (兄弟ノ手ヲ經テ、姉妹ノ手ヲ經テ、知人ノ手ヲ經テ). *Че́резъ кого́* онъ присла́лъ вамъ эти кни́ги?—*Черезъ* бра́та (彼ハ誰ノ手ヲ經テ此書ヲ貴君ニ遣セシヤ、兄弟ノ手ヲ經テ).

III. Сквозь ハ事物ノ内部ヲ貫キテ、通過スルノ意ニシテ其際内部ニ存スル物ヲ壓動シテ通貫スルノ意義ヲ以テ черезъ ト異ナル、此前置ハ稀ニ使用セラル. Проба́ться *сквозь* толпу́ (群集ヲ通リ抜ケル). Смотре́ть *сквозь* па́льцы (指ノ間ヨリ覗ル、「見テ知ラヌ顔スル」). Черни́ла протека́ютъ *сквозь* бума́гу (インキハ紙ヲ通シ抜ク).

§ 119. 造格ノミヲ支配スル前置詞 надъ

1. 事物ノ上ニ於ケル進行或ハ在留ノ意ヲ表ス但シ其事物ニハ觸レザルナリ、此點ヲ以テ前置詞 на ト異ナル、Ла́мпа вися́ть *надъ столо́мъ* (卓ノ上ニランプハ釣リ掛カル). Лампа стои́тъ *на столѣ* (ランプハ卓上ニ立ツ). Пти́цы лета́ютъ *надъ о́зеромъ* (鳥ハ湖水ノ上ヲ飛ブ).

2. 轉用ノ意義ニ於テハ動作ヲ施サントセル事物ニ關シテ、例ハ

ду́мать, заду́маться надъ чѣмъ? *Надъ чѣмъ* вы *заду́мались*? (何事ニ關シテ貴君ハ思ヲ凝ラセシヤ)

сде́лать о́пытъ надъ кѣмъ? надъ чѣмъ? (誰ノ身ニ、何物ニ實驗ヲ施ス). Онъ сде́лалъ о́пытъ надъ больны́ми (彼ハ病人ニ實驗ヲ施セリ).

испыта́ть что? надъ кѣмъ? Я *испыта́лъ* это *надъ* собо́ю (我ハ之ヲ自身ノ上ニ試ミタリ)

производи́ть опытъ надъ кѣмъ? надъ чѣмъ? Произведёмъ опыть *надъ* соба́кою (犬ノ身ニ實驗セン).

трудúться надъ чѣмъ? Я дóлго *трудúлся надъ* рѣшéніемъ э́той задáчи (我ハ久シク此問題ノ解決ニ力ヲ盡シタリ).

3. 同シク、他ノ事物ニ對シテ優勝、超越、權勢等ヲ有スルヲ表ス、而シテ次ノ如キ動詞並ニソレト同語根ノ名詞ト共ニ使用セラルヽコト多シ

возвышáться,-вы́ситься надъ чѣмъ? Холмъ *возвышáется надъ всéю* окрéстностью (岡ハ全體ノ附近ノ地ノ上ニ高マル) Мы *стояли надъ* прóпастью (我等ハ斷崖ノ上ニ立テリ).

госпóдствовать надъ кѣмъ? надъ чѣмъ? Человѣ́къ *господствуетъ надъ* свои́ми страстя́ми (人ハ己レノ情慾ヲ制御ス). Онъ *господствуетъ надъ* собóю (彼レハ己レニ克ツ).

издѣва́ться надъ кѣмъ, надъ чѣмъ? *Не издѣвáйтесь надъ нимъ* (彼ヲ嘲弄スル勿レ).

имѣ́ть власть надъ кѣмъ? надъ чѣмъ? (人ニ對シテ 權力ヲ有ス). Онъ имѣ́етъ большу́ю власть *надъ* свои́ми подчинёнными (彼レハ其下級者ニ對シテ權力ヲ有ス)

надзира́ть надъ кѣмъ? надъ чѣмъ?—*надъ* ученика́ми (生徒ヲ監督ス).

надсма́тривать надъ кѣмъ? надъ чѣмъ?—*надъ* дѣтьми́ (小兒ヲ監視ス).

насмѣха́ться надъ кѣмъ? (人ヲ嘲弄ス) Онъ постоя́нно *насмѣха́ется надъ* ва́шимъ бра́томъ (彼ハ常ニ貴君ノ兄弟ヲ嘲笑ス).

одержа́ть побѣ́ду (верхъ) надъ кѣмъ? надъ чѣмъ? (苦心シテ勝ヲ占ム). Ру́сскіе войска́ постоя́нно *одéрживали побѣду́ надъ* непрія́тельскими (露兵ハ常ニ敵ノ上ニ勝利ヲ占メタリ).

сжа́литься надъ кѣмъ? (誰々ノ身ノ上ヲ憐ミ恕ス). *Сжали́тесь надъ нимъ* (彼ヲ愍察セヨ).

сми́ловаться надъ кѣмъ? (誰ニ憫ヲ垂ル). *Смилуйтесь надъ нимъ* (彼ニ憐ヲ垂レヨ).

смѣ́яться надъ кѣмъ? надъ чѣмъ? 及 чему? Я *смѣю́сь надъ нимъ* и его *угро́зами* (我ハ彼ヲ笑ヒ、彼レノ威嚇ヲ一笑ニ附ス). Не *смѣйся* чужо́му *несча́стію* (他人ノ不幸ヲ冷笑スル勿レ).

§ 120. 前置格ノミヲ支配スル前置詞 при

1. 中動詞 быть, жить, находи́ться, служи́ть 等ト共ニシテ人ヨリ管理、支配ヲ被ムルヲ表ス但シ前置詞 у (§ 116, IX, 3) ノ如キ外形的ノ從屬ノミナラズ、內部ノ從屬ヲモ表ス. У меня́ есть часы́ (我ハ時計ヲ所有ス然レドモ其時計ハ何處ニ存スルヤ明カナラス). *При мнѣ есть* часы́ (我ガ懷中ニ時計ハ存在ス、今我レ之ヲ使用スルヿヲ得). Колóдезь сосѣ́да *у са́маго моего́ до́ма* (隣家ノ井戸ハ我家ノ直グ傍ニ存ス). *При э́томъ до́мѣ* есть колóдезь, хотя́, къ сожалѣ́нію, онъ нахóдится нѣ́сколько вдали́ (此家ニ所屬ノ井戸ハ存ス、然レドモ惜哉少シク遠方ニ存在ス). Онъ слу́житъ *у губерна́тора* (彼ハ知事ノ許ニ

奉職ス). Онъ слу́житъ *при губерна́торѣ* (彼ハ知事ノ直轄即チ直接ノ監督ヲ受ケテ奉職ス). Она живётъ *у ма́тери* (彼女ハ母ノ許即チ母ノ家ニ住居ス). Она живётъ *при ма́тери* (彼女ハ母ノ監督ノ下ニ居ル、然レ𪜈母ノ家ニ同居セザルヤモ知レズ).

2. 事件ニ關シテ「誰々ノ居合ス際、臨場、目擊ノ際」ヲ表ス而シテ前置詞 безъ ニ反對ス. Это случи́лось *при мнѣ* (我ガ居合ハセシ際、是レハ行ハレタリ) Это случи́лось *безъ меня́* (我ガ不在ノ際、是レハ行ハレタリ). Пожа́ръ случи́лся *при отцѣ* (火事ハ父ノ居リシ際、生シタリ).

3. 時ニ關シテ「誰ノ時代」「何事件ノ際」ノ意ヲ表ス. Петербу́ргъ осно́ванъ *при Петрѣ* Вели́комъ (彼得堡ハ彼得大帝ノ時ニ建テラル). *При взя́тіи* кре́пости было́ уби́то мно́го солда́тъ (要塞占領ノ際兵卒ハ多ク死傷セリ).

4. 轉用ノ意義ニ於テハ種々ノ場合ニ使用スレ𪜈大畧次ノ如シ

При ви́дѣ э́того (之ヲ見シ時、之ヲ見ルニ就キ). *При извѣ́стіи* объ э́томъ (之ヲ聞キシ時、此通知ニ接シテ、此通知ヲ得タル際). *При приближе́ніи* къ го́роду (市府ニ近ツキシ際、市府ニ近ツクニ際シテ). *При слу́чаѣ* (機ヲ見テ、時誼ニ際シテ). *При ни́мъ* (其際、是レト共ニ). *При э́томъ* (之ニ加フルニ、此際).

§ 121. 役格ト造格ヲ支配スル前置詞 за

備考 疑問代名詞 что ト共ニシテ что за ト成レバ副詞ノ意義ヲ有シ како́въ,-о,-а,-ы (§ 65, 5) ト同一ノ意ヲ有ス.

I. 役格ヲ支配スル時ハ.

1. 事物ノ隱レタル方面即チ蔭、或ハ界線外ニ向ヒテ進ムコトヲ表ス、Со́лнце скры́лось *за ту́чи* (太陽ハ黑雲ニ隱レタリ). Они уѣ́хали *за грани́цу* (彼等ハ外國ニ出發セリ).

備考 轉用ノ意義ヲ以テ動詞 сади́ться, сѣ́сть ト共ニスレバ進動ノ意義ヲ有スル外ニ又修業ノ事物或ハ修業ノ時間ヲ表ス、例ハ Я уже́ *сади́лся за рабо́ту* (*за* сочиненіе, *за* столъ, *за* обѣдъ, *за* завтракъ, *за* чай), когда́ онъ вошёлъ въ ко́мнату (彼ガ室内ニ入リシ際ニハ我ハ既ニ業務ニ掛レリ、文章起草ニ掛レリ、食事ニ掛レリ等).

2. 時ニ關シテ、一定ノ事件ヨリ他ノ或ル事件マデノ時ヲ表ス. *За* недѣ́лю до моего́ пріѣ́зда (我ガ到來ヨリ一週間前). *За́* годъ пе́редъ э́тимъ (= до э́того) (是ヨリ一年前).

備考 現在ヨリ繰リテ過去ノ事件ヲ指ス時ニハ役格ハ前置詞ヲ使用セズシテ副詞 то́му́ наза́дъ (以前) ト共ニス Онъ пріѣ́халъ годъ то́му́ наза́дъ (彼レハ今ヨリ一年以前ニ來到セリ) 同シク又未來ヲ指ス時ハ前置詞 чрезъ (越ヘテ、過キテ) ヲ用フ Я пріѣ́ду че́резъ мѣ́сяцъ (我レハ今ヨリ一ケ月ヲ越ヘテ來ラン).

3. 「幾許ノ時日間ニ」(за ско́лько вре́мени) ノ意義ヲ以テ前置詞 въ ノ代

ヲ=使用セラル *За э́тотъ годъ* (=въ продолже́ніе э́того го́да) онъ мно́го вы́росъ (此一年間ニ彼ハ大ニ成長セリ). Это стихотворе́ніе онъ вы́училъ *за по́лчаса* (=въ продолже́ніе полу́часа) (此詩ヲ彼レハ半時間ニテ暗記セリ).

4. 壯年期以上ノ年齢ニ關シテ「幾十歳餘」ト云フ場合、即チ之ヲ越シタルヲ表シテ、前置詞 подъ(§ 122, I, 6 年齢ニ近ツク)ニ反ス. Моему́ бра́ту *за* 50-*ть* лѣтъ (我ガ兄ハ五十歳餘ナリ), а его женѣ́ подъ 50-ть (シテ其妻ハ五十歳近クナリ).

5. 距離ヲ表シテ前置詞 въ (§ 124, II, 5) ト同一ノ意義ヲ有ス、然レ𪜈使用ハ稀ナリ. Онъ живётъ отъ меня́ *за́ пять вёрстъ* (=въ пяти́ верста́хъ) 彼レハ我ヨリ五里ヲ隔テ、住居ス.

6. 或ル動詞ト共ニシテ事物ヲ握リ摑ミ或ハ身ヲ維持スルコト及ビ着手等ヲ表ス

брать, взять кого, что за что? Онъ *взялъ* ребёнка *за́* руку (彼ハ小兒ノ手ヲ取テ小兒ヲ受ケタリ). Она *взяла́* столъ *за* но́жку (彼女ハ脚ヲ摑ミテ卓ヲ取レリ).

взя́ться за что?—*за* умъ (思附ク、考ガ浮ブ),—*за* дѣло (事ヲ請合フ、着手ス).

держа́ться за кого? за что? *Держи́тесь за меня, за* мо́ю ру́ку (我レニ摑マレヨ、我手ニ摑マレヨ) 2—*кого́? чего?* Держитесь моего́ бра́та (我ガ兄弟ニ從ヘヨ);—его́ сове́товъ (彼ノ相談ニ從ヘヨ).

принима́ться,—ня́ться за что? Онъ *принялся за* рабо́ту (仕事ニ着手ス).

стоя́ть за кого, за что? Я *стою́ за него́* (彼ハ彼ヲ維持ス、彼レノ方ヲ取ル、彼レノ爲ニ肩ヲ入ル、左袒ス). Онъ *стои́тъ за* пра́вду (彼ハ正義ニ就ク、正義ヲ取ル).

схвати́ть кого́ за что? Онъ *схвати́лъ* меня́ *за́* руку (彼レハ我レノ手ヲ執ヘタ、彼レハ我ガ手ヲ摑デ我ヲ執ヘタリ).

ухвати́ться за кого? за что? Онъ *ухвати́лся за меня́* (彼ハ我レニ摑マリタリ);—за де́рево (木ニ摑マリテ身ヲ救フ).

7. 交換ノ意ヲ表ス Въ обмѣ́нъ *за* я́блоко онъ взялъ гру́шу (林檎ト交換シテ梨子ヲ取ル) 又賣買ノ代價ヲ表ス.

покупа́ть, купи́ть что? за ско́лько? Я *купи́лъ* кни́гу *за два рубля́* (二圓ノ價ヲ以テ書ヲ買フタリ)

предлага́ть,-ложи́ть за что? ско́лько? *За* кни́гу я предлага́лъ 50 копѣекъ, а онъ проси́лъ 75 (書物ノ代價ヲ我レハ五十錢ト言込タレトモ彼レハ七十五錢ヲ請求セリ).

продава́ть,-да́ть что? за сколько? Онъ *прода́лъ* ло́шадь *за сто рублей́* (百圓ノ價ヲ以テ馬ヲ賣タリ)

плати́ть, заплати́ть, уплати́ть за что? ско́лько? *За* кни́гу я *заплати́лъ* 2 рубля́ (書物ノ爲ニ我ハ二圓拂フタリ).

уступа́ть,-пи́ть что? за ско́лько? *За* ло́шадь онъ проси́лъ сто рублей, а *уступи́лъ за* 80-(*ть*) (馬ノ爲ニ百圓ヲ請求シタレトモ、八十圓ニ價ヲ引キタリ).

備考 若シ同ノ一名詞ガ此前置詞ヲ中間ニ挿ミテ二個相重ナル時ハ應報ノ意ヲ有ス、例ハ сло́во за́ слово (語ヲ以テ語ニ報ユ即チ人我ヲ惡口スレバ我モ亦其人ヲ惡口ス), о́ко *за* о́ко

(眼ヲ以テ眼ニ報ユ即チ、他人ノ眼ヲ傷ケシ者ニハ其罰トシテ眼ヲ傷ク), зубъ *за* зубъ (齒ヲ以テ齒ニ報ユ), добро́ *за* добро́, зло *за* зло (善ヲ以テ善ニ報ヒ、惡ヲ以テ惡ニ報ユ).

8. 或ル動詞及ソレト同一語根ノ名詞ト共ニシテ「他ノ爲ニ代リテ盡力スル」ヲ表ス.

заступа́ться,-пи́ться за кого? *Заступи́тесь за него́* (彼レノ爲ニ辯護庇蔭セヨ).

моли́ться, по—за кого? *Помоли́тесь за насъ* (彼等ノ爲ニ祈禱セヨ).

проси́ть за кого? Онъ *про́ситъ за* своего́ племя́нника (彼レハ甥ノ爲ニ請願ス).

сража́ться за кого? за что? Солда́ты *сража́ются за* оте́чество (兵士ハ生國ノ爲ニ戰フ)

ходата́йствовать за кого? *Ходата́йствуйте за меня́* (我ガ爲ニ代願セヨ).

умере́ть за кого? за что? Онъ *у́меръ за* пра́вду (彼レハ正義ノ爲ニ死セリ)

9. 或ル動詞ト共ニシテ事物ノ外形、容體等ヲ表ス

выдава́ть,-дать кого за кого? что за что? Онъ *выдаетъ* себя́ *за* учи́теля (彼レハ己レヲ教師ナリト稱シテ現ハス). Онъ *вы́далъ* чужо́е изобре́тенiе *за* своё (彼レハ他人ノ發明ヲ自身ノ發明ナリト稱シテ現ハシタリ).

покупа́ть, купить. Русскiе това́ры ино́гда *покупа́ются за* иностра́нные (露西亞ノ物品ハ時トシテ外國製品トシテ購買セラル).

продава́ть,-да́ть. Иностра́нные това́ры иногда́ *продаю́тся за* ру́сскiе (外國品ハ時トシテ露國製品トシテ發賣セラル).

признава́ть,-знать за что? кѣмъ, чѣмъ? Я *признаю́ за* ну́жное (=ну́жнымъ), чтобы онъ уѣ́халъ (彼レノ出發センコヲ必要ナリト我ハ認ム).

счита́ть за кого, за что? кѣмъ, чѣмъ? Его *счита́ютъ за* офице́ра (=офицеромъ) (彼レヲ士官ナリト人々ハ思フ). *Считаю за* свой долгъ (=своимъ долгомъ) (何々ヲ我レハ自身ノ義務ト思フ).

10. 賞罰應報等ヲ表スル動詞ト共ニシテ其然カル所以ヲ示ス

благодари́ть кого? за что? *Благодарю́* васъ *за э́то* (此事ノ爲ニ貴君ニ感謝ス、コレハ誠ニ難有シ).

брани́ть за что? *Побрани́те* его *за* неопря́тность (不體裁ノ爲ニ彼ヲ叱責セヨ).

люби́ть за что? Его всѣ *лю́бятъ за* его хоро́шiй хара́ктеръ (善良ナル氣質ノ爲ニ人々ハ彼ヲ愛ス).

мстить, отомсти́ть кому за что? Онъ *отомсти́тъ* вамъ *за э́то* (コレガ爲ニ彼ハ汝ニ報ユルナラン).

награжда́ть,-ди́ть кого за что? Его *наградили за* прилежа́нiе (勉强ノ爲ニ彼レヲ賞セリ).

нака́зывать,-за́ть за что? *Накажи́те* его *за* лѣ́ность (怠惰ノ爲ニ彼ヲ罰セヨ).

отвѣча́ть,-тить за что? Вы *отвѣ́тите за э́то* (汝ハ此事ニ就テ責ヲ負ハン).

хвали́ть, по—за что? Её всѣ *хва́лятъ за* скро́мность (温柔ノ爲ニ人ハ皆ナ彼女ヲ譽ム).

11. 婚姻ニ關係ヲ有スル次ノ諸動詞ト共ニ使用セラル

выходи́ть, вы́йти *за*-мужъ (嫁ス). 此語句ニ於テハ名詞 мужъ ハ役格ナレトモ生格ノ語尾ヲ受ケズシテ名格ノ語尾ヲ受ク、是レ狀態ノ移轉ヲ表スルヲ以テナリ (§ 24, 20) 而シテ за мужъ ハ副詞ノ態ヲ成ス故ニ接合シテ書スナリ

выдава́ть,-дать за́-мужъ кого́ за кого́ (嫁ス)? Онъ *выдаётъ* свою́ *дочь за́-мужъ за* моего́ това́рища (彼レハ自身ノ娘ヲ我ガ朋友ニ娶ス).

выходи́ть, вы́йти за́-мужъ за кого? Она *выхо́дитъ за́-мужъ за* моего́ племя́нника (彼女ハ我ガ甥ニ嫁ス).

помо́лвить *кого* (女) *за кого* (男)? Мою́ сестру́ *помо́лвили за* твоего́ бра́та (我ガ妹ヲ汝ノ兄ニ配合ノ契約ヲ結ベリ); 2—*кого* (男) *на комъ* (女)? Моего́ бра́та *помо́лвили на* твое́й сестре́ (前ト同意義).

сва́тать, по—*кого* (女) *за кого* (男)? *Ее сва́тали за меня́* (彼女ヲ我レニ媒妁セリ); 2—*кого* (男) *на комъ* (女)? *Меня́ сва́тали на ней* (我レヲ彼女ニ媒妁セリ), 3—*кого́* (女) *къ кому*? (男) *Ее сва́тали ко мнѣ* (彼女ヲ我レニ媒妁セリ).

сва́таться, по—*за кого* 或ハ *къ кому*? (女). *За неё* (=къ *ней*) мно́гіе женихи́ *сва́тались* (彼女ニ多クノ男子ハ結婚ノ口ヲ掛ケタリ).

II. 造格ヲ支配スル時ハ次ノ如キ意義ヲ有ス

1. 隠レタル方面或ハ裏面、後方、區域外ニ在留スルヲ表ス. Кни́га лежи́тъ *за* столо́мъ (書籍ハ卓ノ蔭ニ在リ). Онъ сидѣлъ *за* мно́го (彼レハ我レノ後ニ座レリ). Они еще *за* грани́цею (彼等ハ未タ外國ニ在リ)

備考 1 轉用ノ意義ヲ以テ動詞 быть 及 сидѣть (但シ此動詞ハ省略セラルヽコト多シ)ト共ニシテ修業ノ事物或ハ修業ノ時間ヲ表ス、例ハ Я сидѣлъ (或ハ былъ) *за* рабо́тою (*за* сочине́ніемъ, *за* столо́мъ, *за* обѣдомъ, *за* у́жиномъ, *за* вечёрнимъ ча́емъ), когда онъ пришёлъ ко мнѣ (彼ガ我ガ許ニ來リシ時ハ我ハ業務ニ着手シ居リタリ文章起草、食事中ナリシ).

備考 2. 轉用ノ意義ニ於テハ быть *за́-мужемъ* за кѣмъ?—*за* мои́мъ братомъ, *за* учи́телемъ, *за* офице́ромъ (我兄ニ、教員ニ、士官ニ嫁シテ居ル).

2. 事物ノ後ニ從ヒ進動スルヲ表シ前置詞 предъ (§ 123, II. 1) ニ反對ス. Онъ шёлъ *за* мно́ю (彼レハ我レノ後ニ從ヒ行ク). *За на́ми* кто́-то ѣдетъ 誰ナルカ我等ノ後ヨリ乘リ來ル). *За* гро́бомъ шли родны́е и знако́мые (棺ノ後ニ附キ親族、知人等ハ步行ス).

備考 1. 此意ヲ轉用シテ次ノ如キ場合ニ用フ. О́чередь *за* мно́ю, *за* ва́ми (我レノ順番ナリ、汝ノ順番ナリ). Прида́ное за женою (妻ノ持參物即チ妻ニ附隨ノ所有品).

備考 2. 若シ同一ノ名詞ガ二個相重リテ其中間ニ前置詞 за ヲ挿ム時ハ副詞ノ態ヲ成シテ常ニ連續ノ意ヲ表ス、例ハ часъ *за* ча́сомъ (每時間次テ), день *за* днёмъ (每日每日打續テ), человѣкъ *за* человѣкомъ (人々相續テ). Ра́скатъ гро́ма слы́шался *за* раска́томъ (雷ノ轟聲ハ相次テ聞エタリ).

3. 注意監察等ヲ表スル動詞ト共ニシテ事物ヲ保護スル意ヲ有ス

наблюда́ть,—люсти́ за кѣмъ? за чѣмъ?—*за* поря́дкомъ въ кла́ссахъ (教場ノ秩序ヲ監督ス).

подмѣча́ть,—мѣ́тить за кѣмъ?—*за* ка́ждымъ (物ニ各人ニ注目ス).

подсма́тривать,—рѣ́ть за кѣмъ?—*за на́ми* (物ニ我等ノ擧動ヲ窺フ).

ходи́ть, уха́живать за кѣмъ?—*за* больны́ми (病人ヲ看護ス).

4. 目的ヲ示ス進動ヲ表ス. *За кѣмъ* онъ пошёлъ? (誰ノ爲ニ彼レハ往キシヤ)—Онъ пошёлъ *за* бра́томъ, *за* до́ктором, *за* това́рищемъ (彼レハ兄ヲ

呼ビニ、醫者ヲ喚ヒニ、同僚ヲ喚ヒニ往ケリ). Онъ побѣжа́лъ *за* кни́гою (彼レハ書籍ノ爲ニ即チ之ヲ買フ爲メ或ハ持來ル爲ニ駈付ケタリ).

5. 妨害或ハ缺損ニ伴ハル・原因ヲ表ス. *за* неимѣніемъ де́негъ (金錢ヲ所持セザル故ニ), *за* боле́знью (病氣ニ因テ). *За* шу́момъ ничего́ не слы́шно (喧シキニ因テ何モ聞エス).

6. 動詞 остава́ться, имѣться (殘ル、存ス) 等ト共ニシテ「取リ除ク」ノ意ヲ表ス *за* исключе́ніемъ (何々ヲ除クノ外), *за* вы́четомъ (差引キタル外ニ), *за* расхо́домъ (消費シタル外ニ、消費シテ以テ), *за*-шта́томъ (制員外).

§ 122. 役格ト造格ヲ支配スル前置詞 подъ.

I. 役格ヲ支配スル際ノ意義ハ次ノ如シ

1. 事物ノ底下ニ向ヒテ進動スルコトヲ表ス、若シ高キ場所(例ハ山)ニ關スル時ハ其麓或ハ脚邊ノ低地ニ向ヒテ進ムコトヲ表ス. Я положи́лъ письмо́ *подъ* кни́гу (我レハ手紙ヲ書籍ノ下ニ置ケリ). Ѣхать *по́дъ* гору (山麓ヲ指シテ乘リ行ク). Подойти́ *подъ* окно́ (窓ノ下ニ近寄ル).

2. 此意ヲ轉シテ或ル語句ニ用フ、例ハ Это мнѣ не *подъ* си́лу (是レハ我ガ力ニ餘ル). Писа́ть *подъ* дикто́вку (口述ヲ筆記ス). Попа́сть *подъ* судъ (裁判ニ附セラル). Танцова́ть *подъ* му́зыку (音樂ニ合セテ舞踏ス).

3. 「他人ノ氣ニ投シ」或ハ「人ヲ陷ル」ノ意ヲ表ス. Подыски́ваться,—ка́ться подъ кого́?—*подъ* свою́ нача́льника (長官ノ氣ヲ迎ヘル). Подка́пываться,—капа́ться *подъ кого́?* (誰々ヲ陷穽セントス). Рыть я́му подъ кого́?—*подъ меня* (我レヲ陷レントス).

4. 事物ノ類似、摸擬ヲ表スル動詞ト共ニス. Подбира́ть, подобра́ть подо что?—*подъ* цвѣтъ (色ニ適シテ拾集ス) Подде́лываться,—ла́ться подъ кого? подо что?—*подъ* отца́, *подъ* по́черкъ, *подъ* похо́дку (父ニ摸擬ス、書風ヲ摸擬ス、步行ヲ摸擬ス).

5. 時期ニ關スル時ハ近接ヲ表ス. *подъ* о́сень (秋ノ頃ヒ), *подъ* ве́черъ (暮レ方) *подъ* воскресе́нье, *подъ* понеде́льникъ, *подъ* пра́здникъ, *подъ* но́вый годъ (日曜デカクニ、月曜デカクニ、祭デカクニ、新年デカクニ).

6. 壯年以上ノ年齡ニ關シテ何十代ニ近キヲ表シ前置詞 за (§ 121, I, 4) ニ反對ス. Ему́ уже́ *подъ* 60-*мъ* лѣтъ, а ей *подъ* 50-*мъ* (彼レハ既ニ六十歲ニ近ク、彼女ハ五十歲ニ近シ).

II. 造格ヲ支配スル際ノ意義ハ.

1. 事物ノ底下ニ在留、即チ事物ニ覆ハレ存スルヲ表ス高キ場所ナレバ其脚邊ノ低地ニ在留スルヲ表ス. Письмо́ лежи́тъ *подъ* кни́гою (手紙ハ書籍ノ下ニ在リ). Жить подъ горо́ю (山ノ下ニ住ム). Стоя́ть *подъ* окно́мъ (窓ノ下ニ立ツ).

2. 名詞 городъ 及大市府ノ名稱ト共ニスル時ハ「其附近、近在、近邊」等ニ在留スルヲ表ス Онъ живётъ *подъ* го́родомъ, *подъ* Москво́ю, *подъ* Полта́вою.

3. 意ヲ轉シテ次ノ如キ語句ニ用フ.

быть, находи́ться подъ чѣмъ?—*подъ* вла́стью (權下、支配內ニ), *подъ* зако́номъ (法律ノ下ニ), *подъ* защи́тою (保護ノ下ニ), *подъ* надзо́ромъ (監察ノ下ニ), *подъ* при-

смо́тромъ (監視中); *подъ* слѣдствіемъ (取調中), *подъ* стра́хомъ (威嚇ヲ以テ), *подъ* суде́мъ(裁判ニ下附中); дѣлать, с—что *подъ* ви́домъ (何々ノ體ヲ裝ヒテ何ヲ行フ), *подъ* предло́гомъ (口實ヲ以テ); подразумѣва́ть что *подъ* чѣмъ (何ニハ何々ノ意義ヲ含マシム).

§ 123. 役格ト造格ヲ支配スル前置詞 предъ 或ハ пе́редъ.

I. 役格ヲ支配スル時ハ事物或ハ人ノ面前、表面ニ向テ進行ヲ止ムルヲ示ス、但シ之ヲ使用スル場合ハ稀ナリ. Предста́ть *предъ* царя,—*предъ* судъ (王ノ面前ニ立ツ、裁判ニ出現ス).

II. 造格ヲ支配スル時ハ

1. 一事物ノ前面ニ他ノ事物ガ存在或ハ進動スルヲ表シテ前置詞 за ト反對スル而シテ副詞 впереди́ ヨリモ比較的近接ノ度ヲ强クス. Стоя́ть *предъ* до́момъ (家ノ前ニ立ツ)—Стоя́ть *за* до́момъ (家ノ後ニ立ツ). Впереди́ меня́ шло мно́го ученико́въ, вамъ бра́ть шёлъ *пе́редъ* са́мымъ *мною*, а за на́ми шли лишь не́сколько ученико́въ (我レノ前方ニ多クノ生徒ハ立チ行キ、汝ノ兄ハ我レノ直ク前ニ立チ、我等ノ後ニハ僅カニ數名ノ生徒ガ立チ行ケリ).

2 意ヲ轉シテ「誰々ニ對シテ或ハ誰ノ前ニ對シテ」ト成ル. быть винóвнымъ, провини́ться *предъ* кѣмъ (誰ノ前ニ濟マヌ、誰ニ對シテ過失ヲ行ヘリ); поступа́ть,—и́ть че́стно, нече́стно, справедли́во, несправедли́во *предъ* кѣмъ (誰ニ對シテ方正ニ、不正ニ、公平ニ、不公平ニ行ヘリ).

3. 同シ意義ヲ以テ оклевета́ть кого *предъ* кѣмъ? (誰ノ前ニ誰ヲ讒ス) унижа́ться,—зиться *передъ* кѣмъ? (誰ノ前ニ身ヲ卑フス、諛フ).

4. 大小優劣ノ比較ヲ表スル際 въ сравне́ніи съ (ト比較シテ), сравни́тельно съ (ト比シテ) ト同意義ト成ル. *Пре́до мно́ю* (=въ сране́ніи со мно́ю) онъ бога́чъ (我レニ比スレバ彼レハ富人ナリ).

5. 時ニ關シテハ「何々以前」「何々ニ先チテ」ノ意ヲ表ス但シ前置詞 до ヨリハ事物ニ接スル時間ヲ近クス即チ「少シ前」ニ當ル、副詞 по́слѣ ニ反對ス、然レ𪜈餘リ多クハ使用セズ、*предъ* обѣ́домъ (午食少シ前、午食ニ先チテ), *предъ* у́жиномъ, *предъ* разсвѣ́томъ (夜明前), *предъ* пра́здникомъ (祭日前), не-за-до́лго *передъ* э́тимъ (是ヨリ少シク以前).

§ 124. 役格ト前置格ヲ支配スル前置詞 въ.

I 役格ヲ支配スル際ニハ

1 事物ノ内部或ハ中央ニ向テ進行スルヲ表シテ изъ (§ 116, V, 1) ニ反對ス. Положи́ть кни́гу *въ* сто́лъ (卓ノ内部即チ抽出ニ書ヲ入ル). Взять кни́гу *изъ* стола́ (卓ノ内部ヨリ書ヲ取ル).

備考 § 124, I, 1 ノ備考參照

2. 轉用シテ種々ノ語句ニ使用セラル

брать, взя́ть де́ньги *въ* заёмъ (въ займы́) 金錢ヲ借用ス; вступа́ть,—и́ть во что?—*во* владѣ́ніе (所有ト成ル), *въ* до́лжность (職務ニ就任ス), *въ* совершенноле́тіе (丁年ニ達ス); выходи́ть, вы́йти *въ* отста́вку (罷職ト成ル); дава́ть, дать де́ньги

въ долгъ, *въ* заёмъ (въ займы́) 金錢ヲ貸與ス,—*въ* прида́чу (足シ前ニ與フ); продава́ть, —дать *въ* уби́токъ (損シテ賣ル); проси́ться *въ* о́тпускъ (賜暇ヲ願出ツ); уѣзжа́ть, уѣхать *въ* о́тпускъ (賜暇ヲ得テ出立ス); собира́ться,—бра́ться *въ* о́тпускъ, *въ* доро́гу (賜暇出發ノ用意ヲ成ス、旅行ノ用意ヲ成ス).

3. 事物ノ内部ヲ貫キテ進動スルヲ表シ「何々ヲ通シテ、越シテ」ノ意ヲ有ス. влѣза́ть,—зть *въ* окно́ (窓ノ中ヘ這入ル); входи́ть, войти *въ* дверь (扉ヲ開ヒテ内ニ入ル), говори́ть *въ* носъ (聲ヲ鼻ニカケテ言フ); смотре́ть *въ* окно́, —*въ* очки́ (窓ヲ越シテ見ル、眼鏡ヲ掛ケテ見ル). Смотре́ть *че́резъ* очки́ (眼鏡面ヲ脱シテ見ル即チ眼鏡ト額トノ間ヨリ見ル).

4 職役、身分ノ變動、敘任ヲ表ス、其際就任スベキ身分ハ團體ノ意味ヲ以テ複數ト成リ且ツ役格ハ(生格ト同一タルベキ場合ニテモ)名格ト同一ト成ル、但シ高調ノ文句ニ於テハ然ラサルナリ(§ 24, 20). 而シテ前置詞 изъ ハ之ニ對立ス. Перейти́ изъ крестья́нъ *въ* купцы́ (農ヨリ商ニ轉ズ); поступи́ть *въ* чино́вники (官吏ニ就任ス), *въ* учителя́ (教員ニ就任ス), произвести́ *въ* офице́ры (士官ニ任ス); посвяти́ть *во* епи́скопы 亦ハ въ епи́скопа (主教ニ敘聖ス、即チ主教ニ敘スル式ヲ行フ).

5. Когда́ ノ問ニ應シテ事件ノ生ゼシ時期ヲ表ス

въ воскресе́нье 日曜日ニ於テ
въ понеде́льникъ 月曜日ニ於テ
въ про́плый вто́рникъ 前ノ火曜日ニ於テ
въ слѣду́ющую сре́ду 次ノ水曜日ニ於テ
въ пра́здникъ 祭日ニ於テ
въ бу́дни 平日ニ於テ
въ по́лдень 正午ニ於テ
въ по́лночь 夜半ニ於テ
въ су́мерки 黄昏ニ於テ
въ это вре́мя 此時ニ際シテ
въ то время 其時、其節
въ свобо́дное время 閑隙ノ際

въ часъ 一時ニ於テ
въ два часа́ 二時ニ於テ
въ свобо́дный часъ 閑隙ノ時間ニ於テ
въ 10-ть мину́тъ 十分ニ於テ
въ 25-ть мину́тъ 廿五分ニ於テ
въ че́тверть часа́ 十五分ニ於テ
въ по́лчаса 三十分ニ於テ
въ три че́тверти часа́ 四十五分ニ於テ
во вре́мя чего́ 何々ノ時ニ於テ

въ продолже́ніе 何々ノ間
въ тече́ніе 何々ノ間
въ царствованіе 在位ニ於テ

въ войну́ (戰爭ノ際)
въ пріѣздъ (到來ノ際)
въ срокъ (期限ニ於テ)

備考 часъ ト云フ語ヲ役格前置詞 въ ト共ニスルハ必ズ個數詞ニ附スル際ノミニシテ「正幾時」ノ意義ヲ有シ、часъ ニ順序數詞ヲ附スル際ニハ前置格ノ въ ヲ用フ (§ 124, II, 4) 例ハ *въ* три часа (正三時ニ於テ) *въ* тре́тьемъ часу́ (第三時ニ於テ即チ正二時ヨリ正三時マデノ間ニ於テ).

6. во ско́лько вре́мени? ノ問ニ應シテ事物ノ行ハレシニ費セシ時間數ヲ表ス即въ продолже́ніе, въ тече́ніе 並ニ前置詞 за (§ 121, I, 3) ト同意義ヲ有ス

въ мину́ту 一分間ニ
въ пять мину́тъ 五分間ニ
въ че́тверть часа́ 十五分間ニ
въ по́лчаса 半時間ニ
въ три че́тверти часа́ 四十五分間ニ

въ два часа́ 二時間ニ
въ су́тки 一晝夜間ニ
въ оди́нъ день 一日間ニ
въ три дня 三日間ニ
въ годъ 一年間ニ

въ по́лгода 半年間ニ
въ пять лѣтъ 五年間ニ
въ столѣтіе 一世紀間ニ
въ два столѣтія 二世紀間ニ
въ войну 戰爭中ニ

въ часъ —時間ニ *въ нѣсколько дней* 數日間ニ *во всю свою жизнь* —生涯中ニ

備考 斯ノ如ク役格前置格 *въ* ハ時間ニ關シテ二種ノ意義ヲ有スルガ故ニ之ヲ混同セザラン爲ニ第二ノ意義(「幾時間内ニ」)ニハ *въ продолжéніе* ト云フ語句ヲ代用スルヲ便トス例ハ *въ продолжéніе* чáса,—ýтра,—вéчера,—дня,—недѣли,—гóда,—войны.

7 價格ヲ表ス、цѣни́ть, оцѣни́вать *въ* рубль, *въ* два рубля́ (一圓、二圓ニ價ヲ附ス), цѣнóю *въ* три копѣ́йки, *въ* пять рублéй (價ハ三錢ナリ、價ハ五圓ナリ) 但シ副詞 *цѣнóю* ハ省略セラルヽコトアリ. Аршúнъ сукнá (цѣнóю) *въ* 2 рубля́ (羅紗一アルシンハ價二圓ナリ). Эта книгá цѣнóю *въ* рубль (此書ハ價一圓ナリ). 然レ𪜈精神的ノ意義ニテ此語ヲ用フル時ハ生格ヲ要ス例ハ Онъ пріобрѣлъ побѣ́ду *цѣнóю жúзни* половúны своегó вóйска (彼ハ統率ノ兵ノ半數ノ生命ヲ失フテ勝利ヲ獲タリ).

備考 動詞 стóить ハ役格ヲモ或ハ生格ヲモ要求ス § 151, III. ヲ參照

8. 重量ヲ表ス、其際副詞 вѣсомъ (重量ハ) ハ省畧セラルヽコトアリ

я́щикъ (вѣсомъ) *въ* 10 фу́нтовъ (函ノ重量ハ十斤ナリ).

備考 動詞 вѣ́сить (カヽル、量目ヲ有ス) ハ前置詞ナキ役格ヲ要求ス Ящикъ вѣ́ситъ 10-*ть* фу́нтовъ (箱ハ十斤ノ量ヲ有ス).

9. 長サ、幅、高サ等ノ尺度ヲ表ス、之ヲ表スルニ二式アリ

(甲) *въ* длину́ (長サ). *въ* ширину́ (幅). *въ* высоту́ (高サ)ノ後ニ尺度ノ數ヲ役格ト成シ前置詞ヲ使用セズ、Домъ (имѣ́етъ) *въ высоту́* 1 аршúнъ, *въ длину́*—38 и *въ ширину́* 14 (家ハ高サ九アルシン長サ三十八アルシン幅十四アルシンヲ有ス)、動詞 имѣть ハ省畧セラルヽヲ常トス、此式ハ最モ多ク使用セラルヽナリ

(乙) высотóю (高サニテハ), ширинóю (幅ニテハ), длинóю (長サニテハ)ノ後ニ尺度ノ數ヲ役格前置詞ト共ニ用フ、Домъ высотóю *въ* 9-*ть* аршúнъ, длинóю *въ* 38-*мь* аршúнъ и ширинóю *въ* 14-*ть* 或ハ「高サ、幅、長サ」等ノ語ヲ省畧スルコトアリ、Домъ *въ* два этажа́ (二層造リノ家). Домъ *въ* три этажа́ (三層造リノ家).

10 幾倍 (во сколько разъ) ト云フ場合ニ разъ ト共ニシテ用フ、(前置詞 на § 125, I, 11) *Въ* два рáза вы́ше, *въ* три рáза нúже, *въ* четыре раза дешéвле (二倍高シ、三倍低シ、四倍廉ナリ). Вы заплати́ли за свой домъ *въ* два рáза дорóже, чѣмъ я (貴君ハ自身ノ家屋ノ爲ニ我ヨリハ二倍高價ヲ拂ヘリ).

11. 物品ヲ細分スル意ヲ有スル動詞ト共ニシテ其分量ノ些微ニシテ數ヘ盡シ難キ程ノ密ナルヲ表ス(前置詞 на § 125, I, 12.) 例ハ Истолóчь горчúцу *въ* порошóкъ (胡椒ヲ粉ニ搗ク).

12. 其他種々ノ動詞(並ニ其動詞ト同一語根ノ名詞)ト共ニシテ種々ノ意ヲ表ス

быть въ кого?—*въ* отцá,—*въ* мать (父ニ肖ル、母ニ肖ル). Онъ весь *въ* отцá (彼レハ父ニ丸ル出シナリ)

влюбля́ться, бúться въ кого?—*въ* ва́шего бра́та, *въ* ва́шу сестрú (汝ノ兄ニ惚レル、汝ノ妹ニ惚レル).

вѣ́ра *въ* кого? *во* что? (誰ヲ信ス、何ヲ信スト譯スレ𪜈主義ヲ信ズルノ意

ナリ).—*въ* Бо́га, *въ* загро́бную жизнь, *въ* люде́й (神ヲ信仰ス、死後ノ生活信仰、人ニ對スル信念) 2,—*къ кому? къ чему?* (實際上ノ信念、信任、信頼、信用ヲ表ス)—*къ* лю́дямъ, *къ* отцу́, *къ* бра́ту (誰々ニ對スル信念).

вѣ́рить, повѣ́рить *въ кого, во что?*—*въ* Бо́га, *въ* люде́й, *въ* справедли́вость (神ヲ信ズ、人ヲ信ズ、義ヲ信ズ) 2,—*кому? чему?*—человѣ́ку, отцу́, бра́ту, э́тому, вся́кому слу́ху (有ラユル風説ヲ信ズ) 3,—*въ* долгъ де́ньги (金ヲ信用貸ニス).

вѣ́ровать въ кого? во что? (宗教的信仰)—*въ* Бо́га, *въ* загро́бную жизнь

запряга́ть, запря́чь кого во что? Запряги́те лошаде́й *въ* каре́ту (馬ヲ馬車ニ駕セ).

звони́ть, позвони́ть во что?—*въ* колоко́льчикъ (鈴ヲ鳴ラス),—*въ* ко́локолъ (鐘ヲ鳴ラス)

играть 1. *во что?*—*въ* мя́чикъ, *въ* ша́пки (球ヲ弄ブ、碁ヲ弄ブ), въ ка́рты (カルタヲ弄ブ) какъ?—на де́ньги (錢ヲ賭ケテ); по-ско́льку?—по копѣ́йкѣ (一錢ヅヽ賭ケテ); 2,—*на чемъ?*—*на* скри́пкѣ, *на* фисъ-гармо́ніи (ヴアイオリン、風琴ヲ彈ス); что?—піе́су (曲ヲ演奏ス); какъ?—по но́тамъ (譜ニ依テ彈奏ス). 3,—*чьмъ?*—огнёмъ (火ヲ弄ブ), мечо́мъ (劍ヲ弄ブ). 4,—§ 128, III, 3

стуча́ть,-кнуть чѣмъ? во что?—руко́ю *въ* дверь (手ニテ戸ヲ叩ク)

ударя́ть, —рить чѣмъ? во что?—па́лкою *въ* сте́ну (棒ニテ壁ヲ打ツ)

уроди́ться въ кого?—*въ* дѣ́душку, *въ* ба́бушку (祖父ニ似テ生ル、祖母ニ似テ生ル)

III 前置格ヲ支配スル時ハ

1. 事物ノ内部ニ存在或ハ進動スルヲ表ス、Кни́га лежи́тъ *въ* столѣ́ (書籍ハ卓ノ内部ニ在ル). Мы живёмъ *въ* го́родѣ (我等ハ市府ニ住居ス). Они прі́ѣхали *въ* ло́дкѣ (彼等ハ小舟ニ乘リテ來レリ).

2. 意ヲ轉ジテ種々ノ動詞ト共ニ使用ス、殊ニ быть ト共ニス

быть *въ* весёломъ расположе́ніи духа (爽快ノ心地シテ居ル),—*въ* долга́хъ (負債シテ居ル),—*въ* отпуску́ (賜暇中ナリ),—*въ* отста́вкѣ (罷職ナリ),—*въ* печа́ли (憂悲ニ沈ミ居ル),—*въ* пла́ваніи (航海中ナリ),—*въ* поря́дкѣ (整然タリ、異狀ナシ、平穩ナリ),—*въ* сомнѣ́ніи (疑フテ居ル、疑惑シテ居ル),—*въ* трево́гѣ (心配シテ居ル、不安心ナル).

3. 動詞 быть ト共ニシテ衣類着裝ニ關ス、быть *въ* шля́пѣ (帽ヲ冠リ居ル),—*въ* очка́хъ (眼鏡ヲ掛テ居ル),—*въ* перча́ткахъ (手袋ヲ着用シテ居ル),—*въ* руба́шкѣ (シヤツヲ着シテ居ル),—*въ* пальто́ (外套ヲ着シテ居ル),—*въ* сюртукѣ́ (フロクコートヲ着シテ居ル) 而シテ безъ ト反對ス Быть *безъ* шля́пы (帽ヲ冠ラズシテ、素頭デ)

4. когда́? ノ問ニ應ジテ часъ (時), число́ (日), мѣ́сяцъ (月), годъ (年), вѣкъ (世紀). столѣ́тіе (世紀) 等ノ語ト共ニ使用セラル

(甲) часъ 順序數詞ト共ニスル際ニ於テノミ前置格ノ въ ト共ニ使用セラル (§ 124, I, 5 比考) 例ハ *въ* пе́рвомъ часу́, *во* второ́мъ часу́ (個數詞ハ役格前置詞 въ ト共ニス) 等ニシテ概略的ニ時間ヲ表スルニ過ギズ.

(乙) число́ ハ въ ト共ニ前置格ト成ルハ複數タル場合ニ限ル卽チ概略

的ニ時日ヲ表スル場合ナリ、而シテ通常ノ「幾日ニ於テ」ト云フ場合ニハ число ハ生格ト成ル (§ 156, V) 例ハ въ пе́рвыхъ чи́слахъ января́ (一月ノ始メ), въ после́дних чи́слахъ декабря́ (十二月ノ末), въ деся́тыхъ чи́слахъ ма́рта (三月中旬). 然レヒ Пе́рваго января́ (一月一日), 31-го декабря́ (十二月三十一日), 10-го ма́рта (三月十日).

(丙) мѣсяцъ ハ常ニ前置格ト成ル, 例ハ въ январѣ, въ февралѣ, въ э́томъ мѣсяцѣ (此月). въ про́шломъ мѣсяцѣ, (先月), въ слѣ́дующемъ мѣсяцѣ, (翌月), въ будущемъ мѣсяцѣ (來月). 但シ何月何日ト月日ヲ相並ブル時ハ月モ日ト同ジク生格ト成ル (§ 156, V) 5-го февраля́ (въ февралѣ 5-го числа́ トハ成ラズ), 10-го ма́рта.

(丁) годъ モ通常前置格ト成ル例ハ въ про́шломъ году́ (昨年), въ нынѣшнемъ году́ (今年), въ теку́щемъ году́ (本年), въ слѣ́дующемъ году́ (明年), въ бу́дущемъ году́ (來年), въ 1900-мъ году́ (千九百年), въ 1901-омъ году́ (千九百一年). 若シ年月日ト相並ブ時ハ皆共ニ生格ト成ル. 5-го февраля́ 1902-го го́да, 20-го іюня 1890-го года.

(戊) вѣкъ 及 столѣтіе ハ常ニ въ ト共ニ前置格ト成ル. 例ハ въ нынѣшнемъ (теку́щемъ) столѣтіи (вѣкѣ) (現世紀ニ於テ), въ про́шломъ столѣтіи (вѣкѣ) (前世紀ニ於テ), въ слѣ́дующемъ столѣтіи (來世紀ニ於テ), въ XIX-омъ вѣкѣ (столѣтіи) (十九世紀ニ於テ), въ XX вѣкѣ (столѣтіи) (廿世紀ニ於テ), въ нача́лѣ недѣли (一週間ノ始ニ於テ), въ сере́динѣ мѣсяца (月ノ半頃ニ於テ), въ концѣ года (年末ニ於テ)

5. 距離ヲ表ス、Онъ живётъ отъ меня́ въ 10-ти́ шага́хъ (彼レハ我ヲ去ル十歩ノ地ニ住ス),—въ 2-хъ верста́хъ (二里ノ距離ニ於テ),—въ 3-хъ часа́хъ ѣзды́ по желѣ́зной доро́гѣ (三時間ノ鐵道路程ニ於テ).

6. 才能或ハ風采等ノ意ヲ有スル形容詞及名詞ト共ニシテ、例ハ

винова́тый въ чёмъ?—во всёмъ (萬事過失セシ)
вѣ́жливый въ чёмъ?—въ обраще́ніи (應對禮節アル)
гру́бый въ чёмъ?—въ обраще́ніи (應對ニ粗暴ナル)
знато́къ въ чёмъ?—въ лоша́дяхъ (馬ノ達人、馬ヲ善ク識ル者)
иску́сный въ чёмъ?—въ ремёслахъ (手工ニ巧ミナル)
невѣ́жда въ чёмъ?—въ нау́кахъ (學藝ヲ識ラザル者、文盲)
нерѣши́тельный въ чёмъ?—въ посту́пкахъ (事ヲ行フニ決斷力ナキ)
о́пытный въ чёмъ?—въ дѣла́хъ (事務ニ老練ナル)
неопытный въ чёмъ?—въ преподава́ніи (教授ニ經驗ナキ)
сла́бый въ чёмъ?—въ позна́ніяхъ (知識ニ通達セザル)
твёрдый въ чёмъ?—въ убѣжде́ніяхъ (所信ノ强キ)
умѣ́ренный въ чёмъ?—въ пи́щѣ (食物ニ節制ナル)

7. 意ヲ轉ジテ種々ノ動詞及名詞ト共ニ使用セラル、今之ヲ枚擧シ難キモ其一斑ハ次例ノ如シ、

заключа́ться въ чемъ? *Въ чемъ заключа́ется* ва́ша про́сьба? (貴君ノ請願ハ何事ナルヤ)

извиня́ть,-ни́ть кого въ чемъ? *Извини́те меня въ* мое́й неосторо́жности (我ガ不注意ニ就テ我ヲ宥免セヨ).—ся предъ кѣмъ въ чемъ? *Въ чемъ* онъ *извиня́лся* предъ вами? (彼レハ貴君ニ對シテ何ヲ謝罪セシヤ).

облича́ть,—чи́ть кого въ чемъ? Мы *обличи́ли* его *во* лжи (我等ハ彼ノ虚偽ヲ咎メタリ).

ка́яться, по.—въ чемъ? *Пока́йтесь въ* свои́хъ грѣха́хъ (自身ノ罪過ヲ悔悟セヨ).

нужда́ться въ комъ? въ чемъ? Онъ *ни въ комъ не нужда́ется* (彼ハ誰ヲモ要セズ). Я *не нужда́юсь въ* ва́шихъ совѣтахъ (我ハ貴君ノ相談ヲ要セズ).

обвиня́ть, ни́ть кого въ чемъ? Его *обвини́ли во* лжи (彼ヲ虚偽ナリト擬罪セリ).

отка́зывать,-за́ть кому въ чемъ? *Не отказывайте ему́ въ* его про́сьбѣ (彼レノ請願ヲ謝絶スル勿レ).

подозрѣва́ть кого въ чемъ? *Его подозрѣва́ютъ въ* воровствѣ (窃盗ニ就テ彼ヲ疑フ).

пойма́ть кого въ чемъ? *Его пойма́ли въ* обма́нѣ (彼ヲ其詐欺中ニ發キ責タリ)

попада́ться, попа́сться въ чемъ? Онъ *попа́лся въ* кра́жѣ (彼ハ窃盗ノ際ニ捕ハル).

превосходи́ть, превзойти́ кого въ чемъ? Онъ *превосходи́тъ* ората *во* всѣмъ (彼ハ萬事兄弟ニ優レリ).

признава́ться,-на́ться кому въ чемъ? Онъ *призна́лся* намъ *во* всѣмъ (彼ハ一切ヲ我等ニ自白セリ).

руча́ться, поручи́ться въ чемъ? за что? за кого? Я *руча́лось въ* этомъ, *за* это (我レハ是ヲ保證ス).—*за него́* (我レハ彼ノ爲ニ保證ス).

сомнѣва́ться, усомни́ться въ комъ? въ чёмъ? Я *сомнѣва́юсь въ немъ* (我ハ彼ヲ疑フ), *въ* и́скренности его словъ (彼レノ言ノ誠實ナルヲ疑フ).

состоя́ть въ чемъ? *Въ чемъ состои́тъ* его про́сьба? (彼ノ請願ハ何ナルヤ)

убѣжда́ться, убѣди́ться въ чемъ? Мы *убѣди́лись въ* справедли́вости его словъ (我等ハ彼レノ言ノ正義ナルヲ領解セリ).

увѣря́ть,-рить кого въ чемъ? Онъ *увѣря́лъ* насъ *въ* этомъ (彼ハ此事ノ眞ナル我等ニ證言セリ).

увѣ́риться въ чемъ? Я *увѣ́рился въ* его дру́жбѣ (我ハ彼レノ友誼ヲ確信セリ).

укоря́ть кого въ чемъ? *Въ чемъ* вы *укоря́ете* его? (何事ニ就テ彼ヲ責ムルヤ)—*Въ* хи́трости (狡猾ヲ).

упрека́ть,-кну́ть кого въ чемъ? Её *упрека́ютъ въ* ро́скоши (贅澤ナリト彼女ヲ非難ス).

улича́ть кого въ чемъ? Ихъ *уличили въ* воровствѣ (彼等ニ其窃盗ノ罪證ヲ

упо́рствовать въ чемъ? Онъ всегда *упо́рствуетъ* *въ* своёмъ мнѣніи (彼ハ常ニ自說ニ就テ强情ヲ張ル).
успѣва́ть въ чемъ? Онъ *успѣва́етъ* *въ* свои́хъ дѣла́хъ (彼レハ其事業ヲ捗ル).
Успѣхи *въ* нау́кахъ (學業ニ於ケル進步).
уча́ствовать въ чемъ? *Я не уча́ствую* *въ* э́томъ обѣдѣ (我レハ此會食ニ與カラズ).

§ 125. 役格ト前置格ヲ支配スル前置詞 на

1. 役格ヲ支配スル時ハ

1. 事物ノ外面殊ニ上部ノ表面ニ向ヒ進ムヲ表シ生格前置詞 съ (§ 128, I, 1) ニ對立ス例ハ Положи́те кни́гу *на* столъ (卓ノ上ニ書ヲ置ケヨ). Ся́дьте *на* сту́лъ (椅子ニ腰掛ケヨ). Онъ у́ѣхалъ *на* о́стровъ (彼レハ島ニ出發セリ). Надѣ́ньте шля́пу *на* го́лову (帽ヲ頭ニ冠レヨ). Повѣ́сьте пальто́ *на* стѣ́ну (外套ヲ壁ニ掛ケヨ)

備考 談話ニ於テモ然ルヲアルガ又或文學者モ時トシテ前置詞 въ 及 на (方向ト進動ヲ表ス詞ト共シテ)ノ後ニ役格ノ代リニ前置格ヲ使用ス、例ハ Пушкинъ ハ次ノ如キ句ヲ使用セリ即チ Ма́рья Ива́новна *сѣла на скамьѣ*. 此句中ノ на скамьѣ ハ實ハ на скамью ダルベキナリ、斯ノ如ク役格ノ代リニ前置格ヲ使用スルハ文句ヲ簡略セシヨリシテ生ゼシナリ即チ此文句ノ意義ハ M. И ハ長椅子ニ着坐シテ而シテ暫時坐リ居リシナリ(面談ノ終ルマデノ間)、即チ同一ノ語ヲ二回續ケテ使用セザランガ爲ニ簡略ヲ施セシニ過ギズ、外國人ハ斯カル用語ノ法ヲ使用セザルヲ可トス、

2. 或ル動作ノ行ハルヽ場所ニ進ミ行クヲ表ス、但シ其際ニハ場所ヲ稱セズシテ動作ノ名稱ヲノミ指ス、例ハ Идти́ *на* войну́ (戰爭ニ行ク), *на* рабо́ту (勞役), *на* слу́жбу (勤務), *на* вѣ́рную смерть (決死), *на* смо́тръ (檢閱), *на* уро́къ, (學課), *на* экза́менъ (試驗). У́ѣхать *на́* воды (温泉ニ出立ス), *на* да́чу (別莊ニ), *на* ро́дину (鄉里ニ). Пригласи́ть *на* сва́дьбу (婚禮ニ招待ス), *на* обѣ́дъ (晝食ニ). *на* у́жинъ, (晚食ニ), *на* конце́ртъ (音樂會ニ), *на* ве́черъ (晚餐會ニ).

3. 世界諸國ノ名稱ト共ニスル時ハ сѣ́веръ (北). югъ (南). восто́къ (東). за́падъ (西). сѣ́веро-восто́къ (東北). сѣ́веро-за́падъ (西北). ю́го-восто́къ (東南). ю́го-за́падъ (西南) ハ概略ノ方位、或ハ進行方向、或ハ一地方ト他ノ地方トノ位地關係ヲ表ス、此場合ニ於テハ凡テ前置詞 въ § 117, 2 ヲ以テ代用スルヲ常トス、進行ノ方向ヲ表スル際ニハ前置詞 съ ニ對立ス (§ 128, I, 3) 例ハ Внача́лѣ мы ѣ́хали *на* восто́къ (=*къ* восто́*ку*), а пото́мъ пое́хали пря́мо *на* сѣ́веръ (=*къ* сѣ́вер*у*) (我等ハ最初東ヲ指シテ乘行キ、後ニハ直北ヲ指シテ乘行ケリ). Мы ѣ́хали пря́мо *съ* сѣ́вер*а на* югъ (我等ハ眞直ニ北ヨリ南ニ向テ乘行ケリ). Япо́нія лежи́тъ *на* за́падъ (=*къ* за́пад*у*) отъ Аме́рики и *на* восто́къ (=*къ* восто́*ку*) отъ Евро́пы (日本ハ亞米利加ヨリ西ニ位シ歐羅巴ヨリ東ニ位ス)、

備考 востокъ ト云フ語ハ屢々亞細亞諸國ヲ指シテ使用セラル、而シテ尙之ヲ細別シテ Ближній Восто́къ (バルカン半島及ペルシヤ等ヲ云フ)ト Да́льній Восто́къ (日本、支那、朝鮮)ト爲ス、此意義ニテ使用ノ場合ニハ востокъ ト云フ語ノ頭文字ヲ大書ベキナリ、例ハ Онъ

уѣхалъ служи́ть *на Восто́къ* (彼ハ東國ニ在勤ノ爲ニ出發セリ即チ或ル東ノ國ニ). Этотъ парохо́дъ за́втра отхо́дитъ *на Да́льній Восто́къ* (此滊船ハ明日極東ニ出發セントス).

4. 有名ナル市府ヲ通過シ Изъ Кіева мы ѣхали въ Петербу́ргъ *на* Москву́ (=*через* Москву́), а изъ Петербу́рга возврати́лись въ Кіевъ *на* Варша́ву (=*через* Варшаву).

5. 動詞 стать, сѣсть (坐ス), лечь (臥ス), опере́ться (倚ル), упа́сть (落下ス)等ト共ニスル時ハ是等ノ動作ニ依テ身體ヲ支フル肢體ヲ表ス、лечь *на* спину́ (上向ニ臥ス), стать *на* колѣни (膝マヅク), опере́ться *на* ло́коть (臂ヲツク).

6. 時ニ關シテ動作ノ行ハレ續ク間ヲ表ス

на мину́ту 一分間	*на* оди́нъ часъ 一時間中
на нѣсколько мину́тъ 數分間	*на* день 一日間
на пять дней 五日間	*на* недѣлю 一週間
на лѣто 夏ノ間、夏中	*на* нѣсколько лѣтъ 數年間
на кани́кулы 夏期休暇間	*на* три го́да 三年間
на годъ 一年間	*на* всю жизнь 一生涯間、終身

Онъ пріѣхалъ къ намъ *на* недѣлю (彼レハ一週間ヲ期シテ來レリ). Этого ча́я мнѣ доста́нетъ *на* цѣлый годъ (此茶ハ我レニ一ケ年間ノ用ニ足ル).

7. когда? ノ間ニ應シ день, су́тки 等ト共ニシテ事件ノ後ニ關スル時ヲ表シ前置詞 за (§ 121, I, 2) ニ反對ス. *На* друго́й день (翌日), *на* слѣдующій день (其次ノ日), *на* второ́й день (ソレヨリ二日目), *на* тре́тій день (ソレヨリ三日目), *на* вторы́я су́тки (第二晝夜). Онъ пріѣхалъ *на* пя́тый день по́слѣ смерти отца́ (彼レハ父ノ死後第五日目ニ來レリ). Онъ уѣхалъ *за* пять дней до смерти отца (父ノ死亡五日前ニ出立セリ).

8. когда? ノ間ニ應シテ生格前置詞 съ ト共ニシテ時期ノ對向ヲ表ス. Онъ пріѣхалъ въ ночь *съ* воскресе́нья *на* понедѣльникъ (彼レハ日曜ヨリ月曜ニ跨カリシ夜ニ於テ來レリ).

9. на сколько? ノ間ニ應シテ賣買セント欲スル金額ヲ表ス. *На* каку́ю су́мму вы купи́ли книгъ? (幾許ノ金額ダケ書籍ヲ購求セシヤ)—*На* рубль, *на* два рубля́, *на* три рубля́ (一圓ダケ、二圓ダケ、三圓ダケ). *На* копѣйку, *на* пять копѣекъ (一錢ダケ、五錢ダケ). Купи́те мнѣ почто́выхъ марокъ *на одинъ эн*ъ и изъ нихъ одну́ ма́рку въ 20-ть сень и двѣ по 10-ти сень, а всѣ остальныя —трехкопѣечныя (我ガ爲ニ郵便切手ヲ一圓買ヘヨ、其內二十錢切手一枚ト十錢切手二枚、其餘ハ悉ク三錢切手ヲ求メヨ). Прода́ть *на* копѣйку, *на* двѣ, *на* три копѣйки (幾錢ダケ賣ル).

備考 斯ノ如キ意義ヲ以テ Держа́ть пари́ *на* сколько? (幾許ノ賭カヲ行フノ)語句ヲ使用ス. У насъ было (=мы держа́ли) пари́ *на* 10-*ть* рубле́й (我等ハ十圓ノ賭ヲ行フタリ).

10. 動詞 увели́чить (增ス), удлини́ть (長クス), уменьши́ть (減少ス), укороти́ть (短クス)等ト共ニシテ增減ノ數量ヲ表ス. увели́чить на сколько? (幾許ヲ增ス)—*на* копѣйку, *на* рубль, *на* верше́къ (一寸), *на* фунтъ (一斤), *на* са́жень (一間ケ). Я увели́чилъ жа́лованье своему́ служи́телю *на* три рубля́ въ мѣсяцъ (我レハ自身ノ下僕ノ月給ヲ三圓增セリ). Укороти́ть пальто́ *на* два верше́ка (外套ヲ二寸短クス).

11. 比較級ニ於テ程度ノ多寡ヲ表ス

вы́ше *на* верш6́къ 一寸高シ
ни́же *на* футъ 一尺低シ
длинн6́е *на* са́жень 一間長シ
тяжел6́е *на* фунтъ 一斤重シ
ле́гче *на* пудъ 一貫目輕シ
да́льше *на* версту́ 一里遠シ
бли́же *на* дв*ѣ* версты́ 二里近シ
тепл6́е *на* гра́дусъ 一温度暖シ
холодн6́е *на* два гра́дуса 二温度寒シ
ра́ньше *на* часъ 一時間早シ
по́зже *на* три часа́ 三時間遲シ

Онъ пріѣ́халъ *на* два ча́са ра́ньше, чѣмъ я (彼レハ我ヨリ二時間早ク來レリ). Сего́дня тепл6́е *на* два гра́дуса, чѣмъ вчера́ (今日ハ昨日ヨリ二温度暖シ).

備考 1. 時間ノ比較ノ際ニハ役格前置詞 на ノ代リニ造格(前置詞ヲ用ヒザル)ヲ使用スルモ可ナリ. Онъ пріѣ́халъ двумя́ часа́ми ра́ньше, чѣмъ я (彼レハ我ヨリ二時間早ク來レリ).

備考 2. разъ (倍) ト云フ語ヲ用ヒテ比較スル時ニハ必ズ役格前置詞 въ ト共ニスベシ. *Въ* два ра́за бо́льше (二倍多シ), въ три ра́за ме́ньше (三倍少ナシ).

12. 物品ノ分割ヲ表スル動詞ト共ニシテ其分割セラレシ部分ノ細微ナラズシテ數ヘ盡シ得ベキ場合 (前置詞 въ § 124, I, 11 比考). Разр6́зать *на* три ча́сти (三部ニ分裁ス). Разби́ть *на* ме́лкіе куски́ (小ナル塊ニ分砕ス).

13. 同シク或ル形容詞ト共ニ使用スル例ハ

гото́вый на что? къ чему? § 117, 10.
скупо́й на что?—*на* похвалы́ (稱讃ニ吝ナル).
спосо́бный на что? къ чему? § 117, 10.
расточи́тельный на что?—*на* де́ньги (浪費ヲ好ム所ノ).

14. 或ル名詞ト共ニ使用ス

биле́тъ на что?—*на* про6́здъ (通行券).
пра́во на что?—*на* о́тпускъ (賜暇ヲ得ルノ權利).
свид6́тельство на что?—*на* вы́возъ вещей за грани́цу (外國輸出許可證、證明書).

15. 俗語ニ於テハ不具缺點等ヲ表スル爲ニ或ル形容詞ト共ニス

глухо́й *на* пра́вое у́хо (右耳ノ聾ナル)
сл6́по́й *на* оди́нъ глазъ (一眼ノ瞽ナル)
хромо́й *на* л6́вую но́гу (左足ノ跛ナル)
кр6́покъ *на* у́хо (耳ガ遠シ)
нечи́стъ *на* руку́ (窃盗癖アリ)
разбо́рчивъ *на* ѣду́ (食物ニ用心深シ)

16. 俗語ニ於テハ種々ノ動詞ト共ニシテ副詞ノ體ヲ成ス事アリ

Случи́ться *на* бѣду́ (不幸ニシテ), *на* сча́стіе (幸ニシテ). Сд6́лать что-нибу́дь *на* сча́стье (幸ニ事ヲ行フ), *на* у́дачу (僥倖ニ), *на* смѣхъ (愚弄シテ), *на* зло (面ツ當テニ), *на* ско́рую ру́ку (粗略ニ). Ѣсть *на* здоро́вье (健康ヲ得ル爲ニ食ス)

17. 其他、下ニ記スル諸動詞及動詞ト同一語根ノ名詞ト共ニス

бра́ть, взять *на себя* отв6́тственность (自身ニ責任ヲ負フ),—поруче́ніе (委任ヲ),—исполне́ніе (實行、遂行ヲ)—что-нибу́дь *на* свой страхъ (自身ニ責ヲ負フテ事ヲ引受ク)

вліять, по—на кого? на что? *Повліяйте на него* (彼人ニ感化ヲ及セヨ) Здѣшній климатъ вредно *вліяетъ на* моё здоровье (此地ノ氣候ハ我ガ健康ニ害ヲ及ボス).

возлагать,—ложить что на кого? Всѣ трудныя работы *возложены на моего брата* (困難ナル仕事ハ凡テ我カ兄ニ負ハシメタリ).

глядѣть, взглянуть на кого? *Взгляните на него* (彼ヲ一見セヨ、彼レニ目ヲ傾ケヨ).

гнѣваться, раз—на кого? за что? Отецъ всё ещё *гнѣвается на брата* за продажу дома (父ハ今以テ兄ガ家ヲ賣リシヲ憤リ居ル).

досадовать на кого? за что? Онъ *досадуетъ на* сестру за ея неаккуратность (彼レハ姉妹ノ不規律ノ爲ニ姉妹ニ憤激ヲ泄セリ).

жаловаться, по—на кого? за что? За это я *пожалуюсь на васъ* отцу (是レガ爲ニ我レハ汝ヲ父ニ訴フ).

запирать, запереть что на что? Я *запеpъ* домъ *на* замокъ (我ハ家ヲ錠ニテ鎖シタリ),—письменный столъ *на* ключъ (机ヲ鍵ニテ鎖ス).

негодовать на кого? за что? Онъ *негодуетъ на* сына за его дурное поведеніе (不品行ナル爲ニ其子ヲ怨ミ咤ク).

наговаривать,-рить кому на кого? Онъ *наговариваетъ* начальнику *на* своихъ сослуживцевъ (彼レハ長官ニ同僚等ヲ讒セリ).

надѣяться на кого? на что? Я *надѣюсь на васъ, на* вашу помощь (我レハ貴君ニ望ヲ抱ク、貴君ノ助力ヲ期望ス).

обращать, обратить на кого? что? *Обратите на него* вниманіе (彼レニ注意ヲ傾ケヨ)

отваживаться,-житься на что? Онъ *отваживается на* самыя рискованныя предпріятія (彼レハ最モ冒險ナル計畫ヲ斷行ス).

отвѣчать,-тить кому на что? *Отвѣтили* ли вы ему *на* письмо (貴君ハ彼レニ手紙ノ返答セシヤ)? *Отвѣтъ на* письмо (返書).2—*за что*? За это я отвѣчаю (此事ニ就テ我ハ責ヲ負フ).

переводить,-вести что съ чего на что? Онъ *переводитъ стихотвореніе съ* русскаго языка *на* японскій (彼レハ詩ヲ露語ヨリ日本語ニ飜譯ス). *Переводъ съ* японскаго языка *на* русскій (和文露譯).

перелагать,-ложить съ чего? на что? *Переложеніе съ* англійскаго языка *на* французскій (英語ヨリ佛語ニ飜譯、飜案).

перемѣнять,-нить что? на что? *Перемпните* мнѣ эту книгу *на* другую (此書ヲ別ノ書ト取換ヘヨ)

полагаться, положиться въ чемъ на кого? Въ этомъ дѣлѣ я *полагаюсь на васъ* (此事ニ於テハ我ハ汝ヲ信賴ス).

походить на кого? на что? Сынъ *походитъ на* отца, а дочь *похожа на* мать (男ノ子ハ父ニ肖テ居ル、女ノ子ハ母ニ肖ル).

присня́ть,-гну́ть кому на что? *Присня́ть* госуда́рю *на* ве́рность по́дданства (帝王ニ對シテ忠良ノ臣下タルヲ宣誓ス).

промéнивать,-ня́ть что? на что? Онъ *промэ́нять* я́блоко *на* гру́шу (彼レハ林檎ヲ梨子ト交換セン).

размéнивать,-ня́ть,-ни́ть что на что? *Размэ́ните* э́ту бума́жку *на* гри́венники (此紙幣ヲ十錢銀貨ニ兩替セヨ).

ропта́ть на кого, на что? Онъ *ро́пщетъ на свою́* судьбу́ (彼レハ自身ノ運命ヲ怨ム).

рѣша́ться,-ши́ться на что? Неуже́ли онъ *рѣши́тся на это* (豈ニ彼ハ之ヲ決心セシヤ)?

серди́ться, раз—на кого? за что? *За что* онъ *на васъ разсерди́лся* (何事ノ爲ニ彼ハ汝ニ憤ヲ發セシヤ)?

смотрéть, по—на кого? на что?—*на э́того* господи́на (此人ヲ視ル), *на* доску́, *на* книгу (板ヲ視ル、書物ヲ視ル); 2,—за кѣмъ? за чѣмъ?—*за* дѣтьми, *за* хозя́йствомъ (小兒ヲ監視ス、經濟ヲ管理ス); 3,—что?—кни́гу (書物ヲ撿閲ス); 4,—во что?—*въ* кни́гу (書物ノ内部ヲ見ル).

соглаша́ться,-си́ться на что? Онъ *соглаша́ется на всё* (彼レハ何事ニモ承諾ヲ表ス). 2,—съ кѣмъ въ чёмъ? Я согласенъ *съ вами въ э́томъ* (我ハ此事ニ於テ貴君ト同意ナリ).

сплётничать, на—кому на кого? Онъ *насплётничалъ на меня́* моему́ отцу́ (彼ハ我ヲ我ガ父ニ讒セリ、彼ハ虚説ヲ搆ヘテ我ノ事ヲ我父ニ告タリ).

угожда́ть, угоди́ть *на кого*? *кому*? *На него́* тру́дно *угоди́ть* (彼レノ氣ヲ迎フルハ困難ナリ). *Ему́* всѣ *угожда́ютъ* (人ハ皆ナ彼レノ氣ヲ迎ヘル).

упова́ть на кого? Онъ *упова́етъ на Бога* (彼レハ神ニ對シテ希望ヲ抱ク).

II. 前置格ヲ支配スル時ハ

1. 事物ノ外面殊ニ上表面ニ在留スルヲ表ス、Кни́га лежи́тъ *на* столѣ́ (書籍ハ卓上ニ在リ). Мы сидѣ́ли *на* сту́льяхъ (我等ハ椅子ノ上ニ腰掛ケタリ). Мы живёмъ *на* о́стровѣ (我等ハ島上ニ住居ス). *На* голови́ у него́ была́ соло́менная шля́па (彼ノ頭上ニハ藁帽子在リ). Пальто́ висѣ́ло *на* стѣнѣ́ (外套ハ壁面ニ掛レリ).

2. 事物ノ行ハル、場所ニ存在スルヲ表ス、但シ場所ヲ稱セズシテ事物ノミヲ稱ス、例ハ быть *на* войнѣ́ (戰場ニ在ル、戰爭ニ與カル), *на* рабо́тѣ (勞働場ニ在ル、勞働ス), *на* слу́жбѣ (勤務所ニ在ル、勤務ス); *на* смотрѝ (撿閲場ニ在ル、撿閲ス), *на* уро́кѣ (學習或ハ教授ノ場ニ在ル、學ブ、教フ), *на* экза́менахъ (試驗場ニ在ル、試驗ス); жить *на* да́чѣ (別莊ニ住ム); находи́ться *на* вода́хъ (温泉場ニ居ル、温泉ニ入浴シ居ル); быть *на* сва́дьбѣ (婚筵ニ在ル、婚筵ニ與カル), *на* у́жинѣ (晩食ニ與カル), *на* конце́ртѣ (音樂會ニ參列ス), *на* ве́черѣ (夜會ニ與ル); жить *на* ро́динѣ (故郷ニ住ム); стоя́ть *на* дожди́ (雨ニ當リテ立ツ), *на* со́лнцѣ (日向ニ立ツ).

3. 世界ノ洲ニ對スル方角或ハ概シテ事ノ行ハル、方位ヲ表ス、 Мы живёмъ по отношéнію къ Амéрикѣ *на* зáпадѣ (我等ハ亜米利加ニ對シテハ西ニ住ム者ナリ), а по отношéнію къ Евróпѣ *на* востóкѣ (而シテ歐羅巴ニ對シテハ東ニ住ム者ナリ) Когда *на* сѣверѣ бывáетъ хóлодно, въ то врéмя *на* югѣ бывáетъ теплó (北方ニ於テ寒キ時節ニハ南方ニ於テハ暖カシ). Онъ дóлго жилъ *на* Востóкѣ (彼ハ久シク東國ニ住居セリ). § 125, I, 3 備考

4. 動詞 стоя́ть (立ツ), сидѣ́ть (座ス), лежа́ть (臥ス)等ト共ニシテ是等ノ動作ニ依テ全身ヲ支ヘル肢體ヲ表ス. лежа́ть *на* спинѣ́ (上向ニ臥ス), стоя́ть *на* колѣ́нях*ъ* (膝マヅキ居ル).

5. 格闘及決闘ノ際ニ使用スル武器ヲ表ス. *На чём*ъ у нихъ состоя́лась дуэ́ль? (彼等ハ何ヲ用ヒテ決闘セシヤ).—*На* кула́ка*х*ъ 拳ヲ用ヒテ). Они стрѣля́лись *на* пистоле́та*х*ъ (彼等ハ拳銃ヲ用ヒテ相打合ヘリ). Они драли́сь *на* кула́чика*х*ъ (彼等ハ拳ヲ以テ相互ニ爭闘セリ).

6 談話或ハ文章ニ使用ノ國語ヲ表ス、但シ前置詞 на ノ代リニ副詞ヲ使用スルコト多シ. Они объясня́лись *на* ру́сском*ъ* язык*ѣ* (=по-ру́сски) 彼等ハ露語ニテ通話セリ. Это сочине́ніе напи́сано *на* япо́нском*ъ* язык*ѣ* (=по-япо́нски) 此文ハ日本語ニテ書カレタリ. Въ на́шемъ учи́лищѣ преподава́ніе ведётся *на* япо́нском*ъ* язык*ѣ* (我ガ學校ニ於テハ日本語ニテ教授ハ行ハル).

7. когда? ノ問ニ應シテ недѣ́ля (週間)ト云フ語ニ使用ス其他數日間ニ渡ル祭日ヲ表スル語ト共ニ使用ス. *На э́той* недѣ́л*ѣ* (今週間ニ於テ), *на* слѣ́дующ*ей* недѣ́л*ѣ* (次ノ週間ニ於テ), *на* про́шл*ой* недѣ́л*ѣ* (前週間ニ於テ). *На* пра́здника*х*ъ (諸祭日ニ於テ), *на* па́сх*ѣ* (復活祭ニ於テ), *на* рождествѣ́ (基督降誕祭ニ於テ)、其他、副詞ノ體ヲ成シテ用フルハ *на э́тих*ъ дня*х*ъ (近日中ニ), *на* свое́мъ вѣку́ (其時代ニ於テ), *на* до́суг*ѣ* (閑暇ノ際).

8. когда́? ノ問ニ應シテ人ノ生レテ後幾年月ヲ表ス、其際 отъ роду (誕生ヨリ), отъ рожде́нія (誕生ヨリ), своей жи́зни (生涯ノ)等ノ語ヲ附加スルコモアリ. Въ учи́лище онъ поступи́лъ *на* деся́т*омъ* году своей жи́зни (或ハ отъ роду, отъ рожденія), око́нчилъ уче́нье *на* 22-*мъ*, жени́лся *на* 23-*мъ*, овдовѣ́лъ *на* 34-*мъ* и у́меръ *на* 41-*мъ* году́ (отъ рожде́нія) (彼レハ生年第十歳ニシテ學校ニ入リ第廿二歳ニシテ學業ヲ終リ、第廿三歳ニシテ妻ヲ娶リ、第三十四歳ニシテ妻ヲ亡ヒ、第四十一歳ニシテ死亡セリ).

9. 意ヲ轉シテ「身上ニ負フ」ノ意義ヲ表ス. Отвѣ́тственность за исхо́дъ э́того дѣ́ла лежи́ть *на вас*ъ (此事ノ結果ニ關スル責任ハ汝ニ歸ス). У него́ мно́го долго́въ *на* ра́зных*ъ* ли́ца*х*ъ (彼レハ諸人ニ對シテ負債多シ). *На нём*ъ сосредото́чено внима́ніе всѣ́хъ его́ родны́хъ (諸親族ハ皆ナ彼レニ傾目セリ親族ハ皆ナ彼レニ望ヲ抱ケリ).

10 其他、次ノ諸動詞ト共ニ使用ス

вымеща́ть, вы́местить что? на комъ? Онъ *вы́местилъ* свой гнѣвъ *на* свои́х*ъ* дома́шни́х*ъ* (彼ハ自身ノ憤怒ヲ其家族ニ向テ霽ラシタリ).

жени́ть *кого*? *на комъ*? Его́ *жени́ли* противъ во́ли *на э́той* же́нщинѣ (強ヒテ彼

レニ此婦人ヲ妻ハセタリ).—ся *на комъ*? Онъ *женился на ней* по любви (彼レハ戀慕シテ彼女ヲ娶レリ)

играть § 124, I, 12.

§ 126. 役格ト前置格ヲ支配スル前置詞 о, объ, обо

此前置詞ニ關係ヲ有スル語ガ(即チ此前置詞ニ次テ立ツ語)子音ヲ首端ニ有スル時ハ о ヲ使用シ、若シ亦其語ガ母音ヲ首端ニ有スル時ハ объ ヲ使用ス、例ハ *о васъ, о столѣ, объ этомъ* 等ノ如シ、而シテ обо ハ *обо мнѣ* 唯一ノ語句ニ於テノミ使用セラル、但シ о モ объ モ обо モ意義ハ同一ナリ

I. 役格ノ支配スル場合ハ至テ稀ナリ

1. 固キ物ニ急激ニ觸ル意ヲ表ス. Уда́риться *объ* камень, *объ* столъ (石ニ觸ル、卓ニ觸ル). Ры́ба бьётся *объ* лёдъ (魚ハ氷ニ跳子觸レル). 意ヲ轉用シテ Би́ться, уда́риться *объ* закла́дъ (物ヲ賭シテ).

2. 俗語ニ於テ на ノ代用ヲ成ス Обопри́тесь *объ меня́* (на меня́)「我ニ身ヲ支ヘヨ、我ヲ踏張リノ臺トセヨ」

3. 俗語ニ於テ二個ノ事物ノ連合或ハ連接シテ存在スルヲ表ス. Идти́ рука́ *объ* руку (互ニ手ヲ携ヘテ行ク、相提携ス). Жить *объ* стѣну (壁ヲ合セテ住居ス).

4. 俗語ニ於テ *объ э́то* вре́мя, *объ э́ту* по́ру トニフ語句ヲ用ヒテ場所ヲ隔テヽ行ハルヽ同時期ヲ表ス、或ハ年月ヲ隔テタル對比ノ時日ヲ表ス. Тепе́рь въ 7 часо́въ уже́ темно́; въ про́шломъ мѣсяцѣ *объ э́ту по́ру* (=въ это время) я обыкнове́нно сидѣлъ у окна́ и чита́лъ газе́ты (今ハ七時ニハ既ニ暗シ、先月ノ同時刻ニハ我ハ常ニ窓邊ニ坐シ新聞ヲ讀メリ). Въ Россіи въ январѣ моро́зы и вьюги; въ Япо́ніи объ *э́то вре́мя* (=въ э́то вре́мя) поля́ покры́ты зе́ленью и на дере́вьяхъ висятъ апельси́ны (露西亞ニ於テハ一月ニハ氷點以下ノ寒氣ト吹雪ハ存スレド日本ニ於テハ其頃ニハ田野綠草ニ蔽ハレ又蜜柑ハ樹ニ生ズル).

II. 前置格ヲ支配スル時ハ

1. 數詞ト共ニシテ事物ノ外面ノ部分或ハ附屬物ヲ表ス. Челове́къ *о двухъ* нога́хъ, а звѣрь *о* четырёхъ (人ハ二足物、獸ハ四足物ナリ). Столъ *о* четырёхъ но́жкахъ (四本脚ノ卓). Це́рковь *о* двухъ гла́вахъ (二圓頭ノ教堂)

2. когда? 問ニ應シテ時期ノ概略ヲ表シ во время (何々ノ頃ヒニ)ト同意義ヲ有ス殊ニ數日間ニ渉ル大祭等ニ關シテ使用シ前置格支配ノ на ノ代用ヲ爲ス多クハ俗語ニ於テ使用ス. *О* веснѣ=во время весны (春ノ頃ヒニ). О пра́здникахъ=во вре́мя пра́здниковъ, на пра́здникахъ (祭日ノ頃ヒニ). *О* Пасхѣ (復活祭ノ頃ヒニ). *О* Рождествѣ (基督降誕祭ノ頃ヒニ).

3. 智力ノ作用ニ關スル動詞及名詞ト共ニ使用セラル

вспомина́ть,-мнить о чемъ? о комъ? Мы ча́сто *вспомина́ли о васъ* (=про васъ) (我等ハ屢々貴君ノ事ヲ想出セリ).

дога́дываться,-да́ться о чемъ? Я сра́зу *догада́лся объ э́томъ* (我ハ直チニ此事ヲ察知セリ).

ду́мать, по—о комъ? о чемъ? *Ду́майте* не *о себѣ* только, но и *о други́хъ* (自

身ノ事ノミナラズ、他人ノ事ヲモ慮レヨ). *Подумайте о* послѣдствіяхъ (結果ノ事ヲ推慮セヨ).

забывáть,-быть *о комъ? о чемъ? что?* Онъ *забы́лъ* кни́гу (彼ハ書籍ヲ置忘レタリ). Онъ совсѣ́мъ забы́лъ *о кни́гахъ* (彼ハ全ク書籍ノ一ヲ忘却シタリ).

знать о комъ? о чемъ? Что вы *зна́ете объ этомъ?* (此事ニ關シテ貴君ハ何ヲ知ルヤ).

мечтáть о комъ? о чемъ? *О комъ* она *мечтáетъ?* (彼女ハ誰ノ事ヲ想像スルヤ)

Не *мечтáйте объ этомъ* (此事ニ關シテ空想ニ耽ル勿レ).

напоминáть,-по́мнить кому о комъ? о чемъ? *Напо́мните ему́ и обо мнѣ* (貴君ハ彼ニ我レノ事ヲモ言ヒ賜ヘ); 2—кѣмъ кого? Онъ *напоминáетъ собо́ю васъ* (彼レハ貴君ニ似テ居ル).

отзывáться, отозвáться, о комъ? о чемъ? *О* ва́шемъ бра́тѣ и его́ поведе́ніи онъ *отзывáется* очень плóхо (貴君ノ兄弟ト其品行ヲ彼ハ大ニ惡評ス); 2—*чѣмъ?* Сунъ *отзывается* ды́момъ (ソップハ烟ノ香ヲ爲ス).

по́мнить о комъ? о чемъ? Мы по́мнимъ о ва́шемъ обѣщáніи (我等ハ貴君ノ約言ヲ忘レズ).

размышля́ть о комъ? о чемъ? (何々ヲ思考ス、熟考ス).

разсуждáть о комъ? о чемъ? (何々ヲ討論ス、議論ス)

слы́шать о комъ? о чемъ? Я уже́ давно́ *о нёмъ* ничего́ не *слы́шалъ* (我ハ久シク彼ノ事ニ關シテハ何ヲモ聞キ受ケズ).

суди́ть о комъ? о чемъ? Вы *суди́те объ э́томъ* несправедли́во (貴君ハ此事ヲ不正ニ議判セリ).

узнавáть,-нáть о комъ? о чемъ? Что вы *узна́ли о моёмъ* братѣ? (我ガ兄弟ニ關シテ貴君ハ何ヲ知リ得シヤ)?

упоминáть,-мянýть. Въ своёмъ письмѣ́ онъ *упомина́етъ о ва́шемъ отцѣ* (彼ハ其手紙ニ於テ貴君ノ父ノ事ヲモ記入セリ).

читáть о комъ? о чемъ? *Чита́ю о* Петрѣ́ Вели́комъ (我ハ彼得大帝ノ事ヲ讀ミ居ル). *Чита́ю о* пожа́рѣ, случи́вшемся въ го́родѣ (市府ニ行ハレシ出火ノ事ヲ我ハ讀ミ居ル).

此種ノ動詞ト同一語根ヲ有スル名詞ト共ニ使用セラル

ду́ма о комъ? о чемъ?—*о* свое́й судьбѣ́ (自身ノ運命ニ關スル熟慮).

мечта́ о комъ? о чемъ?—*о* встрѣ́чѣ съ ма́терью (母トノ會見ニ關スル感想).

мысль о комъ? о чемъ?—*о* пріѣ́здѣ бра́та (兄弟到來ニ關スル念慮).

разсужде́ніе о комъ? о чемъ?—*о* любви́ къ отéчеству (愛國論).

4. 多クノ自動詞ト共ニシテ思想ノ通達ヲ表ス

говори́ть что о комъ? о чемъ? Что онъ *говори́тъ о* моёмъ бра́тѣ (=про моего бра́та)? (我ガ兄弟ニ關シテ彼ハ何ヲ言フヤ).

докла́дывать, доложи́ть что о комъ? о чемъ? Я всё *доложи́лъ* ему *о* ва́шемъ дѣлѣ (我ハ貴君ノ事件ニ關スル一切ヲ彼ニ具申セリ).

доноси́ть, донести́ кому о комъ? о чемъ? Онъ все (=*обо всёмъ*) *доно́ситъ* имъ *о насъ, о на́шей жи́зни* (彼ハ我等ノ生活ニ關スルコトヲ密告ス).

извѣща́ть,-вѣсти́ть о комъ? о чемъ? Я *извѣсти́лъ* ихъ *о* сме́рти отца (我ハ父ノ死去ヲ彼等ニ通知セリ).

объявля́ть,-ви́ть о чемъ? Онъ *объяви́лъ* намъ *о* ско́ромъ своёмъ возвраще́ніи на ро́дину (彼ハ程ナク自身ノ故國ニ歸ルヿヲ我等ニ發表セリ).

писа́ть о комъ? о чемъ? Онъ *писа́лъ* намъ подро́бно и *о себѣ* и *о* свои́хъ дѣла́хъ (彼ハ精密ニ自身ノ事並ニ自身ノ事項ヲ我等ニ書キ送レリ).

повѣствова́ть о комъ? о чемъ? Онъ *повѣствуетъ о* жи́зни своихъ пре́дковъ 彼ハ自身ノ祖先ノ傳ヲ書キ綴ルヿ或ハ物語ル).

разска́зывать,-за́ть о комъ (про кого)?. о чемъ (про что)? Онъ всё *разсказа́лъ* намъ *о себѣ* (*про себя́*) и *о* свое́й жи́зни (*про* свою́ жизнь) (彼ハ我等ニ自身ノ事ト自身ノ生活ノ事ヲ悉ク語レリ).

разспра́шивать,-роси́ть о комъ? о чемъ? Онъ *разспра́шивалъ* меня́ (у меня́) *объ васъ* (про васъ) (彼ハ貴君ノ事ヲ我ニ聞キ質セリ).

сообща́ть,-щи́ть кому́ что о комъ? о чемъ? Онъ *сообщи́лъ* отцу́ *о* сестрѣ́ (про сестру́) всю́ пра́вду (彼ハ姉妹ノ事ヲ有體ニ父ニ告タリ).

спо́рить о комъ? о чемъ? Они *спо́рили объ* его́ сы́нѣ (彼等ハ彼ノ息子ノ事ヲ爭論セリ).

спра́шивать, спроси́ть о комъ? о чемъ? Онъ *спра́шивалъ* меня́ (у меня) *о васъ*, *о ва́шемъ* здоро́вьи (彼ハ貴君ノ事幷ニ貴君ノ健康ノ事ヲ我ニ問ヘリ).

телегра́фи́ровать о чемъ? *Телегра́фи́руйте объ* его́ пріѣ́здѣ (彼レノ到着ノヿヲ電報セヨ).

此種ノ動詞ト同一語根ヲ有スル動詞ト共ニ使用セラルル其一斑ヲ擧グレバ

анекдо́тъ о комъ (про кого)?—*о* Петрѣ́ Вели́комъ (про Петра́ Вели́каго) (彼得大帝ニ關スル逸話).

ба́сня о комъ о чемъ? Ба́сня Крылова́ *о* Лисицѣ́ и Випогра́дѣ (クリロウ氏ノ狐ト葡萄ノ訓喩).

Вопро́съ *о* вліяніи землетрясе́ній на пого́ду (地震ガ天候ニ及ボス影響ノ問題).

Дѣ́ло (суде́бное) *о* кра́жѣ (窃盜事件)

Докла́дъ *объ* уби́йствѣ (殺害ニ關スル上申).

Изве́стіе *о* побѣ́дѣ (勝利ノ報知).

Кни́га *о* Петрѣ́ Вели́комъ (彼得大帝ノ事ヲ記セシ書).

Объявле́міе *о* прода́жѣ до́ма (家屋賣拂ノ廣告).

Письмо́ *о* путеше́ствіи (旅行ノ事ノ手紙).

Разсужде́ніе Карамзина́ *о* любви́ къ оте́честву (カラムジン氏ノ愛國論)

Ска́зка Пу́шкина *о* Рыба́кѣ и Ры́бкѣ (プシキン氏ノ「漁夫ト魚」ノ伽話).

Сообще́ніе *о* войнѣ́ (戰爭ノ事ニ關スル通知).

Споръ *о* причи́нахъ дорогови́зны жи́зни (生計費騰貴ノ原因ニ關スル爭論)

Телегра́мма *о* сме́рти бра́та (兄弟死去ノ電報).

5 感情ヲ表スル動詞及名詞ト共ニ使用セラル、其一斑ヲ擧グレバ、

безпоко́иться, о— о комъ? о чёмъ? Я о́чень *безпоко́юсь о бра́тѣ* (我ハ大ニ兄弟ノ事ヲ心配ス).

горева́ть о комъ? о чемъ? Она очень *горю́етъ объ* умёршемъ сы́нѣ (彼女ハ死セシ子ノ事ヲ悲ム).

забо́титься. *Обо мнѣ*, пожа́луйста, *не забо́тьтесь* (何卒我ガ事ヲハ配慮スル勿レ).

моли́ться кому́ о комъ? о чемъ? Мы *мо́лимся* Бо́гу *о* проще́нiи на́шихъ грѣхо́въ (我等ノ罪ノ赦免ヲ神ニ祈ル).

печа́литься. *О нёмъ не печа́льтесь* (彼ノ事ヲ悲ム勿レ).

пла́кать о комъ? о чемъ? Она *пла́четъ о* свое́й до́чери (彼女ハ其ノ息女ノ事ヲ泣哭ス).

проси́ть о комъ? Онъ *про́ситъ о* своёмъ сы́нѣ (за своего́ сы́на) (彼ハ其息子ノ爲ニ請願ス).

стара́ться, по— о чемъ? Я *постара́юсь объ э́томъ* (我ハ此事ヲ盡力セン).

хлопота́ть по— о комъ? *Похлопо́чите обо мнѣ* (за меня́) (我ガ爲ニ周旋シ賜ヘ),

ходата́йствовать, по— предъ кѣмъ о комъ? (за кого?) *Ходата́йствуйте* предъ нимъ *объ* моёмъ бра́тѣ (за моего бра́та) (我ガ兄弟ノ爲ニ彼ニ向テ代願セヨ).

名詞ノ一斑ヲ擧グレバ безпоко́йство *объ* у́части пле́нныхъ (囚虜ノ運命ニ關スル不安心), забо́та *о* дѣ́тяхъ (兒童等ニ關スル顧慮), моли́тва *о* ниспосла́нiи благослове́нiя (天佑下降ノ祈禱), проше́нiе *о* приня́тiи въ учи́лище (入校ノ請願).

§ 127. 與格ト役格ト前置格ヲ支配スル前置詞 по

I. 與格支配

備考. 代名詞 онъ, мы, вы (§ 61,4), кто, что (§ 65,3), ско́лько, нѣ́сколько, мно́го ма́ло (§ 71, 3-4) 及數詞 2, 3, 4, 40, 90, 100 (§ 76,7), 1½ (§ 84, 11) 等ハ與格前置詞 по ト共ニスル際ニ於テ不規則的語尾ヲ有ス

與格ヲ支配スル際ノ意義ハ

1. 事物ノ外面、上表面ヲ進行スルヲ表ス、Идти́ *по* доро́гѣ (道路ヲ行ク). Ѣхать *по* пло́щади (廣場ヲ乘リ行ク). Гуля́ть *по* саду́ (園中ヲ散歩ス), Путеше́ствовать *по* странѣ́ (國内ヲ旅行ス). Плыть *по́* морю (海ヲ航行ス). Ползти́ *по* столу́ (卓上ヲ這フ).

2 「何々ニ依テハ」ト譯シテ事物ノ關係點ヲ表ス、Онъ первый *по* успѣ́хамъ, но послѣ́дній *по* поведе́нiю (彼レハ學業ニ依テハ第一番ナレ共品行ニ依テハ最劣者ナリ). Онъ ста́ршій *по* лѣта́мъ (彼レハ年齡ニ依テハ最高者ナリ). Онъ поступи́лъ въ э́томъ дѣ́лѣ *по* со́вѣсти, а не *по* зако́ну (彼レハ此件ニ就テハ法律ニ依ラズシテ良心ニ依テ處シタリ). Онъ всегда́ одѣ-

ва́ется *по* мо́дѣ (彼レハ常ニ流行ニ從テ着服ス). Шѣть *по* но́тамъ я не́ умѣю (我レハ譜ニ依テ歌フ事ヲ能クセズ). *По моему́* мнѣ́нію вы несправедли́вы (我ガ私見ニ依レハ汝ハ不正ナリ). *По* происхожде́нію своему́ онъ крестья́нинъ, а *по* профе́ссіи до́кторъ (彼レハ素生ニヨレバ農民ナレ𪜈、職業ニヨレバ醫者ナリ). *По* ста́рому сти́лю сего́дня 5 число́, а *по* но́вому 18-ое (舊曆ニヨレハ今日ハ五日ナレ𪜈 新曆ニヨレハ十八日ナリ). Всё сдѣ́лано *по* твоему́ жела́нію (萬事汝ノ望ノ通リ行ハレタリ). Не суди́те *по* нару́жности: нару́жность ча́сто быва́етъ обма́нчива (外貌ニ依テ人ヲ是非スル勿レ、外貌ハ殊ニ見謬リ易キモノナリ). *По* пла́тью встрѣча́ютъ, *по* уму́ провожа́ютъ (衣服ヲ見テ人ヲ迎ヘ、智力ヲ見テ人ヲ送ル). Я узна́лъ его не *по* оде́ждѣ, а *по* похо́дкѣ (我レ彼レヲ見知リタルハ衣服ニ依ルニ非ズ步行ノ態ニ依テナリ).

備考 *по мнѣнію* (說ニ依レハ), *по слова́мъ* (言ニ依レハ)ノ後ニ固有名詞ヲ附ス時ニハ省略ヲ施シテ по ト固有名詞ノミヲ以テスルコトアリ、例ハ по слова́мъ Карамзина́ (Карамзи́нъ 氏ノ言ニ據レハ)＝по Карамзину́ (Карамзи́нъ＝據レハ)

3. 原因ヲ表ス. Онъ не былъ въ кла́ссѣ *по* боле́зни (病ニ因テ彼レハ登校セザリシ). *По* недоста́тку вре́мени я еще не отвѣ́тилъ на его́ письмо́ (時ノ足ラザルニ因テ我レハ未ダ彼レノ手紙ニ返答セザリシ). Онъ оста́вилъ слу́жбу *по* дома́шнимъ обстоя́тельствамъ (彼レハ家事ノ都合ニ因テ役務ヲ罷メタリ). Онъ сдѣ́лалъ это *по* дру́жбѣ ко мнѣ (彼レハ我レニ對スル友誼ニ因テ之ヲ行ヘリ).

4. 「何ノ關係ニ由テ」ノ意ヲ表ス、但シ使用セラルヽコト稀ナリ. Това́рищъ *по* учи́лищу (學校友達、學友). Това́рищъ *по* ору́жію (武器ノ友、軍職ノ同僚). Ро́дственникъ *по* женѣ́ (妻ノ方ノ親戚).

5. 學課ニ關シテ之ヲ使用ス Уче́бникъ *по* исто́ріи (歷史ノ教科書),—*по* ру́сскому языку́ (露語教科書). Ле́кціи *по* филосо́фіи (哲學ノ講義). Уро́къ *по* геогра́фіи (地理學課).

6. 役務所屬ノ部門ヲ表ス、前置詞 въ ノ代リニ用フレトモ、之ヲ使用スルコト至テ稀ナリ Онъ слу́житъ *по* фло́ту (во флотѣ) 彼レハ海軍ニ奉職ス.

7. 數個ノ事物ノ場所配置ヲ表シ時トシテハ事物ガ或ル場所ノ表面ニ散亂シタルヲ表ス (此點ニ於テ前置詞 на 及 въ ト相異ル、此二前置詞ハ事物ガ順序ヲ整ヘテ配列、布置スルヲ表ス). Разойти́сь *по* дома́мъ, *по* ко́мнатамъ (各々其家、其室ニ離散ス). Разбѣжа́ться *по* кла́ссамъ (各々其教場ニ向テ散走ス) Развѣ́сить карти́ны *по* стѣна́мъ (繪畵ヲ壁面ニ多ク掛ク、但シ順序整ハザル意義ヲ含ム. на стѣна́хъ ト云ヘハ順序ヲ整ヘタル態ヲ表ス). Книги вали́лись *по* полу́ (多クノ書籍ハ床ノ上ニ散亂セリ); Кни́ги лежа́ли *на* полу́ (多クノ書籍ハ床ノ上ニ橫ハレリ). *По угла́мъ* въ комнатѣ стоя́ли сто́лики (室內ノ隅々アチラコチラニ卓ハ立テリ). *Въ угла́хъ* въ ко́мнатѣ стоя́ли сто́лики (室內ノ四隅ニ卓ハ立テリ).

8. по-ско́льку? (幾許ツヽ)ノ問ニ應ス. Рабо́чіе получи́ли *по* одному́ рублю́ (勞働者ハ一圓ヅヽヲ得タリ). Дай ни́щимъ *по двѣ* копѣ́йки (乞食ニ

二銭ヅヽ與ヘヨ). Дѣти съѣли по три я́блока и по одно́й гру́шѣ (兒童等ハ林檎三個ヅヽト梨子一個ヅヽヲ喰盡シタリ). § 71,3-4; § 76,7; § 83,3-4; § 84,11.

9. 時ニ關シテ「何々毎ニ」ノ意ヲ表ス. Приходи́те ко мнѣ *по* воскресе́ньямъ (日曜毎ニ我許ニ來レヨ), *по* понедѣ́льникамъ, *по* пра́здникамъ (月曜毎ニ、祭日毎ニ). Онъ занима́ется *по* цѣ́лымъ днямъ (彼レハ毎日終日働キ居ル),—*по* утра́мъ (朝毎ニ),—*по* вечера́мъ (晩毎ニ).

10. 俗語ニ於テ時ニ關シテ въ продолже́ніе (ノ間) ノ意ヲ有スルコトアリ、但シ主テ稀ニ使用ス. *Во* весно́й (春中), *по* о́сени (秋中), *по* зимѣ́ (冬中), *по* утру́ (朝中).

11. 俗語ニ於テ、稀ニハ年齢ヲ表スル際ニ前置詞 на (§ 125, II, 8) ノ代リニ使用ス. Дочь ея умерла́ *по* оди́ннадцатому году́ (=на 11-омъ году́ отъ рожде́нія) 彼ノ息女ハ十一オニシテ死セリ.

12. какъ? ノ問ニ應シテ關係形容詞ト共ニシ副詞ヲ成ス、例ハ *по*-лѣ́тнему, *по*-зи́мнему, *по*-здѣ́шнему, *по*-городско́му, *по*-дома́шнему (着服、態度等ニ關シテ「夏ノ如ク、夏ノ樣ニ、夏的ニ、冬的ニ、此地ノ風ニ從テ、市府ノ風ニ從テ、家居ノ通リニ」)

II. 役格ヲ支配スル時ハ

1. 動作ヲ及ホス場所ノ際限ヲ表シテ前置詞 до ノ代リニ使用ス、但シ之ヲ使用スルコト至テ稀ナリ. Онъ стоя́лъ въ водѣ́ *по* колѣ́ни (=до колѣ́нъ), *по* грудь (=до груди́) (彼レハ水中ニ膝マテ立チタリ、胸マテ立チタリ). Крестья́не руби́ли де́рево *по* са́мый ко́рень (до са́маго ко́рня) (農夫ハ木ヲ根本マテ伐リタリ).

2. 時日ニ關シテ生格前置詞 съ ト對立シテ動作ノ行ハル、期限ヲ表シ前置詞 до ノ代リニ使用セラル、而シテ順序數詞ト共ニスル число́ (日). мѣ́сяцъ (月), годъ 等ノ語ト共ニ使用セラル、ヲ常トス. Съ пе́рваго числа́ *по* 10-*ое* (一日ヨリ十日マデ). Съ 3-го ма́я *по* 14-*ое* ію́ля включи́тельно 五月三日ヨリ七月十四日マデ悉ク). Съ 1891-го года *по* 1900-*ый* (千八百九十一年ヨリ千九百年迄).

3. 事物ノ兩方ニ對立スルヲ表シテ前置詞 на ノ代リニ使用ス、*По* э́ту сто́рону (=на э́той сторонѣ́) рѣки́ моё имѣ́ніе, а *по ту* (=на той) же́нино (河ノ此方ニハ我ガ所有地存シ、彼方ニハ妻ノ所有地存ス). *По* пра́вую ру́ку (=на пра́вой сторонѣ́) сидѣ́лъ хозя́инъ, а *по* лѣ́вую (=на лѣ́вой сторонѣ́) хозя́йка (右方ニハ主人着座シ、左方ニハ主婦着座ス).

4. 俗語ニ於テハ目的ヲ表シ前置詞 за ノ代リニ使用スルコトアリ. Ходи́ть *по* воду (=за водо́ю) 水ヲ酌ミニ行ク,—*по* дрова́ (=за дрова́ми) 薪ヲ取リニ行ク,—*по* грибы́ (собира́ть грибы́) 菌ヲ採リニ行ク,—*по* я́годы (собира́ть я́годы) 木ノ實ヲ採リニ行ク.

III. 前置格ヲ支配スル時ハ

1. когда? ノ問ニ應シテ副詞 по́слѣ (ノ後) ノ意義ヲ以テ使用セラル、*По* Рождествѣ́ Христо́вѣ (紀元後). Это случило́сь уже́ *по* моёмъ пріѣ́здѣ въ Япо́нію (是レハ既ニ我レガ日本ニ來リシ後ニ生シタリ). *По* кончи́нѣ импера́тора Алекса́ндра III на престо́лъ вступи́лъ сынъ его, Никола́й Алекса́ндро-

вичъ (皇帝歴山三世ノ死後、其子ニコライ帝位ニ就ケリ). Онъ наслѣдовалъ имѣніе *по* отцѣ (=по смéрти отцá), а она *по* мáтери (по смéрти мáтери) 彼レハ父ノ死後其所有地ノ主ト成リ彼女ハ母ノ死後其所有地ノ主ト成レリ. *По* окончáніи своéй рабóты я пошёлъ гулять (自身ノ作業ヲ終リシ後、我レハ遊歩ニ行キタリ).

2. 次ノ諸動詞ト共ニ使用セラル

носúть трáуръ по комъ?—*по* отцѣ, *по* мáтери (父ノ喪、母ノ喪ヲ服ス)

плакать по комъ?—*по* брáтѣ (兄弟ノ死ヲ哀哭ス)

рыдáть по комъ?—*по* мýжѣ (夫ノ死ヲ慟哭ス)

тосковáть по комъ?—*по* женѣ (妻ヲ想ヒ慕フ). Тоскá *по* рóдинѣ (故郷ヲ慕フ)

тужúть по комъ?—*по* дѣтяхъ (小供ノ事ヲ哀惜ス)

3. 代名詞 онъ, мы, вы, кто, что ト共ニシテ恰モ名詞ガ與格ノ по ト共ニスル際ト同一ノ意義ヲ有ス. *По чёмъ* вы покупáли сукнó? (汝ハ羅紗ヲ幾許ツヽノ價ニテ買ヒシヤ).—Покупáлъ *по* рублю́ за аршúнъ (一アルシン二付キ一圓ツヽニテ買ヒタリ). *По кóмъ* онъ стрѣлялъ? (誰ニ向テ彼レハ射撃セシヤ).—*По* воробья́мъ (雀ニ向テ).

§ 128. 生格ト役格ト造格ヲ支配スル前置詞 съ

I. 生格ヲ支配スル時ハ

1. 事物ノ上表面ヨリ進行スルヲ表シ役格前置詞 на ト反對ス (на ハ上表面ニ向フテ進行スルヲ表ス § 125, I, 1). Возьмúте лáмпу *со* столá (卓上ヨリランプヲ取レヨ) Встáньте *со* стýла (椅子ヨリ起立セヨ). Снимúте шля́пу *съ* головы́ (帽ヲ頭ヨリ脱セヨ). Птúчка пóрхаетъ *съ* цвѣткá на цвѣтóкъ (鳥ハ花ヨリ花ニ跳ネ飛ブ).

2. 事件ノ行ハレシ場所ヨリ來ルヲ表ス、其際事件ノミヲ稱シテ、其行ハレシ場所ヲ稱セズ、役格前置詞 на ト反對ス (на ハ場所ニ向フテ行クヲ表ス § 125, I, 2) Возвратúться *съ* войны́, *съ* рабóты, *со* слýжбы, *со* смотрá, *съ* урóка, *съ* экзáмена (戰爭ヨリ、仕事ヨリ、勤務ヨリ、撿閲ヨリ、稽古ヨリ、試驗ヨリ歸ル). Пріѣхать *съ* дáчи, *со* свáдьбы, *съ* обѣдá, *съ* ýжина (別莊ヨリ、婚筵ヨリ、晝食ヨリ、晩食ヨリ來ル).

3. 方位ニ關スル發動點ヲ表シ前置詞 на ニ對立ス (на ハ方向ヲ表ス). *съ* сѣвера, *съ* юга, *съ* востóка, *съ* зáпада (北ヨリ、南ヨリ、東ヨリ、西ヨリ). За ночь парохóдъ перевернýло *съ* сѣвера на востóкъ (滊船ハ夜間ニ北ヨリ東ニ轉向セリ).

4. 肢體ヲ表スル語ト共ニ使用スルコトアリ、Я всю ночь проворóчался *съ* бóку на бокъ (我レハ終夜展轉反側セリ).

5. 竪ニ物ヲ度ル際ノ發始點ヲ表シ前置詞 отъ ノ外ニ使用ス、Съ ногъ до головы́ (足ヨリ頭マデ). *Съ* головы́ до ногъ (頭ヨリ足マデ). *Свéрху* дó-низу (上ヨリ下マデ).

6. 時ニ關シテ發始ヲ表シ前置詞 до 及 по ニ對ス

съ э́того вре́мени 此時ヨリ
съ бу́дущей недѣ́ли 來週ヨリ
съ понедѣ́льника 月曜ヨリ
съ тѣ́хъ поръ 其節ヨリ
со слѣ́дующаго мѣ́сяца 來月ヨリ
съ за́втрашняго дня 明日ヨリ
съ утра́ 朝ヨリ
съ бу́дущаго го́да 來年ヨリ
съ 5-го ію́ля 七月五日ヨリ
съ полу́ночи 夜半ヨリ
съ про́шлаго столѣ́тія 前世紀ヨリ
съ утра́ до ве́чера (朝ヨリ晩マデ)
съ воскресе́нья 日曜ヨリ
съ того́ вре́мени 其時ヨリ
съ э́того мѣ́сяца 此月ヨリ
со вчера́шняго дня 昨日ヨリ
съ ве́чера 晩ヨリ
съ про́шлаго го́да 昨年ヨリ
съ пе́рваго числа́ 一日ヨリ
съ полу́дня 正午ヨリ
съ 1900-го го́да 千九百年ヨリ
съ про́шлой недѣ́ли 前週ヨリ
съ понедѣ́льника до суббо́ты (月曜日ヨリ土曜日マデ).

Съ 1-го января́ до 10-го марта́ (或ハ по 10-ое ма́рта) 一月一日ヨリ三月十日マデ. *Съ 1850-аго го́да до 1868* (或ハ по 1868 годъ).

7. когда? ノ間ニ應シツヽ前置詞ト共ニシテ事ノ行ハルヽ時機ノ始メヲ表ス (§ 125, I, 8) Но́чью *со* среды́ на четве́ргъ (水曜日ヨリ木曜日ニ移ル夜ニ於テ).

8 心情發動ヲ原因トスルヲ表ス、時トシテ отъ ヲ代用スルヿアリ、*съ ра́дости* (喜悦ヨリシテ), *съ го́ря* (悲哀ヨリシテ), *со стра́ху* (*а*) (恐怖ヨリシテ), *съ доса́ды* (殘念ヨリシテ), *съ отча́нія* (失望ヨリシテ), *со ску́ки* (退屈ヨリシテ)

9 動詞 брать (取ル), проси́ть (請フ), тре́бовать (要求ス), получа́ть (得ル、受ク) 等ト共ニ使用セラル、Ско́лько *съ васъ взялъ* портно́й за это пальто́? (裁縫師ハ此外套ノ代價ヲ貴君ヨリ幾何取リシヤ)—*Проси́лъ* онъ *съ меня́* 20 эновъ, но уступи́лъ за 18-ть (彼レハ我ヨリ二十圓ヲ請求シタレトモ十八圓ニマケタリ) *Съ* иностра́нныхъ това́ровъ обыкнове́нно *берётся* по́шлина (外國ノ貨物ヨリ常ニ稅ハ徵收セラル). *Съ э́того* име́нія я *получа́ю* ма́ло дохо́ду(а) (此所有地ヨリシテ我レハ所得ヲ受クルコト少ナシ).

10 「寫シ取ル」ノ意ヲ有スル動詞ト共ニス、Не спи́сывайте *съ кни́ги* (書籍ヨリ剽竊スル勿レ)、Пригото́вьте мнѣ дю́жину фотографи́ческихъ ка́рточекъ *съ э́того* портре́та (此肖像ヨリシテ 寫眞十二枚ヲ我レニ製セヨ). Онъ сейча́съ рису́етъ портре́тъ *съ свое́й* жены́ (彼レハ今、其妻ヨリ肖像ヲ寫シ取ル).

11. 俗語ニ於テ無人稱動詞 мно́го (多シ), ма́ло (少ナシ), бу́детъ (充分ナリ), ста́нетъ (充分ナリ)等ト共ニシテ前置詞 для ノ代リニ使用ス. *Съ васъ* (=для васъ) доста́точно и э́того (貴君ノ爲ニハ是ニテモ充分ナリ). *Съ меня́* этого ма́ло (是ニテハ我ガ爲ニハ不足ナリ).

12. 或ル名詞ト共ニシテ副詞ノ體ヲ成シ動作ノ條件ヲ表ス、Онъ жени́лся *съ согла́сія* свои́хъ роди́телей и *съ* дозволе́нія нача́льства (彼レハ自分ノ兩親ノ承諾ト長官ノ許可ヲ經テ娶レリ).

13. 或ル名詞ト共ニシテ副詞ノ體ヲ成シテ使用セラル、Онъ бу́детъ распродава́ть свое́ иму́щество *съ* аукціо́на (彼レハ自身ノ所有品ヲ競賣ニ附セントス). Я купи́лъ э́то име́ніе *съ* публи́чнаго то́рга (我レハ此所有地ヲ糶市ヨリ買求メタリ).

II. 役格ヲ支配スル時ハ

1. 「何々程」ト譯シテ他ノ事物ト比シテ廣大度量ノ同程度ナルヲ表ス. Онъ ро́стомъ *съ* отца́, а она *съ* мать (彼ハ身ノ丈ニテハ父程ナリ、彼女ハ母程ナリ). Я купи́лъ а́рбузъ (величино́ю) *съ* дѣтску*ю* го́лову (我レハ小兒ノ頭程ノ水瓜ヲ買フタ). Зерно́ (величино́ю) *съ* була́вочну*ю* голо́вку (留針ノ頭程ノ粒).

2. 概略ノ數ヲ表ス. И въ на́шемъ учи́лищѣ больны́ человѣкъ *съ* де́сять (我ガ學校ニ於テモ凡ソ十人程病氣ナリ). Я былъ у него́ *съ* часъ тому́ наза́дъ (我レハ彼レノ處ニ一時間以前ニ居リタリ). Я про́былъ тамъ не *съ* мѣсяцъ, какъ предполага́лъ, а лишь *съ* недѣл*ю* (我レハ彼ノ處ニ一ケ月程滯在セント豫期シタレモ僅カ一週間ノミナリシ). Мы прошли́ пѣшко́мъ вёрстъ *съ* 12-*ть* (我等ハ凡ソ十二里程、徒歩シテ通行セリ).

III. 造格ヲ支配スル時ハ

1. 事物ノ共同或ハ附屬ヲ表シ前置詞безъ ニ反對ス又、時トシテハ接續詞 и ト同意義ト成ル. Я былъ тамъ не оди́нъ, а *съ* бра́том*ъ* (我レハ一人ナラズシテ兄弟ト共ニ彼處ニ在リタリ). Мать ушла́ въ го́родъ *съ* дѣтьми́ (母ハ小兒等ト共ニ市中ニ去リタリ). Мать *съ* отцо́м*ъ* уѣхали въ городъ, а братъ и сестра́ остали́сь до́ма (母ハ父ト共ニ市中ニ赴キ、兄ト妹ハ家ニ留レリ). Этотъ столъ *со* вну́тренни*мъ* замко́м*ъ* (此卓ハ内錠ヲ有ス). Я хочу́ купи́ть домъ *съ* огоро́до*мъ* (我レハ菜園附キノ家ヲ買ハントス欲ス). Братъ отпра́вился гуля́ть *съ* па́лко*ю*, а оте́цъ *съ* зо́нтико*мъ* (兄ハ杖ヲ携ヘ父ハ傘ヲ携ヘテ散歩ニ出テタリ). *Съ* э́то*ю* про́сьбо*ю* обрати́тесь къ моему́ бра́ту (此請願ヲ携ヘテ我ガ兄ニ申出テヨ).

2. 時日ノ經過ニ伴フコトヲ表ス. *Съ* года́ми человѣкъ станови́тся умнѣе (年ヲ重ヌルニ從テ人ハ益々智ナルモノト成ル). *Со* вре́менемъ поумнѣемъ и мы (時ヲ經ルニ從テ我等モ怜悧ト成ラン). *Съ* года́ми бума́га желтѣетъ и черни́ла выцвѣта́ютъ (年ヲ經ルニ從テ紙ハ黄色ヲ含ミ、インキハ變色ス).

3. 相互對向ヲ表スル動詞ト共ニ使用セラル、例ハ

встрѣча́ться,-титься съ кѣмъ?—*съ* бы́вши*мъ* това́рище*мъ* (以前ノ友ト相會ス)

грани́чить съ чѣмъ? Сибирь къ югу *грани́читъ съ* Кита́е*мъ* (西伯利亞ハ南方ニ支那ト境ヲ接ス).

игра́ть съ кѣмъ? Ва́ши дѣти постоянно *игра́ютъ съ* на́ши*ми* (貴君ノ小兒ハ常ニ我ガ小兒ト遊ブ). § 124, I, 12

переписываться съ кѣмъ?—*съ* родны́*ми* (親族ト文通ス)

подружи́ться съ кѣмъ?—*съ* това́рища*ми* (友人等ト懇親ス).

познако́миться съ кѣмъ? съ чѣмъ?—*съ* сосѣдо*мъ* (隣人ト知己ニナル);—*съ* э́то*ю* дѣло*мъ* (此事ヲ少シク心得ル)

проща́ться,-сти́ться съ кѣмъ?—*со* все*ми* знако́ми*ми* (悉クノ知己ト暇乞ヲ爲ス).

спо́рить съ кѣмъ?—*съ* ка́жды*мъ* (各人ト論爭ス).

сража́ться,-зи́ться съ кѣмъ?—*съ* непрія́теле*мъ* (敵ト戰鬪ス).

Съ радостію *съ радостью*

ссо́риться съ кѣмъ?—*съ* това́рищемъ (友人ト口論ス。隙ヲ生ズ).

4. 其他常ニ共ニ使用セラルヽ動詞ヲ例スレバ

здоро́ваться, по́—съ кѣмъ?—*со* знако́мыми (知人ト對面ノ挨拶ヲ爲ス).

поздравля́ть,-вить *кого*? *съ чѣмъ*? *Поздравля́ю васъ съ но́вымъ го́домъ* (新年ヲ賀ス). *Поздравля́ю васъ съ* пра́здником*ъ* (祭日ヲ祝ス).

слича́ть,—чи́ть что съ чѣмъ?—спи́сокъ *съ* по́длинником*ъ* (謄書ヲ原本ト校合ス).

случа́ться,-чи́ться съ кѣмъ? Что *съ вами случилось*? (貴君ノ身ニ何事ガ遭遇セシヤ).

согла́ша́ться,-си́ться, съ кѣмъ? Я вполнѣ́ *съ ва́ми согла́сенъ* (我ハ全ク貴君ト同意ナリ). 然シ *Согла́сно ва́шему* жела́нію (貴君ノ望ニ應シテ).

сообразова́ться, сообража́ться *съ* чѣмъ?—*съ* обстоя́тельствами (狀況ニ準ジテ).

сра́внивать,-ни́ть что съ чѣмъ? Сча́стіе *сра́вниваютъ съ* колесо́мъ (幸福ヲ車輪ニ比喩ス). *Въ сравне́ніи съ нимъ* я еще ребёнокъ (彼ニ比スレバ我ハ未ダ幼兒ナリ).

§ 129. 語ニ結合シテ使用ノ前置詞

語ニ接合スレバ前置詞ハ種々ノ新シキ意義ヲ加ヘ或ハ動作ノ方向或ハ動作ノ時機即チ始、中、終、或ハ目的、動力、或ハ其語ト全ク反對ナル意義ヲ附スルコアリ

半子音ъヲ語尾トスル前置詞ノ綴合ニ關シテハ次ノ如キ規則アリ

(甲) 若シ子音ヲ以テ首端トスル語ト綴合スル時ハ前置詞ノ語尾タル半子音ъハ除去セラル、例バ *вве́рхъ* (*въ*+верхъ), *све́рху* (*съ*+верху), *снести́* (*съ*+нести), *разгова́ривать* (*разъ*+говаривать), *подходи́ть* (*подъ*+ходить), *отходи́ть* (*отъ*+ходить).

(乙) 且ツ *съ* ヲ語尾トスル六前置詞ノ中、四前置詞 *возъ*, *изъ*, *низъ*, *разъ* ハ首端ニ子音 к, п, т, ф, х, ц, ч, ш, щ ヲ有スル語ト綴合スル際ニハ、語尾ノъヲ除去スルノミナラズзヲモсニ變ズルヲ常トス、例バ *воспита́ть* (*возъ*+питать) (敎養ス), *испуга́ть* (*изъ*+пугать) (驚カシム). *исто́чникъ* (*изъ*+точникъ) (源), *исходи́ть* (*изъ*-ходить) (下ル), *раскры́ть* (*разъ*+крыть) (發揮ス), *расцвѣсти́* (*разъ*+цвѣсти) (滿開ス), *расчеса́ть* (*разъ*+чесать) (梳ル), *расши́ря́ть* (*разъ*+ширять) (廣ム) 然レドзヲ語尾トスル二個ノ前置詞 *безъ* ト *че́резъ* ハ綴合ノ際зヲ保持ス例バ *безпоко́ить* (煩ハス), *черезполо́сный* (隔線ノ).

(丙) 若シ硬母音 а, о, у ヲ以テ首端トスル語ト綴合スル際ニハ前置詞ノ語尾タルъハ除去セラル、例バ *отобѣдать* (*отъ*+обѣдать) (午食シ終ル), *отужинать* (*отъ*+ужинать) (晩食シ終ル) *сумѣть* (*съ*+умѣть) (能クス), *сумасше́дшій* (*съ*+ума+*съ*+шедшій) (發狂者). 但シ前置詞 *съ* ハ時トシテ硬母音ノ前ニハъヲ保持ス例バ *съузить* (狹ムル).

(丁) 若シ軟母音 я, ю, е, ь 及硬母音 э ヲ以テ首端トスル語ト綴合スル時ハ前置詞ノ語尾タル ъ ハ保持セラル、例バ объяснять (說明ス), подъёмъ (擧立), съѣсть (食盡ス), отъэкзаменовáть (試驗シ終ル).

(戊) 若シ軟母音 и ヲ以テ首端トスル語ト綴合スル時ハ、現今ノ語法ニ於テハ ъ+и ノ代リニ ы ヲ用フルヲ常トス、例バ отыскáть (отъ+*и*скать), сыгрáть (съ+*и*грать). 但シ時トシテハ ъ ヲ保持ス безъискýсственный

前置詞 при ハ母音ヲ以テ首端トスル語ト綴合ノ際ニハ и ヲ і ニ變ズルヲ常トス例バ пріѣмъ, прійти́, пріобрѣтáть, пріучáться. 然レ𪜈斯カル場合ニ於テ綴合ノ語ガ根元的ノ語ナル時ハ (即チ動詞ヨリ發セシニ非ルナレバ) и ヲ і ニ變セズシテ其儘使用シ或ハ其間ニ横線ヲ入ル、例バ Амуръ, Уралъ 等ノ語ト綴合スル時ハ Приамýрскій 或ハ При-амýрскій, Приурáльскій.

軟母音 е 及 и ヲ語尾トスル前置詞ガ同ジク軟母音ヲ以テ首端トスル語ト綴合ノ際ニハ音調ヲ清クセン爲ニ п ヲ挿入スルコアリ例バ перенимáть (пере+имать), принять (при+ять).

前置詞ガ語ト綴合スルハ概シテ動詞ニ於テス、名詞、形容詞ノ如キハ此種ノ動詞(即チ前置詞ト綴合シタル)ヨリ生ジタルモノニ限リテ前置詞ヲ包有ス但シ例外ハ存スレ𪜈至テ僅少ナリ、而シテ前置詞ガ動詞ニ綴合シテ以テ其動詞ニ傳ヘシト同一ノ意義ヲ名詞及形容詞(斯カル動詞ヨリ生ゼシ)ニ於テモ保存ス、又多クノ前置詞ハ獨立ノ際 (即チ語ニ綴合セザル際) ニ於テ自身ニ包有セシ意義ヲ其儘、語ト綴合シタル際ニモ保存ス

動詞ト綴合シテ之ニ傳ブル前置詞ノ意義ハ大略次ノ如シ

1. безъ ハ語ニ反對ノ否定的性質ヲ傳フ、且ツ時トシテハ否定ノ力ヲ强クス例バ умъ (智)—*безý*мie (無智), *безý*мный (無智ナル), *безý*мствовать (無謀ヲ行フ); чéстность (廉潔),—*безчéстie* (破廉耻), *безчéстить* (人ノ名譽ヲ汚ス); покóй (平安、安心)—*безпокóить* (煩ハス、不安心セシム) 此前置詞ト綴合セシ動詞ハ凡テ不完成體ニ屬ス、而シテ其完成體ハ別ニ他ノ前置詞ヲ之ニ重ネテ以テ成ル безпокóить, 完成體ハ *обезпокóить*, *побезпокóить*-ナリ

2. въ ハ事物ノ内部ニ動作ノ進行スルヲ表ス. ходúть—*вх*одúть (入ル); бить—*вб*ить (打込ム); дýмать—*вд*ýматься (沈思ス).

3. воз (вз) ハ (甲) 動作ノ上ニ向ヒ進ムヲ表ス、又動作ノ强勢ナルヲ表ス. ходúть—*вос*ходúть (昇ル), *вос*хóдъ (昇上), мужáть (成人ス)—*воз*мужáть (壯年期ニ達ス), *воз*мужáлость (成長、成人), *воз*мужáлый (成長シタル、成人シタル); волновáть (激動セシム)—*вз*волновáть (擾亂セシム、動悸セシム) (乙) 意義ヲ轉用シテ復歸ヲ表ス *воз*вращáть (返ス、戻ス), *воз*вращéніе (歸來、返戻); *воз*блáгодарúть (返禮ス、謝ス) (丙) 動作ノ始發ヲ表ス即チ一箇ノ點ヨリ諸方面ニ廣マルヲ表ス、但シ高調ノ語句ニ於テノミ使用ス、又前置詞 за ノ代リニ使用ス мечтáть (忘想ス)—*воз*мечтáть (*за*мечтáть); пылáть (燃ユ)—*вос*пылáть (*за*пылáть) (燃上ル).

4. вы ハ (甲) 内部ヨリ進ミ出ツルヲ表ス ходúть—*вы*ходúть (出ツ), лить (注ク) *вы*ливáть, *вы*лить; (注キ出ス) дýмать—*вы*дýмывать, *вы*думать. (案出ス

(乙) 進動ノ意ヲ有スル動詞ニ綴合スレバ(但シ力點ヲ вы ニ打チテ)動作ノ充滿ヲ表シ前置詞 о ノ代リニ使用セラル：*вы*ходить (諸方ヲ歩ム), *обо*йти́ (諸方ヲ歩ム), *вы*бе́гать (諸方ヲ駈廻ハル)—*обе́*гать (諸方駈廻ハル)、(乙) 意義ヲ轉シテ事物ノ仕上ケヲ表ス. кра́сить (着色ス)-*вы*кра́сить (染上ケル). суши́ть (乾燥ス)—*вы*су́пивать, *вы*сушить (乾シ上ク); лечи́ть (治療ス)—*вы*ле́чивать, *вы*лечить (病ヲ癒ス).

備考 此前置詞ノ特異點トモ云フベキハ、動詞ト綴合シテ其動詞カ完成體ナル時ハ力點ハ常ニ此前置詞ノ上ニ立ツ、若シ其動詞ガ不完成體タル時ハ力點ハ前置詞外(即チ語根)ニ立ツ.

5. до ハ (甲) 事物ニ達スルヲ表ス. *до*ходи́ть (到達ス), *до*е́хать (乘リ達ス)、(乙) 意ヲ轉シテ「極メ盡クス」或ハ目的ニ通達スルヲ表ス. *до*де́лать (爲シ通ス), *до*чита́ть (讀切ル、通讀ス), *до*ду́маться (考達ス).

6. за ハ (甲) 場所ニ關シテハ事物ノ蔭、裏面、隱レタル方ニ遠サカルヲ表ス. *за*ходи́ть за домъ (家ノ蔭ニ隱ル), *за*бро́сить (蔭ニ投ス), *за*ложи́ть (書物ノ間ナドニ挿ム)、或ハ動作ヲ以テ事物ヲ覆フヲ表ス *за*бры́згать (流動體ヲ以テ物ニ振リカケル), *за*мара́ть (塗抹ス、汚ユズ), *за*бе́ли́ть (白ク塗ル)、(乙) 時ノ事ニ關シテハ事物ノ滯留ヲ表ス *за*зимова́ть (冬籠リス), *за*мешкать (延滯ス) (丙) 動作ノ始發ヲ表ス *за*ходи́ть (歩ルキ始メル), *за*бе́гать (駈ケ始メル), *за*чита́ть (讀ミ始ム), *за*говори́ть (言ヒ始ム).

7. изъ (ис) ハ (甲) 全表面ニ隈ナク動作ノ及ブコト或ハ事物ヲ貫通シテ四方八面ニ動作ノ徹スルヲ表ス. *ис*ходи́ть весь го́родъ (市中全體ヲ歩ルキ盡クス), *из*вози́ть (諸方ニ馬車ヲ曳ク), *из*ме́рить (全體ヲ量ル), *из*носи́ть (衣類ヲ着切ラス), *из*дра́ть (裂キ散ラス), *из*мочи́ть (ビショ濡レニス、浸ス)、(乙) 事物ノ内部ヨリ發動スルヲ表ス、殊ニ抽象的事物ニ關ス *из*лага́ть (說述ス、意見ヲ吐露ス), *из*немога́ть (力拔ケシテ全身疲勞又ハ衰弱ス), *из*се́ка́ть (意匠ヲ刻ミ出ス), *из*вая́ть (彫刻ス).

8. на ハ (甲) 事物ノ表面ニ行ハル、動作ヲ表ス *на*е́хать (乘揚ガル), *на*писа́ть (書ク), *на*ходи́ть (手、足、眼等ニ觸ル、即チ見附ケル)、(乙) 動作ノ充分ナルヲ表ス *на*говори́ть (多言ス), *на*сме́ши́ть (多ク笑ハシム), *на*бры́згать (墨汁ナドヲ振リカケル).

9. надъ ハ (甲) 事物上ノ表面ニ行ハル、動作或ハ事物ニ事物ノ附加スルヲ表ス *над*стро́ить (上ニ建テ增ス), *над*писа́ть (表書ス、看板ナドヲ書ク) *над*гро́бный (墓上ノ、棺上ノ), *над*вяза́ть (編ミ增ス即チ以前編ミタル上ニ編ム)、(乙) 事物ノ上ニ有スル權力ヲ表ス *над*сма́тривать (監視ス), *над*зира́ть (監督ス).

10 низъ (нис) ハ 下ニ向フ動作ヲ表ス *низ*верга́ть (貶ス、墮ス), *нис*ходи́ть (下降ス), *нис*посла́ть (神ヨリ下賜ス).

11. о (объ) ハ (甲) 動作ノ周行、周到、完成ヲ表ス. *объе́зжа́ть* (乘リ週ル), *об*ходи́ть (迂廻ス), *об*лива́ть (周ク灌ク), *об*е́ли́ть (周圍ヲ白クス), *о*говори́ть (豫メ說明ス、誡告ス), *об*ра́довать (全ク悅バシム)、(乙) 或ル動詞ニ ся ヲ附シ

テ動作ノ充滿ヲ表ス但シ動作者自身ニ害ヲ來ス意ヲ有ス *объѣда́ться* (多食ヨリシテ食傷ス), *ошиба́ться* (過失ス), *описа́ться* (書キ謬ル)、(丙)名詞及形容詞ヨリ生ゼシ動詞ニ綴合スレバ стать (何々ト成ル) ノ意義ヲ加フ. *овдовѣ́ть* (=стать вдовцо́мъ, вдово́ю) (鰥寡ト成ル), *осиротѣ́ть* (=стать сирото́ю) (孤ト成ル), *оглупѣ́ть* (=стать глу́пымъ) (愚昧ト成ル), *опьянѣ́ть* (=стать пья́нымъ) (酩酊ス、醉フ), *обезу́мѣть* (=стать безу́мнымъ (無智ト成ル).

12. отъ ハ (甲) 事物ヲ離レ遠ザカル、或ハ其一部分ノ離脱スルヲ表ス *отъѣ́хать* (乘去ル), *отойти́* (立去ル), *отвы́кнуть* (習慣ヲ脱ス), *отказа́ться* (辭退ス), *отомкну́ть* (錠ヲ開ク), *отсырѣ́ть* (濕氣ヲ帶フ), *отмя́кнуть* (濕リ軟カクナル、(乙)動作ノ復歸ヲ表ス *отблагодари́ть* (報謝ス), *отплати́ть* (報ユ), *отпо́тчивать* (返禮ノ馳走ヲ爲ス), *отогрѣва́ть* (凍ヘタル手足ナドノ温氣ヲ回復ス), *отчища́ть* (不潔、汚物ナドヲ脱シ去リテ原態ニ復ス)、(丙)繼續セシ動作ノ終結ヲ表ス *отрабо́тать* (勞工ヲ終ル), *отслужи́ть* (勤務ヲ遂ク), *отпра́здновать* (祝賀シ終ル).

13. пере ハ (甲) 塲所ヲ越エ進ムヲ表ス *переходи́ть* (移ル、越ス), *переѣзжа́ть* (乘越ス), *переноси́ть* (運ビ移ス)、(乙)事物ノ全數ニ動作ノ相傳ハルヲ表ス *перелови́ть* (悉ク捕フ), *переспроси́ть* (悉クノ生徒ナドヲ質問ス) *переговори́ть* (談判ス), *передава́ть* (傳達ス)、(丙)動作ノ修復、修正ヲ表ス *переду́мать* (思ヒ直ス), *переодѣва́ться* (衣服ヲ着更ヘル), *передѣ́лывать* (修復ス、修繕ス), *перешива́ть* (縫ヒ直ス), *перебѣли́ть* (白ク塗リ更ヘル)、(丁)一定ノ時期ヲ過ゴスヲ表ス *перезимова́ть* (冬ヲ越ス), *переночева́ть* (夜ヲ越ス), *пережи́ть* (住ミ通ス).

14. по ハ (甲) 塲所ニ關シテハ事物ノ上ニ行ハル、動作ノ完成、結了ヲ表ス *поста́вить*, *положи́ть*, *помёрзнуть* (凍ヘ切ル), *потопи́ть* (沈沒ス)此意義ヲ以テ前置詞 по ハ他ノ前置詞殊ニ за ト у ノ代用ヲ爲ス *замёрзнуть* (凍ユ), *утону́ть* (沈溺ス)、(乙)定體動詞ノ進行ノ發始ヲ表ス *пойти́*, *по́ѣхать*, *побѣжа́ть*, (丙)不定體動詞ト綴合スレバ動作ノ少量ヲ表ス *походи́ть* (少シ歩行ス), *погуля́ть* (少シ散歩ス), *побѣ́гать* (少シ駈歩ルク), *полежа́ть* (少シ横臥ス) (丁)此種ノ動詞ガ多回的語尾ヲ有スル時ハ動作ノ復行スルヲ表ス *поха́живать* (少シツヽ幾度モ歩行ス), *погу́ливать* (少シツヽ幾度モ散歩ス) *полёживать* (幾度モ横臥ス) (戊)或ル動詞ニ綴合スレバ動作ノ强勢ヲ表ス *погова́ривать* (折々言フ、切リニ言フ), *поду́мывать* (屢々思フ、切リニ思フ).

備考 他ノ前置詞 вы, за, изъ ト綴合スレハ全體ニ動作ノ及ブヲ表ス. *повы́чистить* (全體ヲ清ム), *позамара́ть* (全體ヲ汚ス), *поизноси́ть* (全體ヲ着壞ル).

15. предъ ハ他ニ先タツ動作若シクハ狀態ヲ表シ、或ハ事物ノ前面ニ存在スルヲ表ス或ハ幾多ノ事物ノ主位ニ立ツヲ表ス *предше́ствовать* (先タツ), *предугада́ть* (豫察ス), *предусма́тривать* (先見ス、見拔ク), *предполага́ть* (豫想ス), *предостерега́ть* (豫戒ス、豫防ス), *предстоя́ть* (目前ニ立ツ), *предлага́ть*

働ム、申込ム), *предста́ть* (謁ス), *предъявля́ть* (豫告ス), *предъявля́тельствовать* (議長ト成ル).

16 под ハ (甲) 下ニ向テ進行或ハ近寄ルヲ表ス *подложи́ть* (物ノ下ニ差シ入ル), *подста́вить* (物ノ下ニ据エ置ク), *подкопа́ть* (下ヲ堀ル), *подойти́* (歩ミ近ツク、近寄ル), *подъе́хать* (乗リ近ツク). (乙) 工合ヲ直ス爲ニ少シ修繕ス、*подкра́сить* (色揚ケル), *подморо́зить* (食物ナドヲ少シ凍ラス), *подогре́ть* (少シ暖メル).

17. при ハ目的ニ近ツク又ハ動作ヲ終リ遂クルヲ表ス *прие́хать* (乗來ル、來着ス), *прибе́жа́ть* (走リ附ク即チ人ニ向テ救護ヲ請フ), *приста́ть* (耻ヲ與ヘル), *прискучить* (退屈ヲ來タス), *призира́ть* (眷憐ス), *приступа́ть* (着手ス、近ツク、逼ル), *приба́ть* (附加ス、勢力ヲ加フ) (пре ト比考スベシ、此項ノ末ニ記シタル備考 I ヲ參照)

18. про ハ(甲) 事物ノ内部ヲ貫キテ一方ニ動作ノ進行スルヲ表ス、常ニ前置詞 чрезъ 及 сквозь ト共ニス、*проби́ть* чрезъ стѣну (壁ヲ通シテ打貫ク), *проне́сти́* (持チ通ル), *провезти́* (通運ス), *прое́хать* (乗通ス), *пробе́жа́ть* (間ヲ走ル). (乙) 時間ニ關シテハ一定ノ時間ヲ通過スル動作ヲ表ス *проговори́ть весь часъ* (全一時間言ヒ通ス), *проспа́ть всю ночь* (終夜寢通ス), *проходи́ть цѣлое у́тро* (朝一杯步行ス), *прое́здить цѣлый день* (終日乘リ通ス). (丙) 動作ノ決果タル缺損ヲ表ス *проспа́ть уро́къ* (寢過シテ一學課ヲ缺席ス), *промота́ть* (浪費ス), *прое́сть* (食込ム、食料ニ浪費ス).

19. разъ (рас, рос) ハ(甲) 事物ヲ細分スルヲ表ス、*раздава́ть* (分配ス) *раздѣля́ть* (小分ス), *разбива́ть* (碎ク、打破リテ細片トナス), *разбира́ть* (剖判ス、處理ス、審裁ス), *раскуси́ть* (嚙碎ク). (乙) 諸物ニ動作ノ分レ廣ガルヲ表ス *разлива́ть* (注キ分ケル), *расписывать* (日割ナドヲ書ク), *расписа́ніе уро́ковъ* (日課表). (丙) 動作ヲ變ズルヲ表ス *разду́мать* (思ヒ更ヘル), *разубѣди́ть* (說破ス). (丁) 事物全體ニ動作ノ廣マル事、即チ激發ヲ表ス *разговори́ться* (喋リ出ス), *развеселя́ться* (悅樂ス、大快愉ヲ盡ス), *раскрича́ться* (吐鳴リ散ラス), *разоспа́ться* (長寢スル), *разсерди́ться* (憤怒ス). (戊) 或ル形容詞ト綴合シテ俗語ニ於テ最勝級ヲ成ス *развесёлый* (極愉快ナル), *разуда́лый* (極テ放縱ニシテ快活ナル)

20. съ (со) ハ(甲) 事物ノ上表面ヨリ遠ザカルヲ表ス *сходи́ть съ горы́* (山ヨリ降ル), *съе́зжа́ть* (乗リ下ル), *сбе́га́ть* (下ニ走ル), *слета́ть* (飛ヒ下ル), *снима́ть* (降ロス). (乙) 動作ノ完成ヲ表ス *сде́лать* (成シ終ル), *сходи́ть* (赴キテ用ヲ達ス、往テ來ル), *съе́здить* (乘行キテ用ヲ達ス), *сбе́гать* (急キ走リテ用ヲ達ス), *свари́ть* (煮上ケル). (丙) 動作ノ相互ヲ表ス *сгова́риваться* (談合シテ互ニ承諾ス、申シ合ハス), *списа́ться* (文通ス), *сочу́вствовать* (同感ス), *сболѣ́зновать* (同情ヲ表ス、哀悼ヲ表ス).

21. у ハ (甲) 場所ヨリ進動ノ意ヲ有スル所ノ動詞ト共ニスレバ形狀ノ隱ル、ヿヲ表ス *уе́хать* (出立ス、乘去ル), *убе́жа́ть* (遁ケ隱ル), *уйти́* (去ル)

乙) 前置詞 съ ト同シク動作ノ完成ヲ表ス *уби́ть* (殺ス), *увидѣ́ть* (見受ケル), *утеря́ть* (紛害ス), *увѣ́рить* (信ゼシム、保證ス).

202. *че́резъ* (чрезъ) ハ使用稀ニシテ、動詞トハ綴合セズ. (甲)過度ナルヲ表シ最勝級ヲ成ス *черезъ-чуръ* (極々、餘リ), *чрезвыча́йный* (並ミ勝レタル、非常ナル). (乙)劃線外ニ所在スルヲ表ス *черезполо́сный* (間ヲ隔テタル、飛離レタル).

備考 1. 前置詞ノ外、語ニ綴合スルハ一個ノ副詞 *про́тивъ* トノ外ニ па, пра, пре ナリ

противъ ハ語ニ綴合スレバ「反對、對向」ノ意ヲ表ス *противополага́ть* (對立セシム、反對ニ思フ), *противодѣ́йствовать* (對抗ス、反抗ス), *противорѣ́чить* (矛盾ス). 此副詞ト綴合ノ動詞ハ凡テ不完成體ニ屬ス

па ハ僅少ノ名詞ニ綴合スルノミ、而シテ事物ニ「第二流」ノ意義ヲ附ス *па́сынокъ* (繼子).

пра ハ或ル名詞ニ綴合シテ「時代ニ於ケル上位」ヲ表ス *пра́дѣдъ* (曾祖父), *пра́баба́бушка* (曾祖母), *пра́роди́тели* (先祖)

пре ハ (甲) 前置詞 пере ト同シク度限、區域ヲ越ユルヲ表ス *преда́ть* (變心ス、渡ス), *преступи́ть* (犯ス), *презира́ть* (蔑視ス). (乙)過度ヲ表シテ、稀ニハ最勝級ヲ成ス *преувели́чивать* (過大ニス), *преуспѣва́ть* (大ニ進歩ス), *предо́брый* (至テ善良ナル), *прехоро́шій* (極宜シキ).

備考 2. 動詞ニ綴合シタル或ル前置詞ヲ受ケテ之ニ對應スベキ前置詞ハ (即チ名詞ノ前ニ立ツ所ノ) 一定ニ律シ難ケレトモ、概シテ次ノ如シ

動詞ト綴合	名詞ノ前	
вз	на	*взойти́ на го́ру* 山ニ登ル
в	въ	*войти́ въ домъ* 家ニ入ル
вы	изъ	*выйти изъ до́ма* 家ヨリ出ツ
до	до	*дойти́ до до́ма* 家ニ達ス
за	за	*зайти́ за домъ* 家ノ蔭ニ隱ル
на	на	*наѣ́хать на ка́мень* 石ノ上ニ乘揚ケル
над	надъ	*надсма́тривать надъ* ученика́ми 生徒ヲ監視ス
низ	съ	*низойти́ съ высоты* 高キ處ヨリ下ル
от	отъ	*отойти́ отъ до́ма* 家ヨリ立離ル
пере	чрезъ	*перейти́ черезъ рѣ́ку* 河ヲ越ス
под	подъ	*подойти́ подъ домъ* 家ノ傍ニ近寄ル
пред	пре́дъ	*предста́ть предъ* судью 裁判官ノ前ニ現ル
при	къ	*придти́ къ до́му* 家ニ來ル
про	черезъ	*пройти́ че́резъ мостъ* 橋ヲ通リ越ス
про	сквозь	*протека́ть сквозь бума́гу* 紙ヲ透シテ流出ス
произ	отъ	*отъ* чего это *происхо́дить*? 是レハ何ヨリ生スルヤ
раз	на	*раздѣ́лить на ча́сти* 部分ニ細分ス
с	съ	*сойти́ съ горы́* 山ヨリ下ル

§ 130. 副 詞 (Нарѣчіе)

副詞ハ變化セザル詞類ニシテ、常ニ動作ノ狀況或ハ事物ノ狀態ヲ示シ動詞ト共ニ使用セラル、但シ或ル場合ニ於テハ性質ノ程度ヲ表スル爲ニ (例ハ óчень, весьмá) 形容詞ト共ニ使用セラル

備考　或ル副詞ハ使用ノ場合ニ依テ前置詞トモ成リ或ハ接續詞トモ成ル、要スルニ、副詞ガ補語ヲ支配スル時ハ前置詞ト成リ (§ 132 ·) 若シ二箇ノ文句ヲ連續スルガ爲ニ使用セラルヽ時ハ接續詞ト成ル、例ハ Онъ живётъ *напро́тивъ* (彼レハ向フニ住居ス) (副詞ナリ). Онъ живётъ *напро́тивъ сáда* (彼レハ園ニ對向シテ住居ス)、(前置詞ナリ). Мужъ добръ, а женá *напро́тивъ* зла (夫ハ善心ナレトモ妻ハ之ニ反シテ心惡シ) (接續詞ナリ). *Какъ* вы поживáете? (如何ニ貴君御暮シナサルヤ) (副詞). Дѣлайте *такъ, какъ* хотúте (汝ノ欲スル儘ニ行ヘヨ) (接續詞).

副詞ヲ小別シテ性質的及ビ狀況的ノ二種ト爲ス

性質的副詞ハ какъ? (如何ニ) 及 какúмъ óбразомъ (如何樣ニシテ) ノ問ニ應シテ、實ハ性質的形容詞ノ簡略語尾ノ中性ニ外ナラズ、(§ 53) 故ニ凡テ性質形容詞ヲ簡略語尾ノ中性ト爲セバ、性質副詞ヲ生シ得ベシ、性質的形容詞ノ如ク、性質的副詞ハ比較ノ級 (§ 58) ト過大的、薄弱的形式 (§ 54, 6,-§ 58) トヲ有ス

狀況的副詞 (Обстоятельственное нарѣчіе)

狀況ノ差異ニ依テ此副詞ヲ次ノ如クニ分類ス

1. 態度ノ狀況副詞 (óбраза дѣйствія): 是レハ *какъ?* 或ハ *какúмъ óбразомъ?* ノ問ニ應ス、即チ性質的副詞ト同一ノ問ニ應ス、本來、性質的副詞モ狀況副詞ノ一種ニ屬スレトモ、其出生ニ於テ差異ヲ有ス、即チ前者ハ性質的形容詞ヨリ生シ、後者ハ他ノ詞類殊ニ名詞ヨリ生ズ

такъ 斯ク、左樣ニ
попрáвдѣ 實ヲ以テ、公平ニ
въ-насмѣшку 愚弄シテ
вмѣстѣ 共ニ
съ рáдостью 悅ビテ
по-япóнски 日本的ニ、日本語ニテ
такúмъ óбразомъ 斯クノ如クシテ
въ-шýтку 戲レニ
вкрáтцѣ 簡單ニ
кстáти 序デニ
по-рýсски 露西亞的ニ、露語ニテ
нáстежь 開放シテ

備考　旅行ニ關スル副詞モ此類ニ屬ス

пѣшкóмъ 徒步ニテ　　водóю 水路ニテ　　дорóгой 道途ニテ
верхóмъ 馬上ニテ　　мóремъ 海路ニテ　　сýшею 陸路ニテ

2. 個數ノ副詞 (колúчества) 是レモ本來、態度ノ副詞ニ屬スベキモノニシテ、次ノ如キ問ニ應ス

(甲) *скóлько*?—довóльно (充分、澤山), достáточно (充分), мнóго, мáло, нѣсколько.

(乙) *по-скóльку*?—по-мнóгу (多クヅヽ), по-мáлу (少シヅヽ), по-нѣскольку

(數個ヅヽ), по-нискóльку (少シヅヽモ…ナシ), пó-два (二個ヅヽ), пó-три (三個ヅヽ)…

(丙) *скóлько рáзъ?* (幾度)—разъ (一度)—два рáза (二度), однáжды (曾テ、一度), двáжды (二度), многокрáтно (度々), неоднокрáтно (一度ナラズ), чáсто (屢々), рéдко (稀ニ)…

(丁) *во скóлько рáзъ?* (幾度ニ、幾倍), въ два рáза (二度ニ), въ три рáза (三度ニ), въ нéсколько разъ (數度ニ), во мнóго разъ (度々ニ)…

3. 時ノ狀況ノ副詞 (врéмени) 是レハ次ノ問ニ應ス

(甲) *когдá?* (イツ)

сегóдня 今日	вчерá 昨日	трéтьяго дня 一昨日
зáвтра 明日	пóслѣ зáвтра 明後日	ýтромъ 朝ニ
днёмъ 日中 (晝間)	вéчеромъ 晩ニ	нóчью 夜ニ
въ пóлдень 正午ニ	въ пóлночь 夜半ニ	веснóю 春ニ
лѣ́томъ 夏ニ	óсенью 秋ニ	зимóю 冬ニ
тотчáсъ 直チニ	сейчáсъ 今直クニ	немéдленно 直チニ
тепéрь 今	нынѣ 現今	прéжде 以前
пóслѣ 其後、後	потóмъ ソレカラ、後ニ	давнó 久シキ以前、既ニ久シク
недáвно 先日、近頃	вскорѣ 程ナク	всегдá 常ニ
иногдá 時トシテ	никогдá 一度モ…ナシ	нѣ́когда 或ル時…

(乙) *съ котóраго врéмени? съ какúхъ поръ?* (イツ頃ヨリ)—съ э́того врéмени (此時ヨリ), съ того́ врéмени (其時ヨリ), съ э́тихъ поръ (此頃ヨリ), съ тѣхъ поръ (其頃ヨリ), отнынѣ (今ヨリ), и́здавна (久シキ以前ヨリ), съ дѣ́тства (幼時ヨリ), съ прóшлаго гóда (昨年ヨリ), съ зимы́ (冬ヨリ), съ утрá (朝ヨリ), съ обѣ́да (晝ヨリ、午食ヨリ)…

(丙) *до котóраго врéмени? до какúхъ поръ?* (イツ迄)—до э́того врéмени, до того́ врéмени, до сихъ поръ (今ニ至ルマデ、此處マデ), до тѣхъ поръ (其時マデ), донынѣ (今マデ。今日マデ), до зáвтра (明日マデ), до вéчера (晩マデ), до слѣ́дующаго дня (翌日マデ)…

(丁) *какъ долго?* (如何ニ久シク)—*въ продолженіе какóго врéмени?* (ドノ位ノ間), весь день (終日), всю ночь (終夜), цѣ́лое ýтро (朝一杯), цѣ́лый (весь) вéчеръ (一ト晩中), весь годъ (一年中), дóлго (久シク), не особéнно дóлго (餘リ久シカラズ), въ продолжéніе недѣ́ли (一週間中), въ продолжéніе гóда (一年間)…

備考 其他、時ノ副詞ニ屬スルハ、動作ノ始マリシヲ表スル уже́ (ужъ)「既ニ」、動作ノ持續ヲ表スル ещё (未ダ), всё (其儘), всё ещё (未ダ其儘), 動作ノ復スルヲ表スル снóва (更ラニ), опя́ть (復タ) 等ナリ

4. 塲所ノ狀況ノ副詞 (мѣ́ста) 是レハ次ノ問ニ應ズ

(甲) *гдѣ? въ какóмъ мѣ́стѣ?* (何處ニ於テ)

здѣсь 此處ニ	тутъ 此處ニ	тамъ 彼處ニ
óколо 近邊ニ、周邊ニ	вóздѣ 傍ニ	гдѣ́ 何處ニモ…アル

нигдѣ 何處ニモナシ	до́ма 家ニ於テ	ме́жду ノ間ニ
внутри́ 內ニ	среди́ 中ニ、中間ニ	впереди́ 前方ニ
позади́ 後方ニ	сза́ди 後方ヨリ	сбо́ку 側面ヨリ
ввеху́ 上方ニ於テ	внизу́ 下方ニ於テ	про́тивъ 對シテ、反對シテ
внѣ 外方ニ、以外	гдѣ-то 何處ナリシカ	

(乙) *куда́? въ како́е мѣсто?* (何處ヘ、何地ヲ指シテ)

сюда́ 此處ヘ	туда́ 彼處ヘ	домо́й 家ヘ
вонъ 彼方ヘ、外ヘ	впере́дъ 前ヘ	наза́дъ 後ヘ
вверхъ 上方ヘ	внизъ 下方ヘ	пря́мо 眞直ニ
впра́во 右方ヘ	вле́во 左方ヘ	въ сто́рону 片脇ヘ

(丙) *отку́да? съ како́го мѣста?* (何處ヨリ、何地ヨリ)

отсю́да 此處ヨリ	отту́да 其處ヨリ	отовсю́ду 諸方ヨリ
снару́жи 外面ヨリ	извнѣ 外方ヨリ	изнутри́ 內方ヨリ
и́здали 遠方ヨリ	све́рху 上方ヨリ	сза́ди 後方ヨリ
со стороны́ 脇ヨリ	сбо́ку 側面ヨリ	отку́да-то 何處ヨリシカ

5. 原因ノ狀況副詞(причи́ны) 是レハ *почему́?* (何故ニ), *отчего́?* (何ヲ以テ) ノ問ニ應ズ、例ハ поэ́тому (是ニ由テ), потому́ (夫レ故ニ), почему́-то (何故ナルカシテ), оттого́ (ソレニ由テ), оттого́-то (ソレダカラシテ), изъ-за этого (此事ノ爲メヨリシテ), вслѣдствіе э́того (之ニ由テ).

6. 目的ノ狀況副詞 (цѣли) 是レハ *зачѣмъ? для чего? съ како́ю цѣлью?* (何ノ爲ニ) ノ問ニ應ズ、例ハ для того (ソノ爲ニ), для этого (コレガ爲ニ), затѣмъ (ソノ爲ニ), съ тою цѣлью (ソノ目的ヲ以テ)

其他、副詞ハ次ノ如キ諸種ニ分類ス

7. 不定副詞 (неопредѣлённое), 是レハ *нь, нибудь, либо, то, кое (кой)* 等ノ附字ヲ有ス此副詞ハ代名詞 (§ 68, II) 及疑問副詞ト共ニス、例ハ

какъ? (如何ニ)	какъ-нибу́дь (либо) 如何ニカシテ	какъ-то 如何ナルカシテ,
кое-какъ ドウカコウカ、ドウナリコウナリ		
когда? (イツ)	когда́-нибу́дь (либо) イツニカ,	когда́-то イツナリシカ,
кое-когда 時折リ、折節		
гдѣ?	гдѣ-нибу́дь (либо) 何處ニカ,	гдѣ-то 何處ナリシカ,
кое-гдѣ 處ドコロニ		
куда?	куда́-нибу́дь (либо) 何方ヘカ,	куда-то 何方ナリヘトカ,
кое-куда́ ドコカコヽヘカ		
откуда?	отку́да-нибу́дь (либо) 何處カラカ,	откуда-то 何處カラナリトカ,
кое-отку́да ドコカコヽカヨリ		
почему?	почему́-нибу́дь (либо) 何故ニカ,	почему́-то 何故ナリシカ,
使用セズ		
зачѣмъ?	зачѣмъ-нибу́дь (либо) 何ノ爲ニカ,	зачѣмъ-то 何ノ爲ナリシカ,
кое-зачѣмъ 何カノ爲ニ		

備考 1. 不定副詞 нѣ ハ唯一ノ副詞 когда ノミニ附加セラル即チ нѣ́когда (或ル時)

備考 2. 時ニ關スル不定副詞ノ中、когда́-то ト нѣ́когда ハ過去ニ關ス Когда́-то и я тамъ былъ (イツナリシカ我モ彼處ニ在リシ), 而シテ когда-нибудь ハ未來ニ關ス、Когда́-нибудь и я тамъ бу́ду (イツニカ我レモ彼處ニ在ラン), ко́е-когда́ ハ凡テノ時ニ關ス

8. 否定副詞 (отрица́тельное нарѣ́чіе) *не* 及 *ни*

1. 副詞 не

文句ニ於テハ動詞ノ前ノミニ否定 не ヲ立ツベキニハ非ズシテ凡テ否定スベキ語ノ前ニ之ヲ立ツ、例ハ Вчера я *не написа́лъ* ему́ письма́ (昨日我ハ彼ニ手紙ヲ書カザリシ). Сего́дня, а *не вчера́* я написа́лъ ему́ письмо́ (昨日ニハ非ズシテ今日我ハ彼ニ手紙ヲ書ケリ). Запи́ску, а *не письмо́* я написа́лъ ему́ (我ハ手紙ニハ非ズシテ書附ヲ彼ニ書ケリ). Ему́, а *не-бра́ту* я написа́лъ письмо́ (我ハ彼ニハ非ズシテ兄弟ニ手紙ヲ書ケリ).

此副詞ハ語ニ綴合シテモ又綴合セズシテモ書ス、

(甲) 動詞ニ於テハ不定法、直說法、接續法、命令法、及ビ副動詞ト共ニスル時ハ綴合セズシテ書スベシ 例ハ *не* знать, *не* зна́ю, *не* зналъ, *не* бу́ду знать, *не* зна́я, не зна́вши. 然レモ形動詞ト共ニスル時ハ綴合スルヲモアリ綴合セザルヲモアリ、即チ形動詞ガ完全語尾ヲ有スル時ハ綴合シテ書スベシ 例ハ *незна́ющій* (知ラザル所ノ), *незна́вшій* (知ラザリシ所ノ), *не-*просвѣщённый (無教育ナル). 而シテ形動詞ガ簡略語尾ヲ有スル時ハ綴合セズシテ書スベシ何トナレバ此場合ニハ否定 не ハ實ハ動詞 быть ニ關係ス 例ハ Онъ *не* просвѣщёнъ (=не *есть* просвѣщёнъ) нау́ками (彼ハ學問ニテ教化セラレズ)ト然レモ或人々ハ斯カル場合ニ於テモ綴合シテ書ス、

備考 1. 否定 не ト共ニスル副動詞ガ副詞ノ意義ニテ使用セラルヽ時(斯カル際ニハ其傍ニ補語ヲ要セズ)ハ此否定ヲ副動詞ト綴合シテ書スルヲ得ベシ例バ Онъ сдѣлалъ это не́хотя (彼ハ其志望ニ反シテ之ヲ行フタリ).

備考 2. 次ノ諸動詞ト共ニスル時ノミハ綴合シテ書カル、*нево́лить* (セシム、强ユル), *негодова́ть* (不平ヲ唱フ), *недомога́ть* (病氣ス、不快トナル), *недоста́вать* (不足ス), *недоумѣва́ть* (解シカヌ、不審ス), *нейстовствовать* (狂暴ス), 及ビ無人稱動詞 *нейдётъ* (適合セズ、釣リ合ハヌ), *неимѣется* (所持セズ、無シ), *немо́жется* (病身ナリ、病ヲ感ズ), *нездоро́вится* (病ノ氣味ス、不健康ナリ).

(乙)否定 не ハ名詞、性質形容詞、性質副詞ト共ニスル時ハ必ズ綴合シテ書セラル、斯カル場合ニ於テハ此二語ハ合シテ一個ノ概念ヲ成ス、例バ *непрія́тель* (敵), *не́другъ* (敵), *несча́стіе* (不幸、災難), *непого́да* (不天氣、不勝ノ天氣), *не́умный* (智ナラザル), *нехоро́шій* (佳良ナラザル、善良ナラザル), *несправедли́вый* (不公平ナル), *не́умно* (智ナラズ), *нехорошо́* (不良ナリ), *несправедли́во* (不公平ナリ)、時トシテハ否定 не ヲ刪除セバ全ク通用セザルニ至ル語モアリ例ハ *несча́стный* (不幸ナル), *нечая́нно* (不意ニ)、此等ノ詞類ト共ニスル否定 не ハ文句内ニ反對ヲ表スル語ノ立チタル場合即チ否定

ガ動詞(殊ニ動詞 быть)ニ關係ヲ有スル場合ニハ綴合セズシテ書セラル、例ハ Онъ мнѣ *недругъ*, а братъ его мнѣ другъ(彼ハ我ニハ敵ニシテ、彼ノ兄弟ハ我ニハ親友タリ). Онъ *не другъ* (не *есть* другъ) мнѣ, а врагъ (彼ハ我ニハ親友タラズシテ敵ナリ). Онъ *неумный* (彼ハ智ナラザルモノ). Онъ *не у́мный*, а глу́пый (彼ハ智者ニ非ズ愚者ナリ). Вы запла́тили *не дёшево*, а до́рого; я то́же запла́ти́лъ *недёшево* (貴君ハ廉ナラズシテ高價ニ拂渡セリ、我モ同シク不廉ノ價ヲ拂ヘリ). Прежде онъ вёлъ себя *нехорошо́* (彼ハ以前ニハ不品行ナリシ). Онъ веде́тъ себя́ *не хорошо́*, а пло́хо (彼ノ品行ハ良ナラズシテ惡ナリ).

(丙) 否定 не ハ其他ノ形容詞、其他ノ副詞及ビ其他ノ詞類ト共ニスル時ハ綴合セズシテ書セラル例ハ *не* золото́й, *не* вчера́, *не* я, *не* де́сять 等ノ如シ、但シ例外ヲ成スハ代名詞 кто ト что (§ 163, III, 2) 及ヒ時ト場合ノ副詞 когда, гдѣ, куда, откуда ナリ、此等ノ語ハ否定 не ト共ニスル時ハ綴合シテ書セラル且ツ力點ヲ有ス例ハ *не́когда* (時ナシ、暇ナシ), *не́гдѣ* (居ル場所ナシ), *не́куда* (往ク場所ナシ), *не́откуда* (何處ヨリモ來ルベキ場所ナシ).

III. 副詞 ни (甲) 數個ノ語ニ於テノミ綴合シテ書カル、例ハ *никто́*, *ничто́*, *нигдѣ* (何所ニモナシ), *никогда́* (常ニナシ、決シテナシ), *никуда́* (何處ヘモナシ), *никакъ* (如何シテモナシ), *ниско́лько* (毫モナシ), *ничу́ть* (毫モナシ), *нимно́го* (少シモナシ)、其他ノ場合ニ於テハ皆ナ離シテ之ヲ書ス.

(乙) ни ハ否定力ヲ强クシ且ツ之ヲ制限セズ、而シテ常ニ否定文句ニ於テ使用セラル、Сего́дня *никто* къ намъ *не* приходи́лъ (今日ハ誰モ我ガ家ニ來ラザリシ). Я *ни* ра́зу *не* встрѣча́лъ его́ (我レハ一度モ彼レニ逢ハザリシ). Звалъ я всѣхъ, но *ни* оди́нъ изъ нихъ *не* пришёлъ (我レハ皆ナ呼ビタレモ、一人モ來ラズ). Сейча́съ у меня́ *нѣтъ ни* гроша́ (唯今、我レニハ一文モ無シ). *Ни* чита́ть, *ни* писа́ть онъ ещё *не* умѣетъ (彼レハ未ダ讀ムコトモ書クコトモ能ハズ).

(丙) 關係代名詞 (§ 114, VI, 1) ノ後ニ使用セラル、際、例ハ кто, что 幷ニ時ト場所ノ副詞 когда, гдѣ, куда, откуда ノ後ニ使用セラル、際ニハ否定 ни ハ肯定的ノ意義ヲ有シ「ニテモ」ノ意義ヲ受ク、斯カル場合ニハ бы ト共ニスルコト多シ、例ハ кто *ни*, кто бы *ни* (誰ニテモ), что *ни*, что бы *ни* (何ニテモ), куда *ни*, куда бы *ни* (何處ヘナリトモ).

9. 疑問副詞 вопроси́тельное) ли, (乎) неуже́ли (驚キ訝リテ問フ), уже́ли (事ノ行ハレシヤヲ問フ), ра́звѣ (疑フテ問フ), бу́дто (サモ然ルヤト問フ). ли ハ通常ノ問ヲ表シ、返答ヲ要スル語ノ後ニ立ツヲ常トズ、而シテ返答ヲ要スル問ノ語ハ大概、文句ノ首端ニ立ツヲ常トス、Чита́лъ ли братъ? (讀ミシヤ兄弟ハ). Братъ ли читалъ? (兄弟ガ讀ミタルナルヤ、讀ミシハ兄弟ナルヤ). Не письмо́ ли онъ чита́лъ? (彼レハ手紙ヲ讀ミシナラズヤ、彼レノ讀ミシハ手紙ナラズヤ). Не у́тромъ ли онъ чита́лъ? (彼レノ讀ミシハ朝ナラズヤ).

ра́звѣ モ бу́дто モ疑ヲ含ミタル問ヲ表ス (但シ бу́дто ハ使用至テ稀ナリ)、此問ニ對シテハ肯定ノ答ヲ要ス、Ра́звѣ и вы были тамъ? —Да, тамъ былъ и я (汝モ彼處ニ在リシニヤ、然リ我モ彼處ニ在リシ).

неужéли 及 ужéли (但シ ужéли ハ使用至テ稀ナリ) ハ驚キ訝リテ發スル問ヲ表ス、此問ニ對シテハ否定ノ答ヲ要ス、Неужéли и вы тамъ были ?—Нѣтъ, я тамъ не былъ (汝モ彼處ニ在リシニヤ、否、我ハ彼處ニ在ラズ)

10. 確定副詞 (утвердúтельное) ハ да (然リ), конéчно (勿論), разумѣется (知レタ事ナリ、當然ナリ), дѣйствúтельно (實ニ), въ сáмомъ дѣлѣ (本當ニ、イカサマ), тóчно такъ (ソレト同シク、誠ニ然リ) 等...

11. 豫想副詞 (предположúтельное) мóжетъ быть (或ハ然ラン), елвá-ли (ヨモヤ), врядъ-ли (豈ニ、ヨモヤ), навря́дъ-ли (俗語ニシテ едва-ли ト同意義ナリ) 等

12. 制限副詞 (ограни́чивающее) тóлько (唯、ノミ), лишь (何々スルヤ否ヤ、唯), едúнственно (獨リ), сóбственно (本來、實ハ) 等

13. 性質ノ程度ヲ強ムル副詞

(甲) 最勝級ヲ組成スル爲ニ元級ノ程度ヲ強ムル óчень (甚タ), весьмá (至極), слúшкомъ (餘リ), чрезвычáйно (非常ニ), отлúчно (極上), черезчýръ (極メテ).

(乙) 比較級ノ程度ヲ強ムル вдвóе (二倍), втрóе (三倍), несравнéнно (遙カ、比ヘニナラヌ程), горáздо (遙カ、餘程), не-въ-примѣръ (無類ニ)

(丙) 最勝級ヲ強ムル наи (最上ニ、極々)

14. 名詞、形容詞、副詞ノ意義ヲ強ムル副詞 то, вѣдь, это. 例ハ это-то (是レガサ、是レガ即チ), вѣдь это (ソラ是レハ、是), кто это (一體是レハ誰)

15. 否定ヲ強ムル副詞 вóвсе (全ク、丸ルデ), совсѣмъ (全ク), нискóлько (毫モ), ничýть (毫モ).

16. 確定或ハ否定力ヲ薄弱ナラシムル副詞 едвá (ヤツト), чуть (殆ト) чуть-чуть (今少シノ處デ、アブナク、スンデノ事デ), почтú (殆ンド), отчáсти (幾分カ), нѣсколько (多少), немнóго (少シハ).

17. 他人ノ思想タルヲ表スル副詞 де, дéскать, молъ. 例ハ Онъ дýмаетъ "я-де богáтъ," но богáтство емý не помóжетъ (「我ハ富ム」ト彼ハ思フ、然レド富ハ彼ヲ助ケザラン)

§. 131. 關係副詞ノ組成

根元的副詞ハ僅少ニシテ例ハ здѣсь, тамъ, óколо 等ナリ、大概ノ副詞ハ他ノ詞類ヨリ組成セラル、殊ニ名詞ト形容詞ヨリ組成セラル

副詞ハ殊ニ前置詞ト共ニシテ組成セラル、斯カル副詞ノ語尾ハ前置詞ノ要求スル格ニ從フ、然レトモ又前置詞ト共ニセザル副詞モアリ、嚴密ニ言ヘバ、他ノ語ヨリ支配セラレズシテ格ヲ變セシ語ハ凡テ副詞タルナリ、例ハ утромъ, зимою, третьяго дня, втораго числа 等ハ副詞ナリ. Сегóдня онъ *дóма* (今日彼レハ在宅ナリ). Сегóдня я проходúлъ *óколо* вáшего *дóма* (今日我ハ汝ノ家ノ邊ヲ通行シタ)、前ノ дома ハ副詞ニシテ後ノハ副詞ナラス、如何トナレバ около ニ支配セラレテ生格ト成リシナリ

1. 名詞ヨリ生ズル副詞

(甲) 此副詞ハ諸格ノ語尾ヲ有スヽ例ハ

生格 снача́ла (始ヨリ), сконца́ (終ヨリ), вчера́ (昨日), сего́дня (今日), до́ма (家ニ於テ)

與格 *по*пра́вдѣ (實ハ), *по*-и́стинѣ (眞ニ), кста́ти (序デニ)

役格 *в*верхъ (上ヘ向テ), *в*низъ (下ヘ向テ), весь день (終日), *в*сю ночь (終夜)

造格 верхо́мъ (騎馬ニテ), пѣшко́мъ (徒歩ニテ), у́тромъ (朝ニ於テ), па́гомъ (並ミ足ニテ)

前置格 *в*нача́лѣ (最初ハ), *в*концѣ́ (終ニハ), *в*мѣ́стѣ (共ニ)

(乙) 時、數、順序ヲ表スル或名詞ヨリ生スル副詞アリ、是レハ前置詞 по トヲ綴合シ、而シテ其語尾ヲ но トヲ爲ス、例ハ

по года́мъ＝по-го́дно (年毎ニ)　　по па́рамъ＝по-па́рно (一對ヅヽ)

по мѣ́сяцамъ＝по-мѣ́сячно (月毎ニ)　　по о́череди＝по-очерёдно (輪番ニ)

по мину́тамъ＝по-мину́тно (分毎ニ)　　по ро́тамъ＝по-ро́тно (一中隊毎ニ)

(丙) 時トシテ名詞ヲ重復シ其間ニ前置詞ヲ挿ミテ以テ副詞ノ體ヲ成シ時間或ハ場所ニ於ケル動作ノ連續ヲ表スルヿアリ、例ハ

часъ о́тъ часу　　съ ча́су на часъ　　(使用セズ)
一時間増シニ　　毎時絶ヘズ、今ヤ遅シト

день отъ дня　　со дня на́ день　　изо дня въ день
一日増シニ　　毎日毎日　　毎日毎日

годъ о́тъ году　　съ го́да на́ годъ　　изъ го́да въ годъ
一年増シニ　　毎年毎年　　毎年毎年

事物ノ逐次相連ナルヲ表ス

часъ за ча́сомъ 毎時相次テ　　шагъ за па́гомъ 歩ヲ次テ

день за днёмъ 毎日相次テ　　человѣ́къ за человѣ́комъ 人々相連リテ

годъ за го́домъ 毎年相次テ　　сло́во за сло́вомъ 語々相次テ

同一ノ所業ヲ以テ報ユルヲ表ス例ハ

сло́во за́ слово　　о́ко за о́ко
(賣リ言葉ニ買ヒ言葉)　　(人我カ目ヲ損スレバ我モ人ノ目ヲ損ス

добро́ за добро́　　зубъ за зубъ
(善ニ報ユルニ善ヲ以テス)　　(人我カ齒ヲ損スレバ我モ人ノ齒ヲ損ス)

зло за зло　　угощéніе за угощéніе
(惡ニ報ユルニ惡ヲ以テス)　　(饗應ニ報ユルニ饗應ヲ以テス)

2. 或ル名詞ハ唯、副詞ノ體ヲ成シテノミ使用セラレ、或ル一ノ格ノミニ於テ使用セラレ、其他ノ格ニ於テハ一切使用セラレズ、例ハ

пѣшко́мъ (徒歩ニテ), босико́мъ (素足ニテ), порожняко́мъ (カラ馬ニテ、荷ヲ乘セザル馬ニテ), о́птомъ (卸賣ニテ), натоща́къ (素腹ニテ、空腹ニテ), науга́лъ (出鱈目ニ), напока́зъ (見セビラカシニ、外見ノ爲ニ), по-одино́чкѣ (獨リデ、單獨ニ)

2. 形容詞ヨリ生スル副詞、

備考　性質的形容ヨリ生スル副詞ハ § 53 參照

(甲) 語尾 ный 及 ній ヲ有スル關係形容詞ノ中性ノ與格ニ前置詞 по ヲ附シテ副詞ヲ生ス、例ハ

лѣтній по-лѣтнему 夏ノ如クニ、夏的ニ　звѣри́ный по-звѣри́ному 猛獣的ニ
зи́мній по-зи́мнему 冬ノ如クニ、冬的ニ　змѣи́ный по-змѣи́ному 蛇的ニ
дома́шній по-дома́шнему 家居ノ如クニ　лошади́ный по-лошади́ному 馬ノ如クニ

(乙) 語尾 ій, ье, ья ヲ有スル形容詞ヨリ生スル副詞ハ ный ヲ語尾トスル形容詞 ((甲) 參照) ノ如クシテモ組成セラレ或ハ語尾 ему ノ代リニ ьи ヲ使用スルコトモアリ、多ク使用スルハ第二ノ式ナリ соба́чій ハ по-соба́чьему, по-соба́чьи (犬的ニ); во́лчій ハ по-во́лчьему, по-во́лчьи (狼的ニ).

(丙) 語尾 скій ヲ有スル關係形容詞ノ語尾ヲ ски トヘ變更シテ前置詞 по ヲ加ヘテ副詞ヲ成スコトアリ、「何々的」ノ意義ナリ

человѣ́ческій по-человѣ́чески
人間的ニ

ру́сскій по-ру́сски
露西亞的ニ、露語ニテ

япо́нскій по-япо́нски
日本的ニ、日本語ニテ

кита́йскій по-кита́йски
支那的ニ、支那語ニテ

европе́йскій по-европе́йски
歐洲的ニ、歐語ニテ

христіа́нскій по-христіа́нски
基督敎的ニ

ю́ношескій по-ю́ношески
青年的ニ

дѣ́тскій по-дѣ́тски
小兒的ニ

備考 1. 此種ノ或ル副詞ニ於テハ前置詞 по ヲ省略スルコトアリ、例ハ по-дѣ́тски ハ дѣ́тски; по-дру́жески ハ дру́жески (親友的ニ), по-прія́тельски ハ прія́тельски (友人的ニ), по-това́рищески ハ това́рищески (同僚的ニ).

備考 2. 形容詞 лати́нскій (拉丁ノ) ハ例外ヲ爲シテ副詞ハ по-латы́ни (拉丁語ニテ) トナル.

(丁) 性質形容詞ト前置詞ヲ合一シ、形容詞ノ語尾ヲ中性名詞ノ語尾ニ變シテ副詞ヲ成スコトアリ

ро́вный по́-ровну 平等ニ
сухо́й по́-суху 乾カシテ
свѣ́тлый за́-свѣтло 未ダ日暮レザル際
бѣ́лый на́-бѣло ナグリ書キニ(復書セスニ)
чёрный на-черно 下タ書ニテ
——— вчернѣ́
пра́вый напра́во, впра́во (右方ヘ
лѣ́вый влѣ́во, налѣ́во (左方ヘ

3. 代名詞ヨリ生スル副詞ハ

(甲) 前置詞 по ト合シタル物主代名詞ヲ以テ成ル. по-мо́ему (我ガ意見ニ依レハ), по-твоему (汝ノ意見ニ依レバ), по-на́шему (我等ノ意見ニ依レバ).

(乙) 種々ノ前置詞ト綴合シタル疑問代名詞、指示代名詞等ヲ以テ成ル. почему́? (何故ニ), потому́ (ソレ故ニ), поэтому (此故ニ); зачѣ́мъ? (何ノ爲ニ) затѣ́мъ (ソノ爲ニ); отчего́? (何ニ由テ), оттого́ (ソレニ由テ); для чего́? (何ノ爲ニ), для того́ (ソノ爲ニ), поско́льку? (幾許ヅヽ), посто́льку (ソレダケヅヽ), понѣ́скольку (數個ヅヽ); во́все (全ク以テ), пото́мъ (其後), прито́мъ (且又、加フルニ); вмѣ́стѣ (共ニ) 等、此副詞ニ於ケル前置詞ハ綴合シテ書スルヲ常トス、之ニ依テ代名詞トノ區別ヲ明カニス、但シ для ノミハ代名詞ニ於テモ副詞ニ於テモ離シテ書ス

4. 數詞ヨリ生スル副詞 § 87

5. 動詞ヨリ生ル副詞、本來、副動詞ハ一種ノ副詞ナリ、然レ𪜈正則的變化副動詞ノ外ニ、俗語ニ於テハ一種特別ノ副動詞ヲ有スルコアリ(或ル動詞ニ限リテ)、其語尾ハ мя 或ハ ма ニシテ此種ノ副動詞ハ動作ヲ強ムル爲ニ使用セラル、例ハ Дождь ливмя́ льётъ (雨ハ降ルトモ降ルトモ、雨ハ降ルハ降ルハ). Онъ си́дьма сидѝтъ (彼レハ座ハルハ座ハルハ、座ルトモ座ルトモ)

§ 132. 副詞ヲ前置詞ノ意義ニテ使用スル事

事物ノ關係ヲ表スル爲ニハ前置詞ノミニテハ不充分ナルコアリ、故ニ或ル副詞ヲ前置詞ノ意義ニテ使用ス、斯カル際ニハ副詞ハ一定ノ格ヲ支配スルヲ以テ此點ニ注意スレバ其使用サレシ副詞ハ前置詞ナルヤ否ヤヲ明カニ知リ得ベシ

1. 生格ヲ要求スル副詞

(甲)

бли́зъ	近クニ	ми́мо	側ニ沿フテ
вблизи́	近傍ニ於テ	напро́тивъ	對シテ、向側ニ
вмѣ́сто	代リニ	о́коло	邊ニ於テ、何々位
внача́лѣ	始ニ	относи́тельно	關シテ
внизу́	下ニ於テ	пове́рхъ	表面ニ
внизъ	下ニ向テ	по́длѣ	傍ニ
внутри́	内ニ於ヲ	позади́	背後ニ、後トニ
внутрь	内ニ向テ	по́даль	少シ遠ザカリテ、少シ離レテ
внѣ́	外ニ於テ	поперёгъ	横ニ、横ギリテ
во́злѣ	傍ニ於テ	вдоль	縦テニ、沿フテ
вокру́гъ	周圍ニ於テ	вконцѣ́	終リニ、末尾ニ
впереди́	前面ニ於テ	по́слѣ	後ニ
впередъ	前面ニ向テ	посреди́	中間ニ於テ
вслѣ́дствіе	ニ由テ	пре́жде	前ニ、以前
вверху́	上ニ於テ	про́тивъ	對向シテ、反對シテ
вве́рхъ	上ニ向テ	сверхъ	上ヨリ
каса́тельно	接シテ、關シテ	сза́ди	後ロヨリ
кро́мѣ	外ニ、以外ニ	сни́зу	下ヨリ
круго́мъ	ノ周邊ニ	среди́	中間ニ

此副詞ハ概シテ場所ニ關係ヲ有スレ𪜈、或ルモノハ時ニ關係ヲ有ス、又意ヲ轉ジテ他ノ事柄ヲ表スルコモアリ、又、或ルモノハ前置詞ノ意義ニ於テ使用セラル、時ハ綴合セスシテ書ス、例ハ *Внача́лъ* (副詞) онъ учи́лся хорошо (彼レハ最初ノ内ハ善ク學ビタリ). *Въ нача́лъ* (前置詞) *го́да* онъ учи́лся хорошо (彼レハ年ノ始ニハ善ク學ビタリ)

(乙) 或ル名詞ハ前置詞ト合シテ副詞ノ態ヲ爲ス例ハ по слу́чаю (ノ件ニ就キ、機ニ際シテ), полъ ви́домъ (狀態ヲ爲シテ、樣ヲ以テ), въ по́льзу (ノ爲ニ、益スル爲ニ), съ по́мощью (助ニ由テ、助力ヲ以テ), въ значе́ніи (意義ヲ以テ), въ смы́слѣ (意義ヲ以テ).....

2. 與格ヲ要求スル副詞、是レハ殊ニ抽象物ヲ表スル名詞ト役格前置詞 въ, на, подъ トヲ綴合シテ成ル、例ハ

вдоль по	ノ縦テニ	на-перекóрь	意ニ逆フテ
вопрекú	反抗シテ	на-рáдость	悦バシメントテ
въ-угóду	意ヲ迎ヘテ	на-смѣхъ	嘲弄シテ
въ-укóръ	叱責ノ爲ニ	полстáть	適シテ
на-гóре	憂シメントテ	подцвѣтъ	色ニ應合シテ
на-зло	心ヲ痛メシメントテ、逆フテ	согласно	ニ應ジテ、ニ從テ

3. 役格ヲ要求スル副詞спустя́ ハ спустя́ годъ (一年ヲ經テ)

4. 造格ヲ要求スル副詞ハ вмѣстѣ съ (ト共ニ), согла́сно съ (ト同意シテ、投合シテ), сообра́зно съ (ニ準シテ)

5. 生格ト造格ヲ要求スル副詞ハ ме́жду (ノ間)ニシテ

I 此副詞ハ生格ヲ要求スル際ニハ同種類ノ事物 (即チ一個ノ名詞ヲ複數ニシテ之ヲ表スル所ノ)ノ間ヲ進動スル道ヲ表示ス、例ハ Доро́га лежи́тъ *ме́жду* горы (道ハ山ノ間ニ在リ). Мы ѣхали *ме́жду* рѣка́ми (我等ハ河ト河トノ間ヲ乘行ケリ).

II 造格ヲ要求スル際ハ

(甲) 同種類或ハ諸種類ノ事物ノ間ヲ動作ノ場裡ト爲スコヲ表ス又多數ノ事物中ニ存在スルヲ表ス *ме́жду* рѣка́ми (河ト河トノ間ニ於テ), ме́жду на́ми (我等ノ間ニ於テ), ме́жду Петербу́ргомъ и Москво́ю (彼得堡ト莫斯科ノ間ニ於テ), ме́жду людьми́ (=среди́ люде́й) 人々中ニハ、

此意義ヲ以テ抽象物ニモ使用ス *Ме́жду* добро́мъ и зло́мъ большо́е разли́чіе (善惡間ノ差異ハ大ナリ).

(乙) 數人間ノ相互ノ動作ヲ表ス *Ме́жду ни́ми* произошла́ ссо́ра (彼等ノ間ニ爭ハ起レリ).

(丙) 諸種ノ事物ノ間ヲ進行スル道ヲ表ス. Мы ѣхали *ме́жду* лѣсо́мъ и рѣко́ю (我等ハ林ト河ノ間ヲ乘行ケリ).

(丁) когда? ノ問ニ應シテ事ノ行ハル、時ノ間ヲ表ス Ученики́ за́втракали *ме́жду* второ́ю и тре́тьимъ уро́ками (生徒ハ第二學課ト第三學課トノ間ニ於テ朝食セリ).

(戊) 熟語ノ體ヲ成シ接續詞ヲ組成スルコアリ ме́жду тѣмъ (然ルニ、斯カル間ニ), ме́жду про́чимъ (就中)

§ 133. 接 續 詞 (Союзъ)

1. 接續詞ハ變化セザル詞類ニシテ、一文句中ノ語句ヲ連結シ或ハ數文句ヲ連結ス

2. 其出生ニ依テ接續詞ヲ二種ニ分ツ、元形的 (первообра́зный) 及作成的 (произво́дный ナリ、元形的接續詞ハ僅少ニシテ и (及), да (及), ли (乎), а (シテ), но (然シ、反テ)等ナリ其他ハ悉皆作成的ナリ

作成的接續詞ハ他ノ詞類ヨリシテ作成セラル例ハ動詞 хотѣть ヨリ生ゼシ хотя́ (雖モ); липи́ть (剝奪ス) ヨリ生ゼシ лишь (ノミ、唯); 數詞 одинъ ヨリ生ゼシ одна́ко (然レモ) 等ニシテ大概ノ接續詞ハ副詞及代名詞ヨリ生ズ、殊ニ前置詞ト代名詞トヲ合一シテ成リシ副詞ハ接續詞ノ如クシテ使用セラル、コト多シ

3 代名詞ト前置詞ト合一シテ成ル所ノ接續詞ハ代名詞ノ意義ニテ使用セラル、コトアリ又接續詞ノ意義ニテ使用セラル、コトアリ、而シテ接續詞タル塲合ニハ二者(前置詞ト代名詞)ヲ綴合シテ書シ、代名詞タル塲合ニハ二者ヲ分離シテ書ス、例ハ зачѣ́мъ, затѣ́мъ, зато́ ハ接續詞ニシテ за чѣмъ, за тѣмъ, за то ハ代名詞ナリ отчего́, оттого́ ハ接續詞ニシテ отъ чего́, отъ того́ ハ代名詞ナリ почему́, потому́, поэтому ハ接續詞ニシテ по чему́, по тому́, по э́тому ハ代名詞ナリ чтобы ハ接續詞ニシテ что́ бы ハ代名詞ナリ то́же ハ接續詞ニシテ то же ハ代名詞ナリ、ита́къ ハ接續詞ニシテ и такъ ハ代名詞ナリ、

備考 接續詞 такъ же ハ若シ其副文章ニ於テ接續詞 какъ ヲ包有スル時ハ分離シテ書カル、若シ又副文章ニ於テ какъ ヲ包有セザレバ、綴合シテ書カル

Зачѣ́мъ вы это сдѣлали? (ナゼ汝ハ之ヲ行ヒシヤ). *За чѣмъ* вы ходи́ли въ лавку? (何用ノ爲ニ汝ハ店ニ赴キシヤ). Я *зачѣ́мъ* сказа́лъ объ э́томъ ва́шему отцу́, что жела́ю вамъ добра́ (ナゼ我レハ此ノ事ヲ汝ノ父ニ話セシト云フニ、我レハ汝ノ爲メヲ思ヘバナリ). Я ходи́лъ *за тѣмъ*, за чѣмъ меня́ посла́ли (我レヲ遣ハセシ其用事ノ爲ニ我レハ往キケリ). Онъ мно́го учи́лся, *зато́* мно́го и зна́етъ (彼レハ多ク學べリ、ソレ故ニ多ク知レリ). *За то* пальто́ я заплати́лъ до́рого (我ハソノ外套ノ爲ニ高ク拂ヒタリ). Онъ не пришёлъ къ вамъ *потому́*, что вы не зва́ли его́ къ себѣ (貴君ハ彼ヲ自宅ニ呼バザリシニ因テ彼ハ貴君ノ許ニ來ラザリシ) Мы гуля́ли *по тому́* бе́регу (我等ハ向フ岸ヲ散歩セリ) Скажи́те ему́, *чтобы* онъ шёлъ домо́й (彼レハ家ニ赴クベキ樣ニ汝ハ彼レニ告グヨ). Еслибы я э́то сдѣлалъ, *что бы* сказа́ли они́ объ мнѣ? (我レ若シ之ヲ行ヒシナラバ彼等ハ我ガ事ヲ何ト言ハンカ). Братъ бо́ленъ и я *то́же* (兄ハ病氣ナリ、我モ矢張リ) Я *то же* ду́маю, что и ты (汝ノ思フガ如ク我レモ同シク思フ) *Итакъ* не бу́демъ лѣни́ться (此故ニ我等ハ怠ラザラン). Онъ упа́лъ *и такъ* ушиби́ся, что до сихъ поръ ещё бо́ленъ (彼レハ墜落シテ今ニ至ルマデ痛ヲ感ズル程ニ負傷セリ). И я безпоко́юсь объ э́томъ *такъ же, какъ* и ты (我レモ汝ト同シキ程ニ此事ヲ心配ス). Ко́шка лю́бить молоко́, но *также* лю́бить и ры́бу (猫ハ乳ヲ好ム、然レモ同シク魚ヲモ好ム).

4. 其組織ニヨレバ接續詞ハ單一的ト合成的トニ分カル、而シテ元形的接續詞ハ悉皆單一的ニシテ、作成的接續詞ハ概シテ合成的ナリ、

5. 其使用法ニ依レバ接續詞ニハ單獨 (одино́чный), 重複 (повторя́емый), 二重 (двойно́й) ノ別アリ、單獨接續詞トハ一個ニテ使用セラルヽモノヲ云フ、此接續詞ハ大抵單一的ナ

リ、例ハ a, но, ни 等ノ如シ、重復接續詞トハ一文句内ニ於テ二回以上重復サルヽモノヲ云フ、或ハ數個ノ文句ヲ結合スル際ニ復用サルヽモノヲ云フ、例ハ И—И (モ…モ), то—то (若シクハ…若シクハ), или—или (或ハ、或ハ) 等ナリ、單獨的ト重復的接續詞ハ一文句内ニ於テ其意義ノ同一ナル語類ヲ連結ス或ハ數文句ヲ連結ス

二重的接續詞ハ二個ノ文句ヲ連結スルモノニシテ殊ニ其意義ノ相同シカラザル文章即チ本文章ト副文章トヲ連結スルモノナリ、而シテ副文章ノ首端ニ立ツ接續詞ハ本文章ニ於テ之ニ對應スル接續詞ヲ有シテ二者一對ヲ成ス、然シ本文章ニ於ケル對應ノ接續詞ハ時トシテ之ヲ略シ其意義ノミヲ存スルコアリ、例ハ затѣмъ—чтóбы (何々センガ爲メ其爲ニ), éсли—то (若シ何々ナレバ其時ハ), хотя́—но (何々ト雖モ然レモ)

§ 134. 接續詞ノ種類

一文句中ノ語類、若シクハ數文章ヲ結合スル意味ニ依テ接續詞ヲ次ノ數種ニ別ツ

一文句中ノ意義ノ同一ナル語類或ハ數文句ヲ結合スル接續詞

1. 合一的 (соединúтельный)
2. 說明的 (изъяснúтельный)
3. 順次的 (послѣдовательный)
4. 結局的 (заключúтельный)
5. 反抗的 (противúтельный)
6. 分離的 (раздѣлúтельный)

種類ノ異リタル數文句 (即チ副文章ト主文章) トヲ結合スル所ノ接續詞

定語的文句 § 162. III	目的ノ接續詞 § 169
補語的文句 § 164	條件ノ接續詞 § 170
時ノ接續詞 § 166	讓歩ノ接續詞 § 171
場所ノ接續詞 § 165	
動態ノ接續詞 § 167	
原因ノ接續詞 § 168	

1. 合一的接續詞ハ и (及ヒ、而シテ、モ), да (殊ニ俗語ニ於テ и ノ代リニ使用ス、概シテ此語ノ使用ハ稀ナリ), ни ハ否定文句ニ於テ и ノ代リニ使用ス、же ハ疑問文句ヲ連結スル爲ニ用フ、之ヲ用フル時ハ疑問ノ ли ヲ用ヲルヲ要セズ且ツ疑問語ノ語氣ヲ强ムルガ爲ニ使用セラル、тоже (同シク), та́кже (矢張リ), кро́мѣ того (其外), све́рхъ того́ (其上), къ тому́ же (之ニ加ルニ), при томъ (シテ又、且ツ); не то́лько ..,но и (ノミナラズ且ツ).

2. 說明的接續詞ハ (甲) 事物ヲ說明、或ハ數ヘ擧グル際ニ使用セラル、т.е. (то есть ヲ略セシニシテ「是レ即チ」ノ義), и́менно (即チ、一々數フレバ), а и́менно (即チ是レ々々), напр. (「例ヘバ」 напри́мѣръ ノ略), какъ напр. (例バ何々ノ如キ), какъ-то (即チ何々ノ如キハ), во-пе́рвыхъ (第一ニハ), во-вторы́хъ (第二ニハ), въ-тре́тьихъ (第三ニハ) 等.

(乙) 一ノ物ヲ他ニ擬スル等ノ意義ヲ有ス、какъ (如ク), сло́вно (言ハヾ、早ク言ヘバ), бу́дто, бу́дто-бы (ニテモ有ル如ク、サモ何々タルガ如ク), какъ бу́дто (サモ何々タルガ如ク) 等.

3. 順次的接續詞ハ順序殊ニ時ニ關スル順序ヲ表ス внача́лѣ (最初ハ), снача́ла (始メハ), пото́мъ (後ニハ、ソレカラ), зате́мъ (次ニ、其後), да́лѣе (次ニ), наконецъ (終ニ), въ заключеніе (結局), во-пе́рвыхъ, во-вторы́хъ, то—то (或ハ何々或ハ何々)

4. 結局的接續詞、是レハ歸結トナル所ノ文句ト歸結ヲ生ズル所ノ文句トヲ合一ス、此接續詞ハ大抵合一的接續詞 и 或ハ та ト共ニス、時トシテハ接續詞ハ省略セラレテ и ノミヲ用フルコトアリ、斯カル場合ニハ и ノ前ニ半點 (запятая) ヲ附スルヲ常トス、Итáкъ, почемý и, поэтому и, потомý и, слéдовательно, стáло быть (「此故ニ」「是ヲ以テ」) 等.

5. 反抗的接續詞ハ а (ダガ、シテト譯シ「之ニ反シテ」ノ意ニ非ズシテ「之ニ異リテ」ノ意ヲ有ス), но (然レ𪜈), же (ハ но ト同ジケレ𪜈、長キ文句ニ於テ使用セラレ且ツ其關係ヲ有スル語ノ次ニ立ツ), да (俗語ニシテ но ト同シ), однáко (サリナガラ), мéжду тéмъ (然ルニ), мéжду тéмъ какъ (然ルニ) 此二接續詞ハ主語ノ相異リタル文句ニ於テノミ使用ス. все же (兎ニ角), напрóтивъ (ソレニ反シテ)

6. 分離的接詞的ハ一文句中ノ語句ヲ分折シ或ハ文句ト文句ヲ分折ス即チ二者相容レザルモノヲ分折ス、или—или (若シクハ何々若シクハ何々), лúбо—лúбо (俗語ニ於テ使用シ、или—или ト同シ), ли—или (「何々カ或ハ何々」ノ意ニシテ疑問文句ニ於テ使用シ第二ノ動詞ニ附スベキ ли ヲハ省略ス

備考 意義ノ同一ナラザル文句ヲ結合スル所ノ接續詞ニ關シテハ §§ 162—171

§ 135. 間投詞 (Междомéтие)

間投詞ハ變化セザル詞類ニシテ種々ナル心情ノ感發或ハ動態ヲ表ス、間投詞ハ自ラ一個ノ文句或ハ思想ヲ成スト雖、其感覺ノ急激過度ナルヨリシテ、或ハ慣用ノ然ラシムルヨリシテ之ヲ簡略シテ一個ノ叫語ト爲スニ至レリ

間投詞ノ後ニハ常ニ感歎記號(!)ヲ附ス、然レ𪜈若シ間投詞ノ後ニ之ヲ說明、補足スベキ語ノ立ツ時ハ其間ニ、半點ヲ用ヒテ感歎記號ヲハ其文句ノ後ニ附ス

I. 感情ノ差異ニ依テ間投詞ヲ次ノ如ク細別ス

呼稱、эй! ой! (オイ)
應呼 а! (ア、ハア) что! что такóе! (何ント) ау!
奇異 а! о! э! ай! ой! ахъ! ну! ба! (オヤ)
指摘 вотъ ソレ、(近傍ニ在ルヲ指ス), вонъ アレ、(遠方ヲ指ス)
威嚇 смотри́! ужó! (氣ヲ附ケロ、ヨシ)
驚嘆 ой, ой! ахъ-ахъ!
迫促 ну! ну́-же! ну́-те! ну-ка! ну́те-ка! (シテシテ、サア)
禁止 цсъ! чи-и! чшъ! цыцъ! (シー)
承認 да! да-да! (左樣)
確信、證言 ей-ей! ей же ей!
滿悅 а-а-а! ура! (萬歲)
悲哀 ахъ! увы!
疲勞 ухъ! уфъ!
笑 хи-хи-хи! ха-ха-ха!
不滿 тьфу!
稱嘆 брáво! エライ、ウマイ)

II. 其他、間投詞ニ屬スルハ (1) 音響ノ摸擬. (2) 發達セザル動詞. (3) 或ル名詞. (4) 拶挨應對ノ語.

1. 音響摸擬ハ禽獣ヲ始メ凡テノ無生物ノ音響ヲ摸擬スルヨリ成ル、例ハ мя́у-мя́у (猫ノ聲), га́у-га́у! (犬ノ聲), чикъ-чикъ-чикъ! (カチ々々), ба́у-ба́у! (時計ノ鳴音).

2. 動詞ヨリ生スル間投詞ハ動詞ノ語根ヨリ發ス、殊ニ過去ノ略體即チ илъ 或ハ нулъ ノ語尾ヲ除去セシモノヲ使用スルコ多シ、此種ノ間投詞ハ談話ヲ活動セシメン爲ニ動詞ノ代リニ使用セラル、例ハ толкъ! (=толк-нулъ 衝キタリ) хлопъ! (=хлоп-нулъ パタリト閉メタリ) хватъ! (=хват-и́лъ 摑ム).

3. 或名詞及副詞モ間投詞トシテ使用セラル、斯カル間投詞ニ關係ヲ有スル人稱ハ與格ト成ル、例ハ Бѣда́ намъ тепе́рь! (困ッタ事タ、サア大變ダ). Горе намъ! (嗚呼禍ナル哉、憂ナル哉) Спаси́бо (「難有シ」、是レハ спаси Богъ! 「神ヤ救ヒ賜ヘ」ヲ略セシニシテ、恩惠ヲ施セシ人ノ身ノ上ニ神ノ祐助ヲ祈願スル意ナリ).

4. 面會及ヒ告別ノ際ニ用フル拶挨應對ノ辭モ間投詞ト見做シテ可ナリ、面會ノ際ニ用フルハ Здра́вствуй! Здра́вствуйте! 是レハ動詞 здра́вствовать「健康ニ暮ラス」ヨリ生シ「貴君ノ健康ナランコトヲ希望ス」ノ意ヲ表ス. До́бро (=доброе) утро! (御早フ). До́брый день! (今日ハ、結構ナ日) До́брый ве́черъ (今晩ハ)! Поко́йной но́чи (御安眠ナサイ)! 何ツレモ語句ノ意義ハ「貴君ノ爲ニ今日ハ嘉吉ナランコトヲ、今晩ハ安息無事ナランコトヲ希望ス」ニ當ル.

告別辭ハ Проща́й! Проща́йте! (左樣ナラ御免下サレ) ニシテ動詞 проща́ть (恕ス、宥免ス) ヨリ生シ、其意ハ貴君ノ機嫌ヲ害セシ言語動作アリシナラバ何卒之ヲ宥恕下サレタシトナリ. До свида́нія! ハ直譯ナレバ「面會マデ」ニシテ「復タ御目ニ掛リマセウ」ニ相當ス.

§ 136. 母音及子音文字ノ發音並ニ使用法 (§ 4 補足).

1. 母音文字.

і ハ必ス母音或ハ半母音 и ノ前ニノミ限リテ使用ス、但シ міръ (世界、農民ノ組合) ト云フ語ノミハ миръ (平和) ト異リテ例外ナリ、且ツ此語ヨリ生ゼシ мірско́й (農民組合ノ), міря́нинъ (俗人即チ僧侶ナラザル人), всемірный (全世界ノ), Влади́міръ (人名) モ然リ ѣ ハ發音ニ於テハ е ト毫モ異ナラズ、但シ次ノ諸語ニ於テハ ё ト發音ス

звѣ́зды 星 (звѣзда́ ノ複數)
гнѣ́зда 鳥ノ巢 (гнѣздо́ ノ複數)
сѣ́дла 鞍 (сѣдло́ ノ複數)
пріобрѣ́лъ 得タリ、求メタリ (пріобрѣсти́)
цвѣ́лъ 咲キタリ (цвѣсти́)

ѣ ハ格ノ語尾ニ於テモ語根ニ於テモ使用ス、其詳細ハ既ニ述ベタリ.

此文字若シ語根ヲ成シ而シテ是ヨリ出生スル語ナレバ必ス此文字ヲ保存ス、例ハ ѣзда́ (乘行), ѣзди́ть (乘行ク), пое́ѣздка (旅行), по́ѣздъ (滊車ノ發車), пріѣзжа́ть (乘來ル), пріе́ѣздъ (來車、來着), пріе́ѣзжій (立寄ノ旅人、來着ノ人) 等ノ如シ、次ノ諸語ニハ例外アリ、наде́ѣться (望ヲ屬ス、特ミニス) ハ ѣ ヲ用フレモ之レト同語根ナル諸語ハ е ヲ用フ、例ハ наде́жда (信賴、待望), наде́жный (特ムニ足ルベキ、有望ノ), обнаде́жить (望ヲ抱カシム)、又

動詞 одѣва́ться (着服ス) 及ビ同語根ナル одѣя́ніе (衣裝、着裝); одѣя́ло (掛蒲團) ハ ѣ ヲ用フレモ оде́жда (衣服) ハ е ヲ用フ、又動詞 рéчь (рещи́) 及同語根ノ изрече́ніе (言辭), изрека́ть (言フ) ハ е ヲ用フレモ同語根ノ рѣчь (演說、辭) 及 нарѣ́чіе (副詞、方言) ハ ѣ ヲ用フ.

若シ二綴以上ノ語ニ於テ е ト ѣ ノ兩文字ヲ包有スル場合ニハ概シテ ѣ ノ字ニ力點ヲ打ツヲ常トス例ハ сѣ́веръ (北), желѣ́зо (鐵), нѣ́мецъ (獨逸人), недѣ́ля (一週間) 等ノ如シ

ѣ ノ字ヲ包有スル語ヲハ熟知スルヲ要ス、露國ニテハ ѣ ト е ノ使用ヲ混同スル者ヲハ文字ナキ者、無學文盲ノ徒ト見做スヲ常トス、之ヲ以テ參考ノ爲ニ茲ニ ѣ ノ字ヲ包有スル語中、殊ニ屢々使用スルモノヲ集メテ次ノ如キ一覽表ヲ作リテ附加スルコトセリ、但シ伊呂波順ヲ以テ之ヲ記セリ.

ѣ ѣсть (食スル), ѣда́ (食事), обѣ́дъ (晝食), обѣдня (日曜祈禱)
ѣ́хать, ѣ́здить, ѣзда́ (乘行), уѣ́здъ (郡).

бѣ бѣ́гъ (奔走), бѣ́гать (走ル), убѣ́жище (避難所); бѣда́ (不幸、困難), бѣ́дный (不幸ナル、貧困ナル), побѣди́ть (勝ツ), бѣсъ (惡鬼), бѣ́шеный (狂シタル), бѣси́ться (激怒スル); бѣ́лый (白キ), бѣльё (シヤツ、股引等ヲ云フ), бѣли́ла (白粉), бѣ́лка (栗鼠); обѣ́тъ (約束), обѣща́ть (約束スル).

вѣ вѣ́дать (知ル), вѣ́сть (報知), со́вѣсть (良心), невѣ́жда (野人、無教育漢), вѣ́дьма (惡鬼婆), свѣ́дѣніе (知識); вѣ́къ (世紀), вѣ́чный (永久ノ); увѣ́чить (不具ニスル); вѣ́ки (瞼).

вѣно́къ (花冠、飾花), вѣнча́ть (冠スル、婚禮式ヲ擧ク), вѣ́никъ (葉ヲ有スル枝ノ束).
вѣ́ра (信仰、宗旨), вѣ́рить (信スル), вѣроя́тно (大方カタ)
вѣсъ (重量), вѣ́сить (目方ヲ掛ケル), вѣ́шать (掛ケル、釣ルス), отвѣ́тъ (返答), совѣ́тъ (相談、勸告), вѣща́ть (言フ), вѣ́че (古代スラウ人ノ會議); вѣ́ять (吹ク), вѣ́теръ (風), вѣ́еръ (扇), вѣха́ (通路ヲ指示スル高竿).
звѣзда́ (星、勳章).
звѣ́рь (猛獸).
свѣ́жій (新鮮ナル).
невѣ́ста (結婚ヲ約セシ女).
свѣ́тъ (光、世界), свѣти́ть (光ル), освѣща́ть (照ラス);
цвѣ́тъ (花、色).
человѣ́къ (人).

ѣ дѣ́ть (置ク), одѣ́ть (оде́жда), издѣва́ться (嘲弄スル), дѣ́ло (用事), недѣля (週間), надѣ́яться (наде́жда); дѣли́ть (分割スル), дѣле́ніе (分割), предѣ́лъ (境域), дѣ́ва (處女), дѣ́вственный, (人ニ接セザル);
дѣдъ (祖父).
индѣ́ецъ (印度人).
дѣ́ти (小兒等).

зѣ зѣва́ть (欠アクビスル), зѣвъ (喉口), ротозѣ́й (阿房).
зѣло́ (至極〔古語〕)
зѣни́ца (瞳子).

лѣ лѣ́вый (左リノ), лѣвша́ (左利キ)
лѣзть (攀ル), лѣ́стница (梯子).
лѣнь (怠慢), лѣни́ться (怠ル),
лѣпи́ть (膠漆等ヲ以テ接合粘着サスル), нелѣ́пый (筋褄ノ合ハヌ、頓間ノ),
великолѣ́пный (華美ナル、典雅ナル).
лѣсъ (林), лѣ́шій (林ノ怪物、天狗ノ類)
лѣ́то (夏).
блѣ́дный (蒼白ナル).
желѣ́зо (鐵).
клѣть (室、物置), клѣ́тка (籠).
калѣ́ка (不具).
колѣ́но (膝、節フシ、父ノ代ダイ子ノ代等ノ代).
полѣ́но (丸太).
лелѣ́ять (甘ヤカス).
телѣ́га (荷車).
млѣть (心疲レル、感觸ヲ失フ).
плѣнъ (擒), плѣни́ть (擒ニスル、心ヲ惑ハス), плѣнительный (心ヲ奪フ程ノ).
плѣ́сень (黴).
плѣшь (禿ハゲ),
слѣ́дъ (跡), слѣ́довать (探ガス、審ス), слѣдователь (裁判上ノ審問者), послѣдствіе (成リ行、結果), слѣ́довательно (故ニ).
слѣпо́й (瞽者).
хлѣбъ (パン、穀物); хлѣвъ (家畜室).

мѣ мѣдь (銅) мѣлъ (白墨).
мѣ́на (交換), измѣ́на (變心、變節), перемѣ́нчивый (變シ易キ)
мѣ́ра (分量), измѣря́ть (量ル), примѣ́ръ (例), намѣ́реніе (志), лицемѣ́ріе (僞善)
мѣ́сто (場所、位置), помѣ́щикъ (地主), мѣщани́нъ (素町人), мѣ́сяцъ (月)
мѣси́ть (粉捏ル), мѣша́ть (搔キ交セル、妨害スル), смѣсь (混交), помѣ́ха (妨害、姑障)
мѣхъ (毛革), мѣшо́къ (嚢)
мѣ́тить (狙フ、目指ス), замѣча́ть (認メル、目ヲ附ケル), отмѣ́тка (評點),
смѣть (敢テスル), смѣ́лый (勁敢ナル), смѣя́ться (笑フ), смѣхъ (笑)

нѣ нѣ́га (婉柔、纖弱), нѣжный (婉柔ナル)
нѣмо́й (啞者), нѣ́мецъ (獨逸人)
гнѣвъ (怒), гнѣваться (怒ル)
гнѣдо́й (黑栗毛ノ)
гнѣздо́ (巣)

мнѣ́ніе (私說、意見), сомнѣ́ніе (疑念)
снѣ́гъ (雪)
пѣ пѣ́гій (斑ブチ色ノ)
пѣ́на (泡)
пѣхо́та (步兵), пѣшко́мъ (徒步ニテ), пѣ́шій (徒步者)
пѣть (歌フ), пѣ́сня (歌), пѣ́вчій (歌者), пѣту́хъ (雄鷄)
спѣть (熟スル、パン等ノ燒ケ上ル); спѣхъ (急速), спѣши́ть (急ク), успѣ́хъ (進捗)
рѣ рѣ́дкій (稀ナル、粗アラキ)
рѣ́дька (大根)
рѣ́зать (切ル), рѣзкій (喩酷ナル), рѣ́звый (馳セ戯ル)
рѣ́ять (急流スル)
рѣка́ (河), рѣ́чка (小河)
рѣ́па (蕪菁)
рѣсни́ца (睫毛)
рѣчь (言辭、演說), нарѣ́чіе (副詞、方言)
прорѣ́ха (衣ノ綻)
рѣшето́ (篩) рѣшо́тка (格子)
рѣша́тъ (決スル)
орѣ́хъ (榛ノ類ヲ總稱ス)
обрѣта́ть (得ル); встрѣча́ть (迎ヘル)
свирѣ́пый (猖獗ナル)
грѣхъ (罪), грѣши́ть (罪ヲ行フ), грѣ́шникъ (罪人)
зрѣть (熟ス), зрѣ́лый (熟シタル), зрѣ́ніе (視力), презрѣ́ніе (輕蔑)
крѣ́пкій (堅固ナル), крѣ́пость (城砦), укрѣпле́ніе (固メ), крѣпи́ться (防禦ノ固メヲ爲ス、堅ク取ル、力ヲ着ケル)
прѣть (發汗ス、腐敗ス、蒸シ熟ス)
прѣ́сный (淡ナル)
стрѣла́ (箭), вы́стрѣлъ (發射)
стрѣха́ (屋根裏)
свирѣ́ль (笛ノ類)
хрѣнъ (山葵)
сѣ сѣ́веръ (北)
сѣсть (腰掛ル), сѣдло́ (鞍), бесѣ́да (對話)
сѣдо́й (白髮ナル), сѣдина́ (白髮)
сѣчь (斬ル、打ツ), насѣко́мое (昆虫)
сѣнь (影), сѣ́ни (玄關), осѣня́ть (覆フ)

其他 ѣ ノ字ハ次ノ固有名詞ニ於テ使用セラル. Алексѣ́й, Глѣбъ, Гордѣ́й, Елисѣ́й, Матвѣ́й, Сергѣ́й, Рогнѣ́да (以上ハ人名ナリ), Днѣпръ, Днѣстръ, Нѣманъ (以上河ノ名), Вѣ́на (市府ノ名), Апрѣ́ль (四月).

其他、或ル副詞ノ語尾ニ使用ス、殊ニ屢々使用ノモノヲ擧グレバ

вдвойнѣ 二重ニ、二倍
вездѣ 何處ニモ
вконцѣ 終リニ
вкра́тцѣ 簡單ニ
вмѣ́стѣ 共ニ
внача́лѣ 最初
внѣ 外ニ
во́злѣ 傍ニ
вполнѣ́ 全ク
вира́вѣ 右方ニ於テ
вско́рѣ 程ナク
втройнѣ́ 三人協同シテ
вчернѣ́ 下タ書ニテ
гдѣ́ ドコニ
доко́лѣ 何々ノ際迄
дото́лѣ 何々ノ際ソレ迄
извнѣ́ 外ヨリ
кро́мѣ 何々ノ外
наедина́ѣ サシ向ヒニテ
наканý нѣ 前日
ны́нѣ 目今、唯今
отсе́лѣ 今ヨリシテ
по́лѣ 傍ニ
по́слѣ ノ後ニ
ра́звѣ 乎

III. 子音文字

1. 半子音ь ハ上顎音ト子音トノ間ニ於テハ發音ノ際之ヲ存スルガ如ク聞ユレドモ實ハ之ヲ記セズ、又 нн, нч, нщ, рк ノ間ニモ發音ノ際ニハ之ヲ有スルガ如ク聞ユレドモ之ヲ記セス

ру́чка (ручька ノ如ク發音スレド) ра́нній (раньній ノ如ク發音スレド)
пе́чка (печька ノ如ク發音スレド) ко́нчикъ (коньчикъ ノ如ク發音スレド)
но́жка (ножька ノ如ク發音スレド) же́нщина (женьщина ノ如ク發音スレド)
ви́шня (вишьня ノ如ク發音スレド) це́рковь (церьковь ノ如ク發音スレド)

2. 或ル子音文字ハ輕微ニ發音スルヲ以テ其文字ノ表ス音ト異リテ聞ユル事アリ、次ノ文字ハ皆然リ

б ハ п ノ如ク聞ユル1多シ例ハ лобъ-лопъ (額), зубъ-зупъ (歯)
в ハ ф ノ如ク лáвка-лáфка (店), овцá-офцá (羊)
г ハ к ノ如ク другъ-другъ, бéрегъ-бéрекъ
г ハ又 х ノ如ク聞ユ лёгкій-лёхкій, Богъ-Бохъ
г ハ又 в ノ如ク聞ユ § 4.5
д ハ т ノ如ク годь-готъ, трудъ-трутъ (勞働)
ж ハ ш ノ如ク ножъ-ношъ, лóжка-лóшка
з ハ с ノ如ク князь-князь, морóзъ-морóсъ (寒氣)
с ハ з ノ如ク сдѣ́лать-здѣлать, сговори́ться-зговориться (約言ス)
ч ハ щ ノ如ク что-што, скýчно-скушно

前置詞 возъ, изъ, низъ, разъ 中ノ子音 з ハ子音 к, т, п, х, ч, щ ヲ以テ始マル語ト綴合スル時ハ發音ニ於テモ又之ヲ書スル時モ с ニ變ズ § 129, 乙

3. 或ル語中ノ子音ハ發音ノ際全ク無キガ如クニ聞ユルコアリ、此種ノ最モ屢々使用セラルヽ語ハ次ノ如シ

се́рдце 心 (серце ノ如ク發音ス)
со́лнце 太陽 (сонце ノ如ク)
лѣ́стница 階段 (лѣсница ノ如ク)
мѣ́стность 地 (мѣсность ノ如ク)
извѣ́стный 名アル (извѣсный ノ如ク)
счастли́вый 幸ナル (счасливый ノ如ク)
здра́вствуйте (здравствуйте ノ如ク)

§ 137. 文字ヲ大ニスル場合ハ次ノ如シ (§ 2. 補足)

一語ノ首端ノ一文字ヲ大書スル場合ハ

1. 各文句ノ首端ニ立ツ語、各句點ノ後、疑問記號ノ後、感歎記號ノ後ニ立ツ語ノ頭文字ヲ大書ス、但シ疑問感歎記號ハ句點ノ代用ヲ爲ス場合ニ限ル、又時トシテハ重點ノ後ニ立ツ語ノ頭文字ヲ大書ス即チ人ノ言ヲ其儘引用セシ場合ナリ

2. 詩ニ於テハ各聯毎ニ首端ノ一字ヲ大ニス

3. 人名、地名、船名、書名等ノ固有名詞ハ首端ノ一字ヲ大ニス若シ固有名詞ガ二個以上ノ語ヨリ成立ツ時ハ最初ノ一語ノ頭文字ノミヲ大ニス但シ人名ナレバ各語皆ナ共ニ頭文字ヲ大ニス例ハ *Пётръ Великій*, *Екатери́на Втора́я*. 又二個ノ語ヨリ成立ツ地名ニテモ二個共ニ固有名詞ナレバ各々其頭文字ヲ大ニス例ハ *Ни́жній Но́вгородъ* 等ノ如シ、其他ノ場合ニハ第二語以下ハ大文字ヲ用ヒズ *Чёрное море* (黑海), *Офице́рская у́лица*, *Ру́сское госуда́рство* (露亞西國), *Япо́нская имперія* (日本帝國).

備考 同一ノ形容詞ニテモ其關係ヲ有スル名詞ノ如何ニ由テ固有名詞トモ成リ普通名詞トモ成ル、故ニ之ヲ大ニモ書シ又小ニモ書ス例ハ *Крымскій полуо́стровъ* (クリミヤ半島), *крымскія я́блоки* (クリミヤ產ノ林檎).

4. 神ト云フ語ハ若シ基督敎ノ神ヲ指ス時ハ頭文字ヲ大ニス、其代名詞モ亦然リ、但シ異敎ノ神ニテモ神名ナレハ通常ノ固有名詞ト同シク頭文字ヲ大ニス *Богъ*. *Господь*

5. 祝祭日ノ名稱モ固有名詞ノ意義ヲ有スル場合ニハ頭文字ヲ大ニス *Рождество́* (基督降誕祭), *Вознесе́нье* (基督昇天祭)

6. 帝王及皇族ノ尊號爵名モ然リ、若シ數個ノ尊號爵名ヲ並ブル時ハ各名號毎ニ頭文字ヲ大ニス例ハ *Его Вели́чество Госуда́рь Импера́торъ* (皇帝陛下)並ニ其代名詞或ハ副詞等、例ハ *Высоча́йше* (勅ヲ以テ), *Всемило́стивѣйше* (賢クモ)

7. 諸官省並ニ附屬ノ諸役所、學藝協會、諸學校、諸會社等ノ名稱ハ法式的書類ニ記スル時ハ其頭文字ヲ大書スレモ、通常ニハ頭文字ヲ大書セズ例ハ公文、官用文書等ニハ *Хозя́йственный Департа́ментъ Министе́рства Иностра́нныхъ Дѣлъ* (外務省會計局)ト記ス

8. 官位官職等ハ一定ノ人ニ對シテ之ヲ用フル時(例ハ願書等ニ於テ)ハ各語ノ頭文字ヲ大書スレモ、單ニ之ヲ云フ時ハ然ラズ例ハ願書ナレバ *Его Высокопревосходи́тельству Господи́ну Генера́лъ-Губерна́тору* (總督閣下).

9. 昔話中ニ現ハル、動物其他無生物ニテモ擬人視サル、場合ニハ固有名詞ノ如ク頭文字ヲ大書ス

10. 書籍ノ名稱ハ其表題ニ於テハ各語ヲ大書ス例: *Исто́рія Госуда́рства Россійскаго* (露國史).

11. 一週內ノ各曜日、及月ノ名稱ハ頭文字ヲ大書スルヲ古來ノ法トシタレモ近年ニ至リテ之ヲ大書セザル風モ起レリ

12. 書簡ニ於テ宛名ノ人ニ對シテハ代名詞 Вы 及 Ваш ハ如何ナル格ニテモ頭文字ヲ大ニス

§ 138. 語ノ分移法

一行ノ終ニ至テ一語ヲ全ク書キ盡クス能ハザル時ハ之ヲ數多ノ綴音ニ兩分シテ以テ其半分ヲ次行ニ移ス、然ル場合ニハ(-)ノ如キ記號ヲ用フ、此分移ハ勝手次第ニ行フベキニ非ズシテ次ノ規則ニ從フヲ要ス

1. 二個ノ母音ノ間ニ立ツ一個ノ子音ハ必ズ次ノ綴音ニ屬ス例ハ хо-ро-шó. илó-хо, че-ло-вѣкъ.

2. 半子音 ь 半母音 и 母音 ы ハ必ズ前立ノ綴音ニ屬ス дéнь-ги, тóль-ко, цóй-те, пéй-те, обы́-чай

3. 同一ノ母音ニテモ同一ナラザル母音ニテモ二個相並ビタル母音ハ必ズ之ヲ兩斷シ一ハ前綴ニ屬シ一ハ後綴ニ屬ス、例ハ Авра-áмъ (人名), чита́-ющій, нестора́-емый (不燃性ノ)

4. 同一ノ子音二個相並ビ立ツ時ハ前者ハ前綴ニ後者ハ後綴ニ屬ス、Рос-сія, Грам-ма́тика, суб-бóта, рáн-ній. чи́тан-ный

5. 相異リタル二子音相並ブ時ハ之ヲ兩分スルヲ得ベシ例ハ дóб-рый, пóр-тить, дол-женъ. 然レ𪜈唇音トлノ字ト相並ブ時ハ必ズ此二者ヲ兩分スベカラズ (л ハ本來唇音ヲ強ムル爲ニ附加セシニ過ギズ). 又相並ビタル子音 ск, ст, ств, стр, жл, кл, кс ハ兩分セズシテ共ニ次綴音ニ屬スルヲ常トス例ハ зе-мля́, лю бля́, тер пля́, Мо сква́, чи́-стый, богáт-ство, бы́-стрый (速カナル、急ナル), жа́-ждa (渴), насла-ждéніе (快樂), ку́-кла (人形), Але-ксáндръ.

6. 二個ノ語ヨリ組成セシ語、或ハ前置詞ト綴合セシ語ハ、成ル可クハ之ヲ其成分ニ兩斷シテ其半分ヲ次行ニ移スベシ、例ハ паро-хóдъ (汽船), море-плáваніе (航海), при-бы́ть, воз-врати́ться, не-счáстіе, ни-кто́. вѣ́-сколько, наи-лу́чшій.

7. 一綴音ヨリ成リシ語ハ無論之ヲ兩分スル能ハズ故ニ день, ночь, сонъ 等ハ分移スベカラズ

8. 一文字ノミ(子音ハ勿論、母音ニテモ)ヲ留メテ他ヲ次行ニ移スヲ得ズ又、同ジク一文字ノミヲ次行ニ移スヲ得ズ例ハ и-мѣ́ть, имѣ́ні-е.

9. 同ジク幾個ナリトモ子音ノミヲ上行ニ留ムルヲ得ズ又、子音ノミヲ次行ニ移スヲ得ズ、例ハ гр-аммáтика, ест-рѣ́ча, разгово́-ръ, говори́-ть

§ 139. 語ノ簡略

繁冗ヲ避クル爲ニ或ハ急速ニ書スル爲ニ語ヲ略シテ記スル事アリ、斯カル場合ニハ必ズ常ニ子音マデヲ書シテ(決シテ母音ニ於テセズ)句點ヲ附スルヲ法トス、例ハ множественное число ヲ略スルニハ мн., множ., множеств., множествен. числ. トスルヲ得レ𪜈 множес, множест. ト畧スベカラズ、但シ人名ト父稱ノミハ母音タリトモ頭文字一個ノミニ略スルヲ得ベシ例ハ И. А. Крылóвъ = Иванъ Андрéевичъ Крылóвъ.

殊ニ多ク使用スル略語ハ次ノ如シ

г. годъ 年
г. го́родъ 市府
г. господи́нъ 君
г-жа. госпожа́ (女ニ對スル敬語)
г.г. господа́ 諸君
и м.д. и мно́гіе другіе 其他尚多クノ
и пр. и про́чее 其他
и т.д. и такъ да́лѣе 以下畧之
т.е. то есть 是レ即チ
тк. кк. такъ какъ 何々ナル故ニ
и т.п. и тому́ подо́бное 以下之ニ類ス
м.г. милости́вый госуда́рь 誰君貴下
мм. гг. ми́лостивые госуда́ри 諸君貴下
напр. напри́мѣръ 例ハ
св. свято́й 聖ナル
слѣд. слѣ́довательно 是ヲ以テ、故ニ
см. смотри́ 參照、參着
С.П.Б. Са́нкт-Петербургъ 聖彼得堡
до Р.Х. до Рождества́ Христо́ва 紀元前
по Р.Х. по Рождестве́ Христо́вѣ 紀元後

文典ニ於テハ其用語ヲ略スル事多シ例ハ сущ.—существи́тельное, прил.—прилага́тельное, гл.—глаго́лъ, 1. л.—1-ое лицо́, ед. ч.—еди́нственное число́, мн. ч.—мно́жественное число́.

§ 140. 語ノ成分

1. 一語ハ常ニ三部分ヨリ成ル即チ語根(或ハ語基)、語尾、語冠ナリ

1. 語根(ко́рень)トハ語中ノ變化セザル部分ナリ、語尾(окончáніе)トハ語根ノ後ニ立ツモノニシテ常ニ變化ヲ爲ス、語冠(приста́вка)トハ語根ノ前ニ立ツ部分ニシテ前置詞 § 129 及 не, нѣ, ни, наи ナリ、又或ル語ハ全ク語冠ヲ有セズ、或ル語ハ之ヲ數個有スルコアリ、語冠ヲ有スル語ヲハ前置詞附(предло́жное)トス稱ス

語冠	語根	語尾	
	дѣл	- о	事業、用件
	дѣл	- ать	爲ス、造ル
	дѣл	- ьный	有力ナル
при	*дѣл*	- ать	造リ足ス
с	*дѣл*	- анный	爲シ終ラレタル
вы	*дѣл*	- ать	仕上グ

語冠	語根	語尾	
	мѣр	- а	分量、度
	мѣр	- ить	量カル
	мѣр	- ный	調正ノ、齊一ナル
из	*мѣр*	- ять	測量ス
не-из	*мѣр*	- ѣмый	無量ナル
не-со-раз	*мѣр*	- ный	不相等ナル

2. 語尾ニ二種アリ、一ハ變易的(флéксія)ニシテ、一ハ不變易的(суффи́ксъ)ナリ例ハ дѣл-о トス云フ語ノ語尾 о ハ此語ノ名詞ナルヲ示シ. дѣла-ть ノ語尾 ть ハ此語ノ動詞ナルヲ示ス. дѣльн-ый ノ語尾 ый ハ此語ノ形容詞ナルヲ示ス、是等ノ語尾ハ常ニ變化ス例ハ дѣл-о, дѣл-а, дѣл-у...дѣла-ть, дѣла-ю, дѣла-ешь, дѣла-лъ...дѣльн-ый, дѣльн-ое, дѣльн-ая, дѣльн-ую...變易的語尾ハ名詞、形容詞、代名詞、數詞ニ於テハ格ノ語尾ニシテ動詞ニ於テハ人稱ト時ノ語尾ナリ、斯ノ如キ變易ノ語尾ヲ флéксіи トス稱ス

3. 變易的語尾ガ語根ト綴合シテ一語ヲ成スニ二樣アリ、直接ノ綴合ト、附字ヲ挿入シテ成ル所ノ綴合ナリ、例ハ дѣл-о, мѣр-а ノ如キハ直接ナ

リ、然レ𪜈大抵ノ語ハ變易的語尾ト語根トノ間ニ挿入ヲ爲ス、例ハ дѣл-а-ть ニ於テハ語尾 ть ト語根 дѣл ノ間ニ а ヲ挿入シ дѣ́л-ьн-ый ニ於テハ形容詞ノ語尾 ый ト語根 дѣл トノ間ニ ьн ヲ挿入ス

пѣ-ть (歌フ), пѣ́-ні-е (唱歌), пѣ-сн-я (歌), пѣ-ве́ц-ъ (歌者), пѣв-и́ц-а (歌女), пѣ-вч-ій (歌手、囀ル能アル), пѣ-ту́х-ъ (雄鷄) 等ノ中. пѣть ハ根元語ニシテ直接ニ語根ニ動詞ノ語尾 ть ヲ綴合スレ𪜈、其他ハ語尾ト語根ノ間ニ種々ノ附字ヲ挿入ス、此附字ヲ су́ффиксъ ト稱ス、附字ハ語尾ト語根ヲ綴合スルモノニシテ變化ノ際ニハ變易セズ、但シ詞類ノ異ナルニ從テ附字モ亦異ル、即チ名詞ニハ名詞專用ノ附字アリ、形容詞ニハ形容詞專用ノ附字アリト知ルベシ

4. 或ル語ハ直接ニ根元語ヨリ生ゼズシテ、附字ト共ニシテ既ニ根元語ヨリ生ジタル語ヨリ生ズ、斯カル語ハ數個ノ附字ヲ有ス、例ハ род-ъ (族), род-ств-о́ (族系), ро́д-ств-енн-ый (親屬ノ), ро́д-ств-енн-ик-ъ (親戚).

語尾若シ直接ニ語根ニ合シテ成リシ語ナレバ根元語 (коренно́е сло́во) ト稱ス例ハ дѣ́л-о, мѣ́р-а, сад-ъ, вод-а́, пѣ-ть 等ノ如シ、斯カル語ハ僅少ナリ、又附字ヲ挿入シテ語尾ト語根ヲ綴合セシ語ヲバ作成語 (произво́дное сло́во) ト稱ス

備考 時トシテハ作成語ト雖𪜈或ル語ニ對シテハ根元語タルヿアリ、例ハ родство́ ハ純粹ノ根元語ニハ非ス、何トナレバ語根 родъ ニ附字ヲ挿入シテ成リシ語ナリ、然レ𪜈 ро́дственный ト云フ語ニ對シテハ根元語タルナリ、何トナレバ後者ハ前者ニ附字 енн ヲ綴合シテ成リシナリ

II. 其外、單一的ト合成的ニ語ヲ分類ス、單一語トハ一個ノ語根ヲ有スル語ヲ云フ дѣ́л-о, добр-о́ ノ如キハ然リ、又、合成語トハ二個ノ語根ヲ有スル語ヲ云フ例ハ добро-дѣ́тель (善行)

各々語根ヲ爲ス所ノ二個ノ語ヲ合シテ一語ト成スニ三樣アリ

1. 附字ヲ中間ニ挿マズシテ直接ニ二語ヲ合一スルヿアリ、例ハ полночь (пол-ночь), по́лдень (пол-день), пятьдеся́тъ (пять-десятъ), Но́вгородъ (Новый-городъ).

2. 母音 о 或ハ е ヲ用ヒテ二語ヲ合一スルヿアリ、此母音ハ前ニ立ツ語ノ末尾ノ一字 (母音或ハ半子音) ヲ除キ去リテ其代リニ用ヒラル、而シテ其際除キ去リタル文字ガ硬母音或ハ硬半子音ナレバ о ヲ代用シ軟母音或ハ軟半子音ナレバ е ヲ代用ス、例ハ книгопеча́таніе (書籍印刷) (кни́га—), парохо́дъ 滊船 (паръ—), водопа́дъ 瀧, водопрово́дъ 水道, морепла́ваніе 航海, земледѣ́ліе 農業 (земля—), путеше́ствіе 旅行 (путь—)

此合一ノ語ニ於テハ概シテ後ニ立ツ所ノ語ハ主位ヲ占メ、前ニ立ツ所ノ語ハ其定語タルノミ例ハ домохозя́инъ = хозя́инъ до́ма (家ノ主人), кни́го-прода́вецъ = продаве́цъ кни́гъ (書籍商), родонача́льникъ = нача́льникъ ро́да (族長、族祖), кораблекруше́ніе = круше́ніе корабля́ (破船)

3. 短カキ横線ヲ語ト語ノ中間ニ挿入シテ二語ヲ合一スルヿアリ、斯カル際ニハ前ニ立ツ語モ後ニ立ツ語モ元體ヲ變易セズ例ハ генера́лъ-губерна́торъ (總督), Ангелъ-храни́тель (天使守護者)
但シ方位ニ關スル語 сѣ́веро-восто́къ (東北), сѣ́веро-за́падъ (西北), ю́го-восто́къ (東南), ю́го-за́падъ (西南) ハ例外ニシテ前立語ノ終ノ一字ヲ變ス

備考　二語合成ノ語ト前置的語 (§ 140, I, 1) トノ差異ハ概念ノ二個ナルト一個ナルトニ存ス、前者ハ二個ノ概念ヲ包有スレ𪜈、後者ハ一個ノ概念ヲ包有ス例ハ *несча́стіе*, *нѣ́который*, *пріѣ́здъ*, *отъѣ́здъ*, *наилу́чшій* 等ハ前置的語ニシテ何ヅレモ一概念ヲ包有スルノミ

§ 141. 附字 (Су́ффиксъ)

語尾ト語根ノ間ニ挿入スル附字ハ語ノ性質ニ依テ異ナルモノナリ、今茲ニ最モ多ク使用スル附字ヲ示サン

1. 名詞ノ附字

(甲) 人物ヲ表スル名詞ヲ形成スル際ノ附字 (時トシテハ無生物ヲ表スル名詞ニモ此種ノ附字ヲ使用ス)

тель, тельница	учи́-*тель* (教員), учи́-*тельница* (女教員),
ецъ, ица, чиха, ка	чт-*ецъ* (朗讀者), чт-*и́ца* (女——); куп-*е́цъ* (商人), куп-*чи́ха* (商人ノ妻); япо́н-*ецъ* (日本人), япо́н-*ка* (日本ノ女)
икъ (單用ト前綴 овщ, н, ч, щ ト共ニシテ)	
икъ, ичка	муж-*и́къ* (土百姓), муж-*и́чка* (女——)
овщ-икъ, овщ-ица	час-*овщи́къ* (時計師), час-*овщи́ца* (女——)
н-икъ, н-ица	уче-*н-и́къ* (生徒), уче-*н-и́ца* (女——)
ч-икъ, ч-ица	пере-пи́с-*чикъ* (寫字生), пере-пи́с-*чица* (女——)
щ-икъ, щ-ица	заём-*щикъ* (借人), заём-*щица* (女——)
унъ, ун-ь-я	лг-*унъ* (虚言者), лг-*у́нь-я* (虚言女)
янинъ, янка	кресть-*я́нинъ* (農民), кресть-*я́нка* (女——)
анинъ, анка	христі-*а́нинъ* (基督教徒), христі-*а́нка* (女——)
аринъ, арка	тат-*а́ринъ* (韃靼人), тат-*а́рка* (女——).

(乙) 父稱ヲ表スル爲ニ使用スル附字ハ § 50, 2

(丙) 獸類ノ兒ヲ表スル附字ハ § 24, 8

(丁) 無生物ヲ表スル名詞ヲ形成スル爲ニ多ク使用スル附字ハ大略次ノ如シ

ство	род-*ство́* (親屬系);	иску́с-*ство* (術)
ество	бож-*ество́* (神體),	торж-*ество́* (祝、凱旋)
ость, есть	глу́п-*ость* (愚昧),	ра́д-*ость* (喜悅)
ота	шир-*ота́* (廣サ),	выс-*ота́* (高サ)
изна	бѣл-*изна́* (白サ),	желт-*изна́* (黄サ)
ина	стар-*ина́* (古風),	шир-*ина́* (幅)
ище, ов-ище	учи́л-*ище* (學校),	чуд-*о́вище* (怪物、怪異)

ель	гиб-*елъ*	(滅亡),	мяг-*е́ль*	(吹雪)
ёкъ	скач-*ёкъ*	(跳飛ビ),	толч-*ёкъ*	(衝動、突當テ、刺擊)
окъ	бѣл-*о́къ*	(卵ノ白身),	желт-*о́къ*	(卵ノ黄身)

ніе, тіе 抽象的概念ヲ表スル名詞(動詞ヨリ生ゼシ)ノ附字ニシテ、此附字ノ前ニハ母音ヲ有ス § 97

(戊) 粗大的、纖小的、愛情的、卑下的名詞ノ附字ハ § 39

2. 形容詞ノ附字

(甲) 性質形容詞ノ附字ハ

н-ый бѣ́д-*н-ый* (貧乏ナル、憫レナル), тру́д-*н-ый* (困難ナル), вѣ́р-*н-ый* (忠實ナル

к-ій жа́р-*к-ій* (熱キ), крѣ́п-*к-ій* (堅キ), сла́д-*к-ій* (甘キ)

ав-ый худощ-*а́в-ый* (痩セタル), молож-*а́в-ый* (若ヤカナル)

ив-ый крас-*и́в-ый* (美ナル), лѣн-*и́в-ый* (怠惰ナル), ми́лост-*ив-ый* (慈憫ナル)

лив-ый крик-*ли́в-ый* (叫ビ好キナル), болт-*ли́в-ый* (喋リ好キナル)

чив-ый разгово́р-*чив-ый* (話シ好キナル), перемѣ́н-*чив-ый* (變シ易キ)

(乙) 狀況的形容詞ノ附字ハ н ナリ、此形容詞ハ時ト場所ヲ表スル副詞或ハ名詞ニ附字ヲ挿入シテ成ル、而シテ軟語尾 ій ヲ有ス、即チ ній ヲ語尾トス例ハ здѣсь—здѣ́ш*ній*, ны́нѣ—ны́нѣш*ній*, весна́—весе́н*ній*, у́гро—у́трен*ній*, ве́черъ—вече́р*ній*, низъ—ни́ж*ній*, ве́рхъ—ве́рх*ній*, задъ—за́д*ній*.

(丙) 關係的形容詞ノ附字ハ ный, анный (янный), иный, овый (евый), скій

(а) ный ハ普通名詞ヨリ生ズル形容詞ノ附字ニシテ例ハ доро́га—доро́ж-*ный*, рѣка́—рѣч-*но́й*, во́здухъ—возду́ш-*ный*, о́блако—о́блач-*ный*.

(б) анный, янный, яный ハ概シテ物質名詞ヨリ生ズル形容詞ノ附字ナリ例ハ ко́жа—ко́ж-*аный* (革ノ), де́рево—дерев-*я́нный* (木ノ), стекло́—стекл-*я́ный* (硝子ノ), серебро́—сере́бр-*яный* (銀ノ)

(в) овый, евый ハ植物及或ル獸物、稀ニハ物質(男性ノ)等ノ名稱ヨリ生スル形容詞ノ附字ナリ、例ハ сосна́—сосн-*о́вый* (松ノ), ель—ел-*о́вый* (杉ノ), дубъ—дуб-*о́вый* (樫ノ), ви́шня—вишн-*ёвый* (櫻ノ), гру́ша—гру́ш-*евый* (梨ノ), свине́цъ—свинц-*о́вый* (鉛ノ), шёлкъ—шёлк-*овый* (絹ノ), слонъ—слон-*о́вый* (象ノ), китъ—кит-*о́вый* (鯨ノ)

(г) скій, овскій 及 цкій (кскій, чскій ノ代リニ) ハ國、市府、村、河、族制等ノ名稱ヨリ生ズル形容詞ノ附字ナリ、例ハ Евро́па—европе́й*скій*, Азія—азіа́т*скій*, Русь—ру́с*скій*, Японія—япо́н*скій*, Москва—моско́в*скій*, Токіо—токій*скій*, Францу́зъ—францу́з*скій*, князь—кня́же*скій*, купе́цъ—купе́че*скій*, оте́цъ-отцо́в*скій*, дѣдъ—дѣдо́в*скій*, дура́къ—дура́ц*кій*, каза́къ—каза́ц*кій*.

(д) иный ハ鳥類及獸類ノ名稱ヨリ生スル形容詞ノ附字ナリ、例ハ гусь-гуси́*ный* (鵞ノ), у́тка—уги́*ный* (鴨ノ), ку́ры—кури́*ный* (鷄ノ), воробе́й—воробьи́*ный* (雀ノ), ло́шадь—лошади́*ный* (馬ノ), левъ—льви́*ный* (獅子ノ), мышь—мыши́*ный*, (鼠ノ), змѣя́—змѣи́*ный* (蛇ノ), пчела́—пчели́*ный* (蜜蜂ノ), мураве́й—муравьи́*ный* (蟻ノ),

(е) енный ハ語尾 ство ヲ有スル名詞ヨリ生スル形容詞ノ附字ナリ、例ハ оте́чество—оте́чест*венный* (生國ノ), наслѣ́дство—наслѣ́дст*венный* (遺產ノ、遺傳ノ), госуда́рство—госуда́рст*венный* (國家ノ)

(丁) 物主的形容詞ノ附字：§ 47, § 49
(戊) 過大的、薄弱的、撫愛的、形容詞ノ附字：§ 54
(己) 動詞ヨリ出生ノ形容詞ノ附字ハ § 98
3. 動詞ノ附字ハ § 91, I 2

§142. 語中ノ音ノ變更

新語ヲ形成スル際ニハ音調ヲ清朗ナラシメン爲メニ語根ニ多少ノ變更ヲ生スルヿ多シ、即チ文字ヲ變更シ或ハ之ヲ省略シ或ハ新文字ヲ挿入スル等ナリ

1. 母音ノ變更

母音ノ變更ハ大抵次ノ如シ

a 此母音ハ若シ二個ノ子音（内一個ハ л 或ハ р）ノ後ニ立チテ新語ヲ成スナレバ或ハ變易ナキヿモアリ或ハ二個ノ о ノ字ニ變ズルヿモアリ、而シテ斯カル а ノ母音ハ多クハ古代ノ露語中ニ存シ、二個ノ о ノ字ハ現時ノ露語ニ存ス而シテ斯ク變易スルニ從ヲ其意味モ異ナルヿアリ. предъ—пе́редъ（意味ハ相同ジ）глава́ (主長), гла́вный (主ナル),—голов-а́ (頭) голов-но́й (頭ノ), храни́ть (奉守スル、護ル) о-храня́ть (守衞スル) о хра́н-а (守衞、防禦), сохрани́ть (保存スル、遵守スル), хорон-и́ть (埋葬スル) по́-хорон-ы (葬式), 此等ノ語ノ根原ハ хра ナレモ或ル新語ヲ形成スル際ニハ變易ナク或ル塲合ニハ хоро ニ變ゼリ

е 此母音モ若シ二個ノ子音（内一個ハ л 或ハ р）ノ後ニ立チテ新語ヲ成スナレバ或ハ變易ナキヿモアリ或ハ二個ノ е ニ變ズルヿアリ 例ハ чрезъ —черезъ, бре́гъ (古語ニテ岸ノ意味)—бе́регъ (岸), при бре́жный (沿岸ノ), бере́говой (岸ノ)

е 及 о ハ挿入サル、ヿモアリ除去セラルヿモアリ故ニ之ヲ出沒文字ト稱ス отец́ъ, отца́ ; день, дня ; бр-ать, бер-у́ ; ого́нь, огня́ , гн-ать, гон-ю́.

е ハ и ト о ニ變スルヿアリ又此三字相互ニ變通スルヿアリ бр-ать, бер-у́, вы-бира́ть, вы́-боръ, со-бо́ръ (集會); везти́, воз-ъ (荷車), нести́, нос-и́ть, но́ш-а (荷物)

о ハ а ト у ト ы ト л ト ем ト ен ニ變ズ кла́няться, поклóнъ ; ходи́ть, хажива́ть; со́хнуть, сухо́й, засыха́ть ; гром-ъ, грем-е́ть (轟ク、號鳴), гря́-нуть (同意義但シ一回體).

и ハ е ニ變ス вис-е́ть (垂下ス), вес-ъ (重量) ; вид-е́ть, ви́д-ать (知ル).

ы ハ о ト ов ニ變ス кры-ть, кро́-ю, кро́в-ля (屋根) ; ры́ть, ро́-ю, ров-ъ (溝渠)

у ハ ов ニ變ズ рису́-ю, рисов-а́ть.

ю ハ ев ニ變ズ горю́-ю, горев-а́ть

2. 子音ノ變更

1. 喉音 г, к, х ハ齒音 з, ц, с 及上顎音 ж, ч, ш ニ變ス

г—з—ж друг-ъ (親友), друз-ья́, дру́ж-ба (懇親)

к—ц—ч лик-ъ 面. лиц-о́ 顔. ли́ч-ный (自身ノ、個人ノ)

х—с—ш вструх-ну́ть (怯ル ノ一回體) тру́с-ить, (恐怖スル、怯ル), тру́сишу

其外喉音 к ハ с ト合シテ сс 或ハ ш ニ變シ、同シク с ト к ハ т ト合シテ ч ニ變ス

ск—ст—щ пуск-а́ть, пуст-и́ть, пущ-у́ (放ツ、許ス)

гт—ч жег-ть = жечь ; берег-ть = бере́чь

кт—ч пек-ть = печь ; тек-ть = течь

2. 齒音 д, з, с, т, щ ハ上顎音ニ變ス

д—ж—жд ход-и́ть. хож-у́, хожде́ніе ; предъ, пре́жній, пре́жде

з—ж воз-и́ть, вожу́ ; сказ-а́ть скажу́

с—ш нос-и́ть, ноши-у́ ; прос-и́ть, проши-у́

т—ч—щ свѣт-и́ть, свѣч-а́, освѣще́ніе ; отвѣт-ъ, извѣщ-а́ть. отвѣч-а́ть

ц—ч отец-ъ, отец-ество ; лиц-о́, ли́ч-ность (人格)

其他 д ト т ハ т ノ前ニ立チテ с ニ變ス

дт—с вед-ти = вести, клад-ть = кла́сть

тт—с цвѣт-ти = цвѣсти, чет-ти = честь

д ト т ノ二齒音ハ л ト н ノ前ニ立テバ除去サル

вед-у. вё-лъ (вед-лъ); пад-у. па-лъ (пад-лъ); взгляд-ь. взгля-нуть (взгляднуть цвѣт-у́. цвѣ-лъ (цвѣт лъ); мет-у́, мё-лъ (мет-лъ).

3 唇音 б, в, м, п, ф ノ後ニ軟母音ノ立ツ時ハ口調ヲ損セサル爲ニ л ヲ挿入ス колеба́ть = коле́б-л-ю; люби́ть = люб-л-ю.

唇音 п ハ н ノ前ニ於テハ除去サル、ㄱ多シ спать, сонъ (сонъ), засну́ть (заснуть) (眠リ着ク)

唇音 в ハ б ノ後ニ於テハ時トシテ除去サル облако (обвлако) 雲, область (об-власть) 州

唇音 в ハ時トシテ口調ヲ清朗ナラシメン爲ニ挿入セラル вбсемь (бсемь). быть, бы-ва́ть (бы-ать); одѣ-ть, одѣ-ва́ть (одѣ-ать) 衣ヲ着セシム

4. 舌音 н ハ時トシテ口調ヲ清朗ナラシメン爲ニ母音ノ間ニ挿入セラル又同シク母音ト子音ノ間ニモ挿入セラル приня́ть (при-ять), принима́ть (при-имать), отня́ть (от-ять), от-нима́ть (от-имать).

3. 新語ヲ形成スル方法並ニ語中ノ母音子音ノ變更法ヲ識得スルハ新シキ語ヲ學ビ得ルニ際シテ頗ル有益ナリ且ツ其語ノ意味ノ根底ヲ深ク(機械的ナラズシテ)解得スルニ便ナリ、數多キ語中ニハ其外部ノ文字ノ相異ルニモ拘ラス其根底ニハ同一ノ本源ヲ有スルモノ少カラス、是ヲ以テ語根ト附字、前綴(語冠)ノ接合法並ニ母音子音ノ變更法ニ通スレバ我ガ未ダ知ラザル新語ノ根語ヲ先ツ探知スルヲ得ベシ然ル時ハ附字、前置詞ノ意味ノ大體ニ照シ合セテ兎ニ角其語ノ意味ノ一端ニ通達スルハ容易ナリ、斯クシテ多少ノ熟練ヲ得バ字引ノ助力ナクトモ格別ノ差支ナキニ至ラン

一個ノ語根ヨリシテ如何ニ多種多端ナル語ヲ生ズルヤヲ示サン爲ニ今茲ニ二三ノ語ヲ擧クテ其例ヲ示サン

1. *пис*-áть 書ク
пис-áтель 記者、文人
пис-áтельница 女史
пис-éцъ 記錄人
пúс-арь 寫字生
пис-ьмó 書簡
пúс-ьменность 文書、文事
пúс-ьменный 書類ノ、文事ノ
за-*пúс*-ывать 筆記ス、書付ケル
за-*пúс*-ка 書付ケ、短キ手紙
о-*пúс*-ывать 書上ケル
ó-*пис*-ь 書上ケ、目錄
пере-*пис*-ывать 書キ替ヘル、清書スル
пере-*пис*-ка 文通、清書
при-*пис*-ывать 書加ヘル
при-*пúс*-ка 書キ加ヘ、添ヘ書キ
рас-*пис*-áть 割リ付ケ書ス
рас-*пúс*-ываться 受取書ヲ書ク
рос-*пúс*-ка 受取證
рос-*пис*-áніе 割リ付ケ(時間割)
с-*пúс*-ывать 寫ス、剽窃スル
с-*пúс*-ываніе 寫シ取リ
с-*пúс*-окъ 連名表、寫シ

2. *род*-ъ 類、生
род-úть 生ム
род-úтель 父(生父)
род-úтельскій 兩親ノ
рóд-ина 生國、故郷
род-нóй 親身ノ
род-ствó 親屬、家系
рóд-ственный 親縁ノ
рóд-ственникъ 親戚
род-нй 親類
род-овóй 一族ノ、一家ノ
рожс-áть 産ム
рожд-áть 生スル、産ム
рожд-éніе 誕生、産生
рожд-ество 誕生
воз-*рожд*-áться 復興スル
в-*рожд*-ённый 天賦ノ
вы-*рожд*-áться 變生スル、劣弱ニ生ル
вы-*рожд*-éніе 變生、劣退
пере-*рожд*-áться 再生スル、恢復スル
пере-*рожд*-éніе 再生、恢復
по-*рóд*-а 種類
при-*рóд*-а 天性、自然
при-*рóд*-ный 天然ノ
у-*рóд*-овать 不具ニスル
у-*рóд*-ъ 不具
у-*род*-úться 似生ル、豐作ス
у-*рожд*-ённый 寓家
у-*рож*-áй 豐作
у-*рож*-áйный 豐作ノ
у-*рож*-éнецъ 土人、生人

3. *бр*-ать 取ル
вы-*бр*-ать 撰ブ
вы-*бор*-ъ 撰擧
вы *бор*-ы 總撰擧
из-*бир*-áть 推撰スル、撰拔スル
из-*брá*-ніе 撰擧
при-*бр*-áть 片附ケル、適撰
при-*бир*-áться 粧飾スル、附キ廻ル
при-*бóр*-ъ 具品一式、用具
со-*бир*-áть 集ムル
со-*бр* áніе 會合
со-*бóр*-ъ 集會、大寺院
у-*бир*-áть 收藏スル、飾ル
у-*бóр*-ка 收穫、粧飾
у-*бр*-áйство 整飾

以上ノ例ニ依テ之ヲ觀ルニ其外形ハ種々様々ニ變易シ其意味モ多少相博シテ異變スレ𪜈然レ𪜈其根本的意義ヲ全ク失フコハ絶テ無シ先ツ第一類ノ各語ニハ何ツレモ「舊」ニ關スル意味ヲ含ミ第二類ノ各語ニハ「生成」ニ關スル意味アリ第三類ニハ「集合」ノ意味ヲ有ス

後　篇

§ 143. 文　章　學 (Си́нтаксисъ)

文法ノ前編ナル詞學 (Этимоло́гія) ハ語ノ成分 (即チ文字ノ組立、其變化等) 及詞類 (名詞、形容詞等) ノ事ヲ說述シ、後編ナル文章學 (文句ノ組立法) ハ文中ノ部分タル主語、客語、等及其契合、文句ノ種類及其契合、並ニ句切符號ノ用法等ヲ說述ス、而シテ本書ノ前編ニ於テ多少、文章學ニ關スル說明ヲ爲セシハ前編中ノ例題ヲシテ明瞭ニ解セシメン爲メナリ

§ 144　文 句 ノ 部 分

文句ノ部分トハ主語、客語、定語、附語、補語、狀況語、插語ナリ、而シテ主語ト客語ハ各文句ノ主要ナル部分ニシテ、如何ナル文句ニ於テモ常ニ存スベシ、其他ノ部分ハ第二流トモ稱スベクシテ文句中ニ之ヲ要スルコモアリ或ハ要セザルコモアリ

§ 145. 主　語　(Подлежа́щее)

主語トハ文句ノ主題ト成ルモノヲ云フ、主語ハ кто? 或ハ что? ノ問ニ應ズ而シテ常ニ主語ト成ルハ名格ニ立ツ所ノ名詞ナリ、但シ名詞以外ノ語モ主語タルコヲ得レ𪜈、必ズ名詞ノ態ヲ爲シテ使用セラル、場合ニ限ル

備考　露語ノ性質ノ然ラシムルヨリシテ主語ガ生格 (§148, 7-11) タルコアリ又與格 (§ 148, 4) タルコアリ、時トシテハ造格タルコアリ (§ 148, 3) 或ハ前置詞 съ トト共ニシテ造格タルコモアリ (§ 147, 14)

概シテ主語ト成ルヲ得ベキモノハ次ノ如シ

1. 名詞ノ名格、例ハ *Бра́тъ* чита́етъ, а *сестра́* пи́шетъ (兄弟ハ讀ミ、姉妹ハ書ス)

2. 名詞的代名詞ノ名格、例ハ *Я* учени́къ (我レハ生徒ナリ). *Онъ* мой това́рищъ (彼レハ我ガ朋友ナリ). *Кто* пріѣ́халъ? (誰レガ來リシヤ)

3. 形容詞的代名詞ノ名格　4. 形容詞ノ名格　5. 順序數詞ノ名格 / 6. 形動詞ノ名格、此詞類 (3 ヨリ 6 マデノ) ハ實ハ皆ナ名詞ノ定語タルベキナレ𪜈、若シ文中ニ於テ其名詞ヲ省畧シテ之ニ關係ヲ有スル右ノ詞類ガ名詞ノ如キ態ヲ爲シタル時ニハ主語ト成ル、但シ主語ノ形式ヲ爲スノミ、斯カル主語ハ § 41, I, 3 ニ記シタル形容詞中ニ殊ニ多シ又代名詞 всё モ斯カル主語タルコ多シ、例ハ *Всякій* (человѣ́къ) э́то зна́етъ (何人モ之ヲ知

ル). *Всё* моё—твоё и *всё* твоё—моё(我ガ物ハ凡テ汝ノ物ナリ、又汝ノ物ハ凡テ我ガ物ナリ). *Слепо́й* (челове́къ) не ви́дитъ, а *глухо́й* (челове́къ) не слы́шитъ (盲人ハ見ズ、聾者ハ聞カズ). *Пе́рвый* (учени́къ) сталъ тре́тьимъ, а *тре́тій* (учени́къ) пе́рвымъ(第一ノ生徒ハ第三ト成リ、第三ハ第一ト成リシ). *Зна́ющій* (челове́къ) до́лженъ учи́ть незна́ющаго (知ル人ハ知ラザル人ヲ教フベキナリ)

7. 個數代名詞(§ 71) 8. 個數詞、集合數詞、分數詞ノ名格、是等ノ詞類モ實ハ名詞ノ定語タルベキナレモ、露語ノ特質トシテ凡テ是等ハ(數詞 оди́нъ ヲ除クノ外)主語ト共ニスル時ハ自ラ名格ト成リ、主語ハ反テ生格ト成ルヲ法トス、之ヲ以テ外形上、是等ノ語ハ主語ト成リ、實ノ主語タル名詞ハ其定語ト成ルニ至ル、然レモ是レ語調ノ然ラシムル所以ニシテ、實ハ生格タル名詞ヲ主語ト見做シ、個數代名詞ト數詞ヲハ其定語ト見做スベキナリ(詳細ハ前ニ存ス、例ハ *Ско́лько* у васъ кни́гъ? (貴君ニハ幾何ノ書籍アルヤ)—У меня́ кни́гъ *мно́го* (我レニハ多クノ書籍アリ). У него́ *пять* бра́тьевъ и *три* сестры́ (彼レニハ五人ノ兄弟ト三人ノ姉妹アリ). *Оба* бра́та ещё не пріѣхали (兩人ノ兄弟ハ未ダ來ラズ) 是等ノ數詞モ名詞ト共ニセズシテ使用セラル、ヿヲ得ベシ、斯カル場合ニハ外形上、主語ト成ル У меня́ три бра́та, а у васъ *два* (бра́та). 即チ два ハ主語タルナリ. У меня́ сто́лько же книгъ, *ско́лько* (книгъ) и у васъ (汝ノ有スル程、我レモ書籍ヲ有ス).

9. 動詞ノ不定法 10 變化スル能ハザル詞類 11. 名詞ノ意義ニテ使用サル、凡テノ詞類 12. 全文句ハ熟語ノ體ヲ成シテ名詞ノ如ク見做サル、時ハ凡テ主語タルヲ得ベシ、但シ中性名詞ノ如ク見做サルガ故ニ、之ニ對スル客語ガ過去或ハ形容詞タル時ハ中性ト成ル例ハ *Путеше́ствовать* (=путеше́ствіе) по чужи́мъ края́мъ интере́сно (他國ヲ旅行スルハ面白シ). *Вчера́* было хо́лодно (昨日ハ寒カリシ). "*И*" есть союзъ (「及」ト云フ語ハ接續詞ナリ). "*Идý*" нѣсколько разъ раздало́сь въ лѣсу́ (林中ニ於テ「我レ行ク」ト數回聲響キタリ). *Чего́ себѣ́ не жела́ешь, того́ не жела́й и други́мъ* —осно́вное жите́йское пра́вило (己ノ欲セザル所、之ヲ人ニ施スナカレトハ人生ノ根本的規箴ナリ)

§ 146 客 語 (Сказу́емое)

客語トハ主語ニ應ジテ、主語ノ事ヲ言ヒ表ハスモノヲ稱ス、客語ニ單一的ト合成的トノ二種アリ

單一的客語ハ一箇ノ動詞ヲ以テ成ル、直接法、接續法、命令法ノ動詞ハ皆ナ客語タルヿヲ得ベシ、例ハ Я *чита́ю* (我レハ讀ミ居ル). Вы *посовѣтовались* бы съ отцо́мъ (貴君ハ父ト相談シタラントニハ). *Посовѣтуйтесь* объ э́томъ съ отцо́мъ (此事ヲ父ト相談セヨ).

合成的客語、是レハ一個ノ動詞ト他ノ詞類ト合同シテ成ル、斯カル場合ニ於テハ動詞ハ實ハ客語タラズシテ、主語ト客語ヲ契合スル所ノ連繫(связь 連結トモ譯シタリ)ト成リ、而シテ動詞ニ添フタル詞類ハ實ノ客語ナリ

殊ニ動詞 быть ヲ以テ連繫トスルコト多シ、(但シ быть ガ連繫タル場合ト、客語タル場合トヲ混同スベカラズ)、既ニ說述シタルガ如ク動詞 быть ガ連繫タル場合ニハ名格或ハ造格ヲ要求ス

1. быть ガ不定法タル時ハ造格ヲ要求ス Быть добрымъ (善人ト成ル). быть любимымъ (愛セラルヽ者ト成ル).

備考 不定法ノ быть ガ動詞 мочь, 形容詞 должень, 數詞 одинъ (「獨リ」ノ意義ナル)ト共ニスル時ハ造格ヲ要求セズシテ名格ヲ要求ス、例ハ Теперь я, могу быть спокоенъ (спокойнымъ ノ代リニ) (今我ハ安心ナルコヲ得). Мы должны быть готовы (готовыми ノ代リニ) къ двумъ часамъ (我等ハ二時ニハ準備整フテ居ラザル可ラズ). Ночью онъ боится быть въ комнатѣ одинъ (однимъ ノ代リニ) (彼レハ夜間室内ニ獨リ居ルヲ恐ル).

2. быть ガ現在トナル時ハ客語ハ名格ト成ル、但シ其際形容詞或ハ被形動詞ガ客語タル時ハ連繫 (即チ есть 或ハ суть) ハ省略セラル、例ハ Онъ добръ (彼レハ善良ナリ) Они посланы (彼等ハ遣ハサル)、其際若シ名詞ガ客語タル時ハ連繫ハ省略セラルヽモアリ、省略セラレザルコモアリ、多クハ省略セラルヽヲ常トス、例ハ Я ученикъ (我レハ生徒ナリ). Онъ офицеръ (彼レハ士官ナリ)、若シ亦、客語ノ名詞ナルト共ニ主語モ名詞ナル時ハ連繫ヲ省略セズ例ハ Молчаніе есть знакъ согласія (緘默ハ承諾ノ表徵ナリ)、但シ斯カル場合ニ於テモ連繫ヲ省略スルコヲモ得ベシ然ル時ハ橫線 (тире) ヲ挿入ス、又發音ノ際ニハ省略セシ連繫ノ代リニ、少シク發言ヲ中止ス.

若シ客語タル名詞ガ主語タル名詞ニ對シテ固有的概念 (родовое понятіе) ヲ爲シ、且ツ客語ニ關スル定語ノ存セザル場合ニハ必ズ連繫ヲ使用ス例ハ Японія есть имперія (日本ハ帝國ナリ). Золото есть металлъ (金ハ金屬ナリ). 若シ其際定語ノ存スル時ニハ連繫ヲ省略スルヲ常トス、例ハ Японія—древняя имперія (日本ハ古ルキ帝國ナリ). Золото—драгоцѣнный металлъ (金ハ貴金屬ナリ). 否定ノ存スル場合ニモ連繫ヲ省略シ且ツ橫線ヲ使用セズ例ハ Ракъ не рыба (鰕ハ魚ナラズ). Муха не птица (蠅ハ鳥ナラズ).

備考 若シ Японія есть имперія トイフ文句ニ於テ連繫ヲ省略スル時ハ客語ハ主語ノ附語トモ思ハルヽニ至ルベシ即チ「日本帝國ハ云々」ノ意義トモ成ルベシ、故ニ文意ヲ明瞭ナラシメン爲ニ имперія トイフ語ガ客語ナル場合ニハ其間ニ это トイフ語ヲ挿入ス、即チ Японія—это имперія (日本ハ是レ帝國ナリ). Золото—это металлъ (金ハ是レ金屬ナリ). 而シテ若シ客語ニ關スル定語ノ存スル場合ニハ文意明瞭ナルガ故ニ連繫ヲモ省略シテ可ナリ、之ヲ書ス時ニハ連繫ノ代リニ橫線ヲ用フ Японія—древняя имперія.

3. 動詞 быть ノ過去ト共ニシテ形容詞及形動詞ガ客語タル際ニハ名格ト成ル、例ハ Онъ былъ добръ (彼レハ善良ナリシ). Я былъ посланъ (我レハ遣ハサレタリシ)、若シ斯カル場合ニ名詞ガ客語タル時ハ名格トモ成リ造格トモ成ル、即チ此名詞ガ主語ノ固有性、常態ヲ表示スル時ハ名格ト成リ又主語ノ偶有性、或ハ一時ノ狀態ヲ表示スル時ハ造格ト成ル、例ハ Мой отецъ былъ сынъ учителя и самъ былъ учитель-емъ (我ガ父ハ教員ノ子ナリシ而シテ自身モ教員タリシ)、但シ此規則ハ實際遵守セラレザルコアリテ、名格ヲ用フベキ場合ニ造格ヲ用ヒ、又造格ヲ用フベキ場合ニ名格ヲ用フルコアリ.

4. 動詞 быть ノ未來、接續法、命令法、副動詞ト共ニスル形容詞及形動詞ガ客語タル際ニハ名格ト成ル. Онъ *бу́детъ* добръ (彼レハ善良ナラントス). Мы *бу́демъ* по́сланы (我等ハ遣ハサルヽナラン). *Будь* добръ (善良ナレ、何卒). *Бу́дучи* по́сланъ (遣ハサレツヽ)、若シ客語タル名詞ガ豫想、假定等ヲ表スル際ニハ名格ト成ル、其他ノ場合ニハ凡テ造格トナル、但シ此規則モ實際必シモ遵守セラルヽニ非ズ、例ハ *Если бы* онъ былъ нача́льникъ (=нача́льникомъ), онъ мно́го сдѣ́лалъ бы добра́ свои́мъ подчинённымъ (彼レ若シ長官タランニハ其屬僚ノ爲ニ多クノ益ヲ爲セシナラン). Че́резъ годъ онъ бу́детъ офице́ромъ (=офице́ръ) (一ケ年ヲ經テ彼レハ士官トナラン).

備考 動詞 быть ノ形動詞ハ文句ニ於テ連繫ト成ルコトナク常ニ形容詞ノ如クシテ使用セラレ、名詞ト一致スルノミ、例ハ Онъ *бы́вшій* учени́къ на́шего учи́лища (彼レハ我カ校ノ以前ノ生徒ナリ). Онъ возврати́тся въ *бу́дущемъ* мѣ́сяцѣ (彼レハ來月歸ルナラン)

II. 其外、主語ト客語ノ連繫トナルハ動詞 быва́ть (此動詞ハ быть ノ如クニ客語トモ成ルコトアリ), станови́ться, стать (成ル), дѣ́латься, сдѣ́латься (成ル), каза́ться (見ユル), счита́ться (思ハル) 等ナリ、而シテ此種ノ動詞ガ不定法タル時ニハ常ニ造格ヲ要求ス、例ハ *быть* стро́гимъ (嚴重ナル者トナル), *стать* раздражи́тельнымъ (激シ易クナル), *сдѣ́латься* не́рвнымъ (神經質トナル). *каза́ться* добрымъ (善人ト見ユル), *счита́ться* учёнымъ (學者ト思ハル). 然レ𪜈不定法以外ノ場合ニハ此種ノ動詞ハ造格ヲ要求スルコトモアリ又名格ヲ要求スルコトモアリ. 殊ニ造格ヲ要求スルコト多シ、何トナレバ此動詞ハ概シテ事物ノ一時的ノ狀態ヲ表ス、例ハ По времена́мъ онъ *быва́етъ* о́чень снисходи́тельнымъ (снисходи́тель) къ ученика́мъ, а по времена́мъ о́чень стро́гимъ (стро́гъ) (彼レハ時ニ依レバ生徒ニ對シ甚ダ寬容ナルコトアリ、時ニ依レバ甚ダ嚴重ナルコトアリ). Съ неда́вняго вре́мени онъ *сдѣ́лался* (*сталъ*) о́чень раздражи́тельнымъ (раздражи́тель) и не́рвнымъ (近來彼レハ甚ダ嚴重ナル者トナリ又神經質トナレリ).

III. 客語ト主語ヲ契合ノ爲ニ連繫ヲ使用スル場合ニ於テ、客語タルヲ得ベキモノハ

1. 名詞ノ名格或ハ造格ナリ、Онъ мой *братъ* (彼レハ我ガ兄弟ナリ). Онъ былъ мои́мъ *това́рищемъ* (彼レハ我ガ朋友ナリシ).

2. 人代名詞、是レハ客語タルコト稀ナリ、常ニ名格ヲ使用ス、例ハ、Вашъ братъ *не вы* (汝ノ兄弟ハ汝ニ非ズ即チ身分、位地、性質等ノ異ナルヲ云フ). Онъ *не я* (彼レハ我レニ非ズ).

3. 性質形容詞及被形動詞、常ニ簡畧式ノ名格ヲ用フ § 101, II

4. 名詞ニ關スル定語ガ名詞ヲ省畧セラレシ爲ニ、名詞ノ意義ヲ受ケシ場合ニ於テ、客語タルコトヲ得ベシ、例ハ Мой сосѣ́дъ *умно́й* (человѣкъ) (我ガ隣人ハ盲人ナリ). Онъ до́лго былъ *умны́мъ* (человѣкомъ) (彼レハ久シク失明ノ者タリシ). Мой домъ *двухъ-этажны́й* (домъ) (我ガ家ハ二階造ナリ) Э́та кни́га *моя́* (кни́га), а та *ва́ша* (кни́га) (此書ハ我レノナリ、ソレハ汝ノモ

ノナリ). Въ прóшломъ годý онъ *быль первымъ* (ученикóмъ), а въ нынѣшнемъ онъ тóлько *трéтій* (ученúкъ) (昨年ハ彼レハ第一番ナリシニ今年ハ唯々第三番ナリ).

5. 副詞ガ名詞ノ意義ニテ使用セラルヽ際、Сѣверъ—*здесь*, а югъ—*тамъ* (北ハ此方ニシテ南ハ彼方ナリ).

6. 不定法動詞ガ名詞ノ意義ニテ使用セラルヽ際、此際ニハ連繫トシテ動詞 быть ノ外ニ、знáчить (意味ス) ト云フ動詞ノ現在ヲモ使用ス、例ハ Вѣкъ прожúть—не нóле перейтú (一生ヲ送ルハ畑ヲ通行スル如キモノナラズ). Быть счастлúвымъ *знáчитъ* быть довóльнымъ всѣмъ (幸福者タルトハ萬事ニ滿足ナルモノタルノ謂ナリ)

其他連繫ト共ニスル客語タルヲ得ベキモノハ

7. 名詞ノ生格、例ハ Эта книга *брáта* (此書ハ兄弟ノナリ). Мой братъ *высóкаго рóста* (我ガ兄弟ハ丈高キモノナリ Этотъ ребёнокъ *десáти лѣтъ* (此兒ハ十歳ノ兒ナリ).

8. 役格以外ノ諸格ノ名詞、例ハ Эта цѣпóчка *изъ зóлота* (此鎖ハ金製ナリ). У менá въ домѣ воротá всегдá открыты. а у сосѣда всегдá *на замкú* (我ガ家ノ門ハ常ニ開放ナレ𪜈隣ノハ常ニ錠鎖セリ). Онъ *считáется за знатокá* рýсскаго языкá (彼レハ露語通ト思ハレ居ル). Мой книга *въ переплётѣ*, а егó *безъ переплёта* (我ガ書籍ハ表紙ヲ綴チタレ𪜈、彼レノハ表紙ナシ)

§ 147. 主語ト客語トノ一致

1. 動詞ガ客語タル時ハ數ト人稱ヲ以テ主語ト一致ス、若シ其動詞ガ過去ナル時ハ性ヲ以テモ主語ト一致ス、例ハ *Я* читáлъ. *Братъ* пúшетъ *Сестрá* говорúла. *Мы* дýмали 若シ其動詞ガ數個ノ主語ニ應ズル時ハ複數トナリ且ツ其人稱ハ特優的 (преимýщественное) タルベシ即チ第一人稱ハ第二人稱ト 第三人稱ニ對シテハ 特優ニシテ、第二人稱ハ第三人稱ニ對シテハ特優ナリ、 *Я и ты* пóйдемъ въ дерéвню (我ト汝ハ村ニ往カン). *Я и братъ* пóйдемъ въ дерéвню, а *ты и сестрá* не пóйдете (въ дерéвню).

2. 客語ガ形容詞或ハ形動詞簡畧式ナレバ性ト數ト格ヲ以テ主格ト一致ス、 *Онъ* добръ. *Она* добрá. *Они* добры. *Я* былъ посланъ. *Она* была пóслана. *Мы* были пóсланы. 但シ性質形容詞ハ完全式ニテモ使用セラルヽコアリ、斯カル塲合ニハ其關係スル名詞 (省略セラレタル) ニ從フモノトス (次項3ヲ參照)

3. 關係形容詞、性質形容詞 (完全式ノ)、形容詞的代名詞、順序數詞ガ客語タル時ハ性ト數ヲ以テ主語ト一致ス. Этú домá кáменные, а тѣ лáвки деревя́нныя (此家屋ハ石造ナリ、ソノ店ハ木造ナリ)、其際客語ガ同性ノ主語數個ニ應ズル時ハ複數ト成リ且ツ主語ト性ヲ同クス例ハ Столъ и стулъ грязные (卓ト椅子ハ汚レタルモノナリ). Кáрта и доскá грязныя (教室卓ト板ハ汚レタルモノナリ)、若シ客語ガ數個ノ異性ノ主語ニ應スル時ハ複數

ト成リ特優性ト成ル、即チ男性ハ女性ト中性ニ比スレバ特優性ニシテ、女性ハ中性ニ比スレバ特優性ナリ、例ハ Стол, па́рта и окно́ гря́зные. Парта и окно́ гря́зныя.

4. 若シ名詞ガ客語トナリ且ツ其性ノ變動シ得ベキモノナレバ其性ト數ハ共ニ主語ト一致ス *Онъ* учи́тель и его́ *жена́* учи́тельница (彼レハ教師ナリ彼レノ妻ハ女教師ナリ) 然レ𪜈若シ性ノ變動スル能ハザルモノナレバ主語ト數ヲ一致セザル1モアリ、但シ其間ニ立ツ助動詞ハ必ズ主語ト數ヲ一致ス Ри́мляне бы́ли вели́кие заковава́тели (羅馬人ハ大侵略民ナリシ) Ри́мляне бы́ли храбры́й наро́дъ (羅馬人ハ勇敢ナル民ナリシ).

5. 若シ總性ノ名詞 (§ 38) ガ主語タル時ハ客語ハ主語ノ意義ニ依テ、性ヲ主語ト一致ス、例ハ Эта малю́тка (女兒ナレバ) до́лго хвора́ла (此兒ハ長ク病メリ). Мой малю́тка (男兒ナレバ), сла́ва Бо́гу, живъ и здоро́въ (有難ヤ我ガ兒ハ壯健ナリ).

6. 若シ普通名詞ト固有名詞ト相並ビテ主語タル時ハ其客語ハ普通名詞ト一致ス例ハ *Рѣка́* Аму́ръ глубока́ (アムル河ハ深シ). *Го́родъ* Москва́ вели́къ (モスクワ市ハ大ナリ).

7. 主語ガ尊稱 (尊稱ハ必ズ物主代名詞ト共ニス § 63,5) ヲ表スル時ハ客語ハ尊稱ヲ受ケシ者ノ性ニ應ズ. *Его́* Вели́чество уже́ нѣ́сколько дней бо́ленъ (陛下ハ既ニ數日間御不例ナリ). *Ея* Вели́чество вчера́ возврати́лась изъ путеше́ствія (皇后陛下ハ昨日御旅行ヨリ御還幸ナリ)、代名詞ノ第二人稱ノ意義ニテ使用シタル尊稱ガ主語タル時ハ、客語ハ複數ト成ル. Ва́ше Превосходи́тельство приказа́ли сдѣ́лать э́то (閣下ハ之ヲ行フヲ命セリ).

備考 殊ニ多ク使用スル尊稱辭ハ次表ノ如シ

族籍ニ依テ	官位ニ依テ	僧侶ノ職位ニ依テ
ве́ли́чество	высокопревосходи́тельство	высокопреосвяще́нство
國君ニ對シテ	(上級勅任ニ對シテ)	(大主教ニ)
высо́чество	прѣ́восходи́тельство	преосвяще́нство
皇族ニ對シテ	(下級勅任ニ對シテ)	(主教ニ)
сія́тельство	высокоро́діе	высокопреподо́біе
(公爵ト伯爵ニ對シテ)	(奏任上級ニ對シテ、大佐相當官)	(高等司祭ニ)
	высокоблагоро́діе	преподо́біе
	(中流官吏及ビ普通ノ人ニ對スル敬辭)	(司祭ニ)
	благоро́діе	высокоблагослове́ніе
	(下級官吏及普通人ニ對シテ)	(高等白僧ニ)
		благослове́ніе
		(白僧ニ)

Его Вели́чество (皇帝陛下), Ея Вели́чество (皇后陛下), Ихъ Вели́чества (兩陛下), Ва́ше Вели́чество (陛下ニ).

8. 集合ヲ表ス名詞例ハ бо́льшая часть (大概), ме́ньшая часть (小部分), незначи́тельная часть (僅少ノ部分), бо́льшинство́ (多數), меньшинство́ (少數)

等ガ主語タル時ハ、客語タル形容詞ハ複數ト成リ、又其際動詞ガ客語タル時ハ複數トモ單數トモ成ル、例ハ *Бо́льшая часть* ученико́въ бо́льны́ (生徒ノ大半ハ病氣ナリ). *Бо́льшая часть* солда́тъ погибли, спасла́сь лишь *незначи́тельная часть* (兵卒ノ大半ハ死セリ、唯僅少ノ部分ノミ救命セリ).

9. 若シ個數代名詞ガ形式的主語ト成ル時ハ客語タル形容詞ハ複數ト成ル又其際動詞ガ客語タレバ單數トモ複數トモ成ル、又此動詞ガ過去ノ單數タル時ハ中性ト成ル § 71, 3

備考 然レモ談話ニ於テモ、文書ニ於テモ若シ主語ガ個數代名詞 не́сколько 及 ско́лько-то ニシテ且ツ кто? (ско́лько? ニ非ズ) ノ問ニ應スル時ハ、客語タル動詞ハ時トシテ複數ニ立ツ、例ハ Кто къ вамъ прі́ѣхалъ? — Ко мнѣ прі́ѣха*ли* (прі́ѣхало ノ代リニ) не́сколько това́рищей (誰ガ貴君ノ許ニ來リシヤ、數人ノ朋友ハ我ガ許ニ來レリ).

10. 若シ個數詞 (оди́нъ ヲ除クノ外) 及集合數、分數ガ形式的主語タル時ハ、客語タル形容詞ハ複數ト成リ客語タル動詞ハ單數トモ複數トモ成ル § 76, 10

11. 形容詞ノ中性、代名詞ノ中性、數詞ノ中性、動詞ノ不定法或ハ變化セザル詞類ガ (數個相並ブトモ) 主語ナル時ハ、客語ハ常ニ單數ト成ル、若シ性ヲ有スル場合ニハ中性トナル、例ハ *И хоро́шее и дурно́е* встрѣча́ется всю́ду (善キ事モ惡キ事モ諸方ニ見受ケラル). *И то и друго́е* мнѣ не понра́вилось (ソレモ、コレモ我レニ適意セズ). Жела́тельно *какъ пе́рвое, такъ и второ́е* (第一ノモノモ、第二ノモノモ望マシキ事ナリ). Лгать и обма́нывать сты́дно (虚言スルモ詐欺スルモ耻ヅベキナリ). "*Я здѣсь,*" "*сейча́съ иду́*" раздава́лось въ лѣсу́. (「我ハ此處ニアリ」「今行ク」ト林中ニ響キタリ).

12. 數個ノ主語アリテ而シテ最後ニ立ツ主語ガ之ヲ總括 (例ハ никто́, ничто́, всё, и тому́ подо́бное (以下之ニ類ス), и мно́гое друго́е (尚其他) スル時ハ客語ハ單數ト成ル、例ハ Ни оте́цъ, ни мать, ни я, *никто́* изъ насъ ещё не слы́шалъ объ э́томъ (父モ母モ我モ、我等ノ内、誰モ未ダ此事ヲ聞カザリシ). Хо́лодъ, го́лодъ, отсу́тствіе о́бщества, разли́чныя боле́зни, *всё* э́то было перене́сено имъ въ продолже́ніе э́того пла́ванія (寒氣、饑餓、獨居、種々ノ疾病等凡テ之ヲ此航海中ニ於テ彼レハ忍ベリ). 然レモ其際最後ニ立ツ總括ノ主語ガ代名詞 всѣ ナレバ客語ハ複數ト成ル、И оте́цъ, и мать, и я, *всѣ* мы уже́ слы́шали объ э́томъ (父モ母モ我モ、凡テ我等ハ既ニ此事ヲ聞ケリ).

13. 數個ノ主語アリ是レニ應ズル客語ハ文勢ニ依テ省略セラレ僅カ二個ノミヲ存スル場合ニハ其客語ハ近接ノ主語ト一致ス、是レハ分離的接續詞 или—или, то—то, ни—ни 或ハ逐次的接續詞 снача́ла, пото́мъ, во-пе́рвыхъ, во-вторы́хъ, да́лѣе 等ヲ以テ主語ト主語ヲ分折スル場合ニ於テ特ニ多ク行ハル、但シ韻文ニ於テハ此種ノ接續詞ヲ用ヒズシテ斯ク行フ事モアリ、Сего́дня ве́черомъ бу́ду у васъ или *я* или моя́ *сестра́* (бу́детъ) (今晩貴

君ノ處ニ私カ或ハ私ノ姉妹ハ行カン)、*Дождь или снѣгъ идётъ?* (降リ居ルハ雨カ雪カ).—*Ни дождь* не идётъ, *ни снѣгъ* (雨モ降ラズ雪モ降ラズ). *То онъ* мнѣ помога́етъ, *то я* ему (помога́ю) (或ハ彼レ我レニ助ケ、或ハ我レ彼レニ助ケ). *Сперва́* говори́лъ *отецъ*, *пото́мъ мать* (говори́ла) (最初ハ父言ヘリ、後ニ母ハ言ヘリ). Въ лѣсу́ поро́й и ди́кій *звѣрь*, и лю́тый *человѣкъ*, и *мѣшій* бро́дитъ (林中ニハ時々猛獣モ彷徨シ兇人モ徘徊シ、天狗モ彷徨ス). Забы́ть *шумъ* ла́герный, *това́рищи* и *бра́тья* (韻文) (陣營ノ騒雑モ同僚モ親友モ忘レ果テ…).

然レ𪜈異性ノ主語相並ヒテ其客語ハ動詞ノ過去ニシテ名詞ノ後ニ立ツナレバ客語ハ複數ト成ル(接續詞ヲ間ニ挿ムトモ). То *онъ* спра́шивалъ меня́, то *она́* (或ハ彼レガ我レニ問ヘリ、或ハ彼女ガ我レニ問ヘリ). То *онъ*, то *она* спра́шивали меня́ (或ハ彼レ、或ハ彼女我レニ問ヘリ). Ни пожа́ръ, ни землетрясе́ніе не угрожа́етъ намъ (火事モ地震モ我等ヲ恐怖セシメズ). Ни пожа́ръ, ни землетрясе́ніе не угрожа́ли намъ (火事モ地震モ我等ヲ恐怖セシメザリシ).

14 時トシテ、有生物ヲ表スル二個ノ主語ハ接續詞 и ノ代リニ造格前置詞 съ ヲ以テ相合スル事アリ、此種ノ主語ニ對スル客語ハ形容詞ニテモ動詞ニテモ複數ト成ル、例ハ Отецъ съ ма́терью (=и мать) добры́ (父ト母ハ善良ナリ) Отецъ съ ма́терью (=и мать) уѣ́хали въ дере́вню, а братъ съ сестро́ю (и сестра́) оста́лись до́ма (父ト母ハ田舎ニ赴キタリ、兄ト妹ハ家ニ留マリタリ).

備考 即チ若シ有生物名詞ノ二個ガ互ニ前置詞 съ ヲ以テ合一セラレ且ツ動詞ガ複數ニ立ツ時ハ、二個ノ事物ハ共ニ同シク動作ニ關係ヲ有スルヲ示シ、然ル場合ノ前置詞 съ ハ接續詞 и ト同意義ト成ル、然レ𪜈若シ動詞ガ單數ニ立ツ時ハ二個ノ事物ハ同一ナラザル關係ヲ動作ニ有スルヲ表シテ前置詞 съ トハ共ニスル造格ハ補語ト成リテ主語トハ成ラズ、例ハ Мать уѣ́хала съ отцо́мъ ト云ヘバ母ハ序テニ父ニ附シテ赴キシヲ示ス、Я ходи́лъ съ ма́терью на ры́нокъ (我ハ母ト共ニ市ニ行ケリ) ト云ヘバ母ハ用アリテ市ニ行キタレ𪜈我レハ唯附隨セシノミ、Братъ съ сестро́ю (=и сестра) сѣ́ли въ ло́дку (兄ハ妹ト共ニ舟ニ乘レリ). Братъ съ сестро́ю сѣ́лъ въ ло́дку ト云ヘバ妹ハ先キニ舟ニ乘リ居タルニ兄ハ之ニ加ハリシナリ.

§ 148. 無人稱文句 (Безли́чное предложе́ніе)

凡テ一文句中ニハ常ニ主語アリテ кто? 或ハ что? ノ問ニ應ズ、若シ省略シテ之ヲ文面ニ書サザルトモ文意ヲ察スレバ容易ニ之ヲ知リ得ベシ、例バ Братъ до́ма (兄弟ハ家ニ居ル). Разскажу́ вамъ всё (我レハ貴君ニ一切ヲ話サン). Сходи́те въ ла́вку (店ニ行ケヨ) 此三文句中、第一文句ニハ主語ヲ明カニ記セリ братъ 是レナリ、第二ト第三文句ニ於テハ文面ニ主語ヲ記セザレ𪜈一見シテ之ヲ知リ得ベシ第二文ノ主語ハ я ニシテ第三文ノ主語ハ вы ナルヤ明カナリ、

然ルニ文中ニ主語ノ現存セザルノミナラズ客語ノ爲ニ全ク隱蔽セラレ

テ主語ハ存スルヤ否ヤ明カナラザル事アリ、斯カル文句ヲ無人稱文句ト稱ス

無人稱文句ノ客語タリ得ベキモノハ次ノ如シ

1. 無人稱動詞、露語ニ於テハ一種ノ動詞アリテ單數ノ第三人稱ト過去ノ中性ノミヲ使用セラル、之ヲ無人稱動詞ト稱ス、然レモ正シク云ヘバ單人稱 (однолúчный) 動詞ト稱シテ可ナラン、但シ此動作ヲ發スル者ノ明カナラザルガ故ニ 無人稱ト 名ツクルナリ、例ハ разсвѣтáть (夜明ケル)ハ разсвѣтáетъ, разсвѣтáло, бýдетъ разсвѣтáть. 等ノ如ク尚二三ノ例ヲ擧クレバ вечерѣ́ть (日暮ル), морóзить (氷點以下ノ寒氣ト成ル、但シ此語ハ「凍ヘシム」ト云フ自動詞トモ成ル) смеркáться (黄昏トナル), свѣтáть (明カルクナル), темнѣ́ть, стемнѣ́ть (闇クナル), сквозúть (吹通ス). Въ іюлѣ *разсвѣтáетъ* въ 4 часа, а *смеркáется* въ 7 (七月ニハ四時ニ夜明ケ七時ニ暮ル). Уже́ *разсвѣло́* (既ニ夜明ケタリ).

2. 或ル中動詞及自動詞ノ無人稱式 (§ 102, 1) 主動ノ事物ハ何物ナルヤ判然セズシテ、多クハ不定代名詞 нѣчто, что-то 等ガ隱然主動ノ地ニ立ツ際例ヘハ Меня́ уже́ давно́ *тя́нетъ* на ро́дину (既ニ久シク我ガ心ヲ故郷ニ惹ク). У него *закружи́лось* въ головѣ́, и онъ упáлъ (彼ノ頭内ニ何カフラ々々シテ彼レハ倒レタリ). Съ са́маго утра́ меня́ *тошни́тъ* (朝ヨリシテ我レニ嘔吐氣味アリ).

3. 或ル自動詞ノ無人稱式ハ造格ト共ニシ而シテ、此造格ヲハ名格ニ變スルヿヲ得ベシ然ル時ハ人稱ヲ有スル文句ト成ル例ハ Вѣ́тромъ сорвáло кры́шу. = Вѣ́теръ сорвалъ крышу (風ハ屋根ヲ剝ゲリ). Мóлніею зажглó домъ. = Мóлнія зажглá домъ (電ハ家ヲ燒ケリ). Ядрóмъ убúло офицéра. = Ядрó убúло офицéра (砲彈ハ士官ヲ殺害セリ). 然レモ人稱文句ト無人稱文句トノ差異ハ文ノ意義ニ存ス、人稱文句ハ主語ヲ主動力ト見做セドモ、無人稱文句ニ於テハ主動力判然セズ例ハ「砲彈ニテ士官ヲ殺セリ」ト云フテハ何人ガ殺セシヤ明カナラズ

4. 或ル中動詞 (§ 102, 2) 若シクハ自動詞ニ ся ヲ附着シテ無人稱式ヲ成ス、此種ノ動詞ト共ニスル補語ハ與格ナルヲ常トス、但シ此與格ハ名格ニ變ズルヲ得ベシ然ル時ハ名格ハ主語ト成ル、然レモ斯ク與格ヲ名格ニ變ジテハ幾分カ無人稱文句ノ意義ヲ損スルノ恐レアリ、無人稱文句ハ動作ノ稍々無意識的ナルヲ表シ、人稱文句 (即チ名格ヲ有スル) ハ動作ノ有意識的ナルヲ示ス (§ 102) 例ハ *Мнѣ ду́мается*, что вы несправедли́вы (汝ハ不公平ナリト我レニハ思ハル). = *Я ду́маю*, что вы несправедли́вы (汝ハ不公平ナリト我レハ思フ) 前文ニ於テハ確固タル理由アルニハ非レモ唯何トナク斯ク思ハルトノ意ニシテ、後文ニ於テハ確固タル理由アリテ斯ク思考スルヲ表ス、*Я хочу́* (我レハ欲ス). = *Мнѣ хо́чется* (我レハ何々シタクナル即チ稍々無意識的ナリ). *Ты* не вѣ́ришь (汝ハ信ゼズ). = *Тебѣ́* не вѣ́рится (汝ニハ信ゼラレヌ). *Онъ* не спитъ (彼レハ眠ラズ). = *Ему* не спи́тся (彼レハ眠ラレヌ即チ眠ラントト欲シテモ眠ラレヌ). *Она* нездоро́ва (彼女ハ壯健ナラズ). =

Ей нездоро́вится (彼女ハ何トナク壯健ナラズ). *Вы* дре́млете (汝ハ居眠リス). = *Вамъ* дре́млется (思ハズ居眠リヲ催ス). *Вы* ви́дѣли сонъ. = *Вамъ* сни́лось (「夢ヲ見タリ」ト譯スナレモ、後文ハ無意識的ノ語氣ヲ有ス). *Они* поду́мали (彼等ハ思ヘリ). = *Имъ* показа́лося (彼等ニハ何々ト思ハレタリ).

5. 通常ノ動詞(無人稱ナラザル)ト雖、現在、未來、命令法ノ單數第二人稱ニ於テ使用セラルヽモ諸人稱ニ關シ得ル場合ニハ無人稱動詞ノ意義ヲ受ク、例ハ Бу́дущаго не узна́ешь (未來ヲバ知ラザラン)ト云フ文句ヲ文法上ヨリ見レバ「汝ハ知ラザラン」ニ當レトモ、其「汝」トハ誰ナルヤ明カナラザルガ故ニ、何人ヲモ此「汝」ト云フ代名詞ニ當テ欲ムルコヲ得ベシ故ニ此文句ハ無人稱ナリ *Дѣло свое не желаешь, того не желаючи получишь* (ヤリマカセトヤラ放セルカラス)

備考 斯ノ如キ語調ヲハ殊ニ屢々俚諺中ニ使用シテ常ニ訓諭警戒ノ意義ヲ有ス、例ハ Тише е́дешь, да́льше бу́дешь (徐カニ行ケハ遠クニ到ラン). Куй желѣ́зо, пока́ горячо́ (熱アル際間ニ鐵ヲ鍛ヘヨ).

6. 動詞ノ現在或ハ過去、未來ノ複數ノ第三人稱ニ於テ若シ動作スル人物ガ現示セラレザル時ニハ無人稱トナル、例ハ Про э́то тепе́рь мно́го говоря́тъ въ о́бществѣ и да́же пи́шутъ въ газе́тахъ (此事ヲ世間ニ於テ今多ク言ヒ居ル、新聞ニサヘモ記ス). Его́ о́чень хвали́ли (彼レヲ甚ダ稱譽セリ).

備考 此句調モ諺ニ多ク使用スル而シテ無人稱動詞ヲ以テ表示シタル動作ハ凡テノ場合ニ關スルヲ表ス、例ハ Снявши го́лову, по волоса́мъ не пла́чутъ (頭ヲ失フタル者ハ毛髮ヲ憂フルニ及バス). Цыпля́тъ по о́сени счита́ютъ (雛ヲバ秋ニ至リテ數フ、時期ニ達セザレバ成蹟ハ判然セズ). Дарово́му коню́ въ зу́бы не смо́трятъ (貰フタル馬ノ齒ヲバ檢査セズ).

7. 動詞ニ否定ヲ附シ、之ニ關スル名詞ガ一定セザル事物ヲ表スル時ハ此文句ヲ無人稱式ニ變スルヲ得即チ主語ヲ生格(名格ヲ變シテ)ト成ス、然レモ此動詞ガ一定シタル事物ニ關スル時ハ必ズ人稱式ヲ用フ、例ハ Случило́сь несча́стіе (不幸ハ生シタリ)ト云フ文句ニ否定ヲ附シテ Несча́стіе не случило́сь ト爲セバ或ル一定シタル不幸例ハ豫期シタル不幸ハ生セザリシヲ示ス又—Несча́стія *не* случило́сь ト爲セバ概シテ如何ナル不幸モ生セザリシヲ示ス. Слы́шенъ го́лосъ (聲ハ聞ヘタリ).—Го́лосъ не слы́шенъ (一定ノ聲ヲ指ス)—Го́лоса *не* слы́шно (概シテ云フ). Кни́ги принесены́ (書籍ハ持來ラレタリ).—Кни́ги не принесены́ (一定ノ書籍ヲ指ス).—Книгъ *не* принесено (概シテ云フ) Го́сти пріѣ́хали (客ハ來タレリ).—Го́сти не пріѣ́хали (一定ノ客ヲ指ス)—Гостей *не* пріѣ́хало (概シテ云フ). Оте́цъ уѣ́халъ (父ハ出立シタリ).—Оте́цъ не уѣ́халъ (父ハ出立セズ) 此文句ハ無人稱式ト爲スヲ得ズ、如何トナレバ父ハ一定シタル人ナルヲ以テナリ.

8. 但シ動詞 быть ガ獨立ノ客語(§ 18, 3)トシテ現在ノ否定式(нѣтъ)タル時ハ假令主語ガ一定ノ事物タルトモ常ニ無人稱的ニ使用セラル. Оте́цъ до́ма (父ハ家ニ居ル).—Отца́ *нѣтъ* до́ма (父ハ家ニ居ラズ). У меня́ есть перо́ (我レハペンヲ有ス).—У меня́ *нѣтъ* пера́ (我ハペンヲ所有セズ).

現在以外ニ於テハ此動詞否定ヲ有スル時ハ假令一定ノ事物ヲ指ストモ、

Не только многочисленных конец
во Вторник.

人稱ト無人稱ノ差別ナク何ツレヲ使用スルモ可ナリ、但シ無生物ヲ指ス時ハ無人稱式ヲ使用ス、例ハ Сего́дня у меня́ оте́цъ не былъ.—Сего́дня у меня́ *не́* было отца́ (今日父ハ我家ニ來ラザリシ). (Завтра́ у меня́ эта кни́га не бу́детъ.) —За́втра у меня́ э́той книги *не* бу́детъ (明日此書ハ我ガ手許ニ存セザラン)

9. 動詞 встрѣча́ться, встрѣ́титься (遇フ); доставля́ть, доста́ть (足ル、得ル); остава́ться, оста́ться (殘ル、止マル)等ハ быть ノ如ク、若シ否定ヲ有スル時ハ人稱式モ無人稱式モ無差別ニ使用セラル (假令一定ノ事物ニ關スルトモ)、或ハ無人稱式ヲ殊ニ多ク使用スル傾モアリ. Затрудне́нiй никаки́хъ *не встрѣ́тилось* (何ノ困難モ遭遇セザリシ). Здѣсь *не достаётъ* 20-*ти* се́новъ (此處ニ二十錢足ラズ). Если у васъ *не достане́тъ* де́негъ, займи́те у меня́ (若シモ貴君ニ金錢ノ足ラザレバ我ニ借リヨ). У меня́ не оста́лось и десяти́ рубле́й (我ニハ十圓モ殘ラザリシ).

10. 若シ形式的ニ個數代名詞或ハ個數詞ガ主語ト成リテ ско́лько? (§ 71, 3; §. 76, 10) ノ問ニ應スル時ハ客語タル動詞ハ無人稱式ト成ル. *Ско́лько* человѣ́къ пріѣ́хало? (幾人來リシヤ).—Пріѣ́хало лишь *нѣ́сколько* человѣкъ, пріѣ́хало *два* человѣ́ка, пріѣ́хало 5 человѣкъ.

11. 動詞ニ數ノ意ヲ附加スル時 (例ハ нѣ́сколько, мно́го 等) ハ無人稱式ヲ使用シ且ツ主語ハ生格ト成ル、本來斯カル場合ノ生格ハ文意中ニ存スル個數代名詞ノ要求ヨリ生ズ. Наѣ́хали го́сти (客ハ來集セリ).—Наѣ́хало (много) гостей́. Накопи́лись де́ньги (錢ハ溜レリ).—Накопи́лось (много) де́негъ. Уменьши́лись заня́тiя (業務ハ減少セリ).—Уменьши́лось (нѣ́сколько) заня́тiй (業務ハ少シク減シタリ).

12. 個數詞ヲ以テ年齡ヲ表示スル際ニハ動詞ハ無人稱式ト成ル Этому ребёнку уже́ испо́лнилось 2 го́да (此兒ハ既ニ滿二歲ニ達シタリ). Ему́ мину́ло уже́ 20 лѣтъ (彼レハ既ニ廿歲ヲ經過セリ). Бра́ту бы́ло 22 го́да, когда́ онъ жени́лся (娶リシ時ハ兄弟ハ廿二滿ナリシ).

13. 動詞ノ不定法モ無人稱ノ意義ヲ受ク、即チ (甲) 未來ノ代リニ肯定式ヲ用ヒテ確信或ハ必然豫想ヲ表スル際 (乙) 未來ノ代リニ否定式ヲ用ヒテ、動作ノ必ズ行ハレザラントノ確信ヲ表スル時 (丙) быть ト共ニシテ接續法ノ代リニ使用スル時 (丁) 一定ノ條件ニハ必ズ同一ノ結果ノ伴ハルヽヿヲ表セン爲ニ條件的文句ニ於テ之ヲ使用スル時 §. 114, I

14. 助動詞 быть ハ次ノ如キ場合ニハ無人稱ト成ル即チ此動詞ニ關スル人代名詞モ與格ト成ル.

(甲) 中性形容詞ノ簡略語尾ト共ニシテ (即チ副詞ノ體ヲ以テ) мо́жно (出來得ル), ну́жно (入用ナリ), необходи́мо (必用ナリ), до́лжно (ナケレバナラヌ), на́до, на́добно (要用ナリ) 及變化セザル名詞 нельзя́ (ナラヌ), жа́ль (惜シ、殘念) ガ不定法動詞ト共ニシテ § 61, 6

(乙) 性質形容詞ノ中性簡略語尾ト共ニシテ (即チ副詞ノ意義ニテ) 例ハ ве́село (面白ク) ску́чно (退屈ニ), прія́тно (快ク), интере́сно (興味アリテ), легко́ (容易ニ), тру́дно (困難シテ), хо́лодно (寒ク). жа́рко (熱ク) 等 § 61, 7

тебѣ не мѣшковать никакъ
Избывать Новы-городу Торжковъ
Не только многочисленных

(丙) 被形動詞ノ中性簡略語尾ト共ニシテ、例ハ ска́зано (言ハレ), ве́лѣно (命ゼラレ), прика́зано (指令セラレ), разрѣшено́ (認可セラレ), запрещено́ (禁ゼラレ)等 Мнѣ ска́зано было. Тебѣ ве́лѣно. Имъ прика́зано. Намъ разрѣшено́. Ей запрещено́.

(丁) 疑問代名詞及關係名詞 кто, что 并ニ場所ト時ノ疑問副詞タル гдѣ, куда́, откуда, когда́ ト共ニ不定法動詞ヲ用ヒテ § 163, IV.

15. 無人稱動詞 быва́ло ハ他ノ諸動詞ト共ニシテ動作ノ多次ナルヲ表ス § 114, III.

16. 無人稱動詞 было ハ他ノ諸動詞ト共ニシテ動作ノ始マリシ (然レ𪜈持續セザリシ) ヲ表ス、或ハ無人稱動詞 слѣ́довало (何々スベキナリ、須ラク) ノ意ヲ有ス § 114, I. 3.

§ 149. 定語 (Опредѣле́ніе)

定語ハ како́й? (如何ナル), кото́рый? (何ツレノ), чей? (誰ノ), ско́лько? (幾何ノ)等ノ問ニ應シテ常ニ名詞ニ關係ヲ有ス即チ之ニ說明ヲ加フ、定語ハ名詞以外ノ詞類ニモ關係ヲ有スル事アレ𪜈其詞類ガ必ズ名詞ノ意義ヲ有スル塲合ニ限ル

定語ハ二種ニ分類シ一ハ名詞ト一致ス、一ハ然ラズ

I. 名詞ト一致スル定語ハ次ノ如シ

1. 完全語尾ノ形容詞例ハ *до́брый* оте́цъ (善良ナル父)、形容詞的ノ代名詞例ハ *мой* братъ, *этотъ* домъ. *чей* ребёнокъ? *весь* го́родъ, *како́й-то* господи́нъ, *ско́лько* человѣ́къ? 數詞 *оди́нъ* человѣ́къ, *двое́* дѣте́й. 形動詞、*занима́ющійся* учени́къ (勉强シ居ル生徒).

2. 凡テ此詞類ハ名詞ノ定語ト成リテ性ト數ト格ヲ以テ之ト一致ス例ハ Сего́дня я встрѣ́тилъ *ва́шего мла́дшаго* бра́та (今日我レハ貴君ノ弟ト逢フタ). Я ещё не знако́мъ *съ твое́ю ста́ршею* сестро́ю (我レハ未タ汝ノ姉ト知已ナラズ). *Прочи́танную* ва́ми *мою́* кни́гу переда́йте *своему́* бра́ту (貴君ノ通讀セシ我ガ書籍ヲ貴君ノ兄弟ニ傳達セヨ). 此規則ノ例外ヲ爲スハ名格及役格ト成リシ個數代名詞及名格、役格ト成リシ個數詞 (одинъ ヲ除クノ外). 集合數詞、分數詞ナリ、但シ其他ノ格ト成リシ時ハ此等ノ代名詞モ數詞モ名詞ト一致ス

Нѣ́сколько ученико́въ ещё не пріѣ́хали (未タ生徒數名ハ來着セズ) Онъ подари́лъ кни́ги нѣ́сколькимъ ученика́мъ (彼レハ數名ノ生徒ニ書籍ヲ惠與セリ). Два ученика́ больны́ (生徒二人ハ病氣ナリ). Сего́дня учи́тель спроси́лъ двухъ ученико́въ (今日教師ハ二名ノ生徒ニ課題ヲ問ヘリ). Оба бра́та уѣ́хали въ дере́вню (兄弟兩人ハ村ニ出立セリ). Я знако́мъ съ обо́ими бра́тьями (我ハ兩人ノ兄弟ト知已ナリ).

3. 定語ガ數個ノ名詞ニ關係ヲ有スレバ複數ト成ル即チ若シ其名詞ガ皆ナ同一ノ性ナル時ハ定語モ性ヲ以テ一致ス До́брые *оте́цъ и братъ*. До́брыя *мать и сестра́*. 若シ其名詞ガ各々性ヲ異ニスル時ハ定語ハ特優性 (§ 147,3) ヲ用フ До́брые *братъ и сестра́*. Гря́зные *столъ* и *па́рта*.

※ 代名詞, 物主, 定 不定
Я весь былъ въ пору. §67 参照 тоже 68
во всякій другой

時トシテハ單數ノ異性ノ名詞數個ニ對シテ、定語ハ單數ト成リ、以テ近接ノ名詞トノミ一致スルコトアリ、殊ニ物主形容詞ガ定語タル時ト韻文ニ於テ然ルコトアリ例ハ、Матери́нская (матери́нскіе ノ代リニ) ла́ска и присмо́тръ ничѣ́мъ незамѣни́мы для ребёнка (母ノ慈心ト介抱ハ小兒ノ爲ニハ何ニモ換ヘ難シ.) Дя́дино (дя́дины ノ代リニ) имѣ́ніе и да́ча не далеко́ отъ го́рода (伯父ノ所有地ト別莊ハ市府ヨリ遠カラズ). Свой (свои ノ代リ) умъ и се́рдце просвѣща́ю (己レノ智ト情ヲ開導ス〔韻文ノ句調〕).

4. 同種類ニ屬スルモ意義ヲ異ニスル所ノ二個以上ノ定語ヲ有スル名詞ハ重復ヲ避ケ聲調ヲ清朗ナラシメン爲ニ一回ノミ使用セラル而シテ此名詞ハ單數トモ複數トモ成ル、即チ若シ名詞ガ定語ノ前ニ立ツ時ハ複數ト成ル例ハ Грамма́тики ру́сская и япо́нская. Учи́лища мужско́е и же́нское (男子學校及女子學校). 若シ名詞ガ最初ノ定語ノ後ニ立ツ時ハ單數ト成ル例ハ Ру́сская грамма́тика и япо́нская. Мужско́е учи́лище и же́нское. 若シ名詞ガ最後ノ定語ノ後ニ立ツ時ハ單數ニテモ複數ニテモ可ナリ、Ру́сская и япо́нская грамма́тики 或ハ грамматика. Мужско́е и же́нское учи́лище 或ハ учи́лища.

備考 數個ノ定語ヲ有スル一個ノ名詞ガ主語タル時ハ客語ハ常ニ複數ト成ル (假令主語ハ單數タルトモ). 例ハ Ру́сская грамма́тика и япо́нская лежа́ть въ столѣ́ (露文典ト日本文典ハ卓ノ内ニ在リ). Же́нское и мужско́е учи́лище нахо́дятся ря́домъ (女學校ト男學校ハ相並ヒテ存ス)

5. 若シ定語ガ固有名詞ト普通名詞ニ關スル時ハ普通名詞ト一致ス (固有名詞ハ普通名詞ト共ニ立ツ時ハ變化セズシテ名格ノ儘タルコトアリ). 然レモ固有名詞ノ傍ニ普通名詞ノ存セザル時ハ定語ハ固有名詞ト一致ス (普通名詞ニ伴ハレザル固有名詞ハ通常ノ名詞ト見做サレ其格ヲ變化ス) (§ 150, I, 2) 例ハ Мы переѣзжа́ли широ́кую рѣ́ку Амуръ (我等ハ廣キ河あむーるヲ越ヘタリ).—Мы переѣзжа́ли широ́кій Амуръ. Онъ пріѣ́халъ на то́лько-что постро́енномъ парохо́дѣ „Москва́" (彼レハ新造ノ滊船モスクワ號ニ乘來レリ).—Онъ пріѣ́халъ на то́лько-что постро́енной „Москвѣ́."

6. 形容詞及順序數詞ハ帝王或ハ歷史上ノ人物ヲ表スル名詞ノ定語タル時ハ名詞ノ後ニ立チ且ツ之ヲ記スル際ニハ順序數詞ハ羅馬數字ヲ用フ、例ハ Пётръ Вели́кій. Алекса́ндръ Македо́нскій. Никола́й II (Второ́й). По́слѣ Импера́тора Никола́я I (Пе́рваго) на престо́лъ вступи́лъ Импера́торъ Алекса́ндръ II (Второ́й). (皇帝ニコライ一世ノ後ニ皇帝アレキサンドル二世ハ位ニ即ケリ).

7. 書籍ノ首端ニハ順序數詞ヲ名詞ノ後ニ記スヲ法トス例ハ Книга первая (第一卷). Глава́ втора́я (第二章). Парагра́фъ пя́тый (第五項). Страни́ца 10-ая (第十頁) 但シ名格以外ノ諸格ニ於テハ順序數詞ヲ名詞ノ前ニ立ツルモ後ニ立ツルモ可ナリ、例ハ Въ седьмо́й главѣ́ говори́тся о томъ-же, о чёмъ говори́тся и въ главѣ́ пя́той (第五章ニ述ベシ事ヲ第七章ニモ述ブ). Откро́йте страни́цу 15-ую и чита́йте парагра́фъ 5-ый; теперь откро́йте 21-ую страни́цу

{ томъ 卷
частъ 編

○文章ノ確然ル分解ノ必要。
(Анекдотъ о Т. Хигути.)

и чита́йте 9-ый парагра́фъ (第十五頁ヲ開キテ第五項ヲ讀メヨ、今度ハ第廿一頁ヲ開キテ第九項ヲ讀メヨ).

II. 定語ガ名詞ト一致セザル場合ハ次ノ如シ

1. 前置詞ヲ用ヒズシテ生格ニ立チシ名詞ガ所屬、性質、年齡等ヲ表スル際、但シ此生格ハ常ニ所定ノ語ノ後ニ立ツ、Лѣто я провёлъ на да́чѣ *бра́тьи* (我レハ夏ヲ兄弟ノ別莊ニ於テ送リタリ). Кни́га *сестры́* лежи́тъ въ шкафу́ (姉妹ノ書籍ハ戸棚ノ中ニ在リ). Его́ воспи́тывалъ челове́къ *че́стныхъ убѣжде́нiй* и *твёрдаго хара́ктера* (清高ナル定見ト堅固ナル氣性ヲ有スル人ガ彼レヲ敎育シタリ). Онъ разгова́ривалъ съ каки́мъ-то господино́мъ *о́чень высо́каго ро́ста* (甚ダ丈高キ或ル人ト彼レハ談話セリ). Въ ко́мнату вбѣжа́лъ ма́льчикъ *лѣтъ десяти́* (凡ソ十歲位ノ童子ハ室內ニ駈込ミタリ).

2. 前置詞ヲ有シテ諸格ニ立チシ名詞、例ハ Онъ купи́лъ я́щикъ *изъ слоно́вой ко́сти* (彼レハ象牙製ノ箱ヲ買ヘリ). Дво́е *изъ мои́хъ това́рищей* умерли́ отъ холе́ры (我ガ同僚中ノ二人ハコレラ病ニテ死セリ). Въ углу́ стоя́лъ сто́ликъ *объ одно́й но́жкѣ* (一本足ノ卓ハ隅ニ立テリ). Надзо́ръ *надъ ученика́ми* пору́ченъ моему́ бра́ту (生徒ノ監督ハ我ガ兄弟ニ托サレタリ). Привы́чка *къ труду́* похва́льна (辛苦ニ對スル習慣ハ稱譽スベキモノナリ). Онъ всегда́ но́ситъ шля́пу *съ широ́кими поля́ми* (彼レハ常ニ廣キ緣ノ帽ヲ冠ル). Я купи́лъ книгу *съ перепле́тью*, а онъ *безъ перепле́та* (我ハ綴裝シタル書籍ヲ買ヒ彼レハ綴裝セザルヲ買ヘリ).

3. 不定法、Привы́чка *до́лго занима́ться* по вечера́мъ вредна́ для здоро́вья (夜間久シク勉强スル習慣ハ健康ノ爲ニ害アリ). Его́ намѣре́нiе *поступи́ть* въ университе́тъ очень обра́довало мать (大學ニ入ラントスル彼レノ志ハ甚ダ母ヲ悅バセタリ). Онъ большо́й охо́тникъ *слу́шать* всѣкія сплетни (彼レハ種々ノ虛說ヲ聞クノ大好者ナリ). Онъ ма́стеръ *угоща́ть* (彼レハ饗應ノ名人ナリ).

4. 變化セザル詞類 之ヲ使用スルハ稀ナリ、Просыпа́юсь но́чью и слы́шу однообра́зный звукъ "*ба́у-ба́у-ба́у*"; гдѣ-то былъ пожа́ръ (夜中我レ目醒ムレバデヤンダダダト一樣ノ響ヲ聞ク何處ニカ火事ハアリシナリ).

§150 附 語 (Приложе́нiе)

○ 附語ハ說明語ニシテ一種ノ定語ト見做シテ可ナリ、而シテ名詞ノミヲ以テ附語ト爲ス事アリ或ハ定語ヲ有スル名詞ヲ以テ附語ト爲ス事アリ、附語ト成ルハ次ノ如キ語類ナリ;

I. 固有名詞ノ傍ニ立ツ普通名詞、例ハ *Императоръ* Петръ I. *Генера́лъ* Петро́въ (將軍ペトロフ). *Го́родъ* Москва. *Рѣка́* Амуръ. *Парохо́дъ* „Россiя". *Сочине́нiе* "Исто́рiя Россiи".

II. 人物ヲ表スル固有名詞ニ普通名詞ガ關係ヲ有スル時ハ兩名詞ハ格ヲ以テ一致ス 例ハ Импера́торъ Алекса́ндръ II-*ой*, Импера́тора Алекса́ндра II-*го* Импера́тору Алекса́ндру II-*ому*...

2. 無生物ヲ 表スル 固有名詞ニ 普通名詞ガ關係ヲ有スル時ハ兩名詞共ニ變化スルコトアリ 例ハ Рѣки́ Аму́ра, рѣкѝ Аму́ра, рѣкѣ́ Аму́ру 或ハ普通名詞ノミ變化シテ、固有名詞ハ常ニ名格ト成ル、是レハ固有名詞ガ文章ノ表題或ハ船ノ名稱ヲ表スル場合ニ於テ行ハル、時トシテハ、概シテ一事物ニ他ノ事物ノ名稱ヲ附セシ際、例ハ市府ノ名稱ヲ旅店ニ附シ 卷烟草ニ英傑、鳥獸等ノ名ヲ附セシ等ノ 場合ニ行ハル、斯カル場合ニハ形動詞、на́званный 或ハ называ́емый ヲ省略シタルヨリシテ、固有名詞ノ名格ト成ルハ此省略セラレシ 形動詞ニ關係ヲ有スルニ由テナリ斯カル 場合ノ固有名詞ヲハ引用標(“ ”)中ニ記入スルヲ常トス 例ハ Парохо́дъ “Россія” (汽船「ロシヤ」號), парохо́да “Россія”. парохо́ду “Россія”. Сочине́ніе “Исто́рія Россіи” (「ロシヤ史」ト云フ書), сочине́нія “Исторія Россіи”, сочине́нію “Исторія Россіи”. Да́ча “Вѣтеръ” (「風」ト云フ別莊), да́чи “Вѣтеръ”

備考 若シ но́меръ (N) ト云フ語ガ順序數詞ト共ニシテ 附語シタル時ハ此語ハ變化セズシテ常ニ名格ニ立ツ、例ハ Я живу́ въ до́мѣ N 5-ый, въ кварти́рѣ N 3-ій (我ハ第五號ノ家屋第三號ノ貸家ニ住居ス).

3. 普通名詞ガ數個ノ固有名詞ニ關係スル時ハ定語ニ 於ケル規則ト同シク複數ト成ルベシ 例ハ Импера́торы Алекса́ндръ I-ый и Никола́й I-ый жи́ли въ пе́рвой полови́нѣ XIX (девятна́дцатаго) столѣ́тія (皇帝アレキサンドル一世及ニコライ一世ハ十九世紀ノ前半ニ生存セリ). Онъ до́лго пла́валъ на парохо́дахъ “Петербу́ргъ” и “Москва́” (汽船「ペテルブルク」及「モスクワ」ニ乘リテ彼ハ久シク航海セリ).

III. 定語ヲ有スル名詞

1. 此種ノ附語ハ其關係スル名詞ト必ズ格ヲ以テ一致ス例ハ Петербу́ргъ, но́вая столи́ца Россіи; Петербу́рга, но́вой столи́цы Россіи; Петербу́ргу, но́вой столи́цѣ Россіи...Онъ до́лго жилъ въ Петербу́гѣ, но́вой столи́цѣ Россіи (彼レハ久シク露西亞ノ新都彼得堡ニ住居セリ).

2. 此種ノ附語ハ時トシテ其關係スル名詞ト合スル際ニ次ノ如キ接續詞ヲ挿入スル事アリ、即チ同一ヲ表スル接續詞 т.е. (то есть), и́менно, или 或ハ性質、位地ヲ表スル какъ. 枚擧、指定ヲ表スル и́менно, а и́менно, какъ-то, какъ напр. (напри́мѣръ) 或ハ ро́домъ, (生レハ), по и́мени (其名ハ), по фами́ліи (其姓ハ)等ノ語ヲ挿入ス. Класси́ческихъ гимна́зій, *т.е.* (=*именно, или*) *гимна́зій. въ кото́рыхъ преподаю́тся лати́нскій и гре́ческій языки́*, въ Япо́ніи ещё нѣтъ (古典中學即チ希臘語拉丁語ヲ教授スル中學ハ未ダ日本ニハ無シ). Ему́, *какъ до́лго живу́щему въ Россіи*, интере́сно подде́рживать знако́мство съ Ру́сскими (彼レハ久シク露西亞ニ住セシ者トシテ、露人トノ交際ヲ保持スルノ興ヲ感ズ). Челове́къ име́етъ пять чувствъ, *и́менно* (*а именно*): *зре́ніе, слухъ, осяза́ніе, обоня́ніе и вкусъ* (人ハ五感ヲ有スル即チ視、聽、觸、嗅、味感ナリ). Доро́гою я познако́мился съ одни́мъ купцо́мъ, *ро́домъ изъ Москвы́, по фами́ліи Петро́вымъ* (途中ニテ我レハモスクワ生レノ一商人姓ヲペトロフト云フ者ト知己ニナレリ).

§ 151. 補 語 (Дополне́ніе)

I. 1. 補語ハ常ニ動詞ニ關係ヲ有ス、補語ハ動詞ノ言ヒ表ハス動作ニ關係ヲ有スル事物(主語以外ノ)ヲ表ス、即チ主語ノ外ニ動詞ノ動作ヲ補足スルモノナリ、例ハ「書ク」ト云フ動作ニ關係ヲ有スルハ之ヲ書ク人ノ外ニ紙、筆、墨等ノ用具ナリ、斯クノ如ク動詞ノ補足ヲ表スルモノヲ補語ト稱ス、Я написа́лъ *това́рищу письмо́* объ его́ *бра́тъ на* почто́вой *бума́гѣ* кра́сными *черни́лами* (我レハ朋友ニ其兄弟ノ事ニ就テノ手紙ヲ便箋ニ赤インキニテ書キ送リタリ). 此文句中ノ товáрищу, письмó, о брáтѣ, на бумáгѣ, черни́лами ハ補語ニシテ動詞 написáлъ ニ關係ヲ有シ且ツ此動詞ノ動作ヲ說明ス、

2. 補語ト成ルベキモノハ名詞(名格ト呼格ヲ除クノ外、諸格ニ於テ、但シ前置詞ノ有無ニ論ナク)並ニ凡テ名詞ノ態ヲ爲シテ使用セラルヽ語ナリ、例ハ Онъ разсказа́лъ мнѣ *про всё* (彼レハ我ニ凡ノ事ヲ語レリ). Позови́те *слы́шу́ю* (жéнщину) (醫婦ヲ呼ヘヨ). Верни́те *по́сланнаго* (человѣ́ка) (使者ヲ返セヨ). Ста́ршій мой братъ лю́битъ *чита́ть* (=*чтéніе*), а мла́дшій *рисова́ть* (=*рисова́ніе*) (我ガ兄ハ讀書ヲ愛シ、弟ハ畫ヲ愛ス). Она́ ду́маетъ *стро́ить* домъ (彼女ハ家屋ヲ建テント思ヒ居ル).

II. 補語ハ直補語(прямóе)ト斜補語(кóсвенное)ヲ有ス

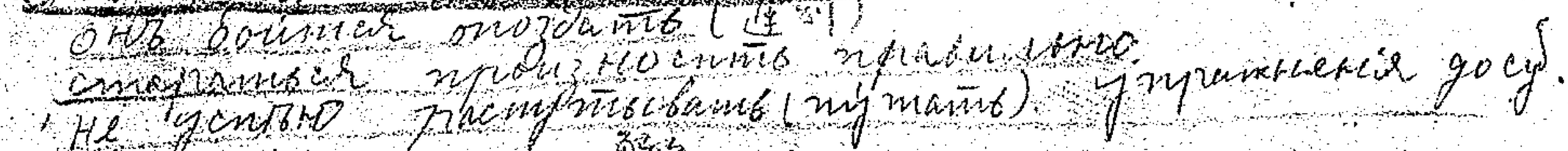
1. 直補語ハ自動詞ニ關係ヲ有シテ役格ニ立ツ(III 參照). 直補語ハ кого? (誰ヲ) что? (何ヲ)ト云フ問ニ應ズ、而シテ動詞ノ不定法ガ直補語タル時ハ что дѣлать? (何ヲ爲ス)ト云フ問ニ應ス. Я ви́дѣлъ ва́шего *бра́та* (我ハ汝ノ兄弟ヲ見タ). Онъ чита́лъ *кни́гу* (彼ハ書ヲ讀メリ). 直補語タル不定法動詞ハ常ニ名詞ノ役格ニ換ヘラルヽコトヲ得ベシ Онъ лю́битъ *чита́ть* (=*чтéніе*) (彼ハ讀ムコトヲ好ム).

2. 斜補語トハ直補語以外ノ補語ヲ概稱ス、斜補語ハ自動詞ニモ又他ノ諸動詞ニモ關係ヲ有シ、前置詞ノ有無ニ拘ハラズ諸格(前置詞ヲ有セザル役格ヲ除クノ外)ニ立ツ、動詞ノ不定法ガ斜補語タル時ハ之ヲ名詞ノ役格(前置詞ヲ有セザル)ニ換ユル能ハズ. Я былъ *у бра́та* (我ハ兄弟ノ許ニ在リキ). Она́ пошла́ *къ сестрѣ́* (彼女ハ姉妹ノ許ニ赴ケリ). Кни́гу я переда́лъ *това́рищу* (我ハ書籍ヲ友人ニ渡シタリ). Онъ писа́лъ *на доскѣ́ мѣ́ломъ* не пра́вою, а лѣ́вою *руко́ю* (彼ハ右手ニ非ズシテ左手ニ白墨ヲ持テ板ニ書ケリ). Онъ намѣрева́ется *купи́ть* ло́шадь (彼ハ馬ヲ買ハントス).

III. 露語ノ特質トシテ、時トシテハ直補語(役格タルベキ)ヲ生格タラシムルコトアリ即チ次ノ如キ場合ニ於テ然ル事アリ

1. 自動詞ガ否定 не ヲ有スル時、例ハ Я *ви́дѣлъ* ва́шу сестру́ —Я *не ви́дѣлъ* ва́шей сестры́. Я *купи́лъ* слова́рь.—Я *не купи́лъ* словаря́.

備考 1. 役格ヲ要求スル動詞ガ補語ト成リテ他ノ動詞ノ傍ニ立チ、而シテ他ノ動詞ガ否定 не ヲ有スル時ハ補語タル動詞ハソレガ爲ニ役格ノ代リニ生格ヲ要求ス、殊ニ否定ガ動詞 мочь 及ビソレト同意義ナル語句 быть въ состоя́ніи (能クス), быть въ си́лахъ (堪ユ) 及ビ動詞 жела́ть



(望ム), хотѣ́ть (欲ス), умѣ́ть (能クス), успѣ́ть (捗トル) 等ト共ニスル時ハ其要求スル役格ハ生格ニ變ズ Я *не могъ* (=Я не въ состоя́ніи былъ=Я не въ си́лахъ былъ) *оказа́ть* ему́ по́мощи (по́мощь ノ代リニ) (我ハ彼ニ助力ヲ與フル能ハザリシ). Она́ да́же *не жела́етъ ви́дѣть* ва́шей сестры́ (ва́шу сестру́ ノ代リニ) (彼女ハ汝ノ姉妹ヲ見ルヿヲ望ミモセズ). Онъ ещё *не усп́ѣлъ око́нчить* своего́ сочине́нія (своё сочине́ніе ノ代リニ) (彼ハ未タ自分ノ文章ヲ終ラザリシ)、然レ𪜈否定 не ガ動詞ニ關係ヲ有セズシテ他ノ詞類ニ關スル時ハ役格ヲ生格ニ換ユルヿナシ、例ハ *Не я* вида́лъ ва́шу сестру́, а братъ (汝ノ姉妹ヲ見シハ我ニ非スシテ我ガ兄弟ナリ). *Не вчера́* я купи́лъ слова́рь, а тре́тьяго дня (我レ辭書ヲ買ヒタルハ昨日ナラズシテ一昨日ナリ).

備考 2. 否定文句中ニ豫想副詞 едва́, чуть ノ類、或ハ疑問 ли ノ存スル時ハ、否定ノ勢力衰ヘテ常ニ役格ヲ使用ス、但シ生格ヲ使用スルモ可ナリ、例ハ Я *чуть не купи́лъ э́ту* кни́гу (*этой* книги トモ書ス) (我ハ將ニ此書ヲ買ハントシタリ). Я *едва́ не потеря́лъ* свои́ де́ньги (*свои́хъ* де́негъ トモ書ス) (我ハ殆ト錢ヲ遺失セントシタリ). Не *забы́ли ли* вы въ кла́ссѣ *э́ту* кни́гу? (汝ハ教場ニ此書ヲ忘レザリシカ)

2. 若シ自動詞ノ動作ガ事物ノ全體ニ波及セズシテ其一部分ニノミ關スル時、即チ нѣсколько, ско́лько-нибудь 等ノ語ガ文意中ニ包有スル時、實ハ此等ノ語ガ生格ヲ要求スルナリ、此種ノ生格ハ部分生格 (роди́тельный ча́сти) ト稱セラル、此生格ハ完成體動詞トノミ共ニス、若シ不完成體動詞ヲ用フル時ハ常ニ役格ト成ル、例ハ Да́йте мнѣ хлѣ́ба (パン一部ヲ指ス).—Да́йте мнѣ хлѣ́бъ (パン一個全體ヲ指ス).—Онъ даётъ вамъ хлѣ́бъ. Возьми́те себѣ́ *э́того* пече́нья (一部分ノビスケツトヲ取レノ意ナリ).—Возьми́те себѣ́ э́то пече́ніе (全體ヲ指ス).—Онъ *беретъ* пече́нье. Нале́йте мнѣ ча́ю (幾何カノ茶ヲ指ス).—Она́ налива́етъ чай. Я въ той ла́вкѣ купи́лъ бума́ги (若干ノ) и пе́рьевъ (нѣсколько). (我ハ其店ニ於テ若干ノ紙トペンヲ買ヘリ).—Бума́гу (概シテ云フ). я купи́лъ въ той ла́вкѣ. Бума́гу и пе́рья я обыкнове́нно *покупа́ю* въ той лавкѣ.

3. 動詞 дать, одолжи́ть (貸ス) 等ヲ使用シテ動作ノ時間ノ僅少ナルヲ表セントスル際、例ハ Да́йте мнѣ э́ту кни́гу.—*Да́йте* мнѣ *дня на два э́той* кни́ги (凡ソ二日間此書ヲ我ニ貸セヨ). Да́йте мнѣ вашъ каранда́шъ.—Да́йте мнѣ *на-мину́тку* ва́шего каранда́ша́ (暫時貴君ノ鉛筆ヲ我ニ與ヘヨ). Одолжи́те мнѣ *на нѣсколько дней* ва́шего словаря́ (數日間貴君ノ辭書ヲ我ニ貸與セヨ).

4. 不完成體ノ自動詞 ждать (待ツ), ожида́ть (待望ス), иска́ть (尋ヌ), проси́ть (請フ) ヲ使用シテ其動作ガ有生物ニ關スル時ハ役格ヲ要求シ、若シ有生物ナラザル時ハ生格ヲ要求ス 又、此種ノ動詞ノ完成體ヲ使用スル時例ハ вріиска́ть, наити́, вы́просить 等ハ役格ノミヲ要求ス. Братъ *ждётъ* сестры́ (兄弟ハ姉妹ヲ待チ居ル).—Братъ *ждётъ* удо́бнаго слу́чая познакоми́ться съ ва́шею сестро́ю (兄弟ハ貴君ノ姉妹ト知己ナラントスル好機會ヲ待ツ). Онъ *и́щетъ* свою́ мать (我レハ其母ヲ尋ヌ).—Онъ *и́щетъ* но́вой до́лжности (彼

рисовать съ натуры

レハ新シキ役職ヲ尋ネ居ル).—Онъ *пріискáлъ* себѣ нóвую дóлжность (彼ハ自身ノ爲ニ新役職ヲ探シ得タリ).—*Я ожидáю* мать (彼ハ母ヲ待居ル).—*Я ожидáю* отвѣтa отъ мáтери (我ハ母ノ返答ヲ待居ル).—Онъ *проси́лъ* объ э́томъ мою́ *сестрý* (彼ハ此事ヲ我カ父ニ請ヘリ).—Онъ *проси́лъ* у моегó отцá совѣтa (彼ハ我カ父ニ相談ヲ請ヘリ).—Онъ *вы́*просилъ у меня э́ту книгу (彼ハ我ニ願フテ此書ヲ得タリ).

5. 動詞 стóить (價ヲ有ス) 及 требовать (要求ス、請求ス) ハ一定ノ數量ヲ指シテ動作ヲ表スル時ハ役格ヲ要ス、若シ一定セザル數量ヲ指ス時ハ生格ヲ要ス、例ハ Эта вещь *стóитъ* 2 *рубля* (此物品ハ二ルーブルノ價ヲ有ス).—Эта вещь *стóитъ* бóльши́хъ дéнегъ (此物品ハ大金ノ價ヲ有ス).—Это сочинéніе *стóило* емý бóльшóго трудá (此文章ハ彼ノ大苦辛ヲ要シタリ). Онъ *трéбуетъ* свои́ дéньги (彼レハ自分ノ金ヲ請求ス).—Онъ *трéбуетъ* дéнегъ (彼レハ金錢ヲ請求ス).

§ 152. 狀況語 (Обстоятельство)

I. 狀況語ハ補語ト同シク動詞ニノミ關係ヲ有スレ𪜈、文句ニ於テ補語程ノ職掌ヲ表セズシテ、僅カニ動詞ノ動作ノ現ハルベキ境遇或ハ條件ヲノミ指定ス、即チ動作ノ行ハル、場所、時、狀態、目的、原因等ヲ指定ス、故ニ之ヲ次ノ五種ニ細別ス

1. 場所ノ狀況 (обстоятельство мѣ́ста) 是レハ гдѣ? кудá? откýда? докýда? ノ問ニ應ス

2. 時ノ狀況 (обстоя́тельство врéмени) 是レハ時ニ關スル問、когдá? какъ дóлго? (如何ニ久シク) съ котóраго врéмени? (イツヨリ) до котóраго врéмени? (イツ迄) съ каки́хъ поръ? (イツ頃ヨリ) до каки́хъ поръ? (イツ頃マテ) 等ニ應ス

3. 動態ノ狀況 (обстоя́тельство óбраза дѣ́йствія) 是レハ какъ? каки́мъ óбразомъ? (如何ナル樣ニテ) ノ問ニ應ス

數量ノ狀況 (обстоя́тельство коли́чества) モ動態ノ狀況ニ屬ス是レハ尺度、衡量等ノ計數ヲ表シ скóлько? какъ мнóго? (ドノ位) на скóлько? (幾許程) скóлько разъ? (幾度) во скóлько разъ? (幾倍) 等ノ問ニ應ス

4. 目的ノ狀況 (обстоят цѣ́ли) 是レハ зачѣ́мъ? для чего? (何ノ爲ニ) ノ問ニ應ス

5. 原因ノ狀況 (обстоят. причи́ны) 是レハ почемý? отчегó? (何ニ因テ) за что? (何故ニ) изъ-за чего? (何々ノ事故ヨリシテ) изъ чего? (何ヨリシテ) счего? (何デ) ノ問ニ應ス

II. 狀況語タルハ次ノ如シ

1. 副詞 2. 前置詞ヲ有セザル諸格 (名、役格以外ノ) ニ立チシ名詞、即チ副詞ノ體ヲ爲シタル名詞、3. 前置詞ヲ有スル名詞及他ノ詞類 4. 動態ノ狀況ハ副動詞ヲ以テ表セラル、5. 目的ノ狀況ハ不定法動詞ヲ以テ表セラル、*Въ прóшломъ* году (時ノ狀況) я провёлъ лѣ́то *въ горáхъ* (場所ノ狀況)

óчень вéсело (動態ノ狀況) (昨年ハ我レ山中ニ於テ甚ダ愉快ニ夏ヲ送リタリ). Сегóдня (時ノ狀況) я занимáлся въ два рáза мéньше (數量ノ狀況), чѣмъ вчерá (時ノ狀況) (今日我ハ昨日ヨリ二倍少ナク勉強シタリ) Я пріѣхалъ по желѣзной дорóгѣ (動態ノ狀況), а онъ мóремъ (動態ノ狀況) (我ハ鐵道ニテ彼ハ海ヲ經テ來レリ). Онъ съ рáдостью (動態ノ狀況) насъ встрѣтилъ (彼ハ悅テ我等ヲ迎ヘタリ). Онъ не былъ вчерá (時ノ狀況) въ клáссѣ (場所ノ狀況) по болѣзни (原因ノ狀況). (彼ハ病氣ニ由テ昨日教場ヲ缺席セリ) Онъ плáкалъ отъ рáдости (原因狀況), а она съ гóря (原因) (彼ハ喜悅ニ因テ泣キ、彼女ハ悲哀ニ因テ泣ケリ). Мы разговáривали сúдя (動態ノ狀況) (我等ハ坐リナガラ談話セリ). Они шли не спѣшá (動態ノ狀況) (彼等ハ急ガズシテ行ケリ). Онъ пошёлъ въ лáвку купúть (目的ノ狀況) бумáги (彼ハ紙ヲ買ハントテ店ニ往ケリ). Онъ побѣжáлъ позвáть (目的ノ狀況) дóктора (彼ハ醫者ヲ呼ハントテ驅行ケリ)

§ 153. 對語 (Обращéніе)

對語トハ應對ノ際其接スル人、或ハ事物ノ呼稱ニシテ、對語ハ常ニ呼格ニ立ツ、對語タルハ名詞及ビ他ノ詞類 (名詞ノ意義ニヲ使用セラル・所ノナリ、對語ハ文句ノ首端或ハ中間或ハ末尾ニ立ツヲ得、若シ文句ノ末尾ニ立ツ時ハ感歎符號 (!) ヲ附シ、首端ニ立ツ時ハ感歎符號或ハ半點 (запятáя) ヲ附ス、中間ニ立ツ時ハ其前後ニ半點ヲ附ス、對語ハ定語ヲ有スル事モアリ、感歎符號ヲ用フル際ニハ重ネテ半點ヲ附セズ Ивáнъ, сходú скорѣе въ лáвку Сходú скорѣе, Ивáнъ, въ лáвку. Сходú скорѣе въ лáвку, Ивáнъ! (イワンヤ早ク店ニ往ケヨ). Бóже! Царя́ храни́! (神ヤ王ヲ守護セヨ) Дорогóй братъ, скорѣе отвѣчáй на мое письмо (貴重ナル兄弟ヨ、速ニ我カ手紙ニ返答セヨ). Ну, скушáй же ещё тарéлочку, мой мúлый. (サア、我ガ愛者ヨ、今一皿喰セヨ). О Бóже, помоги́ намъ! (ア、神ヨ、我等ヲ助ケ賜ヘ).

§ 154. 挿語 (Вводныя словá)

挿語ハ文中ノ主要ナルモノニ非ザルガ故ニ之ヲ省略スルコヲモ得ベシ、概シテ挿語ハ文ノ中間ニ立テドモ首端ニモ末尾ニモ立ツヲ得ベシ、文ノ中間ニ存スル挿語ノ前後ニハ半點ヲ附スルヲ通例トス、Передáйте, пожалуйста, эту кни́гу брату. = Пожáлуйста, передáйте э́ту кни́гу бráту. = Передáйте э́ту кни́гу бráту, пожáлуйста (何卒此書ヲ兄弟ニ傳達セヨ).

殊ニ屢々使用スル挿語ノ例ヲ擧グレバ次ノ如シ

безъ сомнѣнія (疑モナク), вѣроя́тно (多分、大方カ), дýмается (ト思ハル、ナラン), кáжется (タシカ、然ラン), къ сожалѣнію (惜哉), къ счáстію (幸ニシテ), мóжетъ быть (或ハ然ラン), напримѣръ (例ハ), напрóтивъ (之ニ反シテ、却テ), повúдимому (一見スレバ、外見上), разумѣется (勿論), рáди Бóга (何卒), слáва Бóгу (有難ヤ、目出度哉), такъ сказáть (言ハバ). Онъ, вѣроя́тно, ещё не пріѣхалъ (彼ハ多分未ダ來ラザリシナラン). Слáва Бóгу, онъ уже поправля́ется (目出度哉、彼ハ既ニ恢復中ナリ).

備考　挿語ノ外ニ挿入文句 (вво́дное предложе́ніе § 172) ト稱スルモノアリ).

§ 155. 文句中ノ語ト語ノ一致幷ニ語類ノ支配力

文句ヲ成立スル所ノ語類ハ相互ニ密着ノ契合ヲ爲ス、此契合ハ二樣ニシテ一ハ語ト語ノ一致、一ハ從屬ナリ、一致トハ既ニ述ベタル如ク二個以上ノ語ガ互ニ性ト數ト格ヲ同一ニスルヲ謂フ、而シテ此一致ハ主語ト客語幷ニ定語ト被定語ノ間ニ生スルモノトス

一ノ語カ他ノ語ニ從屬スルトハ即チ支配ヲ受クルヲ謂フ、支配トハ格ヲ要求スルヲ謂フ、他ノ語ヲ支配スル力ヲ有スルモノハ名詞、形容詞、動詞、動詞ヨリ生スル形動詞、前置詞、副詞(前置詞ノ意義ニテ使用セラル、所ノ)ナリ

支配ノ力ハ詞類ノ如何ニ關スルニ非ズシテ、多クハ詞類ノ語根ニ存ス、故ニ同一ノ語根ヨリ生ゼシ語ハ詞類ヲ異ニスルトモ例ハ動詞トナルトモ、名詞トナルトモ、形容詞トナルトモ、支配ノ力ハ同一ナリ即チ他ノ語ニ向ツテ同一ノ格ヲ要求ス、(前置詞ノミハ他ノ詞類ニ關係ナキ獨特ノ語根ヲ有ス)、例ハ *занима́ться* ру́сскимъ языко́мъ, *заня́тіе* ру́сскимъ языко́мъ, *занима́ющійся* ру́сскимъ языко́мъ, *занима́ясь* ру́сскимъ языко́мъ (何ツレモ「露語ヲ學ブ」ノ意ナリ)、勿論此規則ニ關シテハ多少ノ例外ナキニ非ス例ハ同一ノ語根ヨリ生ゼシ語ナルトモ動詞タル際ト名詞、形容詞タル際トハ要求ノ格ヲ異ニスルコアリ. *владѣть* до́момъ (家屋ヲ所有ス), *владѣніе* до́момъ(家屋所有), *владѣлецъ* до́ма (家屋所有主); *люби́ть* отца́ (父ヲ愛ス), *любо́вь къ* отцу́ (父ニ對スル愛)等ノ如シ、然レ𪜈斯カル語ハ僅少ナルガ故ニ、本書ノ下項ニ於テ成ルベク之ヲ網羅シテ指示スベシ

大概ノ語ハ直接ニ語根ヨリ生スルニ非ズシテ、多クハ動詞ノ媒介ニ依リテ生ス即チ一旦動詞ト成リテ而シテ後、他ノ詞類ト成ル、之ヲ以テ語根ノ支配力ハ殊ニ動詞ニ於テ現ハレ、動詞ヨリシテ其支配力ヲ他ノ詞類ニ及ボス即チ動詞ニ於テ發現セシ支配力ヲハ他ノ詞類ト成リシ後ニモ失ハズ

§ 156. 生　格　(Роди́тельный паде́жъ)

生格ハ前置詞 безъ, для, ради, до, изъ, изъ-за, изъ-подъ, отъ, съ, у § 116 及或副詞 §132, 1, 5 ト共ニ使用セラル

前置詞ト共ニセザル生格ハ種々ノ意義ヲ有ス

1. 所屬生格 (роди́тельный принадле́жности). 是レハ有生物ニ關スル時ハ чей? ノ問ニ應ジ、無生物ニ關スル時ハ чего? ノ問ニ應ス而シテ其關係スル語ノ後ニ立ツヲ常トス、此生格ハ次ノ如キ諸種ノ意義ヲ有ス

1. 有生物ノ所有品或ハ所有權、此生格ハ定語ヲ有セザル時ハ物主形容詞ヲ以テ代用セラルヽヲ得ベシ. До́мъ отца́—отцо́въ домъ (父ノ家). Кни́га сестры́—сестри́на кни́га (姉妹ノ書籍). Приказа́ніе учи́теля—учи́телево приказа́ніе (敎師ノ命令). Голова́ ко́шки—коша́чья голова́ (猫ノ頭). Щерб

пти́цы—пти́чье перо́ (鳥ノ羽). Слѣдъ волка́—во́лчій слѣдъ (狼ノ足跡). Домъ *ста́ршей* сестры́ (姉ノ家) 此語句ヲハ物主形容詞ニ變スル能ハズ、何トナレバ定語ヲ有ス.

2. 有生物ノ發生、此生格モ著シ定語ヲ有セザレバ大抵物主形容詞ヲ以テ代用セラル、コヲ得ベシ. Сынъ купца́—купе́ческій сынъ (商人ノ子). Дочь сестры́—сестри́на дочь (姉妹ノ子). Яйцо ку́рицы—кури́ное яйцо (牝雞ノ卵). Ребёнокъ *мла́дшаго* брата (弟ノ兒) 此語句ヲハ物主形容詞ニ變スル能ハズ、何トナレバ定語ヲ有ス

3. 全體ノ一部分即チ事物ノ一局部、此生格ハ定語ヲ有セザル時ハ關係形容詞ニ變ズルコヲ得ベシ、Кры́ша до́ма—домо́вая кры́ша (家屋ノ屋根). Бере́гъ ръ́ки—ръ́чно́й бе́регъ (川ノ岸). Дно мо́ря—морско́е дно (海ノ底). Верши́на горы́—го́рная верши́на (山ノ巓).

備考 事物ノ一部分ガ全體ニ屬スルヲ表示スルニハ生格ノ外ニ、前置詞 отъ ト共ニスル生格ヲ用フ、然ル時ハ全體ヨリ離脫シタル部分ヲ表ス、又 въ ト共ニスル前置格ヲ用フ、然ル時ハ事物ノ全體ノ内部ニ存スルヲ表ス、又 на ト共ニスル前置格ヲ用フ、然ル時ハ事物ノ全體ニ固着シテ其外面ニ存スルヲ表ス、Вѣтка де́рева—древе́сная вѣтка (木ノ枝)—вѣтка *отъ* де́ревы (木ヨリ離レタル枝)—вѣтка *на* де́ревѣ (樹上ノ枝). Жёлтокъ яйца́—яи́чный желто́къ) (卵ノ黄身)—желто́къ *отъ* яйца́ (卵ヨリ拔取リタル黄身)—желто́къ *въ* яйцѣ́ (卵ノ内部ニ存スル黄身).

III. 所定生格 (роди́тельный опредѣле́нія) 此生格モ所屬生格ト同シク一ノ事物ト他ノ事物トノ關係ヲ指示ス、然レモ所屬或ハ所有ノ意義ヨリモ汎シ、而シテ有生物ニ關スル時ハ чей ノ問ニ應シ、無生物ニ關スル時ハ чего? ノ問ニ應シ且ツ其關係スル語ノ後ニ立ツヲ常トス

1. 動詞ト被形動詞ヨリ生ゼシ名詞 (人ヲ表スル所ノ) ニ對シテ使用セラル、即チ此名詞ノ次ニ立チテ生格ト成ル語ハ、此名詞ガ動詞タル際ニハ其動詞ノ補語ト成ル、例ハ Владѣ́ть до́момъ (家屋ヲ所有ス)—*владѣле́цъ* до́ма (家屋ノ所有者). Жить въ го́родѣ (市内ニ住ス)—*жи́тель* го́рода (市ノ住人). Квартирова́ть у сосѣ́да (隣家ニ止宿ス)—*квартира́нтъ* сосѣ́да (隣ノ同居人). Знать языкъ (某國語ヲ知ル)—*знато́къ* языка́ (某國語ノ達人) Учи́ть ру́сскому языку́ (露語ヲ敎授ス)—*учи́тель* ру́сскаго языка́ (露語ノ敎師). Любимый това́рищами (同僚ニ愛セラルル者)—*люби́мецъ* това́рищей (同僚ノ愛者).

2. 自動詞ヨリ生ジテ名詞ト成リ抽象的概念ヲ表スルモノニ對ス、此名詞ノ次ニ立チテ生格ト成ル語ハ、此名詞ガ動詞タル際ニハ其直補語ヲ爲ス、Знать языкъ—*зна́нie* языка́ (某國語ノ知識). Чита́ть кни́гу—*чте́нie* кни́ги (讀書). Рѣша́ть за́да́чу (問題ヲ決解ス)—*рѣше́нie* зада́чи (問題ノ決解). Рисова́ть карти́ну (繪ヲ畫ク)—*рисова́нie* карти́ны (繪畫執筆). Стро́ить домъ (家ヲ建ツ)—*постро́йка* до́ма (家屋建築). Осѣща́ть ко́мнату (室ヲ照ラス)

—*освѣщéніе* кóмнаты (室内點火). Просвѣщáть нарóдъ (人民ヲ教育ス)—*просвѣщéніе* нарóда (人民教育). Прослýшивать ученикóвъ (生徒ノ答ヲ聞ク)—*прослýшиваніе* ученикóвъ (生徒口答聞取リ).

備考 若シ此名詞ノ次ニ、動作ノ人ヲ表スル語ノ立ツ時ハ其語ハ造格ト成ルヲ常トス Братъ знáетъ рýсскій языкъ (兄弟ハ露語ヲ知ル)—знáніе брáтомъ рýсскаго языкá (兄弟ガ露語識通ハ). Сестрá рѣшáетъ задáчу (姉妹ハ問題ヲ解決ス)—рѣшéніе сестрóю задáчи (姉妹ガ問題解決ハ). Отéцъ стрóитъ домъ (父ハ家ヲ建ツ)—пострóйка отцóмъ дóма (父ガ家屋建築ハ).

備考 1. 自動詞ヨリ生シテ抽象的概念ヲ表スル或ル名詞ハ 生格ノ代リニ與格ヲ要求スルコアリ、然レモ是レハ至テ稀ナリ

備考 2. 自動詞ヨリニ非ズシテ他ノ 諸動詞ヨリ生シテ 抽象的概念ヲ表スル名詞ハ生格ニ非スシテ他ノ諸格ヲ 要求ス即チ 其名詞ノ生ゼシ 動詞ガ支配スル通リノ格ヲ要求ス Желáть счáстія—желáніе счáстія (幸福ノ希望). Помогáть товáрищамъ—пóмощь товáрищамъ (朋友ニ對スル佑助). Владéть дóмомъ—владéніе дóмомъ (家屋所有). Жить *у* отцá—жизнь *у* отцá (父ノ許ニ於ケル生活). Éхать *къ* брáту—пóѣздка *къ* брáту (兄弟ノ許ニ出發). Ссóриться *съ* товáрищами—ссóра *съ* товáрищами (朋友トノ爭) Писáть *о* пожáрѣ—письмó *о* пожáрѣ (火事ノ手紙). Служúть *при* губернáторѣ (知事ノ配下ニ勤務ス)—слýжба *при* губернáторѣ (知事配下ノ勤務).

3. 中動詞ヨリ生シテ事物ノ情態ヲ表スル名詞ニ對シテ使用セラル、此生格ハ附屬生格ト稱スルモ可ナラン、(無生物ニ附屬スレモ). Сóлнце сіялъ (太陽ハ輝ク)—свѣтъ сóлнца (太陽ノ光輝). Лунá сіяетъ (月ハ光ル)—сіáніе лýны (月ノ光). Рѣкá течётъ (川ハ流ル)—течéніе рѣки (川流). Ручéй журчúтъ (小河ハ潺流ス)—журчáніе ручья (小河ノ潺々) Вéтеръ шумúтъ (風ハ吹キ荒ム)—шумъ вéтра (風ノ鳴騒).

4. 形容詞ヨリ生シテ事物ノ性質ヲ表スル名詞ニ對シテ使用セラル、即チ斯カル名詞ノ次ニ立ツ語ハ生格ト成ル. Домъ высóкъ—вышúна дóма (家ノ高サ). Мóре глубокó—глубúна мóря (海ノ深サ). Человѣкъ добръ—добротá человѣка (人ノ善心). Лисúца хитрá—хúтрость лисúцы (狐ノ狡猾). Жизнь дорогá—дороговúзна жúзни (生計費ノ騰貴). Жизнь дешевá—дешевúзна жúзни (生計費ノ安直).

III. 性質生格 (родúтельный кáчества). 此生格ハ事物ヲ内面ヨリシテ評定ス即チ内心ノ性質、智力、氣質、品性、志行、地位、年齢等ヨリス、而シテ此評定ハ一語ヲ以テセス (所定生格ノ如ク II 參照) シテ必ズ二語 (即チ名詞ト其定語) ヲ以テス Мой сосѣдъ—человѣкъ большóго умá, сúльнаго хáрактера, дóбраго сéрдца, строгóй жúзни, симпатúчной нарýжности, высóкаго рóста, пожилúхъ лѣтъ (我ガ隣人ハ大智、氣力、善心、嚴肅、容貌美好、丈高キ、初老ノ人ナリ). Этотъ мáльчикъ—ученúкъ нáшего учúлища, второгó клáсса, 12-*ти* лѣтъ óтъ роду (此童子ハ我カ校ノ二年生ニシテ生年十二才ナリ). 若シ年齢ヨリシテ人ヲ評定スル際ニハ動詞 бýдучи ヲ省略ス.

Мой братъ поступи́лъ въ учи́лище (бу́дучи) 8-*ми* лѣтъ, око́нчилъ курсъ (бу́дучи о́тъ роду) 20-*ми* лѣтъ, жени́лся (бу́дучи отъ рожде́нія) 25-*ми* лѣтъ, овдовѣ́лъ (бу́дучи о́тъ роду) 32-*хъ* лѣтъ и у́меръ (будучи отъ роду) 41-*го* го́да (我ガ兄弟ハ八才ニシテ入校シ、廿才ニシテ全科卒業シ、廿五才ニシテ妻ヲ娶リ、三十二才ニシテ妻ヲ亡ヒ、四十一才ニシテ死セリ).

備考 若シ事物ヲ評定スルニ一語ノ名詞ノミヲ以テシ其名詞ニ關スル定語ヲ用ヒザル時ハ、生格ヲ使用セズシテ前置詞 съ ト共ニ造格ヲ使用ス、例ハ Челове́къ *большо́го* ума́—челове́къ *съ* умо́мъ (智アル人). Челове́къ *сильна́го* хара́ктера—челове́къ *съ* хара́ктеромъ (氣力アル人) 又二語ヲ以テ外部ノ性質ヨリシテ事物ヲ定ムル際ニモ同ジク前置詞 съ ヲ使用ス、例ハ Въ ко́мнату вбѣжа́лъ ма́льчикъ *съ* дли́нными, све́тлыми волоса́ми и голуби́ми глаза́ми (長キ銀灰色ノ髪ト碧眼ヲ有スル童子ハ室内ニ駈込ミタリ).

IV. 個數生格 (роди́тельный коли́чества) 之ヲ使用スル場合ハ

1. 事物ノ量度、集合ヲ表スル名詞ニ對シテ、第一式變化ノ多クノ名詞ハ此生格ト成ル時ニハ語尾 а 或ハ я ノ代リニ у 或ハ ю ト成ル (§ 23, 3, 甲) фу́нтъ ча́ю, пудъ са́хару, стака́нъ воды́, таре́лка су́пу (ソップ—皿), буты́лка вина́ (酒—壜), арши́нъ сукна́ (羅紗—アルシン), десть бума́ги (紙—帖), дю́жина пе́рьевъ (ペン—ダース), па́ра сапо́гъ (靴—足), пято́къ грушъ (梨子五個), деся́токъ сливъ (李十個), полкъ солда́тъ (兵—聯隊), толпа́ наро́ду (群集), часть ученико́въ (生徒ノ一部分).

2. 個數詞 (§ 71, 3) ニ對シテ使用ス、即チ名格及役格ニ立チシ個數詞ガ形式的ヨリ被定語ト成リ、之ニ對スル名詞ガ恰モ其定語タル場合ニ於テス. *Ско́лько* ученико́въ больны́? (幾人ノ生徒ハ病氣ナルヤ) Я встрѣ́тилъ *нѣсколько* ученико́въ (我ハ生徒數名ニ逢ヒタリ).

3. 個數詞 (одинъ ヲ除クノ外)、集合數詞、分數詞ニ對シテ使用ス、即チ名格及役格ニ立チシ此種ノ數詞ガ形式的ヨリ被定詞ト成リ、之ニ對スル名詞カ其定語タル場合ニ於テ §§ 76, 2; 83, 3-4; 84, 10. *Два* ученика́, *пять* ученико́въ, *о́бъ* сестры́, *двое* часо́въ (時計二個), *три́ че́тверти я́блока* (林檎一個ノ四分ノ三).

4. 完成體自動詞ノ動作ガ事物ノ全體ニ及バズシテ其一部分ニノミ關スル際 (§ 151, III, 2) ニ於テ通常ノ役格ノ代リニ此生格ヲ用フ.

5. 自動詞ノ動作ガ一定ノ少時期ニノミ關スル際ニ於テ通常ノ役格ノ代リニ用フ. (§ 151, III, 3).

6. 無人稱動詞ト共ニシテ名格ノ代リニ此生格ヲ用フ、即チ個數代名詞ヲ文意中ニ包有スル際 (§ 148, II).

7. на 或ハ за ヲ前綴スル所ノ或總動詞ト共ニス即チ事物ノ多數ヲ包有スル意ヲ表スル動詞ト共ニス. *начита́ться* книгъ (多數ノ書ヲ讀ム), *наслу́шаться* спле́тенъ (虚說ヲ多聞ス), *на́ѣсться* сла́достей (甘味ヲ多食ス), *заслу́шаться* му́зыки (音樂ヲ嗜ミ長ク聽ク).

形容詞 полный ハ充滿ノ意ヲ表スル際ニハ生格ヲモ要求ス、然レドモ造格ヲ要求スル事多シ. Жизнь *полна́* забо́тъ (人生ハ配慮多シ). Міръ *по́лонъ* обма́на (世ハ騙欺ニ充ツ). Ведро́

полно́ воды́ 或ハ водо́ю (桶ハ水ニテ充満ス). Копелёкъ *по́лонъ* де́негъ 或ハ деньга́ми (錢嚢ハ錢ニテ充満ス).

V. 時ノ生格 (роди́тельный вре́мени) Когда? ノ問ニ應シテ年月日數ヲ生格ト爲ス、何月ノ幾日ノ場合ニハ例ハ 1-го числа́ (朔日), 5-го числа́ (五日). 年月ノ數モ (前置詞 въ ト共ニスル前置格ノ代リニ) 若シ共ニ日數ヲ附スル時ニハ生格ト成ル例ハ 1-го февраля́, 5-го апре́ля 1901-го го́да. 同シク又 сего́дня, вчера́, тре́тьяго дня 等ノ語モ此規則ニ從ヒテ生格タリシモノト知ルベシ

VI. 比較ノ生格 (роди́тельный сравне́нія) 之ヲ使用ノ場合ハ

1. 比較級ノ形容詞ト副詞ガ比較用語 чѣмъ 或ハ не́жели (§ 56, 4) ヲ省略シタル時. Братъ добре́е сестры́ (=чѣмъ сестра). Я про́былъ тамъ бо́лѣе двухъ часо́въ (=чѣмъ два часа) (我ハ彼處ニ二時間以上滞在シタリ) 2. 比較級ニ всѣхъ 或ハ всего́ ヲ附用シテ最勝級ヲ表スル時. Россія обши́рнѣе всѣхъ госуда́рствъ въ свѣтѣ (露西亞ハ世界ニ於ケル諸國中最モ廣大ナリ).

VII. 否定生格 (роди́тельный отрица́тельный) 此生格ハ否定文句ニ於テ使用セラル 1. 無人稱文句ニ於テハ名格ノ代リニ (§ 148, 7-9) 2. 自動詞ト共ニシテハ (§ 151, III, 1) 役格ノ代リニ使用セラル

VIII. 其外此生格ハ請願、願望、恐怖等ヲ表スル動詞ト共ニ 使用セラル、次ノ諸動詞ノ如キハ殊ニ屢々此生格ヲ使用ス

алка́ть чего? Хи́щный зве́рь *а́лчетъ* кро́ви (肉食獸ハ生血ヲ渇望ス).

бере́чься кого? чего? *Берети́сь э́того* челове́ка (此人ヲ用心セヨ). *Берегись* просту́ды (感冒ヲ用心セヨ).

боя́ться кого? чего? Одна́ япо́нская посло́вица у́читъ бо́лѣе всего́ *боя́ться* земле́трясе́нія, гро́ма, пожа́ра и отца́ (或ル日本ノ諺ハ何ヨリ多ク地震、雷、火事、親父ヲ恐ルベキヲ教フ).

гнуша́ться кого? чего? Онъ *насъ гнуша́ется* (彼ハ我等ヲ嫌忌ス). Благочести́вый *гнуша́ется поро́ка* (敬虔ナル人ハ罪惡ヲ嫌忌ス). 2.—кѣмъ? чѣмъ? Ка́ждый *гнуша́ется* неблагода́рностью (誰シモ恩知ラズヲ嫌惡ス).

держа́ться кого? чего? *Держи́тесь э́того* господи́на (此人ノ方針ニ從ヘヨ). Онъ *де́ржится* стари́нныхъ обы́чаевъ (彼ハ古風ヲ保守ス). 2.—за кого, за что? *Держи́тесь за меня́* (我レニ攀マレヨ).

дичи́ться кого? чего? Онъ *дичи́тся* люде́й (彼ハ人々ニ臆ス). Она *дичи́тся* о́бщества незнако́мыхъ люде́й (彼女ハ未知人ノ集會席ヲ臆シ避ク).

добива́ться, доби́тся чего? Онъ *добива́лся э́того* ме́ста (彼ハ此役ヲ手ニ入レタリ. 強テ願ヒ此役ニ有リツキタリ).

дожида́ться, дожда́ться кого? чего? Онъ *дожи́дается* сестры́ (彼ハ姉妹ヲ待明カシ居ル). Наконе́цъ мы *дождали́сь* пого́ды (終ニ我等ハ天氣ヲ待通シテ之ニ達シタリ).

§ 151, III, 4

дойски́ваться,-ка́ться чего? Онъ *дойски́вается* пра́вды въ э́томъ де́лѣ (彼ハ此事件ニ就キテ正義ニ到達セント欲ス).

домога́ться,-мо́чься=добира́ться

допы́тываться,-та́ться = доискиваться

достига́ть -гнуть чего? Онъ *дости́гъ* свое́й цѣ́ли (彼ハ其目的ニ達セリ).

жа́ждать чего? Челове́къ *жа́ждетъ* позна́нія (人ハ知識ヲ渇望ス).

жале́ть, по—чего? Онъ *жале́етъ* ка́ждой копѣ́йки (彼ハ一錢ヲモ吝ム). 2.—о комъ? о чемъ? (=сожале́ть) Она *жале́етъ о* несча́стномъ сы́нѣ (彼女ハ不幸ナル子ノ事ヲ哀惜ス). Онъ *жале́етъ о* поте́рянныхъ вещахъ (彼ハ遺失品ノ事ヲ吝ム). 3. кого? Онъ *жале́етъ* свою́ сестру́ (彼ハ其姉妹ヲ惜ム).

ждать кого (役格), чего? § 151, III, 4

испра́шивать чего? испроси́ть что? § 151, III, 4

испуга́ться кого, чего? *Чего испуга́лась* ло́шадь? (馬ハ何ヲ驚キシヤ)—Она *испугалась насъ* (彼女ハ我等ヲ恐レ駭キタリ).

касаться § 116, IV, 9

лиша́ть,—ши́ть кого (役格), чего? Онъ *лиши́лъ* ста́рша*го* сы́на насле́дства (彼ハ長男ニ遺産相續權ヲ剝奪セリ);—ся кого (生格), чего? Онъ *лиши́лся* роди́телей ещё въ де́тствѣ (彼ハ未タ幼時ニ於テ兩親ヲ失ヘリ). Онъ *лиши́лся* насле́дства (彼ハ遺産相續權ヲ失ヘリ).

ожида́ть кого (役格), чего? § 151, III, 4

опаса́ться кого, чего? Она *опаса́ется* незнако́мыхъ люде́й (彼女ハ未知人ニ對シ危險ヲ抱ク).

осл(у́)шиваться,-шаться кого, чего? Она *осл(у́)шалась* ма́тери, ея́ приказа́нія (彼女ハ母ノ命令ニ背ケリ).

остерега́ться,-ре́чься кого, чего? *Остерега́йтесь* своего́ сосѣ́да (自分ノ隣人ヲ用心セヨ). *Остерега́йтесь* просту́ды (感冒ヲ用心セヨ).

приде́рживаться чего? *Приде́рживайтесь* по́длинника (原文ニ從ヘヨ、原文ヲ離ルヽ勿レ).

причаща́ться,-части́ться чего? *Я причасти́лся* вчера́ Святы́хъ Та́инъ (我ハ昨日聖機密ヲ領ス「聖機密トハ基督ノ血肉ヲ食スル教會ノ儀式ナリ」).

проси́ть, по—чего у кого? 及 кого (役格) о чемъ § 116, VIII, 9

пуга́ться = испуга́ться

слу́шаться, по—кого, чего? Онъ всегда *слу́шается* своего́ отца́ (彼ハ常ニ其父ニ服從ス). *Слу́шайтесь* до́брыхъ сове́товъ (善良ナル諫告ヲ順守セヨ).

со́вѣститься кого? чего? Онъ *со́вѣстится насъ* (彼ハ我等ニ對シテ愧ヲ感ス).

сто́ить § 151, III, 5.

страши́ться чего? Онъ *страши́тся* встрѣ́чи съ отцо́мъ (彼ハ父ニ出逢フコヲ畏ル).

стыди́ться кого? чего? Онъ *стыди́тся меня́* (彼ハ我ヲ耻ツ). Че́стный челове́къ *стыди́тся* лжи (清廉ナル人ハ虚僞ヲ耻ツ).

тре́бовать § 151, III, 5.

тру́сить чего? *Чего* онъ *тру́ситъ*? (彼ハ何ヲ臆スルヤ).

удаля́ться кого, чего? *Удаля́йтесь* дурны́хъ това́рищей (惡友ヲ遠ケヨ).

ужаса́ться,-сну́ться чего? Я *ужаса́юсь* (=боюсь) его гнѣ́ва (我ハ彼レノ怒ヲ恐怖ス); 2—чему? Я *ужасну́лся* (=удиви́лся) его гнѣ́ву (我ハ彼レノ怒ヲ怪天セリ).

ча́ять чего? Христіане *чаютъ* воскресе́нія ме́ртвыхъ (基督敎徒ハ死者ノ復活ヲ信望ス).

чужда́ться кого, чего? Онъ *чужда́ется* люде́й (彼レハ人々ヲ避ケ厭フ).

удосто́ивать,-сто́ить кого (役格), чего, чѣмъ? *Его удосто́или* награ́ды 或ハ награ́дою (彼レニ賞ヲ授與セリ). Онъ *удосто́илъ меня́* свои́мъ посѣще́ніемъ (彼ハ我ニ訪問ヲ賜ヘリ、我ハ彼レノ來訪ヲ辱フセリ).

備考 1. 凡テ此種ノ動詞ヨリ生ゼシ名詞ハ動詞ト同ジク生格ヲ要求ス、例ハ домога́тельство мѣ́ста (地位ノ强請), достиже́ніе цѣ́ли (目的ノ通達), жела́ніе сча́стья (幸福ノ願望), лише́ніе насл҃дства (遺産剝奪), ожида́ніе письма́ (信書待望), тре́бованіе де́негъ (金錢請求) 等ナリ、變化セザル名詞 жаль (＝жа́лко) モ此種ニ屬ス жаль чего,—кого (生格ト與格)? Жаль (жа́лко) де́негъ (錢ハ吝シ), жаль (жалко) сестры́ 或ハ сестру́ (姉妹ハ可哀ソウナリ).

備考 2. 上述ノ動詞ト同一ノ語根ヲ有スル形容詞 досто́йный (適當ノ、價値アル) 及 чу́ждый (疎遠ナル、關係ナキ). Вашъ братъ *досто́инъ* награ́ды (汝ノ兄弟ハ賞ヲ受クベキ價値アリ). Благоро́дный челоѣкъ *чуждъ* за́висти и ле́сти (君子ハ猜忌ト諂諛ナシ).

§ 157. 與 格 (Да́тельный паде́жъ)

與格ハ前置詞 къ § 117, по § 127, I 及或ル副詞 (§ 132, 2) ト共ニシテ使用セラル、前置詞ト共ニセザル與格ハ事物ニ物ヲ傳ヘ、物ヲ附シ、事ヲ行フ等ノ場合ニ使用セラル、尙之ヲ細說スレバ次ノ如シ

1. 自動詞ト共ニシテ、事ヲ行フベキ事物ニ對スルヲ表ス、*Да́йте* мнѣ ту книгу. *Скажи́те* объ э́томъ ва́шему бра́ту. Онъ подро́бно *объясни́лъ* намъ э́то пра́вило (彼ハ此規則ヲ我等ニ精シク說明セリ).

2. 自動詞ヨリ生ゼシ或ル名詞ニ用フ、此與格ハ生格ノ代リニ使用セラルヽガ故ニ生格ヲ用フルモ可ナリ、實ハ文意中ニ於テ此與格ニ對スル形動詞「行ハレタル」「任定セラレタル」「備ヘラレタル」等ヲ包有シテヽ與格ハ之ニ支配セラルヽニ過ギズ、例ハ

окончить дѣло 業ヲ終ル окончáніе дѣ́ла 或ハ дѣ́лу 業ノ完結

смотрѣ́ть во́йско 軍隊ヲ檢閱ス смотръ во́йска 或ハ во́йску 軍隊檢閱

счита́ть расхо́ды 支出ヲ計算ス счётъ расхо́дов҃ъ 或ハ расхо́дамъ 支出計算

цѣни́ть ве́щи 物品ニ價ヲ附ス цѣна́ вещей 或ハ вещам҃ъ 物品代價

其外、生格ノ代リニ與格ヲ使用スルハ次ノ名詞等ナリ、жа́лованье служи́телю (служи́теля) (小使ノ俸給), нача́ло заня́тіямъ (занятій) (業務ノ始), причи́на нѣсча́стію (нѣсчастія) (不幸ノ原因), смѣ́та расхо́дамъ (расхо́дов҃ъ) (支出ノ合計), спи́сокъ ученика́мъ (ученико́в҃ъ) (生徒ノ姓名表).

3. 自動詞ヨリ生ゼシ名詞 благодаре́ніе (感謝), благода́рность (謝意), похвала́ (贊譽), привѣ́тствіе (挨拶) ニ對スル名詞ヲ與格ト爲ス此與格ハ本來生格ノ代リニ使用セラルヽナリ (§156,II,2). 此名詞ノ傍ニ立ツ所ノ人稱ハ造格タラズシテ生格トナル、例ハ Учи́тель *хва́литъ* ученика́.—*Похвала́* учи́теля ученику́ (生徒ニ對スル敎師ノ稱贊). Братъ *благодари́тъ* васъ.—*Благода́рность* бра́та *вамъ* (貴君ニ對スル兄弟ノ謝意). Онъ *привѣ́тствуетъ* васъ.—Его́ *привѣ́тствіе вамъ* (貴君ニ對スル彼ノ挨拶).

4. 動詞 быть ト共ニシテ、一ノ生物ガ他ノ生物ニ關スルノ意ヲ表スル場合ニ於テス、若シ此二物間ニ親族、友誼等ノ關係ヲ表スル際ニハ人代名詞ノ代リニ物主代名詞ヲ使用スルコヲ得ベシ、又或ル場合ニ於テハ與格ノ代リニ生格ヲ使用スルコアリ、Онъ *мнѣ* дя́дя (彼レハ我ニハ伯父ナリ)=Онъ *мой* дя́дя (彼ハ我ガ伯父ナリ). Онъ *ему* (=его) товарищъ (彼ハ彼ニハ同僚ナリ). Онъ *намъ* (*нашъ*) ро́дственникъ (彼ハ我等ニハ親戚ナリ). Она подру́га мое́й сестрѣ=(мое́й сестры́) (彼女ハ我ガ姉妹ノ親友ナリ). Онъ хозя́инъ сосѣ́дне*му* до́му (=сосѣ́дня*го* до́ма) (彼レハ隣家ノ主人ナリ). Она наслѣ́дница большо́*му* имѣ́нію (=большо́*го* имѣ́нія) (彼女ハ廣大ナル田地ノ相續者ナリ)

5. 自動詞 брать (取ル), покупа́ть (買フ), получа́ть (得ル) 等ト共ニスル再歸代名詞ハ與格ト成ル、例バ Я *купи́лъ себѣ́* но́вую кни́гу (我ハ自分ノ爲ニ新書ヲ買ヘリ). Онъ *стро́итъ себѣ* но́вый домъ (彼レハ自分ノ爲ニ新家屋ヲ建ツ). *Возьми́те себѣ́* э́ту кни́гу (此書ヲ自分ノ爲ニ持往ケヨ).

6 俗語ニ於テ再歸代名詞 себѣ ヲ諸種ノ動詞ノ現在ト共ニ使用シテ其動作ノ人ガ一物ニノミ屬托シ餘事ニ傾意セザルヲ表ス例ハ Всѣ гото́вятся къ экза́менамъ, а онъ разгу́ливаетъ *себѣ́* (皆ナ試驗ノ準備ヲ爲スモ、彼レノミハ獨リ遊ビ居ル). Около него́ игра́ютъ де́ти и мѣша́ютъ ему́, а онъ рабо́таетъ *себѣ́* да рабо́таетъ (彼ノ周邊ニテ兒童等ハ戲レ且ツ彼ニ妨グレモ、彼ハ切リニ勞役ス)

7. 無人稱文句ニ於テハ殊ニ屢々與格ヲ使用ス、斯カル際ノ與格ハ時トシテ名格ニ變更セラルヽヲ得ベシ § 148,4,13,14

8. 間投詞及ビ間投詞ノ意義ヲ以テ使用セラルヽ名詞ト共ニ與格ヲ使用スルコ多シ、Увы́ *намъ*! (嗚呼悲シ我等ノ身ヤ). Спаси́бо *вамъ*! (貴君ノ厚意辱ケナシ). Сла́ва Бо́гу! (難有ヤ). Го́ре *намъ* тепе́рь! (今ヤ我等ハ禍ナリ)

9. 次ノ形容詞ト共ニ使用セラル

благода́рный. Я о́чень *благода́ренъ вамъ* за э́ту услу́гу (此世話ノ爲メニ我ハ大ニ貴君ニ感謝ス).

до́лженъ. Онъ *до́лженъ* отцу́ ты́сячу рубле́й (彼ハ父ニ千ルーブル借金ス).

ми́лый. Э́тотъ ребёнокъ *милъ* всѣ́*кому* (此兒ハ誰レモ可愛ヲシ).

ну́жный. *Мнѣ ну́женъ* слова́рь (我ニ辭書ハ必要ナリ).

подо́бный. И *тому́ подо́бное* (其他之ニ類ス).

подходя́щій. Это дѣ́ло *мнѣ неподходя́щее* (此事業ハ我ニ適セザルモノナリ).

поле́зный. Морско́й кли́матъ *поле́зенъ* здоро́вью (=для здоро́вья) (海ノ空氣ハ健康ニ益アリ).

привы́чный. Это дѣ́ло *ему́ привы́чное* (此事業ハ彼ニハ慣熟ノモノナリ).

проти́вный Онъ *мнѣ противенъ* (彼ハ我ニ取リテハ嫌ヤラシキモノナリ。我ハ彼ヲ忌ミ嫌フ).

радъ. Я о́чень *радъ* его́ прі́ѣзду (我ハ大ニ彼レノ到來ヲ悦ブ).

чужо́й. Онъ *мнѣ* соверше́нно *чужо́й* (彼ハ我ニ取リテハ全ク他人ナリ).

10. 次ノ動詞ト共ニ與格ヲ使用ス

благоприя́тствовать кому, чему? въ чемъ? Онъ *благопріятствовалъ мнѣ* во всёмъ (彼ハ萬事ニ於テ我ヲ贔屓セリ).

божи́ться = кля́сться

вмѣня́ть,—ни́ть кому? во что? Я *вмѣняю себѣ* въ обя́занность испо́лнить это поруче́ніе (我ハ此委托ヲ遂行スル義務ヲ自身ニ負フ).

вреди́ть кому, чему? Онъ всегда́ *вреди́лъ мнѣ* (彼ハ常ニ我ニ害ヲ與ヘタリ).

вѣрить § 117. 8

груби́ть, на—кому? Этотъ ма́льчикъ ча́сто *грубі́тъ* своему́ учи́телю (此童子ハ屢々其教師ニ粗暴ヲ加フ).

дари́ть, по—кому что? Онъ *подари́лъ* дѣтямъ кни́ги (彼ハ小兒等ニ書籍ヲ賜與セリ). 2—кого (役格) чѣмъ? Не *дари́те* его деньга́ми, а како́ю-нибу́дь поле́зною ве́щью (金錢ヲ以テセズシテ何ニカ有益ナル品ヲ彼ニ惠與セヨ).

доброжела́тельствовать кому? Онъ *доброжела́тельствуемъ* всѣ́кому (彼ハ誰ニモ善ヲ望ム).

довѣря́ть,—рить кому въ чемъ? Я *довѣря́лъ ему́ во* всёмъ (我ハ萬事ニ於テ彼ヲ信用セリ).

досажда́ть,-сади́ть кому чѣмъ? Не *досаждай* отцу́ э́тою про́сьбою (此請願ヲ以テ父ヲ煩苦セシムル勿レ).

жа́ловаться, по—кому на кого? на что? Я *пожа́луюсь на васъ* отцу́ (我ハ父ニ汝ヲ訴フ). *На что* онъ *жа́луется*?—Онъ *жа́луется на* свою́ судьбу́ (彼ハ何ヲ訴フルヤ、彼ハ自身ノ運命ヲ怨訴ス).

зави́довать, по—кому? чему? Онъ *зави́дуетъ мнѣ* (彼ハ我ヲ羨ム). — *моему́* сча́стію (我ガ幸福ヲ羨ム).

задолжа́ть кому? Онъ *задолжа́лъ мнѣ* уже́ мно́го (彼ハ既ニ多ク我ニ借財ヲセリ).

запреща́ть, запрети́ть кому? Докторъ *запрети́лъ мнѣ* выходи́ть изъ ко́мнаты (醫者ハ我ニ室ヨリ出ヅルヲ禁ゼリ).

измѣня́ть,-ни́ть кому, чему? въ чемъ? Онъ *измѣни́лъ* товари́щамъ (彼ハ友人等ニ變節セリ). Вы *измѣни́ли* *своему́* обѣща́нію (貴君ハ自身ノ約束ニ違背セリ). Онъ *измѣни́лъ мнѣ въ* дру́жбѣ (彼ハ我ニ對シテ友誼ニ背ケリ).

изумля́ться,-ми́ться = удивля́ться

кла́няться, поклони́ться кому? *Кла́няйтесь* отъ меня всѣмъ роднымъ (凡テノ親族ニ我ヨリ宜敷申上被下度).

кля́сться, по—кому? въ чемъ? чѣмъ? Онъ *поклялся намъ въ э́томъ* (彼ハ我等ニ之ヲ誓ヒタリ). Не *кляни́тесь* ни не́бомъ, ни землёю (天ヲ指シ地ヲ指シテ誓フ勿レ).

льстить кому? *Ему* всѣ *льстятъ* (皆ナ彼ニ諂フ).

моли́ться, по—кому? *Моли́сь* Богу (神ニ祈レ).

мстить, ото—кому? за кого? за что? чѣмъ? Не *мсти* врага́мъ *зломъ за* ихъ зло (惡ヲ以テ敵ノ惡ニ報ユル勿レ).

мѣша́ть, по—кому, чему? Не *мѣша́йте мнѣ* (我ニ妨グル勿レ).

надоѣда́ть,—е́сть кому? чѣмъ? Онъ *надоѣлъ мнѣ* свои́ми про́сьбами (彼ハ其請願ヲ以テ我ニ厄介ヲ來セリ).

наску́чить кому, чѣмъ? Онъ *наску́чилъ мнѣ* своёю болтовнёю (彼ハ其空話ヲ以テ我ニ退屈ヲ來セリ).

научáть,—чи́ть = учи́ть

нрáвиться, по—кому? *Нрáвится* ли *вамъ* моя́ поку́пка (我ガ買物ハ貴君ニ適意セシヤ).

обѣщáть,—ся Онъ *обѣщáлъ мнѣ* прилти́ зáвтра (彼ハ明日來ルヲ我ニ約セリ).

обучáть,—чи́ть = учи́ть

опроти́вѣть кому? *Мнѣ опроти́вѣло* лекáрство (藥ハ我ニ嫌厭タリ).

откáзывать,—зáть кому въ чемъ? Онъ *отказáлъ мнѣ въ* пóмощи (彼ハ我ニ助力ヲ謝絕セリ).

повинováться кому въ чемъ? Онъ *во* всемъ *повинýется* своемý отцý (彼ハ一切其父ニ從順ス).

подверга́ться,—гнуться чему? *Подверга́ться* опáсности (危險ニ陷ル).

подлежáть чему? Онъ *подлежи́тъ* судéбной отвѣтственности (彼ハ法律上ノ責任ヲ有ス。彼ハ法律上ノ處分ヲ受クベシ).

подражáть кому въ чемъ? Она всегдá *подражáетъ* стáршей сестрѣ во всёмъ (彼女ハ常ニ一切姉ニ模倣ス).

понáдобиться. *Мнѣ* скóро *понáдобятся* (=нужны будутъ) дéньги (程ナク我ニ金錢ガ必要トナラン).

покоря́ться,—ри́ться кому, чему? въ чемъ? Онъ *покоря́ется* своéй женѣ во всёмъ (彼ハ一切其妻ニ服從ス).

покрови́тельствовать кому? Онъ всегдá *покрови́тельствуетъ* моемý брáту (彼ハ常ニ我ガ兄弟ヲ保護ス).

потакáть кому? *Потакáть* дѣтямъ врéдно (小兒ヲ甘ヤカスハ害ナリ).

предстоя́ть кому. *Ему предстои́тъ* возмóжность получи́ть нóвую дóлжность (彼ニハ新シキ役職ヲ得ルノ見込立ツ).

припоминáть,—мнить кому? что? Я *припóмню вамъ* вáши словá (我ハ貴君ノ約言ヲ貴君ニ思起サシメン).

присягáть,—гнуть кому? въ чемъ? *Присягáть* госудáрю *въ* вѣрности (忠貞ナルヲ國君ニ宣誓ス).

проти́виться кому? чему? Онъ *проти́вится э́тому* (彼ハ之ニ反對ス).

рáдоваться, об—кому? чему? Всѣ мы *обрáдовались* его пріѣзду (我等ハ皆ナ彼レノ到來ヲ悦ベリ).

служи́ть кому? Онъ стара́тельно *слýжитъ мнѣ* (彼ハ心ヲ盡シテ我ニ役ス).

слѣ́довать кому, чему? Дѣ́ти *слѣ́дуютъ* свои́мъ роди́телямъ (小兒等ハ其兩親ニ從フ). 2.—за чѣмъ. Дѣ́ти *слѣ́дом за* роди́телями (小兒等ハ兩親ノ後ニ隨ヒ往ケリ).

смѣ́яться, по—чему? Не *смѣ́йтесь* чужóму несчáстію (他人ノ不幸ヲ冷笑スル勿レ).
2.—надъ кѣмъ, надъ чѣмъ? Онъ постоя́нно *смѣ́ется надъ* тóбою (彼ハ常ニ汝ノ身ヲ嗤笑ス).

соболѣ́зновать кому, о чемъ? *Емý* всѣ *соболѣ́знуютъ о* смéрти его́ сы́на (彼ノ子ノ死去ニ就テ皆ナ彼ニ哀悼ヲ表ス).

содѣ́йствовать, по—кому, чему? въ чемъ? Онъ *содѣ́йствовалъ мнѣ въ э́томъ дѣ́лѣ* (此事ニ關シテ彼ハ我ニ助力セリ). Тёплая пого́да *содѣ́йствуетъ* урожа́ю (溫暖ノ天氣ハ豐作ニ効アリ).

сопу́тствовать кому? *Ему́ сопу́тствуютъ* друзья́ его (彼ノ朋友等ハ彼ヲ祖道セリ).

сочу́вствовать кому, чему? въ чемъ? *Въ э́томъ* я вполнѣ́ *сочу́вствую вамъ* (此事ニ關シテハ我ハ全ク貴君ニ同感ヲ表ス). *Э́тому дѣ́лу* ка́ждый *сочу́вствуетъ* (此事ニハ誰シモ同感ヲ表ス).

спосо́бствовать кому, чему? въ чёмъ? Онъ *спосо́бствовалъ мнѣ во мно́гихъ дѣ́ла́хъ* (彼ハ多クノ事ニ於テ我ヲ助ケタリ). Прогу́лка *спосо́бствуетъ* пищевре́нію (遊歩ハ消化ヲ助ク).

удивля́ться,—ви́ться кому, чему? *Я удивля́юсь вамъ* (我ハ汝ニ奇異ヲ抱ク). *Чему́* вы *удивля́етесь*? (汝ハ何ヲ奇トスルヤ)

удовлетворя́ть,—ри́ть чему? *Я удовлетвори́лъ* его любопы́тству (我ハ彼ノ好奇心ヲ滿足セシメタリ). 2—кого, что? Онъ *удовлетвори́лъ* свои́хъ должнико́въ (彼ハ其債權者ヲ滿足セリ),—всѣ ихъ тре́бованія (彼等ノ請求ヲ滿足セリ). 3—кого въ чемъ? Онъ *удовлетвори́лъ* свои́хъ должнико́въ *въ* ихъ тре́бованіяхъ (彼ハ其債權者ノ請求ヲ滿足セリ).

уступа́ть,—пить кому? въ чемъ? Она *уступа́етъ* своему́ му́жу *во* всёмъ (彼女ハ一切其夫ニ讓歩ス).

у́чи́ть, об—, на—кого чему? Онъ *учи́лъ меня́* ру́сскому языку́ (彼ハ我ニ露語ヲ教ヘタリ). Челове́ка всему́ *обучи́ть* мо́жно (人ニハ何ヲモ教授スルヲ得ベシ). Онъ *научи́лъ* меня этому (彼ハ我ニ之ヲ教ヘタリ). 2—учи́ть, изуча́ть что? Онъ *у́читъ* свой уро́къ (彼ハ自分ノ課業ヲ自修シテ居ル). *Мы* изуча́емъ мно́гія нау́ки (我等ハ多クノ科學ヲ學ヒ居ル).

учи́ться, на—обуча́ться чему? у кого? *Чему́* ты *у́чишься* (*обуча́ешься*) *у* бра́та? (汝ハ何ヲ兄弟ニ習ヒ居ルヤ)—*У* бра́та я *учу́сь* (*обуча́юсь*) языка́мъ, а *у* сестры́ му́зыкѣ (我ハ兄弟ニ語學ヲ習ヒ、姉妹ニ音樂ヲ習フ).

備考、此種ノ動詞ヨリ生ゼシ名詞ハ與格ヲ要求ス、例ハ Пода́рокъ дѣ́тямъ (小兒ヘノ進物). Жа́лоба нача́льству (長官ニ歎願). Его долгъ *мнѣ* о́чень вели́къ (我ニ對スル彼レノ負債ハ甚タ大ナリ). Изме́на това́рищамъ (同僚ニ對スル變心). Покло́нъ родны́мъ (親族ニ對シテノ挨拶)等ナリ但シ或ル名詞ニ限リテ前置詞 къ (§ 117,8) ヲ要求スルコアリ、又名詞 вѣ́ра ハ 前置詞 въ ヲモ要求ス (§ 124,I,12). Вѣ́ра къ лю́дямъ, (人ニ對スル信用), вѣ́ра въ люде́й (人ニ對スル信念), вѣ́ра въ Бо́га (神ニ對スル信仰).

§ 158. 役 格 (Вини́тельный падежъ)

役格ハ前置詞 про, чрезъ, сквозь (§ 118), за (§ 121, I), подъ (§ 122, I), передъ (§ 123, I), въ (§ 124, I), на (§ 125, I), о (§ 126, I), съ (§ 128, II), по (§ 127, II) 及ヒ或ル副詞 (§ 132, 3) ト共ニ使用セラル.

前置詞ナクシテ役格ヲ使用スル場合ハ次ノ如シ

1. 否定ヲ有セザル自動詞ト共ニスル直補語ハ役格ト成ル (§ 151, II, III).

2. 中動詞ト共ニシテ сколько? ノ問ニ應スル一定ノ距離ハ役格ト成ル. 但シ此役格ハ副詞ノ如キ意ニテ使用セラル、Я шёлъ пѣшкомъ только одну́ версту́, а онъ три (我ハ一里ノミヲ徒歩シテ往キシモ彼ハ三里ヲ徒歩セリ). Цѣ́лую версту́ мы бѣжа́ли (全一里ヲ我等ハ走レリ). Мы ѣхали па́гомъ всѣ 10-*ть* вёрстъ (我等ハ全十里ヲ並足ニテ騎行セリ).

3. 自動詞及中動詞ト共ニシテ事物ノ行ハル、間ノ經過時ヲ役格ト爲ス此役格ハ副詞ノ意義ニテ使用セラル、例ハ Цѣ́лый (весь) часъ, весь день, цѣ́лую недѣ́лю, весь годъ 等ノ如シ、Я пробылъ у нихъ цѣ́лую (всю) недѣ́лю (我ハ彼等ノ處ニ全一週間ヲ滯在シタリ). Мы ѣхали цѣ́лыхъ два часа́ (我等ハ全二時間乘行ケリ)

4. 動詞 вѣ́сить ト共ニスル名詞 вѣсъ ハ役格ト成ル (前置詞 § 124, I, 8 參照) 例ハ Мой чемода́нъ вѣ́силъ 3 пу́да (我ガ鞄ハ三貫ノ目方ヲ有ス).

5 「今ヨリ以前」(тому́ наза́дъ) 幾許ト云フ場合ノ一定ノ時日ヲ役格ト爲ス、此役格モ副詞ノ意義ニテ使用セラル、Онъ у́меръ годъ *тому́ наза́дъ* (彼ハ今ヨリ一年以前ニ死セリ). Онъ у́ѣхалъ лишь пять мину́тъ *тому́ наза́дъ* (彼ハ五分前ニ出立セシノミ).

6. 俗語及韻文ニ於テ、中動詞ト共ニスル名詞 (其動詞ト同一ノ語根ヨリ生ゼシ名詞) ヲ役格ト爲ス、годъ *годова́ть* (一年ヲ過ゴス) ночь *ночева́ть* (一夜ヲ宿泊ス), зи́му *зимова́ть*

§ 159 造 格 (Твори́тельный паде́жъ)

造格ハ前置詞 надъ (§ 119), за (§ 121, II), подъ (§ 122, II), съ (§ 128, III) 及或ル副詞 (§ 132, 45) ト共ニ使用セラル.

前置詞ナクシテ造格ヲ使用スル場合ハ次ノ如シ

1. 被動詞ヲ使用ノ際ニ於テ被動ヲ與フル人物ヲ造格ト爲ス、此造格ハ談話ニ於テハ用フルヿ稀ニシテ多クハ名格ヲ以テ之ニ代ヘ且ツ被動詞ヲ自動詞ニ變ズ Эта кни́га уже́ *прочи́тана мно́ю*. = Э́ту кни́гу я уже́ прочита́лъ.

2. 動作ヲ行フ所ノ方法或ハ器具ヲ造格ト爲ス Человѣ́къ *размышля́етъ* умо́мъ, *говори́тъ* устомъ, *смо́тритъ* глаза́ми, *слу́шаетъ* уша́ми (人ハ智力ニテ思想シ口ニテ言ヒ目ニテ見、耳ニテ聽ク). Онъ *на́жилъ* своё состоя́ніе торго́вле*ю* (彼ハ貿易ニテ自身ノ財產ヲ蓄ヘタリ). Мы *мо́емся*, водо́ю, *утира́емся* полоте́нцемъ и *че́шемся* гребешко́мъ (我等ハ水ニテ身ヲ洗ヒ手拭ニテ拭キ櫛ニテ梳ル).

備考 1 動作ノ用具ヲ表スル名詞ハ造格ノミナラズ役格ト モ成ル、勿論斯カル造格ト役格トノ差異ハ幾分カ語氣ニ存ス、例ハ Онъ бро́силъ ка́мнемъ въ соба́ку (彼ハ犬ニ石ヲ投ゼリ) Онъ бро́силъ ка́мень въ соба́ку (兩文句ノ意義ハ殆ト同一)

бры́згать водо́ю—бры́згать во́ду (水ヲ振リ掛ケル), вертѣ́ть шля́пою—вертѣ́ть шля́пу (帽子ヲ振リ廻ハス), трясти́ голово́ю—трясти́ го́лову (頭ヲ振ル).

備考 2. 無人稱動詞ヲ人稱動詞ニ變ズレバ用具ヲ表スル造格ハ名格ト成ルベシ § 148, 3

3. 客語ガ合成的(即チ動詞 быть ト共ニ立ツ)タル際ニ主語ノ偶然的、一時的狀態ヲ表セン爲ニ造格ヲ用フ、 Человѣкъ *бываетъ* младе́нцемъ, о́трокомъ, ю́ношею, му́жемъ и ста́рцемъ (人ハ嬰兒、童子、少年、壯年、老人ト成ル).

4. 事物ノ一時的狀態ヲ表スル爲ニ造格ヲ使用ス、斯カル場合ニハ常ニ省約法ヲ施シテ(即チ動詞ヲ省略シテ)二文句ヲ合一ス、例ハ Я ви́дѣлъ его́ счастли́вымъ (我ハ彼レノ幸福ナリシヲ見タリ).=Я ви́дѣлъ его, когда́ онъ былъ сча́стливъ (彼ガ幸福タリシ時ヲ我ハ見タリ). Я заста́лъ его здоро́вымъ (我ハ彼レノ壯健ナルニ遭遇セリ). Я по́мню васъ ма́ленькимъ (=когда вы были ма́ленькимъ) (我ハ貴君ノ幼少ナリシ時ヲ記憶ス).

5. 次ニ記スル諸形容詞ヲ以テ事物ノ性質ヲ表示スル際、偖シ此際ノ造格ハ性質生格 (§ 156, III) ニ變更スルヲ得ベシ

блѣ́дный. Ваша́ сестра́ *блѣдна́* лицо́мъ (貴君ノ姉妹ハ顔蒼シ).

бога́тый. Индія *бога́та* всѣ́ми дара́ми приро́ды (印度ハ天産物ニ富ム).

больно́й. *Чѣмъ* онъ *бо́ленъ*?—Лихора́дкою (彼ハ何ヲ病ムヤ、感冒ヲ). Кто *бо́ленъ* душе́ю и тѣ́ломъ, тому́ жизнь не весела́ (心ト體ニ病ヲ感スル者ノ生活ハ樂シカラズ).

вели́кій. Онъ *великъ* тѣ́ломъ, но не ве́ликъ дѣ́ломъ (彼ハ體ヲ以テハ大ナレ𪜈、事業ヲ以テハ大ナラズ).

высо́кій. Вашъ братъ *высо́къ* ро́стомъ (=высо́каго ро́ста) (汝ノ兄弟ハ身丈高シ).

ди́кій Онъ соверше́нно *дикъ* нра́вомъ (=ди́каго нра́ва) (彼ハ全ク氣習粗鄙ナリ).

добрый Она *добра́* се́рдцемъ (=до́браго се́рдца) (彼女ハ心、善良ナリ).

довольный. Я всѣмъ *дово́ленъ* (我ハ一切滿足ナリ). Онъ ничѣ́мъ *не дово́ленъ* (彼ハ何事ニモ滿足セズ).

знамени́тый. Онъ *знаменитъ* свои́ми заслу́гами (彼ハ其功勞ヲ以テ有名ナリ).

зна́тный Онъ *зна́тенъ* пре́дками, но не ли́чными заслу́гами (彼ハ自己ノ功ニ非ラズシテ先祖ノ功ニテ地位高シ).

извѣ́стный. Сиби́рь *извѣстна* оби́ліемъ пушны́хъ звѣре́й (西伯利亞ハ毛深キ獸ノ多キヲ以テ名高シ).

изоби́льный Эта страна́ *изоби́льна* лѣсны́ми бога́тствами (此國ハ林產ニ富ム).

кра́сный. Долгъ *кра́сенъ* плате́жомъ (借金ハ返濟ヲ以テ美ナリトス[諺]).

кро́ткій. Она *кротка́* нра́вомъ (=кро́ткаго нра́ва) (彼女ハ氣風溫和ナリ).

круто́й. Онъ *крутъ* нра́вомъ (=круто́го нра́ва) (彼レハ氣風急激ナリ).

кре́пкій. Лишь лю́ди *крѣпкіе* здоро́вьемъ (=кре́пкаго здоро́вья) мо́гутъ вы́нести такіе труды́ (强壯ナル人ノミ斯カル難業ヲ忍フヲ得ベシ).

ма́лый. Онъ *малъ* ро́стомъ (=ма́лаго ро́ста) (彼ハ身ノ丈短小ナリ).

ни́зкій. Она *низка́* ро́стомъ (=ни́зкаго ро́ста) (彼女ハ身ノ丈低シ). Онъ *ни́зокъ* душо́ю (=ни́зкой душо́й) (彼ハ心卑劣ナリ).

сла́бый. Она *слаба́* здоро́вьемъ (сла́баго здоро́вья) (彼女ハ健康虛弱ナリ).

сла́вный. Онъ *сла́венъ* свои́ми по́двигами (彼ハ其勳功ヲ以テ榮名アリ).

ста́рый. Онъ *старъ* года́ми (=ста́рыхъ *лѣтъ* (彼ハ高齡ナリ).

чи́стый. Ребёнокъ *чистъ* душо́ю (孩兒ハ心清シ)

6. 動態ヲ表スル=造格ヲ使用ス、какъ? какимъ о́бразомъ? (如何ニシテ) ノ問=應スル際、多クノ名詞ハ造格ト成ル、此造格ハ副詞ノ體ニテ使用セラル Мы пришли́ *пѣшко́мъ* (我等ハ徒歩シテ來レリ). Онъ прі́ѣхалъ верхо́мъ (彼ハ騎馬ニテ來レリ). Ло́шадь бѣжа́ла ры́сью (馬ハ駈足ニテ走ル) Солда́ты вы́строились ряда́ми (兵卒ハ列ヲ作リ整立セリ). Мали́на растётъ куста́ми (莓ハ株ヲ成シテ發生ス).

7. 次ノ語ハ副詞ノ體ヲ成シテ造格=立ツ

длино́ю (*въ* длину́ (長サハ), широ́ю (*въ* ширину́ (幅ハ), толщино́ю (*въ* толщину́) (太サハ). вышино́ю 或ハ высото́ю (*въ* вышину́, *въ* высоту́) (高サハ), вѣ́сомъ (重量ハ), цѣно́ю (代價ハ) § 124, I, 7-9.

8. 經路ヲ表スル副詞ノ體ニテ造格ヲ以テスルコアリ. Мы *пѣхали* мо́ремъ, водо́ю, сухи́мъ путёмъ, лѣ́сомъ, луга́ми, поля́ми, бе́регомъ 等 (我等ハ海、水路、陸路、林中、牧草場、田野、沿岸ヲ經テ來レリ).

9. когда́? ノ問=應シテ四季、朝夕等ノ時期ヲ表ス名詞ヲ副詞體=シテ造格ト爲ス весно́ю (春=), лѣ́томъ (夏=), о́сенью (秋=). зимо́ю (冬=), у́тромъ (朝=). днёмъ (晝=), ве́черомъ (晩=), вечёрнею поро́ю (晩刻), но́чью (夜=).

10. 副詞ノ體ヲ爲ス所ノ比較 (何々ヨリ多シ或ハ少ナシ) ノ際、造格ヲ使用ス、此造格ヲバ役格前置詞 на (§ 125, I, 11) ヲ以テ變更スルヲ得ベシ. Онъ ста́рше меня́ *двумя́* года́ми (=*на* два го́да)(彼ハ我ヨリ二年長ズ). Утромъ бы́ло тремя́ гра́дусами (=*на* три гра́дуса) холодне́е, чѣмъ вчера́ (今朝ハ三度ダケ昨日ヨリ寒冷ナリシ). Вашъ чемода́нъ пятью́ фу́нтами (*на* пять фу́нтовъ) тяжеле́е моего́ (貴君ノ鞄ハ我レノヨリ五斤重シ).

備考 若シ面積、距離、里程等ノ比較ニ關スル時ハ役格前置詞 на § ノミヲ使用シ、若シ「幾倍多シ或ハ少シ」ト云フ場合ニハ役格前置詞 въ § ノミヲ使用ス.

11. 類比ノ際ニ於テ接續詞 какъ (ノ如ク) ヲ省略スル時ハ名格ノ代リニ造格ヲ使用ス. Онъ звѣ́remъ (=какъ звѣрь) бро́сился на своего́ врага́ (彼ハ猛獸ノ如ク其敵ニ投入セリ). Онъ стрѣло́ю вылетѣлъ (=какъ стрѣла́ вылета́етъ) изъ ко́мнаты (彼ハ箭ノ如ク室ヨリ飛出タリ). Выть во́лкомъ.=Выть, какъ во́етъ во́лкъ (狼ノ如ク吼ユ). Ревѣ́ть коро́вою.=Ревѣ́ть, какъ ревётъ коро́ва (牛ノ如ク吼ユ).

備考 俗語ニ於テハ强度ヲ表スル爲ニ斯カル造格ニ同一ノ名詞 (名格ニ立チテ) ヲ重子テ用フ. Онъ живётъ свинье́й (какъ свинья́).—Онъ живетъ свинья́-свинье́й (彼ハ丸ルデ豕ノ如クシテ住ム). Братъ у него́ дура́къ-дурако́мъ (彼ノ兄弟ハ大馬鹿ナリ).

備考 同樣ニシテ俗語ニ於テハ最勝級ヲ表スル爲ニ副詞ト同一語根ノ形容詞ヲ重子用フ. Это было давны́мъ-давно́ (是レハズット前ニ在リシ). Наро́ду бы́ло полны́мъ-полно́ (大一杯ノ群集ナリシ).

12 次ノ諸動詞及ビ同一語根ノ名詞ハ造格ヲ要求ス

божи́ться = кля́сться
быть, бывать § 146; I, II
владѣ́ть кѣ́мъ, чѣ́мъ? Онъ *владѣетъ* собо́ю (彼ハ自身ヲ制御ス). Онъ *владѣетъ* да́ромъ сло́ва (彼ハ辯才ヲ有ス). Онъ вполнѣ́ *владѣетъ* ру́сскимъ языко́мъ (彼ハ露語ニ熟達ス、彼ハ巧ニ露語ヲ操ツル).
волнова́ться чѣ́мъ 或ハ изъ-за чего? Онъ *волну́ется* вся́кою бездѣ́лицею (= *изъ-за* вся́кой бездѣ́лицы) (彼ハ些細ノ事ニテ心悸ヲ鼓動ス).
восхища́ться чѣ́мъ?. Мы *восхища́лись* захо́домъ со́лнца (我等ハ太陽ノ沒入ヲ見テ感ニ入リタリ).
гнуша́ться § 156, VIII
горди́ться кѣ́мъ, чѣ́мъ? Она *горди́тся* свои́ми дѣ́тьми́ (彼女ハ其小供等ヲ以テ自慢セリ). Онъ горди́тся свои́мъ происхожде́ніемъ (彼ハ自身ノ素性ヲ誇ル).
довóльствоваться, у—чѣ́мъ? Онъ довóльствуется ма́лымъ (彼ハ小分ヲ以テ自ラ足レリトス、彼ハ多量ヲ求メズ).
дорожи́ть кѣ́мъ, чѣ́мъ? Онъ *нами* не *дорожи́тъ* (彼ハ我等ヲ大切ニセズ). Я *дорожу́* знако́мствомъ съ нимъ (我ハ彼レトノ知遇ヲ貴重ス).
дыша́ть, по—чѣ́мъ? Мы *ды́шемъ* во́здухомъ (我等ハ空氣ヲ呼吸ス).
дѣ́латься = сдѣ́латься
же́ртвовать, по—чѣ́мъ на что? Ру́сскіе неоднокра́тно *же́ртвовали* свое́ю жи́знью (= свою жизнь) на защи́ту оте́чества (露人ハ一度ナラズ其生命ヲ生國ノ防禦ノ爲ニ犧牲ニ供シタリ). 2—что? Онъ *пожертвовалъ* на бѣ́дныхъ (= для бѣ́дныхъ, бѣ́днымъ) 5-*ть* рубле́й (彼ハ貧困者ノ爲ニ五ルーブルヲ義捐セリ)
жить чѣ́мъ? на что? Она *живётъ* свои́ми труда́ми, а ея сестра́ *на* сре́дства бра́та (彼女ハ自身ノ勞働ニテ生活シ、其姉妹ハ兄弟ノ厄介ニ成リ居ル).
забавля́ться,—виться чѣ́мъ? *Забавьте* дѣте́й чѣ́мъ-нибу́дь (小供等ヲ何ヲ以テナリトモ樂マシメヨ、何ヲ以テトリト小供ノ機嫌ヲ取レヨ). На кани́кулахъ мы *забавля́лись* лишь прогу́лками (暑中休暇ニハ我等ハ遊歩ノミヲ以テ樂ミタリ).
завладѣ́ть кѣ́мъ, чѣ́мъ? Онъ соверше́нно *завладѣ́лъ* мои́мъ бра́томъ (彼ハ全ク我ガ兄弟ヲ手ノ内ニ入レタリ). Непріятель *завладѣ́лъ* (= овладѣ́лъ) уже нѣ́сколькими города́ми (敵ハ既ニ數ケ處ノ市府ヲ占領セリ).
завѣ́дывать чѣ́мъ? Мои́мъ хозя́йствомъ *завѣ́дуетъ* моя́ сестра́ (我ガ姉妹ハ我ガ經濟ヲ處理ス).
занима́ться,—ня́ться чѣ́мъ? *Чѣ́мъ* теперь вы *занима́етесь*?—*Занима́юсь* перево́дами съ ру́сскаго языка́ на япо́нскій (貴君ハ今何ニ從事スルヤ、我ハ露文和譯ニ從事ス).
зва́ть кого какъ? (造格) *Какъ зову́тъ* ва́шего бра́та?—Его *зову́тъ* Алексѣ́емъ (貴君ノ兄弟ヲ何ト名ツクルヤ、彼ヲアレキセイト名ツク). 2—куда (на-)?—На ве́черъ (夜會ニ招ク).
изоби́ловать чѣ́мъ? Сѣ́верная Россія *изоби́луетъ* лѣса́ми (北部露西亞ハ林ニ富ム).
каза́ться, по—кѣ́мъ? чѣ́мъ? Онъ *показа́лся* мнѣ бле́днымъ (彼ハ我ニハ顏蒼キ者ト見ヘタリ). Ему всё *ка́жется* бездѣ́лицею (何モ皆ナ彼ニハ些事ニシテ益ナキ物ト見ユ).

кля́сться чѣмъ? § 157, 10

кома́ндовать чѣмъ? Кто *кома́ндуетъ* э́тимъ полко́мъ? (此聯隊ヲ何人ガ指揮スルヤ)

любова́ться кѣмъ, чѣмъ? на кого, на что? Мы до́лго *любова́лись* восхо́домъ луны́ (=*на* восхо́дъ луны́) (我等ハ長ク月ノ出ヲ眺メ樂メリ).

му́читься чѣмъ? Она до́лго *му́чилась* роди́ми (彼女ハ長ク出産ニ苦ミタリ).

называ́ть кого какъ (造格)? Онъ *называ́етъ* меня́ свои́мъ дру́гомъ (彼ハ我ヲ自身ノ親友ト稱ス);—ся какъ? (造格). Эта пти́ца по-ру́сски *называ́ется* а́истомъ (此鳥ハ露語ニテ鸛ト名ケラル).

наслажда́ться,-ди́ться чѣмъ? Тепе́рь я *наслажда́юсь* отсу́тствіемъ вся́кихъ забо́тъ (今我レハ何ノ顧慮スル事モ無キヲ以テ樂メリ).

находи́ть кого кѣмъ? что чѣмъ? До́кторъ *нахо́дитъ* бра́та серьёзно больны́мъ (醫者ハ兄弟ヲ輕症ナラザル病人ト見做セリ). Онъ *нашёлъ* э́ту цѣ́ну о́чень дорого́ю (彼ハ此價ヲ甚タ高キモノト認メタリ).

облада́ть чѣмъ? Человѣкъ *облада́етъ* (владѣетъ) пятью́ чу́вствами (人ハ五感ヲ有ス).

овладѣва́ть.—дѣть кѣмъ, чѣмъ? Онъ соверше́нно *овладѣ́лъ* мои́мъ бра́томъ (彼ハ全ク我カ兄弟ノ心ヲ左右セリ). Непрія́тели *овладѣ́ли* кре́постью (敵ハ要塞ヲ占領セリ).

отзыва́ться § 126, II, 3

отлича́ться,-чи́ться чѣмъ? Ру́сскіе *отлича́ются* гостепріи́мствомъ (露人ハ頻ル客ヲ歡待スル心ニ富ム).

па́хнуть чѣмъ? Въ ко́мнатѣ *па́хнетъ* керосино́мъ (室内ニ於テ石油ノ匂ヲ發ス).

плѣня́ться,—ни́ться кѣмъ, чѣмъ? Я соверше́нно *плѣ́нился* э́тимъ ребёнкомъ, его́ красото́ю (我ハ全ク此兒ノ美ナルニ心ヲ奪ハレタリ).

показа́ться кѣмъ, чѣмъ? Онъ *показа́лся* мнѣ о́чень блѣ́днымъ (彼ハ甚タ顔蒼キモノト我ニハ見ヘタリ).

по́льзоваться, вос—чѣмъ? Онъ всега *по́льзуется* мои́ми кни́гами (彼ハ常ニ我カ書籍ヲ利用ス). *Я воспо́льзуюсь* ва́шимъ сове́томъ (我ハ貴君ノ忠告ヲ利用ス).

пра́вить, управля́ть. Онъ не *умѣ́етъ пра́вить* лошадя́ми (彼ハ馬ヲ御スルコヲ知ラズ).

превосходи́ть,-взойти кого (役格) чѣмъ? въ чемъ (抽象的ニ云フ際)? *Онъ превосхо́дитъ меня́ си́лою*, а я *превосхожу́ его́ въ* позна́ніяхъ (彼ハ力ニテ我ニ勝ル、我ハ智識ニ於テ彼ニ勝ル).

предводи́тельствовать кѣмъ, чѣмъ? Кто *предводи́тельствуетъ* ко́нницею? (何人ガ騎兵隊ヲ引率スルヤ)

пренебрега́ть,—бре́чь кѣмъ, чѣмъ? Онъ *пренебре́жетъ* тепе́рь *на́ми* (彼ハ今我等ヲ輕蔑ス).

привнава́ть,-зна́ть кого (役格) чѣмъ? *Его́ призна́ли* досто́йнымъ э́той награ́ды (彼ヲ此賞與ニ適スルモノト認定セリ). § 121, I, 9

притворя́ться,—ри́ться кѣмъ, чѣмъ? Онъ *притворя́ется* больны́мъ (彼ハ病人ナリト偽ハル、彼ハ虚病ヲ構フ).

провозглаша́ть,—си́ть. Его *провозласи́ли* царёмъ (彼ヲ王ト宣言セリ).

просла́виться чѣмъ? Онъ *просла́вился* свои́ми по́двигами (彼ハ自身ノ勳功ニテ譽レヲ得タリ).

располага́ть чѣмъ? Сейча́съ я не *располага́ю* свобо́днымъ вре́менемъ (唯今我ハ閑暇ヲ有セズ).

распоряжа́ться,—рядѝться чѣмъ? Онъ *распоряжа́ется* мои́ми кни́гами, какъ свои́ми со́бственными (彼ハ我レノ書籍ヲ自身ノ書籍ノ如クニ使用ス).

роди́ться кѣмъ? Этотъ ма́льчикъ *роди́лся* слѣпы́мъ (此童子ハ盲目ニテ生レタリ).

руга́ть, вы́—, об —,кого какъ? (造格). Онъ *обруга́лъ меня* дурако́мъ (彼ハ我ヲ愚人ト罵レリ).

руководи́ть кѣмъ, чѣмъ? Этимъ дѣ́ломъ *руково́дитъ* его́ бра́тъ (彼ノ兄弟ガ此事業ヲ指導ス).—ся чѣмъ? Онъ всегда́ *руково́дится* сове́тами бра́та (彼ハ常ニ兄弟ノ相談ニ指導セラル).

руково́дствоваться=руководиться

сдѣ́латься чѣмъ? Онъ *сдѣ́лался* (=сталъ) мои́мъ дру́гомъ (彼ハ我カ親友トナレリ).

сла́виться, про—чѣмъ?. Римъ *сла́вится* свои́ми дре́вностями (羅馬ハ其古蹟ヲ以テ著名ナリ).

служи́ть, по—чѣмъ? Этотъ садъ *слу́житъ* украше́ніемъ го́рода (此園ハ市ノ裝飾トナル).

слыть, про—кѣмъ, чѣмъ? за кого, за что? Онъ *слы́вётъ* богачо́мъ (=*за* богача́) (彼ハ富人ト聞ヘ居ル).

счи́та́ть кого кѣмъ? что чѣмъ? *Его считаю́тъ* добряко́мъ (彼ヲ善人ト思フ).

создать, сотвори́ть кого, кѣмъ? Богъ *созда́лъ* люде́й до́брыми (神ハ人ヲ善ナル者ト創造シタリ).

стать, станови́ться § 146, II.

страда́ть чѣмъ? Она́ постоя́нно *страда́етъ* головно́го бо́лью (彼女ハ常ニ頭痛ニ苦ム).

торгова́ть чѣмъ? Онъ *тори́уетъ* шо́лковыми матéріями (彼ハ絹布ヲ商フ).

Торгове́цъ шо́лковыми матéріями (шо́лковыхъ матéрій ノ代リ= § 156, II, 1)

управля́ть=пра́вить

хвали́ться кѣмъ, чѣмъ? Она постоя́нно *хва́лится* свои́мъ сы́номъ, его успѣ́хами (彼女ハ常ニ其子ノ進歩ヲ自慢ス)

備考 此種ノ動詞ヨリ生シタル名詞中ヨリ殊ニ多ク使用スルハ

Влади́ніе иму́ществомъ (財産所有). *Поже́ртвованіе* деньга́ми (金錢ノ義捐). *Завѣ́дываніе* фа́брикою (工場管理). *Кома́ндованіе* полко́мъ (軍隊指揮). *Управле́ніе* имѣ́ніемъ (田地支配). *Пренебреже́ніе* людьми́ (人士輕蔑). *Торго́вля* ча́емъ (茶ノ貿易). *Заня́тіе* торго́влею (貿易從事). *Распоряже́ніе* иму́ществомъ (財産處理) 等ナリ

§ 160. 前置格 (Предло́жный паде́жъ)

前置格ハ其名稱ヨリシテモ知ラルベキ如ク、唯、前置詞ト共ニ使用セラレ、獨立的ニハ使用セラルヽコトナシ、前置格ニ於テ使用ノ前置詞ハ при (§ 120), въ (§ 124, II), на (§ 125, II), о (§ 126, II), по (§ 127, III) ナリ

§ 161. 文章論 (Предложе́нія)

文章 (或ハ文句) ハ其内包ノ如何ニ因テ單純ト複雜ノ二種ニ分カル

I. 單純文章 (простóе предложе́ніе). 單純文章トハ一個ノ思想ヲ表スルノミニシテ而シテ接續詞ヲ以テ他ノ文章ト合一セザルモノヲ謂フ、單純文章ハ主語、客語、定語、補語皆ナ共ニ一個ツヽヲ有スヽ若シ定語或ハ補語ガ數個タルトモ是レ種々ノ問ニ應ズルヨリシテ生ズルノミニシテ思想ハ同一タリト知ルベシ、例ハ Братъ возвратúлся вчерá ; онъ жилъ во Владивостóкѣ ; тамъ онъ научúлся рýсскому языкý (兄弟ハ昨日歸ヘリ、彼ハ浦鹽斯德ニ住ミタリ、彼處ニ於テ彼ハ露語ヲ學ベリ). Мой стáршій братъ вчерá вéчеромъ возвратúлся изъ Россіи ; около пятú лѣтъ онъ жилъ во Владивостóкѣ ; за э́то врéмя онъ научúлся тамъ трýдному рýсскому языкý (我兄ハ昨夜露西亞ヨリ歸レリ、五ケ年程彼ハ浦鹽斯德ニ住シ、其間ニ彼レハ彼處ニ於テ至難ナル露語ヲ學ビタリ). 前ノ三文章モ後ノ三文章モ共ニ皆ナ單純文章ナリ、但シ後ノ三文章ハ數個ノ定語ト補語ヲ有ス.

II. 複雜文章 (слóжное предложе́ніе) 複雜文章ヲ分チテ、混合文章及ビ合成文章ト成ス.

1. 混合文章 (слúтное предложе́ніе). 混合文章トハ二個以上ノ主語或ハ客語、若シクバ同一ノ問ニ應スル所ノ數個ノ定語或ハ補語ヲ包有スル文章ヲ謂フ、外形ヨリ觀レバ混合文章ハ單純文章ト毫モ異ナル所ナキガ如シト雖モ、能ク其内包ヲ考察スレバ數個ノ全ク獨立セル單純文章ノ相合一シテ其内ニ存スルヲ知ルベシ (此合一セシ數個ノ文章ヲバ各個ニ分離スルヲ得ベシ、然レ共單純文章ハ數個ノ定語、補語ヲ有スル場合ニ於テモ分離セラルベキモノナラズ) 例ハ Братъ и сестрá читáютъ.=Братъ читáетъ и сестрá читáетъ. Онъ купúлъ домá кáменный и деревя́нный.=Онъ купúлъ кáменный домъ и онъ купúлъ деревя́нный домъ. Вчерá и сегóдня хóлодно.=Вчерá было хóлодно и сегодня холодно.

混合文章内ノ同種部分 (однорóдные члéны) ハ相互ニ合一的、說明的、逐次的、反抗的、分離的接續詞ヲ以テ合一セラル (§ 134)

2. 合成文章 (составнóе предложе́ніе) 合成文章トハ數個ノ單純文章ヲ合併セシモノヲ謂フ、例ハ Сегóдня я читáлъ, но ещё не писáлъ. Я читáлъ, а онъ слýшалъ. Если бýдетъ у меня́ свобóдное врéмя, я приду́ къ вамъ. 合成文章ヲ組織スル所ノ單純文章中ニハ平等的 (равноси́льное) 或ハ不平等的 (неравноси́льное) ナルモノアリ.

數個ノ平等的文章ヲ合一スルハ混合文章内ノ同種部ヲ合一ノ際ト同シキ接續詞ヲ以テス、又其外ニ結局的接續詞(§ 134)ヲ以テスルコモアリ

XIII. 1. 數個ノ文章ガ合成文章ノ組織中ニ入リテ互ニ不平等ナル時ハ其中ノ一文章ヲ主文章 (гла́вное предложе́ніе) ト成シ他ハ悉ク副文章 (прида́точное предложе́ніе) ト成ス

2. 主文章、主文章ハ首尾相調ヒテ一貫セル獨立ノ意義ヲ有シテ他ノ文章ヨリ左右セラレザルモノナリ、例ハ Учи́тель хва́литъ тѣхъ ученико́въ (教師ハ其生徒等ヲ稱譽ス). Я зна́ю. Онъ возврати́лся домо́й тогда́.

3. 副文章、副文章ハ獨立シタル意義ヲ有セズシテ常ニ主文章ニ關係ヲ有シ主文章内ノ或ル語ヲ說明ス、例ハ Учи́тель хва́литъ тѣхъ ученико́въ, *кото́рые приле́жны* (勉强ナリシ其生徒ヲ教師ハ譽ム). 此文中ノ кото́рые приле́жны ト云フ語句ハ獨立ノモノニ非ズシテ主文章中ノ ученико́въ ト云フ語ヲ說明スルナリ. Я зна́ю, *что онъ бо́ленъ* (彼ハ病氣ナルヲ我ハ知ル). 此文中ノ что онъ боленъ ハ主文章ノ зна́ю ヲ說明ス、Онъ возврати́лся домо́й тогда́, *когда́ уже́ сме́рклось* (既ニ日暮レタリシ時、其時彼ハ家ニ歸ヘレリ). 此文中ノ когда́ уже́ сме́рклось ハ時ヲ表シテ主文章ノ動詞 возврати́лся ニ關係ス

4. 概シテ副文章ハ主文章ノ後ニ立ツヲ例トス、然レモ又主文章ノ前ニ立ツコアリ、或ハ主文章ノ中間ニ挾マルコモアリ、例ハ *Кото́рые приле́жны*, тѣхъ ученико́въ учи́тель хва́литъ Тѣхъ ученико́въ, *кото́рые приле́жны*, учи́тель хва́литъ (教師ハ勉强ナル生徒ヲ讃ム). *Когда́ уже́ сме́рклось*, тогда́ онъ возврати́лся домо́й. Тогда́, *когда́ уже́ сме́рклось*, онъ возврати́лся домо́й (既ニ黄昏トナリシ時ニ彼ハ歸宅セリ)

5. 一個ノ主文章ニ關シテ數詞ノ副文章ノ存スルコアリ、例ハ Мой бра́тъ, кото́рый неда́вно возврати́лся изъ Владивосто́ка, хо́четъ, чтобы вы познако́мили его́ съ ва́шимъ семе́йствомъ (先日浦鹽斯德ヨリ歸リシ我ガ兄弟ハ貴君ガ彼ヲ貴君ノ家族ニ知己ナラシメンコヲ欲ス). 此複雜文章ハ三個ノ文章ヲ包有ス、而シテ主文章ハ мой бра́тъ хо́четъ ニシテ他ノ二文章中、кото́рый неда́вно возврати́лся ト云フハ副文章ニシテ、名詞 бра́тъ ニ關シ、又чтобы вы познако́мили ト云フモ副文章ニシテ動詞 хочетъ ニ關係ス

6. 主文章ノ副文章タルモノ、外ニ副文章ノ副文章タルモノアリ即チ副文章内ノ或ル語ヲ說明スルモノニシテ其關係ハ通常ノ主文章ト副文章トノ關係ト同一ナリ、例ハ Мой бра́тъ хо́четъ, чтобы вы познако́мили его́ съ ва́шимъ семе́йствомъ, о кото́ромъ онъ слы́шалъ мно́го хоро́шаго (我ガ兄弟ハ貴君ノ家族ト彼ヲ知己ナラシメンコヲ欲ス、彼ハ其家族ニ關シテ善キ評判ヲ聞ケリ) 此文ノ о кото́ромъ онъ слы́шалъ мно́го хоро́шаго ハ副文章タル чтобы вы познако́мили его́ съ ва́шимъ семе́йствомъ ニ關係スルモノニシテ即チ семейство ト云フ名詞ヲ說明ス、故ニ чтобы вы познако́мили его́ съ ва́шимъ семе́йствомъ ト云フ文章ハ мой бра́тъ хо́четъ ニ關シテハ副文章ト成リ、又 о кото́ромъ онъ слы́шалъ... ト云フ文章ニ對シテハ主文章ト成ル

7　副文章ハ常ニ主文章ノ名詞（他ノ詞類ニテモ凡テ名詞ノ意義ヲ有スルモノ、例ハ代名詞、形容詞、形動詞）或ハ動詞ヲ説明ス、而シテ主文章ノ名詞ヲ説明スル所ノ副文章ハ定語的副文章ト稱セラレ、動詞ヲ説明スル副文章ハ補語的副文章ト稱セラル、又主文章ニ對シテ狀況語ノ體ヲ爲ス時ハ之ヲ狀況的文章ト稱ス、又條件的（условное）及ビ讓歩的（уступи́тельное）副文章ナルモノ存シ、何ツレモ狀況的文章ニ屬ス

備考　文典編者ノ意見ニ因テ定語的文章ト補語的文章ヲ細別シ主語的、客語的、定語的、補語的ト爲シ主文章ノ各部（即チ、主語、客語、定語、補語）ニ對スル關係ノ如何ニ應シテ之ヲ定ムルヿアリ、是レ勿論、論理的根據ヲ有スレモ斯クテハ餘リニ文章ノ類別ヲ複雜ナラシムル恐レアリ

8.　副文章ニハ二種アリ、完全副文章ト簡略副文章ナリ、而シテ完全副文章ヲ主文章ニ合一スルニハ關係代名詞、接續詞、副詞ヲ以テス、然レモ之ヲ合一スル際ニ使用スル詞類ハ其場合ニ因テ假令同一ノ語ナリトモ種々ノ意義ヲ附スベキ故ニ原文飜譯ノ際ニハ主文章ト副文章ヲ合一スル語ニ注意スベキノミナラズ主トシテ、副文章ハ主文章ノ如何ナル語ニ關係ヲ有スルヤヲ注視スルヲ要ス、然ラズンバ原文ノ意義ヲ誤ルヿアルベシ、完全副文章ニハ形動詞、副動詞、不定法、名詞ヲ以テ簡略ヲ施シ得ベシ但シ名詞ヲ以テスル簡略ハ純粹ノ簡略法ニ非ズシテ語句ノ變更ニ過ギズ、

§ 162 定語的副文章 (Опредѣли́тельное прил. предл.)

定語的副文章ハ通常ノ定語ノ如ク名詞ニ關係ヲ有ス、若シ他ノ詞類、例ハ代名詞、形容詞、形動詞ニ關係ヲ有スル時ハ是等ノ詞類ガ必ズ名詞ノ意義ヲ有スル場合ナリトス、

定語的副文章ハ三樣ノ方法ヲ以テ主文章ニ合一ス、 I. 關係代名詞ヲ以テ(主文章ニ於テ、指示代名詞ハ之ニ應ス). II. 關係代名詞ヲ以テ (主文章ニ於テ定代名詞及ビ否定代名詞ハ之ニ應ズ). III. 副詞及ビ接續詞ヲ以テス

I　概シテ定語的副文章ハ關係代名詞 кто, что, кото́рый, како́й ヲ以テ始マリ、而シテ主文章ニ於テハ指示代名詞 тотъ, то, тако́й 等之ニ應ズ § 66 及ビ卷末ノ例題參照

關係代名詞 кто, что, кото́рый, како́й ハ屢々相互ニ交換シテ使用セラル、殊ニ談話ニ於テ然リトス、又或ル副詞ヲ以テ代用セラルヿアリ、且ツ此種ノ代名詞ハ特異點ヲ有ス、即チ次ノ如シ

1. 代名詞 кто ハ時トシテ который ニテ代用セラル、殊ニ кто ガ生格ニ立ツ際ニ於テ然リトス、即チ主文章ニ於テ事物ヲ表記セズシテ唯、指示代名詞ノミ存スル場合ニ於テモ который ハ使用セラルヿアリ、例ハ *Тотъ*, кни́гу *кото́раго* (кого ノ代リニ) я далъ вамъ вчера́, сего́дня приходи́лъ за нею (カノ人(ソノ人ノ書籍ヲ昨日貴君ニ與ヘタリ)ハ今日書籍ヲ取ラントテ來レリ).

2. 代名詞 кто 及 кото́рый ノ生格(即チ кого́ 及 кото́раго, кото́рой) ハ代名

詞 чей ニテ代用セラル、コト多シ、斯ク代用ノ場合ハ кто 及 который ガ主文章ノ名詞(人ヲ表スル所ノ)ニ關係ヲ有スル際ナリ、何トナレバ чей ハ常ニ人ノ關係ノミヲ表スル代名詞ナリ

代名詞 чей ハ常ニ副文章ノ名詞(他ノ關係代名詞ノ如ク主文章ノ名詞ニ非ズ)ト性、數、格ヲ以テ一致ス即チ生格トナルベキ關係代名詞ニ對應スル名詞ト一致ス、例ハ Тотъ, *чью* кни́гу (книгу кого ノ代リニ) я далъ вамъ вчера́, сего́дня приходи́лъ за не́ю (カノ人(ソノ人ノ書籍ヲ昨日我レ貴君ニ與ヘタリ)ハ今日書籍ヲ取ラントテ來レリ). 此文ノ代名詞 чью ハ(甲)人ヲ表スル代名詞 кто ノ生格ノ代リニ使用セラル(乙)又女性ノ單數役格ト成リシハ其關係ノ名詞 книгу ト一致セシヲ以テナリ. Изво́щикъ, *на чьей* ло́шади (на ло́шади кото́раго ノ代リニ) мы вчера́ ката́лись, сего́дня приходи́лъ за деньга́ми. (辻待馬車ノ馭者(ソノ男ノ馬車ニ昨日我等乘リシ)ハ今日賃錢ヲ取リニ來レリ)、此文ノ代名詞ガ чьей ト成リシハ(甲) который タルベキ關係代名詞ガ人(即チ извощикъ)ニ關係スルヲ以テナリ、(乙)又此關係代名詞ハ лошадь ト一致スル故ニ女性ノ單數前置格ト成レリ Счастли́вы роди́тели, *чьи* де́ти (=де́ти кото́рыхъ) хороши́ (兩親(ソノ兒童ノ良好ナル)ハ幸福ナリ).

3. 代名詞 кото́рый 及 како́й ハ時トシテ談話ニ於テ、代名詞 что ヲ以テ代用セラル、且ツ主文章ニ於テ人ヲ表スル語ニ關係スル場合ニ於テモ что ヲ使用スルコアリ、例ハ Покажи́те мнѣ *книгу, что* (которую ノ代リニ) подари́лъ вамъ оте́цъ (父ガ貴君ニ贈與セシ所ノ書ヲ我ニ見セヨ). Это тотъ самый *господи́нъ, что* (который ノ代リニ) приходи́лъ вчера́ къ отцу́ (是レハ昨日父ノ許ニ來リシ所ノ其人ナリ). Я купи́лъ таку́ю же *кни́гу, что* (таку́ю ノ代リニ) и вы (купи́ли) (貴君ノ買ヒシ通リノ書ヲ我ハ買フタリ)

4. 代名詞 который ガ前置詞 въ, на, изъ ト綴合シテ時ト場所ヲ表スル名詞ニ關係スル時ハ副詞 когда́, гдѣ, куда́ отку́да ヲ以テ代用セラル、コト多シ、例ハ Уже приближа́ется *вре́мя, когда́* (въ кото́рое ノ代リニ) на дере́вьяхъ появля́ются ли́стья (樹木ニ葉ハ現ハレントスル季節ハ早ヤ近接セリ). *Ко́мната, гдѣ* (въ кото́рой ノ代リニ) мы занима́лись, была́ сли́шкомъ темна́ (我等ガ勉强シタリシ室ハ餘リ暗カリシ). *Въ до́мъ, куда́* (въ кото́рый ノ代リニ) я вчера переѣ́халъ, въ про́шломъ году́ былъ пожа́ръ (昨日我ガ轉居セシ家ニ於テ昨年火事アリシ). *Въ до́мъ, отку́да* (изъ кото́раго ノ代リニ) на про́шлой недѣ́лѣ я переѣ́халъ, вчера́ случи́лся пожа́ръ (我レ前週其家ヨリ移轉セシ所ノ其家ニ於テ昨日火事ハ生シタリ).

備考 定語的文章ノ外、尙ホ補語的文章(間接疑問 §164, II)及ヒ時ト場所ノ狀況副文章ハ副詞 когда́, гдѣ, куда́, отку́да ヲ首端ニ立ツ、故ニ此種ノ副詞ヲ首端ニ立テタル副文章ガ定語的ナルヤ補語的ナルヤ狀況的ナルヤヲ審カニセンガ爲ニハ各副文章ガ主文章中ノ如何ナル語ニ關係ヲ有スルヤヲ注視スルヲ要ス、若シ主文章ノ名詞ニ關係スル時ハ此副文章ハ定語的文章タリト知ルヘシ且ツ其ノ首端ニ存スル場所或ハ時ノ副詞ハ代名詞 кото́рый ノ代リニ使用セラレシナリ、若シ又主文章ノ客語ニ關係スル時ハ此副文章ハ補語的文章ナリ若シ主文章ノ副詞ニ關係スル時ハ狀況的文章ナリ、

⑤. 代名詞 какóй ハ時トシテ副詞 какъ ヲ以テ代用セラル、例ハ Онъ *такóй же* учени́къ, *какъ* (какіе ノ代リニ) и мы (彼ハ我等ノ如キ生徒ナリ). *Такíхъ* людéй, *какъ* (какіе ノ代リニ) ва́ши роди́тели, ма́ло на свѣ́тѣ (貴君ノ兩親ノ如キ人々ハ世ノ中ニ少ナシ).

6. 代名詞 который ハ時トシテ接續詞 чтобы ヲ以テ代用セラルヽコトアリ、即チ副文章ノ客語ガ接續法ト成リシ場合ニ於テ然リトス、例ハ Найди́те мнѣ (таку́ю) кварти́ру, *чтобы* была́ (кото́рая была бы ノ代リニ) удóбна, но не дорога́ (便利ニシテ高價ナラザルベキ貸家ヲ我ガ爲ニ見出シ賜ヘ).

7. 關係代名詞 который ガ敬稱タル вы (「貴君」ノ意義)ニ關スル時ハ單數ヲ用フ、例ハ И э́то сдѣ́лали *вы*, *кото́раго* я люби́лъ какъ бра́та и *кото́рому* во всёмъ довѣря́лъ (我レ兄弟ノ如ク愛シ、我レ之レヲ一切信用セシ所ノ貴君ハ之ヲモ行ヒシ).

8. 代名詞 какой ハ時トシテ單數ノ名詞ニ關係スルトモ複數ニ立ツコトアリ、即チ名詞ノ傍ニ代名詞 такой ガ複數ニ立チシ場合(但シ文面ニハ此代名詞ヲ省略シテ唯、其意ヲ文中ニ含ム場合)ナリ、例ハ Вотъ *случа́й*, *какіе* рѣ́дки. (=Вотъ одни́ъ слу́чай изъ такíхъ (слу́чаевъ), какіе рѣ́дки) (是レ稀ニ遭遇スル所ノ事件ナリ).

9. 談話ニ於テ或ル場合ニハ主文章ノ指示代名詞ヲ省略シテ副文章ノ關係代名詞ヲ指示代名詞(省略セラレタル)ノ立ツベキ格ニ立タシム、例ハ Онъ угости́лъ насъ, *тѣмъ* Богъ посла́лъ. (=Онъ угости́лъ насъ *тѣмъ*, *что* Богъ посла́лъ ノ代リニ) (神ノ下賜セシ所ノ物ヲ以テ彼ハ我等ヲ饗應セリ).

備考 關係代名詞 что ハ時トシテ主文章中ノ一語ノミニ關係セズシテ主文章全體ニ關係ス、斯カル場合ノ что ハ指示代名詞 это ト同意義ヲ有ス、故ニ此指示代名詞ヲ以テ代用セラルヽヿヲ得ベシ、而シテ斯カル意義ヲ有スル代名詞 что ヲ首端ニ立テタル文章ハ定語的文章ニハ非ズシテ主文章タルナリ、又 э́то ノ意義ヲ有スル場合ノ代名詞 что ハ接續詞 и ト共ニ立ツヿ多シ、例ハ Вы ча́сто помога́ете моему́ бра́ту, *за что* (=за это) я очень благода́ренъ вамъ (貴君ハ屢々我ガ兄弟ニ助力ス、ソノ事ヲ我ハ大ニ貴君ニ謝ス). Онъ проси́лъ меня зайти́ на по́чту и опусти́ть его пи́сьма въ я́щикъ, *что* (=это) я и испо́лнилъ съ больши́мъ удовóльствіемъ (彼ハ我ニ郵便局ニ立寄リテ其手紙ヲ投函スルヿヲ請ヘリ、ソノ事ヲ我ハ大ニ甘ンジテ遂行セリ).

10. 或ル定語的文章ハ ни ト共ニシタル關係代名詞ヲ文ノ首端ニ立ツ、即チ кто ни, что ни, кото́рый ни, како́й ни. 此種ノ定語的文章ノ特異點ハ(甲) ни ハ否定ノ意義ヲ有セズシテ「トモ」ノ意ヲ表ス、(乙)主文章ニ於テハ此關係代名詞ニ對應スルハ指定代名詞 тотъ, такой ニ非ズシテ定代名詞 весь, всякій, ка́ждый 或ハ否定代名詞 никто́, ничто́, никако́й ナリ、(丙)此種ノ文章ニ於テハ動詞接續法ノ代リニ命令法ノ第二人稱(§ 114, VI) ヲ使用スルヿ多シ例ハ *Кто ни попроси́лъ бы* (=*кто ни попроси́*) у него́ де́негъ, онъ *всѣ́кому* даётъ 或ハ онъ *никому́* не даётъ (誰ガ彼ニ金錢ヲ請フトモ彼ハ皆テ

何人ニモ之ヲ與フ(或ハ)彼ハ何人ニモ與ヘズ). *О чёмъ ни спроси́* (=*ни спроси́ми бы*) вы его́, онъ *всё* зна́етъ 或ハ онъ *ничего́* не зна́етъ (貴君ガ彼ニ何事ヲ問フトモ彼ハ悉ク之ヲ知ル(或ハ)彼ハ毫モ知ラズ). *Какую ни дай* (=*ни да́ми бы*) вы ему́ кни́гу, онъ *всякую* чита́етъ 或ハ онъ *никако́й* не чита́етъ (如何ナル書ヲ彼ニ與フルトモ彼ハ凡テ之ヲ讀ム(或ハ)彼ハ何書ヲモ讀マズ).

III. 或ル定語的文章ハ代名詞ヲ首端トセズシテ副詞及接續詞ヲ首端トス、即チ次ノ如シ

1. 副詞 какъ ヲ首端トス、而シテ主文章ニ於テ之ニ對應スルハ не что иное (或ハ другое), не кто другой (或ハ иной) ナリ斯カル場合ノ主文章ハ常ニ前ニ立ツ、例ハ Япо́нскіе дома́ *не что иное́ (другое́)*, *какъ* бо́льшія кле́тки, окле́енныя бума́гою (日本ノ家屋ハ紙ヲ張リ附ケタル大ナル籠ニ外ナラズ).

2. 接續詞 что ヲ首端トス、而シテ主文章ニ於テ之ニ對應スルハ指示代名詞 тако́й ト共ニスル形容詞ナリ(此形容詞ハ事物ノ大小强弱等ヲ表ス)、例ハ Въ сосѣднемъ кла́ссѣ былъ *тако́й* (бо́льшо́й) шумъ, *что* въ на́шемъ кла́ссѣ го́лосъ учи́теля соверше́нно не былъ слы́шенъ (我ガ教室ニ於テ教師ノ音聲ガ全ク聞エザリシ程ノ大ナル喧騒ガ隣ノ教室ニ在リシ). У него *тако́й* (сла́бый) го́лосъ, *что* я ничего́ не могъ разслы́шать, когда онъ говори́лъ (彼ハ言ヒシ時、我ハ何モ聞取ル能ハザル程ノ彼ハ微弱ナル音聲ナリ).

3. 主文章ノ動詞ニ關係セズシテ其名詞ニ關係ヲ有スル補語的文章(多クハ接續詞ト副詞ヲ首端ニ立ツ所ノ)ハ凡テ定語的文章ト成ル § 164, V 參照

§ 163. 定語的文章ノ簡略

1, 1. 悉クノ定語的文章ニ簡略ヲ施シ得ベキニハ非ズシテ、代名詞 кото́рый, како́й, кто, что ヲ首端ニ立テ第一種(§ 162, I)ニ屬スルモノヽミ簡略セラルヽヿヲ得ベシ

2. 此文章ノ簡略ハ次ノ場合ニノミ行ハルベシ、(甲)關係代名詞ガ名格或ハ役格(前置詞ヲ有セザル)ニ立ツ場合即チ主語タル際或ハ直補語タル際ナリ、(乙)客語ガ直接法ノ現在或ハ過去タル際ナリ即チ形動詞ニ存スル時ヲ有スル場合ナリ、故ニ例ハ次ノ如キ文句ヲハ簡略スルヿヲ得ベシ. Я люблю́ (тѣхъ) люде́й, кото́рые (名格) говоря́тъ (直接法ノ現在) пра́вду (我ハ正義ヲ言フ所ノ人々ヲ愛好ス). Въ той кни́гѣ, кото́рую (直補語) я прочиталъ (直接法過去) вчера́, говори́тся о мно́гомъ интере́сномъ (昨日我ガ通讀セシ所ノ其書ニハ多クノ興味アルヿヲ述ブ). *Кто* (主語) близору́къ (*есть* ハ直接法現在ナリ), тотъ вдаль пло́хо ви́дитъ (近眼ナル者ハ遠方ヲ見ル弱シ).

備考 動詞 быть ハ形動詞ノ未來ヲモ有スルガ故ニ 直說法ノ未來ニ立チタル動詞 быть ヲ客語トシタル定語的文章ハ簡略セラルヽヿヲ得ベシ但シ悉ク然ルヲ得ベキニハ非ズ詳細ハ後ニ述ブベシ、概シテ быть ヲ客語トシタル所ノ定語的文章ハ簡略式ヲ用フルヿ稀ナリ、何トナレバ現今ノ露語

斷尾形容詞ハ、ハ完全形容詞ニスル

界ニ在テハ быть ノ形動詞ヲハ形容詞ノ意義ヲ以テ使用スルコト多クシテ、形動詞トシテ使用スルハ稀ナリ

3　簡略ノ法ハ次ノ如シ、即チ副文章ノ關係代名詞ト主文章ノ指示代名詞ヲ省略ス、而シテ副文章ノ客語ニ關シテハ次ノ四點ニ注意スルヲ要ス(即チ以下逐次記述ノ 4, 5, 6, 7 ノ規則ナリ).

4　副文章ノ客語ガ單一的ニシテ合成的ナラザル動詞タル時ノ簡略ハ(甲)動詞ノ直說法ヲ形動詞ニ變ズ且ツ直說法ノ現在ニ立チシモノナレバ形動詞ノ現在ニ變シ、過去ニ立チシモノナレバ形動詞ノ過去ニ變ズ、且又關係代名詞ガ名格ニ立チシ時ハ動詞ノ直接法ハ自動的形動詞ニ變ジ、若シ關係代名詞ガ役格(前置詞ヲ有セザル)ニ立チシ時ハ動詞ノ直接法ハ被動的形動詞ニ變ズ、其際、副文章ノ主語ハ名格ヨリシテ造格ニ變ズ、(乙)形動詞ハ主文章ノ名詞ニ性、數、格ヲ以テ一致ス、例バ Я люблю́ *тѣхъ* люде́й, *кото́рые* говоря́тъ пра́вду ト云フ文章ハ次ノ如ク簡略セラルベシ Я люблю́ люде́й говоря́щихъ пра́вду. 此文中ニ於ケル簡略ハ(甲)主文章ノ代名詞 тѣхъ ト副文章ノ代名詞 которые ヲ省略シ(乙)動詞 говорятъ ハ形動詞現在 говоря́щій ニ變セリ、何トナレバ говорятъ ハ現在ナリ(丙). 形動詞 говоря́щій ハ自動的ヲ使用セリ、何トナレバ關係代名詞 которые ハ名格ニ立テリ(丁)形動詞 говорящій ハ男性複數役格ヲ使用セリ (говоря́щихъ). 何トナレバ是レハ名詞 люде́й ニ關係ス、此名詞ハ男性複數役格ニ立ツヲ以テナリ又 Въ *той* кни́гѣ, *кото́рую я* прочита́лъ вчера́, говори́тся о мно́гомъ интере́сномъ = Въ кни́гѣ, проче́танной *мно́ю* вчера́, говори́тся о мно́гомъ интере́сномъ (昨日我ガ通讀セシ書ニ於テハ夥多ノ面白キ事ヲ敘述セリ). 此文ノ簡略ハ代名詞той ト кото́рую ヲ省略シ、形動詞 проче́танной ヲ(甲)被動的ニ變ズ、何トナレバ此代名詞 кото́рую ハ役格ニ立テリ、(乙)此形動詞ヲ過去ト成セリ、何トナレバ прочита́лъ ハ過去ナリ、(丙)此形動詞ハ女性單數前置格ト成レリ、何トナレバ名詞 въ кни́гѣ ニ關係ス

尚ホ次ノ點ニ注意スベシ、(甲)簡略セラレタル副文章ガ其關係ヲ有スル名詞ノ後ニ立ツ時ハ主文章トノ區界ニ半點ノ符號ヲ附ス、(乙)若シ其關係ヲ有スル名詞ノ前ニ立ツ時ハ主文章トノ區界ニ半點ヲ附スルコトナシ、例バ Кни́га, *лежа́щая на столѣ*, о́чень интере́сна. = *Лежа́щая на столѣ* (半點ヲ要セズ) кни́га о́чень интере́сна. (丙)若シ簡略セラレシ文章ガ一語ヨリ成立ツ時ハ之ヲ一箇ノ文章ト見做サズシテ通常ノ定語ト見做シ且ツ半點ノ符號ヲ此定語ト名詞トノ間ニ使用セズ、斯カル定語ハ名詞ノ後ニ立ツトモ其間ニ半點ヲ附スルコトナシ、但シ概シテ斯カル定語ハ名詞ノ前ニ立ツヲ常トス、例バ Ученики́, *кото́рые занима́ются*, успѣва́ютъ. = Ученики́ *занима́ющіеся* успѣва́ютъ. = *Занима́ющіеся* ученики́ успѣва́ютъ (勉强スル所ノ生徒ハ進歩ス).

5　若シ副文章ノ客語ガ合成的ニシテ動詞 быть ト被形動詞(即チ合成的被動詞ナリ § 101　　)ヨリ成立チ或ハ斷尾形容詞ヨリ成立ツ時ハ其簡略法ハ、(甲) быть ヲ全ク省略シ、(乙)形動詞或ハ形容詞ノ斷尾的ナルヲ完全式ニ變ジテ而シテ主文章ノ名詞ト一致セシム、(丙)完全式ノ形容詞或ハ形

動詞ハ若シ其傍ニ他ノ語ヲ有スル時ハ主文章ヨリ半點ヲ以テ區分セラル、若シ又名詞ノ前ニ立ツカ或ハ其後ニ他ノ語ヲ有セザル時ハ(但シ斯カル場合ニハ之ヲ單純文章ト見做ス)主文章ヨリシテ半點ヲ以テ區分セラル、ナシ例バ Онъ живётъ въ до́мъ, *кото́рый* былъ *постро́енъ* его отцо́мъ.=Онъ живётъ въ до́мъ, *постро́енномъ* его́ отцо́мъ (彼ハ其父ニテ築造セラレシ家ニ住ム) Врачъ, *кото́рый* о́пытенъ (*есть*) въ своёмъ дѣлѣ, прино́ситъ бо́льшу́ю по́льзу (其途ニ熟練ナル醫者ハ大ナル効益ヲ來ス)=Врачъ, опы́тный въ своёмъ дѣлѣ, прино́ситъ бо́льшу́ю по́льзу.=Опытный въ своёмъ дѣлѣ врачъ прино́ситъ Врачи́, *кото́рые были о́пытны*, принесли́ бо́льшу́ю по́льзу (老練ナリシ醫者ハ大ナル効益ヲ來セリ).=Врачи́ *о́пытные* принесли́ бо́льшу́ю по́льзу.=*Опытные* врачи́ принесли́ бо́льшу́ю по́льзу.

» 6. 客語ガ合成的ニシテ動詞 быть トノ名詞ヨリ 立ツ時ニハ定語的文章ハ概シテ簡略セラルヽハ稀ナリ、但シ其動詞 быть ガ過去或ハ未來(至テ稀ナレド)ニ立チシ時ニハ簡略ラセルヽコトアリ、而シテ其簡略法ハ быть ヲ形動詞 бы́вшій 或ハ бу́дущій ニ變ジ且ツ此形動詞ヲ主文章ノ名詞ト一致セシム、例バ Г-нъ А., *кото́рый былъ* учи́телемъ ру́сскаго языка́ въ на́шемъ учи́лищѣ, серьёзно бо́ленъ.=Г-нъ А., *бы́вшій* учи́телемъ ру́сскаго языка́ въ на́шемъ училищѣ, серьёзно бо́ленъ (我ガ校ノ露語教員タリシ某君ハ輕カラザル病氣ナリ) Сего́дня я познако́млю васъ съ г-номъ А., *кото́рый бу́детъ* учи́телемъ ру́сскаго языка́ въ ва́шемъ у́чилищѣ.=Я познако́млю васъ съ г. А., *бу́дущимъ* учи́телемъ (我ハ貴校ノ將來ノ露語教員タルベキ某君ニ貴君ヲ紹介セン).

若シ斯カル場合ノ動詞 быть ガ現在ニ立ツ時ハ其文章ハ定語的文章トハ成ラズシテ附語 (§150, II) トナル、例バ Г. А., *учи́тель ру́сскаго языка́ въ на́шемъ учи́лищѣ*, опа́сно бо́ленъ (我校ノ露語教師某君ハ病危篤ナリ). 此文中ノ附語タル учи́тель ру́сскаго языка́ ヲバ定語的文章タル кото́рый есть учи́тель ру́сскаго языка́ ニ變ズルヲ得ベシ、然レドモ現今ノ露語界ニ於テハ斯カル句調ヲ使用セズ、又現今ハ形動詞 су́щій ヲ以テ簡略ヲ施シタル定語的文章ヲ全ク使用セズ、即チ су́щій учи́тель ру́сскаго языка́ トイフ句調ヲ使用スル能ハズ、何トナレバ現今ハ сущій ヲ形動詞トシテハ使用セズシテ形容詞ノ意義ニテノミ使用ス (§99, 備考 I)

7. 若シ副文章ニ於テ動詞 быть ガ助動詞タルニ非ズシテ獨立ノ客語ト成リ現在、過去、未來ニ立ツ時ハ此副文章ハ簡略セラルヽコトヲ得ベシ、(甲)而シテ быть ガ現在ト成リシ時ニハ之ヲ簡略スルニ此動詞ノ形動詞 су́щій (現今ハ形容詞トシテノミ之ヲ使用スルガ故ニ)ヲ用ヒズシテ同意義ノ他ノ形動詞例バ находя́щійся, прису́тствующій 等ヲ代用ス、又 быть ガ未來ニ立テバ副文章ハ無生物ニ關係スル場合ニ於テノミ簡略セラルコトヲ得ベシ、但シソレトテモ稀ナリ、(乙)副文章ノ形動詞ハ主文章ノ名詞ト一致ス、例バ Всѣ, *кото́рые* (есть) *здѣсь*, уже слы́шали объ э́томъ.=Всѣ, *находя́щіеся* 或ハ *прису́тствующіе здѣсь*, уже слы́шали объ этомъ (此處ニ有ル者ハ皆ナ既ニ此事ヲ聞キタリ). Всѣ, *кото́рые были у меня́ вчера́*, уже́ слы́шали объ этомъ.=Всѣ, *бы́вшіе у меня́ вчера́*, уже́ слы́шали объ этомъ. Ка́ждый земледѣлецъ надѣ́ется на урожа́й, *кото́рый бу́детъ*.=Ка́ждый земледѣлецъ надѣ́ется *на бу́дущій* урожа́й (各農民ハ將ニ來ラントスル豐作ニ望ヲ抱ケリ) Всѣ, *которые бу́дутъ у меня́ сего́дня*, узна́ютъ объ этомъ (今日我ガ許ニ來ラントスル者ハ皆ナ此事ヲ知ラン)、此文ニ簡略ヲ施ス能ハズ、何トナレバ副文章ハ生物名詞ニ關係ス、

II. 簡略定語的文章ヲ完全的文章ニ變ゼントスルニハ (甲) 關係代名詞ヲ挿入シ之ヲ主文章ノ名詞ニ性ト數トヲ一致セシム、而シテ其格ハ名格或ハ役格ト爲ス、若シ此文章ガ自動的形動詞或ハ形容詞或ハ名詞ヲ以テ簡略セラル、場合ニハ關係代名詞ヲ名格ニ立ツ、若シ被動的形動詞ヲ以テ簡略ノ場合ニハ役格ニ立ツ、(乙)形動詞ヲ直接法ニ變ジ、形容詞ヲ完全式ヨリ斷尾式ニ變ジ且ツ之ニ быть ヲ加フ、若シ名詞ガ使用セラレシ場合ニハ其儘之ヲ變ゼズ、(丙) 主文章中ニ指示代名詞ヲ挿入シ之ヲ名詞ト一致セシム、若シ主文章中ニ名詞ノ存セザル時ハ指示代名詞ノ格ヲ形動詞或ハ形容詞ト同クス (何トナレバ文ヲ簡略スル場合ニハ此形動詞或ハ形容詞ハ主文章ノ名詞ト一致ス、タトヒ名詞ヲ省略セシトモ) 例バ Вода́, *наполня́ющая* моря́, име́ть го́рько-солёный вкусъ. = *Та* вода́, *которая наполня́етъ* моря, (海ヲ充滿スル水ハ鹹味ヲ有ス)此兩文章ヲ比考スルニ甲)後文ニ於テハ關係代名詞 кото́рый ヲ挿入シ之ヲ女性單數ト爲シタリ、何トナレバ名詞 вода́ ニ關係ス、而シテ此名詞ハ名格ニ立テリ、何トナレバ前文ノ形動詞ハ自動的ナリ、(乙)前文ノ形動詞ヲ後文ニ於テハ直說法ニ變ジ過去ト爲シタリ、何トナレバ前文ノ形動詞ハ過去ナリ (丙)指示代名詞 тотъ ヲ主文章ニ挿入シ名詞 вода́ ト一致セシム. Онъ чита́лъ письмо́, *полу́ченное* имъ отъ бра́та. = Онъ чита́лъ (то) письмо́, *кото́рое онъ полу́чи́лъ* отъ бра́та (彼ハ兄弟ヨリ得タル所ノ手紙ヲ讀ミタリ). Онъ прочита́лъ всѣ кни́ги, *бы́вшія* у него́. = Онъ прочита́лъ всѣ кни́ги, *какія бы́ли* у него́ (彼ハ其所有セシ悉クノ書ヲ通讀セリ). *Зна́ющій* до́лженъ помога́ть *незна́ющему*. = *Тотъ*, *кто зна́етъ*, до́лженъ помога́ть *тому́*, *кто не зна́етъ* (知リ居ル者ハ知ラザル者ヲ助クベキナリ). *Сльпо́й* не ви́дитъ, а *глухо́й* не слы́шитъ. = *Тотъ*, *кто сльпъ*, не ви́дитъ, а *тотъ*, *кто глухъ*, не слы́шитъ (盲ナル者ハ見得ズ聾ナル者ハ聞取ラズ) *Строгій* къ други́мъ (= *Тотъ*, *кто строгъ* къ други́мъ,) до́лженъ быть строгъ и къ себѣ́ (他人ニ對シテ嚴刻ナル者ハ自身ニ對シテモ嚴刻ナラザルベカラズ).

III. 定語的文章ニ簡略ヲ施ス能ハザル場合ハ 1. 副文章ノ關係代名詞ガ名格或ハ役格(前置詞ヲ有セザル)外ノ格ニ立ツ時ナリ例バ Домъ, *въ* кото́ромъ я жилъ пре́жде, лу́чше того́, *въ* кото́ромъ я живу́ тепе́рь (我レ以前ニ住ミシ所ノ家ハ今我ガ住ム所ノモノヨリ佳良ヨリ). Садъ, *о* кото́ромъ вы говори́те, пре́жде принадлежа́лъ намъ (貴君ノ話ス所ノ園ハ以前ハ我等ニ屬セリ). Вотъ кни́га, содержа́ніе кото́рой мнѣ о́чень понра́вилось (我ニ其趣旨ノ大ニ適意セシ所ノ書ハ是レナリ). Мой това́рищъ, *съ* кото́рымъ вы познако́мились вчера́, о́чень спосо́бный человѣ́къ (昨日貴君ト知己ニナリシ所ノ我ガ友ハ大ニ有才ノ人ナリ). Онъ всегда́ говори́тъ лишь то, *въ чёмъ* онъ вполнѣ́ увѣ́ренъ (彼ハ全ク自ラ信ゼシ所ノ事ヲノミ常ニ言フ)、此諸例ニ於テハ關係代名詞ハ名格ト役格以外ノ格ニ立ツガ故ニ何ヅレモ簡略セラルヽ能ハズ、

2. 副文章ノ動詞ガ直說法ニ立タズシテ接續法ニ立チシ時ナリ、何トナレバ接續法ハ形動詞ヲ有セズ、例ハ Нѣтъ ни одного́ человѣка на свѣтѣ, кото́рый не *жела́лъ бы* себѣ́ добра́ (世ニ自身ノ幸ヲ望マザル人ハ無シ)

3. 動詞ガ直說法未來ニ立ツ時ナリ何トナレバ未來ハ形動詞ヲ有セズ、例ハ Мои́ знако́мые, кото́рые *собера́тся* у меня́ сего́дня ве́черомъ, всѣ́ говоря́тъ по-ру́сски (今晚我ガ許ニ會合セントスル所ノ我ガ知已ハ皆ナ露語ヲ辯ス) Обѣща́на больша́я награ́да тому́, кто *доста́витъ* поте́рянныя ве́щи принадле́жности (遺失物ヲ所有主ニ屆ケン者ニ大ナル賞ハ約セラレタリ)

此規則ノ例外トシテ次ノ塲合ノ文句ハ簡略セラル、コヲ得ベシ

(甲) 動詞 быть ヲ客語トスル文章、何トナレバ此動詞ニ限リテ形動詞ノ未來ヲ有ス (§ 163, I. 6-7)

(乙) 主文章ノ客語ガ未來ト成リテ副文章ノ客語ト同時ノ動作ヲ表スル塲合ニハ其副文章ノ客語ハ未來ニ立ツトモ簡略セラル、コヲ得ベシ、之ヲ簡略スルニハ形動詞ノ現在ヲ以テス § 114, VII 參照. 但シ此種ノ簡略ヲ行フハ稀ナリ

(丙) 未來ニ立チシ動詞ヲ客語トシタル所ノ定語的文章ハ公用文書 (例ハ請願書) ニ於テハ имѣ́ть ノ形動詞現在 (即チ имѣ́ющій) ト此定語的文章ノ動詞ノ不定法トヲ以テ簡略セラルベシ 例ハ Прошу́ Васъ назна́чить меня́ на пе́рвую вака́нцію. *кото́рая откро́ется* トニフ語句ヲ公用書文體ニ變ズレバ次ノ如クナルベシ Прошу́ Васъ назна́чить меня́ на пе́рвую вака́нцію, *имѣ́ющую откры́ться* (今後第一番ニ缺員ヲ生シタル役職ニ我ヲ任定アランコヲ乞フ)

4. 一ノ主文章ニ對シテ二個ノ定語的文章ノ存立シテ、其中一ノ定語的文章ハ簡略セラルベキ組織ナリトモ、若シ他ノ定語的文章ガ簡略セラル、能ハザルモノナレバ、一ノ定語的文章ヲモ簡略セザルモノトス、例ハ Тотъ пожило́й господи́нъ, *съ кото́рымъ* вы познако́мили меня́ въ про́шлое воскресе́нье и *кото́рый* разспра́шивалъ меня́ о ва́шемъ бра́тѣ, сего́дня у́тромъ былъ у меня́ съ визи́томъ (前週ノ日曜日ニ貴君ガ我ヲ紹介シタル人且ツ貴君ノ兄弟ノ事ヲ我ニ聞質セシ、カノ初老ノ人ハ今朝我ヲ訪問シタリ. 此文中ニハ二個ノ定語的文章ヲ包有シ二個共ニ主文章ノ名詞 господи́нъ ニ關係ス而シテ第一定語的文章ハ簡略セラルベキモノナラズ(何トナレバ其關係代名詞ハ造格ニ立ツ). 第二ノ定語的文章ハ簡略セラル、ヲ得ベキモノナリ (即チ разспра́шивавшій меня́ о ва́шемъ бра́тѣ トス略セラルベシ) 然レ𪜈前述ノ理由ニ依テ此文ニ於テハ簡略セラレズ

概シテ次ノ規則ヲ守ルヲ要ス、即チ數多ノ定語的文章ガ同一ノ主文章ノ名詞ニ關係スル時ハ之ヲ悉皆簡略スルカ或ハ悉皆完全式ト爲スベシ、必ズ其中ノ或ル一文句ノミヲ簡畧シ或ハ完全式ト爲スベカラズ、例ハ Тѣ ученики́, *кото́рые* приле́жно занима́ются и *кото́рые* имѣ́ютъ хоро́шія спосо́бности, обыкнове́нно быва́ютъ пе́рвыми въ кла́ссѣ. (勉强シ且ツ才能ヲ有スル所ノ生徒ハ常ニ級中ノ第一番トナル) 或ハ Ученики́, приле́жно занима́ющіеся и имѣ́ющіе хоро́шія спосо́бности, обыкнове́нно トス爲スベシ、然レ𪜈 *кото́рые* приле́жно занима́ются и имѣ́ющіе 或ハ приле́жно занима́ющіеся и *кото́рые* имѣ́ютъ トス爲スベカラズ

IV 定語的文章ノ簡略ニ關スル特異

次ノ定語的文章ハ簡略ヲ行フニ際シテ特異ヲ爲ス、即チ其文章ノ主語ハ動詞ノ不定法ニシテ客語ハ быть ノ無人稱式 есть, было, бу́детъ トス共ニスル мо́жно, ну́жно, необходи́мо,

до́лжно (=слѣдуетъ) ト成リ、而シテ其ノ主文章ノ主語ハ代名詞 тотъ (名詞ト共ニセザル) 或ハ名詞 вре́мя 及 мѣ́сто ト共ニスル代名詞 тотъ 及 такой (但シ副文章ニ於テ斯カル際ニハ который ノ代リニ когда, гдѣ, куда, откуда ヲ使用ス) ニシテ客語ハ動詞 быть (副文章ノ客語ト同シク) ナリ.

斯ク主文章ト副文章ヲ組立テシモノハ現今ノ露語界ニ於テハ必ズ之ニ簡略ヲ施スヲ常トス而シテ其簡略ハ副文章ニ於テセズシテ主文章中ニ於テス、其簡略法ハ次ノ如シ 1. (甲) 主文章ノ主語ヲ省キ (乙) 客語 быть ガ過去或ハ未來ナレバ同ク之ヲ省キ、現在ナレバ其儘之ヲ主文章 (即チ簡略ヲ施シタル新ナル 主文章 ニ移シ (丙) 若シ主文章中ニ主語ト客語ノ外ニ他ノ語ヲ存スル時ハ悉ク之ヲ新ナル主文章 ニ移シ (丁) 而シテ副文章中ノ語ノ配列ヲ一新ス、例ハ Кого мнѣ спроси́ть объ э́томъ? (§ 65, 9)—Вамъ *есть кого́* спроси́ть объ этомъ. 此文ハ次ノ語ヲ簡略シテ成リシモノナリ即チ *Есть тотъ, кого* вамъ *мо́жно* спроси́ть объ э́томъ ヲ簡略セシナリ、先ツ (甲) 主文章ノ主語 тотъ ヲ省キ (乙) 客語 есть ヲ新主文章ニ移シ (丙) 副文章 (即チ新主文章ト成リシモノ) ニ於テハ語ノ配列ヲ一變セリ. О чёмъ мнѣ было говори́ть съ нимъ? (§ 65, 9)—Вамъ *было о чёмъ* говори́ть съ нимъ. 此文ハ次ノ如キ文ヲ簡略シテ成リシモノナリ即チ *Было то, о чёмъ* вамъ *мо́жно* было (或ハ *слѣдовало*) говори́ть съ нимъ 其簡略法ハ主文章ノ主語ト客語ヲ省キ (何トナレバ客語ハ過去ニ立チタリ). 副文章中ノ語ノ配列ヲ一變セリ、又 Вамъ *есть когда́* сходи́ть къ нему. ト云フ文ハ次ノ如キ文ヲ簡略セシナリ即チ *Есть вре́мя, когда́* (=*въ кото́рое*) вамъ *мо́жно* сходи́ть къ нему. 又 Здѣсь *есть куда́* сѣсть ト云フ文ハ Здѣсь *есть мѣсто, куда* (=*на кото́рое*) *мо́жно* сѣсть ヨリ簡略セシナリ.

2. 若シ斯カル副文章ノ客語ガ否定式ニ立ツ時ハ其主文章ノ簡略ハ (甲) 動詞 быть ガ現在タル際ニモ之ヲ省キ (нѣтъ ト成リシハ быть ノ現在否定式ニシテ此 быть ハ純然タル客語ナリ連繫ニハアラズ) (乙) 否定辭 не ハ主文章ノ動詞ヨリシテ副文章ノ關係代名詞 кто 及 что 並ニ副詞 когда, гдѣ, куда, отку́да ニ轉シ且ツ常ニ力點ヲ有ス即チ не́ ト成ル.

否定 не ガ關係代名詞 кто 及 что ニ轉スル時ハ否定代名詞 никто́ 及 ничто́ ノ第二式ヲ成ス (§ 70, II) 斯カル否定代名詞ハ補語ト成リ、主語トハ成ラズ (其主語ハ必ズ不定法動詞ナリ) 故ニ斯カル否定代名詞 никто́ 及 ничто́ ノ第二式ハ名格ニ立ツ能ハズ (名格ニ立ツハ主語タル際ノミナリ).

時及ビ場所ノ副詞ニ否定 не ヲ轉ズル時ハ не́когда, не́гдѣ, не́куда, не́откуда ト成ル、例ハ Кого мнѣ спроси́ть объ этомъ? § 65, 9.—Вамъ есть кого́ спроси́ть объ э́томъ. = Есть тотъ, кого вамъ мо́жно спроси́ть объ э́томъ.—Вамъ *не́кого* спроси́ть объ э́томъ ト云フ文ハ *Нѣтъ того́, кого́* вамъ *мо́жно* спроси́ть объ э́томъ. ヨリ簡略セシナリ、而シテ其簡略法ハ (甲) 主語 того ヲ省キ、(乙) 客語 нѣтъ (=не есть) ヲモ省キ、否定 не ヲ主文章ノ關係代名詞 кого ニ移セシナリ. О чёмъ мнѣ было совѣ́товаться съ нимъ?—Вамъ было о чёмъ совѣ́товаться съ нимъ.—Вамъ *не́ о чемъ было* совѣ́товаться съ нимъ ト云フ文ハ *Не́ было того, о чёмъ* вамъ *слѣдовало* посовѣ́товаться съ нимъ ヨリ簡略セリ. Вчера мнѣ *не́когда было* придти́ къ вамъ ト云フ文ハ Вчера *не́ было вре́мени, когда* (=*въ кото́рое*) мнѣ *возмо́жно было* придти́ къ вамъ ヨリ簡略セリ、又 Здѣсь *не́куда* положи́ть книги ト云フ文ハ Здѣсь *нѣтъ мѣста, куда* (=*на кото́рое*) *мо́жно* положи́ть кни́ги. ヨリ簡略セリ

§ 164. 補語的副文章 (Дополни́тельное прид. предл).

補語的副文章ハ主文章ノ客語ニ關係ス即チ此客語ガ動詞或ハ быть ト共ニスル形容詞タル時ニ於テナリ、補語的副文章ニ三種アリ

I. 1. 大概ノ補語的文章ハ接續詞 что, чтóбы, бýдто, бýдтобы ヲ以テ冒頭トス時トシテ主文章ニ於テ指示代名詞 тотъ ハ是等ノ接續詞ニ對應スルコトアリ然レドモ是レハ至テ稀ナリ.

(甲) 接續詞 что ヲ使用スルハ殊ニ主文章ノ客語ガ智情ノ動作ヲ表スル時ニ多シトス、例ハ Я зна́ю (*то*), *что онъ бо́ленъ*. Отъ говори́лъ (*о томъ*, *что братъ его бо́ленъ*. Я ра́дъ (*тому́*), *что онъ теперь здоро́въ*. (今、彼ノ壯健ナルヲ我ハ喜ブ).

(乙) 接續詞 чтóбы ヲ使用スルハ殊ニ主文章ノ客語ガ願望、請求、豫想ヲ表スル時ニ多シトス、而シテ補語的文章ノ客語ハ之ニ應シテ必ズ接續法ト成ル、若シ文章ニ簡約ヲ施セシ時ハ客語ハ不定法ト成ル、例ハ Я хочу́, *чтóбы объ э́томъ зна́ли всѣ* (人ハ皆ナ此事ヲ知ランコトヲ我ハ欲ス). Она проси́ла меня (*о томъ*), *чтóбы я купи́лъ ей почтóвой бума́ги* (我レガ彼女ニ書簡箋ヲ買ハンコトヲ彼女ハ我ニ請ヘリ). Я не вѣ́рю (*въ то*), *чтóбы онъ э́то сдѣ́лалъ* (彼レガ之ヲ行ヒタリトハ我ハ信ゼズ).

(丙) 接續詞 бýдто 及 бýдто бы ハ時トシテ接續詞 что ノ代リニ使用セラレ幾分カ疑念ノ意ヲ表ス又夢ヲ話ス時ニ使用セラル例ハ Я слы́шалъ, *что онъ возврати́лся* (彼ハ歸リシト我ハ聞ケリ). Я слы́шалъ, *бýдто онъ ужé возврати́лся* (彼ハ歸リシトカト我ハ聞ケリ). Я слы́шалъ, *бýдто бы онъ возврати́лся* (彼ハサモ歸リシガ如クニ我ハ聞ケリ). Вчера́ я ви́дѣлъ во снѣ, *бýдто я на ро́динѣ въ до́мѣ отцá, бýдто я сижý ря́домъ съ ма́терью* (昨夜我レ夢ミラク、我ハ故郷ニテ父ノ家ニ居リ、母ト並ビテ座スト)...

2. 補語的文章ノ簡略法. 接續詞 что 及 чтобы ヲ以テ始マル所ノ補語的文章ハ時トシテ簡略セラル、コヲ得ベシ、但シ接續詞 бýдто ヲ以テ始マルモノハ簡略セラルヽコトナシ、簡略法ハ二樣ナリ不定法或ハ名詞ヲ以テス

(甲) 不定法ヲ用ヒテ補語的文章ヲ簡略スルハ、補語的文章ガ主文章ノ動詞ニ關係ヲ有シ、而シテ此動詞ガ不定法ニ立テタル補語ヲ有スル場合ナリ、但シ斯カル動詞ハ至テ少ナキガ故ニ不定法ヲ用ヒテ補語的文章ヲ簡略スル場合モ亦至テ稀ナリ、接續詞 что ヲ以テ始マル文章ニ此簡略ヲ施シ得ルハ主文章ト副文章ガ同一ノ主語ヲ有スル場合ナリ、又接續詞 чтобы ヲ以テ始マル文章ニ此簡略ヲ施シ得ルハ主副兩文章ノ主語ノ同一ナル場合ニモ同一ナラザル場合ニモ行ハル、此簡略ヲ施ス際ニハ接續詞 что 或ハ чтобы ヲ省略シ、副文章ノ動詞ヲ不定法ニ立テ且ツ半點ヲ消滅ス、斯ク簡略セラレタル補語的文章ハ獨立ノ文章タラズシテ通常ノ補語ト成ル、例ハ Я ду́маю, *что не опозда́ло*. = Я ду́маю *не опозда́ть* (遲刻セズト我ハ思フ). Онъ проси́лъ меня, *чтóбы я купи́лъ* ему́ кни́гу. = Онъ проси́лъ меня *ку́пить* ему́ кни́гу (彼レニ書ヲ買求ムルコトヲ彼ハ我ニ請ヘリ). Сестра́ проси́ла бра́та,

чтóбы онъ *проводи́лъ* её.＝Сестра́ проси́ла бра́та *проводи́ть* её (姉妹ハ兄弟ニ同住ヲ請ヘリ).

(乙) 名詞ヲ以テ簡略ヲ施ス場合ハ主文章ト副文章ノ主語ガ相異ナル際ナリ、此簡略ヲ施ス際ニハ接續詞ヲ省略シ、動詞ノ代リニ名詞(動詞ト同一ナル意義ノ)ヲ使用ス、而シテ此名詞ハ主文章ノ客語ノ補語ト成ル故ニ此客語ノ要求スル格ニ立ツ、斯ク簡略ヲ施ス時ハ補語的文章ノ主語ハ名詞(動詞ノ代リニ立チシ)ノ定語ト成リ而シテ主語ハ名格ヨリシテ生格ニ變ズ、但シ此簡略法ハ稀ニ使用セラル、例ハ Я слы́шалъ, *что онъ бо́ленъ*＝Я слы́шалъ *объ его́ боле́зни* (我ハ彼レノ病氣ナルヲ聞ケリ). 名詞ヲ用ヒテ文章ヲ簡略スル場合ノ名詞ハ通常ノ補語ト見做サレ、主文章ノ語句ト此名詞トノ間ニ半點ヲ附セズ

II 間接疑問 (ко́свенный вопро́съ) 疑問文章ハ常ニ疑問代名詞 кто, что, ка́кой 等、或ハ疑問副詞 гдѣ, когда́, какъ, почему́ 等ヲ冒頭トス(疑問辭 ли ヲ文中ニ用フルコモアリ、若シ疑問文章ガ他ノ文章ニ關係ナク一箇獨立ナル時ハ之ヲ直接疑問 (прямо́й вопро́съ) ト稱ス、斯カル場合ニハ其結尾ニ疑問符號 (?) ヲ附ス、然レモ此ノ文章ハ一箇獨立ニ非ズシテ他ノ文章ニ合一スルコ多シ然ル時ハ疑問ノ質ヲ變シテ他ノ文章ノ客語ヲ說明補足スルモノト成リ他ノ文章ノ補語的副文章ト成ル、之ヲ間接疑問トイフ、間接疑問ニハ疑問符號ヲ附セズ (§66, 4)

主文章ニ於テ指示代名詞 тотъ ハ斜格 (ко́свенный паде́жъ) ニ立チテ是等ノ代名詞及ビ副詞並ニ疑問辭 ли ニ對應ス、但シ指示代名詞ハ概シテ省略セラルヽヲ常トス、此種ノ文章ニハ簡約ヲ施サズ、Кто приходи́лъ вчера́ къ брату?—Я не вида́лъ, *кто приходи́лъ вчера́ къ бра́ту* (昨日兄弟ノ處ニ誰カ來リシヤ我ハ見ズ) О чёмъ они говори́ли?—Я не слы́шалъ, *о чёмъ они говори́ли* (彼等ガ話セシコヲ我ハ聞カザリシ). Ско́лько братъ заплати́лъ за кни́гу?—Я не зна́ю, *ско́лько братъ заплати́лъ за кни́гу* (兄弟ハ書籍ノ爲ニ幾許拂ヒシヤ我ハ知ラズ). Гдѣ онъ былъ?—Онъ не говори́лъ (*о томъ*), *гдѣ онъ былъ* (彼ハ何處ニ在リシヤ之ヲ言ハザリシ) Какъ онъ прово́дитъ вре́мя?—Онъ не писа́лъ мнѣ (*о томъ*), *какъ онъ прово́дитъ вре́мя* (彼ハ如何ニ時ヲ送リシヤ、彼ハ如何ニ時ヲ送ルヤヲ我ニ書サズ). Пойдётъ ли онъ гулять?—Я не зна́ю, *пойдетъ ли онъ гуля́ть* (彼ハ遊歩ニ赴クヤ、彼ハ遊歩ニ赴クヤ否ヤ我ハ知ラス)、此十二文章中ノ六個ハ獨立的疑問文章ニシテ六個ハ補語的疑問文章ナリ(即チ他ノ文章ノ動詞ニ關係ス)、此例ニ依テ明ラカナルハ補語的文章モ通常ノ疑問文章ノ冒頭タル代名詞及ビ副詞ヲ以テ冒頭ト爲スヲ得ルコナリ

間接疑問ハ主文章ヨリシテ半點ヲ以テ分離セラル、而シテ間接疑問ノ後ニ疑問符號ヲ附スベキ場合ハ此間接疑問ガ關係ヲ有スル所ノ文章ニ於テ疑問ヲ包有セシ場合ノミナリ、例ハ Я не зна́ю, кото́рое сего́дня число́ (今日ハ幾日ナルヤ我ハ知ラズ). Не зна́ете *ли*, кото́рое сего́дня число́? (今日ハ幾日ナルヤ貴君ハ知ラズヤ)、然レモ時トシテ間接疑問ノ前ニ重點ヲ附

スル事アリ(但シ引用標號ヲ用ヒズシテ)然ル場合ニハ間接疑問ノ後ニ於テモ疑問符號ヲ附ス例ハ Онъ о́чень интересу́ется (о томъ): кто-вы? какъ васъ зову́тъ? чѣмъ вы занима́етесь? (彼ハ大ニ左ノ事ニ興味ヲ感スル即チ貴君ハ何者ナルヤ、貴君ノ名稱ハ如何、貴君ハ何業ヲ營ムヤ)

III. 引用句 (вно́сное предложе́ніе) 引用句トハ文中或ハ談話中ニ引用スル他人ノ言ニシテ毫モ變ズルコナク其儘ニ据置カルヽモノナリ、常ニ之ニ引用標 (ковы́чки) ヲ附ス、例ハ Мать сказа́ла ему́ "*старáйся учи́ться и хорошó ведú себя́.*" (母ハ彼ニ云ヘリ「勉強セヨ且ツ品行ヲ愼メ」)、此文ハ二文句ヨリ成リ、前文句ハ後文句ノ何人ニ屬スルヤヲ明示シ、後文句ハ人、自身ノ言ナリ

引用句ガ何人ニ屬スルヤヲ明示スル所ノ文章ハ(第一)引用句ノ前ニ立ツコアリ斯カル際ニハ引用句ノ前ニ重點 (:) ヲ附ス但シ或ル人々ハ重點ノ代リニ半點ヲ附ス、或ハ(第二)引用句ヲ二分シテ其中間ニ立ツコアリ、然ル時ニハ中間ニ立ツ所ノ文章ノ前後ニ半點 (;) ヲ附ス. "*Старáйся учи́ться*", мать сказа́ла ему́: "*и хорошó ведú себя́,*" 或ハ(第三)引用句ヲ前ニ立テ、之ヲ明示スル文章ヲ後ニ立ツ、然ル時ハ其間ニ半點ヲ附ス "*Старáйся учи́ться и ведú себя́ хорошó,*" сказа́ла ему́ мать. 然レドモ若シ引用句ノ結尾ニ疑問符號或ハ感歎符號ヲ附スル時ハ其後ニ立ツ所ノ文章ノ前ニ半點ヲ附用セズ "*Старáйся учи́ться, мой сынъ*" сказа́ла ему́ мать. "*Что вы чита́ете?*" спроси́лъ онъ меня.

本來引用句ハ一箇獨立ノ文章ナレドモ若シ之ヲ説明ノ文章ト連結シテ視ル時ハ概シテ説明文章ノ客語ニ關係ヲ有スルモノナリ即チ其補語的文章ト成ル、而シテ説明文章ノ客語ハ大概動詞 сказа́ть, говори́ть, спроси́ть, отвѣча́ть, поду́мать 等ナリ

備考 若シ説明文章ト引用句トノ連結トシテ接續詞 что ヲ使用スル時ハ引用句ハ通常ノ補語的文章ト成ル然ル時ハ引用標ヲ使用セズ、例ハ Онъ сказа́лъ: "*мой бра́тъ бо́ленъ*" Онъ сказа́лъ, *что* его́ *бра́тъ бо́ленъ.*

IV. 若シ補語的文章ガ主文章ノ動詞(無人稱タル)ニ關係スル時ハ此補語的文章ハ что? (何ハ)ノ問ニ應ズルモノト成ル故ニ之ヲ主語的補充文章ト稱ス、此種ノ文章ハ時トシテ簡約セラルヽヿヲ得ベシ例ハ Мнѣ гру́стно, *что я разста́юсь съ вами* (貴君ト相別ルハ我レニハ哀シ).=Мнѣ гру́стно *разстава́ться съ вами.* Было рѣшено́, *что́бы я уѣха́лъ въ дере́вню* (我ハ村ニ往クベク決定セラレタリ). До са́маго разсвѣта слы́шно было, *какъ весели́лись въ сосѣднемъ до́мѣ* (隣家ニ於テ如何ニ遊ビ樂ミシヤハ夜明マデ聞ヘタリ)

V. 接續詞 что, что́бы, бу́дто ヲ冒頭トスル補語的文章モ、間接疑問モ引用句モ凡テ補語的文章タルモノハ他ノ文章ノ客語(即チ動詞)ニ關係スルヲ常トス、然レドモ時トシテ補語的文章ハ他ノ文章ノ動詞ニ關係セズシテ名詞ニ關係スルコアリ、然ル時ハ補語的ニ非ズシテ定語的文章ト成ル、但シ此名詞ハ大概補語的文章ノ關係ヲ有スル動詞ト語根ヲ同クスルモノナリ. Онъ *ду́маетъ, что* братъ его́ у́меръ. *Мысль, что* братъ его́ у́меръ,

сильно безпоко́ить его́ (彼レノ兄弟ハ死シタリトノ念慮ハ強ク彼ヲ心配セシメタリ)、第一例ノ副文章ハ補語的ナリ、何トナレバ動詞 думаетъ ニ關係ス、第二例ノ副文章ハ定語的ナリ、何トナレバ動詞 мысль ニ關係ス、尚ホ次ノ例ヲ以テ之ヲ明カニセン、 Онъ о́чень *забо́тится о томъ, чтобы* дѣти его получи́ли хоро́шее образова́ніе. *Забо́та о томъ, чтобы* дѣти получи́ли хоро́шее образова́ніе, лежи́тъ на обя́занности роди́телей (兒童ニ良教育ヲ得セシメントノ配慮ハ兩親ノ義務ニ存ス). Онъ нѣ́сколько разъ *говори́лъ* намъ (*о томъ*), *какъ* онъ путеше́ствовалъ по Аме́рикѣ. *Разска́зы* его́ *о томъ, какъ* онъ путеше́ствовалъ по Аме́рикѣ, о́чень интере́сны (如何ニ彼ハ亞米利加ヲ旅行セシトノ物語ハ甚タ面白シ). Она *сказа́ла*; „прощай, мой сынъ! не забывай мать!" *Слова*: „прощай, мой сынъ! не забывай мать!" она произнесла́ со слеза́ми на глаза́хъ (我ガ子ヨ母ヲ忘ルル勿レトノ言ヲ彼女ハ眼ニ涙シテ發シタリ).

§ 165. 場所ノ狀況ノ 副文章 (Прида́т. предл. обстоя́т. мѣ́ста)

1. 此文章ハ主文章ノ動詞ニ關係シテ而シテ гдѣ? куда? отку́да? 問ニ應ス

此副文章ハ主文章ト合一スルニ次ノ諸詞類ヲ以テス

(甲) 關係副詞 гдѣ, куда́, отку́да ヲ以テス、主文章ニ於テ之ニ對應スルハ文意ニ依リテ或ル指示副詞 тамъ, туда́, отту́да ナリ、但シ主文章ノ此指示副詞ハ省略セラル、コトヲ得ベシ. Мой братъ квартиру́етъ *тамъ, гдѣ квартиру́етъ и вашъ* (我ガ兄弟ハ貴君ノ兄弟ノ住宿スル地ニ住宿ス)

此文章ハ主文章ノ後ニモ前ニモ中間ニモ立ツコトヲ得ベシ、而シテ何ツレノ場合ニ於テモ主文章ト此文章トノ間ニ半點ヲ用フ、例ハ Отту́да никто́ не бѣжи́тъ, *гдѣ хорошо́*. *Гдѣ хорошо́*, отту́да никто́ не бѣжи́тъ. Отту́да, *гдѣ хорошо́*, никто́ не бѣжи́тъ. (都合ヨキ場所ヨリハ誰レモ遁逃セズ)、

(乙) 關係副詞ニ ни ヲ附シテ、即チ гдѣ ни, куда́ ни, откуда́ ни ヲ以テス、此副文章ノ特質ハ (第一) ни ハ否定ノ意義ヲ有セズ (第二) 主文章ニ於テハ此副詞ニ對應スルハ指示副詞ニ非ズシテ、定副詞 вездѣ 或ハ否定副詞 нигдѣ ナリトス、此種ノ文章ニ於テハ接續法ノ代リニ命令法ヲ使用ス、(§114, VI 丙) 例ハ *Гдѣ ни живи́ они* (=*гдѣ они ни жи́ли бы*), ихъ *вездѣ* бу́дутъ любить 或ハ *нигдѣ* не бу́дутъ любить (何處ニ住ムトモ人々ハ彼等ヲ愛スルナラン或ハ愛セザラン)

2. 此副文章ハ省略セラルコト至テ稀ナリ、但シ名詞ヲ以テ省略セラルコトアリ、即チ мѣ́сто トイフ名詞或ハ при (傍ニ) トイフ前置詞ヲ使用シテ省略ヲ施ス而シテ既ニ省略セラレシ副文章ハ通常ノ場所狀況語ト成リ、半點ヲ以テ主文章ト區別セズ、例ハ Онъ пріѣ́халъ къ роди́телямъ пря́мо отту́да, *гдѣ онъ слу́житъ*. =Онъ пріѣ́халъ къ роди́телямъ пря́мо *съ мѣ́ста свое́й слу́жбы* (彼ハ其勤務ノ地ヨリ直チニ兩親ノ許ニ來レリ). Петербу́ргъ располо́женъ по берега́мъ Невы́, *гдѣ она́ впада́етъ въ мо́ре*. =Петербу́ргъ располо́женъ по

берега́мъ Невы́ *при впаде́нiи ея́ въ мо́рс* (彼得堡ハネワ河ノ沿岸即チ此河ガ海ニ注ガントスル處ニ位ス)、

§ 166. 時ノ狀況ノ副文章 (Прида́т. предл. обст. вре́мени)

此文章ハ常ニ主文章ノ客語ニ關係ヲ有シ когда́? въ како́е вре́мя? (何時ニ於テ) какъ до́лго? (何時間) съ како́го вре́мени? съ каки́хъ поръ? (何時ヨリ) до како́го вре́мени? до каки́хъ поръ (何時マデ) 等ノ問ニ應ス、

I. 此文章ハ主文章ト合一スルニ諸種ノ副詞及時ヲ表スル接續詞ヲ以テス

1. когда́, пока́, какъ то́лько, пре́жде чѣмъ 等ヲ以テス、而シテ主文章ニ於テ之ニ對應スル副詞ハ тогда́, до тѣ́хъ поръ, въ то вре́мя 等ナリ、此副詞ハ省略セラルヽヿヲ得ベシ、概シテ副文章ト主文章ニ於ケル副詞ノ對應ハ次ノ如キモノトス

когда́—тогда́	(何々スル時、其時)
въ то вре́мя—какъ 或ハ когда́	(何々スル時、其時) 〔但シ下ヨリ譯シテ上ニ返ル〕
съ тѣ́хъ поръ—какъ	(何々セシ時、其時ヨリ) 〔譯方同上〕
посл'ѣ того—какъ	(何々セシ其後) 〔譯方同上〕
пре́жде—чѣмъ 或ハ не́жели	(何々ヨリ以前ニ)

пока́—до тѣ́хъ поръ (迄其時マデ) 及ヒ同一ノ意義ヲ有スル書籍上ノ語句タル пока́мѣсть, поку́да, доко́лѣ—до тѣхъ поръ, поту́да, дото́лѣ 等ナリ、此副文章ハ主文章ノ後ニモ前ニモ中間ニモ立ツヿヲ得ベシ、而シテ何ツレノ場合ニ於テモ主文章ト此副文章トノ間ニ半點ヲ附ス、例ハ Онъ очень обра́довался (*тогда́*) *когда́ уви́дѣлъ меня́* (我ヲ見シ時、彼ハ大ニ悦ビタリ). *Когда́ наступа́етъ весна́*, (*тогда́*), изъ-подъ земли́ пока́зывается трава́ и ли́стья на дере́вьяхъ начина́ютъ зелене́ть (春ノ來ル時ハ地下ヨリ草ハ現ハレ、而シテ樹上ノ葉ハ綠色トナリ始ム). *Въ то вре́мя, какъ мы у́чимъ други́хъ*, мы са́ми у́чимся (我等ハ他人ヲ教フル其際ニ我等自身モ習得ス).

2. 時ノ副詞 едва́, лишь, то́лько, едва́ лишь, едва то́лько, лишь то́лько, то́лько что, какъ то́лько 等ヲ以テス、主文章ニ於テ之ニ對應スルハ副詞 какъ ナリ又時トシテハ сейча́съ, неме́дленно 等ナリ、主文章ノ副詞ハ省略セラルヽヿヲ得ベシ、例ハ *Едва́* (=*то́лько что*=*лишь то́лько*) дере́вья покры́лись ли́стьями, *какъ сосѣ́дняя ро́ща огласи́лась пѣ́снемъ-пти́чекъ* (樹木ハ葉ニテ蔽ハルヽヤ否ヤ近隣ノ森ハ禽鳥ノ囀聲ヲ以テ鳴リ響ケリ). *Лишь то́лько онъ прі́ѣхалъ въ Япо́нію*, онъ *сейча́съ же* приступи́лъ къ изуче́нію япо́нскаго языка (彼ハ日本ニ來ルヤ否ヤ直チニ日本語ノ習得ニ着手セリ).

3. 副詞 когда ニ ни ヲ附シテ (即チ когда ни ヲ以テ)、主文章ニ於テ之ニ對應スルハ定副詞 всегда 或ハ否定副詞 никогда ナリ、但シ ни ハ斯カル際ニ於テハ否定ノ意義ヲ有セズ、副詞 когда ни ヲ以テ始マル所ノ文章ニ於テハ接續法ノ代リニ命令法ヲ使用ス、例ハ *Когда́ ни приходи́лъ я къ нему́*,

онъ *всегда́* былъ до́ма (何時我レ彼ノ許ニ赴クトモ彼ハ常ニ在宿セリ). *Когда́ бы вы ни пріѣхали къ нему́*, его́ *нико́гда* нѣтъ до́ма (貴君ガ何時彼ノ許ニ赴クトモ、彼ハ常ニ不在ナリ). *Когда ни придѝ къ нему́*, онъ *всегда́* занима́ется 或ハ онъ *никогда́* не занима́ется (何時彼ノ許ニ赴クトモ彼ハ常ニ勉強シ居ル、或ハ何時モ勉強シ居ラズ)

II. 此文章ノ簡約、此文章ハ(1)副動詞(2)形動詞(3)名詞ヲ以テ簡約セラル、

1. 副動詞ヲ以テ簡約セラル、ハ主文章ト副文章ノ主語ガ同一ナル場合アリ、此簡約ハ次ノ如クシテ行ハル § 96, III, IV (甲)凡テ文章(主文章ニテモ副文章ニテモ)ヲ連結スル所ノ副詞ハ省略セラル、(乙)副文章ノ動詞ハ副動詞ニ變ゼラル、但シ此副動詞ハ現在トモ過去トモ成ル場合アリ、若シ副文章ノ動詞ト主文章ノ動詞ト同時ノ動作ナル時ハ副動詞ハ現在ト成ル、若シ副文章ノ動詞ガ主文章ノ動作ニ先ダツ場合ヲ表スル時ハ副動詞ハ過去ト成ル、(§ 96, 4)、

例ハ *Когда́ я шёлъ къ вамъ*, сильно вспотѣлъ (我ハ貴君ノ許ニ行キシ時、強ク發汗セリ)、此副文章 когда я шёлъ къ вамъ ヲ簡約スルヲ得ベシ、何トナレバ主副兩文章ニ於テ主語ハ共ニ я ナリ、此文章ヲ簡約スルニハ шелъ ヲ變シテ副動詞現在 идя トスヲ要ス、何トナレバ動詞 шёлъ ト вспотѣлъ ハ同時ノ動作ナリ、即チ *Идя́ къ вамъ*, я си́льно вспотѣлъ. Онъ ушёлъ къ това́рищу, *когда вы́училъ всѣ свои́ уро́ки*.=Онъ ушёлъ къ това́рищу, *вы́учивши всѣ свои́ уро́ки* (其日課ヲ習得シテ彼レハ友人ノ許ニ出往ケリ)、此文ノ副動詞ハ過去ト成レリ、何トナレバ是レハ主文章ノ動詞 ушёлъ ト云フ動作ニ先ダツ動作ヲ表ス、

主文章ガ無人稱ナルトモ副文章ヲ簡約スルヲ得ベシ若シ主文章ノ主語ト副文章ノ主語ト相異ナルトモ、副文章ノ客語ト主文章ノ不定法動詞ガ同一ノ事物ニ關係ヲ有スル時ハ副文章ヲ簡約スルヲ得ベシ、例ハ *Когда́ я возвраща́лся изъ учи́лища*, мнѣ ну́жно бы́ло зайти́ въ ла́вку (我レ學校ヨリ歸リシ時ニハ我レ店ニ立寄ル必要アリシ)、此文中ノ「歸ル」ト「立寄ル」ハ共ニ同一ノ人ニ關係ヲ有ス、故ニ主文章ハ無人稱ナレドモ副文章ヲ簡約スルヲ得ベシ. *Возвраща́ясь изъ учи́лища*, мнѣ ну́жно бы́ло зайти́ въ ла́вку.

副動詞ヲ以テ簡略文章ヲ完全文章ニ變スル方法ハ(甲)接續詞ヲ以テス(乙)主文章ト同一ナル主語ヲ副文章ニ挿入ス(丙)副動詞ヲ直接法ニ變シ而シテ之ヲ主文章ノ動詞ト同一ノ時(現在、過去、未來)ニ立ツ、例ハ *Возвраща́ясь изъ учи́лища*, я обыкнове́нно захожу́ къ това́рищу.=*Когда я возвраща́юсь изъ учи́лища*, (тогда) я...(學校ヨリ歸リツヽ我ハ常ニ朋友ノ許ニ立寄ル)、此文章ニ於テハ(甲)接續詞 когда—тогда ヲ挿入シ、(乙)副動詞 возвраща́ясь ヲ я возвраща́юсь ニ變ゼリ、何トナレバ主文章ノ客語ハ直接法ノ現在ニ立テリ. *Возвраща́ясь* изъ учи́лища, *я* обыкнове́нно *захожу́* къ това́рищу.=*Когда я возвращу́сь* изъ учи́лища, я...*Возвраща́ясь* изъ учи́лища, *я зайду́* къ вамъ.=*Когда я буду возвращаться* изъ учи́лища, я...Постоя́нно *читая́* русскія

кни́ги, *мо́жно* ско́ро научи́ться по-ру́сски. = *Когда́ кто-нибу́дь* постоя́нно *чита́етъ* ру́сскія кни́ги, тогда тотъ *мо́жетъ* ско́ро научи́ться по-ру́сски (常ニ露書ヲ讀ミ居ル時ハ露語ニ速ニ通達スルコヲ能クセン).

2. 形動詞ヲ以テハ副文章ハ簡略セラル、コ至テ稀ナリ、即チ副文章ノ客語ガ副動詞 бу́дучи, бы́вши, бывъ ヲ以テ簡略セラル、場合ノミナリ、例ハ *Когда́ мать нѣсколько успоко́ила меня*, я отпра́вился къ себѣ домо́й. = *Бу́дучи нѣсколько успоко́ена матерью*, я .. = *Нѣсколько успоко́енный ма́терью*, я .(母ハ我ヲ安慰セシ時、我ハ自身ノ家ニ赴ケリ). *Когда́ жи́тели бы́ли дове́дены го́лодомъ до кра́йности*, они рѣши́ли сдать го́родъ непрія́телю. = *Бу́дучи дове́дены го́лодомъ* до кра́йности, жи́тели рѣши́ли... *Дове́денные го́лодомъ до кра́йности*, жи́тели ..(饑餓ニ逼リテ市内ノ住民ハ敵ニ市ヲ渡スコヲ決セリ).

3. 名詞ヲ以テ此副文章ヲ簡略スルハ至テ稀ナリ、簡略ノ際ニハ副文章ノ動詞ハ同意義ノ名詞ニ變ズ且ツ名詞ニ附合スル前置詞 по(時ヲ表スル)ヲ以テス、名詞ヲ用ヒテ簡略ヲ施シタル文章ハ通常ノ狀況語ト見做スベシ、而シテ此名詞ト主文章ノ間ニ半點ヲ附スルハ此名詞ガ定語ヲ有スル場合ナリ、若シ定語ヲ有セザレバ半點ヲ附スルコナシ、例ハ *Какъ то́лько онъ прі́ѣхалъ въ Япо́нію*, онъ сейча́съ же приступи́лъ къ изуче́нію япо́нскаго язы́ка. = *По прі́ѣздѣ своёмъ въ Япо́нію*, онъ сейча́съ же... *Когда́ онъ прі́ѣхалъ*, пре́жде всего́ онъ припёлъ ко мнѣ. = *По прі́ѣздѣ своёмъ* пре́жде всего́ онъ припёлъ ко мнѣ (彼ハ到着セシ後最モ早ク我許ニ來レリ).

§ 167. 動態狀況ノ副文章 (Придат. предл. обст. о́браза дѣ́йствія)

動態狀況ノ副文章ハ常ニ主文章ノ動詞ニ關係ヲ有ス、是レハ三種ニ分類ス、 I. 純粹ノ動態狀況 II. 比較的文章 III. 說明的文章

I. 純粹ノ動態狀況文章、是レハ主語ノ動作ヲ說明スルニ他ノ動作ヲ以テスルモノナリ、即チ副動詞ト副詞 какъ ヲ以テス

1. 副動詞ヲ以テ說明ス、例ハ Я писа́лъ э́то сочине́ніе, *рабо́тая по утра́мъ* (每朝勞作シテ我ハ此文ヲ記セリ)、此例ノ主語ハ я ナリ、主語ノ動作ハ писалъ сочиненіе ナリ、此動作ヲ說明スル他ノ動作ハ рабо́тая по утра́мъ ナリ.

若シ副動詞ノ傍ニ他ノ語ノ存スル時ハ半點ヲ附シテ主文章ヨリ此語句(副動詞ト其附隨ノ語)ヲ分ツ、若シ附隨ノ語、存セザル時ハ半點ヲ附セズシテ通常ノ(即チ副文章ニ非ヌ)動態狀況ト見做スナリ、例ハ Онъ чита́лъ газе́ты, *лёжа на дива́нѣ* (彼ハ長椅子ニ臥シテ新聞ヲ讀メリ). Онъ чита́лъ газе́ты *лёжа* (彼ハ臥シツ、新聞ヲ讀メリ)、此文ニハ簡約ヲ施スコ能ハズ、又此副文章ノ客語ヲ直說法タラシムルコ能ハズ

2. 副詞 какъ ヲ以テ說明ス、主文章ニ於テハ такъ ト云フ副詞ハ之ニ應スレド省略セラル、コ多シ. Онъ сдѣлалъ э́то (*такъ*), *какъ предполага́лъ* (彼ハ豫想セシ如クニ之ヲ行ヘリ)、此文章ハ省略セラルコナシ

III. 比較的文章 (сравни́тельное предл.) 是レハ主文章ノ狀態ヲ他ノ事物ノ比較ヲ以テ說明スルモノナリ、事物ヲ相互ニ比較スルニハ或ハ性質ニ依リ或ハ數量ニ依ル、故ニ比較文章ニハ性質的ト數量的ノ二種アリ

1. 性質的比較文章、此文章ハ主文章ト連結スルニ次ノ諸詞類ヲ以テス

(甲) 關係代名詞 како́въ ヲ以テス、主文章ニ於テハ指示代名詞 тако́въ ハ之ニ對應ス、例ハ *Каковы́ роди́тели, таковы́* и дѣти (親ガ親ナレバ子モ子ナリ)、此副文章ハ實ハ定語的副文章ニシテ而シテ客語的副文章ト稱セラル、如何トナレバ常ニ主文章ノ爲ニ客語ト成ル

(乙) 副詞 чѣмъ ヲ以テス、主文章ニ於テハ副詞 тѣмъ ハ形容詞ノ比較級ト共ニ立チテ之ニ對應ス、即チ чѣмъ—тѣмъ (ダケ、ソレダケ)、斯カル場合ニ於テハ主文章ト副文章トノ客語ハ同一ナラズシテ相異ルヲ常トス、例ハ *Чѣмъ моро́зные ночь, тѣмъ* звѣзды я́рче (夜ノ寒烈ナルダケ星ハ愈々晃々タリ)

(丙) 副詞 чѣмъ, не́жели ヲ以テス、主文章ニ於テハ形容詞或ハ副詞ノ比較級ハ之ニ對應ス、若シ比較ノ事物ガ名格ニ立ツ時ハ、此文章ニ簡約ヲ施スコトヲ得ベシ然ル時ハ副詞 чѣмъ, нежели ヲ省略シテ名格ヲ生格ト成ス、例ハ Вы заплати́ли доро́же, *чѣмъ* (或ハ *нежели*) *я.* = Вы заплати́ли доро́же *меня́* (貴君ハ我ヨリ高價ニ拂ヘリ).

(丁) 副詞 какъ (如ク), бу́дто (サモ……如ク), какъ бу́дто (サモ……如ク), сло́вно (「恰モ」但シ俗語ナリ), сло́вно какъ (恰モ……如ク), какъ бы (恰モ), бу́дто бы (サモ……タル如ク) (бы ヲ附スルハ假想ノ事物ヲ表スル際ナリ) ヲ以テス、主文章ニ於テ之ニ對應スルモノハ副詞 такъ, подо́бно тому ナリ、此對應ノ副詞ハ省略セラルヽコトヲ得ベシ、例ハ *Какъ вы проси́ли, такъ я* и сдѣ́лалъ (貴君ガ請願セシ如クニ我ハ行フタリ). Получи́вши изве́стіе о болѣ́зни сы́на, она *такъ* го́рько пла́кала, *какъ бу́дто бы онъ у́меръ* (子息ノ病氣ノ通知ヲ得テ、彼女ハ恰モ子息ガ死セシ如クニ苦哭セリ).

接續詞 какъ 或ハ сло́вно ヲ以テ始マル所ノ比較文章ニ於テ、其客語ガ主文章ノ客語ト同一ナル時ハ副文章ノ客語ハ大抵省略セラル、ヲ常トス、例ハ Онъ летѣ́лъ, *какъ летитъ стрѣла́.* = Онъ летѣ́лъ, *какъ стрѣла́* (彼ハ箭ノ如ク飛ベリ).

副詞 какъ ヲ以テ始マル所ノ文章ハ時トシテ簡約ヲ施サル、即チ客語ノ省略セラルベキ所ノ文章ハ次ノ如クシテ簡約ヲ施サルベシ、例ハ造格ヲ以テス. Онъ летѣ́лъ, *какъ стрѣла́.* = Онъ летѣ́лъ *стрѣло́ю* 或ハ動態ノ副詞ヲ以テス、例ハ Онъ поступи́лъ *какъ* (*поступаетъ*) *ребёнокъ.* = Онъ поступи́лъ *по-дѣтски* (彼ハ小兒的ニ行ヘリ)、客語ガ省略セラル、コトヲ能ハザル所ノ文章ハ時トシテ名詞ニ согла́сно ト云フ副詞ヲ附シテ以テ簡約ヲ施サルベシ或ハ名詞ニ согласно съ ト云フ副詞ヲ附シテ簡約ヲ施ス. Онъ поступи́лъ, *какъ приказа́лъ отецъ.* = Онъ поступи́лъ *согла́сно приказа́нію отца́* (父ノ命ニ從テ) 或ハ Онъ поступи́лъ *согла́сно съ приказа́ніемъ отца́* (彼ハ父ノ命令ニ同意シテ行ヘリ).

俗語ニ於テハ副詞 какъ ハ(若シ對應ノ副詞 такъ ハ省略セラルヽ時ハ)接續詞 что ヲ以テ代用セラル、例ハ Мать плáчетъ, *что* (=какъ) рѣкá льётся (河ノ流ルヽガ如クニ母ハ泣ク)

2. 個數的比較文章、是レハ副詞 чѣмъ, скóлько (代名詞タル時ニモ), наскóлько, воскóлько ヲ以テ始マリ、主文章ニ於テ之ニ對應スルハ副詞 тѣмъ, стóлько, настóлько, востóлько ナリ(但シ此對應ノ副詞ハ省略セラルヽヿヲ得ベシ)、即チ副文章ト主文章ニ於ケル副詞ノ對立ハ次ノ如シ чѣмъ—тѣмъ, (ダケ、ソレダケ) скóлько—стóлько (同上), наскóлько—настóлько (同上), воскóлько—востóлько (同上)、例ハ *Чѣмъ съ бóльшимъ вниманіемъ вы бýдете писáть, тѣмъ* мéньше у васъ бýдетъ ошúбокъ (貴君ガ注意ヲ强クシテ書スダケ、ソレダケ貴君ニハ誤リハ少ナカラントス). Онъ вчерá занимáлся *стóлько, скóлько и я* (昨日彼レハ我レト同シキ程、ソレ程勉强セリ).

2 對立ノ副詞 стóлько—скóлько, настóлько—наскóлько ハ時トシテ такъ—какъ ヲ以テ代用セラルヽヿアリ、例ハ Онъ на сáмомъ дѣлѣ *не такъ* (=*не настóлько*) простъ, *какъ* (*наскóлько* ノ代リニ) *это кáжется съ пéрвого рáзу* (*а*) (彼ハ實際ニ於テハ一見シテ見受ケラルヽガ如ク淡泊ニハアラズ).

俗語ニ於テハ副詞 наскóлько ハ接續詞 что ヲ以テ代用セラルヽヿアリ即チ對應ノ副詞 настóлько ヲ省略セシ場合ニ限ル、例ハ Крúкните, *что есть сúлы.* = Крúкните *настóлько* грóмко, *наскóлько есть сúлы* (力ノ有ラン限リ强聲ニ叫ベヨ).

概シテ此文章ハ簡約セラルヽヿナシ

○ III. 說明的文章. (изъяснúтельное предложéніе) 此文章ハ常ニ主文章ノ後ニ立チ而シテ二種ニ分カル

1. 結果ヲ表示シ而シテ主文章ト此文章トヲ連結セシムルハ接續詞 что ナリ、主文章ニ於テ之ニ對立スル語ハ, такъ, стóлько, настóлько, востóлько, до тогó 等ナリ、此對立ハ即チ次ノ如シ такъ—что, (何々ナリト其樣ニ) до тогó—что, (同上) настóлько—что (同上) 等ナリ、例ハ Вчера я ходúлъ такъ мнóго, *что и сегóдня у меня́ боля́ть нóги* (今日足ガ痛ム程ニ昨日我ハ多ク步行セリ).

3 2. 結果ヲ生ゼシメン爲ノ目的ヲ示ス、是レハ接續詞 чтóбы ヲ以テ主文章ニ連結ス、主文章ニ於テハ副詞 такъ, стóлько, до тогó 等ハ之ニ對應ス、即チ次ノ如キ對立ヲ爲ス такъ—чтóбы, (何々スル程マデニ) стóлько—чтóбы, (同上) до тогó—чтóбы (同上). 例ハ Старáйтесь вестú себя́ *такъ, чтóбы и роди́тели, и учителя́, и товáрищи бы́ли довóльны вáми* (兩親モ敎師モ朋友モ汝ヲ見テ滿足スル樣ニ身ヲ處スルヿヲ努メヨ).

說明的文章ハ簡約セラルヽヿナシ

說明的文章ハ時トシテハ動詞ニ關係セズシテ名詞ニ關係ス、然ル時ハ之ヲ定語的文章ト稱ス (§ 162, III, 2)

§ 168. 原因狀況副文章 (Придат. предл. обстоят. причины)

是レハ主文章ノ動詞ニ關係ヲ有シテ почему́? отчего́? зачѣмъ? изъ-за чего́? 等ノ問ニ答フ

I. 是レハ主文章ニ連結スルニ次ノ如キ接續詞ヲ以テス即チ потому́ что (何トナレバ), оттого́ что (ナルニ由テ), такъ какъ (ナル故ニ), такъ какъ—то (同上), оттого—что (ナルニ由テ), вслѣдствіе того—что (同上), за то—что (同上), за тѣмъ—что (ナラン爲ニ), изъ-за того—что (ソレガ爲ニ), тѣмъ—что (ソレニテ), ибо (「如何トナレバ」ノ意ニシテ古語ナリ), коль скоро (「若シ」ノ意ニシテ原因及ヒ條件ヲ表ス), коль скоро—то 例ハ Камень то́нетъ въ водѣ, *потому́ что онъ тяжеле́е воды́* (石ハ水中ニ沈ム、何トナレバ石ハ水ヨリ重シ). *Такъ какъ де́рево ле́гче воды́, то* оно не то́нетъ, а пла́аетъ (木ハ水ヨリ輕キ故ニ、木ハ沈マズシテ浮ブ)

2. 接續詞 потому́ что, отто́го что, вслѣдствіе того—что ハ兩分セラルモアルベシ、然ル塲合ニハ前半ハ主文章ニ入リ、後半ハ副文章ニ入ル即チ потому́—что, оттого́—что, вслѣдствіе то́го—что ト兩分ス、斯ク兩分スルハ殊ニ返答ノ際ニ於テ多クシテ、斯カル塲合ニハ前半ノ語ヲ殊更高調ニ發音ス例ハ Я не пойду́ къ нему́, *потому́ что у меня́ нѣтъ свобо́днаго вре́мени* (我ハ彼ノ許ニ往カザラン、何トナレバ我ニハ閑暇ナシ). Почему́ вы не пойдёте къ нему́?—Я не пойду́ къ нему́ *потому́, что у меня́ нѣтъ свобо́днаго вре́мени* (我ニハ閑暇ナキ故ニ我ハ彼ノ許ニ往カザラン).

3. 合成的接續詞 (中間ニ тире 即チ横線ヲ有スル所ノ) ハ常ニ兩分セラレ、其半分 (即チ代名詞 то ノ存スル方) ハ主文章ニ入リ、他ノ半分ハ副文章ニ入ル

II 簡略、簡略ハ 1. 副動詞 2. 形動詞、3. 名詞ヲ以テ之ヲ施スモノトス

1. 此文章ハ時ノ狀況ノ副文章ノ如ク、副動詞ヲ以テ簡略セラルヽ塲合ハ主文章ト副文章ノ主語ガ同一ナル際ナリ、而シテ其簡略法ハ時ノ狀況副文章ノ簡略法ト同一ナリ (§ 166, II, 1 參照). 例ハ Я не́ былъ ещё у него́, *такъ какъ не зна́ло*, гдѣ онъ живётъ.=*Не зна́я*, гдѣ онъ живётъ, я ещё не былъ у него́ (彼ハ何處ニ住ムヤヲ我ハ知ラザル故ニ我ハ未ダ彼ノ許ニ赴カザリシ). Они не пошли́ сего́дня гуля́ть, *такъ какъ испуга́лись дождя́*.=*Испуга́вшись дождя́*, они не пошли́ сего́дня гуля́ть (雨ヲ恐レテ彼等ハ今日遊歩ニ赴カザリシ).

2. 形動詞ヲ以テ簡略ヲ施スハ稀ナリ、即チ主文章ガ副動詞 бу́дучи, бы́вши, бывъ ヲ以テ簡略セラルヽコトヲ得ル塲合ノミナリ、但シ此簡略法ヲ使用スルハ時ノ狀況副動詞 (§ 166, II, 2) ノ簡略ヲ使用スルヨリハ多シトス、何トナレバ形動詞ヲ以テ簡略ヲ施シタル原因狀況副文章ハ簡略的定語文章ト見做サルヽ可能ハザレバナリ、例バ *Такъ какъ онъ по свое́й приро́дѣ не злопа́мятенъ, то* онъ ско́ро забы́лъ э́то оскорбле́ніе.=*Бу́дучи по свое́й приро́дѣ не злопа́мятенъ*, онъ ско́ро...=*Не злопа́мятный по свое́й приро́дѣ*

онъ скоро...(彼ハ天性執念深キ者ナラザル故ニ、程ナク此侮辱ヲ忘レタリ).
Такъ какъ китáйцы невоúнственны, то они легкó были побѣждены яцóнцами (支那人ハ武勇ヲ好マザル民ナル故ニ容易ニ日本人ニ敗北セリ).=Китáйцы, *бýдучи невоúнственны*, легкó были...=*Невоúнственные* китáйцы легкó были..

3. 名詞ヲ以テ簡約ヲ施ス塲合モ稀ナリ、若シ施スベキ塲合ニハ副文章ノ客語ハ名詞ト成リ且ツ其原因ヲ表スル語ヲ此名詞ニ附ス、例ハ Я не былъ въ клáссѣ, *потóму что* бóленъ.=Я не былъ въ клáссѣ *вслѣдствіе* болѣзни 或ハ *по слýчаю* болѣзни 或ハ *по* болѣзни (我ハ學校ニ缺席セリ、如何トナレバ病氣ナリシ=病氣ニ由テ我ハ學校ニ缺席セリ)

§ 169. 目的狀況ノ副文章 (Прилáт. предл. обстоя́т. цѣли)

此文章ハ主文章ノ動詞ニ關係ヲ有シテ для чего? зачѣмъ? съ какóю цѣлью? ノ問ニ答フ

而シテ主文章ト連結スルニハ接續詞 чтóбы 及ビ дабы (但シ дабы ハ現今ニ於テハ書籍上ノミノ用語ト成レリ) ヲ以テス、主文章ニ於テハ此接續詞ニ對應スル接續詞 для того (ソノ爲ニ), за тѣмъ (同上), съ тѣмъ (同上), съ тою цѣлью (ソノ目的ヲ以テ) 存ス、但シ此對應ノ接續詞ハ時トシテ省略セラルベシ

此副文章ニ於テハ動詞ハ不定法或ハ接續法ト成ル、若シ主副兩文ニ於テ同一ノ主語ナル時ハ動詞ハ不定法ト成ル、例ハ Онъ приходúлъ ко мнѣ (*съ того цѣлью*), *чтóбы занáть дéнегъ* (金錢ヲ借ラン爲ノ目的ヲ以テ彼ハ我ニ來レリ). 若シ主副兩文ニ於テ主語ノ相異ナル時ハ動詞ハ接續法ト成ル、但シ期カル文章ハ至テ僅少ナリ. Будь снисходúтеленъ къ другúмъ, *чтóбы и другíе былú снисходúтельны къ тебѣ* (人ハ汝ニ對シテ寬恕タラン爲ニ汝モ人ニ對シ寬恕タルベシ).

此副文章ハ主文章ノ後ニモ前ニモ中間ニモ立ツヿヲ得ベシ而シテ何ツレノ塲合ニ於テモ主文章トノ間ニ半點ヲ附ス、例ハ *Чтóбы твёрдо пóмнить словá*, читáйте ихъ по-нѣскóльку разъ (語ヲ確ニ記憶スル爲ニハ之ヲ數回復讀セヨ). *Для того́, чтóбы онъ скорѣе узнáлъ э́ту нóвость*, я послáлъ емý телегрáмму (彼ヲシテ速ニ此新事報ヲ知ラシメン爲ニ我ハ彼ニ電報ヲ發シタリ).

簡約

(甲) 動詞ノ不定法ヲ客語トシ且ツ接續詞ヲ以テ主文章ト連結スル所ノ文句ハ其接續詞ヲ省略スルヲ得ベシ例ハ Онъ приходúлъ ко мнѣ *съ тою цѣлью, чтóбы занять дéнегъ*.=Онъ приходúлъ ко мнѣ *занáть дéнегъ* (彼ハ金錢ヲ借用セントテ我カ許ニ來レリ). 若シ又副文章ノ動詞ガ взять, купúть, позвáть 等ニシテ且ツ直補語ヲ有スル時ハ其動詞ハ省略セラル、直補語ハ造格ト成リテ前置詞 за (目的ヲ表スル所ノ § 121, II, 4) ト共ニス、例ハ Онъ побѣжáлъ домóй, *чтобы взять книгу*.=Онъ побѣжáлъ домóй *взять книгу*.=Онъ побѣжáлъ домóй *за книгою* (書籍ヲ持來ラン爲ニ彼ハ家ニ駈付タリ).

(乙) 或ル文句ハ動詞ノ代リニ、同一意義ノ名詞ヲ用ヒテ(目的ヲ表スル前置詞 для ト共ニシテ)簡約ヲ施サルヽヲ得ベシ、例ハ Мы имѣемъ рукѝ *для того́, чтобы рабо́тать.* = Мы имѣемъ рукѝ *для рабо́ты* (我等ハ労働セン爲ニ手ヲ有ス).

§ 170. 條件的副文章 (Усло́вное прида́точное предложе́ніе)

條件的副文章ハ въ како́мъ слу́чаѣ? (如何ナル場合ニ於テ) при како́мъ усло́віи? (如何ナル條件ニ於テ)ノ問ニ答フ、此文章ハ主文章ノ客語ニ關係ヲ有ス、此文章ニ二樣アリ

1. 此文章ハ主文章ト連結スルニ接續詞 е́сли 及ビ е́сли бы ヲ以テス但シ時トシテハ此接續詞ノ代リニ когда (ノ際ニハ), коль скоро (既ニ何々ナレバ), когда бы (モシ何々ノ際ニハ) ヲ使用スルコアリ、又俗語ニ於テハ коль, коли, какъ 等ヲ使用スルコアリ、而シテ主文章ニ於テ此等ノ接續詞ニ對應スルハ то ナリ、但シ時トシテハ въ слу́чаѣ (ソノ場合ニハ), въ томъ слу́чаѣ, въ э́томъ слу́чаѣ, тогда́ 等ヲ то ノ代リニ使用ス、又俗語ニ於テハ такъ (然ラバ)ヲ使用スルコアリ、主文章ニ於ケル接續詞ハ省略セラルヽコト多シ、例ハ *Если онъ здоро́въ,* (*то*) за́втра онъ придётъ ко мнѣ. *Если бы онъ былъ здоро́въ,* за́втра онъ пришёлъ бы ко мнѣ (若シ彼ハ壯健ナリシナラバ明日彼レハ我ガ許ニ來リシナラン).

條件的文章ノ接續詞ハ若シ主文章ノ前ニ立ツ時ハ稀ニハ省略セラルヽコアリ、例ハ *Если бу́детъ пого́да,* пойдёмъ гуля́ть, *а если не бу́детъ,* не пойдёмъ. = *Бу́детъ погода,* пойдёмъ гулять, *а не бу́детъ,* не пойдёмъ (天氣ナラバ往カン、天氣ナラザレバ往カザラン).

2. 接續法ノ代リニ命令法ノ第二人稱 (§ 114, VI) ヲ使用スルコアリ、*Будь онъ здоро́въ* (=е́сли бы онъ былъ здоро́въ), онъ написа́лъ бы мнѣ (彼ハ壯健ナリシナラバ、我ニ書セシナランニ). 條件的文章ハ主文章ノ前ニモ後ニモ中間ニモ立ツコヲ得ベシ、何ツレノ場合ニ於テモ主文章トノ間ニ半點ヲ附ス、例ハ Я не пойду́ къ нему́, *если онъ не приглаcи́тъ меня́* (彼レ若シ我ヲ招待セザレバ我ハ彼ノ許ニ趣カザラン). Мой братъ, *если бы узна́лъ о ва́шемъ прі́ѣздѣ,* сейчасъ прибѣжа́лъ бы ко мнѣ (我ガ兄弟ハ若シ貴君ノ到來ヲ知リシナラバ直ニ我カ許ニ駈附ケシナラン).

條件的文章ヲ簡略スルハ至テ稀ナリ、副動詞ノミヲ以テ之ヲ簡畧スルコヲ得ベシ、例ハ *Да́вши сло́во* (=если далъ сло́во), держи́сь (約言ヲ與ヘシナラバ之ヲ守レヨ). *Разсужда́я* (=е́сли мы бу́демъ разсужда́ть) *таки́мъ о́бразомъ,* мы навѣ́рное не ошибёмся въ расчётѣ (斯ノ如ク評議セバ、我等ハ多分、其成算ヲ誤ラザラン). Ску́чно жить, *не имѣ́я* (=е́сли не имѣ́ешь) *серьёзнаго дѣ́ла* (重要ノ事業ヲ有セズシテ生活スルハ退屈ナリ).

§ 171. 譲歩的副文章 (Уступи́тельное прила́т. предложе́ніе)

譲歩的文章ニハ三樣アリ

1. 此文章ハ接續詞 хотя́ (ト雖モ), хотя́ бы (トスルモ), пусть (ヨシヤ何々ナリトモ). пуска́й (同上) ヲ以テ主文章ト連結ス而シテ主文章ニ於テハ反抗的接續詞 но, одна́ко, да (=но), а, зато 等ガ副詞 всё (トニカク), всё же (同上), всё-таки (同上), тѣмъ не ме́нѣе (サハサリナガラ), во вся́комъ слу́чаѣ (何ツレニシテモ)等ト共ニシテ以テ副文章ノ接續詞ニ對應ス、主文章ノ接續詞ト副詞ハ省略セラル、ヲ得ベシ即チ主文章ガ副文章ノ前ニ立ツ時ニハ必ズ省略セラル例ハ *Хотя онъ бѣденъ, (но)* онъ дово́ленъ свои́мъ положе́ніемъ. Онъ дово́ленъ свои́мъ положе́ніемъ, *хотя́ и бѣденъ* (彼ハ貧乏ナレモ、其境遇ニ滿足ナリ).

2. 此文章ハ主文章ト連結スルニ поло́жимъ (ヨシ), допу́стимъ (同上), согласи́мся (同上), зна́ю (ヨシ々々), пра́вда (イカニモ), не смотря́ на то (ニモ拘ラズ)等ノ語ヲ以テス且ツ接續詞 что ト共ニス或ハ что ヲ使用セザルコトアリ (поло́жимъ, что ; допу́стимъ, что...), 而シテ主文章ニ於テハ反抗的接續詞 одна́ко (然レモ). тѣмъ не менѣе (サリナガラ)等ハ之ニ對應ス、例ハ *Пра́вда, я съ нимъ учи́лся вмѣстѣ пять лѣтъ*, но (=тѣмъ не ме́нѣе) я его́ ма́ло знаю (成ル程、我ハ五ケ年彼ト共ニ學ビタレモ然レモ我ハ彼ヲヨク知ラズ).

3. 此文章ハ疑問代名詞及ビ疑問副詞ニ ни ヲ附シテ以テ主文章ト連結ス即チ кто-ни, что-ни, какой-ни, сколько ни, гдѣ ни, куда́ ни, какъ ни 等ヲ以テ主文章ト連結ス、而シテ主文章ニ於テ之ニ對應スルモノハ代名詞或ハ副詞ナラズ (§§ 162, II ; 166, I, 3 比考) シテ反抗的接續詞ナリ、但シ反抗的接續詞ハ省略セラルヽヲ常トシ副文章ニ於テ接續法ノ代リニ命令法ノ第二人稱ヲ使用スルコト多シ、例ハ *Кто бы ни увѣря́лъ* (=*кто ни увѣря́й*), *меня́, всё-же* я не могу́ повѣ́рить э́тому (何人ガ我ニ保證スルトモ、我ハ之ヲ信スル能ハズ) *Какъ ни проси́лъ я его́, одна́ко* онъ не испо́лнилъ мое́й про́сьбы (我レ如何ニ彼ニ願フタルモ、然レモ彼ハ我ガ願ヲ遂ゲザリシ).

§ 172. 挿句 (Вво́дное предложе́ніе)

挿句ハ獨立ノ文章ニシテ他ノ文章ノ中間ニ挿入セラルヽモノナリ、而シテ挿句ノ前後ニハ半點(若シ挿句ノ簡短ナル時ハ)或ハ橫線或ハ括弧ヲ附ス、但シ橫線ヲ使用スルハ稀ナリ、

挿句ノ使用ハ

1. 一箇人ノ私見、或ハ世間ノ風說等ヲ表示スル場合ニ於テス、斯カル挿句ノ客語タルハ殊ニ動詞 говори́ть, разска́зывать, ду́мать 等ナリ、又斯カル挿句ニ副詞 какъ ヲ附用スルコトアリ、例ハ На лунѣ, *ду́маютъ учёные* (或ハ *какъ ду́маютъ учёные*), воды́ нѣтъ (月ニハ水ナシト學者ハ思考ス).

2. 發話者ノ信念ヲ表スル場合ニ於テス、其際客語タル動詞ハ Я ду́маю, мнѣ ду́мается, ка́жется, я увѣ́ренъ, я зна́ю, быть мо́жетъ 等ナリ、例ハ Вашъ

бра́ть, *я ду́мало*, уже хорошо́ говори́ть по-ру́сски (我ハ思フ、貴君ノ兄弟ハ既ニ露語ヲ善ク話スト).

3. 引用セシ辭句ガ何人ニ屬スルヤヲ指示スル爲ニ插句ヲ使用ス (§164. III) *Мать говори́ла*: "онъ о́чень бо́ленъ." (彼ハ重ク病メリト母ハ言ヘリ).

4. 諸種ノ說明ノ爲ニス、例ハ Петербу́ргъ (*я былъ тамъ неда́вно*) о́чень укра́сился въ послѣдніе го́ды (彼得堡ハ近年大ニ華美トナレリ、我ハ先頃彼處ニ往ケリ).

II. 1. 插句ハ通常、他ノ文句ノ中間ニ立ツ、然レ𪜈他ノ文句ノ結尾或ハ首端ニ立ツコトアリ、例ハ Онъ, *говори́ла сестра́*, бо́ленъ. = Онъ бо́ленъ, *говори́ла сестра́*. = *Говори́ла сестра́*, онъ бо́ленъ.

2. 插句ハ他ノ文句ノ首端ニ立ツコト至テ稀ナリ、如何トナレバ首端ニ立チテハ主文章ト見做サレ易ク且ツ其後ニ立ツ文句ヲ補語的副文章ト見做シ易シ、例ハ Сестра́ говори́ла, (*что*) онъ бо́ленъ.

3. 時トシテ插句ノ前ニ接續詞 какъ, и, а, же 等ヲ使用スルコトアリ、然レ𪜈此接續詞ハ插句ト他ノ文句トヲ連結セズ、例ハ У меня́ есть такіе това́рищи (*и ихъ не ма́ло*), у кото́рыхъ нѣтъ ни отца́, ни ма́тери (我ニハ父モ母モナキ朋友アリ、斯カル朋友ハ少ナカラズ).

4. 插句ハ數箇ノ文句ヨリ成リ立ツコトヲ得ベシ且ツ附屬ノ插語或ハ插句ヲ有スルコトスラモアルベシ、例ハ Ѣхалъ я одна́жды съ г. Ивано́вымъ (вы, *какъ говори́ла мнѣ ва́ша сестра́*, знако́мы съ нимъ) (我ハイワノウ君ト一度乘行ケリ、貴君ノ姉妹ハ言フニハ貴君ハ該君ト知已ナリト).

§ 173 段落 (Періодъ)

文章ト同シク段落ニモ單一的ト複雜的トノ二種アリ

I. 1. 單一的段落トハ數多ノ副文章ヲ包有スル所ノ單一的文章ヲ稱ス、例ハ По многи́мъ ва́жнымъ причи́намъ, кото́рыхъ тепе́рь, за неимѣніемъ вре́мени, не могу́ объясни́ть, я до́лженъ сообщи́ть вамъ, быть мо́жетъ, о́чень непрія́тное извѣстіе (多クノ重要ナル原因ニ依テ、今其原因ヲ說明スルノ暇ヲ有セザルモ、我ハ大ニ不愉快ナル告知ヲ通ゼザルヲ得ズ).

2. 若シ大ニ延長シタル單一的段落ニ於テ主語ハ首端ニ立チ客語ハ末尾ニ立ツ時ハ其間ニ數次主語ヲ重複插入スルコトアリ是レ露語ニ於テハ主語ト客語ノ間隔ノ甚ダ大ナルヲ好ミセザルニ由テナリ、例ハ *Сте́пи*, кото́рымъ нѣтъ конца́, гдѣ всё раздало́сь въ ширину́ и безпредѣльную равни́ну; *сте́пи*, шумя́щія трабо́ю, почти́ равня́ющеюся съ дере́вьями; *сте́пи*, гдѣ пасу́тся стада́, кото́рыхъ отъ вѣка никто́ не счита́лъ, и владѣльцы не зна́ютъ настоя́щаго коли́чества, — *эти сте́пи* уви́дѣли среди́ себя́ Чингисха́на, да́вшаго обѣтъ предъ толпа́мн узкогла́зыхъ, плосколи́цыхъ, широкопле́чихъ, малорбслыхъ монго́ловъ завоева́ть весь міръ (邊ヘナキ曠野響ハ四面無涯ノ平原ニ傳ハル所ノ曠野、殆ント樹木ニ均シキ丈ヲ有スル草ノ騷然タル曠野、群畜ヲ牧スル曠野其群ノ數ヲ太古ヨリ未ダ曾テ何人モ計算セシコトナク、所

有主スラモ其確カナル頭數ヲ知ラズ此曠野ハ曾テ其中間ニ於テ成吉汗ガ細目ナル廣肩ナル平面ナル短身ナル蒙古人等ノ面前ニ於テ誓約ヲ爲セシヲ見タリ)

3. 談話ニ於テハ段落的ノ辭句ヲハ全ク使用セズ、而シテ現今ノ露語界ニ於テハ文章中ニモ段落的ノ句調ヲ使用スルハ甚ダ稀ナリ現今ハ句調ノ簡短ニシテ談話ノ句調ニ近キ程ヲ以テ、文ノ上乘ナルモノト見做セリ、然レモ十九世紀ノ前半ニ於テハ段落的句調ノ文ヲ使用スルヿ大ニ流行シタリ

II 複雜的段落、複雜的段落トハ延長シタル複雜文章 (§ 161, II) ヲ稱ス即チ副文章ヲ包有スル通常ノ複雜的文章ナリ

複雜的段落ハ概シテ複雜的文章ノ如ク次ノ如キ組織ヲ有ス即チ (甲) 或ハ數多ノ主文章ヨリ成ル卽チ同一ノ意義ヲ有スル數多ノ文章 (副文章ヲモ包有スル所ノ) ハ相互ニ諸種ノ接續詞 (合一的、說明的、順次的、反抗的、分離的、結局的等ノ) ヲ以テ連結セラル、(乙) 或ハ一ノ主文章ト數多ノ副文章 (且ツ是レニ關スル副文章ヲ包有シテ) ヨリ成ル、但シ主文章ト副文章ヲ連結セシ代名詞、副詞、接續詞ト同一ノモノヲ以テ數多ノ副文章ハ相互ニ連結セラル.

凡テ複雜的段落ニ於テハ思想ノ聯對ヲ要ス且ツ一段落中ノ思想ハ數多ナルモ主要ノ思想ト連絡シテ以テ一貫ナルヲ得ベキヲ要ス、然レモ概シテ此思想ハ二部類ニ分カル、段落ノ前半中ニ存スル思想ハ其後半中ニ存スル思想ト聯對ヲ成ス而シ誦讀ノ際ニハ段落ノ前半部ヲ高聲ニ發音シ後半部ヲ稍々低聲ニ發音ス、是ヲ以テ辭句ヲシテ音樂的ナラシムルニ至ル、要スルニ段落ハ整齊優雅タラシムベク且ツ聽官ニ快感ヲ與フベキモノナリ.

備考 一段落中ノ聯對ノ思想ハ主文章ヲ以テ之ヲ表スルトモ副文章ヲ以テ之ヲ表スルトモ凡テ其段落ノ聯 (членъ) ト見做サルガ故ニ段落ハ其包有ノ聯ノ數ニ依テ二聯的、三聯的、多聯的段落ト稱セラル

複雜的段落ノ構成法ヲ說明スルハ無要ナリ、何トナレバ現今ノ露語界ニ於テハ殆ト段落 (殊ニ複雜的段落) ヲ使用セズ、今次ニ二三ノ例ヲ以テ之ヲ示サン

數個ノ主文章ヨリ組織スル段落

合一的段落ハ例ハ Карамзи́нъ *не только* уси́ливалъ въ совреме́нникахъ любо́вь къ чте́нію ; *не только* распространя́лъ литерату́рное и истори́ческое образова́ніе (是レニテ段落ノ前半ハ終レリ且ツ之ヲ高聲ニ發音ス): *но та́кже* возбужда́лъ въ ма́ссѣ чита́телей религіо́зное и нра́вственное чу́вство, утвержда́лъ въ нихъ благоро́дный и че́стный о́бразъ мы́слей, воспламеня́лъ патріоти́змъ (カラムヂンハ同時代ノ人々ニ讀書ノ嗜好ヲ盛ナラシメシノミナラズ又文章的歷史的知識ヲ廣メシノミナラズ又讀書從事ノ人々ニ宗教心ト德義感ヲ興起シ且ツ高尙ナル思想、廉潔ノ思想ヲ固メ又愛國心ヲ熾ンナラシメタリ)

分離的段落ノ例ハ Бо́льшею ча́стью ре́дкіе успѣ́хи въ воспита́ніи происходятъ отъ трёхъ гла́вныхъ погрѣ́шностей (段落ノ前半ノ終局ニシテ是迄ヲ高聲ニ發音ス): *или* начина́ютъ уче́ніе преждевре́менно и продолжа́ютъ непосле́довательно; *или* стара́ются о сообще́ніи зна́ній, не забо́тясь о де́ятельности мы́слящей спосо́бности; *или* не всѣ *стихіи* на́шей души́ развива́ются въ воспита́ніи (概シテ教育上ノ進歩ノ不振ナルハ三種ノ主大ナル過失ヨリ生ス、或ハ早過的ニ就學セシメ且ツ逐次ヲ缺キテ學習ヲ持續セシムルヨリシテ 或ハ思想ノ能力ノ度ヲ顧ミズシテ 知識ヲ注入センコトヲ慮ルヨリシテ、或ハ人心ノ要素ノ一部分ノミヲ教育發達セシムルヨリシテナリ).

數多ノ主文章ト數多ノ副文章ヨリ成立ツ所ノ段落.

定的段落ハ例ハ *Кто*, опи́сывая ди́каго челове́ка, представляетъ его́ невнима́тельнымъ, нелюбопы́тнымъ, живу́щимъ всегда́ въ одно́й сфе́рѣ чу́вственныхъ впечатлѣ́ній, безъ всѣ́кихъ отвлечённыхъ иде́й, ду́мающимъ то́лько объ утоле́ніи го́лода и жа́жды и проводя́щимъ бо́льшую часть вре́мени во снѣ и безчу́вствіи (段落ノ前半ノ終局ニシテ是迄ヲ高聲ニ發音ス),—*тотъ* сочиня́етъ и опи́сываетъ челове́ка, кото́раго совсѣ́мъ нѣтъ на свѣ́тѣ (野蠻人ノ性格ヲ叙スルニ際シテ 之ヲ注意ナキ好奇心ナキ 抽象的 觀念ヲ有セズシテ感觸界ニ於テノミ 生活シ唯々饑渴ヲ 滿タスコトノミヲ慮リ 一生ヲ睡眠ト無感覺中ニ送ル者ト見做スハ 餘リニ眞相ニ反キ且ツ全ク世ノ中ニ 無キ所ノ者ヲ叙スルニ過ギズ).

原因的段落ハ例ハ Никто́ не до́лженъ горди́ться тѣ́мъ, что онъ зна́етъ (段落ノ前半ノ終局ニシテ是迄ヲ高聲ニ發音ス), *потому что* то, что онъ зна́етъ, сли́шкомъ ма́ло сравни́тельно съ тѣ́мъ, чего́ онъ не зна́етъ (自ラ知ル所ヲ以テ誇ルベカラズ、何トナレバ其知ル所ハ知ラザル所ニ比スレバ至テ 僅少ナリ).

簡略的副文章ト共ニスル所ノ原因的段落ハ例ハ *Одарённый* отъ приро́ды кре́пкимъ здоро́вьемъ, бога́тыми физи́ческими си́лами; съ ра́ннято дѣ́тства *знако́мый* съ разска́зами о про́мыслахъ на мо́рѣ и океа́нѣ (段落前半ノ終局ニシテ是迄ヲ高聲ニ發音ス),—Ломоно́совъ не могъ не привяза́ться со стра́стью свое́й пы́лкой души́ къ трудя́мъ отца́, кото́рый ра́но сталъ орать его́ съ собо́ю (生來強固ナル健康ト豐富ナル體力ヲ有シ、幼時ヨリシテ海洋ノ稼業ニ關スル物語ヲ知リシコトモノソフハ幼時ヨリ父ニ携ヘラレテ 父ノ勞業ニ 從事スルニ際シテ其熱情ヲ激發シテ之ニ心ヲ入レザル能ハザリシ).

設若的段落ハ例ハ *Если* вы хоти́те провести́ нѣ́сколько ми́нутъ истинно блаже́нныхъ; *е́сли* хоти́те испыта́ть неизъясни́мо сла́достный поко́й души́, кото́рый вы́ше всѣ́хъ земны́хъ наслажде́ній (段落前半ノ終局ニシテ是迄ヲ高聲ニ發音ス),—*то* ступа́йте въ лу́нную лѣ́тнюю ночь полюбова́ться Кремлёмъ; ся́дьте на одну́ изъ скамее́къ тротуа́ра, который идётъ по са́мому кра́ю холма́; забу́дьте на нѣ́сколько вре́мени и шу́мный свѣтъ съ его́ безу́міемъ, и всѣ

ва́ши житѣйскія заботы и дѣла́, и да́йте хоть разъ вздохну́ть свобо́дно бѣ́дной душѣ́ ва́шей, изму́ченной и уста́лой отъ всѣхъ земны́хъ трево́гъ (汝若シ數分間ヲ眞ニ樂シク送ラントセバ、若シ凡テノ地上ノ快樂ヨリ最高ナル心意ノ一種言ヒ難キ甘美ナル安樂ヲ受ケントス欲セバ夏ノ月夜ニ內城ニ赴キ眺望セヨ、丘上ノ一端ニ存スル路床ニ坐セバ暫時ノ間騷雜ナル俗界ヲ忘却シ凡テノ現世ノ煩慮ト雜務ヲ忘却セシ、而シテ種々ノ地上ノ願慮ニ由リテ疲勞、苦痛ヲ感セシ可憐ナル汝ノ心ヲシテ一回ナリトモ快ク安息セシムルヲ得セシメヨ).

讓步的段落ノ例ハ *Хотя́* монго́лы какъ бы загради́ли насъ отъ Евро́пы; *хотя́* уже госуда́ри ея не вступа́ли съ на́шими въ бра́чные сою́зы; *хотя́* вообще́ иностра́нныя лѣ́тописи того́ вре́мени почти́ не упомина́ютъ о Россіи (段落ノ前半終局ニシテ是迄ヲ高聲ニ發音ス),—*одна́кожъ*, че́резъ торго́выя свя́зи Но́вгорода съ Герма́ніею, Ру́сскіе дово́льно ско́ро узнава́ли важне́йшія европе́йскія откры́тія (напр. изобре́теніе бума́ги, по́роха) (蒙古人ハ我等ヲ歐羅巴ヨリ離隔セシガ如クナレ𪜈、既ニ歐洲ノ國王等ハ我ガ國王ト婚姻ノ血緣ヲ結ブコトナキニ至レリト雖モ、概シテ當時ノ外國歷史ハ殆ト露西亞ノ事ヲ記述セザレ𪜈 然レ𪜈ノウゴロド市ガ日耳曼ト貿易上ノ交通ヲ結ビタルヲ以テ露人ハ歐洲內ノ主要ナル發見ヲ程ナク知得シタリ (例ハ綿紙火藥ノ發明等ヲ)

§ 174 句切符號 (Зна́ки препина́нія)

句切符號トハ讀誦ノ際、音聲ヲ瞬時、中止スベキ場所ヲ示ス爲メノ符號ナリ、其外、句切符號ハ音聲ノ變更抑揚高低ノ場所ヲ示ス、故ニ句切符號ノ法則ヲ遵守セザレバ著者ノ感情ト思想ヲ正確ニ表現スル能ハス、若シ讀誦ノ際、句切符號ヲ遵守セザレバ之ヲ聽聞スル者ヲシテ全ク了解ヲ得ザラシムル或ハ大ニ其了解ヲ困難ナラシムベシ

句切符號ハ次ノ如シ即チ、半點 (,) 半重點 (;) 句點 (.) 重點 (:) 橫線 (-) 括弧 ( ) 摘示標 (,, '') 疑問符號 (?) 感歎符號 (!) 未完點或ハ中略點 (. . .) ナリ

備考 此諸符號ノ使用法ヲ詳密ニ了解シ得ルハ實地練習ノ外ニ途ナシ、此故ニ露書ヲ讀ムニ際シテ宜シク書中ノ諸符號ニ注意スルヲ必要トス、今玆ニ此諸符號使用法ノ大略ノミヲ述ベン

〔甲〕 半 點 (Запята́я)

半點ハ音聲ヲ極メテ暫時中止スベキヲ示シ、諸種ノ文章ニ於テ之ヲ使用ス、即チ

I. 單一的文章ニ於テハ

II. 附語 (§ 150, II) ヲ區別スル爲ニ之ヲ使用ス

2. 狀況語ノ二個相重リタル際ニ於テ後ニ立チシ狀況語ノ前後ニ之ヲ使用ス、但シ後ニ立チタル狀況語ガ前ニ立チタル狀況語ヲ說明シ恰モ其附語タルガ如キ場合ニシテ此二語ノ間ニ說明的接續詞 т.е., и́менно, а и́менно 等ヲ附シテモ可ナル場合ナリ、例ハ Здѣсь, (т.е.) въ *То́кіо*, въ нача́лѣ декабря́

ещё не особенно хо́лодно, а у васъ, (т.е.) *въ Хакода́те*, въ э́то вре́мя лежи́тъ уже́ снѣгъ (此處即チ東京ニ於テハ十二月ノ始ニハ未ダ格別寒冷ナラザレド貴方即チ函舘ニ於テハ此頃ニハ既ニ雪ハ降ル)

3. 對語ヲ區別スル爲ニ使用ス § 153

4. 挿語ヲ區別スル爲ニ使用ス § 154

5. 動作或ハ感情ノ强激ナルヲ表セン爲ニ重復ノ語ヲ使用スル際、其重復ノ語ノ間ニ附ス、例ハ Я *иска́лъ, иска́лъ* ва́шу кварти́ру (我ハ貴君ノ居宅ヲ探シタトモ探シタトモ). За Петербу́ргомъ на восто́къ—*боло́та, боло́та* и боло́та (彼得堡市外ノ東方ハ到ル處沼地ナリ).

6. 副詞 кро́мѣ (ソレニ關係スル語ト共ニ)ヲ區別スル爲ニ使用ス、例ハ Всѣ, *кро́мѣ мла́дшей сестры́*, ушли́ гуля́ть (妹ノ外ハ皆ナ散歩ニ往ケリ).

7. 一個ノ語ヲ以テセヌシテ數個ノ語ヲ以テ定語或ハ補語ヲ表スル場合ニ於テ之ヲ明瞭ナラシメン爲ニ半點ヲ以テ區別スルアリ、例ハ Онъ стро́итъ домъ въ два этажа́, *длино́ю въ* 10 *са́жень*, *широ́ту въ* 3 *сажени* и въ высоту́ тоже въ 3 сажени (長サ十サジエニ幅ハ三サジエニ高サ同シク三サジエニノ二階ノ家ヲ彼ハ建テタリ). Я проси́лъ его́ прислать мнѣ грамма́тику, а онъ, *вмѣсто грамма́тики*, присла́лъ мнѣ слова́рь (我ハ彼ニ文典ヲ送致スルヲ請ヘリ、然ルニ彼レハ文典ノ代リニ字書ヲ送致セリ).

8. 間投詞 (увы́, ахъ, охъ, ну 等) ガ文句ノ首端ニ立チテ而シテ殊更ニ力ヲ入レテ發音セラレザル場合ニハ感歎符號ノ代リニ半點ヲ其後ニ使用ス § 135 參照

備考 間投詞 ну ガ動詞 стать 及ビ нача́ть, ノ過去ノ意義ニテ使用セラレ動作ノ光景ヲ目前ニ現ハス場合並ニ間投詞 о ガ對語ノ前ニ立ツ (§ 135) 場合ニハ半點ヲ之ニ使用セス、例ハ Соба́ка *ну* (=начала́) на него́ *броса́ться* и ла́ять (犬ハ彼ニカヽリ吠ヘ始メタリ).

9. 副詞ノ意義ヲ以テ使用セラル、да 及ビ нѣтъ (殊ニ返答スル際ニ使用ス) ノ後ニ半點ヲ附ス但シ特更力ヲ入レテ之ヲ發音スル際ニハ半點ノ代リニ感嘆符號ヲ使用ス、例ハ *Нѣтъ*! на это я никогда́ не согла́шу́сь (否ナ我ハ決シテ之ニ同意セザラン).

備考 副詞 да ガ其次ニ立ツ名詞ト太ニ密接ノ關係ヲ有スル時ハ凡テ句切符號ヲ此副詞ノ後ニ附セス、例ヽ А какова́ эта рѣка́?—*Да не мелка́* (シテ此河ハ如何ナルヤ、左樣サ、淺クモナシ).

II. 混合文章ニ於テ半點ヲ使用スルハ

1. 二個以上ノ主語或ハ二個以上ノ客語、或ハ二個以上ノ同種類ノ定語若クハ補語ノ間ニ半點ヲ附ス、但シ語類ガ相互ニ接續詞 и 及ビ да (=и) ヲ以テ連結セラレザル際ニ限ル、例ハ *Петербу́ргъ, Москва́. Кіевъ, Варша́ва* и Оде́сса—са́мые бо́льшіе города́ въ Россіи (彼得堡、モスクワ、キエフ、ワルシャワ、オデツサハ露西亞ニ於ケル大ナル都府ナリ). Ка́ждый челове́къ *рожда́ется, живётъ* и умира́етъ (各人ハ生レ、生活シ、死去ス). Въ э́томъ саду́ есть *кра́сные, бѣлые, зелёные* и жёлтые цвѣты́ (此園ニ於テハ赤キ花、白キ花、

綠ナル花、黄ナル花アリ). Онъ былъ въ кла́ссѣ *сего́дня, вчера́* и тре́тьяго дня (彼レハ今日、昨日、一昨日教場ニ來レリ)、然レ𪜈定語ト補語ガ異種類ナル時、即チ諸種ノ點ヨリシテ主語ヲ定メ或ハ客語ヲ補フ時若シクハ諸種ノ詞類(例ハ一ノ定語ハ形容詞ニシテ一ノ定語ハ代名詞、一ノ定語ハ數詞ナル時) ヲ定メ或ハ補フ時、或ハ又詞類ハ同一ナルトモ其類別ノ異ナル際ノ定語、補語(例ハ一ノ定語ハ性質形容詞一ノ定語ハ狀況形容詞ナレバ)ハ相互ノ間ニ半點ヲ附セズ、例ハ *Оди́нъ би́дный ру́сскій рабо́чій* (человѣкъ) *одна́жды по́здно ве́черомъ* пришёлъ *въ Москву* (或ル貧シキ露西亞ノ勞働者ハ或ル夜遲ク モスクワ ニ來レリ). 此文中ニハ名詞 человѣкъ ニ關スル定語ハ四個ニシテ、動詞 пришёлъ ニ關スル補語(狀況語)ハ四個ナリ、然レ𪜈此等ノ語ノ間ニ半點ヲ附スル能ハズ、何トナレバ相互ニ性質ヲ異ニスル語ナレバナリ.

2. 文章中ノ數個相並ビタル語類(即チ、數個ノ主語或ハ數個ノ客語、數個ノ定語等)ノ間ニ接續詞 и, да (=и), ни, или ノ存立スル時ハ其間ニ半點ヲ附ス、例ハ Мои́ *и* оте́цъ, *и* мать, *и* братъ, *и* сестра́ на э́той недѣлѣ уѣзжа́ютъ въ дере́вню (我ガ父モ母モ兄弟モ姉妹モ此週間ニ於テ田舍ニ出立ス). Онъ *ни* чита́ть, *ни* писать, *ни* говори́ть по-ру́сски ещё не мо́жетъ (彼ハ露語ニテ讀ム事モ書ク事モ言フ事モ未ダ能ハズ). Онъ *или* малоспосо́бенъ, *или* лѣни́въ, *или* въ настоя́щее вре́мя нѣ́сколько бо́ленъ (彼ハ或ハ不才ナルカ、或ハ怠惰ナルカ、或ハ現時多少病氣ナリ).

然レ𪜈接續詞 и, да (=и), или (「若シクハ」ノ意義ニシテ「即チ」ノ意義ナラザル場合)ガ一文章中ニ一回ノミ存スル時ハ此等ノ接續詞ノ前ニ半點ヲ附セス、例バ Прі́ѣдутъ оте́цъ *и* мать (父ト母ハ來ラン). Братъ *да* сестра́ до́ма (兄弟ト姉妹ハ在宿ナリ). Прі́ѣдетъ оте́цъ *или* мать (父若シクハ母ハ來ラン)、又接續詞 и ガ「モ」ト云フ意義ニテ二回複用セラルヽ時モ半點ヲ附セズ、例バ *И* то *и* другое хорошо́ (ソレモコレモ善シ). *И* оте́цъ *и* мать уѣ́хали въ го́родъ (父モ母モ市府ニ立去リタリ).

3. 混合文章ニ於テ接續詞 и ヲ一個ノミ使用スル際ニ於テ此接續詞ノ前ニ半點ヲ附スルハ次ノ場合ニノミ限ル、即チ一個ノ主語ニ對シテ二個ノ客語ヲ存シ而シテ後ノ客語ハ前ノ客語ヨリ生ジタル結果ヲ成ス場合ナリ、例バ Вчера́ я ма́ло занима́лся, *и* (потому́) сего́дня не зна́ю уро́ковъ (昨日我ハ勉强スルコト少ナカリシ、故ニ今日ハ日課ヲ知ラズ)、然レ𪜈若シ後ノ客語ガ前ノ客語ノ結果ヲ爲サヾル時ハ此接續詞ノ前ニ半點ヲ附スルコトナシ、例バ *Онъ у́чится* ру́сскому языку́ уже́ два го́да и тѣ́мъ не ме́нѣе ещё не мо́жетъ говори́ть по-ру́сски (彼ハ既ニ二箇年露語ヲ學ブ然レ𪜈未ダ露語ヲ話ス能ハズ).

4. 混合文章ニ於テハ其他ノ接續詞ノ前ニハ必ズ半點ヲ附ス、若シ複合ノ接續詞(例バ какъ... такъ и; не то́лько... но и 等) ナル時ハ其接續詞ノ後半ノ前ニ半點ヲ附ス. § 134 例ヲ參照、例バ Уѣ́хали *не то́лько* оте́цъ и мать, *но* и братъ съ сестро́ю (父ト母ノミナラズ兄弟ト姉妹モ立去リタリ).

III. 複雑文章ニ於テ半點ヲ使用スルハ次ノ如シ

1. 各主文章ヲ區別スル爲ニ使用ス、此際ニハ悉クノ接續詞ノ前ニ半點ヲ附ス、但シ接續詞 и ノ前ニハ半點ヲ附スルヲモアリ附セザルヲモアリ、即チ文中ニ包有スル主語ト客語ノ各々相異ナル際ニハ и ノ前ニ半點ヲ附ス例ハ *Я* обращáлся къ немý съ прóсьбою два рáза, *и онъ* два рáза испóлнилъ мою прóсьбу (我ハ二回彼ニ向テ請願シタリ、而シテ彼ハ二回我ガ請願ヲ遂行シタリ)、然レ𪜈主語各相異リテ其客語ハ同一ナル時ニハ半點ヲ附セズ、例ハ *Я* ужé *прочитáлъ* э́ту книгу и *онъ* тóже *прочитáлъ* (我ハ既ニ此書ヲ通讀シタリ而シテ彼モ同ジク通讀シタリ).

2. 完全副文章ヲ主文章ヨリ區別スル爲ニ半點ヲ附ス、又簡略副文章ヲ主文章ヨリ區別スル爲ニ半點ヲ附ス但シ簡略副文章ガ一箇ノ語(形動詞或ハ副動詞)ノミヨリ成立ツニ非ズシテ數個ノ語ヨリ成立ツ場合ナリ、詳密ニ副文章ノ項ニ於テ說述セリ

3. 主文章ヨリ挿句ヲ區別スル爲ニ半點ヲ附ス (§ 172)

4. 副文章ト主文章トヲ區別スル爲ニ附ス、例ハ *Я* проси́лъ его́, *чтобы* онъ прише́лъ ко мнѣ сего́дня ве́черомъ, *е́сли* у него́ есть свобо́дное вре́мя (若シ彼レニ閑暇アラバ今晩我ガ許ニ來ランコトヲ我ハ彼ニ請ヘリ).

IV. 簡單ナル數個ノ主文章ガ同一ノ事物ヲ述ブル際ニハ相互ニ半點ヲ以テ區別セラル、此際使用ノ半點ハ實ハ句點ノ代用ナリ、例ハ Ночь тиха́, прозра́чно не́бо, звѣ́зды бле́щутъ (夜ハ靜ナリ、天ハ透明、星ハ煌ク). Подýлъ сѣ́верный вѣ́теръ, тýчи на́чали разсѣ́иваться, прояснúлось со́лнце (北風ハ吹ケリ、黑雲ハ飛散シ太陽ハ現レ光レリ).

〔乙〕 半重點 (Тóчка съ запятóю)

半重點ハ半點ヨリモ稍々長ク音聲ヲ中止スベキヲ表示ス、次ノ場合ニ之ヲ使用ス

1. 同一ノ事物ヲ言述ブル數多ノ延長シタル主文章ヲ相互ニ區別スル爲ニ半重點ヲ使用ス即チ、半點ヲ使用シテハ句切上ニ不充分ナル場合ナリ、殊ニ或ル主文章ハ其副文章ヲ包有シテ既ニ其間ニ半點ヲ使用スルガ故ニ斯カル主文章ヲ他ノ主文章ト區別スル爲ニハ半重點ノ使用ヲ要ス、斯カル際ニモ半重點ハ實ハ句點ノ代用ナリ、例ハ Къ вéчеру подýлъ сѣ́верный вѣ́теръ; тёмныя, навúсшія надъ са́мою землёю, тýчи ма́ло-по-ма́лу на́чали разсѣ́иваться; къ 7-ми часа́мъ прояснúлось со́лнце (夕方ニナルニ從テ北風ハ吹ケリ、地上ニ掛リタル黑雲ハ次第ニ飛散シ始メタリ、七時頃ニハ太陽ハ現ハレ輝キヌ).

2. 同一ノ事物ヲ叙述シテ互ニ接續詞ヲ以テ連結セラレザル混合文章ト複雜文章トヲ區別スル爲ニ半重點ヲ使用ス、此際半點ヲ用フルハ不充分ナリ、何トナレバ既ニ各文句中ニ於テ半點ヲ使用セリ、此際ノ半重點モ實ハ句點ノ代用ナリ、例ハ Стáну цѣ́лый день молúться, по ночáмъ гада́ть (混合文章); *стáну дýмать*, что скучáешь ты въ чужóмъ краю (複雜文章) (我ハ終日祈禱シ每夜占ヒ始ム、汝ハ他鄉ニ於テ鬱屈シ居ルト我ハ想ヒ始ム).

3. 半點ノ代リニ半重點ヲ諸種ノ接續詞ノ前ニ使用ス、即チ反抗的接續詞 но 結局的接續詞 слѣдовательно, стáло быть, такъ, итáкъ 原因的接續詞 нбо 等ノ前ニ使用ス、但シ此種ノ接續詞ガ延長ノ文章（段落ヲ用ヒタル）ヲ連結スル場合ニ於テス、此際或ル文學者等ハ結局的接續詞 итáкъ, такъ, слѣдовательно, стáло быть 及ビ原因的接續詞 ибо ノ前ニ重點ヲ附スルヲモアリ、例ハ Дýмая, что къ вéчеру дождь перестáнетъ и дорóга бýдетъ не настóлько грязнá, чтóбы нельзя́ бы́ло бы́стро ѣ́хать, я вы́ѣхалъ и́зъ дому (a) въ 5-ть часóвъ, предполага́я пріѣ́хать къ вамъ въ 7 (часóвъ); но, какъ оказа́лось, дорóга совершéнно испóртена, дождь шёлъ всё сильнѣ́е и сильнѣ́е,—и вотъ я опоздáлъ; прошý извини́ть меня́ (夕刻ニ至レバ雨ハ止ミ路ハ車ニテ急行スベカラザル程泥濘ナラザラント思ヒツヽ我ハ五時ニ家ヲ出テ七時ニハ貴君ノ許ニ達スベシト豫想シタリ、然ルニ實ハ道路全ク惡シク雨ハ愈々強ク降リタリ、斯クテ我ハ遲刻シタリ乞フ我ヲ宥恕セラレヨ).

4. 段落ヲ用ヒタル文中ノ副文章ヲ相互ニ區別スル爲ニ半點ノ代リニ半重點ヲ使用ス、即チ此等ノ副文章ガ皆ナ同一ノ主文章ニ關係シ且ツ同一ノ代名詞或ハ同一ノ接續詞ヲ以テ始マル場合ナリ、例バ котóрый...; котóрый...; котóрый . что...; что...; что... если...; если...; если... § 173 段落ノ項參照、例ハ Пóслѣ молчáнія въ продолжéніи пяти́ лѣтъ на э́тихъ дняхъ онъ написáлъ женѣ́, что онъ сознаётъ всю свою́ вину́ предъ нéю и особéнно предъ дѣтьми́, котóрыхъ, какъ онъ выража́ется, онъ брóсилъ, но о котóрыхъ у негó всегдá болѣ́ло сéрдце; *что* онъ прóситъ её, если тóлько она мóжетъ, прости́ть егó, забы́ть всѣ прéжнія непрія́тности, бы́вшія мéжду ни́ми, и тепéрь же переѣ́хать къ нему́ съ дѣтьми́, а éсли́ хóчетъ, то и съ мáтерью; *что* онъ сталъ теперь совершéнно другúмъ человѣ́комъ; *что* съ своéй стороны́ онъ употреби́ть всё своё стараніе, чтóбы мéжду ни́ми установи́лись дóбрыя отношéнія (五箇年間無音ノ後、彼ハ近日ニ至リテ妻ニ書シテ曰ク、彼ハ妻ニ對シ殊ニ小供等ニ對シテ全ク自身ノ咎ヲ認知スト、彼ハ云フ自ラ妻ト小供等ヲ放棄シタレドモ彼レノ心中ニハ常ニ彼等ノ事ヲ痛慮セリト、彼又請ヒケルハ若シ妻ガ彼ヲ恕シ、夫婦間ノ以前ノ不和ヲ消サントスル心アラバ直チニ小供等ヲ携ヘテ彼ノ許ニ移住セヨ且又妻ガ之ヲ望ムナラバ母ヲモ共ニ携ヘヨト、彼ハ目下完ク別人トナレリ、且ツ今後ハ心ヲ盡シテ夫婦間ノ關係ノ良和ナランコヲ慮ラントト附言ス)

〔丙〕 句點 (Тóчка)

句點ハ思想ノ結了セシヲ表ス、此故ニ句點ニ達スレバ讀聲ヲ中止スルヲ能クスベキノミナラズ其後ハ全ク音聲ヲ變更スル事ヲモ得ベシ

1. 斷片的ノ辭句ニ於テハ至テ簡短ナル文句ノ後ニ於テモ句點ヲ附スルコアリ、殊ニ韻文ニ於テ然リトス、平調ノ辭句（即チ散文）ニ於テハ既ニ述ベシ如ク斯カル場合ニハ半點或ハ半重點ヲ附スルヲ常トス.

平調ノ辭句（即チ散文）ニ於テハ主文章、混合複雜文章、相並ビ立チタル時、其間ニ句點ヲ附ス（之ニ關スル例ハ前篇中ニ夥多アリ）

2. 語類並列スルトモ相互ニ文法的連結ヲ有セザル時ニハ、各語類ニ句點ヲ附ス、是レハ殊ニ書籍ノ表題等ニ使用スルヿ多シ、Подлежа́щее. Сказу́емое. Глаго́ль.

3. 語ヲ略セシ際ニハ句點ヲ附ス § 139

〔丁〕 重 點 (Двоето́чie)

重點使用ノ場合ハ

1. 事物ノ枚擧ヲ表スル附語ノ前ナリ例ハ Въ Россіи двѣ столи́цы (именно, а именно): Москва и Петербу́ргъ.

2. 他人ノ言辭ヲ引用スル際接續詞 что 或ハ其他ヲ其引用言辭ノ前ニ使用セザル時ナリ § 164, III.

3. 他人ノ言辭ヲ中斷スル引用句ノ後 § 164, III.

4. 時トシテハ間接疑問ノ前 § 164, II.

5. 二個ノ文章相並ビテ其形式ヨリ見レバ共ニ獨立ナル二個ノ主文章ヲ成セドモ其間ニ接續詞ヲ挿マズ且ツ後立ノ文章ハ前立ノ文章ノ原因或ハ說明タル場合ニハ其間ニ重點ヲ附ス、即チ省略シタル接續詞ノ代リニ重點ヲ使用スルナリ例ハ Сего́дня я не зна́ю уро́ка: вчера́ ма́ло занима́лся (今日我ハ日課ヲ知ラズ、昨日僅カ勉强シタル故ナリ). Онъ си́льно бо́ленъ и мно́го страда́етъ, но самъ винова́тъ: обрати́лся къ до́ктору о́чень по́здно (彼ハ强ク病ミ且ツ苦ム、然レモ自ラ過テリ、甚ダ後レテ醫者ノ診察ヲ受ケタレバナリ)

6. 或ル文學者等ハ段落中ノ接續詞 такъ, итакъ, слѣдовательно, ибо ノ前ニ於テ半重點ノ代リニ重點ヲ使用ス

〔戊〕 橫 線 (Черта́ 或ハ Тире́)

此符號ハ音聲ヲ少シク中止スベキヲ示ス、而シテ其使用ノ場合ハ

1. 文中ニ省略シタル語ノ代リニ用フ、殊ニ屢々現在ニ立チタル動詞 быть ハ省略セラル、ヲ以テ其代用ヲ爲ス (§ 146, I, 2) 然レモ其他ノ省略語ノ代用ヲモ爲ス、例ハ Коро́ва—дома́шнее живо́тное (牝牛ハ家畜ナリ). Ка́пли дождевы́я ма́лы, но изъ нихъ—(образу́ются) ручьи́ и ре́ки (雨滴ハ細小ナリ、然レモ是ヨリシテ溪流及ビ河ハ生ズ).

2. 問ト答トノ間或ハ二人對話ノ間ニ附ス、例ハ Чѣмъ вы занима́етесь?—Учу́ слова́ (貴君ハ何ヲ勉强スルヤ、我ハ語ヲ誌記ス).

3. 句脈ノ頓挫セシ際、瞬時、音聲ヲ中止セン爲ニ使用ス、但シ時トシテハ其際未完點ヲ使用スルヿアリ、例ハ Было жа́рко, но со́лнце скры́лось,—и вдругъ ста́ло хо́лодно (暑クアリシ、然ルニ太陽ハ隱レタリ、俄ニ冷クナリシ).

4. 混合文章ニ於テ、列記ノ語ヲ概括スル前ニ橫線ヲ使用ス、殊ニ代名詞 весь ノ前ニ使用スルヿ多シ、例ハ Оте́цъ, мать, братъ и сестра́,—*вся* мои́ родны́е бу́дутъ ра́ды ви́дѣть васъ у себя́ (父母兄弟姉妹、凡テ我カ親屬ハ貴君ニ我ガ家ニ於テ面會スルヲ喜バントス).

5. 混合文章中ノ二個ノ客語ヲ連結スル接續詞 и ノ前ニ於テ半點ノ代リニ橫線ヲ用フルヿ多シ、又二個相竝ヒタル文章中、後立ノ文章ガ前立ノ文章ノ結果若シクハ時期ノ稍々後レタル動作ヲ表スル際、此兩文章ヲ連結スル接續詞 и ノ前ニ於テ半點ノ代リニ橫線ヲ使用ス、例ハ Онъ сказа́лъ: "я принесу́"—*и* сейча́съ же выбѣжалъ изъ ко́мнаты (彼曰ク「我レ携ヘ來ラン」ト、而シテ直ニ室ヨリ駈出テタリ).

6. 二個ノ名詞及ビ其他ノ詞類ヲ以テ一個ノ概念ヲ組織スル際、其兩名詞ノ間ニ橫線ヲ附ス、例ハ же́нщина-врачъ (女醫)、語ニ附辭或ハ接尾ヲ附スル際、又一語ヲ兩分シテ後半ヲ下行ニ移ス際、前半ニ橫線ヲ附接ス § 135.

其外、橫線ハ他ノ符號ノ代リニ使用セラルル即チ

7. 時トシテ附語ヲ區別スル爲ニ半點ノ代リニ橫線ヲ使用ス、例ハ И Москва́—*се́рдце Россіи*—была́ разгра́блена и сожжена́ (露西亞ノ中心タル莫斯科モ掠奪セラレ且ツ燼滅セラレタリ).

8. 插句ヲ區別スル爲ニ時トシテ括弧或ハ半點ノ代リニ橫線ヲ使用ス、例ハ Это сочине́ніе—*по́лнаго назва́нія его́ сейча́съ не могу́ припо́мнить*—интересова́ло всѣхъ (此文章ハ(其名稱ヲ我ハ直ニ想出スルヿ能ハズ)人々ニ興味ヲ與ヘタリ)

9. 二個ノ文章ヲ連結スル接續詞ヲ省略セシ際、半點ノ代リニ橫線ヲ使用ス、例ハ Если за двумя́ за́йцами пого́нишься—(=, то) ни одного́ не поймаешь (二兎ヲ逐ヘバ一兎ヲモ捕ヘザラン).

10. 混合文章ニ於テ反抗的接續詞ヲ省キシ際、時トシテ半點ノ代リニ橫線ヲ使用ス、例ハ Вы обвиня́йте не това́рищей—(=, а) себя́ (貴君ハ友人ヲ咎メズシテ自身ヲ咎メヨ).

11. 段落ヲ用ヒタル文章ニ於テ段落ノ前半(高聲發音ノ部)ト後半(低聲發音ノ部)トヲ區別スル爲ニ半重點ノ代リニ半點ト橫線ヲ竝ベ(,—)使用スルヿ多シ、之ヲ使用スルハ段落ノ前半ニ於テ既ニ半重點ヲ用ヒタリシ場合ナリ(段落ノ項參照)

從前ノ文學者等ハ斯カル場合ニハ重點ヲ使用シタリ

〔己〕 括弧 (Ско́бки)

延長シタル插句ヲ括弧ノ內ニ入ル § 172,II,4

〔庚〕 摘示標或ハ引用符號 (Кавы́чки)

1. 他人ノ言ヲ毫モ變更セズシテ引用シ且ツ接續詞ヲ以テ其前立ノ文章ト結合セザル際ニハ此言ノ前後ニ摘示標ヲ附ス § 64, III.

2. 時トシテハ附語ニ摘示標ヲ附ス § 150, I, 2.

〔辛〕 疑問符號 (Знакъ вопроси́тельный)

疑問符號ヲ使用スルハ

1. 疑問ヲ包有スル文章ノ後或ハ疑問ヲ表スル一語ノ後ニ於テス斯カル際ニハ此符號ハ句點或ハ半點ノ代リニ使用セラル、而シテ意義ノ完結セル文章ノ後ニ附セラレシ場合ニハ句點ノ代用ナリ、又一語或ハ極テ簡短ナル

文句ノ後ニ附セラレシ場合ニハ半點ノ代用ヲナス、例ハ Читáли ли вы сочинéнія Пýшкина? (貴君ハプシキンノ文ヲ讀ミシヤ). Кто отéцъ вашъ? кто мáть? откýда вы родомъ? (貴君ノ父ハ誰ナルヤ、母ハ誰ナルヤ、貴君ノ生地ハ何處ナルヤ).

2. 間接疑問ノ前ニ重點ヲ附シタル時ニハ間接疑問ノ後ニ疑問符號ヲ附ス § 164, II.

3. 時トシテ此符號ハ文章ノ中間ニ立チ疑念ヲ表示ス、即チ疑念ヲ挾ム語ノ後ニ之ヲ附ス、但シ括弧ヲ用ヒテ其中ニ此符號ヲ入ル、例ハ Онъ свобóдно говорúлъ по-рýсски ужé чéрезъ годъ (?) по пріѣздѣ въ Россію (彼ハ露西亞ニ赴キタル後、一ケ年ヲ歷テナリトカ既ニ自由ニ露語ヲ話セリ).

〔壬〕 感歎符號 (Знакъ восклицáтельный)

此符號ハ驚歎、感動、希望、禁止等其他間投詞ヲ包有シタル文章或ハ一語ノ後ニ使用セラル、斯カル文章或ハ語類ハ殊ニ力ヲ張リテ發音セラル.

二重ノ感歎符號 (!!) ハ奇異ノ强大ナルヲ表スル爲ニ使用セラル.

若シ疑問文章ガ疑問ト同時ニ奇怪、痛歎等ヲ表スル際ニハ疑問符號ト共ニ感歎符號ヲ附ス (?!)

〔癸〕 未完點或ハ中略點 (Многоточіе)

此符號ハ通常三個ノ並列點 (...) 或ハ四個ノ並列點 (....) ヲ以テ成ル、而シテ之ヲ使用スルハ

1. 辭句ノ完結セザル際、或ハ他人ニ辭句ヲ中絕サレシ際ナリ、例ハ "Хотя́ вы и обѣща́ли..."—Объ э́томъ я ужé слы́шалъ отъ васъ мно́го разъ (甲曰ク貴君ハ約束シタレド...(乙答フ)我ハ既ニ幾度モ貴君ヨリ之ヲ聞キタリ).

2. 一事物ヨリシテ他ノ事物ニ突然話柄ノ轉ズル際ナリ、例ハ Скáжу вамъ тóлько...но объ э́томъ послѣ (我ハ貴君ニ云ハン、否ナ此事ハ後ニ云ハン). Вы спра́шиваете, что онъ говорилъ про васъ. Онъ говори́лъ, что вы ....нѣтъ, передава́ть не бу́ду (彼ハ貴君ノ事ヲ何ト云ヒシヤト貴君ハ問フ). (彼ハ云ヘリ貴君ハ...否ナ我ハ之ヲ傳ヘザラン).

3. 感情ノ大ナルヲ表スル爲ニ使用ス. Вотъ, вотъ онá...вотъ рýсская грани́ца! (ソレ、ソレ是レダ...是レガ露西亞ノ境界ダ).

4. 文中ノ或ル語ニ力ヲ入レテ之ヲ特表セン爲ニ使用ス、例ハ Всякій зна́етъ, что повреди́лъ мнѣ не другóй кто-нибудь, а...вы, и́менно...вы (我ニ妨害セシハ餘人ニ非ズシテ即チ貴君ナリ誠ニ貴君ナリトハ誰モ知ル).

文法適用ノ例題

§ 2. 讀　例

母音 а(ア), я(ヤ), о(オ), е(エ), ё(ヨ), Ѣ(エ), э(エ), у(ウ), ю(ユ), и(イ), і(イ), ѵ(イ), ы(ヰ)

А-я, я-а: о, о-а, а-о, о-и, я-о; е, ѣ, э, ё, е-а, а-е, е-я, я-е, е-о, о-е, е-ё, ѣ-е; у, у-а, а-у, у-я, я-у, у-о, о-у, у-е, е-у; ю, ю-а, а-ю, ю-я, я-ю, ю-о, о-ю, ю-е, е-ю, у-ю, ю-у, ю-ю; и-ы, і, і-а, ы-а, а-и, а-ы, і-я, ы-я, я-и, я-ы, о-и, о-ы, і-о, ы-о, у-ы, ю-ы, ю-и, і-ю, ы-ю.

半母音 й.

а-и, ай; я-и, яй; о-и, ой; е-и, ей; ѣ-и, ѣй; э-и, эй; у-и, уй; ю-и, юй; і-и, ій; ы-и, ый.

子音 н (n); 半子音 ъ, ь.

Н; н-а, на, а-н, анъ, ань; н-я, ня, я-н, янъ, янь; н-о, но, о-н, онъ, онь; н-е, не, е-п, енъ, ень; н-у, ну, у-н, унъ, унь; н-ю, ню, ю-н, юнъ, юнь; н-и, ни, и-н, инъ, инь; н-ы, ны, ы-н, ынъ, ынь. О-на́, о-но́, о-ни́, о-нѣ́, о-ней, ю́-ный, ю́-на-я, ю́-но-е, і-ю́нь, І-о-а́ннъ, Ной, ны-нѣ.

喉音文字 г (g), к (k), х (h).

Г; га, агъ, ягъ; го, огъ; ге, ѣгъ; гу, угъ, югъ; ги, игъ, ыгъ.

К; ка, акъ, якъ; ко, окъ; ке, ёкъ; ку, укъ, юкъ; ки, икъ, ыкъ.

Х; ха, ахъ, яхъ; хо, охъ; хе, эхъ; ху, ухъ, юхъ; хи, ихъ, ыхъ.

Го-ню́, но-га́, но́-ги, но-гѣ́, но-го́й, о-го́нь, о-гня́, гной. Какъ, ка-ко́й, конь, конъ, кни́-га, къ кни́-гѣ (=ккни́-гѣ), ко-го́. Хи́-на, ахъ, о ни́хъ, о но-га́хъ, эхъ.

齒音文字 д (d), з (z), с (s), т (t).

Д; да, адъ, адь; до, одъ, одь; дя, ядъ, ядь; де, едъ,

ъдь; ду, удъ, удь; дю, юдь, юдъ; ди, идъ, идь; ды, ыдъ, ыдь.

З; за, азъ, азь; зо, озъ, озь; зя, язъ, язь; зе, езъ, езь; зу, узъ, узь; зю, юзь, юзъ; зи, изъ, изь; зы, ызъ, ызь.

С; с-а, са, асъ, ась; с-я, ся, ясъ, ясь; с-о, со, осъ, ось; с-е, се, есъ, есь; с-у, су, усъ, усь; с-ю, сю, юсъ, юсь; с-и, си, исъ, ись; с-ы, сы, ысъ, ысь.

Т; та, атъ, ать; то, отъ, оть; тя, ятъ, ять; те, етъ, еть; ту, утъ, уть; тю, ютъ, ють; ти, итъ; ты, ытъ.

День, де́нь-ги, да́н-ный, ид-у́, да-нъ, дань, дня; на́-до, годъ, го́-ду, о го-да́хъ. За, на-за́дъ, зна́-ю, знакъ, зна́-ні-е 或 зна́-нье, здѣсь, зда́-ні-е. Ска́з-ка, съ но-го́й (=сно-го́й), у-га́съ, съ не́-ю (сне́-ю), съ ней (=сней), сухъ, сукъ. Тотъ, той, о тѣхъ, гні-ёть, дать, ки-да́ть, ки-да́-етъ, э́-тотъ, э́-та, э́-тихъ, отъ го-сте́й, ног-те́й, ид-ти́, от-ка-за́ть, мостъ, съ мо-ста́ (=смо-ста́), ѣ-хать, ѣ-здить, трутъ, трудъ, нѣ-кто.

舌音文字 л (l), н (n), р (r).

Л; ла, алъ, аль; ля, ялъ, яль; ло, олъ, оль; ле, ѣлъ, ель; лу, улъ, уль; лю, юлъ, юль; ли, илъ, иль; лы, ылъ, ыль.

Р; ра, аръ, арь; ря, яръ, ярь; ро, оръ, орь; ре, еръ, ерь; ру, уръ, урь; рю, юрь, юрь; ри, иръ, ирь; ры, ыръ, ырь.

Лу-на́, далъ, даль, да́-ли, колъ, коль, илъ, иль, лу́н-ный, си́-ло-ю, лось, злой, зо́-ло-то, е́-сли, слонъ, съѣлъ, сѣлъ, і-ю́ль, пол-зу́, по́ль-зу, столъ, столь, сталь-но́й, для, кладь, кладъ, слѣдъ, слухъ, у́-голъ, у́-голь, ку́-кла, гладь, гладь, глазъ, лёдъ, лётъ.

Не-сти́, но́-готь, съ но-го́-ю (=сно-го́-ю), съ на́-ми (=сна́-ми).

Ро́-ю, рыть, ро-са́, ру́-сый, сре-да́, сре-ди́, се-стёрь, ру-ка́, ра́н-ній, стро́-гій, кре́п-кій, мо́-ре, да-рю́, раз-су-ди́ть, ра́-зумъ, о-гро́м-ный, се-кре-та́рь, мор-ско́й, храмъ, кар-ти́-на, ре́з-ко.

上顎音文字 ж (j), ч (ch), ш (sh), щ (sch), ц (ts).

Ж; жа, ажъ; жо, ожъ; же, ёжь; жу, ужъ; жи, ижъ, ыжъ.

Ч; ча, ачъ; чо, очь; че, ечь; чу, учъ; чи, ичъ, ычъ.

Ш; ша, ашъ; шо, ошь; ше, ешь; шу, ушъ; ши, ишъ ышъ.

Щ; ща, ащъ; що, ощъ, ощь; ще, ещъ; щу, ущъ; щи, ищъ, ыщъ.

Ц; ца, ацъ; цо, оцъ; це, ецъ; цу, уцъ; цы, ыцъ, йцъ.

Жать, ножъ, но-жи́, жизнь, жё-ны, э-та́жъ, э-та-же́р-ка, жну, жнётъ, жить, до-жи-да́ть-ся, мо́-жетъ, жгу, жжётъ жа́р-ко, жа́л-ко. Чай, часъ, ча-сы́, чьё, чья, чье-го́, что. о́-чень, у-чи́-тель, чу́-до, у-че́-ніе, у-че́-нье, кри-ча́ть, спи́-чка, че́-резъ, ча́р-ка, я-и́-чный, хо-чу́, сча́-сті-е, къ сча́-стью (=ксча́-стью), счётъ, у-че́-никъ, съ у-че-ни-ка́ (=съу-че-ни-ка́), ткачъ, слу́-ча-и, слу́-чай.

Шагъ, нашъ, на́-ша, на́-ше, о на́-шихъ, шитъ, шить, ду-ша́, до-шёлъ, у-шла́, кры́-ша, шу-ти́ть, со́л-ны-шко, ка-ран-да-ше́й, што́-ра.

Щи, щей, счётъ, щёт-ка, о щахъ, у-чи́-ли-ще, ни-щій, же́н-щи-на, про-ща́й-те, счи-та́ть, щи-па́ть.

Царь, ца́р-скій, коль-що́, о ко́ль-цахъ, цѣлъ, цѣль, у́-ли-ца, у́-ли-це-ю, ли-цо́, яй-цо́, пти́-ца, и-сте́цъ, льстецъ.

唇音文字 б (b), в (w), м (m), п (p), ф (ph), ѳ (th).

Б; ба, абѣ; бо, объ, обь; бя; бе; бу; убъ: бю, юбъ, юбь; би, ибъ, ибь; бы, ыбѣ, ыбь.

В; ва, авъ; во, овъ, овь; вѣ; ве: ву, увъ, увь; вю, ювъ, ювь; ви, ивъ, ивь; вы, ывъ, ывь.

М: ма, амъ; мо, омъ; ме, емъ, емъ, ѣмъ; му, умъ; мю, юмъ; ми, имъ; мы, ымъ.

П: па, апъ; по, опъ, опь; пя; пѣ; пу, упъ, упь; пю, юпъ, юпь; пи, ипъ, ипь; пы, ыпъ, ыпь.

Ф: фа, афъ: фо, офъ, офь; фя; фе: фу, уфъ, уфь; фю, юфъ, юфь; фи, ифъ, ифь; фы, ыфъ, ыфь.

Богъ, бокъ, обь, бой-кій, бла-го-да-рить, братъ, братъ, лю-блю, быть, быть, бу-день, о-бѣдъ, о-бѣтъ, блѣ-ні-е, при-бли-зить-ся, былъ, быль, кровь, кровь, о-бы-ча-и, о-бы-чай, ба-локъ, ба-рокъ, бьётъ, ботъ.

Во-да, въ во-ду (=вво-ду), вой-на, во-ля, свѣ-ча, свѣ-чо-ю, ва-ше, ло-влю, здрав-ствуй-те, че-ло-вѣкъ, ов-ца, эк-ва-торъ, вни-кать, вмѣ-стѣ, впе-рёдъ, въ чув-ство (=вчув-ство), о-ставлять, со-ло-вей, нра-влюсь, ве-черъ, вѣ-теръ, со-ло-вья, об-на-ру-жи-вать, вонъ, вонь, звукъ, твер-до.

Май, мнѣ-ні-е, во-ломъ, во-ромъ, намъ, на-ми, ме-ня, мно-ю, о мнѣ.

Пи-сать, пло-хо, по-э-зі-я, про-шу, предъ, впредь, пьёмъ, при-дёшь, супъ, тер-пѣ-ні-е, плотъ, плоть, цѣпь, цѣпь, по-э-ма, при, пле-мя, плачъ, плачь, пра-вда, полъ, горъ, пухъ, пухъ, ру-бо-ка, па-лка, ба-рка.

Фо-нарь, Со-фі-я, фа-та, фра-за, ге-о-гра-фія, футъ, худъ.

Ѳе-о-доръ, Ти-мо-ѳей, а-риѳ-ме-ти-ка, ѳи-мі-амъ

§ 13. 例題ノ單語

族 系

дѣ́душка 祖父	мужъ 夫	дя́дя 伯叔父
ба́бушка 祖母	жена́ 妻	тётушка 伯叔母
отёцъ 父	сынъ 息子	тётя 伯叔母
мать 母	дочь 息女	племя́нникъ 甥
братъ 兄弟	внукъ 孫(男)	племя́нница 姪
сестра́ 姉妹	вну́чка 孫女	

以呂波順ヲ以テ記セシ單語

а 然ルニ、ダガ(異別ヲ表ス но ハ反對)	здѣсь 此處ニ(在留ヲ表ス)	о́сенью 秋ニ
весно́ю 春ニ	зимо́ю 冬ニ	сего́дня 今日 (сево́дня ト發音ス).
ве́черомъ 晩ニ	и 及ヒ、而シテ、モ	по́здно 遲ク
вчера́ 昨日	когда́? 何時	ра́но 早ク
гдѣ? 何處ニ(在留ヲ表ス)	кто? 誰	тамъ 彼處(在留ヲ表ス)
да 然リ、左樣ナリ、且又	лѣ́томъ 夏ニ	тогда́ 其時
давно́ 久シク	недавно 先頃、先刻	то́лько 唯、バカリ、而已
днёмъ 晝間	но́чью 夜間	тре́тьяго дня 一昨日 (тре́тьева ト發音ス)
до́ма 家ニ(在留ヲ表ス)	нѣтъ 否、非ス	у́тромъ 朝ニ

I. *Я* былъ до́ма, и *она была́* до́ма. *Они́ были́* тамъ, а *я* не́ *былъ* (=нѣтъ). *Мать* не была́ здѣсь, а *отёцъ* былъ. Гдѣ были́ *братъ и сестра́*?—*Братъ* былъ здѣсь, *сестра́* была́ тамъ; тамъ и *я* былъ. *Дѣдушка* и *ба́бушка* были́ до́ма, а *внукъ и вну́чка* не были́. Когда *вы* были тамъ?—*Я* былъ тамъ сего́дня, *братъ*—(былъ) вчера́, а *сестра́* (была) тре́тьяго дня. Когда́ *они* были́ здѣсь?—*Дя́дя* былъ у́тромъ, *тётушка* днёмъ, а *племя́нникъ и племя́нница* (были́) ве́черомъ. *Мужъ и жена́* были тамъ тре́тьяго дня у́тромъ, сынъ и дочь вчера́ днёмъ, а онъ и она сегодня ве́черомъ. *Я и братъ* были тамъ тре́тьяго дня ра́но у́тромъ, а мать и отёцъ вчера́ по́здно ве́черомъ. *Дѣдушка и ба́бушка* были здѣсь весно́ю и лѣ́томъ, а дя́дя и тётушка о́сенью и зимо́ю. Были́ *ли* вы тамъ?=Тамъ вы были́?—Да, я былъ тамъ.—Нѣтъ, тамъ я не́ былъ. Была́ *ли* здѣсь сестра́?=Сестра́ здѣсь была́?—Да, (она здѣсь) была́.—Нѣтъ, (она здѣсь) не была́; здѣсь былъ то́лько братъ. *Когда́* онъ здѣсь былъ, у́тромъ или днёмъ?—Онъ былъ здѣсь у́тромъ.—Онъ былъ здѣсь не у́тромъ, а днёмъ. Былъ *ли* тамъ отёцъ лѣ́томъ?—Нѣтъ, лѣ́томъ тамъ онъ не́ былъ; онъ тамъ былъ весно́ю. *Ра́зве* о́сенью вы были́ тамъ?—*Да*, я тамъ былъ о́сенью. *Неуже́ли* вы зимо́ю были тамъ?—*Нѣтъ*, зимо́ю я тамъ не́ былъ; я былъ тамъ весно́ю. Давно́ *ли* вы тамъ были́?—(Я былъ тамъ) неда́вно,-зимо́ю.

II. 1. Вы (*есть*) здѣсь?—(Я) здѣсь. А братъ гдѣ?—И братъ здѣсь.—Онъ тамъ. Гдѣ отёцъ?—Онъ до́ма. До́ма ли мать?—Да, она до́ма.—Нѣтъ, она

(есть) не до́ма. Здѣсь ли (*есть*) братъ и сестра́?—Братъ здѣсь, а сестра́ до́ма. Тамъ ли дядя? (=Дядя тамъ?)—Да, онъ тамъ. *Развѣ* дѣ́душка до́ма?—*Да*, до́ма. *Неуже́ли* ба́бушка до́ма?—*Нѣтъ*, она (есть) не дома.

2. Кто (*есть*) онъ?—Онъ (*есть*) отецъ. А она кто?—Она мать. Кто (*суть*) они?—Они (суть) братъ и сестра́. Онъ мужъ, а она жена́. Сестра́ ли она? Она сестра?—Да, она сестра́. Не сестра́ ли она?—Нѣтъ, она не сестра; она жена. *Ра́звѣ* онъ отецъ?—*Да*, онъ отецъ. *Неуже́ли* онъ отецъ?—*Нѣтъ*, онъ не оте́цъ, онъ дѣ́душка. *Неуже́ли* они мужъ и жена?—*Нѣтъ*, они братъ и сестра.

§ 14

возврати́ться 歸ル、戻ル
говори́ть 言フ、話ス
домо́й 家ニ(方向ヲ表ス)
ещё 未タ、又
за́втра 明日
за́втракать 朝食ス
или́, и́ли 或ハ
какъ? 如何ニ
куда́? 何處ヘ(方向ヲ表ス)
лишь (=то́лько) 唯、バカリ、而已
лѣни́ться 怠ル
ма́ло 少シク、僅カ
мно́го 多ク
немно́го 多量ナラズ
нехорошо́ 佳良ナラズ
нѣ́сколько 數多、若干
обѣ́дать 晝食ス
обѣща́ть 約ス
отку́да? 何處ヨリ
отту́да 其處ヨリ
отсю́да 此處ヨリ
отпра́виться 出發ス
оста́ться 殘リ止マル
о́чень 甚タ
ошиба́ться 過マツ
писа́ть 書ク
пло́хо 佳良ナラス、惡ク
понима́ть 領解ス
по́слѣ за́втра 明後日
предполага́ть 豫想ス
приле́жно 勉勵シテ
приходи́ть 來ル(歩行シテ)
прі́ѣхать 乘來ル
сейча́съ 即刻、直チニ
ско́лько? 幾許
слу́шать 聞ク
стара́ться 努力ス、勉ム
сюда́ 此處ヘ(方向ヲ表ス)
та́кже 同シク、矢張リ
тепе́рь 今、唯今
туда́ 其處ヘ(方向ヲ表ス)
ходи́ть 行ク、歩行ス
хорошо́ 善ク、佳良ニ
уже́ 既ニ
у́жинать 晩食ス
уѣ́хать 乘去ル
учи́ться 學フ、習フ

1. *Братъ* чита́лъ и *сестра* та́кже чита́ла. *Мы* чита́ли но ещё не писа́ли. *Я* писалъ, а *она* ещё нѣтъ (=не писа́ла). *Племя́нница* чита́ла, а та́кже и писа́ла. Гдѣ вчера́ обѣ́дали *вы*?—Вчера́ обѣдалъ *я* до́ма. У́жинали ли *они*?—*Тётушка* уже́ у́жинала, но *племя́нница* ещё нѣтъ (=не у́жинала). Ра́звѣ *вы* ещё не за́втракали?—Да, *я* ещё не за́втракалъ. Неуже́ли *они* уже́ обѣ́дали?—Нѣтъ, *они* ещё не обѣ́дали. *Мужъ* чита́лъ, а *жена́* слу́шала. *Кто* прі́ѣхалъ?—Прі́ѣхали *отецъ и мать*. *Кто* уѣ́халъ?—Уѣ́халъ лишь (=только) *дѣдушка*. Прі́ѣхалъ ли *отецъ*?—Нѣтъ, ещё, не прі́ѣхалъ, *онъ* предполага́лъ прі́ѣхать за́втра или по́слѣ за́втра. Куда́ *онъ* уѣ́халъ?—*Онъ* уѣхалъ домо́й и сейча́съ уже́ до́ма. *Она* уѣ́хала туда́ тре́тьяго дня и тепе́рь ещё тамъ. Приходи́лъ ли сюда́ *братъ*?—Да, *онъ* и тепе́рь ещё здѣсь. Куда уѣ́хала *сестра́*?—*Она* уѣ́хала туда́ и тепе́рь ещё тамъ. Уѣ́халъ ли *онъ* отсю́да?—Нѣтъ, не уѣ́халъ; онъ ещё здѣсь. Уѣхала ли *она* отту́да?—Да, отту́да. *она* уже́ уѣхала. Сейча́съ *я* ходи́лъ домо́й. Теперь *она* уже́ до́ма. *Они* прі́ѣхали сюда́ тре́тьяго

дня ; племя́нникъ ещё здѣсь, но *племя́нница* уже уѣ́хала отсю́да. *Они* уѣ́хали туда́ вчера́ ; внуко́къ ещё тамъ, но *вну́чка* уже́ пріѣ́хала отту́да.

Какъ *они* чита́ли?—*Они* чита́ли хорошо́, о́чень хорошо́, нехорошо́, пло́хо, о́чень пло́хо. *Дочь* чита́ла хорошо́, но *сынъ* (читалъ) пло́хо.

2. Занима́лись ли *вы* сего́дня?—Да, *я* уже́ занима́лся. *Сестра́* уже занима́лась, но братъ ещё не занима́лся (=нѣтъ). Гдѣ *вы* занима́лись?—*Я* занима́лся до́ма, *сестра́* (занималась) здѣсь, а братъ тамъ. Когда́ *они* возврати́лись?—*Отецъ* возврати́лся тре́тьяго дня по́здно ве́черомъ, *мать* (возврати́лась) вчера́ днёмъ, а *братъ и сестра* (возврати́лись) сего́дня ра́но у́тромъ. *Отецъ* обѣща́лъ возврати́ться за́втра ве́черомъ или по́слѣ за́втра у́тромъ. Откуда́ *вы* возврати́лись?—*Я* возврати́лся отту́да. Какъ *онъ* сего́дня занима́лся?—Сего́дня *онъ* занима́лся прилѣ́жно, но вчера́ и тре́тьяго дня лѣни́лся. Какъ *она* чита́ла?—*Она* стара́лась чита́ть, и ма́ло ошиба́лась. *Онъ* лѣ́томъ лѣни́лся учиться, но зимо́ю прилѣ́жно занима́лся. Не лѣни́лись ли *она* сего́дня?—Нѣтъ, сего́дня *она* не лѣни́лась ; сегодня *она* стара́лась. Занима́лись ли *вы* сего́дня?—Сегодня *мы* занима́лись мно́го, о́чень мно́го, немно́го-ма́ло, о́чень ма́ло.

когда́—тогда́ 何々スル時、其時 =(тогда́)—ко́гда
гдѣ—тамъ 何々ノ處、其處ニ於テ =(та́мъ)—гдѣ
куда́—туда́ 何々ノ方、其方ヘ向テ =(туда́)—куда́
отку́да—отту́да 何々ノ處ヨリ、其處ヨリ =(отту́да)—отку́да
какъ—такъ 何々ノ如ク、ソノ如ク =(такъ)—какъ
ско́лько—сто́лько 何々ダケ、ソレダケ =(сто́лько)—ско́лько

備考 括弧内ニ存スル語ハ省略セラル、コヲ得ベシ

Когда́ мать была́ тамъ?—Мать была тамъ *тогда́, когда́* былъ и оте́цъ. *Когда́* былъ здѣсь дѣдушка, *тогда́* была́ и ба́бушка. Я чита́лъ, *когда* она писа́ла. Слу́шали ли вы, *когда* она чита́ла?

Гдѣ была́ сестра́?—Сестра была *тамъ*, *гдѣ* былъ и братъ. *Гдѣ* занима́лся племя́нникъ, *тамъ* занима́лась и племя́нница. Были́ ли вы *тамъ*, *гдѣ* онъ былъ?

Куда́ ходи́лъ сынъ?—Сынъ ходи́лъ *туда́*, *куда́* ходи́ла и дочь. *Куда* уѣ́хала тётушка, *туда́* уѣ́хала и племя́нница.

Отку́да онъ возврати́лся?—Онъ возврати́лся *отту́да*, *отку́да* возврати́лся и отецъ. Сынъ и дочь возврати́лись *отту́да*, *отку́да* возврати́лась мать.

Какъ они занима́лись?—Онъ занима́лся *такъ*, *какъ* занима́лась и она. *Какъ* занима́лся братъ, *такъ* занима́лась и сестра.

Ско́лько вы сегодня занима́лись?—Я занима́лся *сто́лько*, *ско́лько* занима́лись и вы. *Ско́лько* занимала́сь племя́нница, *сто́лько* занима́лся и племя́нникъ. Онъ ошиба́лся не *сто́лько*, *ско́лько* ошибали́сь вы.

§ 17. взять 取ル、採ル
ви́дѣть 見ル、見受ク
гости́ть 客ト成ル
гость 客
графи́нъ 水注(硝子ノ)
дива́нъ 長椅子
домъ 家屋
за́втракъ 朝餐
заходи́ть 立寄ル
кабине́тъ 書齋
купи́ть 買フ
обѣдъ 晝餐
о́коло 邊ニ、程
по́слѣ ノ後ニ
поста́вить 立テル、置ク
разгова́ривать 會話ス
сидѣть 坐ス
стака́нъ コップ
стоя́ть 立ツ
учи́тель 教員、教師
у́жинъ 晩餐

Гдѣ вы были́?—Я былъ *въ* кла́ссѣ. *Куда́* вы ходи́ли?—Я ходи́лъ *въ* классъ. *Отку́да* вы возврати́лись?—*Изъ* кла́сса. *Что* вы купи́ли?—Я купи́лъ стака́нъ (—ы). *Куда́* вы поста́вили стака́ны?—Стака́ны я поста́вилъ *на* столъ, *въ* столъ, *подъ* столъ, *за* столъ, *о́коло* стола́, *у* стола́. *Гдѣ* стоя́ли стака́ны?—Стаканы стоя́ли *на* столѣ́, *въ* столѣ́, *подъ* столо́мъ, *за* столо́мъ, *о́коло* стола́, *у* стола́. *Отку́да* вы взя́ли стака́ны?—Стака́ны я взялъ *со* стола́, *изъ* стола́, *изъ-подъ* стола́, *изъ-за* стола́, *отъ* стола́. Графи́ны стоя́ли *въ* столѣ́ и *за* столо́мъ, а стака́ны *на* столѣ́ и *подъ* столо́мъ. Она взяла́ графи́ны *со* стола́ и *изъ-подъ* стола́ и поста́вила *въ* столъ и *за* столъ. *Въ* столѣ́ ли стоя́ли стаканы?—Нѣ́тъ, они́ стоя́ли не *въ* столѣ́, а *на* столѣ́; *въ* столѣ́ были́ лишь графи́ны. *На* столъ ли она поста́вила графины?—Нѣ́тъ, она поста́вила графины не *на* столъ, а *въ* столъ и *подъ* столъ. Гдѣ́ вы занима́лись, *въ* кла́ссѣ или до́ма?—Я занима́лся не дома, я ходи́лъ *въ* классъ и тамъ занима́лся. Онъ занима́лся до́ма *въ* кабине́тѣ. *До́ма* ли онъ?—Да, онъ *до́ма*; онъ *въ* до́мѣ, *въ* кабине́тѣ. *Куда́* вы ходи́ли?—Я ходи́лъ *домо́й*, *въ* домъ. Когда́ онъ сидѣ́лъ *въ* кабине́тѣ и занима́лся, (тогда́) я ходи́лъ *въ* классъ.

У кого́ вы были́?—Я былъ *у* прія́теля (*-ей*). *Къ кому́* вы ходи́ли?—Я ходи́лъ *къ* прія́телю (*-лю*). *Отъ кого́* вы возврати́лись?—Я возврати́лся *отъ* прія́теля (*-ей*). *Кого́* вы ви́дѣли?—Я ви́дѣлъ прія́теля (*-ей*). *Съ кѣмъ* вы ходи́ли?—Я ходи́лъ *съ* прія́телемъ (*-ями*). *О комъ* вы говори́ли?—Я говорилъ *о* прія́телѣ (*-яхъ*). Были ли вы сего́дня *у* учи́теля (*-е́й*)?—Былъ, я то́лько сейча́съ возврати́лся *отъ* учи́теля (*-е́й*). *Съ кѣмъ* вы были́ *у* учи́теля (*-е́й*)?—У учи́теля (*-е́й*) я былъ *съ* прія́телемъ (*-ями*). *Къ кому* вы ходи́ли *съ* прія́телемъ (*-ями*)?—*Съ* прія́телемъ (*-ями*) я говори́лъ *объ* учи́телѣ (*-я́хъ*). *За кѣмъ* вы заходи́ли *къ* учи́телю?—*Къ* учи́телю я заходи́лъ *за* прія́телемъ. *За чѣмъ* вы заходи́ли *къ* прія́телю?—*Къ* прія́телю я заходи́лъ *за* стака́номъ. Какъ вы сего́дня занима́лись, *съ* учи́телемъ или *безъ* учи́теля?—*Въ* кла́ссѣ я занима́лся *съ* учи́телемъ, а до́ма *безъ* учи́теля, лишь *съ* прія́телемъ. Вчера́ ве́черомъ *у* учи́теля были́ го́сти. Когда́ го́сти пріѣ́хали *къ* учи́телю?—Они пріѣ́хали *до* обѣ́да, *предъ* обѣ́домъ, *по́слѣ* обѣ́да. Онъ пріѣ́халъ *предъ* за́втракомъ и уѣ́халъ *послѣ* у́жина. Когда я былъ *у* учи́теля, (тогда) я ви́дѣлъ гостей́; они сидѣ́ли *на* дива́нѣ и разгова́ривали *съ* учи́телемъ. Когда

я былъ *въ* кла́ссѣ, онъ былъ *у* учи́теля. Когда онъ ходи́лъ *въ* классъ, я ходилъ *къ* учи́телю. Когда мы возврати́лись *изъ* кла́сса, они возврати́лись *отъ* учи́теля.

§ 18.

вездѣ́ 何處ニモ、到ル處
вечеръ 晩
вино́ 酒、葡萄酒
висѣ́ть 懸カル、垂下ス
внача́лѣ 最初
всегда́ 常ニ
встрѣ́тить 迎フ、逢フ
встрѣ́титься (съ кѣмъ?) 逢着ス(注ニ)
вы́пить 飲ミ盡ス
вѣроя́тно 大方、多分
гуля́ть 遊フ、散步ス
довольно 充分、隨分
до́лго 久シク
дѣ́лать 行フ、致ス、作ル
жить 住居ス、生活ス
забы́ть 忘ル
знать 知ル
импера́торъ 皇帝
иногда́ 時トシテ
когда́-нибу́дь 何時ナリト
написа́ть 書キ終ル
недавно 先日、先刻
ни 何々モ…ナシ
никогда́ 決シテ、未タ曾テ
обыкнове́нно 通常
объѣ́хать 乘廻ル
осо́бенно 殊ニ
отпра́виться 出發ス
переѣ́хать 越ス、移轉ス
пи́во 麥酒
пить 飲ム
портре́тъ 肖像
потомъ́ 其後
почти́ 殆ト、大抵
пробы́ть 滯在ス
прогу́ливаться 逍遙ス、遊覽ス
прода́ть 賣ル
путеше́ствовать 旅行ス
разби́ться 破碎セラル
рѣ́дко 稀ニ
ско́лько-нибу́дь 何程カ
слова́рь 辭書
смотрѣ́ть 注目ス、眺ム
тогда́-же 其時ニハ
у́тро 朝
ча́сто 屢々

1. Учи́тель неда́вно купи́лъ домъ *прія́теля*. Были ли вы въ до́мѣ *учи́теля*? Го́сти *учи́теля* сидѣ́ли въ кабине́тѣ. Встрѣ́тили ли вы прія́телей *учи́теля*?—Да, съ прія́телями *учи́теля* я встрѣ́тился. Они говори́ли объ учителя́хъ *прія́теля*. Портре́тъ *импера́тора* висѣ́лъ въ кла́ссѣ надъ столо́мъ. Въ кабине́тѣ *учи́теля* подъ портре́томъ импера́тора висѣ́лъ портре́тъ *прія́теля*.

2. Купи́ли ли вы слова́рь?—Нѣтъ, слова́ря *я не* купи́лъ. Прода́лъ ли учи́тель домъ?—Нѣтъ, онъ *не* прода́лъ до́ма. Встрѣ́тили ли вы учи́теля?—Нѣтъ, учи́теля *я не* встрѣ́тилъ.

3. Учи́тель въ кла́ссѣ. Учи́теля *нѣтъ* въ кла́ссѣ. Слова́рь на столѣ́. Слова́ря *нѣтъ* на столѣ́. До́ма ли прія́тель?—Прія́теля *нѣтъ* до́ма.

4. Были ли вчера́ у учи́теля го́сти?—Вчера у учителя *не́ было* гостей. Былъ ли сего́дня прія́тель въ классѣ?—Сегодня прія́тель *не* былъ въ классѣ.—Сегодня прія́теля *не́ было* въ кла́ссѣ. Графи́ни были въ столѣ́. Графи́новъ *не́ было* въ столѣ́.

5. *Есть* ли *у* учи́теля слова́рь?—Да, *у* учи́теля *есть* слова́рь.—У учи́теля *нѣтъ* слова́ря. *Нѣтъ* ли слова́ря у прія́теля? *Были* ли когда́-нибу́дь *у* учи́теля прія́тели?—У учи́теля никогда́ *не́ было* прія́телей. *Былъ* ли *у* учи́теля домъ?—Да, былъ; *у* учи́теля и тепе́рь *есть* домъ.—Нѣтъ, у учи́теля *не́ было* дома.

6. *Ско́лько* стака́новъ купи́ли вы?—Я купи́лъ лишь *нѣсколько* стака́новъ.

Я (*нискóлько*) стакáновъ не купи́лъ. *Скóлько* гостéй вчера было у учи́теля?—Вчера у учителя *былó мнóго* гостéй, очень *мнóго* гостéй, *мáло* гостéй, *немнóго* гостéй. Въ кабинéтѣ на столáхъ у учителя лежáло *мнóго* словарéй.

§ **18.** 及 § **17.** Что вы дѣ́лали сегóдня ýтромъ *до* обѣ́да?—*До* обѣ́да я учи́лъ словá. Зналъ ли онъ сегóдня словá?—Ни сегóдня, ни вчерá онъ *не* знáлъ словъ. *Скóлько* словъ знáла она?—Она знáла óчень *мáло* словъ. *Нѣ́сколько* словъ я ужé забы́лъ. Дóлго ли вы прóбыли *у* прія́теля?—Прóбылъ довóльно дóлго: *съ* утрá почти́ *до* вéчера. Гуля́ли (=прогýливались) ли вы лѣ́томъ *по* утрáмъ?—По утрáмъ вы гуля́ли лѣтомъ?—Чáсто прогýливался.—Не осóбенно чáсто.—Прогýливался, но не чáсто.—Рѣ́дко гуля́лъ. *Пóсмѣ* обѣ́да онъ всегдá пилъ винó, а *пóсмѣ* ýжина пи́во. Она никогдá *не* пилá *ни* винá, *ни* пи́ва, а онъ пилъ лишь иногдá. Онъ вы́пилъ *стакáнъ* пи́ва, а я *стакáнъ* винá. Какъ вы пріѣ́хали?—Я пріѣ́халъ *пó* морю (=мóремъ). Онъ дóлго путешéствовалъ и объѣ́халъ *мнóго* морéй. Домъ учи́теля *óколо* мóря. Гдѣ онъ?—Онъ уѣ́халъ *въ* пóле. Были́ ли вы сегóдня *въ* пóлѣ?—Да, сегóдня мы ходи́ли *въ* пóле.

§ **17, 3—4.** Обыкновéнно мы гуля́ли не въ пóлѣ, а óколо *óзера*. За дóмомъ учи́теля ужé *поля́* и *озёра*. Мнóго ли *óконъ* въ клáссѣ?—Не осóбенно. Скóлько *стёколъ* разби́лось?—Разби́лось лишь нѣ́сколько *стёколъ*. На стёклахъ въ клáссѣ óчень мнóго *пя́тенъ*. Писáли ли вы сегóдня пи́сьма? Да, сегóдня я написáлъ нѣ́сколько *пи́семъ*.

Вначáлѣ онъ жилъ *въ Кіото*, а потóмъ переѣ́халъ *въ Токіо*. Были ли вы когдá-нибýдь *въ Кіото*?—*Въ Кіото* я былъ лѣ́томъ, тогдá же былъ и *въ Кóбе*.—А *въ Хакодате* вы были́?—Да, былъ; тамъ я дóлго жилъ. Онъ вы́пилъ стакáнъ *кóфе*. *Въ чёмъ* онъ былъ?—Онъ былъ *въ пальтó*.

§ **19.**

бывáть 屬々在ル、度々行ハル
ви́дѣть 見受ク
внимáніе 注意
со —ніемъ 注意シテ
Дими́трій 人名
землетрясéніе 地震
жи́тель 住民、住人
здáніе 建物
Китáй 支那
наводнéніе 洪水
Николáй 人名
объяснéніе 說明
объясня́ть 說明ス
Пётръ 人名
пожáръ 出火、火災
поня́ть 解ス、領會ス
продолжéніе 續キ
въ — ノ間
сгорѣ́ть 燒失ス
си́льно 强ク
слýчай 場合
по —ю ニ際シテ、機ニ乘シテ
при —ѣ 便誼ヲ見テ
случи́ться 遭遇ス
слы́шать 聞キ受ク
сочинéніе 文章
страдáть 苦ム
счáстіе, счáстье 幸福
къ —тію 幸ニシテ
я́сно 明カニ

Ви́дѣли ли вы когдá-нибудь Императóра?—Когдá я жилъ въ Токіо, я имѣ́лъ *нѣ́сколько* слýчаевъ ви́дѣть Императóра. *По* слýчаю пожáра онъ не былъ сегóдня въ клáссѣ. *При* слýчаѣ я всегдá заходи́лъ *къ* Николáю. Въ Китáѣ óчень мнóго жи́телей. Чáсто ли вы бывáли *у* Васи́лія и Петрá?

У Петра́ быва́лъ не осо́бенно ча́сто, а *къ* Васи́ліи заходи́лъ ча́сто. Когда́ я былъ *у* Никола́я, я говори́лъ *съ* Васи́ліемъ *о* Петрѣ и Дими́тріи.

Когда́ вы были *въ* име́ніи?—*Въ* име́ніе мы ѣ́здили лѣ́томъ—*въ* ма́ѣ и о́сенью—*въ* сентябрѣ. До́лго ли вы про́были *въ* име́ніи?—*Въ* име́ніе я уѣ́халъ *въ* январѣ, а *изъ* име́нія возврати́лся *въ* ма́ртѣ. Есть ли у учи́теля име́ніе?—У учи́теля нѣ́сколько домо́въ въ То́кіо и *нѣсколько* име́ній о́коло Сенда́я и въ Хоккайдо́. Писа́ли ли вы сочине́ніе (=Сочиненіе вы писа́ли)?—Да, писа́лъ и уже́ почти́ написа́лъ.—Нѣ́тъ ещё, сочиненія я *не* писа́лъ. Поня́ли ли вы объясне́ніе учи́теля (=Объясне́ніе учителя вы поня́ли)?—Мы слу̀шали со вниманіемъ, и объясненіе учи́теля поня́ли.—Нѣ́тъ, объясненія учителя мы *не* поня́ли: онъ объясня́лъ нея́сно. До́лго ли вы путеше́ствовали (=Вы до́лго путешествовали)?—Я путеше́ствовалъ *въ* продолже́ніе февраля́, ма́рта и апрѣ́ля. Слы́шали ли вы (=вы слы́шали) *о* несчастіи (*ы*) учи́теля?—Нѣ́тъ, не слы́шалъ; что случи́лось?—Въ до́мѣ учи́теля неда́вно былъ пожа́ръ; *къ* сча́стью, учи́тель былъ до́ма. *Въ* име́ніи прія́теля *въ* іюнѣ было́ наводне́ніе, *въ* іюлѣ землетрясе́ніе. Отъ пожа́ровъ, наводне́ній и землетрясе́ній жи́тели всегда́ и вездѣ́ си́льно страда́ли.

§ 20.

верхо́мъ 乗馬ニテ	подари́ть 賜與ス	раздѣли́ть 分割ス
вы́учить 習得ス、學得ル	позва́ть 呼ブ	садо́вникъ 園丁
извóщикъ 辻待馭者	положи́ть 置ク、定ム	сходи́ть 往テ來ル
на —кѣ 辻馬車ニ乗リテ	прогу́ливаться 逍遙ス	уро́къ 日課、學課
ме́жду ノ間ニ	проси́ть 請フ	учи́ть 教フ
орѣ́хъ 榛ノ實	проходи́ть 通過ス	я́щикъ 箱

Гдѣ́ ученики́?—Ученики́ въ кла́ссахъ. Учи́ли ли вы (=вы учили) сегодня уро́ки?—Да, уро́ки (сего́дня) я училъ и уже́ вы́училъ.—Нѣ́тъ, уро́ковъ сего́дня я ещё *не* учи́лъ. Когда́ я проходи́лъ о́коло кла́сса, учи́тель объясня́лъ ученика́мъ урокъ. Онъ вчера́ *не* объясня́лъ ученика́мъ уро́ка. Я проси́лъ позва́ть извóщика; позва́ли ли?—Да, *за* извóщикомъ уже́ сходи́ли. Какъ вы пріѣ́хали, верхо́мъ или *на* извóщикѣ?—Я пріѣ́халъ верхо́мъ, а онъ *на* извóщикѣ. Съ кѣ́мъ вы прогу́ливались тре́тьяго дня ве́черомъ?—Я прогу́ливался *съ* племя́нникомъ. *Съ* племя́нниками я ходи́лъ *къ* садо́внику. Они ходи́ли *къ* племя́ннику садо́вника.

Что вы купи́ли?—(Я купи́лъ) орѣ́ховъ и я́блокъ. Орѣ́хи онъ раздѣли́лъ *между* ученика́ми, а я́блоки подари́лъ племя́ннику учи́теля. Гдѣ́ я́блоки?—Я́блоки я положи́лъ въ столъ; они въ я́щикѣ. Есть ли *у* садо́вника я́блоки? Нѣ́тъ ли *у* садо́вника я́блокъ?—Осенью *у* садо́вника было́ мно́го я́блокъ, но тепе́рь—весною, вѣроя́тно, нѣ́тъ.

§ 21. включи́тельно 悉ク
Владивосто́къ 地名
выходи́ть 出ヅ
заня́тіе 修業、勤務
каранда́шъ 鉛筆
крыльцо́ 玄關上リ段
ножъ 庖刀
но́жикъ 小刀
очини́ть 削リ尖ラス
Петербу́ргъ 地名
пра́здникъ 祭日
прожи́ть 在住ス、滞在ス

Кто онъ?—Онъ това́рищъ учи́теля. Я былъ *у* това́рища. У това́рища *но́го* каранда́ше́й. За чѣмъ вы ходи́ли *къ* това́рищу?—Ходи́лъ *за* каранда́шо́мъ. Есть ли *у* това́рища каранда́шъ и но́жикъ (ножъ)?—Каранда́шъ (*у* това́рища) есть, но ножа́ нѣтъ. Нѣтъ ли *у* това́рища каранда́ша́ или ножа́?—Каранда́ша́ нѣтъ, но ножъ есть. *Ско́лько* у това́рища каранда́ше́й?—*У* това́рища *ни́сколько* каранда́ше́й. Чѣмъ вы очини́ли каранда́шъ?—(Каранда́шъ я) очини́лъ ножо́мъ. Чѣмъ вы писа́ли письмо́?—(Письмо́ я) писа́лъ каранда́шо́мъ: *Ско́лько* вы купи́ли каранда́ше́й?—Каранда́ше́й я не купи́лъ, я купи́лъ то́лько но́жикъ.

Гдѣ вы были́?—(Я былъ) *въ* учи́лищѣ. По слу́чаю пра́здника вчера́ не́ было заня́тій, и я не ходи́лъ въ учи́лище. Гдѣ вы встрѣ́тили това́рища? Гдѣ вы встрѣ́тились *съ* това́рищемъ?—(*Съ* това́рищемъ я встрѣ́тился) *о́коло* учи́лища. Това́рищей я встрѣ́тилъ, когда́ они выходи́ли *изъ* учи́лища.

Ско́лько мѣ́сяцевъ вы не были въ Петербу́ргѣ?—Въ Петербу́ргѣ я не былъ въ продолже́ніе ма́я, ію́ня и ію́ля. Она не была́ *въ* учи́лищѣ съ ноября́ по февра́ль включи́тельно. Ча́сто ли вы быва́ли у племя́нника?—Зимо́ю быва́лъ дово́льно ча́сто, но весно́ю и лѣ́томъ заходи́лъ рѣ́дко: не быва́лъ *по* мѣ́сяца́мъ. До́лго ли вы пробыли (=прожили) во Владивосто́кѣ?—(Во Владивосто́кѣ я) прожилъ (=пробылъ) *о́коло* мѣ́сяца. Она сидѣ́ла *на* крыльцѣ́ и чита́ла пи́сьма. Въ домѣ́ това́рища *ни́сколько* крыле́цъ.

§ 22.

болѣ́ть 病ム、痛ム
вѣ́дѣть 見ル
—во снѣ 夢ニ見ル
внача́лѣ 最初
воева́ть 交戰ス
враждебно 敵意ヲ含ミテ
въѣзжа́ть 乘込ム
лека́рство, лѣка́рство 藥
магази́нъ 店
нача́ться 始マル
относи́ться (къ кому?) 關係ス
прогости́ть 客在ス
ревмати́змъ レウマチス
рубль 露貨幣(凡ソ一圓)
энъ 一圓

1. Она приходи́ла *съ ребёнкомъ*. Купи́ли ли вы *замки́* (*Замки́* вы купили)?—Нѣтъ, *замко́въ* я не купи́лъ. Мы были *на ры́нкѣ* и купи́ли *по деся́тку* я́блокъ. Когда́ мы въѣзжа́ли въ Токіо, *они́* ещё не́ было въ дома́хъ. Кого вы ви́дѣли *во снѣ*?—(*Во снѣ* я видѣ́лъ) *отца́*. Пожа́ръ нача́лся *о́коло ры́нка*, въ магази́нѣ *япо́нца-купца́*, ра́но у́тромъ; *къ концу́ дня* и магази́нъ *отца́* былъ *въ огнѣ*. Сколько *дней* вы прогости́ли тамъ?—(Я прогости́лъ тамъ) лишь нѣ́сколько *дней*. Онъ пробылъ *у отца́* около мѣ́сяца: уѣ́халъ лишь *на-*

дня́хъ, а прі́ѣхалъ *въ концѣ́* апрѣ́ля. Внача́лѣ *япо́нцы* о́чень враждебно относи́лись *къ иностра́нцамъ*.

2. У отца́ зимо́ю си́льно боле́ли *па́льцы*: у отца́ ревмати́змъ *въ па́льцахъ*. *Въ кошельки́* то́лько рубль Что *въ пузырьки́*?—(*Въ пузырьки́*) лека́рство.

4. Въ Никко сейча́съ о́чень много *европе́йцевъ*. Не осо́бенно давно́ япо́нцы воева́ли *съ китайцами*. Встрѣ́тили ли вы (=вы встрѣтили) сего́дня у́тромъ *китайца* и *коре́йца*?—*Китайца* я не встрѣ́тилъ, но встрѣтилъ не́сколько *коре́йцевъ*.

§ 23.

волкъ 狼
вѣ́ровать (въ кого?) 信ス
выбѣга́ть 走リ出ツ
грѣ́шникъ 罪人(道徳上ノ)
держа́ть 支持ス、把持ス
какъ 如ク
кре́пко 固ク、強ク
ми́мо 側邊
обыкнове́нно 通常
офице́ръ 士官
повторя́ть 復ス
по́ясъ 帶
пра́ведникъ 義人
предпочита́ть 特ニ重ズ
пре́жде 以前
проходи́ть 通行ス
разгова́ривать 對話ス、談話ス
разслы́шать 聞キ判ス
ря́домъ 並ビテ
Сахали́нъ 樺太(地名)
сидѣ́ть 坐ス
служи́ть 勤ム
слы́шать, слыха́ть 聞受ク、度々聞ク
соверше́нно 全ク
спать 寢ル
стать 始ム
тепе́рь 今
чино́вникъ 官吏
чу́вство 感情、心
язы́чникъ. 異教人(基督教外ノ)

12. Онъ вѣ́ровалъ *въ Го́спода Іису́са Христа́*, а жилъ какъ язы́чникъ.

3. 甲 Вчера́ я купи́лъ фу́нтъ ча́*ю*, фу́нтъ са́хару, я́щикъ табаку́, пудъ ри́су и кусо́къ шёлку. Она вы́пила лишь стака́нъ ча́*ю*. Онъ взялъ кусо́къ мѣ́лу и сталъ писа́ть.

乙 Мно́го ли нарбду (а) было́ тамъ?—Нѣтъ, не осо́бенно мно́го. Были́ ли вы когда-нибудь (=Когда-нибудь вы были́) на Сахали́нѣ?—Нѣтъ, на Сахали́нѣ я *ни ра́зу* не́ былъ. Спалъ я сего́дня о́чень кре́пко: *ни* шу́му (а), *ни* кри́ку (а) я соверше́нно не слы́шалъ.

丙 Онъ предпочита́лъ пить чай *безъ са́хара* (*у*). *Изъ лѣ́са* (*у*) вы́бѣжалъ волкъ. *Изъ-за́* шу́ма (*у*) и кри́ка (*у*) ученико́въ я не разслы́шалъ словъ учи́теля. Въ пузырькѣ́ лека́рство *отъ* ка́пля (*го*). Я *о́тъ роду* не былъ тамъ. Она сши́ла по́ясъ *изъ* шёлка (*у*).

4. Пра́ведники *въ раю́* (ѣ), а грѣ́шники *въ аду́* (ѣ). Лѣ́томъ мы обыкнове́нно гуля́ли *въ лѣ́су*, а зимо́ю *въ саду́*. *Въ плѣну́* у япо́нцевъ бы́ло ма́ло китайцевъ. Пре́жде онъ служи́лъ *въ полку́* офице́ромъ, а тепе́рь онъ чино́вникъ. Она́ держа́ла каранда́шъ *во рту́*. Гдѣ слова́рь?—(Слова́рь) *въ шкапу́*. Столъ пре́жде стоя́лъ *въ углу́*.

5. Я проходи́лъ ми́мо, когда́ они сидѣ́ли *на* берегу́ о́зера и разгова́ривали. Пре́жде онъ жилъ *на углу́*, ря́домъ съ до́момъ учи́теля. Мы до́лго стоя́ли *на мосту́* Они, какъ япо́нцы, предпочита́ли сидѣ́ть *на полу́*.

6. "*Го́споди, Бо́же, Іису́се Христе́*!" повторя́лъ онъ съ чу́вствомъ.

§ 24.

Бу́дда 佛陀
бѣ́гать 駈走ル
вдали́ 遠ニ、遠方ニ
вездѣ́ 何處ニモ
весна́ 春
видне́ться 見ニ、現出ス
висѣ́ть 掛カル
вкусъ 味、趣味
владѣ́ть (чѣмъ?) 領有ス、能ヲ有ス
вокру́гъ 周圍ニ、近邊ニ
впереди́ 前方ニ
вѣроя́тно 多分、大方
генера́лъ 陸軍將官、勅任官
гнить 朽ル
гребешо́къ 櫛
дворъ 帝室、邸
дія́конъ 輔祭(僧)
забы́ть 忘ル
зазелене́ть 綠色トナリカヽル
зайти́ 立寄ル
зно́й 炎熱
избра́ть 撰ブ
и́здали 遠方ヨリ
инспе́кторъ 監督
испо́ртиться 毀損ス
Конфу́цій 孔子
лежа́ть 臥ス、横ハル
наконе́цъ 終ニ
наступи́ть 到ル、來ル
нача́ть 始ム
неда́вно 先頃
не то́лько..., но и ノミナラズ却テ
носи́ть 携フ、着用ス
——— очки 眼鏡ヲ掛ク
нравъ 氣風、風習
обра́доваться 悦ブ
обраща́ться 對遇ス、向フ
обсы́паться 散布ス
обы́чай 風俗、慣例
ожида́ть 待ツ
око́нчить 終ル
отлича́ться 秀ツ、拔ンヅ
отморо́зить 凍ラス
отпра́вить 遣ハス
парохо́дъ 汽船
по́варъ 料理人
позади́ 背後ニ
покори́ть 征服ス
полко́вникъ 大佐
положи́ть 置ク
попра́виться 復正ス、全快ス
поступи́ть (въ) 入ル
посѣти́ть 訪問ス
по́ѣздъ 列車(汽車ノ)
почти́ 殆ド
пригото́вить 備フ
проводи́ть 伴フ、送ル
проповѣ́дникъ 說教者
проси́ть 請願ス
священ́никъ 司祭(僧)
собра́ться 集マル、用意ス
совѣща́ніе 協議
созрѣ́ть 熟ス
слома́ться 挫折ス
слы́шаться 聞ユ
спуска́ть 放ス、放下ス
среди́ 何々ノ中ニ、間ニ
сра́зу 一次ニ、直ニ
стрѣля́ть (изъ чего́) 發射ス
сукно́ 羅紗
сунъ ソップ
увидѣ́ть,-да́ть 見受ク
умѣ́ть 能クス
успѣ́ть 捗ル
характе́ръ 性格
хра́мъ 教堂
шумѣ́ть 騷ク
царь 王

1. Вдали́ съ парохо́да виднѣ́лись *береги́* о́строва. *Острови́* мы увидѣ́ли лишь къ ве́че́ру. *Вечера́* я обыкнове́нно проводи́лъ у това́рищей. *Во́лосы* (*а́*) у отца́ уже́ посѣдѣ́ли. У това́рища на-дня́хъ болѣ́ли *глаза́*. *Голоса́* ученико́въ слы́шались и́здали. Гдѣ *грифеля́*? *Доктора́* уже́ собра́лись на совѣща́ніе. *Дома́* отца́ и това́рища ря́домъ на берегу́ мо́ря. *Офице́ры* (*а́*) ѣ́хали впереди́, а *гонкера́* позади́. Наступи́ла весна́: поля́, *луга́* и *мы́са* уже́ зазеленѣ́ли. *Профе́ссоры* (*а́*) уже́ въ кла́ссахъ. По́слѣ зно́я сра́зу наступи́ли *холода́*.

2. Есть ли у това́рища братъ?—У това́рища нѣ́сколько *бра́тьевъ*. Онъ приходи́лъ *съ бра́тьями*. *Дере́вья* уже́ въ цвѣту́ (§ 23, 4). *У бра́тьевъ* това́рища очень много *друзе́й*. Около до́ма лежа́ли *дерева́* и *ка́мни* (*каме́нья*). Въ кла́ссѣ мы всегда́ писа́ли каранда́шами, а до́ма *пе́рьями*. *Сту́лья* стоя́ли вокру́гъ стола́. Го́сти сидѣ́ли на дива́нѣ, а мы *на сту́льяхъ*.

3. *Служи́тели* хра́ма стояли впереди́. Гдѣ *служителя́*? Онъ разгова́ри-

валъ *съ служи́телями* хра́ма. Онъ разгова́ривалъ *съ служителя́ми*. Бу́дда и Конфу́ція—*учи́тели* кита́йцевъ, коре́йцевъ и япо́нцевъ. *Учителя́* уже́ въ кла́ссахъ. *Хлѣбы* лежа́ли на столѣ́. *Хлѣба́* уже́ созрѣ́ли. Она о́чень люби́ла *цвѣты́*. *Цвѣта́* шёлка не понра́вились бра́ту.

4. *Зу́бы* у бра́та уже́ испо́ртились, а у отца́ ещё нѣтъ. *Зу́бья* въ гребенкѣ́ слома́лись. *Ко́рни* цвѣто́въ въ саду́ (§ 25, 4) бра́та нача́ли гнить. По́варъ положи́лъ въ супъ *коре́нья* для вку́са. Вчера́ я отпра́вилъ письмо́ бра́ту въ нѣ́сколько *листо́въ*. На дере́вьяхъ уже́ нѣтъ *ли́стьевъ*. Онѣ́ ча́сто писа́ли *мужья́мъ*. *Сыновья́* бра́та уже́ око́нчили учи́лище. *Суда́* стоя́ли у бе́рега. Проповѣ́дникъ говори́лъ *о чудеса́хъ* Іису́са Христа́.

5. Къ дру́гу бра́та вчера́ прі́ѣхали *роди́тели*.

6. Тамъ среди́ *христіа́нъ* о́чень мно́го не то́лько *крестья́нъ* и купцо́въ, но и *дворя́нъ*. Въ по́ѣздѣ мы встрѣ́тили *англича́нъ*. Куда́ ѣ́хали *англича́не*?—Вѣроя́тно, въ Никко. *Горожа́не* по хара́ктеру, нра́вамъ и обы́чаямъ всегда́ и вездѣ́ отлича́лись *отъ крестья́нъ*.

7. *Господа́*! инспе́кторъ проси́лъ не шумѣ́ть *Господа́* ещё не возврати́лись изъ го́рода *Тата́ры* до́лго владѣ́ли *славя́нами*, но наконе́цъ *славя́не* покори́ли *тата́ръ*. *Хозя́ева* о́чень обра́довались гостя́мъ.

8. Гдѣ *котя́та*?—*Котя́та* подъ столо́мъ. *Цыпля́та* бѣ́гали по́ двору.

10. У отца́ уже нѣ́сколько *внуко́въ* и *внуча́тъ*.

11—12. Отца́ очень люби́ли *сосѣ́ди*; онъ ча́сто ходи́лъ *къ сосѣ́дямъ*, и они ча́сто быва́ли у отца: отецъ умѣ́лъ обраща́ться *съ людьми́*. Сколько *челове́къ* въ учи́лищѣ?

13. *Сколько лѣтъ* вы про́жили во Владивосто́кѣ?—Во Владивосто́кѣ я не про́жилъ и *года*, а братъ про́жилъ *нѣсколько лѣтъ*.

14. Сколько *арши́нъ* сукна́ купи́ла она? У отца уже почти́ нѣтъ *воло́съ*. Учитель не спуска́лъ *глазъ* съ ученико́въ. Сколько *разъ* вы были въ Кіото?—(Въ Кіото я былъ) нѣсколько *разъ*. Сколько *каде́тъ* въ ко́рпусѣ? Сколько *солда́тъ* въ полку́ (§ 23, 4)? Я не купи́лъ ни *сапо́гъ*, ни *чуло́къ*: не успѣ́лъ зайти́ въ магази́нъ. Много ли народу (§ 23, 3) было во хра́мѣ?—(Было) о́чень ма́ло: лишь нѣсколько *челове́къ*.

15. Она ожида́ла гостей́, и пригото́вила много *ку́шаньевъ* (=*ку́шаній*). Къ пра́зднику она сши́ла нѣ́сколько *пла́тьевъ*.

17. *Войска́* уже́ возврати́лись въ городъ. *Облака́* висѣ́ли надъ о́зеромъ. Сегодня на не́бѣ совершенно нѣтъ *облако́въ*. Вчера солда́ты съ утра́ до ве́чера стрѣля́ли *изъ ружей́*. Онъ никогда́ не носи́лъ *очко́въ*. У бра́та отъ ревмати́зма очень долго болѣ́ли *плечи*. Братъ отморо́зилъ *у́ши*. *Въ уша́хъ* у отца очень долго слы́шался шумъ. Она ходи́ла на ры́нокъ и купи́ла деся́токъ *яи́цъ*

18. Я забы́лъ *полоте́нца* въ магази́нѣ. *Полоте́нцевъ* она не купи́ла.

20. Ку́да вы ходи́ли вчера́ ве́черомъ?—Ходилъ *въ го́сти* къ сосѣ́ду. Вчера я былъ въ гостя́хъ. Сынъ брата поступи́лъ *въ чино́вники*. Това́рищъ брата по учи́лищу поступи́лъ *въ учителя́* (§ 24, 3). Бра́та сосѣда неда́вно произвели́ *въ офице́ры*, *въ полко́вники*, *въ генера́лы*. Михаи́ла изо́бра́лъ *въ царя́* (=*въ царя*) наро́дъ. Въ воскресе́нье N посвяти́ли *во епи́скопы* (*во епи́скопа*), N *во свяще́нники* (=*во свяще́нника*) и N *во дія́коны* (*во дія́кона*).

§ **26**. До́ма ли сестра́ (=Сестра́ до́ма)?—Дома, она *въ* ко́мнатѣ. Въ до́мѣ сестры́ *мно́го* ко́мнатъ. Въ ко́мнат*ахъ* на столя́хъ горѣ́ли ла́мпы. Куда́ вы поста́вили ла́мпу?—Ламп*у* я поста́вилъ на столъ *подъ* карти́н*ою*(—у). Онъ и́здали замѣ́тилъ жен*у́* и сестр*у́*, сейча́съ же сня́лъ *съ* голов*ы́* шля́п*у* и раскла́нялся. Домъ сестры́ *на* горѣ́, а жены́ *подъ* горо́*ю*. Онъ получи́лъ телегра́мм*у отъ* жены́ и сейча́съ же отпра́вилъ отвѣ́тъ *на* по́чту. Читали ли вы (=Вы чита́ли) сего́дня газе́ты?—(Сего́дня газе́тъ я) ещё не чита́лъ. Ходи́ть *по* гора́м*ъ* тру́дно, но очень поле́зно для здоро́вья. *На лун*ѣ́ есть го́ры, но во́здуха и воды́ нѣ́тъ. Я проси́лъ воды́, а онъ далъ ча́ю (§ 23, 3). Жен*и́* и сёстры уѣ́хали *въ* го́ры *на* воды. Жёны ча́сто писа́ли мужья́мъ. Съ кѣ́мъ жена́ *на* водах*ъ*?—*Съ* сестра́*ми*. Въ учи́лищѣ мы всегда́ сидѣ́ли не на полу́ (§ 23, 5), а *на* па́рта*хъ*. Сколько мину́тъ въ ча́сѣ (§ 23, 4)? Въ продолже́ніе недѣ́л*и* я не былъ *у* сестры́. Онъ уѣ́халъ *въ* го́ры *на* недѣ́л*ю*. Когда́ онъ лечи́лся *въ* гора́*хъ*, онъ иногда́ *по* недѣ́л*ямъ* не пріѣзжа́лъ домо́й. Въ мѣ́сяцѣ сколько недѣ́л*ь* и *въ* недѣ́л*и* сколько дней? *Въ* земл*и́* не мало серебра́ и зо́лота.

§ **27**. Вчера я гуля́лъ въ саду́ (§23, 4) *по* алле́*ямъ* и уби́лъ змѣ́*ю*. Ра́звѣ въ саду́ есть змѣ́*и*?—Въ саду мно́го змѣ́*й*. Хозя́инъ до́ма *по* фами́ли*и*—иностра́нецъ. Фами́ли*ю* хозя́ина я сейча́съ забы́лъ. Были ли вы (=Вы бы́ли) когда-нибудь *въ* Росси*и*?—Нѣ́тъ, *въ* Росси*и* я никогда́ не́ былъ; въ Кита́ѣ и Коре́*ѣ* я до́лго жилъ, но въ Росси*ю* не ѣ́здилъ, хотя́ нѣ́сколько разъ (§ 24, 14) и собира́лся побыва́ть (въ Россіи). Онъ до́лго путеше́ствовалъ *по* Япо́ни*и*. Я пріѣ́халъ *въ* Япо́ни*ю* въ концѣ́ мая. *У* Англи*и* (=у англича́нъ) мно́жество коло́ни*й*. Сынове́й сестры́ жена́ встрѣ́тила *на* ста́нци*и*.

§ **28**. Когда я былъ у сестры́, она чита́ла кни́г*у*. Гдѣ́ бума́г*а* и конве́рты? —Бума́г*у* я положи́лъ *въ* кни́г*у*, а конве́рты *подъ* кни́г*у*. Получи́ли ли вы (=Вы получи́ли) для ученико́въ кни́г*и*?—Получи́лъ я лишь бума́г*у*, пе́рья и каранда́ше́й, но книгъ ещё не получи́лъ. Онъ смотрѣ́лъ *въ* кни́г*у* и писа́лъ *на* доск*и́*. Она взяла́ листъ бума́г*и* и написа́ла письмо́ подру́г*ѣ*. Что вы держа́ли *въ* рука́*хъ*?—(*Въ* рука́*хъ* я) держа́лъ поку́пк*и*. Въ Россіи мно́го рѣ́къ и озёръ а въ Япо́ніи горъ и море́й. Какъ вы переѣ́хали (*че́резъ*) рѣ́к*у*?—Я переѣ́халъ по́ мосту, а онъ *въ* ло́дк*ѣ*. Мы сидѣ́ли на берегу́ (§ 23, 5) рѣ́к*и* и лови́ли ры́б*у*, а онъ ката́лся *въ* ло́дк*ѣ*. *Въ* рѣк*и́* много ры́бы. Онъ поима́лъ лишь нѣ́сколько рыбъ. Въ ко́мнатахъ у сестры́ лѣ́томъ и мух*ъ* и блох*ъ* очень мно́го, а въ кварти́рѣ бра́та почти́ совсѣ́мъ нѣ́тъ.

§ 29. Въ ко́мнатахъ горѣли *свѣчи* и ла́мпы. Погаси́ли ли вы *свѣчу* (=Свѣчу вы погасили)?—Да, погаси́лъ. Она купи́ла деся́токъ я́блокъ и пято́къ грушъ. Гру́ши она раздала́ сыновья́мъ сестры́. Жена́ ещё на да́чѣ. Возврати́лся ли онъ *съ* да́чи? По сосѣ́дству *съ* да́чей ба́бушки ро́ща. *За* ро́щею домъ дѣ́душки. *Въ* ро́щѣ *за* да́чей мно́го грибо́въ и я́годъ.

Учени́ца дочита́ла страни́цу и переда́ла кни́гу учи́тельницѣ. Племя́нница учи́тельницы *съ* ученицами сего́дня у́тромъ гуля́ли о́коло да́чи ба́бушки. Жена́ бра́та *съ* племя́ннищею ходи́ли *въ* ро́щу, но не встрѣ́тили ни учи́тельницъ, ни ученицъ. Гдѣ черни́льница?—Черни́льницу и перо́ я оста́вилъ до́ма. Гдѣ вы останови́лись—*въ* гости́ницѣ или *у* племя́нницы?—Останови́лся *въ* гости́ницѣ, на углу (§ 23, 5) у́лицъ, въ до́мѣ учи́тельницы. Онъ воспи́тывался не до́ма, а *за* границею. На-дня́хъ онъ опя́ть уѣ́халъ *за* грани́цу.

6. Когда вы прі́ѣхали?—(Прі́ѣхалъ) *въ* пя́тницу у́тромъ. Когда вы быва́ли у сестры? —У сестры́ я обыкнове́нно быва́лъ *по* пя́тницамъ. *Въ* четве́ргъ былъ пра́здникъ, и я не ходи́лъ въ учи́лище. Я былъ у отца *въ* воскресе́нье у́тромъ, братъ *въ* понедѣ́льникъ днёмъ, а сестра *во* вто́рникъ ве́черомъ. Ве́черомъ *по* суббо́тамъ въ учи́лищѣ нѣтъ заня́тій. Когда я жилъ за грани́цею, *по* воскресе́ньямъ у́тромъ я обыкнове́нно ходи́лъ въ храмъ, а ве́черомъ быва́лъ у друзе́й и това́рищей.

§ 30, 4. *Ку́ры* бѣ́гали по́ двору. У сестры́ много *куръ*. Я купи́лъ *ку́рицу* и *пѣтуха́*.

5. Вы сдѣ́лали очень много *оши́бокъ*. Жена́ подари́ла племя́нницамъ нѣ́сколько *ку́колъ*. Ножи́ уже на столѣ́, но нѣтъ ещё ни *ло́жекъ*, ни *ви́локъ*, ни *таре́локъ*, ни *салфе́токъ*. Купи́ли ли вы *папиро́съ* и *спи́чекъ*?—*Папиро́съ* купи́лъ, но *спи́чекъ* купи́ть забы́лъ. Около *деревне́й* на поля́хъ мы повсюду встрѣча́ли крестья́нъ и *крестья́нокъ*. Братъ до́лго путеше́ствовалъ и объѣ́халъ много *земе́ль*. У това́рища есть лишь бра́тья, *сестёръ* же нѣтъ. У сестры́ много ма́льчиковъ и ма́ло *дѣ́вочекъ*. Дѣ́вочки игра́ли около *ня́некъ*, а ма́льчики бѣ́гали вдали́. Ско́лько вы заплати́ли за па́ру *лине́екъ*?—Очень дёшево (заплатилъ): лишь нѣ́сколько *копѣ́екъ*. *У хозя́екъ* всегда́ много забо́тъ.

Ско́лько *вёрстъ* отъ Токіо до Іокога́мы? На не́бѣ много *звѣздъ*. Въ кла́ссѣ нѣ́сколько *паръ*.

6. Сестра́ зна́ла мно́го *тысячъ*. Въ до́мѣ бра́та нѣ́сколько *спа́ленъ*.

10. У учи́теля много *дя́дей*, но нѣтъ *тётей*.

§ 31. У отца́ па́ра лопаде́й. На пло́щади было мно́го лопаде́й, но ма́ло покупа́телей. Мы писа́ли *въ* тетра́дяхъ не пе́рьями, а каранда́шами. Учи́тель ещё не испра́вилъ оши́бокъ *въ* тетра́дяхъ учениково́въ. Отчего́ вчера вы не были въ кла́ссѣ?—(Въ классѣ я) не былъ *по* боле́зни. Братъ очень рѣ́дко употребля́лъ соль: соль онъ обыкнове́нно замѣня́лъ сбе́й. Написа́ли ли вы сестрѣ́ *о* сме́рти племя́нника?—*О* боле́зни племя́нника я писа́лъ сестрѣ, но *о*

сме́рти ещё не написалъ. Она пла́кала не *отъ* печа́ли, а *отъ* ра́дости. Онъ затвори́лъ дверь и откры́лъ о́кна. Лѣ́томъ мы ча́сто *по* вечера́мъ и ноча́мъ гуля́ли *по* окре́стностямъ го́рода. У япо́нцевъ въ дома́хъ пече́й нѣтъ. Въ кварти́рѣ сестры́ очень много мыше́й.

§ **32, 1.** Оте́цъ присла́лъ пода́рки *ма́тери, дочеря́мъ* и сыновья́мъ. *У матере́й* всегда забо́та *о дочеря́хъ*. Она приходи́ла *къ ма́тери* лишь *съ до́черью*. *Дочь* приходи́ла *за ма́терью*.

2. Въ воскресе́нье у́тромъ я ходи́лъ *въ це́рковь*. Пре́жде я жилъ ря́домъ *съ це́рковью*. Когда мы въѣзжа́ли въ го́родъ, *въ церква́хъ* звони́ли къ вечёрнѣ. Онъ почти́ всегда́ говори́лъ *ложь*, пра́вду онъ говори́лъ ре́дко. *Во ржи* много травы́. Безъ *любви́* жить невозмо́жно. Отецъ уѣхалъ въ дере́вню *съ* сестро́ю *Любо́вью*.

3. Мы вы́ѣхали въ по́лдень и прі́ѣхали *въ по́лночь*, а они вы́ѣхали по́ полу́дни и прі́ѣхали *о́коло полу́ночи*

4. Я *съ ра́достію* (=радостью) испо́лнилъ поруче́ніе бра́та. Онъ перево́дилъ *съ по́мощію* (=помощью) словаря́.

6. Сапоги́ были *въ грязи́*. Пальто́ было *въ пы́ли*. Шля́па висѣ́ла *на две́ри*. Соба́ка была *на цы́пи*.

7. Сколько *сажене́й* (=са́жень) отъ до́ма до о́зера?—Не особенно много.

9. Онъ подари́лъ игру́шку *ребёнку* бра́та. Она подари́ла игру́шки *де́тямъ* сестры́. Есть ли у бра́та *де́ти*?—Есть. Сколько *дѣте́й* у сестры́? У сестры то́лько ма́льчикъ и дѣ́вочка. Онъ люби́лъ игра́ть *съ дѣтьми́*.

§ **33**. Отчего́ братъ вчера́ не былъ у дя́ди?—Вчера у брата не́ было *вре́мени*: съ утра́ до ве́чера онъ писа́лъ сочине́ніе. Вчера́ я располага́лъ *вре́менемъ*, а сего́дня нѣтъ. Когда́ мы жили въ дере́внѣ, *по временя́мъ* мы чита́ли, *по временя́мъ* писа́ли и *по временя́мъ* рисова́ли. Какъ *имя* това́рища?—*По и́мени* онъ Васи́лій. Учи́тель всегда́ спра́шивалъ ученико́въ *по именя́мъ* и фами́ліямъ

3. Солда́тъ *со зна́менемъ* въ рука́хъ бро́сился въ среди́ну враго́въ. Когда мы прибѣжа́ли на пожа́ръ, домъ уже былъ *въ пла́мени*. На землѣ́ много наро́довъ и *племёнъ*.

4. Я купи́лъ фунтъ *съмя́нъ*. Онъ купи́лъ сѣдло́ *безъ стремя́нъ*.

§ **43**. До́брый оте́цъ подари́лъ сестрѣ́ интере́сную кни́гу. *Въ чи́стыхъ* тетра́дяхъ мы писа́ли стальны́ми пе́рьями. Гри́фельную доску́ она положи́ла въ пи́сьменный столъ. Почто́вая бума́га лежа́ла *въ* пи́сьменномъ столѣ́, а обыкнове́нная *въ* но́вой этаже́ркѣ. Но́вую тетра́дь онъ разрѣ́залъ перочи́нникомъ но́жикомъ (ножо́мъ). Оши́бки ученико́въ онъ исправля́лъ не чёрными, а кра́сными черни́лами. Онъ купи́лъ десть почто́вой бума́ги и дю́жину стальны́хъ пе́рьевъ. Почто́вую ма́рку онъ забы́лъ купи́ть. Родно́й братъ и

двою́родная сестра́ лѣ́то́мъ гости́ли у дя́ди. Въ дере́вню я ѣ́здилъ *съ* двою́родными бра́том*ъ* и родно́*ю* сестро́*ю*. Я ходи́лъ встрѣча́ть на ста́нцію желѣ́зно*й* доро́г*и* родно́*го* бра́т*а* и двою́родну*ю* сестр*у́*. Двою́родные бра́тья, прі́ѣхали *по* желѣ́зно*й* доро́гѣ. Гдѣ вы были лѣ́томъ *въ* про́шло*мъ* год*у* (§ 23, 4)?—*Въ* про́шло*мъ* году́ лѣ́томъ я гости́лъ *у* двою́родна*го* бра́т*а*. Онъ возврати́лся домо́й *въ* про́шло*мъ* мѣ́сяцѣ. *Въ* про́шло*мъ* январ*ѣ* я нѣ́сколько разъ ѣ́здилъ въ дере́вню. *На* про́шло*й* недѣ́лѣ въ сре́ду въ учи́лищѣ не было заня́тій. Онъ обѣща́лъ возврати́ться домо́й *до* но́ва*го* го́да. Но́в*ую* ла́мпу она поста́вила *на* кру́глы*й* столъ *въ* гости́но*й* (въ—ную). *На* про́шло*й* недѣ́лѣ я случа́йно встрѣ́тилъ ста́ра*го* знако́ма*го*. Позва́ли ли вы портно́*го* (=Портного вы позвали)? Ча́сто ли вы получа́ли пи́сьма *отъ* родны́*хъ*? Больно́м*у* бра́т*у* докторъ запрети́лъ встава́ть съ посте́ли. Дя́дя подари́лъ бра́ту золоты́*е* часы́. Оте́цъ *въ* про́шло*мъ* мѣ́сяцѣ купи́лъ но́вы*й* деревя́нны*й* домъ, *съ* желѣ́зно*го* кры́ш*ею*, *на* ка́менно*мъ* фунда́ментѣ. *Въ* ста́ро*мъ* имѣ́ні*и* бра́та *по* пра́в*ую* сто́рон*у*—бы́стра*я*, глубо́ка*я* рѣка́, а *по* лѣ́в*ую*—густо́*й*, ста́ры*й* садъ. Въ дѣ́тствѣ онъ былъ очень симпати́чны*й* ма́льчикъ, стро́йна*го* тѣ́лосложе́нія, *съ* кра́сивы*ми*, то́нки*ми* черта́*ми* лица́, *съ* бѣ́локу́ры*ми* волоса́*ми* и голубы́*ми* глаза́*ми*.

§ 44. Потемнѣ́ло си́нее мо́ре, почернѣ́ли си́ні*я* во́лны. Наступи́ла о́сень, и пти́ч*ки* улетѣ́ли *за* си́ні*я* моря́ *въ* тёпл*ыя* страны́. Я жилъ *въ* ни́жне*мъ* этаж*ѣ́*, вы *въ* сре́дне*мъ*, а онъ *въ* ве́рхне*мъ*. Гдѣ вчера́шні*я* газе́т*ы*?—Газе́ты *въ* кра́сно*мъ* шкафу́ *на* ве́рхне*й* или ни́жне*й* по́лкѣ. Гдѣ носовы́*е* платк*и́*?—Платки́ *въ* чёрно*мъ* комо́дѣ *въ* сре́дне*мъ* я́щикѣ. Сего́днишні*й* уро́къ онъ зналъ, но вчера́шні*й* уже́ забы́лъ. Чита́ли ли вы сего́днишні*я* газе́т*ы*?—Ни сего́днишни*хъ*, ни вчера́шни*хъ* газе́тъ я не чита́лъ: соверше́нно не́ было свобо́дна*го* вре́мени. *Со* вчера́шня*го* дня я не выходи́лъ изъ ко́мнаты. Онъ дочита́лъ после́дню*ю* страни́ц*у* и положи́лъ кни́гу *на* ве́рхню*ю* по́лку. *Въ* лу́нны*я* но́ч*и* мы ча́сто гуля́ли *въ* сосѣ́дне*й* ро́щѣ. *Въ* нынѣ́шне*мъ* году́ были очень си́льны*е* моро́зы. Онъ пріѣха́лъ въ Токіо *съ* у́тренни*мъ* по́ѣздо*мъ*, а *съ* вечёрни*мъ* уже возврати́лся домо́й.

§ 45. Дѣ́ти боя́лись, но и люби́ли стро́га*го* отца́. *Онъ*—Ру́сски*й* и *она*—Ру́сска*я*. Япо́нски*я* кни́г*и* онъ положи́лъ *на* кру́глы*й* столъ, а ру́сски*я* *въ* ни́зки*й* шкафъ. Ру́сски*й* языкъ—очень тру́дны*й* языкъ, не пра́вда ли? Гдѣ и у кого вы учи́лись ру́сско*му* языку́?—(Ру́сско*му* языку́ я) учи́лся въ Токіо *у* ру́сска*го* учи́теля. Господи́нъ N—учи́тель ру́сска*го* языка́. Что вы переводи́ли вчера́ *съ* ру́сска*го* языка́ *на* япо́нски*й*?—Вчера́ я занима́лся перево́домъ не *съ* ру́сска*го* языка́ *на* япо́нски*й*, а *съ* япо́нска*го* *на* ру́сски*й*. Пре́жде мы жи́ли *въ* тѣ́сно*й*, ни́зко*й* и сыро́*й* кварти́рѣ, но неда́вно переѣ́хали *въ* просто́рну*ю*, высо́ку*ю* и сух*ую́*. Теря́ть родны́*хъ* и вообще́ бли́зки*хъ* люде́*й* очень тяжело́. Сегодня ти́ха*я*, я́сна*я* пого́да.

§ 46. Что вы да́ли ни́щему? —(Ни́щему я) далъ кусо́къ свѣ́жа*го* хлѣ́ба

Ста́ршій сынъ сестры́ въ про́шломъ году́ око́нчилъ гимна́зію. Мла́дшая сестра́ еще не возврати́лась отъ двою́родной сестры́. Съ кѣмъ приходи́лъ ста́ршій братъ?—Онъ приходи́лъ съ ста́ршимъ сы́номъ и мла́дшею до́черью. Имѣ́ніе ста́ршаго сы́на на берегу́ больше́й рѣки́, а имѣ́ніе мла́дшаго на берегу́ большо́го о́зера. У́дочкою вчера́ онъ поймалъ очень большу́ю ры́бу. Знако́мые бра́та—хоро́шіе лю́ди. Вчера́ я взялъ очень горя́чую ва́нну. Пѣ́вчія пти́чки уже́ улетѣ́ли.

§ 47, 4. Глу́пому сы́ну отцо́во бога́тство (=бога́тство отца́) не по́мощь. Отцо́въ домъ (=домъ отца) не далеко́ отъ сестри́на (=отъ дома сестры́). Гдѣ сестра́?—Она въ же́ниной ко́мнатѣ (=въ ко́мнатѣ жены́). Же́нино имѣ́ніе вблизи́ отъ дя́дина (имѣ́нія). На кани́кулахъ мы жи́ли въ же́ниномъ имѣ́ніи. Туда́ ча́сто пріѣзжа́ли сестри́ны дѣ́ти. Дя́дины ма́льчики постоя́нно ссо́рились съ сестри́ными дѣ́вочками. Ученико́ву кни́гу (=книгу ученика́) онъ переда́лъ въ учени́ческую библіоте́ку. Офице́ровы (офице́рскія) пальто́ и фура́жка висѣ́ли на вѣ́шалкѣ. Васи́льевъ ве́черъ послѣ́дній ве́черъ въ году́. Онъ обѣща́лъ возврати́ться до Ильина́ дня.

5-6. Госпо́дню моли́тву онъ зналъ наизу́сть еще въ дѣ́тствѣ. Въ дѣ́душкиномъ имѣ́ніи гости́ли бра́тнины и дочернины́ дѣ́ти. Вчера́ она ожида́ла въ го́сти му́жниныхъ родны́хъ (=родны́хъ му́жа).

7. Алекса́ндръ Вели́кій жилъ до рождества́ Христо́ва (=до Р. Х.), а Константи́нъ Вели́кій по рождестви́ Христо́вѣ (=по Р. Х.).

§ 48, 2. Вчера мы ходи́ли къ г. (=господи́ну) Бородину́. Встрѣ́тили ли вы г-жу (госпожу́) Бородину́?—Нѣ́тъ, г-жи́ Бородино́й я не встрѣ́тилъ, но я встрѣ́тился съ г. (=господи́номъ) Бородины́мъ. Вчера́ ве́черомъ у сестры́ были г. г. (=господа́) Бородины́, мужъ и жена́. Мы говори́ли о г. (=господи́нѣ) Бородино́. Въ селѣ́ Бородино́ я никогда́ не былъ. Подъ Бородины́мъ Ру́сскіе сража́лись съ францу́зами.

4. Никола́ево имѣ́ніе не далеко́ отъ го́рода Никола́ева. Я до́лго жилъ въ никола́евомъ имѣ́ніи, но въ го́родѣ Никола́евѣ я никогда́ не былъ. Когда я жилъ въ Петербу́ргѣ, я часто́ быва́лъ на Царицы́номъ лугу́. Въ Царицы́нѣ на-дня́хъ былъ большо́й пожа́ръ.

§ 49, 2. Охо́тничья соба́ка по во́лчьимъ слѣда́мъ отыска́ла волча́тъ. Дѣ́тскія поду́шки изъ пти́чьихъ пе́рьевъ. Лѣ́томъ по утра́мъ я ежедне́вно пилъ по стака́ну коро́вьяго молока́, а сестра́ по стака́ну ко́зьяго. Она купи́ла фунтъ коро́вьяго ма́сла. Предъ дива́номъ на полу́ лежа́ла медвѣ́жья шку́ра.

4. Хлѣ́бъ—даръ Бо́жій. Ма́лые сиро́ты—Бо́жьи (=Бо́жіи) дѣ́ти. Съ Бо́жьей (=Бо́жіей) по́мощью мы пріѣ́хали домо́й благополу́чно.

§ 50. Алекса́ндръ Сергѣ́евичъ Пу́шкинъ былъ вели́кій поэ́тъ. Михаи́лъ Юрьевичъ Ле́рмонтовъ былъ совреме́нникомъ Алекса́ндра Сергѣ́евича Пу́шкина. Неда́вно я познако́мился съ бра́тьями Зинаи́ды Ива́новны Ро́зовой—Никола́емъ

Ива́новичемъ и Бори́сомъ Ива́новичемъ, а Ива́на Ива́новича Ро́зова я ещё не вида́лъ. Сынъ Анны Никола́евны Моско́вской, Дими́трій Влади́міровичъ, жени́лся на дочери Григо́рія Васи́льевича Смоле́нскаго. Ма́рьѣ Григо́рьевнѣ.

Царе́вичъ Пётръ.

По сме́рти пе́рвой супру́ги (своей), Ма́рьи Ильи́нишны Милосла́вской, царь Алексѣ́й Миха́йловичъ жени́лся на Ната́льѣ Кири́лловнѣ Нары́шкиной, ро́дственницѣ боя́рина Артамо́на Сергѣ́евича Матвѣ́ева. Отъ Ма́рьи Ильи́нишны у Алексѣ́я Миха́йловича были сыновья́—Ѳеодоръ и Ива́нъ и нѣ́сколько дочере́й; среди́ дочере́й осо́бенно выдѣля́лась у́мная и честолюби́вая Со́фья Алексѣ́евна. Отъ Ната́льи Кири́лловны былъ сынъ Пётръ. По сме́рти Алексѣ́я Миха́йловича на ца́рскій престо́лъ вступи́лъ ста́ршій братъ—Ѳеодоръ Алексѣ́евичъ. Онъ былъ бездѣ́тнымъ, и (потому́) по сме́рти Ѳеодора Алексѣ́евича на престо́лъ вступи́лъ слѣ́дующій братъ—Ива́нъ Алексѣ́евичъ. Иванъ Алексѣ́евичъ былъ совершенно́ больны́мъ, и (потому) ещё при жи́зни Ива́на Алексѣ́евича поста́вили въ цари́ и мла́дшаго бра́та—царе́вича Петра́ Алексѣ́евича. Царе́вичъ Пётръ Алексѣ́евичъ—впослѣ́дствіи Пётръ Вели́кій, пе́рвый ру́сскій импера́торъ.

§ **51, 5.** Роди́тели това́рища *стро́ги*. Грамма́тика не *дорога́*, да́же *дешева́*, но слова́рь *до́рогъ*. Перо́ *хорошо́*, но черни́ла не *хороши́*. Онъ *правъ*, и *вы пра́вы*, но она не *права́*. Они *бога́ты*, но очень *ску́пы*. По́черкъ това́рища о́чень *краси́въ*. Братъ *молчали́въ*, а сестра́ *разгово́рчива*. Она *вѣ́жлива* и *ла́скова*, а онъ *грубъ* и *суро́въ*. Отецъ *трудолюби́въ*. Мать *бережли́ва*. *Знако́мы* ли *вы съ* сосѣ́домъ?—*Знако́мъ*, неда́вно познако́мился.

7. Не *крѣ́покъ* ли *чай* въ стака́нѣ?—Нѣтъ, не *крѣ́покъ*; напро́тивъ, онъ нѣ́сколько *жи́докъ*. Во́дка *крѣпка́*. Са́харъ *сла́докъ*, у́ксусъ *ки́селъ*, хрѣнъ *го́рекъ*; горчи́ца то́же *горька́*. Лѣ́томъ день *дли́ненъ*, а зимо́ю *коро́токъ*. Домъ отца *высокъ*, а бра́та *ни́зокъ*. Сюрту́къ не *широ́къ*, онъ *у́зокъ*. Коло́дезь, не *глубо́къ*, онъ *ме́локъ*. Сестра *бога́та*, а братъ *бѣ́денъ*. Лѣ́то *жа́рко*, зима́ *холодна́*, а о́сень *и* весна́ *прохла́дны*. Сестра́ *молода́*, *высока́* ро́стомъ и *похо́жа* на отца́; братъ то́же не *старъ*, но онъ *ни́зокъ* ро́стомъ и *похо́жъ* на ма́ть. Онъ *приле́женъ*, а она *лѣни́ва*. Онъ *си́ленъ*, а она *слаба́*. Мать *здоро́ва*, но оте́цъ *бо́ленъ*; *больны́* нѣ́сколько и дѣ́ти. Дѣ́ти си́льно *больны́*, и мать *гру́стна* и *печа́льна*. Онъ *стро́енъ* и *краси́въ*. Ара́бскія ло́шади *стро́йны*. Ребёнокъ сестры всегда́ *тихъ* и *поко́енъ*. Я теперь вполнѣ *споко́енъ*.

§ **52, 1.** Въ Ита́ліи не́бо всегда́ *голубо́е*. Глаза́ у бра́та *ка́ріе*, а у сестры́ *голубы́е*.

2. Жена́ты ли бра́тья това́рища?—Ста́ршій братъ жена́тъ, а мла́дшій еще *хо́лостъ*; то́же и сестры: ста́ршая уже́ за́-мужемъ, а мла́дшая ещё дѣ́вушка. Ножъ *чистъ*, но ви́лка грязна́; салфе́тка тоже не вполнѣ́ чиста́. Островъ очень *гори́стъ* и *камени́стъ*. Столо́вый ножъ *остръ*, но перочи́нный

ножикъ тупъ. Если офицеръ *храбръ*, *храбръ* и солда́тъ; е́сли офице́ръ трусъ, трусъ и солда́тъ. Онъ очень *житръ*, а она проста́.

3. Онъ че́стенъ и трудолюби́въ: онъ *досто́инъ* уваже́нія. Онъ очень *золъ*; она тоже *зла*. Она худоща́ва, а онъ *по́лонъ*. Супъ очень *со́лонъ*.

4. *Большо́й* домъ—домъ *вели́къ*. *Больша́я* ко́мната—ко́мната *велика́*. *Большо́е* окно́—окно́ *велико́*. Домъ *вели́къ*, а ко́мнаты те́сны. Кварти́ра *велика́* и дорога́ для бра́та. Слоны́ *велики́* и си́льны.

5. За́втра я *до́лженъ* е́хать въ дере́вню. Сестра́ *должна́* была́ прие́хать тре́тьяго дня, но еще и сейча́съ не прие́хала. Завтра мы *должны́* встать о́чень ра́но. Не *должны́* ли вы бра́ту?—Да, *до́лженъ*, но не осо́бенно мно́го. Она *должна́* сестре́ не́сколько рубле́й.

6. Онъ очень *живо́й* челове́къ. Онъ еще *живъ*. Онъ занима́лъ пре́жде очень *ви́дную* до́лжность. Ре́ка *видна́* изъ о́оконъ до́ма.

7. Звонъ ко́локола былъ *слы́шенъ* и́здали.

8. *Ра́ды* ли вы, что онъ прие́халъ?—Коне́чно *радъ*; *ра́да* и жена́.

§ **54**, 2—4. Отъ стыда́ онъ сталъ *краснёшенекъ* (=*краснёхонекъ*). Незре́лыя я́блоки *зеленова́ты*, а зре́лыя *желтова́ты*. Онъ о́чень *простова́тъ* и *глупова́тъ*. Бума́га не хороша́: она *сърова́та*. Канаре́йка очень *ма́ленькая* пти́чка; пёрышки у канаре́йки *жёлтенькія*, голо́вка *ма́ленькая* съ *чёрненькими* гла́зками. Ожида́ли госте́й, и дворъ усы́пали *чи́стенькимъ*, *жёлтенькимъ* песо́чкомъ. Когда онъ былъ еще *ма́ленькимъ* ма́льчикомъ, я уже ходи́лъ въ учи́лище. Жена́ бра́та *преу́мная* же́нщина. Дочь сестры́ *преу́мненькая* де́вочка.

§ **59**, 1. Братъ ле́ни́въ, а сестра еще *лѣни́вѣе*. Сестра́ *бо́лѣе лѣни́ва*, че́мъ (не́жели) братъ.=Сестра *лѣни́вѣе*, че́мъ братъ.=Сестра *лѣни́вѣе* брата. Сынъ сестры́, какъ говори́ли учителя́, *са́мый лѣни́вый* и *са́мый сла́бый* учени́къ въ учи́лищѣ. *Са́мые лѣни́вые* ученики́—послѣ́дніе въ кла́ссѣ. Дѣ́тство *са́мая счастли́вая* пора́ въ жи́зни челове́ка. Ле́томъ *здоровѣе* жить въ дере́внѣ, не́жели въ го́родѣ. *Здорови́е* жить въ хоро́шемъ дереня́нномъ домѣ, не́жели въ ка́менномъ. Желѣ́зная доро́га *прямѣе*, не́жели обыкнове́нная. Сосѣ́дъ дяди *о́чень-о́чень скупъ*; *скупѣе* челове́ка (=болѣе скупо́го челове́ка). че́мъ онъ, я еще никогда́ не встрѣча́лъ.

例外 Вы заплати́ли дёшево, а я еще *деше́вле*. Жить въ дере́внѣ *деше́вле*, не́жели въ го́родѣ.

2. Снѣгъ *бѣлѣе* бума́ги (=че́мъ бума́га). Сего́дня *теплѣе*, че́мъ вчера́; сего́дня *са́мый тёплый* день въ ны́нѣшнемъ году́. Ле́томъ *теплѣе всего́* въ іюлѣ, а зимо́ю *холодне́е всего́* въ концѣ́ января́ и въ нача́лѣ февраля́. Ле́томъ *прія́тнѣе всего́* гуля́ть по утра́мъ и вечера́мъ, а зимо́ю днёмъ и осо́бенно въ по́лдень. Осень *прія́тнѣе*, че́мъ зима́. Вчера́ было хо́лодно, а сего́дня еще *холодне́е*. Утро было прекра́сно, а ве́черъ еще *прекра́снѣе*.

Скупо́й бога́чъ *бѣдне́е* ни́щаго. Вчера́шній уро́къ былъ тру́денъ, а сего́дняшній еще *трудне́е*. Учи́тель задава́лъ сего́дня уро́ки *трудне́е* вчера́шняго (=чѣмъ вчера). Онъ *приле́жне́е* сестры́. Сестра́ *са́мая приле́жная* учени́ца; она *са́мая приле́жная изъ всѣхъ* учени́цъ. Желѣзо *наполе́зне́йшій* мета́ллъ. Сплётникъ *вре́дне́е* зме́и. Мясна́я пи́ща *пита́тельне́е* ры́бной. Соба́ка *гора́здо умне́е* ко́шки. Слонъ *умне́йшее* живо́тное. Соба́ка *ве́рне́йшій* другъ челове́ка. Волкъ *сильне́е* лиси́цы, но лиси́ца *хитре́е* волка́; лиси́ца *хитре́йшее* живо́тное Гру́бые посту́пки *бо́лѣе* *свойственны* дикарю́, чѣмъ образо́ванному челове́ку. Оде́сса многолю́дна, Москва́ *многолю́дне́е* Оде́ссы, но Петербу́ргъ *са́мый многолю́дный* (*многолю́дне́йшій*) го́родъ въ Россіи. Москва́ *древне́е* Петербу́рга. Кіевъ, Смоле́нскъ и Но́вгородъ *са́мые дре́вне́йшіе* города́ въ Россіи.

備考 Москва́ въ це́нтрѣ Россіи, Петербу́ргъ *се́вернѣе* Москвы́, Кіевъ и Одесса *южне́е*, Каза́нь *восто́чнѣе*, а Варша́ва *за́паднѣе*. *Са́мый се́верный* городъ въ Россіи—Ко́ла, а *са́мый южный* ру́сскій городъ—*Да́льній* (въ Кита́ѣ).

例外 Евро́па *гора́здо ме́ньше* Азіи. У отца́ де́негъ было́ ма́ло, а у брата еще *ме́ньше*. До́чери раздѣли́ли насле́дство, и *меньша́я* (дочь) получи́ла *ме́ньшую* часть. *Малы́йшій* шумъ раздража́лъ больно́го старика́. Сегодня я всталъ *гора́здо по́зже* (позднѣе), чѣмъ вчера́. Онъ возврати́лся домо́й *пре́жде* сестры́ (=чѣмъ сестра). Вчера онъ засну́лъ *ра́ньше*, чѣмъ тре́тьяго дня. Онъ не то́лько *ста́рше* бра́та, но *ста́рше всѣхъ* дѣте́й въ семе́йствѣ; онъ *са́мый ста́ршій*. Она приходи́ла къ отцу́ со *ста́ршею* до́черью.

3. Оте́цъ *стро́же* ма́тери, а учи́тель *стро́же* и отца. Генера́лъ о́тдалъ во́йску *наистрожа́йшій* прика́зъ. Вы заплати́ли *дете́вле* бра́та, а я *доро́же*. Желѣзо не до́рого, мѣдь *доро́же* желѣза, *гора́здо доро́же* мѣди серебро́ и *всего́ доро́же* зо́лото; зо́лото *са́мый дорого́й* мета́ллъ. *Вино́ кре́пче* пи́ва, а во́дка *кре́пче* и вина́. Вчера было́ жа́рко, а сего́дня еще *жа́рче*. *Са́мые жа́ркіе* дни—въ іюлѣ. Чѣмъ *моро́зные* ночь, тѣмъ звѣзды *я́рче*. Бамбу́къ *несравне́нно ги́бче* сосны́. Вчера ученики́ сидѣли ти́хо, а сего́дня еще *ти́ше*.

例外 Кіевъ *бли́же* къ Москвѣ, не́жели къ Петербу́ргу. Онъ *са́мый ближа́йшій* сосѣдъ отца. Въ *ближа́йшемъ* къ имѣнію лѣсу́ мы часто собира́ли грибы́ и я́годы. Со́лнце *несравне́нно бо́льше* луны́. Рѣчь учи́теля мы слу́шали съ *бо́льшимъ* интере́сомъ. Рѣчь отца мы слу́шали съ *бо́льшимъ* интере́сомъ, не́жели рѣчь бра́та. Волга *велича́йшая* изъ ру́сскихъ рѣкъ. Ниппо́нъ *са́мый большо́й* о́стровъ въ Япо́ніи. Фра́нція велика́, Ге́рманія *бо́льше*, а Россія и Англія *велича́йшія* госуда́рства въ све́тѣ. Дворе́цъ высо́къ, а це́рковь еще *вы́ше*. Въ про́шломъ году́ я поднима́лся на *высоча́йшую* го́ру въ Япо́ніи—на Фу́дзи-яму. Правосла́вный храмъ *вы́ше всѣхъ* зда́ній въ Токіо. Хрѣнъ го́рекъ, а горчи́ца еще *го́рче*(=горчѣе). Онъ *горча́йшій* пья́ница. Озёра глубоки́, а моря́ еще *глу́бже*. Домъ бра́та *да́льше* отъ о́зера, чѣмъ домъ

сестры́. Что же было *да́льше*?—О *да́льнѣйшемъ* онъ не успѣ́лъ разсказа́ть помѣша́ли. *Са́мые жа́ркіе* дни, а также и *самые до́лгіе*—въ ію́нѣ. Пи́во *жи́же*, чѣ́мъ вино́. Я проси́лъ чаю *пожи́же* (=*бо́льше жи́дкаго*), а вы нали́ли о́чень кре́пкаго. Братъ говори́лъ коротко́ и кра́тко, а отецъ еще *коро́че* и *кра́тче*. Весно́ю дни *коро́че*, чѣ́мъ ле́томъ. Чѣ́мъ *до́льше* ночь, тѣ́мъ *коро́че* день. *Должа́йшіе* дни и *кратча́йшія* ночи въ ію́нѣ, а *са́мыя до́лгія* ночи и *са́мые коро́ткіе* дни въ декабре́. Прямо́й ли́нія есть *наикратча́йшее* разстоя́ніе. Ма́сло *ле́гче* воды́. За *легча́йшіе* просту́пки обыкнове́нно и *легча́йшія* наказа́нія. Ручо́й *ме́льче* ре́ки. Здѣсь *са́мое ме́лкое* мѣ́сто. Коро́ва ро́стомъ (=по ро́сту) *пониже* ло́шади, но въ длину́ (=по длинѣ́) не *ме́ньше*, чѣ́мъ ло́шадь. Я быва́лъ у сестры *ре́же*, чѣ́мъ братъ. Онъ присла́лъ родны́мъ изъ-за грани́цы много *ре́дча́йшихъ* вещей. Вы завяза́ли у́зелъ *сла́бже*, чѣ́мъ я проси́лъ. Зре́лые плоды́ вкусне́е и *сла́ще* незре́лыхъ. Но́ги у коро́вы *покоро́че* и *пото́ньше*, чѣ́мъ у ло́шади. Бамбу́къ *несравне́нно то́ньше* сосны́, но *гора́здо кре́пче*, чѣ́мъ она. Онъ написа́лъ письмо́ на *тонча́йшей* япо́нской бума́гѣ. Ручо́й *у́же* и *ме́льче* ре́ки. Пальто́ у́зко, а сюрту́къ еще *у́же*. Нева́ широка́ и глубока́, Днѣпръ *ши́ре* и *глу́бже* Невы́, но *са́мая широ́кая и глубо́кая* ре́ка въ Европе́йской Россіи—Во́лга. Ре́ки *у́же всего́* вблизи́ исто́чниковъ, а *ши́ре всего́* при впаде́ніи въ мо́ре. Ре́ки въ Россіи *гора́здо ши́ре и глу́бже*, чѣ́мъ въ Япо́ніи. Мы до́лго плыли́ по *широчча́йшей* и *глубоча́йшей* ре́кѣ.

4. Утро было свѣжо́, а ве́черъ еще *свѣжѣ́е*. Раскалённое желѣ́зо *несравне́нно горя́чѣе*, чѣ́мъ кипято́къ. Волкъ всегда́ *бо́лѣе тощъ*, чѣ́мъ лиси́ца.

例外 Петербу́ргъ *бо́льше* Москвы́. Во́лга *са́мая больша́я* ре́ка́ въ Евро́пѣ. Повсю́ду *бо́льше* бѣ́дныхъ, не́жели бога́тыхъ. Чѣ́мъ *бо́льше* мы занима́лись, тѣ́мъ *бо́льше* успѣва́ли. Сыновья́ раздѣли́ли насле́дство, и ста́ршій сынъ получи́лъ *бо́льшую* часть. Въ Аме́рикѣ *са́мыя больша́я* (*велича́йшія*) ре́ки и озёра, а въ Азіи *са́мыя высо́кія* (*высоча́йшія*) го́ры. Вчера́ пого́да была́ хороша́, а сегодня ещё *лу́чше*. *Лу́чше* дава́ть, чѣ́мъ проси́ть. Въ сосѣ́днемъ магази́нѣ *са́мый лу́чшій* чай. Общество у́мныхъ и че́стныхъ люде́й *са́мая лу́чшая* шко́ла. Опытъ *наилу́чшій* учи́тель. Бога́тому вездѣ́ хорошо́, а бѣ́дному вездѣ́ пло́хо; только въ ска́зскахъ бѣ́дному и сла́бому *лу́чше*, чѣ́мъ бога́тому и си́льному.

5. 1. Братъ *моло́же* сестры́. Братъ *са́мый молодо́й* въ кла́ссѣ, нѣтъ ученика́ въ кла́ссѣ *помоло́же* бра́та, онъ *моло́же всѣхъ*. *Мла́дшая* сестра́ спосо́бнѣе ста́ршей. Ста́ршій сынъ получи́лъ ме́ньшую часть, а *мла́дшій* бо́льшую. Сталь *те́рже*, не́жели желѣ́зо. Вчера́ вы писа́ли пло́хо, а сегодня еще *ху́же*. Болѣ́зни и бѣ́дность въ ста́рости *ху́же всего́*.

例外 Мла́дшій братъ *худо́е* ста́ршаго. Изъ всѣхъ бра́тьевъ я *самый худо́й*.

2. Го́лубь *бо́лѣе сизъ*, не́жели ди́кая у́тка. Дядя *лысе́е*, чѣ́мъ отецъ.

3. **甲** Аино́сы *несравне́нно борода́тые* япо́нцевъ. Сестра́ *дарови́тѣе* бра́та,

она *са́мая дарови́тая* учени́ца въ кла́ссѣ. Цвѣты́ по́слѣ дождя́ ста́ли *свѣжѣе* и *души́стые*. Се́верная часть Россіи *несравне́нно мѣси́стые*, чѣмъ сре́дняя и осо́бенно ю́жная. По́чва на ни́зменныхъ мѣста́хъ *водяни́стые*, не́жели на возвы́шенныхъ. Япо́нія *гори́стые* и *каменѝстые*, чѣмъ Россія.

Жена́ *гора́здо бога́че* му́жа, но скупе́е, чѣмъ онъ. *Са́мые бога́тые* лю́ди—въ са́мыхъ большѝхъ города́хъ, напр. (=напримѣ́ръ) въ Ло́ндонѣ, Пари́жѣ, Нью-Йо́ркѣ, но тамъ же есть и са́мые бѣ́дные; впро́чемъ и въ деревня́хъ есть *о́чень бога́тые* лю́ди.

Мы съѣзжа́ли по́дъ гору, и становѝлось *кру́че и кру́че*. Ро́ща густа́, а лѣсъ ещё *гу́ще*. Онъ *гора́здо про́ще*, чѣмъ мы ду́мали. Я *то́лще* сестры́, но то́ньше бра́та. Я заходи́лъ къ сестрѣ́ ча́сто, а братъ еще *чаще*. Онъ проси́лъ това́рищей заходи́ть *почаще*. Чѣмъ моро́знѣе ночь, тѣмъ во́здухъ *чи́ще*. Въ коло́дезѣ сосѣ́да *са́мая чи́стая* вода́.

§ **61**. Вчера приходи́лъ *ко мнѣ* сосѣ́дъ; онъ звалъ *меня́ къ тебѣ́*, но *у меня́* не́ было свобо́днаго вре́мени, и *я* отказа́лся идти́ *съ нимъ*; былъ ли *онъ у тебя́*? —Да, *онъ* приходи́лъ *ко мнѣ*, но не засталъ *меня́* до́ма; *я* еще не ходилъ *къ нему́*, но братъ уже былъ *у него́*; они много говори́ли *о тебѣ́* и *обо мнѣ*. Знако́мы ли *вы съ нимъ*?—Знако́мъ, прежде я ча́сто встрѣча́лъ *её* у сестры́; *онъ* подру́ги, и *она* по пра́здникамъ почти́ всегда́ приходи́ла къ сестрѣ́; сестра также иногда́ быва́ла *у нея́*. Отчего́ вчера *вы* не́ были *у насъ*?—Вчера *я* собира́лся *къ вамъ*, но *къ намъ* пріѣ́хали го́сти и задержа́ли *меня́*. До́лго ли *вы* сидѣ́ли *у нихъ*?—Нѣтъ, *я* возврати́лся вско́рѣ *по́слѣ васъ*. Кто *вамъ* ну́женъ? —*Мнѣ* нужны́ *вы*. Ну́женъ ли *ему́* слова́рь?—Нѣтъ, (словарь ему) не ну́женъ, *ему* нужна́ грамма́тика. До́лженъ ли *онъ вамъ*?—Да, (*онъ мнѣ*) немно́го до́лженъ. Были ли вы вчера (=Вчера вы были) *у него́*?—Нѣтъ, (вчера *я у него*) не былъ. Не былъ ли онъ *у васъ* на-дня́хъ? (=*У васъ* на-дня́хъ онъ не былъ?) Да, онъ былъ *у меня́* тре́тьяго дня.

5. Есть ли *у васъ* бра́тья и сёстры?—Братья *у меня* есть, но сестёръ нѣтъ. Нѣтъ ли *у васъ* карандаша́?—Карандаша́ *у меня* нѣтъ. Есть ли *у него* слова́рь?—Словаря́ *у него* нѣтъ, но *у него* есть грамма́тика. Есть ли *у нихъ* но́выя кни́ги? Нѣтъ ли *у нихъ* но́выхъ газе́тъ?—Новыхъ газе́тъ *у нихъ*, вѣроя́тно, нѣтъ, но ста́рыя (газеты *у нихъ*) есть. Былъ ли *у васъ* домъ въ Токіо?—Да, когда я жилъ въ Токіо, *у меня́* былъ домъ. Была ли *у него* соба́ка?—*У него* была краси́вая соба́ка. Были ли *у нихъ* де́ньги?—Нѣтъ, *у нихъ* дѣнегъ не́ было. Не́ было ли *у васъ* пи́семъ для меня́?—Пи́семъ для васъ *у меня* не было. Не было ли *у нихъ* ру́сскихъ книгъ?—Русскихъ книгъ *у нихъ* не было, *у нихъ* были́ то́лько япо́нскія кни́ги.

6. Мо́жно ли *мнѣ* ви́дѣть брата?—Мо́жно, онъ до́ма. Нельзя́ ли *мнѣ* взять домо́й слова́рь?—Нѣтъ, нельзя́: онъ мнѣ́ ну́женъ сего́дня ве́черомъ. Ра́звѣ *вамъ* необходи́мо за́втра ѣ́хать?—Да, *мнѣ* за́втра ну́жно ѣхать. Что *вамъ*

ну́жно?—*Мнѣ* ну́жно посовѣ́товаться съ вами. Занима́ться долго по вечера́мъ *вамъ* вре́дно. *Мнѣ* было очень прія́тно встрѣ́титься съ нимъ.

7. *Мнѣ* хо́лодно. Не жа́рко ли *вамъ*? Ве́село ли *имъ* было тамъ?—*Ему* было ве́село, а *ей* ску́чно. *Мнѣ* о́чень жаль ихъ.

§ **62.** До́ма ли отецъ?—Дома, онъ *у себя́*. Я купи́лъ тетра́ди и *для себя́*, и для васъ. Онъ всегда забо́тился лишь *о себѣ́*. Она очень мно́го говори́ла *о себѣ́*. *Себѣ* она взяла́ я́блоко, а мнѣ да́ла гру́шу. Мы купи́ли *себѣ* но́выя книги. Заказа́ли ли вы *себѣ* но́вое пальто́? Были́ ли у васъ *съ собою* де́ньги? —Нѣ́тъ, *съ собою* де́негъ у меня не́ было. Зва́ли ли они васъ *къ себѣ*?—*Къ себѣ́* не звали, но звали къ отцу́.

§ **63.** *Мой* отецъ и *твоя́* сестра́ теперь, вѣ́роятно, уже въ Москвѣ́. На-дня́хъ *мой* отецъ *и* мать были́ въ гостя́хъ *у твоего́* дя́ди; тамъ они встрѣ́тили *твои́хъ* брата *и* сестру́. Когда *мой* братъ и *твой* учились, *мой* помога́лъ *твоему́*, а *твой моему́*. Учитель никогда́ не нака́зывалъ ни меня́, ни *твоего́* брата; *моего́* брата нака́зывалъ, но очень ре́дко. Здоро́въ ли *вашъ* отецъ?—Отецъ здоро́въ, но *мои́* сёстры не здоро́вы. Въ про́шлое воскресе́нье много говори́ли *у мое́й* сестры *о* васъ и *ва́шей* до́чери. *Нашъ* домъ деревя́нный, а *ва́шъ* ка́менный; кры́ша *на на́шемъ* до́мѣ тоже деревя́нная, а *на ва́шемъ* желѣ́зная. *Вашъ* язы́къ—*вашъ* врагъ. Я былъ у *его́* брата и *ея́* сестры́ въ *ихъ* до́мѣ. Поздра́вили ли вы *моего́* бра́та съ днёмъ *его́* рожде́нія?—Да, я былъ у него́ у́тромъ и поздра́вилъ его и *его* семе́йство. *Твоя* мать пригласи́ла меня́ къ себѣ́; я при́нялъ *ея* приглаше́ніе и поблагодари́лъ её за него́. Съ кѣ́мъ вы стоя́ли и разгова́ривали о́коло до́ма *ва́шей* сестры?—Я разгова́ривалъ съ племя́нникомъ *ея́* му́жа. Какъ только я полу́чилъ *ихъ* телегра́мму, я сейча́съ же увѣ́домилъ *ихъ* родны́хъ. Я былъ у нихъ и видѣ́лъ *ихъ* гостей́. Въ про́шлую суббо́ту я получи́лъ нѣ́сколько пи́семъ отъ *своихъ* родны́хъ. Зна́ли ли вы *свои́* уро́ки?—Я *своего́* уро́ка *не* зналъ, но братъ зналъ *свой*. Гдѣ́ вы были такъ до́лго?—Я сидѣ́лъ въ *свое́й* ко́мнатѣ и писа́лъ пи́сьма *свои́мъ* това́рищамъ. Получи́ла ли она *свои́* ве́щи? Они не позволя́ли *свои́мъ* дѣ́тямъ въ сыру́ю пого́ду выходи́ть изъ ко́мнаты.

§ **64.** *Этотъ* домъ—новъ, а *тотъ*—старъ. *Это*—но́вый домъ, а *то*—ста́рый. *Эти* дома́ велики́, а *тѣ* малы́. *Эти* ко́мнаты больши́я, а *тѣ* ма́лыя. *Это*—большія ко́мнаты, а *то*—ма́лыя. *Это* очень дёшево, и *то* не до́рого. Кто *э́ти* дѣ́ти?—*Эти* дѣ́ти—моей сестры́ (дѣти). *Это*—мое́й сестры́ дѣ́ти, а *то*—сосѣ́да. Учи́тель постоя́нно хвали́лъ *этихъ* ма́льчиковъ. *У этихъ* дѣте́й очень хоро́шая ня́нька. Мои́ мла́дшіе бра́тья знако́мы *съ э́тими* дѣ́тьми́. Встрѣча́ли ли вы пре́жде *э́того* господи́на? *На э́томъ* о́стровѣ ма́ло жи́телей. Они уѣ́хали *на э́тихъ* дняхъ. Онъ обѣща́лъ намъ разсказа́ть *объ э́томъ* впослѣ́дствіи. *Съ того́* вре́мени я бо́льше у нихъ не быва́лъ. Кто приходи́лъ къ намъ вчера́ вечеромъ?—*Это* мои́ това́рищи приходи́ли ко мнѣ́ за кни́гою.

Кто онъ *тако́й*?—Онъ чино́вникъ. Кто она *така́я*?—Она жена́ учи́теля. *Тако́й* домъ для моего́ семе́йства очень вели́къ. *Съ таки́мъ* человѣ́*комъ* я не хотѣ́лъ и знако́миться. *Такихъ* книгъ я не позволя́лъ чита́ть дѣ́тямъ. *Такихъ* до́брыхъ люде́й я еще никогда́ не встрѣча́лъ. *Такихъ* домо́въ, *такихъ* у́лицъ я еще никогда́ не вида́лъ! *Тако́въ* вашъ другъ! *Таковы́*-то ва́ши друзья́! Я нико́гда не ду́малъ, чтобы *онъ былъ тако́въ*.

§ **65**. *Кто* онъ? *Что* э́то? Это—*что* тако́е? *Кто* изъ нихъ ста́ршій? *Кто* изъ нихъ ста́ршая сестра́? *Кото́рый* часъ на вашихъ часа́хъ? Въ *кото́ромъ* часу́ вы возврати́лись домо́й? *Ко́торое* число́ было́ вчера? *Кото́рый* сегодня день?—Сего́дня понедѣ́льникъ. *Како́й* онъ человѣ́къ? *Каковъ* онъ?—Очень симпати́чный человѣ́къ. *Кака́я* она же́нщина? *Какова́* она?—Она симпати́чная же́нщина. *Како́й это* домъ? *Како́й это* господи́нъ спра́шивалъ васъ? *Какая это* кни́га? *Съ како́ю это* же́нщиною говори́ла она? *Каку́ю* кни́гу купи́ли вы? *Въ кото́ромъ* вы кла́ссѣ? *Въ кото́рой* ко́мнатѣ занима́лись вы?—Въ сре́дней ко́мнатѣ (занима́лся я). *Кака́я* сегодня пого́да?—Сегодня пого́да хоро́шая. *Какова́* сегодня пого́да?—Сегодня пого́да хороша́.

Чей э́то домъ? *Чья* это ру́чка? *Чьё* это перо́? *Чьи* эти кни́ги? *Чью* кни́гу чита́ли вы? *Чьи* оши́бки грубѣ́е: его́ или мои́? *Съ чьи́ми* дѣтьми́ игра́ли ва́ши дѣ́ти? *Въ чьёмъ* до́мѣ вы жи́ли пре́жде?

5. *Что* онъ *за* (како́й онъ ノ代リニ) человѣ́къ? *Что* она *за* же́нщина? *Что* они *за* лю́ди? *Что* это *за* домъ? *Что* это *за* книга?

Какъ (=кака́я) ва́ша фами́лія? *Какъ* его имя? *Какъ* (=каковы́) ва́ши дѣла́? *Какъ* ва́ше здоро́вье?

6. Како́й симпати́чный онъ человѣ́къ!

9. *Съ кѣмъ мнѣ было* посовѣ́товаться объ э́томъ?—Вамъ мо́жно было посовѣ́товаться съ мои́мъ отцо́мъ. *О чёмъ ему́ было* говори́ть со мно́ю?—Ему́ мо́жно было́ говори́ть съ ва́ми о свои́хъ дѣла́хъ. *Что ему было* дѣ́лать?—Ему слѣ́довало попроси́ть извине́нія.

§ **66**. **4**. Съ кѣмъ онъ разгова́ривалъ?—Я не вида́лъ, *съ кѣмъ онъ разговаривалъ*. О чемъ она проси́ла?—Онъ не передава́лъ мнѣ, *о чёмъ она проси́ла*. Я не понялъ, *надъ кѣмъ онъ смѣя́лся*. Онъ не хотѣ́лъ сказа́ть, *что онъ предполага́лъ дѣ́лать*. Онъ не говори́лъ, *кто лу́чше учи́лся: вы или вашъ братъ*. Я забылъ, *въ кото́ромъ году́ случи́лось э́то*. Я не зналъ, *кака́я сего́дня пого́да*, и собира́лся идти́ гуля́ть. Онъ узна́лъ, *каку́ю она купи́ла кни́гу*. Я слы́шалъ, *чей онъ другъ*. Я не разсмотрѣ́лъ, *съ чьи́ми дѣтьми́ игра́ли ва́ши дѣ́ти*. Мы узна́ли, *ско́лько они заплати́ли за домъ*.

5-6. *Тотъ* сча́стливъ, *кто ма́лымъ дово́ленъ* (=Малымъ дово́льный счастливъ). *Кто вспы́льчивъ, тотъ* не злопа́мятенъ (=Вспыльчивый не злопа́мятенъ.) Онъ подари́лъ книгу *тому́, кто бо́льше всѣхъ стара́лся*. *Что вы положи́ли*

въ столъ, то и лежа́ло. Онъ купи́лъ *то, что предполага́лъ купи́ть.* Это и́менно тотъ мой това́рищъ, *о кото́ромъ я говори́лъ вамъ на-дня́хъ.* Мой дя́дя, *съ кото́рымъ вы познако́мились за-грани́цею,* неда́вно присла́лъ мнѣ письмо́. Это—та кни́га, *кото́рую подари́лъ мнѣ мой братъ.* Она приходи́ла за кни́гою, *въ кото́рой есть карти́нки.* Домъ, *въ кото́ромъ мы жили въ про́шломъ году́,* неда́вно сгоре́лъ. Въ до́мѣ, *изъ кото́раго они перее́хали тре́тьяго дня,* вчера ночью случи́лся пожа́ръ. У васъ такой же слова́рь, *какой и у меня.* У него много таки́хъ книгъ, *каки́хъ нѣтъ ни у васъ, ни у меня́.* *Каковы́ роди́тели,* таковы́ и де́ти. Ученики таковы́, *каковы́ учителя́.*

7. Мой сосѣдъ, съ жено́ю *кото́раго* на этихъ дняхъ познако́милась ва́ша сестра, опа́сно бо́ленъ Вчера приходи́лъ ко мнѣ япо́нецъ, въ до́мѣ *кото́раго* я жилъ въ про́шломъ году́. Онъ всегда́ остана́вливался лишь въ тѣхъ гости́ницахъ, помѣще́нія *въ кото́рыхъ* удо́бны.

§ 67, 3 Я уже прочита́лъ *всю* э́ту кни́гу. *Всѣ* ли ученики́ въ кла́ссѣ? *Всѣ* такъ ду́мали. Про э́то слы́шалъ не то́лько я, но *всѣ* моё семе́йство слы́шало; *всѣ* мы слы́шали. Учи́тель спроси́лъ сего́дня *всѣхъ* ученико́въ. *Со всѣ́ми* ли вы здѣсь знако́мы?—Я знако́мъ то́лько съ ва́шимъ бра́томъ, *со всѣ́ми* други́ми я не встрѣча́лся пре́жде. Мы е́хали *всю* (=це́лую) ночь. Я ждалъ васъ *весь* (це́лый) день, съ утра́ до ве́чера. Онъ вы́пилъ *весь* (це́лый) стаканъ. *Всё* замѣча́тельное—ре́дко. *Всё* моё—твоё и *все* твоё—моё. *Всему́* э́тому онъ сра́зу пове́рилъ. *Всё* было ти́хо: *всѣ* уже спа́ли. *Бо́лье всего́* онъ люби́лъ мла́дшую дочь. Мой братъ *прилѣ́жные всѣхъ* свои́хъ това́рищей. *Изъ всѣхъ бра́тьевъ* онъ *са́мый* симпати́чный.

4-5. Въ на́шемъ учи́лищѣ есть *всякіе* учени́ки: и приле́жные и лѣни́вые. Онъ *всякій* день—и въ дурну́ю, и въ хорошую пого́ду ходи́лъ въ учи́лище. Она *ка́ждый* день, доже въ воскресе́нье, ходи́ла въ шко́лу. *Всякій* (ка́ждый) въ го́родѣ зналъ его. *У всяка́го* (=у ка́ждаго) челове́ка есть свои́ недоста́тки и сла́бости. Онъ *всякому* слу́ху легко́ вѣ́рилъ. Фра́нція бога́че, чѣмъ *всякая* друга́я страна́ въ Евро́пѣ. *У ка́ждаго* челове́ка есть свои́ забо́ты. *У ка́ждаго* изъ мои́хъ това́рищей есть э́та кни́га. Въ томъ до́мѣ пре́жде жи́ли ученики́, и *у ка́ждаго* изъ нихъ была́ своя́ ко́мната. Когда́ прогу́ливались мы, онъ загля́дывалъ *во всякія* две́ри и *въ ка́ждыя* воро́та.

6. *Самъ Богъ* наказа́лъ его́. *Са́ми отцы́* и *мать* встрѣ́тили его. *Я и самъ* не здоро́въ. *У меня́ самого́* сейча́съ нѣтъ ни конѣ́йки. *Самого́ его* я не ви́дѣлъ. Онъ всегда́ забо́тился лишь *о само́мъ себѣ́,* а она ча́сто забыва́ла *само́ё себя́.* *Они са́ми* еще не слы́шали объ э́томъ.

7. Мой домъ *на са́момъ* берегу́ мо́ря, а да́ча *на са́момъ* верху́ горы́. Эту *са́мую* кни́гу я рекомендова́лъ вамъ. *Въ э́томъ са́момъ* до́мѣ когда́-то жилъ и я. *Са́мый* городъ не очень великъ, но жи́телей въ немъ дово́льно мно́го. Я прі́ѣхалъ въ Токіо *въ* тотъ *са́мый* день, когда́ (=въ кото́рый) было́ землетрясе́ніе.

Я встрѣти́лъ сегодня того́ *са́мого* господи́на, съ кото́рымъ ѣха́лъ на парохо́дѣ. Онъ *са́мый бога́тый* человѣкъ въ на́шемъ го́родѣ.

§ **68**, I. *Оди́нъ* говори́лъ *одно́*, *другóй другóе*; кто изъ нихъ правъ, кто винова́тъ, понять тру́дно. *Одни́* говорили *одно*, *други́е другóе*. *У одного́* челове́ка *одни́* привы́чки, *у другóго други́я*. Заня́тія въ на́шемъ учи́лищѣ еще не начали́сь: *одни́* ученики́ больны́, *други́е* еще не пріѣ́хали. У всѣхъ ли ученико́въ есть э́та книга?—*У одни́хъ* ученико́въ она есть, *у други́хъ* ея нѣтъ. *Съ одни́ми* ученика́ми онъ обраща́лся вѣ́жливо, *съ други́ми* гру́бо. *Однихъ* ученико́въ онъ спра́шивалъ ча́сто, а *други́хъ* рѣ́дко. *Одни́хъ* учени́цъ она всегда́ хвали́ла, а *други́хъ* почти́ никогда́ (не хвали́ла).

Сего́дня въ саду́ были *одни́* дѣ́ти, взро́слыхъ совершѣ́нно не́ было. Я встрѣ́тилъ *одни́хъ лишь* дѣте́й. У мое́й сестры дѣти—*одни́* ма́льчики, дѣ́вочекъ нѣтъ. Она приходи́ла ко мнѣ *съ одни́ми только* дѣ́вочками.

Э́ти дома́ *одного́ и того́ же* хозя́ина. Онъ всегда́ говори́лъ лишь *объ одно́мъ и томъ же*. Для че́стнаго человѣ́ка сло́во дать и испо́лнить его—*одно́ и то же*. Мы учи́лись *по одни́мъ и тѣмъ же* кни́гамъ. *Мно́гое* въ его разска́зѣ совершѣ́нно не вѣроя́тно. Онъ говори́лъ мно́го и *о мно́гомъ*. *Во мно́гомъ* я не согла́сенъ съ вами. Отъ него́ я научи́лся *мно́гому*. Въ моёмъ семе́йствѣ *мно́гіе* боя́лись грозы. Въ этомъ го́родѣ онъ знако́мъ *со мно́гими*.

II. Былъ ли *кто-нибу́дь* безъ меня́?—Да, *кто́-то* былъ, но кто и́менно, я не ви́дѣлъ. Оста́лся ли *кто-нибудь* дома?—Вѣроя́тно, *кто-нибудь* оста́лся: или братъ, или сестра́. Далъ ли онъ *что́-нибудь* ни́щимъ?—Да, *что-то* далъ. Не поручи́лъ ли онъ вамъ *чего-нибудь* переда́ть мнѣ?—Да, у меня́ для васъ *что-то* есть отъ него́, *кака́я-то* посы́лка. Они говори́ли *о како́мъ-то* Г-нѣ Петро́вѣ, но кто онъ тако́й, я не по́нялъ. Сегодня приходи́ла къ намъ *кака́я-то* незнако́мая же́нщина, она *о чёмъ-то* проси́ла отца́. При круше́ніи э́того по́ѣзда мно́жество пассажи́ровъ погибло, то́лько *ко́е-кому* удало́сь спасти́сь. Когда вы ѣ́здили въ Кіото, вѣроя́тно, вы навѣсти́ли всѣхъ свои́хъ знако́мыхъ?—Нѣтъ, не всѣхъ, но *ко́е-у-кого́* (=у нѣ́которыхъ) былъ; *ко́е-къ-кому́* (=къ нѣ́которымъ) необходи́мо было зайти́. *Ко́е-о-чёмъ* мнѣ необходи́мо поговори́ть съ вами.

Нѣ́которыя мѣ́ста́ въ Японіи очарова́тельны. *На нѣ́которыхъ* верши́нахъ горъ вѣ́чный снѣгъ. Я принялся за э́то дѣ́ло *съ нѣ́которою* ро́бостью. *Въ нѣ́которомъ* ца́рствѣ, *въ нѣ́которомъ* государствѣ жилъ бы́лъ N.—обы́чное нача́ло ру́сскихъ ска́зокъ.

§ **69**. Они съ неда́вняго вре́мени переста́ли быва́ть *другъ у дру́га*, а пре́жде они́ ежедне́вно ходи́ли *другъ къ дру́гу* (=*одинъ къ друго́му*). Они не зна́ли о чёмъ имъ говорить *другъ съ дру́гомъ* (=*одному́ съ други́мъ*). Они очень довольны *другъ дру́гомъ* (=*одинъ други́мъ*). Сёстры очень люби́ли *одна другу́ю* (=*другъ дру́га*). Бра́тья постоя́нно ссо́рились *одинъ съ други́мъ* (=*другъ съ*

другóмъ). Вы напрáсно замѣни́ли эти слова́ *одно́ други́мъ* (=одно́ слово други́мъ сло́вомъ). Онъ положи́лъ кни́ги *одну́ на одну́* (=одну́ кни́гу на другу́ю).

§ **70. 1.** Кто до́ма?—До́ма, кро́мѣ меня́, *никого́* нѣтъ. Онъ *никому́* изъ насъ не говорилъ объ э́томъ. Вчера у меня *никого́* не́ было, и я самъ *ни у кого́* не былъ. Она *ни къ кому́* не ходи́ла, и къ ней *никто́* не ходи́лъ. Встрѣ́тились ли вы съ кѣмъ-нибудь доро́гою?—Нѣтъ, я *ни съ кѣмъ* не встрѣ́тился, *Ничто́* не но́во подъ луно́ю—ру́сская посло́вица. Объ э́томъ *никто́* изъ насъ ничего́ не слыха́лъ. Онъ *ни съ кѣмъ* не хотѣ́лъ ви́дѣться, потому́ что *ни о чёмъ* не хотѣ́лъ говори́ть. Не ну́жно ли вамъ чего́-нибудь?—Нѣтъ, мнѣ *ничего́* не ну́жно. Онъ никогда́ не надѣ́ялся *ни на чью* по́мощь. Я зналъ одного́ челове́ка: *ничьему́* го́рю онъ не сочу́вствовалъ, *ничьи́мъ* несча́стіемъ онъ не трогался, *ни на чьи́* про́сьбы и слёзы онъ не обраща́лъ *никако́го* внима́нія. Дѣти мое́й сестры *ни съ чьи́ми* дѣтьми́ не были́ дружны. Съ кото́рымъ изъ братьевъ вы дру́жны—со ста́ршимъ или мла́дшимъ?—*Ни съ кото́рымъ* (=*ни съ кѣмъ*=*ни съ одни́мъ*) изъ нихъ я не дру́женъ. Въ Токіо на нѣ́которыхъ (=на однѣ́хъ) у́лицахъ электри́ческое освѣще́ніе, а на нѣ́которыхъ (=на другихъ) (и таки́хъ большинство́) нѣтъ *никако́го*. Сего́дня у насъ не́ было *никаки́хъ* заня́тій. Въ э́той рѣкѣ́ нѣтъ *никако́й* ры́бы. *Ни въ одно́мъ* го́родѣ въ Япо́ніи нѣтъ та́кого мно́жества хра́мовъ, какъ въ Кіото. У него много сестёръ, но нѣтъ *ни одного́* брата. Въ этомъ го́родѣ у нея нѣтъ *ни одно́й* знако́мой. *Ни у одного́* ученика́ нѣтъ тако́го пра́вильнаго произноше́нія, какъ у ва́шего бра́та.

§ **71.** *Ско́лько* челове́къ въ ва́шемъ кла́ссѣ? *Сколько* вамъ *лѣтъ*? *Сколько лѣтъ* вашъ братъ про́жилъ въ Сиби́ри?—Онъ въ Сиби́ри не про́жилъ и го́да.—Онъ прожилъ въ Сибири *нѣсколько лѣтъ*. Онъ проси́лъ меня́ одолжи́ть ему *нѣсколько* рубле́й, а у меня́ было съ собою лишь *нѣсколько* копѣ́екъ. *Съ нѣсколькими* рубля́ми я прожилъ цѣ́лый мѣ́сяцъ. *Нѣсколькимъ* ни́щимъ она дала́ хлѣ́ба и *нѣсколькимъ* де́негъ. *Ско́лько* у васъ ру́сскихъ книгъ?—Русскихъ книгъ у меня *сто́лько*, *ско́лько* и у васъ. *Ско́лько* у тебя́ каранда́шей и пе́рьевъ?—Пе́рьевъ у меня *столько*, *сколько* у тебя, но каранда́шей у меня́ гора́здо ме́ньше. Онъ раздѣли́лъ всѣ́ свои́ де́ньги ме́жду *сто́лькими* ни́щими, *сколько* (нищихъ) встрѣ́тилъ; ка́ждому досталось по нѣ́скольку копѣ́екъ.

§ **76, 1.** Ско́лько книгъ вы купи́ли?—Предполага́лъ купи́ть нѣ́сколько (книгъ), а купи́лъ то́лько *одну* (кни́гу). Ско́лько у васъ часо́въ?—*У* меня́ *одни́* (часы́) стѣнные и *одни́* карма́нные.

2. У меня́ *два* каранда́ша и *три* ру́чки. Онъ купилъ *двѣ* кни́ги: *одну* япо́нскую и *одну́* ру́сскую. У челове́ка *два* гла́за, *два* у́ха и *одинъ* ротъ; *два* гла́за и *два* у́ха, что́бы бо́льше ви́дѣть и слы́шать, а *одинъ* ротъ, что́бы ме́ньше говори́ть. Въ мѣ́сяцѣ *четыре* недѣ́ли, а въ недѣ́лѣ *семь* дней. Часте́й свѣ́та *пять*: Евро́па, Азія, Аме́рика, Африка и Австра́лія. Она держа́ла

ла́мпу *двумя́* рука́ми. Онъ приходи́лъ къ намъ *съ тремя́* дѣтьми́. *Четырёмъ* рабо́чимъ онъ заплати́лъ де́ньги, а *шести́* обѣща́лъ заплати́ть на-дняхъ.

備考 1. Въ Россіи столи́цъ *двѣ* (=*двѣ* столи́цы): Москва́ и Петербу́ргъ; въ Япо́ніи то́же *двѣ*: Токіо и Кіото. Стра́нъ све́та *четы́ре* (=*четы́ре* страны́ све́та): восто́къ, за́падъ, се́веръ и югъ. Вчера я купилъ: ру́чекъ—*одну́* (*одну* ру́чку), пе́рьевъ—*два* (*два* пера́), карандаше́й—*три* (*три* карандаша́) и гри́фелей—*четы́ре* (*четыре* гри́феля).

2. Больша́я ли у васъ родня́?—У меня́, кро́мѣ отца́ и ма́тери, *пять* бра́тьевъ—*два* ста́ршихъ (=старшіе) и *три* мла́дшихъ (=мла́дшіе) и *двѣ* сестры́—*одна́* ста́ршая и *одна́* мла́дшая; старшій братъ уже давно́ жена́тъ; у него́ *во́семь челове́къ* дѣте́й: *пять* ма́льчиковъ и *три* дѣ́вочки; *четы́ре* другі́ихъ (=другіе) бра́та еще не жена́ты (=холосты́е); ста́ршая сестра́ за́-мужемъ; у нея *три* ребёнка: старшіе *два*—ма́льчики, мла́дшій (ребёнокъ)—дѣ́вочка; мла́дшая моя сестра еще не за́-мужемъ (=дѣ́вушка). У моего́ сосѣда *три* ка́менныхъ (=ка́менные) до́ма и 16 деревя́нныхъ. Въ году́ 12-ть мѣ́сяцевъ.

3. Въ январѣ́ 31 (=три́дцать *одинъ*) день, въ апрѣ́лѣ 30 дней, а въ февралѣ́ то́лько 28. Отъ Токіо до Іокогамы по желѣ́зной доро́гѣ 18 миль. Отъ э́той дере́вни до го́рода 45 вёрстъ, а до сосѣ́дней дере́вни 21 (=два́дцать *одна́*) верста́. Я заня́лъ у васъ 75 рубле́й; уплати́лъ я вамъ 50 и, слѣд. (=слѣ́дова-тельно), оста́лся я до́лженъ вамъ 25. За э́ти пи́сьменныя принадле́жности мы заплати́ли 6 рубле́й 94 копѣ́йки. Въ Петербу́ргѣ на Невѣ́ и на кана́лахъ 182 моста́: 39 ка́менныхъ, 21 желѣ́зный, 108 деревя́нныхъ и 14 на суда́хъ. Въ Москвѣ́, въ ру́сскомъ Кіото, 262 це́ркви и 17 монастыре́й. Отъ Петербу́рга до Москвы́ 609 вёрстъ, а отъ Москвы́ до Кіева 804.

4. На́ши взяли въ плѣнъ *двухъ* офице́ровъ и *два́дцать два* солда́та. Вчера́ учи́тель спроси́лъ то́лько четырёхъ ученико́въ, а сего́дня весь классъ—всѣхъ 34 ученика́.

5. Прежде онъ получа́лъ 200 рубле́й въ мѣсяцъ. *Въ* 200 (=*двухъ-стахъ*) рубле́й ско́лько копѣ́екъ? Постро́йка э́того дома сто́ила около 24,000 (двадцати́ четырёхъ ты́сячъ) рубле́й. Она недавно получи́ла наслѣ́дство въ 24,000 (=два́дцать четы́ре ты́сячи) рубле́й. Въ сраже́ніи при Бородинѣ́ ру́сская а́рмія состоя́ла изъ 120,000 (=ста двадцати́ ты́сячъ) *челове́къ*, а у Наполео́на было́ болѣе 180,000 (ста восьми́десяти ты́сячъ) *солда́тъ*. Въ ми́рное время во́йско въ Россіи—до 950 ты́сячъ *челове́къ* при 4,500 ору́дій и 350 тысячъ лошаде́й, а въ вое́нное—до 4-хъ милліо́новъ *челове́къ* при 6,000 ору́дій и 600,000 лошаде́й. Въ нача́лѣ ца́рствованія Екатери́ны Вели́кой въ Россіи было 14 милліо́новъ жи́телей, а въ настоя́щее время о́коло 140 милліо́новъ.

備考 Петербу́ргъ лежи́тъ отъ Москвы́ *въ шести́ стахъ* верста́хъ.

7. *Двумъ* ни́щимъ онъ далъ *по шести́* копѣ́екъ, трёмъ *по три* (копѣ́йки),

четырёмъ *по двѣ* (копѣйки) и пяти *по одной* (копѣйкѣ). У человѣка на каждой рукѣ и ногѣ *по пяти* пальцевъ. Въ началѣ своей службы онъ получалъ жалованья *по сту* рублей въ мѣсяцъ. Онъ высылалъ своему семейству *по сту* рублей въ мѣсяцъ. Вотъ счётъ изъ лавки: 2 ф. (=фунта) чаю *по* 2 руб. (=рубля) за фунтъ—4 рубля, 10 ф. сахару *по* 12 коп. (=копѣекъ) за фунтъ—1 руб. 20 коп., 8 ф. кофе *по* 51 коп.—4 руб. 8 коп., 5 бутылокъ вина *по* 65 коп. за бутылку—3 руб. 25 к., 12 бут. пива *по* 11 коп.—1 руб. 32 к., и того—13 руб. 85 коп.

8. У моей сестры пять *человѣкъ* дѣтей. Много ли народу (а) было тамъ?—Было мало (народу): мужчинъ—восемь *человѣкъ*, женщинъ—12 *человѣкъ* и 5 *человѣкъ* дѣтей; всего—25 человѣкъ. Сколько въ вашемъ имѣніи скота?—Лошадей—12 *головъ*, а коровъ болѣе 50-ти *штукъ* (=головъ). Онъ подарилъ въ нашу библіотеку болѣе 50-ти *экземпляровъ* книгъ. Для подарковъ роднымъ и знакомымъ она купила 12-ть *кусковъ* шёлку и 15-ть *кусковъ* полотна.

9. Сестра жила въ Россіи только *одинъ годъ*, я жилъ *три года*, а братъ *пять лѣтъ*. Онъ учился русскому языку *шесть лѣтъ*. Этотъ ребёнокъ началъ ходить очень поздно—*послѣ трёхъ лѣтъ* отъ рожденія. Въ начальномъ училищѣ онъ учился *два года*, въ гимназіи *восемь лѣтъ* и въ университетѣ *четыре года*, всего 14 *лѣтъ*. Братъ старше меня *на* 2 *года* и моложе сестры *на* 5 *лѣтъ*. Я былъ въ Хакодате 5 *лѣтъ* тому назадъ.

10. *Три* квартиры въ нижнемъ этажѣ очень дороги, а *пять* квартиръ въ верхнемъ (этажѣ) дёшевы.

Кто приходилъ къ вамъ?—Ко мнѣ приходили *три* мои товарища. *Сколько* товарищей приходило къ вамъ?—Ко мнѣ приходило *три* моихъ товарища. *Два* старшихъ (=старшіе) брата уѣхали, а *два* младшихъ (=младшіе) остались дома.

Что сгорѣло въ прошлую ночь?—Въ прошлую ночь сгорѣли *пять* домовъ и три магазина. *Сколько* домовъ и магазиновъ сгорѣло въ прошлую ночь?—Въ прошлую ночь сгорѣло *пять* домовъ и три магазина.

§ 78. Воскресенье—*первый* день недѣли, понедѣльникъ—*второй*, а суббота—*седьмой*. Январь *первый* мѣсяцъ въ году, мартъ *третій*, а декабрь *двѣнадцатый*. Въ которомъ вы классѣ?—Я *во второмъ* классѣ, старшій мой братъ *въ третьемъ*, а младшій *въ первомъ*. *Въ первомъ* классѣ онъ былъ годъ, а *во второмъ* и *третьемъ* по два года. Онъ опять остался *на второй* годъ. Мы пріѣхали *на третій* день, а они лишь *на пятый*. Какой вашъ адресъ?—Мой адресъ: улица такая-то, *третій* кварталъ, домъ N (=номеръ) 54-*ый*, квартира N (=номеръ) 6-*ой*. *Въ третьемъ* году я квартировалъ вблизи: въ домѣ N 57-*ой*. Теперь *двадцатое* столѣтіе. Теперь 1901-*ый* годъ. *Первый* годъ царствованія "Мейдзи" есть 1868-*ой* годъ по европейскому счисленію. Я родился *въ* 11-*омъ* году царствованія "Мейдзи," т. е. (=то есть) *въ* 1878-*омъ*

году. Онъ пробылъ въ Россіи семь лѣтъ: *съ* 1891-*го по* 1897-*ой* включительно. Зима́ *въ* 1812-*омъ* году́ была́ очень холодна́.

§ **79**. 1. Вашъ братъ *пе́рвый учени́къ* въ классѣ, а мой *четвёртый*. *Пе́рвые ученики́* получи́ли награ́ды. Сего́дня учи́тель спроси́лъ *пе́рвыхъ* трёхъ *учениковъ* и двухъ *послѣднихъ*. Этотъ чай *первѣйшаго* сбо́ра. Его сестра́ 13-*ая* ученица, а ваша самая послѣдняя—48-*ая*.

2. Импера́торъ Никола́й II (=*Второ́й*)—сынъ Импера́тора Алекса́ндра III (=*Тре́тьяго*), внукъ Императора Алекса́ндра II и пра́внукъ Импера́тора Никола́я I (*Пе́рваго*).

§ **80**, **2**. Кото́рое сего́дня число́?—Сего́дня *пе́рвое* число́, *второ́е* число́, *тре́тье* число, 15-*ое* чи́сло, 21-*ое* число, 30-*ое* число, сегодня послѣднее число въ э́томъ мѣсяцѣ. Въ про́шлую пя́тницу было́ 11-*ое* число́, слѣд., сего́дня, во вто́рникъ, 15-*ое* число́. Сегодня *первое* января́, *второ́е* февраля́, *тре́тье* ма́рта, 14-*ое* апрѣля, 28-*ое* іюня. *Пе́рвый* день въ году́ есть *пе́рвое* января́, а послѣдній день въ году—31-*ое* декабря́. 30-*ое* а́вгуста было въ понедѣльникъ, слѣд., вчера—въ пятницу, было 3-*ье* сентября́. 3-*ье* ноября́—день рожде́нія Япо́нскаго Импера́тора: э́тотъ же день есть день возше́ствія на престо́лъ Ру́сскаго Импера́тора.

4. Когда онъ пріѣхалъ?—Онъ пріѣхалъ 1-*го* числа́, 2-*го* числа́, 3-*го* числа́. Онъ пріѣхалъ 1-*го* января́, 10-*го* октября́, 20-*го* ноября́. Онъ роди́лся 2-*го* января́ 1868-*го* го́да, жени́лся 27-*го* мая 1893-*го* года и овдовѣлъ 15-*го* декабря́ 1897-*го* года. Петръ Вели́кій вступи́лъ на престо́лъ 27-*го* апрѣля 1682-*го* го́да и скончался 8-*го* февраля́ 1725-*го* года.

6. С. Петербургъ. 1901-*го* года, Апрѣля 4-*го* дня. Москва. 9-*го* Мая 1901-*го* года. Москва. 1901-го года, 9-го Ма́я.

7. 12-*ый* (1812-й) *годъ* замѣча́теленъ вторже́ніемъ въ Россію 20-ти наро́довъ подъ предводи́тельствомъ Наполео́на. *Въ* 55-*омъ* (1855) *году́* Россія одновре́менно воева́ла съ четырьмя́ госуда́рствами: Ту́рціей, Англіей, Фра́нціей и Ита́ліей. *Въ* 78 (1878-омъ) *году́* ру́сскіе войска́ стоя́ли у са́маго Константинополя.

8. Пу́шкинъ у́меръ *въ тридца́тыхъ годахъ* про́шлаго столѣтія, а Тургене́въ *въ восьмидеся́тыхъ*.

9. Оте́чественная война́ была въ нача́лѣ XIX-*го* столѣтія. Ру́сскіе приняли христіа́нство *въ* IX-*омъ* вѣкѣ. Бу́дда жилъ, вѣроя́тно, *въ* V вѣкѣ до Р. Х. (=до рождества́ Христо́ва). Эта война́ была *въ* XIV столѣтіи по Р. Х. (=по рождествѣ́ Христо́вѣ).

§ **81**. Ско́лько *ему* лѣтъ?—*Ему* 10-*ть* лѣтъ, 21 годъ, 22 года, 38 лѣтъ. Сколько лѣтъ ва́шимъ дѣ́тямъ?—Ста́ршему пять лѣтъ и три мѣсяца, а мла́дшему только *два* года. Моему́ отцу́ 62 года, ма́тери 57 лѣтъ, ста́ршему брату 34 года, мла́дшему 21 годъ, а мнѣ 28 лѣтъ.

Сколькихъ лѣтъ *вы* поступи́ли въ учи́лище (=Сколькихъ лѣтъ вы бы́ли, когда поступили въ учи́лище)?—Въ нача́льное училище я поступилъ 8-*ми* лѣтъ (=когда я былъ 8-ми лѣтъ), въ гимна́зію 10-*ти* лѣтъ, въ университе́тъ 18-*ти* лѣтъ; университе́тъ я око́нчилъ 22-*хъ* лѣтъ.

Кото́рый *ему* годъ?—*Ему* пе́рвый годъ, второ́й годъ, деся́тый годъ, 30-*ый* годъ. Ста́ршему моему́ брату 34-*ый* годъ, а мла́дшему 26-*ой*. Моему́ отцу́ 63-*ій* годъ, а ма́тери 56-*ой*.

§ **83, 3** *Оба* мои́хъ (=мои́) бра́та и *о́бѣ* мои́хъ сестры́ (=мои́ сёстры) учи́лись хорото́. *Оба* брата сидѣ́ли въ классѣ ря́домъ; *у обо́ихъ* кни́ги и тетра́ди всегда́ были́ въ поря́дкѣ; това́рищи *къ обо́имъ* относи́лись съ уваже́ніемъ; учителя́ *обо́ими* были дово́льны и всегда́ *про обо́ихъ* отзыва́лись съ похвало́ю. *Обѣ* сестры были одина́коваго ро́ста; *у обы́хъ* были тёмные во́лосы; *обы́хъ* люби́ли подру́ги; *на обы́хъ* почти́ всегда были одина́ковыя платья. Го́сти сидѣ́ли *по о́бѣ* сто́роны (=*по* обѣ́имъ сторона́мъ) хозя́йки.

4. У моего́ брата *пя́теро* дѣте́й: *дво́е* ма́льчиковъ и три дѣвочки. *Изъ трои́хъ* (=изъ трёхъ человѣ́къ) бра́тьевъ я са́мый мла́дшій. *Се́меро* (=семь человѣ́къ) ученико́въ еще не прі́ѣхали (=не прі́ѣхало), а *тро́е* больны́. *Трои́мъ* дѣ́тямъ онъ подари́лъ игру́шки, а *четверы́мъ* кни́ги. На каждой па́ртѣ сидѣ́ло (=сидѣ́ли) *по пя́теро* ученико́въ. *Дво́е* часовъ. Два часа́. У меня́ *тро́е* часо́въ: одни́ стѣ́нные и *дво́е* карма́нныхъ. Въ этомъ до́мѣ *дво́е* воро́тъ. Въ той ко́мнатѣ *двѣ* две́ри. *За дво́е* но́жницъ она заплати́ла одинъ рубль. Этотъ до́брый человѣ́къ воспита́лъ *пятеры́хъ* сиро́тъ (=пять мальчиковъ), а его жена́ шесть человѣ́къ сиро́тъ (ма́льчиковъ или дѣ́вочекъ).

§ **84, 2–5**. Онъ разрѣ́залъ я́блоко на́двѣ ча́сти и одну́ *полови́ну* далъ мнѣ, а другу́ю взялъ себѣ́. Цѣ́лое бо́льше *полови́ны*, *полови́на* бо́льше *тре́ти*, а *треть* бо́льше *че́тверти*. *Че́тверть* ме́ньше *тре́ти*, а *три че́тверти* бо́льше *двухъ трете́й*. *Въ че́тверти* ча́са 15-ть мину́тъ, *въ полови́нѣ* 30 мину́тъ и *въ трёхъ четвертя́хъ* 45 мину́тъ. Я купилъ два *съ полови́ною* фу́нта чаю, пять *съ че́твертью* фу́нтовъ са́хару и 10 *и три че́тверти* фу́нтовъ со́ли. 22½ (двадцать двѣ *съ полови́ною*) версты́ мы ѣ́хали два съ полови́ною часа. Зимо́ю у насъ ка́ждый урокъ продолжа́лся *по́ три че́тверти* часа, т. е. по ча́су *безъ че́тверти*. Я просидѣ́лъ у нихъ о́коло двухъ *съ че́твертью* часо́въ, а онъ почти́ три *и три че́тверти* часа. Цѣна́ за арши́нъ этого сукна́ отъ четырёхъ *и три че́тверти* до пяти́ *съ полови́ною* рубле́й.

8–12. За три че́тверти фу́нта ча́ю я заплати́лъ *полтора́* рубля́. Я еще не заплатилъ въ ла́вку *полу́тора* рубля́ (=*полу́торыхъ* рублей). Отъ моего́ до́ма до мо́ря *полторы́* версты́. Нѣтъ ли у васъ *полу́тора* рубля (=*полу́торыхъ* рублей)? Въ пе́рвые *полтора́* го́да онъ прилѣ́жно занима́лся. На-дняхъ я послалъ ма́тери *полтора́ста* рубле́й. За ло́шадь онъ заплати́лъ не мѣ́нѣе

полу́тораста рубле́й. Петербу́ргъ въ тече́ніе *полу́тораста* лѣтъ сдѣлался одно́ю изъ прекра́снѣйшихъ столи́цъ въ Евро́пѣ.

§ **85.** $\frac{1}{10}$ рубля—гри́венникъ, а $\frac{1}{100}$ рубля—копѣ́йка. Что бо́льше: $\frac{1}{10}$ или $\frac{10}{100}$ рубля́? Су́ша занима́етъ $\frac{1}{3}$ часть или, точне́е, $\frac{27}{100}$ поверхности земно́го ша́ра; остальны́я $\frac{2}{3}$ ча́сти или, точне́е, $\frac{73}{100}$ покры́ты водо́ю. Владѣ́нія Россійской импе́ріи обнима́ютъ болѣе $\frac{1}{12}$ ча́сти земно́го шара и о́коло $\frac{1}{6}$ ча́сти пове́рхности су́ши.

§ **86.** Когда́ въ Петербу́ргѣ ро́вно по́лдень, или 12 часо́въ дня, тогда́ въ Москвѣ́ полови́на пе́рваго, въ Варша́вѣ 22 мину́ты 12-го, въ Ло́ндонѣ безъ $2\frac{1}{2}$ (двухъ съ полови́ною) мину́тъ де́сять, въ Пари́жѣ 9 минутъ оди́ннадцатаго, въ Ри́мѣ безъ 10 мину́тъ оди́ннадцать, въ Каза́ни $\frac{1}{4}$ (че́тверть) второ́го, въ Берли́нѣ безъ пяти́ мину́тъ де́сять, въ Брю́сселѣ $\frac{1}{4}$ оди́ннадцатаго, въ Нью-Іо́ркѣ $\frac{3}{4}$ (три че́тверти) шесто́го утра́, въ Не́рчинскѣ $\frac{3}{4}$ шесто́го ве́чера и въ Токіо 7 часовъ 21 мину́та ве́чера.

§ **99.** Онъ всегда́ стара́лся *быть* ве́жливымъ и любе́знымъ со все́ми Онъ стара́лся *быть* послу́шнымъ сы́номъ и приме́рнымъ ученико́мъ. Труднѣе *быть* справедли́вымъ по отноше́нію къ себѣ́ и свои́мъ бли́зкимъ, чѣмъ по отноше́нію къ чужи́мъ. Онъ хоте́лъ *быть* чино́вникомъ, а поступи́лъ въ учителя́.

Завтра, вѣроя́тно, *бу́детъ* хоро́шая пого́да.—Нѣтъ, за́втра *бу́детъ* нехоро́шая пого́да; завтра, вѣроя́тно, *буде́тъ* дождь или сне́гъ. *Бу́дете ли* вы сегодня вечеромъ дома?—Да, *бу́ду*. *Я бу́ду* у ва́шего брата завтра; *бу́дете ли* вы у него́?—Если вы *бу́дете*, *бу́ду* и я. *Бу́дутъ ли* у васъ сегодня го́сти?—Нѣтъ, гости сегодня у меня *не бу́дутъ* (гостей *не будетъ*). Когда́ онъ *бу́детъ* въ учи́лищѣ, у него́ *будутъ* хоро́шіе това́рищи. Когда́ онъ *будетъ* въ училищѣ, онъ *будетъ* трудолюби́въ. Она никогда *не бу́детъ* счастли́ва. Онъ *бу́детъ* бережли́въ, а она расточи́тельна. Когда́ онъ *будетъ* нача́льникомъ, онъ *бу́детъ* строгъ, но справедли́въ. *Не будете* ли вы добры́ переда́ть это письмо брату? Мо́жно ли мнѣ взять вашъ слова́рь?—Нѣтъ, нельзя́; онъ мнѣ ну́женъ *будетъ* сегодня вечеромъ. Пока́ *бу́дутъ* лю́ди, до тѣхъ поръ *бу́дутъ* и поро́ки. Одинъ сынъ его *будетъ* офице́ромъ, а друго́й учи́телемъ. Если вы, господа́, *будете* трудолюби́вы, то со-вре́менемъ *будете* поле́зными людьми́.

Я *былъ бы* у васъ, е́сли бы пого́да *была́* хороша́. Если бы она *была́* скромна́, её всѣ любили бы. Оте́цъ *былъ бы* споко́енъ, если бы до́кторъ сказа́лъ, что мать не серьёзно больна́. У него *были бы* де́ньги, е́сли бы онъ бо́льше трудился. Я *былъ бы* неблагода́ренъ, если бы не испо́лнилъ его про́сьбы. Если бы вы *были* у бра́та, *былъ бы* и я. Если бы вы *были* добры, васъ всѣ любили бы. Онъ приказа́лъ, *что́бы* у́тромъ я *былъ* здѣсь. О если бы онъ *былъ* счастли́въ!

Со всѣми *будь* добръ и съ ка́ждымъ *будь* ве́жливъ. *Бу́дьте* такъ добры́.

Будьте такъ любе́зны. *Будь* добръ переда́ть мнѣ ту книгу. *Будь* любе́зенъ сказа́ть бра́ту, что я нездоро́въ и сего́дня не бу́ду у него́.

Бу́дьте такъ добры́: побу́дьте у насъ еще немно́го. "*Пусть бу́дутъ* мои́ дѣти бѣдны, но че́стны," всегда́ говори́лъ мой оте́цъ. *Побу́дьте* здѣсь еще немного. *Будемъ* (будемте), господа́, стро́ги къ себѣ́ и снисходи́тельны къ други́мъ.

Этотъ господи́нъ—*бы́вшій* дире́кторъ на́шего учи́лища. Онъ обѣща́лъ возврати́ться *въ бу́дущемъ* году. *На бу́дущее* время бу́дьте аккура́тнѣе.

Бы́вши въ дере́внѣ, я ра́но встава́лъ. *Бу́дучи* въ го́родѣ, я завѣси́лъ всѣхъ свои́хъ знако́мыхъ.

§ 104, 1, 1. Что сейча́съ дѣла́*ютъ* ваши бра́тья?—Сейча́съ они, вѣроя́тно, ничего́ не дѣ́ла*ютъ*. До́брый челове́къ даже и врага́мъ не дѣ́лает*ъ* зла. Не пра́вда ли: вы не сдѣ́лае*те* э́того? Бу́дьте добры́: сдѣ́лай*те* мнѣ это одолже́ніе. Пожа́луйста, сдѣла́й*те* это такъ, какъ я проси́лъ васъ. Всё сдѣ́лан*ное* вами (=все то, что вами сдѣ́лано=все то, что вы сдѣ́лали) хорошо́. Не жела́*ете* ли вы ещё стака́нъ ча́ю?—Да, пожа́луйста. Не жела́*ете* ли со мно́ю пообѣ́дать? Если да, я буду очень радъ. Жела́й себѣ́ не сча́стія, а побо́льше ума́. Не жела́й*те* друго́му того, чего́ себѣ́ не жела́*ете*. Пожела́*емте* ему́ счастли́ваго пути и до́браго здоро́вья. Зна́*ете* ли вы свои уро́ки?—Онъ зна*етъ* свой (урокъ), а я еще не зна́*ю*. Ме́нѣе всего́ мы зна́*емъ* сами́хъ себя́. Призна́й*тесь*: это вы сдѣ́ла*ли* (=вы ли это сдѣ́лали)?—Да, это я сдѣ́лалъ; призна́*юсь*. Сча́стіе для челове́ка на землѣ́ начина́*ется* только тогда́, когда онъ, позабы́въ о себѣ́, начина́е*тъ* жить для други́хъ. Мой братъ уже начина́е*тъ* говори́тъ по-ру́сски. Въ кото́ромъ часу́ у васъ начина́*ется* первый урокъ? Въ которомъ часу́ вы у́жина*ете*? Всѣ япо́нцы у́жина*ютъ* очень рано. Съ не́которыми господами, у́жинав*шими* (=кото́рые у́жинали) у васъ вчера, я пре́жде не́ былъ знако́мъ. Если вы еще не у́жинали, поу́жина*емте* вмѣ́стѣ. Гдѣ игра́*ютъ* дѣ́ти? Сегодня очень сы́ро: *пусть* дѣ́ти игра́*ютъ* въ ко́мнатахъ, а не на дворѣ́. Игра́*ете* ли вы на фисъ-гармо́ніи?—Я игра́*ю* и на фисъ-гармо́ніи и на скри́пкѣ. Сыгра́й*те* намъ что-нибудь—Съ большо́имъ удово́льствіемъ; что вы жела́*ете*? Въ новогодніе пра́здники япо́нцы обыкнове́нно игра́*ютъ* въ ка́рты. Стара́е*тся* ли онъ занима́ться? Пожа́луйста, постара́й*тесь* око́нчить эту рабо́ту къ концу́ недѣ́ли. Отъ чумы́ челове́къ умира*етъ* очень ско́ро. Съ разборомъ выбира́й*те* друзе́й.

2. До́кторъ еще не позволя́е*тъ* бра́ту встава́ть съ посте́ли. Братъ былъ очень бо́ленъ, но теперь уже поправля́*ется*. Часто ли вы гуля́*ете*?—Обыкнове́нно я гуля́*ю* у́тромъ и ве́черомъ, но если погода дождли́вая, я не гуля́*ю*. Удивля́*юсь*, что отца до сихъ поръ еще нѣтъ. Утромъ солда́ты стрѣля́*ли* изъ ружье́й, а теперь стрѣля́*ютъ* изъ пу́шекъ. Всегда́ ли онъ объясня́е*тъ* вамъ но́вый урокъ?—Почти всегда́. Отчего́ вы стѣсня́*етесь* говори́ть по-русски?—

Стѣсня́юсь потому, что у меня произноше́ніе не осо́бенно хорошо́. Пожа́луйста, не стѣсня́йтесь у насъ; бу́дьте у насъ, какъ до́ма (=какъ у себя). Вамъ кла́няется моя́ мать. Пожа́луйста, кла́няйтесь отъ меня́ всѣмъ ва́шимъ родны́мъ. Си́ній цвѣтъ ско́ро линя́етъ. Ради Бо́га, не потеря́йте моего́ письма́: оно очень ва́жное. Не теря́я напра́сно вре́мени, вы скорѣе должны отвѣча́ть на его письмо́. Потеря́нное (=то, что поте́ряно) не легко́ найти́. Довѣря́ете ли вы ему?—Вполнѣ́ довѣря́ю: онъ человѣ́къ надёжный.

3. У ка́ждаго человѣ́ка быва́етъ и горе и ра́дость. Черни́ла быва́ютъ чёрныя, кра́сныя и си́нія. Въ концѣ́ о́сени на се́верѣ Япо́ніи ча́сто быва́ютъ тума́ны, а иногда́ и бу́ри. Въ Сиби́ри ежего́дно быва́ютъ такіе моро́зы, каки́хъ въ Япо́ніи никогда́ не быва́етъ. Ча́сто ли вы быва́ете у свои́хъ?—Быва́ло не осо́бенно ча́сто: у меня́ ма́ло свобо́днаго вре́мени. Онъ ско́ро запомина́етъ но́вое, но скоро и забыва́етъ: па́мять у него слаба́. Гдѣ бы вы ни были, не забыва́йте родны́хъ, осо́бенно бѣ́дныхъ. Какъ это называ́ется по-ру́сски? Не зна́ете ли вы: какъ называ́ется вотъ тотъ парохо́дъ? Онъ воспи́тывался дома, а братъ его за грани́цею. Онъ бу́детъ воспи́тывать своихъ дѣте́й въ Аме́рикѣ. Зачѣ́мъ вы скрыва́ете это отъ меня?—Скрыва́ло потому́, что меня́ проси́ли никому́ не говори́ть объ э́томъ. Что вы перепи́сываете?—Перепи́сываю своё сочине́ніе. Что вы спи́сываете съ э́той кни́ги?—Спи́сываю стихотворе́ніе. Васъ кто-то спра́шиваетъ. Кто это разгова́риваетъ съ ва́шею ма́терью? Господа́, во вре́мя уро́ковъ не разгова́ривайте! Какъ пожива́ютъ ваши дома́шніе?—Сла́ва Богу, у насъ всѣ здоро́вы; а вы какъ пожива́ете? Плоды́ уже созрѣва́ютъ. Неуже́ли вы сомнѣва́етесь въ его че́стности?—Если сказа́ть пра́вду, сомнѣва́лось. Обува́йтесь и одѣва́йтесь скорѣе; сейчасъ будутъ го́сти.

4. Онъ очень много помога́етъ своимъ родны́мъ. Если вы бу́дете помога́ть други́мъ, то и дру́гіе *будутъ* помога́ть вамъ. Что вы предполага́ете дѣ́лать на кани́кулахъ?—Кани́кулы я предполага́ю прове́сти въ гора́хъ, дѣ́лать ничего́ не *буду*, *буду* отдыха́ть. Располага́ете ли вы сегодня свобо́днымъ вре́менемъ?—Да, располага́ю. Соба́ка привыка́етъ къ челове́ку, а ко́шка къ до́му. Онъ послѣ обѣ́да постоя́нно отдыха́етъ.

Его всѣ уважа́ютъ, а жену его почти никто́ (не уважа́етъ). Когда вы уѣзжа́ете въ дере́вню?—Уѣзжа́ю завтра.—А когда возвраща́етесь?—Буду наза́дъ въ концѣ́ этого мѣ́сяца, не ра́ньше. У него постоя́нно го́сти: одни́ уѣзжа́ютъ, другіе пріѣзжа́ютъ. Продолжа́йте чита́ть: я слу́шаю. Слуша́йте со внима́ніемъ: это очень ва́жное пра́вило. Ча́сто ли вы получа́ете пи́сьма отъ свои́хъ родныхъ? Получа́ю дово́льно ча́сто, почти́ ка́ждую недѣ́лю. Ско́лько вы получа́ете содержа́нія (=жа́лованья)? Мой отецъ приглаша́етъ васъ къ себѣ́ въ дере́вню. Господа́! не разгова́ривайте: вы мѣша́ете други́мъ слу́шать. Я не *буду* вамъ мѣша́ть: не обраща́я на меня́ внима́нія, продолжа́йте свою́

рабо́ту, а я въ это вре́мя *буду* чита́ть разе́ты. До́кторъ всё еще запреща́етъ бра́ту встава́ть съ посте́ли. Хотя вы и отрица́ете, но я хорошо́ зна́ю, что это сдѣ́лалъ онъ (=что это сдѣ́лано имъ).

О чёмъ вы ду́маете? Что вы дума́ете объ э́томъ? Сперва́ поду́майте, а пото́мъ уже сдѣ́лайте. Вы ошиба́етесь!—Увѣ́ряю васъ я не ошиба́юсь Чему́ вы улыба́етесь? Гдѣ вы покупа́ете чай?—Покупа́ю въ сосѣ́днемъ магази́нѣ. Не покупа́йте э́той ло́шади: она очень стара́. Понима́ете ли вы меня́?—Понима́ю, но не вполнѣ́: ру́сскимъ языко́мъ я занима́лось не бо́лѣе го́да, и мно́гихъ са́мыхъ обыкнове́нныхъ словъ еще не зна́ю Чѣмъ вы занима́етесь?—Занима́юсь ру́сскимъ языко́мъ. Этотъ господи́нъ у ка́ждаго занима́етъ де́ньги, но рѣ́дко кому́ возвраща́етъ. Я еще до сихъ поръ принима́ю лека́рство. Дѣти! скорѣе поднима́йтесь, одѣва́йтесь, умыва́йтесь и принима́йтесь за кни́ги.

Гдѣ вы сего́дня обѣ́даете (=*бу́дете* обѣ́дать)?—Сего́дня я обѣ́даю у знако́мыхъ, а завтра *буду* обѣ́дать до́ма. Не пообѣ́даете ли вы завтра со мно́ю? Ожида́йте сего́дня къ себѣ́ гостей: къ вамъ собира́ются придти́ мой дя́дя и сестра́. Глу́пый осужда́етъ, а у́мный разсужда́етъ. Онъ всегда опа́здываетъ, вѣроя́тно, и на этотъ разъ опозда́етъ. Мой ребёнокъ уже по́лзаетъ, че́резъ не́сколько мѣ́сяцевъ, ду́маю, *будетъ* ходи́ть. Это дѣ́ло меня не каса́ется. Что каса́ется меня́, я вполнѣ́ дово́ленъ этою пое́здкою. Бу́дьте осторо́жны: эта соба́ка куса́ется. Соба́ки куса́ются, а ко́шки цара́паются Что вы чита́ете?—Чита́ю сочине́нія Пу́шкина. Чита́емую вами книгу (=книгу, которую вы чита́ете) когда́ то чита́лъ и я. Проче́итанныя мною книги (=кни́ги, которыя я прочита́лъ) я уже возвати́лъ въ библіоте́ку. Всё ли вы понима́ете, что чита́ете?—Къ сожале́нію, не все (понима́ю).

Япо́нцы по-преиму́ществу пита́ются ри́сомъ и о́вощами и ма́ло употребля́ютъ въ пи́щу мя́со и ры́бу.

5. Онъ серьёзно бо́ленъ: онъ все болѣе и болѣе худѣетъ и блѣднѣетъ; ему необходи́мо скорѣе обрати́ться къ до́ктору. Прежде она была очень худа́, но теперь полнѣетъ. Наступа́етъ весна, и трава́ уже зеленѣетъ Наступа́етъ осень, и ли́стья на дере́вьяхъ уже желтѣ́ютъ и осыпа́ются.

6. Весно́ю со́лнце грѣ́етъ не такъ си́льно, какъ лѣ́томъ. Если камъ хо́лодно, обогрѣ́йтесь у камина́ Хлѣба́ скоро созрѣ́ютъ, по мѣста́мъ уже созрѣ́ли. Есть ли огонь въ хибаци?—Есть, но лишь едва́ тлѣетъ Какъ вы смѣ́ете говори́ть это!?

7. Онъ имѣ́етъ обыкнове́ніе занима́ться по вечера́мъ. На-дняхъ я *буду* имѣ́ть удово́льствіе ви́дѣть ва́шего отца́. Имѣ́йте терпѣ́ніе: всё будетъ сдѣ́лано въ своё вре́мя. Имѣ́ю честь увѣ́домить васъ, что вашъ братъ живъ и здоровъ. Умѣ́ете ли вы играть на скри́пкѣ? Умѣ́ю, но пло́хо. Сумѣ́ете ли вы сдѣ́лать это?—Ду́маю, что су́мѣю. Европе́йцы не умѣ́ютъ ѣсть

па́лочками, а япо́нцы ви́лкою и ножо́мъ. Что это видне́*ется* вдали́? Его всѣ жале́*ютъ*: онъ очень несча́стный челове́къ. Сожале́*ю*, что меня не́ было до́ма, когда вы приходи́ли. Ваша сестра́ бу́детъ одна или съ му́жемъ?—Разуме́*ется*, съ му́жемъ.

8. Сего́дня съ са́маго утра́ ве́теръ *ду́етъ* съ се́вера; за́втра, вѣроя́тно, бу́детъ хоро́шая пого́да.

§ 104, II, 1. Са́харъ та́*етъ* во рту́. Соба́ка ла́*етъ*, а ко́шка мяу́каетъ. На кого ла́*ютъ* соба́ки? Не всѣ собаки куса́ются, кото́рыя ла́*ютъ* (=Не́ всѣ ла́ющія собаки куса́ются). Крестья́не уже́ се́*ютъ* пшени́цу. На кого вы надѣ́*етесь*?—Я надѣ́*юсь* на г. (господи́на) N. На него́ не надѣ́*йтесь*: онъ почти́ никогда́ не исполня́етъ свои́хъ обѣща́ній. *Бу́демте* надѣ́*яться* не на други́хъ, а не сами́хъ себя́. Здоро́вые постоя́нно смѣ́*ются* надъ боле́знями други́хъ. Смѣ́*ющійся* (*тотъ, кто́* смѣ́*ется*) надъ други́ми, самъ часто быва́етъ смѣшёнъ. Если не желаешь, что́бы надъ тобою смѣя́*лись*, самъ не смѣ́*йся* надъ други́ми. Не *бу́демъ* смѣя́*ться* надъ други́ми.

2. Я *дам* вамъ не дурно́й, а до́брый сове́тъ. Онъ да́*етъ* уро́ки му́зыки. Дава́*йте* сюда скоре́е. Вы продае́*те* свой домъ или отдае́*те* въ наймы́ (=въ наёмъ)?—И не продаю́, и не отдаю́ въ наймы́; слухъ объ этомъ соверше́нно не вѣ́ренъ. Това́ры, продава́*емые* (кото́рые продаю́*тся*) въ э́томъ магази́нѣ, хороши́, но очень до́роги. Пожа́луйста, никому́ не передава́*йте* э́того на́шего разгово́ра. Передава́*я* (=*когда* передавалъ) мнѣ эту кни́гу, онъ уси́ленно проси́лъ меня́ бере́чь её. Ку́шанья узна́*ются* по вку́су. *Узна́ете* ли вы меня́? Мы когда-то встрѣча́лись.—Да, *узна́ю*: вы такъ ма́ло измѣни́лись. *Узна́ете* ли вы его? Онъ очень мно́го измѣни́лся.—Ду́маю, что *узна́ло*. Онъ еще не *призна́ется*, но, разуме́ется, пото́мъ *призна́ется*. Пожа́луйста, разузнава́*йте* объ этомъ у всѣхъ свои́хъ знако́мыхъ.—Хорошо́, *буду* разузнава́*ть* у всѣхъ, но разузна́*ю* или нѣтъ, не обѣща́ю. Въ которомъ часу́ вы вста́*ете*? Зимо́ю я вста́*ю* по́зже, чѣмъ лѣ́томъ. Вста́*вайте* скоре́е: уже́ по́здно. Онъ сла́баго здоро́вья: проработа́вши нѣ́сколько часовъ, онъ всегда́ уста́*етъ*. Сколько теперь у васъ оста́*ется* денегъ?—Оста́*ется* немно́го. Онъ ка́ждый годъ оста́*ется* на повтори́тельный курсъ. Де́ньги пересчита́йте еще разъ: мнѣ ду́мается, что здѣсь не доста́*стъ* нѣ́сколькихъ копѣ́екъ.

3. Какъ вы чу́вству*ете* себя́ сего́дня? Сегодня чу́вству*ю* себя́ гора́здо лу́чше, чѣмъ пре́жде. Что сове́ту*етъ* вамъ до́кторъ? Онъ сове́ту*етъ* мнѣ, какъ мо́жно скоре́е уѣ́хать въ дере́вню и и́менно—куда-нибу́дь на бе́регъ мо́ря. Что вы посовѣ́ту*ете* мнѣ въ э́томъ дѣ́лѣ?—Къ сожале́нію, я ничего́ не въ состоя́ніи *посовѣ́товать* вамъ. Въ этой ла́вкѣ всегда́ запра́шиваютъ; сове́ту*ю* торгова́ться. Умѣ́ете ли вы *рисова́ть*?—Да, я рису́*ю*, но не осо́бенно хоро́шо.—Непра́вда, вы рису*ете* очень хорошо́; я ви́дѣлъ карти́ну, нарисо́ва*нную* ва́ми (=которую вы нарисова́ли): очень хорошо нарисо́вана. Здра́ству*йте*! Какъ

ваше здоро́вье? Рекоменду́ю вамъ моего́ са́маго лу́чшаго дру́га. На-дняхъ я читалъ рекомендо́ванную вами (=которую вы рекомендова́ли) книгу. Я воспо́льзуюсь э́тимъ ва́шимъ сове́томъ. По́льзуясь удо́бнымъ слу́чаемъ, посыла́ю вамъ кни́гу, кото́рую вы проси́ли у меня́. Сле́дуйте хоро́шимъ приме́рамъ, а не дурны́мъ. Вамъ сле́дуетъ посове́товаться объ э́томъ дѣлѣ съ свои́мъ отцо́мъ. Онъ предполага́етъ возврати́ться въ сле́дующемъ году́. Онъ уе́халъ на сле́дующій день послѣ по́хоронъ отца. На кого́ вы жа́луетесь?—Я жа́луюсь на това́рища N.—Не жа́луйтесь на него́: вы са́ми винова́ты. Танцу́етъ ли ва́ша сестра́?—Да, танцу́етъ. Въ Евро́пѣ почти́ всѣ дѣ́вушки танцу́ютъ. Не тре́буйте уваже́нія, а стара́йтесь заслужи́ть его́. Гдѣ вы сего́дня ночу́ете: въ Іокога́мѣ или возвраща́етесь въ Токіо?—Я ночу́ю здѣсь, въ гости́ницѣ. Успѣ́хи дѣте́й всегда́ ра́дуютъ роди́телей. Чему́ вы ра́дуетесь? Я раду́юсь (тому), что всё око́нчилось благополу́чно. Чужо́му го́рю, да́же своего́ не́друга, никогда́ не ра́дуйтесь. Заче́мъ она такъ си́льно горю́етъ? Она стара́ется утѣ́шить свою́ горю́ющую (=которая горю́етъ) мать. Онъ утѣша́лъ своего́ горева́вшаго (=который горева́лъ) отца́.

4. Онъ иногда́ ко́летъ дрова́. Наколи́ дровъ.

§ **104, III, 1.** Этотъ стари́къ *зя́бнетъ* не то́лько зимо́ю, но иногда́ и лѣ́томъ. Если вы *озя́бли*, согре́йтесь у ками́на. *Озя́бшія* но́ги (ноги, которы́я *озя́бли*) сле́дуетъ неме́дленно согре́ть. *Засо́хли* ли черни́ла?—Нѣтъ еще; они водяни́сты, и плохо засыха́ютъ, но скоро *засо́хнутъ*. *Просо́хла* ли доро́га послѣ вчера́шняго дождя́?—Еще не *просо́хла*, но, ду́мается, къ ве́черу *просо́хнетъ*.

2. *Кри́кните* гро́мче: онъ, вѣроя́тно, не разслы́шалъ. Отъ бо́ли она да́же *вскри́кнула*. *Придви́ньте* столъ къ дива́ну, а сту́лья *отодви́ньте*. *Поверни́тесь* ко мнѣ пра́вымъ бо́комъ, теперь *поверни́тесь* лѣ́вымъ. Пре́жде онъ всегда́ *замыка́лъ* свой пи́сьменный столъ, но сего́дня почему́-то не *замкну́лъ*. *Замкни́те* столъ и *отомкни́те* шкафъ. Обыкнове́нно я не ско́ро *засыпа́ю*, но сего́дня я очень утоми́лся, и *засну́* скоро. Дѣти уже заснули. Онъ обыкнове́нно *просыпа́ется* по́здно, но вчера *проснулся* очень ра́но.

3. *Привы́кли* ли вы здѣсь?—Еще не вполнѣ́ *привы́къ*, но, коне́чно, постепе́нно *привы́кну*. *Привы́кнетъ* ли онъ здѣсь?—Разумѣ́ется, *привыка́ть* ему́ *бу́детъ* тру́дно, но пото́мъ *привы́кнетъ*. Съ большим трудо́мъ я *отвы́къ* отъ э́той дурно́й привы́чки. Я о́чень радъ, что моя́ сестра́ *отвы́кла* отъ куре́нія табаку́ (a).

4. Мой сосѣ́дъ *умира́етъ*; до́кторъ ду́маетъ да́же, что онъ сего́дня или за́втра *умре́тъ*. Жи́вы ли ваши роди́тели?—Мать жива́, а оте́цъ *у́меръ*. Когда́ онъ *у́меръ*?—Онъ *у́меръ* уже не́сколько лѣ́тъ тому́ наза́дъ. На-дня́хъ я ви́дѣлъ во снѣ́ свою́ *уме́ршую* (=которая умерла́) мать. *Запри́те* дверь или окно́: въ ко́мнатѣ ду́етъ сквозно́й вѣ́теръ. *За́перли* ли вы шкафъ?—Да, *за́перъ*. *Ото-*

прі́мте мнѣ дверь ; я не знаю, какъ она *отпира́ется*. *Сотри́те* съ доски́ и, пожа́луйста, *стира́йте* скорѣе.—Сейча́съ *сотру́*.—Я уже *стёръ*.

§ **104, IV**. Какова́ пого́да?—До́ждикъ *бры́зжетъ*. Забры́зга*нную* (=кото́р*ая* была забры́зга*на*=кото́р*ую* забры́зга*ли*) черни́лами тетра́дь онъ бросилъ въ ками́нь. Отчего́ онъ *пла́четъ*? Не *пла́чьте*: слёзы не по́мощь го́рю. Она была съ запла́ка*нными* глаза́*ми*. Крестья́не уже́ *па́шутъ* зе́млю. Земля́ уже́ вспа́хана. Что вы *и́щете*?—*Ищу́* каранда́шъ. Бу́дьте добры́: *пощщи́те* мнѣ но́вую кварти́ру. *Прі́щщите* это сло́во въ словарѣ́.—Я прійски*валъ* его, но не прійска́*лъ*: его, очеви́дно, нѣтъ въ словарѣ́.

§ **104, V, 1**. Закле́*йте* и запеча́тайте эти пи́сьма.—Сейча́съ закле́*ю* и запеча́таю. Эти ко́мнаты я окле́*ю* но́выми обо́ями. Но́жка отъ стола́ откле́*илась*, приклѣ́*йте* её. Я её уже два ра́за приклѣ́ивалъ: клей нехоро́шъ. Что вы стро́*ите*: ка́менный домъ или деревя́нный?—Стро́*ю* деревя́нный, но на ка́менномъ фунда́ментѣ. Эти инжене́ры стро́*ятъ* сиби́рскую желѣ́зную доро́гу. Инжене́ры, стро́*ящіе* (=кото́р*ые* стро́*ятъ*) сиби́рскую желѣ́зную доро́гу, неда́вно были́ въ Токіо. Этотъ домъ постро́*енъ* съ большѝмъ вку́сомъ. О чемъ вы безпоко́*итесь*?—Я безпоко́*юсь* о томъ, что отъ брата такъ долго нѣтъ пи́семъ. —Не безпоко́*йтесь* са́ми и успоко́*йте* свои́хъ родныхъ: вашъ братъ живъ, здоро́въ и на э́тихъ дняхъ бу́детъ у васъ; объ этомъ мнѣ писалъ мой оте́цъ. Обо мнѣ, пожа́луйста, не безпоко́*йтесь*.

2. Позво́*лите* ли вы намъ за́втра сходи́ть въ теа́тръ?—Пре́жде я всегда позволя́*лъ* (вамъ), но завтра не позво́*лю*: на этой недѣ́лѣ вы пло́хо занима́лись. Ра́звѣ это позво́*лено* вамъ? Ваши дѣ́ти о́чень шал*я́тъ*. Не шали́*те* въ кла́ссѣ во врем*я* уро́ковъ. Раздѣ́л*ите* эти де́ньги по́-ровну ме́жду всѣми э́тими ни́щими. По́мн*итъ* ли меня́ ва́ша мать?—По́мн*итъ*, всѣ мои́ дома́шніе по́мн*ятъ* васъ; мы ча́сто вспомина́емъ про (=о) васъ. Напо́мн*ите* мнѣ объ э́томъ за́втра. Гото́вы ли дѣти?—Сейча́съ бу́дутъ гото́вы: они уже мо́л*ятся* Бо́гу. Бу́дьте такъ добры, объясн*и́те* намъ э́то пра́вило еще разъ.—Хорошо́, я *объясню́* (еще разъ), но съ усло́віемъ: слу́шайте съ бо́льшимъ вниманіемъ, чѣмъ прежде, когда я *объясня́лъ* вамъ. Гдѣ-то звон*я́тъ* на-пожа́ръ. Позвон*и́те* въ колоко́льчикъ: мнѣ ну́женъ служи́тель. У ва́шей сестры очень хоро́шія спосо́бности, но она лѣ́н*ится*. Зачѣ́мъ вы лѣ́н*итесь*? Обыкновѣ́нно я ежедне́вно *перемѣня́ю* руба́шку, но сего́дня еще не *перемѣни́лъ*; сейча́съ *перемѣню́*. Пого́да къ ве́черу, вѣроя́тно, перемѣ́н*ится*. Говори́*те* ли вы по-ру́сски?—Нѣтъ, не говорю́, но немно́го понима́ю, е́сли други́е говор*я́тъ* ме́дленно. Говори́*те*, пожа́луйста, гро́мче и раздѣ́льнѣе: я пло́хо понима́ю васъ. Ку́р*ите* ли вы таба́къ?—Къ сожалѣ́нію, курю́; онъ всѣмъ вре́денъ, а мнѣ особенно. Закури́*те*, пожалуйста, мнѣ папиро́су. Въ ко́мнатѣ о́чень наку́р*ено*: отвори́*те* дверь или окно́. Пожа́луйста, окна́ не *отворя́йте*, *отвори́те* лу́чше дверь Неуже́ли вы вѣ́р*ите* ему?—Да, вѣ́рю; я увѣ́ренъ, что онъ че́стный человѣ́къ.

"Не всѣкому слу́ху вѣ́рь," говори́тъ ру́сская посло́вица. Повтори́те ещѐ разъ (то), что вы сказа́ли: я пло́хо разслы́шалъ. *Повтори́ли* ли вы свой уро́ки?—*Повторя́лъ*, но ещѐ не *повтори́лъ*. Что у на́съ сего́дня ва́рится и жа́рится къ обѣ́ду? Ва́римъ ухý и жа́римъ говя́дину и рыбу. Эта рыба не дожа́рена, а та пережа́рена. О вку́сахъ не спо́рятъ, говори́тъ посло́вица. Вы всегда́ спо́рите: не зна́я хорошо́ дѣ́ла, не спо́рьте.

3. Говоря́тъ, вашъ братъ бо́ленъ; что у него боли́тъ?—У него боля́тъ зу́бы. У меня́ си́льно боли́тъ голова́. Когда́ заболѣ́лъ вашъ отѐцъ? Ва́ша ла́мпа гори́тъ пло́хо. Эти спи́чки не горя́тъ. Говоря́тъ, на-дняхъ въ Токіо былъ большо́й пожа́ръ, сгорѣ́ло мно́го домо́въ. Господа! смотри́те на до́ску. Что вы здѣ́сь смо́три́те?—Смотрю́, какъ игра́ютъ дѣ́ти. Посмотри́те-ка сюда́.

§ **104, VI, 1.** Что дѣ́лаетъ вашъ това́рищъ?—Онъ лежи́тъ на дива́нѣ и чита́етъ газе́ты. Онъ чита́лъ кни́гу, лёжа на крова́ти. Кому́ принадлежи́тъ этотъ домъ?—Сейча́съ онъ принадлежи́тъ моему́ дя́дѣ, но съ слѣ́дующаго го́да, вѣроя́тно, *бу́детъ* принадлежа́ть мнѣ: я покупа́ю его. Что вы де́ржите въ рукѣ́?—Держу́ поку́пки. Что вы всё молчи́те и ничего́ не говори́те? *Бу́демъ* молча́ть, когда́ насъ не спра́шиваютъ. Замолчи́те, пожа́луйста. Не кричи́те такъ гро́мко: свои́мъ кри́комъ вы мѣша́ете занима́ться въ сосѣ́днихъ кла́ссахъ. Глухо́й слу́шаетъ, но не слы́шитъ. Слы́шите ли вы, что онъ говори́тъ?—Да, слы́шу. Объ э́томъ мы подро́бно услы́шимъ на-дня́хъ. Говори́те гро́мче: онъ пло́хо слы́шитъ.

2. Гдѣ вы слу́жите?—Я служу́ въ министе́рствѣ наро́днаго просвѣще́нія, а мой братъ въ во́енномъ министе́рствѣ. Когда вы ложи́тесь?—Я ложу́сь разли́чно: иногда́ ра́но, иногда́ по́здно. Одолжи́те мнѣ ва́шего словаря́ на нѣ́сколько дней. Что вы у́чите?—Учу́ ру́сскія слова́. У кого́ вы у́читесь ру́сскому языку́?—Учу́сь у одного́ япо́нца, кото́рый до́лго жилъ въ Россіи и, говоря́тъ, о́чень хорошо́ зна́етъ ру́сскій языкъ. Кого́ и чему́ онъ у́читъ въ э́томъ семе́йствѣ? Онъ у́читъ одного́ ма́льчика ру́сскому языку́ и одну́ дѣ́вочку чистописа́нію. Человѣ́къ, неучи́вшійся (=кото́рый не учи́лся) въ мо́лодости, не нау́чится въ ста́рости. Этотъ урокъ былъ вы́ученъ мно́ю (=я выучи́лъ) за нѣ́сколько мину́тъ. Око́нчили ли вы свою́ рабо́ту?—Еще не око́нчилъ, но ско́ро око́нчу. Когда́ я былъ у него, онъ ока́нчивалъ письмо́. Когда я получу́ отъ васъ долгъ?—Вы полу́чите его, какъ то́лько у меня́ бу́дутъ де́ньги. Если съ нимъ случи́тся како́е-нибудь несча́стіе, я увѣ́ренъ, его мать умрётъ съ го́ря. Если это случи́тся, я бу́ду о́чень радъ Куда́ вы такъ спѣ́шите?—Спѣшу́ на вокза́лъ. Вы очень спѣ́шите; чита́йте не спѣша́, выгова́ривая отдѣ́льно ка́ждое сло́во. Суши́ли ли оде́жду? Послѣ нюба́я всё пла́тье слѣ́дуетъ просуши́ть, въ проти́вномъ слу́чаѣ оно будетъ въ пя́тнахъ. Бу́дьте такъ любезны: обо всёмъ э́томъ сообщи́те мое́й сестрѣ́. Бу́дьте

поко́йны, обо всёмъ сообщу́ подро́бно; не забу́ду. О случи́вшемся (=о томъ, что случи́лось) неме́дленно было сообще́но поли́ціи.

§ 104, VIII, 1. Я его о́чень люблю́ и зна́ю, что онъ меня́ та́кже лю́битъ. Кто други́хъ не лю́битъ, тотъ самъ не *быва́етъ* люби́мъ. Это ку́шанье—са́мое люби́мое моё. Я очень сожалѣ́ю и скорблю́, что случи́лось э́то.

2. Гдѣ мать?—Она въ ку́хнѣ гото́витъ обѣ́дъ. Пригото́вили ли вы свои́ уро́ки?—Ещё не всѣ пригото́вилъ, но ско́ро пригото́влю. Поста́вьте ла́мпу на э́тотъ столъ. Сту́лья были разста́влены вокру́гъ стола́. Становится уже́ прохла́дно. Вы ра́звѣ удивля́етесь, что онъ сдѣ́лалъ э́то? Не то́лько не удивля́юсь э́тому, но да́же не удивлю́сь, если онъ и ху́же этого что-нибу́дь сдѣ́лаетъ. Всѣ мы были оче́нь удивлены́, когда́ услы́шали объ э́томъ. Нра́вится ли вамъ это? —Да, нра́вится. Нравится ли вамъ я́понскій столъ?—Въ о́бщемъ нѣтъ, но нѣ́которыя ку́шанья нра́вятся. Гдѣ вы останови́тесь въ Кобе?—Остановлю́сь, гдѣ всегда остана́вливалось,—въ гости́нницѣ N. Ча́сто ли вы ло́вите рыбу?—Иногда́ ловлю́, но не съ особенною охо́тою.

3 Еще не по́здно, что вы дре́млете?—Сегодня я проснулся очень рано, и меня́ уже́ кло́нитъ ко сну. Усталые ученики́ дре́млютъ. Сейчасъ онъ знако́мится съ окре́стностями го́рода. Позво́льте съ вами познако́миться.—Съ большо́имъ удово́льствіемъ. Познако́мьте меня, пожа́луйста, съ г. N.—Хорошо́, я сейчасъ предста́влю васъ ему́. Я увѣ́домлю васъ, какъ то́лько переговорю́ съ нимъ.—Тогда́ увѣ́домьте и моего́ бра́та. Не шуми́те: изъ-за ва́шего шу́ма ничего́ не слы́шно. Громъ греми́тъ, слы́шите ли?

4. Коро́ва щи́плетъ траву́. Куда вы торопи́тесь?—Тороплю́сь въ учи́лище. Эту кни́гу я куплю́ на-дняхъ. Онъ или передѣ́лаетъ свой домъ или ку́питъ но́вый. Купи́те мнѣ почто́вой бума́ги и конве́ртовъ. Онъ покупа́етъ этотъ домъ, но, я увѣ́ренъ, онъ не ку́питъ его. Эта кни́га была ку́плена мно́ю въ прошломъ году́. Гдѣ ку́пленныя (которыя *были* куплены) вчера ве́щи? Вода́ уже кипи́тъ, завари́те чай.

5. Будьте добры, разграфи́те мнѣ эту тетра́дь.

§ 104, VIII, 1. Соба́ка гло́жетъ кость За что вы серди́тесь на меня́?—Напра́сно вы думате, что я сержу́сь; да и за что я *буду* серди́ться на васъ? Онъ чѣмъ-то былъ очень разсе́ржень, и съ нимъ не возмо́жно было говори́ть. Вы су́дите объ э́томъ дѣ́лѣ несправедли́во. Ста́ршаго бра́та оправда́ютъ, а мла́дшаго осу́дятъ. Онъ уже былъ разъ присужде́нъ къ тюре́мному заключе́нію. Человѣ́къ хо́дитъ, а птица лета́етъ. Когда мы вхо́димъ въ чужо́й домъ, то снима́емъ шля́пу, кла́няемся и говоримъ: "здра́вствуйте!" а когда ухо́димъ, то говори́мъ: "проща́йте!" или "до-свида́нія!" У нихъ го́сти съ ра́нняго утра́ до по́здняго ве́чера: одни́ ухо́дятъ, други́е прихо́дятъ. Что вы такъ рано уходите? Какъ вы нахо́дите мою кварти́ру?—Она мнѣ нра́вится, но не тѣсна́ ли она для ва́шего семе́йства? Буди́те дѣтей: встава́ть

уже порá. Разбуди́*те* менá зáвтра порáньше. Онъ уже цѣ́лую недѣ́лю тру́*дится* надъ свои́мъ сочинéніемъ и всё ещё не окóнчилъ егó. Я стыжу́*сь* это сдѣ́лать Онъ никогó не стыди́*тся*. Это никудá не годи́*тся*. Гóсти сидя́*тъ* въ садý. Посиди́*те* съ нами еще немнóго. Какъ сиди́*тъ* на мнѣ это нóвое пальтó?—Оно сиди́*тъ* хорошó Слѣпóй смóтритъ, но не ви́*дитъ*. Мы ви́*димъ* себя въ зéркалѣ. Смотри́те: вдали́ что-то чернѣ́етъ; ви́*дите* ли?—Да, ви́*жу*. Когда же я опя́ть уви́*жу* васъ?—Да, теперь вы уви́*дите* меня не скóро. Уви́дѣ*вши* (=когда уви́дѣлъ) его́, я очень обрáдовался.

2. Хлѣ́бъ рѣ́*жутъ* ножóмъ. Разрѣ́*жьте* эту тетрáдку. Скá*жите*, пожáлуйста, котóрый теперь часъ? Я скá*жу* вáмъ всю прáвду. Скá*жите* мнѣ, каковы́ вашн друзья́ и знакóмые, и я скá*жу* вамъ, каковы́ вы сáми. Зáвтра, кá*жется*, бу́детъ погóда. Мнѣ кá*жется*, онъ прáвъ. Объ э́томъ ужé *было* скáзано ранѣе. Я увѣ́ренъ, мой товáрищъ покá*жется* вамъ симпати́чнымъ. Если вамъ трýдно, отказ*жи́тесь* отъ э́тихъ занятій. Прикá*жите* эти пи́сьма отпрáвить на пóчту, да скá*жите*, что они заказны́я, а не просты́я. Я накá*жу* тѣ́хъ, кто бу́детъ лѣни́ться. Онъ былъ накáзанъ за то, что постоя́нно сóберется съ свои́ми товáрищами. Онъ всегдá, пріѣзжáя изъ гóрода, привóзитъ дѣ́тямъ игрýшки. Зачѣ́мъ вы конфýзите его?

3. Вы пи́*шете* мéлко, но чётко и разбóрчиво. Она пи́*шетъ* горáздо лýчше, чѣ́мъ ея стáршая сестрá. Что вы пи́*шете*?—Пишу́ сочинéніе по рýсскому языкý. Европéйцы пи́*шутъ* перóмъ и черни́лами, а япóнцы кúстью и тýшью. Я напи́*шу* вамъ, какъ тóлько получý какóе-нибýдь извѣ́стіе о нёмъ. Э́ту страни́цу вы написа́*ли* неразбóрчиво: перепи́*шите* её. Пи́сьма были напи́саны и отпрáвлены на пóчту еще вчера. Напи́*санныя* пи́сьма (=письма, котóрыя *были* напи́саны) онъ немéдленно отпрáвилъ на пóчту. Я усúленно прошу́ васъ объ э́томъ. Отéцъ прóситъ васъ пожáловать къ намъ сегóдня вéчеромъ.—Благодарю́; скá*жите*, что непремѣ́нно бу́ду. Многіе япóнцы не умѣ́ютъ носи́*ть* европéйскаго плáтья. Сѣ́верный вѣ́теръ принóситъ хóлодъ, а ю́жный тепло́. Собáка принóситъ человѣ́ку большу́ю пóльзу: она охраня́етъ его самого́, егó домъ и его имýщество. Сколько вѣ́сит э́тотъ я́щикъ?—Онъ вѣ́*ситъ* болѣе пуда. Повѣ́*сьте* своё пальтó на э́ту вѣ́шалку. Повѣ́*сили* ли лáмпу?—Нѣ́тъ еще, но я ее сейчасъ повѣ́*шу*. Лáмпа *бу́детъ* повѣ́*шена* въ гости́ной. Лампа вúси*тъ* въ гости́ной. У моего брáта по стѣнáмъ въ гости́ной вися́*тъ* карти́ны. Это нисколько не зави́*ситъ* отъ меня́. Въ Япóніи жéнщина зави́*ситъ* отъ мужчи́ны бóлѣе, чѣ́мъ слѣ́довало бы.

4. Спря́*чьте* это письмó и, совѣ́тую вамъ, никомý не покáзывайте егó.—Хорóшо, я спря́*чу*. Говори́те грóмче; вы такъ ти́хо говори́те, что какъ будто шепчете. Не хохочи́*те* такъ грóмко: другíе бýдутъ смѣя́ться. Сколько вы плáти*те* за квартúру?—Плачý не особенно дóрого. Когда вы уплáти*те* свой долгъ?—Уплачý въ концѣ́ э́того мѣ́сяца, какъ тóлько получý жáлованье. Я

не умѣ́ю торгова́ться и, вѣроя́тно, опя́ть перепла*чу́*.—Да, вѣ́рно; вы всегда́ перепла́*чиваете*. Зимо́ю со́лнце све́т*итъ*, но не гре́етъ. Вы разска́зываете невѣроя́тное, вы шу́т*ите*.—Нѣтъ, *я* не шу*чу́*, я говорю́ пра́вду. Наступа́етъ осень, и пѣ́вчія пти́чки ско́ро улет*я́тъ* отъ насъ.—Да, теперь улет*я́тъ*, а весно́ю опять прилет*я́тъ*.

5. Послу́шайте: какъ си́льно вѣ́теръ сви́*щетъ*! Мое пальто́ въ грязи́; вы́чист*ите* его хорошенько.—Сейча́съ вы́чи*щу*. Почи́ст*ите* мои́ сапоги́. Прост*и́те* его: онъ, разумѣ́ется, винова́тъ, но това́рищи его еще бо́льше винова́ты.—Нѣтъ, я его не про*щу́*: онъ ста́рше своихъ това́рищей. Онъ уже прости́*лся* со всѣ́ми свои́ми знако́мыми. Она уѣ́хала, ни съ кѣ́мъ не прости́*вшись*. Зо́лото блест*и́т*ъ, но не всё то зо́лото, что блест*и́т*ъ.

§ **105**, **1**. *Подни́мете* ли вы этотъ я́щикъ?—Нѣтъ, не *подниму́*; я его уже поднима́*лъ*, но не *подня́лъ*. *Подними́те* съ полу (а) кни́гу и поста́вьте её въ этаже́рку или положи́те на столъ. *Сними́те* своё пальто́: въ ко́мнатѣ очень жа́рко. Если вамъ нужны де́ньги, *займи́те* у меня́.—Благодарю́ васъ, я уже за́ня*лъ* и бо́льше занима́ть не бу́ду. *Поймётъ* ли онъ меня? вѣдь я еще плохо говорю́ по-русски.—Бу́дьте поко́йны: я понима́ю васъ, *поймётъ* и онъ. Я *найму́* себѣ да́чу на берегу́ мо́ря. *Возьми́те* бума́гу и перо́ и сейчасъ же напиши́те отцу́. Эти кни́ги я тепе́рь *возьму́* съ собо́ю, а тѣ когда-нибудь въ другой разъ. *Прими́те* эти тетра́ди отсю́да: онѣ мѣша́ютъ мнѣ.—Сейча́съ *приму́*. *Приня́лъ* ли онъ лека́рство?—Еще ра́но; онъ обыкновенно принима́етъ лекарство ро́вно въ по́лдень, а тепе́рь только 10 часо́въ; *при́метъ* въ по́лдень.

4—**8**. Чья это соба́ка *во́етъ*? *Закро́йте* кни́гу. *Откро́йте* 10-ую страни́цу и чита́йте съ полови́ны. Въ *откры́тое* окно́ (=въ окно́, которо́е было откры́то) влетѣ́ла пти́чка. Эта пра́чка скверно *мо́етъ* бѣлье́. Эти пя́тна, ду́маю, не *отмо́ются*. Я сейча́съ *умо́юсь* и буду гото́въ. У меня си́льно *но́етъ* зубъ; завтра посовѣ́туюсь съ дантистомъ.

9. Тамъ очень глубоко́: *плыви́те* сюда. **10**. Сади́тесь скорѣе за столъ: ку́панье *осты́нетъ*.

13. *Пошли́те* скорѣе за до́ктором*ъ* бра́ту сдѣ́лалось ху́же.—Сію́ мину́ту *пошлю́*. Не *пришлёте* ли вы мнѣ ста́рыхъ газе́тъ?—Хорошо́; сейчасъ же *пришлю́*, какъ только возвращу́сь домо́й. Эти кни́ги я возьму́ съ собо́ю, а тѣ *пришли́те* ко мнѣ за́втра. **14**. *Постели́те* мнѣ сего́дня посте́ль пора́ньше. Она, кажется, *сте́летъ* сейчасъ посте́ли дѣ́тямъ. Столъ былъ *за́стланъ* бѣ́лою ска́тертью. **15**. Не *гони́те* такъ си́льно лошаде́й: доро́га еще длинна́. **16**. Не *бери́те* говя́дину рука́ми, возьми́те ви́лкою. **18**. Эти ма́льчики постоя́нно *деру́тся*, когда быва́ютъ вмѣ́стѣ. Что (=зачѣ́мъ) вы *дерётесь*? какъ вамъ не сты́дно!

22. Моя ста́ршая сестра́ *завѣ́дуетъ* всѣ́мъ мои́мъ хозя́йствомъ. **25**. Я

обя́зываюсь (=*обязу́юсь*) возврати́ть эти деньги че́резъ мѣ́сяцъ. **26**. Этотъ свяще́нникъ *проповѣ́дуетъ* съ больши́мъ чу́вствомъ.

28. Онъ принадлежи́тъ къ раско́льникамъ, *пріемлющимъ* свяще́нство.

29 *Одѣ́ньте* скорѣ́е дѣте́й, да и са́ми скорѣ́е одѣва́йтесь.—Я сейчасъ *одѣ́нусь*. Пожа́луйста, *раздѣ́ньтесь* за ши́рмами и примѣ́рьте но́вый костю́мъ. **31**. *Поёте* ли вы?—Да, *пою́*.—А братъ вашъ *поётъ*?—Онъ очень хорошо́ *поётъ*: у него́ голосъ хоро́шій, и но́ты онъ зна́етъ. Я люблю́ слу́шать, когда другіе *пою́тъ*, но самъ не пою́: слу́ха нѣтъ. *Спо́йте* намъ что-нибудь.

33. Онъ вре́дно *влія́етъ* на свои́хъ това́рищей. **36**. Онъ ско́ро *усвоя́етъ* (=усва́иваетъ) но́выя пра́вила, но скоро и забыва́етъ ихъ. *Усво́ено* ли вами это пра́вило? **37**. Со́лнце *сія́етъ* днёмъ, а луна́ но́чью **40**. Ни́щій не *бои́тся* во́ра. Я *бою́сь*, что мы опозда́ли. Вы напра́сно *бои́тесь*: въ на́шемъ распоряже́ніи еще цѣ́лый часъ. Не *бо́йтесь*: эта соба́ка не куса́ется. **41**. Что вы *стои́те* здѣсь?—Ожида́ю бра́та, онъ въ этой ла́вкѣ. Мой домъ *стои́тъ* на са́момъ берегу́ мо́ря. Не *сто́йте* такъ бли́зко къ ками́ну.

44. Умѣ́ете ли вы *пла́вать*?—Да, умѣ́ю; я *пла́ваю* хорошо Не *пла́вайте* далеко́ отъ бе́рега: опа́сно.

45. Что вы *намѣрева́етесь* дѣ́лать на кани́кулахъ? Онъ *намѣрева́ется* ѣ́хать въ Аме́рику. **47**. Я его часто *увѣщева́ю*, но онъ меня мало слу́шаетъ.

50 Здѣсь *ме́лютъ* только пшени́цу, а на той ме́льницѣ пшени́цу и рисъ. Онъ ча́сто *ме́летъ* вся́кій вздоръ.

51. Ли́стья на дере́вьяхъ уже засо́хли и трава́ *увя́ла*. *Увя́дшіе* цвѣты́ вы́бросьте вонъ. **53**. Де́рево пла́ваетъ, а ка́мень *то́нетъ*. Онъ *утону́лъ*, потому что не умѣ́лъ пла́вать. **54**. Это его́ предло́женіе я сра́зу *отве́ргъ*. *Отве́ргнутый* всѣ́ми родны́ми, онъ пересели́лся въ чужу́ю страну́. Если вы еще не *опрове́ргли* (=*опрове́ргнули*) это извѣ́стіе въ газе́тахъ, я самъ *опрове́ргну*. **55**. Онъ нѣ́сколько разъ обма́нывалъ моего́ отца; знаю, и меня *обма́нетъ*. Бу́дучи неоднокра́тно *обма́нутъ* имъ, я теперь остерега́юсь его. **56**. Желѣ́зо *гнётся*, а сталь лома́етея. **57**. Я смотрѣ́лъ, какъ рыбаки́ *тяну́ли* сѣть.

58. Онъ часто *лжётъ* (=говори́тъ непра́вду). Не *ли́те*: дѣ́ло было ина́че. **59**. *Дви́жимое* иму́щество онъ завѣща́лъ бра́ту, а *недви́жимое* сестрѣ́. **60**. Эта́ шёлковая мате́рія *со́ткана* въ Кіото. **61**. Куда вы *ѣ́дете*. *Ѣ́ду* въ Іокогаму. Когда вы *поѣ́дете* въ дере́вню?—Я *поѣ́ду* за́втра, а бра́тья *поѣ́дутъ* на слѣ́дующей недѣ́лѣ. Какъ только око́нчатся экза́мены, я сейча́съ же *уѣ́ду* въ дере́вню: въ Токіо станови́тся уже́ жа́рко. Когда *пріѣ́детъ* ва́ша мать?—Она *пріѣ́хала* вчера́. *Пріѣзжа́йте* къ намъ въ дере́вню на нѣсколько дней: мы всѣ будемъ ра́ды.

65. Сколько это *сто́итъ*?—Это *сто́итъ* то́лько одинъ энъ.—Сколько *сто́итъ* арши́нъ этой мате́ріи? Эти ве́щи до́рого *сто́ятъ*. Этотъ господи́нъ ничего не *сто́ющій* человѣ́къ. **66**. Дождь *льётъ* съ са́мого утра. *Нале́йте*

мнѣ еще стака́нъ чаю. Господа, чай уже *налитъ*; пожа́луйте! Бу́дьте осторо́жны: не *проле́йте*. **67.** Во время наводне́нія отъ сы́рости все *гніётъ* и покрыва́ется плѣсенью. **68.** Онъ *бре́ется* каждую недѣлю. Если онъ *обре́тется*, его невозмо́жно будетъ узна́ть.

71. Куда вы такъ *бѣжи́те*?—*Бѣгу́* въ учи́лище; я опозда́лъ. Не *бѣги́те* такъ бы́стро: я соверше́нно утоми́лся. **72.** Онъ *жметъ* всѣ́каго, кто нахо́дится подъ его нача́льствомъ. Я съ ра́достію его встрѣ́чу и *пожму́* ему ру́ку. Не *жми́те* такъ си́льно; бо́льно. **73** Крестья́не уже́ *жнутъ* рисъ. Рисъ уже *сжатъ*. **75.** Когда вы *начнёте* стро́ить свой домъ?—*Начну́* въ сле́дующемъ мѣсяцѣ. Когда *начну́тся* у васъ экза́мены?—Экза́мены въ на́шемъ кла́ссѣ уже́ *начали́сь*, а въ други́хъ кла́ссахъ *начну́тся* за́втра. *Начнёмте* писа́ть. **76.** Гдѣ вы *живёте*?—Я *живу́* въ N, не о́ссбенно далеко́ отъ васъ. Зна́ете ли вы, гдѣ онъ *живётъ*?—Онъ *живётъ* вблизи́ городско́го са́да. **78.** Что вы *шьете*?—*Шью* руба́шку ребёнку. Ваше пальто́ очень ста́рое; *сше́йте* себѣ но́вое.

81. Я не *ошибу́сь*, если скажу, что онъ хитрый челове́къ. Ты уже нѣсколько разъ *ошиби́ся*; не *ошиби́сь* ещё. Она *ушиби́ла* себѣ но́гу, и теперь лежи́тъ въ посте́ли. **82.** Зачѣ́мъ вы *бьёте* соба́ку? Будьте добры, *вбе́йте* этотъ гвоздь въ сте́ну, вотъ сюда́. Въ этомъ сраже́ніи было ра́нено и *уби́то* очень много офице́ровъ. **83.** Какъ *зову́тъ* ва́шего това́рища? Васъ кто-то *зоветъ*. Я *назову́* его нече́стнымъ челове́комъ, если онъ сдѣ́лаетъ это. *Позови́те* скорѣе изво́щика.

84. Эти ни́тки не про́чны: онѣ легко́ *рву́тся*. Сове́тую вамъ: это письмо́ *разорви́те* и бро́сьте въ ками́нъ. **85.** *Привита́* ли о́спа ва́шему ребенку?—Еще не *привита*; *привьёмъ*, какъ только онъ нѣсколько попра́вится. **91.** До́брый челове́къ *спитъ* споко́йно. Дѣти уже *спятъ*. Вы какъ бу́дто то́лько сейчасъ просну́лись: у васъ *за́спанное* лицо́. **94.** Ру́сскіе очень лю́бятъ чай и *пьютъ* его́ по нѣ́скольку разъ въ су́тки. Не *вы́пьете* ли вы еще стака́нъ чаю?—Съ большо́имъ удово́льствіемъ; нале́йте. *Вы́пей* ро́мку во́дки.

95. Не *дади́те* ли вы мнѣ своего́ словаря́ на нѣ́сколько часовъ?—Возьми́те, онъ сейчасъ мнѣ не ну́женъ. Если вамъ нужны деньги, я вамъ *дамъ* въ займы́. Онъ пре́жде всегда́ *дава́лъ* мнѣ деньги въ долгъ, но вчера почему́-то не далъ. *Да́йте*, пожалуйста, мнѣ ту книгу. *Да́нное* (=кото́рое *дано́*) сло́во всегда́ сле́дуетъ испо́лнить. Будь добръ, *переда́й* это письмо́ своему́ брату. Когда вы *отдади́те* мнѣ долгъ?—*Отда́мъ* въ будущемъ (=сле́дующемъ) мѣсяцѣ. Онъ *прода́стъ* свой домъ, если *даду́тъ* хорошую цѣ́ну. **97** Кого вы здѣсь *ждёте*?—*Жду* сестру́; она въ этой ла́вкѣ Мы васъ *ждёмъ* съ са́маго утра́. *Обожди́те* меня немного; я сейчасъ буду гото́въ. **99** Мой братъ кра́йне *оби́женъ* имъ. **102.** *Ста́ньте* здѣсь: отсюда видне́е. Ско́ро *ста́нетъ* хо́лодно. *Ста́немте* теперь чита́ть, а потомъ будемъ писа́ть.

Въ Токіо ещё становится хо́лодно, а въ Хакодате уже *сти́ло* хо́лодно. Дождь ско́ро *переста́нетъ*. Пожа́луйста, *доста́ньте* мнѣ изъ шка́фа конве́рты. Если у меня не *доста́нетъ* де́негъ, я займу́ у васъ. *Я* приплю́ вамъ эту книгу, какъ только *достану́* её. **104**. Не *хоти́те* ли (=не желаете ли) еще стаканъ чаю? Онъ *хо́четъ* купить себѣ́ лошадь. **106**. Онъ часто *клевещетъ* на своихъ това́рищей. **111**. *Я возвращу́* ваши книги на этихъ дняхъ. Письмо́ было *возвраще́но* обра́тно, такъ какъ невѣ́рно былъ написанъ а́дресъ. Когда вы *возврати́тесь*?—*Возвращу́сь* черезъ нѣсколько дней. **114**. Хорошо, я *запрещу́* имъ это дѣ́лать. Бра́ту уже разрѣше́но ходи́ть по ко́мнатѣ, но еще *заприще́но* выходи́ть изъ до́ма.

§ **106, 1**. Что вы *привезли* дѣ́тямъ въ пода́рокъ?—*Я привёзъ* имъ игру́шки. Не *привезёте* ли вы мнѣ изъ города нѣ́которыхъ вещей? Бы́вши здѣсь, онъ чита́лъ вашу кни́гу, но не дочита́лъ до конца́ и *увёзъ* её съ собо́ю. **4**. Что вы *несёте*?—*Несу́* поку́пки. N, *принеси́* лампу и поста́вь её на столъ въ гости́ную. Портно́й *принёсъ* вамъ пальто́ и про́ситъ васъ приме́рить его́. Не зна́ете ли, когда сапо́жникъ *принесётъ* мои сапоги́? Почтальо́нъ, *принёсшій* (=который *принёсъ*) пи́сьма, уже возврати́лся. Чита́ли ли вы *принесе́нную* имъ (=которую онъ *принёсъ*) книгу? *Снесите* это письмо на по́чту. **8—10**. Куда вы *идёте*?—*Иду́* въ учи́лище. Когда онъ *шёлъ* около на́шего до́ма, я смотрѣ́лъ въ окно́ и раскла́нялся съ нимъ. Съ кѣмъ вы *шли*, когда я встрѣ́тилъ васъ? Не *пойдёте* ли вы со мно́ю въ го́родъ? *Пойдёмте* вмѣстѣ. Братъ *ушёлъ* къ това́рищамъ. Поди́ къ бра́ту и скажи́ ему, что я *приду́* къ нему завтра утромъ. За чѣмъ онъ *пришёлъ*? Она *вошла* въ ко́мнату, когда сестра ши́ла пла́тье. Я не *пошёлъ* бы къ нимъ, е́сли бы они не пригласи́ли меня. Когда́ вы опя́ть *придёте* къ намъ?—*Приду́* на э́тихъ дняхъ. Если я *найду́* эту кни́гу, я приплю́ её вамъ. *На́йденную* вещь (=вещь, которая *была найдена*,) онъ переда́лъ въ поли́цію. *Я* ду́маю, къ вечеру *пойдётъ* дождь.—Дождь, ка́жется, уже *идётъ*. Вѣ́рно ли *иду́тъ* ваши часы́?—*Иду́тъ* не вѣ́рно: то спѣша́тъ, то отстаю́тъ. **16**. Когда-нибудь *приведи́те* къ намъ своихъ товарищей. Я *переведу́* эту статью́ на япо́нскій языкъ. Пусть онъ *переведётъ* эту главу, а я ту. Онъ пло́хо *вёлъ* себя въ про́шломъ году́. Скажи́те, пожа́луйста, какъ *веду́тъ* себя́ мои дѣти? **17**. Не *клади́те* сюда́, положи́те въ ту ко́мнату. **19**. Я бою́сь, что меня́ *обкрадутъ*. У него, когда онъ былъ въ теа́трѣ, кто-то *укра́лъ* портсига́ръ. **20**. Онъ *упа́лъ* съ ло́шади и слома́лъ себѣ́ но́гу. Снѣгъ на сѣверѣ уже *вы́палъ*. **22**. *Сядьте* здѣсь, а я *сяду* тамъ. **23**. Я хочу́ *пить*. Онъ *пьетъ* очень ско́ро. *Ѣли* ли вы когда-нибудь сла́дкій карто́фель?—*Ѣлъ*, но онъ мнѣ не нра́вится. Челове́къ живётъ не для того, чтобы пить и *пить*, но онъ пьётъ и *пьетъ* для того, чтобы жить. **25**. Служа́нка *метётъ* ко́мнату. Ко́мнаты уже *вы́метены*. **27**. Овощи *расту́тъ* въ огоро́дѣ. Этотъ ребёнокъ бы́стро *растётъ*. Онъ очень много

вырос за этотъ годъ **28**. Гдѣ вы *пріобрѣли́* такія прекра́сныя ве́щи? Если будутъ деньги, *пріобрѣту́* и я. Онъ своею че́стностью *пріобрѣ́лъ* себѣ́ уваже́ніе всѣ́хъ своихъ знако́мыхъ. **29**. Лѣ́томъ *разсвѣта́етъ* очень ра́но, а зимо́ю по́здно. Уже *разсвѣло́*. Разбуди́те меня, какъ только *разсвѣтётъ*. **30**. Дере́вья и тра́вы *цвѣту́тъ* весно́ю. Ви́шни въ Уеко уже *отцвѣли́*; на бу́дущей неде́лѣ *будутъ цвѣсти́* въ моёмъ саду́. Не всегда́ быва́ютъ плоды́ на тѣ́хъ дере́вьяхъ, которыя *цвѣли́*. **31**. Теперь я *прочту* эту книгу, а вы по́слѣ *прочтёте* её. Она уже *прочла́* твоё письмо́. Если вы не ве́рите, *прочти́те* са́ми. *Сочти́те* (сосчита́йте) всё, что я до́лженъ вамъ заплати́ть. Я *сочту́* (сосчита́ю) по́слѣ и счётъ пришлю́ вамъ на́-домъ.

§ **107, 1**. Ка́ждый до́лженъ *бере́чь* своё здоро́вье, *берегу́* и я, а вы не *бережёте*. Цётръ Вели́кій говори́лъ: кто не *бережётъ* копѣ́йки, тотъ самъ не сто́итъ рубля́. Молодо́й челове́къ, *береги́* своё здоро́вье! **2**. *Зажги́те* (зажига́йте) свѣ́чи и принеси́те сюда́. Она *обожгла́* себѣ́ ру́ку Мы прі́ѣхали, когда́ огни́ были уже *зажжены́*. **3** *Мо́жете* ли вы это сдѣ́лать?—*Могу́*. Онъ обѣща́лъ сдѣ́лать всё, что *мо́жетъ*. Никогда́ не откла́дывай до-за́втра того, что *мо́жешь* сдѣ́лать сего́дня. Онъ *могъ бы* это сдѣ́лать, но не хо́четъ. Вы скажи́те ему, что я не хочу́, да и не *могу́* э́того сдѣ́лать. *Мо́жетъ быть*, онъ и правъ. Я, *мо́жетъ быть*, зайду́ къ вамъ ве́черомъ. Я *помо́гъ бы* ему, но я не зналъ, что онъ нужда́ется въ по́мощи. *Помоги́те* ему: онъ очень бѣ́дный челове́къ. **5**. Соба́ка *стережётъ* домъ. **6**. Вани во́лосы (а́) очень дли́нны: *остриги́те* ихъ. Онъ *остри́гся* и обри́лся, и я его не узна́лъ. **7**. *Запрягли́* ли лошаде́й?—Ло́шади уже *запря́жены*. **8**. За воровство́ его *привлеку́тъ* къ суду́. *Привлеки́те* къ э́тому дѣ́лу и своихъ това́рищей. **10**. *Пекли́* ли хлѣ́бъ къ за́втрашнему дню?—Хлѣ́бъ уже *испе́ченъ*. **13**. Го́рныя рѣки *теку́тъ* очень бы́стро. Эта крыша *течётъ* съ са́мой весны́. **14**. *Столки́те* нѣ́сколько куско́въ са́хару (а) въ порошо́къ.

§ **108, 1—2**. Дѣти *бѣга́ютъ* по у́лицѣ. Дѣти *бѣгу́тъ* къ намъ. Ня́ня *во́дитъ* ребёнка за́ руку. *Веди́* сестру́ за руку: она уста́ла. Въ лѣсъ дровъ никто́ не *во́зитъ*. Крестья́нинъ *везётъ* дрова́. Мя́чикъ *ката́ется*. *Кати́те* мя́чикъ сюда́. Ма́льчики ча́сто *ла́зятъ* по дере́вьямъ. Ма́льчикъ *лѣзетъ* на де́рево. Мно́гія пти́цы *лета́ютъ* очень бы́стро. Эта птица *лети́тъ*, вѣроя́тно, въ своё гнѣздо́. Япо́нцы *но́сятъ* дѣте́й за спино́ю (=на спинѣ́), а европе́йцы на рука́хъ. Что вы *несёте*? Де́рево *пла́вастъ*. Это су́дно *плывётъ* про́тивъ тече́нія. Му́ха *по́лзаетъ* и лета́етъ. Му́ха *ползе́тъ* по столу́. Куда́ вы *хо́дите* гуля́ть по пра́здникамъ? Дѣти *хо́дятъ* ка́ждое у́тро въ шко́лу. Куда́ вы *идёте*? Дѣти уже *иду́тъ* изъ шко́лы. Ру́сскіе казаки́ *ѣздятъ* верхо́мъ отли́чно. Онъ нѣ́сколько разъ *ѣздилъ* за грани́цу. Офице́ръ *ѣдетъ* верхо́мъ.

4. Мои *часы́ иду́тъ* вѣ́рно. Вчера́ *шёлъ* *снѣгъ*, а сегодня *идётъ дождь*.

О немъ *идётъ* дурно́й *слухъ*. Не слѣ́дуетъ *вести́ знако́мства* съ дурны́ми людьми́. Вашъ сынъ пло́хо *ведётъ себя́*. Не зна́ю, на како́мъ иностра́нномъ языкѣ́ они *веду́тъ разгово́ръ*, но то́лько не на ру́сскомъ. Бога́тство не *ведётъ* къ и́стинному сча́стію. Нѣ́сколько лѣтъ тому́ наза́дъ япо́нцы *вели́ войну́* съ китайцами. *Вре́мя бѣжи́тъ* о́чень быстро. Онъ ча́сто *несётъ* всякій *вздоръ*.

Онъ всегда́ *но́ситъ очки́*. Онъ обыкновѣ́нно *но́ситъ* бѣ́лые *га́лстуки*. Эта сестра́ милосе́рдія хорошо́ *хо́дитъ за больны́ми*.

5. Прежде мы всегда́ *доходи́ли* до рѣ́ки́, но сего́дня не *дошли́*. Идя́ въ учи́лище, онъ пре́жде всегда *заходи́лъ* за мно́ю, но сегодня почему́-то не *зашёлъ*. Когда я *проходи́лъ* ми́мо ва́шего до́ма, я ви́дѣлъ въ окно́, что у васъ были́ го́сти. Когда я уже *прошёлъ* вашъ домъ, я встрѣ́тилъ ва́шего брата, который шёлъ къ вамъ. Весно́ю ежего́дно *прилета́ютъ* къ намъ пѣ́вчія пти́чки, *прилетя́тъ* и въ ны́нѣшнемъ году́. Онъ всегда́ что-нибу́дь *принесётъ* дѣ́тямъ, но сего́дня ничего́ не *принёсъ*.

6. Она всегда, какъ то́лько уви́дитъ меня́, сейчасъ же *убыва́етъ* изъ ко́мнаты и сего́дня, какъ только я вошёлъ, она *убѣжа́ла*. Ка́ждое лѣ́то кто-нибу́дь изъ родны́хъ *пріѣзжа́етъ* ко мнѣ, *пріѣ́детъ* кто-нибудь и въ ны́нѣшнемъ году. *Уѣзжа́я*, онъ обѣща́лъ писать ка́ждую недѣ́лю, но уже прошёлъ мѣсяцъ, какъ онъ *уѣ́халъ*, и однако я не получи́лъ отъ него ни одного́ письма́. Пре́жде онъ всегда *пріѣзжа́лъ* съ кѣмъ-нибу́дь изъ свои́хъ дѣте́й, но сего́дня *пріѣ́халъ* одинъ.

7. Пока́ вы бу́дете писать письмо́, я *похожу́* по саду. Сейчасъ онъ немно́го *похо́дитъ* на мать, но когда вы́ростетъ, ду́мается, *будетъ походи́тъ* на отца. До ве́чера еще много вре́мени; *сходи́те* теперь къ това́рищу, но только до́лго не сиди́те у него. Когда онъ *схо́дитъ* по э́той лѣ́стницѣ, онъ постоя́нно бои́тся. Если онъ ежедне́вно такъ до́лго бу́детъ ходи́ть по городу, то онъ за нѣ́сколько дней *вы́ходитъ* весь го́родъ. Переда́йте ему эту книгу, когда онъ *бу́детъ выходи́тъ* изъ ко́мнаты. Ва́ши ру́ки утоми́лись: позвольте, я *понесу́* ребёнка.

8. *Пойдёте* ли вы сегодня къ отцу?—Да, *пойду́*. Мы очень тихо идёмъ, *пойдёмте* скорѣе. Служи́тель *побѣжа́лъ* за до́ктором. За́втра я *пойду* къ сестрѣ́.

§ 109, II, 1. Переда́йте ему: если онъ *бу́детъ безпо́коить*, мы его увезёмъ изъ училища. Она всегда́ *будетъ безпоко́иться* о своей до́чери. Если назначе́ніе его на это мѣ́сто *бу́детъ зави́сѣть* отъ моего́ отца, отецъ помо́жетъ ему. Мы всегда́ *бу́демъ по́мнить* васъ. Я *предчу́вствую*, что съ нимъ случи́тся како́е-нибудь несча́стіе. Этотъ домъ *принадлежи́тъ* моему бра́ту. Я *бу́ду* сильно *сожалѣ́ть*, если случи́тся это. Я ему вполнѣ́ *сочу́вствую* и, ду́маю, всегда́ *буду сочу́вствовать*.

§ 109, II, 2. Я *бро́шу* кури́ть.—Никогда́ вы не *бро́сите*; вы уже нѣ́сколько разъ *броса́ли* и пото́мъ сно́ва начина́ли. *Бро́сьте* это письмо́ въ ками́нъ.

Не броса́йте въ каминъ. Вамъ мать *велитъ* (=прика́зываетъ) сдѣлать это; если вы не испо́лните приказа́нія ма́тери, она ска́жетъ отцу, и онъ *вели́тъ* (=прика́жетъ) вамъ. Пре́жде я всегда *дава́лъ* ему свои́ кни́ги, но вчера́ не *далъ*: не́которыхъ мои́хъ книгъ онъ ещё не возврати́лъ. Мой братъ сейчасъ очень за́нятъ: онъ *же́нитъ* сына и выдаётъ за́-мужъ дочь. Мой това́рищъ *же́нится* въ сле́дующемъ мѣсяцѣ. *Ко́нчили* (=око́нчили) ли вы своё сочине́ніе?—Еще не *ко́нчилъ* (=окончилъ), но уже *конча́ю*, скорю *ко́нчу*. Мой отецъ *покупа́етъ* сосѣдній домъ, но, вѣроятно, не *ку́питъ*: до́рого про́сятъ. Обыкнове́нно я *ложу́сь* спать въ 12-ть часо́въ, но сего́дня *ля́гу* ра́ньше: очень уста́лъ. Отцу́ обыкнове́нно *насле́дуетъ* сынъ, но когда умрётъ N, ему *насле́дуетъ* не сынъ, а дочь: сына онъ лиши́лъ насле́дства. На э́тотъ разъ я васъ *прощаю*, но въ другой разъ я васъ не *прощу́*. Ка́ждую мину́ту *рожда́ется* по нѣскольку челове́къ. Въ сле́дующемъ мѣсяцѣ у моей сестры ро́дится ребёнокъ. Сестра́ сейчасъ *рѣша́етъ* ариѳмети́ческія зада́чи; бо́льшую полови́ну уже *рѣши́ла*, скоро и остальны́я *рѣши́тъ*. Наступа́ла о́сень: *становѝлось* хо́лодно. Наступи́ла зима́: *ста́ло* холодно. Когда я уѣзжа́лъ въ дере́вню, *становѝлось* тепло́, а когда́ возврати́лся изъ дере́вни, *ста́ло* жа́рко. Пре́жде онъ всегда́ *сади́лся* ря́домъ со мно́ю, но вчера́ *сѣлъ* вдали́ отъ меня́.

§ **109, III.** Онъ *говори́лъ* до́лго, но *сказа́лъ* ма́ло. Она́ *говори́тъ* очень ме́дленно. Она *ска́жетъ* объ этомъ ма́тери. Онъ всегда́ *бьётъ* мою соба́ку; вчера́ *уда́рилъ* такъ си́льно, что она да́же завизжа́ла. Уѣзжа́я къ ма́тери, онъ обыкнове́нно *бралъ* съ собо́ю кого-нибудь изъ дѣте́й, но вчера никого не *взялъ*. *Не бери́те* той кни́ги, *возми́те* э́ту. Эти кни́ги *не клади́те* сюда́, *положи́те* на столъ.

§ **114, I, 1.** Никогда́ *не быть ему* (=не бу́детъ онъ) учёнымъ. *Не* нау́чи́*тся вамъ* (=не нау́читесь вы) пра́вильно говори́ть по-ру́сски. *Быть* гро́зѣ (=бу́детъ гроза́)!

2. Сми́рно сидѣ́*ть*! Не крича́*ть*! Не шумѣ́*ть*! Разрѣши́*ть* мѣсячный о́тпускъ. Вы́да*ть*, согла́сно про́сьбѣ, мѣ́сячное жа́лованье впере́дъ. Быть по сему́.

3. Ж. Увидѣ́*ть бы* мнѣ (=хотѣ́лось бы мнѣ увидѣть) его поскорѣе! Заста́*ть бы* мнѣ (=хотѣ́лось бы мнѣ застать) его до́ма!

3. З. Поговори́*ть бы* вамъ (=хорошо́ было бы вамъ поговори́ть) о своей боле́зни съ до́кторомъ.=*Не* поговори́*ть ли* вамъ...=*Развѣ* поговори́*ть* вамъ...

3. И. Вамъ *бы* пожи́*ть* (слѣ́довало) въ дере́внѣ и, я увѣ́ренъ, вы попра́вились бы.

II, 1. Вчера́ но́чью *слы́шу* (=услы́шалъ): *звоня́тъ* (=звони́ли) на пожа́ръ; *вска́киваю* (=вскочи́лъ) съ посте́ли, на́скоро *одѣва́юсь* (=одѣ́лся), *выбѣгаю* (=вы́бѣжалъ) изъ до́ма; на дворѣ́ дождь, вѣ́теръ; *зову́* (=позва́лъ) извозчика, извощи́ка *нѣтъ* (=не было)...

2. Онъ *началъ было* писа́ть вамъ письмо́, но ему́ помѣша́ли. Мы уже *поиели было* къ вамъ, но пріѣхали го́сти и задержа́ли насъ. Я *купи́лъ было* этотъ домъ и уже сторгова́лся, но онъ неожи́данно сгорѣлъ.

III, 1. Мы до са́маго утра *си́живали* у него.=*Быва́ло* мы до самаго утра *сидѣ́ли* у него́.

2. *Бывало* онъ чита́етъ, а мы слу́шаемъ. *Быва́ло* онъ говоритъ и улыба́ется.

3. *Бывало* онъ *вы́читаетъ* что-нибудь интере́сное и сейчасъ же *разска́жетъ* намъ. *Я* очень сожалѣ́ю, что онъ уѣ́халъ: *быва́ло зайду́* къ нему́ и *посовѣ́туюсь*, а теперь не́ съ кѣ́мъ и поговори́ть.

IV, 1. Бу́детъ ли завтра пого́да или не будетъ, я цѣ́лый день *сижу́* (=бу́ду сидѣ́ть) до́ма и *занима́юсь* (=бу́ду занима́ться). Когда́ же мы *пое́демъ* (=пое́демъ) въ дере́вню: за́втра или послѣ́ завтра?—*Пое́демъ* (=пое́демъ) за́втра у́тромъ.

2. ☞. У берего́въ Камча́тки во́дится осо́бая поро́да ча́екъ, изве́стная подъ назва́ніемъ "старико́въ"; камчада́лы лю́бятъ ихъ слѣ́дующимъ о́бразомъ: *надѣ́нутъ* (=надѣва́ютъ) они шу́бу попе́ре и потеплѣе и *ся́дутъ* (=садя́тся) ве́черомъ на морско́мъ берегу́; "стари́ки" лю́бятъ тепло́ и *позалѣзутъ* (=залѣза́ютъ) на́-ночь въ тёплую шу́бу—и въ рукава́ и къ груди́; камчада́лы *встану́тъ* (=встаю́тъ) тогда́ и *пойду́тъ* (=иду́тъ) себѣ́ не-спѣша́ домой съ свое́ю добы́чею.

3. Если *удари́ть* (=ударя́ть) ста́лью о кре́мень, то изъ него́ *посы́плются* (=сы́плются) и́скры.

4. Онъ такъ пло́хо занима́лся въ э́томъ году́, что навря́дъ ли *перейдётъ* (=мо́жетъ перейти́) въ слѣ́дующій классъ. Вода́ осты́ла до того́, что яйцо́ едва́ ли *сва́рится* (=мо́жетъ свари́ться) въ ней. Эта щель такъ мала́, что мышь *не проле́зетъ* (=не можетъ пролѣ́зть) въ неё.

V, 1. *Хоте́лось бы* мнѣ, что́бы онъ пріѣ́халъ поскорѣе.=*Жела́тельно было бы*, чтобы онъ пріѣхалъ поскорѣе.=*О е́сли бы* онъ *пріѣха́лъ* поскорѣе!=*Хотя бы* онъ пріѣ́халъ поскорѣе! *Посовѣ́товались бы* вы съ бра́томъ. *Поговори́ли бы* вы съ отцомъ. *Чтобъ* никогда́ ты *не ходи́лъ* къ нему (=я тре́бую, я прика́зываю, чтобъ.....)! Въ друго́й разъ *чтобъ вы никогда́ не дѣлали* э́того.

2. *Я написа́лъ бы* тебѣ́, но у меня́ не было свобо́днаго вре́мени. *Тебѣ бы* я написа́лъ, но у меня.....*Я бы*, а не братъ, написа́лъ тебѣ́, но.....*Письмо́ бы* я написа́лъ тебѣ́, а не запи́ску, но.....*Большо́е бы* письмо́ я написалъ тебѣ́, а не ма́лое, но.....

VI, 1. ☞. Отъ своего́ по́вара вы тре́буете невозмо́жнаго: и *сходи́* онъ (=и онъ до́лженъ сходи́ть) на ры́нокъ, и *купи́* (=до́лженъ купи́ть) ры́бы, и *вы́чисти* (=до́лженъ вы́чистить) ее, и *зажа́рь* (=долженъ зажа́рить) и всё это *сдѣ́лай* (=долженъ сдѣ́лать) въ одинъ часъ!

2. *Сдѣ́лай* (=если бы сдѣ́лали) это *мы*, насъ наказа́ли бы. *Не будь меня́* (=если бы я не былъ) до́ма, случи́лся бы пожа́ръ.

V. *Кто ни придѝ* (=ни пришёлъ бы) къ нему, онъ *никого́* не принима́етъ. Это зна́етъ *вся́кій* 或 этого *никто́* не зна́етъ, *кого́ ни спроси́* (=ни спроси́ли бы). Онъ *всё* зна́етъ 或 онъ *ничего́* не зна́етъ, *о чёмъ ни спроси* его (=ни спроси́ли бы его). Онъ чита́етъ *вся́кую* кни́гу 或 онъ не чита́етъ никако́й кни́ги, *каку́ю* ему́ *ни дай* (ни дали бы). *Когда́ ни придѝ* (=ни пришли́ бы) къ нему́, онъ *всегда́* дома 或 онъ *никогда́* не быва́етъ до́ма. *Гдѣ они́ ни живи́* (=ни жили бы), у нихъ *вездѣ́* бу́дутъ непрія́тности. *Куда́ мы ни поди́* (=ни пошли́ бы), *вездѣ́* встрѣча́емъ его.

VI. *Проси́ мы* его или *не проси* (=бу́демъ ли мы проси́ть его или не будемъ), онъ для насъ ничего́ не сдѣ́лаетъ. *Проси́те вы* его или *не проси́те* (=будете ли вы его просить или не будете), онъ вамъ не помо́жетъ.

2. Смотри́те: *не переда́йте* (=не передава́йте) объ э́томъ N, а то онъ бу́детъ серди́ться на насъ.

VII. Она *вошла́* къ намъ съ *сія́ющимъ* лицо́мъ (=съ лицо́мъ, кото́рое сія́ло =съ сія́вшимъ лицо́мъ). Она *войдетъ* къ намъ съ *сія́ющимъ* лицо́мъ (=съ лицо́мъ, кото́рое бу́детъ сіять). Распуска́*ющаяся* ро́за (=роза, кото́рая распуска́лась,) *наполня́ла* ко́мнату благоуха́ніемъ. Распуска́*ющаяся* ро́за (=роза, кото́рая бу́детъ распуска́ться,) *бу́детъ наполня́ть* ко́мнату благоуха́ніемъ. Лю́бящія дѣти *окружа́ли* умира́*ющаго* (=умира́вшаго) отца́.

§ 116, I. Человѣкъ *безъ во́здуха* такъ же не мо́жетъ жить, какъ ры́ба *безъ воды́*. Дома́ у япо́нцевъ *безъ стёколъ*. Онъ всегда́ къ концу́ мѣ́сяца быва́етъ *безъ де́негъ*. Этотъ ребёнокъ кру́глый сирота́: онъ живётъ *безъ отца́ и ма́тери* (=у него́ нѣтъ ни отца́, ни ма́тери). И пріѣ́халъ по э́той доро́гѣ *безъ вся́каго труда́*. *Безъ вся́каго сомнѣ́нія* онъ правъ. Сейча́съ *безъ че́тверти* 10-ть часо́въ. Бы́ло *безъ 5-ти мину́ть* 11 (часо́въ), когда́ они пріѣ́хали.

II. Это я сдѣ́лалъ лишь *для васъ*. Это *для васъ*, а то *для ва́шей сестры́*. Сейча́съ ли идти́, или ча́сомъ (=на оди́нъ часъ) по́зже. *для меня́* всё равно́. Онъ нашёлъ *для бра́та* (=бра́ту) о́чень хоро́шій домъ. *Для чего́* этотъ стака́нъ? —*Для пи́ва*. Она купи́ла дю́жину стака́новъ *для чая* и полдю́жины ча́шекъ *для ко́фе*. При э́томъ до́мѣ есть и сара́йчикъ *для курь́*. Не ку́пите ли вы мнѣ графи́нъ *для воды*? Онъ поже́ртвовалъ собо́ю *для бла́га* оте́чества. Она у́ѣхала на ро́дину *для свида́нія* (=чтобы повида́ться) съ родны́ми. Го́ры въ Япо́ніи ма́ло приго́дны *для земледѣ́лія*. Му́тная вода, не годна́ *для питья́*. Вашъ визи́тъ къ намъ *для всѣхъ насъ* очень прія́тенъ.

III. *Ра́ди Бо́га* помоги́те ему. *Ра́ди Христа́* сдѣ́лайте это для меня́. Ему́ увели́чили содержа́ніе (=жа́лованье) не *ра́ди его́ самого́*, а *ра́ди* его́ *многочи́сленнаго семе́йства*.

IV. *До дере́вни* мы е́хали два часа́. Это аллея идётъ *до са́маго хра́ма*. Далеко́ ли отсю́да *до дере́вни* N и отъ э́той дере́вни *до го́рода*? Я *дочиталъ* кни́гу *до послѣ́дней страни́цы*. *До сего́дняшняго дня* я ничего́ не зналъ объ

этомъ. Онъ сидѣлъ у насъ *до 9-ти часо́въ*. Онъ рабо́таетъ съ ра́ниняго утра *до по́здняго ве́чера*. Вчера́ я про́былъ у него́ отъ 2 (=двухъ) часо́въ *до полови́ны* 6-го. Онъ до́жилъ *до преклóнныхъ лѣтъ*. Япо́нское госуда́рство уже́ существова́ло *до Р. Х.* Онъ обѣща́лъ придти́ къ намъ *до обѣда*. *До поступле́нія* въ учи́лище меня́ учи́ла мать. Въ этомъ я̈щикѣ *до* 10-*ти фу́нтовъ*. Ско́лько было у васъ де́негъ?—Вѣрно не зна́ю, но, ду́маю, *до* 100 *рубле́й* (=рубле́й сто) бы́ло. Закрича́ли: "пожа́ръ" и толпа́ люде́й отъ 50-ти *до* 60-*ти человѣкъ* бро́силась къ дверя́мъ. Непрія́тель въ количествѣ *до* 10-*ти ты́сячъ* челове́къ подступи́лъ къ го́роду.

Мнѣ нѣтъ *до э́того* никако́го *дѣла*: это дѣло *меня́* соверше́нно не *каса́ется*. Пожа́луйте сюда́ на-мину́ту: у меня́ есть *до ва́съ* (=къ вамъ) одна́ *про́сьба*.

V, 1. Возврати́лся ли онъ *изъ учи́лища*? Эта доро́га—*изъ То́кіо* въ Іокога́му. Когда онъ ушёлъ *и́зъ дому* (а)? Онъ хорошо́ вы́держалъ экза́менъ, и переведёнъ *изъ 2-го кла́сса* въ 3-ій. Рѣки вы́ступили *изъ берего́въ*.

備考 Услы́шавши это, онъ соверше́нно *вы́шелъ изъ себя́*. И уже давно́ *потеря́лъ* его *изъ ви́ду* (а). Этотъ уче́бникъ уже *вы́шелъ изъ употребле́нія*. Этотъ цвѣтъ *вы́шелъ изъ мо́ды* ещё въ про́шломъ году́. Она соверше́нно *вы́билась изъ силъ*.

3. Онъ не *изъ купцо́въ*, а *изъ дворя́нъ*. Онъ ро́домъ *изъ го́рода*, а не *изъ дере́вни*. Онъ *изъ* о́чень *хоро́шей семьи́*.

4. Эта цѣпо́чка *изъ зо́лота* (=золота́я), а та *изъ серебра́* (=серебряная) и лишь позоло́чена. *Изъ чего* это сдѣлано?—Ду́маю, *изъ стали*, а мо́жетъ быть, и *изъ друго́го како́го-нибу́дь мета́лла*. Она сши́ла себѣ пла́тье *изъ шёлка*.

5. Годъ состои́тъ *изъ* 12-*ти мѣсяцевъ*, мѣсяцъ состои́тъ *изъ* 4-*хъ неде́ль*, а недѣля *изъ* 7-*ми дней*. *Изъ ско́лькихъ листо́въ* (=во ско́лько листо́въ) вы сши́ли тетра́дь? Ка́ждый полкъ состои́тъ *изъ шести́ ротъ*.

6. Кото́рая *изъ ва́шихъ сестёръ* больна́? Ка́ждый *изъ насъ* поступи́лъ бы то́чно та́кже. Кто-нибу́дь *изъ насъ* до́лженъ оста́ться до́ма. N. са́мый прилѣ́жный *изъ мои́хъ това́рищей*, а N. са́мый спосо́бный.

7. Его́ при́няли на казённое содержа́ніе лишь *изъ сострада́нія* къ бѣдности его роди́телей. *Изъ го́рдости* онъ не хотѣлъ приня́ть отъ меня́ этой по́мощи. Я помога́ю ему *изъ благодарности* къ его отцу́.

9. Солда́ты уже́ тре́тій день *стреля́ютъ изъ пу́шекъ*. Онъ *вы́стрѣлилъ изъ ружья́* въ стѣну.

VI. Со́лнце поднялось *изъ-за горъ*. Онъ доста́лъ кни́гу *изъ-за стола́*. Мы отужинали и вста́ли *изъ-за стола́*. Онъ оста́лся на повтори́тельный ку́рсъ *изъ-за лѣности*, а не по другой како́й-нибу́дь причи́нѣ. *Изъ-за э́того господи́на* у меня́ вы́шли большія непріятности съ родны́ми. *Изъ-за меня́*, пожа́луйста, не стѣсня́йтесь.

VIII. Мы отъѣхали *отъ го́рода* не бо́лѣе трёхъ вёрстъ, когда они догна́ли

нясь. Непріятель отступи́лъ *отъ крѣпости*. Ихъ да́ча не далеко́ *отъ го́рода*. Онъ живётъ *отъ меня́* о́чень бли́зко. *Отъ Токіо* до Іокога́мы 18-ть миль. *Отъ Іокога́мы* до Ко́бе мы ѣхали по желѣ́зной доро́гѣ, а *отъ Кобе* до Нагаса́къ на парохо́дѣ.

Сего́дня по́слѣ обѣ́да я отдыха́лъ *отъ двухъ* до трёхъ съ полови́ною часо́въ. По ошибкѣ я взялъ съ собо́ю зо́нтикъ *отъ дождя́*, а не *отъ со́лнца*. *Отъ ста́рости* нѣтъ лека́рства.

6. Она пла́кала не *отъ печа́ли*, а *отъ ра́дости*. *Отъ всѣхъ э́тихъ непрія́тностей* она заболѣ́ла. Вы дрожи́те *отъ хо́лода*; сади́тесь бли́же къ хиба́ци.

7. Эта пу́говица, ка́жется, *отъ ва́шего пальто́*. Цѣпо́чку *отъ часо́въ* я отда́лъ почи́стить.

IX. 1. *У кого́* вы были вчера́ ве́черомъ?—Былъ *у сосѣда*. *У кого́* кварти́руетъ вашъ сынъ?—Пре́жде онъ квартирова́лъ *у одного́ своего́ учи́теля*, а тепе́рь живётъ *у моего́ дя́ди*. Я написа́лъ ему́, что бу́ду ждать его не *у себя́*, а *у* его *бра́та*. *У меня́* вы́шли на этихъ дняхъ большія непрія́тности съ бра́томъ. *У нихъ* постоя́нно быва́ютъ со́боры. Мой служи́тель живётъ *у меня́* уже́ 12-ый годъ. **2.** Ско́лько *у васъ* сейча́съ де́негъ?—Сейча́съ *у меня́* лишь нѣ́сколько рубле́й. *У него́*, ка́жется, о́чень мно́го долго́въ. *У моего́ отца́* на этой у́лицѣ три дома. Кто *у него* друзья́? Что *у васъ* въ рукѣ́? Нѣтъ ли *у васъ* но́выхъ книгъ? Кака́я *у него* болѣ́знь?—*У него* лихора́дка. **3.** Онъ стоя́лъ *у са́мой две́ри*. Мы сидѣ́ли *у рѣки́* (=на берегу́ рѣки́). Дѣти стоя́ли *у посте́ли* умира́вшаго отца́ и го́рько пла́кали. **4.** Цѣпо́чка *у ва́шихъ часовъ* загрязни́лась. Воротни́къ *у ва́шего пальто́* запа́чкался; прикажи́те его почи́стить. **6.** *У кого́* вы берёте уро́ки по ру́сскому языку́?—Беру́ *у одного́ Ру́сскаго*.

§ 117, 1—3. Куда вы идёте?—Иду́ *къ брату*. Не придёте ли вы *ко мнѣ* за́втра ве́черомъ? Если у васъ есть вре́мя и охо́та, заходи́те сего́дня *ко мнѣ* по́слѣ уро́ковъ. Прошу́ васъ пожа́ловать *ко мнѣ* на ча́шку ча́я. Ва́ши кни́ги я уже́ отпра́вилъ *къ сестрѣ*. Парохо́дъ уже́ *приста́лъ къ бе́регу*. Чья́-то каре́та *подъѣ́хала къ крыльцу́*. Парохо́дъ пошёлъ *ко дну*. Кто *къ намъ* *прі́ѣхалъ*? Во́лга течётъ снача́ла *къ восто́ку*, а пото́мъ *къ го́лу*. **4.** Я имѣ́ю поруче́ніе отъ ва́шего отца́ *къ ва́шему бра́ту*. Насло́дство перешло́ по завѣща́нію не *къ ро́дственникамъ*, а *къ* соверше́нно *сторо́ннимъ* *лицамъ*. Письмо́ *къ дру́гу*. Письмо́ отъ дру́га. **5.** Приба́вьте *къ э́тому* еще́ и слѣ́дующее. Пришёйте эту пу́говицу *къ зи́мнему пальто́*. Ко́шка привя́зывается *къ до́му*, а не *къ челове́ку*. **6.** Гото́вы ли вы *къ отъѣ́зду*? Я гото́въ (=согла́сенъ) на отъѣ́здъ. **7.** У него большая́ любо́вь *ко всѣмъ свои́мъ роднымъ*. **8.** У него́ больша́я *ве́ра къ лю́дямъ*. У него́ больша́я вѣ́ра въ люде́й. **12.** Онъ пріѣ́халъ не *къ за́втраку*, какъ я проси́лъ его́, а лишь *къ вечернему ча́ю*. Онъ обѣща́лъ возврати́ться *къ концу́ лѣта*. Приходи́те ко мнѣ *къ 6-ти часа́мъ*.

Къ нача́лу уро́ка онъ опозда́лъ. Мы пріѣ́хали на ста́нцію какъ-разъ *къ отхо́ду* по́ѣзда.

§ **118. I. 1.** Вчера я былъ у N. и тамъ мно́го слы́шалъ *про ва́шего бра́та. Про э́ту дѣ́вушку*, кро́мѣ хоро́шаго, ничего́ нельзя́ сказа́ть. *Про него́* сочини́ли цѣ́лую исто́рію. *Про него́* прошла́ молва́, что онъ у́меръ. Что слы́шно *про него́*?—*Про него́* я ничего́ не слы́шалъ. **2.** *Про вся́кій случа́й* (=на всякій слу́чай) возьми́те съ собо́ю дождево́й зо́нтикъ (=зо́нтикъ отъ дождя́). Хорошо́нько поду́майте *про себя́* и пото́мъ скажи́те намъ. Намъ говори́тъ онъ одно́, а *про себя́* ду́маетъ другое. *Про запа́съ* у него всего мно́го.

II, 1. Какъ вы перепра́вились *че́резъ ри́ку*?—Мы переѣ́хали *черезъ ри́ку* по́ мосту. Воръ перелѣ́зъ *че́резъ забо́ръ*. Этотъ мальчикъ хотѣ́лъ перескочи́ть *че́резъ кана́ву*, но поскользну́лся и упа́лъ въ неё. Какъ вы поѣ́дете въ Россію: *черезъ Аме́рику* или *черезъ Сибирь*? Эта доро́га идётъ *черезъ го́ры*. **2.** Онъ обѣща́лъ возрати́ться ро́вно *черезъ ме́сяцъ*. До́кторъ приказа́лъ принима́ть лека́рство *черезъ ка́ждые два часа́* по ча́йной ло́жкѣ. Пожалуйста, обожди́те меня́; *мину́ту черезъ де́сять* я возвращу́сь, и тогда́ пойдёмъ вмѣ́стѣ. **3.** *Черезъ кого́* онъ присла́лъ вамъ это письмо́?—*Черезъ служи́теля*. *Черезъ кого́* вы получи́ли такое́ хоро́шее мѣ́сто?—*Черезъ отца́* жены́. О прода́жѣ своего́ до́ма мы сдѣ́лали объявле́ніе *черезъ газе́ты*. *Черезъ лази́чиковъ* мы узна́ли, что въ го́родѣ мало во́йска. Онъ рабо́таетъ *черезъ си́лу*.

III. Мы съ большо́имъ трудо́мъ пробра́лись *сквозь толпу́*. Эта бума́га нехороша́: *сквозь неё* протека́ютъ черни́ла. *Сквозь тума́нъ* вдали́ виднѣ́лся огонёкъ. Онъ на поведе́ніе свои́хъ дѣте́й смо́тритъ *сквозь па́льцы* (=не обраща́етъ внима́нія).

§ **119, 1.** Онъ держа́лъ зо́нтикъ *надъ головою́*. Во второ́мъ этажѣ́ *надъ э́тою ко́мнатою* помѣща́ется спа́льня. *Надъ на́ми* я́рко сія́ло со́лнце, а вдали́ *надъ мо́ремъ* виднѣ́лась ту́ча. Вы́вѣска *надъ воро́тами* стёрлась. Мы стоя́ли *надъ са́мою рѣко́ю* на скалѣ́. **2.** Я до́лго ду́малъ *надъ э́тимъ вопро́сомъ*. *Надъ э́тимъ сочине́ніемъ* я труди́лся цѣ́лый годъ. Зачѣ́мъ вы сиди́те *надъ э́тою скучною рабо́тою*, если она вамъ опротивѣ́ла? **3.** Суругадайскій правосла́вный храмъ возвыша́ется почти́ *надъ всѣ́мъ Токіо*. Онъ надсма́триваетъ *надъ свои́мъ мла́дшимъ бра́томъ* и *надъ нѣкоторыми други́ми ученика́ми*. Въ э́томъ учи́лищѣ о́чень плохъ надзо́ръ *надъ ученика́ми*. *Не смѣ́йтесь надъ други́ми*, если не хоти́те, чтобы другіе смѣ́ялись надъ ва́ми. *Не смѣ́йся чужо́й бѣдѣ́*. *Сжа́льтесь надъ нимъ*: онъ сильно уста́лъ.

§ **120, 1.** Онъ слу́житъ чино́вникомъ *при губерна́торѣ*.—Онъ живётъ еще *при отцѣ́*. *При како́мъ* (=На како́мъ) онъ тепе́рь *мѣ́стѣ*?—Если не ошиба́юсь, онъ сейча́съ слу́житъ перево́дчикомъ *при ко́нсульствѣ*. *При этой кни́гѣ* есть и оглавле́ніе. *При Русскомъ посо́льствѣ* въ Токіо есть це́рковь. *При этомъ до́мѣ* большо́й садъ. Петербу́гъ стои́тъ *при у́стьѣ* рѣ́ки Невы́.

2. Это произошло́ *при мно́гихъ свиде́теляхъ.* Я *при васъ* сказа́лъ имъ это; вы забы́ли. **3.** *При Петре́ Вели́комъ* Россія вошла́ въ дру́жескія сноше́нія съ госуда́рствами За́падной Евро́пы. **4.** *При э́томъ ужа́сномъ изве́стіи* она вполнѣ́ сохрани́ла прису́тствіе ду́ха. Бу́дьте добры́, *при слу́чаѣ* переговори́те съ нимъ объ этомъ.—Хорошо́, *при удо́бномъ слу́чаѣ* я поговорю́ съ нимъ. *При изуче́ніи* геогра́фіи необходи́мъ гло́бусъ. Онъ тепе́рь *при деньга́хъ*. *При одно́й мы́сли* объ э́томъ я всегда́ содрога́юсь. *При встрѣ́чѣ* со мною онъ всегда́ дѣ́лаетъ видъ, что меня́ не замѣча́етъ.

§ **121, 1, 1.** Дѣ́ти побѣжа́ли *за воро́та*. Сади́тесь *за столъ*. Мы сади́лись *за у́жинъ* (=у́жинать), когда́ зазвони́ли на пожа́ръ. **2.** Я пріѣ́халъ на ста́нцію ро́вно *за двѣ мину́ты* до отхо́да по́ѣзда. Это случи́лось *за неде́лю* до ва́шего пріѣ́зда. Если не ошиба́юсь, это было *за́ годъ* или *за два*, какъ у него у́меръ пе́рвый ребёнокъ. **3.** *За эти два го́да* онъ о́чень измѣни́лся. Всѣ свои́ уро́ки сегодня я пригото́вилъ *за два* съ че́твертью *часа*. *За два—за три дня* я, вѣроя́тно, око́нчу всѣ свои́ дѣла́ и сейча́съ же уѣ́ду въ дере́вню. **4.** Моя́ мать уже́ стару́ха: ей *за* 60 *лѣтъ*. **5.** Домъ моего́ бра́та *за двѣ версты́* (=въ двухъ верста́хъ) отсю́да. Я замѣ́тилъ васъ, когда́ вы были ещё далеко́, *версты́ за двѣ—за три*. **7.** Сколько вы заплати́ли *за э́ту книгу*?—Я заплати́лъ *за неё* два рубля́. *За сколько* онъ прода́лъ свою́ ло́шадь?—Онъ прода́лъ её *за* 60 *рублей*. **8.** Кита́йцы пло́хо сража́лись *за свое́ отече́ство*. **10.** Благодарю́ васъ *за ва́шу по́мощь*. Никогда́ не мсти *за обиды*, кото́рыя нанесятъ тебѣ́. Братъ былъ нака́занъ *за ша́лость и лѣ́ность*, а сестра́ получи́ла награ́ду *за хоро́шее поведе́ніе и прилежа́ніе*. Его всѣ лю́бятъ *за его че́стность и справедли́вость*. Серди́ться зна́читъ нака́зывать себя *за погрѣ́шности* други́хъ. **11.** Дочь моего́ сосѣда *вы́шла за́-мужъ за моего́ това́рища*.

11, 1. Его домъ *за ни́зкимъ сѣ́домъ*. Сего́дня былъ пожа́ръ *за́-городомъ*. Го́сти ещё сидя́тъ *за столо́мъ*. Онъ прише́лъ, когда́ я былъ *за рабо́тою* и помѣша́лъ мнѣ. Что сегодня бу́детъ у насъ *за обѣ́домъ*? Сегодня *за за́втракомъ* ры́ба была́ не осо́бенно свѣ́жа. **2.** Ста́ршая дочь шла впереди́, други́я дѣти шли *за нею*. *За ученика́ми* шли учителя́ и надзира́тели. Ста́ршій вашъ братъ шёлъ пе́редо мною, а мла́дшій *за мною*. Лѣто слѣ́дуетъ *за весно́ю*. Затворя́йте дверь *за собо́ю*. *За гро́бомъ* шли родны́е и знако́мые. Онъ дѣ́лаетъ *глу́пость за глу́постью*. Тепе́рь о́чередь *за мно́ю*. Онъ получи́лъ большо́е *прида́ное за жено́ю*. *За Бо́гомъ* моли́тва, а за царёмъ служба никогда́ не пропада́етъ, говори́тъ русская пословица. **3.** Эта гувернантка хорошо́ смо́тритъ *за дѣтьми́*. Она не умѣ́етъ ухаживать *за больны́ми*. У него дурна́я привы́чка подсма́тривать и подслу́шивать *за ка́ждымъ*. *За нимъ* я уже́ давно́ замѣча́ю это. **4.** Она пошла́ въ ла́вку *за поку́пками*. Посла́ли ли *за до́ктором*ъ? **5.** *За свое́ю боле́знію* (=по слу́чаю своей́ болѣ́зни) я уже три дня не былъ въ учи́лищѣ. *За темнотою́* ночи (=такъ какъ ночь была́ темна́)

мы ничего́ не ви́дѣли, а *за шу́момъ* вѣтра ничего́ не могли́ разслы́шать. *За неимѣ́ніемъ* вре́мени я не могъ око́нчить этой рабо́ты. 6. *За исключе́ніемъ* меня́ всѣ мои́ това́рищи вчера́ ходи́ли за́-городъ. *За вы́четомъ* 5-ти́ рубле́й, кото́рые я до́лженъ сего́дня переда́ть бра́ту, у меня́ оста́нется то́лько 3 рубля́.

§ **122, I, 1.** Положи́те письмо́ *подъ кни́гу*, а не на кни́гу. Когда́ начина́лся дождь, мы съѣзжа́ли *по́дъ го́ру*. Ста́немте *подъ де́рево*; тамъ дождь насъ не замо́читъ. 2. Оди́нъ попа́лъ *подъ судъ*, а друго́й освобождёнъ изъ-подъ суда́. Онъ даётъ въ долгъ де́ньги, но *подъ бо́льшіе проце́нты*. 3. Онъ терпѣ́ть меня́ не мо́жетъ, и уже́ давно́ подка́пывается *подъ меня́*. 4. Оди́нъ мой това́рищъ очень иску́сно поддѣ́лывается *подъ э́того учи́теля*, *подъ* его *похо́дку*, *го́лосъ*, да́же *подъ почеркъ* его письма́. Вы́красьте этотъ шкапъ *подъ кра́сное де́рево*. Онъ проси́лъ меня́ подобра́ть ему ло́шадь *подъ цвѣтъ* той па́ры, на кото́рой онъ постоя́нно разъѣзжа́етъ. 5. Онъ возврати́лся домо́й лишь *подъ у́тро*. Онъ у́меръ *подъ са́мый но́вый годъ*. Чему́ въ мо́лодости не нау́чишься, того *подъ ста́рость* не бу́дешь знать.

II, 1. Я уже́ сплю *подъ тёплымъ одѣя́ломъ*. Онъ стоя́лъ *подъ дождёмъ*, а я укры́лся *подъ де́ревомъ*. Она гуля́ла въ саду́ съ кни́гою *подъ мы́шкой*. Онъ стоя́лъ *подъ окно́мъ* и разгова́ривалъ съ нами. Мы стоя́ли *подъ откры́тымъ не́бомъ*. 2. Мы догна́ли ихъ *подъ са́мымъ го́родомъ*. *Подъ Бородино́мъ* въ 1812-о́мъ году́ произошло́ знамени́тое сраже́ніе. 3. Онъ уже́ третій годъ нахо́дится *подъ судо́мъ* и *подъ надзо́ромъ* поли́ціи. *Подъ стра́хомъ* большо́го наказа́нія ему запрещёнъ въѣ́здъ въ столи́цу. Мы живёмъ *подъ охра́ною* зако́на. Онъ всѣ́мъ изве́стенъ въ го́родѣ *подъ и́менемъ* "дѣ́душка." Его взя́ли *подъ карау́лъ*; онъ еще нахо́дится *подъ карау́ломъ*. *Подъ какимъ гра́дусомъ* лежи́тъ Токіо?

§ **123, II,** *Пе́редъ мои́мъ до́момъ* большая пло́щадь. Она стоя́ла *передъ зе́ркаломъ* и расчёсывала свои́ во́лосы (á). *Передъ нимъ* мы стоя́ли безъ шля́пъ (=сня́вши шля́пы). Онъ стоя́лъ *передъ судо́мъ* и ничего́ не могъ сказа́ть въ своё оправда́ніе. 2. Я *передъ нимъ* много винова́тъ. Онъ поступи́лъ *предо мно́ю* о́чень несправедли́во. 3. Его оклевета́ли *предъ все́ми* его *това́рищами*. Онъ унижа́ется *передъ челове́комъ*, недосто́йнымъ никако́го уваженія. Я не смогъ оправда́ться *передъ нимъ*. 4. Я хорошо́ созна́ю, что онъ и́мѣетъ большо́е преиму́щество *предо мною*. Ему, какъ иностра́нцу, предоста́вили почётное мѣ́сто *предъ все́ми други́ми гостя́ми*. Располага́я больши́мъ капита́ломъ, онъ и́мѣетъ большу́ю вы́году *предъ все́ми други́ми купца́ми* въ своёмъ го́родѣ. 5. Онъ обѣща́лъ возвратиться *передъ но́вымъ го́домъ*. *Передъ обѣ́домъ и у́жиномъ* онъ и́мѣетъ обыкнове́ніе пить по рю́мкѣ во́дки. За нѣ́сколько дней *передъ э́тимъ* я заходи́лъ къ нимъ, но никого́ изъ нихъ не засталъ до́ма.

§ **124, I, 1.** Онъ доста́лъ де́ньги изъ пи́сьменнаго стола́ и положи́лъ ихъ *въ боково́й карма́нъ*. Они пошли́ *въ городско́й садъ*. Она пригласи́ла насъ

войти́ *въ домъ*. Куда идётъ эта дорóга?—Эта дорога изъ Токіо *въ Іокогáму*. Мáльчикъ упалъ *въ вóду*. Когда вашъ братъ поступáетъ *въ учúлище*? **2.** Онъ хóчетъ поступúть *въ воéнную слýжбу*. **3.** У нея нѣтъ никакóго дѣла, и она постоя́нно смóтритъ *въ окно* на прохóжихъ. Онъ вы́сунулъ гóлову *въ окно*. Онъ смотрѣ́лъ на меня *въ очкú*. Смотрѣ́ть черезъ очкú **4.** Зáвтра я пойдý *въ гóсти* къ сосѣ́ду. N на-дняхъ произведенъ *въ полкóвники*. **5.** Онъ приходúлъ ко мнѣ *въ срéду* вéчеромъ. Я буду у васъ *въ два* съ полови́ною *часá* по-полýдни. *Въ то врéмя* я еще и не родúлся. Мы пріѣ́хали въ Сендáй рóвно *въ пóлдень*. *Въ прóшлый вашъ пріѣ́здъ* къ намъ погóда всё врéмя стоя́ла очень скверная. *Во врéмя* войны́ онъ уѣ́зжáлъ изъ Китáя. *Въ войну* 1812 года Русскіе обнарýжили большýю любóвь къ отéчеству. *Въ царствованіе* Императора Николáя I-го въ Петербýргѣ было большóе наводнéніе. Я говорю́ это вамъ *въ пéрвый и послúдній разъ*, бóльше напоминáть не бýду. Онъ принёсъ мнѣ пальтó рóвно *въ срокъ*. Сейчасъ мнѣ нéкогда: я зайдý къ вамъ *въ другóй разъ*. **6.** *Во скóлько часóвъ* (=въ продолжéніе скóлькихъ часовъ) вы написáли это сочинéніе?—Я написáлъ его *въ три* и *три чéтверти* часа. Я окóнчу э́ту робóту *въ нéсколько часóвъ*. *Въ каникулы* онъ забылъ почтú всё, что зналъ прéжде. Я бывáлъ у нихъ разъ *въ недѣ́лю*. Я обыкновéнно гуля́ю по два рáза *въ сýтки*: ýтромъ и вéчеромъ. *Въ теченіе* 18-го вѣ́ка Россія велá мнóго знаменúтыхъ войнъ. **7.** Онъ оцѣни́лъ мои́ золотые́ часы́ *въ сто рублéй*. Онъ купúлъ домъ (цѣ́ною) *въ 5-ть тысячъ* рублей. **8.** На вáше úмя полýченъ я́щикъ вѣ́сомъ *въ два* съ полови́ною *пýда*. **9.** Домъ, въ которомъ я живý, *въ три этажá*. Моя гости́ная имѣ́етъ *въ длину́* 4-ре сажéни, *въ ширину́* три и *въ высоту́* полторы́. **10.** Сегодня я вы́училъ свои́ урóки *въ два раза* скорѣ́е, чѣмъ вчерá. Въ томъ учúлищѣ *въ три рáза* бóльше учениковъ, чѣмъ въ нáшемъ. **12.** Онá вся *въ мать*. Христіáне *вѣ́рятъ въ Гóспода Іисýса Христá*, а буддúсты *въ Бýдду*. Безъ *вѣ́ры въ прóмыслъ* Божій человѣ́ку трýдно жить. Я вѣ́рю *въ людéй*. Я вѣ́рю (=довѣря́ю) лю́дямъ. У него большáя вѣ́ра (=довѣ́ріе) къ лю́дямъ. *Позвонúте въ колокóльчикъ*. Въ новогóдніе прáздники япóнцы имѣ́ютъ обыкновéніе *играть въ кáрты*. Лю́бите ли вы *игрý въ шáхматы*?—*Въ шáхматы* я не *играю́*, но я люблю́ *играть въ шáшки*. Она ещё ребёнокъ: она ещё до сихъ поръ *игрáетъ въ кýклы*. Сынъ *уродúлся въ мать*, а дочь *въ отцá*.

11, 1. *Въ нáшей рѣкѣ* очень мнóго ры́бы. Прéжде онъ жилъ *въ Петербýргѣ*, но недáвно переѣ́халъ въ Москвý. Онъ пролежáлъ *въ постéли* двѣ недѣ́ли. Мы обыкновéнно гуля́емъ *въ городскóмъ садý*. *Въ одной рукѣ́* онъ держáлъ зóнтикъ, а *въ другóй* перчáтки. **2.** Онъ былъ сегóдня *въ* óчень *весёломъ расположéніи* дýха. Онъ весь *въ долгáхъ*. Этотъ домъ содéржится *въ большóмъ порядкѣ*. Желáю вамъ успѣ́ха *въ вáшихъ дѣлáхъ*. Онъ уже давнó *въ отстáвкѣ*. Онъ былъ весь *въ потý*. Въ Уено вúшни уже *въ цвѣтý*. **3.** Замѣ́тили ли вы

го́сподина *въ золоты́хъ очка́хъ*, кото́рый стоя́лъ ря́домъ со мно́ю? Она всегда́ *въ перча́ткахъ*. Что это вы *въ зи́мнемъ пальто́*? Вѣдь еще не хо́лодно. На свадьбу обыкновенно хо́дятъ *въ чёрномъ фра́кѣ* и *въ бѣлыхъ перча́ткахъ*. **4.** Онъ возврати́лся домо́й *въ пе́рвомъ часу́* (въ часъ). Я всегда встаю́ *въ восьмо́мъ часу* (въ во́семь часо́въ), обѣ́даю *въ пе́рвомъ* (въ часъ), вечёрній чай пью *въ четвёртомъ* (въ четы́ре), у́жинаю *въ восьмо́мъ* (въ во́семь) и ложу́сь спать *въ 12-омъ* (въ 12-ть). Онъ обѣща́лъ прі́ѣхать *въ послѣ́днихъ чи́слахъ* ма́рта и, дѣ́йствѝтельно, прі́ѣхалъ 30-го. Онъ, ка́жется, роди́лся *въ февралѣ́*; да?—Да, онъ роди́лся 10-го февраля́. Гдѣ вы были *въ послѣ́днихъ чи́слахъ* декабря́: въ го́родѣ или въ дере́внѣ?—*Въ послѣ́днихъ чи́слахъ* я былъ въ дере́внѣ, въ го́родъ я возврати́лся въ *пе́рвыхъ чи́слахъ января́*. Весе́ннее равноде́нствіе быва́етъ *въ ма́ртѣ*, а осе́ннее *въ сентябрѣ́*. *Въ э́томъ мѣсяцѣ* будетъ еще нѣ́сколько пра́здниковъ, но *въ слѣ́дующемъ*, ка́жется, не будетъ ни одного́. Импера́торъ Алекса́ндръ III. (=Третій) скончался *въ 1894-омъ году́*. Пу́шкинъ роди́лся 26-го Мая 1799-го го́да и умеръ 22-го января́ 1837-го года. Мы живёмъ *въ 20-омъ вѣ́кѣ* (=столѣ́тіи). *Въ концѣ́* 19-го столѣ́тія Китай обнару́жилъ полнѣ́йшее своё безси́ліе въ вое́нномъ отноше́ніи.

5. Іокогама лежитъ *въ 18-ти ми́ляхъ* отъ Токіо. Моя́ да́ча *въ двухъ верстѝхъ* отъ го́рода. Я стоя́лъ вблизи́ васъ, лишь *въ нѣ́сколькихъ сажёняхъ*. **6.** Онъ не *винова́тъ въ э́томъ*. Онъ очень *вѣ́жливъ въ обраще́ніи* съ людьми́, кото́рые вы́ше его по положе́нію, но онъ очень *грубъ въ сноше́ніяхъ* съ свои́ми подчинёнными. *Въ этихъ дѣла́хъ* о́пытенъ вашъ сосѣ́дъ: вы съ нимъ посовѣ́туйтесь. **7.** *Въ чёмъ* (заключа́ется) дѣ́ло?—Дѣ́ло *въ томъ*, что мнѣ сейча́съ нужны́ де́ньги. *Извини́лся* ли онъ предъ ва́ми *въ этомъ*? Ка́ждый человѣ́къ нужда́ется *въ любви́* родны́хъ и въ дру́жбѣ знако́мыхъ. Онъ превосхо́дитъ своего́ бра́та *въ спосо́бностяхъ, въ трудолю́біи, въ познаніяхъ*. Я не сомнѣва́юсь *въ* его *че́стности и благоро́дствѣ*. Я всегда́ былъ убѣ́жденъ *въ* его *неви́нности*. Я соверше́нно увѣ́ренъ *въ э́томъ*. Отчего́ вы не уча́ствуете *въ э́томъ о́бщемъ дѣлѣ*?

§ **125, 1, 1.** Поста́вьте ла́мпу *на столъ*. Вы сади́тесь *на дива́нъ*, а я сяду *на стулъ*. Я, ка́жется, наступи́лъ вамъ *на ногу*. Сего́дня хо́лодно: надѣ́ньте что-нибудь *на дѣте́й*, да и *на себя* надѣ́ньте что-нибудь потеплѣе.

2. И нашъ полкъ на-дняхъ отправля́ется *на войну́*. Эти мастеровы́е вѣроя́тно, иду́тъ *на рабо́ту*. Пое́дете ли завтра *на да́чу*? Пое́дете ли вы *на конце́ртъ*? Пригласи́лъ ли онъ васъ *на свою́ свадьбу*? Онъ уѣ́халъ *на ро́дину*. **3.** Этотъ домъ пере́днею сторо́ною обращёнъ *на востокъ* (=къ восто́ку). **5.** Я оберну́лся къ стѣнѣ́, лёгъ *на́ бокъ* и скоро засну́лъ. Онъ сталъ *на колѣни* и на́чалъ моли́ться. **6.** Я пришёлъ къ вамъ лишь *на одну́ мину́ту*: совершённо нѣтъ вре́мени. Я пригласи́лъ къ себѣ́ това́рищей *на пя́тый день*. *На лѣто* я ду́маю уѣ́хать въ дере́вню. **7.** Онъ уѣ́халъ *на тре́тій день* (черезъ два дня)

по́слѣ свои́хъ именинъ. Онъ уѣ́халъ за день до пожа́ра. *На бу́дущее вре́мя* бу́дьте осторо́жнѣе. 9. *На ска́лько* (=*на како́ю ці́ну*) вы купи́ли апельси́новъ? —*На* 20-*ть се́новъ*. Купи́те мнѣ *на* 30-*ть копѣ́екъ* почто́вой бума́ги, а *на оста́льны́е де́ньги* стальны́хъ пе́рьевъ. **10**. Вашъ фракъ дли́ненъ; его слѣ́дуетъ *укороти́ть* почти́ *на верши́къ*. **11**. Я живу́ *на* 10-*ть ве́рстъ да́льше* отъ го́рода, чѣмъ вы. Сего́дня *на* 3 *гра́дуса холодне́е*, чѣмъ бы́ло вчера. Мы прі́ѣхали *на три часа* (=тремя́ часами) *ра́ньше*, чѣмъ предполага́ли. **12**. Ура́льскія го́ры *раздѣля́ютъ* Россійскую имперію *на двѣ нера́вныя ча́сти*. *Разрѣ́жьте* это я́блоко *на двѣ ра́зныя части*. **13**. Я *гото́въ* (=согла́сенъ) *на отъѣ́здъ*. Я готовъ къ отъѣ́зду. Онъ *спосо́бенъ на воровство́*. Онъ способенъ къ воровству́. **14**. Онъ имѣ́етъ *пра́во на получе́ніе* пе́нсіи. **15**. Она *глуха́ на пра́вое у́хо*. Онъ *слѣпъ на ле́вый глазъ*. **16**. Ку́шайте, пожа́луйста, *на-здоро́вье*. Случи́лось *на бѣду́*, что меня́ не́ было до́ма. *На моё сча́стіе* я проснулся, въ проти́вномъ слу́чаѣ случи́лся бы пожа́ръ. Во всѣ́комъ слу́чаѣ я сдѣ́лаю это *на-у́дачу*. **17**. Если вы возьмёте *на себя́* отвѣ́тственность, я сдѣ́лаю, какъ вы совѣ́туете. Злой человѣ́къ *клевещетъ на всѣ́каго*. Вы напра́сно *нападаете на него*. Теперь у меня остаётся *надежда* лишь *на васъ*. Вы *отвѣча́йте* лишь *на вопро́съ* и ли́шняго не говори́те. Получи́ли ли вы *отвѣ́тъ на свою́ про́сьбу*? Эта телегра́мма—*отвѣ́тъ на моё поздравле́ніе*. Къ за́втрашнему дню *переведи́те* эту главу́ съ ру́сскаго языка́ *на япо́нскій*. Онъ о́чень уда́чно *перложи́лъ* этотъ разска́зъ *на япо́нскій язы́къ*. Онъ возврати́лся съ рабо́ты и *перемѣни́лъ* свой рабо́чій костю́мъ *на чи́стое пла́тье*. Онъ о́чень *похо́жъ на своего́ дя́дю*. Я не довѣря́ю ему, и не могу́ *на него́ положи́ться*. Не *ропщи́те на свою́ судьбу́*: не судьба́ быва́етъ винова́та въ на́шихъ несча́стіяхъ, а мы са́ми. Напра́сно вы *серди́тесь на него́*: онъ не винова́тъ. Смотри́те *на кни́гу*. Смотри́те *въ* кни́гу. Смотри́те кни́гу. Смотри́те *за* дѣ́тьми́. Я смотрю́ *на него́*, какъ на челове́ка больно́го. Оте́цъ не *согласи́лся на его́ женитьбу*. *На ва́ше предложе́ніе* онъ не *согласи́тся*. *На это я* вполнѣ́ *согла́сенъ*.

II. 1. Ла́мпа стои́тъ *на столѣ́*. *На стѣна́хъ* въ гости́ной вися́тъ ка́ртины. *На дѣтя́хъ* были́ одѣ́ты соло́менныя шля́пы. Онъ прі́ѣхалъ *на парохо́дѣ*, а я въ ло́дкѣ. Верхо́мъ ѣ́здятъ *на ло́шади*, а не на коро́вѣ. Онъ сейчасъ *на слу́жбѣ*. Они еще *на да́чѣ*. Были ли вы *на* его *сва́дьбѣ*? Онъ теперь *на уро́кахъ*. И нашъ по́лкъ былъ *на войнѣ́*. Онъ стоя́лъ *на со́лнцѣ*. Не сто́йте *на дождѣ́* (=подъ дождёмъ) 3. Мы живёмъ *на сѣ́верѣ*. Ему не нра́вится служба *на Восто́кѣ*. 4. Я не могу́ спать *на спинѣ́*. Онъ лежа́лъ *на боку́*. Она въ це́ркви моли́лась *на колѣ́няхъ*. 5. Онъ говори́тъ *на ра́зныхъ языка́хъ*. Это сочине́ніе я чита́лъ *на ру́сскомъ языкѣ́*. Онъ преподаётъ ру́сскій язы́къ *на англійскомъ*. 7. *На про́шлой недѣ́лѣ* я былъ у васъ, но не засталъ васъ дома. Онъ возврати́тся, вѣ́роятно, *на э́тихъ дняхъ*. *На бу́дущей недѣ́лѣ* у насъ уже начну́тся экза́мены. *На пра́здникахъ* я предполага́ю съѣ́здить въ дере́вню.

Когда-нибудь *на обсупь* я зайду́ къ вамъ. *На своёмъ вѣку́* онъ мно́го ви́дѣлъ. **10.** Игра́ете ли вы *на фисъ-гармо́ніи*? — Онъ очень хорошо́ игра́етъ *на скри́пкѣ*. *На комъ* онъ жени́лся?—Онъ жени́лся *на сестрѣ* своего това́рища *На комъ* онъ жена́тъ?—Онъ жена́тъ *на подру́гѣ* свое́й сестры́.

§ **126, 1, 1.** Ребёнокъ упа́лъ съ ле́стницы, уда́рился *о ка́менный полъ* и разби́лъ себѣ го́лову. Во́лны бью́тся *о бе́регъ*. Онъ бьётся какъ рыба *объ лёдъ*. Я си́льно уда́рился лбомъ *объ стѣну*. Онъ сту́кнулся *объ дверь*. **3.** Онъ кварти́руетъ со мно́ю *о́бъ стѣну*. Онъ шёлъ *о́бъ руку* съ свое́ю ма́терью.

11. 1. Конь и *о четырёхъ нога́хъ*, да (=но) спотыка́ется, а челове́къ тѣмъ болѣе по времена́мъ мо́жетъ ошиба́ться. Це́ркви въ Россіи бо́льшею ча́стію стро́ятся *о пяти́ гла́вахъ* (ку́полахъ). **3.** Слы́шали ли вы *объ э́томъ*.

§ **127, 1, 1.** Онъ до́лго путеше́ствовалъ *по Россіи*. Когда я жи́лъ въ дере́внѣ, я ча́сто ходи́лъ *по гора́мъ*. Онъ прі́ѣхалъ *по желѣ́зной доро́гѣ*. Мо́жно ли прое́хать *по э́той доро́гѣ* на велосипе́дѣ? Слухъ объ его прі́ѣздѣ бы́стро распространи́лся *по го́роду*. Парохо́ды хо́дятъ *по водѣ́*, а паровозы *по землѣ́*. Зимо́ю мы ча́сто ката́лись *по льду* (на льду). *По чёмъ* (§ 65, 3) онъ васъ ударилъ?—Онъ уда́рилъ меня́ *по плечу́*. По чёмъ вы покупа́ли сукно́?—Покупа́лъ *по рублю́* за арши́нъ. По комъ (§ 65, 3) вы стрѣля́ли вчера но́чью?—*По воробья́мъ*. 2. Суди́те не *по слова́мъ*, а *по дѣла́мъ*. Вы су́дите о други́хъ *по себѣ́*. *По свое́й нару́жности* онъ очень похо́жъ на своего́ дя́дю. Эти очки́ не *по мои́мъ глаза́мъ*. *По тому́*, что было вчера́, нельзя́ суди́ть о томъ, что бу́детъ за́втра. Онъ живётъ *по стари́ннымъ обы́чаямъ*. *По его слова́мъ*, онъ дово́ленъ свои́мъ мѣ́стомъ. *По моему́ мнѣнію*, онъ очень поря́дочный человѣ́къ 3. Я вы́разилъ ему́ свое́ сожале́ніе *по по́воду* этого недоразуме́нія. 4. Онъ мнѣ племя́нникъ *по женѣ́*. Я ему́ това́рищъ *по учи́лищу*. 5. Соста́вить хоро́шій уче́бникъ *по ру́сскому языку́*, особенно для иностра́нцевъ, въ вы́сшей сте́пени тру́дно. Пе́рвый уро́къ за́втра у насъ *по како́му предме́ту*?—*По исто́ріи*. 7. Око́нчился после́дній уро́къ, и ученики́ разошли́сь *по свои́мъ дома́мъ*. 8. По всѣ́мъ предме́тамъ онъ име́етъ *по пя́ти*, то́лько по ру́сскому языку́ четы́ре. Я купи́лъ три тетра́дки и въ ка́ждой *по* 12-*ти листо́въ*. 9. У сестры́ я обыкнове́нно быва́ю *по воскресе́ньямъ*. Она принима́етъ у себя́ госте́й то́лько *по* вто́рникамъ. *По утра́мъ* уже быва́ютъ моро́зы.

II. 2. Я прибылъ въ дере́вню съ 5-го *по* 20-*е число́*.

III. *По прі́ѣздѣ* (=когда прі́ѣду) въ Токіо, я сейчасъ-же схожу́ къ ва́шему отцу́. *По окончаніи* экза́меновъ (=какъ только око́нчатся экза́мены), я неме́дленно уѣ́ду на ро́дину. *По поступле́ніи* (=когда поступи́лъ) на слу́жбу, онъ мно́го измѣни́лся. 2. Дѣ́ти шли за гро́бомъ и го́рько *пла́кали по отцѣ́*. Онъ но́ситъ *тра́уръ по дя́дѣ*.

§ **128, 1, 1.** Дождь па́даетъ *съ не́ба*. Неосторо́жный ма́льчикъ упа́лъ *со*

второ́го этажа́. Переся́дьте *съ того́ ме́ста* вотъ на это. **2.** Де́ти уже́ прибѣжа́ли *съ уро́ковъ.* Онъ уже́ пришёлъ *съ рабо́ты.* Солда́ты еще́ не возврати́лись *со смотра́.* Когда́ онъ пріѣдетъ *съ да́чи?* **3.** Сегодня вѣ́теръ ду́етъ *съ се́вера.* Когда́ въ Хакодате вѣ́теръ ду́етъ *съ мо́ря*, у мно́гихъ боли́тъ голова́. **4.** Парохо́дъ кача́ется *съ бо́ку* (а) на бокъ. **5.** Я промо́къ *съ головы́* до ногъ. Дожди́ испо́ртили доро́гу *съ са́мой вершины* горы́ до подо́швы ея. **6.** Я зна́ю его *съ молоды́хъ лѣтъ.* Онъ прогости́лъ у меня *съ воскресе́нья* до среды́. *Съ трёхъ часо́въ* до пяти я не́ былъ до́ма Онъ былъ бо́ленъ и не ходи́лъ въ кла́ссъ *съ 6-го ма́рта* по 9-ое апрѣ́ля. *Съ про́шлаго го́да* по сіе вре́мя я не получи́лъ отъ него ни одного́ письма́. **7.** Пожаръ случи́лся, если я не ошиба́юсь, но́чью *съ 4-го числа́* на пя́тое. Онъ прі́ѣхалъ но́чью *съ воскресе́нья* на понедѣ́льникъ Мы ожида́емъ его не то́лько *со дня* на день, но *съ ча́су* (а) на часъ. **8.** Она умерла́ *съ го́ря.* Онъ не зна́етъ, что дѣ́лать *съ ра́дости.* **9.** *Получи́ли* ли вы *съ него́* свой де́ньги? Онъ *тре́буетъ съ меня́* какой-то долгъ, но, насколько я по́мню, я ему́ не до́лженъ **10.** Онъ очень хорошо́ *рису́етъ съ нату́ры.* Снялъ ли *съ васъ* портно́й *мѣ́рку?* Онъ написа́лъ *съ меня́ портре́тъ.* **12.** Эта кни́га напеча́тана *съ разрѣше́нія* цензу́ры.

II. 1. Онъ ро́стомъ *съ меня́.* Въ сосѣ́днемъ лѣсу́ во́дятся медвѣ́ди *съ коро́ву.* **2.** Я уже *съ по́лчаса* жду васъ. Онъ прогости́лъ у меня *съ недѣ́лю.* Въ этомъ я́щикѣ бу́детъ фу́нтовъ *съ де́сять.* Мы прошли́ пѣ́шкомъ *съ версту́.*

III, 1. Братъ *съ сестро́ю* (=братъ и сестра́) уѣ́хали въ городъ. Сестра *съ отцо́мъ* (§ 147, 14) уѣ́хала въ го́родъ. Эта кни́га *съ карти́нками.* Я купилъ пля́шу *съ широ́кими поля́ми.* Онъ у́чится *съ большо́ю охо́тою.* Вашъ другъ *съ се́рдцемъ* (§ 156, III. 備考) Замѣ́тили ли вы господи́на *съ большо́ю голово́ю и коро́ткою ше́ею?* *Съ чѣмъ* эта буты́лка?—Была *съ вино́мъ*, а тепе́рь она пуста́я. **2.** *Съ тече́ніемъ вре́мени* всё это обнару́жится. У ка́ждаго челове́ка *съ года́ми* органи́змъ станови́тся слабѣе. **3.** Ча́сто ли вы *встрѣча́етесь съ нимъ?* *Съ кѣмъ* обыкновенно *игра́ютъ* ва́ши дѣ́ти? *Переписываетесь* ли вы *съ свои́мъ бра́томъ?* *Познако́мились* ли вы *съ свои́мъ сосѣ́домъ?* Онъ уѣ́халъ, *ни съ кѣмъ не простившись.* О чёмъ вы *спо́рили съ нимъ?* Изъ-за чего́ вы *поссо́рились съ своимъ бра́томъ?* **4.** *Поздравля́ю* васъ *съ днёмъ* ва́шего рожде́нія. Я бою́сь, что *съ нимъ случи́лось* какое-нибу́дь несча́стіе. Что (*случи́лось*) *съ нимъ?* Въ этомъ (=относи́тельно э́того) я не могу́ *согласи́тся съ ва́ми.* Ка́ждый до́лженъ *сообража́ться съ обстоя́тельствами.*

§ 131, 1. Кста́ти, гдѣ вы были *вчера́ ве́черомъ?* Мы шли *ша́гомъ.* Они прі́ѣхали *вмѣ́стѣ.* Я плачу́ своимъ слу́жащимъ де́ньги *по-мѣ́сячно.* Ученики́ шли *по-па́рно.* Солда́ты вы́строились *по-ро́тно.* Всё это онъ дѣ́лаетъ лишь *на-пока́зъ.* Мы ожида́емъ его *съ ча́су на часъ.* Все это кра́йне надое́ло мнѣ. *Изо дня въ день* одно и тоже. Она постоя́нно бѣ́гаетъ *изъ дома въ домъ*

Солдаты шли *человѣкъ за человѣкомъ*. Истинный христіани́нъ воздаётъ не *зломъ за зло*, а *добро́мъ за зло*.

2. На дворѣ уже тепло́, а вы всё ещё одѣва́етесь *по-зи́мнему*. Онъ былъ одѣ́тъ *по-дома́шнему*. Въ стари́нной ру́сской были́нѣ говори́тся, что Соловей-разбо́йникъ умѣ́лъ свиста́ть *по-соловьи́ному* (=какъ соловей), ревѣ́ть *по-звѣри́ному* (=какъ звѣрь) и шипѣ́ть *по-змьи́ному* (=какъ змѣя́). Съ волка́ми жить—*по-во́лчьи* выть. Этотъ иностра́нецъ хорошо́ говори́тъ *по-ру́сски*, *по-англійски*, *по-францу́зски*, *по-нѣмецки*, *по-италья́нски*, *по-гречески* и *по-латы́ни*. Китае́цъ, гдѣ́ бы ни жилъ, вездѣ́ живётъ *по-китайски*. Вы поступи́ли *по-дѣ́тски*. Мы жили *бра́тски*. Я *дру́жески* совѣ́тую вамъ это. Отецъ раздѣли́лъ своё иму́щество *по́ровну*. Они пріѣ́хали *за́свѣтло*. *На́черно* (=*вчерна́*) моё сочине́ніе уже́ гото́во, остаётся лишь переписа́ть *на́бѣло*. Иди́те пря́мо, пото́мъ сверни́те *напра́во* и, пропѣ́дши одну́ у́лицу, поверни́те *нали́во*. Поверни́те свою́ го́лову *нали́во*, тепе́рь поверни́те *напра́во*. **3.** Вы обѣща́ли сдѣ́лать *по-мо́ему*, а сдѣ́лали *по-сво́ему*. Онъ живётъ не *по-на́шему*. Онъ *всё ещё* занима́ется. Объ этомъ-*то* я слы́шалъ. **4.** За всю свою́ жизнь я то́лько *два́жды* (=два раза) ви́дѣлъ его. Я васъ *три́жды* проси́лъ, и вы ещё не сдѣ́лали. Отмѣ́рь *семь разъ*, а отрѣ́жь *разъ*, говоритъ ру́сская посло́вица. *Три́жды* поду́май и *одна́жды* скажи́, тоже учитъ ру́сская пословица. *Три́жды* пять ме́нѣе, чѣ́мъ *четы́режды* четы́ре. *Пятью́ пять*—два́дцать пять. Мы шли *втроём*ъ. Онъ *вдво́е* ста́рше меня. Разрѣ́жьте это я́блоко *на́-двое*. Во-*пе́рвыхъ*, онъ глупъ, а *во-вторы́хъ*, онъ недобросо́вѣстный челове́къ.

§ **132.** Его домъ *вблизи́* (=близъ) *о́зера*. Доро́га идётъ *вдоль ры́ки*. Онъ возврати́лся домо́й *въ конци́ про́шлой недѣ́ли*. *Внутри́ земли́* о́гонь. *Внѣ зако́на* нѣтъ поря́дка. Онъ былъ *внѣ себя́* отъ ра́дости. *Вмѣ́сто отца́* приходи́лъ сынъ. Сту́лья разста́влены *вокру́гъ стола́*. Онъ оста́вилъ слу́жбу *вслѣ́дствіе свое́й боле́зни*. *Кро́мѣ меня́*, тамъ были и другіе мои това́рищи. *Кро́мѣ э́тихъ книгъ*, у меня́ други́хъ нѣтъ. Онъ живётъ *напро́тивъ на́шего дома*. Я встрѣ́тилъ его *о́коло ва́шего дома*. Я его зна́ю уже *о́коло* 20-*ти лѣтъ*. Я возврати́лся *о́коло* 2-*хъ часо́въ*. Здѣсь бу́детъ *о́коло пу́да*. *Относи́тельно э́того* я ничего́ не могу́ сказа́ть. *По-ве́рхъ* (=*вверху́*) *воды́* плава́ла доски́. Онъ стоялъ *по́длѣ меня́*, а его сестра *по́даль насъ*. Де́рево упа́ло *поперёкъ доро́ги*. Онъ пришёлъ *по́слѣ меня́*, а его бра́тъ *пре́жде меня*. *Послѣ у́жина* я ещё бу́ду занима́ться. Онъ живётъ *про́тивъ на́шего* учи́лища. Мы шли *про́тивъ вѣ́тра*. Онъ женился на N *про́тивъ во́ли* свои́хъ роди́телей. Моя ло́шадь *противъ ва́шей* (=сравни́тельно съ ва́шей) ничего́ не сто́итъ. *Сверхъ всѣ́кихъ ожида́нія* я получи́лъ отъ него свои́ книги. Я ви́дѣлъ, какъ онъ стоя́лъ *среди́ толпы́*. *Среди́* (=*посреди́*) *о́зера* есть небольшо́й о́стровокъ.

Вслѣ́дствіе продолжи́тельной свое́й боле́зни онъ вы́нужденъ оста́вить

слу́жбу. Я сдѣ́лаю *въ по́льзу ва́шего бра́та* всё, что то́лько могу. *По слу́чаю переѣ́зда* въ друго́й го́родъ онъ распродаётъ всё свое́ иму́щество. И не былъ на ро́динѣ *въ продолже́ніе* (въ теченіе) 5-ти́ лѣ́тъ. Онъ переводи́лъ это сочине́ніе *съ по́мощью словаря́*. *Подъ ви́домъ уча́стія* къ на́шему семе́йству онъ расспра́шивалъ моего́ бра́та о таки́хъ предме́тахъ, которы́хъ каса́ться сторо́ннему челове́ку не слѣ́дуетъ.

2. *Вдоль по на́бережной* разсѣ́яны дере́вья. Онъ сдѣ́лалъ это *наперекоръ приказа́нію* отца́, *вопреки́ жела́нію* ро́дственниковъ, *на-зло и на-смѣхъ това́рищамъ*, лишь *на-ра́дость свои́мъ врага́мъ*. Говорю́ я это не *въ-уко́ръ вамъ* (=не для того, чтобы укоря́ть васъ).

4. *Вмѣстѣ съ трава́* весно́ю показываются и пе́рвые цвѣ́ты. Онъ купи́лъ домъ *согла́сно* приказа́нію отца́ и *согла́сно съ* жела́ніемъ ма́тери.

5. Мы ѣ́хали *ме́жду двухъ рѣкъ*. Его́ имѣ́ніе *ме́жду двумя́ рѣка́ми*, а моё *между о́зеромъ и горо́ю*. Сенда́й лежи́тъ *между Токіо и Аомо́ри*. Доро́га идётъ *ме́жду лѣсомъ и поля́ми*. *Ме́жду нами* неда́вно произошла́ ссо́ра. *Между нимъ* и его *бра́томъ* ничего́ нѣ́тъ о́бщаго. *Ме́жду това́рищами* должны́ быть и́скреннія отноше́нія.

134, 1. Оте́цъ *и* братъ уѣ́хали въ го́родъ. И оте́цъ, *и* братъ, *и* сестра́, всѣ́ уѣ́хали въ дере́вню. Вчера́ я ходи́лъ въ городъ *и* купилъ но́вую шля́пу. Я *и* видѣ́лъ его, *и* говорилъ съ нимъ, *и* пригласи́лъ его къ себѣ́. Въ настоя́щее вре́мя онъ занима́ется *и* у́тромъ, *и* днёмъ, *и* ве́черомъ. Купи́те мнѣ́ каранда́шъ, ру́чку *да* (=и) дю́жину пе́рьевъ. Объ этомъ *ни* отецъ, *ни* мать, *ни* братъ ещё не зна́ютъ. Что *же* тепе́рь я до́лженъ дѣ́лать? Когда́ *же* я могу заста́ть его́ до́ма? Мой оте́цъ нездоро́въ, *а также* и ма́ть. Онъ приле́женъ и сестра́ его *то́же*. Сего́дня я не былъ въ учи́лищѣ и за́втра *та́кже* не пойду́. Онъ малоспосо́бный и *кромѣ того* (=*къ тому́-же*=*при томъ*) лѣни́въ. Я *не то́лько* видѣ́лъ его, *но и* разгова́ривалъ съ нимъ. Онъ *не то́лько* хоро́шій нача́льникъ, *но и* прекра́сный челове́къ.

2. Сиби́рь, *т. е.* Азіа́тская Россія, занима́етъ се́верную часть Азіи. Челове́къ и́мѣетъ пять чу́ствъ, *и́менно* (=*а и́менно*): зрѣ́ніе, слухъ, осяза́ніе, обоня́ніе и вкусъ. Жи́вя до́лго въ Россіи, онъ посѣти́лъ почти́ всѣ́ гла́вные города́, *какъ напр.* (=*какъ-то*:) Москву́, Варша́ву, Кіевъ, Оде́ссу.

Онъ пріѣ́халъ, *какъ* я и предполага́лъ, въ пя́тницу. *Сло́вно* (=*какъ*) сумасше́дшій, онъ вбѣжа́лъ ко мнѣ́. *Бу́дто* ребёнокъ, онъ ничего не понима́етъ.

3. *Снача́ла* онъ учи́лся хорошо́, *пото́мъ* сталъ лѣни́ться и *наконе́цъ* совсѣ́мъ переста́лъ занима́ться. *Снача́ла* мы пили ча́емъ, *пото́мъ* пошли скорѣе и *наконе́цъ* побѣжа́ли. *Во-пе́рвыхъ*, мы зайдёмъ на по́чту; *во-вторы́хъ*, пойдёмъ въ ла́вки; *въ-тре́тьихъ*, схо́димъ къ N и, *въ-четвёртыхъ*, е́сли бу́детъ вре́мя, зайдёмъ къ N. Онъ *то* пла́четъ, *то* смѣётся. *То* хо́лодно, *то* жа́рко.

5. Сего́дня я бо́ленъ, *и* (*потому*) не пойду́ въ учи́лище. Онъ до́лго былъ

бо́ленъ, *почему и* (=*потому́ и*=*оттого́ и*) оста́лся на повтори́тельный курсъ. Онъ очень лѣни́въ, *поэтому-то* (=*потому-то*) и не перешёлъ въ слѣ́дующій классъ. Я неоднокра́тно предупрежда́лъ его, неоднокра́тно угова́ривалъ, даже проси́лъ; *слѣдовательно* (=*ста́ло быть*=*вслѣдствіе чего́*=*а потому́*) онъ и не мо́жетъ обижа́ться на меня. Нѣтъ ни одного́ человѣ́ка, у кото́раго не было бы никаки́хъ непріятностей; *ита́къ* (=*поэ́тому*) не бу́демъ жа́ловаться на свою́ судьбу́.

5. Я проси́лъ его нѣ́сколько разъ, *но* онъ не испо́лнилъ мое́й про́сьбы. Коро́ва не краси́ва, *но* поле́зна. Я проси́лъ его присла́ть мнѣ́ грамма́тику, *а* онъ присла́лъ слова́рь. Сегодня я ходилъ къ отцу́, *а* онъ къ бра́ту. Я старъ, ты *же* (=*а* ты) мо́лодъ. Малъ солове́й, *да* (=но) хорошо́ поётъ. Онъ занима́ется о́чень приле́жно, *тѣмъ не менѣе* онъ не изъ пе́рвыхъ (ученико́въ). Я встрѣча́юсь съ нимъ о́ченъ ча́сто, *и тѣмъ не ме́нѣе* зна́ю его́ о́чень ма́ло. Онъ о́чень бога́тъ, *а ме́жду тѣмъ* не помога́етъ свои́мъ бѣ́днымъ ро́дственникамъ. Я съ нимъ вмѣ́стѣ учи́лся и да́же одно́ вре́мя жилъ съ нимъ на одно́й кварти́рѣ, *и ме́жду тѣмъ* я его́ не узна́лъ. Онъ со мно́ю всегда́ о́чень любе́зенъ, *но всёже* онъ мнѣ не нра́вится. Онъ бога́тъ, *ме́жду тѣмъ какъ* сестра́ его́ очень бѣдна́. Онъ купи́лъ мнѣ слова́рь, *между тѣмъ какъ* я проси́лъ его купить грамма́тику. Онъ очень бога́тъ, *напро́тивъ* сестра́ его́ очень бѣдна́. Въ домѣ была полнѣ́йшая тишина́, *лишь* (=*только*) въ одно́й ко́мнатѣ раздава́лся стукъ ма́ятника. Онъ, дѣйстви́тельно, немно́го лѣ́нится, *зато́* способно́сти у него очень хоро́шія.

6. *Или* учи́тесь приле́жно, *или* откажи́тесь отъ наде́жды быть образо́ваннымъ человѣ́комъ. Приде́тъ ли онъ, *или* не придетъ, но мы его еще немно́го обождёмъ. *Ли́бо* вы́играю, *ли́бо* проигра́ю.

§ **135.** *Эй*, изво́щикъ! *А*! что вы говори́те? *Да-да*! и бо́льше ничего́ не сказа́лъ онъ. *Ей-ей*, это пра́вда! *Ахъ*, это вы! *Ой-ой*, како́й морозъ! *Ой-ли*! такъ ли дѣ́ло было? *Вонъ*, *вонъ* тамъ! ви́дите ли? *Смотри́те*, пло́хо вамъ бу́детъ! *Ну*, скорѣ́е пойдёмте! *Ну́-же*, проходи́те! *Цсъ*! не кричи́те такъ гро́мко: разбу́дите ребёнка. *Чш-и*! прошепта́лъ онъ. *Ура́*, *ура́*, *ура́*! крича́ли солда́ты. *Увы*! всё это уже́ давно́ прошло́ и бо́льше не повтори́тся. *Ухъ*, какъ я уста́лъ! Я ему́ говорю́ дѣ́ло, а онъ „*ха-ха-ха*!" да "*хи-хи-хи*!"

Ко́шка: *мя́у мя́у*! и вы́бѣжала вонъ. Соба́ка сра́зу: *га́у-га́у*! и бро́силась на меня́. Въ до́мѣ была́ по́лная тишина́, лишь въ сосѣ́дней ко́мнатѣ слы́шалось: *чикъ-чикъ-чикъ*. Гдѣ-то вдали́ прозвуча́ло 10 разъ *ба́у-ба́у-ба́у*; ста́ло быть, бы́ло уже́ 10 часо́въ ве́чера. Я и́здали заслы́шалъ *динь-динь-динь* и побѣжа́лъ къ вамъ на встрѣ́чу.

Онъ *хвать* (=хват-и́лъ) меня́ за́ руку и останови́лъ. Онъ *толкъ* (=толкну́лъ) меня въ бокъ. Онъ *хлопъ* (=хло́п-нулъ) две́рью и убѣжа́лъ.

§ **162, I.** § **163, I, 4.** Онъ хо́четъ прода́ть домъ, *кото́рый онъ постро́илъ* (=*домъ, постро́енный имъ*) *въ про́шломъ году́*. Въ старину́ не зна́ли той бума́ги, *кото́рую мы тепе́рь употребля́емъ и которая выдѣ́лывается изъ тря́пья или де́рева*. Будь благода́ренъ челове́ку, *кото́рый дѣ́лаетъ тебѣ́ добро́*. Никогда́ не слѣ́дуетъ дружи́ть съ тѣ́ми людьми́, *кото́рые отлича́ются непостоя́нствомъ хара́ктера*. Това́ры, *кото́рые получа́ются изъ-за грани́цы*, иногда́ быва́ютъ о́чень дёшевы. Челове́къ, *кото́рый лю́битъ пруси́ться*, съ го́лоду (а) не умрётъ. Я чита́ю сейча́съ сочине́ніе, *кото́рое рекомендова́лъ мнѣ вами́ бра́ть*. Кни́га, *кото́рую я сейча́съ чита́ю*, о́чень интере́сна. Есть такія дере́вья, *кото́рыя расту́тъ то́лько въ жа́ркихъ странахъ*, есть и такія, *кото́рыя расту́тъ то́лько на се́веръ*. Онъ уже́ прочита́лъ всѣ кни́ги, *кото́рыя вы посла́ли ему́*. Кни́га, *кото́рую вы подари́ли мнѣ*, пропа́ла. *Кто прово́дитъ вре́мя пра́здно*, тотъ ча́сто скуча́етъ. § **162, I** и § **163, I, 5**. *Кто чистъ со́вѣстью*, тотъ (=чи́стый со́вѣстью) всегда́ споко́енъ. *Кто уменъ*, тотъ (=у́мный) не ве́ритъ предразсу́дкамъ. *Кто бо́денъ*, тотъ не бои́тся воро́въ. *Кто вспы́льчивъ*, тотъ не злопа́мятенъ. Лю́ди, *кото́рые ничѣ́мъ не за́няты* (=ничѣ́мъ не за́нятые), постоя́нно скуча́ютъ. Есть лю́ди, *кото́рые не быва́ютъ дово́льны ничѣ́мъ*. Дома́, *кото́рые постро́ены изъ ка́мня*, прочне́е тѣ́хъ, *кото́рые постро́ены изъ де́рева*.

§ **162, I** и § **163, II**. *Слѣпо́й* (=тотъ, кто слѣ́пъ,) не ви́дитъ, а *глухо́й* не слы́шитъ. *Хромо́й* не мо́жетъ бы́стро бѣ́гать. *Утопа́ющій* (=кто утопа́етъ, тотъ) хвата́ется за соло́минку. На́до кла́няться со *встрѣча́ющимися* знако́мыми. Онъ подня́лъ *упа́вшую* кни́гу. Онъ успока́ивалъ *растеря́вшуюся* сестру́. Мы проходи́ли о́коло *сгорѣ́вшаго* до́ма. *Неодѣ́тыхъ* дѣте́й не беру́тъ гуля́ть. Онъ зачеркну́лъ *переписа́нную на́бѣло* страни́цу. Я получи́лъ *распеча́танное* письмо́. Мы у́чимся по *испра́вленному* и *допо́лненному* уче́бнику. *Изо́рва́нное* письмо́ онъ бро́силъ въ корзи́ну со *ско́мканными* бума́гами. На не́бѣ мы ви́димъ мно́жество замѣча́тельныхъ явле́ній: днёмъ—*блестя́щее* со́лнце, но́чью кро́тко *сія́ющую* луну́, милліо́ны *сверка́ющихъ* звѣ́здъ и и́зрѣдка, въ иные го́ды, замѣча́емъ ме́жду звѣ́здами *броди́вшую* коме́ту, съ дли́ннымъ хвосто́мъ, кото́рая такъ пуга́етъ суевѣ́рныхъ люде́й.

§ **163, III, 1**. Тотъ, *чьи спосо́бности* (=способности кого § 162, I, 2) лу́чше, обыкнове́нно ока́зываетъ бо́льше успѣ́ховъ, чѣ́мъ тотъ, *чьи спосо́бности* ху́же. Мой сосѣ́дъ, *съ чьи́ми дѣтьми́* (=съ дѣтьми́ кото́раго) постоя́нно игра́ютъ мои́ мла́дшіе бра́тья, на этихъ дняхъ переселя́ется въ другой домъ. Въ тотъ *день, когда́* (=въ кото́рый § 162, I, 4.) я впервы́е прі́ѣхалъ въ Токіо, ве́черомъ три ра́за бы́ло землетрясе́ніе. Въ то *вре́мя, когда́* (=въ кото́рое) вы прі́ѣзжа́ли въ Токіо, меня́ не́ было до́ма. Земледѣ́льцы обыкнове́нно выбира́ютъ для сѣнока́са такое *вре́мя, когда́* (=въ кото́рое) пого́да установи́лась надо́лго. Наступи́ла *мину́та, когда* (=въ кото́рую) намъ на́до бы́ло разста́ться.

Го́родъ, гдѣ (=въ которомъ) я провёлъ своё дѣтство, въ послѣднее вре́мя значи́тельно измѣни́лся къ лу́чшему. *Домъ, гдѣ* (=въ кото́ромъ) мы жи́ли, стоя́лъ на окра́инѣ го́рода. Есть *стра́ны, гдѣ* (=въ кото́рыхъ) со́лнце соверше́нно не захо́дитъ лѣ́томъ. То *село́, гдѣ* (=въ которомъ) я роди́лся, мнѣ и тепе́рь ещё ми́ло. Я съ гру́стью поки́нулъ *дере́вню, гдѣ* (въ которой) протекло́ моё дѣ́тство. *Мѣсто, куда* (=въ которое) пріѣ́хали мы, бы́ло очарова́тельно. *Мѣстность, куда́* (=въ которую) они предпола́гаютъ пересели́ться, очень нездоро́ва. *Го́родъ, отку́да* (=изъ котораго) они переѣ́хали, на этихъ дняхъ вы́горѣлъ весь. Твой бра́тъ учени́къ (оди́нъ изъ таки́хъ § 162, I, 8), *каки́хъ* ма́ло. Сего́дня день (одинъ изъ таки́хъ), *каки́хъ* ма́ло быва́етъ въ году́.

§ 163, III, 2. Челове́къ стро́итъ тёплые хлѣва́ для дома́шнихъ живо́тныхъ, которыя въ проти́вномъ слу́чаѣ *погибли бы* отъ хо́лода. **III, 3.** Я дамъ переписа́ть своё сочине́ніе лишь тому́, кто *согласи́тся* переписа́ть его въ продолже́ніе недѣли.

§ 163. IV. Къ сча́стью, мнѣ бы́ло *съ кѣмъ* посовѣ́товаться. Къ сожалѣ́нію, ему *не́ съ кѣмъ* посовѣ́товаться. Ему бы́ло *о чёмъ* разсказа́ть намъ. Ему *не о чемъ* разска́зывать намъ. Ему есть *на кого́* обижа́ться. Вы са́ми винова́ны, и обижа́ться вамъ *не́ на кого*.

Жилъ-былъ бѣдня́къ на чужо́й сторонѣ́. Отпра́виться на ро́дину ему́ бы́ло *не́ съ чѣмъ*, да и *не́ для чего*: на ро́динѣ у него́ давно́ уже́ никого́ не́ было; онъ не писа́лъ ни къ кому́, да и писа́ть ему́ бы́ло *не́ къ кому*; не получа́лъ онъ пи́семъ ни отъ кого́, да и получа́ть ихъ ему́ бы́ло *не́ отъ кого*; ни къ кому́ онъ не ходи́лъ, да и ходи́ть ему́ бы́ло *не́ къ кому*; никого́ не принима́лъ онъ у себя́, да и принима́ть ему́ бы́ло *не́кого*; когда́ у́меръ онъ, никто́ не вспомина́лъ о нёмъ, да и вспомина́ть о нёмъ бы́ло *не́кому*: ни родны́хъ, ни знако́мыхъ у него́ не́ было.

Намъ *не́когда* гуля́ть: мы должны́ занима́ться. Жилъ-былъ бѣдня́къ на чужо́й сторонѣ́ оди́нъ-одинёшенекъ; ники́да онъ не ходи́лъ, да и ходи́ть ему́ бы́ло *не́куда*; нигдѣ́ онъ не быва́лъ, да и быва́ть ему́ бы́ло *не́гдѣ*; ни отку́да онъ не получа́лъ пи́семъ, да и получа́ть ихъ ему́ бы́ло *не́откуда*; никогда́ онъ не выходи́лъ и́зъ-дому, да и выходи́ть ему́ бы́ло *не́когда*.

§ 164, I. Я зна́ю, *что онъ че́стный челове́къ*. Я ду́маю, *что вы поступи́ли справедли́во*. Она говори́ла, *что ея́ мать о́чень больна́*. Я слы́шалъ, *что онъ получи́лъ о́чень хоро́шее мѣ́сто*. Вы забыва́ете, *что онъ ещё о́чень мо́лодъ*. Я неда́вно чита́лъ въ газе́тахъ, *что онъ уже́ возврати́лся изъ-за грани́цы*. Я сомнѣ́ва́юсь, *что онъ э́то сдѣ́лаетъ*. Я увѣ́ренъ, *что онъ помо́жетъ вамъ*. Злой челове́къ не ве́ритъ (тому́), *что на свѣ́тѣ есть до́брые лю́ди*. Онъ радъ, *что получи́лъ награ́ду*.

Я не хочу́, *что́бы объ э́томъ зна́ли други́е*. Я хоте́лъ бы, *что́бы э́тотъ разгово́ръ оста́лся лишь ме́жду на́ми*. Она жела́етъ, *что́бы ея́ сынъ скори́съ*

поступи́лъ на слу́жбу. Я проси́лъ его, *что́бы онъ опусти́лъ мое́ письмо́ въ почто́вый я́щикъ.* Я не ду́маю, *что́бы онъ былъ хоро́шій челове́къ.* Мы всѣ сомнѣва́емся, *что́бы онъ могъ э́то сдѣлать.* Я про́силъ его, *что́бы онъ пришёлъ ра́ньше.* Всѣ роди́тели жела́ютъ, *что́бы ихъ дѣти были́ счастливы.* Христіа́нская рели́гія повелѣва́етъ намъ, *чтобы мы не то́лько не дѣлали зла свои́мъ врага́мъ, но и люби́ли ихъ.*

Я слы́шалъ, *бу́дто они уже́ уѣхали.* Говоря́тъ, *бу́дто онъ уѣхалъ на ро́дину.* Суевѣ́рные лю́ди ду́маютъ, *бу́дто ка́рканье во́рона на кры́шѣ до́ма, предвѣща́етъ чью-нибу́дь смерть въ томъ до́мѣ.* Она ви́дѣла сонъ, *бу́дто ея́ дочь умерла́.*

11. Не говори́лъ ли вамъ вашъ братъ, *придётъ ли онъ ко мнѣ сего́дня?* Постара́йтесь, пожа́луйста, узна́ть, *чѣмъ онъ тепе́рь занима́ется.* Спроси́те у него, *нами́ренъ ли онъ ѣхать вмѣстѣ съ на́ми.* Вы не повѣ́рите, *какъ (=наско́лько) я его люблю́.* Вы не повѣ́рите, *какъ (=наско́лько) это тру́дно.* Онъ подробно разска́зывалъ намъ, *гдѣ онъ былъ въ тече́ніе э́того го́да, что онъ ви́дѣлъ и чѣмъ занима́лся.* Какъ вы ду́маете, *ско́лько ему лѣтъ?* Скажи́те мнѣ, пожа́луйста, *кото́рый тепе́рь часъ* Не зна́ете ли вы, *гдѣ онъ живётъ?*

§ 165 Послови́ца говоритъ: *гдѣ любо́вь,* тамъ и Богъ. Я обыкнове́нно прогу́ливаюсь тамъ, *гдѣ ти́хо и споко́йно.* Я положи́лъ ва́ши ве́щи (туда́), *куда́ вы приказа́ли положи́ть ихъ.* Ры́ба и́щетъ (мѣ́ста тамъ), *гдѣ глу́бже,* а челове́къ, *гдѣ лу́чше.* Тамъ, *гдѣ онъ живётъ,* мѣ́стность о́чень сыра́я. Онъ былъ тамъ, *съѣздить куда́ я всегда́ совѣ́товалъ ему́.* Тамъ, *куда они переѣ́хали,* живу́тъ по-преиму́ществу мастеровы́е. Онъ ещё до сихъ поръ тамъ, *отку́да его това́рищи уже́ пріѣ́хали.*

Онъ уѣ́халъ туда́, *куда переѣ́хали его роди́тели.* Туда́, *куда́ вы совѣ́туете мнѣ съѣздить,* я пое́ду на этихъ дняхъ. Онъ хо́четъ съѣ́здить (туда́), *гдѣ слу́житъ его братъ.* Онъ пріѣ́халъ отту́да, *отку́да его совсѣ́мъ (=совершенно) не жда́ли.* Отту́да, *гдѣ онъ слу́житъ,* лишь немно́гіе возвраща́ются здоро́выми. *Гдѣ хорошо́,* отту́да никто́ не бѣ́житъ. Отту́да, *куда онъ поступи́лъ на слу́жбу,* письмо́ идётъ до насъ бо́лѣе недѣ́ли.

§ 166. Ка́ждый быва́етъ доволенъ собо́ю (тогда), *когда́ сдѣлаетъ что-нибу́дь до́брое.* Онъ о́чень обра́довался (тогда), *когда́ увиде́лъ меня́.* *Когда́ наступа́етъ жара́,* городскіе жи́тели спѣша́тъ на да́чи. Челове́къ, *когда́ дѣлаетъ добро́,* никого́ и ничего́ не бои́тся Онъ пришёлъ, *когда я уже́ сталъ прощаться.*

Въ то вре́мя, *когда (=какъ) онъ живётъ въ го́родѣ,* онъ рѣ́дко быва́етъ здоро́въ. Я познако́мился съ нимъ въ то вре́мя, *когда онъ путеше́ствовалъ по Япо́ніи.* Въ то время, *какъ вы ходи́ли въ учи́лище,* я писа́лъ своё сочине́ніе. Я не ви́дѣлъ его́ съ того́ вре́мени (=съ тѣ́хъ по́ръ), *какъ онъ уѣ́халъ въ деревню.* Съ тѣ́хъ поръ, *какъ онъ былъ у меня́ вмѣ́стѣ съ ва́ми,* я бо́льше не вида́лъ его́. Къ тому́ вре́мени, *какъ (=когда) я возвращу́сь въ Япо́нію,*

дѣти ста́нутъ уже́ больши́ми. *Когда онъ око́нчитъ свое́ уче́нье*, къ тому вре́мени его отецъ бу́детъ совсѣ́мъ (=соверше́нно) старико́мъ. Къ тому вре́мени, *когда вы обѣща́етесь придти́*, я бу́ду вполнѣ́ гото́въ. По́слѣ того, *какъ мы разста́лись*, мно́гое измѣни́лось. Мы стали больши́ми друзья́ми по́слѣ того, *какъ я откровѣ́нно поговори́лъ съ нимъ*. Я приглашу́ его́ къ себѣ́ лишь по́слѣ того́, *какъ онъ попро́ситъ у меня извине́нія*. *Пока́ онъ бу́детъ занима́тся*, до тѣ́хъ поръ мы не бу́демъ говори́ть гро́мко, что́бы не мѣша́ть ему́. *Пока́ я не ознако́мился съ э́тимъ дѣ́ломъ основа́тельно*, до тѣ́хъ поръ я счита́лъ его́ о́чень тру́днымъ. *Пока́ вы ходи́ли къ това́рищу*, я учи́лъ свои́ уро́ки. *Пре́жде чѣмъ я возвращу́сь*, вы постара́йтесь око́нчить эту рабо́ту. Я посовѣ́туюсь съ отцо́мъ, *пре́жде чѣмъ рѣшу́сь на это*. *Пре́жде чѣмъ одного́ обвиня́ть, а друго́го опра́вдывать*, слѣ́дуетъ основа́тельно разузна́ть это дѣ́ло. Онъ пришёлъ пре́жде, *чѣмъ я предполага́лъ*. Если онъ приде́тъ пре́жде, *чѣмъ я возвращу́сь*, переда́йте ему́ это письмо́.

Какъ то́лько (=*лишь только*=*лишь*=*какъ*) *я прі́ѣду въ Япо́нію*, я сейча́съ же напишу́ вамъ. Онъ согласи́лся (сейча́съ же=неме́дленно же), *лишь то́лько я на́чалъ проси́ть его́*. *Лишь то́лько онъ вошёлъ въ ко́мнату*, я сра́зу узна́лъ его́. Я неме́дленно увѣ́домлю ва́шихъ родны́хъ, *какъ то́лько получу́ ва́шу телегра́мму*.

Когда́ стано́вится хо́лодно, то (=тогда́) мно́гія пти́цы улета́ютъ отъ насъ въ тёплыя стра́ны. *Когда́ вы придёте ко мнѣ за́втра*, то уже не заста́нете моего́ бра́та. *Когда́ се́льди плыву́тъ по́ морю*, то онѣ́ нерѣ́дко покрыва́ютъ собо́ю простра́нство вёрстъ въ два́дцать въ окру́жности, и шумъ, производи́мый и́ми, быва́етъ подо́бенъ шу́му си́льнаго дождя́.

II. *Ѣхавши* (=когда́ я ѣ́халъ) *къ вамъ*, я си́льно озя́бъ. *Написа́вши* (=какъ то́лько написа́лъ) *письмо́*, я сейча́съ же отправи́лъ его на по́чту. *Учи́* (=въ то вре́мя, какъ мы у́чимъ) *други́хъ*, мы са́ми у́чимся. *Дѣ́лая добро́ одному́*, иногда́ этимъ са́мымъ мы дѣ́лаемъ зло друго́му. Я усну́лъ, *не дожда́вшись* (=пре́жде чѣмъ дожда́лся) *у́жина*. Они́ упли́ гуля́ть, *вы́учивши* *всѣ свои́ уро́ки*. *Здоро́вые* (=бу́дучи здоро́вы=когда́ мы здоро́вы)—мы смѣёмся надъ боле́знями други́хъ. *По сме́рти отца́* (=когда́ у́меръ отецъ), всѣ дѣти бы́ли прі́няты на казённое содержа́ніе.

§ 167, I, 1. Онъ шёлъ, *съ трудо́мъ передвига́я но́ги*. Мы шли *не-спѣша́*. Онъ уѣ́халъ, *ни съ кѣ́мъ не простя́вшись*. Онъ упёлъ, *никому́ не сказа́вши сло́ва*. Онъ всегда́ объясня́етъ но́вый урокъ, *остана́вливаясь на ка́ждомъ непоня́тномъ нами сло́вѣ*. Живи́ умѣ́ренно, *дово́льствуясь ма́лымъ*. **2.** Я сдѣ́лаю это такъ, *какъ уже́ сказа́лъ вамъ*. Онъ поступи́лъ (такъ), *какъ обѣща́лъ*.

II, 1. (甲) *Каковы́ учителя́*, таковы́ и ученики́. Ученики́ таковы́, *каковы́ учителя́*. *Каково́ де́рево*, таковы́ и плоды́. (乙) *Чѣмъ моро́знѣе ночь*, тѣ́мъ во́здухъ чи́ще. *Чѣмъ вы́ше мы поднима́лись на́ гору*, тѣ́мъ (=по мѣ́рѣ того́, какъ мы

вы́ше поднима́лись на́ гору.) станови́лось холоднѣ́е. (丙)Мужчи́на сильнѣ́е, *чѣмъ* (=*не́жели*) *женщина*, а же́нщина сильнѣ́е *ребёнка*. (丁) Онъ поступи́лъ (такъ), *какъ вы совѣ́товали ему́*. *Какъ звѣрь*, онъ бро́сился на своего́ врага́. Живо́тное чу́вствуетъ, *подо́бно человѣку* (=какъ человѣ́къ), ка́ждую боль. Мнѣ́ жаль его́, *какъ родно́го бра́та*. Онъ поётъ, *какъ обыкнове́нно пою́тъ всѣ япо́нцы*. Человѣ́къ безъ во́здуха такъ же не мо́жетъ жить, *какъ ры́ба безъ воды́*. *Сло́вно* (=*какъ*) *сумасше́дшій*, онъ вбѣжа́лъ ко мнѣ́. Онъ, *бу́дто ребёнокъ*, ничего́ не понима́етъ. Своекоры́стный поступа́етъ такъ, *какъ бу́дто всё лишь для него́ существу́етъ*. **2**. *Чѣмъ больше стара́ешься*, тѣмъ бо́льше зна́ешь. Человѣ́къ, *чѣмъ бо́льше у́чится*, тѣмъ бо́льше убѣжда́ется, что онъ о́чень ма́ло зна́етъ. *Чѣмъ скорѣ́е* вы это сдѣ́лаете, тѣмъ лу́чше. *Чѣмъ да́льше*, тѣмъ ху́же. Онъ такъ же добръ, *какъ и его́ оте́цъ*. Она не такъ (=не насто́лько) добра́, *какъ* (=*насколько*) *ея мать*. Никогда́ я такъ мно́го не занима́лся, *какъ въ настоя́щее вре́мя*. Онъ сто́лько же бога́тъ, *ско́лько и щедръ*. Онъ зна́етъ по-японски сто́лько же, *ско́лько я зна́ю* по-ру́сски. *Ско́лько человѣ́къ*, сто́лько и мнѣ́ній. У бра́та сто́лько же дѣте́й, *ско́лько и у сестры́*. Это извѣ́стіе сто́лько же обра́довало меня́, *ско́лько и огорчи́ло*. *Наско́лько одно́ извѣ́стіе непрія́тно*, насто́лько друго́е ра́достно. Онъ во сто́лько разъ ста́рше меня́, *во ско́лько* (*разъ*) *вы ста́рше моего́ бра́та*. Я на сто́лько лѣтъ моло́же его́, *на ско́лько вы ста́рше меня́*.

III, 1 Онъ о́кончилъ свою́ рабо́ту такъ скоро, *что мы всѣ удивля́емся ему́*. Онъ бѣжа́лъ такъ (=до того) бы́стро, *что чуть не упа́лъ*. Больно́й до того́ (=насто́лько) ослабѣ́лъ, *что родны́е ду́маютъ*, что онъ умрётъ сего́дня но́чью. Теа́тръ былъ насто́лько (=до того) по́лонъ, *что да́же и послѣ́днія мѣста́ бы́ли за́няты*. Пе́редъ экза́менами онъ такъ мно́го занима́лся, *что да́же заболѣ́лъ*. Онъ насто́лько бога́тъ, *что мо́жетъ ежего́дно ѣ́здить за грани́цу*. Было сто́лько (=такъ много) плѣ́нныхъ, *что главнокома́ндующій не зналъ*, что дѣ́лать съ ними. Онъ такъ бы́стро шёлъ, *что я едва́ поспѣва́лъ за нимъ*. Вы такъ пло́хо переписа́ли своё сочине́ніе, *что по-мѣста́мъ я ни одного́ сло́ва не могу́ разобра́ть*. Учени́ки такъ (=насто́лько) гро́мко крича́ли, *что го́лоса учи́теля соверше́нно не́ было слы́шно*. **2**. Сдѣ́лайте это такъ, *чтобы пото́мъ не́ было сты́дно вамъ*. Стара́йтесь говори́ть насто́лько гро́мко, *что́бы всѣ могли́ слы́шать ва́ше ка́ждое сло́во*. Мы стара́лись идти́ такъ, *что́бы дѣ́ти не утоми́лись*.

§ 168. Я не видѣ́лъ его́, *потому́ что* (=*такъ какъ*) *его́ не́ было до́ма*. Ка́ждая мать защища́етъ свои́хъ дѣте́й, *потому́ что матери́нская любо́вь не зна́етъ стра́ха*. Верши́ны высо́кихъ горъ покры́ты вѣ́чнымъ снѣ́гомъ, *потому́ что во́здухъ тамъ чрезвыча́йно рѣ́докъ и хо́лоденъ*. Въ Токіо апельси́ны не созрѣва́ютъ, *потому́ что тамъ хо́лодно*. Нельзя́ вѣ́рить осе́нней пого́дѣ, *потому́ что она очень перемѣ́нчива*. Не всѣ грибы́ ѣдя́тъ, *потому́ что мно́гіе*

изъ нихъ ядови́ты. Я сдѣла́лъ это *потому́, что отéцъ приказа́лъ мнѣ сдѣ́лать э́то.* Онъ не припёлъ, вѣроя́тно, *потому́, что его́ кто-нибу́дь задержа́лъ.*

Это случи́лось *отъ того́* (=*вслѣ́дствіе того́*), *что онъ не посовѣ́товался съ бра́томъ.* Онъ не вы́держалъ экза́мена *отъ того* (=*вслѣ́дствіе того́=потому́*), *что онъ ма́ло занима́лся.*

Я не разгова́ривалъ съ нимъ, *такъ какъ я съ нимъ не знако́мъ.* Я ещё не переводи́лъ этой статьи́, *такъ какъ у меня́ ещё нѣтъ словаря́. Такъ какъ я былъ обма́нутъ имъ ужé нѣсколько разъ, то* бо́льше я ему́ не вѣ́рю. Я не пойду́ сего́дня гуля́ть, *такъ какъ, вѣроя́тно, пойдётъ дождь. Такъ какъ свое́ сочине́ніе я до́лженъ око́нчить къ за́втрашнему дню, то,* пожа́луйста, не мѣ́шайте мнѣ.

Я о́чень благода́ренъ вамъ *за то, что вы́ присла́ли мнѣ кни́ги.* Я люблю его́ *за то, что онъ откровéненъ.* Не *за то* его́ уво́лили изъ учи́лища, *что у него́ плохія спосо́бности,* а *за то, что онъ пло́хо вёлъ себя́.* Я сдѣ́лалъ это *за тѣмъ, что веле́лъ мнѣ отецъ.* Я *за тѣмъ* сего́дня ра́но всталъ, *что хочу́ къ обѣ́ду око́нчить свое́ сочине́ніе.*

Онъ переста́лъ быва́ть у васъ *изъ-за того́, что отéцъ не позволя́етъ ему́ ходи́ть къ вамъ* Я о́чень дово́ленъ *тѣмъ, что онъ сталъ приле́жно занима́ться*

Не суди́те по нару́жности, *ибо нару́жность ча́сто быва́етъ обма́нчива.* Я не бу́ду бо́льше говори́ть объ этомъ, *коль ско́ро э́тотъ разгово́ръ вамъ не нра́вится. Коль ско́ро вы предубѣжде́ны проти́въ него́, то,* конéчно, вамъ лу́чше и не знако́миться съ нимъ.

§ **169.** *Что́бы умѣть писа́ть пра́вильно,* необходи́мо знать грамма́тику. Мы ѣдимъ для того́, *что́бы жить,* но не живёмъ для того, *что́бы ѣсть.* Ну́жно читать и писа́ть бо́льше для того́ (=съ то́ю цѣ́лію), *что́бы лу́чше понима́ть язы́къ.* Онъ приходи́лъ за тѣ́мъ (=съ то́ю цѣ́лію), *что́бы спра́виться о здоро́вьи бра́та.* Онъ пріѣ́халъ съ тѣ́мъ (=съ то́ю цѣ́лію), *что́бы повида́ться съ родны́ми.* Я сдѣ́лаю всё (для того), *что́бы успоко́ить мать.* Съ то́ю цѣ́лію, *что́бы онъ скорѣе узна́лъ э́ту но́вость,* я посла́лъ ему́ телегра́мму. Не будь жесто́къ къ други́мъ, *что́бы они тебя́ не возненави́дѣли. Что́бы твёрдо запо́мнить но́выя слова́,* произноси́те ихъ по-нѣ́сколько разъ подря́дъ. *Что́бы основа́тельно знать ру́сскій язы́къ,* ну́жно употреби́ть на изуче́ніе его нѣ́сколько лѣтъ серьёзныхъ занятій.

§ **170, I.** *Если онъ пригласи́тъ меня,* (то) я пойду́ къ нему́, *е́сли же нѣтъ* (=*не пригласи́тъ*), не пойду́. *Если мы не снисходи́тельны къ сла́бостямъ други́хъ,* то (=въ тако́мъ слу́чаѣ) не мо́жемъ разсчи́тывать на снисхожде́ніе и къ на́шимъ недостаткамъ. *Если бы у меня́ бы́ло свобо́дное вре́мя,* я зашёлъ бы къ вамъ. Бѣда́ была бы человѣ́ку о́тъ мно́жества насѣко́мыхъ, *е́сли бы зи́мніе холода́ не убива́ли ихъ, е́сли бы пти́цы и пауки́ не истребля́ли ихъ. Если*

самъ плохъ, то не помо́жетъ и Богъ. *Е́сли хо́чешь быть счастли́вымъ*, поста-ра́йся пріучи́ть себя́ быть дово́льнымъ тѣ́мъ, что им*ѣ́*ешь. *Если вы*, придя́ ко мнѣ́, *заста́нете у меня́ това́рищей*, пожа́луйста, не начина́йте разгово́ра объ э́томъ.

Я помо́гъ бы ему́, *когда́ бы* (=*е́сли бы*) *я зналъ*, что онъ нужда́ется въ по́мощи. *Коль скоро* (=*если*) *вы обѣща́етесь зайти́ за мно́ю*, то и я пойду́ къ нимъ. *Вѣда́, коль пече́нье начнётъ печь сапо́жникъ, а сапоги́ шить пиро́жникъ. Ежели* (=*если*) *хо́чешь*, мо́жешь заня́ть у меня́ де́негъ.

2. *Посовѣ́туйся онъ* (=е́сли бы онъ посов*ѣ́*товался) *съ бра́томъ*, не случи́лось бы э́того. *Скажи́ вы то́лько одно́ сло́во*, я сд*ѣ́*лалъ бы это. *Будь они побога́че*, не ста́ли бы они такъ труди́ться.

§ 171, 1 *Хотя́ онъ о́чень оби́дѣлъ меня́*, но я не серж*у́*сь на него́. *Хотя́ онъ и былъ здѣсь на-дня́хъ*, одна́ко ко мнѣ́ онъ не зашёлъ *Хотя́ братъ вашъ и мо́лодъ*, одна́ко онъ зна́етъ дово́льно мно́го. *Хотя́ и хоро́шая сего́дня пого́да*, одна́ко я не пойду́ гуля́ть. *Хотя́ вы живёте отъ меня́ и о́чень далеко́*, тѣ́мъ не ме́нѣе я бу́ду у васъ *Хотя́ бы вы жи́ли отъ меня́ и ещё да́льше*, во вся́комъ слу́чаѣ я буду у васъ.

Лжецу, *если* (=*хотя*) *да́же онъ говори́тъ пра́вду*, не в*ѣ́*рятъ Лжецу́, *если бы да́же онъ говори́лъ пра́вду*, не в*ѣ́*рятъ. Я не сд*ѣ́*лалъ бы этого, *если бы да́же приказа́лъ мнѣ отецъ*.

2. *Положимъ, онъ правъ*, одна́ко же (=тѣ́мъ не ме́нѣе) ему́ не сл*ѣ́*довало горячи́ться. *Я зна́ю, что онъ че́стный человѣ́къ*, тѣ́мъ не ме́нѣе я всегда́ его остерега́юсь. *Не смотря́ на то, что онъ о́чень рѣ́дко быва́етъ у меня́*, я всегда́ при-слу́чаѣ захожу́ къ нему́. *Всѣ говоря́тъ, что онъ о́чень хоро́шій человѣ́къ*, но все-таки (=все же) онъ мнѣ́ не нра́вится.

3. *Кто бы ни проси́лъ* (=*кто ни проси́*) *меня*, во вся́комъ слу́чаѣ я этого не сд*ѣ́*лаю. *Какъ ни тяжело́ ему́ бы́ло*, всё-же онъ до́лженъ былъ повинова́ться. *Какъ бы ни было мнѣ тру́дно*, во вся́комъ слу́чаѣ я буду́ терп*ѣ́*ть *Какъ бы ни былъ онъ умёнъ*, всё же онъ не умнѣ́е своего́ бра́та. *Ско́лько онъ ни спо́ритъ*, одна́ко въ конц*ѣ́* согласи́лся со мно́ю *Ско́лько бы вы ни дѣ́лали* (=*ско́лько вы ни дѣ́лай*) *ему́ добра́*, онъ не бу́детъ благода́ренъ *Куда́ бы вы ни спря́тали отъ него́ кни́гу*, онъ всегда́ найдётъ её. *Куда́ бы онъ ни пое́халъ*, мать всегда́ безпоко́ится о нёмъ

文法適用露文例題の和譯

§ 13, I. 我は家に居たり、彼女も家に居たり。彼等は彼處に在りたり、して我は在らざりし。母は此處に在らざりし、だが父は在りたり。兄弟と姉妹は何處に在りしや。—兄弟は此處に在りたり、姉妹は彼處に在りたり、我も彼處に在りたり。祖父と祖母は家に居たり、だが孫と孫女は居らざりし。貴君は何ㇾ時ゾ彼處に在りしや。—我は今日彼處に在りたり、兄弟は昨日在りたり、だが姉

妹は一昨日在りたり。彼等は何ィ時ッ此處に在りしや。一伯父は朝在りし、伯母は晝に、して甥と姪は晩に在りし。夫と妻は彼處に一昨日朝在りし、息子と息女は昨日晝に、して彼と彼女は今晩在りし。我と兄弟は彼處に一昨日朝早く在りし、だが母と父は昨晩遲く在りし。祖父と祖母は此處に春と夏に在りし、して伯父と伯母は秋と冬に在りし。

貴君は彼處に在りしや＝彼處に貴君は在りしや、一然り我は彼處に在りし、一否な我は彼處に在らず。此處に姉妹は在りしや＝姉妹は此處に在りしや、一然り、彼女は此處に在りし、一否な、彼女は此處に在らざりし、此處には兄弟のみ在りし。彼は何時此處に在りしや、朝にか或は晝間にか、一彼は朝此處に在りし、一彼は此處に朝にあらずして晝間在りし。父は彼處に夏在りしや、否な彼は夏彼處に在らず、彼は彼處に春在りし。秋彼處に貴君は在りしにや、一然り、我は彼處に秋在りし。豈に貴君は冬彼處に在りしにや、一否な、冬は我れ彼處にあらず、我は彼處に春在りし。貴君は彼處に在りしは久しき以前なるや、一我は彼處に先頃即ち冬に在りし。

I, 1. 貴君は何處に居るや、一我は此處に居る。して兄弟は何處に居るや、一兄弟も此處に居る。一彼は彼處に居る。父は何處に居るや、一父は家に居る。母は家に居るや、一然り、彼女は家に居る、一否な、彼女は家に居らず。兄弟と姉妹は此處に居るや、一兄弟は此處に居る、だが姉妹は家に居る。伯父の居るは彼處なるや。伯父は彼處に居るや、一然り、彼は彼處に居る。祖父は家に居るにや、一然り、家に居る。豈に祖母は家に居るや、一否な、彼女は家に居らず。

2. 彼は何人なるや、一彼は父なり。して彼女は何人なるや、一彼女は母なり。彼等は何人なるや、一彼等は兄弟と姉妹なり。彼は夫なり、彼女は妻なり。姉妹なるや彼女は。彼女は姉妹なるや、一然り、彼女は姉妹なり。彼女は姉妹ならずや、一否な、彼女は姉妹に非ず、彼女は妻なり。彼が父なるのか、一然り、彼は父なり。豈に彼が父なるにや、一否な彼は父に非ず、彼は繼父なり。豈に彼等は夫婦なるにや、否な、彼等は兄弟と姉妹なり。

§ 14, 1. 兄弟は讀みたり而して妹姉は矢張り讀みたり。我等は讀みたり然れども未だ書かざりし。我は書きたり、だが彼女は然らず(＝書かざりし)。姪は讀みたり、して矢張り書きもしたり。昨日貴君は何處に晝食したるや、一昨日は我は家に於て晝食したり。彼女等は晩食したるや、一伯母は既に晩食せり、然れども姪は未だ然らず(＝晩食せず)。貴君は豈に未だ朝食せざるや、一然り、我は未だ朝食せず。彼等は豈に既に晝食せしにや、一否な、彼等は未だ晝食せざりし。夫は讀みたり、して妻は聞きたり。何人が乘來りしや、一父と母は乘來れり。何人が乘去りしや、一祖父のみ乘去りたり。父は乘來りしや、一否な未だなり、乘來らざりし、彼は明日或は明後日乘來らんことを豫期す。彼は何處へ乘去りしや、彼は家に乘去りたり、して今は既に家に居る。彼女は彼處に一昨日乘去りたり、して今は未だ彼處に在り。兄弟は此處へ來りしや、一然り、彼は今も未だ此處に在り。姉妹は何處へ乘去りしや、彼女は彼處へ乘去りたり、して今は未だ彼處に在り。彼は此處より乘去りしや、一否な、乘去らざりし、彼は未だ此處に在り。彼女は彼處より乘去りしや、一然り、彼女は彼處より既に乘去りたり。唯今我は家に歩行したり。今彼女は既に家に居る。彼等は一昨日此處に乘來れり、甥は未だ此處に在り、然れども姪は既に此處より乘去りたり。彼等は昨日彼處へ乘去りたり、孫は未だ彼處に在り、然れども孫女は既に彼處より乘來れり。

彼等は如何に讀みたるや、一彼等は宜しく、甚た宜しく、宜しからず、惡しく、甚た惡しく讀みたり。息女は宜く讀みたり、然れども息子は惡しく(讀みたり)、

2. 今日貴君は勉強せしや、一然り、我は既に勉強せり。姉妹は既に勉強せり、然るに兄弟は未だ勉強せず(然らず)。貴君は何處に於て勉強せしや、一我は家に於て勉強せり、姉妹は此處に於て(勉強せり)、して兄弟は彼處に於て。何時彼等は歸りしや、一父は一昨晩遲く歸れり、母は昨日晝間、して兄弟と姉妹は今朝早く(歸れり)。父は明晩或は明後日朝歸ることを約せり。貴君は何處より歸りしや、一我は彼處より歸れり。彼は今日如何に修業せしや、一今日彼は勤勉に修業せり、然れども昨日と一昨日は惰れり。彼女は如何に讀みしや、一彼女は讀むことを努めたり、故に過ちしは少しなり。彼は夏には學習を惰りたり、然れども冬は勤勉に修學せり。彼女は今日惰らざるや、一否な、今日は彼女は惰らざりし、今日は彼女は努力せり。貴君は今日修業せしや、一今日我等は多く、甚た多く、僅か、甚た僅か修業せり、

何時母は彼處に在りしや。一彼處に父も在りし時、其時母は在りし。祖父が此處に在りし時、(其時)祖母も在りし。彼女が書きし時我は讀みたり。彼女が讀みし時貴君は聞きしや。

姉妹は何處に在りしや。一姉妹は兄弟の在りし處、其處に在りたり。甥の勉強せし處に於て(其處に)姪も勉強したり。彼の在りし處其處に貴君は在りしや。

子息は何處へ往きしや。—子息は息女の往きし處、其處へ往きたり。伯母の乘去りし處、其處へ姪る乘去りたり。

彼は何處より歸りしや。—彼は父が歸りし處、其處より歸りたり。母が歸りし處、其處より子息と息女は歸りたり。

彼等は如何に勉學せしや。—彼女が勉學せし如く、その如くに彼は勉學せり。兄弟が勉學せし如くりの如くに姉妹も勉學せり。

貴君は今日幾許勉學せしや。—我は貴君が勉學せし位、其位勉學せり。姪が勉學せし位、其位甥も勉學せり。彼れが誤りしは貴君が誤りし程、それ程には非ず。

§17. 貴君は何處に在りしや。—我は教室に在りたり。貴君は何處へ往きしや。—我は教室へ往きたり。貴君は何處より歸りしや。—教室より。貴君は何を買ひしや。—我はコップを買ふたり。貴君は何處へコップを立て置きしや。—我はコップを卓上に、卓内に、卓下に、卓の蔭に、卓の周圍に、卓の傍に立て置けり。コップは何處に立ち在るや。—コップは卓上に、卓内に、卓下に、卓の蔭に、卓の周圍に、卓の傍に立ち在りたり。貴君は何處よりコップを取りしや。—我はコップを卓上より、卓内より、卓下より、卓の蔭より、卓より離して取りたり。水注は卓内に、卓の蔭に立てり、だがコップは卓上に、卓下に立てり。彼女は水注を卓上と卓下より取り而して卓内と卓の蔭へ立て置きたり。コップの立ち在るは卓内に於てなるや。—否な、彼等は卓内に非ずして卓上に立てり。卓内には水注のみ在りし。彼女が水注を立て置きしは卓上なるや。—否な、彼女が水注を立ち置きしは卓上ならずして卓内と卓下なり。貴君は何處に於て勉強せしや、教室に於てか或は家に於てか。—我が勉強せしは家に非ず、我は教室に往きて彼處に於て勉強せり。彼は家にて書齋に於て勉強せり。彼は在宿なるや。—然り、彼は在宿なり、彼は家に居り書齋に居る。貴君は何處へ往きしや。—我は家へ往きたり即ち家の内に往きたり。彼が書齋に座して勉強せし時(其時)我は教室に往きたり。

貴君は誰の處に居りしや。—我は好友の處に居たり。貴君は誰の處に往きしや。—我は好友の處へ往きたり。貴君は誰の處より歸りしや。—我は好友の處より歸りたり。貴君は誰を見しや。—我は好友を見たり。貴君は誰と往きしや。—我は好友と往きたり。貴君は誰の事を言ひしや。—我は好友の事を言へり。貴君は今日教員の處に往きしや。—往きたり我は今教員の處より歸りしばかりなり。誰と共に貴君は教員の處に往きしや。—教員の處に我は好友と共に往きたり。貴君は好友と共に誰の處に赴きしや。—我は好友と共に教員の處に赴きたり。貴君は誰の事を好友と話せしや。—我は教員の事を好友と話せり。貴君が教員の處に立寄りしは誰の爲なるや。—我は教員の處に立寄りしは好友の爲なり。何の爲に貴君は好友の處に立寄りしや。—我はコップの爲に好友の處に立寄りたり。今日貴君は如何樣に學習せしや、教員に從ひてなるや或は教員に從はずしてなるや。—教室に於ては我れ教員に從ふて學習せり、して家に於ては教員に從はず好友と共にのみ(學習)したり。昨夜教員の處に客は在りたり。客は何時に教員の處に來りしや。—彼等は午前に、晝食の前に、午後に來れり。彼は朝食の前に來りて晩食の後に去れり。我は教員の處に居りし時(其時)我は客を見たり、彼等は長椅子に座して教員と談話せり。我は教室に居りし時、彼は教員の處に居たり。彼が教室に往きし時、我は教員の處に往きたり。我等が教室より歸りし時、彼等は教員の處より歸れり。

§18. 1. 教員は先頃好友の家屋を買ふたり。貴君は教員の家に在りしや。教員の客人等は書齋に座せり。貴君は教員の好友に逢ひしや。—然り、我は教員の好友等に逢ひたり。彼等は好友の教師等の事を言へり。皇帝の肖像は教室に於て卓上に掛れり。教師の書齋に於ては皇帝の肖像の下に好友の肖像が掛れり。

2. 貴君は辭書を買ひしや。—否な、我は辭書を買はざりし。教師は家屋を賣りしや。—否な、彼は家屋を賣らざりし。貴君は教師を迎へしや。—否な、我は教師を迎へざりし。

3. 教師は教室に在り。教室に教師は在らず。辭書は卓上に在り。辭書は卓上に在らず。好友は在宿なるや。—好友は在宿せず。

4. 昨日教師の處に客人は在りしや。—昨日は教師の處に客人は在らざりし。今日好友は教室に在りしや。—今日は好友は教室に在らざりし。水注は卓内に在りし。水注は卓内に在ざりし。

5. 教師には辭書が有るや。—然り、教師には辭書が有る。—教師には辭書が無し。好友には辭書は無きや。何時なりとも教師は好友等を有せしや。—教師は未だ曾て好友を有せざりし。教師は家屋を有せしや。—然り、有せり、教師は今も家屋を有す。—否な、教師は家屋を有せざりし。

6. 幾個のコップを貴君は買ひしや。—我は數個のコップのみを買へり。我は(毫も)コップを買はざりし。昨日教師の處に幾人の客は在りしや。—昨日教師の處には多くの客、甚た多くの客、僅少の客、多からざる客が在りし。教師の書斎に於て卓上に多くの辭書は存せり。

§18 及 17. 貴君は今朝午前中は何を爲せしや。—午前中は我は語を學べり。今日彼は語を知りしや。—今日も昨日も彼は語を知らざりし。彼女は幾許の語を知りしや。—彼女は未た僅か語を知れり。—數個の語を我は既に忘れたり。貴君が好友の處に滯在せしは久しかりしや。—餘程久しく滯在せり、朝より殆ど晩まで。貴君は夏時毎朝散歩せしや—毎朝貴君は夏時散歩せしや。屢々散歩したり。—餘り屢々ならざりし。—散歩したり、然れども屢々ならず。—稀に散歩したり。晝食後彼は常に酒(葡萄酒)を飲み、晩食後には麥酒を。彼女は從來酒をも麥酒をも飲まざりし、して彼は唯折々飲みたり。彼は麥酒一杯を飲盡し、我は酒一杯を飲み盡せり。貴君は如何して來りしや。—我は海路を經て。彼は久しく旅行せり而して多くの海を廻航せり。教師の家は海邊に在り。彼は何處に居るや。—彼は田畑に往き去りたり。今日貴君は田畑に往きしや。—然り、今日我等は田畑に赴きたり。

§17, 3—4. 通常我等は田野に於てせずして湖邊を遊歩せり。教師の家の背後は既に田野と湖水なり。教室の窓は多數なるや。格別多くもなし。幾許の硝子は破碎せしや。—數個の硝子のみ破碎せり。教室の硝子面には汚點甚た多し。貴君は今日手紙を書きしや。—然り、今日我は數通の手紙を書きたり。

備考 最初彼は京都に住し、後に東京に移住せり。貴君は曾て京都に在りや(往きしとありしや)。—或夏我は京都に往きたり、其節神戸にも往きたり。して函館に貴君は往きしや。—然り、往きたり、彼處には我れ久しく住居せり。彼は珈琲一碗を飲盡せり。彼は何を着用せしや。—彼は外套を着用せり。

§ 19. 貴君は曾て皇帝を見しや。—我は東京に住みし時、皇帝を見る場合を數回有したり。出火の事故に因て彼は今日缺席せり。時を見て我は常に Николай の許に立寄れり。支那には甚た多くの住民あり。貴君は Василій と Пётръ の處に屢々往きしや。—Пётръ の處に往きしは格別屢々ならず、だが Василій の處には屢々立寄れり。我は Николай の處に往きし時、Пётръ と Димитрій の事を Василій と共に話せり。

貴君等は何時、田舍の所有地に在留せしや。—我等は夏五月と秋九月に所有地に乘往きたり。貴君は所有地に久しく滯在せしや。—我は所有地に一月出立し、所有地より三月歸れり。教師は所有地を有するや。—教師は東京に數軒の家を、仙臺近邊と北海道に數ケ所の所有地を有す。貴君は文章を書き居るや。—然り、書き居れり而して殆ど既に書き終れり。—否な未だなり、我は文章を書かざりし。貴君は教師の說明を解せしや。—我等は注意を以て聽聞せり、故に教師の說明を了解せり。—否な、教師の說明を我等は了解せず、彼は不明瞭に說明せり。貴君は久しく旅行せしや。—我は二月三月四月間を旅行せり。貴君は教師の災難の事を聞きしや。—否な、聞かざりし、何事が生ぜしや。—教師の家に於て先頃出火ありたり幸に教師は在宅なりし。友人の所有地には六月に洪水ありし、して七月には地震ありし。火災、洪水、地震よりして人民は如何なる時にも又何地に於ても強く困苦せり。

§ 20. 生徒等は何處に在るや。—生徒等は教室に在り。貴君は今日日課を學習せしや。—然り、日課を學習して既に習得せり。—否な、今日我は未だ日課を學習せず。我れ教室の邊を通行せし時、教師は生徒等に日課を說明せり。彼は昨日生徒等に日課を說明せず。我は車夫を呼ぶを請ふたり、呼びしや。—然り、車夫の(呼寄の)爲に既に往きたり。貴君は如何樣にして來りしや、馬上にてなるや或は車行にてなるや。—我は馬上にて來れり、して彼は車行にて來れり。—昨晩貴君は誰と散歩せしや。—我は甥と散歩したり。我は甥等と共に植木師の邊に赴けり。彼等は植木師の甥の處に往きたり。

貴君は何を買ひしや。—胡桃と林檎を(少しく我は買ふたり)。彼は胡桃を生徒等間に分與し、林檎をば教師の甥に賜與せり。林檎は何邊に在るや。—我は林檎を卓の內に置きたり、彼等は抽出の內に在り。植木師の處には林檎は在るや。植木師の處には林檎は無きや。—植木師の處に秋には林檎多く在りし、然にる今、春には多分無し。

§ 21. 彼は何人なるや。—彼は教師の朋友なり。我は朋友の處に在りたり。朋友には鉛筆多し。貴君は何の爲に朋友の許に往きしや。—鉛筆の爲に往きたり。朋友には鉛筆と小刀あるや。鉛筆は有る、然れども小刀は無し。朋友には鉛筆或は庖刀なきや。—鉛筆は無し。然れども庖刀は有る。朋友には鉛筆幾本あるや。—朋友には數本の鉛筆あり。貴君は何にて鉛筆を削りしや。

一庖刀にて削れり。 貴君は何にて手紙を書きしや。一鉛筆にて書きたり。 貴君は幾本鉛筆を買ひしや。一我は鉛筆を買はずして小刀のみを買ふたり。

貴君は何處に在りしや。一學校に。祭日なるに因て昨日稽古は有らざりし、故に我は學校へ往かざりし。貴君は何處に於て朋友に逢ひしや。貴君は何處に於て朋友と逢着せしや。一學校の近邊にて。朋友が學校より出でし時に、我は之に逢ふたり。

幾ケ月間貴君は彼得堡に在らざりしや。一彼得堡に我は五月、六月、七月の間在らざりし。彼女は十一月より二月迄悉く學校に在らざりし。貴君は甥の處に屢々在りしや。一冬は餘程屢々在りし、然れども春と夏は稀に立寄りたり、一ケ月以上づゝも在らざりし。貴君は浦鹽斯德に長く滯在せしや。一一ケ月程滯在せり。彼女は支關に坐して手紙を讀めり。朋友の家には數ケ所の支關あり。

§ 22. 1. 彼女は嬰兒を携へて來れり。貴君は錠を買ひしや。一否な、我は錠を買はざりし。我等は市場に在りて林檎を十個づゝ 買へり。 我等が東京に乘込みし時には、未だ家々に於て點火は無かりし。貴君は誰を夢に見しや。一父を。火事は市場の近邊に於て日本人の商賈の店に於て、朝早く始まれり、日暮近くには父の店も火中に在りし。幾日貴君は彼處に客在せしや。一數日のみ。彼は父の處に一ケ月程滯在せり、先日去りしのみ、して往きしは四月の終りなり。最初日本人は外國人に對して甚た敵意的に接したり。

2. 父には冬強く指が痛む、父には「レウマチス」が指にあり。財嚢中には一圓のみ存す。球壜には何が存するや。一藥が。

4. 目下日光に於ては歐羅巴人甚た多し。左程以前にも非ず日本人は支那人と戰爭せり。貴君は今朝支那人と朝鮮人に逢ひしや。一支那人には我れ逢はざりし、然れども數人の朝鮮人に逢ふたり。

§ 23. 1—2. 彼は主耶蘇基督を信じたり、だが異教人の如く生活せり。

3. (甲) 昨日我は茶一斤と砂糖一斤と煙草一箱と米一ブウドと絹一反を買ふたり。彼女は茶一碗のみを飲盡せり。彼は白墨一塊を取りて書き始めたり。

(乙) 彼處に人々は多かりしや。一否な、格別多からず。貴君は曾て樺太に在りしや。一否な我は樺太に一回も在らざりし。今日我は大に熟睡せり、騒ぎ音をも叫聲をも我は全く聞かざりし。

(丙) 彼は寧ろ砂糖なしに茶を飲む事を好愛す。林中より狼は奔り出たり。生徒等の騒ぎと叫聲よりして我は教師の言語を聞判けざりし。球壜の中には咳の藥あり。我は生來彼處に在らざりし。彼女は絹地の帶を縫ふたり。

4. 義人は天堂に在り、して罪人は地獄に在り。夏には我等通例林中を遊歩し冬には園中を(遊歩せり)。日本人の俘擄に於ては(日本に捕虜たりし)支那人は少なかりし。以前彼は聯隊に於て士官と成りて勤務せり、して今は彼は官吏なり。彼女は鉛筆を口に咬へたり。辭書は何處に在るや。一戸棚の内に在り。卓は以前隅に立ちたり。

5. 彼等が湖岸に坐して談話せし時、我は其側邊を通行せり。以前彼は角の處に教師の家と並びて住居せり。我等は久しく橋上に立たり。彼等は日本人として床上に坐するを寧ろ好めり。

6. 「主神耶蘇基督よ」と彼は感情を含めて幾度も言へり。

§ 24. 1. 滊船よりして遠方に島の岸は見へたり。暮方に及てのみ我等は諸島を見受けたり。我は常に晩を朋友の處に送れり。父の髪は既に頭白となれり。此頃朋友の眼は痛めり。生徒等の音聲は遠方より聞へたり。石筆は何處に在るや。醫師等は既に相談の爲に集まれり。父と朋友の家は相並ひて海岸に在り。士官等は前方に乘行し、して士官候補生等は後方より(乘行せり)。春は全く來れり、田野、草刈場、林は既に綠色となりかゝれり。教授等は既に教室に在り。炎熱の後、直ちに冷氣は來れり。

2. 朋友には兄弟有るや。一朋友には數人の兄弟あり。彼は兄弟等と共に來れり。諸樹は既に花を咲き居る。朋友の兄弟等には親友甚た多し。家の側邊に伐木と石は横はれり。教室に於ては我等は皆に鉛筆にて書きたり、して家に於てはペンにて(書きたり)。椅子は卓の周圍に立てり。客等は夙旦に座せり、して我等は椅子に(坐せり)。

3. 教堂の役僧等は前方に立てり。小使等は何處に居るや。彼は教堂の役僧等と談話せり。彼は小使等と談話せり。佛陀と孔子は支那人、朝鮮人、日本人の垂訓者なり。教員等は既に教室に在り。パンは卓上に横はれり。穀類は既に生熟せり。彼女は大に花を愛せり。絹の色は兄弟の氣に入らざりし。

4. 兄弟の齒は既に損傷せり、だが父には未だ然らず。櫛の齒は挫折せり。兄弟の庭園に於ける花の根は朽ち始めたり。料理人は風味の爲にソップの中に根菜を投入せり。昨日我は親友に數葉の

手紙を送れり。樹上には既に葉なし。彼女等は屢々夫等に書したり。兄弟の息子等は既に學校を卒業せり。船艦は岸の傍に立てり。説教者は耶蘇基督の奇蹟の事を言へり。

5. 兄弟の親友の許に昨日兩親は來着せり。

6. 彼處に於ては基督信者中に農民と商人のみならず然し士族も甚多し。列車内に於て我等は英國人等に逢ふたり。英國人等は何處に乘往きしや。—多分、日光に(乘往きしならん)。市町の人は氣質、風儀、風習に依て何時も何地に於ても農民と異なれり。

7. 諸君よ舍監が騒く勿れと言へり(=騒がざることを請求せり)。旦那方は未だ市府より歸らざりし。韃靼人等は久しくスラブ人等を領轄したり、然し遂にスラブ人等は韃靼人等を征服せり。主人等は甚だ(來)客を歡びたり。

8. 猫の兒等は何處に在るや。—猫兒等はの卓下に在り。雛等は邸内を駈廻れり。

10. 父は既に若干の孫(成長したる)と孫兒(幼少なる)を有す。

11—12. 隣人等は大に父を愛したり、彼は屢々隣人の處に赴けり、彼等も屢々父の處に來れり、父は人々に接する法を知れり。學校には幾人あるや。

13. 貴君は幾年浦鹽斯德に在留せしや。—我は浦鹽斯德には一年間も在留せざりし、だが兄弟は數年在留せり。

14. 彼女は羅紗幾尺を買ひしや。父には既に殆ど毛髪なし。教師は生徒等より眼を放たざりし。貴君は幾回京都に在りしや。—(我は京都に在りし)數回。幼年學校には幾人の生徒あるや。聯隊には幾人の兵卒あるや。我は靴をも靴下をも買はざりし、店に立寄る暇なかりし(=捗らざりし)。教堂に人は多く來り居りしや。—甚だ僅か居りし數人のみ。

15. 彼女は客を待てり、故に食物を多く備へたり。祭日の爲に彼女は衣服數枚を縫調へたり。

17. 軍隊は既に市府に歸りたり。雲は湖上に垂下せり。今日空天には全く雲なし。昨日兵卒等は朝より晩まで銃を射撃せり。彼は未だ曾て眼鏡を使用せず。兄弟にはレウマチスよりして甚久しく)肩が痛みたり。兄弟は耳を凍痛せり。父の耳の内には久しく騒音は聞へたり。彼女は市に往きて卵十個を買ふたり。

18. 我は手拭を商店に忘れ置きたり。彼女は手拭を買はざりし。

20. 貴君は昨晩何處に赴きしや。—隣人の處に客に往きたり。昨日我は客に赴きたり。兄弟の息子は官吏に就職せり。兄弟の學友たりし者は教員に就職せり。隣人の兄弟を先頃士官に叙任せり、大佐に(叙任せり)、將官に(叙任せり)。人民は Михаилъ を王に撰立したり。日曜日に於て某を主教に、某を司祭に、某を補祭に叙聖せり。

§ 26. 姉妹は在宿なるや。—在宿なり、彼女は室内に居る。姉妹の家には室多し。諸室内に於て卓上にランプは光れり。貴君は何處にランプを立て置きしや。我はランプを繪額の下に存する卓上に立て置けり。彼は遠方より妻と姉妹を見受けたり、而して直に頭より帽を脱して敬禮せり。姉妹の家は山上に在り、して妻の(家)は山下に在り。我は妻より電報を得たり而して即時に返答を郵便(局)に遣はしたり。貴君は今日新聞を讀みしや。—未だ讀まざりし。山を歩行するは困難なり、然れとも健康の爲には甚た有益なり。月には山あれとも然れとも空氣と水は無し。我は水を請ふたり、だが彼は茶を與へたり。妻と姉妹は山中に温泉に出立せり。妻等は屢々夫等に書せり。妻は何人と共に温泉場に居るや。—姉妹等と共に。學校に於ては我等は常に床上に坐らずして教場椅子に座せり。一時間は幾分を含有するや。一週間中我は姉妹の處に行かざりし。彼は一週間だけ山中に赴けり。彼は山中に療養せし際、時としては一週間づゝも家に歸らざりし。一ケ月には幾週間を含有するや又一週間には幾日を含有するや。地中には銀と金は少なからず。

§ 27. 昨日我は園中の並木路を遊歩して蛇を殺せり。—園中には豈に蛇は居るや。—園中には蛇多し。家の主人は其姓に依ては外國人なり、主人の姓を我は唯今忘れたり。貴君は曾て露西亞に在りしや。否な、我は未た曾て露西亞に在らず。支那及朝鮮には我は久しく住居せり、然れとも露西亞には赴かず、數度(露西亞に)赴かんとを企てたれとも。彼は久しく日本を旅行せり。我は五月の末に日本に來れり。英國には多數の殖民地有り。姉妹の息子等を妻は停車場に於て迎へたり。

§ 28. 我は姉妹の處に居りし時、彼女は書籍を讀みたり。紙と封筒は何處に在るや。—紙をは我れ書籍の内部に入れ置きたり、して封筒をは書籍の下に(置きたり)。貴君は生徒等の爲に書籍を得しや。—我は紙とペンと鉛筆のみを得たり、然れとも未だ書籍を得ざりし。彼は書籍を見て而して板の上に書せり。彼女は紙一枚を取り而して女友に手紙を書きたり。貴君は手の内に何を携へし

や。 買物を携へたり。 露西亞には河と湖多し、だが日本には山と海(多し)。 貴君は如何にして河を越へしや。我は橋に依て越へたり。だが彼は小舟に於て(越へたり)。 我等は河岸に座して魚を捕へたり、だが彼は小舟に乘り走れり。 河水に於ては魚多し。 彼は數匹の魚を捕へしのみ。 姉妹の家の室内には夏は蠅も蚤も甚多し、して兄弟の借家には殆と皆無なり。

§ 29. 室内には蠟燭とランプは光れり。 貴君は蠟燭を消せしや。一然り、消したり。彼女は林檎十個と梨子五個を買ふたり。 梨子をは彼女は姉妹の息子等に分與したり。 妻は未だ別莊に居る。彼は別莊より歸りしや。 祖母の別莊と隣接して森は在る。 森の背後には祖父の家在り。 別莊の背後の森には菌と木の實多し。

女生徒は一頁を通讀したり而して書籍を女教師に渡したり。 女教師の姪は女生徒等と共に今朝祖母の別莊の近邊に散歩せり。 兄弟の妻は姪と共に森の中に赴きたり、然れとも女教師にも女生徒等にも逢はざりし。 インキ壺は何處に在るや。一インキ壺とペンを我は家に殘し置きたり。 貴君は何處に止宿せしや、旅宿に於てか或は姪の處にか。一女教師(所有)の家屋内の旅宿、即ち街路の隅角に存する、に止宿せり。 彼は自國に於てせずして外國に於て教育せられたり。 先日彼は復た外國へ出發せり。

6. 貴君は何時來りしや。一金曜日の朝。 貴君は何時姉妹の處に往きしや。一姉妹の處には我は常に金曜日毎に往けり。 木曜日は祭日なりし、故に我は學校に赴かざりし。 我は父の許に日曜日の朝に往きし、兄弟は月曜日の晝、して姉妹は火曜日の晩に。 土曜日毎の晩には學校には修業なし。 我は外國に住居せし時、日曜日毎の朝には常に教堂に赴きたり、して晩には親友と同僚の許に(赴きたり)。

§ 30, 4. 雞等は邸内を駈歩めり。 姉妹の處には雞多し。 我は牝雞一羽と雄雞一羽を買ふたり。

5. 貴君は甚多く誤謬を爲したり。 妻は姪等に數個の人形を賜ふたり。 庖刀は既に卓上に存すれども、未だ匙も肉刺も皿も口拭も無し。 貴君は巻莨と燐寸を買ひしや。一巻莨をは買ふたり、然れども燐寸を買ふとを忘れたり。 村の近傍の田畑に於て我等は到る處に農夫と農婦に逢着したり。 兄弟は久しく旅行したり、而して多くの地を廻遊せり。 朋友には兄弟のみ存して、姉妹は無し。 姉妹には男兒多くして女兒少なし。 女兒等は保姆の傍に戯れたり、して男兒等は遙か遠くに駈歩けり。 貴君は尺(モサン)一對の爲に幾千を拂ひしや。一甚た廉に拂ふたり、僅か數錢を。 主婦には常に顧慮多し。 東京より横濱まで幾里あるや。 天には星多し。 教室には數個の卓あり。

6. 姉妹は多くの歌を知れり。 兄弟の家には數個の寢室あり。

10. 教師は多くの伯父を有す、然れども伯母を有せず。

§ 31. 父は馬二匹を有す。 廣場には馬多し、然れども購求者少し。 我等は記簿にペンを以てせずして鉛筆を以て書せり。 教師は未だ生徒等の記簿中の誤謬を訂正せず。 貴君は何故に昨日教室に在らざりしや。一病氣に由て缺席せり。 兄弟は甚た稀に鹽を使用せり、彼は常に醤油を以て鹽に代へたり。 貴君は甥の死去の事を姉妹に書せしや。一甥の病氣の事を我は姉妹に書したり、然れども死去の事を未だ書かざりし。 彼女は悲哀にあらずして喜悦に由て泣けり。 彼は戸を閉ちて窓を開きたり。 我等は夏時、晩と夜に市府の近郊を散歩せり。 日本人の家屋内には暖爐無し。 姉妹の借家には鼠甚だ多し。

§ 32, 1. 父は進物を母と息女(=)と息子等に送りたり。 母には常に息女等の事の顧慮あり。 彼女は一人の息女のみと共にして母の許に來れり。 息女は母の爲に來れり(=母を伴ひ住かん爲に)。

2. 日曜日の朝我は教堂に赴きたり。 我は以前教堂と隣接して住居せり。 我等市府に入來りし際、諸教堂に於て晩課の祈禱の鐘を鳴せり。 彼は大抵常に虚言を發せり、眞實を言ひしは稀なり。 裸麥には草多し。 愛なくしては生活する能はず。 父は姉妹 Любовь と共に村に出立せり。

3. 我等は正午出發して夜半に到着せり、して彼等は午後出發して夜半の頃到着せり。

4. 我は悦で兄弟の委托を遂行せり。 彼は辭書の助力に依て飜譯せり。

6. 靴は汚れて在りし。 外套は塵埃にかゝりたりし。 帽は戸の上に掛かりたり。 犬は鎖に繋かれてありし。

7. 家より湖まで幾間あるや。一格別多からず。

9. 彼は兄弟の幼兒に翫弄物を賜與せり。 彼女は姉妹の小兒等に翫弄物を賜與せり。 兄弟には小供有るや。一有り。 姉妹には小供幾人あるや。一姉妹には唯男兒一人と女兒一人あり。 彼は小兒等と戯遊するとを好めり。

§ 33. 何故に兄弟は昨日伯父の處に住かざりしや。一昨日兄弟には時なかりし、彼は朝より疲ま

で文章を書せり。昨日彼は餘暇を有したれども、今日は之を有せず。我等は村に住居したる際には或る時は讀み或る時は書き或る時は畫きたり。朋友の名は何と云ふや、一彼は其名に依れば Василій なり。教師は常に姓名に依て生徒に質問したり。

3. 兵卒は兩手に一の軍旗を携へて敵の中間に投身せり。我等は火事に駈附けし時には家は既に火煙の中に在りたり。地上には人民と人種多し。

4. 我は種子一斤を買ふたり。彼は鐙を附着せざる鞍を買ふたり。

§ 43. 善良なる父は姉妹に面白き書を賜與したり。清潔なる記簿に我等は鋼ペンを以て書せり。石板を彼女は書卓(=文机)の内に置きたり。便箋は書卓の内に存せり、して通常の紙は新しき書棚の内に存せり。新しき記簿を彼はペン切り小刀を以て裁り開きたり。彼は生徒等の誤謬を黒インキを以てせずして赤インキにて修正せり。彼は便箋一帖と鋼ペンーダースを買へり。彼は郵便切手を買ふことを忘れたり、眞の兄弟と従姉妹は夏に伯父の處に客として滞在せり。我は従兄弟と眞の姉妹と共に村に乗往けり。我は鐵道の停車場に眞の兄弟と従姉妹とを迎へん爲に往きたり。従兄弟等は鐵道に依て來れり。貴君は昨年夏には何處に居りしや。一昨年夏には我は従兄弟の處に客在せり。彼は先月歸宅せり。去る一月中は我は數回村に往復したり。前週の水曜日には學校に於て授業は無かりし。彼は新年までに歸宅することを約せり。彼女は客室の(客室へ)圓るき卓上に新ランプを立て置きたり。前週我は偶然に古るき知人に逢ふたり。貴君は裁縫師を呼寄せしや。貴君は親屬より手紙を得しは屢々なるや。病氣なる兄弟に醫師は寢床より起きることを禁したり。伯父は兄弟に金時計を賜與せり。父は先月鐵の屋根ある石の礎ある新築の木造家屋を買ふたり。兄弟の古るき所有地に於ては右方に急なる深き川あり、して左方には蓊鬱たる古るき園あり。幼時彼は丈高き體格にして美麗なる細き面相と灰白色の髪と空色の眼を有せし童兒たりし。

§ 44. 青き海は暗くなりかゝれり、青き波は黒くなりかゝれり。秋は來れり、鳥も青き海を越へて暖國に飛去れり。我は下層に住みたり、貴君は中層に住みたり、して彼は上層に住みたり。昨日の新聞は何處に在るや。一新聞は赤き戸棚の内の上段或は下段の上に在り。手巾(=鼻拭)は何處に在るや。一手巾は黒き箪笥の中の抽出に在り。今日の日課を彼は知りたり、然れども昨日のは既に忘れたり。貴君は今日の新聞を讀みしや。一今日の新聞も昨日の新聞も我は讀まざりし、(何となれば)全く閑暇なかりし。昨日よりして我は室内より出でざりし。彼は最終の頁を通讀して而して書を上の棚に置けり。月夜には我等屢々隣接の森中を散歩せり。今年は大に強き凍寒ありたり。彼は朝の列車にて東京に來れり、して晩の列車にて最早歸宅せり。

§ 45. 小供等は嚴重なる父を恐れたり然れども亦愛したり。彼は露西亞人なり而して彼女は露西亞婦人なり。彼は日本の書を圓るき卓の上に置きたり、して露西亞の書を低き戸棚の内に置きたり。露西亞語は甚だ難かしき國語なり、眞に然るに非ずや。貴君は何處に於て又何人よりして露語を學びしや。一東京に於て露西亞の教師より學びたり。某君は露語の教師なり。昨日貴君は露文より日本文に何を飜譯せしや。一昨日我は露文和譯に非ずして和文露譯に從事したり。以前我等は狹き低き濕氣ある借家に住みたり、然るに先日廣き高き乾燥なる(借家)に移轉したり。親族及概して昵近の者を失ふは甚だ困るし。今日は閑靜にして晴れたる天氣なり。

§ 46. 貴君は乞食に何を與へしや。一新しきパン一塊を與へたり。姉妹の長男は昨年中學校を卒業せり。妹は未た従姉妹の處より歸らざりし。兄は何人と共に來りしや。彼は長男と末女(=長女以下の息女)と共に來れり。長男の所有地は大なる河の岸に在り、して末子(=長男以下の子)の所有地は大なる湖の岸に在り。釣道具にて昨日彼は甚た大なる魚を捕へたり。兄弟の知人等は善良の人々なり。昨日我は甚た熱き入浴を爲し(=取り)たり。吟聲を有する鳥類は既に飛去りたり。

§ 47. 4. 愚なる子息には父の富は助を爲さず(=助とは成らず)。父の家屋は姉妹の(家屋)より遠からず。姉妹は何處に居るや。一彼女は妻の部屋に居る。一妻の所有地は伯父の所有地の近傍に在り。夏期休業中には我等は妻の所有地に住居せり。彼處へ姉妹の小兒等は屢々來れり。伯父の男兒等は姉妹の女兒等と絶へず爭へり。彼は生徒の書を生徒の(爲に設置したる)圖書室に傳途せり。士官の外套と帽は帽子掛に懸れり。Васильевъ вечеръ (大晦日の晩)は一年中の最終の晩なり。彼は Ильинъ день (七月二十日を云ふ)までに歸ることを約したり。

5-6. 「主の祈」を彼は未だ幼稚の際暗記せり。祖父の所有地に兄弟の小兒等と姉妹の小兒等とは客在せり。昨日彼女は夫の親戚等の客來を待居たり。

7. Александръ Великій は紀元前に生活せり、して Константинъ Великій は紀元後に(生活せり)。

§ 48. 2. 昨日我等は Бородинъ 君の處に趣けり。貴君は Бородина (氏の奥様或は令孃)に逢ひしや。—否な、我は Бородина (氏の奥)様には逢はず、然れとも Бородинъ 君には逢ふたり。昨晩姉妹の處に Бородинъ 氏夫妻は來れり。我等は Бородинъ 君の事を話せり。Бородино 村には我は未だ曾て在らざりし。Бородино 附近に於て露西亞人は佛人等と戰へり。

4. Никола́й (人名)の所有地は Никола́евъ 市より遠からず。我は久しく Николай の所有地に住めり、然れども Никола́евъ 市には未だ曾て在らざりし、我は彼得堡に住みし時には屢々 Царицынъ лугъ (廣場の名)に在りたり。Царицынъ 市には先日大火ありたり。

§ 49. 2. 獵犬は狼の足跡に依て狼の兒を探したり。小兒等の枕は鳥の羽を入れたるものなり。夏には毎日朝毎に我は牛乳一椀づゝを飲みたり、して姉妹は山羊の乳一椀づゝを飲みたり、彼女は牛酪一斤を買ふたり。長椅子の前の床ユカ上に熊の毛皮は横はれり。

4. パンは神の惠賜なり。孤兒は神の兒童なり。神祐に依て我等は安全に歸宅せり。

§ 50. А. С. Пушкинъ は大詩人なりし。М. Ю. Лермонтовъ は А. С. Пушкинъ の同時代者たりし。先頃我は З. И. Розова の兄弟 Николай Ивановичъ と Борисъ Ивановичъ と知己と成なれり、だか И. И. Розовъ を我は未だ見しことなし。А. Н. Московская の子息 Димитрій Владиміровичъ は Г. В. Смоленскій の息女 Марья Григорьевна を娶れり。

王子 Пётръ

(自身の)先妻 М. И Милославская の死後、王 Алексѣй Михайловичъ は貴族 А. С. Матвѣевъ の親戚 Н. К. Нарышкина を娶れり。Марья Ильинишна よりして Алекѣй Михайловичъ には男子 Ѳеодоръ 及び Иванъ と數多の女子ありし、女子中よりして殊に賢なる名譽心深き Софья Алексѣевна は拔でたりし。Наталья Кирилловна よりして男子 Пётръ は出生したり

Алексѣй Михайловичъ の死後長子 Ѳеодоръ Алексѣевичъ は王位に即きたり。彼は子無きものなりし故に Ѳеодоръ Алексѣевичъ の死後、次の弟 Иванъ Алексѣевичъ は位に即けり。Иванъ Алексѣевичъ は全く病人なりし故に未た其生存中に末弟なる王子 Пётръ Алексѣевичъ をも王に立てたり。王子 Пётръ Алексѣевичъ は後に Пётръ Великій (たりし者)にして最初の露西亞皇帝なり。

§ 51, 5. 朋友の兩親は嚴重なり。文典は高値ならず、反て安値なり、然れとも辭書は高値なり。ペンは佳良なれともインキは佳良ならず。彼は正當なり、貴君も正當なり、然れとも彼女は正當ならず。彼等は富有なり、然れとも甚吝嗇なり。朋友の筆跡は甚た美なり。兄弟は沈默の質なれとも姉妹は談話好きなり。彼女は禮義正しく且つ懇篤なり、だが彼は粗野にして且つ峭刻なり。父は勤勉なり。母は節儉なり。貴君は隣人と知己なるや。—知己なり、先頃知己と成れり。

7. コップの中の茶は濃きには非ずや。—否な、濃くなし、反てうれは多少薄し。火酒は强度なり。砂糖は甘し、酢は酸なり、山葵は辛し、辛子は同く辛し。夏に日は長し、だが冬には短し。父の家は高し、だが兄弟のは低し。フロクコートは廣からず、彼は狹し。井戸は深からず、彼は淺し。姉妹は富めり、だが兄弟は貧し。夏は熱し、冬は寒し、だが秋と春は涼し。姉妹は若かく丈高く且つ父に似たり、兄弟は同しく老ならず、然れとも彼は丈低く且つ母に似たり。彼は勤勉なり、だが彼女は怠惰なり。彼は强し、だが彼女は弱し。母は壯健なり、だが父は病氣なり、小兒等も少しく病氣なり。小兒等は强く病めり、故に母は憂き悲めり。彼は體格整然として且つ美貌なり。あらびや馬は體格整然たり。姉妹の幼兒は常に靜寧なり。我は今全く安心なり。

§ 52. 1. 以太利亞に於ては天は常に蒼色なり。兄弟の眼は栗色なり、だが姉妹のは碧色なり。

2. 朋友の兄弟等は有妻なるや。—兄は有妻なり、だが弟は未だ獨身なり、姉妹等も亦然り、即ち姉は既に嫁したれとも妹は未だ處女なり。庖刀は清し、然れとも肉刺は不潔なり、口拭布は矢張り全く清きには非ず。島は甚た山勝ちにして且つ石勝ちなり。食用庖刀は鋭利なれとも文房小刀は鈍なり。士官勇敢なれば兵卒も勇敢なり、士官怯懦なれば兵卒も怯懦なり。彼は甚た狡智なり、だが彼女は質朴なり。

3. 彼は廉正にして勤勉なり、彼は尊敬(する)に足る。彼は甚た心惡し、彼女も矢張り心惡し。彼女は痩がちなり、して彼は肥滿なり。メップは甚た鹽氣强し。

4. 大なる家、家は大なり。大なる室、室は大なり。大なる窓、窓は大なり。家は大なり、だが室は狭し。兄弟の爲には借家は廣大にして且つ高價なり。象は大にして且つ強力なり。

5. 明日我は村落に乘行すべきなり。姉妹は一昨日來着すべきなり、然るに今に至るまで未だ來着せず。明日我等は大に早く起床すべきなり。貴君は兄弟に貧財せざるや。然り、貧財す、然れども格別多きには非ず。彼女は姉妹に數圓を借金せり。

6. 彼は甚だ活潑なる人なり。彼は未だ生存す。彼は以前甚だ顯要の職に就きたり。河は家の窓より見ゆ。

7. 鐘の音は遠方より聞へて有た。

8. 彼が來りしを貴君は悦ぶや。勿論悦ばし、妻も悦ぶ。

§ 54. 2-4. 耻よりして彼は眞赤になりし。熟せざる林檎は綠色がゝり居る、して熟したるは黄ばみがゝり居る。彼は甚だ朴訥めきて且つ愚に近し。紙は貴質ならず、(何となれば)彼は鼠色がゝり居る。カナリヤは甚だ纖小なる小禽にして、カナリヤの羽は眞黄色、頭は極小にして眞黒なる眼を有す。客を待受けたり、故に純潔なる眞黄色なる砂を以て邸内に撒布せり。彼は未だ極小さき童子たりし時に我は既に學校に通ふたり。兄弟の妻は至て智ある女なり。姉妹の息女は至て智ある少女なり。

§ 59. 1. 兄弟は怠惰なり、だが姉妹は尚ほ又怠惰なり。兄弟より姉妹は尚多く怠惰なり。教員等が言ひしには姉妹の子息は校内に於て最も怠惰なる且つ最も不才なる生徒なり。最も怠惰なる生徒等は級中の最後の者なり。幼稚は人生に於て最も幸福なる時期なり。夏には市内よりは村落に住居するは尚ほ健康なり。石造家屋よりは貧質なる木造家屋に住居するは尚ほ健康なり。鐵道は通常の道路より尚眞直なり。伯父の隣人は極々吝嗇なり。彼より吝嗇なる人に我は未だ曾て逢はざりし。

例外 貴君は廉價に拂ふたり、だが我は尚廉價に拂ふたり。 村落に住居するは市府に住居するよりは低廉なり。

2. 雪は紙より白し。 今日は昨日より暖かし、今日は本年中の最も暖なる日なり。 夏には七月に於て最も暑し、だが冬には一月の終末と二月の初めに於て最も寒し。 夏には朝と晩に散歩することと最も愉快なり、だが冬には晝間殊に日中に於て(然り)。 秋は冬より愉快なり。 昨日は寒かりし、だが今日は尚ほ寒し。朝は良好なりし、だが晩は尚ほ良好なり。 吝嗇なる富者は乞食よりも貧乏なり。昨日の日課は困難なりし、だが今日のは尚ほ困難なり。今日教師は昨日のよりも困難に日課を課題せり。彼は姉妹より勉勵なり。姉妹は最も勉勵なる女生徒なり、彼女は女生徒全體中より最も勉勵なる者なり。鐵は最も要用なる金屬なり。虚搆者は蛇より有害なり。肉食物は魚食物よりも滋養なり。犬は猫より遙かに慧かし。象は最も慧かしき動物なり。犬は人に最も信なる友なり。狼は狐より強し、然れども狐は狼より猾智なり、狐は最猾なる動物なり。粗暴なる行狀は開化の人よりも野蠻人に多く相應す。Одесса は人口多し、Москва は Одесса より人口多し、然れども Петербургъ は露西亞に於て最も人口多き市府なり。Москва は Петербургъ より古るし。Кіевъ と Смоленскъ と Новгородъ は露西亞に於ける最舊なる市府なり。

備考 Москва は露西亞の中心に存す、Петербургъ は Москва より北なり。Кіевъ と Одесса は (Москва) より南なり、Казань は Москва より東なり、して Варшава は (Москва) より西なり。露西亞の最も北なる市府は Кола なり、して露西亞の最も南の市府は Дальній なり(支那)。

例外 歐羅巴は亞細亞より遙に小なり。父には金錢少なかりし、して兄弟には尚少なし。息女等は遺産を分配せり、而して末女は最小部分を得たり。最小なる騒音は病翁を激せしむ。今日我は昨日より遙かに遲く起床せり。彼は姉妹より以前に(姉妹が歸りしより以前に)家に歸れり。昨日彼は一昨日より早く眠付きたり。彼は兄弟より年長なるのみならず家族中に於ける悉くの小供等よりも年長なり。彼は最も年長なる者なり。彼女は長女と共に父の許に來れり。

3. 父は母より嚴格なり、して教師は父よりも嚴格なり。將官は軍隊に嚴重なる指令を與へたり。貴君は兄弟よりも廉に拂ふたり、だが我は(兄弟よりも)高く拂ふたり。鐵は高價ならず、銅は鐵よりも高價なり、銀は銅より遙に高價なり、而して金は何よりも高價なり、金は最高價なる金屬なり。酒(葡萄酒)は麥酒よりも強烈なり、して火酒は酒よりも強烈なり。昨日は暑かりし、だが今日は尚暑し。最も暑き日は七月中に存す。夜が寒なるだけ、それだけ星は益々煌々たり。竹は松より比べにならぬ程軟質なり。昨日生徒等は靜かに座し居りたり、して今日は尚靜なり。

例外 Кіевъ は Петербургъ に對してよりは Москва に對して尚近し。彼は父の最も近隣の人なり。所有地に近接の林中に於て我等は屢々菌と木の實を摘集めたり。太陽は比較すべからざる

程、月より大なり。教師の演說を我等は大なる興味を抱て聽聞したり。我等は兄弟の言辭よりは父の言辭を尙大なる興味を抱て聽聞したり。Волга は露西亞の河中の最大なるものなり。本洲島は日本に於て最大なる島なり。Франція は大なり、Германія は尙大なり、して Россія と Англія は世界に於ける最大國なり。宮殿は高し、だが教堂は尙高し。昨年我は日本の最高山即ち富士山に登れり。正教の教堂は東京に於ける凡ての建物より高し。山葵は辛らし、だが芥子は尙辛し。彼は甚しき飮酒家なり。諸の湖は深し、だが諸の海は尙深し。兄弟の家は姉妹の家より多く湖に遠隔す。それより後は如何なりしか。その續きを彼は話す暇なかりし。妨げたり(人或は用事が)。最も熱き日と又最も長き日は六月に在り。麥酒は葡萄酒より稀薄なり。我は茶を尙ほ薄くせんとを請ふたり、だが貴君は甚だ濃き茶を注きたり。兄弟は短く且つ簡明に言ふたり、だが父は尙短く且つ尙簡明に言ふたり。春には夏よりも日は短し。夜が長くなるだけ、それだけ晝(日)は短し。最も長き日と最も短き夜は六月に於てなり、して最も長き夜と最も短かき日は十二月に於てなり。直線は最極短の距離なり。油は水より輕し。至て輕き違犯の爲には通常又至て輕き罰を附す。小流は河より淺し。此處は最も淺き場所なり。牛は身丈にては馬より低し、然れども長さは馬より小ならず。

姉妹の許には兄弟よりも我れの方が屢々往く。彼は外國よりして夥多の珍品を親戚に送り遣はせり。貴君は我が請ひしよりは弛るく包物を結べり。熟したる果物は熟せざる物よりも美味にして且つ甘味なり。牛の足は馬のよりも短く且つ細し。竹は松より無比に細し、然れども松よりも遙かに堅し。彼は手紙を極薄き日本紙に書きたり。小流は河よりも狹く且つ淺し。外套は狹し、だが「フロークコート」は尙ほ狹し。Нева は廣く且つ深し、Днѣпръ は Нева よりも廣く且つ深し、然れども歐羅巴露西亞に於て最も廣く且つ深き川は Волга なり。河は水源の近方に於ては一番狹し、して海に注入の處に於ては一番廣し。露西亞の河は日本のよりも遙に廣く且つ深し。我等は最も廣く最も深き河を久しく航行せり。

4. 朝は小寒くありし、だが晩は尙ほ小寒かりし。燒かれたる鐵は熱湯よりも遙かに熱つし。張は常に狐よりも多く痩せて居る。

例外 Петербургъ は Москва よりも大なり。Волга は歐羅巴に於て最大なる河なり。何處に於ても富人よりは貧人は多し。我等は多く勉强せしだけ、それだけ多く進步したり。子息等は遺產を配分せり、して長子は最大部分を得たり。亞米利加に於ては最も大なる河と湖あり、して亞細亞に於ては最も高き山あり。昨日天氣は佳好なりし、だが今日は尙優りて佳なり。請ふよりは與ふるは優れり。隣の商店には最良の茶あり。賢なる廉正なる人々の協會(人々と交際するは)は最良の學校なり。經驗は最良の教師なり。富者は何處に於ても(仕合せ)宜し、だが貧者は何處に於ても(仕合せ)宜しからず、唯昔話に於てのみは富者と强者よりは貧者と弱者(の仕合せ)寧ろ佳なり。

5. 1 兄弟は姉妹よりは年少なり。兄弟は級中に於て最も年少なるものなり、級中に於て兄弟より若かき生徒は(一人も)無し、彼は一番(凡ての者より)若かし。妹は姉よりも秀才なり。長子は(末子と比較して)小部分を得たり、だが末子(或は次三男等凡て長子の弟)は(長子と比較して)大部分を得たり。鋼は鐵よりも堅硬なり。昨日貴君は拙く書きたり。だが今日は尙拙く(書きたり)。老年に於ける病氣と貧困は何より悪し。

例外 弟は兄よりも痩せて居る。兄弟の中より我は最も痩せたるものなり。

2. 鳩は鴉よりも多く鳩羽色なり。伯父は父よりも多く禿げ頭なり。

3. (甲) アイノ人種は日本人よりも遙に聲深し。姉妹は兄弟よりも才能あり。彼女は級中に於て最も才能ある女生徒なり。花は雨の後尙多く清鮮に且つ芳ばしくなりし。露西亞の北部は中部及び殊に南部よりは遙かに林に富めり。低地の地質は高地の(地質)よりも水氣勝ちなり。日本は露西亞よりも山勝にして且つ石勝ちなり。

例外 妻は夫よりも遙に富めり、然れども夫よりも吝なり。最も富める人は最も大なる市府例は Лóндонъ, Парúжъ, Нью-Іоркъ に在り、然れども彼處には又最も貧なる人あり、但し村落にも最も富たる人々あり。

(乙) 我等は山の下を指して乘降れり、而して益々急斜となれり。森は鬱蒼なり、だが林は尙ほ鬱蒼なり。彼は我等が思ひしよりは遙かに質朴なり。我は姉妹よりも肥滿なり、然れども兄弟よりは尙ほ細身なり。我は姉妹の許に屢々立寄りたりだが兄弟は尙ほ屢々(立寄りたり)。我は朋友に尙屢々立寄ることを請ふたり。夜が冴寒なるだけ、それだけ空氣は清純なり。隣の井戸に於ては最も清き水あり。

§61. 昨日隣人は我が許に來れり。彼は我を汝の許に呼べり、然れども我には閑隙なかりしが故に我は彼と共に往くを辭したり、彼は汝の許に來りしや。然り、彼は我が許に來りたり、然れども我が不在なるに由て逢はざりし。我は未た彼の許に往かず、然れども兄弟は既に彼の許に往きたり、彼等は汝と我れの事を多く話したり。貴君は彼女と知己なるや。知己なり、我は以前姉妹の許に於て屢々彼女に逢ひたり、彼女等は親友なり、故に彼女は休日には殆と必ず姉妹の許に來れり、姉妹も同しく時々彼女の許に往けるあり。何故に貴君は昨日我等の許に來らざりしや。—昨日我は貴君の許に赴かんと思ひたり、然るに我等の許に客は來りて我を引留めたり。貴君は彼等の許に座し居りしは久しかりしや。否な、我は貴君の後に程なく歸りたり。貴君に何人が用あるや。我は貴君に用あり。彼に辭書は入用なるや。否な入用ならず、彼には文典が入用なり。彼は貴君に負債あるや。然り少しく負債あり。貴君は昨日彼の許に往きしや。否な、往かず。頃日彼は貴君の許に來らざりしや。然り彼は一昨日我か許に來れり。

5. 貴君には兄弟と姉妹は有るや。兄弟は我に有り、然れども姉妹は無し、貴君には鉛筆は無きや。我には鉛筆は無し。彼には辭書は有るや。彼には辭書は無し、然れども彼には文典は有る。彼等には新しき書籍は有るや。彼等には新しき新聞紙は無きや。彼等には新しき新聞紙は多分無し、然し古き(新聞紙)は有る。貴君は東京に家屋を有するや。然り、我は東京に住居せし時には家屋を有したり。彼は犬を有するや。彼には美麗なる犬有りし。彼等は金錢を有せしや。否な、彼等は金錢を有せざりし。我に宛てたる手紙は貴君の許に在らずや。貴君に宛てたる手紙は我が許には無し。彼等は露書を有せざるや。彼等は露書を有せず、彼等は日本書のみを有す。

6. 我は兄弟に謁するを得べきや。得べし、彼は在宿なり、我は辭書を家に携へ行くを得べからざるや。否な、得べからず、辭書は今晩我に入用なり。貴君は豈に明日乘行くの必要あるや。然り、我は明日乘行くを要す。貴君は何事の用あるや。我は貴君と相談するの必要なり。夜間久しく勉強するは貴君に害あり。彼に逢ふとは我には甚た愉快なりし。

7 我は寒し。貴君は暑からずや。彼等は彼處に於て樂しかりしや。彼には樂しかりし、だが彼女には退屈なりし。我は甚だ彼等を氣の毒に思ふ(可憐なり)。

§ 62. 父は在宿なるや。在宿なり、彼は自室に居る。我は自身の爲めにも貴君の爲めにも帖面を買ふたり。彼は常に自身の事のみを慮れり。彼の女は自身の事を甚た多く言ふたり。彼女は自身の爲に林檎を取り、して我に梨子を與へたり。我等は自身の爲に新らしき書籍を買ふたり。貴君は自身の爲に新なる外套を注文せしや。貴君は自身に金錢を所持せしや。—否我は自身に金錢を所持せざりし。彼等は貴君を自身の許に招きしや。自身の許には招かずして父の許に招きたり。

§ 63 我父と汝の姉妹は今多分已に Москва に在らん。先日我父と母は汝の叔父の許に客に赴きたり、彼處に於て彼等は汝の兄弟と姉妹に面會したり。我兄弟と汝の兄弟が修學せしとき我兄弟は汝の兄弟を助け、して汝の兄弟は我兄弟を助けたり。教師は未た曾て我をも汝の兄弟をも罰せざりし、我兄弟を罰したれども然とも甚だ稀なりし。貴君の父は壯健なるや。父は壯健なり、然れとも我が姉妹等は壯健ならず。先の日曜日に於て我兄弟の許にて貴君の事と貴君の息女の事を多く話したり。我等の家は木製なり、して貴君の家は石造なり。我等の家屋の屋根は同じく木製なり、して貴君の家の屋根は纖製なり。貴君の舌は貴君の敵なり。我は彼の兄弟と彼女の姉妹の許(即ち)彼等の家に在りたり。貴君は我兄弟の誕生日を兄弟に向つて祝賀せしや。然り我は朝彼の許に行き彼と其家族を祝賀せり。汝の母は我を自身の許に招待したり、我は彼女の招待を受け且其爲に彼に感謝したり。貴君は貴君の姉妹の家の傍に於て何人と共に立ちて談話せしや。我は彼女の夫の甥と談話せり。我は彼等の電報を得るや否直に彼等の親族に通告したり。我は彼等の許に在りて彼等の客に見みえたり。先の土曜日に我は自身の親戚より數通の手紙を得たり。貴君は自身の日課を知りたりしや。我は自身の日課を知らざりし、然れとも兄弟は其日課を知りたり。貴君は斯く久しく何處に居りしや。我は自身の室内に座して自身の朋友等に手紙を書きたり。彼女は自身の物品を受取しや。彼等は其小供に濕氣がちなる天氣に室内より出づるとを許さゞりし。

§ 64. 此家は新たなり、して其家は古し。之は新なる家なり、してそれは古き家なり。此家屋は大なり、してそれは小なり。此室は大なるものなり、してその室は小なるものなり。之は大なる室なり、してそれは小なる室なり。之は甚だ廉價なりそれも高價ならず。此小供等は誰なるや。此小供は我姉妹の小供なり。之は我姉妹の小供なり、してそれは隣人の小供なり。教師は常に此童兒等を譽めたり。此小供等には甚た宜しき媒母あり。我弟等は此小供等と知己なり。貴君は以前此人に面會せしや。此島には住民少し。彼等は頃日出發せり。彼は我等に此事を後に話すとを約した

り。その時よりして我は最早彼等の許に在らざりし。昨夜誰は我等の許に來りしや。之は我朋友等が書籍の爲に我許に來りしなり。

彼は何者なるや。彼は官吏なり。彼女は何者なるや。彼女は教員の妻なり。我家族の爲には斯くる家は甚だ大なり。我は斯くる人と知已となる事をも欲せざりし。我は斯くる書籍を小供等に讀むを許さいりし。斯くる善人に我は未だ曾て會はざりし。斯くる家屋斯くる街衢を我は未だ曾て見ざりし。貴君の親友は斯くるものなり。貴君の親友等はうれ斯の如し。彼は斯くるものなりしとは我未だ曾て思はざりし。

§65. 彼は誰なるや。之は何なるや。之は何者なるや。彼等の中誰が年長者なるや。彼等の中誰が姉なるや。貴君の時計にては何時なるや。貴君は第幾時に歸宅せしや。昨日は(月の)幾日なりしや。今日は何曜日なるや。今日は月曜日なり。彼は如何なる人なるや。彼は如何なる者なるや。甚だ人好き眞き者なり。彼女は如何なる婦人なるや。彼女は如何なるものなるや。彼女は人好き眞き婦人なり。之は如何なる家なるや。貴君に面會を乞ひし人は何者なるや。之は如何なる書籍なるや。彼女と話せし婦人は何者なるや。貴君は如何なる書籍を買ひしや。貴君は何級に居るや。貴君は何れの室に於て勉强せしや。我は中間の室に於て勉强せり。今日は如何なる天氣なるや。今日は好天氣なり。今日の天氣は如何なるや。今日の天氣は宜ろし。

之は誰の家なるや。之は誰のペン軸なるや。之は誰のペンなるや。此書籍は誰のなるや。貴君は誰の書籍を讀みしや。誰の誤謬甚だしきや彼のなるや或は我のなるか。貴君の小供等は誰の小供等と遊戲せしや。貴君は以前誰の家に住みしや

5. 彼は如何なる人なるや。彼女は如何なる婦人なるや。彼等は如何なる人々なるや。之は如何なる家なるや。之は如何なる書籍なるや。

貴君の姓は如何。彼の名は如何。貴君の事業は如何になり居るや。貴君の健康は如何。

6. 彼は如何に人好き眞き人ぞや。

9. 我は此事を誰と相談すべかりしや。貴君は我父と相談するとを得べかりし。彼は我と何事を話すとありしや。彼は貴君と自身の用務の事を話し得べかりし。彼は何を致すべきなりしや。彼は宥恕を乞ふべきなりし。

§66. 4. 彼は何人と談話せしや。何人と彼は談話せしや我は之を見ず。彼の女は何事を乞ひしや。何事を彼の女は乞ひしや彼は之を我に傳へざりし。彼は誰を嘲笑せしや我之を解せず。彼は一致さんと計畫せし事を言ふを欲せざりし。貴君或は貴君の兄弟何れか傭りて學習せしや彼は之を言はざりし。何れの年に於て此事は生ぜしや我は之を忘れたり。今日は如何なる天氣なりしやを我は知らざりし故に散步に赴かんことを用意したり。彼女は如何なる書籍を買ひしやを彼は知れり。彼は誰の親友なるやを我は聞きたり。貴君の小供等は誰の小供等と遊び戲れしやを我は認めざりし。彼等は家屋の爲に幾何拂ひしや我等之を知りたり。

5—6. 少事にて滿足なるものは幸福なり。激し易きものは執念深からず。殊に勉强せしものに彼は書籍を惠與したり。貴君が卓内に置きし物は(其儘)ありたり。買はんと思ひたりし物を彼は買ふたり。之は我が先日貴君に言ひし處の其我が朋友なり。貴君が外國に於て知己となりし我伯父は先日我に手紙を遣はしたり。之は我兄弟が我に惠與せし處の其書籍なり。彼女は綸入の書籍の爲に來れり。昨年我等が住居せし處の家屋は先頃燒けたり。一昨日彼等が立退きし處の家に於て昨夜火事は生したり。貴君の所有するは我が所有すると同しき辭書なり。貴君も我も所有せざる如き書籍を彼は多く所有す。兩親が兩親なれば小供等も亦此の如し。教師が教師なれば生徒も亦此の如し。

7. 我隣人は(頃日貴君の姉妹が其妻と知已となりし)危篤に病氣なり。昨日我許に日本人は來れり、其者の家に於て我は昨年住居せり。客室の便利なる處の旅店にのみ彼は常に止宿せり。

§67, 3. 我は既に此書籍を悉く通讀せり。生徒等は悉く教場に居るや。人は皆斯く思たり。此事をば我のみ聞きしにあらずして我家族全體は聞きたり、我等皆之を聞きたり。今日教師は悉の生徒等を質問せり。貴君は此處に於ける悉の人と知已なるや。我は貴君の兄弟のみと知已なり、其他の人々とは我は以前面會せざりし。我等は終夜乘り行きたり。我は朝より晩まで終日貴君を待ちたり。彼はコップ一杯を飲み盡したり。凡て善しきものは稀有なり。我物は凡て汝の物なり又汝の物は凡て我物なり。彼は此事一切を直ちに信したり。全く靜かなりし(何となれば)人は皆已に就寢せり。彼は殊に末女を愛せり。我兄弟は凡ての自分の同僚等より勉勵なり。彼は兄弟中最も人好きの善きものなり。

4—5. 我等の學校に於ては樣々の生徒あり即ち勉勵なるものも怠惰なるものもあり。彼は如何

なる日にも即ち悪しき天氣にも好き天氣にも學校に赴きたり。彼女は毎日（日曜日にさへも）學校に赴けり。市内の者は何人も彼を知れり。如何なる人にも各其欠點と弱點あり。彼は如何なる風説をも皆容易に信じたり。佛蘭西は歐羅巴の他の諸國より富めり。人毎に自身の顧慮あり。我朋友は各此書籍を有す。其家に於て以前生徒等は住居せり且つ彼等各自身の居室を所有したり。我等散歩したりし時彼は家毎の門と戸口を覗きたり。

6. 神自ら彼を罰したり。父と母は自身に彼を迎へたり。我れ自身も肚健ならず。我れ自身には只今一錢もなし。彼れ自身をば我は見ざりし。彼は常に自身の事のみを慮かれり、して彼女は屢々自身の事を忘れしことありし。彼等自身は未た此事を聞かざりし。

7. 我家は海の眞ゝ岸にあり、して別莊は山の絶頂にあり。我は此書自らを貴君に紹介したるなり。此家には曾て我も住居したり。市府其者は別格大ならざれとも其住民は餘程多し。地震のありし其日に我は東京に來れり。我は滊船にて同行せし處の其人自身に今日逢ふたり。彼は我市府に於て最も富みたる人なり。

§ 68. I. 或者は或事を言ひ他の者は別の事を言へり、其中誰か正にして誰か過つや之を解し難し。或者等は或事を言へり他の者等は他の事を言へり。甲の人には或習慣あり乙の人には他の習慣あり。我等の學校に於て授業は未た始らざりし（何となれば）或生徒等は病氣にして或る生徒等は未た歸校せざりし。此書籍は悉くの生徒に存するや。或生徒等には之れあり或生徒等には之れなし。彼は或生徒等を禮遇し或生徒等を疎かにす。彼は或生徒等には屢々質問し或生徒等には稀に質問す。彼女は或女生徒等をば常に賞讃し或女生徒をば殆んど絶へて賞讃せざりし。

今日園中には小兒のみ存して成人は全く存せざりし。我は小兒のみに逢ふたり。我姉妹の小兒等は男兒のみにして女兒はなし。彼女は女兒等のみを携へて我許に來れり。

此家屋は皆同一の持主の家屋なり。彼は常に同一の事のみを言へり。廉正なる人の爲には約言すると之を遂行するとは同一物なり。我等は同一の書籍に依つて學習したり。

彼の物語り中の多くは全く信ずるに足らず。彼は多言し且つ多事を言へり。我は多くの點に於て貴君と不同意なり。我は彼に依つて多くの事を學び得たり。我家族の多の者は雷雨を恐れたり。此市府に於て彼は多くの人と知己なり。

II. 我が不在中誰か來りしや。然り何人なりしか來れり 然れとも 其は何人なるや我は 知らざりし。誰なりしか家に止まりしや。多分何人か止まりたり即ち兄弟或は姉妹。彼は乞食に何物をか與へしや。然り何なりしか與へたり。彼は何物をか我に傳達するとを貴君に依托せざりしや。然り彼より貴君の爲にする何なりしか我許に在り、或る一種の送物なり、彼等は Нетрóвъ 某君の事を言ふたり然れとも彼は何人なるや我は之を解せざりし。今日我等の許に或未知の婦人來れり彼女は何事をか父に請ふたり。此列車の破壞せし際乘客の多くは死亡せり唯多少の者のみ助命を得たり。貴君が京都に赴きし際には多分貴君は凡ての知人を訪問せしならん。否悪くの知人にあらずして或人々の許にのみ行きたり或者の許に立寄るは必要なりし。我は貴君と多少の事を話すべき必要あり。

日本に於ける或場所は絶妙なり。山の或る頂には不斷の雪あり。我は一種の惱心を懷いて此事に着手したり。或邦或國に於て某は住みたりしとは露西亞の昔話の通例の冒頭なり。

§ 69. 彼等は先頃よりして互に往來するとを止めたり、だが以前は互に毎日往來したり。彼等は互に談話すべき言草を知らざりき。彼等は互に大に滿足なりし（相互の人柄に就て）。姉妹等は互に甚た相愛したり。兄弟等は常に相互に爭ふたり。貴君は徒に此語を交ゝ換用したり、彼は書籍を相重て置きたり。

§ 70. I 誰か在宿なるや。我の外誰も在宿せず。彼は我等の中誰にも此事を言はざりし。昨日我許に何人も來らざりし我自らも何人の許にも行かざりし。彼女は何人の許にも赴かず彼女の許にも何人も來らざりし。貴君は途中誰なりかと遇ひしや。否我は誰とも遇はざりし。月の下に何物も新らしからずとは露西亞の俚言なり。此事は我等の中誰も毫も聞かざりし。彼は誰とも會見するとを欲せざりし何となれば何事をも言ふとを欲せざりし。貴君には何物か必要ならずや。否我には何物も必要ならず。彼は未た曾て誰の助力をも待望せざりし。我は一の人を知れり其人は何人の憂苦にも同情を表せず何人の不幸にも感動せず何人の請願及び涙にも何の注意も向けざりし。我姉妹の小供等は何人の小供等とも親和ならず。兄弟中誰と貴君は懇親なるや兄なるや或は弟なるや。彼等の中何人とも我は懇親ならず。東京に於て或市街には電燈あり、だが或市街には何等の燈もなし（多くは然り）。今日我等の處には何の仕事もなかりし。此川に於ては如何なる魚もなし。日本の如何なる市府にも京都に

於けるが如く多くの寺院なし。彼には姉妹多けれども一人の兄弟もなし。此市府に於ては彼女には一人の知己なる女もなし。貴君の兄弟の如き正確なる發音は一人の生徒にもなし。

§ 71. 貴君の級には幾人あるや。貴君は何歳なるや。貴君の兄弟は西伯利亞に幾年在留せしや。彼は西伯利亞に一ケ年も在留せざりし。彼は西伯利亞に數年在留せり。彼は數圓を彼に貸與するとを我に請ふたり左れど我は數錢のみ持合せたりし。數圓を以て我は前一ケ月を生活したり。彼女は或乞食等にパンを與へ或乞食等に金錢を與へたり。貴君は幾何の露書を有するや。我は貴君の所有する位露書を所有す。汝は幾何の鉛筆とペンを所有するや。我は汝の所有する位ペンを所有す然れとも鉛筆は遙か少なく我は所有す。彼は悉くの自身の金錢を逢ひし處の乞食等に分與したり、乞食一人毎に數錢宛を得たり。

§ 76. 1. 貴君は幾何の書籍を買ひしや。數册を買ふとを豫想したり、だが一册のみを買ふたり。貴君は幾箇の時計を所有するや。我は一個の柱時計と一個の懐中時計を所有す。

2. 我は二本の鉛筆と三本のペン軸を有す。彼は二册の書籍を買ふたり 即ち日本書一册と露書一册とを。人には二ツの目と二つの耳と一の口あり、二つの眼と二つの耳は多く聞き又見んが爲めなり、一つの口は少く言はんが爲なり。一ケ月には四週間あり、だが一週間には七日あり。世界の洲は五なり。即ち歐羅巴 亞細亞 亞米利加 亞弗利加 澳斯利亞なり。彼女は兩手にてランプ支へたり。彼は三人の小供ともに我等の許に來れり。彼は四人の工夫に金錢を拂ふたり、だが六人には近日中に拂ふとを約したり。

備考 1. 露西亞には都府二ツあり即ち Москва と Петербургъ なり日本にも同じく二ツあり即ち東京と京都なり。世界の方角(の數)は四あり即ち東西北南。昨日我はペン軸一本とペン二個と鉛筆三本と石筆四本とを買ふたり。

3. 貴君の親族は多大なるや。我には父母の 外 に五人の兄弟あり 即ち二人の兄と三人の弟幷に二人の姉妹あり即ち一人の姉一人の妹なり、兄は已に以前娶れり、彼は八人の小供を有す即ち五人の男兒と三人の女兒なり、他の四人の兄弟は未だ無妻なり、姉は嫁せり、彼女には三人の幼兒あり其年長なる二人は男兒にして年少なるは女兒なり、我妹は未だ嫁せず。我隣人は三個の石造家屋と十六個の木造家屋を所有す。一年には十二ケ月あり。

4. 一月は三十一日にして四月は三十日なり、して二月のみは二十八日なり。東京より横濱まで鐵道によれば十八哩なり。此村より市府まで四十五里あり。して隣村までは二十一里あり。我は貴君に七十五圓を借用せり、我は貴君に五十圓を返濟したる故に我は貴君に二十五圓負債となれり。此文房具の爲に我は六圓九十四錢を拂ふたり。Петербургъ にては Нева 及び運河に於て百八十二の橋あり即ち三十九の石造橋と二十一の鐵橋と百八の木造橋と十四の船橋なり。Москва 即ち露國の京都には二百六十二の教堂と十七の修道院あり。Петербургъ より Москва まで六百九里にして Москва より Кіева まで八百四里なり。

5. 我軍は二人の士官と二十二人の兵卒を捕獲せり。昨日教師は四人の生徒のみに質問したり、して今日は全級即ち三十四人の生徒を悉く質問したり。

6. 以前彼は一ケ月二百圓を得たり。二百圓中には幾錢を有するや。此家屋の建築は二萬四千圓程を費したり。彼女は近頃二萬四千圓の遺産を得たり。Бородино の戰爭に於て露軍は十二萬人の組織にして Наполеонъ には十八萬以上なりし。平時露國の軍隊は九十五萬人までに達し四千五百砲門と三十五萬馬匹なり、して戰時には四百萬人に達し六千の砲門と六十萬馬匹を伴ふ。 Екатерина Великая の在位の初に於ては露國には一千四百萬の人口なりし、して現時は凡そ一億四千萬人なり。

備考 Петербургъ は Москва を去る六百里に在り。

7. 二人の乞食に彼は六錢づゝを與へたり又た三人に三錢づゝを、又四人に二錢づゝを又五人に一錢づゝを與へたり。人には各手及び各足に五本宛の指あり。其就任の始めに於ては彼は一ケ月百圓宛の俸給を得たり。彼は其家族に一ケ月百圓宛を送れり。店よりの勘定は左の加し即ち一斤二圓宛の茶三斤即ち四圓及び一斤十二錢宛砂糖十斤即ち一圓二十錢及び五十一錢のコーヒ八斤即ち四圓八錢及び一瓶六十五錢宛の酒五瓶即ち三圓二十五錢及び十一錢宛の麥酒十二瓶即ち一圓三十二錢合計拾三圓八十五錢なり。

8. 我姉妹には五人の小供あり。彼處には人は多く來りしや。人は少なかりし即ち男は八人女は十二人小供は五人合計二十五人なり。貴君の所有地には幾頭の家畜あるや。馬は十二頭、して牝牛

は五十頭以上なり。彼は我圖書舘に五十部以上の書籍を献呈したり。親戚と知人に進物の爲に彼女は絹布十二反と麻十五反を買ふたり。

9. 姉妹は露西亞に一年のみ住居したり、我は三年住居したり、して兄弟は五年住居したり。彼は露西亞語を六年學びたり。此兒はは甚た遲く歩行し始めたり即ち誕生より三年後なり。彼は小學校に二年學び中學に八年大學に四年合計十四年學びたり。兄弟は我より二年長ぜり而して姉妹より五年若し。我は五年以前函舘に在りたり。

10. 一階中の三間の借家は甚た高價なり、して二階の五戸の借家は廉價なり。

何人が貴君の許に來りしや。三人の我朋友は我許に來れり。幾人の朋友は貴君の許に來りしや。我許に來りしは我朋友三人なり。二人の兄は出立したり、して二人の弟は家に止まれり。

昨夜何物が燒けしや。昨夜五個の家と二個の店は燒失したり。昨夜燒けしは幾個の家と店なるや。昨夜燒けしは五個の家と三個の店なり。

§ 78. 日曜日は一週間の第一日なり、月曜日は第二日なり、して土曜日は第七日なり。一月は一年の第一の月なり三月は第三の月なり、して十二月は第十二の月なり。貴君は第何年級に居るや。我は第二年級に居り我兄は第三年級に居り、して我弟は一年級に居る。彼は第一年級には一年居りたり、して第二年と第三年級には二年宛居りたり。彼は復た同級に止まりたり。我等は第三日目に來りたり、して彼等は第五日目にのみ來れり。貴君の宛所は如何。我宛所は某々街第三區第五十四號家屋第六號借家なり。一昨年には我は近所に寓居せり即ち第五十七號家屋に於てなり。現今は二十世紀なり。今は一千九百一年なり。明治朝の元年は歐羅巴の年數法を以てすれば一千八百六十八年なり。我は明治十一年に生れたり即ち一千八百七十八年なり。彼は露國に七ケ年滯在せり即ち一千八百九十一年より一千八百九十七年まで引續きて。一千八百十二年の冬は甚だ厚寒なりし。

§ 79. 1. 貴君の兄弟は級中の第一番生徒なり、して我兄弟は第四番なり。第一番の生徒等は褒賞を得たり。今日教師は上席の三人の生徒と末席の二人に質問せり。此茶は優等の茶なり。彼の姉妹は第十三番の女生徒なり、して貴君の姉妹は最後即ち第四十八番の女生徒なり。

2. 皇帝 Николай 二世は皇帝 Александръ 三世の子にして皇帝 Александръ 二世の孫なり又皇帝 Николай 一世の曾孫なり。

§ 80. 2. 今日は幾日(月の)なるや。今日は朔日、二日、三日、十五日、二十一日、三十日なり。今日は今月の最後の日なり。前週の金曜日は十一日なりし故に今日即ち火曜日は十五日なり。今日は一月一日、二月二日、三月三日、四月十四日、六月二十八日なり。一年中の第一日は一月一日なり、して一年中の末日は十二月三十一日なり。八月三十日は月曜日に當りたり故に昨日即ち金曜日は九月三日に當る。十一月三日は日本皇帝の誕生日なり、同日は露國今帝の即位就任の日なり。

4. 彼は何時來りしや。彼は一日、二日、三日に來れり。彼は一月一日、十月十日、十一月二十日に來れり。彼は一千八百六十八年一月二日に生れ。一千八百九十三年五月二十七日に結婚し、一千八百九十七年十二月十五日に歸となれり。彼得大帝は一千六百八十二年四月二十七日に即位し而して一千七百二十五年二月八日に崩御せり。

5. С. Петербургъ. 一千九百一年四月四日。Москва. 一千九百一年五月九日。 Москва. 一千九百一年五月九日。

7. 第十二年(即ち一千八百十二年)は Наполеонъ の統督の下に二十民族が露國に侵入せしを以て著名なり。第五十五年(即ち一千八百五十五年)に於て露西亞は同時に四ケ國と戰爭したり即ち土耳古、英吉利、佛蘭西、以太利となり。第七十八年(即ち一千八百七十八年)に於て露國の軍隊は Константинополь の直く傍に立ちたり。

8. Пушкинъ は前世紀の第三十年代に死せり、して Тургеневъ は第八十年代に死したり。

9. 祖國的戰爭は十九世紀の初めに行はれたり。露西亞人等は九世紀に於て基督敎を受けたり。Будда (佛陀)は多分紀元前五世紀に生存せしならん。此戰爭は紀元後第十四世紀に行はれたり。

§ 81. 彼は幾歲なりや。彼は十歲、二十一歲、二十二歲、三十八歲なり。貴君の小供等は幾歲なりや。長兒は五歲と三ケ月にして末兒は僅に二歲なり。我父は六十二歲、母は五十七歲、兄は三十四歲、弟は二十一歲、して我は二十八歲なり。

貴君は幾歲にして學校に入學せしや。我は八歲にして小學校に入り十歲にして中學に入り十八歲にして大學に入り、我は二十二歲にして大學を卒業せり。

彼は數へ年幾歳なりや。彼は第一年なり、第二年なり、第十年なり、第三十年なり。我兄は數へ年三十四年なり、して弟は同じく廿六年なり。我父は數へ年六十三にして母は同じく五十六年なり。

§ 83. 3. 兩人の我兄弟と兩人の姉妹は宜しく學びたり。兩人の兄弟は教場に於て并び座せり、兩人の書籍と雑記帖は常に整頓したり、朋友等は尊敬を以て兩人に接したり、教師等は兩人に就て滿足を表し且常に兩人の事を賞賛を以て表せり。兩人の姉妹は同一の身の長けなりし、兩人共に黑き髪の毛なりし、女友等は兩人を愛したり、兩人共に殆んど常に同樣の衣服なりし。客人等は主婦の兩側に座したり。

4. 我兄弟には小供五人あり即ち男兒二人と女兒三人なり。三人の兄弟中我は最末なるものなり。七人の生徒は未だ來着せず、して三人は病氣なり。三人の小供等に彼は玩弄物を惠與したり。して四人には書籍を(惠與したり)。教場用の卓一個毎に五人宛の生徒は座せり。二個の時計。二時。此には三個の時計あり即ち柱時計一個懐中時計二個なり。此家には二つの門あり。其室には二つの扉あり。二個の鋏の爲に彼女は一圓を拂ふたり。此善人は五人の孤兒(男兒)を養育したり、して彼の妻は六人の孤兒(男或は女)を養育せり。

§ 84. 2-5. 彼は一の林檎を二つの部分に截斷し而して其半分を我に與へたり、して他の半分を自ら取りたり。全數は半分より大なり、半分は三分一より大なり、して三分一は四分一より大なり、四分一は三分一より小なり、して四分の三は三分の二より大なり。一時間の四分の一には十五分を有す。半時間には三十分を有す而して一時間の四分の三には四十五分を有す。我は二斤半の茶と五斤四分の一の砂糖と十斤四分の三の麪とを買ふたり。我等は二十二里半を三時間半にて乘り行けり。冬には我等の處には各學課は一時間の四分の三宛續きたり、即ち四分の一足らずの一時間宛なり。我は彼等の許に二時間四分の一程座し居りたり、して彼は殆んど三時間と四分の三を座し居りたり此羅紗の一呎の價は四圓四分の三乃至五圓半なり。

81-2. 茶一斤の四分の三の爲に我は一圓半を拂ふたり。我は未だ一圓五十錢を店に拂はざりし。我家より海までは一里半なり。貴君は一圓五十錢を所持せざるや。最初の一年半は彼は勤勉に修業したり。頃日我は百五十圓を母に送りたり。彼は馬の爲に百五十圓より少からず拂ふたり Петербургъ は百五十年間に歐羅巴の華美なる都會の一となりたり。

§ 85. рубль の十分の一は гривенникъ なり、して其百分の一は копѣйка なり。一圓の十分の一若くは百分の十何れか大なるや。陸は地球の表面の三分の一或は正確に言へば百分の二十七を占む、殘餘の三分の二部分或は正確に言へば百分の七十三は水にて覆はれたり。露西亞帝國の版圖は地球の廿二分の一以上と陸地の表面の凡う六分の一部を占む。

§ 86. Петербу́ргъ に於て正午即ち晝の十二時たる時は Москва́ に於ては十二時半、Варша́ва に於ては十一時廿二分、Ло́ндонъ に於ては十時に二分半足らず、Пари́жъ に於ては十時九分、Римъ に於ては十一時十分前、Каза́нь に於ては一時四分の一、Берли́нъ に於ては十時五分前、Брю́ссель に於ては十時四分の一、Нью-Йо́ркъ に於ては朝の五時四分の三、Не́рчинскъ に於ては晩の五時四分の三、東京に於ては晩の七時廿一分なり。

§ 99. 彼は常に凡ての人に對して禮節あり且つ愛嬌あるものたらんとを努めたり。彼は從順なる子たるとと模範的生徒たらんとを努めたり。他人に對するよりは自身及び自身の昵近者に對して公平なるは難し。彼は官吏たらんとを欲せり、して教員に就任せり。

明日は多分好天氣ならん。否明日は不良なる天氣ならん、明日は多分雨或は雪ならん。貴君は今晩在宅せんとするや。然り斯くあらん。我は明日貴君の兄弟の許に行かん、貴君は彼の許に行くならんか。若し貴君が行くなれば我も行かんとす。今日貴宅には客はあるならんか。否今日我許には客は無からん。彼が在學せんとする時は彼には善良なる朋友はあらんとす。彼が在學せんとする時は彼は勤勉者たらん。彼女は決して幸福なるものたらざらんとす。彼は節儉なる者たらん、して彼女は浪費なるものたらんとす。彼は長官たらんとする時は嚴格ならんが然し公平ならん。貴君は此手紙を兄弟に傳達し呉れましやや。貴君の辭書を持ち行くとを我に許るすや。否能はず、(何となれば)辭書は今晩我に必要ならんとす。人類の存在せん限りは罪惡も存せんとす。彼れの一人の子は士官とならん、して他の一人は教員たらんとす。諸君よ貴君等若し勤勉家たらんなれば後ちには有益なる人とならんとす。

若し天氣が良しかりならんには我は貴君の許に赴きたるならん。彼女若し温良たりしならんには人は皆彼を愛したらんに。若し醫者が母の病は重からずと言ひしならんには父は安心せしならんに。彼れ若し尚多く勉勵せしならんには彼は金錢を所有せしならんに。若し我れ彼の請願を遂行せさり

しならんには我は愚知らずの人たるならん。貴君若し兄弟の許に行きしならんには我も亦行きしならんに。貴君若し善良なりしならんには人は皆貴君を愛したらんに。我は朝此處に在らんとを彼は命ぜり。吁彼れ若し幸たりしならんには。

凡ての人に對して善良たるものとなれよ且つ各人に對して禮節あるものたれよ。斯く善良たれよ(「何卒」の意)。斯く深切たれよ(「何卒」の意)。何卒我に其書籍を傳達し給へ。何卒兄弟に言傳へよ、我は健康を害して今日は彼の許に行かざらんと。何卒今暫らく我等の許に滯在せよ。我父は常に言へり、設令我小供等は貧困ならんとも而かも廉正なるものたるべし。爰に今暫らく我等居らんではないか。諸君よ我等は己れに嚴格となり而して他人に對し寛恕たらんではないか。

此人は我學校の以前の校長なり。彼は明年歸るとを約したり。以後は更に謹格なるものたるべし。

村落に居りては我は常に早く起きたり。市府に到りし際我は凡ての知人等を訪問したり。

§ 104, I. 1. 貴君の兄弟等は今何を致し居るや。彼等は多分何事も致し居らず。善人は仇敵にさへも害を行はず。貴君は之を行はざらん、正に然るにあらずや。何卒我に之を爲すを許せよ。何卒我が貴君に願ひし如く貴君之を行ひ給へ。貴君の行ひし事は凡て佳良なり。貴君は尚一杯の茶を望まざるや。然り何卒。我と共に晝食するとを望まざるや。若し然らんには我は甚だ喜悦せん。我身に幸福を望まずして智力の大ならんを望めよ。己れに望まざることを他人に望むなかれ。我等は彼に安全なる道中と健康を望まん。貴君は自身の日課を習ひ知るや。彼は自身の日課を知り居れとも我は未だ之を知り居らず。我等は何事より少なく自身を知る。貴君は之を行ひたるや自白せよ。然り我は之を行ひたりと自白す。人の爲に地上に於ける幸福は其人が自身の事を忘れて他人の爲に生活し始むる時に於てのみ始まる。我兄弟は露語を話し始む。貴君等の第一學科は何時に始まるや。貴君は何時に晩食するや。日本人は凡て甚だ早く晩食す。昨日貴君許に於て晩食したる或る人々とは我は以前知己ならざりし。貴君若し未だ晩食せざりしなれば我等は共に晩食せん。小供等は何處に遊戲し居るや。今日は甚だ濕氣あり、小供等は宜しく室内に於て遊戲すべし、戸外に於てすべからず。貴君は風琴を奏し得るや。我は風琴をもバイオリンをも奏す。我等の爲に一曲を演奏し給へ。我は喜んで之に應ぜん、貴君は何を所望するや。新年の祝日中日本人は常に歌牌を弄ぶ。彼は修業するとを努むるや。何卒今週の終りまでに此事業を完結するとを努めよ。疫病よりして人は急速に死す。分別を以て親友を撰べよ。

2 醫者は兄弟に未た病褥より起るとを許さず。兄弟は篤く病みたれども今は已に快復中なり。貴君は屢々散歩するや。我は通常朝と夕刻散歩す、然れど若し雨天なれば我は散歩せず。我は怪しむ、今に至るまで未た父の來らざるを。兵卒等は朝には小銃を射撃したり、して今は大砲を射撃し居る。彼は常に貴君に新題の日課を説明するや。殆んど常にす。貴君は何故に露語を以て話すとを憚かるや。我が發音は餘り巧からざるに依つて我は之を憚る。何卒我等の許に於ては之を憚かるなかれ、我等の許に在りては自宅に於けるが如くし給へ。我母は貴君に宜敷く申上候。何卒貴君の家族全體に我より宜しく申下されたし。青き色は速に褪色す。何卒我手紙を紛失するなかれ、其手紙は甚だ大切なり。徒らに事實を經過せずして貴君は速に彼の人の手紙に返答せざるべからず。遺失物は之を得ること容易ならず。貴君は彼を信用するや。我は全く之を信用す。何となれば彼は確實なる人なり。

3. 人には各憂と喜とあり。墨汁には黒き赤き青きあり。秋の終末に於て日本の北部には屢々霧あり又た時として暴風もあり。西伯利に於ては日本に決して存せざる程の寒氣毎年あり。貴君は自身の親族の許に屢々往くや。格別屢々往かず、(何となれば)我には閑隙少なし。彼は新らしき事を速に記憶すれとも亦た速に忘る。彼の記憶力は薄弱なり。貴君は何處に居るとも親族特に貧困なる親族を忘るゝ勿れ。露語にて之を何んと名つけらるゝや。それ其滊船は何んと名づけらるゝや貴君は知らざるや。彼は自國に於て教育されたり、して其兄弟は外國に於て(教育されたり)。彼は自身の小供等を亞米利加に於て教育せんとす。何故に貴君は之を我に秘するや。此事を何人にも言はざる事を我に乞ふたるに依て我は秘す。貴君は何を清書し居るや。我は自身の文章を清書し居る。貴君は此書籍より何を寫し取るや。詩を寫し取り居る。何人なるか貴君に面會を請ふ。貴君の母と談話し居るものは是れ何人なるや。諸君よ授業時間には談話する勿れ。貴君の宅の人員等の起居は如何に。幸に我家にては皆壯健なり、して貴君の起居は如何。果實は已に生熟し居る。貴君は豈に彼の廉正を疑ふや。實を言ふなれば我は之を疑ひ居る。速に靴を履き且つ衣服を着せよ客は直に來らんとす。

4. 彼は甚だ多く自身の親戚に助力す。貴君若し他人に助力せんときは他人も亦貴君に助力せん

とす。貴君は休暇中に於て何を爲さんとを豫想するや。我は休暇中を山中に經過せんとを豫想ず、且つ何事も爲さゞらん、(唯) 休息せんとす。今日貴君は閑隙を有するや。然り之を有す。犬は人に馴る、して猫は家屋に馴る。彼は晝食後常に休息す。

人は皆彼を尊敬す、して彼の妻をは殆んど何人も尊敬せず。貴君は何時田舍に出立するや。明日出立す。して何時歸り來るや。今月の末に戻らん、それより早くはなし。彼の許には絶へず客あり、或客は出立し或客は到來す。讀むとを繼續せよ、我は之を聞き居る。注意して之を聞けよ、之は甚だ主要なる規則なり。貴君は自身の親族より手紙を受くるは屢々なるや。餘程屢々之を受く、殆んど毎週に。貴君は幾千の俸給を受くるや。我父は貴君を田舍に自身の處に招待す。諸君よ談話する勿れ、貴君等は他人に聽聞を妨ぐ。我は貴君に妨げざらんとす、我に遠慮なく貴君は自身の事業を繼續せよ、して我は其間に新聞を讀まんとす。醫者は猶未だ兄弟に起床を禁ず。貴君は之を否認し居れども我は彼が之を行ひしと確認す。

貴君は何事を考へ居るや。貴君は此事を如何に考定するや。先づ一考せよ、然る後に最早之を行へよ。貴君は誤り居る。我は誤り居らずと確信す。貴君は何事を微笑するや。貴君は(常に) 何處に於て茶を買ふや。隣りの店に於て之を買ふ。此馬を買ふ勿れ(何となれば) 彼は大に老年なり。貴君は我が言ふとを解するや。我は解す然れども悉くにあらず(何となれば) 我は一年以内露語を修め而して通常の言語すら未だ多く之を知らず。貴君は何を修業するや。我は露語を修む。此人は各人に金錢を借用す、然れども之を返すは稀なり。我は今に至るまで未だ服藥す。小供等よ速に起き着服し顔を洗ひ讀書に着手せよ。

今日貴君は何處に晝食するや。我は今日知人の許に晝食す、して明日は自宅に於て晝食せん、明日貴君は我と共に晝食せざるや。今日貴君は來客を待受けよ(何となれば) 我が叔父と姉妹は貴君の許に赴かんと思ひ居る。愚者は非難し智者は考察す。彼は常に遲刻す、多分此度も遲刻せん。我孩兒は已に匍匐す、數月を經れば步行せんと我は思ふ。此事件は我に關係せず。我自身に至りては此漫遊にて大に滿足す。用心せよ(何となれば) 此犬は噛み付く。犬は噛み付くものなり、して猫は爬くものなり。貴君は何を讀み居るや。Пушкинъ の文章を讀み居る。貴君の今讀み居る處の書を嘗て我も讀みたり。我が讀み終りし書籍を我は已に圖書館に返納したり。貴君は讀む處を悉く解するや。惜い哉我は悉く解するにあらず。日本人は殊に米と野菜を食とす而して僅に肉類と魚類を食用す。

5. 彼は輕少ならず病む、彼は次第に衰弱し且つ蒼白となる、速に醫者に就くを要す。彼女は以前甚だ瘠せ居りたり、然るに今は肥滿す。春は今來る際中なり、して草は已に綠色を帶ぶ。秋は今來る際中なり、して木葉は已に黃ばみ且つ落下中なり。

6. 大陽は春は夏の如く強からず暖和を與ふ。貴君若し寒きならば暖爐の側に於て身を温めよ。穀物は程なく成熟せん、場所に依りては已に成熟したり。火鉢に火はあるや。有る、然れども僅に耿々たるのみ。貴君は奚んぞ之を言ひ得るや。

7. 彼は夜間修業の習慣を有す。近日中に我は貴君の父を見る快樂を有せんとす。忍耐力を有せよ、萬事は時機到れば行はれんとす。貴君の兄弟は生存し且つ壯健なりと貴君に通知する榮譽を我は有す。貴君はバイヲリンを彈ずるとを能くするや。我は之を能くす、然れとも拙なり。貴君之を行ふとを能くするや。我は之を能くするならんと思ふ。歐羅巴人は箸を以て食するとを能せず、して日本人は肉叉及び庖丁を以てする (能はず)。遙がに見ゆるは是れ何物なるや。人は皆彼を憐れみ居る(何となれば) 彼は甚だ不幸なる人なり。貴君が到來せし時我は在宅せざりしを惜む。貴君の姉妹は一人にてなるや或は夫と共に來らんとするや。無論夫と共にす。

8. 今日は早朝より風は北より吹き居る、多分明日は好天氣ならんとす。

§ 104. 1. 砂糖は口中に於て溶解す。犬は吠に猫は叫く。犬は何人を吠に居るや。吠ゆる處の犬は悉く噛み付くものにあらず。農夫等は已に小麥を蒔き居る。貴君は何人に望を抱くや。我は某君に望を抱く。彼を信賴する勿れ(何となれば)彼は殆んど未だ曾て自身の約束を遂行せず。我等宜しく人に依賴せずして自身に依るべし。壯健なるものは常に他人の病を冷笑す。他人を嘲けるもの其者自身は多くは冷笑せらるべきものなり。人若し爾を嘲けるを望まざれば爾自身も他人を嘲ける勿れ。我等は他人を嘲けるまじ。

2. 我は貴君に悪しき相談ならで善き相談を與ふ。彼は音樂の日課を授く。速に此處に差出せよ。貴君は自身の家屋を賣却するや或は賃貸するや。我は賣却もせず又賃貸もせず、此事に關する風說は全く無根なり。此店に於て賣出す貨物は眞質なり、然れども甚だ高價なり。何卒我等の此談話を何

人にも傳ふる勿れ。此書を我に渡しつゝ彼は之を大切にするとを折入つて我に願ふたり。食物は風味に依つて識別せらる。貴君は我を見識るや、我等は曾て面會したるとあり。然り見識り居る、貴君は至つて僅に容貌を變じたり。貴君は彼を識り判けんとするや否や、彼は大に容貌を變じたり。我は識り判くるならんと思ふ。彼は未だ自白せず、然れども勿論後ちには自白するならん。何卒此の事を凡ての知人よりして、探知せよ。宜し、凡てのものよりして之を探知せん。然れども探知し得るや否やは我れ今之を約する能はず。貴君は何時に起床するや。冬は我れ夏より遲く起床す。速に起床せよ、時は既に遲し。彼は健康衰弱の人なり、數時間働き續くれば彼は既に疲勞す。貴君は今幾何の金錢を經有し居るや。至つて僅か殘り居る。彼は毎年同級に留まり居る。今一度金錢を攻め數へよ、竝に數錢不足なりと我には思はる。

3. 今日は貴君の御容體如何。今日は以前より餘程良き心地す。醫者は貴君に何を勸むるや。彼は我に成るべく速に田舍に出立すると即ち何處なりとも海岸に赴くとを勸む。此事に關して貴君は我に何を相談せんとするや。惜い哉我は貴君に何事をも相談する力なし。此店に於ては常に掛直を爲す。我は直切るとを貴君に勸む。貴君は畫くとを能くするや。然り我は畫く、然れども格別巧みならず。虚妄なり、貴君は甚だ巧に畫く、我は貴君の甚だ結構に畫きし繪畫を見たり。今日は(壯健なれよ)、貴君の健康は如何なるや。我が最上の親友を貴君に紹介す。頃日我は貴君の紹介ありし書籍を讀みたり。我は貴君の此相談を利用せんとす。便宜なる場合に乘じて我は貴君が我に請ひし處の書籍を貴君に發送す。善良なる範例に從へよ、悪しき範例には從ふ勿れ。此事に付ては貴君は自身の父と相談すべきなり。彼は明年歸らんとを豫想す。彼は父の葬式翌日出發せり。貴君は何人を怨訴ふるや。我は友人某を怨訴す。彼を怨訴する勿れ、貴君は自から罪あり。貴君の姉妹は舞蹈するや。然り舞蹈す、歐羅巴に於ては殆んど悉くの娘等は舞蹈す。尊敬を要求する勿れ、之に相當すべきことを努めよ。貴君は今日何處に宿泊するや、横濱なるや或は東京に歸るや。我は此地の旅店に宿泊す。小供等の進捗は常に兩親を喜ばしむ。貴君は何事を喜び居るや。我は萬事安全に結了したるを喜ぶ。他人の憂苦、我敵の憂苦たりとも決して之を喜ぶ勿れ。彼女は何故に斯く强く憂へ居るや。彼の女は憂へ居る處の自身の母を慰めんとを努め居る。彼は憂苦せし自身の父を慰めたり。

4. 彼は時として薪を割る。汝は薪を割るべし。

§ 104, III, 1. 此老人は冬のみならず時としては夏にも寒氣に冒さる。貴君若し寒氣に冒されしならば暖爐の傍に於て身を温めよ。凍えし足をば速に暖むるを要す。墨汁は乾きしや。未だ然らず、之は稀薄なる故に乾き悪し、然れども程なく乾くならん。昨日の雨後道路は乾上がりしや。未だ乾上がらず、然れども夕刻には乾上がるならんと思はる。

2. 高聲に叫び給へ、彼は多分聞付けざりしならん。苦痛よりして彼女は叫びに至りたり。卓を長椅子の方に引き動かせよ、して椅子をば動かし遠ざけよ。右肋を以て我方に身を廻轉せよ、今は左肋を以て廻轉せよ。彼は以前は常に自身の文机を錠鎖したり、然るに今日は何故なりしか之を錠鎖せざりし。机を錠鎖せよ而して戸棚を鍵にて開けよ。我は通常遠時には眠付かず、然れども今日は大に疲勞せし故に直に眠付かん。小供等は眠付きたり。彼は通常遲く目覺む、然れども昨日は甚だ早く目覺めたり。

3. 貴君は此地に慣れしや。未だ全く慣れしにあらず、然れども勿論漸次に慣るゝならん。彼は此地に慣るゝならんか。勿論慣るゝは彼の爲めに困難ならん、然れども後には慣るゝなるへし。我は大困難を以て此悪しき習慣を脱したり。我姉妹は喫煙の習慣を脱せしを我は大に喜ぶ。

4. 我隣人は死に瀕し居る、彼は今日或は明日死せんとすと醫者も思ふに至れり。貴君の兩親は存命なるや。母は存命なり、して父は死したり。彼はいつ死せしや。彼は已に數年以前死去せり。頃日我は我が死せし母を夢みたり。戸或は窓を閉ぢよ、(何となれば)室内に透き通し風は吹く。貴君は戸棚を閉ぢたるや。然り閉ぢたり。我が爲に戸を開けよ、如何に之は開かるゝや我は知らず。板を拭へよ且つ何卒一層速に拭へよ。我は即時に拭ひ去らん。我は既に拭ひ去りたり。

§ 104. IV. 天氣は如何なるや。細雨は降り散る。墨汁の振り懸りし帖面を彼は暖爐に投じたり。何故に彼は泣き居るや。泣く勿れ(何となれば)涙は憂の助けならず。彼の女は泣き盡したる眼を以て居りし。農夫等は既に地を耕し居る。地は既に耕し了はれたり。貴君は何を尋ね居るや。我は鉛筆を尋ね居る。何卒我が爲めに新らしき借家を探し給へ。此語を辭書に於て探がし出せよ。我は屢々之を探がしたり、然れども探がし出さゝりし、辭書中に之れなきは判然たり。

§ 104, V, 1. 此手紙に封緘を付して之れを封緘せよ。我は即時に之を封緘し且つ封緘せん。此

室を我は新しき壁紙にて貼り付けん。机の脚は遺脱したり之を附着せよ。我は既に之を二回糊着したり、勝は真實ならず。貴君は何れを建築するや石造家屋なるか或は木造なるか。木造の家屋を建築す、然れども石の基礎の上に於てす。此土木師等は西伯利の鐵道を建設し居る。西伯利鐵道建設に從事の土木師等は先頃東京に來りたり。此家屋は大なる雅致を加へて建立されたり。貴君は何事を心配し居るや。我は兄弟より斯く久しく手紙なき事を心配す。貴君は自から心配する勿れ且つ其親戚を安心せしめよ、貴君の兄弟は存命なり、壯健なり、して近日中に貴君等の許に來らんとす、此事を我父は我に書信せり。何卒我事をば心配する勿れ。

2. 貴君は明日我等に劇場に赴くとを許るすや。以前は我れ常に汝等に之を許るしたり、然れども明日は之を許さゞらん(何となれば)今週汝等は修學不真なりし。之は汝等に許可されしとなるや。貴君の小供等は甚だ惡戯す。授業時間に教場に於て惡戯す勿れ。此錢を凡ての此乞食等に平等に分與せよ。貴君の母は我を覺ゑ居るや。彼は覺ゑ居る、我家の者等は皆貴君を覺ゑ居る、我等は屢々貴君の事を回想す。明日我に此事を想起せしめよ。小供等は準備整ひしや。即時に準備整はんとす、彼等は已に斷髮し居る。何卒此規則を尙一回我等に說明し給へ。宜し、我は尙一回說明せん然れども條件を以てす即ち以前我れ汝等に說明せしときよりは尙大なる注意を以て聽けよ。何處に於てなるか出火の鐘を鳴らす。鈴を鳴らせよ、小使は我に必要なり。貴君の姉妹は甚だ良好なる才能を有す、然れとも彼女は怠り居る。何故に貴君は怠り居るや。我は通常襦袢を每日換ゆ、然れども今日は未た之を換へざりし、今直ちに之を換へんとす。天氣は夕刻に到れば多分變更せん。貴君は露語を話すや。否話さず、然れども若し他人が緩かに話し居るなれば少しく之を解す。何卒高聲に且つ句切り良く話せよ、(何となれば)我は貴君の言ふところを解しにくし。貴君は煙草を喫するや。遺憾ながら之を喫す、之は何人にも有害なり、して我には特に然り。何卒我に卷煙草を吸付けよ。室內には喫煙の煙充滿せり、戸或は窓を開けよ。何卒窓を開く勿れ、寧戸を開けよ。貴君は豈に彼を信ずるや。然り信ず、彼は廉正なる人なりと我は確信す。悉くの風說を皆信ずる勿れと露西亞の諺は言ふ。貴君の言ひし所を尙一度復言せよ、我は鈍く聞き取りし。貴君は自身の日課を復習せしや。復習したれども未だ復習し終らざりし。今日我等の所に於ては晝食の爲に何を煮且つ燒くや。うをを煮且つ牛肉と魚を炙らん。此魚は能く炙れざりし。して其魚は炙り過ぎたり。諺に曰く趣味の事をば爭はずと。貴君は常に爭論せり。事を熟知せずして爭ふ勿れ。

3. 貴君の兄弟は病氣なりと傳へ言ふ、彼は何を病み居るや。彼は齒を病む。我は強く頭痛す。貴君の父は何時病み罹りしや。貴君のランプは工合惡しく發火す。此燐寸は發火せず。頃日東京に於て大火ありて多くの家を燒失せしと傳へ言ふ。諸君よ板面に注目せよ。貴君は此處に於て何を眺め居るや。小供等は如何に遊戲し居るや我は眺居る。此方に注目せよ。

§ 104, VI, 1. 貴君の朋友は何を致し居るや。彼は長椅子に横はり新聞を讀み居る。彼は寢臺に横はりつゝ書籍を讀みたり。此家は何人に屬するや。目下之は我が叔父に屬す、然れとも明年よりは多分我に屬するならん(何となれば)我は之を買ふ。貴君は何を手に把持し居るや。買物を把持す。貴君は何故に全く默し且つ何も言はざるや。我等に質問せざるときは我等は默せん。何卒默し始めよ。斯く聲高く叫ぶ勿れ、爾等は其呼び聲にて隣接の教場の修學を妨くるなり。聾者は傾耳すれども聽取る能はず。彼が言ふ處を貴君は聞き受るや。然り我は聞き受く　。我等は此事を近日中に委しく聞き受けん。尙ほ聲高く言へよ(何となれば)彼は鈍く聞取く

2. 貴君は何處に勤務するや。我は文部省に勤め居る、して我兄弟は陸軍省に勤務す。貴君は何時に就寢するや。我は種々に就寢す、或時は早く或時は遲く。貴君の辭書を數日間我に貸與せよ。貴君は何を學び居るや。我は露西亞の單語を學び居る。貴君は何人よりして露語を習ひしや。我は或日本人より之を學び居る、其人は久して露國に居りたり而して露語に精通すとの評判なり。彼は此家族に於て何人に何を教へ居るや彼は一人の童子に露語を教へ又一人の童女に習字を教ゆ。幼時學ばざりし人は老年に至りては學び得ず。我は此日課を數分間にて諳記したり。貴君は其仕事を成し終りしや。未だ全く終らず、然れども穩なく之を結了せん。我れ彼の許に至りし際彼は手紙を書き終りたる處なりし。我は貴君より何時借金を領收するならんか。我手許に金錢の入り來るや否や貴君は直に之を領收せん。若し彼の身に或る不幸の遭遇せんとするときは彼の母は憂苦して死せんと我は信ず。若し此事遭遇せんとするならば我は大に喜ばんとす。貴君は何處に向つて斯く急ぐや。我は停車場を指して急ぐ。貴君は大に急ぐ、各一語を明かに發言しつゝ急かずして讀む可し。衣服を干せしや。入梅の后は悉くの衣類を干し上げるを要す、然らざれば衣類に斑點は附着せ

ん。何卒此事を凡て我姉妹に傳達せよ。安心し給へ我は一切明細に傳達せん、我は之を忘れざらん。遭遇せし事を直ちに警察に通知されたりし。

§ 104, VII, 1　我は大に彼を愛す而して彼も又我を愛するを知る。他人を愛せざるものは自らる人に愛せられず。此食品は我が大好物なり。此事の遭遇せしを我は大に惜み且つ悲む。

2. 母は何處に居るや。彼女は庖厨に於て晩食の用意をなす。貴君は自身の日課を準備せしや。未だ悉く用意し終らざれども程なく之を終らん。此卓上にランプを立てよ。椅子は卓の周圍に幷べ置かれたりし。最早冷氣ならんとす。彼は之を行ひたり、して貴君は奇とするにや。我は之を奇とせざるのみならず若し彼が之より惡しく何事なりとも行はんとも更に奇とせざらん。此事を聞きたりしとき我等は皆な大に喫驚したり。之は貴君の心に適ふや。然り心に適ふ。日本食は貴君の心に適するや。概して適せず、然れども或食物は好適す。貴君は神戸に於て何處に止宿せんとするや。常に宿泊の處に於て宿泊せん、即ち旅店某に於て。貴君は魚を獵することゝ屢々なりや。時として獵す、然れとも格別の嗜好なし。

3. 未だ夜は更けず、貴君は何故に居眠りするや。我は今日早く目覺めたり故に睡眠を催す。疲勞せし生徒等は居眠す。彼は今市府の郊外を知りたり。我をして貴君に交はるを許し給へ。大滿足を以て之を承諾す。何卒某君に我を交親せしめよ。宜し、我は即時に貴君を彼に見參へしめん(紹介)。我れ彼と談判するや否や直ちに貴君に通報せん。其時は我兄弟にも通知せよ。騒ぐなかれ。汝等の騒音よりして何も聞えず。雷は鳴り居る貴君は之を聞くや。

4. 牝牛は草を引き抜く。貴君は何處を指して急くや。學校に急ぐなり。我は近日中に此書を買はんとす。彼は自身の家を改造するか若くは新らしき家を買ふならん。我が爲に便箋と封筒を買へよ。彼は此家屋を購求中なり。然れども彼は之を買ひ得ざらんと我は信ず。此書は昨年我が買ひしものなり。昨日購求したる物品は何處にあるや。水は已に沸騰す、茶を煎じ始めよ。

5. 何卒我が爲に此雜記帖に署名を引けよ。

§ 104, VIII, 1. 犬は骨を噛る。何故に貴君は我に向つて激怒するや。我は激怒し居ると貴君は徒らに思ふ、我れ何の爲めにか貴君に對して激怒せんや。彼は何事の爲にか大いに激怒せり、故に彼と物言ふべからざりし。貴君は此事を不公平に判議す。兄をば無罪とし、して弟をば擬律せり。彼は已に一度禁獄に處せられたり。人は步行す、して鳥は飛ぶものなり。我等は他人の家に入るときは帽を脫し低頭して「今日は」と述ぶ、して去るときは「サヨウナラ」或は「又た目に懸りませう」と述ぶ。彼等の許には早朝より夜更まで來客あり、或者は去り或者は來る。貴君は何故に斯く速に去るや。貴君は我借家を如何に想ふや。それは我心に適へり、然れども貴君の家族の爲めには狹くなきや。小供等を目を覺まさせよ(何となれば)既に起床の時なり。明日我を今少し早く目覺ませよ。彼は既に全週間自身の文章を作り居る然れども未だ之を完成せず。我は之を行ふを耻づ。彼は何人をも耻じず。之は何の役にも立たず。客等は園中に腰を掛け居る。猶暫らく我等と共に坐し給へ。此の新らしき外套は我身に如何に着き居るや。其れは宜しく着き居る。盲人は目を注げども然れとも見受くる能はず。我等は鏡に於て自身を見る。注目せよ遙か向ふに何物なるか黑くなり居る、貴君は之を見受るや。然り我は之を見受け居る。我は何時再び貴君を見んか。左樣、貴君は今度は程經て我を見ん。彼を見て我は大に喜びたり。

2. パンは庖刀にて切る。此の帳面を分裁せよ。今は何時なるや何卒言ひ聞かし給へ。我は貴君に悉くの實を告けん。貴君の親友及我知人は如何なるものなるやを告げよ然らば我も貴君自身は如何なるものなるやを告げん。明日は多分天氣ならんと見ゆ。彼は正當なりと我には見ゆ。此事は既に其以前言はれたりし。我友人は貴君に好ましきものと見ゆるならんと我は信ず。貴君若し難ならば此の仕事を辭せよ。此手紙を郵便局へ持ち行くことを言ひ傳へよ且つ之は通常の手紙ならずして書留なりと言へよ。怠らんとするものは我は罰せん。彼は常に自分の朋友等と爭ひに居る爲めに罰せられたり。彼は市府より歸りし時は常に小供等に玩弄物を持ち來たる。貴君は何故に彼を慚愧せしめしや。

3. 貴君は細かく書く然れども讀易く且つ明瞭なり。彼女は其姉よりも遙に能く書く。貴君は何を書き居るや。我は露語にて文章を書く。歐洲人はペンと墨汁にて書く。して日本人は筆と墨にて書く。我れ彼の事に付て如何なる通知なりとも得んとするや否や之を貴君に書遣さん。此の一ページを貴君は不明瞭に書きたり之を復書せよ。手紙は已に書き終はられ且つ昨日郵便局に投ぜられたり。書きたる手紙を彼は猶豫なく郵便局に送りたり。我は此事を切に貴君に請ふ。父は今晩我家に

貴君の尊來を乞ふ。有難し必らず我は赴かんと傳へ給へ。多くの日本人は洋服を着用すること拙なり。北風は寒氣を持來り、して南風は暖氣を持來る。犬は大なる利益を人に與ふるものなり、彼は人自身と其家屋及び其財産を守護す。此箱は幾何の目方を有するや之は一ブード以上の目方なり。自身の外套を此の架臺に掛けよ。ランプを吊るせしや。否な未だなり、然れども之を直ちに吊らん。ランプは客間に吊られんとす。ランプは客間に垂下しある。我兄弟の客間には壁に繪畫は掛かり居る。之は毫も我が權内に存せず。日本に於ては婦人は餘り多く男子より羈絆を受け居る。

4. 此手紙を秘せよ而して何人にも之を示すなからんとを我は貴君に勸む。宜ろし、我は之を秘せん。今少しく聲高く言へよ。貴君は恰かも囁き居るか如く靜かに物言ふ。斯く高音に笑ふ勿れ、他人は笑はん。貴君は借家の爲めに幾何を拂ふや。格別高價ならず。貴君は何時自分の借金を拂ひ濟さんとするや。我は今月末に俸給を受くるや否や之を拂ひ濟まさん。我は直切るとを能くせず故に多分復た買被ぶらん。誠に然り、貴君は常に買被ぶる。太陽は冬は輝けども暖を與へず。貴君は信すべからざるとを物語る、貴君は戯言す。否我は戯言せず、我は誠を言ふ。秋は今來り始む而して鳴禽は程なく我等の土地を飛び去らん。然り今は飛去らん、して春には再び飛び來らん。

5. 如何に强く風は嘯き居るやを聞き留めよ。我外套は汚れ居る、之を宜しく清め去れよ。我は直に清め去らん。我が靴を磨けよ。彼を恕し給へ、勿論彼は有罪なり、然れども彼の朋友等は尙ほ一層有罪なり、否我は彼を恕さゝらん(何となれば)彼は其朋友等よりも年長なり。彼は已に凡ての知人等と暇乞したり。彼女は誰れとも暇乞せずして出立したり。黄金は閃き光る、然れども閃くところのもの悉く黄金なるにあらず。

§105, 1. 貴君は此箱を持上げ得るや。否我は之を持上げ得ず、我は已に之を屢々持上げんとしたれども然れども之を持上ぐる能はざりし。床より書籍を取上けて之を書臺或は卓上に置けよ。自分の外套を脱ぎ給へ(何となれば)室内は甚だ暑し。若し貴君に金錢の入用なるならば我より借用せよ。大に有り難し。我は既に之を借りたり故に最早借用せざらん。彼は我が言ふ處を解するや、うれ我は未だ露語を辨ずると拙なり。安心し給へ。我は貴君の言ふ處を解す彼も亦之を解するならん。我は自身の爲に海岸に別莊を借用せんとす。紙とペンを取りて直ちに父に書せよ。此の書籍を我は今携へ行かん。してうの書籍は何時なり共次回に携へ行かん。此雜記帖を此處より取り去れよ(何となれば)我が邪魔を爲す。即時に之を取去らん。彼は藥を服用せしや。未だ早し、彼は通例正午に服藥す。して今は未だ十時のみなり。正午には服藥せん。

4—8. 何人の犬が吠へ居るなるや。書籍を閉ぢよ。第十ページを啓きて其半ばより讀めよ。開きたる窓の中に鳥は飛入りたり。此洗濯女は粗惡に襯衣及びズボン下を洗ふ。此汚點は我想ふに洗ひ去られざらん。我は即時に顔と手を洗はん、而して用意整はん。我は强く齒痛す、明日齒醫者と相談せん。

9. 彼處は甚た深し、此方へ泳ぎ來たれ。10. 速に食卓に座せよ(何となれば)食物は冷却せん。

13. 速に醫者の許に人を遣はせよ(何となれば)兄弟の容體は惡しくなりたり。即刻遣はさん。貴君は我に古き新聞を送り給はざらんか。宜ろし我れ家に歸らんとするや否や即時に之を送らん。此書籍を我は自から携へ行かん。して其書籍をば明日我れに遣はし給へ。14. 今日は我が爲に尙早く布團を敷き給へ。彼女は多分即時に小供等に布團を敷くならん。食卓は白き布にて敷き掛られたりし。15. 斯く强く馬を追ふ勿れ(何となれば)道は未だ長し。16. 手にて牛肉を取る勿れ肉叉にて取れよ。18. 此童兒等は共に居るときは常に攫み合ふ。貴君は何爲れぞ自裂るや。貴君に之は耻かしからずや。

22. 我姉は我が悉くの經濟を管理す。25. 我は一ケ月を經て此金額を返すべし(義務を負ふ)。

26. 此司祭は大なる感情を以て說教す。

28. 彼は牧師の職を有するところの岐教徒に屬す。

29. 速に小供等に衣服を着せよ且つ自身も速かに着服せよ。我は即時に着服せん。何卒屛風の影にて脱衣せよ且つ新衣を試み着せよ。31. 貴君は歌ひ得るや。然り我は歌ふ。して貴君の兄弟は歌ふや。彼は甚だ宜しく歌ふ、彼には良聲あり且つ彼は譜を知る。他人が歌ふとき之を聞くとを我は愛す、然れども自から歌はず(何とれば)聽覺なし。我等の爲に何なりと一曲歌ひ給へ。

33. 彼は其朋友等に害なる感化を及ぼす。36. 彼は速かに新らしき規則を會得す、然れとも亦た速かに之を忘る。此規則は貴君に會得せられしや。37. 太陽は晝間光る、して月は夜間光る。40. 乞食は盜者を恐れず。我等は遲刻せしかと我は恐る。貴君は徒らに心配す(何となれば)未だ全一時間は我等の自由にするとを得べきものなり。恐るゝなかれ此犬は嚙み付かざるものなり。41. 貴君は

何爲れり此處に立ち居るや。我は兄弟を待ち居る彼は此店にあり。我家は海に接近したる岸に立ちある。斯く暖爐に近つき立つ勿れ。

44. 貴君は游ぐことを能するや。然り之を能くす、我は宜しく游ぐ。岸より遠く游ぐ勿れ(何となれば)危險なり。

45. 貴君は夏季休業中に何を爲さんことを志ざすや。彼は亞米利加に趣かんことを志ざす。47. 我は屢々彼に說諭す、然れども彼は餘り我に從はず。

50. 此處に於ては小麥のみを挽く。だが其水車に於ては小麥と米を挽く。彼は屢々種々の譫語を吐く。

51. 木の上の葉は已に枯れたり而して草は萎みたり。萎みたる花を外方へ投捨てよ。53. 木は浮ぶ、して石は沈む。彼は沈溺せり何となれば泳ぐことを知らざりし。54. 此の彼れの申込を我は直ちに斥けたり。悉くの親戚に見捨てられたる彼は他鄉に移住したり。貴君若し未だ此報知を新聞紙上に於て辯駁せざりしならば我は自身之を辯駁せん。55. 彼は數度我父を欺きたり、我を欺くならんと我は知る。一度ならず彼に欺かれつゝ我は現時彼を用心す。56. 鐵は屈撓す、して鋼鐵は挫折す。57. 漁夫等は如何に網を曳きしやを我は見物したり。

58. 彼は屢々譫言す。僞る勿れ(何となれば)事は斯くあらざりし。59. 彼は動產を兄弟に遺言し、して不動產を姉妹に遺言したり。60. 此の絹布は京都に於て織出されたり。61. 貴君は何處に趣くや。我は橫濱に行く。貴君は何時村落に趣くや。我は明日行く、して兄弟等は次の週間に於て趣かん。試驗が終らんとするや否や我は直ちに村落に出立せん(何となれば)東京に於ては已に炎暑とならんとしつゝある。貴君の母は何時來りしや。彼女は昨日來れり。數日間我等の許に村落に來れよ、我等は皆之を喜ばん。

65. 之は幾何の價なるや。之は唯一圓の價なり。此布の一疋は幾何の價なるや。此品物は高き價を有す。此人は何の價値もなき人なり。66. 雨は朝の始めより降り居る。尙一杯の茶を我に注げよ。諸君よ茶は旣に注がれたり、何卒喫し給へ。用心し給へ零す勿れ。67. 入梅の節は濕氣に依つて諸物は腐敗し且つ黴に蔽はる。68. 彼は每週間顏を剃る。彼は若し顏を剃るなれば彼を見識り分け難からんとす。

71. 貴君は何處に向つて斯く走るや。我は學校に走り行く(何となれば)我は遲刻したり。斯く速かに走する勿れ、我は全く疲勞したり。凡べて彼の配下に在るものを皆彼は窘しむ。我は喜びを以て彼を迎へん且つ彼に握手せん。斯く强く緊むる勿れ(何となれば)我は痛む。73. 農夫等は已に米を刈り入る。米は已に刈り收められたり。75. 貴君は何時自分の家を建て始むるや。我は來月之を始めん。貴君等の試驗は何時始まらんとするや。我級の試驗は已に始まりたり、して其他の級に於ては明日始まらんとす。我等は書くことを始めん。76. 貴君は何處に住居するや。我は貴君より左程遠からず某に住居す。彼は何處に住むや貴君は知り居るや。彼は公園の近くに住居す。78. 貴君は何を縫ひ居るや。我は幼兒に襯衣を縫ひ居る。貴君の外套は甚だ古きものなり、新らしきものを自分の爲めに調製せよ。

81. 彼は狡猾なる人なりと我は言ふとも我れ決して誤らず。汝は已に數回誤りたり、又た誤るなかれ。彼女は自身の足を負傷せり故に今臥床す。82. 貴君は何故に犬を撲つや。何卒此釘を壁に打込み給へ、うれ此處に。此戰鬪に於て甚た多くの士官は負傷し且つ死亡したり。83. 貴君の朋友を何んと呼ぶ。誰なるか貴君を呼び居る(面會を望む)。彼れ若し之を行はんとするならば我は彼を不正なる人と名けん。速かに車夫を呼び來れよ。84. 此糸は强からず(何となれば)容易に斷絕す。我は貴君に勸告す、此手紙を裂きて暖爐に投ぜよ。85. 貴君の幼兒に疱瘡は種ゑられしや。未だ種ゑられざりし彼は少しく快復せんとするや否や我等は之を種ゑん。

91. 善心なる人は安心して睡眠す。小供等は已に寢て居る。貴君は恰かも今日の覺めたるが如くなり(何となれば)寢惚けたるが如くなり。94. 露人は大に茶を好む而して每晝夜數回つゝ之を飮む。貴君は尙一杯茶を飮盡さゞるや。大結構なり、注ぎ給へ。火酒一盃を飮盡くせよ。

95. 數時間貴君は我に自身の辭書を貸與せざるや。持ち行けよ之れは今我に必要ならず。若し貴君に金錢が必要ならば我は貴君に貸與せん。彼は以前常に我に金錢を貸與したり、然るに昨日は何故なるか貸與せざりし。何卒我に其書籍を與へよ。約言をば常に履行するを要す。何卒此手紙を自身の兄弟に渡せよ。貴君は何時我に借金を返さんとするや。來月返へさん。若し宜しき賣價を附するならば彼は自分の家を賣却せん。97. 貴君は爰に何人を待ち居るや。我は姉妹を待ち居る、彼女は此店に居る。我等は早朝より貴君を待ち居る。暫時我を待ち給へ、我は即時に準備せん。99.

我兄弟は甚だしく彼に凌かしめられたり。102 爰に立ち給へ、此處よりは尚明かに見ゆ。程なく寒むくならんとす。今は讀み始めん、して後ちには書かん。東京に於ては漸く寒むくなり始む、して函舘に於ては已に全く寒むくなりたり。雨は程なく止むならん。何卒我に戸棚より封筒を出し與へよ。若し我に金錢の足らさらんとするならば我は貴君より借用せんとす。我は此書籍を落手せんとするや否や直に之を貴君に送らん。104. 尚茶一杯を望まざるや。彼は馬を買はんとを欲す。106. 彼は屢々自身の朋友を纔言す。111. 我は近日中に貴君の書籍を返戻せん。肩書が誤まりて書かれたりし故に手紙は遂に戻されたり。貴君は何時歸へらんとするや。數日を經て歸へらんとす。114. 宜ろし、我は彼に之を行ふを禁せん。兄弟に室内を歩行することは已に許可されたり、然れども未だ外出をば禁ぜられたり。

§ 106. 1. 貴君は小供等に進物として何を持參せしや。我は彼等に玩弄物を持參せり。貴君は我に或物品を市府より持參せざらんか。此地に居りて彼は貴君の書籍を讀みたり、然れども終りまで通讀せざりし故に自から之を携へ行きたり。4. 貴君は何を携ふるや。我は買物を携へ居る。某よランプを持ち來れ且つ之を客室へ卓上に立てよ。裁縫師は貴君に外套を持參せり而して之を試着するとを貴君に乞ふ。靴師は何時我靴を持ち來らんか貴君は知らざるや。手紙を持ち來りし郵便配達夫は已に歸りたり。貴君は彼の持ち來りし書籍を讀みしや。此手紙を郵便函に持ち行けよ。8—10. 貴君は今何處に行くや。我は學校に行くところなり。彼が我家の傍を行きしとき我は窓を眺めて彼と默禮したり。我が貴君に會ひしときに貴君は何人と共に行きしや。貴君は我と共に市府に行かざるや。我等は共に行かん。兄弟は朋友等の許に立出でたり。兄弟の許に行いて彼に告げよ、我は明朝彼の許に赴かんと。彼は何の爲めに來りしや。姉妹は衣服を縫ひしとき彼女は室内に入れり。彼等若し我を招待せざりしならんには我は彼等の許に赴かざりしならん。貴君は何時再び我等の許に來らんか。近日中に我は來らん。我れ若し此書籍を看出さんとするならば我は之を貴君に送らん。彼は拾ひし物を警察に渡したり。夕刻には雨は降らんと我は思ふ。雨は多分已に今降り居る。貴君の時計は正確に進行するや。不正確に進行す、或は急進し或は後くる。16. 何時なりとも我等の許に貴君は自分の友人等を伴ひ來たれ。我は此文を日本語に飜譯せん。彼は此一章を飜譯すべし、して我は其一章を飜譯せん。彼は昨年品行宜しからざりし。我小供等は如何なる品行なるや何卒我に告げ給へ。17. 此處に置く勿れ彼の室に置けよ。19. 我物を悉く盜み去るならんかと我は心配す。彼が劇場に居りしとき何人なりしか彼の卷煙草入を盜みたり。20. 彼は馬より落ちたり而して自身の片足挫きたり。北方に於ては雪は既に降れり。22. 貴君は爰に坐はり給へ、して我は彼處に坐はらん。23. 我は食せんとを欲す。彼は甚だ速かに食す。貴君は曾て甘薯を食せしや。食したり、然れどもそれは我に氣に入らず人は飲食せんが爲め其爲めに生活するにあらずして反つて生活せんが爲め其爲めに飲食す。25. 下婢は室を掃き居る。諸室は既に掃き出されたり。27. 野菜は菜園に發生す。此兒は急速に生長す。彼は此一年間に甚だ多く發育したり。28. 貴君は何處に於て斯る良好の品を求めしや。金錢を所有せんとする時には我も之を求めん。彼は自身の廉潔にて自身の凡て知人の尊敬を博せり。29. 夏は甚だ早く夜明く、して冬は遲く。已に夜は明けたり。夜明けんとするや否や我を覺まし起せよ。30. 樹木及び草は春に於て花を咲く。上野の櫻は既に咲き終りたり、來週には我庭園に於て花咲かんとす。花咲きしところの樹木に於て常に果實の存するにあらず。31. 今は我れ此書を讀まんとす、して貴君は后ちに之を讀まん。彼女は汝の手紙を通讀したり。貴君若し之を信ぜざるならば自から之を通讀せよ。我は貴君に拂ふべきところの全體を計算せよ。我は後ちに計算せん而して勘定書を貴君の家に送らん。

§ 107. 1. 各人自身の健康を保全せざるべからず、我は之を保全す、だが貴君は保全せず。彼得大帝は言へり一錢を大切にせざるものは自から一圓にも償ひせざるものなり。若き人よ自身の健康を保存せよ。2. 蠟燭を點して而して此處に持ち來れよ。彼女は自身の片手を火傷したり。我等は已に點燈したるとき到着したり。4. 貴君は之を行ひ得るや。我は能くす。彼は能くし得る事は悉く行はんことを約したり。今日行ひ得べきところのものを明日まで決して延引するなかれ。彼は之を行ひ得べきならんに、然るに彼は之を欲せず。我は之を行ふを欲せず且つ行ふ能はずと貴君は彼に告げよ。或は彼は正當なるやも知れず。我は或は晩刻貴君の許に立寄るならん。我は彼に助けしならんに、然るに彼は助力を要することを我は知らざりし。彼を助け給へ(何となれば)彼は甚だ貧しき人なり。5. 犬は家を護る。6. 貴君の髮は甚だ長し、之を刈れよ。彼は斬髮し且つ顔を剃りたり故に我は彼を識り得ざりし。7. 馬を駕せしや。馬は已に駕されたり。8. 窃盜の爲に彼を裁判に引渡さんとす。此事業に自身の朋友等をも招き入れよ。10. 明日の爲めにパンを焼きたるや。

パンは已に焼き終はられたり。13. 渓流は 甚だ急に 流がる。此屋根は春の中より漏る。14. 砂糖 數塊を粉に搗けよ。

§ 108, 1-2. 小供等は往來を驅け歩行く。小供等は我等の處に驅け來たる。 媒母は 幼兒を 手を 執りて伴ひ行く。手を執りて姉妹を伴へよ、彼女は疲勞したり。 何人も薪を林中に運び行かず。 農夫は薪を運ぶ。 鞦は轉ける。鞦を此方に轉動せよ。 童兒等は屢々樹上を這ひ行く。童兒は樹に攀づ。 多くの鳥は甚だ急速に飛行す。 此 鳥は多分其 巢に飛ぶならん。 日本人は 小供を背負ふ、して歐羅巴人は之を手に抱く。貴君は何を携ふるや (持ち運ぶや)。 木は浮ぶ。 此船は流れに溯りて航す。蠅は這ひ且つ飛ぶ。蠅は卓を攀づ。貴君は休日には何處に遊びに行くや。小供等は毎朝學校に通ふ。 貴君は何處に赴くなるや。小供等は既に學校より出で行く。 露國の屯田兵は巧に騎行す。彼は數度外國に赴きたり。士官は騎行す。

4. 我が時計は正しく進行す。昨日は雪降りたり、して今日は雨降る。彼の事に就て惡しき風說は行はれ居る。惡人と親しみを交ふべきものならず。貴君の子息は不良の品行なり。彼等は如何なる外國語を以て談話を交へしや我は知らず、然れども只露西亞語にはあらざりし。 富は眞正の幸福に達せしめざるものなり。數年以前日本人は支那人と戰爭したり。時は甚だ速に走る。彼は屢々諸種の無益物を持ち來たる。

彼は常に眼鏡を掛け居る。彼は通常白き襟飾を着す。此慈悲姉妹は宜しく病人を介抱す。

5. 我等は以前常に川にまで往き達したり 、然るに今日は之に達せざりし。彼は學校に赴きつゝ以前は必らず我を誘はんとて立寄りたり、然るに今日は何故なりしか立寄らざりし。貴君の家の傍らを通行せしとき我は貴君の許に來客ありしことを窓の裡に見たり。我は已に貴君の家を通ふり過きしときに貴君の 許に來りしところの 貴君の兄弟に會ふたり。 毎年春は我等の地方に鳴禽は飛び來たる、今年も飛び來らん。彼は常に何ものをか小供等に持ち來たる、然るに今日は何をも持ち來らざりし。

6. 彼女は常に我を見んとするや否や直ちに室内より逃げ出づ、今日も我が入るや否や彼女は逃げ去りたり。毎夏親類中の何人か我許に來る、今年も 何人か來らんとす。彼は出立しつゝ毎週通信するを約したり、然るに彼が出立せしより既に一ケ月を經過したれども我は彼より一の手紙をも受けざりし。彼は以前常に其小供等の中誰なりかと共に來たりたれども、然れども今日は一人にて來れり。

7. 貴君が手紙を書かんとする間我は園中を歩行せん。彼は今は少しく母に似居る、然れども 我れ思ふに彼が生長せんとするときは父に似るならんと。晩までは未だ時間多し、今朋友の許に行き來たれよ但し彼の許に久しく座する勿れ。彼は此階段を降るときは常に恐る。彼れ若し毎日斯く久しく市中を歩行せんとするならば彼は數日間に全市府を歩るき渡らん。彼が室内より出でんとするとき此書を彼に渡せよ。貴君の手は疲れたり、許るし給へ我は幼兒を抱き持たん。

8. 今日貴君は父の許に行かんとするや。然り我は行かん。我等は甚だ靜かに 歩行す、尚速かに歩行せん。小使は醫者を呼びに驅付けたり。明日我は姉妹の許に赴かんとす。

§ 109, 11, i. 彼に傳へよ、若し彼は惡戯せんとするならば我等は彼を學校より退校せしめんと。彼女は常に自分の息女のことを心配するならん。若し此役職に彼を就任せしむるとは我父の權にあるならば父は彼に助力せんとす。我等は常に貴君の事を記憶せん。我は豫感す如何なる不幸か彼に遭遇するならんと。家は我兄弟に屬す。若し此事が遭遇せんとするならば我は大に之を傷まん。我は彼に全く同感を表す而して絶へず同感するならんと自から思ふ。

§ 109, 11, 2. 我は喫煙を廢せんとす。貴君は 決して 廢せざらん (何となれば) 貴君は已に數度之を廢したり而して其後ち更に之を始めたり。此手紙は暖爐の裡に投ぜよ。常に暖爐の中に物を投する勿れ。母は貴君に之を行ふことを命ず、貴君若し母の命令を遂行せざらんときは彼女は父に告げんとす而して父は貴君に命ぜん。我は以前常に彼に自分の書籍を貸與したり、然るに昨日は與へざりし (何となれば) 我がある書籍を彼は未だ返さゞりし。我兄弟は目今大に忙はし (何となれば) 彼は子息に妻は且つ息女を嫁がしむ。我朋友は來月娶らん。貴君は其文章を完結せしや。未だ完結せず、然れども既に終らんとするところなり、程なく之を終らん。我父は隣の家屋を買はんとするところなり、然れども 多分之を買はざらん (何となれば) 高價を請求す。我は通常十二時に 臥寢す、然れども今日は尚早く臥寢せん (何となれば) 大に疲勞したり。通常子息は 父の後を繼ぐ、然るに 若が死せんとするときは其子息ならずして息女は後を繼がんとす (何となれば) 彼は子息に遺產權を剝奪したり。此の度びは我れ貴 君を恕す、然れども以後は我れ貴 君を恕せざらん。一分間毎に

數個の人は生れ居る。來月我姉妹の許に兒は生れんとす。姉妹は只今算術の問題を解決し居る其大半を已に解決したり、程なく殘餘をも解決せんとす。秋は來り始めたり、冷氣になりかゝりたり。冬は全く來れり、寒くなりたり。我は村落に出立せし ときは暖氣になりかゝりたり、して村落より歸りしときは暑氣となりたり。彼は以前常に我と列びて坐したり、然るに昨日は我より遠隔して座せり。

§ 109, III. 彼は久しく物言ふたり、然れども說きしとは少なし。彼女は甚だ浸漫に語る。彼女は此事を母に告げん。彼は常に我犬を撲つ、昨日は犬は叫び出すに至りし程左樣に强く之を撲ちたり。母の許に出發しつゝ彼は通常小供の中より誰をか共に携へたり、然るに昨日は誰をも携へざりし。其書籍を取り行く勿れ、之を持ち行けよ。此書籍を常に此方に置く勿れ、卓上に置けよ。

§ 114, I 1. 彼は決して學者たらざらんとす。貴君は露語にて正確に談することを習ひ得ざらん。雷雨はあらんとす。

2. 靜かに座すべし。叫ぶべからず。騒ぐべからず。一ケ月間の賜暇を許可すべき事。請願に應じて一ケ月間の俸給を預め下附すべき事。右之通りに行ふべき事。

3. (甲) 我は速かに彼を見度きものなり。我は彼の在宿して面會を得度きものなり。

3. (乙) 貴君は自身の病氣に關して醫者と談合するは可なるべし=貴君は之を言ては如何…も貴君は之を言ては如何…

3. (丙) 貴君は村落に住居するこゝ可ならん、然るときは貴君は恢復すべしと我は信ず。

II, 1. 昨夜出火鐘を鳴らせし を我は聞きて寢床より起き上がり急速に着服し戸外に驅出づ (然るに) 戸外には雨と風ありて我れ車夫を呼びたるも車夫はなし……。

2. 彼は貴君に手紙を書き始めたり、然るに人は彼に妨げたり。我等は已に貴君の許に赴き始めたり。然るに客は來りて我等を留めたり。我は已に此家を買はんとして直切り始めたり、然るに家は不意に燒失したり。

III, 1. 我等は朝に至るまで彼の許に屢々座したり=我等は朝に至るまで彼等の許に座せしこと屢々ありたり。

2. 彼は續み、して我等は之を聞き居りしこと屢々ありたり。彼は談じ且つ微笑せしこと屢々ありたり。

3. 彼は何か面白きことを讀拔きて而して即時に之を我等に語りしことを屢々ありたり。彼が出立せしを我は大に惜む (何となれば) 我は彼の許に立寄り而して彼に相談せしこと屢々ありたり、然るに今は我れ談合すべき人なきに至れり、

IV, 1. 明日は天氣なるとも或はならざるとも我は終日家に座して勉强せん。我等は何時村落に赴かん、明日か或は明後日か。明朝我等は赴かん。

2 (甲)、Камчáтка の浴岸には「老人」と名けて有名なる一種の鳥生育す又、土人は左の有樣を以て之を捕獲す、(即ち) 彼等は幅廣き暖き裘を着用し夕刻海岸に座す、「老人」は暖氣を好む故に夜間暖き裘の中に這込む即ち袖の中にも胸部にも、其時土人は起上りて急がずして我獲物と共に家に赴く。

3, (乙). 若し鋼鐵にて石に觸れ當るときは石より火花は散り出でん。

3, (丙). 彼は今年斯く惡しく修學したり (即ち) 恐らくは上級に移つるを得ざらん程。卵は恐らくは煮ざらん程までに水は冷却したり。此間隙は鼠が之を這拔ける能はざる程小なり。

V, 1, 彼は速に來らんことを我には望まし。彼の速に到らんことをこう望ましけれ。あゝ彼れ若し速に至りしならんには。彼は速に到れかし。貴君は兄弟と相談したらば可ならん。貴君は之を父に談じたれば可ならん。汝は決して彼の許に行かざることを (我は命ず)。汝は決して以後再び之を行ふべからず。

2. 我は汝に通信したるならんが我には閑隙なかりし。汝には我れ通信したらんものを……。兄弟にあらずして我れ自ら汝に書したるならんに然るに… 。我は書付にあらずして手紙を汝に書くべきなりしに然るに… 。我は簡短の手紙ならずして長大なる手紙を汝に書くべきなりしに然るに……。

VI. 1 (甲) 貴君は自身の料理人よりして能くすべからざることを要求す (即ち) 市場に行き來れ或は魚を買ふべし或は之を洗ひ或は之を燒け等すべて之を一時間中に行ふべしと。

(乙) 我等若し之を行ひたらんには我等を罰したりしならんに。我れ若し家にあらざらんか出火は生じたるならん。

(丙) 何人が彼の許に來るとも彼は何人にも接せず。誰に之を問ふとも何人も皆之を知る或は何人も之を知らず。何事を問ふとも彼は凡べて之を知る或は彼は何をも知らず。彼は有らゆる書籍を讀み居る。如何なる書籍を彼に與ふるとも彼は何書をも讀まず。何時彼の許に到るとも彼は常に在宿なり或は彼は何時も不在なり。彼等は何處に住居するとも彼等の間には常に不和は存せんとす。我等は何處に赴くとも彼に逢ふ。

(丁) 我等彼に請ふとも或は請はずとも彼は我等の爲めに何事をも行はざらん。貴君は彼に願ふとも或は願はすとも彼は貴君に助力せざらん。

2. 注意せよ、此事を某に傳ふる勿れ然らずんば彼は我等に向つて激怒せんとす。

VII. 彼女は樂しき顏をなして我等の許に入り來れり。彼女は我等の許に入り來りて樂しき顏を爲さん。開きたる薔薇は芳香を以て室内を滿たしたり。將に開かんとする薔薇は芳香を以て室内を滿たさん。孝心なる小供等は死に瀕したる父を圍繞せり。

§ 116, I. 人は空氣なければ魚の水なきと同じく生活する能はず。日本人の家屋は硝子なきものなり。彼は月末に至れば常に金錢無くして居る。此幼兒は全く孤兒なり(何となれば)彼は父母なくして生活す。我は何の困難もなくして此道に依り來到せり。一點の疑もなく彼は正當なり。今は十時十五分前なり。彼等が來着せし時は十一時五分前なりし。

II. 我は唯貴君の爲にのみ之を行ふたり。之は貴君の爲なり、してそれは貴君の姉妹の爲めなり。今直ちに行くとも或は一時間後ちに行くとも我が爲には構ひなし。彼は兄弟の爲に良だ宜しき家屋を見出したり。此コップは何の爲に存するや。麥酒の爲めなり。彼女は茶の爲にするコップーダースとコーヒの爲にする茶碗半ダースとを買ふたり。人力車を納れ置く爲の物置は此家に附屬しある。貴君は我が爲に水を容るる爲の硝子器を買ひ來らざるや。彼は生國の幸福の爲に一身を犧牲に供したり。彼女は親族に面會せんか爲に故郷に出立したり。日本に於ける山は農業の爲には適すること少なし。濁水は飲用に適せず。我等の許に貴君の來訪は我等全體の爲に大に快かりし。

III. 神の爲めに(何卒)彼に助力せよ。基督の爲めに(何卒)之を我が爲めに行ひ給へ。彼れ自身の爲めならずして人員多き彼の家族の爲に彼に俸給を增加したり。

IV. 我等は二時間を以て村落まで乘り行きたり。此道水道は敎堂まで達し居る(即ち)敎堂に接す。此處より某村まで及び此村より市府まで遠隔なるや。我は此書を最終のページまで通讀したり。今日に至るまで我は此事に付き何をも知らざりし。彼は九時まで我等の許に座したり。彼は早朝より晩の遲くまで勞働す。昨日我は二時より五時半まで彼の許に滯在したり。彼は幾許りも年齡まで生き通したり。日本國は已に紀元前に存在したり。彼は我等の許に午前に來たることを約せり。學校に入學するまでは母は我に敎授したり。此箱は十斤以內の重量なり。貴君は幾何の金錢を有せしや。確には之を知らず、然れども凡そ百圓ほどありしと思ふ。火事なりと叫びたり而して群衆は五十人乃至六十人戶に向つて投身したり。一萬人程の員數の敵は市府に近づき來れり。我は此事に對して何の要もなし(何となれば)此事は全く我に關係せず。暫時此方に來り給へ(何となれば)我は貴君に向つて一個の懇願を有す。

V, I. 彼は學校より歸へりしや。此道は東京より橫濱への道なり。彼は何時家より去りしやも彼は宜しく試驗を受けたり而して二級より三級に及第せり。川は岸より溢れ出たり。

備考. 之を聞いて彼は全く激怒したり(已れを出でたり)。我は已に久しく彼を見失ひたり。此敎科書は已に使用せざるものとなりたり。此色は未だ昨年中流行より廢りたり。彼女は全く精力を盡くし切りたり。

3. 彼は商人出生にあらずして士族出生なり。彼は市府の生れにあらずして村落の生れなり。彼は甚だ善良なる家族より生したり。

4. 此鎖は金製なり、して其鎖は銀製なれども鍍金されしのみ。之は何より造られたるや。我れ思ふに鋼鐵製ならん、然しうれとも他の或金屬製なるやも知れず。彼女は自身の爲に絹布より衣服を裁縫したり。

5. 一年は十二ケ月より成り、一ケ月は四週間より成る、して一週間は七日より成る。貴君は幾枚を以て手帖を綴合せしや。各聯隊は六個中隊より組織す。

6. 貴君の姉妹中何れが病氣なるや。我等の中誰も全く斯の如く行ふならん。我等の中より何人か家に留まらざるを得ず。某は我朋友中最も勉勵なる者なり、して某は最も優才なるものなり。

7. 彼の兩親の貧困なるを憫察してのみ彼を官費給養中に採用したり。彼は傲慢に由つて我より此助力を受くることを欲せざりし。我は彼の父に感謝の心よりして彼を助く。

9. 兵卒は已に三日間大砲を射撃す。彼は壁中に小銃を發射したり。

VI. 太陽は山の影より昇りたり。彼は卓の影より書籍を取り出したり。我等は晩食を終りて而して食卓より起立したり。彼は別に如何なる原因にもあらず唯怠惰の爲めよりして同級に留まりたり(落第したり)。此人の爲に我身には親戚と大なる不和を生じたり。何卒我が爲に遠慮する勿れ

VIII. 彼等が我等に追付きたるは我等市府を去りしこと三里以上ならざりし時なり。敵は要塞より退きたり。彼等の別莊は市府より遠からず。彼は我を去る甚だ近き處に住居す。東京より横濱までは十八哩なり。我等は横濱より神戸までは鐵道に乘りたり、して神戸より長崎までは瀛船に乘りたり。

我は今日晝食後二時より三時半まで休憩したり(晝寢したり)。我は今日誤ちて日傘にあらず雨傘を自がら携へたり。老衰につける藥はなし。

6. 彼女は悲哀にあらずして反つて喜悦に由つて泣きたり。凡ての此等の痛心よりして彼女は病に罹れり。貴君は寒氣に由つて顫へ居る、火鉢に近寄り座し給へ。

7. 此紐は確か貴君の外套より脫せしものならん。時計の鎖を我は塵きに渡したり。

IX, 1. 貴君は昨晩誰の處に行きしや。我は隣人の處に行きたり。貴君の子息は何人の許に同居するや。彼は以前或る教師の許に同居したり、だが現時は我叔父の許に住居す。我は彼を自宅ならずして彼の兄弟の許に於て待受けんと彼に書したり。頃日我には兄弟と大なる不和が起りたり。彼等の間には絶へず爭ひあり。我下僕は已に我許に住居十二年目なり。2.今貴君には幾何の金錢あるや。今我には數圓のみなり。彼にはたしか負債甚だ多し。此町に於て我父は三軒の家屋を所有す。彼の親友は何人なるや。貴君の片手の內に存するは何物なるや。貴君の許には新しき書籍は無きや。彼の病氣は如何なるものなるや。彼は感冒なり。3. 彼は戸の直ぐ側に立ちたり。我等は川の濱に坐したり。小供等は今死したる父の寢床の傍に立ちて痛く泣きたり。4. 貴君の時計の鎖は汚れたり。貴君の外套の襟は汚れたり、之を清むることを命ぜよ。6. 貴君は何人に露語の敎授を受くるや。我は或露西亞人に受く。

§ 117, 1—3. 貴君は何處へ赴くところなるや。我は兄弟の處に赴くところなり。貴君は明晩我許に來らざるや、貴君若し時間と希望を有するならば今日學課を終りし後ち我許に立寄れよ。一杯の茶を喫せんが爲に我許に尊來あらんことを貴君に請ふ。貴君の書籍を我は已に姉妹に送りたり。瀛船は已に海岸に着きたり。某の馬車は玄關に着きたり。瀛船は沈沒したり。貴君の許に乘り來りしは誰なるや。ウオルガ河は最初は東に向つて流れ後ちには南に向つて流る。4. 我は貴君の父より貴君の兄弟に對する委托の用を帶ぶ。遺産は遺言によつて親族ならすして全き他人の手に渡りたり。親友に送くる手紙。親友よりの手紙 5. 尙左の事を之に附加せよ。此紐を冬の外套に縫ひ付けよ。猫は人に馴れずして家に馴る。6. 貴君は出發の準備整ひしや。我は出發に同意を表す。7. 彼は自身の悉くの親戚に對して大なる愛を有す。8. 我は人々に對する大なる信用を有す。彼は大に人々を信崇す。12. 彼は我が願ひし如く朝食に來らずして晩の喫茶に來れり。我は夏の終りに至つて歸らんことを約せり。我許に六時に來れよ。彼は學課の始まりに遲刻せり。我等は列車の出發の眞際に停車場に達したり。

§ 118, I, 1. 昨日我は某君の許に到りて彼處に於て貴君の兄弟の事を多く聞き込みたり。此妙齡の處女に關しては善良なる事より外に何事を言ふべきことなし。彼の事に關して全く一の歷史(長々しき事實)を揑造したり。彼は死したりと云ふ彼の身に關する風說は行はれたり。彼の身に關して如何なる評判あるや。我は彼の身に關して何事をも聞かず。2. 貴君は萬一の爲に兩傘を自から携へよ。先つ宜しく心中に思案せよ然る后に我に言へよ。彼は我等には斯くと言へども心中には他の事を考へ居る。彼には貯存せしもの頗る多し。

II, 1. 貴君は如何にして川を渉りしや。我等は橋に依つて越したり。窃盜は垣を攀ち越せり。此童兒は溝を跳越さんと欲したり然るに仁りて溝の中に落ちたり。貴君は如何にして露國に赴かんとするや、米國を經てするや或は西伯利亞を經てするや。此道は山を越して通じたり。2. 彼は丁度一ケ月を經て歸へることを約したり。醫者は各二時間毎に喫茶用の匙一杯つゝ藥を服することを命したり。何卒我を待ち給へ、我は凡そ十分を經過して歸へらんとす其時我等は共に行かん。3. 彼は誰の手を經て此手紙を貴君に遣はせしや。下僕を以てなり。貴君は誰を頼みて斯る好位地を得しや。妻の父に頼りてなり。我等は自身の家屋賣渡しのことを新聞に依りて廣告したり。我等は偵察者に依りて市中に軍隊の少數なりしを知り得たり。彼は無理に力を勞して働く。

III. 我等は大困難を以て群衆の中を通り抜けたり。此紙は粗惡なり (何となれば) 墨汁は浸み

透ふる。霧を透ふして遙かに火は見にたり。彼は自身の小供等の品行を袖手傍看す（指の間より見る）。

§ 119. 1. 彼は傘を頭の上に支持す。二階には此室の上に寢室あり。大陽は我等の上に晴れ輝く。して海上遙かに黒雲は見にたり。門の上の看板は消に去りたり。我等は川畔上の 巖上に 立ちたり。2. 我は久しく此問題を考究したり。我は此文章の爲に終年從事したり。若し貴君に此事業が厭ふべくなりしならば何故に貴君は此退屈なる事業に從事し居るや。3. 駿河台の正教の 教堂は殆んど全東京の上に聳ゆ。彼は自身の弟及び或る他の學生等を監督す。此學校に於ては學生の監督は甚だ不良なり。他人若し貴君の身の上を嘲笑せんとを欲せざれば貴君は 他人の身の 上を嘲笑するなかれ。他人の不幸を冷笑する勿れ。彼の身の上を憐憫せよ（何となれば）彼は大に疲勞したり。

§ 120, 1 彼は知事の部下の官吏となりて奉職す。彼は未だ父の許に住居す。彼は今如何なる位地に居るや。確知せざれとも彼は目下領事館の通譯勤務なりとか言ふ。此書籍には目次も存す。東京に於ける露國公使館には 教堂あり。此家に附屬して大なる庭園あり。彼得堡は子ワ 河口に存立す。2. 之は多くの商人の立會中に生したり。我は貴君の立會の際彼等に之を言ふたり、貴君は 忘れたるなり、3. 彼得大帝の時に露國は西歐諸國と和親交通を結びたり。4 此恐ろしき 通知に接して彼女は全く神色自若たりし。何卒時機を見て此事を彼と談判せよ。宜ろし便宜に乘じて我は彼に談ぜん。地理學を學ぶ際には地球儀は必要なり。彼は目下金錢を所持す。我は此事を思ふに付けても常に戰慄す。彼は我に出會の毎に必らず我を見ざるが如き姿を爲す。

§ 121, I, 1. 小供等は門の影に驅け行きたり。食 卓に着 座せよ。我等は出火の警 鐘を鳴らしかけしとき晩食に就きたり。2. 列車發車前正さに二分前に我は停車場に到着せり。之は貴君の 來着の一週間前に生じたり。之は 確か彼の長兒死せし一年前若くは 二年前に ありし 事なりと我は記憶す。3. 此二年間彼は甚だ姿を變じたり。我は今日二時十五分間に我が悉くの日課を修養したり。我は多分二三日間に我一切の用事を終結し而して即時に村落に出發せん。4. 我母は已に老婦なり。彼女は六十歳を越したり。5 我兄弟の家は此處より二里の地に存す。貴君が 未だ遠方に在りし時即ち凡そ二三露里の處に於て我は貴君を認めたり。貴君は此書籍の爲に幾何の價を拂ひしや。我は之か爲に二圓拂ふたり。彼は其馬を幾何の價にて 賣りしや。彼は之を六十圓にて 賣りたり。8. 支那人は其生國の爲に拙く戰闘せり。10. 我は貴君の助祐を謝す。汝に負はしむるところの侮辱を決して復讐する勿れ。兄弟は惡戲と怠惰の爲に罰せられたり、して姉妹は方正なる品行と勉勵なる爲に賞與を得たり。人は皆彼の廉潔と公平なる爲に彼を愛す。激怒するは即ち他人の過失の爲に自身を罰するに等し。11. 我隣家の息女は我朋友に嫁したり。

11, 1 彼れの家は我庭園の背後に在り。今日市外に 出火はありたり。客は未だ食卓に坐す。我れ就業の際中彼は來りて我を妨げたり。今日我等の晝食には何を供するならんか。今日晝食に供せし魚は餘り新鮮ならざりし。2. 長女は前立して行き其他の小供等は其後に附き行けり。生徒等の後に教師等と生徒監等は行けり。貴君の兄は我前に行きたり、して弟は我後に附き行けり。夏は春に次ぐものなり。自身の後に戸を閉ぢよ。柩の後に隨つて親戚及び知人等は行けり。彼は重ね々々無分別を行ふ。今度は我輪番なり。彼は妻よりして大なる持參を得たり。露西亞の諺に曰く神に對しての祈禱、王に對しての忠勤は決して無効ならずと。3 此女教養は甚だ宜しく小供等を看護す。彼女は病人を介抱することを能くせず。彼は各人に就て窺視し又た立聞きするの惡癖を有す。我は既に久しく彼の身に於て之を認めたり。4 彼女は買物の爲に店に赴きたり。醫者の許に人を遣はせしや。5. 自身の病氣に依つて我は三日學校を欠席せり。夜の闇黒なりし爲に我等は何をも見ざりし又風の騒音に依りて何をも聞き分つこと能はざりし。時間なきに依りて我は此業務を終ることを能はざりし。6. 我を除くの外我が悉くの朋友等は昨日市外に赴きたり。我れ今日兄弟に傳達すべきところの五圓を差引くときは我には唯三圓のみ殘る。

§ 122, I, 1 書籍の上にあらずして 書籍の下に 手紙を 置けよ。雨は降り初めしとき我等は山の下に向つて乘り下だれり。我等は水の下に立たん、彼處に雨は我等を濡さゞらん。2 一人は 裁判に附せられたり、して他の一人は裁判より放免されたり。彼は金錢を貸與す、然れとも大なる利子を附してなり。3. 彼は甚だしく我を忌み嫌ひ 既に久しく我を陷穽しつゝあり。4 或る我朋友は甚だ巧に此教師を眞似其歩行の姿勢其音聲其書風さへをも眞似す。此戸棚を朱檀まがひに塗り飾れよ。彼は 自身が 常に乘行するところの一對の馬の毛色に等しき馬一匹を探がすことを我に請へり。5. 彼は漸く明方に垂んとして家に歸りたり。彼は丁度新年の前に瀕して死去せり。幼時習ひ得ざりしものをば晩年に及んで之を知り得ざらん。

II, 1. 我は已に暖き夜具を掛けて寢ぬ。彼は雨に晒され立ちたり、して我は樹下に隱れたり。彼女は腋下に書籍を携へて園中を散歩せり。彼は窓の下に立ちて我等と談話したり。我等は野天に立ちたり。 2. 我等は市府の入口に到りて彼等に追付きたり。一千八百十二年に於て Бородинó の附近に於て有名なる戰闘は生じたり。 3. 彼は已に警察の監視に附せられ且法廷に引渡され居ること玆に三年に渉る。大なる處罰を威嚇して彼に入都を嚴禁したり。我等は法律の保護の下に生活す。彼は市中に於て老爺の名稱を以て何人にも知られたり。彼を警固に附せり、彼は未だ警固中の身なり。東京は如何なる度數(經緯度)の下に位するや。

§ 123. II. 我家の前には大なる廣場あり。彼女は鏡の前に立ちて而して自身の髪を梳れり。我等は脫帽して彼の前に立ちたり。彼は法廷に立ちて自身の辯疏を一言する能はざりし。 2. 我は彼に對して大に罪過あり。彼は我に對して甚だ不公平の處置を爲せり。 3. 彼の凡ての友人に向つて彼を讒言したり。彼は何の尊敬の價値なき人の前に身を低ふす。我は彼に向つて自身の辯疏を爲すに堪へざりし。 3. 彼は我に比して大なる優長を有することを我は能く認知す。凡ての他の客人に比して彼に外國人として上席を與へたり。彼は大なる資本を運用しつゝ其市内の悉くの商人に比して大なる便益を有す。 5. 彼は新年の前に歸ることを約したり。彼は晝食及び晩食の前に火酒一杯づゝを飮用するの常例を有す。之に先き立つ數日前我は彼等の許に立寄りたり、然れども彼等の中誰の在宿にも會せざりし。

§ 124. I, 1 彼は文卓の中より金錢を取出して之を脇の衣嚢に入れたり。彼等は公園に赴きたり。彼女は我等を家に招き入れたり。此道は何處に通ずるや。此道は東京より横濱に通ず。童兒は水中に墜ちたり。 2 貴君の兄弟は何時入校するや。彼は軍務に就かんと欲す。 3. 彼女は何の業務をも有せず、故に彼女は常に窓に向つて通行人を眺め居る。彼は頭を窓に突き出したり。彼は目鏡をかけて我を眺めたり。目鏡と額の間より見る。 4. 明日我は隣人の處に客に行かんとす。某は先日陸軍大佐に任ぜられたり。 5. 彼は水曜の晩に我許に來れり。我は午後二時半に貴君の許に到らん。當時我は未だ生るゝに至らざりし。我等は丁度正午に仙臺に來着したり。前回貴君の到來中は天氣は始終大に惡しかりし。戰爭の際彼は支那より立去りたり。一千八百十二年の戰役中露人は大なる愛國心を發露せり。皇帝ニコライ一世の在位中ペテルブルグに於て大なる出水ありたり。我は之を貴君に始めの終りとして言ふなり、最早之を口にも出さゞらん。彼は外套を正さに其期限を守りて我に持來れり。今我に暇なし、我は他の折りに貴君の許に立寄らん。 6. 貴君は何時間を以て此文章を書き終りしや。我は之を三時間と四分の三を以て書き終れり。我は此業務を數時間を以て終らん。彼は以前知りたりしところの事を夏季休業中に殆んど悉く忘れたり。我は一週一回づゝ彼等の許に赴きたり。我は通常一晝夜に二回づゝ即ち朝と晩に散歩す。露西亞は十八世紀中に有名なる戰爭を多く行ふたり。 7. 彼は我金時計を百圓に直踏みたり、彼は家屋を五千圓に買ふたり。 8. 貴君の名宛にて二貫半の重量の箱を受取りたり。 9 我住居する處の家は三階造なり。我客室は長さ四間幅三間高さ一間半を有す。 10. 我は今日昨日よりも二倍速に自身の日課を學び得たり。この學校に於ては我校に於けるよりも生徒は三倍多し。 12 彼女は悉く母に似る。基督教徒は主耶蘇基督を信ず、して佛教徒は佛陀を信ず。神の攝理の信仰なくして人は生活し難し。我は人々を信ず。我は人々を信用す。彼は人々に對して大なる信用を抱く。鈴を鳴らせよ。新年の祝日に日本人は骨牌を弄ぶ慣例を有す。貴君は將棊の遊戲を好むや。我は將棊を指さず、然し挾將棊弄ぶを好む。彼女は未だ小兒なり(何となれば)未だ今日に至るまで人形を弄ぶ。息子は母に似たり、して息女は父に似たり。

II, 1. 我等の川中には甚だ魚多し。彼は以前ペテルブルグに住居したり。然るに先頃莫斯科に移住したり。彼は二週間臥床に寢通したり。我等は通例公園に散歩す。彼は片手に傘を持ち片手に手巾を持ちたり。 2. 彼は今日精神甚だ爽快なりし。彼は借金で首が廻はらぬ。此家は秩序整ふて保持せらる。我は貴君の事業の進捗を希望す。彼は已に久しく非職の身なり。彼は全身汗に滿てり。上野の櫻は既に花を開く。 3. 我と并びて立ちしところの金緣眼鏡をかけし人を貴君は認めしや。彼女は常に手巾を着す。何爲ぞ貴君は冬外套を着するや、これ未だ寒からず。婚禮に赴くには通例黑き燕尾服と白き手巾を着用す。 4. 彼は十二時過ぎに歸宅せり(一時に)。我は常に八時に起き一時に晝食し四時に茶を喫し八時に晩食し十二時に就寢す。彼は三月の末に來たるを約したり而して實に三十日に來れり。彼は多分二月に生れたり、果して然るや。然り彼は二月十日に生れたり。貴君は十二月の末に何處に居りしや市府なるか或は村落なるか。十二月末には我は村落に居りたり、市府に歸りしは一月の始めなりし。春の晝夜平分は三月にあり、して秋の平分は九月にあり。此月には未だ

若干の休日あらんとす、然れども來月は多分一回の休日もなからん。皇帝歷山三世は一千八百九十四年に崩御せり。プーシキンは一千七百九十九年五月廿六日に生れ而して一千八百三十七年一月廿二日に死せり。我等は廿世紀に生活す。十九世紀の終りに於て支那は軍備上に於て全き無力を暴露せり。 5. 橫濱は東京を去る十八哩にあり。我別莊は市府を去る二里の地に存す。我は貴君の近方即ち僅か數間の處に立ちたり。 6. 彼は此事に於て慇なし。彼は位地の彼より高き處の人に對しては甚だ丁重なり、然れども自身の部下に對しては甚だ粗暴なり。此事に於ては貴君の隣人は經驗あり、貴君は彼と相談せよ。 7. 用件は何事なるや。餘の義にあらず只今我に金錢入用なり。彼は此事に付て貴君の前に謝罪せしや。各人は親戚の親愛と知人の友誼の需要を感ず。彼は才能と勉勵と智識に於て其兄弟に勝さる。我は彼の廉潔と淸高なるを疑はず。我は常に彼の無罪なるを納得したり。我は此事に付ては全く確信を抱く。貴君は何故に此善事業に與からざるや。

§ 125; I, 1. ランプを卓上に立てよ。貴君は長倚子に座せよ、して我は倚子に坐さん。我はたしか貴君の足を踏みたりしならん。今日は寒冷なり、小供等に何をか着せよ、して自身にも何をか少し暖かなるものを着せよ。 2. 我聯隊も近日戰爭に出發す。此職工等は多分勞働に赴く處ならん。貴君は明日別莊に赴くや。貴君は音樂會に赴くや。彼は貴君を自身の婚禮に招待せしや。彼は故鄕に出立したり。 3. 此家屋は間口にて東方に向ひたり。 5. 我は壁の方に向ひ橫向に臥して程なく睡眠したり。彼は跪きて祈禱をし始めたり。 6. 我は僅かに一分間を期して貴君の處に來れり(何となれば)全く時間なし。我は終日間朋友を我許に招待せり。夏中我は村落に赴かんと思ふ。 7. 彼は自身の命名祝日後三日目に出發せり。彼は出火前一日出發せり。今後は宜しく謹愼すべし(用心せよ)。 9. 貴君は幾何の價だけ密柑を買ひしや。二十錢だけ。我が爲に三十錢だけ書簡箋を、して殘餘の錢額だけペンを購求せよ。 10. 貴君の燕尾服は長し、之を殆んど一寸だけ短縮するを要す。 11. 我は貴君より十里遠く市府を離れて住居す。昨日よりも三度だけ今日は寒冷なり。我等は豫想せしより三時間早く來着せり。 12. ウラル山は露西亞帝國を二個の不等なる部分に兩斷す。此林檎を二個の等分に截斷せよ。 13. 我は出發に同意す。我は出發に準備調ふ。彼は窃盜をも能くす(辭せず)。彼は窃盜に巧みなり。 14. 彼は恩給を受くるの權利を有す。 15. 彼女は右の耳に聾なり。彼は左の目に盲なり。 16. 何卒壯健の爲に食し給へ。不幸なる哉我は在宿せざりし。幸にして我は目覺めたり、然らずんば出火は生ぜしならん。何は兎もあれ我は之を僥倖當に行はん。 17. 貴君若し自身に責任を負なれば我は貴君の勸めし如く之を行はん。佞人は有らゆる人々を讒す。貴君は徒らに彼を攻擊す。今我には唯貴君に對してのみ囑望を存す。貴君は唯質問にのみ答へよ而して餘計の事を言ふ勿れ。貴君は自身の請願の返答を得たるや。此電報は我祝詞の返答なり。明日の分に此一章を露語より日本文に飜譯せよ。彼は甚だ巧妙に此譚を日本語に飜案したり。彼は工作より歸りて其工用服を淸き衣服に代へたり。彼は甚だ自身の祖父に似る。我は彼を信用せず故に彼に依賴すること能はず。自身の運命を呪く勿れ(何となれば)我等の不幸に付て皆あるは運命ならずして我等自身なり。貴君は徒らに彼に向つて激怒す、彼は慇なし。書籍を看覽せよ。書籍に目を注げよ。書籍を視よ。小供等を監視せよ。我は彼を看ること病人の如くす。父は彼の婚娶に承諾せざりし。貴君の發意に彼は同意せざらん。我は全く之を承諾す。

II, 1. ランプは卓上に立つ。客室の壁面に繪畵は掛り居る。小供等に圓帽子は着用せられたりし。彼は滊船に乘り來りし、して我は小舟に乘り來れり。人は馬には乘れども牛には乘らず。彼は今勤務中なり。彼等は未だ別莊にあり。貴君は彼の婚禮に赴きしや。彼は今授業(課業)中なり。我聯隊も戰爭に與かりたり。彼は日向に立ちたり。雨に曝されて立つ勿れ。 3. 我等は北方に住居す。東國(亞細亞諸國)の在勤は彼の意に適せず。 4. 我は仰向きに寢ること能はず。彼は橫向きに臥したり。彼女は敎堂に於て跪きて祈禱したり。 5. 彼は諸國の語を辯ず。我は此文章を露文にて讀みたり。彼は英語を以て露語を敎授す。 7. 前週我は貴君の許に赴きたれども貴君の在宿に會せざりし。彼は多分近日中に歸らん。來週には已に我等には試驗は始まらんとす。祭日には我は村落に行き來ることを今豫想し居る。閑隙の際何時にか我は貴君の許に立寄らん。其時代に於て彼は多くのことを見たり。 10. 貴君は風琴を彈ずるや。彼は甚だ宜しくバイオリンを彈ず。彼は何人を娶りしや。彼は其友人の姉妹を娶れり。彼は何人を妻としたるや。彼は自身の姉妹の女友を妻としたり。

§ 126. I, 1. 孩兒は階段より落下し石の床に身を打ちて其頭を撲ち破れり。波は岸に觸れて打合ふ。魚の氷に觸れて身を打ち付く如く彼は身を勞す。我は强く額を壁に打ち付けたり。彼は戸に衝き當りたり。 3. 彼は我と壁を隔てゝ止宿す。彼は其母と手を携へて行けり。

II, 1. 馬は四足なれども然れども蹶く、況んや人は時に乘じて謬ることを得べし。露西亞に於ては教堂は大概五箇の圓頭を以て建築せらる。 3. 貴君は此事を聞きしや。

§ 127, I, 1. 彼は久しく露國を旅行したり。我は村落に住居せしとき屢々山を步行したり。彼は鐵道に乘りて來れり。此道を自轉車にて通行することを得べきや。彼の到來の評判は速かに市中に傳播したり。滊船は水を行く、して滊車は地を行く。我等は冬には屢々氷の上を辷り遊びたり。彼は貴君の如何なる肢體を打ちしや。彼は我が肩を打ちたり。貴君は羅紗を幾何づゝの價にて買ひしや。一アルシンに付き一圓づゝにて買ふたり。昨夜貴君は何ものに向つて發射せしや。雀に向つて。 2. 言語に依らずして行爲に依つて判定せよ。貴君は自身に準じて他人を判定す。彼は其容貌に依つては自身の叔父に甚だ似たり。此眼鏡は我眼に適合せず。昨日行はれしところのものに依つて明日行はれんとすることを評定する能はず。彼は舊時の風習に依つて生活す。彼の言に依れば彼は自身の位地に滿足なり。我れ按ずるに彼は甚だ結構なる人なり。 3. 此疑惑に就て我は彼に自身の痛惜を述べたり。 4. 彼は妻に由つて我甥に當る。我は彼の學校友達なり。 5. 露語の眞教科書を編纂するは、特に外國人の爲にする教科書は至極困難なり。明日我等の第一學課は如何なる科目なるや。歷史の學科なり。 7. 最終の學課は終りたる故に生徒等は各々自家に歸散したり。 8. 彼は全科目に於て五點(註、露國にては五點を滿點となす)を有す唯露語のみは四點なり。我は三册の帳面を買ふたり而して各々十二枚づゝを有す。 9. 我は通例日曜日毎に姉妹の許に到る。彼女は唯火曜日毎のみに自宅に接客す。既に毎朝氷結の寒氣あり。

II. 2. 我は五日より十日まで村落に滯在したり。

III. 東京に着后我は直に貴君の父の許に行き來らん。試驗の終りし後我は直に故鄕に出立せん。彼は役務就任せし後多く變異せり。 2. 小供等は棺の後に從つて行き且痛く父の事を泣哭したり。彼は叔父の喪を服す。

§ 128, I, 1. 雨は天より落つ。不注意なる童兒は二階より墜落せり。其場所よりソレ此場所に座を替へよ。 2. 小民等は已に學課を終りて馳せ來れり。彼は既に仕事より歸れり。兵卒等は未だ觀兵式より歸り來らざりし。彼は何時別莊より歸り來らんか。 3. 今日は風は北より吹く。函館に於て南より風の吹くときは多くの人々の頭は痛む。滊船は一側より一側に向つて動搖す。 5. 我は頭より足まで濡れ通したり。雨は山の絶頂より其麓までの道を損害したり。 6. 我は彼を幼年より識り居る。彼は日曜日より水曜日まで客寓したり。三時より五時まで我は在宿せざりし。彼は病氣なりし故に三月六日より四月九日まで登校せざりし。昨年より現時に至るまで我は彼より一の手紙をも得ざりし。 7. 我れ若し誤りしにあらざれば出火は四日より五日に移らんとする夜に於て生じたり。彼は日曜日より月曜日に移らんとする夜に來着せり。我等は今日か今日かと彼を待つのみならず今か今かと期し待つ。 8. 彼女は憂苦よりして死去せり。彼は喜悅の餘り何を致して可なるやを知らず。 9. 貴君は彼より自身の金錢を享けしや。彼は我より或借金を督促す、然れども我れ記憶するに我は彼に負債せず。 10. 彼は甚だ宜しく自然より寫生す。裁縫師は貴君より尺量を撮りしや。彼は我れより肖像を撮影したり。 12. 此書は檢閲局の認可を經て出版せられたり。

II, 1. 彼は我れ程の身の長けなり。隣の林中には牝牛ほどの熊は生存す。 2. 我は已に二時間程貴君を待ち居る。彼は我許に一週間程客在せり。此箱には凡そ十斤程を容る。我等は徒步して一里程通行せり。

III, 1. 兄弟と姉妹は共に市府に乘り行きたり。姉妹は父と共に市府に乘り行きたり。此書籍は繪入なり。我は廣き緣を有する帽子を買ふたり。彼は大なる嗜好を以て修學す。貴君の親友は人情深きものなり。貴君は大なる頭と短き頸を有する人を認めしや。此壜は何を含有するや。酒を入れたりしが今は空瓶なり。 2. 時を經過すれば凡て之は發露せんとす。人は皆年を經るに隨つて身體の組織衰弱す。 3. 貴君は彼に面會すること屢々なるや。貴君の小供等は通常何人と戲るゝや。貴君は自身の兄弟と交通するや。貴君は自身の隣人と知已となりしや。彼は誰れとも暇乞せずして出立せり。貴君は彼と何事を爭論せしや。何事の爲めよりして貴君は自身の兄弟と爭ひしや 4. 我は貴君の誕生日を祝賀す。彼に或る不幸は生ぜしかと我は心配す。彼は如何にせしや。我は此事に關して貴君に同意する能はず。各〻境遇に適應せざるべからず。

§ 131, 1. 序でながら(問ふ)貴君は昨夜何處に趣きしや。我等は常步を以て行きたり。彼等は共に來れり。我は家僕等に一ケ月毎に給金を拂ふ。生徒等は二人づゝ並びて步行せり。兵卒は中隊毎に整列せり。彼は凡て之を人目に掛けん爲にのみ行ふ。我等は今や遲しと彼を待ち居る。凡て之は大に我を倦厭せしめたり(何となれば)毎日毎日同一の事なり。彼女は常に戶毎に驅け廻はる。兵卒

は一人毎に相次いで行けり。眞正の基督敎徒は惡を以て惡に報ずして善を以て惡に報ゆ。 2. 戶外は既に暖かし、然るに貴君は尙未だ冬の如く服裝す。我は家居の常衣の儘の服裝なりし。露西亞の古話に曰はるゝには惡なる盜賊は鷲の如く 巢を作り 猛獸の如く 嘯き蛇の如く 音立てゝ 動き得ると。狼と同棲するには狼の如く 吠ゆべし。 此外國人は露語英語佛語獨逸語以多利語拉典語を能く談ず。支那人は何處に住むとも支那風に生活す。貴君は小兒的に行ふたり。我等は兄弟の如く 生活したり。我はこを親友的に貴君に勸む。父は其財產を平等に分割せり。彼等は未だ明るき中に來れり。我文章は已に草稿準備す、唯之を淸書するのみとなれり。眞直に行けよ、然る后に右に曲がり一衢を通過して左へ曲がれよ。自身の頭を左方に回轉せよ、今度は右方に回轉せよ。 3. 貴君は我が思ひ通りに行ふことを約したり、然るに自身の思ひ通りに之を行ふたり。彼は我等の如くならず生活す。彼は尙未だ勉强す。此事をば我は聞きたり。 4. 我が一生涯中我は唯二回彼を見たり。我は三回貴君に請ふたり、然るに貴君は未だ之を行はず。七たび度りて一たび截れと、露西亞の諺は言ふ。三たび考へて一度言へよと同じく露西亞の諺は敎ゆ。五に三を乘ぜしは四に四を乘ぜしよりは少なり。五五二十五。我等は三人共同して行きたり。彼は我より二倍年長なり。此林檎を二つに分切せよ。第一彼は愚なり、第二に彼は橫着なり。

§ 132. 彼の家は湖の近くにあり。道は川に添ふて行く。彼は前週の終りに歸宅せり。地中には火あり。法律外には秩序なし。彼は喜悅に依つて已れを忘るゝに至りたり。父の代りに子は來れり。椅子は卓の周圍に配置せられたり。彼は病氣に依つて罷役せり。我の外に彼處には他の我が僚友も在りたり。此書籍の外に我は他の書を有せず。彼は丁度我家の向ふに住居す。我は貴君の家の近邊にて彼に會ふたり。我は既に凡そ二十年間彼を識る。我は二時頃に歸りたり。此處には凡そ一ブード程あらん。之に關しては。我は何んとも言ふ能はず。水の表面に板は浮びたり。彼は我の傍に立ちたり、して彼の姉妹は我等より遠くに立ちたり。樹木は道路を橫切りて倒れたり。彼は我より後に來れり、して彼の兄弟は我より以前に來れり。晩食後我は尙 勉 强せんとす。彼は我學校の向に住居す。我等は風に逆ふて行きたり。彼は自身の兩親の意旨に背きて某を娶れり。我馬は貴君の馬に比すれば何の價値もなし。全く意想外に我は彼より自身の書籍を得たり。彼が如何に群衆の中に立ちたりしを我は見受けたり。湖水の中に小島あり。

長き病氣に依つて彼は罷役せざるを得ざりし。我は能ふべき限りの事を貴君の兄弟の爲に致さん。他の市府に移轉に際して彼は自身の一切の所有物を賣拂ふ。我は五年間故鄕に在らざりし。彼は辭書の助けに依つて此文章を飜譯したり。我家族に關與するの態度を爲して彼は我兄弟に向つて他人の關すべからざる事物を聞糺したり。

2. 濱岸に添ふて樹木を植竝べたり。彼は父の命に背戾し親戚の望に反し 朋友に悖逆し 且つ之を愚弄し唯自身の敵の喜びの種子となりて之を行ふたり。我れ之を言ふは貴君を叱責せんとする爲にあらず。

4. 春は草と共に初期の花類も發生す。彼は父の命に從ひ且つ母の望に同意して家屋を買ふたり。

5. 我等は二つの川の間を乘り行けり。彼の所有地は二つの川の 間にあり、して我所有地は湖と山の間に在り。仙臺は東京と靑森の間に位す。道は林と田野の間を通ず。先頃我等の間に爭ひは生じたり。彼と其兄弟との間には通有なるもの毫もなし。朋友間には誠實の關係あらずんばあるべからず。

§ 134 1 父と兄弟は市府に出立したり。父も兄弟も姉妹も皆村落に出發せり。我は昨日 市府に行きて新らしき帽子を買へり。我は彼と面會もし彼と談話もし彼を自身の許に招待もしたり。現時彼は朝にも日中にも晩にも勉强す。我に鉛筆とペん軸とペん一打を買へよ。此事をば父も母も兄弟も未だ知らず。今我れ何を致すべきか。我は何時彼と在宅に會するを得べきか。我父は不快なり、して我母も同じく然り。彼は勤勉なり而して彼の姉妹も然り。我は今日學校に赴かざりし而して明日も同じく赴かざらん。彼は不才なり、加ふるに怠惰なり。我は彼に面會せしのみならず彼と談話をも行ふたり。彼は眞好なる長官たるのみならず又好人物なり。

2. Сибирь 即ち亞細亞露西亞は亞細亞の北部を占む。人は五感を有す即ち視覺聽覺觸覺嗅覺味覺なり。彼は久しく露西亞に 住居しつゝ殆んど凡ての主要なる都府例令は Москва, Варшава, Кіевъ Одесса 其他に到りたり。

我れ預想せし如く彼は金曜日に來著せり。彼は狂人の如くして我許に驅け入れり。彼は小兒の如く何事も理解せず。

3. 彼は最初宜しく學びたり其後怠り始めたり終に全く勉强廢したり。我等は最初は常歩し後に

は早く歩し終には疾行せり。我等は第一に郵便局に立寄らん第二に店に立寄らん第三に某の許に行かん第四に若し時間あらは某の許に立寄らん。彼は或は泣き或は笑ふ。或は寒く或は熱し。

5. 我は今日病氣なり、故に學校に赴かず。彼は久しく病氣なりし、ソレ故に同級に留まりたり。彼は甚だ怠情なり之に依つて次級に及第せず。我は一度ならず彼に警告し、一度ならず勸告し且乞ふに至りたり故に彼は我を怨む能はず。何の不愉快もなかるべき者は一人もなし故に我等は自身の運命を怨まざらん。

5. 我は數次彼に請ふたり、然れとも彼は我請願を遂行せざりし。牝牛は美貌ならす、然れとも有益なり。我は文典を我に遣はさんとを彼に請ふたり、然るに彼は辭書を遣はしたり。我は今日父の許に赴きたり、我は老いたり、然るに汝は若し。總は小なり、然れとも宜く囀つる。彼は甚だ勉勵して修學す、然れとも彼は優等生にあらず。我は甚だ屢彼に會ふ、然れとも彼を知ること甚だ少し。彼は甚だ富有なり、然れとも其貧なる親戚を佑助せず。我は彼と共に學びたり而して一時は彼と同宿に住居したるとさへあり、然るに我は彼を能く知らざりし。彼は常に我に對する甚だ好遇なり、然れとも兎角彼は我心に適せず。彼は富有なり、然るに彼の姉妹は甚だ貧なり。彼は我が爲に辭書を買ふたり、然るに我は文典を買はんとを彼に請ふたりし。彼は甚だ富有なりうれに反して彼の姉妹は甚だ貧なり。家の裡は全く靜肅なりし唯一室に於て錘子の響鳴り渡りしのみ。彼は實に少しく怠るその代り彼は甚だ宜しき才能を有す。

6. 或は勉勵して修學せよ或は開發したる人物となるの志望を捨てよ。彼は來らんか或は來らざらんか兎に角我等は今暫らく彼を待受けん。或は(勝負に)勝たん或は負けん。

§ 135. オーイ車夫よ。ハー貴君は何を言ふや。彼は然り然りとのみにて其他は何も言はざりし。眞に然り之は眞實なり。あゝ之は貴君なりしや。おやゝゝ何たる寒氣ぞや。おや事は斯くありしや。うれゝゝ彼處に在り之を見受けしや。注意せよ貴君の爲にならざらん。サー速に行かん。サーゝゝ通行し給へ。シー斯く高聲に呼ぶ勿れ孩兒の目を覺まさん。シート彼は低語したり。萬歳ゝゝと兵卒等は叫びたり。嗚呼凡て之は既に業に過ぎ去りて最早再復せざらん。オー我は如何に疲勞せしぞ。我は彼に用事を話し居る、然るに彼はハヽヽヽ又はヒーヽヽヽと哄笑す。

猫はニヤゴヽヽヽと鳴きて外に飛出したり。犬は一度にワンヽヽと吠にて我に飛びかゝりたり。屋内には全く靜肅にして唯隣室にカチヽヽと時計の音聞ゆるのみ。何處なりしか遙か遠くにボンヽヽと十回鳴り響きたり此故に夜は既に十時なりし。我は遠方よりチンヽヽと鈴の音を聞きたり、故に貴君の出迎に驅け出でたり。

彼は我片手を攫みて我を留めたり。彼は我が脇腹を突きたり。彼はバタリと戸をしめて奔り去りたり。

§ 162, I 及び § 163 I 4. 昨年建築せしところの家屋を彼は賣らんと欲す。我等今使用する所の紙、襤褸或は木より製造する處の其紙を古代は知らざりし。汝に善事を行ふところの人の恩を感ぜよ。品性の恒ならざる所の人々と決して親密なるべきものならず。外國より受くる處の貨物は時として甚だ廉價なることあり。勤勉を好む所の人は饑餓よりして死せざらん。貴君の兄弟が我に紹介せし所の文章を我は今讀み居る。我れ今讀み居る所の書籍は甚た面白し。南方諸國にのみ生長する所の樹木あり又北方のみに生長する所の樹木もあり。貴君が彼に遣はせし處の悉くの書を彼は已に通讀したり。貴君の我に賜與せし所の書は紛失したり。閑散に時日を經過するものは屢退屈す。§ 162, I. 及び § 163, I, 5. 眞心の清きものは常に安心なり。明智なるものは妄信を信せず。貧乏なるものは盜賊を恐れず。激昂し易きものは怨を抱かず。何事にも從事せずして居る人は常に退屈す。何事にも滿足ならざる所の人々あり。石より造られし所の家屋は木より造られし所のものより堅牢なり。

§ 162, I, 及び § 163, II. 盲なるものは見ず聾なるものは聞かず。跛者は速に走ること能はず。弱るものは顏に皺がる。出會する所の知人に垂頭の禮を行ふを要す。彼は落下したる書籍を取上たり。彼は沮喪せし所の姉妹を安慰したり。我等は燒失したる家の邊を通行せり。着服せざる小供等を散歩に携へ行かず。彼は白紙に清書したる一ページを塗抹したり。我は開封せられたる手紙を得たり。我等は訂正增補の敎科書に依て學び居る。彼は裂破りたる手紙を紙屑籠に投じたり。我等は天上に於て多の著るしき現象を見る(即ち)晝は赫灼たる太陽を夜は和らぎ光る月と晃々たる無數の星と稀には或る年代に於て星の間に彷徨する彗星を觀る、(此星は)長き尾を有して妄信なる人々を大に驚かす。

§ 163, III, 1. 才能の佳良なるものは才能の粗惡なるものよりも常に多く進捗を表顯す。我末弟

等の常に小供等と遊戯する、我隣人は近日他の家屋に轉居す。始めて我れ東京に來りし日の晩に三度地震ありたり。貴君が東京に來りし時我は在宅せざりし。農夫等は草刈の爲に常に天氣の長く一定せし時期を撰ぶ。我等の離別すべき時刻は來れり。我れ幼年を過せし所の市府は最近著しく佳美に變じたり。我等が住居せし家屋は市府の邊端に立ちたり。夏日太陽が全く沒せざる所の國あり。我れ生れし所の村は現時も我か爲には可愛らし。我は我幼時を經過せし所の村落を哀んで離れたり。我等が來りし所の場所は絶景なりし。彼等が移住せんことを豫想せし所の地方は甚だ健康に害あり。彼等が立去りし處の其市府は頃日悉く燒失したり。汝の兄弟は珍らしき生徒なり。今日は年中に珍らしき日なり。

§ 163. III, 2. 人は家畜の爲に暖き小斷を造る、然らざれば家畜は寒氣に依つて斃死すべし。III. 3. 我は一週間中に清書することを承諾するものにのみ我文章を清書せしめん。

§ 163, IV. 幸にして我には相談すべき人ありし。惜い哉彼には相談すべき人なし。彼には我等に話聞かすべきことありし。彼には我等に話し聞かすべきことなし。彼には怨を言ふべき人あり。貴君自身は謬てり故に貴君は怨を言ふべきものなし。

昔或る外國に一の不幸なる人ありし。彼は故郷に出發する理由なし又目的なし(何となれば)彼の故郷には已に何人もなし。彼は誰にも通信せず且彼は通信すべき人もなかりし、彼は誰よりも手紙を得ざりし且之を受くべき人もなかりし、彼は誰の許にも赴かず且赴くべき人なかりし、彼は自身の許に誰をも接けざりし且接くべきものなかりし、彼が死せしとき誰も彼の事を追想せざりし且彼の事を追想すべき人もなかりし(何となれば)彼には親戚も知己もなかりし。

我等は遊ぶ暇なし(何となれば)我等は勉強せざるべからず。昔或る外國に不幸なる者唯一人にして生活せり、彼は何處にも赴かず且赴くべき處なかりし、彼は何處にも居しことなし且居るべき處なかりし、彼は何處よりも手紙を受けざりし且之を受くべき處なかりし、彼は未だ曾て家より外出せざりし且外出すべき暇なかりし。

§ 164. I. 彼は廉潔なる人なるを我は知る。貴君は公平に行ふたりしと我は思ふ。彼女の母は大に大病なりと彼女は言へり。彼は甚だ結構なる役職を得たりしと我は聞受けたり。彼は未だ弱年なるを貴君は忘れ居る。彼は已に外國より歸りしと我は新聞に於て先日讀みたり。彼は之を行ふならんかを我は疑ふ。彼は貴君に助くるならんと我は確信す。惡人は世に善人あるを信ぜず。彼は褒賞を得たりしを喜ぶ。

我は他人が此事を知るを欲せず。此對談は唯我等の間のみに止まらんことを我は望まし。彼女の子息は成るべく速に役職に就任せんことを彼女は望む。彼は我手紙を郵便函に投下せんことを我は彼に請ふたり。彼は善人なりしと我は思はず。彼は之を行ひ得べしとは我等皆疑ふ。彼は尚早く來らんことを我は彼に請ふたり。凡ての兩親は皆小供等が幸福ならんをことを望む。基督敎は我等に命ずるに我等は自身の敵に惡を行はざるべきのみならず而も敵を愛すべきことを命ずる。

彼等は已に出發したりしやに我は聞き受けたり。彼は故郷に出發したりしやに傳へ言ふ。家の家根に於て鴉の鳴聲は其家に於て誰かの死亡を豫報する如くに妄信なる人々は思ふ。彼女の息女が死去したりし夢を彼女は見たり。

II. 貴君の兄弟は今日我許に來らんと貴君に言はざりしや。彼は今何事に從事するやを何卒探り知ることを慮かり給へ。彼は我等と共に乘り行く望みなるやを彼に聞き給へ。我は如何彼を愛するかを貴君は信ぜざらん。之は如何程困難なるかを貴君は信ぜざらん。彼は我等に具さに物語れり、彼は此年一杯何處にありて又何を見何に從事せしやを。彼は幾歳なりと貴君は思ふや。今は何時(第幾時)なるや何卒我に告げよ。彼は何處に住居するや貴君は知らざるや。

§ 165. 諺に曰く愛の存する所には神も存す。我は常に閑靜なる處を逍遙す。我は貴君が置くことを命ぜし所に貴君の物品を置きたり。魚は深き處を探がし人は宜しき處を探がす。彼が今住居する所の場所は甚だ濕氣なり。我れ常に彼に赴くことを勸めし所に彼は在りたり。彼等が移住せし所には殊に職工等は住居す。彼の朋友等が已に立去りし所に彼は未だ今日に至るまで居る。

彼の兩親が移轉せし處に彼は出立したり。貴君が我に赴くことを勸めし處に我は近日中に赴かんとす。彼の兄弟が在勤する所に彼は赴かんと欲す。全く待受けざりし所より彼は來れり。彼の在勤する處より僅かの人々のみ壯健にて歸る。宜しき處よりは誰も逃げず。彼が役務に就任せし處より我等の處まで手紙は一週以上を以て着す。

§ 166. 何か善事を行ひし時は誰も皆滿足なり。彼は我を見しとき大に喜びたり。炎熱の到る

ときは市内の住民は別莊に急ぐ。人は善を行ふときは誰をも何物をも恐れず。我は已に暇乞を告げかゝりしとき彼は來れり。

彼は市府に住居する際には壯健なること稀なり。彼が日本を旅行せし際に我は彼と知己になれり。貴君が學校に通ひし際に我は我文章を書けり。我は彼が村落に出立せしときよりして彼を見ざりし。彼が貴君と共に我許にありしときより我最早彼を見ざりし。我れが日本に歸る頃ほひには小供等は已に大きくならんとす。彼が其敎育を終らんとする頃には彼れの父は全く老人たらんとす。貴君が來るを約せし頃には我は全く準備せんとす。我等が離別せし後ち多くの事は變動したり。我れが彼と打明けて談ぜし後は我等は大なる親友となりたり。彼が我に赦罪を請はんとする後に於てのみ我は彼を我許に招待せん。彼が勉强せんとする間我等は彼に妨害せざらん爲に高聲に談話せざらん。全く此事に通ぜざりし間我は之を至難なりと思ふたり。貴君が朋友の許に赴きし間に我は我日課を自修したり。我が歸る以前に貴君は此事業を完結せんことを慮れよ。我は此事を決心せんとするに前き立ちて父と相談せんとす。一人を罪し他の一人を放免するに前き立ちて此事件を精確に探究するを要す。我れ豫想せしより以前に彼は來れり。彼れ若し我歸らんとするより以前に來るなれば此手紙を彼に渡せよ。

我れ日本に着するや否や直ちに貴君に書を送らん。我れ彼に請願し始むるや否や彼は承諾したり。彼が室内に入りしや否や我は直ちに彼を判知したり。貴君の電報に接せんとするや否や我は直ちに貴君の親戚に通知せん。

寒冷ならんとする時には多くの禽鳥は我地方より暖地に飛び去る。明日貴君が我許に來らんとする際には貴君は既に我兄弟に面接せざらん。鯨が海中を浮泳する際には屢々二十露里範圍の場所を覆ふことあり而して彼等の生する騒音は强き雨の騒音に等しきことあり。

II. 我は貴君の許に赴きしとき大に凍えたり。手紙を書き終りて我は直ちに之を郵便局に送りたり。他人を敎へつゝ我等自身も學び得ん。一人に善事を行ひつゝ時としては之を以て我等は他の人に害を來たす。我は晩食を待たずして寢に就きたり。彼等は自身の悉くの日課を自修して散歩に立ち去りたり。壯健なる時は吾人は他人の病を冷笑す。父の死後小供等は皆官費に採用されたり。

§ 167, I, 1. 彼は困難して足を運びつゝ行きたり。我等は急がずして行きたり。彼は誰とも暇を告げずして出發せり。彼は誰にも一言をも告げずして去りたり。彼は我等に解し難き語を一々捉へて常に新らしき日課を解釋す。小事に滿足しつゝ節制して生活せよ。 2. 既に貴君に告げし如くにして我は之を行はんとす。彼は約束したる如くに行へり。

II, 1. (甲) 敎師が敎師なれば生徒も亦然り。敎師の如く生徒も亦斯の如し。樹木の如何に依つて果實も亦之に從ふ。 乙) 夜の酒寒なるに從つて空氣は彌々清鮮なり。我等は彌々高く山に登りて彌々寒くなれり。 (丙) 男は女より力强し、して女は孩兒より力强し。 (丁) 貴君が彼に勸めし如く彼は行ひたり。彼は猛獸の如く其敵に身を投したり。動物は人の如く苦痛を感す。我は同胞兄弟の如く彼を惜む。通常日本人が歌ふ如く彼は歌ふ。人は空氣なくんば魚の水なきが如くに生活する能はず。恰も狂人の如くして彼は我許に馳せ入れり。彼は孩兒の如く何事をも解せず。自然深きものは恰も萬物は彼の爲にのみ存在するが如くに身を處す。 2. 彌々努力すれば彌々多く智識を得ん。人は彌々多く學ぶに從ふて彼は甚だ智識淺きことを彌々深く自認す。貴君は之を行ふの速なるのだけ彌々可ならん。先きに進むに從つて彌々惡しゝ。彼は彼の父の如く同じく善良なり。彼女は其母程は善良ならず。我は未だ曾て現時の如く多く勉强せしことなし。彼は金錢使用の豐裕なるだけうれだけ富有なり。我れ露語を知る如き程それ程彼は日本語を知る。人の數程說の數もあり。兄弟の小供の數は姉妹の小供の數の如し。此報知は我を喜ばせし程亦我を悲ましめたり。一の報知の不愉快なりし程うれ程他の報知は喜ばしかりし。貴君が我兄弟より年長なる倍數と同しく彼は我より年長なり。貴君が我より年長なる程我は彼より年少なり。

III, 1. 我等皆驚く程速に彼は其仕事を終りたり。彼は將に倒れんとしたりし程急速に走りたり。病人は今夜死するならんと親類が思ふ程に衰弱したり。下等場所さへも塞がりし程に劇場は滿員なりし。彼は病に罹りし程に多く試驗前に勉强したり。彼は每年外國に赴くことを得る程に富有なり。總督は如何に處置すべきやを知らざりし程多く捕虜はありたり。我は幾かに其後に附き行くを得たりし程疾く彼は步行したり。我は或る場所に於ては一語をも判ずる能はざる程粗惡に貴君は其文章を淸書したり。敎員の音聲は全く聞き取れざりし程高音に生徒等は叫びたり。 2. 貴君は後日恥かしからざる樣に之を行へよ。一同の者が一言每に貴君の語を聞き取ることを得べき程高音に言ふことを心掛けよ。小供等は疲勞せざる樣に我等は行くことを心掛けたり。

§ 168. 我は彼を見ざりし、何となれば彼は在宿せざりし。母たるものは皆其小供を防衛す。何となれば母の愛は恐怖を知らず。高山の頂は永久の雪にて覆はる、何となれば彼處の空氣は非常に稀薄にして且寒冷なり。東京には密柑は生熟せず、何となれば其處は寒し。秋の天氣を信頼する能はず、何となれば常に變はり易し。悉くの茸を食用せず、何となれば其中の多數は有毒なり。父は我に之を行ふことを命ぜしに依つて我は之を行ふたり。何人か彼を引止めたりしに依つて彼は多分來らざりしならん。

彼は兄弟と相談せざりしに依つて之は生じたり。彼は勉強少かりしに依つて試驗に及第せざりし。

我は彼と知己ならざる故に彼と談話せざりし。我は未だ辭書を有せざる故に此文を未だ飜譯せざりし。我は已に數回彼に欺かれし故に我は最早彼を信用せず。多分雨は降らんとする故に我は今日遊歩に赴かず。我は明日までに自身の文章を終らざるべからざる故に何卒我を妨害する勿れ。

貴君は我に書籍を送付せし事を我は大に貴君に感謝す。彼は活闊なるに依つて我は彼を愛す。彼を學校より退校せしめしは彼が不才なりしが爲にあらずして品行の惡しき爲めなりし。我れ之を行ひしは父が我に命じたりしを以てなり。我れ今日早く起きしは午食までに我文章を終らんと欲する爲めなり。

彼は貴君の許に赴くを止めしは父が彼に貴君の許に行くことを許さゞるに依つてなり。彼は勤勉に修業し始めしを我は大に滿足す。

外貌に依つて人を議する勿れ、何となれば外貌は人を惑はすこと多し。此談話が貴君に適意せざる以上は我は最早此事を言はざらん。貴君が彼を嫌ふの先入を有する以上は勿論彼と交はらざるを勝れりとす。

§ 169. 正當に書す事を能くせんとするには文典を知るを要す。我等は生活せんが爲に食す、然れども食する爲に生活するにあらず。國語を精しく解する爲には多く讀み且書くことを必要とす。彼は兄弟の健康を問合せん爲に來れり。彼は親戚に面會せん爲に來れり。我は母を安慰せんが爲には一切の事を行はん。彼は速に此新報知を知るを得ん爲の目的を以て我は彼に電報を發せり。他人が爾を憎まざらんが爲に爾は他人に對して殘酷なる勿れ。新らしき語を固く記憶せんが爲に數次相次いで之を誦せよ。根本的に露語を知らんが爲には其研究に數年の精勵を費すを要す。

§ 170. 1. 彼れ若し我を招待するならば我は彼の許に赴かん、若し然らざれば赴かざらん。我等若し他人の弱點に對して寛容ならざるときは我等の弱點に對して寛容を得んことを望む能はず。若し我に閑暇ありしならば我は貴君の許に立寄りしならん。若し冬の寒氣が虫を殺さず又禽鳥と蜘蛛が之を撲滅せざりしならば虫の多きに依つて人類に困難を來せしならん。自ら慢にするときは神も之を助けざらん。幸福なるものたらんと欲せば自ら有する所のものを以て滿足するの習慣を作れ。貴君若し我許に來りし際朋友等の遇會するならば何卒此事の談話を始むる勿れ。

彼若し助力を要することを我知りしならんには我は彼に助力せしならん。貴君若し我が爲に立寄らんことを約するなれば我も彼等の許に赴かん。若し靴師がパンを燒くに至り又パン屋が靴を縫ふに至るならば大變なり。若し汝之を欲するならば我に借財するを得べし。

2. 彼若し兄弟と相談したらんには此事を生ぜざりしならん。貴君若し唯一言を發せもならば我は之を行ひしならん。彼等若し猶富有なりしならんには斯く勞役するに至らざりしならん。

§ 171. 1. 彼は甚だ我を侮辱したれども我は彼に對して激怒せず。彼は頃日此處に來りたれども然れども我が許に立寄らざりし。貴君の兄弟は若かしと雖も然れども能く諸事に通ず。今日は好天氣なれども然れども我は散歩に赴かざらん。貴君は我より甚だ遠く住居すれども然れども我は貴君の許に赴かん。たとひ貴君が我より尚遠隔に住居したりとも我は必らず貴君の許に赴かんとす。

虚言者は實を言ふとも人は之を信せず。虚言者は若し實を言ひたりしとも人は之を信ぜず。父が我に之を命ぜしとも我は之を行はざりしならん。

2. よし彼は正當なるとも然れども彼は激すまじきことなりし。彼は廉潔なる人なるを我は知れども然れども我は常に彼を用心す。彼は甚だ稀に我許に來るにも拘らず我は機に際して常に彼の許に立寄る。人は皆言ふ彼は甚た善良の人なりと、然れども我には兎に角氣に適せず。

3. 何人が我に請ふとも我は所詮之を行はざらん。如何に困難なりしとするも兎に角彼は之に服從せざるべからざりし。如何に我が爲に困難なりしとも兎に角我は之を忍ばんとす。彼如何に恰しきとも兎に角其兄弟よりは恰しからず。彼如何に爭ひたるも然れども終には我に同意したり。貴君が如何程彼に善事を行ひたりとも彼は恩を感ぜざらん。貴君が彼より何處に書籍を秘するとも彼は必らず之を看出さん。彼れ何處に赴きたりとも母は常に彼の身を心配す。

Чтеніе текстовъ.

1. Наступленіе весны.

1. Весна приближалась. Солнце восходило раньше и заходило позже. Оно свѣтило ярче и грѣло сильнѣе. Снѣгъ таялъ и сбѣгалъ съ горъ ручьями. Рѣки разливались. Всё оживало Жучки и мошки пробуждались отъ зимняго сна. Звѣри тоже просыпались и выходили изъ норъ и берлоговъ. Вотъ ужъ и луга зазеленѣли, распустились листья, расцвѣли цвѣты, прилетѣли птицы, засвистали соловей и жаворонки.

2. Съ приближеніемъ весны, солнце будетъ восходить раньше и заходить позже. Оно будетъ свѣтить ярче и грѣть сильнѣе. Снѣгъ начнётъ таять и сбѣгать съ горъ ручьями. Рѣки будутъ разливаться. Всё будетъ оживать. Жучки и мошки станутъ пробуждаться. Звѣри тоже будутъ просыпаться и выходить изъ норъ и берлоговъ. Скоро потомъ начнутъ зеленѣть луга, распускаться листья и расцвѣтать цвѣты; будутъ прилетать птицы, станутъ пѣть соловей и жаворонки.

2. Наступленіе осени.

1. Наступала осень. Дни становились короче, а ночи длиннѣе. По небу тянулись серыя тучи. Шёлъ мелкій дождикъ. Дулъ сильный вѣтеръ Листъ на деревьяхъ желтѣлъ и осыпался. Поля пустѣли. Цвѣты вяли. Плоды дозрѣвали. Птицы улетали въ тёплыя страны. Въ окна домовъ вставляли зимнія рамы; начинали топить печи и одѣваться потеплѣе

2. Наступила осень. Дни стали короче, а ночи длиннѣе. По небу потянулись серыя тучи. Потёлъ мелкій дождикъ Подулъ сильный вѣтеръ. Листъ на деревьяхъ пожелтѣлъ и осыпался. Поля опустѣли Цвѣты увяли. Плоды дозрѣли. Птицы улетѣли въ тёплыя страны. Въ окна домовъ вставили зимнія рамы; начали топить печи и одѣваться потеплѣе.

3. Наступаетъ осень. Дни становятся короче, а ночи длиннѣе. По небу тянутся серыя тучи Идётъ мелкій дождикъ. Дуетъ сильный вѣтеръ. Листъ на деревьяхъ желтѣетъ и осыпается. Поля пустѣютъ. Цвѣты вянутъ. Плоды дозрѣваютъ. Птицы улетаютъ въ тёплыя страны. Въ окна домовъ вставляютъ зимнія рамы; начинаютъ топить печи и одѣваться потеплѣе.

4. Скоро наступитъ осень. Дни станутъ короче, а ночи длиннѣе. По небу потянутся серыя тучи. Пойдётъ мелкій дождикъ. Подуетъ сильный вѣтеръ. Листъ на деревьяхъ пожелтѣетъ и осыплется. Поля опустѣютъ. Цвѣты увянутъ. Плоды дозрѣютъ. Птицы улетятъ въ тёплыя страны.

Въ окна домовъ вста́вятъ зи́мнія ра́мы; начну́тъ топи́ть пе́чи и одѣ́ваться потеплѣе.

5. Съ наступле́ніемъ о́сени, дни бу́дутъ станови́ться коро́че, а но́чи длиннѣе. По́ небу бу́дутъ тяну́ться се́рыя ту́чи. Бу́детъ идти́ ме́лкій до́ждикъ. Бу́детъ дуть си́льный ве́теръ. Листъ на дере́вьяхъ будетъ желте́ть и осыпа́ться. Поля́ бу́дутъ пусте́ть, цвѣты́ будутъ вя́нуть, плоды́ бу́дутъ дозрѣва́ть. Пти́цы бу́дутъ улета́ть въ тёплыя стра́ны. Въ о́кна домо́въ бу́дутъ вставля́ть зи́мнія ра́мы; ста́нутъ топи́ть пе́чи и одѣва́ться потеплѣе.

3. Исто́рія человѣка.

Рожда́ется, живётъ, пита́ется, растётъ, у́чится, умнѣетъ, гру́дится, старѣетъ, слабѣетъ и умира́етъ.

4. Ру́сскія столи́цы.

Петербу́ргъ, но́вая столи́ца Россіи, лежи́тъ гора́здо се́вернѣе Москвы́. Онъ располо́женъ на бо́лѣе болотистой по́чвѣ, и потому́ кли́матъ его́ счита́ется ме́нѣе здоро́вымъ, чѣмъ моско́вскій; пого́да въ нёмъ та́кже перемѣ́нчивѣе, и дождли́выхъ дней быва́етъ въ году́ бо́лѣе, чѣмъ въ Москвѣ́. Но́ та́къ-ка́къ Петербу́ргъ лежи́тъ бли́же къ мо́рю, то кли́матъ въ нёмъ мя́гче: лѣ́то прохла́днѣе, а зима́ умѣ́ренніе, чѣмъ въ Москвѣ́

Петербу́ргская рѣка́ Нева́ несравне́нно ши́ре, полново́дніе и краси́вѣе Москвы́-рѣки́.

Петербу́ргъ располо́женъ на бо́лѣе ро́вной мѣ́стности, а потому́ ви́ды въ нёмъ однообра́знѣе, но зато́ у́лицы гора́здо ши́ре и прямѣе моско́вскихъ.

Петербу́ргъ ме́ньше Москвы́, но гора́здо многолю́днѣе ея́; петербу́ргскіе дома́ гора́здо вы́ше моско́вскихъ.

Уче́бныхъ заведе́ній въ Петербу́ргѣ бо́льше, чѣмъ въ Москвѣ, но церквей значи́тельно ме́нѣе.

5. Дѣ́тскія очки́.

Ма́льчикъ сказа́лъ отцу́: „Купи́ мнѣ очки́: я хочу́ такъ же чита́ть кни́ги, какъ ты чита́ешь“—„Хорошо́,“ отвѣча́лъ ему́ отецъ: „я куплю́ тебѣ́ очки́, то́лько дѣ́тскія“—и купи́лъ ма́льчику а́збуку.

6. Си́льная любо́вь.

Оди́нъ ма́льчикъ бѣжа́лъ че́резъ у́лицу. Вдругъ наѣзжа́етъ телѣ́га. Ма́льчикъ споткну́лся и попа́лъ подъ телѣ́гу; колесо́ переломи́ло ему́ но́гу. Бѣдня́жку принесли́ домой. Мать его́ была́ больна́ и, когда́ услыха́ла стонъ сы́на, соскочи́ла въ испу́гѣ съ посте́ли и упа́ла безъ чувствъ. Ма́льчикъ сейча́съ же переста́лъ стона́ть, и пока́ ему́ вправля́ли и перевя́зывали но́гу, онъ

ни ра́зу не кри́кнулъ „Ра́звѣ тебѣ́ не бо́льно?" спроси́лъ его́ до́кторъ.— „Да́же о́чень бо́льно!" шо́потомъ отвѣча́лъ ма́льчикъ. „Но я не хочу́, что́бы ма́ма зна́ла объ э́томъ: она́ о́чень огорча́ется."

7. Крестья́нинъ и а́истъ.

Крестья́нинъ разста́вилъ сѣти, чтобы лови́ть въ нихъ ди́кихъ гусе́й, кото́рые причиня́ли его́ по́лю большо́й вредъ. Одна́жды онъ пойма́лъ не́сколько гусе́й и, въ числѣ́ ихъ, а́иста. „До́брый человѣкъ!" сталъ проси́ть а́истъ крестья́нина. "Пусти́ меня́, я ни въ чёмъ не винова́тъ передъ тобо́ю и не дѣ́лаю твоему́ по́лю никако́го вреда́; къ то́му же у меня́ есть ста́рая мать: я до́лженъ корми́ть её."—„Всё э́то такъ," возрази́лъ крестья́нинъ: „но зачѣ́мъ ты враща́ешься въ тако́мъ дурно́мъ о́бществѣ?" И не пусти́лъ его.

8. Рыба́къ и ры́бка.

Рыба́къ пойма́лъ ма́ленькую ры́бку. Ры́бка проси́ла его́ пусти́ть её наза́дъ въ во́ду.—„Я ещё о́чень мала́," говори́ла она́ ему́: „и тебѣ́ бу́детъ отъ меня́ ма́ло по́льзы; когда́ я вы́расту, то ты мо́жешь опя́ть пойма́ть меня́, и тогда́ я бу́ду для тебя́ гора́здо поле́знѣе!" Рыба́къ отвѣча́лъ: „Небольша́я вы́года въ рука́хъ лу́чше, чѣ́мъ больша́я въ ожида́ніи,"—и не пусти́лъ ры́бку наза́дъ въ во́ду.

9. Пѣту́хъ.

Приле́жная хозя́йка буди́ла на рабо́ту свои́хъ служа́нокъ о́чень ра́но по утру́, какъ то́лько раздава́лось пѣ́ніе пѣтуха́. Служа́нки разсерди́лись на пѣтуха́ и тайко́мъ зарѣ́зали его́. Но что же по́слѣ э́того случи́лось? Пѣ́ніе пѣтуха́ по утра́мъ больше не́ было слы́шно, и приле́жная хозя́йка, бо́ясь, что́бы не заспа́лись ея́ служа́нки, ста́ла буди́ть ихъ ещё ра́ньше, чѣ́мъ пре́жде, иногда́ да́же въ по́лночь.

10. Пѣту́хъ и жемчу́жное зерно́.

Пѣту́хъ разрыва́лъ на дворѣ́ соръ и нашёлъ въ немъ жемчу́жину.—„Кака́я ничто́жная вещь жемчу́жина!" сказа́лъ онъ. „Пра́во, не понима́ю, отчего́ лю́ди такъ до́рого цѣ́нятъ же́мчугъ! На мой взглядъ ячме́нь гора́здо лу́чше. Онъ вку́сенъ и пита́теленъ."

11. Же́мчугъ.

Стра́нникъ заблуди́лся въ песча́ной, безво́дной степи́. Онъ былъ о́чень го́лоденъ и ужа́сная жа́жда му́чила его́. Наконе́цъ, онъ пришёлъ къ тѣни́стому па́льмовому де́реву и свѣ́жему исто́чнику. По́длѣ исто́чника лежа́лъ ма́ленькій мѣ́шо́чекъ. „Сла́ва Бо́гу," сказа́лъ стра́нникъ, поднима́я его́: „э́то, должно́

быть, фи́ники; они меня́ спасу́тъ отъ голо́дной сме́рти!" Онъ откры́лъ съ жа́дностью мѣшо́чекъ и вскри́кнулъ въ испу́гѣ: „Ахъ, Бо́же, э́то же́мчугъ!"

12. Ни́щій и соба́ка.

Соба́ка стерегла́ большо́й дворъ. Она́ уви́дѣла ни́щаго и начала́ на него́ ла́ять. Бѣдня́къ сталъ проси́ть её: „Сми́луйся надо мно́ю! Я не ѣлъ уже́ два дня, я умира́ю съ го́лоду (а)!" Соба́ка отвѣча́ла бѣдняку́: „Лю́ди услы́шатъ мой лай и нако́рмятъ тебя́."

Не суди́те по нару́жности: нару́жность ча́сто быва́етъ обма́нчива.

13. Солове́й и чижъ.

Въ кле́ткахъ надъ окно́мъ висѣ́ли и пѣ́ли солове́й и чижъ. Ма́ленькому сы́ну хозя́ина о́чень понра́вилось пѣ́ніе соловья́, и онъ началъ проси́ть отца́ показа́ть ему́ пти́чку, кото́рая поётъ такъ хорошо́. Оте́цъ снялъ кле́тки, поста́вилъ ихъ на столъ ря́домъ и спра́шиваетъ: „Ну, угада́й, кото́рая изъ э́тихъ двухъ пти́чекъ такъ забавля́етъ тебя́?"—„Вотъ она́, вотъ э́та са́мая!" вскрича́лъ ма́льчикъ въ восхище́ніи и указа́лъ на чи́жика. „Кака́я она́ хорошенькая! Что за пёрышки! Оттого́-то у нея́ и го́лосъ такъ хорошъ!"

14. Ца́пля и я́стребъ.

Ца́пля называ́ла я́стреба разбо́йникомъ, а я́стребъ ца́плю—убі́йцею. Ца́пля говори́ла, что грѣшно́ похища́ть цыпля́тъ, какъ э́то дѣ́лаетъ я́стребъ. Я́стребъ съ свое́й стороны́ утвержда́лъ, что прогла́тывать ры́бу, какъ дѣ́лаетъ ца́пля, ещё грѣ́шнѣе. Споръ ме́жду ни́ми дли́лся. Наконе́цъ, ца́пля и я́стребъ обрати́лись къ бара́ну и проси́ли его́ рѣши́ть по со́вѣсти ихъ споръ. Бара́нъ рѣши́лъ, что то́лько одного́ волка, кото́рый хвата́етъ оне́цъ и бара́новъ, мо́жно назва́ть разбо́йникомъ и убі́йцею. „Хвата́ть птицъ и ры́бу," сказа́лъ онъ: „вовсе нѣтъ грѣха́!"

15. Жа́дность.

Ребёнокъ го́рько пла́калъ. „Что съ тобо́ю?" спроси́лъ его́ прохо́жій.—„Я потеря́лъ копѣ́йку."—„Не плачь, вотъ тебѣ́ друга́я." Ребёнокъ взялъ моне́ту и запла́калъ сно́ва. "О чёмъ же ты пла́чешь теперь?"—„Да е́сли бы я не потеря́лъ свое́й копѣ́йки, то тепе́рь у меня́ было бы двѣ копѣ́йки."

16. Двѣ мы́шки.

Молода́я мы́шка сказа́ла ста́рой: „Какъ золъ и скупъ нашъ хозя́инъ! Завёлъ ко́шекъ, наста́вилъ вездѣ́ мышело́вокъ и вся́чески хо́четъ насъ погуби́ть. А мно́го ли намъ ну́жно? Ко́рочка хлѣ́ба да два-три зёрнышка—вотъ мы и сы́ты."—„Пра́вда твоя́," отвѣча́ла ста́рая мышь: „ка́ждой изъ насъ ну́жно немно́го, да насъ-то мно́го."

17. Два пріятеля.

Два пріятеля шли по лѣсу и вдругъ увидѣли издали медвѣдя. Одинъ изъ нихъ бросился бѣжать и взлѣзъ на дерево, а другой остался на дорогѣ. Зная, что медвѣди никогда не трогаютъ мёртваго, онъ упалъ на землю и притворился мёртвымъ.

Медвѣдь подошёлъ къ нему и сталъ обнюхивать: онъ и дышать пересталъ. Медвѣдь принялъ его за мертвеца—и отошёлъ. Какъ только медвѣдь скрылся, сидѣвшій на деревѣ слѣзъ и, чтобы посмѣяться надъ пріятелемъ, спросилъ у него: „О чёмъ съ тобою секретничалъ медвѣдь?"—„Медвѣдь сказалъ мнѣ на ухо: "Нехорошій у тебя товарищъ! Онъ въ опасности оставляетъ друга."

18. Лгунъ.

Пасъ пастухъ стадо подлѣ лѣса, недалеко отъ деревни. Вдругъ вздумалось ему напугать другихъ. „Волки! волки!" закричалъ онъ. Сбѣжались крестьяне съ собаками. Видятъ—нѣтъ волковъ. А пастухъ стоитъ и смѣётся.

На другой день онъ опять пасъ на томъ же мѣстѣ стадо. Вдругъ изъ лѣсу (а) показались два волка. „Волки, волки!" закричалъ онъ. Но на этотъ разъ никто ему не повѣрилъ и не пришёлъ на помощь, и волки передушили много овецъ. Лжецу не вѣрятъ.

19. Большая тыква.

Два подмастерья проходили однажды мимо огорода, въ которомъ росла тыква.

„Посмотри-ка," сказалъ одинъ изъ нихъ: „какія большія тыквы въ этомъ огородѣ!" — „Напёлъ, чему удивляться," возразилъ второй. „Когда я путешествовалъ за границей, я видѣлъ тыкву величиною съ порядочный домъ!"

Первый, который былъ мѣдникъ по ремеслу, отвѣчалъ: „Всё это можетъ быть! Только и мы сдѣлали однажды, вмѣстѣ съ мастеромъ, такой котёлъ, который былъ величиною съ трехъ этажный домъ!"

—„Въ самомъ дѣлѣ!" вскричалъ второй отъ изумленія. „Но скажи, пожалуйста, для чего вамъ нуженъ былъ такой громадный котёлъ?"—„Мы хотѣли въ немъ варить твою огромную тыкву!" отвѣчалъ первый.

20. Споръ.

Корова, лошадь и собака заспорили между собою, кого изъ нихъ хозяинъ больше любитъ.

—Конечно, меня́, говори́тъ ло́шадь: я ему́ зе́млю пашу́, дрова́ изъ ле́су (а) вожу́, самъ онъ на мнѣ въ го́родъ ѣздитъ, безъ меня́ онъ совсѣмъ не мо́жетъ обойти́сь

—Нѣтъ, хозя́инъ меня́ бо́льше лю́битъ, говори́тъ коро́ва: я всю его́ семью́ молоко́мъ кормлю́.

—Нѣтъ, меня́, ворчи́тъ соба́ка: я его́ домъ и всё иму́щество стерегу́.

Подслу́шалъ хозя́инъ э́тотъ споръ и говори́тъ: „Переста́ньте спо́рить попусту́: всѣ вы мнѣ нужны, и ка́ждый изъ васъ хоро́шъ на своёмъ мѣстѣ."

21. Семь пру́тьевъ.

Жилъ-былъ крестья́нинъ. У него́ было семь сыновей. Сыновья́ жи́ли недру́жно. Цѣлые дни проходи́ли у нихъ въ ссо́рахъ да спо́рахъ. Вотъ одна́жды стари́къ-отецъ призыва́етъ всѣхъ свои́хъ сыновей, кладётъ передъ ни́ми семъ пру́тьевъ, кре́пко свя́занныхъ въ оди́нъ пучо́къ, и говори́тъ: „Даю́ сто рубле́й тому́ изъ васъ, кто перело́митъ э́ту свя́зку пру́тьевъ."

Ста́ли сыновья́ по-о́череди подходи́ть къ свя́зкѣ, про́бовали переломи́ть,—никому́ не удаётся; ка́ждый клалъ свя́зку обра́тно и говори́лъ: „Нѣтъ, не могу́!"—„Ахъ, вы неразу́мные!" сказа́лъ имъ отецъ „Нѣтъ ничего́ ле́гче, какъ переломи́ть э́ти пру́тья." Взялъ, развяза́лъ пучо́къ и ста́лъ лома́ть ка́ждый пру́тикъ отдѣльно „Э!" закрича́ли сыновья́: „такъ-то, коне́чно, не тру́дно! Такъ и ма́лый ребёнокъ ихъ перело́митъ!"

Тогда́ стари́къ сказа́лъ:

—Вы, де́ти, то́ же, что свя́занные пру́тья! Пока́ бу́дете кре́пко держа́ться другъ за дру́га, всѣмъ вамъ бу́детъ хорошо́: ни оди́нъ злой челове́къ не оси́литъ васъ; а какъ то́лько порвёте дру́жбу, бу́детъ съ ва́ми то́же, что съ э́тими пру́тьями, кото́рые всѣ поло́маны и раски́даны здѣсь на полу́.

22. Дубъ и ве́рба.

Одна́жды у́тромъ, по́слѣ бу́рной но́чи, отецъ и его́ ма́ленькій сынъ пошли́ въ ло́ле посмотре́ть, не причини́ла ли бу́ря како́го-либо вреда́. Малю́тка вскрича́лъ: „Посмотри́, па́па, како́й большо́й и кре́пкій дубъ вы́рвало изъ земли́ съ ко́рнемъ, а ме́жду тѣмъ сла́бая ве́рба стои́тъ прямёхонько! А я всегда́ ду́малъ, что бу́ря скоре́е опроки́нетъ сла́бую ве́рбу, чѣмъ кре́пкій дубъ."

—„Ми́лый мой," сказа́лъ отецъ, „кре́пкій дубъ не могъ согну́ться и потому́ слома́лся, ги́бкая же ве́рба уступи́ла напо́ру бу́ри, и бу́ря не могла́ причини́ть ей никако́го вреда́. То же, и въ жи́зни челове́ческой: усту́пчивость лу́чше го́рдости и упря́мства."

23. Коло́сья.

Ма́льчикъ гуля́лъ съ отцо́мъ въ по́лѣ. Это бы́ло ле́томъ. Приближа́лось уже́ вре́мя жа́твы. Зре́лые коло́сья опусти́ли свои́ го́ловы и стоя́ли непод-

ви́жно. Лишь оди́нъ ко́лосъ высоко́ по́днялъ свою́ го́лову и съ го́рдостью смотре́лъ на свои́хъ това́рищей. Ма́льчикъ спросилъ: „Почему́ оди́нъ то́лько э́тотъ ко́лосъ де́ржитъ го́лову пря́мо и не гнётся къ земле́?" Оте́цъ объясни́лъ ему́: „Го́ловы всѣ́хъ про́чихъ колосьевъ полны́ зёренъ: поэ́тому онѣ́ гну́тся. У э́того же ко́лоса голова́ пуста́." Такъ быва́етъ и съ людьми́: челове́къ у́мный простъ, а глу́пый гордъ.

24. Ко́сточка.

Купи́ла мать сливъ и хоте́ла дать ихъ дѣ́тямъ послѣ обѣ́да. Мла́дшій ребёнокъ ещё никогда́ не ѣ́лъ сливъ, и ему очень хоте́лось отвѣ́дать ихъ поскоре́е. Когда́ никого́ не́ было въ ко́мнатѣ, онъ не удержа́лся, схвати́лъ одну́ сли́ву и съѣ́лъ. Пе́редъ обѣ́домъ мать сосчита́ла сли́вы и ви́дитъ—одно́й нѣ́тъ. Она́ сказа́ла объ э́томъ отцу́. За обѣ́домъ оте́цъ и говори́тъ: „А что, дѣ́ти, не съѣ́лъ ли кто-нибу́дь изъ васъ одну́ сли́ву?" Всѣ́ сказа́ли: „Нѣ́тъ." Ребёнокъ покрасне́лъ, какъ ракъ, и сказа́лъ то́же: „Нѣ́тъ, я не ѣ́лъ." Тогда́ оте́цъ сказа́лъ: „Если кто-нибу́дь изъ васъ взялъ сли́ву безъ спро́са и съѣ́лъ её, э́то нехорошо́, но не въ э́томъ бѣ́да. Бѣ́да въ томъ, что въ сли́вахъ есть ко́сточки, и е́сли кто не умѣ́етъ ихъ ѣ́сть и прогло́титъ ко́сточку, то черезъ день умрётъ. Я э́того бою́сь." Ребёнокъ поблѣдне́лъ и сказа́лъ: „Нѣ́тъ, я ко́сточку бро́силъ за око́шко." Всѣ́ засмѣ́ялись, а онъ запла́калъ.

25. Учёный скворе́цъ.

У старика́-охо́тника былъ скворе́цъ, кото́раго онъ вы́училъ произноси́ть не́сколько словъ. Къ охо́тнику ча́сто приходи́лъ сынъ сосѣ́да послу́шать интере́сную пти́чку. Осо́бенно нра́вилось ма́льчику, какъ стари́къ, быва́ло, спро́ситъ: „Гдѣ́ ты, сквору́шка?" а скворе́цъ то́тчасъ и кри́кнетъ: „Я—здѣ́сь!"

Одна́жды ма́льчикъ припёлъ, когда́ охо́тника не́ было въ ко́мнатѣ. Ма́льчикъ заду́малъ показа́ть своимъ това́рищамъ ре́дкую пти́цу, схвати́лъ её и прово́рно су́нулъ въ карма́нъ. Въ э́ту са́мую мину́ту въ ко́мнату вошёлъ стари́къ. Онъ ла́сково кивну́лъ ма́льчику головой и, что́бы позаба́вить его́, спроси́лъ: „Сквору́шка, гдѣ́ ты?"—„Я здѣ́сь!" послы́шался глухо́й го́лосъ скворца́ изъ карма́на ма́льчика. Послѣ́ э́того слу́чая ма́льчику уже́ сты́дно бы́ло ходи́ть къ охо́тнику.

26. Строевая ло́шадь.

Въ вое́нное вре́мя останови́лся въ одно́мъ городкѣ́ на коро́ткое вре́мя гуса́рскій полкъ. Воръ подмѣ́тилъ у воро́тъ одного́ до́ма краси́вую ло́шадь, принадлежа́вшую офице́ру, кото́рый былъ тогда́ въ гостя́хъ въ э́томъ до́мѣ; и

угна́лъ её въ лѣсъ. Когда́ гуса́ры вы́ступили изъ го́рода, воръ отпра́вился въ другой го́родъ на я́рмарку, чтобы прода́ть тамъ укра́денную ло́шадь.

Дорогою онъ до́лженъ былъ проѣзжа́ть черезъ оди́нъ го́родъ и, боя́сь показа́ться въ го́родѣ на укра́денной ло́шади, онъ рѣши́лъ объѣхать его́ сторо́ною. Недалеко́ отъ городско́й сте́ны онъ уви́дѣлъ въ по́лѣ эскадро́нъ драгу́нъ. Начина́лось уче́нье. Лишь то́лько разда́лся звукъ трубы́, какъ ло́шадь во́ра перепры́гнула че́резъ ровъ на большу́ю доро́гу, понесла́сь съ доро́ги въ по́ле и, примкну́въ къ драгу́намъ, дѣлала по кома́ндѣ всѣ оборо́ты то ры́сью, то вскачь, съ велича́йшею то́чностію. Солда́ты смѣя́лись надъ испу́ганнымъ конокра́домъ, но ему́ бы́ло не до смѣха: отъ стра́ха кати́лся съ него́ потъ гра́домъ

По оконча́ніи уче́нья, офице́ры и солда́ты окружи́ли во́ра, а нача́льникъ отря́да сказа́лъ ему́: „Э́та ло́шадь офице́рская: она краси́ва и хорошо́ обучена́. Отку́да ты взялъ её?" Воръ смѣша́лся, отвѣча́лъ, что купи́лъ, однако́жъ не могъ сказа́ть—у кого́, и наконе́цъ до́лженъ былъ созна́ться въ воровствѣ

27. Два рабо́тника.

Приходи́лось рабо́тнику носи́ть для постро́йки до́ма ка́мни, ме́жду кото́рыми былъ оди́нъ о́ченъ большо́й. Рабо́тникъ до́лго не рѣша́лся приня́ться за э́тотъ ка́мень и сперва́ взя́лся за ма́ленькіе. Мно́го ихъ перетаска́лъ о́нъ. Но когда́ дошла́ о́чередь до большо́го ка́мня, онъ уже́ чу́вствовалъ себя́ до того́ утомлённымъ, что былъ не въ си́лахъ да́же сдви́нуть его́ съ мѣ́ста.

Друго́й рабо́тникъ, у котораго ме́жду ма́ленькими ка́мнями былъ та́кже оди́нъ большо́й, приня́лся сперва́ за большо́й и, хотя́ съ больши́мъ трудо́мъ, но перетащи́лъ его́. Перено́ска прочихъ каме́ньевъ, по́слѣ большо́го, каза́лась ему́ уже́ не рабо́тою, а почти́ заба́вою. Ко́нчилось тѣ́мъ, что послѣ́дній получи́лъ отъ хозя́ина за свой трудъ благода́рность, а пе́рвый лиши́лся ча́сти усло́вной пла́ты за рабо́ту.

28. Два плу́га.

Изъ одного́ и того́ же куска́ желѣ́за и въ одно́й и той же мастерско́й бы́ли сдѣ́ланы два плу́га. Оди́нъ изъ нихъ попа́лъ въ ру́ки земледѣ́льца и немедле́нно пошёлъ въ рабо́ту, друго́й же до́лго и соверше́нно безполе́зно прова́лялся въ ла́вкѣ купца́. Случи́лось че́резъ нѣ́сколько вре́мени, что о́ба земляка́ опя́ть встрѣ́тились. Плугъ, бы́вшій у земледѣ́льца, блестѣ́лъ, какъ серебро́, и былъ да́же ещё лу́чше, чѣ́мъ въ то вре́мя, когда́ онъ то́лько-что вы́шелъ изъ мастерско́й. Плугъ же, пролежа́вшій безъ дѣ́ла, потемнѣ́лъ и покры́лся ржа́вчиной.

Скажи́, пожа́луйста, отчего́ ты такъ блести́шь?" спроси́лъ заржа́вѣвшій плугъ у своего́ ста́раго знако́мца.—„Отъ труда́, мой ми́лый," отвѣча́лъ тотъ: „а

е́сли ты заржа́вѣлъ и сдѣ́лался ху́же, чѣ́мъ былъ, то э́то потому́, что ты всѣ́ вре́мя пролежа́лъ на боку́, безъ вся́каго дѣ́ла."

29. Дорога́я тра́вка.

Двѣ служа́нки шли въ го́родъ. Ка́ждая изъ нихъ несла́ на голове́ тяжёлую корзи́ну съ плода́ми.

Одна́ всё время ворча́ла и вздыха́ла, друга́я же смѣя́лась и шути́ла. Пе́рвая сказа́ла: „Какъ ты мо́жешь быть тако́ю весёлою? Вѣдь твоя́ корзи́на такъ же тяжела́, какъ моя́, да и ты сама́ не сильне́е меня́!"

—„Я положи́ла въ мою́ корзи́ну," отвѣча́ла та́: „таку́ю тра́вку, кото́рая облегча́етъ вся́кій трудъ."

—„О! э́то, должно́ быть, дорога́я трава́. Я жела́ла бы та́кже облегчи́ть свою́ но́шу. Скажи́ мнѣ, какъ зову́тъ э́ту траву́?"

—„Эта тра́вка — терпе́ніе, кото́раго у тебя́ нѣтъ!" сказа́ла та.

30. Гру́шевое де́рево.

Стари́къ сидѣ́лъ подъ тѣ́нью большо́го гру́шеваго де́рева, кото́рое стоя́ло передъ его́ до́момъ. Его́ внуча́та ѣ́ли гру́ши и не могли́ нахвали́ться сла́дкими плода́ми.

Тогда́ дѣ́душка сказа́лъ: Я разскажу́ вамъ, каки́мъ о́бразомъ э́то де́рево здѣ́сь вы́росло. Тому́ лѣтъ пятьдеся́тъ наза́дъ я стоя́лъ однажды на томъ са́момъ мѣ́стѣ, гдѣ́ тепе́рь ростётъ э́то де́рево, и жа́ловался бога́тому сосѣ́ду на свою́ бѣ́дность. Ахъ, говори́лъ я, я былъ бы соверше́нно довольнъ, е́сли бы могъ прiобрѣсти́ хоть сто рубле́й.

Сосѣдъ сказа́лъ: „Такія де́ньги прiобрѣсти́ не тру́дно, е́сли то́лько ты сумѣ́ешь хорошо́ приня́ться за дѣ́ло. Вотъ, напримѣ́ръ, на томъ мѣ́стѣ, гдѣ́ ты стои́шь, сокры́то въ землѣ́ бо́льше ста рубле́й. Тебѣ́ слѣ́дуетъ то́лько доста́ть ихъ."

Я былъ тогда́ ещё неопытный молодо́й человѣ́къ, и въ слѣ́дующую же ночь на́чалъ рыть въ землѣ́ большу́ю я́му, но, къ сожалѣ́нію, не нашёлъ тамъ ни одного́ рубля́.

На другой день сосѣ́дъ увидѣ́лъ я́му, засмѣя́лся и сказа́лъ: „Я не ду́малъ, что́бы ты былъ такъ глупъ!... Но и этой рабо́той ты ещё мо́жешь воспо́льзоваться. Я подарю́ тебѣ́ молодо́е гру́шевое де́рево; посади́ его́ въ я́му, кото́рую ты вы́рылъ, и черезъ не́сколько лѣтъ бу́дутъ у тебя́ де́ньги."

Я послу́шался до́браго сосѣ́да: посади́лъ молодо́е деревцо́ въ зе́млю; оно́ вы́росло и ста́ло тѣ́мъ прекра́снымъ бо́льшимъ де́ревомъ, какимъ вы его́ тепе́рь ви́дите. Отли́чные плоды, кото́рые оно́ съ тѣ́хъ поръ постоя́нно приноси́тъ, доста́вили мнѣ́ уже́ гора́здо бо́лѣе ста рубле́й и, какъ ви́дите, оно́ ещё довольно кре́пко и мо́жетъ ещё о́чень до́лго прино́сить вку́сные плоды.

31. Старикъ-садовникъ.

Однажды, молодой человѣкъ увидѣлъ, какъ семидесятилѣтній старикъ-садовникъ сѣялъ сѣмена грушъ и яблонь въ ящики, наполненные землёй. „Зачѣмъ ты напрасно трудишься?" сказалъ молодой человѣкъ старику. „вѣдь тебя, вѣроятно, не будетъ уже на свѣтѣ въ то время, когда вырастутъ изъ этихъ сѣмянъ деревья?"—А развѣ ты не знаешь, возразилъ старикъ, что слѣдуетъ трудиться не только для себя, но и для своихъ ближнихъ? Пусть послѣ моей смерти ближніе мои воспользуются моими трудами и помянутъ меня добрымъ словомъ.

32. Бережливость не скупость.

Въ одномъ городѣ два товарища хотѣли оказать помощь бѣдному семейству, но такъ какъ сами они были люди небогатые, то стали обращаться съ просьбою о помощи къ людямъ болѣе достаточнымъ и описывали имъ крайнюю нужду бѣднаго семейства.

Такимъ образомъ они пошли къ одному богатому купцу, отъ котораго надѣялись получить пособіе. Но, войдя къ нему на дворъ, они услышали, какъ купецъ бранилъ своего работника за то, что работникъ забылъ положить въ сарай веревки и оставилъ ихъ на цѣлую ночь подъ дождёмъ. „Развѣ ты не знаешь," говорилъ купецъ: „что веревки гніютъ отъ сырости? Вѣдь онѣ стоятъ денегъ, которыя заработать не такъ легко, какъ ты думаешь?"

„О, этотъ купецъ ничего не дастъ," сказалъ одинъ изъ товарищей: „когда онъ за такую ничтожную вещь такъ сердится и бранится. Пойдёмъ лучше въ другой домъ."—„Можно попробовать," отвѣчалъ другой товарищъ: „пойдёмъ къ нему и скажемъ зачѣмъ пришли." Между тѣмъ купецъ, побранивши своего работника, вѣжливо подошёлъ къ пришёдшимъ и пригласилъ ихъ въ свою комнату.

Узнавъ, зачѣмъ пришли эти добрые люди, купецъ далъ имъ нѣсколько рублей и, сверхъ того, обѣщалъ ещё прислать бѣдному семейству нѣсколько четвертей муки. Такая щедрость удивила просителей, и они не могли не сказать ему о томъ дурномъ мнѣніи, которое они составили о немъ, слыша его брань за такую ничтожную вещь, какъ веревка. „Оттого-то я и могу иногда помогать бѣднымъ," отвѣчалъ купецъ: „что былъ всегда бережливъ; бережливость—не скупость."

33. Равное наслѣдство.

У одного купца было два сына. Старшій былъ любимецъ отца, и отецъ хотѣлъ всё своё имущество оставить ему. Мать жалѣла меньшого сына и просила мужа не объявлять до времени сыновьямъ, какъ ихъ раздѣлять: она

хотѣ́ла какъ-нибу́дь сравня́ть обо́ихъ. Купе́цъ её послу́шалъ и не объявля́лъ своего́ рѣше́нія.

Одна́жды мать сидѣ́ла у окна́ и пла́кала; къ окну́ подошёлъ стра́нникъ и спроси́лъ, о чёмъ она́ пла́четъ.

„Какъ мнѣ не плака́ть?" сказа́ла она: „о́ба сына мнѣ ра́вны, а отецъ хо́четъ одному́ сы́ну всё отда́ть, а друго́му ничего́. Я проси́ла му́жа не объявля́ть своего́ рѣше́нія сыновья́мъ, пока́ я не приду́маю, какъ помо́чь меньшо́му. Но де́негъ у меня́ свои́хъ нѣтъ, и я не зна́ю, какъ помо́чь го́рю."

Стари́къ отвѣча́лъ: „Твоему́ го́рю легко́ помо́чь. Объяви́ сыновья́мъ, что ста́ршему доста́нется всё бога́тство, а меньшо́му ничего́,—и у нихъ бу́детъ по́ровну."

Меньшо́й сынъ, когда́ узна́лъ, что у него́ ничего́ не бу́детъ, приня́лся за рабо́ту и вы́учился мастерства́мъ и нау́камъ, а ста́ршій жилъ при отцѣ́ и ничему́ не учи́лся, потому́ что наде́ялся на отцо́вскія бога́тства.

Когда́ отецъ у́меръ, всё его́ иму́щество перешло́ къ ста́ршему сы́ну. Но и мла́дшій успѣ́лъ уже́ умѣ́ньемъ и трудолю́біемъ соста́вить себѣ́ большо́е состоя́ніе и жилъ не ху́же бра́та.

34. Стра́нникъ.

Въ одно́мъ прекра́сномъ помѣ́стьѣ, отъ кото́раго въ настоя́щее время не оста́лось и сля́да, жилъ бога́тый князь. Онъ тра́тилъ мно́го де́негъ на ве́ликолѣ́пное украше́ніе своего́ до́ма и па́рка, но бѣ́днымъ дѣ́лалъ ма́ло добра́. Разъ забрёлъ въ э́то помѣ́стье стра́нникъ и просилъ ночле́га. Князь отказа́лъ стра́ннику въ его́ про́сьбѣ и съ го́рдостью сказа́лъ: „Здѣ́сь не гости́ница." Тогда́ стра́нникъ сказа́лъ: „Позво́льте мнѣ предложи́ть вамъ то́лько три вопро́са."—„Спра́шивай, ско́лько уго́дно," отвѣ́ча́лъ князь. „На всѣ́ вопро́сы я дамъ тебѣ́ отвѣ́тъ." И стра́нникъ спроси́лъ: „Кто жилъ до васъ въ э́томъ имѣ́ніи?"—„Отецъ мой," отвѣ́тилъ князь.—„А кто жилъ до него́?" продолжа́лъ стра́нникъ.—„До него́ жилъ мой дѣ́дъ."—„А кто бу́детъ жить послѣ́ васъ?" „Надѣ́юсь, что сынъ мой."—„Итакъ, продолжа́лъ стра́нникъ, е́сли ка́ждый живётъ въ э́томъ помѣ́стьѣ то́лько изве́стное вре́мя, а пото́мъ уступа́етъ своё мѣ́сто други́мъ, то кто всѣ́ вы, какъ не го́сти, а домъ вашъ, какъ не дѣйстви́тельно гости́ница? Не тра́тьте же такъ мно́го де́негъ на украше́ніе ва́шего вре́меннаго жили́ща, а лу́чше дѣ́лайте побо́льше добра́ бѣ́днымъ." Кня́зю понра́вилась рѣ́чь стра́нника, онъ далъ ему́ прію́тъ, и съ э́того вре́мени сдѣ́лался весьма́ сострада́тельнымъ къ бѣ́днымъ.

35. Кладъ.

Крестья́нинъ хотѣ́лъ пріучи́ть свои́хъ сынове́й къ труду́. Когда́ онъ сталъ умира́ть, позва́лъ ихъ и сказа́лъ: „Вотъ, дѣ́ти, вамъ въ насле́дство домъ и

по́ле; вскопа́йте по́ле хорошо́нько, тамъ зары́тъ кладъ; потруди́тесь—и тогда́ найдёте его́." Умеръ стари́къ. Дѣти усе́рдно вскопа́ли по́ле, но кла́да не нашли́. Зато́ по́ле дало́ тако́й урожа́й, како́го они́ не ви́дывали. Тогда́ они́ поняли, о како́мъ кла́дѣ говори́лъ оте́цъ.

36. Бога́тство.

Оди́нъ бѣ́дный молодо́й челове́къ встрѣ́тился со свои́мъ пре́жнимъ учи́телемъ и го́рько жа́ловался ему́ на свою́ несча́стную судьбу́. Изъ его́ шко́льныхъ това́рищей мно́гіе сдѣ́лались уже́ бога́чами и людьми́ извѣ́стными. тогда́ какъ онъ во всёмъ терпѣ́лъ нужду́. „Неуже́ли ты въ са́момъ дѣ́лѣ такъ бѣ́денъ, какъ говори́шь?" спроси́лъ его́ учи́тель. „Вѣ́дь ты, ка́жется, вполнѣ́ здоро́въ, и вотъ э́та рука́ сильна́ и спосо́бна къ рабо́тѣ," приба́вилъ учи́тель, указа́въ на пра́вую ру́ку своего́ бы́вшаго ученика́. „Позво́лилъ ли бы ты отрѣ́зать её за ты́сячу рублей?"—„Сохрани́ Бо́же! Да́же за́ десять тысячъ не позво́лилъ бы!" отвѣча́лъ молодо́й челове́къ.—„А за ско́лько о́тдалъ бы ты свои́ зо́ркіе глаза́, кото́рые такъ я́сно ви́дятъ, твой о́стрый слухъ и твои́ крѣ́пкія но́ги? Я ду́маю, что ты не промѣня́лъ бы ихъ ни на какія сокро́вища въ мірѣ?"—Коне́чно, нѣтъ, отвѣча́лъ ю́ноша.—„Какъ же ты жа́луешься на свою́ бѣ́дность. въ то вре́мя, когда́ облада́ешь таки́ми бога́тствами?"

37. Настоя́щій моря́къ.

Оди́нъ купе́цъ вступи́лъ въ разгово́ръ съ капита́номъ корабля́ и спроси́лъ его́ ме́жду про́чимъ, гдѣ у́меръ его́ оте́цъ. „Утону́лъ въ мо́рѣ," отвѣча́лъ капита́нъ.—„А дѣ́душка вашъ?" спроси́лъ купе́цъ. „Тоже утону́лъ, да и прадѣ́дъ мой тоже."—„Какъ же вы не бои́тесь идти́ въ мо́ре?" воскли́кнулъ купе́цъ. Капита́нъ съ удивле́ніемъ посмотрѣ́лъ на купца́ и спросилъ его́: „А вашъ ба́тюшка гдѣ у́меръ?"—„На своей посте́ли," былъ отвѣ́тъ купца. „А дѣ́душка вашъ?"—„Тоже у себя́ на посте́ли, и пра́дѣдъ мой тоже." „Ну, вотъ ви́дите ли," возрази́лъ капита́нъ: „а вѣ́дь вы не бои́тесь ложи́ться въ посте́ль. Такъ и я не боюсь идти́ въ мо́ре. Отъ сме́рти не скро́емся ни на мо́рѣ, ни на су́шѣ."

38. Умный совѣ́тъ.

Одно́ индійское сказа́ніе говори́тъ:

Два сосѣ́да жи́ли ме́жду собо́ю въ большо́й ссо́рѣ. У одного́ изъ нихъ кто-то но́чью на воро́тахъ нарисова́лъ го́лову осла́. Обиженный припёлъ къ судьѣ́ и сталъ жа́ловаться на сосѣ́да. Судья́ спроси́лъ: „Отку́да же ты зна́ешь, что нарисова́лъ твой сосѣ́дъ? Быть мо́жетъ, нарисова́лъ не онъ, а кто-нибу́дь другой. Ты ви́дѣлъ, какъ онъ рисова́лъ?"—„Нѣтъ, не ви́дѣлъ!"—„Другой кто-нибудь ви́дѣлъ?"—„И другіе не ви́дѣли; я спра́шивалъ у всѣ́хъ: никто́

не ви́дѣлъ. —„Такъ на основа́ніи чего́ же ты обвиня́ешь сосѣ́да?"—„Онъ мой врагъ, и я ду́маю, что нарисова́лъ онъ, а не другой кто-нибу́дь."—„Это еще не доказательство. Но скажи́ мнѣ: почему́ ты такъ си́льно обижа́ешься?" —„Обижа́юсь потому́, что я зна́ю: это я нарисо́ванъ."—„Твой сосѣ́дъ или кто́-нибу́дь другой говори́лъ тебѣ́ объ э́томъ?"—„Нѣтъ, никто́ не говори́лъ." —Такъ отку́да же ты зна́ешь, что э́то—ты?" Жа́ловавшійся молча́лъ. Судья́ сказа́лъ: „Уходи́, не кля́узничай, а гла́вное никому́ не говори́, что ты осёлъ; е́сли бу́дешь молча́ть, быть мо́жетъ, други́е не догада́ются объ э́томъ."

39. Банки́ръ и худо́жникъ.

Къ одному́ бога́тому банки́ру одна́жды по дѣ́лу приѣ́лъ знамени́тый худо́жникъ. Банки́ръ былъ челове́къ очень практи́чный, но и о́чень скупо́й: онъ постара́лся воспо́льзоваться визи́томъ худо́жника и, когда́ дѣ́ловой разгово́ръ былъ око́ченъ, онъ обрати́лся къ нему́ съ про́сьбою—нарисова́ть что-нибу́дь въ альбо́мъ. Худо́жникъ согласи́лся, взялъ каранда́шъ и чрезъ 15-20 мину́тъ рису́нокъ былъ гото́въ. Передава́я альбо́мъ банки́ру, худо́жникъ сказа́лъ: „За э́тотъ рису́нокъ вы должны́ заплати́ть мнѣ 100 рубле́й."—„Какъ 100 рубле́й?!" вскрича́лъ отъ удивле́нія скупо́й банки́ръ. „За че́тверть часа́ рабо́ты 100 рубле́й!"—„Да,—хладнокро́вно сказалъ худо́жникъ,—вы пра́вы: я рисова́лъ лишь че́тверть часа; но вы забыва́ете, что для того́, что́бы я могъ въ че́тверть часа нарисова́ть тако́й рису́нокъ, я до́лженъ былъ употреби́ть цѣ́лыхъ 20 лѣ́тъ са́мого уси́леннаго труда́."

40. Дождь.

Оди́нъ купе́цъ ѣ́халъ верхо́мъ съ я́рмарки домо́й. За сѣ́дло́мъ у него́ былъ привя́занъ чемода́нъ съ деньга́ми. Шёлъ си́льный дождь, и купе́цъ промо́къ до косте́й. Добродушный челове́къ негодова́лъ на то, что Богъ далъ ему́ на доро́гу таку́ю худу́ю пого́ду.

Доро́га, по кото́рой купе́цъ ѣ́халъ, проходи́ла черезъ дремучій лѣ́съ. Когда́ онъ въѣ́халъ въ ча́щу лѣ́са, онъ съ у́жасомъ уви́дѣлъ на дорогѣ́ разбо́йника, кото́рый прицѣ́лился въ него́ изъ ружья́ и спусти́лъ курко́къ. Купе́цъ поги́бъ бы непремѣ́нно, но отъ дождя́ по́рохъ въ ружьѣ́ разбо́йника отсырѣ́лъ, и онб не вы́стрѣлило. Купе́цъ подогна́лъ ло́шадь и спа́сся отъ опа́сности.

Когда́ онъ былъ въ безопа́сности, онъ сказа́лъ: „Какъ глупъ я былъ, что проклина́лъ худу́ю пого́ду. Если-бы пого́да была́ я́сная, во́здухъ чи́стый и сухо́й, то меня́ уже не было бы тепе́рь въ живы́хъ, и дѣ́ти мои́ напра́сно ожида́ли бы моего́ возвраще́нія. Дождь, на кото́рый я ропта́лъ, спасъ мнѣ и иму́щество и жизнь."

Такъ-то часто все устра́ивается въ на́шу по́льзу, а мы, не замѣча́я этого, жа́луемся на свою́ судьбу́.

41. Счáстье и богáтство.

Однáжды лю́ди толкова́ли о счáстьѣ: кому́ како́е счáстье суждено́? И почти́ всѣ бѣ́дные завúдовали богáтымъ: они́ утвержда́ли, что счáстье лишь въ богáтствѣ. Одúнъ старúкъ, вы́слушавъ э́ти неразу́мные то́лки, разсказа́лъ слѣ́дующую прúтчу.

Знава́лъ я одного́ богача́: жилъ онъ въ раззоло́ченномъ дворцѣ, носи́лъ дорого́е пла́тье, сла́дко ѣ́лъ и пилъ; ка́ждый день у него́ въ до́мѣ былъ пиръ. Одна́жды къ э́тому богачу́ прiѣ́халъ въ го́сти ста́рый другъ его́; до́лго они́ не вида́лись, а потому́ на ра́дости бога́чъ сдѣ́лалъ пúршество и созва́лъ гостéй. На столѣ́ бы́ли поста́влены золоты́я и серебряныя блю́да, а на блю́дахъ бы́ли дорогiя ку́шанья; въ дорого́й же посу́дѣ пѣ́нились заграни́чныя ви́на.

До́лго сидѣ́ли друзья́ за столо́мъ ѣ́ли, пи́ли, весели́лись; то́лько хозя́инъ почти́ ничего́ не ѣ́лъ и не пилъ, хотя́ ве́село разгова́ривалъ съ гостя́ми. Подъ коне́цъ обѣ́да прiѣ́зжiй гость сказа́лъ богачу́: „Нигдѣ́ я не вида́лъ тако́го бога́тства и тако́й ро́скоши, какъ у тебя́; я ду́маю, что во всёмъ свѣ́тѣ нѣ́тъ челове́ка счастли́вѣе тебя́."

Бога́чъ вздохну́лъ, взялъ съ золото́го блю́да я́блоко и по́далъ его́ другу; я́блоко было румя́но и краси́во на видъ, но когда́ его́ разрѣ́зали, то уви́дѣли внути́ его́ червяка́. Всѣ го́сти съ удивле́нiемъ посмотрѣ́ли на богача́, а бога́чъ промо́лвилъ: „Это я́блоко и я—одно́ и то же; съ ви́ду я счáстливъ, а никому́ не замѣ́тно, что меня́ червя́къ то́читъ. При э́тихъ слова́хъ бога́чъ разстегну́лъ свое́ бога́тое пла́тье, и всѣ уви́дѣли у него́ на груди́ стра́шную, неизлѣ́чи́мую я́зву, кото́рая называ́ется ра́комъ. „Вотъ моё и счáстье!" сказа́лъ бога́чъ. „Что́ мнѣ въ дорогúхъ ку́шаньяхъ?—Не сла́дки они́ для меня́. Что́ мнѣ въ золоты́хъ блю́дахъ?—Ими ра́ну не залѣ́чишь. Что́ мнѣ въ де́ньгахъ?—На ихъ здоро́вья не ку́пишь." —И съ тѣ́хъ поръ переста́ли зави́довать богачу́.

42. Счáстье.

Что такóе счáстье и гдѣ его искáть?

Въ нѣ́которомъ ца́рствѣ, въ нѣ́которомъ госуда́рствѣ, у си́льнаго, могу́чаго и бога́таго царя́ была́ одна́ то́лько дочь. На ту страну́ напа́ло, попущéнiемъ Бо́жiимъ, зло́е моровóе повѣ́трiе, отъ кото́раго ни оди́нъ челове́къ никаки́ми лека́рствами не могъ изба́виться—кто заболѣ́ва́лъ, тотъ и умира́лъ, и отъ кото́раго мно́гое мно́жество наро́да погúбло. И дочь ца́рская заболѣ́ла отъ э́того моровóго повѣ́трiя.

Сталъ царь вызыва́ть со всѣ́хъ концо́въ ца́рства докторо́въ и лекаре́й и обѣща́лъ осы́пать зо́лотомъ того́, кто вы́лечитъ его́ дочь. Одúнъ никому́ неизвѣ́стный старúкъ явúлся къ царю́ и сказа́лъ ему́: „Если хо́чешь, чтобъ дочь твоя́ жива́ была́, то прикажú найтú въ свóёмъ ца́рствѣ довóльнаго и

счастли́ваго челове́ка, кото́рый былъ бы дово́ленъ и счастли́въ свое́й судьбо́й и ничего́ бы бо́лѣе не хотѣ́лъ и не проси́лъ; съ э́того челове́ка сними́ руба́шку и надѣ́нь её на царе́вну, и она́ сейча́съ же вы́здоровѣетъ."

Побѣжа́ли по́сланные во всѣ концы́ ца́рства, изъѣ́здили и исходи́ли всѣ города́, сёла и дере́вни,—но нѣтъ у си́льнаго и могу́чаго царя́ счастли́ваго и дово́льнаго по́даннаго! Кто и былъ бы дово́ленъ судьбо́й, да де́негъ ма́ло: кто и бога́тъ, да хо́чется ему́ быть ещё побога́че; у кого́ семья́ хороша́, да сосѣ́ди не хороши́; кто рабо́ты про́ситъ, кто до́суга; кто почёта хо́четъ, кто бога́тства, кто здоро́вья! Во всёмъ ца́рствѣ нѣтъ ни одного́ челове́ка вполнѣ́ дово́льнаго свое́й судьбо́й!

Царь въ отча́яніи уже́ проща́лся съ до́черью сво́ею, какъ вдру́гъ раздали́сь кри́ки: нашли́, нашли́! Дворе́цъ ца́рскій сра́зу о́жи́лъ; всѣ ра́довались, что царе́вна спасе́на бу́детъ, и всѣ тѣсни́лись и толпи́лись, что́бы ви́дѣть счастли́вца. Гдѣ его́ отыска́ли? Отку́да онъ взя́лся? Кто онъ?—Ни въ каре́тѣ онъ, ни въ шелку́, а пѣ́шій и въ худо́й, оборванной оде́ждѣ.

—Я тебя́ озолочу́, сказа́лъ ему́ ца́рь. Я покупа́ю одну́ то́лько руба́шку твою́; каку́ю хо́чешь цѣ́ну проси́ за неё; что хо́чешь, я заплачу́ тебѣ́!

„Да у меня́ руба́шки нѣтъ," отвѣча́лъ тотъ.

—Какъ нѣтъ? руба́шки нѣтъ? Сними́ съ себя́, отда́й мнѣ послѣ́днюю, я тебя́ за э́то зо́лотомъ засы́плю!

„Да нѣтъ у меня́ руба́шки, нѣтъ ни на мнѣ́, ни со мно́ю! Была́ когда́-то давно́, да вся истлѣ́ла, износи́лась—я её и бро́силъ."

43. Стари́къ и Смерть.

Старикъ нёсъ и́зъ лѣсу тяжёлую вяза́нку дро́въ и едва́ передвига́лъ но́ги отъ сла́бости. Сбро́силъ онъ съ плечъ вяза́нку, присѣ́лъ на пень отдохну́ть, глубо́ко вздохну́лъ и промо́лвилъ: „Охъ, тяжело́ мнѣ! хоть бы смерть пришла́!" Едва́ успѣ́лъ онъ произнести́ э́ти слова́, какъ Смерть яви́лась передъ нимъ. „Я здѣ́сь!" сказа́ла она́. „Зачѣ́мъ ты звалъ меня́?"—Стари́къ оробѣ́лъ и проговори́лъ чуть слы́шнымъ го́лосомъ: „Я звалъ тебя...за тѣ́мъ, что́бы ты помогла́ мнѣ поднять мою́ вяза́нку!"

44. Дѣлёжъ.

Дѣ́душка загляну́лъ изъ са́да въ откры́тое окно́ и произнёсъ: „Вотъ я принёсъ вамъ четы́ре кру́пныя, спѣ́лыя сли́вы, и мнѣ хотѣ́лось бы посмотрѣ́ть, какъ бы вы подѣли́ли ихъ между собо́ю!" Въ ко́мнатѣ всѣхъ бы́ло пя́теро: мать, двое сыновей и двѣ до́чери. Раздѣли́ть четы́ре сли́вы на пятеры́хъ мудрено́. Что тутъ дѣ́лать? Всѣ призаду́мались. Но малю́тка-дѣ́вочка захло́пала въ ладо́ши и закрича́ла: „О чёмъ тутъ ду́мать? Поручи́те мнѣ: я ужъ зна́ю, какъ

раздѣли́ть поровну!"—Какъ же?—„Да такъ: на́до раскла́сть сли́вы таки́мъ о́бразомъ, что́бы вездѣ́ бы́ло по́ три. Два бра́та и одна́ сли́ва—э́то три; я съ сестро́ю и сли́ва—то́же три; мама́па и двѣ сли́вы—то́же три!" Всѣ засмѣ́ялись и согласи́лись съ дѣ́вочкою. Засмѣ́ялся и дѣ́душка. „Ну," сказа́лъ онъ, „такъ и мнѣ слѣ́дуетъ доказа́ть, что я умѣ́ю дѣли́ть не ху́же." Тутъ онъ вы́нулъ изъ карма́на ещё двѣ сливы и приба́вилъ: „Тепе́рь опя́ть вездѣ́ бу́детъ по́-три: двѣ и оди́нъ—три!"

45. Льви́ная до́ля.

Соба́ка, волкъ, левъ и лиси́ца пошли́ вмѣ́стѣ на охо́ту и усло́вились дѣли́ть между собо́ю нало́вленное по́ровну. Лиси́ца пойма́ла оле́ня и зовётъ това́рищей дѣли́ть добы́чу. Пришли́; пришёлъ и левъ. „Ну, друзья́," говори́тъ онъ, „дава́йте же дѣли́ть! Мы вчетверо́мъ"—и онъ раздира́етъ оле́ня на́четверо. „Вотъ э́та часть моя́," продолжа́етъ онъ, „по усло́вію. Вотъ э́та часть то́же моя́ за то́, что я царь звѣре́й. Вотъ э́та часть принадлежи́тъ—то́же мнѣ, потому́ что я сильнѣе всѣхъ. А э́та часть...я разорва́лъ бы то́тчасъ же того́, кто осмѣ́лился бы то́лько протяну́ть ла́пу къ ней!"

46. Дѣ́тскія зада́чи.

1. Говори́тъ братъ сестрѣ́: „Дай мнѣ одно́ я́блоко, и у меня́ бу́детъ я́блокъ вдво́е бо́льше, чѣ́мъ у тебя́!"—„Нѣтъ," говори́тъ сестра; „моё предложе́ніе бу́детъ справедли́вѣе: дай ты мнѣ одно́ я́блоко, и у насъ бу́детъ по́-ровну!" Вопро́съ: ско́лько я́блокъ бы́ло у ка́ждаго изъ дѣте́й?

2. Два пастуха́ возвращались ве́черомъ домо́й, ка́ждый со свои́мъ ма́ленькимъ ста́домъ, встрѣ́тились и ста́ли разгова́ривать. Оди́нъ посмотрѣ́лъ на ове́цъ друго́го и сказа́лъ: „Зна́ешь ли, что́ я предложу́ тебѣ? Отда́й мнѣ одну́ изъ свои́хъ ове́цъ, и моё ста́до бу́детъ ро́вно вдво́е бо́лѣе твоего́." Другой посмотрѣ́лъ на ове́цъ пе́рваго, немно́го поду́малъ и отвѣча́лъ: „Это будетъ несправедли́во; моё предложе́ніе бу́детъ лу́чше: отда́й ты мнѣ одну́ изъ свои́хъ ове́цъ, такъ у насъ бу́детъ по́ровну и никому́ не будетъ зави́дно." Тепе́рь вопро́съ: ско́лько у каждаго бы́ло ове́цъ?

47. Эхо.

Разъ на лугу́ мальчикъ закрича́лъ гро́мко: „Ау́!"—и изъ сосѣ́дней ро́щи кто́-то та́кже отозва́лся ему́: „Ау́!" Удивлённый ма́льчикъ спроси́лъ: „Кто́ тамъ?"—и таи́нственный го́лосъ отвѣча́лъ ему́ тѣ́мъ же вопро́сомъ: „Кто́ тамъ?" Мальчикъ поду́малъ, что кто́-нибу́дь смѣ́ется надъ нимъ, и закрича́лъ: „Сра́зу ви́дно, что ты глупъ!"—„Глупъ!" отвѣ́тилъ ему́ го́лосъ изъ ро́щи. Мальчикъ разсерди́лся и сталъ осыпа́ть своего́ противника бра́нью,—и то́ю же бра́нью отвѣча́лъ ему́ го́лосъ изъ глубины́ ро́щи. Мальчикъ на́чалъ

иска́ть дерзка́го невиди́мку ме́жду-куста́ми и дере́вьями.—и не нашёлъ никого́!

Дома́ онъ сталъ жа́ловаться ма́тери на зло́го мальчи́шку, кото́рый спря́тался въ рощѣ́ за тѣ́мъ, что́бы брани́ться съ нимъ. „Ты ошиба́ешься," сказа́ла ему́ мать: „ты слы́шалъ свои́ со́бственныя слова́, ты слы́шалъ э́хо." Тутъ она́ объясни́ла ему́, что́ тако́е э́хо, и въ заключе́ніе приба́вила: „Если бы ты сказа́лъ что́-нибу́дь любе́зное, то и въ отвѣ́тъ услы́шалъ бы та́кже любе́зность. То́ же са́мое быва́етъ и въ жи́зни: обхожде́ніе други́хъ съ нами есть отраже́ніе на́шего обхожде́нія съ людьми́—никто́ не обхо́дится хорошо́ съ тѣ́ми, кото́рые са́ми не обхо́дятся съ други́ми хорошо́."

48. Дѣ́душка и вну́чекъ.

Си́льно одряхлѣ́лъ дѣ́душка. Пло́хо онъ ви́дѣлъ, пло́хо слы́шалъ; ру́ки и но́ги у него́ дрожа́ли отъ ста́рости: несётъ ло́жку ко рту и супъ пролива́етъ. Не понра́вилось э́то сы́ну его́ и невѣ́сткѣ; переста́ли они́ отца́ съ собо́ю за столъ сажа́ть; ста́ли корми́ть его́ отдѣ́льно изъ гли́няной ча́шки. Задрожа́ли одна́жды ру́ки у старика́, ча́шка упа́ла и разби́лась. Бо́льше пре́жняго разсерди́лись сынъ и невѣ́стка, и ста́ли корми́ть отца́ изъ ста́рой деревя́нной ча́шки.

У сы́на старика́ былъ свои́ ма́ленькій сынбкъ. Одна́жды отецъ съ матерью уви́дѣли, какъ ихъ ребёнокъ на полу́ скла́дываетъ что-то изъ доще́чекъ. „Что ты дѣ́лаешь?" спроси́лъ у него́ оте́цъ.—„Коробочку, отвѣ́тилъ ма́льчикъ. „Вотъ когда́ ты съ ма́мой состаре́тесь, я и бу́ду васъ изъ э́той коробочки корми́ть, какъ вы тепе́рь кормите дѣ́душку изъ деревя́нной ча́шки." Посмотре́ли другъ на друга оте́цъ съ ма́терью и покрасне́ли. Переста́ли они́ съ тѣ́хъ поръ старика́-отца́ отдѣ́льно сажа́ть и изъ деревя́нной ча́шки корми́ть.

49. По́йманная пти́чка.

Дѣ́ти поима́ли пти́чку. „Отпусти́те меня́!" говори́тъ имъ пти́чка: „на что́ я вамъ?"—Нѣтъ, отвѣ́ча́ютъ дѣ́ти, ты бу́дешь жить съ на́ми; мы бу́демъ корми́ть тебя́ конфе́ктами и пои́ть сла́дкимъ ча́емъ.—„Я не люблю́ конфе́ктъ и не пью ча́я," говори́тъ пти́чка: „я ловлю́ въ по́лѣ мо́шекъ и собира́ю зёрнышки."—„Но чѣ́мъ же бу́дешь ты пита́ться зимо́ю, когда́ не бу́детъ ни мо́шекъ, ни зёренъ?" возража́ютъ опя́ть дѣ́ти. „Вѣ́дь ты мо́жешь тогда́ замёрзнуть, а у насъ жила́ бы ты въ золото́й клѣ́точкѣ!"—„О, не бо́йтесь," отвѣ́ча́етъ пти́чка: „на́ зиму улета́ю я въ тёплые края́, гдѣ́ всегда́ есть и мо́шки и зёрна и гдѣ́ нѣ́тъ сне́га и не быва́етъ моро́зовъ. Тамъ бу́ду я порха́ть на во́лѣ, у васъ же я должна́ бу́ду жить въ заключе́ніи; а въ неволѣ́ да́же и рай ка́жется тюрьмо́ю." Дѣ́ти бы́ли добры́ и разсу́дительны. „Пра́вду говори́шь ты, пти́чка!" сказа́ли они́. „Неволя́ бу́детъ невыноси́ма для тебя́; такъ Богъ съ тобо́ю, лети́ и наслажда́йся свобо́дою!" И пти́чка была́ вы́пущена.

50 Хи́трость слѣпо́го.

У слѣпо́го бы́ло 500 рубле́й. Держа́ть ихъ у себя́ до́ма онъ опаса́лся, и потому́ зары́лъ ихъ въ своёмъ саду́ подъ то́лстымъ де́ревомъ, кото́рое бы́ло ему́ хорошо́ знако́мо, та́къ-что онъ безъ труда́ находи́лъ его́ о́щупью. Зави́стливый сосѣ́дъ приме́тилъ, какъ слѣпо́й зарыва́лъ свое́ бога́тство, и въ ту же ночь пробра́лся въ садъ и вы́рылъ его́. Утромъ пошёлъ слѣпо́й къ знако́мому де́реву и—о у́жасъ!—де́негъ подъ нимъ не́ было! Кто мо́гъ бы укра́сть ихъ? Подозрѣ́ніе па́ло на сосѣ́да.

Слѣпо́й не сказа́лъ никому́ ни сло́ва о своей пропа́жѣ и пошёлъ къ сосѣ́ду. Въ бесѣ́дѣ съ нимъ онъ ме́жду про́чимъ, какъ бы случа́йно, упомяну́лъ о свои́хъ де́ньгахъ. „У меня́," сказа́лъ онъ: „есть нали́чными 1500 рубле́й; 500 изъ нихъ я спря́талъ туда́, гдѣ уже́ никому́ не отыска́ть ихъ: мѣ́сто извѣ́стно то́лько одному́ мнѣ; да и остальну́ю ты́сячу ду́маю отнести́ сего́дня ве́черомъ и положи́ть туда́ же,—а то́ въ до́мѣ у меня́ держа́ть де́ньги опа́сно: у́лица на́ша глуха́я, ста́вни ни́зкія—мо́гутъ и во́ры залѣ́зть!" Сосѣ́дъ вполнѣ́ одо́брилъ намѣре́ніе слѣпо́го. „Посто́й!" поду́малъ онъ: „не ху́до получи́ть съ тебя́ и остальну́ю ты́сячу!" То́тчасъ, по ухо́дѣ слѣпо́го, побѣжа́лъ онъ въ его́ садъ и положи́лъ пятьсо́тъ рубле́й на пре́жнее мѣ́сто. Таки́мъ о́бразомъ дога́дливый слѣпо́й вскорѣ́ опя́ть нашёлъ свои́ де́ньги.

51. Добросо́вѣстная стару́шка.

Ѣха́лъ крестья́нинъ по большо́й доро́гѣ, увида́лъ стару́шку съ тяжёлою но́шею за плеча́ми и пригласи́лъ её сѣ́сть къ нему́ въ теле́гу. Стару́шка приняла́ предложе́ніе съ благода́рностью. Прое́хали они́ съ полверсты́, и крестья́нинъ замѣ́тилъ, что стару́шка всё еще держа́ла но́шу свою́ за плеча́ми. „Отчего́ бы тебѣ́, ба́бушка, не поста́вить корзи́ну свою́ въ теле́гу?" спроси́лъ онъ её.—"Ахъ роди́мый!" отвѣча́ла стару́шка: "я уже́ довольна и тѣ́мъ, что сама́ сижу́ въ теле́гѣ; къ чему́ же бу́ду я обременя́ть ло́шадь ещё ли́шнею покла́жею?

52. Дога́дливый посѣти́тель.

Въ холо́дный зи́мній ве́черъ вошёлъ прое́зжій въ гости́нницу. Онъ продро́гъ и жела́лъ согре́ться, но всѣ мѣ́ста́ передъ ками́номъ были уже́ за́няты други́ми посѣти́телями: они́ давно́ уже́ сидѣ́ли и гре́лись. Что́ тутъ дѣ́лать?—„Эй, ма́льчикъ!" закрича́лъ новопріѣ́зжій гро́мко слугѣ́: „отнеси́ моей ло́шади дю́жину у́стрицъ!" Слуга́ то́тчасъ повинова́лся приказа́нію и понёсъ у́стрицъ на дворъ. Любопы́тные го́сти оди́нъ за други́мъ поднялись со свои́хъ мѣ́стъ и пошли́ посмотре́ть, какъ ло́шадь бу́детъ ѣ́сть устрицъ. Ме́жду тѣ́мъ новопріѣ́зжій вы́бралъ себѣ́ пе́редъ ками́номъ лу́чшее мѣ́сто и преспокойно

усѣлся на нёмъ Скóро слугá возвратúлся назáдъ съ ýстрицами и говорúтъ: „Вáша лóшадь ..я давáлъ ей, но онá не ѣстъ ýстрицъ.“—„А, не ѣстъ? ну, такъ подáй ихъ сюдá: въ такóмъ слýчаѣ я ужъ самъ ихъ съѣмъ!“

53. Отвѣтъ любопытнымъ.

Въ одúнъ іюльскій жáркій день проѣзжій зашёлъ въ гостúнницу. Тóтчасъ окружúла егó толпá любопытныхъ. „Откýда вы? кудá вы? черезъ какíя мѣстá проѣзжáли вы? дóрого ли обошлáсь вамъ поѣздка?“ Слóвомъ, вопрóсы, котóрыми былъ засы́панъ проѣзжій, не давáли емý опóмниться. Осóбенно желáлось любопытнымъ узнáть, что нóваго въ столúцѣ. „Да нóвое вóтъ-что,“ отвѣчáлъ проѣзжій: „человѣкъ дéсять посáжено въ тюрьмý за то, что на-днáхъ онú сушúли въ пéчкѣ снѣгъ и продавáли егó бѣднымъ лю́дямъ вмѣсто сóли!“

54. Сообразúтельный ученúкъ.

„Тепéрь я знáю, отъ чегó лѣтомъ дни такíе дóлгіе, а зимóй—корóткіе,“ сказáлъ ученúкъ своемý учúтелю во врéмя урóка фúзики.—Отъ чего?—„Да вѣдь вы сáми говорúли сейчасъ, что всѣ тѣлá отъ жáра расширя́ются, а отъ хóлода сжимáются.“

55. Невозмóжное дѣло.

На афúшѣ бы́ло сказáно, что новопріѣзжій фóкусникъ бýдетъ, мéжду прóчимъ, въ присýтствіи пýблики влѣзáть въ буты́лку. Зрúтелей собрáлось мнóжество. Въ концѣ представлéнія появúлась на сценѣ обыкновéнная буты́лка. Фóкусникъ пытáлся влѣзть въ неё и головóй и ногáми. „Нѣтъ!“ сказáлъ онъ наконéцъ: „невозмóжное дѣло!“—Нó вѣдь вы объявля́ли...—„Я объявля́лъ, что „бýду влѣзáть,“ но не говорúлъ, что „влѣзу.“

56. Умный отвѣтъ.

Однáжды священнúкъ встрѣтилъ мáльчика и сказáлъ емý: „Я дамъ тебѣ я́блоко, éсли ты мнѣ скáжешь, гдѣ—Богъ.“—„А я дамъ вамъ два я́блока,“ сра́зу отвѣтилъ мáльчикъ: „если вы мнѣ скáжете, гдѣ нѣтъ Бóга.“

57. Отвѣтъ Θалéса.

Кто-то спросúлъ грéческаго мудрецá Θалéса: „Что всегó лéгче и что всегó трудне́е?“—„Легче всегó—осуждáть другúхъ, а трудне́е всегó—вúдѣть свой недостáтки,“ отвѣчáлъ Θалéсъ.

58. Удáчный отвѣтъ.

Къ калúфу Мустáльди былъ приведéнъ плѣнный полковóдецъ. „Какóй ýчасти тепéрь ты ожидáешь себѣ?“ спросúлъ егó калúфъ. Плѣнникъ

отвѣча́лъ: "Если ты воюёшь по-разбо́йничьи, то, коне́чно, ты убьёшь меня́; е́сли ведёшь войну́ по-купе́чески, то прода́шь меня́; е́сли же ты ведёшь войну́ по-ца́рски, то, коне́чно, отпу́стишь меня́!" И кали́фъ отпусти́лъ его́.

59. Презрѣніе оби́ды.

Импера́тора Юліа́на угова́ривали наказа́ть люде́й, изурбдовавшихъ лицо́ его́ ста́туи. Импера́торъ, улыба́ясь, провёлъ руко́ю по лицу́ и сказалъ: „Я не чу́вствую себя́ ра́неным'ъ."

60. Титъ.

Импера́торъ Титъ счита́лъ свои́мъ до́лгомъ ока́зывать лю́дямъ добро́. Одна́жды, си́дя съ свои́ми друзья́ми за у́жиномъ, онъ вспо́мнилъ, что въ тотъ день онъ никому́ не оказа́лъ благодѣя́нія. „Ахъ, друзья́ мои́," сказа́лъ онъ со вздо́хомъ: „э́тотъ день для меня́ потеря́нъ!"

61. Вку́сная вода́.

Да́рій, царь перси́дскій, спаса́лся бѣ́гствомъ отъ преслѣ́дованія свои́хъ непрія́телей. Стоя́ла жа́ркая пого́да и ужа́сная жа́жда му́чила царя́. Воды́ нигдѣ́ нельзя́ бы́ло доста́ть. Круго́мъ, на далёкое разстоя́ніе, разстила́лась песча́ная, безво́дная степь. Наконе́цъ, оди́нъ изъ во́иновъ отыска́лъ немно́го му́тной, вонючей воды́ и принёсъ её Да́рію. Да́рій съ жа́дностію напи́лся э́той воды́ и сказа́лъ: „Тако́й вку́сной воды́ я ещё никогда́ не пилъ!"

62. Перси́дскій врачъ.

Перси́дскій царь присла́лъ къ кали́фу Муста́фа врача́, кото́рый сла́вился свои́мъ иску́ствомъ на всёмъ Восто́кѣ. Врачъ пріѣ́халъ ко двору́ но́ваго властителя и сталъ распра́шивать, каку́ю тамъ веду́тъ жи́знь.—„Обыкновенную," отвѣча́лъ ему́ оди́нъ изъ приближённыхъ кали́фа: „встаёмъ мы до восхо́да со́лнца; ложи́мся съ захо́домъ его́; день прово́димъ въ труда́хъ и занятіяхъ; мы ѣ́димъ, когда́ голо́дны, и притомъ́ лишь сто́лько, сколько ну́жно для удовлетворе́нія го́лода." „Пра́во?" прерва́лъ его́ врачъ: „Такъ прощайте; мнѣ здѣ́сь дѣ́лать не́чего. Лю́ди, кото́рые веду́тъ тако́й образъ жи́зни, быва́ютъ всегда́ здоро́вы."

63. Эзо́пъ и пу́тникъ.

Гре́ческій баснопи́сецъ Эзо́пъ встрѣ́тился въ по́лѣ съ уста́лымъ пу́тникомъ, кото́рый спроси́лъ его́, до́лго ли ещё идти́ ему́ до ближа́йшей дере́вни.—„Иди́," сказа́лъ ему́ Эзо́пъ.—"Это я и самъ зна́ю," возрази́лъ пу́тникъ: "но до́лго ли ещё идти́-то мнѣ?"—„Иди́," былъ опя́ть коро́ткій отвѣ́тъ.—"По всей

вѣроятности, э́то или сумасше́дшій или дура́къ," поду́малъ пу́тникъ и пошёлъ своéю доро́гою. Когда́ онъ сдѣ́лалъ нѣ́сколько шаго́въ, Езо́пъ закричалъ ему́ вслѣ́дъ: „Ты дойдёшь туда́ въ два часа́." Пу́тникъ оборотился въ удивле́ніи и спроси́лъ Езо́па, отчего́ онъ не отвѣ́тилъ на вопро́съ его́ съ пе́рваго же ра́за.—„А каки́мъ же о́бразомъ я могъ знать, ско́ро ли ты дойдёшь," вскрича́лъ баснопи́сецъ: „пока́ не увида́лъ я, какъ ты хо́дишь?"

64. Оши́бка.

Извѣ́стный арти́стъ Макси́мовъ, вско́рѣ по вы́ходѣ своёмъ изъ театра́льнаго учи́лища, зашёлъ одна́жды въ буфе́тъ Александри́нскаго теа́тра, усѣ́лся въ кури́льной ко́мнатѣ на дива́нъ и взялъ тру́бку, но не могъ закури́ть её, такъ какъ у него не́ было съ собо́ю спи́чекъ.

Вдругъ дверь отвори́лась, и въ ко́мнату вошёлъ мужчи́на пожило́й и весьма́ скро́мно одѣ́тый. Макси́мовъ при́нялъ его́ за служи́теля при буфе́тѣ и сказа́лъ, обраща́ясь къ нему́: „Послу́шай! пода́й огня́."—„Сейча́съ," отвѣ́тилъ тотъ и, вы́йдя изъ ко́мнаты, черезъ мину́ту возврати́лся съ коро́бкою спи́чекъ; вы́нулъ одну́, зажёгъ, подалъ огонь Макси́мову и держа́лъ передъ нимъ спичку, пока́ тотъ раску́ривалъ свою тру́бку.

Послѣ э́того, бро́сивъ спичку на полъ, пожило́й мужчи́на опусти́лся на дива́нъ во́злѣ Макси́мова и хладнокро́вно сказа́лъ ему́: „Послу́шай! пода́й мнѣ стака́нъ воды́!"

Макси́мовъ то́тчасъ по́нялъ свою́ оши́бку, поспѣшно вскочи́лъ, побѣжа́лъ въ буфе́тъ и черезъ нѣ́сколько секу́ндъ стоялъ уже́ передъ незнако́мцемъ, держа́ стака́нъ воды́ на подно́сѣ.

Незнако́мецъ вы́пилъ во́ду, сказа́лъ „спаси́бо" и, немно́го помолча́въ, приба́вилъ: „Та́къ-какъ вы то́лько еще начина́ете жить и знако́миться съ людьми, то я дамъ вамъ поле́зный совѣ́тъ. Зна́йте, что основно́е и непремѣ́нное пра́вило общежи́тія есть делика́тность! Кто жела́етъ быть досто́йнымъ уваже́нія, тотъ до́лженъ самъ уважа́ть другихъ и и́менно...уважа́ть ли́чность человѣ́ка, а не пла́тье! Отъ несоблюде́нія э́того пра́вила выхо́дятъ иногда́ весьма́ дурны́я послѣдствія. Очень жаль, что вамъ въ учи́лищѣ не внуша́ютъ э́того...Я васъ зна́ю: вы актёръ Макси́мовъ; а мнѣ позво́льте отрекомендова́ться—я мини́стръ наро́днаго просвѣще́нія графъ Завадо́вскій."

Съ э́тими слова́ми почте́нный вельмо́жа всталъ, по́далъ сконфу́женному Макси́мову ру́ку и бы́стро удали́лся изъ ко́мнаты.

65. Разочарованіе.

Знамени́тый ру́сскій баснопи́сецъ Крыло́въ былъ продолжи́тельное вре́мя библіоте́каремъ въ петербу́ргксой публи́чной библіоте́кѣ. Въ зда́ніи э́той

библіотеки онъ занималъ и казённую квартиру Разъ, когда Крыловъ возвращался домой, онъ вспомнилъ, что ему надо купить почтовой бумаги. Онъ зашёлъ въ лавку, которая находилась противъ публичной библіотеки, выбралъ себѣ нѣсколько бумаги и только-что хотѣлъ за неё заплатить, какъ замѣтилъ, что денегъ, по разсѣянности, онъ не взялъ съ собою. Какъ лицо извѣстное не только въ Петербургѣ, но и во всей Россіи, Крыловъ сказалъ съ самоувѣренностью купцу: „Я живу вотъ здѣсь, противъ вашей лавки; пришлите ко мнѣ за деньгами, или же я зайду къ вамъ въ другой разъ и занесу деньги. Вы меня знаете: я Крыловъ!"—„Помилуйте," отвѣчалъ купецъ: „мало ли Крыловыхъ на свѣтѣ? Мы васъ не знаемъ и въ долгъ никому не даёмъ!" Затѣмъ онъ взялъ изъ рукъ Крылова бумагу и положилъ её обратно на прежнее мѣсто.

66. Находчивость.

Одинъ молодой человѣкъ просилъ Фридриха, короля прусскаго, принять его на государственную службу. Король спросилъ у него, гдѣ онъ родился. „Я родился въ Берлинѣ," отвѣчалъ тотъ. „Уходите, мѣста я вамъ не дамъ," сказалъ король: „всѣ берлинцы никуда не годятся,"—„Прошу извиненія у вашего величества," возразилъ молодой человѣкъ: „между берлинцами есть всякіе люди: есть дурные, но есть и хорошіе; во-всякомъ случаѣ за двухъ я смѣло могу поручиться"—„Кто эти два?"—„Первый—это ваше величество, а второй—это я." При этомъ отвѣтѣ корболь не могъ удержаться отъ смѣха. Онъ приказалъ принять находчиваго молодого человѣка на службу.

67. Наблюдательность.

Индѣецъ Сѣверной Америки, возвратившись въ свою хижину, открылъ, что окорокъ вядчины, который онъ повѣсилъ на деревѣ просушить, былъ украденъ. Осмотрѣвъ внимательно мѣстность, индѣецъ отправился преслѣдовать вора и спрашивалъ у каждаго, кто встрѣчался ему: не видалъ ли онъ стараго, бѣлаго человѣка, небольшого роста, съ короткимъ ружьёмъ и небольшою собакою, у которой очень длинный и мохнатый хвостъ? Многіе отвѣчали ему, что, дѣйствительно, встрѣчали, но въ то же время съ удивленіемъ спрашивали, какъ онъ могъ дѣлать такое подробное описаніе человѣка, котораго никогда не видалъ. „Что воръ небольшого роста, гораздо ниже меня," отвѣчалъ индѣецъ: „это я заключилъ изъ того, что онъ долженъ былъ подложить камни, чтобы снять окорокъ, который я повѣсилъ, стоя на землѣ; что онъ старикъ—это я знаю по его короткимъ шагамъ, слѣды которыхъ остались на упавшихъ листьяхъ около дерева и на пескѣ; что онъ бѣлый—я знаю потому, что онъ, какъ это видно по его слѣдамъ, соединяетъ свои пятки, чего никогда не дѣлаетъ индѣецъ. Ружьё его коротко; это я вижу изъ того, что, поставивъ его у

дерева, онъ сдёрнулъ немного кору. Собака его не велика—это видно по ея слѣдамъ; а что у нея пушистый хвостъ—это я заключаю по знаку, который она оставила на пескѣ, гдѣ она сидѣла и виляла хвостомъ, пока хозяинъ ей кралъ мою вядчину."

68. Необыкновенная сила.

Августъ II, король польскій, отличался необыкновенною силою. Однажды, во время прогулки верхомъ, лошадь его потеряла подкову, и онъ заѣхалъ въ ближнюю деревню къ кузнецу. Когда кузнецъ принёсъ подкову, чтобы подковать лошадь, король захотѣлъ прежде испробовать, крѣпко ли она сдѣлана. Онъ взялъ её обѣими руками и переломилъ, какъ морковь. „Эта подкова никуда не годится," сказалъ онъ кузнецу. Кузнецъ принёсъ ещё нѣсколько другихъ подковъ, но король переломилъ ихъ всѣ одну за другою. Кузнецъ призадумался, а товарищи его съ изумленіемъ поглядывали другъ на друга. Онъ принёсъ ещё подковъ. Наконецъ король сдѣлалъ видъ, что нашёлъ одну подкову, которая была довольно крѣпка. Лошадь была подкована. Когда кузнецъ окончилъ своё дѣло, король далъ ему серебряную монету, но кузнецъ, взявши её, согнулъ между пальцами. „Эта монета никуда не годится, ваше величество," сказалъ кузнецъ: „она гнётся между пальцами." Король подавалъ ему подрядъ ещё нѣсколько серебряныхъ монетъ, но кузнецъ сгибалъ ихъ одну за другою. „Такъ вотъ тебѣ золотой," сказалъ наконецъ король; „этотъ ужъ, вѣроятно, будетъ хорошъ." Кузнецъ остался доволенъ королёмъ, а король радовался, что нашёлъ человѣка, равнаго себѣ по силѣ.

69. Діогенъ и Александръ Македонскій.

Въ глубокой древности въ Греціи жилъ одинъ мудрецъ, по имени Діогенъ, который училъ, что человѣкъ тѣмъ счастливѣе, чѣмъ менѣе у него потребностей. Чтобы доказать своимъ согражданамъ на дѣлѣ, какъ мало человѣку нужно, онъ жилъ не въ домѣ, а въ бочкѣ, ходилъ почти безъ одежды, питался одними кореньями и плодами и пилъ одну воду, которую зачерпывалъ рукою. Люди пріѣзжали издалека, чтобы посмотрѣть на этого чудака, и удивлялись его образу жизни. Между прочимъ его удостоилъ своимъ посѣщеніемъ и, могущественнѣйшій изъ царей того времени, Александръ Македонскій. Когда онъ прибылъ со своею свитою, Діогенъ лежалъ передъ своей бочкой и грѣлся на солнцѣ. Александръ съ любопытствомъ подошёлъ къ нему и, видя его бѣдную обстановку, а быть-можетъ и желая испытать его, сказалъ: „Діогенъ, проси, чего хочешь; я исполню твою просьбу."—„Мнѣ ничего не нужно, отвѣчалъ мудрецъ, а если ты желаешь сдѣлать мнѣ одолженіе, то отойди немного въ сторону и не заслоняй мнѣ солнца, чтобы я могъ грѣться." Царь изумился такому отвѣту и воскликнулъ: „Право, еслибъ я

не былъ Алекса́ндръ, то я жела́лъ бы быть Діоге́номъ." Зна́читъ, властели́нъ полувселе́нной счита́лъ Діоге́на счастли́вѣйшимъ по́слѣ себя́ челове́комъ, такъ какъ гото́въ былъ, въ изве́стномъ слу́чаѣ, помѣня́ться съ нимъ свои́мъ положе́ніемъ. Не смотря́ на э́то, ни тогда́ ни по́слѣ не нашло́сь охо́тниковъ подража́ть э́тому счастли́вцу.

70. Бре́мя.

Кали́фу Хака́му, люби́вшему ро́скошь, захоте́лось расши́рить сады́ своего́ дворца́. Онъ скупи́лъ всѣ сосѣ́днія зе́мли и заплати́лъ владѣ́льцамъ ихъ сто́лько, ско́лько они́ потре́бовали. То́лько одна́ бѣ́дная вдова́ ни за какія де́ньги не хотѣла уступи́ть своей земли́ изъ уваже́нія къ па́мяти о свои́хъ пре́дкахъ, кото́рые жи́ли и умерли́ на э́той землѣ́: она счита́ла грѣхо́мъ продава́ть завѣщанное. Смотри́тель же кня́жескихъ зда́ній счита́лъ э́то упря́мствомъ съ ея стороны́, и си́лою о́тнялъ у ней зе́млю. Бѣ́дная же́нщина въ слеза́хъ яви́лась къ верхо́вному судьѣ́. Судьёй въ то вре́мя былъ Беши́ръ, челове́къ весьма́ справедли́вый. Онъ вы́слушалъ жа́лобу вдовы́ и нашёлъ, что дѣло э́то щекотли́вое, да́же не безопа́сное: хотя́ по зако́ну вдова́ была права́, но при всёмъ томъ не легко́ бы́ло побу́дить къ добровольному исполне́нію зако́на кня́зя, привы́кшаго счита́ть зако́номъ свои́ жела́нія. Что же сдѣ́лалъ судья́? Онъ осѣдла́лъ своего́ осла́ и, повѣ́сивъ ему́ на ше́ю большо́й мѣ́шо́къ, поѣхалъ къ сада́мъ дворца́ въ то са́мое вре́мя, когда́ кали́фъ осма́тривалъ зда́нія построенныя на землѣ́ вдовы́. Пріѣ́здъ судьи́ на ослѣ́ съ огро́мнымъ мѣ́шко́мъ удиви́лъ кали́фа. Ещё бо́лѣе удиви́лся онъ, когда́ Беши́ръ бро́сился ему въ но́ги и сказа́лъ: „Повели́тель, позво́ль мнѣ напо́лнить э́тотъ мѣ́шо́къ землёю съ э́того мѣ́ста." Кали́фъ позво́лилъ. Когда́ мѣ́шо́къ былъ напо́лненъ, Беши́ръ сно́ва подошёлъ къ кали́фу и сталъ проси́ть, чтобы кали́фъ помо́гъ ему́ взвали́ть мѣ́шо́къ на осла́. Жела́ніе э́то показа́лось кня́зю ещё страннѣ́е; одна́ко, желая́ ви́дѣть, что́ со́бственно затѣ́лъ э́тотъ челове́къ, онъ взя́лся за мѣ́шо́къ, что́бы подня́ть его. Но онъ не могъ да́же сдви́нуть его́ съ мѣ́ста, и сказа́лъ: „Бре́мя сли́шкомъ тяжёлое: намъ его́ не подня́ть." — „Повели́тель," сказа́лъ тогда́ смѣ́лый судья́, „мѣ́шо́къ э́тотъ ка́жется тебѣ́ о́чень тяжёлымъ, а онъ вѣ́дь содержитъ то́лько ма́лую часть той земли́, кото́рую ты о́тнялъ у бѣ́дной вдовы́. Какъ же ты бу́дешь нести́ всю похи́щенную тобо́ю зе́млю, когда́ Суді́я вселе́нной въ вели́кій день о́бщаго суда́ возло́житъ её на твои́ пле́чи?.."

Кали́фъ былъ пораженъ; онъ похвали́лъ судью́ за смѣ́лость и умъ и возврати́лъ вдовѣ́ ея зе́млю со всѣ́ми возве́денными на ней зда́ніями.

71. Обма́нъ за обма́нъ.

Одна́жды ювелиръ прода́лъ Сало́никѣ, женѣ́ ри́мскаго импера́тора Галліе́на,

цвѣтны́я стёкла вмѣсто драгоцѣ́нныхъ ка́мней. Сало́ника замѣ́тила подло́гъ, прибѣжа́ла къ своему́ му́жу и ста́ла проси́ть его, что́бы онъ отомсти́лъ за оскорбле́ніе. „Итожъ," отвѣча́лъ Галліе́нъ, „э́то о́ченъ легко́: мнѣ присла́ли изъ Африки льва, я пока́зываю его́ за́втра въ ци́ркѣ наро́ду, онъ бу́детъ го́лоденъ" ..„Онъ бу́детъ го́лоденъ?" переби́ла трепе́щущая Сало́ника, обраща́я на му́жа вопроси́тельный взглядъ „Дово́льно," прерва́лъ её Галліе́нъ и, призва́въ слугу́, о́тдалъ ему́ та́йное приказа́ніе.

На сле́дующій день, въ означенный часъ, въ ци́ркѣ бы́ло тѣ́сно отъ зри́телей. Въ кле́ткахъ раздава́лось рыка́ніе африка́нскаго льва. Въ толпѣ́, трепета́вшей отъ ожида́нія люби́маго зрѣ́лища, разска́зывали, что льву бу́детъ бро́шенъ на съѣде́ніе ювели́ръ, осмѣ́лившійся обману́ть императри́цу. Гро́мкій звукъ трубы́ ско́ро прекрати́лъ го́воръ. Дверь одно́й изъ кле́токъ отвори́лась; изъ нея́ вы́вели блѣ́днаго, какъ смерть, человѣ́ка, простира́вшаго ру́ки къ ло́жѣ Галліе́на...Рыка́нія льва уси́ливались, несча́стный ювели́ръ упа́лъ на колѣ́ни, склони́лъ го́лову на грудь и закры́лъ лицо́ рука́ми. Наступи́ло тяжёлое мгновре́ніе...Отвори́ли дверь другу́й кле́тки и—изъ нея́ вы́бѣжалъ ягнёнокъ! Смѣхъ толпы́ возврати́лъ несча́стному наде́жду: онъ откры́лъ глаза́, грудь его облегчи́лась вздо́хомъ, онъ о́жилъ. Стра́жа объяви́ла зри́телямъ, что, по приказа́нію импера́тора, обма́нщикъ былъ нака́занъ обма́номъ. Сало́ника протяну́ла своему́ му́жу ру́ку, благодаря́ его́ за доброту́ и уро́къ для други́хъ.

72. Нача́льникъ и оте́цъ.

Къ сраже́ніи подъ Аусте́рлицемъ былъ уби́тъ зять главнокома́ндующаго Куту́зова, мужъ еди́нственной его́ до́чери, прекра́сный молодо́й челове́къ. Онъ былъ о́чень храбръ и стреми́лся въ са́мыя опа́сныя мѣста́; пу́ля проби́ла ему́ грудь, и онъ мёртвымъ упа́лъ съ ло́шади. Объ э́томъ неме́дленно доложи́ли главнокома́ндующему, но онъ, къ удивле́нію всѣ́хъ, съ большо́мъ равноду́шіемъ вы́слушалъ э́то го́рестное изве́стіе. Каза́лось, онъ былъ соверше́нно покоенъ: съ необыкнове́ннымъ хладнокро́віемъ въ продолже́ніе всего́ сраже́нія онъ отдава́лъ приказа́нія. Но на друго́й день приближённые заста́ли его́ въ невырази́мой го́рести: слёзы текли́ у него́ ручья́ми, и онъ, какъ ребёнокъ, рыда́лъ надъ тру́помъ еди́нственнаго своего́ сы́на. Изъ жела́нія успоко́ить его́ не́которые изъ приближённыхъ рѣши́лись сказа́ть, что они́ не ожида́ли уви́дѣть его́ въ тако́мъ отча́яніи по́слѣ того великоду́шія, съ кото́рымъ приня́лъ онъ вчера́ изве́стіе о сме́рти сы́на. „Вчера́ отвѣча́лъ Куту́зовъ, я былъ нача́льникъ, а сего́дня я—оте́цъ."

73. Для оте́чества всѣ де́ти.

Въ сраже́ніи подъ Ле́йпцигомъ Богратіо́нъ, ру́сскій генера́лъ, подъ пу́лями распоряжа́лся де́йствіями ввѣ́реннаго ему́ ко́рпуса. Вдругъ въ са́мое жа́ркое

врéмя къ нему́ подскака́лъ его адъюта́нтъ и докла́дываетъ: „Вашъ сынъ уби́тъ!" —„Тепе́рь для отечества всѣ дѣти: скажи́те про́сто: уби́тъ офице́ръ: по́слѣ сраже́нія мы бу́демъ разбира́ть имена́ уби́тыхъ и ра́неныхъ," былъ отвѣ́тъ генера́ла.

74. Са́мый несча́стный.

То, что я хочу разсказа́ть вамъ, случи́лось не осо́бенно давно́, въ 1879 году́, по оконча́нiи ру́сско-туре́цкой войны́, въ Кишинёвѣ. Дво́е дѣте́й, ма́льчикъ и дѣ́вочка, лѣтъ семи́—осьми́, приплы́ли въ лазаре́тъ Кра́снаго Креста́, чтобы разда́ть ра́неным солда́тамъ пирожки́, кото́рые они принесли́ въ корзи́нѣ. Ма́льчикъ, кро́мѣ того́, держа́лъ въ рукѣ́ большо́е румя́ное я́блоко, которое онъ охо́тнѣе всего́ самъ бы съѣ́лъ, но великоду́шно рѣши́лся поже́ртвовать имъ то́му, кто ока́жется всѣхъ несча́стнѣе. „Но ту́рку мы я́блока не отдади́мъ!" сказалъ онъ съ жа́ромъ, и дѣ́вочка повтори́ла за нимъ:—Нѣтъ, ту́рку не отдади́мъ, а Ру́сскому и са́мому несча́стному, кото́рый оста́лся безъ рукъ и безъ ногъ.

„Вы мо́жете его́ отда́ть, кому́ хоти́те," отвѣча́ла сестра́ милосе́рдія. „Пойдёмте со мно́ю, я тепе́рь иду́ къ мои́мъ несча́стнымъ друзья́мъ." И они осторо́жными шага́ми послѣ́довали за свое́й проводни́цей. Ещё у са́маго вхо́да ма́льчикъ такъ умильно глядѣ́лъ на свое́ я́блоко, что сестра́ милосе́рдія, смотрѣ́вшая на него́ съ улы́бкою, ка́ждое мгнове́ніе ожида́ла, что онъ при́мется ѣсть соблазни́тельный для него́ плодъ. Но по́слѣ не́которой вну́тренней борьбы́ онъ положи́лъ я́блоко въ корзи́ну и, вздохну́въ, сказа́лъ: „Пусть оно́ лу́чше здѣсь лежи́тъ!" Откры́лась дверь, и они́ ро́бко вошли́ въ дли́нную за́лу. Тутъ стоя́ли просты́я крова́ти съ чи́стою посте́лью, одна́ по́длѣ друго́й, и на ка́ждой крова́ти поко́илась бле́дная фигу́ра солда́та: прія́тель и непрія́тель лежа́ли въ-перемёжку, въ ми́рѣ и согла́сіи. Это была́ пала́та выздора́вливающихъ, но они́ бо́льшею ча́стію бы́ли ещё такъ сла́бы, что не могли́ встава́ть, сидѣ́ть и ходи́ть. Ско́лько страда́ній, бѣ́дные, они́ должны́ были вы́нести, прежде чѣмъ дости́гли э́того мѣ́ста о́тдыха и поко́я! Какъ ужа́сно му́чила ихъ лихора́дка, когда́ они́ лежа́ли въ лазаре́тной каре́тѣ, ме́дленно вёзшей ихъ въ лѣ́тнюю жару́ по тря́ской доро́гѣ! И вотъ они́ тепе́рь въ больни́цѣ подъ усе́рднымъ попече́ніемъ сердобо́льныхъ сестёръ и понемно́гу оправля́ются отъ свои́хъ ранъ и уве́чій. Вотъ на одѣ́ялѣ лежи́тъ рука́ въ пе́ревязи: непрія́тельская пу́ля раздроби́ла на ней па́льцы; тутъ высо́вывается плечо́ съ пусты́мъ рукаво́мъ: рука́ осталась на по́лѣ сраже́нія; а тамъ выгля́дываетъ оста́токъ ноги́, кото́рая подве́ргласъ опера́ціи. У э́того подвя́зана ни́жняя че́люсть, у друго́го огро́мный пла́стырь на лбу, у тре́тьяго повя́зка на глаза́хъ,—вездѣ́ го́ре и печа́ль, но и терпѣ́ніе и наде́жда.

На стѣна́хъ висѣ́ли ра́зные портре́ты: Императора Алекса́ндра II,

Наслѣдника-Цесаре́вича, Вели́кихъ Князе́й и различныхъ генера́ловъ, но ме́жду ни́ми кое́-гдѣ и фотогра́фія старика́ отца́, стару́шки ма́тери, люби́мой сестры́ или жены́; тутъ и тамъ виднѣ́лись и дѣ́тскія голо́вки: у всѣхъ э́тихъ несча́стныхъ до́ма бы́ли родны́е, дорогіе ихъ се́рдцу, усе́рдно моли́вшіеся за нихъ.

И они́ бесѣ́довали о томъ, что дѣ́лалось у нихъ до́ма, расспра́шивали другъ дру́га обо всёмъ, что имъ бы́ло ми́ло и бли́зко, чита́ли вслухъ полу́ченныя съ ро́дины пи́сьма, и сообще́ніямъ ихъ не́ было конца́. И ту́рокъ, и Ру́сскій неутоми́мо обмѣ́нивались мы́слями, стара́ясь объясня́ться то отдѣ́льными слова́ми, то же́стами. Сестра́ милосе́рдія подходи́ла къ ка́ждому съ улы́бкой и распра́шивала его́ о его́ ну́ждахъ, а дѣ́ти, идя́ за не́ю слѣ́домъ отъ крова́ти къ крова́ти, ро́бко раздава́ли свои́ пирожки́. Они́ кла́ли ихъ въ ру́ки какъ дру́га, такъ и не́друга. „Вѣ́дь всѣ они́ исполня́ли свой долгъ," говори́ла сестра́ милосе́рдія: „сража́лись за своё оте́чество, и лежа́ть тепе́рь ра́неные и больны́е, какъ тѣ, такъ и другіе."

Наконе́цъ, всё было ро́здано, за исключе́ніемъ большо́го румя́наго я́блока. Гдѣ же са́мый несча́стный? И и́щущіе взо́ры дѣте́й упа́ли на молодо́го ту́рка, сидѣ́вшаго одино́ко въ отдалённѣйшемъ углу́. Онъ повиди́мому былъ са́мый здоро́вый изъ всѣхъ. онъ владѣ́лъ всѣ́ми чле́нами, и на нёмъ не́ было никако́й повя́зки, но лицо́ его́ было о́чень печа́льно и блѣ́дно.

—Что съ нимъ? спроси́ли дѣ́ти ти́хо.

„Ра́ны его́ зажили́, и его́ за́втра отпу́стятъ на ро́дину—въ Ту́рцію." —Почему́ же онъ тако́й печа́льный?

„А потому́, что на ро́динѣ онъ уже нико́го не найдётъ, кто былъ бы радъ его возвраще́нію," отвѣча́ла сестра́ милосе́рдія. „Оте́цъ и мать его́ умерли́ уже́ давно́; пока́ онъ былъ на войнѣ́, умерли́ жена́ и сестра́; други́хъ родны́хъ у него́ нѣ́тъ; нѣ́тъ тепе́рь у него́ никого́, кто бы за него́ моли́лся и его́ ожида́лъ."

И не сказа́въ ни сло́ва, дѣти взгляну́ли другъ на дру́га, а затѣ́мъ подошли́ къ одино́кому и положи́ли я́блоко ему́ въ ру́ки.

„Мы бу́демъ за тебя́ моли́ться," сказа́ли они. Са́мый несча́стный былъ на́йденъ.

Ту́рокъ улыбнулся. Это была́ пе́рвая и еди́нственная улы́бка, кото́рую сестра́ милосе́рдія замѣ́тила на лицѣ́ э́того молодо́го челове́ка.

75. Исто́чникъ живо́й воды.

Въ жа́ркій по́лдень три путеше́ственника сошли́сь на большо́й доро́гѣ у чи́стаго, студёнаго ключа́. Густы́е, со́чные кусты́ нави́сли надъ исто́чникомъ и берегли́ его́ свѣ́жесть своею тѣ́нью. Вода́ собира́лась тамъ въ бо́льшо́й сосу́дъ вы́сѣченный изъ ка́мня; изъ сосу́да бѣжа́ла она́ свѣ́тлыми, прозра́чными стру́йками, и облива́ла на́дпись: „Будь похо́жъ на э́тотъ исто́чникъ."

Стру́йки собира́лись, на кру́пномъ пескѣ́ и текли́ необольши́мъ ручейкомъ все да́льше и да́льше по цвѣти́стому лу́гу.

Пу́тники напились, прочита́ли на́дпись и ста́ли обду́мывать, что она́ зна́читъ.

—„Это хоро́шій сове́тъ," сказа́лъ оди́нъ изъ путеше́ственниковъ, су́дя по оде́ждѣ, купе́цъ. „Исто́чникъ течётъ безпреста́нно, течётъ далеко́, расте́тъ, принима́етъ въ себя́ во́ду други́хъ ключе́й, стано́вится больно́ю ре́ко́ю и какъ бу́дто говори́тъ свои́мъ приме́ромъ: будь дѣя́теленъ, не остана́вливайся никогда́ и—ты успѣ́ешь въ достиже́ніи свои́хъ намѣре́ній."

Друго́й путеше́ственникъ, стари́къ, съ кни́гою въ рукѣ́, покача́лъ голово́ю.

—„Здѣсь уро́къ гора́здо вы́ше," сказа́лъ онъ. „Э́тотъ ключъ гото́въ для вся́каго, утоля́етъ жа́жду вся́каго прохо́жаго, не тре́буя никакой благода́рности, и э́тимъ я́сно говори́тъ лю́дямъ: „Дѣ́лай добро́ изъ любви́ къ добру́ и не ищи́ вознагражде́нія."

Тре́тій путеше́ственникъ не говори́лъ ничего́. Это былъ прекра́сный бѣлоку́рый ю́ноша, кото́рый въ пе́рвый разъ и то́лько неда́вно разста́лся съ свое́ю ма́терью. Това́рищи спроси́ли его́: какъ онъ ду́маетъ? Онъ призаду́мался немно́го, слегка́ покраснѣ́лъ и сказа́лъ

—„А мнѣ э́тотъ ключъ говори́тъ друго́е. Зачѣ́мъ э́то непреры́вное движе́ніе, зачѣ́мъ э́та гото́вность утоли́ть жа́жду вся́каго прохо́жаго, е́слибы вода́ э́того ключа́ была́ мутна́? Гла́вное досто́инство его́ въ томъ, что онъ чистъ и я́сенъ Не о прилежа́ніи и не о великоду́шіи на́шемъ говори́тъ э́та на́дпись. Будь похо́жъ на э́тотъ исто́чникъ—зна́читъ сохрани́ свою́ ду́шу въ тако́й чистотѣ́, что́бы въ ней такъ же хорошо́ отража́лось всё то, что для человѣ́ка должно́ быть са́мымъ высо́кимъ и свѣ́тлымъ, какъ отража́ются въ э́томъ исто́чникѣ цвѣты́ земли́ и лучи́ не́ба."

76. Тріо въ петербу́ргскомъ Зоологи́ческомъ саду.

Въ оди́нъ день грома́дная толпа́ наро́да стреми́лась въ Зоологи́ческій садъ. Въ э́тотъ день тамъ былъ больно́й пра́здникъ: садъ былъ иллюмино́ванъ, въ не́сколькихъ мѣста́хъ игра́ла му́зыка, были та́нцы и разли́чныя представле́нія.

У вхо́да въ садъ стоя́лъ како́й-то слѣпо́й стари́къ съ пятна́дцати-лѣ́тнею до́черью: она́ игра́ла на а́рфѣ, а онъ пѣ́лъ своимъ ста́рческимъ го́лосомъ. Ми́мо ихъ проходи́ли са́мые знамени́тые въ то вре́мя о́перные арти́сты—г-жа́ Д. и съ не́ю г.г М. и П. Знамени́тая пѣ́вица изъ любопы́тства взгляну́ла въ деревя́нную кру́жку слѣпо́го и уви́дѣла, что на днѣ ея́ ничего́ нѣтъ. Мно́жество наро́да проходи́ло взадъ и впередъ, торопя́сь повесели́ться, но никто не обраща́лъ внима́нія на бѣдняко́въ.

—„Превосхо́дная мысль! и́стинно артисти́ческая!" сказа́ла г-жа Д., обраща́ясь къ свои́мъ спу́тникамъ „На́до, что́бы и вы меня́ поддержа́ли. Жа́лобныя

пѣсни этого слѣпца́ до сихъ поръ не доста́вили ему́ ни слу́шателей, ни ми́лостыни; попро́буемъ, не бу́демъ ли мы счастли́вѣе!"

М. и П съ улы́бкою согласи́лись на предложе́ніе. Д. взяла́ у дѣвочки а́рфу, и знамени́тые арти́сты на́чали очарова́тельное тріо. Проходи́вшіе останови́лись; многочи́сленный кругъ образова́лся о́коло слѣпо́го, кото́рый и самъ слу́шалъ съ удивле́ніемъ. Когда́ узна́ли имена́ пѣвшихъ, то со всѣхъ сторо́нъ разда́лись рукоплеска́нія и гро́мкія „бра́во." Ско́ро вѣсть объ э́томъ разнесла́сь по всему́ са́ду: та́нцы бы́ли бро́шены, и́гры оста́влены, всѣ бро́сились къ той сторонѣ, гдѣ происходи́ла опи́сываемая на́ми сце́на, и наконе́цъ толпа́ вы́росла до невѣроя́тности.

Пропѣвъ нѣсколько а́рій, г-жа Д., по́слѣ многихъ рукоплеска́ній, взяла́ шля́пу слѣпо́го и отпра́вилась въ толпу́ собира́ть ми́лостыню. Приме́ръ былъ по́данъ, и всѣ ста́ли броса́ть въ шля́пу, кто мѣ́дныя, кто серебря́ныя, а кто да́же и золоты́я моне́ты. Поры́въ великоду́шія подѣйствовалъ да́же на са́мыхъ скупы́хъ и дошёлъ до тако́й сте́пени, что на́чали толка́ть оди́нъ друго́го, пры́гали черезъ пле́чи, и безчи́сленное мно́жество рукъ протяну́лось къ ве́рху, пока́зывая ми́лостыню. Шля́па бѣдня́ка нѣсколько разъ наполня́лась и была́ высыпа́ема въ мѣшо́къ.

Обошёдши толпу́, г-жа Д. обрати́лась къ свои́мъ спу́тникамъ, кото́рые стоя́ли, удивля́ясь результа́ту своего́ предпрія́тія. „Тепе́рь," сказа́ла она́ имъ: „на́па бчередь дать бѣ́днымъ что-нибу́дь." Она́ положи́ла въ кру́жку золоту́ю моне́ту; М. и П. сдѣ́лали то́же, и г-жа Д., отдава́я дѣвочкѣ кру́жку съ моне́тами, сказа́ла ей:

—„Это принадлежи́тъ тебѣ́; твой оте́цъ не до́лженъ брать у тебя́ э́тихъ де́негъ; на нихъ ты ку́пишь себѣ́ но́вое пла́тье, шля́пку, зо́нтикъ, башмаки́ .... твоё тепе́решнее пла́тье ста́ро и истёрлось, ме́жду тѣ́мъ какъ ты сама́ молода́ и хороша́ .... проща́й, дитя́ моё!"

Три великоду́шные арти́ста взялись за́ руки и отправились да́лѣе, напу́тствуемые благослове́ніями бѣдняка́ и восклица́ніями толпы́

77. Слонъ.

Слоны́ — велича́йшія живо́тныя на землѣ́. Они́ во́дятся въ Азіи и Африкѣ ча́сто большими́ стада́ми. Сло́нъ расте́тъ до двадцати́ лѣ́тъ и живе́тъ почти́ двѣ́сти. Голова́ слона́ не о́чень велика́; глаза́, въ сравне́ніи съ величино́ю тѣ́ла, о́чень ма́лы; но́ги неуклю́жи, такъ-что ка́жется, бу́дто ту́ловище его́ пока́ится на четырёхъ столба́хъ. Замѣча́тельнѣе всего́ на голове́ слона́ огро́мный хо́боть, кото́рый онъ мо́жетъ вытя́гивать сли́шкомъ на шесть фу́товъ и сокраща́ть на два фу́та. Сло́нъ употребля́етъ свой хо́боть вмѣ́сто руки́: онъ мо́жетъ поднима́ть имъ съ земли́, что уго́дно, да́же са́мую ме́лкую моне́ту; мо́жетъ развя́зывать узлы́, отпира́ть замки́ и вынима́ть изъ

карма́на зри́телей хлѣбъ и де́ньги. Въ э́томъ хо́ботѣ у него́ така́я си́ла, что онъ уби́ваетъ имъ быка́, ло́шадь, да́же ти́гра и вырыва́етъ изъ земли́ дере́вья. Хо́боть слу́житъ ему́ та́кже для дыха́нія, для рёва и для защи́ты. Изъ-подъ хо́бота выдаю́тся два большіе клыка́: они́ о́чень бѣлы и доставля́ютъ такъ называ́емую слоно́вую ко́сть, изъ кото́рой приготовля́ются разли́чныя краси́выя и поле́зныя ве́щи.

При всей свое́й си́лѣ, слоны́ принадлежа́ть къ са́мымъ кро́ткимъ и у́мнымъ живо́тнымъ. Не тру́дно сдѣлать слона́ ручны́мъ. онъ легко́ привыка́етъ къ челове́ку, хорошо́ узнаётъ го́лосъ своего́ хозя́ина и исполня́етъ всё, что тотъ прика́зываетъ ему́.

Ко́сти допото́пныхъ слоно́въ (ма́монтовъ) встрѣча́ются почти́ во всѣхъ часты́хъ свѣта, а въ осо́бенности въ Сиби́ри, по берега́мъ рѣкъ до са́мой Камча́тки

78. Месть слона́.

Слоно́въ въ экипа́жи не впряга́ютъ, но обыкнове́нно устра́иваютъ на спинѣ слона́ пала́тку, въ кото́рую и сажа́ются. Для управле́нія слоно́мъ у головы́ его́ сиди́тъ вожа́тый: въ рука́хъ вожа́таго мо́лотокъ, кото́рымъ онъ бьётъ слона́ въ го́лову и, таки́мъ о́бразомъ, управля́етъ живо́тнымъ. Одна́жды вожа́тый, си́дя на слонѣ́, вздума́лъ бить у него́ на головѣ́ твёрдые кокосовые оре́хи. Живо́тное терпѣли́во перенесло́ си́льную боль; но, проходя́ въ тотъ же са́мый день по база́рной пло́щади, слонъ останови́лся передъ ку́чею кокосовыхъ оре́ховъ, взялъ хо́ботомъ оди́нъ оре́хъ и такъ уда́рилъ имъ по головѣ́ своего́ вожака́, что тотъ мёртвымъ свали́лся на зе́млю.

79. Пре́данное живо́тное.

Ры́царь Ва́льтеръ ѣха́лъ одна́жды, во вре́мя Крестовыхъ похо́довъ, по пусто́й сирі́йской сте́пи. Вдругъ онъ услы́шалъ вдали́ протя́жный, жа́лобный стонъ. — „Вѣроя́тно, поду́малъ онъ, арави́йскіе разбо́йники напа́ли на како́го-нибу́дь путеше́ственника." Въ наде́ждѣ спасти́ несча́стнаго, онъ поспѣши́лъ къ мѣ́сту, отку́да раздава́лся стонъ: но какъ же онъ изуми́лся, когда́ уви́дѣлъ льва, вокру́гъ кото́раго обви́лась грома́дная змѣя! „Помога́ть угнетённому есть обя́занность ка́ждаго ры́царя," поду́малъ Ва́льтеръ. Э́та мысль придала́ ему́ си́лы и му́жества. — онъ бро́сился къ змѣѣ́, разруби́лъ её си́льнымъ уда́ромъ меча́ по-пола́мъ и освободи́лъ льва отъ его́ стра́шнаго врага́. Съ той мину́ты, благода́рное живо́тное не оставля́ло ры́царя и слѣ́довало за нимъ повсю́ду, какъ соба́ка. Наконе́цъ война́ око́нчилась, и ры́царь пригото́вился возврати́ться въ Евро́пу. Онъ хотѣ́лъ взять съ собо́ю своего́ вѣ́рнаго льва, но ни оди́нъ корабе́льщикъ не согласи́лся приня́ть его́ на кора́бль, и левъ до́лженъ былъ оста́ться на берегу́. Когда́ онъ увѣ́дѣлъ себя́

покинутымъ, онъ поднялъ ужасный рёвъ. Вслѣдъ за тѣмъ онъ оросился въ море и поплылъ за кораблёмъ. Долго онъ плылъ по морю, надѣясь, вѣроятно, что его возьмутъ на корабль; но наконецъ онъ выбился изъ силъ — и волны поглотили благодарное, вѣрное животное.

80. Слѣпая лошадь (быль).

Давно, очень уже давно, когда не только насъ, но и нашихъ дѣдовъ и прадѣдовъ не было еще на свѣтѣ, стоялъ на морскомъ берегу богатый и торговый славянскій городъ Винета; въ этомъ городѣ жилъ богатый купецъ, Вседомъ, корабли котораго, нагруженные дорогими товарами, плавали по далекимъ морямъ. Вседомъ былъ очень богатъ и жилъ роскошно: можетъ быть и самое прозваніе Вседома получилъ онъ отъ того, что въ его домѣ было рѣшительно все, что только можно было найти хорошаго и дорогого въ то время.

Въ конюшняхъ Вседома было много отличныхъ лошадей; но ни въ его конюшнѣ, ни во всей Винетѣ не было коня быстрѣе и красивѣе „Вѣтра," — такъ прозвалъ Вседомъ свою любимую верховую лошадь за быстроту ея ногъ. Никто не смѣлъ садиться на „Вѣтра," кромѣ самого хозяина, и хозяинъ никогда не ѣздилъ верхомъ ни на какой другой лошади.

Случилось купцу въ одну изъ своихъ поѣздокъ по торговымъ дѣламъ, возвращаясь въ Винету, проѣзжать на своёмъ любимомъ конѣ черезъ большой и тёмный лѣсъ. Дѣло было подъ вечеръ, лѣсъ былъ страшно тёменъ и густъ, вѣтеръ качалъ верхушки угрюмыхъ сосенъ; купецъ ѣхалъ одинъ-одинёшенекъ шагомъ, сберегая своего любимаго коня, который усталъ отъ дальней дороги. Вдругъ изъ-за кустовъ, будто изъ-подъ земли, выскочило шесть разбойниковъ съ звѣрскими лицами, съ топорами и ножами въ рукахъ; трое были на лошадяхъ, трое пѣшкомъ, — и два разбойника схватили было уже лошадь купца за узду. Не видать бы богатому Вседому своей родной Винеты, еслибы подъ нимъ былъ другой какой-нибудь конь, а не "Вѣтеръ." Почуявъ на уздѣ чужую руку, конь рванулся впередъ, своей широкой, сильной грудью опрокинулъ на землю двухъ дерзкихъ злодѣевъ, державшихъ его за узду, сиялъ подъ ногами третьяго, который, махая топоромъ, забѣгалъ впередъ и хотѣлъ было преградить ему дорогу, и помчался какъ вихрь Конные разбойники пустились въ погоню; лошади у нихъ были тоже добрыя, но куда же имъ догнать вседомова коня? „Вѣтеръ," не смотря на свою усталость, мчался, какъ стрѣла, и далеко оставилъ за собою злодѣевъ. Чрезъ полчаса Вседомъ ужъ въѣзжалъ въ Винету на своёмъ добромъ конѣ, съ котораго пѣна текла на землю

Слѣзая съ лошади, бока которой отъ усталости подымались высоко, купецъ тутъ же, гладя „Вѣтра" по шеѣ, торжественно обѣщалъ: что бы съ

нимъ ни случи́лось, никогда́ не продава́ть и не дари́ть никому́ своего́ вѣ́рнаго коня́, не прогоня́ть его́, какъ бы онъ ни состарѣ́лся, и ежедне́вно, до са́мой сме́рти, отпуска́ть коню́ по́ три мѣ́ры лу́чшаго овса́. Но, поторопи́вшись къ женѣ́ и дѣ́тямъ, Вседо́мъ не присмотрѣ́лъ самъ за ло́шадью, а лѣни́вый рабо́тникъ не вы́водилъ изму́ченнаго коня́, какъ слѣ́дуетъ, не да́лъ ему́ соверше́нно осты́ть и напои́лъ его́ ра́ньше вре́мени. Съ тѣхъ са́мыхъ поръ „Вѣ́теръ" на́чалъ хвора́ть, ослабѣ́лъ на ноги и наконе́цъ ослѣ́пъ. Купе́цъ о́чень горева́лъ и съ полго́да вѣ́рно соблюда́лъ свое́ обѣща́ніе: слѣпо́й конь стоя́лъ по-пре́жнему въ коню́шнѣ и ему́ ежедне́вно отпуска́лось по́ три мѣ́ры овса́. Вседо́мъ купи́лъ пото́мъ себѣ́ другу́ю верхову́ю ло́шадь, и чрезъ полгода ему́ показа́лось сли́шкомъ нерасче́тливо дава́ть слѣпо́й, никуда́ него́дной ло́шади по́ три мѣ́ры овса́, и онъ велѣ́лъ отпуска́ть двѣ. Ещё прошло́ полго́да: слѣпо́й конь былъ еще мо́лодъ, приходи́лось его́ корми́ть до́лго и ему́ ста́ли отпуска́ть по одно́й мѣ́рѣ. Наконе́цъ, и э́то показа́лось купцу́ тяжело́, и онъ велѣ́лъ снять съ „Вѣ́тра" узду́ и вы́гнать его́ за ворота́, что́бы не занима́лъ напра́сно мѣ́ста въ коню́шнѣ. Слѣпо́го коня́ рабо́тники прогна́ли со двора́ па́лкой, такъ какъ онъ упира́лся и не шёлъ.

Бѣ́дный, слѣпо́й „Вѣ́теръ," не понима́я, что съ нимъ дѣ́лаютъ, не зна́я и не ви́дя, куда́ идти́, оста́лся стоя́ть за ворота́ми, опусти́вши го́лову и печа́льно шевеля́ уша́ми. Наступи́ла ночь, пошёлъ снѣгъ, спать на ка́мняхъ бы́ло жёстко и хо́лодно для бѣ́дной, слѣпо́й ло́шади. Нѣ́сколько часо́въ простоя́ла она́ на одно́мъ мѣ́стѣ; но наконе́цъ го́лодъ заста́вилъ её иска́ть пи́щи. Подня́вши го́лову, ню́хая въ во́здухѣ, не попаде́тся ли гдѣ нибу́дь хоть клокъ соло́мы со ста́рой, осу́нувшейся крыши, брела́ на-уда́чу слѣпа́я ло́шадь и натыка́лась безпреста́нно то на у́голъ до́ма, то на забо́ръ.

На́добно вамъ сказа́ть, что въ Вине́тѣ, какъ и во всѣхъ стари́нныхъ славя́нскихъ города́хъ, не́ было кня́зя, а жи́тели го́рода управля́лись са́ми собо́ю, собира́ясь на пло́щадь, когда́ ну́жно бы́ло рѣша́ть какія-нибу́дь ва́жныя дѣла́. Тако́е собра́ніе наро́да для рѣше́нія его́ со́бственныхъ дѣлъ называ́лось „вѣ́чемъ." Посреди́ Вине́ты, на пло́щади, гдѣ собира́лось „вѣ́че," висѣ́лъ на четыре́хъ столба́хъ большо́й вѣчево́й ко́локолъ, по зво́ну кото́раго собира́лся наро́дъ и въ кото́рый могъ звони́ть ка́ждый, кто счита́лъ себя́ оби́женнымъ и тре́бовалъ отъ наро́да суда́ и защи́ты. Никто́, коне́чно, не смѣлъ звони́ть въ вѣчево́й ко́локолъ по пустяка́мъ, зна́я, что за э́то отъ наро́да си́льно доста́нется.

Бродя́ по пло́щади, слѣпа́я, глуха́я и голо́дная ло́шадь случа́йно набрела́ на столбы́, на кото́рыхъ висѣ́лъ ко́локолъ, и, ду́мая, быть мо́жетъ, вытащить изъ кры́ши пучо́къ соло́мы, схвати́ла зуба́ми за вере́вку, привя́занную къ языку́ ко́локола, и ста́ла де́ргать: ко́локолъ зазвони́лъ такъ си́льно, что наро́дъ, не смотря́ на то, что бы́ло ещё о́чень ра́но, толпа́ми сталъ сбѣга́ться

на площадь, желая знать, кто такъ громко требуетъ его суда и защиты. Всѣ въ Винстѣ знали „Вѣтра," знали, что онъ спасъ жизнь своему хозяину, знали обѣщаніе хозяина — и удивились, увидя посреди площади бѣднаго коня, слѣпого, голоднаго, дрожащаго отъ стужи, покрытаго снѣгомъ. Скоро объяснилось, въ чемъ дѣло, и когда народъ узналъ, что богатый Вседомъ выгналъ безъ дому слѣпую лошадь, спасшую ему жизнь, то единодушно рѣшилъ, что „Вѣтеръ" имѣлъ полное право звонить въ вѣчевой колоколъ. Потребовали на площадь неблагодарнаго купца и, не смотря на его оправданія, приказали ему содержать лошадь по прежнему и кормить ее до самой ея смерти. Особый человѣкъ приставленъ былъ смотрѣть за исполненіемъ приговора, а самый приговоръ былъ вырѣзанъ на камнѣ, поставленномъ въ память событія на вѣчевой площади

Говорятъ впрочемъ, что не нужно было ни разу принуждать Вседома къ исполненію вѣчеваго приговора: купецъ почувствовалъ всю черноту своего поступка; кормилъ и холилъ слѣпую лошадь до самой ея смерти.

81. Лошадь и верблюдъ.

Когда Богъ сотворилъ человѣка и животныхъ,—говоритъ одно арабское преданіе,—тщеславная лошадь, нѣсколько дней сряду гордилась дарованною ей статностью, потомъ вдругъ захотѣла быть ещё красивѣе и совершеннѣе, и стала просить Бога преобразить её.

„Чѣмъ же ты недовольна?" спросилъ милостиво Господь.

—Да я вообще не могу жаловаться, отвѣчало легкомысленное животное, но мнѣ кажется, что я была бы ещё быстрѣе на бѣгу, еслибъ ноги мои были выше и тоньше; длинная лебединая шея была бы мнѣ также очень къ лицу; болѣе широкая грудь увеличила бы мою силу; а такъ какъ я назначена Тобою носить Твоего любимца—человѣка, то не мѣшало бы дать мнѣ, вмѣсто прикрѣпляемаго сѣдла, природное

„Твое желаніе можетъ быть исполнено," отвѣчалъ Господь; „но прежде полюбуйся своимъ идеаломъ." И Богъ взялъ прахъ и создалъ верблюда.

Увидя такое безобразіе, лошадь задрожала отъ ужаса.

„Смотри," сказалъ Господь. „вотъ ноги выше и тоньше твоихъ, вотъ и длинная лебединая шея, и грудь шире твоей и природное сѣдло! Желаешь ли ты быть такою?"

Лошадь всё ещё дрожала и молчаливо поникла головой.

„Ступай же и впредь будь довольна своею участью!" продолжалъ милосердый Богъ. „Но чтобы ты не забывалась снова, то пусть это созданіе напоминаетъ тебѣ о твоемъ суетномъ желаніи." И Богъ даровалъ верблюду жизнь

Съ тѣхъ поръ лошадь всякій разъ, какъ увидитъ верблюда, дрожитъ всѣмъ тѣломъ.

82. Овца.

Вначалѣ овца жила въ обществѣ другихъ животныхъ,—говоритъ арабское преданіе,—но тяжело ей было жить съ ними, такъ какъ почти всѣ обижали ее. И стала она просить Бога, чтобы онъ облегчилъ ея участь.

„Жаль мнѣ тебя, доброе существо," сказалъ Господь. „Вижу, что ты совершенно беззащитна. Скажи же сама, какъ помочь тебѣ. Хочешь ли, чтобъ я далъ тебѣ большіе клыки и длинные, острые когти?"

—О, нѣтъ! отвѣчала овца; я не желаю наводить страхъ на всѣхъ, подобно хищнымъ животнымъ.

„Или хочешь, я пропитаю ядомъ слюну твою?"

—Нѣтъ, и этого не хочу: ядовитыхъ змѣй всѣ ненавидятъ.

„Ну, такъ я вооружу тебя сильными рогами."

—Нѣтъ, нѣтъ! не хочу я быть такою бодливою, какъ коза.

„Какъ же быть-то?" спросилъ Господь. „Если ты желаешь, чтобы другія животныя не вредили тебѣ, то ты непремѣнно должна имѣть способность вредить имъ сама."

—О, если такъ, сказала овца со вздохомъ, то оставь меня, какъ я есть, беззащитною. Способность вредить можетъ развиться въ страсть, а по моему мнѣнію, ужъ лучше терпѣть обиду самой, чѣмъ наносить ее другимъ.

Понравилась Господу кротость овцы, и онъ отдалъ ее подъ защиту человѣка.

83. Вѣрная собака.

Одинъ купецъ отправился въ дорогу верхомъ, и слѣдомъ за нимъ бѣжала его вѣрная собака. Купецъ ѣхалъ за тѣмъ, чтобы получить большую сумму денегъ. Получивши деньги и привязавъ ихъ въ мѣшкѣ къ сѣдлу, поѣхалъ онъ домой. Дорогою мѣшокъ отвязался и упалъ, а купецъ и не замѣтилъ. Зоркая собака видѣла, какъ упалъ мѣшокъ: попробовала было поднять его зубами, но почувствовала, что онъ былъ ей не подъ силу. Тогда собака, оставивъ мѣшокъ, догнала своего хозяина, забѣжала впередъ, стала кидаться на лошадь и лаять съ ожесточеніемъ и упорствомъ. Не зная, въ чемъ дѣло, купецъ кричалъ на собаку, бранилъ ее, ударилъ кнутомъ—ничто не помогало. Вѣрное животное продолжало кидаться на лошадь съ такою яростью, какъ будто хотѣло стащить долой своего хозяина. Видя, что ничто не помогаетъ и что купецъ все ѣдетъ дальше и дальше, собака стала кусать за ноги лошадь, чтобы заставить хозяина воротиться. Купецъ испугался: ему пришло на мысль, что собака его взбѣсилась, и, зная, какъ опасны бѣшеныя собаки, купецъ рѣшился застрѣлить своего вѣрнаго слугу.

Дóлго ещё, однáкожъ, стараéлся онъ отдѣ́латься отъ собаки то лáсками, то угрóзами, то удáрами кнутá; но, вúдя, что э́то не помогáетъ, вы́нулъ пистолéтъ и съ стѣснённымъ сéрдцемъ выстрѣ́лилъ въ вѣ́рную собáку. Бѣ́дное живóтное упáло, но черезъ минýту опя́ть поднялось и съ жáлобнымъ ви́згомъ, обливáясь крóвью, старáлось слѣ́довать за хозя́иномъ Купе́цъ óчень любúлъ свою́ собáку, емý бы́ло тяжелó смотрѣ́ть. какъ онá страдáетъ, и потомý онъ, пришпóривъ лóшадь, ускакáлъ впередъ. Отъѣ́хавъ немнóго, купе́цъ захотѣ́лъ взглянýть, что стáло съ бѣ́днымъ живóтнымъ, и тутъ тóлько, оборáчиваясь назáдъ, замѣ́тилъ онъ, что мѣ́шкá съ дéньгами не́ было у сѣ́длá. Пóнялъ тогдá купе́цъ, почемý такъ упóрно лáяла и кидáлась на негó вѣ́рная собáка, и емý бы́ло бóльше жаль собáки, не́жели дéнегъ. Онъ тóтчасъ же поскакáлъ назáдъ, но не нашёлъ ужé собáки на томъ мѣ́стѣ, гдѣ её остáвилъ. Слѣ́ды крóви по дорóгѣ́ показывали, что собáка воротúлась назáдъ. Какъ бóльно было дóброму купцý, когдá, отрáвившись по кровáвымъ слѣ́дамъ, онъ нашёлъ вѣ́рное живóтное у мѣ́шкá съ дéньгами. Понятливо смотрѣ́ла собáка на своегó хозя́ина и лáсково лизáла емý рýку.

84. Привязанность собаки къ человѣ́ку.

Въ Парúжѣ почтú на всѣхъ площадя́хъ и глáвныхъ ýлицахъ встрѣчáются мáльчики, предлагáющіе прохóжимъ вы́чистить и́хъ запы́ленную или загрязни́вшуюся óбувь. Это такъ называ́емые *чистúльщики сапóгъ*, всё имýщество котóрыхъ заключáется въ подно́жной скамéечкѣ, двухъ-трехъ щёткахъ и блю́дечкѣ съ ва́ксой

Одúнъ такóй мáльчикъ, стоя́вшій на углý шýмной ýлицы, имѣ́лъ при себѣ́ краси́вую чёрную собáку, котóрую онъ въ свобóдное время держáлъ на колѣ́няхъ и ласкáлъ, дѣля́ съ нéю своё скýдную пи́щу. Собáка эта былá его́ единственный другъ, его единственное удовóльствіе. Мáло того́, она доставля́ла своемý хозя́ину и глáвные заработки. Какъ только онá замѣчáла, что въ теченіе нѣкотораго врéмени, т. е. какóго-нибудь получáса, никтó не подхóдúлъ къ скамéйкѣ, онá, отыскáвъ гдѣ-нибýдь вблизú лýжу и намочúвъ въ ней переднія лáпы, подбѣгáла къ пéрвому встрѣ́чному и наступáла ему на ноги, такъ-что прохóжій по-невóлѣ дóлженъ былъ прибѣ́гнуть къ услýгамъ стоя́вшаго тутъ чистúльщика сапóгъ.

Продѣ́лка собáки, конéчно, не всегдá приводúла къ желáнному результáту: инóй господúнъ, не имѣ́я врéмени или мéлкихъ дéнегъ, проходúлъ съ досáдою мúмо. Но когдá сдѣ́лалось извѣ́стно, что собáка принадлежúтъ чистúльщику сапóгъ и что онá съ ýмысломъ пáчкаетъ сапогú у прохóжихъ, то мнóжество парижáнъ стáли нарóчно прохóдить по э́той ýлицѣ, чтобы достáвить себѣ́ удовóльствіе, а мáльчику лúшнихъ двѣ́ копѣ́йки.

Одному́ англича́нину, кото́рый останови́лся въ гости́ницѣ какъ-разъ про́тивъ того́ угла́, гдѣ стоя́лъ э́тотъ ма́льчикъ, такъ понра́вилась продѣ́лка соба́ки, что онъ пожела́лъ купи́ть э́то живо́тное. Но ма́льчикъ нико́имъ образомъ не согла́шался разста́ться съ нимъ. Напра́сно пріѣзжій предлага́лъ два, три, четы́ре черво́нца, ма́льчикъ былъ неумоли́мъ. Но по мѣ́ру того́, какъ предлага́емая ему́ су́мма возрюста́ла, онъ сталъ колеба́ться и наконе́цъ, прельсти́вшись ку́чею зо́лота, уступи́лъ соба́ку за 15 черво́нцевъ. Проща́ніе съ нею, одна́ко, было для него́ до того́ мучи́тельно, что онъ проси́лъ англича́нина тотча́съ же уѣ́хать. Англичанинъ охо́тно испо́лнилъ э́ту про́сьбу, потому́-что удержа́ть у себя́ соба́ку, остава́ясь вблизи́, не́ было никако́й возмо́жности. Въ тотъ же день онъ уѣ́халъ съ соба́кой въ Кале́, отку́да отпра́вился на парохо́дѣ въ Дувръ, а изъ Дувра на почто́выхъ въ Лондонъ. Такимъ образомъ соба́ка была удалена́ отъ своего́ хозя́ина на сли́шкомъ большо́е разстоя́ніе.

Въ пе́рвый день по отъѣ́здѣ англича́нина ма́льчикъ утѣша́лъ себя́ мы́слью, что онъ тепе́рь бога́тъ, и не пошёлъ да́же на заработки. Но утѣше́ніе его́ было́ непродолжи́тельно: бчень скоро онъ убѣди́лся, что полу́ченныя имъ де́ньги вовсе не обезпе́чиваютъ его́ и вообще́ не сдѣ́лали его счастли́вѣе, а гла́вное—не мо́гутъ замѣ́нить ему́ его́ вѣ́рнаго дру́га. Имъ овладѣ́ла стра́шная тоска́ и, когда́ по прошествіи не́котораго вре́мени онъ замѣ́тилъ, что и число́ обраща́ющихся къ его́ по́мощи значите́льно уменьши́лось, то въ отча́яніи онъ сталъ упрека́ть себя́ въ са́мой чёрной неблагода́рности относи́тельно своего́ дру́га и корми́льца.

Такъ прошло́ не́сколько ме́сяцевъ Одна́жды сидѣ́лъ ма́льчикъ въ ожида́ніи рабо́ты на своёй скаме́ечкѣ и, погружённый въ воспомина́нія о своёмъ далёкомъ дру́гѣ, не могъ удержа́ться отъ слёзъ, кото́рыя кру́пными ка́плями лили́сь по щека́мъ его́,—какъ вдругъ на него́ броса́ется кака́я-то соба́ка и, обла́пивъ его́, съ ла́емъ и ви́згомъ ли́жетъ ему́ лицо́ и ру́ки. Ма́льчикъ и свои́мъ глаза́мъ не ве́рить: пе́редъ ни́мъ его́ другъ и прія́тель, его соба́ка, исхуда́лая, гря́зная, со вскло́ченною ше́рстью, но тѣ́мъ не менѣе дѣйстви́тельно она. Убѣжа́въ отъ своего́ но́ваго хозя́ина, ве́рная собака по́слѣ до́лгихъ скита́ній наконе́цъ добра́лась опя́ть до Пари́жа и лежа́ла тепе́рь у ногъ своего́ пе́рваго хозя́ина. Ка́кимъ о́бразомъ она соверши́ла путь че́резъ мо́ре, сказа́ть тру́дно, но, вѣроя́тно, ей удало́сь пробра́ться на како́й-нибу́дь парохо́дъ и на нёмъ переѣ́хать изъ Дувра въ Кале́ Съ э́тихъ поръ ма́льчикъ уже́ не разлуча́лся съ свои́мъ дру́гомъ, кото́рый по-пре́жнему сталъ привлека́ть прохо́жихъ къ его́ скаме́ечкѣ.

85. Больна́я соба́ка.

Одинъ хиру́ргъ взя́лся лечи́ть соба́ку своего́ прія́теля, кото́рая слома́ла себѣ́ но́гу. Это лече́ніе ему́ вполнѣ́ удало́сь: соба́ка вы́здоровѣла. Спустя́ не́сколь-

ко вре́мени хиру́ргъ услы́шалъ, что кто-то цара́пается въ его́ дверь. Онъ отвори́лъ дверь и съ изумле́ніемъ уви́дѣлъ вы́леченную имъ соба́ку, но она была́ не одна́: её сопровожда́ла друга́я соба́ка, кото́рая та́кже слома́ла себѣ но́гу.—„На э́тотъ разъ пусть бу́детъ по-твоему," сказа́лъ хиру́ргъ, „но впредь не приводи́ ко мнѣ бо́лѣе таки́хъ больны́хъ!"

86. Пожа́рныя соба́ки.

Ча́сто случа́ется, что въ города́хъ во вре́мя пожа́ровъ остаю́тся дѣти въ дома́хъ и ихъ нельзя́ быва́етъ спасти́: отъ испу́га они́ спря́чутся и молча́тъ, а отъ ды́ма нельзя́ ихъ разсмотре́ть. Что́бы спаса́ть таки́хъ дѣте́й, въ Ло́ндонѣ прі́учены́ соба́ки. Эти соба́ки живу́тъ съ пожа́рными и, когда́ загори́тся домъ, пожа́рные посыла́ютъ ихъ выта́скивать дѣте́й. Одна́ така́я соба́ка въ Ло́ндонѣ спасла́ двѣна́дцать дѣте́й. Зва́ли её Бобъ.

Одно́ъ разъ загоре́лся домъ. Когда́ пожа́рные подъѣ́хали къ нему́, къ нимъ вы́бѣжала же́нщина. Она́ пла́кала и говори́ла, что въ до́мѣ осталась ея́ двухлѣтняя дѣ́вочка. Пожа́рные посла́ли Бо́бба. Бо́бъ побѣжа́лъ по лѣ́стницѣ и скры́лся въ до́мѣ. Мину́тъ че́резъ пять онъ вы́бѣжалъ изъ до́ма и въ зуба́хъ за руба́шку нёсъ дѣ́вочку. Мать бро́силась къ дочери и пла́кала отъ ра́дости. Пожа́рные ста́ли ласка́ть соба́ку и осма́тривать—не обгоре́ла ли она́, но Бобъ рва́лся опя́ть въ домъ. Ду́мая, что въ до́мѣ оста́лся ещё ребёнокъ, пожа́рные пусти́ли её. Соба́ка бы́стро побѣжа́ла въ домъ и ско́ро вы́бѣжала съ чѣ́мъ-то въ зуба́хъ. Когда́ наро́дъ разсмотре́лъ, что она несла́, всѣ́ расхохота́лись: она несла́ большу́ю ку́клу.

87. Ко́шка и бѣ́лка.

Въ лѣсу́, подъ де́ревомъ, охо́тникъ нашёлъ ма́ленькую бѣ́лку, кото́рая, вѣроя́тно, вы́валилась изъ гнѣзда́, по́слѣ того́ какъ ста́рая бѣ́лка была́ пойма́на и съѣ́дена каки́мъ-нибу́дь хи́щнымъ зьѣ́ремъ. Охо́тникъ подня́лъ её, принёсъ домо́й и отдалъ дѣ́тямъ. Дѣ́ти попро́бовали было́ покорми́ть её молоко́мъ, но бѣ́лка была́ ещё такъ молода́, что не умѣ́ла ни лока́ть, ни ходи́ть, ни да́же смотре́ть. Дѣ́ти были озабо́чены и не зна́ли, какъ съ ней быть. Но къ э́тому приба́вилась ещё друга́я забо́та. Съ ихъ люби́мою ко́шкою случи́лось несча́стіе: у ней отня́ли неда́вно роди́вшихся котя́тъ и утопи́ли. Тепе́рь она́ печа́льно ходи́ла изъ угла́ въ у́голъ и жа́лобно мяу́кала. Дѣ́ти не зна́ли, какъ её успоко́ить. Вдругъ имъ пришла́ мысль полжи́ть къ ней сиротѣ́вшую бѣ́лку и тѣ́мъ помо́чь имъ обѣ́имъ. Заду́мано—сдѣ́лано. Ко́шка снача́ла отодви́нулась отъ ма́ленькаго незнако́мца, но пото́мъ обню́хала его́, полиза́ла и наконе́цъ ста́ла корми́ть, какъ дѣ́лала э́то пре́жде съ свои́ми котя́тами. Съ э́той мину́ты она́ переста́ла мяу́кать и почти́ не отходи́ла отъ своего́ прі́ёмыша, жизнь котораго тепе́рь была спасена́.

Нѣкоторое время спустя, когда бѣлка немного подросла и научилась бѣгать, кошка стала учить её ловлѣ мышей. Сначала она принесла мёртвую мышь, положила её передъ своею питомицею и показала, какъ её хватать. Потомъ кошка принесла полузамученную мышь, которая могла ещё кое-какъ двигаться; наконецъ, она принесла совершенно живую мышь и то выпускала её изъ зубовъ, то снова ловила. Всё это она дѣлала, очевидно, для того, чтобы бѣлка, глядя на неё, также выучилась ловить мышей. Но бѣлка была совершенно невнимательна къ урокамъ своей кормилицы-кошки и не выказывала при этомъ ни малѣйшей ловкости. Какъ кошка ни старалась выучить свою питомицу разнымъ кошачьимъ пріёмамъ и уловкамъ, всё было напрасно: бѣлка оказывалась совершенно неспособною и ничему не научилась —ни ловить мышей, ни ѣсть ихъ, ни даже мяукать по-кошачьи, и всякій разъ, когда кошка её звала, она откликалась по-своему: „мурръ, мурръ."

Разъ кошка вышла въ садъ; бѣлка поскакала за нею туда же. Онѣ пришли къ орѣшнику, подъ которымъ полевыя мыши прогрызли себѣ норку. Кошка хотѣла было снова поучить бѣлку ловить мышей, но та, какъ только увидѣла дерево, быстро взбѣжала на него по стволу и, взобравшись на высокій сукъ, весело стала смотрѣть внизъ на свою кормилицу. Кошка, видя, что ея дѣтище на деревѣ, поспѣшила за ней. Но бѣлка, перескакивая съ сучка на сучокъ, поднималась всё выше и выше и забралась наконецъ на самую верхушку. Тамъ она присѣла на заднія лапки, сорвала орѣхъ, разгрызла его, очистила отъ скорлупы, которую бросила внизъ, и стала лакомиться сочнымъ ядрышкомъ, быстро поворачивая его въ переднихъ лапкахъ. Кошка, остановившись на первомъ суку, смотрѣла на всё это съ недоумѣніемъ и въ отчаяніи начала мяукать. Наконецъ, убѣдившись, вѣроятно, что питомицѣ ея тамъ хорошо и не предстоитъ никакой опасности, она сошла на землю и ещё разъ съ удивленіемъ посмотрѣла вверхъ. Но не успѣла она отойти отъ дерева, какъ за нею прискакала и бѣлка.

Съ этихъ поръ кошка уже не учила бѣлку ловить мышей; онѣ по-прежнему гуляли вмѣстѣ въ саду, но теперь уже каждая по-своему отыскивала себѣ пищу: пока кошка ловила мышей и съѣдала ихъ подъ орѣшникомъ, бѣлка прыгала по вѣтвямъ его, качалась на нихъ и грызла орѣхи.

88. Анекдоты о Петрѣ Великомъ.

Петръ Великій часто посѣщалъ города въ такое время, когда его тамъ не ожидали. Однажды онъ посѣтилъ неожиданно Олонецъ и прямо пошелъ въ канцелярію городского суда, гдѣ засталъ старика судью. На вопросъ Государя: „Какія есть въ канцеляріи жалобныя дѣла?"—судья въ страхѣ палъ на колѣни и дрожащимъ голосомъ отвѣчалъ, что въ канцеляріи жалоб-

ныхъ дѣлъ никакихъ нѣтъ.—„Какъ нѣтъ?" спроси́лъ удивлённый Царь.— „Никаки́хъ нѣтъ, Госуда́рь!" со слеза́ми повтори́лъ судья́. „Винова́тъ, я никаки́хъ жа́лобъ до канцеля́ріи не допуска́ю, а стара́юсь мири́ть тя́жущихся." Госуда́рь удиви́лся, подня́лъ судью́, поцѣлова́лъ его́ и сказа́лъ: „Я бы жела́лъ и всѣхъ суде́й ви́дѣть винова́тыми, какъ ты; продолжа́й такъ свою́ слу́жбу,— Богъ тебя́ не оста́витъ и я не забу́ду."

2. По взя́тіи го́рода Ри́ги, Пётръ пожа́ловалъ Ме́ншикову имѣ́ніе, кото́рое принадлежа́ло прави́тельству. Но въ числѣ́ земель былъ по оши́бкѣ отмежёванъ уча́стокъ, принадлежа́вшій одному́ ри́жскому граждани́ну. Въ бы́тность Госуда́ря въ Ри́гѣ, гражданинъ э́тотъ, потеря́вшій безъ вся́кой вины́ свою́ зе́млю, яви́лся къ Петру́ съ объясне́ніемъ своего́ го́ря.

„Ты мо́жешь иска́ть судо́мъ свою́ со́бственность," отвѣча́лъ ему́ Царь: „и виновный, кто бы онъ ни былъ, до́лженъ подчини́ться зако́ну." Исте́цъ подалъ въ судъ жа́лобу на Ме́ншикова, какъ владѣ́теля его собственности.

Ме́ншиковъ сосла́лся на ца́рскій ука́зъ. Посла́ли повѣ́стку Госуда́рю. Онъ яви́лся въ судъ, призна́лъ жа́лобу справедли́вою и согласи́лся съ приговоро́мъ суде́й—отмежёванный непра́вильно уча́стокъ возврати́ть пре́жнему владѣ́льцу.

„Я самъ подчиня́юсь зако́намъ," сказа́лъ онъ, поблагодари́въ суде́й за безпристра́стіе: „никто, кто бы онъ ни былъ, не до́лженъ наруша́ть ихъ."

3. Ще́дрый въ награжде́ніи заслу́гъ, Пётръ былъ чрезвыча́йно бережли́въ во всёмъ, что каса́лось ли́чно его́. И могъ ли онъ жить расточи́тельно, изъ́явъ для свои́хъ ли́чныхъ расхо́довъ лишь небольшо́е имѣ́ніе въ бѣ́дной Новгоро́дской губе́рніи? Во вре́мя своего́ пе́рваго путеше́ствія по чужи́мъ края́мъ, прибы́въ ве́черомъ инко́гнито съ небольшо́ю свито́ю въ одинъ голла́ндскій городо́къ, онъ останови́лся въ тракти́рѣ и спросилъ у́жинъ. Ему́ да́ли двѣна́дцать яи́цъ, сы́ру, ма́сла и двѣ бу́тылки вина́. Когда́ пришло́ вре́мя расплачиваться, тракти́рщикъ, вѣроя́тно, узна́въ, кто былъ его́ гость, потре́бовалъ за э́тотъ у́жинъ ста червонцевъ. Пётръ велѣ́лъ заплати́ть эти де́ньги, но никогда́ потомъ не могъ забыть э́той издержки и, угоща́я въ Петербу́ргѣ пріѣ́зжихъ на суда́хъ голла́ндцевъ, почти́ всякій разъ съ упрёками напомина́лъ имъ о корыстолю́біи голла́ндскаго тракти́рщика. „Мнѣ мота́ть не́ изъ чего," говори́лъ онъ: „собственное моё имѣ́ніе ма́ленькое, жа́лованья заслу́женнаго у меня́ немно́го, а съ госуда́рственными дохо́дами слѣ́дуетъ поступа́ть осторо́жно: я до́лженъ отда́ть въ нихъ отчётъ Бо́гу."

4. Князь Ме́ншиковъ, одинъ изъ пе́рвыхъ вельмо́жъ госуда́рства, устро́илъ у себя́ торже́ственный обѣ́дъ; къ обѣ́ду были́ приглашены́ госуда́рь съ госуда́рыней, иностра́нные мини́стры и мно́жество зна́ти. Пётръ далъ сло́во быть на обѣ́дѣ, но переда́ обѣ́домъ пое́халъ осма́тривать рабо́ты въ адмиралтействѣ. Госуда́рыня и про́чіе го́сти отпра́вились къ Ме́ншикову. Госуда́рь осмотрѣ́лъ рабо́ты и пріѣ́халъ на э́тотъ обѣ́дъ. Вдругъ подбѣга́етъ къ нему́ матро́съ и

па́даетъ на колѣни. Пётръ остана́вливается и спра́шиваетъ его́, что́ ему́ на́до. „Богъ дарова́лъ мнѣ сы́на, а тебѣ, госуда́рь, матро́са," отвѣча́етъ тотъ: „удосто́й посѣти́ть меня́." „Далеко́ ли ты живёшь?" спра́шиваетъ Петръ.— „Не далеко́." —„Хорошо́." сказа́лъ госуда́рь, пое́халъ за нимъ и вошёлъ въ его́ хи́жину. Мать новорождённаго подно́ситъ госуда́рю на деревя́нной таре́лкѣ ча́рку во́дки. Пётръ поздра́вилъ её съ сы́номъ и вы́пилъ во́дку. Столъ ме́жду тѣмъ у хозя́ина былъ уже накры́тъ, а на столѣ стоя́лъ пиро́гъ съ морко́вью. Госуда́рь отломи́лъ кусо́къ пирога́ и съѣлъ. Увида́въ э́то, хозя́инъ поста́вилъ на столъ горя́чія щи и сказа́лъ: „Хоть отвѣ́дай, ба́тюшка, матро́сскихъ-то щей." Пётръ попро́бовалъ, щи ему́ понра́вились, онъ сѣ́лъ за столъ и приня́лся ихъ ѣ́сть. Пото́мъ, вы́пивъ стака́нъ пи́ва, пожела́лъ хозя́евамъ до́браго здоро́вья и отпра́вился къ Ме́ншикову, гдѣ давно́ уже́ его́ дожида́лись. Онъ извини́лся передъ гостя́ми, что заста́вилъ ихъ такъ до́лго дожида́ться. „Богъ дарова́лъ мнѣ но́ваго матро́са," замѣ́тилъ онъ, „и я не могъ отказа́ть его отцу́ заѣ́хать къ нему и отвѣ́дать его́ щей."

5. Одна́жды Пётръ си́льно разсерди́лся на адмиралте́йскихъ рабо́тахъ на неиспра́вность мастеро́въ. По́лный доса́ды, вхо́дитъ онъ въ адмиралте́йскую колле́гію (морско́е министе́рство) и, не говоря́ ни сло́ва, сади́тся на своё ви́це-предсѣда́тельское мѣ́сто. Въ э́то вре́мя прокуро́ръ колле́гіи, Пи́саревъ, предложи́лъ къ слу́шанію како́е-то дѣ́ло, и Пётръ пе́рвымъ на́чалъ выска́зывать своё мнѣ́ніе о предло́женномъ дѣ́лѣ. Прокуро́ръ, обратя́сь къ нему́, сказа́лъ: „Не вамъ, г. вице-президе́нтъ, слѣ́дуетъ начина́ть: есть моло́же васъ; по зако́ну должно подава́ть голоса́, начина́я съ мла́дшаго чле́на."—„Какъ ты смѣ́ешь ука́зывать мнѣ?" вскрича́лъ госуда́рь въ гнѣ́вѣ.—„Смѣ́ю по своей до́лжности: она́ обя́зываетъ меня́ охраня́ть поря́докъ, установленный зако́номъ."—„Зна́ешь ли ты, съ кѣ́мъ такъ говори́шь?"—„Съ вице президе́нтомъ!" —„Ты позабы́лъ, что за таку́ю де́рзость мо́жешь потеря́ть го́лову!"—„О, это уже́ го́лосъ госуда́ря! Но е́сли такъ, то зачѣ́мъ было составля́ть зако́нъ? Неуже́ли то́лько для того́, чтобы не исполня́ть и наруша́ть его? Оста́вь э́то мѣ́сто и сядь на ца́рское (и онъ указа́лъ на мѣ́сто госуда́ря); тогда́ я ста́ну запи́сывать всѣ твои́ слова́ и бу́ду почита́ть ихъ за именны́е ука́зы, кото́рымъ по зако́ну и своей со́вѣсти я до́лженъ безпрекосло́вно повинова́ться." Государь вы́лалъ гнѣ́вомъ, прокуро́рскія слова́ каза́лись тогда́ ему́ сли́шкомъ де́рзкими, и онъ закрича́лъ дрожа́щимъ го́лосомъ: „Молчи́, де́рзкій!" Вста́вши со сту́ла, онъ схвати́лъ шля́пу, вы́бѣжалъ изъ прису́тствія и у́ѣхалъ во дворе́цъ.

Госуда́рыня (Екатери́на I), увида́въ возвраща́ющагося му́жа, вы́шла встрѣ́тить его́ и, замѣ́тивъ, что онъ въ гнѣ́вѣ, съ нѣ́жностію спроси́ла его́: „Что съ тобо́ю случи́лось?"—„Пи́саревъ опя́ть осрами́лъ меня́ при всѣхъ."—„Бо́же мой! Сколько́ уже́ разъ онъ оскорбля́лъ тебя́. Отчего́ ты не увели́чишь его́?" —„Не могу́ э́того сдѣ́лать: онъ о́чень поле́зный челове́къ."—„Какъ не

мо́жешь? Ты—госуда́рь! Если онъ поле́зный, переведи́ его на слу́жбу въ другой го́родъ; по кра́йней мѣ́рѣ не бу́детъ оскорбля́ть тебя́ здѣсь." —„Не могу́, Ка́тенька! не могу́: онъ мнѣ здѣсь ну́женъ: онъ всегда́ говори́тъ пра́вду: да кро́мѣ того́: е́сли я уво́лю Пи́сарева, э́тимъ са́мымъ я устраню́ всѣхъ други́хъ, и никто́ не ста́нетъ говори́ть пра́вды, а не зна́я пра́вды, какъ же я бу́ду управля́ть госуда́рствомъ?" —Чрезъ не́сколько дней послѣ э́того Пётръ помири́лся съ Пи́саревымъ и впосле́дствіи произвёлъ его́ въ са́мые вы́сшіе чины́.

6. Импера́тору Петру́ случи́лось одна́жды бесѣ́довать съ королёмъ да́тскимъ. Госуда́ри разговори́лись о томъ, чьи солда́ты лу́чше зна́ютъ вое́нную слу́жбу и дисципли́ну. Коро́ль отста́ивалъ свои́хъ и увѣря́лъ, что его́ солда́ты, какъ съ да́внихъ поръ привы́кшіе къ вое́нному поря́дку, должны́ быть лу́чше ру́сскихъ, кото́рые лишь незадо́лго предъ тѣ́мъ были на́браны изъ крестья́нъ, а потому́-де и не могли́ ещё свы́кнуться съ вое́нной слу́жбой такъ, какъ его́ королёвскіе, ста́рые солда́ты „Не спо́рю," сказа́лъ госуда́рь королю́, „что мои́ новобра́нцы въ чёмъ-нибудь усту́пятъ ва́шимъ солда́тамъ; но спо́рю вотъ о чёмъ: гла́вная доблесть вое́нная—это слѣпо́е послуша́ніе; солда́ту ска́жешь: дѣ́лай то—и онъ дѣ́лаетъ; иди́ туда́-то—и онъ идётъ безъ разсужде́нія; такъ въ э́томъ-то мои́ солда́ты превосхо́дятъ не то́лько ва́шихъ, но и каки́хъ уго́дно." —„Нѣтъ," отвѣча́лъ коро́ль: „и въ послуша́ніи мои́ не усту́пятъ ва́шимъ; я въ этомъ увѣ́ренъ. —„А если такъ, ва́ше вели́чество," сказа́лъ импера́торъ: „то сдѣ́лаемъ сейча́съ же о́пытъ, вотъ како́й: позови́те вы како́го-нибудь своего́ солда́та изъ карау́ла и прикажи́те ему́ вы́скочить вотъ изъ э́того окна́; а пото́мъ я позову́ своего́ и велю́ ему́ сдѣ́лать то́же; посмо́тримъ, что бу́детъ." Коро́ль согласи́лся, велѣ́лъ позва́ть своего́ солда́та и приказа́лъ ему́ вы́скочить въ окно́. Окно́ бы́ло въ тре́тьемъ этажѣ́; солда́тъ подошёлъ къ окну́, гля́нулъ внизъ—и сталъ проси́ть поми́лованія; а когда́ коро́ль наста́ивалъ, то солда́тъ сталъ проси́ть позволе́нія сходи́ть пре́жде домо́й прости́ться съ свои́ми: „я," говори́тъ, „ихъ бо́льше уже́ не уви́жу." Коро́ль похвали́лъ его́ за послуша́ніе и отпусти́лъ

Затѣ́мъ госуда́рь кли́кнулъ своего́ со́лдата съ гауптва́хты. Солда́тъ вошёлъ „Здоро́во, това́рищъ!"—„Здра́вія жела́ю ва́шему импера́торскому вели́честву!" —„Подойди́ сюда́!"—Солда́тъ подошёлъ —„Прыгай сейча́съ въ окно́, да съ разбе́гу!"—„Въ кото́рое, ва́ше вели́чество, прика́жете? Въ э́то?"—„Да, въ э́то."—И солда́тъ въ оди́нъ мигъ вскочи́лъ уже́ на подоко́нникъ, перекрести́лся и бро́сился было головою впередъ, такъ что госуда́рь едва́ успѣ́лъ схвати́ть его́ за по́лы.

Госуда́рь обня́лъ его́, одари́лъ и отпусти́лъ, а коро́ль пожа́лъ плеча́ми и сказа́лъ. „Зави́дую вамъ, госуда́рь, что у васъ такіе солда́ты."

7. Пётръ Вели́кій ложи́лся спать въ 10 часо́въ ве́чера и встава́лъ лѣ́томъ и

зимо́ю въ 3 часа́ утра́. Вста́вши, онъ часъ ходи́лъ по ко́мнатѣ, чита́я петербу́ргскія газе́ты или пересма́тривая въ рукописи перево́ды книгъ, сдѣ́ланные по его́ повелѣ́нію. Въ 4 или 5 часо́въ отправля́лся съ тро́стью въ одно́й рукѣ и съ записно́й кни́жкой въ друго́й смотрѣ́ть производи́вшейся работы.

Одна́жды онъ назна́чилъ то́лько что прі́ѣхавшему въ Петербу́ргъ нѣме́цкому посла́ннику прі́ёмную ауді́е́нцію въ 4 часа́ утра́. Эта ауді́е́нція была́, вѣроя́тно, еди́нственная въ своёмъ ро́дѣ. Посла́нникъ, не вѣ́ря, чтобъ госуда́рь встава́лъ такъ ра́но, яви́лся во дворе́цъ въ пять часовъ; но не засталъ Петра́, кото́рый въ э́то вре́мя уже́ рабо́талъ на ма́рсѣ вое́ннаго корабля́. Посла́нникъ, имѣ́вшій ва́жныя поруче́нія и не мо́гшій вступи́ть въ перегово́ры съ ру́сскими мини́страми, не увида́въ царя́, принужденъ былъ отпра́виться въ адмиралте́йство. Когда́ Петру́ доложи́ли о прі́ѣздѣ посла́нника, онъ сказа́лъ: „Пусть побезпоко́ится придти́ сюда́, е́сли не умѣ́лъ заста́ть меня́ во дворцѣ́.“ Посла́нникъ принужденъ былъ взобра́ться на гротъ-ма́чту, и госуда́рь, сѣ́въ на бревно́, при́нялъ о́тъ него́ вѣри́тельныя гра́моты и вы́слушалъ обыкнове́нныя привѣ́тствія.

8. Царь рѣ́шился пройти́ всю морску́ю слу́жбу такъ, какъ онъ прошёлъ слу́жбу сухопу́тную, т. е. начина́я съ са́мой ни́зшей до́лжности, и вы́бралъ себѣ́ въ учителя́ голла́ндскаго шки́пера Виллемсо́на. Доброду́шный учи́тель ца́рскій снача́ла ду́малъ, что съ нимъ шу́тятъ. „Если хо́чешь учи́ться, начина́й съ до́лжности каю́тнаго ма́льчика, потомъ будь матро́сомъ. Пре́жде чѣ́мъ ста́нешь повелѣ́вать други́ми, ну́жно само́му научи́ться исполня́ть приказа́нія и служи́ть други́мъ.“—„А кака́я до́лжность каю́тнаго ма́льчика?“ спроси́лъ царь. „Во́тъ поди́, набе́й мнѣ́ тру́бку и принеси́ во́дки!“ Царь испо́лнилъ приказа́ніе. „Хорошо́,“ сказа́лъ Виллемсо́нъ: „тепе́рь полѣза́й на ма́чту!“ и онъ ужасну́лся, когда царь началъ отва́жно взбира́ться на са́мый верхъ ма́чты. Но Пётръ тре́бовалъ продолже́нія уро́ковъ и прошёлъ съ Виллемсо́номъ всю слу́жбу морску́ю до офице́рскаго чи́на.

9. Въ бы́тность свою́ въ Архангельскѣ Пётръ вздума́лъ осмотре́ть Солове́цкій монасты́рь, кото́рый нахо́дится на острова́хъ, въ 60-ти верста́хъ отъ Архангельска. Со свое́ю свито́ю онъ сѣ́лъ на небольшо́е су́дно. Не прошло́ и ча́са, какъ они отъѣ́хали отъ бе́рега, поднялась бу́ря. Петру́ сове́товали возврати́ться, но онъ и слу́шать объ э́томъ не хотѣ́лъ. Бу́ря съ мину́ты на мину́ту уси́ливалась. Во́лны ежемину́тно могли́ бро́сить су́дно на какую́-нибу́дь скалу́, которы́хъ здѣ́сь мно́го, и разби́ть его́. Всѣ спу́тники царя́ были въ отча́яніи; они́ съ у́жасомъ ожида́ли своей сме́рти, и уже́ на́чали проща́ться другъ съ дру́гомъ. Но Пётръ не потеря́лъ споко́йствія ду́ха: онъ утѣша́лъ и ободря́лъ други́хъ и, наконе́цъ, сталъ у руля́. Когда́ опасность уси́лилась, слу́жащій на суднѣ́ ло́цманомъ, Литви́нъ проси́лъ царя́ переда́ть ему́ руль,

ручáясь, что онъ проведётъ сýдно мéжду подвóдными скáлами въ одинъ зали́въ ближáйшаго островкá. Пётръ передáлъ руль и комáнду Антúпу, но тѣмъ не менѣе постоя́нно вмѣшивался въ его́ распоряже́нія и дава́лъ ему́ разли́чные совѣты. Занятый лишь одно́ю мы́слью о спасе́ніи су́дна и вы́веденный изъ терпѣ́нія вмѣша́тельствомъ царя́, Антúпъ наконецъ толкну́лъ его́ и серди́то сказа́лъ „Отойди́ прочь! я зна́ю, что дѣ́лаю; не мѣша́й!" Царь сейча́съ же отопёлъ, не сказавъ ни сло́ва. Къ бе́регу причáлили благополу́чно. Че́резъ нѣ́сколько мину́тъ Антúпъ пришёлъ въ себя́, припо́мнилъ, что онъ сдѣ́лалъ, и бро́сился царю́ въ но́ги, прося́ проще́нія. „Что ты? что ты?! ты былъ вполнѣ́ правъ, а я винова́тъ, если бы не ты, мы всѣ, вѣроя́тно, погúбли бы," отвѣча́лъ царь Онъ поднялъ Антúпа, разцѣлова́лъ его́ и подари́лъ ему́ на па́мять своё доро́жное, всё промо́кшее, пла́тье.

10. Офице́ръ Неплю́евъ пришёлъ разъ о́чень по́здно на рабо́ту въ адмиралтéйство. Госуда́рь былъ уже́ тамъ. Офице́ръ испуга́лся; онъ хотѣ́лъ было уже́ возврати́ться домо́й и присла́ть ра́порть о болѣ́зни, но вспо́мнилъ, что госуда́рь не те́рпитъ обма́на, и пошёлъ пря́мо къ тому́ мѣ́сту, гдѣ находúлся царь. Пётръ увида́лъ его́ и сказа́лъ: „А я здѣ́сь, мой другъ, уже́ давно́!"—„Винова́тъ, госуда́рь!" отвѣча́лъ офице́ръ. „Вчера́ ве́черомъ былъ въ гостя́хъ, вы́пилъ немно́го ли́шняго, и потому́ сего́дня проспа́лъ и опозда́лъ на слу́жбу." Госуда́рь ла́сково потрепа́лъ его́ по плечу́ и сказа́лъ: „Спаси́бо, что говори́шь пра́вду Богъ тебя́ прости́тъ! Съ кѣмъ грѣ́хъ да бѣда́ не слу́чаются?!"

11. Одна́жды Пётръ, зимо́ю, охо́тился о́коло Петербу́рга, окре́стности кото́раго въ то вре́мя покры́ты бы́ли больши́ми лѣса́ми. Увлёкшись преслѣ́дованіемъ како́го-то зве́ря, царь далеко́ отошёлъ отъ сопровожда́вшихъ его́ охо́тниковъ и заблуди́лся. Въ лѣсу́ по сне́гу проло́жено бы́ло мно́го доро́жекъ, но всѣ онѣ вели́ лишь къ тѣмъ мѣста́мъ, гдѣ крестья́не сосѣ́днихъ дереве́нь рубúли дрова́; доро́ги же, кото́рая вела́ въ го́родъ, онъ никáкъ не могъ найти́. Вдругъ Пётръ услы́шалъ вдали́ стукъ топора́: э́то крестья́нинъ рубúлъ дрова́. Пётръ подошёлъ къ нему́. „Здоро́во, мужичо́къ! Богъ по́мощь!"—„Спаси́бо за до́брое сло́во!"—„Я заблуди́лся; не свезёшь ли ты меня́ въ го́родъ?"—„Заче́мъ я тебя́ по́везу? У меня́ до́суги нѣ́тъ, да и доро́гу ты самъ найдёшь; иди́ сперва́ пря́мо, пото́мъ поверни́ вле́во, пото́мъ сверни́ впра́во,—вотъ и вы́йдешь на большу́ю доро́гу, а тамъ ужъ и до го́рода не далеко́."—„Ходúлъ я и впра́во, ходúлъ и вле́во—вы́браться изъ лѣ́са не могъ; да къ тому́-жъ я о́чень утоми́лся; ты ужъ лу́чше меня́ свези́; я тебѣ́ хорошо́ заплачу́."—„А е́сли запла́тишь, такъ пое́демъ." И мужичо́къ сейча́съ же запря́гъ ло́шадь въ са́ни, на кото́рыхъ во́зятъ лишь дрова́, усади́лъ въ нихъ царя́, и они́ пое́хали.

Доро́гою царь начина́етъ распра́шивать мужичка́ о житьѣ́-бытьѣ́ крестья́нскомъ; ме́жду про́чимъ спроси́лъ его́, ско́лько онъ зараба́тываетъ въ годъ и

куда́ тра́титъ де́ньги свои́. „Зараба́тываю я сто́лько, ско́лько и прожива́ю, отвѣча́лъ мужичо́къ:" а куда я деньги прожива́ю—слу́шай: во-пе́рыхъ—на себя́ съ жено́ю тра́чу, во-вторыхъ—долгъ плачу́, въ-тре́тьихъ—въ долгъ даю́, а въ-четвёртыхъ—въ ого́нь броса́ю." Заду́мался царь, а пото́мъ и говори́тъ: „Я тебя́ не понима́ю; что это зна́читъ, что ты и долгъ пла́тишь, и въ долгъ даёшь, и, са́мое гла́вное, де́ньги въ ого́нь броса́ешь? Объясни́ ты мнѣ всё э́то."—„Долгъ плачу́—стари́ковъ кормлю́, отца́ и мать; въ долгъ даю—сынове́й кормлю́; въ огонь броса́ю—дочере́й пита́ю; тепе́рь по́нялъ?"—„Понялъ; твоя́ пра́вда; у́мная ты голова́, мужичо́къ!"

Ѣдутъ да́лыпе. Пётръ спра́шиваетъ крестья́нина, ви́дѣлъ ли онъ когда́-нибудь царя. „Нѣтъ, никогда́ не ви́дѣлъ, а хоте́лось бы увиде́ть; чтобы увиде́ть царя́, не́сколько разъ въ го́родѣ наро́чно подо́лгу остана́вливался, но ви́дѣть ни ра́зу не пришло́сь."—„Ну, е́сли хо́чешь ви́дѣть царя́, то сего́дня уви́дишь; какъ то́лько въѣдемъ въ го́родъ, такъ сейча́съ же и уви́дишь его."—„А какъ же я его узна́ю? Говоря́тъ, онъ одѣ́вается про́сто, какъ всѣ другіе."—„Узна́ть царя́ легко́: всѣ бу́дутъ безъ ша́покъ, то́лько онъ оди́нъ въ ша́пкѣ." Какъ то́лько въѣ́хали въ го́родъ, жи́тели Петербу́рга, сейча́съ же замѣ́тили, что ѣдетъ царь, и сня́ли свои шля́пы и ша́пки. Ви́дитъ мужичо́къ, что всѣ стоя́тъ съ откры́тыми голова́ми, понима́етъ, что здѣсь царь, но гдѣ онъ, никакъ не мо́жетъ уви́дѣть: въ толпѣ́ нѣтъ ни одного́ челове́ка, кото́рый былъ бы въ ша́пкѣ; толка́етъ своего́ сѣдока́ и говори́тъ: „Да гдѣ же царь? гдѣ? всѣ безъ ша́покъ, а царя́ нѣтъ; покажи́, покажи́!"—„Да ты смотри́ лу́чше, не всѣ безъ ша́покъ, ты и я въ ша́пкахъ, кто-нибудь изъ насъ двои́хъ царь: или ты, или я" Лишь то́лько тепе́рь догада́лся мужичо́къ, что онъ привёзъ царя, и сейча́съ же снялъ свою́ ша́пку.

89. Смерть Петра́ Вели́каго.

Здоро́вье Петра́ съ ка́ждымъ го́домъ станови́лось слабѣе и слабѣе, между тѣ́мъ какъ ре́вность его́ къ трудамъ нисколько не уменьша́лась. Въ послѣ́днее вре́мя своей жи́зни онъ былъ ужо́ не́сколько разъ опа́сно бо́ленъ, но, къ сча́стію и ра́дости свои́хъ по́дданныхъ, всегда выздора́вливалъ. Такъ, въ нача́лѣ о́сени 1724 го́да Петръ почу́вствовалъ тако́е облегче́ніе въ своей болѣ́зни, что всѣ надѣ́ялись на ско́рое и совершённое выздоровле́ніе его. Госуда́рю на́добно бы́ло то́лько не́сколько вре́мени побере́чь себя́. Вме́сто того́ Петръ не то́лько приня́лся за дѣла́ государственныя, но да́же, ещё не вполнѣ́ опра́вившись, уже́ въ нача́лѣ октября́ отпра́вился водо́ю въ Кронша́дтъ, Шлиссельбу́ргъ и на олонецкіе желѣ́зные заво́ды, гдѣ, ме́жду про́чимъ, со́бственными рука́ми вы́ковалъ тяже́лую полосу́ желѣ́за, кото́рая и тепе́рь храни́тся въ одно́мъ петербу́ргскомъ музе́ѣ Объѣ́хавши всѣ э́ти мѣста́, Госуда́рь 27 октября́ возврати́лся въ Петербу́ргъ и, отдохнувъ лишь оди́нъ день, сно́ва уѣ́халъ

водо́ю въ Сестербе́къ—мѣсте́чко, лежа́щее въ нѣ́сколькихъ верстахъ отъ столи́цы. Къ ве́черу того́ же дня прія́тная осе́нняя пого́да неожи́данно перемѣни́лась въ си́льную бу́рю, кото́рая до́лго носи́ла по волна́мъ взмо́рья импера́торскую я́хту. Яхта уже́ приста́вала къ Ла́хтѣ (селе́ніе, лежа́щее по доро́гѣ къ Сестербе́ку), какъ вдругъ всѣ бы́вшіе на берегу́ замѣча́ютъ вдали́ како́е-то су́дно, съ кото́раго разда́ются жа́лобные кри́ки о по́мощи. Пётръ сейча́съ же, оста́вивши на я́хтѣ лишь нѣ́сколько челове́къ, всѣхъ други́хъ матро́совъ отправля́етъ на помощь погиба́ющимъ. Это были солда́ты и матро́сы, ѣ́хавшіе на бо́льшо́мъ бо́тѣ изъ Кроншта́дта и занесе́нные бу́рею на мель. Си́льно жела́ли по́сланные испо́лнить во́лю до́браго госуда́ря, но всѣ ихъ труды́ были́ напра́сны: они не могли́ стащи́ть бо́та съ мѣ́ста. Замѣ́тивъ э́то, великоду́шный Пётръ броса́ется съ остальны́ми матро́сами свое́й я́хты спаса́ть тону́вшихъ. Приме́ръ госуда́ря воодушевилъ матро́совъ съ его́ я́хты, и погиба́вшіе были спасены́; два́дцать челове́къ изъ нихъ были обя́заны свои́мъ спасе́ніемъ само́му́ Петру́.

Прекра́сенъ былъ посту́покъ госуда́ря, но печальны́ были после́дствія его́: спаса́я жизнь други́хъ, Пётръ пожертвовалъ со́бственною жи́знію. Пробы́въ бо́лѣе полу́часа въ холо́дной водѣ, онъ простуди́лся, и эта́ просту́да, соединя́ясь съ пре́жнею боле́знью, прекрати́ла дни Вели́каго въ январѣ 1725-го го́да.

90. Разска́зы о фельдма́ршалѣ Суво́ровѣ.

1. Князь Алекса́ндръ Васи́льевичъ Суво́ровъ дава́лъ ми́лостыню ка́ждому ни́щему, кото́раго встрѣча́лъ. Одна́жды, во вре́мя обѣ́да, вошёлъ нача́янно въ го́рницу девяностолѣ́тній ни́щій, приходи́вшій ежедне́вно къ хозя́йкѣ до́ма за подая́ніемъ. Уви́дя многочи́сленное собра́ніе, ста́рецъ испуга́лся и хотѣ́лъ было́ уйти́. Но князъ вскочи́лъ самъ, усади́лъ его́ и угоща́лъ. По оконча́ніи обѣ́да, князъ далъ ему́ нѣ́сколько черво́нцевъ и предложи́лъ свои́мъ гостя́мъ сдѣ́лать скла́дчину въ по́льзу ни́щаго. Ста́рецъ оста́вилъ домъ фельдма́ршала со слеза́ми призна́тельности. Но когда́ у фельдма́ршала въ друго́й разъ проси́лъ ми́лостыни здоро́вый челове́къ, то онъ ничего́ ему́ не по́далъ, а посовѣ́товалъ лишь купи́ть топо́ръ, приба́вивъ: „Руби́ дрова́, и не умрёшь съ го́лоду.“

2. Одинъ храбрый, весьма́ досто́инный офице́ръ на́жилъ своей болтли́востью мно́го враго́въ въ а́рміи. Одна́жды фельдма́ршалъ Суво́ровъ призва́лъ его́ къ себѣ́ въ кабине́тъ и говори́тъ: „У тебя́ есть си́льный врагъ, кото́рый тебѣ́ мно́го вреди́тъ.“ Офице́ръ сталъ допы́тываться, кто э́тотъ врагъ. Фельдма́ршалъ, какъ бу́дто бы боясь, чтобы кто-нибудь не подслу́шалъ, запе́ръ дверь на ключъ и сказа́лъ ему́ тихо́нько: „Вы́сунь язы́къ!“ Офицеръ съ недоуме́ніемъ испо́лнилъ э́то приказа́ніе. Тогда́ князь таи́нственно сказа́лъ ему́: „Вотъ твой врагъ!“

3. Суво́ровъ люби́лъ то́чность въ исполне́ніи служе́бныхъ обя́занностей и стро́го тре́бовалъ ея́ отъ свои́хъ подчинённыхъ. Одна́жды онъ разре́шилъ своему́ адъюта́нту о́тпускъ на опредѣлённое вре́мя. Срокъ о́тпуска уже́ давно́ пропёлъ, а адъюта́нта нѣтъ Суво́ровъ вспо́мнилъ о нёмъ и спроси́лъ: гдѣ онъ? Ему́ отвѣ́тили, что адъюта́нтъ ещё не возврати́лся. Суво́рову э́то не понра́вилось. Наконе́цъ адъюта́нтъ яви́лся, и пе́рвый его́ вопро́съ былъ: „Не спра́шивалъ ли меня́ фельдма́ршалъ?" — „Не́сколько уже́ разъ;" отвѣча́ли това́рищи: „и, ка́жется, онъ тобо́ю о́чень недово́ленъ; е́сли хочешь загла́дить свою́ вину́, сове́туемъ: сейча́съ же иди́ къ нему́ и проси́ извине́нія въ просро́чкѣ." — „А гдѣ онъ тепе́рь?" — „Купа́ется въ мо́рѣ."

Адъюта́нтъ сейча́съ же одѣ́лъ пара́дный мунди́ръ и пошёлъ къ тому́ мѣ́сту, гдѣ купа́лся Суво́ровъ. Фельдма́ршалъ, какъ то́лько заме́тилъ, что адъюта́нтъ идётъ къ нему́, на́чалъ уходи́ть да́льше отъ бе́рега. Адъюта́нтъ догада́лся, что фельдма́ршалъ хо́четъ сыгра́ть съ нимъ шу́тку, и, не жале́я пара́днаго мунди́ра, вхо́дитъ въ во́ду и идётъ пря́мо на Суво́рова. Суво́ровъ по́нялъ, что адъюта́нтъ угада́лъ его́ намѣре́ніе, и пошёлъ ещё да́льше въ мо́ре. Адъюта́нтъ за нимъ. Наконе́цъ Суво́ровъ зашёлъ въ во́ду по са́мую ше́ю, но адъюта́нтъ не отстаётъ отъ него́. Ви́дя, что бѣ́дный адъюта́нтъ весь промо́къ и что э́того наказа́нія съ него доста́точно, фельдма́ршалъ останови́лся и подусти́лъ его́ къ себѣ́. Адъюта́нтъ подошёлъ, сталъ во фронтъ и отрапортова́лъ, что онъ возврати́лся изъ о́тпуска.

Суво́ровъ, посмѣя́вшись надъ мо́крымъ адъюта́нтомъ, сдѣ́лалъ ему́ оте́ческій вы́говоръ и приказа́лъ скорѣе идти́ домо́й, переодѣ́ться и впредь въ точности выполня́ть всѣ приказа́нія, е́сли въ пара́дной фо́рмѣ не хо́четъ купа́ться въ мо́рѣ.

4. О взя́тіи ру́сскими войска́ми Варша́вы, столи́цы По́льши, Суво́ровъ отпра́вилъ донесе́ніе императри́цѣ (Екатери́нѣ II) то́лько въ трёхъ слова́хъ: "Ура́! Варша́ва на́ша." Императри́ца отвѣча́ла ему́ то́лько двумя́ слова́ми: "Ура́, фельдма́ршалъ!" Этимъ отвѣ́томъ госуда́ря Суво́ровъ былъ произведёнъ въ фельдма́ршалы.

91. Вторже́ніе Наполео́на въ Россію въ 1812 году́.

Наполео́нъ вторгну́лся въ Россію безъ объявле́нія войны́.

Ру́сскіе зна́ли, что францу́зскія войска́ съ ка́ждымъ днёмъ бо́лѣе и бо́лѣе скопля́лись на погранѝчной рѣкѣ́ Нѣ́манѣ. Имъ ви́дно бы́ло, какъ непрія́тели свози́ли къ рѣкѣ́ лѣсъ и ло́дки и во мно́гихъ мѣ́ста́хъ про́бовали глубину́ Нѣ́мана, подъ ви́домъ купа́нья, и даже доходи́ли до полови́ны рѣки́. На вопро́сы Ру́сскихъ для чего́ они́ э́то дѣ́лаютъ, они отвѣча́ли, что, перепра́вившись черезъ Нѣ́манъ, ска́жутъ причи́ну. Въ ночно́е вре́мя слы́шны бы́ли съ

противополо́жнаго бе́рега движе́нія, бряца́ніе сабе́ль, то́потъ и ржа́ніе лошадей, кри́ки погони́щиковъ

11-го іюня къ Нѣ́ману вдругъ подъѣ́хала, на всёмъ скаку́, каре́та и останови́лась посреди́ бива́ковъ одного́ пѣхо́тнаго полка́. Изъ каре́ты вы́шелъ Наполео́нъ съ свои́мъ нача́льникомъ гла́внаго шта́ба. Оба они́ сбро́сили съ себя́ францу́зскіе мундиры, одѣ́ли мундиры по́льскихъ полко́вниковъ, сѣ́ли верхо́мъ на лошаде́й и, въ сопровожде́ніи лишь двухъ ада́никовъ, галопомъ поскака́ли по направле́нію къ Ко́вно, въ виду́ ру́сскихъ пике́товъ, стоя́вшихъ на противополо́жномъ берегу́. По мѣста́мъ они остана́вливались, сходи́ли съ лошаде́й и до́лго осма́тривали окре́стность. Избра́вши три мѣ́ста для перепра́вы свое́й арміи, Наполео́нъ приказа́лъ, чтобы, когда стемнѣ́етъ, начина́ли гото́виться наводи́ть мосты́, и самъ ускака́лъ.

Когда́ наступи́ла соверше́нная темнота́, Наполео́нъ сно́ва прискака́лъ къ Нѣ́ману, чтобы ли́чно руководи́ть перепра́вою. Мосты́ были наве́дены въ нѣ́сколько часо́въ; по́слѣ полу́ночи, 12-го іюня, они заколыха́лись подъ тя́жестію наполео́новской а́рміи, въ соста́въ кото́рой входи́ли войска́ 20-ти госуда́рствъ Евро́пы, лишь деся́той ча́сти кото́рыхъ че́резъ по́лгода суждено́ было́ возврати́ться на ро́дину.

92. Бородино́ 26-го а́вгуста 1812-го го́да.

Въ 1812-омъ году́ гла́вное сраже́ніе произошло́ при селѣ́ Бородинѣ́, въ 108-ми́ верста́хъ отъ Москвы́. Здѣсь Куту́зовъ, ру́сскій главнокома́ндующій, рѣши́лся дать Наполео́ну сраже́ніе, не смотря́ на превосхо́дство силъ послѣ́дняго: ру́сская а́рмія состоя́ла изъ 120-ти́ ты́сячъ солда́тъ при 640 (шести́-стахъ сорока́) ору́діяхъ, а у Наполео́на было до 185-ти́ ты́сячъ (челове́къ) солда́тъ и бо́лѣе ты́сячи ору́дій. Сраже́ніе начало́сь 26-го а́вгуста съ пе́рвымъ лучо́мъ восходя́щаго со́лнца.

Оно́ происходи́ло на простра́нствѣ квадра́тной версты́. Столкнове́ніе непрія́телей бы́ло са́мое ожесточённое. Ру́сскіе и францу́зы не уступа́ли другъ дру́гу въ хра́брости. Враги́ броса́ли ору́жіе, вступа́ли въ рукопа́шный бой, души́ли другъ дру́га въ объя́тіяхъ и вмѣ́стѣ па́дали мёртвыми. Выва́ли мину́ты, когда́ за́лпы ору́дій слива́лись въ одинъ гулъ, подо́бный непрерывнымъ раска́тамъ гро́ма. Цѣ́лыя ты́сячи люде́й гибли въ нѣ́сколько мгнове́ній. Къ концу́ дня съ той и другой стороны́ вы́было изъ стро́я бо́лѣе 100 (ста) ты́сячъ челове́къ.

Куту́зовъ хотѣ́лъ возобнови́ть сраже́ніе на сле́дующій день, но по со́бранными но́чью свѣ́дѣніямъ оказа́лось, что Ру́сскіе лиши́лись о́коло полови́ны всей а́рміи. Хотя непріятели потерпѣ́ли не ме́ньшій уро́нъ, одна́ко я́сно было, что продолжа́ть би́тву нельзя́,—и Куту́зовъ отступи́лъ къ Москвѣ́.

Наполеóнъ впослѣдствіи говорúлъ: „Изъ всѣхъ мои́хъ сраже́ній са́мое ужа́сное то, кото́рое было подъ Москво́ю."

93. Пожа́ръ Москвы.

Наполеóнъ надѣ́ялся, что въ Москвѣ́ его́ встрѣ́тятъ первенствующіе чины́ и поднесу́тъ ему́ съ покóрностію ключи́ столи́цы. Но случи́лось соверше́нно проти́вное. Съ приближе́ніемъ Францу́зовъ, жи́тели Москвы́ удали́лись, бóльшею ча́стію, въ другіе города́ и губе́рніи, забра́въ съ собóю все, что могли́. Въ гóродѣ остались лишь бѣднякú, кото́рымъ не́куда бы́ло дѣ́ться.

Прожда́въ напра́сно депута́товъ столи́цы, Наполеóнъ поѣ́халъ наконе́цъ 3 сентября́, въ 11 часóвъ утра́, въ гóродъ. Арба́тъ, гла́вная у́лица Москвы́, по кото́рой онъ ѣ́халъ, былъ соверше́нно пустъ. Еди́нственныя ли́ца, кото́рыя ви́дѣлъ онъ на э́той бóльшóй у́лицѣ, мелькну́ли въ окнѣ́ апте́ки: э́то были содержа́тель ея́ съ семьéю—иностра́нцы и ра́неный францу́зскій генера́лъ, поста́вленный къ нимъ наканýнѣ на кварти́ру. Оки́нувъ ихъ бы́стро глаза́ми, Наполеóнъ продолжа́лъ путь. Онъ ѣ́халъ на ма́ленькой ара́бской лóшади, въ сѣ́ромъ сюртукѣ́, безъ вся́кихъ зна́ковъ отли́чія. Впереди́, на разстоя́ніи са́жень ста, ѣ́халó два эскадрóна кóнной гва́рдіи. Наполеóнъ сошёлъ съ лóшади въ Кремлѣ́ и, смотря́ на его́ стѣ́ны, нѣ́сколько разъ сказа́лъ: „Каки́я вели́чественныя стѣ́ны!" Едва́ Наполеóнъ вступи́лъ въ жили́ще царе́й ру́сскихъ, какъ запыла́ла Москва́ сра́зу въ двухъ мѣста́хъ.

Къ вéчеру подня́лся поры́вистый вѣ́теръ, и огонь, уже откры́вшійся въ ра́зныхъ мѣста́хъ Москвы́, соедини́лся въ одúнъ огрóмный, неизмѣри́мый пожа́ръ. Въ пóлночь пожа́ръ дости́гъ высоча́йшей сте́пени и нару́шилъ равновѣ́сіе атмосфе́ры. Разсвирѣпѣ́вшій вихрь носи́лъ во всѣ́ стóроны горя́щія голóвни. Огóнь ли́лся съ церквéй на дóмы, съ домóвъ на цéркви. Бу́ря и огóнь рвáли кресты́ съ хра́мовъ. Расплáвленные метáллы текли́ по у́лицамъ, какъ ла́ва. На Москвѣ́-рѣ́кѣ́ горѣ́ли мосты́ и суда́. Иностра́нцы и Ру́сскіе, очеви́дцы пожа́ра, уподобля́ли Москву́ óгненному мóрю. Я́ркій свѣ́тъ, проника́вшій въ о́кна дворца́, неоднокра́тно прерыва́лъ сонъ Наполеóна. Онъ неоднокра́тно выходи́лъ на балкóнъ, смотрѣ́лъ на óгненныя вóлны и говорúлъ: „Москвы́ нѣ́тъ бóлѣе! Я липи́лся награ́ды, обѣ́щанной войска́мъ! Ру́сскіе са́ми зажига́ютъ!.. Что за лю́ди!"...

Пыла́ющій жаръ согна́лъ Наполеóна съ балкóна; онъ не могъ да́же стоя́ть у óконъ: стéкла трещáли и лóпались. Голóвни на́чали па́дать на Кремль; нѣ́сколько разъ загора́лся арсена́лъ. Ночно́ для Наполеóна опа́сность ежеминýтно уси́ливалась, тѣ́мъ бóлѣе, что патрóнные я́щики, расположéнные на кремлёвскихъ площадя́хъ, подвéржены бы́ли взры́вамъ. Окружа́вшіе Наполеóна упра́шивали его́ вы́ѣхать изъ Кремля́ за́ городъ. Онъ до́лго не соглаша́лся, но наконе́цъ рѣ́шился уступúть усúленнымъ прóсьбамъ и переѣ́ха́ть въ за́горо-

дный Петро́вский дворе́цъ Впро́чемъ, не такъ-то легко́ бы́ло Наполео́ну вы́ѣхать изъ Москвы́. Внача́лѣ онъ пое́халъ ближа́йшею доро́гою, но ско́ро до́лженъ былъ убѣди́ться въ невозмо́жности выбра́ться изъ го́рода э́тимъ путёмъ; эта часть города вся была въ огнѣ. Съ оглуша́ющимъ тре́скомъ обру́шивались кры́ши, па́дали сте́ны, горѣвшія бре́вна и до́ски; въ ра́зныя сто́роны лета́ли желѣ́зныя листы́ съ кры́шъ. Пла́мя крути́лось въ во́здухѣ надъ голово́ю Наполео́на; пыла́ющія бре́вна и раскалённыя ку́чи кирпича́ прегражда́ли ему́ доро́гу. Онъ шёлъ по о́гненной земл́ѣ, подъ о́гненнымъ не́бомъ, среди́ о́гненныхъ сте́нъ. Ви́дя невозмо́жность боро́ться съ стихіею, онъ возврати́лся и принуждёнъ былъ избра́ть другу́ю, бо́лѣе дли́нную доро́гу.

Всѣ уси́лія употребля́лъ Наполео́нъ, что́бы потуши́ть пожа́ръ, но въ продолже́ніе трёхъ су́токъ пожа́ръ не прекраща́лся. Лишь удава́лось потуши́ть огонь въ одно́мъ мѣ́стѣ, какъ начина́лся пожа́ръ въ друго́мъ: са́ми Ру́сскіе поджига́ли го́родъ, что́бы онъ не достался врагу́. Въ тече́ніе трёхъ су́токъ пожа́ръ уничто́жилъ бо́лѣе, чѣ́мъ три че́тверти Москвы́.

94. Отступле́ніе Наполео́на изъ Россіи.

Наполео́нъ былъ увѣ́ренъ, что лишь только Москва́, се́рдце Россіи, бу́детъ имъ взята́, сейча́съ же Алекса́ндръ I ста́нетъ проси́ть у него́ ми́ра, усло́вія кото́раго продикту́етъ онъ, Наполео́нъ, и сла́вная для него́ война́ будетъ окончена. Но случи́лось друго́е.

Лишь только онъ вошёлъ въ Москву́, она сгорѣ́ла; сгорѣ́ли и запа́сы прові́анта, кото́рые были въ ней,—и въ а́рміи Наполеона вскорѣ́ нача́лся го́лодъ. Приго́родные крестья́не ни за какія де́ньги не хотѣ́ли продава́ть свои́хъ сельскихъ проду́ктовъ—хлѣ́ба, овса́, сѣ́на, дровъ и т. п. врагу́ своего́ оте́чества и, ещё и́здали завидя́ приближа́ющійся непрія́тельскій отря́дъ, предава́ли своё иму́щество огню́, а са́ми разбѣга́лись. Около Москвы́ разъѣзжа́ли казаки́ и вооружённые крестья́не; они́ хра́бро напада́ли на непрія́тельскіе отря́ды, кото́рые выѣзжа́ли изъ го́рода на по́иски прові́анта въ сосѣ́днія дере́вни. Для утоле́нія го́лода непрія́тели должны́ были ѣсть воро́нъ, ко́шекъ, соба́къ и лошади́ную па́даль. Положе́ніе Наполео́на становилось затрудни́тельнымъ, тѣ́мъ бо́лѣе, что ру́сское во́йско съ ка́ждымъ днёмъ всё болѣе и болѣе увели́чивалось, такъ какъ новобра́нцы въ это вре́мя ты́сячами на́чали стека́ться въ дѣ́йствующую а́рмію со всѣ́хъ концо́въ грома́дной Россіи. Для Наполео́на становилось я́снымъ, что Алекса́ндръ и не ду́маетъ просить у него́ ми́ра. Наполео́на начина́ла безпоко́ить мысль, какъ онъ проведётъ ру́сскую суро́вую зи́му въ обгорѣ́лой Москвѣ́, совсѣ́мъ не имѣ́я прові́анта и бу́дучи со всѣ́хъ сторо́нъ окружёнъ ру́сскими войска́ми, тепе́рь уже́ превосходи́вшими свои́мъ число́мъ его́ а́рмію. И онъ рѣши́лся самъ нача́ть перегово́ры о ми́рѣ. Но Алекса́ндръ на пе́рвые его два письма́ да́же не далъ отвѣ́та, а на тре́тье лишь

сказа́лъ по́сланному Наполео́на, что Россія и онъ до тѣ́хъ поръ не прекрати́тъ войны́, пока́ после́дній непрія́тельскій солда́тъ не вы́йдетъ изъ Россіи. Положе́ніе Наполео́на въ Москвѣ́ сдѣлалось соверше́нно безвы́ходнымъ, и онъ рѣши́лъ отступи́ть въ ю́го-за́падныя плодоро́дныя губе́рніи. Онъ неожи́данно для свои́хъ во́йскъ далъ прика́зъ—выступа́ть изъ Москвы́ 7-го октября́.

Разсе́рженный хра́бростью Ру́сскихъ и ихъ непоколеби́мымъ жела́ніемъ во-что́-бы-то-ни-ста́ло продолжа́ть войну́, Наполео́нъ приказа́лъ взорва́ть, выступа́я изъ Москвы́, всѣ́ зда́нія въ Кремлѣ́. Къ сча́стію, э́то приказа́ніе Наполео́на не вполнѣ́ было приведе́но въ исполне́ніе: взорваны были лишь сте́ны и ба́шни. Наполеоновская а́рмія выступа́ла изъ Москвы́ такъ торопли́во, что мно́гіе генера́лы и офице́ры не успѣ́ли увезти́ съ собо́ю всѣ́хъ похи́щенныхъ и́ми вещей́. При всемъ томъ обо́зъ, слѣ́довавшій за а́рміею Наполео́на, былъ чрезвыча́йно огро́мный. На разстоя́ніи бо́лѣе 30-ти́ ве́рстъ тяну́лось въ 4 ряда́ несмѣ́тное мно́жество каре́тъ и теле́гъ, нагружённыхъ награбленною добы́чею. Этотъ обо́зъ придава́лъ наполео́новой а́рміи видъ ди́кихъ племёнъ Азіи, возвраща́ющихся на ро́дину съ похи́щеннымъ иму́ществомъ вражде́бнаго кра́я, кото́рый они разори́ли огнёмъ и мечо́мъ.

Са́мая а́рмія Наполео́на въ пе́рвое вре́мя по выступле́ніи изъ Москвы́ имѣ́ла вои́нственный видъ и поря́докъ и была́ страшна́ свое́ю хра́бростію и иску́ствомъ своего́ предводи́теля; но прошло́ нѣ́сколько недѣ́ль—и э́та гро́зная а́рмія была́ почти́ соверше́нно уничто́жена ру́сскимъ ору́жіемъ, го́лодомъ и сту́жею.

Наполео́нъ предполага́лъ, вы́йдя изъ Москвы́, прорва́ться че́резъ ру́сскую а́рмію на югъ и провести́ зи́му въ плодоро́дныхъ губе́рніяхъ, гдѣ́ онъ наде́ялся найти́ грома́дные запа́сы всевозмо́жнаго прові́анта и дать о́тдыхъ свои́мъ во́йска́мъ, чтобы съ наступле́ніемъ тёплаго вре́мени сно́ва нача́ть вое́нныя де́йствія. Но опять случи́лось проти́вное. Три ра́за отча́янно стара́лся онъ прорва́ться на югъ—и три ра́за съ грома́днымъ уро́номъ вы́нужденъ былъ отступи́ть. Наполео́ну остава́лось тепе́рь лишь одно́: поверну́ть на ста́рую, имъ самимъ опустошённую и разорённую, доро́гу и бѣжа́ть, скорѣе бѣжа́ть изъ негостепріи́мной Россіи. Онъ это и сдѣлалъ. Сча́стіе соверше́нно измѣни́ло Наполео́ну съ э́того вре́мени: одно́ пораже́ніе бы́стро сле́дуетъ за други́мъ и „вели́кая а́рмія" съ ка́ждымъ днёмъ прихо́дитъ въ бо́льшее и бо́льшее разстро́йство.

Разстро́йство наполео́новской а́рміи, по́слѣ пораженія при Бере́зинѣ, дости́гло до невѣроя́тной сте́пени отъ наступи́вшей вдругъ жесто́кой сту́жи. Съ 16-го ноября́ постоя́нно было бо́льше 20-ти гра́дусовъ моро́за; 22-го ноября́ едва́ мо́жно было говори́ть: отъ хо́лода спира́лось дыха́ніе. Сти́снувъ зу́бы, непрія́тели шли и бѣжа́ли въ безмо́лвномъ отча́яніи. Но́ги обвёртывали они попо́нами и ста́рыми шля́пами, оку́тывали го́лову, лицо́ и пле́чи мѣ́шка́ми, рого́жами. На доро́гѣ находи́лось немно́го уцѣлѣ́вшихъ семе́ній: всѣ они́ при

ше́ствіи непрія́теля внутрь Россіи бы́ли, бо́лѣе или мо́нѣе, ограблены, разорены́, вы́жжены. Когда́ непріятели принуждены́ были бѣжа́ть по доро́гѣ, и́ми опустошённой, то, завидя како́е-нибу́дь строе́ніе, они спѣши́ли къ нему́,—но до́мы бы́ли пу́сты и въ нихъ раздава́лся лишь свистъ вѣтра. Не находя́ кро́ва, непріятель жегъ на пути́ своёмъ дома́, хлѣва́, забо́ры, для того́ то́лько, чтобы согрѣ́ться хотя́ на одно́мъ ночле́гѣ. На пожа́рищахъ лежа́ли ку́чи солда́тъ; приблизи́вшись къ огню́, они не имѣ́ли бо́лѣе си́лы отойти́ отъ него́. Продовольствія на доро́гѣ, разумѣ́ется, никако́го не́ было, и непріятели должны́ были пита́ться лошади́ною па́далью, на кото́рую кида́лись съ жа́дностію. На ночле́гахъ непрія́тели не всегда́ находи́ли успоко́еніе, потому́ что ихъ безпреста́нно тревожили донскіе казаки́. При одно́мъ и́мени „каза́къ!" сдава́лись непріятели или бѣжа́ли да́льше иска́ть друго́го ночле́га. Плѣ́нными уже́ давно́ пренебрега́ли; ча́сто наполеоновскіе солда́ты наро́чно отстава́ли толпа́ми отъ арріергарда, шли навстрѣ́чу ру́сскимъ войска́мъ и сдава́лись имъ въ плѣ́нъ. Иногда́ цѣ́лымъ ты́сячамъ плѣ́нныхъ дава́ли двухъ-трехъ казако́въ или простыхъ крестья́нъ въ конво́йные. Нерѣ́дко ба́бы, одна́ впереди́, друга́я позади́, вооружённыя лишь па́лками, сопровожда́ли плѣ́нниковъ до ближа́йшаго го́рода. Свирѣ́пость судьбы́ всѣхъ уравня́ла и породи́ла зло, кото́рое ужа́снѣе моро́за и го́лода—неповинове́ніе къ нача́льству, неуваже́ніе къ ста́ршимъ. Оди́нъ генера́лъ подошёлъ гре́ться къ огню́, у кото́раго сидѣ́ли солда́ты; они́ отогна́ли его́, говоря́: „самъ принеси́ полѣ́но!"

Такъ погиба́ла а́рмія, приведе́нная Наполео́номъ въ Россію. Въ бава́рскихъ войска́хъ, состоя́вшихъ при нача́лѣ войны́ изъ 30,000 челове́къ, осталось, по вы́ходѣ изъ Россіи, лишь 20 челове́къ вооружённыхъ. Ко́рпусъ италіа́нскій, состоя́вшій въ іюнѣ изъ 60 ты́сячъ челове́къ, былъ до тако́й сте́пени уничто́женъ, что, перейдя́ ру́сскую грани́цу, онъ помѣсти́лся въ одно́й крестья́нской ко́мнатѣ: изъ 60 ты́сячъ осталось то́лько 7 челове́къ. Вообще́, изъ 670,000 челове́къ, приведе́нныхъ Наполео́номъ въ Россію, ме́нѣе 70,000 челове́къ увидѣ́ли своё оте́чество; остальны́е въ продолже́ніе полуго́да или были́ уби́ты въ сраже́ніяхъ, или были́ взяты́ въ плѣ́нъ, или умерли́ отъ ранъ, боле́зней, го́лода и сту́жи

95. Разска́зы про Алекса́ндра I.

1. Пари́жъ въ 1813-мъ году́ сда́лся сою́знымъ войска́мъ безъ бо́я. При въѣ́здѣ импера́тора Алекса́ндра въ столи́цу Фра́нціи грома́дныя то́лпы парижа́нъ вы́шли къ нему́ на встрѣ́чу." Я вступа́ю къ вамъ не врагомъ, а дру́гомъ; я возвраща́ю вамъ миръ," говори́лъ онъ, обраща́ясь къ наро́ду. „Мы уже́ давно́ ожида́ли прибы́тія ва́шего вели́чества," сказа́лъ на э́то одинъ францу́зъ Импера́торъ отвѣча́лъ: „И я хотѣ́лъ гора́здо ра́нѣе прибы́ть къ вамъ, но меня́ задержа́ли...въ моей медли́тельности обвиня́йте хра́брость ва́шихъ войскъ."

2. Одинъ знамени́тый генера́лъ, почте́нный ста́рецъ, обѣдая въ гостя́хъ у импера́тора Алекса́ндра I, засну́лъ за столо́мъ. Придво́рные, какъ то́лько замѣ́тили э́то, сейча́съ же хотѣ́ли разбуди́ть его́, но госуда́рь останови́лъ ихъ: „Не тро́гайте его: пусть онъ отдохнётъ; въ своёй жи́зни онъ мно́го потруди́лся за насъ; бу́демте говори́ть ти́ше, что́бы не разбуди́ть его."

3. Въ Пари́жѣ, въ 1814-омъ году́, знамени́тый худо́жникъ Жера́ръ пока́зывалъ свою́ мастерску́ю ва́жному иностра́нцу, кото́рый храни́лъ инко́гнито, и хотя́ молоды́мъ ученика́мъ и трудно внуши́ть уваже́ніе, но всѣ они́ нево́льно присмирѣ́ли при вхо́дѣ незнако́мца, со внима́ніемъ осма́тривавшаго ихъ рабо́ты. Наконе́цъ, иностра́нецъ останови́лся пе́редъ молоды́мъ челове́комъ, кото́рый то́лько наброса́лъ о́черкъ карти́ны.

—„Вотъ прекра́сный о́черкъ," сказа́лъ незнако́мецъ. „Позво́льте узна́ть ва́ше и́мя."

—„Меня́ зову́тъ Штейбе́нъ." отвѣча́лъ учени́къ.

Жера́ръ тотчасъ же замѣ́тилъ посѣти́телю, что молодо́й челове́къ, заслужи́вшій его́ внима́ніе и подаю́щій бо́льшія наде́жды, получи́лъ первонача́льное образова́ніе въ петербу́ргской акаде́міи худо́жествъ, что оте́цъ его́, эмигра́нтъ, поступи́лъ въ Россіи въ вое́нную слу́жбу и дослужи́лся до чи́на полко́вника. Посѣти́тель началъ ла́сково распра́шивать молодо́го челове́ка про его́ заня́тія. Обо́дренный внима́ніемъ молодо́й худо́жникъ предложи́лъ: „Позво́льте мнѣ показа́ть вамъ одно́ изъ око́нченныхъ мои́хъ произведе́ній." Посѣти́тель согласи́лся, и художникъ проводи́лъ его въ другу́ю ко́мнату, гдѣ стоя́ла карти́на, изобража́вшая Петра́ I на Ла́дожскомъ о́зерѣ. Не смотря́ на нѣкоторые недоста́тки, всё дока́зывало иску́сную кисть, и сце́на была́ предста́влена чрезвыча́йно вѣ́рно. Бу́ря и страхъ матро́совъ составля́ли ра́му для споко́йной, вели́чественной фигу́ры Петра́, кото́рый, взявъ руль, какъ бу́дто говори́лъ матро́самъ: „Вы не поги́бнете; съ ва́ми Пётръ!"

—„Была́ ли э́та карти́на на вы́ставкѣ?" спроси́лъ незнако́мецъ.

—„Была́ въ 1812 году́, и импера́тору Наполео́ну предлага́ли купи́ть её за шесть ты́сячъ фра́нковъ, но онъ отказа́лся."

—„Такъ я даю́ за э́ту карти́ну по́ три ты́сячи фра́нковъ въ годъ въ продолже́ніе пяти́ лѣтъ!"

—„Что э́то зна́читъ? Кто вы?....." пробормота́лъ удивлённый худо́жникъ.

—„Вы хоти́те знать, съ кѣ́мъ имѣ́ете дѣ́ло? Меня́ зову́тъ Алекса́ндромъ; я ру́сскій импера́торъ."

Штейбе́нъ онѣмѣ́лъ отъ ра́дости. Импера́торъ приба́вилъ: „Чтожъ, согла́сны вы на моё предложе́ніе?"

—„Согла́сенъ, госуда́рь, и благодарю́ васъ.....То́лько прошу́, что́бы назна́ченныя ва́ми де́ньги получа́лъ моя́ ма́ть, кото́рой онѣ необходи́мы для воспита́нія моего́ мла́дшаго бра́та."

Импера́торъ удивился. „Тала́нтъ и до́брое се́рдце!" сказа́лъ онъ. „И вдвойнѣ́ дово́ленъ сего́днишнимъ днёмъ."

И въ продолже́ніе пяти́ лѣтъ мать Птейбе́на получа́ла акура́тно сумму, назна́ченную Алекса́ндромъ Пе́рвымъ.

96. Разска́зы про Никола́я I.

1. Разъ импера́торъ Никола́й Па́вловичъ заѣхалъ въ каде́тскій ко́рпусъ, былъ въ ду́хѣ, шути́лъ съ каде́тами и позволя́лъ имъ въ своёмъ прису́тствіи мно́гія во́льности.

„Чѣ́мъ жела́лъ бы ты быть?" спроси́лъ госуда́рь одного́ каде́та малолѣ́тняго отдѣле́нія.

—Гуса́ромъ! отвѣча́лъ каде́тъ.

„Хорошо́, бу́дешь! А ты чѣ́мъ хо́чешь быть?" обрати́лся импера́торъ къ другому каде́ту.

Каде́тъ посмотрѣ́лъ ему́ смѣ́ло въ глаза́ и отвѣ́чалъ: „Госуда́ремъ!"

Госуда́рь засмѣя́лся и сказа́лъ. „Не совѣ́тую, братъ; тру́дная слу́жба! Ступа́й лу́чше въ гуса́ры."

—Нѣ́тъ, я хочу́ быть госуда́ремъ, повтори́лъ каде́тъ.

„Зачѣ́мъ?" спроси́лъ импера́торъ.

—Чтобъ привезти́ въ Петербу́ргъ отца́ и мать.

„А гдѣ́ же твой оте́цъ?"

Онъ слу́житъ капита́номъ въ Сиби́ри.

„Это мы и безъ того́ сдѣ́лаемъ," сказа́лъ госуда́рь. Онъ ла́сково потрепа́лъ каде́та по щекѣ́ и велѣ́лъ бы́вшему съ нимъ дежу́рному генера́лъ-адъюта́нту записа́ть фами́лію и мѣ́сто слу́жбы отца́ каде́та.

Мѣ́сяца че́резъ четы́ре оте́цъ каде́та яви́лся въ ко́рпусъ къ сы́ну и съ изумле́ніемъ узна́лъ причи́ну ми́лости импера́тора, кото́рый перевёлъ его́ на слу́жбу въ оди́нъ петербу́ргскій полкъ и приказа́лъ вы́дать ему́ нѣ́сколько ты́сячъ рубле́й на доро́гу и обмундиро́вку.

2. Импера́торъ Никола́й Пе́рвый нерѣ́дко прогу́ливался по у́лицамъ Петербу́рга безъ вся́кой сви́ты, инко́гнито. Разъ встрѣ́тили его́ пять человѣ́къ каде́тъ. Они зна́ли, что госуда́рь не люби́лъ, когда его́ узнава́ли во вре́мя подо́бныхъ прогу́локъ, и потому́, почти́тельно посторони́вшись, не поклони́лись ему́. Вдругъ госуда́рь стро́го обраща́ется къ нимъ: „Ра́звѣ вы не зна́ете, кто я? Какъ же вы смѣ́ли не поклони́ться мнѣ?" Бѣ́дные каде́ты въ стра́хѣ и смуще́ніи не могли́ промо́лвить ни сло́ва. „Ступа́йте сейча́съ же во дворе́цъ подъ карау́лъ и жди́те тамъ моего́ рѣше́нія."

Каде́ты отпра́вились въ Зи́мній дворе́цъ, объяви́ли тамъ, кто и зачѣ́мъ прислалъ ихъ, и бы́ли посажены подъ аре́стъ. Сперва́ они чу́вствовали страхъ и съ тре́петомъ ожида́ли съ мину́ты на мину́ту рѣше́нія своей у́части, но про-

шёлъ часъ, другой; третій—никто́ не явля́ется, и чу́вство стра́ха перешло́ въ тоску́. Къ э́тому присоедини́лось епцё чу́вство го́лода. Когда́ тоска́ и голо́дъ дости́гли крайней сте́пени, дверь отвори́лась, и вошли́ придво́рные служителя́ съ блю́дами превосхо́дныхъ ку́шаньевъ и буты́лкою вина́ „Его́ импера́торское вели́чество," сказа́лъ оди́нъ изъ нихъ: „изво́лилъ присла́ть вамъ обѣ́дъ; онъ сове́туетъ вамъ на бу́дущее вре́мя быть бо́лѣе осмотри́тельными: госуда́рю импера́тору не всегда́ удо́бно приглаша́ть васъ къ себѣ́ на обѣ́дъ."

Каде́ты въ востортѣ налили́ вино́мъ по́лные бока́лы, провозгласи́ли заздра́вный то́стъ своему́ раду́шному ца́рственному хозя́ину и гро́мко и единоду́шно прокричали „ура!"

97. Донскіе Казаки́.

Донскіе казаки́ образова́лись гла́внымъ о́бразомъ изъ ру́сскихъ удальцо́въ, собира́вшихся изъ ра́зныхъ областе́й обши́рной Россіи на приво́льные берега́ До́на, изоби́ловавшіе всѣ́ми усло́віями для безпе́чной и своево́льной жа́зни. Непроходи́мыя боло́та и дрему́чіе лѣса́ служи́ли сильнѣ́йшею защи́тою для ихъ селе́ній, разсѣ́янныхъ по бе́регу До́на и о́коло у́стьевъ Донца́, а бли́зость степе́й представля́ла возмо́жность дѣ́лать внеза́пные набѣ́ги на сосѣ́дей, укрыва́ться отъ ихъ преслѣ́дованій и наказа́ній и не признава́ть надъ собо́ю ничьей вла́сти. Набѣ́ги ихъ устремлены́ были бо́лѣе всего́ на о́бласти магомета́нскія. Донцы́ счита́ли по́двигомъ че́сти напада́ть на почита́телей Магоме́та, разоря́ть ихъ селе́нія, гра́бить на су́шѣ ихъ карава́ны, разбива́ть на мо́рѣ ихъ фло́ты, а люде́й уводи́ть въ плѣ́нъ. Приро́дныя препя́тствія ста́вились ими ни во что. Преграждала ли путь казаку́ широ́кая рѣка́,—онъ броса́лъ на во́лны нѣ́сколько пучко́въ камыша́, пло́тно свя́занныхъ, клалъ на нихъ сѣдло́, оде́жду и вьюкъ, а самъ съ конёмъ пуска́лся вплавь. Ихъ морскіе набѣ́ги были ещё отва́жнѣе. Въ лодкахъ, изъ кото́рыхъ самая больша́я вмѣща́ла въ себѣ́ не бо́лѣе 50 челове́къ, они́ пуска́лись по моря́мъ Азо́вскому и Чёрному до Константино́поля, бра́ли корабли́ и суда́ турецкіе, разоря́ли прибре́жныя селе́нія и напада́ли да́же на города́.

Наконе́цъ донскіе казаки́ почу́вствовали необходи́мость быть подъ покрови́тельствомъ царя́ си́льнаго. Одина́ковая вѣ́ра и одина́ковое происхожде́ніе обрати́ли ихъ къ Россіи. Царь Іоа́ннъ Васи́льевичъ (въ полови́нѣ 16-го столѣ́тія) при́нялъ донцо́въ въ своё по́дданство, пожа́ловалъ имъ зна́мя, снабди́лъ по́рохомъ и свинцо́мъ и поручи́лъ имъ охраня́ть ю́жные предѣ́лы Россіи.

Заслу́ги хра́брыхъ донцо́въ со временъ Петра́ Вели́каго неизчи́слимы.

Казаки́ съ че́стію и по́льзою служи́ли во всѣ́хъ война́хъ, ве́денныхъ Россіею съ Ту́рціею, Пе́рсіею, По́льшею, Шве́ціею, Фра́нціею и осо́бенно въ безсме́ртную кампа́нію 1812, 13 и 14 годо́въ.

Донски́хъ казако́въ легко́ отличи́ть по огню́, блиста́ющему въ ихъ глаза́хъ,

по быстротѣ, которая обнаруживается во всѣхъ ихъ поступкахъ и движеніяхъ. На лицѣ ихъ выражается сообразительность и смѣлость. Эти способности казаковъ приводятъ въ изумленіе всѣхъ, кто имѣлъ ихъ въ своёмъ распоряженіи, и дѣлаютъ ихъ надёжными стражами для войска. Открыть непріятеля, опредѣлить число его, пробраться скрытно по дремучему лѣсу, по голой степи, въ землѣ непріятельской, совершенно неизвѣстной, захватить въ плѣнъ врага—никто не можетъ лучше казака. Оттого, въ знаменитую кампанію 1813 и 1814 годовъ, всѣ желали имѣть себѣ охранителями и проводниками казаковъ; любопытно было видѣть иностранныхъ министровъ и генераловъ, разъѣзжавшихъ по Австріи, Франціи, Пруссіи, Саксоніи съ казацкимъ конвоемъ.

Достойна особеннаго замѣчанія нѣжная любовь, которую донцы питаютъ къ „*тихому Дону.*" Отправляясь въ далёкій путь или походъ, они берутъ съ собою горсть земли съ берега его, завязываютъ её въ узелокъ и никогда съ нею не разстаются. Большая часть пѣсенъ казацкихъ также обращены къ „тихому Дону."

Съ самыхъ юныхъ лѣтъ первая забава и упражненіе казака—быть на лошади, пріучать тѣло къ ловкимъ движеніямъ. Изстари велось обыкновеніе, что новорождённому въ подарокъ приносили въ колыбель стрѣлу, пулю, ружьё и порохъ. Лишь только прорѣзывались у ребенка зубы, его сажали на лошадь, а трехлѣтніе мальчики сами ѣздили на лошадяхъ по широкому двору. Неудивительно послѣ этого, что между казаками много такихъ наѣздниковъ, которые на всёмъ скаку подвёртываются подъ лошадь и въ тотъ же мигъ опять вскакиваютъ на неё; сильно и мѣтко управляютъ они пикою и въ тоже самое время, стрѣляя изъ ружья или пистолета, попадаютъ въ цѣль не прицѣливаясь.

Въ праздничные дни часто по цѣлымъ полкамъ донскіе казаки собираются забавляться воинскими играми на площадяхъ, нарочно для того выровненныхъ при селеніяхъ. Въ такихъ забавахъ участвуютъ малые и старые, потому что „*удальство въ казакѣ не старѣетъ.*"

Лошади казацкія не видны, не статны, но въ дѣлѣ онѣ не уступаютъ никакимъ другимъ пылкостію, крѣпостію и послушаніемъ; повинуются не только слову хозяина, но даже пожатію колѣнъ. Казакъ кидается съ своею лошадью съ крутого берега въ быструю, глубокую рѣку; пускается чрезъ сыпучія, знойемъ палящія степи, чрезъ снѣжные, дремучіе лѣса. Образъ атаки казаковъ хотя всѣмъ извѣстенъ, но всегда производитъ дѣйствіе новости и внезапности. Онъ состоитъ въ томъ, что казаки пускаются на непріятеля въ галопъ, но на близкомъ разстояніи вдругъ разсыпаются въ стороны, и между тѣмъ какъ нѣсколько отборнѣйшихъ наѣздниковъ летятъ на фронтъ, другіе являются по флангамъ и въ тылу; съ ужасною быстротою и крикомъ приводятъ непріятеля въ разстройство и опрокидываютъ его. Блестящій примѣръ такой

ата́ки ви́дѣли въ сла́вной би́твѣ подъ Ле́йпцигомъ, когда́, по приказа́нію импера́тора Алекса́ндра, графъ Орло́въ-Дени́совъ—такъ сказа́ть на глаза́хъ всей европе́йской а́рміи—съ го́рстію казако́въ бро́сился на ко́нную лейбъ-гва́рдію Наполео́на и не то́лько останови́лъ отча́янное стремле́ніе непрія́теля, но смялъ и обрати́лъ его́ въ бѣ́гство. Послѣ э́того не удиви́тельно, что одно и́мя „казакъ!" приводи́ло и ещё теперь приво́дитъ непрія́теля въ у́жасъ.....

譯讀文例の和譯

1. 春の到來

1. 春は近づきたり。太陽は尙ほ早く出てゝ尙ほ遲く入れり。彼れは尙ほ晃かに輝きて尙强く暖めけり。雪は解けて小流を成して山より流れ落ちたり。河は氾濫せり。萬物は復生し。甲蟲と蚋は冬の睡眠より醒めたり。野獸も同じく眠りを醒まして穴と棲巢より出でたり。うれ既に牧草場も綠を成し始め、木葉は芽を發し、花は咲き、鳥は飛來り、鶯と雲雀は囀り始めたり。

2. 春の近つくと共に太陽は尙早く出てゝ尙ほ晩く入らん。彼は尙ほ晃かに輝きて尙ほ强く暖むならん。雪は解け小流を成して山より流れ落ち始めん。河は氾濫せん。萬物は復生せん。甲蟲と蚋は目醒むるならん。野獸も同じく眠を醒まして穴と棲巢より出つるならん。程なく其後牧草場は綠を成し、木葉は萌芽し、花は開き始めん、鳥は飛來るならん、鶯と雲雀は囀るならん。

2. 秋の到來

1. 秋は來かゝりたり。日は愈々短く、して夜は愈々長くなり始めたり。天には鼠色の雨雲が延長し。細かき雨は降り。强き風は吹き。木上の葉は黃色くなりて散り落ち。田野は空漠となれり。花は凋み。果實は成熟し。鳥は暖地に飛去り。家の窓には冬の窓枠を嵌め。爐を焚き尙ほ暖かに着服し始めかゝれり。

2. 秋は全く來れり。日は愈々短く、して夜は愈々長くなれり。天には鼠色の雨雲が延長せり。細かき雨は降れり。强き風は吹けり。木上の葉は(全く)黃色くなりて(全く)散り落ち。田野は(全く)空漠となれり。花は(全く)凋めり。果實は(全く)生熟せり。鳥は暖地に(全く)飛去れり。家の窓には冬の窓枠を嵌めたり(全く)爐を焚き尙ほ暖かに着服し始めたり(全く)。

3. 秋は來る。日は愈々短く、して夜は愈々長くなる。天には鼠色の雨雲が延長す。細かき雨は降る。强き風は吹く。木上の葉は黃色となり散り落つ。田野は空漠となる。花は凋む。果實は生熟す。鳥は暖地に飛去る。家の窓には冬の窓枠を嵌め。爐を焚き尙ほ暖かに着服し始む。

4. 秋は將に來らんとす。日は愈々短く、して夜は愈々長くならんとす。天には鼠色の雨雲が延長せんとす。細かき雨は降らんとす。强き風は吹かんとす。木上の葉は黃ばみて散り落ちんとす。田野は空漠ならんとす。花は凋まんとす。果實は成熟せんとす。鳥は暖地に飛去らん。家の窓には冬の窓枠を嵌めん。爐を焚きて尙ほ暖かに着服せん(全く)。

5. 秋の來ると共に日は短くなり夜は長くなるに至らん。天には鼠色の雨雲延長するに至らん。細雨は降るに至らん。强風は吹くに至らん、木上の葉は黃ばみて落るに至らん。田野は空漠となるに至らん、花は凋むに至らん、果實は成熟するに至らん。鳥は暖地に飛去るに至らん。家の窓には冬の窓枠を嵌に至らん。爐を焚きて尙暖かに着服するに至らん。

3. 人の歷史

生れ、生活し、營養を受け、生育し、學び、智力發達し、勞し、老い、衰弱し、死す。

4. 露西亞の都府

露西亞の新都彼得堡は莫斯科より遙か北に位す。彼は尙ほ多く沼池勝ちの地質に廣がり在る故に其氣候は莫斯科の(氣候)より健全なること少きものと思はる、彼處の天氣は矢張り莫斯科のより尙ほ變り易く、又一年中の雨勝の日も尙ほ多し。然し彼得堡は海に近接して在る故に、彼處の氣候は尙ほ和かなり、莫斯科よりも夏は涼しくして冬は穩かなり。

彼得堡の河 Нева は Москва 河より比べにならぬ程廣く、水量は多く、美麗なり。

彼得堡は遙か平坦なる場所に存する故に其景色は一樣なり、然しながらうの代り市街は莫斯科より餘程廣く且つ眞直なり。

彼得堡は莫斯科より狹小なり然し彼よりは遙かに人口多し、彼得堡の家屋は莫斯科のより遙かに高し。

彼得堡には學校は莫斯科より多し然れども寺院は大層少なし。

5. 小兒の眼鏡

童子は父に言ふた「我に眼鏡を買(ひ與)へよ、汝が讀む如くに我も同しく書物を讀みたい」。父は彼に答ふた「好し、我は汝に眼鏡を買はん、唯小兒の(なるず)ゝして童子に以呂波を買(ひ與へ)た。

5. 強き愛情

或る童子が往來を橫ぎりて走せた。忽ち荷車が來た。童子は躓て車の下に爲つた、輪は彼の片足を挫いた。可哀さうなる此兒を家に抱へて來た。彼の母は病氣で居た、而して我子の悲鳴を聞て急て寢床より跳ね降りた、而して氣絕して倒れた。童子は直に悲鳴を止めた、而してうの足を直して湖帶する間は彼は一度も叫ばなかつた。醫者は之に問ふた「汝は痛くないか」。童子は耳語にて答へた「痛いどころではなく實に痛い、が然し母上が之を悟るならんと、うれがいやだ、母は大層心配して居る。

7. 農夫と鷲

農夫は雁を捕へんとて網を張つた、うの雁は彼れの網に大なる害を加へた。或時彼は若干の雁を捕へた、して其數中に鷲をも。鷲は農夫に願ひかけた「善い人(だから)私を放して下さい、私はおまへの前に何の告もない又おまへの畑に何の害も爲ない、且又私には老いたる母がある、私は彼を養育しなければならぬ」。農夫は推返して曰く「それは全くううだ、然し貴樣は何故に斯かる惡仲間の中にうろつき居るのだ」。して之を放さなかつた。

8. 漁夫と小魚

漁夫が小魚を捕へた。小魚は已れを水中に放ち返すことを之に願ふた。彼は之に談じた「私は未た甚だ小さい、しておまへにも私よりして利益(を得ること)は少なからん、私が成長せし時におまへは復た私を捕ふることが出來る、して其時は私がおまへの爲に一層有益なるであらう」。漁夫は答へた「掌中の小利は待望中の大利に勝さる」、して小魚を水中に放ち戻さざりし。

9. 鷄

勤勉なる主婦が朝早く鷄鳴の響き渡るや否其下婢等を起こした。下婢等は鷄に對して憤を發して密かに之を刺し殺した。然るに此後何事や生ぜし。鷄鳴は每朝最早や聞ゆることなかりし、然れども勤勉なる主婦は其下婢等が寢過ごさんことを恐れて以前より尙ほ早く之を起し始めた、時としては夜半にすら(起した)。

10. 鷄と眞珠の粒

鷄が邸內の芥を掘り散らして其中に眞珠を見出した。彼は言ふた「眞珠はなんとつまらぬ物だな、實に解らぬ、何故人々は斯く之を大層に珍重するか。我が思ふには大麥の方が遙か勝さる。あれは美味で養分に富む」。

11. 眞珠

行脚者が水なき砂漠に道を失ふた。彼は甚だ饑て居た、且つ酷き渇は彼を苦めた。遂に彼は影深き椰子の木と新鮮の泉の傍に來着した。泉の傍に小嚢が有つた。行脚者は之を持上げながら云ふた「有難し、是れは確か棗子だ、是れは我を餓死より救ふならん」。彼は夢中で嚢を開けて驚き叫んだ」「南無三、これは眞珠だ」。

12. 乞食と犬

犬が大なる邸を警固した。彼は乞食を見て之を吠え始めた。憫れなる此者は犬に願ひ付けた「おれの身の上を憫んでくれ、おれははや二日喰はないで居た、おれは餓えて死にかゝつて居る」。犬は之に答へた「奉公人は私の吠を聞ておまへに食を與へるだらう」。

外貌に依て(人を)議する勿れ、外貌は多くは頼にならぬ。

13. 鶯と鶏

鶯と鶏が窓の上の鳥籠の内に(入れ置かれて)釣るし置かれ、而して歌ふた。主人の男の兒に鶯の歌が甚だ氣に入りた、して彼は斯く善く歌ひ居る所の小鳥を彼に見せることを父に請ひ始めた。父は鳥籠を下ろし机の上に置きて問ふ「さあ當てゝ見ろ、うれ程おまへを樂ますのは此二つの禽のどれなるか」。阿父よりれ是れです、うれ此鳥ですよ」と小兒は大喜悦して叫びて鶏に指示した。「なんと是れは佳い(鳥)ですな、羽根はどうです、うれだからして此鳥の音聲も斯様に美いのさ」。

14. 青鷺と鳶

青鷺は鳶を追剝と稱へ、して鳶は青鷺を兇殺者と稱へた。青鷺は言ふた、雛鶏を奪ひ去るのは是れは鳶が行ひ居るが罪な事だと。 鳶は此コ方チから断言した、青鷺の爲し居ることだが魚を丸呑みするのは尚ほ罪が深いと。彼等の(間の)爭は長延びた。遂に青鷺と鳶は牡羊に向ひて此爭を公平に決断することを請ふた。牡羊は決断した、牝羊と牡羊を攫取る所の狼のみ獨り之を追剝及び兇殺者と稱ふることを得べし。「鳥や魚を攫取ることは全く罪ではない」と彼は言ふた。

15. 貪慾

小供が痛み泣て居た。「おまへは何をしたのだ」と通行人は問ふた。「私は銅貨を一つ紛失した」。「泣くな、私がおまへに之を一つ與へるから(うれ、おまへに外のが)。小供は貨幣を取てまた泣き始めた。「今おまへ何を泣くのだ」。「左樣さ、もし私が自分の銅貨を紛失しなかつたならば、今は私に二つの銅貨があるだろうに」。

16. 二匹の小鼠

若き小鼠は老いたる鼠に言ふた「なんと私共の主人は悪心で吝だね、猫を飼ふたり諸方に鼠捕器を立て掛けたりして色々にして私共を殺さんとして居る。か私共の需要は多寡が知れてるではないか(多きや)。パンの皮、うれに穀物二三粒、うれで以て私共は滿腹さ」。老いたる鼠は答へた、「おまへの言ふのはもつともだ、我等銘々の需要は僅かだが然し我々の(數)がさ多いのだよ。

17. 二人の好友

二人の好友は林中を歩行して俄に遠くの方より熊((の來るの))を見た。うの一人は駈け出して樹に上つた、今一人(他の者)は路上に留つた。熊は決して死人には觸れぬことを知りつゝ、彼は地上に打伏して死人の振りをした。

熊は彼に近づきて臭ぎ始めた、彼は呼吸をも止めた。熊は之を死人と見受けて去つた。熊が見えなくなるや否樹の上に居た男は下りた、而して好友を笑ひやらんとて問ふた、「熊は何を君と密語したのだね」。「熊は僕の耳に(口寄せて)云ふた「オマへの朋友は善からぬものだ、彼は危き時に親友を捨てる」。

18. 嘘つき

村より遠からぬ林の傍に於て牧夫が牧畜して居た。不圖彼は他人を驚かさんと思付た。「狼が狼が」と彼は叫んだ。農夫等は犬を伴れて駈け集つた。見れば狼はなし。牧夫は立て笑ふて居る。

翌日彼は復た同處に牧畜して居た。俄に二匹の狼が林より現れた。「狼が狼が」と彼は叫んだ。然るに今度は誰れも之を信ぜずして救助に來らず、して狼は羊を多く噛み殺した。嘘つきを信ぜず。

19. 大なる南瓜

或る時二人の職工が南瓜の生て居る菜園の傍を通行した。其中の一人曰く「これ見よ此菜園の南瓜はなんと大きいな」。相手(第二者)は返答した「うんな物に不思議がるのか、おれが外國を旅行した時に可なりの家程の大きさの南瓜を見た」。先の男(第一者)は職業は銅の鑄物師であつて之に答へた「うんなこともあるだらう、だがな我れも一度親方と一處に斯の様な釜を拵へた、うの大きさは三階造の家位であつた」。

相手の男は肝を潰して叫んだ「本當にか然し、何の爲にうんな廣大の釜が入用であつたのか、それを何卒か話してくれ。

先の男は答へた「手前の(話の)大南瓜をうれで煮やうと思ふてさ」。

20. 爭論

牛と馬と犬が互に爭ふた、彼等の中より誰れを多く主人が可愛がるかを。

馬は言ふ「勿論おれをだ、おれは彼に田地を耕してやつたり、林より薪を運ぶやら、主人自身もおれに乘て町に((往く))、おれがなくては彼は全くやりきれない」。

牛は言ふ「いや、おれだ、おれを多く可愛がる、おれは彼の家族を悉く乳で養ふ。」

犬はわめく「いや、おれだ、おれは彼れの家と所有物を悉く守り居る」。

主人は此爭論を立聞した、而して曰く「つまらなく爭ふのを罷めよ、手前達は皆なおれには必要だ、手前達銘々が其役職を守り居れば(其場所に於て)効あり。」

21. 七本の枝

昔或る地に農夫が有つた。彼に七人男子が有つた。男子等は和せずして暮らし居た。毎日毎日喧嘩口論で日を送つた。時に或る一日父なる老人は皆な己れの男子等を喚び、彼等の前に七本の小枝を堅く一束に縛りて置き、而して曰く「手前達の中此枝の束を挫かん者に百圓與へる」。

男子等は順番で束の側に來ては挫くことを試みた、が誰にも駄目である、誰れも(銘々は)束を元の處に置て云ふ「いや、私には出來ない」。父は彼等に云ふた「嗚呼手前達は解らぬ奴らだ、此枝を挫く位易い事はない」。束を取て解きて、枝一本々々別々に折り始めた。男子等は叫んだ「やあ、うれなら當り前で六ケ敷事はない。さうすれば幼稚の小供でも之を挫くならん。」

其時老人は言ふた、

「小供等よ、汝等は縛りたる枝も同然なり。相互に堅く助け合ふ間は皆((の爲に))善き事ならん、如何なる惡人も汝等に勝たざらん、若し和親を破れば忽ち汝等は皆挫かれて此處に床の上に投げ散されたる此枝同然とならん。

22. 樫と川柳

或る日の朝、暴風の夜の後なりし、父と其幼兒は暴風が何かの損害を來さゞりしかを見んとて畑に趨けり。小兒は叫びた「父上よ、見玉へ、あんな大きな堅固な樫を地から根こぎにした、が然るに軟弱き川柳は眞直に立て居る、私は常に思ふた、暴風は強き樫よりは寧ろ弱き川柳を倒すならんと。」

父は言ふた「我子よ(愛らしき者よ)、強き樫は撓かることが出來ぬ故に挫けた、しなやかなる川柳は暴風の壓力に抗はぬ(負けて居た)、だから暴風も彼には何の損害をも加へることが出來なかつた。斯の如く人生に於ても遜讓は傲慢と剛情に勝さる。」

23. 穂

一童子が父と共に畑の中を遊歩した。これは夏で有つた。收穫の時は既に近いた。熟したる穂は其頭を垂れて動揺せずに立て居た。唯或る穂一本のみは高く其頭を上げて傲慢に我が同類を眺め居た。童子は父に問ふた「何故に此穂のみ獨り頭を眞直に揚へて地に身を曲げぬのである」と。父は彼に說明した「皆な外の穂の頭は粒が一杯である、是に由て彼等は身を垂れて居る。だが此穂には頭が空なり」。人も又斯の加し、智なる人は質朴なれども愚人は傲慢なり。

24. 核

母は李を買ふた、而して晝食の後で之を小供等に與へんと欲した。未子はマダ一度も李を食ふたことがなかつた、((故に)) 彼は成るたけ早く之を味ひたくなつた。坐敷に誰れも居らぬ時に彼は堪へられなくなりて一個の李を取て喰盡した。晝食の前に母は李を數へて置た、見れば一ツ無い。彼は此事を父に言ふた。晝食の際に父は曰く「どうだ、小供等よ、誰か李を一ツ食ひはせぬか」。皆な言ふた「いゝえ」。幼兒は緋の如く赤くなりて同じく言ふた「いゝえ、私は喰はぬ」。其時父は言ふた「もし汝等の中、誰なりとも斷りなく李を取て之を喰ふたならば是れは善くない、然しそれが大變ではない。大變なるは左の事だ、其李に核がある、而してもし誰かうの喰ひ方を知らないで核を丸呑にするならば一日過ぎると死ぬ。おれは之が心配だ。幼兒は青くなつた、而して言ふた「いゝえ、私は核を窓の外に投げました」。皆な笑ひ出した、だが彼は泣き出した。

25. 藝のある(敎へられたる)椋鳥

獵夫の老人の許に椋鳥が有つた、彼れはそれに二三の語を發することを敎へ込んた。隣の息子が奇鳥((の言ふの))を聞かんとて度々獵夫の處に來た。殊に童子に氣に入りしは、折々老人が「椋鳥よ汝は何處に居る」と問へば「私は此處です」と直に椋鳥の答へることなり。

或る一度獵夫が室內に居らざりし時童子は來た。童子は己れの朋輩に珍らしき鳥を見せんと思ひ付きて之を捕へて素早く衣嚢に入れた。恰度其時老人は室內に入り來た。彼は愚篇に童子に目禮した(頭を肯した)、而して彼を面白がらせんとて「椋鳥よ汝は何處に居る」と問ふた、「私は此處です」と童子の衣嚢中より椋鳥の微聲が聞にた。此一件の後童子は最早老人の所に往くのが辱かしくなつた。

26. 操練用の馬

戰爭の時に或町に僅時輕騎兵の大隊が止つた。窃盜が或家の門の傍に美なる馬を目掛けた、((其馬は))其時此家に客來した士官ので有つた(に屬した)、而して((窃盜は))之を林中に伴れ逃けた。輕騎兵が町より出發した時、窃盜は盜んだ馬を賣らんとて外の町へ定期市に赴きた。

途中で彼は或町を通行しなければならぬが、盜んだ馬に乘て町にて人に見らるゝ(己を現はす)を恐れて、彼は脇道を廻り往かんと決心した。町の廓より程遠からず野外に龍騎隊の分隊の居るのを見受けた。練兵(稽古)は始まつて居た。喇叭の音の響くや否や窃盜の馬は堀を越して大道に飛跳て大道から野外た馳飛んだ、而して龍騎隊に加はりて號令通りに或は急步或は跳走して至極規律正しく進退した。兵士は泡を喰ひたる馬泥坊を笑ふた、然し彼は笑ふところでは無つた、恐怖して汗は霰の如く彼より流れ走せた。

練兵の終りし後、士官と兵士等は窃盜を取圍み隊長は彼に言ふた「此馬は士官のだ、彼は美しく且つ善く操練に馴れて居る(敎へ込まれて居る)。手前之を何處から持て來た」。窃盜はまごついて、買ひましたと答へた、けれとも誰から買ふたと返答が出來なかつた。遂に彼は窃盜罪の自白を爲さざるを得ざりし。

27. 二人の勞働者

家を建てる爲に二人の勞働者が石を運ぶべきことと爲つた、うの石の中に一つ甚だ大きなるのが有つた。勞働者は此石に着手する決心が長くの間つかなかつた。故に先づ小なるものに手を着けた。彼は之を多く運んだ。然るに(愈々)大石の番に爲つた時、彼は既に之を其場所より推し動かすことすら能はぬ程疲勞した(自身を感した)。

今一人の勞働者のにも同しく小石の中に一つの大石が有つて、彼は最初大石に着手した、大困難で

は有つたなれども然し之を運び移した。大石の後には其餘の石を運ぶは最早勞働ではなくて殆ど戯れの如く見にた。うれで結局二番目の男は主人より其勞工の爲に謝禮を受けた、が一番の男は約束の賃錢を幾分か差引かれた(部分を失ふた)。

28. 二つの鋤

同一の鐵片よりして同一の製造所に於て二つの鋤を作つた。其中の一は農夫の手に入りて程なく仕事に赴いた、が一は商人の店に久しく全く無益に横はりて居た。程を歴て偶々この同鄕者は再會した。農夫の許に居たる鋤は銀の如く輝き、且つ彼が製造所より出た當座の頃よりも尙善く爲つた。して用なく臥して居た鋤は黑くなつて銹にて覆はれた。

銹たる鋤は已れの舊知人に問ふた「何に依て手前は其樣に輝くのだ、何卒、話してくれ」。こちらのは答へた「我友よ(我愛者よ)勞働に由てなり、して手前銹びて前より尙惡く爲つたのも是は(必竟)手前が皆其間何も爲ないで横に臥し乱居たに由てなり」。

29. 重貴なる草

二人の婢が町に行つた。彼等は銘々に果實を入れたる重き籃を頭の上に載せ荷ふた。

一人は始終唸きて歎息した、が今一人は笑て戯れた。甲の女は(第一の女は)云ふた「汝は如何して斯く樂しくして居るを得るや。うれに汝の籃も我が籃の如く重く、しかも汝は一體(自身は)我より強くないではないか。」

乙の女(こちらのは)は答へた「我は我が籃に斯樣の草を入れた、うれは有らゆる苦役を輕易にす。」

「はて是れは必度、貴重なる草ならん。我も矢張り已れの荷を輕くしたいものだ。此草を何と呼ぶのか我に告げよ。」

乙は言ふた「此草は忍耐である、うれは汝には無し。」

30. 梨の木

老人は大なる梨の木の陰の下に座して居た、うの木は彼の家の前に立て有つた。彼の孫兒等は梨を喰ふて((此)) 美味なる菓物を賞め盡くし切れざりし

其時祖父は云ふた、どう云ふ風にして此木が此處に生長したのかを手前達に話さん。凡そ五十年も前に或時私が今此木の生へて居る恰度其處に立つて居た、而して富有の隣人に自分の貧乏を嗟嘆した。私は話した、吁々私は若し百圓なりとも手に入るれば、うれで全く澤山だがと。

隣人は言ふた、もし汝が善く事業に着手するとを能くせばうれ程の錢を得るは六ケ敷くない。うれ例は汝の立つて居る其處に地の中に百圓以上隱れて居る。汝はうれを手に入れる迄の事だ(唯之を手に入るを要す)。

私は其時はまだ無經驗の若者で有つた、而して其夜地中に大穴を堀り始めた、然るに惜哉彼處には一圓も見出さなかつた。

翌日隣人が穴を見た時、笑ふた、而して言ふた「汝は左程愚なりしと我は思はざりし。然し汝はまだ此仕事を利用することを得る。我は若かき梨の木を汝に惠與せん、うれを汝の堀りし穴に植ゑよ、數年を經れば汝に錢が入らん(有らん)。

私は善眞の隣人の言ふことを聞いた、若かき木を地に植ゑた、うれは生長して汝が今見る通りのうんな結構な大木と爲つた。此木が其時から((每年))常に結ぶ所の最上の果實は既に私に百圓餘((の金))を入れた、してこの通り木はまだ充分丈夫で、また隨分永くの間美味の果實を結ぶとを得。

31. 植木屋の老爺

或時七十歳の植木屋の老爺が梨と林檎の種子を土を盛りたる箱に蒔くのを若き男が見た。若き男は老人に言ふた「おまへ何の爲につまらなく骨を折るのか、今おまへが蒔て居る此種子より木が生長する時分には多分おまへは既に此世に居らぬだらうじやないか。」老人は言葉を反へした「おまへは知らないのか、働くのは自分の爲のみではなく、然し人の爲にもせねばならぬことをさ。我が死の後に人はおれの骨折の効を得(利用し)て、おれの事を善く言ふべしさ(善き言を以て我を記念すべし)。

32. 一節儉は客嗇に非ず

或町に於て三人の朋友が貧乏の家族に扶助を與へんと欲した、然し彼等自身は裕福ではない人なる故にもつと暮しの善き人々に向て扶助の願を始めた、而して貧乏なる家族の極めて困難なることを並べ立てた。

斯様な風にして彼等は或る富たる商人の許に往つた、その人より助力を受くる望を抱て居た。然るに邸内に入れば、傭男が繩を物置に入れるのを忘れて終夜之を雨ざらしにしたので商人は之を叱つて居たのを、彼等は聞附けた。商人は言ふた「繩は濕氣で朽ることを手前等まさか知らぬでも有るまい。これは錢の掛かるものじやないか、錢をかせぐのは手前の思ふ様にさう易くはないぞ。」

朋友の一人は言ふた「こんな些細の事でもあの様に怒りて悪口する日には(時は)、あゝ此商人は一文もくれないぜ。寧ろ外の家へ往かん」。今一人の朋友は答へた「物は試しだ(試すとも得べし)、何の爲に來たかを往つて言はん」。こちらは商人は傭人を叱つてから鄭重に來客に接して之を自室に招待した。

此善人等は何の爲に來りしかを承りて(知りて)商人は彼等に數圓を與へた、其上に貧乏の家族に尚ほ麥粉數斗を送るを約した。斯かる厚裕は請願者を驚かした。而して彼等は繩くらゐの些細の物の爲に彼の叱るを聞いた時は彼の事を悪しく思ふたとのことを、思はず言ふた(言はざるを得ざりし)、商人は答へた「私が折々困究人に扶助する事が出來るのも平生節儉であるからである、節儉は吝嗇に非す。

33. 平等の遺産

或商人に二人の子が有つた。長(子)は父の愛者で有つて父は彼に嘗自分の財産を譲らんと欲した。母は末子を憐れんだ、而して如何に分配するかを當分の間、二子に發表せぬことを夫に願ふた。彼は如何にかして兩方を平等にすることを欲した。商人は之を聞き入れて自分の決定を發表しなかつた。

或時母は窓の傍に座して泣いて居た、窓に行脚の老人が立寄て、而して何を泣いて居ると問ふた。

彼は言ふた「如何して私は泣かずに居られようか。二人の子は私には同等である、が父は一人の子にのみ皆な譲り、片方には何も((譲らぬ))と思ふて居る。私はどうぞ弟を助けんと工夫して居る((うれが出來ぬ迄の))間、小供等に此決定を發表せぬことを夫に願ふた。然し私に自分の金は無し、どうして弟の悲を助けたら善からうか知りませぬ」。

老人は答へた「おまへの悲を助けるは雜作ない。小供等に發表すべし、兄には財産を皆な譲らん、弟には何もやらぬと、うれで彼等は平等((の處分))だ」。

弟の子は何も貰へぬと知るや否や勉强に着手した、而して工藝と學術を習ひ得た、が長子は父の傍に居て何も學ばなかつた、何となれば父の財産を當にして居た。

父が死だ時、彼の財産は悉く長子に渡つた。併し弟も能と勤勉を以て既に大なる財産を作つた、而して兄に劣らず暮した。

34. 行脚翁

現時は其跡だも遺存なき或る結構なる領地に往時富貴なる公主は住居せり。彼は其家宅と林園を立派に飾る爲に金錢を多く費せり、然れども貧人には餘り慈善を行はざりし。或る一度此地に行脚翁さまよひ來り、一泊を請へり。公は其願を聞入れず昂然として曰く「此所は旅宿に非ず」と。其時行脚翁は曰く「三つの問題を貴下に向つて提出することを我に許せ」と。公は答へた「幾何なりとも欲する程問へよ、我はうれに返答せん」。して行脚翁は問へり「貴下の前に此所領地に住せしは誰なるや」。公は答ふ「我父なり」。行脚翁言を續て曰く「うの前は誰か住せしや」。「其前は我祖父なり」。「して貴下の後には誰か住まんとするや」。「確かに(希望す)我子ならん」。行脚翁は語を續て曰く「若し斯く、一人毎に唯一時此地に住みて、其後他人に之を譲るなれば各位は客人に非すして何ぞや、又此家は實に旅宿に非ずして何ぞや。斯く莫大の金錢を此一時の寓宅を飾るに費す勿れ、寧ろ貧人に慈善を多く行へよ是れ良策なり」。行脚翁の語は公の意に適したり、彼は之に宿泊を與へ、又此時より至極慈善家となれり。

35. 掘出し物

農夫が已れの子等に勞動を教へ馴らさんと欲した。彼が死にかゝつた時。彼等を喚びて言ふた「小供等よ、家と畑がこれ手前達への遺産だ、畑を善く掘れよ、彼處には寶が埋てある。小供等は熱

心に畑を堀つた、然し寶を見出さなかつた。其代りに畑は未曾有の豐作を與へた、其時（始めて）彼等は思當つた、父の言ふた寶とは何なるかを（父は如何なる寶の事を言ふたかを）。

36. 富

或る貧乏なる若き男が己れの以前の先生に邂逅した、而して己れの不運を嗟歎した。彼の學友等の多くは既に富貴高名なる者と爲つた、然るに彼は萬事究乏を忍び居た。先生は彼に問ふた「汝が言ふ通りに實際斯く汝は貧乏なるや（よ・も然らじ）、見受けるに汝は全く壯健であるではないか」。

元の我弟子の右の手を指示して先生は附言した「うれ此手は强壯にして勞役に堪ゆるは。汝は千圓で此手を切斷することを許すならんか。「眞平です、一萬圓でも許しません」と若き男は答へた。「然らば幾千の價にて汝は其の明に見る所の鋭き眼と敏なる聽官と健脚を賣渡すならんか。我は思ふ、世界中の如何なる財寶にも汝は之を交換せまじ」少年は答へた「無論、致しませぬ」。「汝は斯かる富を所有するに際して、何ずれぞ己れの貧乏を訴ふるや」。

37. 眞正の航海者

或商人が船長と話した、而して其話の内に彼の父は何處に於て死せしと問ふた。船長は答へた「海中にて溺死しました」。商人は問ふた。「うれでは祖父は何處で」。「矢張り溺死しました。又私の曾祖父も其通りです」。商人は叫んだ「何して貴君は海中を往來することを恐れませぬ」。船長は不思議なる顔をして商人を眺めて之に問ふた「うれでは貴君の御親父は何處で死にました。商人の返答は「自分の寢床の上で」。「うれでは貴君の祖父は」。「矢張り自分の家で寢床の上で且又曾祖父も同樣です」。

船長は詰り言ふた「うら、御邊なさい、でも貴君は寢床に臥すことを恐れはしますまい。私とても同じく海中を往來する事を恐れませぬ。海上にても陸上にても死を遁るることは誰も出來ません」。

38. 巧智なる勸告

或印度の話に曰く

二人隣り合て住み互に不和なりし、其中一人の家の門に誰なりしか或夜驢馬の頭を畫いた。侮辱された者は裁判官の許に來りて隣人を告訴した。裁判官は問ふた「汝の隣人が之を畫きしと云ふことを如何にして汝は之を知るや。或は彼れならずして誰れしか他の者が畫きしとも圖られず。汝は彼が畫きし所を見しか」。「否、我は見ず」。「誰か外に之を見しものあるや」。「誰も見ず、我は皆の者に問ふたれども、誰も見ずとのことなり」。「然らば何に據て汝は鄰人を告訴するや」。「彼は我敵なり、我は思ふ誰も外の者ではなく彼が之を畫きし」と。「これは未だ證據ではなし。併し汝は何故に斯く强く腹立つや、我に之を告げよ」。「之は私のことを畫いたと我は認知するに由て立腹するです」。「汝の隣人若くは誰か外の者が汝に斯く此事を言ひしか」。「否、誰も言はず」。「然らば此畫は汝の事なりと何に據て汝は認定するや」。告訴人は默した。裁判官は言ふた「歸れ歸れ、三百代言の眞似を爲るな、-して先つ第一汝は驢馬だなどと誰にも言ふ勿れ、若し汝が之を默するなれば或は誰もうれとは氣が附かぬならん」。

39. 銀行家と美術家

或時有名の美術家が所用ありて富たる銀行家の許に來た。銀行家は甚だ拔け目なく且つ吝嗇なる人で有つた。彼は美術家の來訪を利用せんとして、用向の談話の終りし時、彼は畫帖を（出して之に）何か畫かんことを願ふた。美術家は承諾して鉛筆を取りて十五分か廿分間に畫を書き終つた。畫帖を銀行家に手渡しつゝ美術家は言ふた「此畫の爲に貴君は私に百圓拂渡さなければならぬ」。吝なる銀行家は仰天して叫んだ「何ですと百圓とはまあ、十五分間の仕事で百圓」。美術家は平氣で云ふた「左樣、貴君の思ふのも理です、私は僅か十五分で畫いた、併し貴君は氣が附かぬ、私が十五分で斯樣な畫を書くことの出來る樣に爲るには私は丸で二十年間最も辛苦の勞を費さねばならなかつたと云ふ事を」。

40. 雨

或商人が定期市から馬に乘て家に歸らんとした。金を入れたる提鞄を鞍に結び附けた。强き雨が

降つた、而して商人はびしよ濡に爲つた（骨まで濡れ通した）此人は善心で、神が彼に旅行に斯樣な惡しき天氣を遣はしたのを怨んだ。

商人の行きし途は深林を通貫して有つた彼が林の蔭中に入りし時、途上に盜賊（の居りし）を見て愕いた、其賊は銃を彼に目掛けて引金を放つた。商人は必らず死ぬで有つたらう、が併し賊の銃中の火藥が雨に由て濡れ切つて、銃は發射しなかつた、商人は馬を追ひ立て危難を逃れた。

彼が安心した時言ふた「天氣の惡しきを罵りたるは私が愚であつた。もし天氣が晴快で空氣が清く乾燥で有りしならば私は今此世の（活きて居る）人ではなかりしならん且つ我子等が我が歸宅を待おしも空しきことならんに。私が怨んだ雨は私の所持品と生命を救ふた」。

我等は之を認めずして自身の運命を怨訴すれども萬事往々斯の如くにして我等の利益を成さん爲に仕組まれ居ることあり。

41. 幸福と富

或時人々は幸福の事を評議して誰か如何なる福運を得しかを話した。貧乏人は殆と一人殘らず富人を羨んで、幸福は專ら富に存すと斷言した。一の老人あり此無智なる評議を聞て次の噺を話した。

我は一の富人を知れり、彼は金箔の殿に住み高價の衣服を着け、美味を飮食した、日として彼の家に宴なきことなし。或時此富人の許に其舊友は客來した、彼等は久しく面會せざりし故に富人は祝意を表して宴を設け客を呼んだ。食卓には金銀の坏碗を備へ之に山海の珍味を盛りた。又高價なる食器には舶來飛切の酒類は泡立ちて有つた。

親友等は長く食に座して飮み食ひ樂めり。唯主人のみは殆と何をも飮まず食はずに客と樂しく談話した。宴の終る頃に遠來の客は富人に向て言ふた「我は何處に於ても斯かる富と斯かる贅澤を見ざりし、我は思ふ全世界に於て君より幸福なる者は無し」と。

富人は嘆息して金碗より一個の林檎を取り之を親友に與へた、其林檎は紅色で、見た眼は甚だ美て有つた、然るに之を裁り割れば內には蟲が居た。客は皆な不思議相に富人を眺めた、富人は口を開いて曰く「我も此林檎と同然なり、見た所では我は幸福なる者なり、然し蟲が我を蠹すとは誰にも氣が附かぬ」。斯く言ひつゝ富人は我美服の釦を脫して之を開けば彼の胸には世に恐ろしき癌と名くる難症の腫物あるを見たり。富人は曰く「嗚呼どんた幸福だ、我に於て美食何かあらん、亳も甘くなし、金碗何かあらん、之にて疾は愈されど、金錢何かあらん、之にて健康は買ひ得ざらん」。

是よりして人は皆な富人を羨望することを止めたり。

42. 幸福

幸福とは何ぞや又之を何處に求むべきや。

昔々或國の强盛富貴なる王に獨り娘あり。曾々其邦に惡質の疫病が流行した、如何なる醫藥を以てするとも之を脫るゝ法はなかりし、之に罹りし者は必ず死したり、之に依て無數の人民は倒れたり。王女も此疫病に罹りたり。

王は四方より名醫國手を聘して其女を癒せし者には金銀を厭はず與へんことを約しけり。誰も未た見知らぬ一老人來りて王に告げて曰く「汝の女、生を得んことを欲せば、國中に於て我運命を幸なり充分なり餘分の事は何をも願所なしと思ふ者を探し索めよ、而して其人の襯衣を脫がせて之を王女に着せよ、左すれば立ぎろに彼は癒るを得ん」。

國中を隈なく使者は駈け廻はり有ゆる市府、村里を通り行きたれども此强盛なる王の配下には幸福滿足なる者は一人も無かりし。幸運なりと思へども錢に不足なりと言ふ者あり、多少富めども尙ほ富まんことを欲する者あり、我家族は善けれども兎角近隣と和合せざる者あり、或は仕事の口を探すあり、或は暇なきに嘖つあり、或は榮譽、或は富貴、或は健康を望むあり。要するに全國中に其身の運命に滿足の者一人も無かりし。

王は失望極りて既に我女と永別せしに俄に嚠しき聲ありて「見出したり、見出したり」と云ふを聞けり。王の宮中は忽ち愁眉を開き王女は難を免るべしと悅びたり、而して人々は此幸運者を見んとて寄集りたり。して何處に之を探し出せしや、何地のものなるや、何人なるやと思ひしに、其者は車にも乘らず絹布も纏はずして徒步して粗惡なる破れ衣を着て居たり。

王は之に言ふた「我は汝に金銀を下賜せん、我は汝の唯一枚の襯衣を買ふ、何程なりとも望の價を言へよ、汝の望み通りに我は拂渡さん。

其者は曰く「だが我には襯衣なし」と。

「ぞうして無きや、襯衣は無いのか、早く脱きて其着たきりのを我に與へよ、我は金錢には目をくれぬぞ」。

「本當に我には襯衣なし、着ても居らぬ、持ても居らぬ、久しき前には一枚有つたが、それも破れて着通したから、我は之を棄てゝしまつた」。

43. 老人と死

老人が林より薪の重き一束を荷ひ來た、して疲弱なるに因て辛ふして足を運び進めた。彼は肩より束を下ろし投けて切り株の上に休息せんとて座した、して深く嘆息して言を發した「嗚呼我は苦るし、死なりと來ればよいに」。彼が此言を發し終るや否や、死は彼の前に現れた。「我は此處に(來た)、なぜ汝は我を呼びしや」と言ふた。老人は臆して微かなる聲にて言ひ切つた「我は汝を呼んだのは(決ううだ)汝が此束を我に持上け助けくれる爲にさ」。

44. 分配

祖父は園より開きたる窓を眺めて言ふた「これよ、我は汝等に四個の大なる熟したる李を持來た、して汝等は之を互に如何樣に分配するのか、それを見たいのだ」。室内には皆なで五人居つた、母と男兒二人と二人の兒女。四個の李を五人に分配するは六ケ敷い。偖如何に致すべきや。皆一同工夫に掛つた。然るに兒女は拍手して叫び出した「何にも考ふる程の事はなし、我に委せよ、之を如何にして平等に分つべきやを我は既に知る」。どうして。「それ斯の如くにさ、なんでもかでも三つつゝに爲る樣に李を配置すべきである、二人の兄と李一個、是れが三つ、私と姉とに李一個、矢張り之も三つだ、阿母と二つの李、矢張り三つとなる」。皆々笑ひ始めて此兒女に贊成した。祖父も笑ひ始めた。彼は言へり「よしか、うんなら我も是より拙くなく分配し得ると云ふことを證據せねばならぬて」。是に於て彼は衣嚢より尚二個の李を取出して附言した「これで今復た誰にも三個づゝとならん、うら二と一で三なり」。

45. 獅子の配當分

犬と狼と獅子と狐が相共に獵に赴て其獲物を平分することを約せり。狐は鹿を捕へた、して此獲物を分配せんとて同僚を呼んだ。皆な來れり。獅子曰く「親友等よ、さあ分配に掛らん、我等は四人の組だ」、して彼は鹿を四つに裂いた、彼は續て曰く「それ此部分は約束通り我のだ。それ此部分も我れが獸の王だと云ふ譯で、矢張り我れのだ。それ此部分も我れに屬す、如何となれば我れは諸獸より力强し。して此部分は……誰でも之に足を延ばす奴は直に我れは裂殺すぞ」。

46. 小兒の課題

1. 兄は妹に曰く「汝は我に一個の林檎を與へよ、さすれば我の(所有)林檎は汝のより二倍多くならん」。妹は曰く「否、我提案は公平ならん、汝は我に一個の林檎を與へよ、さすれば我等(の所有)は等分ならんとす」。問ふ、此小兒各自の林檎は幾千なりしや。

2. 二人の牧者夕刻家に歸れり、各々自身の小數の群畜を率ひて相逢ひ而して談話し始めた。甲は乙の綿羊を見て言ふた「我が汝に言ひ出さんとすることを知るや、汝もし我に其綿羊中の一匹を與へば、我が牧畜は恰も汝のより二倍多くならん。」乙は甲の羊を見て少く考へ答へた「それは不公平ならん、我が案は尚宜しからん、汝は我に其羊の内一匹を與へよ、然らば我等には等分ならん、誰にも羨ましからず」。今問はん、各自の綿羊は幾千なりしや。

47. 反響

或時草原に於て童子が聲高く「あゝ」と叫んだ。すると隣接の森より誰なりしか同しく「あゝ」と之に應呼した。之を奇として童子は問ふた「其處に居るは誰だ」。秘密なる聲は同一の問を以て答へた「其處に居るは誰だ」。何人か嘲るなりと思ふて童子は答へた「汝は愚なりと見ゆ」。「愚なりと

見ゆ」と森より聲が答へた。童子は激怒して見にざる反對者に惡口振りかけた。すると森の奥より聲が同樣の惡口を以て答へた。童子は樹木と叢の間に失敬なる見にざる奴を尋ね探した。したが何人をも見出さなかつた。

家に於て彼は惡童の事を母に告げ訴へた、其者は彼と惡口せん爲に森中に隱れ居た、母は之に言ふた「汝は誤れり、汝は自身の言を聞取りたるのみ、汝は反響を聞いたのだ」。是に於て母は反響とは如何なる物なるかを彼に說明し、而して結末に附言した「若しも汝が何か愛想よきことを言ひしならば同じく愛想よきことを聞きたるならんものを。社會の交際に於ても同しく然かあるなり、他人が我等に應對するは我等が他人に應對の反射なり、自ら他人と善く應對せざる者には誰も善く應對せざるなり」。

48. 祖父と孫

祖父は甚しく耄碌した。彼は見ることも聞くこともいけなく爲つた。彼の手足は老衰に出て顫へた、口に匙を着けツツプを泄ぼす是れは彼の息子と嫁の氣に入らなかつた、彼等は自分と一處に父を卓に据へることを止めた、素燒の茶碗で別に之に喰はせることにした。或る一度老人の手が顫へて茶碗が落ちて碎けた。息子と嫁は先より多く立腹した、古き木碗で親に喰はせ始めた

老人の息子に小兒が有つた。或時りの兒が板間で板片を以て何だか積み重て居るのを父母は見受けた。父は彼に問ふた「手前何を拵へるのだ」。小兒は答へた「箱を（拵へる）、りれおまいが母さんと年を取ると、おまへ達が今祖父を養ふ通りに私がおまい達に此箱で以て喰はせるのだ」。父と母は互に顏を見合はせて赧くなつて。其時よりして彼等は老父を別に座らせることも木碗で喰はせることも已めた。

49. 捕へられたる小鳥

小兒等は小鳥を捕へた。小鳥は彼等に曰く「我を放てよ、我は汝等に何（の用）になるか」。小兒等答ふ「否、汝は我等と共に住むことゝならん、我等は菓子を以て汝を養ひ甘き茶を以て汝に飲ましめん」。小鳥曰く「我は菓子を啄まず、茶を飲まず、我は野に於て蚋を捕へ又穀粒を拾ひ集む」。小兒は復た之を詰て曰く「然し冬に成りて虫も穀物も無くなりし時は何を以て營養を得るや、これさ汝は其時凍ゆるなるべし、然るに我等の傍に居れば汝は金の鳥籠の内に住むならんに」。小鳥は答ふ「いや。御心配に及びません（恐るゝ勿れ）、冬中は我は暖地に飛去らん、彼地には常に虫も穀粒もあり且つ彼處には雪もなく沍寒もあらず、彼處に於ては我は自儘に飛移るならん、が汝等の許にては我は幽居せねばならざらん、然るに自由にならぬ身には極樂でさへも地獄と見ゆるなり」。小兒等は善にして思慮あるものなりし。彼等は言ふた「小鳥よ、汝は實を言へり、不自由は汝の爲に堪へ難きことならん、然らば搆ひ爲し、飛去りて自由を樂めよ」。斯くて小鳥は放出されたり。

50. 盲人の機智

或盲人が五百圓を所有せり。彼は之を自身の家に保存するを危ぶみたる故に我庭園内の太き樹の下に之を埋めたり、其樹は彼によく知れて居りし故に彼は難なく手探りにて之を探り出し得た。羨ましがりし隣人は如何にして盲人が其富を埋めしかを見留て即夜庭園に忍び入りて之を掘出した。朝になりて盲人は豫て知り居る樹の所に赴きたるに、こはりも如何に（吁々可驚）其下に金は無かりし。さて何人が之を窃み得しならんか。嫌疑は隣人にかゝつた。

盲人は自分の紛失物の事をば一言をも誰にも話さずして隣人の許に往つた。りれと談話の中に挾みて（外の話の間に）不圖（思ひ出したる）如く彼は我金の事を告げた。彼は言ふた「我が手許に現金千五百圓あり、内五百圓を我は誰にも探し得ざる處、即ち我一人のみに知れ居る處に隱した。して又殘りの千圓をも今夜持出して其處に置かんと思ふ、左なくては家の内に之を保存するは危險なり、我等の街路は淋しく窓は低し、窃盜の這入ることもあらん」。隣人は盲人の思ふ處を至極喜みした。彼は考へた「まてよ、此奴から殘りの千圓をも手に入れるは惡くない話だゞ。」盲人の去りし後直に彼は盲人の庭園に急き往きて五百圓を以前の場所に置た。斯して察しよき盲人は程なく再び其貨幣を手に入れた。

51. 實直なる老母

農夫が大道を車に乘往いて重荷を背負ふたる老婆を見た、而して彼を招て同車せしめた。老婆は

感謝して此勸めを受けた。彼等は半里程乘り通ふした、して老婆はまだそれでも自分の荷物を背上に保持せしを農夫は見止めて、彼は之に問ふた「老母よ、汝は其籠を車の中に（下ろしても宜かるべきに）何故下ろさぬか」。老婆は答へた「いや、兄貴、我は自分が車に乘り居るにても澤山なり何しに我れが此上餘計の積荷を以て馬に迷惑を掛けませうぞ」。

52. 明察なる客

寒き冬の夜に通行人が店旅に入れり。彼は震ひ居た而して身を暖めんと欲せしが暖爐の前の場所は皆既に外の客人に占められて有つた。彼等は既に久しく此處に座して暖を取れり。（新來の客は）致しかたがない。彼は聲高く僕に向て叫んだ「我馬に蠣を一ダース持往（て喰はせ）よ」。僕は即時に命に隨して蠣を戸外に持往けり。好奇なる客人等は相續て其場所を立ちて馬が蠣を如何にして喰ふならんと之を見んとて往けり。其際に新來の客は自身の爲に暖爐前の最良の場所を撰びて心安らかに其所に座せり。程なく僕は蠣を携へて戻りて曰く「貴君の馬は……私は彼に蠣を與へたが之を喰ひませぬ」。「なに、喰はぬと、よし、うんなら蠣を此處によこせ左樣の譯なら我が寧ろ自分で之を喰ひ盡くさん」。

53. 好奇者に與へし返答

七月の熱き日、旅人が旅店に立寄れり。好奇者の一群は直に之を繞圍せり。「君は何地より何地に趣くや、如何なる地方を通行せしや、旅行の費用は高くつきしや」など要するに、質問は彼をして何が何やら思ひ浮ぶを得せしめざりし。殊に好奇者連は都に於ける珍事を聞きたくありし。旅人は答へた「オーううた珍事はこれだよ、先日十人程監獄に入れられた、うれは彼等が雪を爐の中に乾して之を鹽の代りに貧乏人に賣渡したるに因てなり」。

54. 考察に巧なる生徒

或生徒が物理學課時間に其教師に言ふた「今は我れ知る、何故に夏は斯く日長く、して冬は短きかを」と。何故に（と問へば曰く）「だつても貴下は唯今言ひしに非すや、物體は凡て熱力に由て膨脹し、寒氣に由て縮少す」と。

55. 能ふべからざる事

番附に記して曰く、新來の手品使は諸藝の間に公衆の目前に於て壜の中に這入ることあらんと。見物は多く集れり。演藝の終りに舞臺の上に通常の壜を出せり。手品使は或は頭を以て或は足を以て之に這入らんことを試みたり……終に彼は云へり「いや、（とても）能ふべからざることなり」と。然し君は之を廣告したではないか……私は廣告した、「這入りからんとす」と、然し「全く這入り終らん」とは言はざりし。

56. 怜悧なる答

或時僧は童子に遇ひて、而して之に言ふた「神は何處に在すか汝もし之を言ひ得しならば我は汝に林檎一個を與へん」。即座に童子は答へた「もし貴君が神の在さゞる處を私に告くるならば、私は貴君に二個の林檎を與へん」。

57. Θалесъ の答

誰なりしか希臘の賢人 Θалесъ に問ふた「最も易き事は何、又難き事は何なるや」と。彼れ答へて曰く「最も易き事は他人を非議すること、又最も難き事は自己の缺點を見出すことなり」と。

58. 僥倖なる答

回教の王 Мустальи の前に俘囚の將軍が引出れた。侯は之に問ふた「今汝は自身に如何なる運命を覺悟（待望）するや」。俘囚は答へた「汝若し盜賊らしく戰爭するなれば、勿論我を殺すならん、若し商人らしく（之を）行ふなれば、我を賣るならん、又汝は王らしく戰爭を爲すならば、我を放免するならんと。斯くて王は之を放免せり。

59. 侮辱を掛念せぬ事

Юлианъ 帝にうの彫像の頭に疵付けし者を罰することを勧めた。帝は微笑しつゝ片手にて顔を撫でゝ言ふた「我は毫も痛みを感せず」。

60. 羅馬帝 Титъ

皇帝 Титъ は人民に徳を施すを自己の義務と思ふたり。或時己れの近臣と晩餐に就きつゝ彼は思ひ出した、其日は誰にも恩恵を施さゞりしと。彼は嘆息して言ふた「吁々我親友等よ、我が爲には今日は(空しく)失亡せり」。

61. 美味の水

波斯王 Дарій は敵の追撃より遁走を以て身を逃れたり。暑熱の天氣にして恐ろしき喉の渇きは王を苦めたり。何處にも水を得ること能はず。周邊には遠距離に亘りて水なき砂漠蔓延せり。遂に一人の兵士は少量の濁りたる臭氣ある水を捜索して之を Дарій に持來れり。Дарій は此水を飲みて言ふた「斯の如き美味の水を我は未だ曾て飲まざりし」と。

62 波斯の醫者

波斯王は回教國の侯 Мустафа に一人の醫者を遣せり。此醫者は全東國に於て其術の巧なるを以て高名なりし。醫者は新主君の宮廷に來りて而して此處にては(皆々)如何なる生活を爲すやを種々問ひ始めた。侯の近臣の一人は之に答へた「通常の(生活)なり、我等は日の出前に起床し、日沒と同時に臥寢し、勤勉と勞働中に日を送る、又饑うる時に食し、しかも饑餓を滿足せしむるに必要なるだけのみ(食す)。」醫者は此人(の言)を遮りて曰く「眞なるや、然らば我は御暇頂戴すべし、此處には我に働くべき事なし。斯かる生活(の樣)を送る人々は常に健全なり」。

63. Эзопъ 及び旅人

希臘の訓話著者 Эзопъ が田野の中で疲れたる旅人に逢ふた、その旅人は問ふには最近の村まで行くにはまだ長く(時間が)かゝるやと。Эзопъ は之に言ふた「歩るけよ」。旅人は押し返して曰く「それは我も知る、たが我れの歩くべきはまだどの位なるか」。復た Эзопъ は簡單に答へた「歩るけ」と。旅人は思ふた「多分、これは發狂人か馬鹿者だと」、而して其道を行つた。彼が數歩を進(致し)だ時、Эзопъ は後より叫びかけた「汝は二時間にて彼處に着さん」と。旅人は奇として背後に向ひて Эзопъ に問ふた、何故に最初から彼は旅人の問に答へざりしと、訓話著者は叫びて曰く「汝の歩行の樣を見ざる内に、我れ如何にして汝の到着の速度を知ることを得べきや」と。

64. 誤謬

有名なる俳優 Максимовъ が演劇學校を卒業(出でし)の後、間もなく、或一度 Александрінскій 劇場の飲食室に立入りて喫煙室の長椅子に座し、煙管を取出した、然るに自身燐寸を有せざりし故に之を喫する能はざりし。

戸は開きたり、して其室に四十餘才の男が至極粗末の服を着て入來れり。Максимовъ は之を飲食室の給仕と見受けて、彼に向ふて言ふた「これ(聞けよ)火をくれんか」。其男は「唯今」と答へて室を出て、即刻に燐寸の箱を持て戻り。一本抜き出して附け、火を Максимовъ に與へ、彼が煙草を吸付ける間、彼の前に燐寸を保持した。

それから後、其燐寸を床に投して、其男は同じ長椅子の上に Максимовъ の傍に腰を下ろして平然として彼に言ふた「これ、我れに水を一杯くれんか」。

Максимовъ は直に自身の過失を悟りて急ぎ跳ね上り飲食室に驅けつけ、數秒を經て一杯の水を盆の上に携へつゝ(此)知らぬ人の前に立居た。

知らぬ人は水を飲盡して「難有」と云ふた、而して少し(の間)默し居て、言ひ足した「貴君はまだ生活し始め且つ(世間の)人々と交際し始めたばかりなる故に、我れは貴君に有益なる勸諭を與へん。社會交際の大本たる缺くべからざる法は禮節を守ることなりと心得られよ。凡て(人より)尊敬(を受くる)に堪へんと欲する者は先づ自ら他人を尊敬すべし即ち衣服に非ずして人物を尊敬すべし。此法を守らざるよりして時々甚だ不都合なる結果を生ず……學校に於て貴君に此事を教示せざりしは、

甚だ遺憾なり。我れは貴君(の誰なるや)を知る、貴君は併僕 Максимовъ なり。して我にも自身を名乗る(紹介す)ことを許し給へ。我れは文部大臣伯爵 Завадовскій なり。

此言を發しつゝ貴顯は座を起ち、赤面したる Максимовъ に握手を與へて速に室内より立去りたり。

65. 茫然自失

高名なる露西亞の訓喩作者 Крыловъ は久しき間、彼得堡の公衆圖書館の圖書頭なりし。此圖書舘の構内(舘内)に彼は官舍を有せり。曾て、彼は家に歸りし時、書翰用の紙を買求むべきことを思ひ出せり。公衆圖書舘の向ふに在りし店に立寄り若干の紙を撰みてうの代を拂はんとしたる際に於て(初めて)自分の頓狂にて錢を携へさりしを認めたり。彼得堡のみならず、全露西亞内に於ても Крыловъ は有名なる人物なれば、自信を以て店主(商人)に言へり。「我はうれ此處に、(つい)貴店の向ふに住む、我が許に拂を取りに(錢の爲に)遣はせよ、さなくば我れ自身で序の節、來て(汝に)拂はん。貴君は我を知り居らん、我は Крыловъ なり」。商人は答へた「うれは眞平ら。世間に Крыловъ (と云ふ人)も少なからず。我等は貴君を存じませぬ又貸賣は誰にも致しませぬ」。うれよりして彼は Крыловъ の手より紙を取りて之を以前の場所に戻し置いた。

66. 頓智

或る若き男が Пруссія の王 Фридрихъ に官務に就かしめんことを願へり。其男は何處に生れしやと王は問へり。彼は答へり「我は伯林に生れたり」と。王は言へり「去れよ、我は汝に官職を與へまじ、伯林人は皆な何の役にも立たず」と。若き男は押返して言ふた「陛下の御仁恕(を以て我に答辨)を許し給へ、伯林人中には有らゆる(種類の)人々あり、惡人もあり、善人もあり、何れにしても我が固く保證し得べきもの二人あり」。「うの二人とは誰なるや」。「第一は是れ陛下なり、して第二は是れ我れなり」。此返答に際して王は笑を制する能はざりし。彼は此頓才ある若き男を官務に就かしむることを命じたり。

67 觀察力

北米の印度人が我小屋に歸りて彼か乾さんとて木の上に掛け置きし所の鹽豕の脚肉の盜まれたるを見出せり。注意して其場所を見廻はして印度人は盜の跡を追はんとて立出せり、して道に逢ひし人々に尋ねたり、彼等は老たる色白き短身なる人が短かき鐵砲と小さき犬の甚だ長き毛深き尾ある者を(携へたるを)見ざりしやと。人々は實に之に逢ひたりと答へたり然し同時に驚て問へり如何にして彼は未た見ざりし人を斯く精密に表記するを得しやと。印度人は答へり、我が地上に立ちて掛けたる脚肉を彼か下ろし取らんとて石を其下に置かざるを得ざりしよりして盜は我れより遙かに身の丈け小なりと推察したり。彼は老人なりとは其足歩の短きに依て之を知るを得たり、其足歩の跡は木の邊に落ちたる葉及び砂の上に殘りたり。彼は白人なりとは其兩踵を合せたるを其足跡に依て見にたれば之を以て我れ知れり、印度人は決して此事を爲さず。彼の鐵砲の短きは彼が之を木に立掛け少しく木の皮を剝ぎたるに依りて我れ之を知れり。其犬は大ならずとは其足跡に依て見にたり、して其犬の尾は毛深きとは其主人が我が鹽豕を盜みし間に犬が座して尾を砂の上に殘せし所の派りし所の形狀に依て我れ之を推察す。

68. 非常の腕力

Польша の王 Августъ 二世は非常の腕力を以て秀でたり。或時馬上にて遊行の際其馬は蹄鐵を失へり故に王は近村の鍛冶屋に立寄れり。鍛冶屋は馬に蹄めんとて蹄鐵を持來りし時王は其の蹄鐵は堅固に製せしやを先づ試みんとしたり。王は之を兩手に取りて人參の如くに挫ぎたり。「此蹄鐵は何の役にもたゝず」と、王は鍛冶屋に言へり。鍛冶屋は數個の蹄鐵を持來りたり、然るに王は皆之を一々相續て挫きたり。鍛冶屋は少しく思に沈んだ、して其同僚は不思議がりて互に(顔)を見合せたり。鍛冶屋は尙又蹄鐵を持來れり。終に王は先つ(大部)堅固なりと(認めたる)一個の蹄鐵を見出したる樣子を爲せり。馬は蹄鐵を蹄められる。鍛冶屋が其仕事を終りし時、王は之に銀貨を與へた、然るに鍛冶屋は之を取りて指の間に(挾みて)屈げた。鍛冶屋は言ふた「陛下よ、此貨幣は何の役にも立たぬ、これは指の間に屈がる」。王は之に又續けうちに數個の銀貨を與へた、然るに鍛冶屋は一々續けて之を屈げたり。終に王は言ふた「然らば、うれ汝に金貨を(與ふ)、是れは多分

宜しからん」と。鍛冶屋は王（の仕打）にて満足なりし、して王は自身と腕力の均しき男を見出したるを喜びたり。

69. Діогенъ 及び Александръ Македонскій

往昔、希臘に一の賢人あり（住みし）名を Діогенъ と云ふ、彼は教へたり、人は其需要を減ずるに従て益々幸福なりと。人に需要の如何に少なきやを實際に其同邦人に證せんとて、彼は家を以てせずして桶の中に住居し、殆ど衣服せずして歩行し、唯草根と果實のみを食とし、手（の掌）にて掬ひし水のみを飲めり。此奇人を見んとて遠方より人々は來りて、其生活の狀態を奇とせり。就中、當時の諸王中の威勢強き Александръ Македонскій も自身の訪問（の榮譽）を彼に與へたり。歷山王從者を率ひて來到せし時、Діогенъ は我桶の前に臥して日向ぼっこを爲せり。歷山は好奇心を以て彼に接近し、其貧しき場面を見て、或は之を試んともしてなるか、言へり「Діогенъ よ、汝の望む所、何なりとも我に請へよ、我れ汝の請願を遂げん」。賢人は答へり「我れに何も需要なし、なれど若し汝が我れに恩惠（貸與）を施さんと欲するならば少し片寄りて我れに暖を取るを得せしめん爲に我（が爲）に太陽を遮る勿れ」と。王は斯かる返答に驚嘆して揚言せり「實に、我れ若し Александръ にあらざりしなれば我れは Діогенъ たることを望みたらんに」と。して見れば半世界の領主は Діогенъ を以て自身の次に最幸福なる者と思ひしなり、うは或る場合に於ては彼れと其位地を交換せんとする意を表したればなり、うれにも拘らず當時に於ても其以後に於ても此幸福者に則らんとせし志願者は現はれざりし。

70. 重荷

奢侈を好みし回教侯 Хакимъ は其宮殿の庭園を廣げんと欲せり（廣げくたくなつた）。彼は近隣の土地を悉く買集めて所有主の請求せしだけ（の價額）を之に仕拂ひたり。唯一人の貧なる寡婦は如何程の價額にても其土地を讓り渡すことを欲せざりし、此土地に生活し且つ死せし自身の先祖の紀念を尊敬するよりしてなり。彼は遺言（に依て受けし）ものを賣るは罪惡なりと思考せり。侯の造營監督長は之を彼の女の剛愎なりと思ひて無理に彼の女の土地を取上げたり。憫然なる此女は流涕して高等裁判官に訴へたり（出頭せり）。其時の裁判官は至極公平なる人 Беширъ なりし。彼は寡婦の願訴を聞き終りて、こは憚りある（櫟たき）件にて（判決如何に依て）自身の安危にも關はるものなりと認めたり。法律上よりは寡婦は正當なり、さはさりながら、自己の意望は是れ法律なりと思ひ慣れたる侯をして、法律（の明文）を甘んじて遵行せしむるは容易ならず。裁判官は何を行ひしや。彼は其驢馬に鞍を置き其頭に大囊を負はせ且つ之に乘りて侯が寡婦の土地に建てし建物を檢視せし際に宮殿の園に來れり。裁判官が大囊を携へて驢馬に乘り來りしは侯を奇異ならしめたり。尚一層侯の奇とせしは Беширъ が侯に俯伏して「我君、我れに此處の土を此囊に充たすを許し給へ」と言ひし（時なり）。侯は之を許せり。囊は充滿したる時、Беширъ は再び侯の前に進みて囊を驢馬に乘せんとて侯の助力を請ふたり。侯は此願を一層奇怪なりと思ひたれとも、此男は果して何を望むやを見んと思ひて、囊を持上くる（助力の）爲に囊に手を掛けたり。然るに侯は之を其場より動すことをすら能はずして曰く「これは餘り重き荷なり、我等の揚げ得べきものに非ず」。其時大膽なる裁判官は曰く「我君よ、此囊は汝に甚だ重きものと見ゆるが、これは汝が貧寡婦より奪取りたる其土地の一小部分に過ぎざるぞよ（含むのみ）。公審判の大期日に於て世界の裁判者（たる神）が汝の掠奪したる土地を悉く汝の双肩に負はしむる時は、汝は如何にして之を負擔せんとするか」。

侯は愕然としたり、彼は此裁判官の果敢と智力を稱贊して寡婦の土地と其土地に築きたる建物一切を寡婦に返戻したり。

71. 騙に報ゆるに騙を以てす

或時賣玉師は大膽にも羅馬の皇帝 Галіенъ の皇后 Салонина に賣玉として着色硝子を賣れり。皇后は僞物なるを認めて其夫の許に騙け付けて損辱の報を爲さんことを請へり。皇帝は答へた「なにさ、是れは甚だ易き事なり、我に阿弗利加より獅子を送れり、我れ明日之を格鬪場に於て人民に觀せん、獅子は饑ゑて居らん……」。「獅子は饑ゑて居らんとや」と皇后は慄へつゝ夫に問掛けんと目くばせを爲しつゝ口を差入れたり。「よし澤山なり」と皇帝は皇后を遮りて僕を呼出して之に秘密の旨令を傳へたり。

翌日定刻、格鬪場は觀覽人に由て狹隘なりし。檻中に於て亞弗利加獅子の吼聲は響けり。面白き觀覽物を待ちこらへたる群中にて話すには大膽にも皇后を欺きし寶玉師が獅子の餌食に投げらる由と。喇叭の高音は程なく（群衆の）囂々を止め。檻の扉は開きたり、其内より生きたる顏なき（死の如き）青ざめたる男を引出せり、彼は兩手を皇帝の棧舖に延ばして（哀憐を請ふ）……。獅子の吼々は愈々强くなり、不幸なる寶玉師は膝を折り、頭を胸に垂れて兩手にて顏を掩へり……、苦難の時機は迫れり（到れり）……別の檻の扉を開けり……其中より羔は飛出したり。群衆の笑聲は不幸者に希望を開きけり（返へしたり）彼は兩眼を開き、其胸は呼吸をつぎて和らぎたり、彼は生氣を得たり。警吏は見物人に告げたり、皇帝の令旨を以て騙は騙を以て罰せられたりと。皇后は其手を我が夫に延ばし其善心と人々の爲に敎誡を（爲せしを）謝したり。

72. 長官と父

Аустерлицъ の戰役に於て都督 Кутузовъ の女婿、即ち其獨娘の夫たる、美貌なる若き男は戰死せり。彼は大に勇敢にして最も危險なる場所に向ひ進めり、彈丸は其胸を貫きて彼は殞命して落馬せり。直に之を Кутузовъ に上申せり、然るに彼は不思議にも大に冷淡にして此凶報を聽終れり。見受くる所、彼は全く心靜なりし、非常に平氣にして戰鬪中、指令を爲せり。然るに翌日侍者等は彼の激しき（言ひ顯はすべからざる）悲痛を目擊せり（接せり）、涙は小河を爲して流れ恰も小兒の如く其獨子の屍の上に慟哭せり。之を安んぜんと志して或る侍者等は言ふ事を決心せり即ち昨日死報を堪らへし彼の豪氣よりすればよもや斯かる落膽は有るまじと思へりと。Кутузовъ は答へり「昨日は我は長官なりし、今日は父なり」。

73. 生國の爲には皆同じく子なり

Лейпцигъ の戰役に於て（將軍）Богратіонъ は彈雨の下に其率ひたる軍團を指揮せり。戰酣なる際俄に副官は馳來りて之に上申せり「貴息は戰死せり」。將軍の返答は「生國の爲には今は皆同じく子なり、單に一士官は戰死せりと言はれよ、戰鬪の（終りし）後に我等は戰死者と負傷者の名を調らべん、（何卒）我れに妨くる勿れ」。

74. 最も不幸なる者

我れ（是より）語らんとする事は最近（即ち）一千八百七十九年露土戰爭の終りし後（南露の市）Кишиневъ に生ぜしものなり。男女の二童、年は七八才のもの、赤十字病院に來り、籠に携へたる饅頭を負傷の兵士に分與せんとせり。男兒は其外に片手に大なる紅色の林檎を握りたり、何が扨て彼れ自身之を喰ひたけれども然れども一番不幸なる者と見ゑたる者に之を献ぜんとの大度を以て決心せり。彼は熱激して言ふた「然し我等は土耳古人には之を與へまじ」と。女兒も之に次で同しく言ふた「いや、土耳古人には與へまじ、唯露人の然かも最も不幸なる者手も足もなくなりし者に（與へん）」。

慈惠姉妹は答へた「誰なりと汝等が欲する所の者に之を與へて可なり。我れと共に往き給へ、我れは今、我不幸なる親友等の許に往く」と。斯くて彼等は靜に踏步して其案内者に從て隨行せり。來た入口の側に於て童子は如何にも見取れて其林檎を眺めたれば慈惠姉妹は微笑して之を見て居り童子は今にも此誘惑的（彼の爲に）林檎を喰ひにかゝるかと待構へたり。然るに多少の意志の（内心の）抵抗の後、彼は林檎を籠の中に入れ置きて長息して言ふた。「これは此處に置く方が宜しとせん」。扉は開きたり、是に於て彼等は恐る々々長き室に入れり。此處には淸潔なる敷布したる粗製の寢臺は順列に相並びて立ち、各寢臺に兵卒の青ざめたる身體が安臥せり、味方も敵も相混し、和合、一致して臥したり。是れは快復中の（負傷者の）館なりし、然れども彼等は多くは未だ起ることも、座すことも、步行することも能はざる程衰弱してありし、可哀さうに、此休養安息の場所に達する迄の間（以前）に彼等の忍ぶべき辛苦は幾何なりしや。夏の炎暑中に動搖はげしき道に依て徐々彼等を乘せ運びし病院馬車の内に臥せし時、病熱は如何程劇しく彼等を苦しめしぞ。扨今は彼等病院に在りて慈悲深き姉妹等の厚篤たる看護を被りて少しつゝ其疵と負傷との治癒を得たり。彼方には毛布の上に十文字に繃帶したる片手は横たはる、敵の彈丸は手の指を寸斷せり、此方には袖の空なる肩は出現はる、其手は戰場に殘り止まれり、して彼處には手術に處せられたる片足の殘餘は顯はる。

一人の下顎は（繃帯にて）釣られ、又一人の額には大なる膏藥を張り、或は兩眼に繃帶あり、何處を見て）も憂と悲なり、然し又忍耐も希望もあり。

壁上には種々の寫眞が掛り居たり、皇帝歷山二世、皇太子、諸皇族、諸將軍等、其中には處々に父なる老人、母なる老婦、愛妹或は（愛）妻の寫眞もあり、あちら、こちらに小兒の半身（寫眞）も見えたり、凡て此不幸人等には自家に最愛の親族ありて、熱心に彼等の（負傷者）爲に祈禱せり。

して彼等は自家の樣子を談合し、最愛、最親の諸事を互に相問ひ、故郷より得たる書簡を音讀し、其通話は盡きざりし。土耳古人も露人も飽くことなく思想を交換し或は片言まじりにて或は手眞似にて意を通せんことを聞き努めたり。慈惠姉妹は微笑を含みて銘々の傍に近寄り其用事を聞き問へり、して（右の）兒等は其趾に隨て寢臺より寢臺にと（順次に）恐る々々自身（携來の）饅頭を配與せり。彼等は饅頭を敵にも味方にも其手に乘せ與へたり、慈惠姉妹は曰く●「これ彼等は皆な其職責を成し遂げ、其祖國の爲に戰へり、して今は双方共に負傷疾病に罹りて臥床す」。

終に大なる紅色林檎の外悉く配與したり。(偖) 最不幸者は何處にあるか。之を探せし兒の眼力は遠隔の隅に獨り座し居たる年若き土耳古人に落下したり。彼は一見しては最も强壯なる者なりし、彼は肢體完備し一ケ處の繃帶もなし、然るに其顏は甚だ悲しく且つ青ざめたり。

二兒は靜に聞へり「彼はどうしたるや」と。

「彼の疵は癒へたり、して明日は故郷なる土耳古に放還されん」。

「何故に彼は斯く悲沈なるや」、

慈惠姉妹は答へた「彼れの故郷には彼が返るを悅ぶべき者なきに由てなり、彼れの父と母は既に以前に死し、彼れが從軍中に其妻と妹は死し、外に彼れの親族はなし、今は彼れ（の歸國）を待つ者なく、彼れの爲に祈禱する者もなし」。

一言も發せずして、二兒は互に顏を見合せて、而後此獨座の男に近つき其手に林檎を與へて曰く「我等は汝の爲に祈禱せん……最不幸者は見附かりたり」。

土耳古人は微笑せり。是れ慈惠姉妹が此若き男の顏に見たる初ての而かも唯一の微笑なり。

75. 源泉(活水の泉)

炎暑の日中に三旅人が大道の傍の清涼の泉の邊に會合せり。密なる綠叢は泉の上に垂れ以て其影にて泉の清鮮を防衛せり。此處に石中に斫堀りたる大なる器に水は溜まれり、其器より光る透明なる流を爲して水は溢れ出て、「此泉の如くなるべし」の題字を潤せり。水の流は粗き砂の上に合流して小なる潺流を成し遙か遠く華美なる草野を通過せり。

旅人等は（思ふ樣に）飮みて題字を讀みて其意の如何なるやを熟考し始めたり。

一人の旅人、衣服に依て評すれば商人らしき者曰く「此は善き訓諭なり、泉は絕へず流る、遠く流る、廣大となり、他の泉の水を受け、(愈々) 大河と爲り、恰も自身を例に引て言ふが如し「勤め勵めよ、決して止む勿れ、然らば汝は自身の志を遂行し成功を得ん」。

今一人の旅人は老人にして書を手にして首を振れり。

彼れ曰く「此敎訓は一層高尙なり、此泉は何人にも用を爲し有らゆる通行人の渴を止め寧ろ謝禮を要せず、之にて人々に明言す「善を愛する心よりして善を行へよ、而して報謝を求むる勿れ」。

三番目の旅人は何も言はざりし。是は美なる銀灰色髮の少年にして初めて而かも近頃其母と訣別したり。道伴ら(の二人)は彼れの意見を問へり彼れは少しく思を沈め、輕く面を擡らめて言へり「此泉は我れには(全く)別の事を言ふ。若し此泉の水濁りしならば、此絕へざる水の進行何かあらん、有らゆる通行人の渴を止むる心や何かあらん。其主要なる特點は淸と潔なるに存す。此題字は我の勤勉や我等の宏量の事を言ふに非ず。此泉の如くなれとは即ち地の花や天の光線が此泉に映ずる如く我心に凡て人の爲に最高最光たるべきものを宜く反映せしめんが爲に心を純潔に保持せよとの意ならん。

76. 彼得堡動物園に於ける三人合唱

一日莫大なる群衆は動物園に進み行けり。此日彼處に大祝祭あり、園には華燈を揭げて數箇處に音樂を奏し舞蹈及種々の演藝あり。

園の入口に或老人が十五才の娘と共に立てり、其娘は琴を彈し、老人は其老衰の聲にて歌へり。其頃最も有名なる諸劇の女優 J. 孃及嬤と共に俳優 M. と H. 氏はこの傍を通行せり。高名な

る女優（歌優）は面白半分に瞽者（老人）の（携へたる）投錢器（木椀）に目を注きたるに其底には一文もなかりし。多數の人々は娯樂を急ぎつゝ往きつ戻りつ（此處を）遄行せり、然るに誰一人此不憫なる者を顧る者なかりし。

Ⅱ 孃は其同伴に向て言へり「最上の考案（を得たり）、眞に優美的の考案なり、貴君等両人は我を助けざるべからず。此瞽人の憫なる歌は未だ一人の聽者をも、惠みの錢をも得る（之に與ふる）能はざりし。我等之を試ん、成効する（尚幸なる）やも知れず。」

M と Ⅱ は微笑を含んて此談に乘りたり。Ⅱ は小女の懸を取れり、斯くて高名なる俳優等は絶妙なる三人合唱を始めたり。通行人等は立止まれり、瞽者の周圍に群衆は集れり（群衆の團欒を生じたり）、瞽者も感服して之を聞けり。（人々）合唱者の名を知りければ四方より拍手と稱贊の大聲は熄き程なく此報知は園中に悉く傳はれり、舞蹈を棄て、遊技を見捨して人々群がりて前述の事件（光景）の生ぜし處の方を指して進行せり。斯くて群衆は非常に多く增加せり。

數曲の獨吟を歌ひ切りて Ⅱ 孃は幾多の喝采の後、瞽老の帽子を取て慈惠金を集めんとて群衆の中に赴けり。一人其例を與へければ、皆以て帽中に錢を投し始めたり、或は銅貨を、或は銀貨を、或は金貨をすら、宏量の激發は吝嗇者にすら感及し、互に相押し合ひ、人の肩を跳越し、無數の手は慈惠金を示して高く擧がりたり。瀕命者の帽子は數次（金にて）充滿したれば遂に撒き入れられたり。

群衆を巡り渡りて Ⅱ 孃はは其計畫の結果を感嘆しつゝ（傍に）立てる同行者に向て言へり「偖今は我等も此瀕命者に何か與ふべき順番なり」。彼女は椀中に一個の金貨を投したり、M と Ⅱ も同じく斯く爲せり、して Ⅱ 孃は錢の入りたる椀を小女に渡しつゝ之に言へり

「これは汝の物たるべし、汝の父は此金を汝より取る能はず、これにて汝は新らしき衣服、帽子、靴、靴を買求めよ、汝の今着たる衣服は古びて、塵れたり、然るに汝は其身年若く、美なり..... 我兒よ左樣なら」。

三人の容晏なる俳優は互に手を携へて、瀕命者の感謝と群衆の感服に見送られつゝ彼方を指して立去れり。

77. 象

象は地上の最大動物なり。彼等は亞細亞と亞弗利加に於て折々大群を爲して生育す。象は廿年迄發育し、殆と二百年間生活す。象の頭は餘り大なるに非ず眼は體の大さと比して小なり。足は不恰好なり、故に其胴は恰も四つの柱に支へ（安置）らるゝが如く見ゆ。何より目に着くは象の頭の上の大鼻なり、象は之を六尺餘に伸ばし又二尺に縮むることを得るなり。象は其鼻を手の代りに使用す、彼れは鼻にて地上より何にても欲する物を擧ぐることを得、最も細かなる貨幣をすらも。（紐の）結びを解き、錠を開き、見物人の衣嚢よりばん及錢を引き出すことをも得、此鼻には（非常の）力ありて、之にて牛、馬、虎をすら殺す又地より樹木を根こぎにす。鼻は亦彼れの呼吸、號聲、防衛の用を爲す。鼻の下より二つの大なる牙は突出す、これは甚だ白くして所謂象牙を供す、象牙より各種の優美有益なる物品を造る。

斯かる力あるにも拘らず象は最も温柔なる且つ智慧ある動物に屬す。象を馴らすこと難からず、彼れは容易に人に慣れ、其主人の音聲を聞分け（知り）、其命することは凡て之を行ふ。

洪水以前の象（マモント）の骨は大抵世界の各州に存し殊に西伯利亞に於て、其諸流岸に沿ふて Камчатка の端まで（多く存す）。

78. 象の復讐

象をば車には駕せずして常に象の背上に天幕を張りて之に乘る、象を指揮する爲に馭者は其頭に坐す、馭者の手に鎚ありて、之にて象の頭を擊つ、斯かる樣にて以て此動物を指揮す。或る一度馭者は象に乘りつゝ彼れの頭上に硬きコヽアナツプを投け附。象は强き傷みを忍び耐へたり、然るに其日市場を通行しつゝ象はコヽアナツプの堆積の前に止りて鼻にて一個の實を取り、之にて大程に我馭者の頭を打擊せり、（即ち）馭者は死して地上に倒れたり。

79. 忠なる動物

Вальтеръ（と云ふ）武士、十字軍中に Сирія の荒野を騎行せり。俄に遠方に聲を伸したる悲鳴の呻吟を聞けり。彼れは思へり「確にアラビヤの盜賊が或る旅人を襲ふたるならんと」。不幸な

る者を救助する志望を以て彼れは叫聲の聽きたる場所に急き行けり。然るに其驚きは如何、大蛇の獅子を巻き纏ふたるを見たり。Ваньтёрь は思へり「窘めらるゝ者を助くるは武士（たる者の義務なり」と。此志慮は彼れに氣力と勇を添へたり、彼れは蛇に向て突進し、劍の勢ひ強き一撃を以て之を兩斷し獅子（の身）を其怪敵より救ひたり。其時より感恩の獅子は武士と離れずして、犬の如く何處にも彼れの跡に附從せり。終に戰爭は止みて武士は歐羅巴に歸る準備を爲せり、彼は忠なる獅子を携へ往かんと欲せり然るに誰ありて船主は獅子を船に乘することを承諾せざりし。故に獅子は陸（海岸）上に殘らざるを得ざりし、して彼れは自身の棄てられしを目擊したる時驚きて咆哮を擧げたり。これよりして彼れは海中に投身し船の後を泳げり。彼れは長く海上を泳ぎたり、確に之を船中に上ぐるならんと望みしならん。然るに彼れは終に力盡きたり、して波濤は此恩愛深き、忠なる動物を湮沒したり。

80. 盲目の馬（實らしき昔話）

今を去ること最と昔、我等のみならず我等の祖父、曾祖父等も未た世に存せざりし頃、或る海岸に於て富みたるスラブの貿易府 Винета（と名つくる）あり、此府に Вселомъ と云ふ豪商住めり、彼れの船舶は大金の貨物を積みで遠洋を航行せり。Вселомъ は甚た富みて豁澤に暮らせり、或は Вселомъ と云ふ綽名は當時（天下の）佳品珍寶と名づくべき物は悉皆彼れの家に在りしに依て之を得しならん。

Вселомъ の厩には名馬多かりし、然るに彼れの厩にも Винета 全府内にも「風」より駿足なる美なる馬はなかりし。Вселомъ は其愛する乘馬を足の駿なるに由て斯く綽名せり。主人自身の外、誰も「風」に乘るを憚りたり。主人も又決して如何なる馬にも乘らざりし。

偶々商用旅行中の或る一度此商人、Винета に歸る途中其愛馬に乘りて大なる暗黑なる深林を通行せり。暮れ近き事なりし、林は物すごく暗く鬱蒼し、風は滿面したる松の梢を搖り動かしたり。商人は唯獨り、而かも遠路に疲れたる愛馬をいたはり並足にて乘行けり。忽ち叢の蔭より恰も地より涌き出てし如く六人の猛獸面ごしたる盜賊は手に斧と刀を携へ飛出したり、三人は馬上、三人は徒歩なり、して二人の盜賊は既に轡を摑み商人の馬を捕へたり。若しも乘馬が「風」にあらずして他の馬なりしならば富みたる Вселомъ は其愛する Винета 府を再び見るを得ざりしならん。轡に人の手（を掛けたる）を感して馬は前方に投身し、轡をおさへて馬を制さんとしたる兇漢を其廣く強き胸にて地上に轉倒し、三番目（の兇漢）は斧を振り上け前方に走りて道を遮らんとしたるを（馬は）足下に蹈にぢりて疾風の如く飛驅せたり。騎馬の盜賊等は之に追ひつかんと驅け出したり、彼等の馬も同しく逸物なりし、然れども到底 Вселомъ の馬に追付くべくもあらさりき。「風」は其疲勞にも拘らず箭の如く驅せて背後に遠く兇漢を置き去れり。半時間を經て Вселомъ は其逸馬に跨りて Винета 府に乘込めり、泡は馬より地上に流れたり。

馬の腹腹は疲勞によりて高く持上れり、商人は馬より下りつゝ其頭を撫て公然約言せり、此馬に何事あるとも決して忠なる此馬を賣ることなく又人に給與するなく、如何に彼れが老衰するとも之を追放せず、又馬の死する迄は毎日最良の燕麥を三升つゝ支給すべしと。然れども Вселомъ は妻と小供の許に急きつゝ自身馬の世話を爲さず、又惰僻の僕は苦み疲れたる馬を法の如く介抱せずして之に全く（熱を）冷さしめず、時を早めて之に飲ませしめたり、此時よりして「風」は疾み始め、歩行も弱り、終に明を失へり。商人は大に悲痛せり、して半年程は確實に我約言を守れり、盲馬は以前の如く厩に居り、毎日之に燕麥三升つゝ支給せり。其後 Вселомъ は他の乘馬を求めたり、然るに半年を經て彼れ思へらく（見にた）此盲なる何の役にも立たざる馬に燕麥三升つゝ與ふるは餘り不經濟なりと、因て彼れは二升給與するを命ぜり。又半年を經過せり。盲馬は未た年若く、之を飼養すること久しかるべきを以て、之に一升つゝ給與し始めたり。終にこれも商人にうるさく見にて、彼れは「風」より轡を脫して門外に之を放逐するを命して以て徒に厩の壞塞き無からしめたり。盲馬は固く動かざりし故に僕等は棒を以て之を邸内より逐拂ひたり。

憫れなる盲馬は、何事を爲さるゝやら之を解せず又何處に往くべきや知りもせず見ることも得ずして首を垂れ悄然として耳を搖かしつゝ門外に立止まれり。既に夜となり雪は降る石上に臥すは堪へ難く（硬く）且つ寒し。彼れは數時間同じ場所に立續けたり、然れども饑は終に彼をして食物を探さしめたり。頭を持上け、空中を嗅きつゝ何處にか古き衰敝れたる屋根より藁の一つかみになりとも有り附かざるかと盲馬はまぐ　幸にぶらつきて或は家の隅に或は塀に斷へず突き當れり。

（茲に）讀者に告げざる可らざる事は、Винета 府には他の古代のスラブ民の市府と同しく諸侯

を有せずして市民は何事か大切なる事件を決斷すべき時は廣場に集合しつゝ自治に處置せり。人民自身の事件を決議の斯かる民會は「ウェチェ」と稱せり。Винета 府の中央に「ウェチェ」の會ある廣場に於て大なる「ウェチェ」の鐘が四本柱に釣り掛れり、此鐘の音を聞て人民は集合す、又人より損等を被むりて人民の裁判と保護を仰がんと欲する者は何人なりとも之を鳴らすを得たり。勿論、誰も瑣細の事故よりして此鐘を鳴らすを敢てせざりし、之が爲に人民より辛らき目に遭ふを知れはなり。

盲なる聾なる饑たる馬は廣場を彷徨しつゝ、不圖此鐘の掛りたる所の柱に衝き當りたり、或は屋根より藁一ときつかみなりとも取出さんかと思ひつゝ鐘の槌木に結び着けし繩を齒にて銜へて之を握り始めた。鐘は左程に強く鳴り始めた、未だ朝の早きにも拘らず斯く音激しく裁判と保護を請求するは何人なるやを知らんと欲して人民は群を成して廣場に驅け集まれり。Винета 府の人は皆な「風」を知れり、彼れが主人の生命を救ひしを知れり、主人の約言を知れり、故に今此廣場の中央に憫れなる、盲なる、聾なる、饑たる、沍寒に顫へ居たる馬を見て奇異の念を爲せり。程なく事の次第は判然せり、富める Вселомъ は我一命を救ひたりし盲馬を家より放逐せりと聞知りて人民は恩知らずの商人を廣場にに呼出したり、彼れの言譯を顧みず、以前の如く一生之を飼養することを命ぜり。此宣告の實行を監視する爲に特別に一人を附せり、しての宣告をは此事件の記念の爲めに「ウェチェ」の廣場に立てたる石に刻めり。

但し傳へ言ふ、此宣告の實行を Вселомъ に迫るの要は一度もなかりしと。彼れは其行の汚惡を感して馬の死する迄、之を飼養し介抱せり。

81. 馬と駱駝

アラビヤの或傳に曰く、神が人と動物を造りし時、虚榮を好む馬は自身に賜はりし身の整然たることを數日間引續き傲りたり、其後俄に尚は美麗、尚は完全ならんことを欲して我身を改造せんことを神に願ひ始めり。

主は慈憐を以て之に問へり「汝は何を不滿なるや」。

輕浮なる馬は答へり「總體言へば我れは（不足を）訴ふる所なし、なれども我れ思へらく、若し我足尚は長く且つ細かりしならば我が驅走尚は速ならんと、白鳥の如き長き頸は我顏に尚は適合ならんと、尚は廣き胸は我力を强めんと、して又我は汝の愛者なる人間を乘する爲に汝に造られ（任定）たる故に、我に賦與するに附置きの鞍よりも天然（生得）の鞍を以てするも可ならん。

主曰く「汝の願望は叶ふべし、然れども先づ其標本を一覽せよ」と、斯くて神は塵土を取りて駱駝を造れり。

此無恰好物を見て馬は恐れ顫動せり。

主曰く「見よ、うれ足は汝のより高く且つ長し、うの頸は白鳥の如く長し、胸も汝のより廣く、且つ天然の鞍なり。汝は斯の如くなるを望むや」。

馬は尚未た顫動して默然として首を垂れたり。

慈憐深き神は語を次て曰く「往け往け、以來自己の運命を以て滿足せよ。されども汝が復た之を忘れざらん爲に此造物は汝の虚妄なりし願望を汝に記念せしむるものならしめん」。斯くて神は駱駝に生命を賦與せり。

此時よりして馬は駱駝を見る毎に全身を顫動す。

82. 綿羊

アラビヤの傳に曰く、最初綿羊は他の動物と共住せり、然れども殆と皆な之を輕侮せし故に諸動物と共住は困難なりし。之を以て綿羊は其運命を易からしめんことを神に願へり。

神曰く「善良なる（動）物よ、我れ汝を不憫なりとす、汝は全く保護なきものなるを我れ知る。（我れ）如何樣にして汝を助くべきか、汝（自身の望を）言へ。我れ汝に大なる牙と長き鋭き爪を與ふるを（汝は）欲せざるか」。

綿羊は答へり「否々、我れは肉食獸の如く凡てのものに恐怖を抱かしむるを欲せず」。

「或は我れ汝の唾に毒を含ませるを欲するや」。

「否、我は之をも欲せず、毒蛇をば皆な嫌惡せり」。

「よし、然らば我れ汝に强き角を以て武裝せん」。

「否々、我は山羊の如く角突きものたるを欲せず」。

神曰く「どう爲るのだ、若し他の動物が汝を害せざらんことを望まば、汝は必ず自身彼等を害するの能力を有せずんばあらず」。

綿羊は嘆息して曰く「吁々、若し然りとせば、我を今迄の如く保護なきものと爲し置けよ。害する能力は（一種の）慾と成る（發達する）を得、然るに我れ思ふに、他のものに侮辱を與ふるよりは寧ろ自身に之を忍び受くるを優れりとす」。

綿羊の溫柔は神の意に適ふたり、之を以て神は綿羊を人の保護の下に附せり

83. 忠義の犬

或商人が馬に乘りて途に上れり、其後に忠義の犬は馳せたり。商人は大金額を受取らんとて赴きしなり。既に金を受取りて之を囊に入れ鞍に結び附けて彼れは家を指して乘行けり。途中にて囊は解けて落ちたれども商人は之見留めざりし。鋭眼なる犬は囊の落ちしを見て齒にて之を上んと試みたれども囊は其力に餘りしを感して犬は囊を其儘にして我主人に追着き前方に走り馬に飛びかかり猛り且つ執拗に吠にかかれり。何事なるやを知らずして商人は犬をど嗚り叱り鞭を以て之を擊ちたるも何の効もなかりし。忠義なる此動物は恰も其主人を地上に（下へ）引摺り降さんと欲するが如くに激昂して馬に飛びかゝれり。何しても其効なく、商人は矢張り先へ進むを見て犬は馬の足に喰ひつきかけて主人を戻らしめんとせり。商人は驚けり、彼は思へらく、其犬は發狂せりと、して狂犬の恐ろしきを知りて彼れは其忠義の僕を銃殺せんと決心せり。

左れど尚ほ久しく彼れは或は撫愛を以て或は脅喝を以て或は鞭を打ちて犬の執拗を遁れんとしたれども何の効もなきを見て拳銃を取出し心苦しくも忠義なる犬を銃殺せり。憫れなる犬は倒れたるも忽ち復た起き上りて喚叫を發し血にまみれて主人の跡に從はんと努めたり。商人は甚だ其犬を愛したれば犬が苦む樣を見るに堪へず、依て彼れは馬に刺輪を加へて疾く前方に馳せたり。暫しく乘り往きて商人は憫れなる犬は如何になりしやを一見せんとて後方に身を轉し其場に於て初めて金の囊が鞍に在らざるを認めたり。其時商人は了解せり、何故斯く頑として忠なる犬は吠え且つ彼れに飛び掛りしかを、茲に於て彼れは金よりも寧ろ犬を吝みたり。彼れは直に後方に駈けたり、然れども犬を棄て置きし其場に犬を見ざりし。途上の血跟は後方に犬の戻りしを示せり。血跟に從て進みつゝ（終に）金囊の側に犬（の存する）を見出したる時、善心なる商人は如何に心を痛めしぞ。犬は我主人の心を解したる如くして之を眺め且つ嬉れしがりて其手を舐れり。

84. 犬の人に懐つきし事

巴里に於てよ大抵凡ての廣場及大通にて通行人の埃りになりし履物或は汚れし履物を磨き清むることを勸むる童子等を見受くるなり。是れ所謂靴磨きなる者にして、彼等の所有物とは足臺と二三の刷毛と靴墨の皿に止まるのみ。

斯の如き一童子、雜沓の街路の隅に居れるもの、我が傍に美麗なる黒犬を置きて暇ある時は膝に載せ且つ自身の粗食を分ちつゝ之を寵愛せり。此犬は彼れの唯一の友、唯一の快樂なりし。されのみならず此犬は其主人に主要なる仕事を與へたり。暫の間例令ば半時間なり經過中に足臺に客の來らざるを認むるや否や犬は何處なりと近邊に水溜を探して其中に前足を浸し、見當りの人に走り寄りて其足を踏めり、故に（右の）通行人は已むを得ず其處に扣へ居る靴磨きの世話に爲らざるを得ざりしなり。

勿論犬の惡戯は其度毎に望通りの結果に達せしに非ず、或人の如きは時間若くは小錢を有せざる故に（惡戯されても）腹立ちて通り過ぎしのみ。然るに此犬は靴磨に屬して而して故意に通行人の靴を汚すとの事が（世間に）著しくなりし時、巴里人はわざ々々此街路を通行して興を試み、（靴磨の）小僧には餘計の（賃）錢を得せしむるに至れり。

丁度此小僧が立て居りし其隅角の向ふの旅舘に滯留せし英人に此犬の惡戯が餘程氣に入りて彼れは此犬を買受けることを望めり。然れども小僧はどうしても犬と別るゝことを承諾せざりし。寄寓の英人は二三四の金貨を約したれども其甲斐なく、小僧は聞き入れざりし。然るに與へんとする金額の增加するに從て小僧は心を搖かし始め、終に金の多量に心醉して此犬を十五の金貨にて讓り渡せり。されど犬との訣別は小僧には苦しくして、英人に即刻立去ることを願へり。英人は快く此願を實行したり、如何となれば此近邊に滯在しつゝ犬を我手許に保持することは決して能はざりし。即日英人は犬を携へてカレー港に出立し、彼處より滊船にてドウルに赴き、ドウルより郵便滊車にてロンドンに赴けり。斯の如くして犬は其持主より餘程大距離に遠けられたり。

英人の立去りし後の初日には小僧は先つ金持になりたりとの思慮にて自身を慰籍して仕事にさへ

赴かざりし。然るに彼れの安心は長久ならさりし。程なく彼れは思ひ知れり、即ち其所得の金は能く彼れの生計を保全ならしむるに非ず又概して此金は彼をして以前より幸福ならしめず、殊に其忠實なる親友(犬)には換へ難しと。恐ろしき憂悶は彼れに附き纏ふたり、して若干の時日を經過せし後、彼れは認めたるは彼れの顧客の數も甚だ減少したりと、是に於て彼れは失望し其親友且つ稼人(たる犬)に對して酷なる不親切を爲せしを悔悟せり(己れを責めたり)。

數月間斯くは過ぎけり。或一度小僧は仕事あれかしと其足臺に腰掛けて遠方の親友のことに就て追想に沈みつゝ涕を制する能はずして兩頰に太き涕滴を垂れ流し居たる際、俄に或る犬が飛附て彼れをかじり、吠るやらうなるやらして彼れの面と手を甜めたり。小僧は夢かと疑へり(自身の眼を信せず)、彼れの前に其親友、仲善しなる犬は痩衰へ不潔になり毛を縮れからまして立てり。然れども實にかの犬なりし。新主人より遁去りて忠なる犬は長くさまよひし後再び巴里に達して、今其前主人の足下に臥せり。如何にして彼れは海を越へ來りしか、言ひ盡し難けれども、確に或る漁船に投入するを得て以てドウルよりカレーに渡り越へしならん。此時よりして小僧は最早其親友と離れずして、犬は以前の如く通行人を足臺に呼招き始めたり。

85. 病犬

或外科醫が其友人の犬を治療することを請合ふたり、其犬は足を挫きしなり。此治療は全く成就して犬は癒へたり。其後程歷て、何人なるか外科醫の(家の)戸をかきむしるを聞けり。醫者は戸を開きて全癒せし犬なるを見て奇とせり。犬は一匹ならず、同じく足を挫きし他の犬は隨伴せり。醫者は言へり「今度は宜いとしてやるが然し以後我が許に斯かる病犬を伴ひ來る勿れ」。

86. 火事犬

屢々遭遇する事なるが、市中に於て火事の際、小兒等は家中に居殘りて之を救ひ得ることあり、彼等は驚愕して隱れ默し、烟に依て之を見出す能はず。斯かる小兒を救助せん爲に Лондонъ に於ては犬を之に慣らせり。此犬は消防手と同居し、家の燒ける際には消防手は小兒を曳出す爲に之を放つ。Лондонъ に於て斯の如き或る犬は十二人の小兒を救ひたり。此犬を Бобъ と呼べり。

或時一の家は燒け始めたり。消防手が驅着けし際一婦人は飛出てたり。彼女は泣て言へり、家中に其二才の兒女は殘れりと。消防手は「ボブ」を遣せり。「ボブ」は階段を馳せ上りて家中に入りたり。凡う五分間を經て彼れは家より飛出て襯衣を銜へて兒女を携へ來れり。母は兒女に飛付き歡喜究まりて泣けり。消防手は犬をあしらひて火傷せざりしやと之を顧み始めたり、然るに「ボブ」は再び家中に飛入らんとせり。家中に尚ほ小兒の殘りしやと思ひて消防手は之を放てり。犬は疾く家中に走りて程なく一物を齒にくはへて飛出せり、何を持來りしやと人々之を視て(思はず)噴き出せり、犬は大なる人形を持來りしなり。

87. 猫と木鼠

獵夫は林中の樹下に小なる木鼠を見出したり、之れは多分、親なる木鼠が或る肉食獸に捕へられ喰はれたる後に巢より落ちたるならん。獵夫は之を取上げ家に持來りて小兒に與へたり。小兒等は牛乳にて之を哺まんと試みたり、然るに木鼠は未だ幼にして<u>爪</u>ることも歩むことも見ることすらも能はざる程なり。小兒等は心配して之を如何に處せんかを知らざりし。然るに又別に一の不幸は加はりたり。彼等の愛猫に不幸は生じたり、(何となれば)先日産みたる其猫兒を奪取りて之を水に沈めたり猫は今悲みて隅より隅を(探し)歩み訴ふるが如く鳴けり。如何に之を慰むべきやを小兒等は知らざりし。俄に彼等は案出せり、此猫に孤なる木鼠を附して以て彼等兩方を助けんと。思ひ附き通り實行せり。最初猫は此小なる知らぬ者より後ず去りしたり。然るに後には之を嗅き舐めて遂には以前其猫兒に對せし如く之を哺育し始めたり。此時よりして猫は鳴くことを止めて、殆と其養兒を離れざりし、養兒の生命も今は救助せられたり。

時日を經て木鼠は些しく生長し駈ることを習ひ得たる時、猫は之に鼠を捕ふることを敎へ始めたり、最初彼は死したる鼠を携へ來り之を其飼兒の前に置きて、如何にして之を攫むべきかを示せり。其後猫は半殺しの未だ兎に角動くことを得る所の鼠を持來れり、遂には全く活きたる鼠を持來りて或は之を齒より放ち或は復た之を捕へけり。凡て斯く彼れが致せしは勿論木鼠をして之を眺めつゝ同樣に鼠を捕ふることを習ひ得せしめんが爲なり。然るに木鼠は全く其飼育者たる猫の敎課に

心を用ひず且つ其際毫しの機才をも現はさゞりし。猫は如何程其飼兒に種々の猫の作法を教へんとを努めしも悉く徒勞なりし。

木鼠は全く無能なるとを發露し、何事をも習ひ得ざりし、鼠を捕ふるとも喰ふとも、猫鳴きすらも。猫が之を呼ぶ度毎に彼は自分流に「ムルヤヤ」と應答せり。

或時猫は園に出てたり、木鼠も彼に從ふて其處に馳出てたり。彼等は榛の木に近寄れり、その下に野鼠は穴を構造せり、猫は復た鼠を捕ふるとを教へんと欲したるに木鼠は木を見るや否や速に幹によりて木の上に走上り、高き枝に攀上りて樂しく其飼育者に向て下を覗始めたり。猫は其兒が木上に居るを見て其後に急き行けり、然るに木鼠は枝より枝に跳移り漸々上方に登り遂に絶頂に攀上れり。彼處に於て彼は後足に座し榛の實を摘取り之を嚙り破り其殻を去り之を下に投し速に前足にて回轉し、液ある仁實を味ひたり。猫は初の枝に止まりて不思議に之を眺め而して失望して鳴き始めたり。終に思ひ定めたり、確に彼れの育兒が彼處に居るは樂しく且つ何の危險も非ざんと。猫は地上に降り尚又奇異を抱きて上の方を見たり。然るに猫が木を去らざる間に木鼠は既に其後に附て跳來れり。

此時よりして猫は最早鼠を捕ふるとを木鼠に教へざりし。彼等は以前の如く相共に園中を遊べり、然れども今は早や各々自分流に食を探せり。猫が鼠を捕へて之を榛の樹の下に喰ふ際に木鼠は其枝を跳ね、其上に體を搖り動かし又榛の實を嚙れり。

88. 彼得大帝の逸話

1. 彼得大帝は突然諸處の市府に臨幸すること多かりし。或時彼は不意に Одоевъ 市に到りて直に市裁判所の事務室に赴き彼處にて老裁判官に面會したり。帝は「今事務所には如何なる訴訟事件が存するや」と問ひければ裁判官は恐懼して膝まつき顫へ聲にて答へた、事務所には訴訟件は少しも無しと。王は奇なりと思ひて問ふた「如何にして無きや」と。裁判官は涙を出して復た曰く「我君、何の件も非ず、我れ實に過てり我れ常に如何なる訴訟をも事務所に及ぼすを許さずして双方を和解せしむるを慮る」。帝は之を珍しとして膝まずきし裁判官を手つから立たして之を接吻して言ふた「我は凡ての裁判官が卿の如く過失ならんことを望むなり。卿よ、斯の如くに其職を長く勤めよ、神は卿を見棄てざらん、我も亦之を忘れざらん」。

2. Рига の市を占領せし後、彼得は Меншиковъ に所有地を與へた、これは以前政府の所有なりし。然るに過ちて其土地區域に Рига の或る市人に屬せし區分を加入した。何の告なくして我土地を失ひし此市人は帝の Рига に滯在の際、帝に謁見して我が憂憤を述べた。

王は之に答へた「汝は裁判に依て自分の所有物を取戻すことを得べし。侵害者は誰なりとも必ず法律に服從せざる可らず」。原告は Меншиковъ を我所有物の横領者として之を相手取り訴へた。

Меншиковъ は國王の指令を憑據とした。茲に於て（裁判所）は帝に向て召喚狀を發した、帝は裁判所に出頭して原告の訟を正當なりと認め、且つ裁判官の判決即ち不正に分界したる土地をは以前の所有主に返戻すべきことに同意を表した。

彼は裁判官の公平を賞言した「我れ自身も法律に服從す如何なる者なりとも決して之を破る可らず」。

3. 勳功を賞するに吝ならざる彼得は自身に關する事に就ては極て節儉なりし。肥饒ならざる Новгородъ 縣の一小地を以て僅に自身の諸入費に充つるの料地としたる彼れの爲には奢侈の生活なとは思ふことも能はざりし。第一回の外國漫遊の時、小數の從者を率ひて或夜微行にて和蘭の一市に着し、飲食店に入り晩食を命したり。十二の雞卵、乾酪、ぱた、酒二壜を供す。いざ勘定となりければ、店主は慥に此來客の何人なりしやを知りし者と見なして晩食料として百金を請求せり。彼得は此金額を拂ふことを命したり、然れども以後決して此費用を忘るゝこと能はざりし、而して彼得堡に來りし和蘭の艦員を饗應の際には其都度必ず彼等に向て此和蘭の飲食店主の貪慾を訴へけり、彼は曰く「我は豪奢などの餘裕はなし、自身の所有地は小なり、我が受くべき給費は僅少なり、又國庫をば大切に使用せざるを得ず之れに就ては我れ神に報告を呈すべき責任あり」。

4. 高貴人の一人たる公爵 Меншиковъ は我家に宴會を設けた、其宴會に招待されしは帝と皇后、外國公使、幾多の貴顯なりし。帝は宴會に出席を諾した。然し其前に造船廠工事を一覽に赴いた。皇后及び其他の賓客は既に Меншиковъ の許に赴た。帝は工事を一見して宴會に出發した。俄に一人の水兵は駈來りて膝まついた。帝は止りて何用なるやを問ふた。彼は答へた「神は我に男子を賜ふた、我君よ、是れ汝の水兵一人增加せしなり、願くは我家に來臨を賜へよ」。帝は答へた

汝の家は遠きや」「遠くはなし」。「よし」と言ふて帝は彼の後に隨して其小屋に入つた。生兒の母は木の盆に火酒一杯を捧げて帝に供す。帝は子供の生れしを祝して火酒を飲んだ。偖既に食事の用意は整ひて食卓の上には人參を餡つめにしたる饅頭を供した。帝は饅頭を取て手にて半分に割り之を喰た。之を見て主人は卓上に熱き汁を供して言ふた「あなた水兵のソップはどんな物だか一寸なりと味ふて下さい」帝は之を味ふた、所が仲々甘まかつた、彼は食卓に着座して愈々之を喰ふた。それから麥酒一杯を飲干して主人夫婦に謝禮して Меншиковъ の家に赴いた、彼處にては先刻より既に之を待ち通した。彼は斯く久しく賓客を待たせしことを彼等に謝罪して曰く「神は我れに新たに一人の水兵を賜ふた、我は其父の家に臨み其饗應を辭する譯にも往かざりし」。

5　一日彼得は造船廠の工事に於ける職工の不規律を痛く憤れり。遂に極りて彼れは海軍省に入り一言も發せずして自身の副議長席に座したり。其時省長 Писаревъ は或一事件を議事に附せり而して彼得は第一番に議事に就ての意見を吐露し始めたり。省長は之に向て曰く「副議長君、貴君より始むべからず、貴君より年少の者あり、規定に依れば年少議員よりして發言を與ふ可きなり」。帝は激叫せり、「汝は敢て我れに指令するや」。「我が職務に依て之を敢てす、我が職務は我をして法律の制定せし秩序を保持せしむ」。「汝は今誰を相手に發話すると思ふや」。「副議長を相手に」。「斯かる無禮の爲に其頭を失ふべきことを汝は忘却せしや」。「吁、是れは既に帝としての言なり、然れども斯くては何故に法律を編するの要あるや、豈に之を守らず之を破らんが爲のみならんや、其席を去りて玉座に就き賜へ（して彼れは帝の座席を指せり）、然る時は我は陛下の言を悉く筆記して之を勅令として奉敬せん、勅令には法律に由ても良心に由ても我は畏れ入りて服從せざるを得ず」。帝は憤激せり、省長の言は餘りに無遠慮なりと見えたり、故に彼れは聲を顧はして絶叫せり「無禮者、默れ」。座を起ちて帽を攫み役所より急き出て宮殿に去れり。

皇后（Екатерина 第一世）は歸來りし夫を見て之を迎ひに出て、夫の激怒を認め愛情を籠めて「何事の生ぜしよ」と問へば「Писаревъ は衆人の前に於て復た我を辱かしめたり」。「いやはや、彼れは既に幾度汝を侮辱せしか、汝は何故に彼を免職せざるや」。「我れ之を爲す能はず、彼れは甚だ有益なる人なり」。「何ずれが能はざるや、汝は帝王なり、若し彼れは有益ならば之を他の市府に轉任せしめよ、左すれば兎に角、當地に於て汝を侮辱せざらん」。「Екатерина よ、出來ぬと云ふたら出來ぬが、彼れは當地に於て我れに必要なり。彼れは常に正義を吐く、且又我れ若し彼れを免職せば之を以て我れは他の者を悉く威嚇し、誰も正義を吐かざらんとす、正義を知らずして我れ爲が國を治むるを得ん」。此後數日を經て彼得は Писаревъ と和睦し其後之を最高官に任したり。

6. 彼得帝曾て丁抹王と談話せり。軍務と紀律を善く心得居るは孰れの兵卒なるやとの談を交へたり。王は自國の兵に左祖して確說して曰く彼れの兵は年久しく軍律に慣れし故に露兵に優るべし、露兵は未だ近頃農民より募集せし者なる故を以て丁抹王の老練兵の如く軍務に熟する能はずと。帝は王に曰く「我が新徵兵は或る點に於て貴國の兵に劣るとは我れ之を爭はず。然れども我が確く執る點は左の事なり、主要なる武勇とは是れ盲從的服從なり、兵卒に命して之を行へと云へば彼れ之を行ひ、彼處に往けと命ずれば私議することなく往くと云ふ點に於て我が兵卒は貴國のみならず如何なる國の兵士にも優る」。王は答へり「否、服從に於ても我が兵は貴國の兵に劣らず、我れ之を確信す」。帝は曰く「陛下よ、若し然りとせば我等今直に實驗を行はん、其趣は次の通りなり、陛下は其護衛の一卒を呼出して彼にうれ此窓より跳出るを命し賜へ、次に我は我が兵卒を呼びて同しく斯く行ふを命せん、して如何あらんかを見ん」。王は之を諾して其一卒を呼ふことを命して而して之に窓より跳出るを命じたり。窓は三階に在りし、兵卒は窓に近つき下方を眺めて以て恕免を請ひ始めたり。然るに王は之を許さゞりければ兵卒はは先つ家に戻りて家族と告別するの許可を請ひ始めて曰く「我は最早彼等に遇はざらん」と。王は其服從なるを讃めて之に暫く暇を賜へり。

次に彼得帝は衞兵舍より一卒を呼出せり。卒は入來る。「友よ、達者で（目出度な）」。「陛下にも御健勝ならんことを希望す」。「此方へ近寄れ」。卒は近つきたり。「今直に此窓を跳出でよ、而かも急走して」。「陛下よ、どの窓との仰なるや、これなるや」。「然り、うれだ」。して卒は一瞬間に忽ち窓の上に跳上り、身に十字拜を行ひ、頭を前方に向けて、あわや投身せんとしたりければ帝は辛ふして其裾を捉へ得たり。

帝は之を抱き、厚く賞與を賜ひて歸したり、丁抹王は兩肩を縮めて云へり「帝よ御身には斯の如き兵あるを我は羨む」。

7. 彼得大帝は晩の十時に臥寢し而して夏も冬も朝の三時に起きたり。彼は起きて彼得堡の新聞を讀み或は其命したる書籍の飜譯の草稿を閱しつゝ室內を一時間運動せり。四時或は五時に彼は片手に杖を携へ片手に手簿を持ちて彼得堡に營みし工事の檢閱に趣けり。

或時彼は彼得堡に到着の獨逸公使に謁見を朝の四時に仰付けたり。此謁見は恐らく一種無損なしならん。公使は斯く早く帝の起床するとは思はずして五時に宮殿に出頭せり、然るに帝は居合はさず、彼は此時既に軍艦の檣樓に於て勞作せり。公使は重要なる委托を有して國王に見へずして諸大臣と談判する能はざる故に、已むを得ず造船廠に趨けり。公使來到の事を帝に奏達せし時、帝は曰く「宮殿に於て我れに面會し得ざりしならば、御面倒ながら此處に來るべし」。公使は已むを得ず中檣に登りたり、而して帝は丸木に坐して國書を受納し常例の挨拶を聽けり。

8. 王は陸軍の勤務を踐行せし如くに海軍の勤務をも悉く踐まんと決心せり即ち最下級より始めて。是に於て老練なる和蘭の掌船手 Виллемсонъ を其教官に撰びたり。王の善眞なる教官は最初は諸藏するなりと思ふたり。「若し習學を欲するならば船室の小僧の職より始めよ、それから水兵と成るべし、人に命令を下すに先ちて自ら人の命を遂行し且つ人に仕へるとを學ぶを要す」。王は問へり「うも船室小僧の職は如何なるものなるか」。「先つ來りて我に煙草を詰めよ、それから火酒を持來れ」。王は直に馳せて其命を行へり。Виллемсонъ 曰く「宜し、今度は檣に攀ぢよ」、して王が大膽に檣の絶頂に登りかけし時、Виллемсонъ は愕然としたり。然るに彼得は課業を續くるとを要求し Виллемсонъ に附て士官の職位までの海軍役務を悉く踐行したり。

9. Архангельскъ に滯在中、彼得は Соловецкій 修道院を一覽せんと思附きたり、院は Архангельскъ より六十里を隔てし群島に在り。其隨員と共に彼れは小船に乘れり。彼等が岸を去りしより一時間を經過せざるに暴風雨は起れり。戻ることを彼得に勸めたるも彼れは之を聽くをも欲せざりし。暴風は益々（一分時毎に）强くなれり。波濤は此邊に多き岩礁に今にも船を投げ附け之を破碎し得べくありし。王の同行者は皆な絶望して驚愕を抱き自身の死を待ち相共に既に（此世の）告別を始めたり。然るに彼得は神氣自若として、人々を慰勵し、竟に自ら梶を取れり。危險の愈々强くなりし時、船の水先きを勤めし Антипъ は已れに梶を渡さんことを帝に請ひ暗礁の間を（越えて）船を最近の一島の灣中に導かんと保證せり。彼得は梶と指揮を Антипъ に傳へたり、然れども絶へず其運轉に干涉して之に種々の相談を與へたり。船を救はんとの念に屈托して王の干涉に堪へ兼ねたる Антипъ は竟に王を衝出し怒りて言へり「脇へ寄れ、我は爲すべきことを知る、邪魔するな」。王は一言も發せずして直に去れり。（遂に）安全に岸に就きたり。數分時を經て Антипъ は我れに歸り、其行ひしことを思ひ出し王の足下に伏して寬免を請へり。「ぞうして、ぞうして、汝は全く正當にして我れこう過てり、若し汝に非ざりせば、我等は皆な恐らく滅亡せしならん」と王は答へり。王は Антипъ を引起し之を接吻し記念として自身のづぶ濡れの旅行服を之に下賜せり。

10. Нешлоевъ と云ふ士官一度甚だ遲刻して造船廠に出勤せり。帝は既に彼處に居れり。士官は驚きたり、彼れは既に歸宅して病氣届を出さんと欲したるに帝が僞騙を怨せざるを思ひ出して、直に帝の存在の場所に趨きたり。彼得は之を見て曰く「我友よ、我れは既に疾くより此處に（來れり）」。士官は答へり「我君よ、我れ過てり、昨夜我れ客に往き些し飲み過ぐしたる故に今朝寢過して出勤に遲刻せり。帝は彼れの肩を摩して曰く「誠實を言ひしは有難し、神は汝を救さん、誰か過と不幸に陷らざる者あらんや」。

11. 或冬彼得暫て彼得堡の近郊に狩獵せり、當時其近郊は大林に包まれたり。或る野獸の追捕に氣を奪はれ帝は其隨行の狩獵者より遠かりて道に迷へり。林中の雪上に多岐の道は通じたれども其道は皆な近村の農夫が薪を伐り居りし場所にのみ達したり。市府に達する道を帝は如何しても見出す能はざりし。俄に彼得は遙に斧の打響を聞けり、是れ農民が薪を伐りしなり。彼得は之に近接して「百姓よ、達者だね、能く精が出るな（神は佑助せん）」。「御言葉で難有ふ」。「我れは道に迷ふた、我れを（車にて）市府に伴れ往かぬか」。「何故に我れ汝を伴れ往かれん、我れには暇はなし、且つ汝自ら道を見出すを得ん、先づ眞直に往き、うれから左方へ曲り、うれから右方に曲れ、すると大道に出ん、彼處に於ては既に市府まで遠からず」。「我れは右方へも往き、左方へも往たが林中より出づる能はざりし、加ふるに我れは甚だ疲れたり、うれよりは汝は我を（車にて）伴れ往け、我れ汝に價を宜く拂はん」。「もし代を拂ふとならば、車にて往かん」。して農夫は即時に薪を運搬する雪車に馬を駕し、之に帝を乘せて彼等は乘行けり。

王は途中にて農夫に其生活の樣を種々問ひ始めたり、就中一年間に幾許を稼くや、其金を何に費すやを問へり。農夫は答へり「我れは暮らせるだけ（の金額を）稼せぐ、して我れは何事に之を費す（暮らす）やは、聞き給へ（次の如し）、第一に自分と妻との爲に費す、第二に借金を拂ふ、第三に貸與す、第四に火中に投す。」王は考に沈めり、うれよりして曰く「我れは汝（の心）を解せぬ、汝は

借金も拂ひ貸金も爲すとは何事なるや殊に解せざるは火中に金を投ずるとの事なり、悉皆之を我に說明せよ」。「借金を拂ふとは老父母を養ふなり。貸金とは男兒を養育するなり、火中に投ずとは女兒を養ふなり、今は了解せしや。」「了解せり、汝の言は誠實なり、百姓よ、汝は智ある頭を有す」。

尙は進み乘り行けり。農夫は曾て王を見たることありやと彼得は之に問へり。「否一度も見たることなし、然し見たしとは思へども、王を見んとて我れはわざと長く市府に滯留したることも數度なれども然れども一度も其都合には往かざりし」。「うか、若し王を見んと欲するならば今日は見るならん、我等市內に乘込むや否や汝は直に之を見ん」。「だが、如何にして我れは之を知り得ん、人は言ふ、彼れは通常人の如く粗服すと」。「王を知るは易し、彼れのみ一人帽を冠りて他の人は皆な帽を脫せんとす」。市內に乘込むや否や彼得堡の人民は王の通行するを直に認めて其帽子を脫せり。人ゝは脫帽して立止まるを見て農夫は了解せり王は此處に居ると、然し王は何處に在るやを見受くる能はず、群衆中には帽を冠むりし者一人もなき故に我車上の客に向て（押て）曰く「何處に王は居るや、さあ何處に、人々は皆な脫帽せしに、王はなし、我れに知らせよ、知らせよ」。汝は善く注目せよ、人々は悉く脫帽せしに非ず、汝と我は帽を冠れり、我等二人の中、誰か王ならん、或は汝か或は我か」。農夫は其際初めて自分が王を乘せ來りしと察し得たり、故に即時に其帽を脫せり。

89. 彼得大帝の死

彼得の健康力は一年增しに衰弱しかゝりたれども其勤勞に熱心なることは毫も減少せざりし、其生涯の晩年に於て旣に數度危篤の病に罹りしことあり、然れども國民の爲には幸なる哉、喜ばしき哉、其都度全快したり。例へは千七百廿四年の秋の初めに帝は其病の輕快を感じ、人々程なく帝は全快ならんと期待せり。唯暫時保養を要するのみなりし。帝は反て國務に着手せしのみならず、未た全く快復せざるに十月の初めに水路にて Кронштадтъ ト Шлиссельбургъ ト Олонецъ の鐵工場に赴き（執務の）中に就き自身手を下して重量なる鐵の線を截りたり、此鐵片は今に至るまで彼得堡の博物館に保存せり。此地方を悉く巡覽して帝は十月廿七日彼得堡に歸り、僅か一日休息して更に水路にて Сестербекъ に赴けり、これは首都を去る數里の小市なり。其日の晩に及んで快晴なる秋の天氣は忽ち强烈なる暴風に變し、帝の乘船は長らく海上の波濤の間に漂ひたり、御乘船は早や旣に Лахта (Сестербекъ 街道の小村) に着するや否や彼に海岸に居りし者等は沖に一船を認めたり、其船より悲鳴を發して救助を請へり。帝は御乘船中に數人を止めて直に殘りの水兵を悉く救難に遣せり。是れは Кронштадтъ より大艇に乘りて來りし兵卒と水兵にして暴風雨の爲に洲に乘揚げられしなり。遣はされし者等は善心なる帝の意旨を遂行せんことを固く望みたれども彼等の苦心は無効なりし、彼等は艇を（乘揚げの）場所より曳き下ろす事能はざりし。之を認めて寬仁なる帝は御乘船に殘りし水兵と共に沈沒者を救はんとて身を投せり。帝の實例は御乘船の水兵を奮勵して沈沒者は（悉く）救助されたり、其中廿人は帝自身（の力）に由て救はれたり、帝の行爲は美事なりし然れども其結果は悲哀なりし、他人の生命を救ひつゝ、彼得は自身の生命を犧牲に供せり。半時間餘冷水中に居りし帝は感冒に罹れり、此感冒は以前の病と合して此大偉人の生命（日子）を千七百廿五年の一月に斷絕せり。

90. 元帥 Суворовъ の話

1. Суворовъ 公爵は逢ふ每の乞食に施を與へた。或食事の際中九十才の乞食が不意に室內に入來た、此乞食は每日施物を得る爲に家の主婦の許に來る者なり。大數の來客を見て老人は駭きて去らんとした。然るに公爵は自身座を立て彼れを（（食卓に））就かしめ而して之を饗應し。食事の終りし後に、公爵は彼に數金貨を與へ且つ我來客等に此乞食の爲に醵金することを勸めた。老人は感涙を流して元帥の家を去た。然るに其後强壯なる男が元帥に施物を請はんとしたる時、彼は之に斧を買ふことを命じて云ふた「薪を割れ、然らは餓死することも無らん」。

2. 或勇氣ある至極役職に適任したる士官が自身の多辯なるよりして軍隊中に之を憎む者を增した。或時元帥 Суворовъ は之を我が書齋に呼びて曰く「足下は强敵を持て居る、彼は足下の身を害することを甚し」。士官は其敵の誰なるやを問ひ迫りた。立聞あるを恐るゝ如き樣にて元帥は鍵にて戶を閉鎖し而して靜に彼に云ふた「舌を出せ」。士官は不審ながら此命に應した。其時公爵は密に彼に云ふた「是れ足下の敵なり」と。

3. Суворовъ は職務勤役の精確なるを好めり而して其部下の者より嚴正に之を要求せり。或時彼れは副官に時日を限りて賜暇を與へり。賜暇期日は旣に經過したれども副官は未だ來らず。

Суворовъ は之を思出して、副官は何處に居るやと問へり。未だ來らずと答へたり。是れは Суворовъ に快からざりし。終に副官は出頭せり而して彼れが第一に問ひ質せしは「元帥は我か事を語りしや」と。彼れの同僚は答へり「既に數度なりしして彼れは君を不滿に思ふが如し、若し君、其罪過を消滅せんと欲せば我等は君に勸告す、直ちに彼の許に赴きて期日超過の赦免を願へよ」、副官は問へり「彼れは今、何所に居るや」答へて曰く「海に浴す」。

副官は直に正服を着し Суворовъ の浴せし場所に赴けり。Суворовъ は未だ遠方より此(歸り來りし)副官を見て、岸より尙遠く去り始めた。Суворовъ は諸戲を行はんとするなりと副官は察して、次て正服を脫ぎ水中に入り眞直に元帥に向て行けり。Суворовъ は解せり、副官は彼れの心慮を察せりと、之を以て尙遠く海中に進めり、副官も其後を追へり。終に Суворовъ は頸まで水中に入れり、然るに副官は彼れに後れざりし。Суворовъ は哀れなる副官が全身濕れて此の罰は彼れの爲めに充分なりと見て立止り之に近つくを許したり。副官は正面起立を行ひ、唯今賜暇より歸參せりと報告す。

Суворовъ は濕れたる副官を笑ひつゝ之に父らしき叱責を爲し直に行きて服を換へて以後、若し正服の儘の海水浴を欲せざるならば凡ての指令を確的に實行すべしと命ぜり。

4. Польша の首都 Варшава 占領の事を Суворовъ は唯三語を以て女帝に上奏を發せり「萬歲、Варшава は我等の(所有)ものなり」。女帝は彼れに唯二語を以て返答せり「元帥、萬歲」。此の返答に由て Суворовъ は元帥に昇任したり。

91. 千八百十二年 Наполеонъ の露西亞に侵入の事

Наполеонъ は宣戰せずして露西亞に侵入せり。

露人は知れり、佛兵は日毎に益々多く露國境の河 Нѣманъ の濱に群集せりと。敵は此河に材木及び小舟を運搬し諸處に於て水泳の狀態を以て Нѣманъ 河の深さを試み、河の中半にまで進みたり。何の爲に之を行ふやと露人が問へば彼等は答へり、Нѣманъ を渡り越して(後)其原因を告げんと。夜間は對岸よりして進動、劍刀の鏘々、馬の驅音、斫聲、馬卒の叫聲等聞へけり。

六月十一日俄然 Нѣманъ 河に一の馬車は馬を走らせて近つき一の步兵聯隊の野營の中に止まれり。馬車より Наполеонъ は其參謀本部長と共に出でたり。彼等兩人佛國の軍服を脫して Польша の大佐の正服を着け、馬に跨り二人の騎兵を隨へて驅足にて Ковно 市を指して馳せたり、對岸に立ちたる露國の控兵の見ゆるを憚らず。處々に於て彼等は立止り馬より降りて久しく近郊を眺めたり。軍をもて河を越すべき三ケ處を撰びて Наполеонъ は命を發し日の暮るゝに及で橋を架するの準備を始めしむ而して自ら驅け去れり。

全く暗くなりし時、Наполеонъ は自ら川越しを指導せんとて再び Нѣманъ 河に驅け來れり。橋は數時間を以て架したり、夜半を過ぎて六月十二日、橋は Наполеонъ の全軍に踏み搖られたり、此軍の編成に歐洲二十國の軍隊は入れり、半ケ年を過ぎて其十分の一のみ歸鄕するの運に定められたり。

92. 千八百十二年八月廿六日の Бородино 村

千八百十二年 Москва を去る百〇八里の村 Бородино の傍に於て主なる戰鬪は生せり。露國總督 Кутузовъ は敵勢の優るに拘らず此處に於て Наполеонъ に對して抗戰を決せり。露軍は十二萬の兵を成し大砲六百四十を有す Наполеонъ は十八萬五千人の兵にして一千餘の大砲を有す。戰鬪は八月廿六日の旭日の發光と(同時に)始まれり。戰鬪は一露里四方の範圍に於て行はれり。兩敵の衝突は最も激烈なりし。勇敢に於ては露人佛人互に相劣らざりし。兩敵は武器を放棄し徒手して相擊ち、相抱して突き押し共に落命して地に倒る。一時は大砲の發射は雷の引續きて鳴響する如き砲音と爲りたる事もありし。幾千の兵は數瞬間に倒れけり。其日の終りには兩軍の負傷死亡十萬人以上なりし。

翌日 Кутузовъ は再び開戰せんと欲したれども夜間調査の通告に依りて露兵は凡そ全軍の半を失ひたるを知れり。佛軍も少なからざる損害を得たり、然れども戰鬪を持續する能はざるは明白なる故に Кутузовъ は Москва に退けり。後日 Наполеонъ は曰へりとず「我が(行ひし)諸戰中最も猛烈なりしは Москва 附近(即ち Бородино)の戰鬪なりし」。

93. Москва の火事

Наполеонъ 期望せり、Москва に於ては有司等は之を迎へて服從の意を表しつゝ Москва 市の鍵を献呈するならんと。然るに全く之に反對の事は生ぜり。佛人の近くや、市の住民は能ふだけ物を携へ大抵他の市、他縣に遠ざかれり。唯身を置く處なき貧乏人のみ市内に留まれり。

市の代表者を待ち構へたるも空しかりければ Наполеонъ は終に九月三日朝十一時市に乘込めり。彼れか進行きし市の主なる街路 Арбатъ は全く空なりし。彼れが此大街に於て見受けたる唯一の人は藥舗の窓に姿を現はせし外國人即ち其持主と家族並に前日此家に宿舍を命せられし貧傷の佛國の將官なり。敏速に彼等を一と目見て、Наполеонъ は道を進み續けり。彼れは何の特徴をも身に附せず鼠色の常服を着けて小なるアラビヤ馬に乘れり。前方百間程の距離に近衛騎兵二個中隊は進めり。Кремль に於て Наполеонъ は馬より降り其牆壁を眺めて數度言へり「如何に壯大なる牆壁ぞや」。Наполеонъ が露國(歷代)の王の殿に入るや否や Москва は一次に二ケ處に於て燃上れり。

夕刻に至りて烈風は起り、既に市の各處に擧りし火は一個の廣大無量の火事と爲れり。夜半に火事は益々高度に達して空中の平均力を破り激風猛烈を究めて四方に燃木を吹散らせり。火は寺院より家屋に、家屋より寺院に流飛せり。暴風と火は寺院(の頂)より十字架をもぎ取り。鎔解の金屬は鎔石の如く街上に流れ。Москва 河に於ては橋と船は燒けたり。外國人、露西亞人共に此火事の目擊者は(其時の) Москва を火炎の海に比せり。宮殿の窓に映射せし晃々たる光は一度ならず Наполеонъ の眠を醒したり。彼れは一度ならず見樓に出てゝ火炎の波を眺めて曰く「最早 Москва 市は無し、我れは兵士に約せし賞與を失ふたり、露人は自身之を燒く……何たる人民ぞや」。

燒熱は Наполеонъ を看樓より逐去らしめたり、彼れは窓の側にさへも立居ること能はざりし、硝子は破碎せり。燃木は Кремль に落下し始まり、武庫は數回燃上らんとせり。Наполеонъ 一個人の爲にも危險は愈々相增し、加ふるに Кремль の廣場に置きたる彈藥箱は破裂するに至れり。

Наполеонъ に側侍する者等は彼れに Кремль より市外に出てん事を請ひ勸めたり。彼れは長く之を承認せざりし、然れども終に强願を聽入れ(に讓ることを決心し)て市外の Петровскій 宮殿に移轉せり。されど彼れが市内より出ることは易からざりし。最初彼れは近道を行きたれども然れども此道路を以ては市より脫出する能はずと程なく納得せざる能はざるに至れり、市の此邊は一面に火に罹れり。物凄き(響する)聲を爲して屋根は崩れ壁、燃ねたる丸木、板は落つ。屋蓋の鐵板は諸方に散亂し。炎は空中に於て Наполеонъ の頭上に旋動せり。燃ゆる丸木と、熱燒したる煉瓦の壘堆は其路を遮り。彼れは火の天の下に、火の壁の間に、火の地を行けり。火(元質)には抗する能はざるを見て、彼れは戻りて他の迂回したる(尙長き)道を採るべき必要に逼れり。Наполеонъ は火事を消さんとして有ゆる力を盡したるも、火事は三晝夜絶へざりし一ケ處に於て消火するを得しと思へば忽ち他の場所に於て火事は起れり、敵に市府を渡さゞらんが爲に露人自ら市府に放火せり。三晝夜間に於て火事は Москва の四分の三以上を燼滅せり。

94. Наполеонъ 露西亞より退却の事

Наполеонъ は確信せり、露西亞の中心たる Москва を陷るや否や歷山一世は直に媾和を請ふに至らん、其條件をは Наполеонъ が口授すべく、斯くて彼れの爲には光榮なる戰爭は終結せんと。然るに生ぜし事實は別なりし。

彼れ Москва に入るや否や市府は燒げ市中に在りし糧食の貯蓄も燒失せり以て Наполеонъ の軍には程なく饑餓に起れり。附近の農民等は如何なる高價を以ても其農作物たる小麥、蕎麥、稗、薪等を國敵に竇渡すを欲せずして、未た遠方に敵の軍隊の來進するを見れば、其所有物を火に投じて出奔せり。Москва の周邊にはカザック兵及び武裝の農民巡行し、敵の軍隊が糧食を探さんとて市内より近隣の村里に出つる者を勇ましく襲へり。饑餓を凌かんとて敵兵は鴉、猫、犬、死馬肉を食せざるを得ざりし。Наполеонъ の狀態は益々困難となれり、況んや露兵は日益々增大となり、うは此際新徵兵は幾千となく廣大なる露國の各隅より現役隊に集合せり。歷山帝は媾和を請ふことは思もよらずと Наполеонъ に明白となれり。全く兵糧を有せず且つ我軍より數の勝れたる露兵に四方より包圍されて丸燒けの Москва に嚴酷なる冬を如何に越さんかとの思慮は

Наполеонъ を惱ましたり。故に彼れの方より媾和の談判を申込まんと決心せり。然るに歷山は Наполеонъ の最初の二書には返答すらも與へず漸く第三の書に對して Наполеонъ の使者に言へり、露西亞及び歷山帝は敵兵一人殘らず露國を去らざる迄は戰爭を止めずと。Москва に於ける Наполеонъ の狀態は全く窮迫となれり、故に彼は西南の肥沃なる縣に退かんと決し、十月七日 Москва より出發の命を下せしは其軍の爲には不意の事なりし。

露人の勇氣と其頑として戰爭を續けんとの堅き望の爲に憤激せし Наполеонъ は Москва を發するに臨みて Кремль 內の建築物を悉く破壞することを命ぜり。幸にして此命令は悉くは實行されざりし、僅に牆壁と櫓のみを破壞せり。敵兵は急きて Москва を出發したれば將官及び士官等は其略奪したる物品を悉く持去るの暇あらざりし。それにも拘らず Наполеонъ の軍の卒ひし輜重は非常に廣大なりし。三十里以上の距離に無數の馬車と荷車は略奪の獲物を積みて四列となりて延長せり。此輜重隊は恰も亞細亞の未開人種が火と劍を以て敵地を壞り其所有物を奪ひて故鄉に歸るが如き風態を Наполеонъ の軍に爲さしめたり。

偖 Наполеонъ の軍は Москва より出發の當初は軍の態勢及び紀律を守りて其勇氣と其總指揮官の巧術を以て敵を威嚇したれども數週間を經過せし後は此武威ある軍も露國の兵器と饑餓と酷寒の爲に殆と滅亡したり。

Наполеонъ は Москва を出つる際に露軍を貫過して南方に進み肥沃なる諸縣に冬を越し彼處に凡ての糧食の大貯蓄を得べきを期望し且つ暖候の至るに及んで再び大擧せん爲に其軍隊を休めんとの計畫を爲せり。然るに復た豫想に反したる事は起れり。彼れは三次勇を奮て南方に通達せんことを試みたれども三次共に非常の失敗を被りて已むを得ず退却せり。今は早や一時も速く冷遇を究めたる露國より退走するのみとなれり。彼れは斯く行ひたり。幸運は全く Наполеонъ を見放せり。敗北に敗北を重ねて大軍は日毎に漸次大亂脈を來せり。以前自ら荒らしたる道を戻り

Наполеонъ の軍の亂弛は Березинъ の敗北後、俄に至りし凍寒に因て甚しき（信し難き）程度に達せり。十一月六日より以後は絕へず氷點以下廿度强なりし仝廿二日には言語を發し難き程の寒氣にして、爲に呼吸は壓迫せり、佛兵は齒を食ひ縛り、無言の絕望を以て疾走、馬の襤布と古帽を以て我足に纏ひ、頭、面、肩を袋と席を以て包めり。途中には全存したる村落とては僅かのみにして、其大概は敵の露國內地に侵入の際多少皆な略奪、破壞、燼滅されたり。今や敵は自ら荒廢せし街道を逃走せざるを得ざるに對して、如何なる家屋なりとも之を見受れば彼等は之に急ぎ入れざる家屋は空虛にして唯々風の嘯く聲の響き渡るのみ。被覆を得ずして敵は途中の家屋、畜小屋、塀垣を燒きて一夜の野宿に於てなりとも暖を取らんとせり。燒け跡の場所に於て兵卒の群は臥し、火に近接すれば彼等は之より立去るの氣力はなかりし。途中に於ては勿論毫しも糧食なく、敵は死馬肉を喰はざるを得ざりし、して我れ勝ちに此肉を喰ひかゝれり。野宿に於て敵は悉く安心を得るに非ざりし。如何となればカザック兵は絕へず之を駭かせり。「カザック」と聞くのみにて敵は降服し或は他の宿地を求めんとて遠く逃け走れり。擒れし者を顧るの暇なく、敵兵は屢々故意に後陣より後くれ離れて露兵の來るを待迎へ群を爲して降服せり。時としては數千の捕虜に二三人のカザック或は農民を護送兵と爲せり。折りには一人の農婦前に立ち一人後に立ちて唯々棒のみを携へて最近の市府まで送り届けたり。運命の暴戾は全體の人員をして同等ならしめ且つ嚴寒よりも饑餓よりも恐ろしき惡害即ち上長官に服せざる事、上級者に對して不遜なる事を生したり。一人の將官は兵卒等の座せし火の傍に近寄り身を暖めんとしたれば彼等は之に向て「自ら薪を持來れと」言ひつゝ之を追拂ふたり。

斯の如くして Наполеонъ が露國に引率せし軍は亡びたり。 Баварія の兵は此戰爭の初には三萬人の組織なりしも露國を出てし後には武裝の兵は二十人のみとなれり。以太利軍は六月には六萬の組成なりしも露國の境を越ゆる頃には或農家の一室に宿舍するを得し程に減滅せり。概して Наполеонъ が露國に率ひ來りし六十七萬人中より七萬以內の者のみ其故鄉に歸るを得たり（見たり）其餘は或は戰死し或は擒へられ或は負傷、疾病、饑餓、凍寒に由て死亡せり。

95. 歷山一世の話

1. 千八百十三年に於て巴里は戰はずして同盟軍に降れり。歷山帝の佛都に進入する際に巴里人は群を爲して之を出迎へり。帝は人民に向て曰く「我れは敵ならずして親友として汝等の地に入る、我れは汝等に平和を返復す」。佛人は之に奉答して曰く「我等は既に久しく陛下の來臨を待居た

り」。帝は答へり「我れも尚早く汝等の地に來到せんことを欲したり、然れども我れを遮りたり……我が遲延を責めんと欲せば汝等の兵の勇を責めよ」。

2. 或る有名なる老將軍が歷山帝に陪食の際、食事中に眠れり。宮中武部官等は之を起さんと欲したるに帝は之を止めて曰く「彼れを搖す勿れ、彼れをして安息せしめよ、彼れは其生涯中、我等の爲に多く功勞を盡せり、彼れの眠を醒さゞらん爲に我等は靜に談話せん」。

3. 千八百十四年巴里に於て高名なる畵伯 Жерарь は微行の一貴顯に其畵室を參觀せしめたり。若年の生徒をは威服し難きものなれども、此來客（未知人）が生徒の作業を熟覽するに際して生徒等は皆な思はず知らず愼慕せり。終に此外國人は一人の若き男の前に立止まれり、其男は今漸く繪の圖形を施しゝ所なり。

來客は言へり「これは結構なる圖形なり。尊名を知らせ賜へ」。

生徒は答へり「我は Штейбенъ と稱す」。

Жерарь は直に訪客に告げて曰ふ、彼の眼に止りたる有望の若き男は彼得堡の美術大學に於て最初敎育を受け、其父は佛國の移住者にして露國に於て軍務に奉職し大佐の官までに勤め上げたりと。訪客は愛嬌よく若き男に其作業の事などを問ひ始めたり。之に勵まされて若き技藝家は申込みたり「我が仕上を終りし一作品を貴下に示すを許し給へ」。訪客は之を承諾したり、故に之を他の一室に案內せり、其處には Ладога 湖上の彼得一世を寫せし繪を置きたり、或缺點を有するに拘らず、全體に於ては筆力の巧才を證せり且つ其寫景は勝れて實際を穿てり。暴風と水夫の恐怖は落附きたる壯大なる彼得帝の形象の緣を爲し、帝は楫を持して水夫に向ひ「汝等は死せざらん彼得は汝等と共にするぞ」とさも言へるが如し。

未知人は問へり「此繪畵は展覽會に出せしや」。

「千八百十二年に出したり、Наполеонъ 帝に六千フランクにて之を買上ることを(人々は)申込みたれども彼れは承諾せざりし」。

「然らば我は此繪畵の爲に五ケ年間、每年三千フランクつゝ給與せん」

「とは又何たる事ぞや。貴君は何人なるや……」と技藝家は之を奇として思はず言ひ出したり。

「貴君の今相手にして居る者は何人なるやを知り度きや。我は歷山と稱す、我は露西亞皇帝なり」。

Штейбенъ は喜悅極りて答ふること能はざりし。帝は言を續けて曰く「どうです、我が申込を承諾するや」。

「帝よ、我れは承諾し且つ深謝す……但し 汝の定めたる金を我母をして受納せしめんことを請ふ、此金は我弟の敎育の爲に母に必要なり」。

帝は感心して曰く「嗚呼才能と善心(を兼備せり)。我れは今日二重の滿足を得たり」。

而して Штейбенъ の母は五ケ年間歷山一世の定めたる金員を生帳面に受領せり。

96. Николай 一世の話

或時 Николай 帝は幼年學校に立寄り、心氣快かりし故に生徒と戲れ且つ其目前に於て種々の我儘を許したり。

幼年級の一生徒に向て帝は問へり「汝は何者たるを欲するや」。「輕騎兵」と生徒は答へたり。

「好し、我れ之を許さん。して汝は何者たらんを欲するや」と他の一生徒に向ひて言へり。

生徒は臆することなく帝の兩眼を注視して「帝王たることを欲す」と 答へたり

帝は微笑しつゝ曰く「兄弟よ、我れは汝に之を勸めず、(如何となれば) 困難なる任務なり。それよりは輕騎兵となれよ」。

「否な、我れは帝王たらんを欲す」と生徒は復言せり。

「何故に」と帝は問へり。

「彼得堡に父母を連れ來らんが爲なり」。

「して汝の父は何處に居るや」。

「Сибирь に大尉となりて居る」。

帝は曰く「左なくとも我れ之を行はんずと、彼は愛を含めて生徒の頰を撫て、隨行の當番侍從將官に命して此生徒の父の姓と在勤の地名を記せしむ。

凡り二ケ月を經て生徒の父は幼年學校の子の許に來り、帝の特恩の源因を知りて感嘆せり。帝は之を彼得堡の或聯隊勤務に轉任せり且つ 旅費及び服裝費として 數千ルーブルを支給するを命ぜり。

2. 皇帝 Николай 一世は屢々隨員を伴はず微行して彼得堡の市街を散歩せり。或時五人の幼年校生徒は之に逢ふたり。彼等は知れり、斯かる散歩中に人の帝たるを知りし時は帝は之を悦はずと。故に敬を表して脇に寄り之に敬禮を行はざりし。帝は忽ち嚴格に之に向ふて曰く「我れの何人たるを汝等は豈に知らすや。何を以て汝等は我れに敬禮を行はざりしや」。可哀相に生徒等は恐惶して一言をも發する能はざりし。「直に宮殿に赴き警錮を受けよ且つ彼處に於て我が裁決を待つべし」。

生徒等は「冬宮」に赴きて其遣されし次第を告げ拘留に付されたり。最初の中は彼等恐怖を感じ戰慄して今や今やと其運命の決定を待居たり、然るに一時間二時間三時間經過してる何人も來らざりし故に恐怖の念は退屈となれり。加ふるに饑餓は逼り、(愈々) 退屈と饑餓は極度に達したる時、扉は開きて宮中の給仕等は最上の食物を皿に盛り酒一壜を携へて入來れり。一人の給仕の曰く「皇帝陛下は貴君等に午餐を遣はせと思召したり、今後貴君等は宜しく注意あるべしとの御勸告なり、陛下には常に貴君等を招待すの御暇 (便利) はなしと」。

生徒等は狂喜して酒を杯に注き滿たし之を歡待せし帝王たる主人の爲に祝杯を擧げ高聲同音に萬歲を稱へたり

97. Донъ 河濱のカザック兵

Донъ のカザック兵は主として廣き露西亞の諸州より Донъ 河の便利なる河濱に集合せし男夫より成立せり。此河濱は生計の苦なき自由なる生活の爲には恐くの便宜 (條件) に 富みたり。通行すべからざる沼池と深林は Донъ 河岸及 Донецъ 河口の邊に散在せし所の其部落の爲には屈強の防禦となりたり、して又、荒野に近接なるは彼等をして隣民に急擊を行ひ、敵の追擊を復讐を遁れ隱れ且つ其頭上に何人の權力をも戴かざるの便を與へたり。彼等の攻擊は多くは回教民族の地方に向ひたり。Донъ 兵は回教徒を侵擊し其部落を破壞し陸上には其隊商を掠奪し海上には其船隊を破滅し、人民をば擄にするを以て名譽の武功と思ひたり。天然の妨害の如きは彼等の何とも思はざる所なり廣き河は路を遮れば蘆を束ねて之を固く縛り水面に投じ其上に鞍、衣服、駄荷を乘せ、自身も馬と共に身を投じて泳げり。彼等の海上の攻戰は尙勇ましかりし。最大の船たりとも五十人を限り容るゝことを得る程の (幾多) の船に乘りてアゾウ海、黑海を經てКонстантинополь に出て土耳古の船艦を奪ひ其沿岸の村落を破荒し、市村をさへ襲擊せり。

終に Донъ 河のカザック兵は勢力ある王の保護の下に立つの必要を感じたり。宗教の同一なると民種の同一なるとは彼等の心を露西亞に向はしめたり。王イオアン (十六世紀の中半に於て) は其歸化を納れ、之に軍旗を下賜し火藥と鉛を給與し、以て露西亞の南境を警備することを委托せり。

彼得大帝の時代よりして勇敢なる Донъ 兵の功は數へ擧る能はざる程なりし。

露國が土耳古、波斯、ポリシヤ、瑞典、佛蘭西との諸戰殊に千八百十二年、同十三年、同十四年の不朽なる戰役に於てカザック兵は名譽と利益を以て勤務せり。

Донъ のカザック兵は其眼光の爛々たると其擧動に現はるゝの敏速とに由て之を知り分け易し。彼等の顔には考察力と勇膽とを現はせり。此等の才能はカザック兵を配下に有せし者を驚嘆せしめたり、是彼等をして軍隊の爲に堅固なる警衞たらしむる (所以) なり。敵を發見し、其員數を測定し、身を秘して深林廣野を通過し未知の敵地に達し、敵を擒にする等の能力はカザック兵に勝るものなし。是に因て千八百十三年と千八百十四年の有名なる役に於て誰も皆なカザック兵を其衞兵と嚮導者たらしめんことを望めり。外國の諸公使及將官等が墺太利、佛蘭西、普魯西、サキソニヤを漫遊の際カザック護送兵を伴ふことあるを見るは一奇觀なり。

Донъ のカザック兵が靜なるドン河に慈愛を表するは特記するに足る。遠路或は遠征に出發しつゝ彼等はドン河の岸より地の一掬を携へ之を布に束包して始終之と離れず。カザック兵の歌は同じく大抵靜なるドン河に對する (舒情) なり。

幼少の年齡よりカザック兵の第一の遊戲と練習は 乘馬と體の 動作を巧にすることを習ふに 存す。新たに生れたる兒に進物として搖籃中に箭、彈丸、銃、火藥を呈するの慣例は古くより行はる兒の齒が發生するや否や兒を馬に乘せ、して三才の童子は自ら廣き邸内に於て騎行せり。之を以て奇とするに足らず、カザック兵中には多くの騎手は駈け足に馬を走らせつゝ身を馬の腹下に轉し瞬間に再び馬上に身を持上ることあり。彼等は特に強く巧に鎗を使用し、同時に照準せずして小銃或は拳銃を射擊しつゝ目的に命中す

祝祭日には屢々 Донъ カザック兵は隊を爲し集りて村落の傍に殊更設けて平坦にしたる廣場に於て軍事遊戯を娯めり。斯かる遊戯には少年と老人も關かれり、如何となれば「カザック兵の武勇は老衰せず」。

カザック兵の馬は其形狀美ならず、身丈高からず、然れども實際に於ては性急、强壯、從順を以て他産の馬に劣るなし、主人に對しては言のみならず膝を壓せしにも從ふ。カザック兵は其馬と共に險岸より深き急流に投身す、炎熱にて燒け居る砂漠、積雪の深林を通過す。カザック兵の進擊の方法は人の知る所なれとも、然れとも常に人をして新奇と想外の感を起さしむ。先つ駈足にて敵に追り愈ゝ距離の近きし際、俄に四面に散亂す、斯かる處に精騎手は正面に突入し、其他は兩翼と背後に現出し、驚くべき速力と吶喊を以て敵を紛亂し之を顚動す。斯かる進擊の好例は有名なるレイプチフの役に於て之を見たり。歷山帝の命を奉して Орловъ-Денисовъ 伯は言はゞ歐洲全軍の目前に於てカザック兵の小群を率ひ Наполеонъ の近衞騎兵に突進して敵の苦進を止めしのみならず之を蹂み蹴し敗走せしめたり。之を以て奇とするに足ず古より今に至るまでカザックの名を聞きしのみにて敵を慄然たらしむるは。

字引 (Слова́рь)

名詞ニ附セシ數字 1 ハ第一式變化ニ屬スルヲ示シ同ク 3 ハ第三式變化ニ屬スルヲ示ス
動詞ニ附セシ數字 1 ハ母音變化ニ屬スルヲ示ス
譬語ノ後ニ括弧内ニ入レタル數字ハ詞學ノ條項ヲ指示シ又和譯ノ後ニ括弧ニ入レタル數字ハ文章學ノ條項ヲ指示ス
太キ線▬ハ前ニ記セシ語ノ一部分ヲ略シタル符號ニシテソレニ附着シタル文字ト合一シテ一語ヲ成ス、細キ線ハ一語全體ヲ略シタル符號ナリ

A

а 併シ。然シテ
авангáрдъ 前營
áвгустъ 八月
áвторъ 著者。記者
адмиралтéйство 海軍造船廠。鎭守府
адресовáть (сýю, сýешь) 名宛書キス (信書ノ)
áдресъ 表書 (信書ノ)。住所表
адъ (23,4) 地獄
адъютáнтъ 副官
áзбука 以呂波
áистъ 鷲。鵰
акадéмія 大學校 (一科專門ノ)
акомпанимéнтъ, аккомпанимéнтъ 伴奏
акурáтный, аккуратный 生帳面ナル。端正ナル
актёръ 俳優 актри́са 女優
алкáть (112,2) 餓ニ 156, VIII.
аллéя 並木路
алмáзъ 金剛石
альбóмъ 書畫帖。備忘錄
амбáръ 倉 (穀及貨物ノ)
амфитéатръ 半圓形戲場
áнгелъ 天使 день áнгела 命名祝日
англíйскій 英國ノ по-англíйски 英國的。英語ニテ
англичáнинъ (24,6) 英國人▬чáнка 英婦人
анекдóтъ 逸話
апельси́нъ 蜜柑
аппети́тъ 食慾
апрѣ́ль 1, 四月▬скій 四月ノ
аптéка 藥舖
арáбъ アラビヤ人▬бскій アラビヤノ
áрбузъ 水瓜
арéстъ 逮捕。拘留
ариѳмéтика 算術
áрія 獨吟
áрмія 軍隊。陸軍
арріергáрдъ 後營
арсенáлъ 武庫
артúстъ 技藝家。俳優
áрфа 絃樂器
аршúнъ (24,14) 尺度 (我二尺三寸半)
атáка 攻擊
атмосфéра 大氣
аудіéнція 謁見
аукціóнъ 糶賣
афúша 興行物ノ番附
ахъ 嗚呼

Б.

бáба 婦。祖母
бáбушка 祖母。老婆
базáръ 市場。賣場
балкóнъ 看樓

бáловень (22, 1) 寵兒。驕兒。溺愛兒
балъ 舞踏夜會
баллъ 成蹟點 (生徒ノ)。撰定ノ球
бамбýкъ 竹
бáнка 口ノ廣キ壜
банкúръ 爲替營業者。銀行家
банкъ 銀行
бáня 蒸風呂
барáнъ 牡羊
бáринъ (24,7) 旦那。主人
барóнъ 男爵—нéсса 同夫人
бáрышня (30,6) 令嬢
бáсня (30,6) 訓話—нописéцъ (22, 1) 訓話著者
бáтюшка 尊父。司祭 (僧)
бапмáкъ 半靴
бáшня (30,6) 櫓。塔
безбоязненный 恐レ撓マザル
безбéдный 貧困ナラザル。無難ナル
безвы́ходный 究シタル。脫路ナキ
безвéдомый 通知ナキ。知レザル
бездéлица 些細ノ事。低價ノ品
безжáлостный 無慈悲ナル
беззащúтный 防禦ナキ。孤立ノ
безмóлвie 無言。沈默—вный 無言ノ
безобрáзie 醜貌。不體裁
безопáсность ж, 危險ナキコ。保安
безотлýчный 離レザル。—но 絕ヘズ
безпéчный 不注意ナル。等閑ノ
безпокóйный (51, 7) 不安ナル。厄介ナル
безпокóйствie, —ство 不安心。掛慮。動搖
безпокóить (óю, óишь) 煩ハス。心配サスル —ся 心配スル。不安心スル 126, II, 5
безполéзный 無益ノ。徒空ノ
безпóмощный 助ケナキ
безпоря́докъ (22, 1) 不順序。紛亂
безпоща́дный (51, 7) 容赦ナキ
безпредéльный (51, 7) 無限ノ
безпрекослóвный 抗言ナキ
безпрестáнно 絕ヘズ
езпристрáстie 公平。不偏倚
безразбóрчивость 3, 見分ナキコ。無分別
безсúльный (51, 7) 力ナキ。堪ヘサル
безсмéртный 不死ノ。不朽ノ
безсóница 不眠。不眠症
безукоризненный (52,3) 間然スル所ナキ
безýмный 無智ナル。狂氣ジミタル
безъ, безо (116,I) 無ク。無。不
бéрегъ (24,1) 岸
бережли́вость 3, 節儉
бережли́вый 節儉ナル。用心深キ
берёза 樺
берéчь (107,1) 守ル。大切ニスル—ся 156, VIII 自衛ス
берлóга 野獸ノ據穴
бесéда 對談
бесéдка 亭。東屋
бесéдовать (дую, дуешь) 談話スル。對話スル
библіотéка 圖書舘。藏書
бивáкъ 露營
бúтва 戰闘
бить (105,82), удáрить (рю, ришь) 109, III 打ツ часы́ бьютъ 時計ハ鳴ル лихорáдка бьётъ 瘧ヲ震フ бúтый часъ 逼リタル刻限 бúться 鬪フ。モガク сéрдце, пýльсъ бьётся 心臟ヤ脈ノ跳動スル—— объ закла́дъ 賭ヲスル (己ノ言ン所ノ眞ナルヲ確メントテ)
благоговéть 1, (104, I, 7) 敬崇ス
благодарénie 感謝
благодарúть (рю, рúшь) 謝スル 121, I, 10 благодаря́ Бóга 有難ヤト心ニ悅ビ
благодáрность 3, 感謝ノ心 157, 3
благодáрный 謝スベキ。恩ヲ感シタル 157, 9
благодýшный 善心ノ。雅量ノ
благодéтель 1, 恩人。仁者。惠德
благодéяnie 恩惠。慈善
благополýчie 安全。無事
благополýчный 安全ナル。善ナキ

благоро́дный 高尚ナル。氣品高キ。素性貴キ
благоро́дство 高逸。高貴。清高
благоскло́нный 親切ナル。寛仁ノ
благословля́ть I, —ви́ть (105, 86) 109, II, 2 祝福ス
благоуха́ть I, 薫ル
бле́скъ 光。煌。光澤。閃光
блесте́ть (щу́, сти́шь), блесну́ть (ну́, нёшь) 光ル。燦ク
бли́же (=бли́зко) 尚近ク, какъ мо́жно ——成ルタケ近ク
бли́жній (41, II, 3) 近キ。親友
бли́зкій (59, 3) 近キ。昵近ノ ближа́йшая причи́на 近因; 117, 10
бли́зко 近ク, близёхонько 極近ク
бли́зость 3, 近隣。近接。昵近
близъ 近ク。側ニ。邊ニ 132, 1
блиста́ть I, —блесте́ть
блёдный 青白キ 159, 5
блёднеть I, 青ザメル。蒼白クナル
блю́до, —дечко, —дце 小皿。食ノ一品 (焼物、口取リ等)
блюсти́ (196, 13); соблюда́ть I, 守ル。用心スル
бога́тство (24, 16) 富。財
бога́тый (59, 5, 3) 富有ナル。豐富ナル 159, 5
бога́чъ 富者
богослуже́ніе 公祈禱
боготвори́ть (рю́, ри́шь) 神トシテ崇拜ス
Богъ (23, 6) 神 бо́ги 多神
болли́вый 角衝癖ノ。剌アル
бое́цъ (22, 4) 爭鬪者
божи́ться, по—(жу́сь, жи́шься) 神カケテ誓フ 157, 10
Бо́жій (49, 4) 神
бой (23, 4) 交戰。鳴音 (時計ノ)。毆打
бо́йкій (51, 7; 59, 3) 敏捷ナル。素早キ
бока́лъ 酒杯
боково́й 横脇ノ。側面ノ
бокъ (23, 4; 24, 1) 横脇。側面
болга́ринъ (24, 7) ブルガリヤ人
боло́то 沼池—тистый (52, 2) 沼池多キ
болтли́вость 3, 喋舌癖
болтли́вый 喋舌ノ。空話好ノ
боль 3, 痛。苦病
больни́ца 病院。病室
больно́й (51, 7) 病アル。病人。心苦シキ 159, 5
большинство́ 多數 147, 8
бо́льшій (большо́й ノ比較級), по бо́льшей ча́сти, бо́льшею ча́стію 大抵。多クハ
большо́й (52, 4; 59, 4) 大ナル。廣大ナル съ больши́мъ трудо́мъ 辛苦ヲ盡シテ съ не больши́мъ 殆ト。今少シデ
бо́лѣе, бо́льше (большо́й ノ比較級) тѣмъ ——况ヤ——всего́ 主トシテ。專ラ какъ мо́жно——成ルタケ多ク
боле́знь 3, 病氣
боле́ть (112, 2) 病ム。痛感スル
бомбардирова́ть (ру́ю, ру́ешь) 爆撃ス
борода́ 髯—да́тый (59, 5, 3) 髯多キ
боро́ться (105, 49) 角力スル。爭フ
борьба́ 爭鬪 вну́тренняя——內心ノ爭
босико́мъ 裸足ニテ
боть 短艇
бочёнокъ (22, 1) 小樽
бо́чка 樽
боязли́вый 臆病ナル。卑怯ノ
боя́знь 3, 恐怖。心配
боя́ринъ (24, 7) 貴族 (古代露國ノ)
боя́ться (105, 40) 恐ル 156, VIII
бра́во (妙々) 稱賛ノ間投詞
бракъ 結婚
брани́ть (ню́, нишь) 叱責スル。罵ル—ся 相罵ル 121, I, 10
брань 3, 罵詈。戰爭
бра́тнинъ (47, 5) 兄弟ノ
бра́тъ (24, 2) (бра́тецъ) 兄弟。アニキ родно́й ——實兄弟 двоюро́дный братъ 從兄弟
брать (105, 16), взять (105, 1) 109, III 取ル。受ク、116, IX, 6; 128, I, 9—ся 着手ス。引請ケル 121, I, 6

бревно́ 丸太
бре́дить (жу, дишь) 譫言スル。睡語スル
бре́мя (33, 3) 重荷。辛苦
брести́ (106, 15) 徐ニ歩ム
брилья́нтъ 寶石——тщикъ 寶石師
брить (105, 68) 剃ル
броса́ть I, бро́сить (шу, сишь) 109, II, 2 投ル。放ツ 159, 2——ся 投身スル。突進スル
бру́съ (24, 2) 角材
бры́згать (112, 2) 振リ掛ケル 159, 2
бряца́ніе 鏘々(金屬ノ響)
буди́ть (жу́, дишь) 目ヲ醒マサシム。起ス
бу́дни (ней) (37, I, 2) 平日
бу́дто, бу́дто-бы 何々トカ。何々タル如ク
какъ——ъто 如ク
бу́дущій 未來ノ。將來ノ——вре́мя 未來時。向後——мѣсяцъ 來月——годъ 來年
бу́лочная (41, II, 3) パン屋
бума́га (36, 2) 紙。綿絲。書類
бума́жникъ 紙入
бу́рный 暴風雨ノ。激動ノ——ная ночь 暴雨ノ夜
бу́ря 暴風。大風雨
бутылка 壜
буфе́тъ 飲食室。食料室
бы 93, 1; 114, I, 3; 114, V
быва́ть I, быть (§ 99) 有ル。存ス 89, III 備考 1 —у 116, IX, 1-5; —при 120, 1; —за 121, II, 1; —подъ 122, II, 3; —въ 124, I, 12, 124, II, 2, 3; —на 125, II, 2; 146, I; 163, IV. быва́ло 114, III; было 114, I, 3; II, 2.
бы́стрый (52, 2) 急速ナル。疾キ
бы́тность 3, 在留 въ——在留ノ際
бѣ́гать 1, бѣжа́ть (105, 71) 108, 3 走ル。駈ケ往ク。逃ク
бѣготня́ ドサクサ騒キ
бѣгъ 駈馳 на бѣгу 走ル際 бѣгомъ 駈ケテ。急足ニテ
бѣда́ 不幸。困難 выручить изъ бѣды́ 困苦ヨリ救ヒ出ス
бѣ́дность 3, 貧困。缺乏。不幸
бѣ́дный 貧困ナル。不幸ナル。憫然ノ
бѣдня́жка (38) 薄命者。不幸者
бѣдня́къ 貧困者。不幸人
бѣ́дствіе 難艱。不幸
бѣжа́ть——бѣ́гать
бѣ́лка 栗鼠
бѣлоку́рый 銀鼠色髪ノ
бѣ́лый, ——ленькій 白キ
бѣлье́ 白布(覆衣床布等ノ總稱)
бѣсёнокъ (24, 9) 鬼ノ子
бѣ́шеный 狂氣ノ。暴怒ナル

B.

вагóнъ 車室(鐵道ノ)
ва́кса 靴墨
ва́нна 据風呂。盥浴(温湯冷水等ノ)
варе́нье 糖煮果。ジヤム
вари́ть (рю́, ришь) 煮ル。沸ス——ся 煮ラル。沸サル
вая́ть I, (105, 32) 彫刻ス
вбивать I, вбить (105, 82) 打込ム
вблизи́ 近邊ニ
вбѣга́ть I, вбѣжа́ть (105, 71) 走入ル。駈入ル
вверху́ 上ニ於テ, вве́рхъ 上ニ向テ
вводи́ть (жу́, дишь), ввести́ (106, 16) 引入ル。導ク
ввози́ть (жу́, зишь), ввезти́ (106, 1) 運込ム。輸入スル
ввѣ́рить (рю, ришь),——ря́ть I, 信任ス。委托ス
вдали́, ——ль 遠方ニ。遙ニ
вдвóе 二倍
вдвойнѣ́ 二重ニ
вдоба́вокъ 足シ前ニ。加フルニ
вдова́ 寡婦——вéцъ (22, 1) 鰥夫

вдругъ 俄ニ。突然
ведро́ (30, 5 備考 2) 桶。手桶
вездѣ́ 何處ニモ
везти́ (106, 1), вози́ть (жу́. зишь) 108, 3 運送スル
ве́кселъ (24, 1) 約束手形
вели́кій (59, 3) 大ナル。重大ナル
великоду́шный 大量ナル。宏量ナル
великолѣ́пный 華美ナル
вели́чественный 壯大ナル。偉大ナル
вели́чество (147, 7) 大キサ ваше——陛下
величина́ 大キサ。積量——ною 128, II, 1
вельмо́жа 高貴人。貴族
велѣ́ть (лю́, ли́шь) 109, II, 2 命令スル
ве́рба (30, 5 備考 2) 川柳
верблю́дъ 駱駝
верёвка 繩
верну́ть (ну́, нёшь) 返ス。戻ス。廻轉セシム——ся 返ル。廻轉スル
верста́ (30, 5 備考 2) 里程(我九町餘)
вертѣ́ть (чу́, тишь 105, 105) 廻轉セシム——ся 廻轉スル
ве́рхній 上ニ在ル所ノ。上ノ
верхо́вный 最高ノ。至上ノ
верхо́мъ 騎馬ニテ
верху́шка 上端。頂上
верхъ 上端。絕頂 на верху́ 上層ニ於テ (二階三階)
верши́на 峰。頂
вершо́къ (22, 1) (我一寸四分七厘)
весели́ться (лю́сь, ли́шься) 樂シム。喜ブ
весёлость 3, 歡喜。悅樂
весёлый 樂シキ。愉快ナル
весе́лье 喜樂。遊興
весна́ 春 весно́ю 春ニ於テ
вести́ (106, 16), води́ть (жу́, дишь), 108, 3 導ク。案内スル
весь (67, 3) 全キ。凡テノ онъ весь въ долга́хъ 彼レハ債金ダラケ при всёмъ томъ, всё таки ソレニモ拘ラズ。ナレドモ。
весьма́ 至極
вечёрній 晚ノ
вечёрня 晚禱
вечеръ (24, 1) 晚。夜會 вечеромъ 晚ニ
вещь 3, 物。事
взаи́мный 互ノ。相互ノ
взбира́ться 1, взобра́ться (105, 16) 登ル。攀上ル
взбунтова́ть (ту́ю, ту́ешь) 騷動ヲ起サシム——ся 騷動ス
взбѣжа́ть (105, 71) 走上ル。疾ク登ル
взбѣси́ться (шу́сь, сишься) 狂憤ス
взва́ливать 1, взвали́ть (лю́. лишь) 重物ヲ積ム。負任セシム
взволнова́ть (ну́ю, ну́ешь) 波立タス。動搖サスル——ванный 動搖シタル
взглядъ 一見。意見。說。着眼
взгляну́ть (ну́, нешь) 見ル。眺メル
вздорожа́ть 1, 高價ニナル。騰貴スル
вздохъ 溜息。歎息
вздохну́ть——вздыха́ть
вздума́ть 1, 思起ス。志ス——ся 思ヒ着ク。考案スル ему́ вздума́лось 彼ハ思起シタ。考ガ浮ビタリ
вздыха́ть 1, вздохну́ть (ну́, нёшь) 溜息スル。歎息スル
взлѣза́ть 1, взлѣзть (106. 3) 攀上ル。登ル
взма́хивать 1, взмахну́ть (ну́. нёшь) 振リ揚ゲ
взмахъ 振揚ゲ
взмо́рье 岸邊。近海
взобра́ться, = взбира́ться
взойти́ (106, 9) всходи́ть, восходи́ть (жу́, дишь) 登ル。上ル
взоръ 眼力。見相
взро́слый 成年。成長シタル
взрыва́ть 1, взорва́ть (105, 84) 爆發セシム
взрывъ 爆發
взыска́ть (щу́, щешь), взы́скивать 1 搜ス。催促スル。請求ス

взя́тіе 取ル事。捕ル事。陷落
взять＝брать
вида́ть I. (110, I, 3 備考) 度々見ル。＝ся 面會スル
ви́дный (52, 6) 顯要ノ。現然タル。美ナル
видне́ться I, (104, I, 7) 見ヘル
видъ 形相。景色。種類 въ виду э́того 之ニ依テ
ви́дѣть (жу, дишь) 視ル。見受ケル＝ся 面會スル。見ヘル
визгъ 叫聲 жа́лобный——悲鳴
визи́рь I, 回教國ノ大臣
визи́тъ 訪問
ви́лка 肉刺
вина́ 罪。咎
вини́ть (ню́, ни́пь) 罪スル。咎ムル
вино́ 酒。葡萄酒
винова́тый 罪アル＝тъ 失敬 124, II, 6
винóвникъ 發頭人。起因者
винóвный 罪アル 123, II, 2; 124, II, 6
виногра́дъ 葡萄
висѣ́ть (шу́, си́шь) 掛ガル。垂レ下ル
вить (105, 85) 綢合セル——гнѣздо́ 巢ヲ造ル
вихрь I, 疾風。旋風
вице-предсѣда́тель I, 副議長
ви́шня (30, 7) 櫻＝нёвый 櫻ノ
включи́тельно 包括シテ。籠メテ
вконе́цъ 全ク。凡テ。盡ク
вкра́дываться I, вкра́сться (106, 19) 竊ニ入ル。氣ニ投ス
вку́сный 美味ナル
вкусъ 味官。趣味。流儀。氣韵
владѣ́лецъ (22, 2) 領主。所有人
владѣ́ніе 領地。所領
владѣ́ть I, (104, I, 7) 主治スル。能スル 159, 12
властели́нъ 命令者。下知者＝ти́тель I, 主權者
власть 3, 權力
влета́ть I, влете́ть (чу́, ти́шь) 飛入ル
влечь (107, 8) 曳ク。誘フ
вли́вать I, влить (105, 66) 注ク。勸誘スル
влія́ніе 感化。合流
влія́ть, по＝(105, 33) 感化ス 125, I, 17
вложи́ть (жу́, жишь) 入置ク。納メル
влѣзать I, влѣзть (106, 3) 這込ム
влюбля́ться I, ＝би́ться (блю́сь, бишься) 惚レル 124, I, 12
вмѣня́ть I, ＝ни́ть (ню́, нишь) 責ヲ歸ス 157, 10
вмѣсти́ть (щу́, сти́шь), ＝ща́ть I, 入レ置ク。据ヘル＝ся 入ル。容ル
вмѣсто 代リニ
вмѣстѣ 共ニ——съ ト共ニ
вмѣша́тельство (24, 16) 干涉
вмѣши́ваться I, ＝ша́ться I, 干涉ス
внача́лѣ 最初。始ニ於テ
внеза́пно 俄ニ。不意ニ
внести́ (106, 4), вноси́ть (шу́, сишь) 運入ル。拂込ム
внизу́ 下ニ於テ внизъ 下ニ向テ
вника́ть I, вни́кнуть (ну, нешь) 推究スル。維ミル
вниманіе 注意 со＝ніемъ 注意ヲ用ヒテ
внима́тельный (51, 7) 注意深キ
внима́ть I, внять (105, 1) 注意スル
вновь 更ニ。新ニ
вноси́ть——внести
внукъ (24, 10) 孫 (成人シタル), вну́чекъ (22, 1) 孫兒, ＝чка 孫女
вну́тренній 內部ノ ＝нля борьба́ 內心ノ爭
вну́тренность 3, 內部
внутри́ 內ニ於テ
внуша́ть I, ＝ши́ть (шу́, ши́шь) 諭ス。言含ム
внѣ 外ニ於テ
внѣ́шній 外面ノ。外部ノ
вня́тный 明白ナル。注意シタル
вовлека́ть I, вовле́чь (107, 8) 誘引スル。來タス。招致ス
во́все 全ク。丸ルデ
вода́ 水＝ды (36, 2) 果實ヲ搾リタル水 (杏林檎水其他曹達水等) минера́льная——鑛泉
води́ться (ится, и́лось) 繁殖ス。行ハル

во́дка 燒酎
водопа́дъ 瀧
водопрово́дъ 水道
воева́ть (во́юю, во́юешь) 交戰スル
вое́нный 軍ノ。軍事ノ ═ное вре́мя 戰時
вожа́тый 導者。案內者
воз, вос; вз, вс 129, 3
возводи́ть (жу́, дишь), возвести́ (106, 16) 上ゲル。昇ス возве́денное зда́ніе 建上ゲタル建物
возвраща́ть 1, возврати́ть (щу́, ти́шь 105, 111) 返ス。戻ス═ся 歸ル
возвраще́ніе 返戻。復歸
возвыша́ть 1, возвы́сить (шу, сишь) 高クス。昇ス═ся 高マル。聳ユ 119, 3
возвы́шенность 3, 高處。丘岡
возвѣща́ть 1, возвѣсти́ть (щу́, сти́шь) 告ル。告知スル
воздава́ть (даю́, даёшь), возда́ть (105, 95) 與ヘル。報酬スル
воздвига́ть 1, ═ви́гнуть (ну, нешь) 建立ス。擧グ
воздержива́ться 1, ═ жа́ться (жу́сь, жишься) 節制ス。自抑ス 116, VIII, 9
во́здухъ 空氣 откры́тый, чистый ═ 清凉ノ空氣。外氣
воздѣлываніе 耕作
воздѣлывать 1, ═лать 1, 耕ス
возжа́ (30, 8) 手綱
вози́ть = везти́
возлага́ть 1, возложи́ть (жу́, жишь) 被ラス。負任スル 125, I, 17
во́злѣ 傍ニ。側面ニ
возмо́жность 3, 所能。將成 по═ности 勢一杯 нѣтъ ника́кой═ности 出來得ベキ見込毫モ無シ
возмо́жный 能フベキ═но 能フベシ。成ル
вознагражде́ніе 報酬
возненави́дѣть (жу, дишь) 憎ミカケル
возника́ть 1, возни́кнуть (ну, нешь) 起ル。生ズル
возноси́ть (шу́, сишь), ═нести́ (106, 4) 擧ク。讃揚ス
возража́ть 1, возрази́ть (жу́, зи́шь) 駁スル。抗言スル。推返シ云フ
возраста́ть 1, возрасти́ (106, 27) 生長スル
во́зрастъ 年齡
возъ 車ノ積荷。荷車
война́ (30, 5 備考 1) 戰爭
вои́нственный 軍氣ノ。勇氣ノ
во́инъ 軍人
во́йско (24, 17) 軍隊。軍勢
войти́ = входи́ть
вокру́гъ 周圍ニ於テ
волкъ 狼
волнова́ться (ну́юсь, ну́ешься) 激動ス。動悸ス 159, 12
во́лосъ (24, 1, 14) 髮。毛
волчёнокъ (24, 9) 狼ノ兒
волочь (107, 9) 曳ク。誘フ
во́лчій (чье, чья) 狼ノ
во́льность 3, 自由。自主
во́ля 意志。自由
вонъ 外ヘ。彼所ニ
вонючій 惡臭ナル
вообще́ 總シテ。概シテ
воодушевля́ть 1, ═ви́ть (влю́, ви́шь) 感激セシム。感發セシム
вооружа́ть 1, вооружи́ть (жу́, жи́шь) 武裝サスル。敵抗セシム
вопи́ть (105, 93) 喚ク
вопреки́ 反シテ。違背シテ 132, 2
вопро́съ 問題。疑問
воробе́й (22, 6), воро́бышекъ (22, 1) 雀
воровство́ 窃盜罪
ворона́ 雌鴉 во́ронъ 雄鴉
воро́та (тъ) (37, I, 3) 門
вороти́ть (чу́, тишь) 戻ス。返ス。回轉セシム═ся 戻ル。回轉スル
ворча́ть (чу́, чи́шь) 怒聲ヲ發ス。號吼ス
воръ 盜賊。窃盜

воскли́цать 1, воскли́кнуть (ну, нешь) 叫フ。大喝ス
воскресе́нье 日曜日。復活
воскъ 蠟
воспита́ніе 養育。教育
воспи́тывать 1,—та́ть 1, 養育ス。教育ス
воспо́льзоваться (зуюсь, зуешься)利用ス ル。乗ズル 159, 12
воспомина́ніе 追想。記念
восто́къ 東—то́чный (59, 2)東ノ
восто́ргъ 歓喜。大悦
восхища́ться 1, 大悦ス。心ヲ奪ハル159, 12
восхище́ніе 大悦
восходи́ть, всходи́ть=взойти́
вотъ ソレ。茲ニ
волнь 3, (32, 2) 虱
впереди́, впередъ, 先ニ。前ニ。向後
вплавь 浮ンデ。泳デ
вполнѣ 全ク。悉皆
впорхну́ть (ну́, нёшь) 翔入ル
вправля́ть 1,—вить (влю вишь) 整理ス。治ス。繕フ
впрочемъ 然レ𪜈。但シ
впряга́ть 1,—рячь (107, 7) 駕ス
врагъ 敵
враждебный 敵抗ノ
врать (105, 17) 嘘ヲ云フ
врачъ 醫者
вреди́ть (жу́, ди́шь) 害ス。損ス 157, 10
вредъ 害。毀損—дный 有害ノ
временный 一時ノ。臨時ノ
вре́мя (33, 2) 時間。時節 по временамъ 折節 во-время 適時= на вре́мя 暫時 со временемъ 漸次=。時ヲ經テ
всё 全ク。殘ラズ。悉皆——таки ナレ𪜈
всевозмо́жный 一切ノ。有ラユル
всегда́ 常=
вселе́нная (41, II, 3) 宇宙。世界
всемилостивый 至仁ノ(帝王ニ附スル語)
всенощная 夜ノ祈禱
вскачь 疾駈シ
всклокоченный 攪キ亂サレタル—ная шерсть 縺ラシタル毛(獣ノ)
вскопа́ть 1, вска́пывать 1, 堀上ゲル
вскоро́ 程ナク
вскочи́ть (чу́, чишь), вска́кивать 1, 跳上ル
вскрича́ть (чу́, чи́шь), вскри́кивать 1, 俄=叫ブ
вслухъ 聲立テヽ
вслѣдствіе =由テ 132; 1
вслѣдъ за =次テ
вспаха́ть (напашу́, па́шешь) 耕ス。鋤起ス
вспомина́ть 1,—мнить (мню, мнишь) 想起ス。憶出ス
вспорхну́ть (ну́, ёшь) 飛起ツ(鳥ノ)
вспы́льчивый 激シ易キ。短氣ナル
вставать (таю́, таёшь), встать (105, 102) 起立ツ
вставля́ть 1—вить (влю, вишь) 嵌込ム
встревожить (жу, жишь) 騒動サス。驚カス
встрѣча 出迎。面會
встрѣча́ть 1, встрѣтить (чу, тишь) 迎ヘル—ся 逢フ。面會スル 128, III, 3
вступа́ть 1, вступи́ть (плю́, пишь) 入ル。就ク——въ разгово́ръ 談話ヲ爲ス
всыпа́ть 1, всы́пать (плю, плешь) 撒キ入
всякій (67, 4) 凡テノ。諸ノ。有ラユル
всяческій 樣々ノ—ски 樣々ニ
вторга́ться 1,—гнуться (нусь, нешься) 侵入ス
вторже́ніе 侵入
вторичный 再度ノ
вто́рникъ 火曜日
входи́ть (жу́, дишь). войти́ (106, 9) 入ル。入込ム
входъ 入口 у са́маго вхо́да 入口ニ於テ
вчера́ 昨日—шній 昨日ノ
въ, во 124 =於テ。=向テ
въѣздъ 乗込
въѣзжа́ть 1, въѣхать (105, 61) 乗入ル。乗込ム

выбира́ть 1, вы́брать (105, 16) 撰ム—ся 脫シ出ツ。撰ハル

выбыва́ть 1, вы́быть (99) 退役ス。兵士ノ負傷シテ戰場ニ缺員スルコト

вы́бить (105, 82), выбива́ть 1, 打出ス。打上ル—ся изъ силъ 力拔ケスル

выбѣга́ть 1, вы́бѣжать (105, 71) 駈出ル。出奔スル

выва́ливать 1, вывалить (лю, лишь) 倒シ出ス—ся 抛出サル

выводи́ть (жу, дишь), —вести (106, 16) 導出ス。救フ。歸結ス

выгля́дывать 1, вы́глянуть (ну, нешь) 窺フ。窺ヒ覗ル

вы́говоръ 口調。譴責

вы́года 利益

вы́годный 利益アル

выдава́ть (даю́, даёшь), вы́дать (105, 95) 下渡ス。仕拂フ 121, I, 9, 11 —за-мужъ 121, I, 11 嫁ハス

выдвига́ть 1, —винуть (ну, нешь) 引出動カシ進ム—ся 進動ス

вы́держать (жу, жишь) 持堪ヘル。合格スル (試驗ニテ)。支持ス

вы́думка 想出。發明。虛構

выжига́ть 1, —жечь (107, 2) 燒盡ス

выздора́вливать 1, вы́здоровѣть 1, 快復スル。全快スル

вызыва́ть 1, вы́звать (105, 83) 呼出ス。招ク

выи́грывать 1, —грать 1, 勝ツ。利ヲ得ル 116, IX, 6

вы́йти——выходи́ть

вы́казать (жу, жешь) 示ス。見セル

вы́ковать (кую, куешь), —вывать 1, 鍛上ク

вы́кормить (млю, мишь) 餌ヲ與ヘル

вылѐчивать 1, вы́лечить (чу, чишь) 療ス。本復セシム

вымеща́ть 1, вы́местить, (щу, стишь) 復讐ス 125, II, 10

вынима́ть 1, —нуть (ну, нешь) 拔出ス

выноси́ть (ношу́, носишь), вы́нести (106, 4) 持出ス。忍ブ

вынужда́ть 1, вы́нудить (жу, дишь) 强ユル。强促スル

выпада́ть 1, вы́пасть (106, 20) 脫落スル。墮ル。露ル

выпива́ть 1, —пить (105, 94) 飲盡ス

выполза́ть 1, —зти (106, 6) 匍出ル

выпуска́ть 1, вы́пустить (щу, стишь) 解放ス。出ス

выра́внивать 1, —нить (ню, нишь) 平坦ニス

вы́рвать (105, 84), вырыва́ть 1, 曳拔ク。救出ス

вырста́ть 1, вы́рости (106, 27) 發育スル。生長スル

вы́ростить (щу, стишь) 發育セシム

выруча́ть 1, вы́ручить (чу, чишь) 贖フ。受取ル——изъ бѣды 救出ス

вы́рыть (105, 8), вырыва́ть 1, 掘出ス

вырѣзывать 1, —зать (жу, жешь) 彫刻ス。切去ル

выска́кивать 1, —скочить (чу, чишь) 跳出ツ

вы́служить (жу, жишь) 勤メ上ゲル。勤メ達ス

выслу́шивать 1, вы́слушать 1, 聞入レル。許容ス

высо́кій (59, 3) 高キ。貴大ナル 159, 5

высота́ 高サ。高度—тою 124, I, 9 高サハ

вы́спаться (105, 91), высыпа́ться 1, 充分ニ眠ル

вы́ставка 博覽會。展覽會

вы́строить (ою, оишь), выстра́ивать 1, —ро́ивать 1, 建テ上ル

вы́стрѣлить (лю, лишь) 發射スル

выступа́ть 1, —пить (плю, пишь) 出發スル。進出スル

вы́сунуть (ну, нешь), высо́вывать 1, 突出ス—ся 突出ル。出ル

высу́шивать 1, —шить (шу, шишь) 乾カス。干シ上ク

высѣка́ть 1, ═сѣчь (107, 12) 斫出ス
вытека́ть 1, вы́течь (107, 13) 流出ス
выть (105, 4) 吼ユル。號泣スル
вытя́гивать 1, ═тянуть (ну, нешь) 伸ハス。引出ス
выу́чивать 1, ═чить (чу, чишь) 學ヒ終ル。習成スル
выходи́ть (жу́, дишь), вы́йти (106, 9) 出ツ。出現スル。生ズ═за́-мужъ 121, I, 11
вы́четъ 差引。計算
вы́чистить (щу, стишь), вычища́ть 1, 清ムル。掃除スル
вы́ше ヨリ高ク (высо́кій ヨリ生ズ)
вышина́ 高サ═ною 高サハ 124, I, 9
выѣзжа́ть 1, вы́ѣхать (105, 61) 乘出ル。出發スル
вью́га 吹雪
вьюкъ 駄荷
вѣ́дать 1, 知ル。管理スル
вѣдь アノソレ(注意ヲ與フル語)
вѣ́еръ (24, 1) 扇
вѣ́жливый 鄭重ナル。禮節正シキ 124, II, 6
вѣкъ (24, 1) 世紀。生涯
вѣ́ра 信仰。宗旨 124, I, 12
вѣ́рить, по═(рю, ришь) 信スル。信用スル 124, I, 12
вѣрнопо́дданный 忠良ナル。忠良ノ民
вѣ́рный 信アル。忠ナル。實ノ═ность 節操
вѣ́ровать (рую, руешь) 信ズル 124, I, 12
вѣроло́мный 背信ナル。不忠ナル═мство 不忠。背信。無節操
вѣроя́тно 多分。實ラシ
вѣ́сить (шу, сишь) 158, 4 вѣ́шать 1, 秤ケル。目方ヲ有ス
вѣсть 3, 報知
вѣсъ 秤量。重量, вѣсомъ въ 124, I, 8
вѣсы́ (со́въ) 天秤。權衡
вѣтвь 3, 枝
вѣ́теръ (22, 1) 風
вѣ́тка 小枝
вѣ́треный 風ノ。輕浮ノ
вѣ́че 古代スラウ人ノ民會
вѣ́чный 永久ノ。永遠ノ
вяза́нка 束。把
вя́нуть (105, 51) 凋衰ス
вядчина́, ветчина́ 鹽豕肉

Г.

га́дкій (59, 3) 醜ヲキ。胸ヲ惡クスル所ノ
газе́та 新聞紙
галлере́я 廻廊
гало́пъ 駈足(馬ノ)。駿足
гауптва́хта 衛兵廠
гдѣ 其所ニ。何所ニ гдѣ-то, гдѣ-нибудь 何所ニカ гдѣ бы то ни было 何所ナリトモ
генва́рь (янва́рь) 1, 一月═рскій
генера́лъ 陸軍將官。勅任官═майоръ (34, 2) 陸軍少將
геро́й 豪傑。主人公(小說等ノ)
ги́бкій 撓カナル。柔軟ナル
гигіе́на 衛生學。養生法═ни́ческій 衛生ノ
гимна́зія 中學校 класси́ческая——希臘拉甸語ヲ敎フル中學 реа́льная——尋常中學
глава́ 首頭。章。屋頭
гла́вный 主ナル═нымъ о́бразомъ 主トシテ а гла́вное 殊ニ。先ツ第一ハ
главнокома́ндующій 大總督。總指揮官
глазъ (24, 1, 14; 23, 4) 眼═зикъ═зо́къ 芽
гла́дить (жу, дишь) 撫ル。平滑ニス
гла́дкій (59, 3) 滑カナル
глаша́тай 注進者。口上人
гли́няный 粘土ノ
глода́ть (жу́, жешь) 嚼チル
глубина́ 深サ。深淵。深長
глубо́кій (59, 3) 深キ═кая дре́вность 太古
глу́пость 3, 愚昧
глу́пый 鈍ナル。愚ナル

глухо́й 聾ナル——го́лосъ 微カナル聲 (41, II, 3)
гляде́ть (жу́, ди́шь), взгляну́ть (ну́, нешь) 見ル。眺ル 125, I, 17
гнать (105, 15) 逐フ。追放スル
гнести́ (106, 24) 壓ス。推ル
гнило́й 腐敗ノ
гнить, с—(105, 67) 腐敗スル
гнуть, со—(105, 56) 曲ゲル—ся 曲カル。屈カム
гнуша́ться 1, 嫌フ。蔑如スル 156, VIII
гне́ваться 1, раз—憤ル 125, I, 17
гне́въ 憤怒
гнѣдо́й 濃栗色ノ (馬ノ毛色)
гнѣзди́ть 巢ヲ造ル
говори́ть (рю́, ри́шь) 言フ。語ル—ся 言ハル。話柄トナル
говѣть 1 (104, I, 7) 齋戒ス
годи́ться (жу́сь, ди́шься) 適ス。役ニ立ツ
годъ (24, 1, 13; 23, 4) 年
голова́ 頭—вка 小頭
головня́ 燃木
голо́дный 餓タル
го́лодъ 飢餓 съ—ду 餓ヘタルニ由テ
го́лосъ (24, 1) 音聲
голубо́й 空色ノ
го́лубь 1, 鳩
го́лый 裸ナル。無毛ノ。純粋ノ
гоне́ніе 迫害。窘逐
гора́ 山
гора́здо (56, 4) 尚。尚一層
горди́ться (жу́сь, ди́шься) 高慢スル 159, * 12
го́рдость 3, 傲慢。驕傲
го́рдый (52, 2) 高慢ナル。自負ノ
го́ре 憂
горева́ть (рю́ю, рю́ешь) 憂フ 126, II, 4
горемы́ка (38) 薄命者
гори́стый (52, 2) 山多キ
го́рница 座敷
го́рничная (41, II, 3) 小間使
го́рный 山ノ—ручей́ 溪流
городово́й (41, II, 3) 巡査
городско́й 市町ノ—садъ 公園
го́родъ (24, 1) 市町
горожа́нинъ (24, 6) 市町民—нка 市ノ女
горо́хъ 豆
го́рсть 3, 一握。一掬
горчи́ца 芥
го́рькій (51, 7; 59, 3) 苦カキ—кая пра́вда 悲キ事實—кія слёзы 慰メ難キ涙—ко пла́кать 痛ク泣ク
горе́ть (рю́, ри́шь) 燒ケル。燃ユル
горя́чій (59, 4) 熱キ。熱切ナル
горя́чка 熱病
господи́нъ (24, 7) 君。貴下
госпо́дствовать (вую, вуешь) 權ヲ操ル。流行スル。勢力ヲ有ス 119, 3
госпожа́ 婦人ニ對スル敬稱
Госпо́дь (23, 2, 6) 主 (神)—день (17, 6)
гостепрі́имство 歡待。厚遇—мный 歡待ノ。客扱ヨキ
гости́ная (41, II, 3) 客間
гости́ница 旅人宿
гости́ть (щу́, сти́шь) 宿トル。客居ス
гость 1, 客 идти́ въ го́сти, быть въ гостя́хъ 客ニ赴ク
государство (24, 16) 國
госуда́рь 1, 國主。君王—рыня 王妃。女后
гото́вить (влю, вишь) 備ヘル—ся 備ハル 117, 6
гото́вый 準備ノ。用意ノ 117, 10
гофма́ршалъ 宮內省三等官 (武部官)
гра́бить (блю, бишь) 強奪スル。劫掠スル
гра́дусъ 度數 (溫度等ノ)
градъ 霰 потъ гра́домъ 汗ハ霰ノ如シ
гражданинъ (24, 6) 市民。公民。國民
грамма́тика 文典
грани́ца 境界。制限
грани́чить (чу, чить) 界ス。接ス 128, III 3

графи́нъ 硝子製水注
графи́ть (флю́, фи́шь) 罫ヲ引ク
графъ, 伯爵—фи́ня 伯爵夫人。伯爵令孃
гребешо́къ (22, 1) 櫛
гремѣ́ть (млю, мишь), гря́нуть (ну, нешь) 雷鳴スル。轟ク
гренаде́ръ (24, 14) 撰拔兵(身丈ノ)
грести́ (106, 11) 把ク。取ル。漕ク
грибъ 菌
гри́фель (24, 1) 石筆
гробъ (23, 4) 棺。墳墓
гроза́ 雷雨—зный 恐ロシキ。暴威ノ
гроздъ (24, 2) 葡萄ノ房
грома́дный 廣大ナル
гро́мкій 高聲ナル。高名ノ
громъ 雷
гротъ-ма́чта 大檣
груби́ть, на—(блю́, би́шь) 粗暴ヲ行フ。無禮ス 157, 10
гру́бость 3, 粗鄙。粗暴
гру́бый 粗ナル。粗暴ナル。鄙シキ 124, II, 6
грудь 3, 胸
гру́стный 憂愁ノ。悲哀ノ
грусть 3, 哀傷。痛慮
гру́ша 梨子—шевое де́рево 梨ノ木
грызть (106, 2) 嚙ム
грѣть, со—1, 暖メル—ся 溫マル
грѣхъ 罪過。罪惡
грѣ́шникъ 罪人(道德上ノ)
грѣ́шный 罪アル。罪惡ノ
гря́зный 汚ナル。泥濘ノ—ная доро́га 泥路
грязь 3, 泥濘。汚
грясти́ (106, 17) 來ル。至ル。行ク
губерна́торъ 知事
губе́рнія 縣—нскій 縣ノ
гуверна́нтка 保姆。女教師(家庭ノ)
гувернёръ 保育者。傅
губи́ть, по—(блю́, бишь) 滅ス。害ス
гу́бка 海綿
гулъ 轟聲
гуля́ть 1, 遊フ。散步スル
гуса́ръ (24, 14) 輕騎兵—скій 輕騎兵ノ
гу́сеница 蛹ニ化スル虫類
густо́й (52, 2; 59, 5, 3) 濃キ。稠密ナル
гусь 1, 鵞。鴈—сы́ня 雌鵞—сёнокъ (24, 9) 鵞ノ兒

Д.

да 然リ。幷ニ
дава́ть (даю, даёшь), дать (105, 95) 與ヘル。渡ス。許ス 151, III, 3
да́вка 壓迫。雜沓
да́внишній, да́вній 久キ以前ノ давно́ 久シキ前ニ давны́мъ давно́ 既ニ既ニ
да́вность 3, 久シキヿ。以前
да́же サヘモ
далёкій (59, 3) 遠キ。遙ノ далеко́ 遠ク。遙ニ
да́льній 遠方ノ。遠キ
дари́ть (рю́, ришь) 賜給スル。贈ル 157, 10
дарова́ть (рую, руешь) 給フ。惠與スル
дарови́тый (59, 5) 有才ノ
дарово́й 貰フタル。無料ノ
да́ромъ 無報酬ニテ。徒ニ
даръ 進物。才能
да́ча 別莊
дверь 3, 戸。扉
дви́гать (112, 2; 105, 59), дви́нуть (ну, нешь) 動カス。動移スル—ся 進行スル。搖ラル
движе́ніе 行進。勃興。不穩
дворе́цъ (22, 1) 宮殿
дворъ 帝室。邸。戸外
дворяни́нъ (24, 6) 士族。貴族—нка 女ノ貴族
двою́родный 支族ノ——братъ 從兄弟—ная сестра́ 從姉妹
двули́чный 貳心ノ
дежу́рный 當番員。當番ノ

дека́брь 1. 十二月 ▬рскій 十二月ノ
деликáтность 3, 禮節。鄭重
день (22, 1), денёкъ (22, 2) 日。晝間 на дня́хъ 近頃。近日 днёмъ 日中
де́ньги (негъ) (37, 1, 2) 金錢
деньщи́къ 士官ノ從卒(仕丁ノ如キ)
депута́тъ 代表者。代議士
дёргать 1, дёрнуть (ну, нешь) 引張ル。引拔ク
дереве́нщина (38) 田舍漢
держа́ть (жу́, жишь) 持ツ。保ツ。維持スル 121, I, 6 ▬ся 從フ 156, VIII
дере́вня (30, 7) 村 ▬вéнскій 村ノ。田舍ノ
де́рево (24, 2) ▬вцó 木
деревя́нный 木ノ。木製ノ
де́рзкій 無禮ナル。暴ナル
де́рзость 3, 無禮。狂妄
десть 3, 紙一帖(二十四葉)
деся́токъ (22, 1) 十個
дешёвый (-вле 59, 1) 低價ノ。廉ナル
дива́нъ 長椅子
ди́кій (59, 3) 粗野ノ。野鄙ノ 159, 5
дире́кторъ (24, 1) 校長。局長
дисципли́на 訓練。紀律
дитя́ (32, 9) 小兒
дичи́ться (чу́сь, чи́шься) 臆シ避ク 156, VIII
ді́аконъ (24, 20) 補祭(三等僧)
длина́ 長サ 124, I, 9
дли́нный 長キ
для §116, II ノ爲ニ
дно (24, 2) 庭
до 116, IV 迄
добива́ться 1, ▬би́ться (105, 82) 達ス。手ニ入ル 156, VIII
добира́ться 1, ▬добра́ться (105, 16) 到達スル。辛苦シテ達スル
до́блесть 3, 剛勇。武勇
добро́ 善。仁惠。財貨
добровóльный 任意ノ。隨意ノ
доброду́шный 善心ノ。善良ナル
доброде́тель 3, 善行。德
доброжела́тельство 人ノ幸ナランコヲ願フ心 117, 8
доброжела́тельствовать (вую, вуешь) 善福ヲ望ム 157, 10
добросóвѣстный 誠心ナル。實良ナル
доброта́ 善心。善德
до́брый (52, 2) 善ナル。良全ノ 159, 5
добыва́ть 1, доби́ть (99) 得ル。採ル。獲ル
доби́ча 獲物
доводи́ть (жу́, дишь), довести́ (106, 16) 届ケル。案內スル
довóльный (51, 7) 滿足ナル。充分ノ ▬но 隨分。澤山 159, 5
довóльствоваться, у▬ (вуюсь, вуешься) 滿足ス 159, 12
дове́рie 信任。信用 117, 8
довѣря́ть 1, ▬рить (рю, рипь) 委任スル。信用スル ▬ся 信任スル 157, 10
дога́дливый 推察ノ敏ナル
дога́дываться 1, ▬да́ться 1, 推量スル。推考スル
догóнка 追着
догоня́ть 1, догна́ть (105, 15) 追着ク
дождь 1, 雨 ——идётъ 雨ハ降ル ——льётъ какъ изъ ведра́ 雨ハ車軸ヲ流ス ▬дли́вый 雨勝ナル
дожида́ться 1, дожда́ться (105, 97) 待ツ。待請ケル 156, VIII
дозволéніе 許シ。許可
дозволя́ть 1, дозвóлить (лю, лишь) 許可スル
дозрѣвать 1, ▬рѣть 1, 成熟ス
дойскиваться, доиска́ться(щу́сь, щешься) 探知スル。搜索スル 156, VIII
дойти́ (106, 9) дохóдить (жу́, дишь) 達スル。届ク
доказа́тельство (24, 16) 證據。證據
доказа́ть (жу́, жешь), дока́зывать 1, 證スル

до́ктоpъ (24, 1) 醫者。博士
до́лгій (59, 3) 久シキ。長キ間ノ
долгъ 債。責任 дѣлать долги́ 負債スル испо́лнить——本分ヲ遂ク
до́лжно 可シ。要ス——быть 必ス。多分
до́лжность 3, 本務。職分
до́лжный (52, 5) 當然ノ。負債ノ 157, 9
доложи́ть (жу́, жишь), докла́дывать 1, 上申ス。奏ス
до́ля 分。分ケ前。運
до́ма 家ニ於テ
дома́шній 家ノ。家製ノ—ние 家人。同居人
домога́ться 1,—могу́ться (107, 4) 强求スル 156, VIII
домо́й 家ニ向テ
домъ (24, 1), до́микъ 家。小屋
донесе́ніе 上申。建白
допи́сывать 1, дописа́ть (шу́, шешь) 書キ終ル
допото́пный 大洪水以前ノ
допра́шивать 1, допроси́ть (шу, сишь) 糺問ス
допуска́ть 1,—сти́ть (щу́, стишь) 許ス。入レル
допыта́ться 1,—пы́тываться 1, 糺問ス。探知スル 156, VIII
доро́га 道路 желѣ́зная——鐵道 идти́ свое́ю доро́гою 一定ノ方向ニ從ヒ往ク
дорого́й 高價ノ。貴重ノ
дороговизна 高價。騰貴
дорожи́ть (жу́, жи́шь) 貴重スル 159, 12
доро́жный 旅行ノ。道路ノ
доса́да 悔恨。殘念
доса́довать (дую, дуешь) 殘念ヲ感ス。不愉快ス 125, I, 17
доска́ 板 кла́сная——教場ノ黒板 гри́фельная——石板
дослу́живать 1,—жи́ть (жу́, жишь) 勤上ケル—ся 勤上ガル
доставать (стаю́, стаёшь),—ста́ть (105, 102) 屆ク。手ニ入ル 116, IX, 6
доставаться,—ста́ться 當タル。得ル。目ニ逢フ
доставля́ть 1,—вить (влю, вишь) 與ヘル。送ル
доста́точный 充分ノ
достига́ть 1,—гнуть (ну, нешь) 達スル。追着ク 156, VIII
досто́инство 價値。功用。品位
досто́йный (52, 3) 適當ナル。堪能ナル 156, VIII 備考 2
до́суг 閑暇 на до́суге 閑暇ノ際
досю́да 此處マデ。是レマデ
доу́чивать 1,—чи́ть (чу́, чишь) 教ヘ通ス。學ヒ成ス
доходи́ть——дойти́
дохо́д 收入。利益 госуда́рственный—— 歳入
дочита́ть 1,—тывать 1, 讀切ル。通讀ス
дочь 3, (32, 1) 息女。娘
драгу́н 龍騎兵 (馬上ニテモ徒歩ニテモ戰フ兵)
дра́ться (105, 18) ムシリ合フ。喧嘩スル
дре́вній (52, 3) 古昔ノ
дре́вность 3, 舊古
дрема́ть (млю́, млешь) 假眠スル。居眠ル
дрему́чій 蓊鬱ノ——лѣсъ 深林
дрова́ (въ) 37, II, 2
дрожа́ть (жу́, жи́шь) дро́гнуть (ну, нешь), 震ヘル。戰慄スル
друго́й (68, 2) 他ノ на——день 翌日
другъ (24, 2) 親友——дру́га (69, 1) 互ニ
дру́жба 懇親。交誼
дру́жескій 親友的ノ—ски 親友的ニ
дру́жный 親シキ。睦シキ。協力ノ
ду́бъ 樫
ду́мать 1, 思フ。考フ 119, 2
дура́къ 愚人。阿房
дурно́й 惡シキ。醜キ
дуть 1, 吹ク
духъ 靈。精神 прису́тствіе ду́ха 神氣自若

душа́ 靈魂。人頭數
души́стый (59, 5, 3) 香氣アル
ду́шный 蒸シ暑シキ
дыра́ (30, 3) 孔
дыха́ніе 呼吸
дыха́ть (ха́ю, ха́ешь 及 шу́, шешь) дышáть (шу́, шить) 呼吸ス 159, 12
дѣвочка 少女
дѣву́шка 娘(十五六才以上ノ)
дѣдъ, дѣ́душка 祖父
дѣйстви́тельно 實際ニ。寔ニ
дѣлать, с—l, 致ス。作ル。行フ—ся 致サル。ナル 146, II
дѣлёжъ 分配。配當
дѣле́цъ (22, 2) 能アル人
дѣли́ть (лю, лишь) 分ツ。割ル—ся 分カル
дѣ́ло 事。用件 по дѣ́лу 當然ニ за дѣ́ломъ 理アリテ въ са́момъ дѣ́лѣ 本當ニ на дѣ́лѣ 實際ニ 116, IV, 7
дѣловóй 用務ノ。事務ニ熟シタル
дѣ́льный 老練ナル。有力ナル
дѣ́ти=дитя́
дѣ́тище 小兒(男女ノ別ナク)
дѣтскій 小兒ノ
дѣ́тство 幼時
дѣть (105, 29) 置ク
дю́жина ダース(十二)
дя́дя (30, 10) 伯叔父, —динъ 伯叔父ノ

Е.

едва́ 辛フシテ。ヤット——ли ドウダカ(疑フ)
единоду́шный 協心ノ。一致ノ
еди́нственный 唯一ノ。獨ノ—ная дочь 獨リ娘
ежедне́вный 每日ノ
ежего́дный 每年ノ
ель 3, 杉
епи́скопъ (24, 20) 主教(大僧正)
е́сли 若シモ——то́лько 若シ唯。果シテ
о е́слибы 如何ニ結構ナラン
ещё 未タ。再ヒ。又。尙

Ж.

жа́воронокъ 雲雀
жа́дность 3, 貪慾。渴望
жа́дный 貪慾ノ。渴キタル 116, IV, 10
жа́жда 渴。渴望
жа́ждать (аю, аешь, 或ハ жду, ждешь), 渴ク 156, VIII
жа́лкій (59, 3) 憫ムベキ—ко 惜シ。哀シ
жа́лоба 歎願。怨言
жа́лобный 悲哀ノ。愁訴ノ
жа́лованье 俸給。惠與
жа́ловать (лую, луешь) 惠與スル—ся 下賜セラル 125, I, 17, 157, 10
жаль 悲哀。惜ムベシ 156, VIII
жале́ть l, 傷ム。惜ム。恕スル。憐ム 156, VIII
жара́ 暑。炎熱
жа́рить (рю, рить) 燒ク。炙ル жа́реное 燒キ肉。燒キタル
жа́ркій 暑キ。激熱ノ—кóе (41, II, 3) 燒肉
жаръ 熱。オコリタル炭 лихора́дочный—— 感冒熱 онъ въ жару́ 彼ハ熱ニ犯サル съ жа́ромъ 熱心ニ。夢中デ
жа́тва 收穫。刈入期
жать (105, 72) 刈ル。刈取ル
жать (105, 73) 揉ミ締メル。壓ス
ждать (105, 97) 待ツ。期望スル 151, III, 4
же 併シ(受語ノ後ニ用フ)
жева́ть (жую́, жуёшь) 嚙ム
жела́ніе 希望。志願
жела́нный 好マシキ——гость 好客
жела́тельно 好マシ。願ハシ
жела́ть l, 希望スル。欲スル 156, VIII
жёлтый (59, 5, 3 乙) 黃色ノ
желте́ть l, 黃色トナル

желу́докъ (22, 1) 胃
жёлчь 3, 膽汁。怒氣
желѣзо 鐵—зный 鐵ノ
же́мчугъ 眞珠—чу́жный 眞珠ノ—чу́жина 眞珠ノ粒
жена́ 妻—нипъ 妻ヲ
жена́тый 有妻ノ。妻帶者
жени́ть (ню́, нишь, 109, II, 2) 妻ハス 125, II, 10—ся 娶ル
женйхъ 新郎
же́нскій 女ノ
же́нщина 婦女
жеребёнокъ (24, 8) 駒。馬ノ子
же́ртва 犧牲。供物
же́ртвовать, по—(вую, вуешь) 獻スル。犧牲ニ供ス 159, 12
жёсткій 硬ナル。粗ナル
жесто́кій 殘酷ナル。苦シキ 117, 10
же́стъ 手振(談話等ノ際)
жечь, с—(107, 2) 燒ク。焚ク—ся 燒ケル。焦ケル
живо́й (52, 6) 活キタル。活潑ノ。活躍ノ
жи́вопись 3, 畵。油畵—сецъ 畵工
живо́тное (41, II, 3) 動物
жидёнокъ (24, 9) 猶太人ノ兒
жи́дкій (59, 3) 流動ノ。稀淡ノ
жизнь 3, 生命。生活
жили́ще 住所
жило́й 人ノ住ミ居ル—ла́я ко́мната 人ノ住ミ居ル室
жи́рный 多脂ノ。肥タル
жи́тель 1, 住人
жилъ-былъ 昔話ノ句調(有タトサ)
жить (105, 76) 住ム。暮ス 116, IX, 1; 159, 12
житьё 生活。安生
жрать (105, 19) 食食ス
журна́лъ 雜誌。日誌 кла́ссный——教場簿
журча́ть (чу́, чи́шь) サラサラ流ル
журча́ніе 潺流
жукъ, жучёкъ 甲蟲

3.

за [121] 爲ニ。後ニ。外ニ。ニ付テ
заба́ва 娯樂—вный 面白キ
забавля́ть 1, —вить (влю, вишь) 娯マシム—ся 娯ム 159, 12
забира́ть 1, забра́ть (105, 16) 取集ル。取圍ム。前借スル—ся 入込ム——
заблуждаться 1, — луди́ться (жу́сь, дишься) 迷フ。路ニ迷フ
заболѣва́т 1, заболѣ́ть (112, 2) 病付ク。病ム
забо́ръ 塀。柵
забо́та 心配。掛念
забо́титься (чусь, тишься) 心配スル。配慮スル 126, II, 5
забрести́ (106, 15) 立寄ル
забры́згать, —гивать 1, 振掛ケル。洒ゲ
забыва́ть 1, забы́ть (99) 忘ル—ся 忘レ易クナル。已ヲ忘ル
забѣжа́ть (105, 71) 駈入ル。走込ム——впередъ 先廻リスル
завезти́ (106, 1), завози́ть (жу́, зишь) 運ヒ寄ル。運ヒ去ル
завести́ (106, 16), заводи́ть (жу́, дишь) 構設ス。引入ル——знако́мство 交ヲ結ブ——разгово́ръ 談話ヲ爲ス——часы́ 時計ヲ捲ク—ся хозя́йствомъ 家計ヲ處シ始メル
заве́денный 構設サレタル—деніе 舍。院
зави́дно 羨マシ
зави́довать (дую, дуешь) 羨ム。猜ム 157, 10
зави́дѣть (жу, дишь) 見掛ル。遙ニ見ル
за́висть 3, 猜忌。羨妬 117, 8—стливый 妬心アル
зави́сѣть (шу, сишь) 牽制ヲ受ク。依ル 116, VIII, 8
завладѣ́ть 1, 占有ス。領ス 159, 12
заводи́ть= =завести́
за́втра 明日

за́втракать 1, 朝食スル
за́втракъ 朝食
за́втрашній 明日ノ
завѣ́дываніе 治理。管理
завѣ́дывать (105, 22) 管理スル。治理スル 159, 12
завѣща́ть 1, 遺言スル。諭示スル
завѣща́ніе 遺言。遺訓
завяза́ть (жу́, жешь), —зывать 1, 結ブ。縛ル——знако́мство 交ヲ結ブ
завя́нуть (105, 51) 凋ミ始ム
загла́віе 標題。書名
загла́живать 1, —ла́дить (жу́, дишь) 撫フ。消ス。平滑ニス
загля́дывать 1, —ляну́ть (ну́, нёшь) 覗ク。窃視ス
загора́ть 1, —ре́ть 日ニ焼ケル —ся 焼ケ始ム。燃ヘカヽル
заграни́чный 外國ノ。境外ノ
загрязни́ть (ню́, ни́шь) 汚ス。泥ヲ付ス —ся 汚レル。泥ダラケニナル
задава́ть (даю́, даёшь), зада́ть (105, 95) 課ス。手附ヲ拂フ—— уро́къ 宿題ヲ課ス ——рабо́ту 事業ヲ命ス——вопро́съ 題ヲ與ヘル
зада́ча 課題。問題
задвига́ть 1, —ви́нуть (ну, нешь) 動カシ入ル。動カシ始ム
задéрживать 1, —жа́ть (жу́, жишь) 引留ム。延滞セシム
за́дній 背後ノ
задрожа́ть (жу́, жи́шь) 慄ヘル。振動スル
заду́мывать 1, заду́мать 1, 思立ツ。考出ス —ся 思案ニ沈ム 119, 2
заём (22, 5) 債。貸借
зажéчь (107, 2), зажига́ть 1, 點火スル。燃ス。放火ス
зажива́ть 1, зажи́ть (105, 76) 住始メル。癒ル——свои́мъ до́момъ 世帯ヲ持ツ——въ своё удово́льствіе 浪費スル ра́ны зажили́ 創痕癒ユ —ся 長ク住ム
зажито́й 勤上ケタル
заздра́вный 祝壽ノ
зазелене́ть 1, 緑色トナリ始ム
зайка (38) 吃
займствовать (ствую, ствуешь) 借ル。採用スル。模倣ス
зайти́ (106, 9), заходи́ть (жу́, дишь) 立寄ル。隆ニ隠ル。沒ス(太陽ノ)
зака́зъ 注文。誂
заказа́ть (жу́, жешь), —зывать 1, 誂ヘル
зака́пывать 1, зака́пать 1, 滴ス。汚ス
зака́пывать 1, закопа́ть 1, 埋ムル
заключа́ть 1, —чи́ть (чу́, чи́шь) 結ブ。禁錮ス。歸結ス —ся 結バル。閉居スル 124, II, 7
заков а́ть (кую́, куёшь), —ывать 1, 釘ジメニスル。鍛テ利得ス
заколыха́ться 1, 動搖シ始ム
зако́нный 正當ノ。正法ノ
зако́нъ 法律。法
закрича́ть (чу́, чи́шь) 叫フ。叫ヒ知ラセル
закрыва́ть 1, —крыть (105, 5) 掩フ。閉ツ
закупа́ть 1, —пи́ть (плю́, пишь) 買入ル。賄賂スル
закури́ть (рю́, ришь), —ривать 喫烟シ始ム
залива́ть 1, —лить (105, 66) 注ク。氾濫スル。溺ク
зали́въ 灣
залпъ 一齊射擊
залѣза́ть 1, —зть (106, 3) 攀上ル。這込ム
залѣ́чивать 1, —чи́ть (чу́, чишь) 療治スル
замерза́ть 1, —знуть (ну, нешь) 凍ヘル замёрзшая рѣка́ 氷河
за́мокъ 城。城閣
замо́къ 錠
заму́жняя же́нщина 嫁シタル婦人

замѣня́ть I, —ни́ть (ню́, нишь) 交換スル。取替ル

замѣ́тный 現然タル。目ニ着ク所ノ

замѣча́тельный 著ルシキ

замѣча́ть I, замѣ́тить (чу, тишь) 注目スル。認ル。告示ス

замѣша́тельство 擾亂。錯雜

занести́ (106, 4), запоси́ть (шу́, сишь) 序ニ持行ク。吹飛ス

занима́тельный (51, 7) 興味アル

занима́ть I, заня́ть (105, 1) 借用スル。占有スル。勤務スル。與ヲ添フ 116, IX, 6; —ся 勉强スル。習フ。從事スル 159, 12

заня́tie 學習。借用。占有。業務

запа́сь 貯蓄。預備 —про —豫備ノ爲ニ

запа́хнуть (ну, нешь) 香ヒ始メル

запере́ть (пру́, прёшь), запира́ть I 閉ス。塞ク 125, I, 17 —ся 閉サル

запеча́тать I, 押印ス。封印ス

запина́ться I, запну́ться (ну́сь, нёшься) 躓ク。語ノ澁ル

записа́ть (шу́, шешь), —сывать I, 記入ス。筆記ス —ся 入籍スル

запи́ска 書附。記認。手紙(短キ)

записна́я кни́жка 日記帳。手簿

запла́кать (чу, чешь) 泣始メル

заплати́ть (чу́, тишь) 拂フ 121, I, 7

запра́шивать I, запроси́ть (шу́, сишь) 掛直スル

запрета́ть I, —ти́ть (щу, тишь 105, 114) 禁ス 157, 10

запры́гать I, 跳始ム

запряга́ть I, запря́чь (107, 7) 馬ヲ駕スル 124, I, 12

запыла́ть I, 燃始ム

запыли́ть (лю́, ли́шь) 埃ニテ汚ス —ся 埃ニテ汚レル

зарабо́токъ (22, 1) 工錢。手間賃

зарабо́тывать I, —тать I, 稼ク。儲ケル

зарази́тельный (51, 7) 傳染ノ

заржа́вѣть I, 銹ル

зарыва́ть I, зары́ть (105, 8) 埋ムル

зарѣ́зать (жу, жешь), —зывать I, 屠ル。斬ル

заря́ 曉光 (複數ニテハ a ヲ o ニ變ス即チ зо́ри)

засверка́ть I, 閃キ始メル。光リ始メル

засвиста́ть (щу́, щешь) 口笛ヲ吹キ始ム。口笛ニテ惡評ス

засидѣ́ться (жу́сь, ди́шься), засиживаться I, 長坐スル

заслони́ть (ню́), —ня́ть I, 掩フ。遮ル

заслу́га 功績。功

заслу́живать I, —жи́ть (жу́, жишь) 適當スル。堪ユ 116, VIII, 8

заслы́шать (шу́, шишь) 聞及ブ。聞ツケル

засмѣя́ться (смѣю́сь, смѣёшься) 笑出ス

засну́ть (ну́, нёшь), засыпа́ть I, 就眠スル

засо́хнуть (ну, нешь), засыха́ть I, 乾燥スル。萎ビル

заспа́ться (105, 91) 寢過ゴス

заспо́рить (рю, ришь) 爭論シ始メル

заставля́ть (стаю́, стаёшь), заста́ть (105, 102) 出遇フ。遭遇スル

заста́вить (влю, вишь), заставля́ть I 爲シムル。要促スル

застила́ть I, засте́ла́ть (105, 14) 敷キ掩フ

застрѣли́ть (лю́, лишь) 射殺ス —ся 自殺(銃ニテ)ス

заступа́ться I, —пи́ться (плю́сь, пишься) 保護スル。身代リスル 121, I, 8

застѣ́нчивый 臆シタル。氣遣ナル。臆シ性ノ

за́суха 旱魃

засыпа́ть = заснуть

засы́пать (плю, плешь) 撒布スル。埋メル

засыха́ть = засо́хнуть

засѣва́ть I, засѣ́ять (сѣ́ю, сѣ́ешь) 蒔始メル

затворя́ть I, —ри́ть (рю, ришь) 閉ル。塞ク

затере́ть (тру́, трёшь), затира́ть I, 拭ヒ付ケル。阻滯スル

затéривать 1, ▬ря́ть 1, 失フ。遺失スル
затмѣвáть (105, 43), затми́ть (млю́, ми́шь) 暗クス。隱ス。曇ラス
затó ソノ代リ
затруднéніе 困難▬дни́тельный (51, 7) 困難ナル
затѣвáть 1, ▬тѣ́ять (тѣ́ю, тѣ́ешь) 企ツ。謀ル
затѣ́мъ 其後 вслѣдъ——ソレニ次テ——что 如何トナレハ——, чтобы……タラン爲ニ
заýчивать 1, чи́ть (чý, чи́шь) 學ブ
захворáть 1, 病始メル
захлóпать 1, 拍チ始ム▬пнуть (ну, нешь) 煽リ打ツ
заходи́ть=заити́
захóдъ 日沒。便所
захотѣ́ть (105, 104) 欲シ始メル
зачерпнýть (нý, нёшь), ▬пывать 1, 汲ム
зачѣмъ 何ノ爲ニ。何故ニ
защи́та 防禦。保護
заѣзжáть 1, заѣ́хать (105, 61) 乘寄ル。乘廻ル
заяви́ть (влю́, ви́шь), ▬вля́ть 1, 届ケル。告ク
зáяцъ (22, 5) 兎
звáніе 身分。呼稱
звать (105, 83) 名ツク。呼ブ。招ク 159, 12▬ся 名ツケラル
звенó (24, 2) 連環
звенѣ́ть (ню́, ни́шь) 鳴ル。響ク
звони́ть, по——(ню́, нишь) 鳴ラス。鳴鐘ス 124, I, 12
звóнкій 高音ノ▬кая пѣ́сня 朗聲ノ歌
звонóкъ (22, 1) 鈴
звонъ 響音。鐘鳴
звукъ 音。響
звѣздá (30, 5 備考 2) 星。星形勳章
звѣри́ный 野獸ノ
звѣрь 1, 野獸 ди́кій——猛獸
здáніе 建物。家屋
здорóваться (105, 44) 健康ノ挨拶ヲ爲ス 128, III, 4
здорóвый 健康ナル。强壯ナル
здорóвье 健康
здрáвствовать (ствую, ствуешь) 壯健ニ暮ス здрáвствуйте 迎接ノ辭(今日ハ)
здѣсь 此處ニ於テ
здѣ́шній 此處ノ。當地ノ
зелёный 綠色ノ。不熟ノ
зéлень 3, 野菜。綠色
зеленѣ́ть 1, 綠色ヲ帶ブ
земледѣ́лецъ (22, 2) 農夫
земледѣ́ліе 農業
землетрясéніе 地震
земля́ 地。地球。土
земля́къ 同鄕人。同國人 земля́чка 同鄕ノ女。同國ノ女
зéркало 鏡
зернó 粒 зёрнышко 小粒
зимá 冬 зимóю 冬ニ於テ
зи́мній 冬ノ
зія́ть (105, 34) 口ヲ開ク
зло 惡。凶惡
злóба 憎惡。害心
злодѣ́й 惡徒
злой (52, 3) 惡心ナル。不良ナル
змѣя́ 蛇 ядови́тая——毒蛇
змѣй 紙鳶
знакóмецъ (22, 1) 知人
знакóмить (млю, мишь) 知己ニス。引合ス▬ся 知己トナル
знакóмство 知リ合ヒ вести́——交際ヲ結フ
знакóмый 知己。面識アル
знакъ 記號。信號
знамени́тость 3, 有名。貴顯
знамени́тый 有名ナル 159, 5
знáмя (53, 3) 軍旗。符記
знáніе 知識
знáтный 有名ナル。高貴ナル 159, 5

знато́къ 通達者。識者 124, II, 6
знать 3, 貴顯
знать 1, 知ル
значи́тельный 廣大ナル。著シキ—но 大ニ
зна́чить (чу, чишь) 意ヲ示ス что зна́читъ ～ハ即 э́то зна́читъ 是レ即。其意ハ
зной 炎熱
зовъ 招請
зо́лото 黄金—то́й 黄金ノ。金貨。金製ノ
зонтъ, зо́нтикъ 傘,——отъ со́лнца, 日傘 ——отъ дожда́ 雨傘
зо́ркій 鋭眼ノ——глазъ 炯眼
зри́тель 1, 見物人
зре́лище 觀物。奇觀
зре́лый 成熟ノ—лые го́ды 壯年
зре́ніе 視力。着眼
зре́ть 1, созре́вать 1, 熟スル。成熟スル
зре́ть (105, 30) 見ル
зубъ (24, 4) 齒
зя́бнуть (ну, нешь) 凍ヘル
зять (24, 2) 婿。妹妹ノ夫

И.

и 及。而シテ。且ツ
игла́, иго́лка 針。刺
игра́ 遊戯 124, I, 12; 128, III, 3
игра́ть 1, 遊戯スル。演スル。現ハル 124, I, 12; 128, III, 3
игро́къ 賭博者。奏演者
игру́шка 玩弄物
идеа́лъ 理想
идти́, итти́ (106, 8), ходи́ть (жу́, дишь) 108, 3 行ク。歩ム。進ム дождь идётъ 雨降ル часы́ иду́тъ 時計ハ進動ス вре́мя идётъ 時ハ立ツ ему идётъ 5-й годъ 彼ノ年ハ五才ナリ на пла́тье идётъ 5 арши́нъ 衣ノ爲ニハ五アルシンヲ要ス шля́па идётъ къ нему́ 帽子ハ適合スル онъ идётъ въ солда́ты 彼ハ兵隊ニ入ル
изба́ (30, 5 2) 農民ノ家屋。小屋
избавля́ть 1, изба́вить (влю, вишь) 救フ。免ス—ся 免カル。脱スル 116, VIII, 9
избѣга́ть 1, избѣжа́ть (105, 71) 避ク。遁カル
извине́ніе 謝罪。宥免
извиня́ть 1,—ни́ть (ню, ни́шь) 宥免スル —ся 124, II, 7
изво́льте 何々シ賜ヘ(副詞ノ體)。許諾ノ意
изво́щикъ 辻馬車夫
изве́стіе 報知。消息
изве́стный 名高キ。知レ居ル 159, 5
извѣсти́ть (щу́, сти́шь), извѣща́ть 1, 報知スル。通知ス
издава́ть (даю́, даёшь),—дать (105, 95) 出版ス。發ス(音ヲ)
издалёка 遠方ヨリ
и́здали 遙カニ。遠ク
издержа́ть (жу́, жишь),—живать 1, 費ス。用フ—ся 消費スル
изде́ржка 費用—ки 浪費
издо́хнуть (ну, нешь), издыха́ть 1, 呼吸ヲ引キ取ル。死ス
издѣва́ться 1, 嘲笑ス。愚弄ス 119, 3
издѣ́лiе 細工。作品
измѣни́ть (ню́, нишь),—ня́ть 1, 變スル。變心スル 157, 10—ся 變ハル
измѣ́рить (рю, ришь),—ря́ть 1, 測ル。量ル
изна́шивать, износи́ть (шу́, сишь) 着破ル—ся 着壞ブル
изоби́ловать (лую, луешь) 豐富ス 159, 12
изоби́льный (51, 7) 豐富ナル 159, 5
изобража́ть 1,—зи́ть (жу, зишь) 象ドル。描寫ス
изобрѣта́ть 1, 發明スル
изодра́ть (105, 18), издира́ть 1, 破リ裂ク
изостри́ть (105, 70) 鋭利ニス
изрека́ть 1, изречь (107, 11) 發言ス
и́зстари 昔時ヨリ。古來

изумлёніе 奇異ノ感。驚駭
изумля́ть 1, изуми́ть (млю́, ми́шь) 驚カス。異トセシム—ся 仰天スル 157, 10
изуро́довать (дую, дуешь) 不具ニスル
изуча́ть 1,—чивать,—чи́ть (чу́, чишь) 研究スル。學ビ通ス
изъ, изо 116, V ヨリ。内ヨリ
изъ-за 116, VI 後ロヨリ。陰ヨリ。ノ爲ニ
изъ-подъ 116, VII 下ヨリ
изъѣ́здить (жу, дишь) 乘廻ル
и́ли, или́ 或ハ。即チ
иллюмино́вать (ну́ю, ну́ешь) 華燈ヲ點ス —нація 華燈。彩火
именѝнникъ, имянѝнникъ 名附日祝ノ當ル人—ница 同ク女
именѝны (нъ), имянѝны 名附日祝
и́менно 即チ。指名スレバ。枚擧スレバ
именно́й 名アル。勅與ノ
именова́ть (ну́ю, ну́ешь) 稱ス。名ツク—ся 名ケラル
импера́торъ 皇帝—трѝца 皇后
имперія 帝國
иму́щество 財産。什物
имѣ́ніе 所有地。財産。家什
имѣ́ть 1, (104, I, 7) 所有ス。持ツ——слу́чай 場合ヲ得ル—ся 有ル。存ス。持合ハス
и́мя 名 (33, 2) по и́мени 其名ハ
индѣ́йскій 印度ノ
инко́гнито 微行シテ。變名ニテ
иногда́ 時トシテ
ино́й 別ノ。他ノ。外ノ
иностра́нецъ (22, 1) 外國人—нный 外國ノ
институ́тъ 寄宿舍ヲ有スル女子中學。專門學科ノ男子高等學校
интере́съ 興味。利益—сный 興味アル。利益アル
иска́ть (ищу́, ищешь) 尋ヌル。請求スル 151, III, 4
исключе́ніе 除外。例外 за исключе́ніемъ 除ケノ外
и́скренній 誠實ナル。信ナル
и́скренность 3, 誠實。衷情
иску́сный 巧ナル。上手ナル 124, II, 6
иску́ство (24, 16) 巧妙。術
искъ 告訴。起訴 суде́бный——起訴
исповѣ́дывать (105, 23) 信教ス—ся 信仰ヲ告白ス。懺悔式ヲ行フ
испо́лнить (ню, нишь),—ня́ть 1, 實行スル。成シ遂ク—неніе 實行
испо́ртить (чу, тишь) 害スル。腐敗サス—ся 傷ツク。腐敗ス
испро́бовать (бую, буешь) 試ム。驗ス
испуга́ть 1, 驚カス—ся 驚ク 156, VIII
испу́гъ 驚駭
испы́тывать 1,—та́ть 1, 試ム。驗メス
истере́ться (изотру́сь, изотрёшься), истира́ться 1, 摩滅ス。摩耗ス
исте́цъ (22, I 備考 2) 原告人
истече́ніе 流出。經過 по истече́ніи 經過後
истлѣ́вать 1,—ле́ть (ле́ю, ле́ешь 104, I, 7) 腐敗スル
истоло́чь (108, 14) 細末ニ搗キ碎ク 124, I, 11
исто́чникъ 泉。本源
истра́чивать 1,—ра́тить (чу, тишь) 費ス—ся 費シ盡ス
истребля́ть 1,—би́ть (блю́, би́шь) 滅ス—ся 滅亡スル。絶亡スル
исходи́ть (жу́, дишь) 步キ廻ル。步キ盡クス
исхуда́лый 痩セタル
ита́къ 故ニ。是ヲ以テ и такъ
ито́го 合計

I.

Іису́съ (23, 6) 耶蘇
і́юнь 六月—скій 六月ノ
і́юль 七月—скій 七月ノ

К.

ка (俗語) 請求ノ語尾 93, II, 5

кабине́тъ 書斎。内閣。研究室(學術ノ)

каде́тъ (24, 14)—тскій ко́рпусъ 幼年學校。幼年學校生徒

ка́ждый (67, 5) 每ノ。銘々

каза́къ 屯田兵 каза́цкій 屯田兵ノ

каза́ться, по—(жу́сь, жешься) 見ユル 146, II; 159, 12 ка́жется 多分。思フニ

казённый 官ノ。政府ノ

како́й 如何ナル——нибу́дь, ——то, ——либо 如何ナルカ каки́мъ нибу́дь о́бразомъ 如何ニカシテ

какъ 如何ニ。如ク——бу́дто, ——бу́дто бы 恰モ。サモ然ルカ如ク——бы то ни было 何ハ兎モアレ——то́лько 直チニ。ヤ否ヤ——то 何ダカ——же 如何シテ такъ——нельзя ニ——разъ 恰度。スッカリ

каланча́ (30, 8) 火見櫓

кали́фъ 回教國侯

кале́ка (38) 不具。癈人

ка́менный 石ノ。石造ノ

ка́мень (24, 2) 石—ни́стый (52, 2) 石多キ

ками́нъ 煖爐(開閉ノ戸ナキ)

кампа́нія 戰役

камы́шъ 蘆

кани́кулы (лъ) (37, I, 2) 暑中休暇。定期休暇(學校ノ)

канцеля́рія 事務局

ка́пать (плю, плешь), ка́пнуть (ну, нешь) 滴タル。漏ル

капита́лъ 資本

капита́нъ 艦長。海軍佐官。陸軍大尉——парохо́да 船長—скій 艦長ノ

ка́пля 一滴。點滴

карава́нъ 商隊

каранда́шъ 鉛筆

карау́лъ 番守。衛戍。警衛

каре́та 箱馬車

карма́нный 懐中ノ。衣嚢ノ—ная кни́жка 懐中日記

карма́нъ 衣嚢

ка́рта (30, 5, 2) 骨牌。地圖。紙牌

карти́на 繪畫

карто́фель 1, 馬鈴薯

ка́рточка 小札——визи́тная 名刺——фотографи́ческая 寫眞

каса́тельно ニ關シテ。ニ就テ 132, 1

каса́ться——косну́ться

ката́ть 1, 運ブ。運ハシ動カス—ся 乘リ行ク——въ экипа́жѣ 車ニテ乘行ク——верхо́мъ 馬ニテ乘行ク——въ ло́дкѣ 小舟ニ乘泛ブ

кати́ть (чу́, тишь) 運ブ。滑リ行ク—ся 注流スル

качать 1, 搖ス—ся 搖レル(ブランコ等ニテ)

ка́ша 粥。炊キタル穀物

ка́шель (22, 1) 咳

ка́ю́та 船室

ка́яться, по—(юсь, ешься) 悔悟スル 124, II, 7

квадра́тный 平方ノ。方形ノ

кварти́ра 借家。寓舍(一家屋ノ内ニ多數ノ借家アリ)—глáвная 大本營

квартира́нтъ 借家人。同居人

кварти́рный 寓舍ノ—ная хозя́йка 寄宿所ノ主婦

квартирова́ть (ру́ю, ру́ешь) 宿ト ル

керосúнъ 石油

кива́ть 1,—ну́ть (ну́, нёшь) 肯首スル。頭ヲ下ニ振ル

кида́ть 1, ки́нуть (ну, нешь) 投ゲル。抛ル—ся 投入スル。向ヒ進ム

кипе́ть (плю́, пи́шь) 沸騰スル。激スル

кириги́чъ 煉化石

ки́слый 酸キ

кисть 3, (ки́сточка) 手クビ。房(組ノ)。葡萄ノ房。毛筆

кладби́ще 墓地。墳塋

кладъ 埋置キタル財寶。堀出シ物

кладь 3, 積荷。一本橋(材木ノ)

кла́няться 1, поклони́ться (нюсь, нишься) 拜スル。辭儀スル 157, 10

классѝческій 古典ノ(希臘羅馬ノ)。模範的
ノ—ская гимна́зія 高等中學(古典ヲ敎授スル)
кла́сный 敎場ノ。級ノ
классъ 敎場。學級。等級。類
класть (106, 18), положи́ть (жу́, жишь) 109, III 置ク。生ム(卵ヲ)
клева́ть (лю́ю, лю́ешь) 啄ム
клевета́ 讒誣
клевета́ть (105, 106) 讒言スル
клейми́ть (105, 90) 品物ニ印ス。入墨ス
кле́ить (е́ю, е́ишь) 貼着ケル(膠糊ニテ)
клешня́ (30, 7) 鋏(蟹等ノ)
кли́мать 氣候
клокъ (24, 2) 束。片
клони́ться (нюсь, нишься) 傾向ス 117, 6
клубъ 毬。俱樂部
клыкъ 牙
кле́тка 鳥籠。格子縞。檻
ключъ 鍵。泉
клясть (106, 32) 呪詛ス—ся 誓フ 157, 10
кля́тва 誓
кля́узничать 1, 詭策ヲ用フ
кни́га 書籍。卷
книгопеча́таніе 印刷
кни́жка 小本 записна́я——手簿
кнутъ 鞭。刑杖
князь 1, 公爵 вели́кій——大公(皇族)
когда́ ノ時。イツ——нибудь,——либо イツカ——ни есть イツデモ——то イツダカ
ко́готь (22, 1) 爪(鳥獸ノ)
ко́е-какъ ドウカコウカ。粗雜ニ
ко́жа 皮。革。皮膚
коза́ 牝山羊—зій (ье, ья) 牝山羊ノ
ко́косъ 椰子—совый 椰子ノ
колеба́ть (105, 79) 動搖サスル。躊躇サスル—ся 動搖スル。躊躇スル
колесо́ 輪。車—сни́ца 王侯ノ車
колле́гія 官省。結社。學校
ко́локолъ (24, 1) 鐘 колоко́льчикъ 鈴
колоко́льня (30, 6) 鐘樓
ко́лосъ (24, 2) 穗
колоти́ть (чу́, тишь) 敲ク。打ツ
коло́ть (лю, лешь) 刺ス。碎キ割ル
колъ (24, 2) 杙
колыбе́ль 3, —бе́лька 搖籃
коле́но (24, 4) 膝。節。族 стать, пасть на коле́ни 跪ク
кома́нда 指揮。號令。組—ди́ръ 隊長。指揮官。艦長
кома́ндовать (дую, дуешь) 指揮ス。號令ス 159, 12
комендантъ 要塞司令長官
ко́мната 室
конво́й 護送
конво́йный 護送兵。護送ノ
коне́цъ (22, 1) 終。端
коне́чно 固ヨリ。勿論
коне́чный 端ノ。最後ノ
конокра́дъ 馬盜人
ко́нсульство (24, 16) 領事館
ко́нсулъ 領事
конфе́кты(ъ) 菓子
концертъ 音樂會
конча́ть 1, —чить (чу, чишь) 終ル。果ス
ко́нчикъ 終端
конь 1, 馬
конькѝ (ко́въ) 氷滑ノ靴
конюшня 厩
копа́ть 1, 堀ル
копьё 鎗。矛
копе́йка (30, 5) 銅貨ノ名(ルーブリノ百分ノ一、我七厘五毛)
кора́бль 1, 大船。三檣ノ商船—бе́щикъ 船主
ко́рень (24, 4) 根。根元
корзи́на, —нка 籃
ко́рка (ко́рочка) 皮(果實ノ)。栓
кормѝлецъ (22, 2) 傅。養育者。恩者—лица 乳母
кормѝть (млю́ мишь) 飼フ。育ル—ся 活計ヲ立ル
коро́бка, —бочка 箱。行李(木竹ニテ編タル)

корóва 牝牛—вій (ье, ья) 牝牛ノ
коротків (59, 3) 短キ。短縮ノ
кóрочка, кóрка 皮(果實ノ)。栓
кóрпусъ 軍團。海陸兵學校
корыстолю́біе 貪慾
коси́ть (шу́, сишь) 刈ル。斜ニスル
коснýться (нýсь, нёпься), каса́ться 1, 觸レル。關スル。論及スル 116, IV, 9
косóй 斜ナル。ヤブニラミ
кóсточка 核
костыль 1, 挺杖
кость 3, 骨
костю́мъ 衣服
котёлъ (22, 1) 釜
котóрый 何レノ。ктó-нибудь 何レナリトモ
котъ 牡猫 кóшка 牝猫 котёнокъ (24,-8) 猫ノ兒
кóфе (35, 3), кóфей 珈琲
кофе́йня (30, 6) 珈琲店
кочáнъ (24, 2) 玉菜ノ頭
кошáчій, (чье, чья) 猫ノ—чьи пріёмы 猫ノ素振
кошелёкъ (22, 2) 錢入嚢
край (24,1) 端。緣。國。地方
крáйній 端ノ。極微ノ—не 至テ。極テ по крáйней мéрѣ 少クトモ
краси́вый 美ナル。佳ナル。美貌ナル
крáсить (шу, сить) 染メル。着色スル
крáска 染料
красновáтый 赤ミカヽリタル
красный (59, 2) 赤キ 159, 5
краснéть 1,-赤面スル
красовáться (сýюсь, сýешься) 美ヲ誇ル
красотá 美麗。艶色
красть, у—(106, 19) 盜ム 116, IX, 6
крáткій 短キ。簡單ノ—ко 簡單ニ。約略シテ
крáткость 3, 簡單。略
крéйсеръ (24, 1) 巡洋艦
крéсла (37, II, 1) (多クハ複數ヲ用ヰ) 安樂椅子
крестúть (щý, стишь) 洗禮ヲ授ク—ся 洗禮ヲ受ク
крести́ны(нъ) 洗禮式。洗禮祝宴
крéстникъ 代子(洗禮ノ子)
крестъ 十字架 крáсный—赤十字社
крестья́нинъ (24. 6) 農民—нка 農婦
крещéніе 洗禮
крúкнуть (ну, нешь), кричáть (чу, чúшь) 叫ブ。喚ク
кровáвый 流血ノ。血塗レノ
кровáть 3,—тка 寢臺
крóвля 屋根
кровь 3, 血。血液。血統
кроúть (105, 64), крáивать 1, 裁ツ。前裁スル
крóмѣ 其外
крóткій 柔和ナル。溫厚ナル 159, 5
крóтость 3, 溫柔
крýглый 圓ナル。全キ
кругóмъ 廻リテ。周圍ヲ。丸ルデ(悉ク)
кругъ 圓形。團體。社會
крýжка 椀。木鉢。賽錢函
крýпный 大ナル。太キ。巨ナル
крути́ть (чý, тишь) 堅ク撚ル。旋回セシム。—ся 撚レル。旋回ス
крутóй (59, 5, 3) 嶮阻ナル。峻嚴ナル 159, 5
крылó (24, 2) 翼
крыльцó (17, 4) 入口ノ段(玄關敷臺ニ相當ス)
крыть (105, 5) 覆フ。被セル
кры́ша 屋根
крéпкій (59, 3) 堅固ナル。強壯ナル。159, 5
крéпостнóй 城ノ——человéкъ 移住權ナキ農民(奴隸)
крéпость 3, 城。砲臺。堅牢。要塞
кстáти 序ニ
кто 誰——нибýдь, (либо),——то 誰レシカ кто-то другóй 誰レシカ外ノ者
кувы́ркаться 1,—кнýться (нýсь, нёшься) 筋斗スル。顚倒スル

куда́ 何所ヘ向テ
кузне́цъ 鍛冶職
ку́кла 人形 игра́ть въ ку́клы 人形ヲ弄ブ
кумъ (24, 2) 代父 (洗禮ノ父), кума́ 代母
купа́нье 沐浴
купа́ться 1 沐浴スル
купе́цъ (22, 1) 商人—пе́ческій 商人ノ—чество 商人社會
купи́ть (плю́, пить)＝покупа́ть 1, 買フ
кури́льный 喫烟ノ
кури́ть (рю́, рить) 薫ラス。炷ク—таба́къ 喫煙スル
ку́рица, ку́ры (30, 4) 牝鶏。鶏
куро́къ (22, 1) 引金 (銃ノ)。車ノ軸
курсъ 相場。學科。學級。航路
куртка 粗ナル短衣
курье́ръ 急使。別仕立飛脚
куса́ть 1, 咬ム。刺ス (虫ノ)—ся 咬合フ。相罵ル
кусо́къ (22, 1) 塊。片。分碎
кустъ 灌木ノ叢
ку́хня (30, 6) 厨房。竈所
ку́ча 堆積。群集
ку́черъ (24, 1) 馭者
ку́шанье (24, 15) 食事。食物
ку́шать 1, 飲食スル(敬語ニシテ「召シ上ル」ト同シ)
къ, ко 117 ニ向テ。ヲ指シテ

Л.

ла́ва 浴石
ла́вка,—вочка 店舗。腰掛臺
ла́дно 和合シテ。睦シク。可ナリ
ладо́нь 手掌 бить въ —ни 拍掌ス
лазаре́тъ 病舍(兵營ノ)
ла́зить (жу, зишь), лѣзть (106, 3) 108, 3 攀上ル。這入ル
лай 吠聲 (犬ノ)
лаке́й 室僕。給仕
ла́комиться (млюсь, мишься) 美食スル。甘味ヲ用フル
ла́мпа ランプ
ла́па,—пка 掌 (熊等ノ)。水掻 (水鳥ノ)
ла́ска 撫愛。寵愛
ласка́ть 1 撫愛スル—ся 媚ル。嬉レシガル 117, 6
ла́сковый 懇篤ナル—во 懇篤ニ。丁寧ニ。優渥ニ。懃カシク
ла́комка (38) 美食者。下戸
ла́комый 好味ノ。美味ナル
ла́ять (а́ю, а́ешь) 吠ル
лга́ть (105, 58) 虚言スル。詐ル
лгунъ, —нья 虚言者。浮詐人
ле́бедь 1, 白鳥。鵠—ди́ный 白鳥ノ
левъ (22, 3) 獅子 льви́ца 牝獅 львёнокъ (24, 9) 獅兒
лёгкій (59, 3) 輕キ。易キ。輕佻ナル—ко容易ニ。微ニ—кое (41, II, 3) 肺
легкомы́сленный 輕率ナル。輕浮ナル
лёгкость 3, 輕易。輕便。輕浮
лёдъ (22, 3) 氷, ледяно́й 氷ノ
лежа́ть (жу́, жи́шь) 横ハル。臥ス
лейбъ-гва́рдія 親衛隊
лека́рство (24, 16) (лѣка́рство) 藥
ле́карь (лѣкарь) (24, 1) 醫者
ле́нта 綬 (勲章ノ)。細長キ片布
лёнъ (22, 3) 亞麻
лета́ть 1, лете́ть (чу́, ти́шь) 108, 3 飛ブ。翔ル
лечи́ть (лѣчи́ть) (чу́, чишь) 癒治ス—ся 服藥ス。治癒ヲ受ク
лечь (106, 3), ложи́ться (жу́сь, жи́шься) 臥ス。横ハル
лжецъ 虚言者。詐人
лжи́вый 偽ニ傾キタル。偽ラシキ
ли 乎 (疑問辭)。トモ。若シクハ
ли́бо 或ハ。若シクハ
лиза́ть (жу́, жешь) 舐ル
лимо́нъ レモン (熱帶ノ柚)
лине́йка (30, 5) 定規 (尺度)。長キ馬車

лине́йка 線。區界
лисица, лиса́ 狐
листъ (24, 4) 葉。枚
лить (105, 66) 注ク。鑄ル。淋タル—ся 流ル。鑄造サル
лихора́дка 瘧。輕熱症
лихора́дочный 瘧氣ノ
лицо́ (лице́) 顔。面相。前面。人。на—— 自前ニ。自身ニ это было бы къ лицу мнѣ コレハ我身ニ適スナラン
лицо́мъ 自身ニ。自ラ
ли́чный 自身ノ
лиша́ть 1,—ши́ть (шу́, ши́шь) 剝ク。取上ル 156, VIII—ся 失フ。剝奪サル
ли́шній 除分ノ。不用ノ
лишь 唯。バカリ——то́лько 何ヲスルヤ否ヤ
лобъ (22, 1) 額
лови́ть (влю́, вишь), пойма́ть 1, (109, III) 捕フ。獵スル。捕獲スル
ло́вкій (59, 3) 巧手ナル。敏ナル—ко 巧ミニ。敏捷ニ
ло́вкость ȝ, 技巧。敏捷
ло́вля 捕獵
ло́дка 輕舟。艀
ло́жа 棧敷。寢床
ложи́ться——лечь
ло́жка, ло́жечка 匙
ложь (32, 2) 虛僞
лока́ть 1, 舐メ飮ム
ло́коть (22, 1) 肘。肘ヨリ中指端マデノ長サ
лома́ть 1, 挫ク。毀ツ—ся 折レル。破レル
ло́пать 1, 破裂ス。斷レル—пнуть (ну, нешь)—ся 自ラ破裂ス
лоску́ть (24, 2) 片布
ло́цманъ 水先人
ло́шадь ȝ, 馬
лугъ (24, 1) 牧草場
лу́жа 雨水溜。潴
лужа́йка (30, 5) 林中ノ草地
луна́ 月。太陰
лу́чше (хоро́шій ノ比較級)
луч 光線
лы́сый (59, 5, 2) 禿タル
львёнокъ——левъ 獅子ノ兒
льнуть (105, 52) 粘着ス
льстить (щу, сти́шь) 諛フ。媚フ 157, 10
лѣва́ (38) 左利
лѣ́вый 左ノ
лѣзть——ла́зить
лѣни́вый 懶惰ナル。遲鈍ナル
лѣни́ться (нюсь, нишься) 怠タル
лѣ́ность ȝ, 懶惰
лѣнтя́й 懶惰者
лѣнь ȝ. 怠惰心
лѣстница 梯子。階梯
лѣсъ (24, 1) 林。材木
лѣ́тній 夏ノ
лѣто 夏。年 лѣтомъ 夏ニ於テ
любе́зность ȝ, 深切。好意
любе́зный 愛スベキ。可愛ラシキ
люби́мецъ (22, 1) 寵人。嬖人
люби́тель 1. 好者。樂ム者 (藝或ハ物品ヲ)
люби́ть (блю́, бишь) 愛ス。好ム 121, I, 10
любова́ться (бу́юсь, бу́ешься) 樂ム。眺メ樂ム 159, 12
любо́вь (32, 2) 愛。戀愛 117, 7
любопы́тный 好事的ノ。珍ラシキ。好事家
любопы́тство 好事心。好奇心
лю́ди (24, 11, 12) 奉公人

M.

магази́нъ 店。倉庫
май 五月—скій 五月ノ
майо́ръ, маіо́ръ, 陸軍少佐 генералъ—— 陸軍少將
ма́ло 少シク——по ма́лу 次第ニ。漸ク——того́ 而已ナラズ。加之
малолѣ́тній 年少ノ。幼稚ノ
малоспосо́бный 短才ナル。鈍キ

ма́лый (59, 2), ма́ленькій 小ナル 159, 5
ма́льчикъ,—чи́шка,—чуга́нъ 童子。男兒
малю́тка (38) 小童
ма́ма, ма́менька, мама́ша 母上。阿母
мара́ть 1, 汚點スル。汚辱スル
ма́рка (30, 5) 標。印紙 почто́вая—— 郵便切手
марсъ 櫓樓。軍神。火星
мартъ 三月—товскій 三月ノ
ма́сло 油 коро́вье—— 牛酪
ма́сса 衆庶。體積。多數
мастеро́вой (41, II, 3) 職工
мастерска́я (41, II, 3) 作工場。工場
мастерство́ 職工業
ма́стеръ (24, 1) 工手職人。巧手
матери́я 物質。物體。織物 шёлковая—— 絹布
материнскій 母タルノ
матро́съ 水夫。水兵
мать (32, 1), ма́тушка 母
маха́ть (113, 2) 振ル。振リ廻ハス
маши́на 機械。機關 шве́йная—— 縫機械(ミシン)
мгнове́ніе 瞬間
медве́дь 1, 熊
ме́дленный (52, 3) 遲キ。緩慢ナル
медли́тельность 3, 遲滯。因循
мёдъ 蜜
ме́жду 132, 5 間ニ。際ニ——тѣмъ 其間ニ。然ズル間ニ——прочимъ 就中——собою 相互ニ
ме́лкій (59, 3) 細小ナル。微々タル
ме́лочный 瑣細ナルナ。細小ル——человѣкъ 小心者。勘定細キ者——ная торго́вля 小商買。一文商買—ныя де́ньги 小錢
мель 3, 洲。淺瀨
мелька́ть 1,—кнуть (ну́, нёшь), チラツク。閃ク
ме́льникъ 水車屋ノ主人
ме́льница 水車。風車(粉挽ノ)
меньшинство́ 少數 147, 8
ме́ньшій,—шо́й (ма́лый ノ比較級) 下ナルモノ
не ме́нѣе ニモ拘ラズ。然レトモ
ме́рзкій (59, 3) 穢ラハシキ。厭惡ナル
мертве́цъ (22, 1 備考 1) 死人
мёртвый 死シタル
мести́, месть (106, 25) 掃ク。拂フ
месть 3, 報讐。復仇
мета́ллъ 金屬
мечта́ 空想。妄想
мечта́ть 1, 空想スル。妄想スル
мигъ 瞬間
милліо́нъ 百萬
милосе́рдіе 慈惠。慈悲 сестра́ милосе́рдія 慈惠姉妹
милосе́рдый 慈憐ナル。惠深キ
ми́лостивый 仁恕ナル——госуда́рь 誰君貴下
ми́лостыня 施物。惠品與
ми́лость 3, 恩惠。仁慈
ми́лый 可愛ラシキ。懷カシキ 157, 9
ми́ля 里程ノ名(我六十八町餘)
ми́мо 經テ。側ニ沿テ—хо́домъ 序ノ折
минера́льный 鑛物ノ—ная вода́ 鑛泉
министе́рство (24, 16) 省
мини́стръ 大臣(國務)。大使
мину́та,—тка 一分間 на мину́тку 小時(シバシ)
мири́ть (рю́, ри́шь) 和睦サスル—ся 和睦スル
ми́рный 平安ナル。平和ノ—но 平和ニ。和合シテ—
миръ 平和。和睦
ми́чманъ 海軍少尉
міръ 世界。農民組合
младе́нецъ (22, 1) 嬰兒。孩提
мла́дшій (молодо́й ノ比較級)——братъ 弟
мно́гое (68, 2) 多ノ。衆 во мно́гихъ слу́чаяхъ 屢々。多クノ場合ニ於テ
мно́го 多ク。多分ニ
многолю́дный 多人數ノ。雜沓ノ

многочи́сленный 多數ノ
мно́жество 夥多。大數 мно́гое ...大多數
мнѣ́ніе 說。意見
моги́ла 墳墓。塋穴
могу́чій 威勢アル。能力アル
могу́щественный 權力アル。強キ
мо́да 流行。時樣
мо́жно 能フ。出來ル какъ——出來ルダケ
мой (63) 我ノ
мо́крый (52, 2) 濕タル。濕氣アル
молва́ 風評。噂
моли́тва 祈禱 117, 8
моли́ть (лю́, лишь) 祈ル。祈願スル—ся 祈禱スル 121, I, 8; 126, II 5; 157, 10
мо́лнія 電
молодёжь 3, 若輩。青年
молоде́ць (22, 1) 勇壯者。豪氣。アッパレ
молоде́цкій 豪氣ナル。勇壯ナル
молодо́й (59, 3, 1) 若キ。年少ナル
мо́лодость 3, 少年期。青年期
молоко́ 乳
мо́лотъ,—то́къ (22, 1) 槌
моло́ть (105, 50) 碾ク
молчали́вый 沈默ナル。無言ナル
молча́ніе 沈默。無言
молча́ть (чу́, чи́шь) 默ル。靜マル(口ノ)
монасты́рь 1, 修道院。精舍
мона́хъ 獨身僧
моне́та 貨幣
мо́ре 海
мореплава́ніе 航海
морко́вь 3, 胡蘿蔔
моровы́е поветрі́е 傳染病。流行病
моро́зить (жу, зишь) 凍ラス。寒ニ露ラス 148, I
моро́зный 嚴寒ノ
моро́зъ 嚴寒。水點以下ノ寒氣
моросѝть (сѝтъ, сѝло) 細ク降ル(雨ノ)
морско́й 海ノ。海軍ノ
моря́къ 海員。航海者。海軍ノ人
мостъ,—тикъ 橋。棧板
мота́ть I, 浪費スル。搖ル。捲ク
мотовство́ 放蕩。荒亡 —
мотъ 浪費者
мохна́тый 腥毛アル
мо́шка 蚋。蜉蝣
мочь (107, 4) 能フ。出來ル мо́жетъ быть 多分。大方
мра́моръ 大理石—ный 大理石ノ
мра́чный 闇昧ノ。酸澁ノ。陰鬱ノ
мсти́ть, ото—(мщу́, мсти́шь) 復讐スル。怨ヲ報ス 121, I, 10; 157, 10
мудре́цъ (22, I 備考 1) 賢哲者。大賢
му́дрость 3, 聰明。賢明
мудрый 賢明ナル—рёный 難解ナル。巧智ヲ要スル
му́жественный 勇敢ナル—ство 勇氣
мужи́къ 農夫。田夫野人。土百姓
мужчи́на (мущи́на) 男
мужъ (24, 4) 夫。人士
музе́й 博物館
му́зыка 音樂
му́ка 苦痛
мука́ 粉(穀類ノ)
мундѝръ 正服。軍服
мураве́й (22, 6) 蟻
му́тный 濁リタル
му́ха 蠅
мучи́тельный (51, 7) 苦痛ナル。苦ルシキ
му́чить (чу, чишь) 苦シメル—ся 苦シム 159, 12
мчаться (чусь, чишься) 疾走ル
мы́ло 石鹸
мы́слить (105, 69) 思想ス
мысль 3, 思想。考慮
мыть (105, 6) 洗フ—ся, умыва́ться I, 洗フ(自身デ自身ノ顏手足等ヲ)
мышело́вка 鼠捕器
мышь 3, 鼠—ка, мышёнокъ (24, 9) 小鼠

мѣ́дникъ 銅匠
мѣ́дный 銅ノ。製銅
мѣдь 3. 銅
мѣлъ 白墨
мѣня́ть 1. 替ヘル。交換スル。引換ル
мѣ́ра 分量。程度 по мѣрѣ того какъ ニ隨テ段々。次第ニ
мѣ́рить (рю, ришь) мѣрять 1. 量ル。度ル
мѣ́рка 尺度。升
мѣ́стность 3. 地方。場所
мѣ́сто (24, 16) 場所。位置。任役
мѣ́сяцъ 月。太陰
мѣ́ткій 的中ノ。狙ノ巧ナル
мѣхъ (24, 3) 毛皮。皮嚢。吹革
мѣша́ть, по—1, 混合セシム。攪キ廻ハス。妨ク 157, 10—ся, вмѣшиваться 干渉ス
мѣшо́къ (22, 1) 袋。嚢。—чекъ 小嚢
мѣщани́нъ (24, 6) 公民權ヲ有セザル下等市民
мя́гкій 柔カキ。軟ナル。溫和ナル
мя́со 肉
мяте́жъ 騷亂。一揆
мять (105, 2) 揉ム
мяу́кать 1. ニヤゴト鳴ク (猫ノ)
мя́чикъ 毬

Н.

на 124 上ニ向テ。上ニ於テ
набива́ть 1,—би́ть (105, 82) 打込ム。充塡ス
набира́ть 1,—бра́ть (105, 16) 募集ス。植字ス—ся 應募ス
наблюда́ть 1,—блюсти́ (106, 13) 觀察スル。注視スル 121, II, 3
наблюде́ніе 觀察—да́тельность 3. 觀察力
набра́сывать 1,—роса́ть 1. 投ス。粗ニ畫ク
набѣ́гаться 1. 充分ニ走ル
набѣ́гъ 侵入。襲擊
на́бѣло 清淨ニ。白紙ニ
наверху́ 上ニ於テ 二階ニ於テ наве́рхъ 上ニ向テ
навезти́ (106, 1),—вози́ть (жу́, зишь) 運送スル。曳上ル
навести́ (106, 16), наводи́ть (жу́, дишь) 惹ク。向ケル。致ス—страхъ 恐ヲ來タス
нави́снуть (ну, нешь) 垂下ス
наводне́ніе 出水。氾濫
навѣ́даться 1,—дываться 1. 訪問スル。伺フ
навѣ́рно 察スル處。急度
навѣща́ть 1, навѣсти́ть (щу́, сти́шь) 見舞フ。伺候スル
нагля́дно 明瞭ニ。一目瞭然ニ
нягля́дѣться (жу́сь, ди́шься) 見盡クス 見習フ
нагова́ривать 1,—вори́ть (рю́, ри́шь) 多ク話ス。讒スル 125, I, 17 наговори́ться 充分話ス。請求スル
награби́ть (блю́, бишь) 多ク掠奪ス
награ́да 賞與。報酬ノ物品
награжда́ть 1,—награди́ть (жу́, ди́шь) 賞スル。報ユル 121, I, 10 награждённый 賞與サレタル
награжде́ніе 褒賞。報酬
нагрузи́ть (жу́, зишь),—жа́ть 1. 載セル。積荷スル
на́двое 二分ニ。二ツニ
наде́жда 希望。懷抱
надёжный 有望ノ。確ナル (信用スベキ)
надзира́тель 1. 監視人。舍監
надзира́ть 1. 監視ス 119, 3
на́до (на́добно) 要ス。ス可シ
на́добность 3. 必用。入用
надоѣда́ть 1,—ѣсть (106, 23) 煩厭サスル。厄介ヲ來ス 157, 10
надоѣ́дливый 夏繩サキ
надписа́ть (шу́, шешь),—сывать 1. 表書スル。名宛ヲ書ス
на́дпись 3. 名宛。題名。裏書 (爲替等ノ)

надсма́тривать 1, 監察スル。監督スル 119, 3
надсмо́трь 督視。監察
надь, надо 119 上ニ (間接的)
надѣва́ть 1; наде́ть (105, 29) 着スル (冠靴等ヲ)
наде́лать 1, 多ク爲ス。多ク作ル
наде́яться (е́юсь, е́ешься) 希望スル。嘱望スル 125, I, 17
наедине́ 二人差向ニテ
наемъ (22, 5) 傭賃。雇
нажива́ть 1, жи́ть (105, 76) 得ル。金ヲ貯メル——врагóвъ 敵ヲ造ル
назади́, наза́дъ 背後ニ。以前ニ годъ тому́ наза́дъ 一年以前ニ
назва́ніе 名稱
назнача́ть 1, —чи́ть (чу, чишь) 任スル。定ム —ся 任ヲ被ムル。任セラル 117, 6
назначе́ніе 任定。任命
назо́йливый 惱サキ。煩ハシキ
назва́ть (105, 83), называ́ть 1, 名ツケル。招フ 159, 12 —ся 名ツケラル такъ называ́емый 所謂
наизу́сть 暗記シテ。空ンデ
наилу́чшій (хоро́шій) 最良ノ。最上ノ
найти́ (106, 9), находи́ть (жу́, дишь) 見附ケル。逢フ 159, 12 —ся 存ス。在ル
наказа́ніе 罰。教誨
наказа́ть (жу́, жешь), —зывать 1, 罰スル。命スル 121, I, 10
наканýнѣ 前日ニ
накатáться I, 充分ニ乘リ廻ル
накла́сть (106, 18), накла́дывать 1, наложи́ть (жу́, жишь) 入置ク。積ム。貢ハス
наклони́ть (ню́, нишь), —ня́ть 1, 傾ケル。曲ケル —ся 傾ク。曲カル。屈ム
наконе́цъ 遂ニ
накопи́ть (плю́, пишь), —пля́ть 1, 貯蓄スル —ся 增ス
накорми́ть (млю́, мишь) 充分ニ餌食ヲ與フ
накра́пывать 1, 細ニ降ル(雨ノ)。斑點ヲ附ス
накрыва́ть 1, —ры́ть (105, 5) 蓋フ。包ム ——столъ 食事ノ仕度スル
налива́ть 1, —ли́ть (105, 66) 注ク。鑄ル
нали́чный 現有ノ。前面ノ
налови́ть (влю́, вишь) 多ク捕フ
наложи́ть (жу́, жишь) 賦課スル。入レ込ム。積込ム
нале́во 左ニ
намока́ть 1, —кнуть (ну, нешь) 濡ラス。濕メス
намѣре́ніе 志望。計企
намѣрева́ться (105, 45) 企ツ。志ス
нанима́ть 1, —ня́ть (105, 1) 傭フ。借ル
нанести́ (106, 4), —носить (шу́, сишь) 持來ル——оби́ду 侮辱ヲ加ヘル
наоборо́ть ソレニ反シテ。アベコベニ
напада́ть 1, напа́сть (106, 20) 襲フ。攻撃スル
наперёдъ 前以テ。前ニ
наперекóръ (163, 2) 逆フテ
напечата́ть 1, 印刷スル
напива́ться 1, —пи́ться (105, 94) 充分ニ飲ム
написа́ть (шу́, шешь) 書ス
напои́ть (105, 63) 飲マシム
наполня́ть 1, —нить (ню, нишь) 滿タス
напомина́ть 1, —мнить (мню, мнишь) 想ヒ起サス。記憶セシム
напóръ 壓迫。急撃
напра́виться (влюсь, вишься) 進發ス
направле́ніе 方向。方針
напра́во 右ニ
напра́сный 無効ノ。徒空ノ —сно 空ニ。徒ニ。無益ニ
напро́тивъ ソレニ反シテ。眞向フニ
напуга́ть 1, 驚カス
напу́тствовать (вую, вуешь) 出立ヲ送ル
нарва́ть (105, 84) 腫ム。膿ミ潰ル

нарисова́ть (сую, суешь) 畫ク
народи́ть (жу́, дишь). 多ク生ム—ся 多ク生マル
народонаселе́ніе 人口
наро́дъ (22, 9) 人民。衆人
наро́чно ワザト。故意ニ
нару́жность 3, 外貌。外面。外部
наруша́ть 1,—шить (шу, шишь) 破ル。犯ス
наси́лу 無理ニ。努メテ
наско́лько 如何程
наско́рю 急デ。倉卒ニ
наску́чить (чу, чишь), 退屈セシム 157, 10
наслажда́ться 1, —ди́ться (жу́сь, ди́шься) 樂シム 159, 12
наслы́шаться (шусь, шишься) 聞習フ。充分ニ聞ク
наслѣ́дникъ 嗣子——цесаре́вичъ 皇太子
наслѣ́дница 嗣女
наслѣ́довать (дую, дуешь) 嗣グ
наслѣ́дство (24, 16) 遺産。相續權
насмотре́ться (рю́сь, ришься), 充分見ル
насмѣха́ться 1. 嘲笑フ。愚弄ス 119, 3
наста́вить (влю, вишь) 列立ル。附加ス。向ケル
наста́вить (влю вишь),—вля́ть 1, 教フル。訓諭スル
наста́ивать 1,—стоя́ть (стою́, стои́шь 105, 41) 主張ス。固守ス
настолько ソレダケ
настоя́щій 現在ノ。眞ノ。純然タル
наступа́ть 1,—пить (плю́, пишь) 踏ム。攻襲フ。到來ス(時ノ)
наступле́ніе 到來。進擊
насыпа́ть 1; насы́пать (плю, плешь) 撒ス。散布スル
насчита́ть 1, 計算スル
на́тискъ 激襲。印刷
натура 自然。性。天地
натыка́ться 1, наткну́ться (ну́сь, нёшься) 衝キ當タル
нау́ка 學問。學
научи́ть 1,—ча́ть (чу́, чишь) 教フ—ся學ブ。習フ 157, 10
нахвали́ться (люсь, лишься) 譽立ツル。譽盡ス
находи́ть——найти
находчивый 頓智アル—вость 3, 頓智
нача́ло 始。起初。本原
нача́льникъ 主長。首領。長官
нача́льство (24, 16) 長官。管理役
нача́ть (105, 75), начина́ть 1, 始メル—ся 始マル
на́чисто 清ク。キツパリト
нашествіе 侵入
наѣ́здникъ 騎者
наѣзжа́ть 1, наѣхать (105, 61) 乘上クル。多人ニテ乘込ム
не́бо (24, 4) 天 нёбо (24, 4) 口蓋
неблагоро́дный 賤シキ。品ナキ
небольшо́й (52, 4) 大ナラザル
небре́жный 粗略ノ。等閑ナル。輕忽ノ
невиди́мка (38) 妖術者。忍術者
неви́димый 見得ベカラザル
неви́нный 罪ナキ。無垢ナル
невку́сный 味惡シキ
невнима́ніе 不注意。粗略
невнима́тельный (51, 7) 不注意ナル
не́водъ 魚網
невоздержный 不節制ノ。放恣ノ
невозмо́жный 不能ノ。成シ難キ。行ハレザル
нево́льный 無意識ノ—но 知ラズ識ラズ
нево́ля 奴隸ノ身 по нево́лѣ 已ムヲ得ス。除儀ナク—льникъ 奴隸
невы́годный 不利益ナル。爲ニナラザル
невырази́мый 言ヒ現ハスベカラザル
невысо́кій 高カラザル
невѣ́жа (38) 無作法者。無學
невѣ́жда (38) I24, II, 6 無作法者。無學文盲

невѣ́жество 無學。無禮。野鄙
невѣ́жливый 無禮ナル。粗暴ナル
невѣ́роя́тный 信シ難キ。確カナラザル —ность 3, 疑ハシキ事
невѣ́ста (30, 5 備考 2) 許嫁ノ女
невѣ́стка 娘(子ノ妻。兄弟ノ妻)
не́гдѣ 處ナシ。何所ニモナシ —сѣсть 腰掛ル所ナシ
него́дный 適セザル。役ニ立タザル
негодова́ть (ду́ю, ду́ешь) 不滿ヲ抱ク。怨ム 125, I, 17
неда́вній 近時ノ。先頃ノ
неда́вно 先日。先頃。先刻
недалеко́ 遠クナク
недово́льный (51, 7) 不滿足ナル。不平ナル
недовѣ́ріе 不信任 117, 8
недовѣ́рчивый 不信任ノ。疑深キ
недоста́токъ (22, 1) 不足。短所。缺點
недосто́йный (52, 3) 不當ナル
недоумѣва́ть I, 解シカヌ。不審ヲ抱ク
недоумѣ́ніе 不審。不領解
недру́жный 不和ナル。仲善カラザル
не́другъ (24, 2 備考 2) 敵
недѣ́ля 一週間。日曜日
не́жели ヨリ(比較接續詞)
незадо́лго 稍以前ニ
нездоро́вый 不快ナル。健康ニ害アル
нездоро́вье 不快。病氣
незнако́мецъ (22, 1) 知ラヌ人 —мка 知ラヌ女
незнако́мый 知ラザル。面識ナキ人
неизвѣ́стность 3, 不音通。不判定
неизвѣ́стный 知レザル —но 知レズ。判然セズ
неизлѣчи́мый 不治ノ。難治ノ
неизмѣ́римый 無量ノ。測リ難キ
неизчи́слимый 計算シ難キ
неиму́щій 貧乏ナル
неисправный 不規律ナル。放縱ナル
не́когда 時ナシ。暇ナシ
некраси́вый 美ナラザル。不雅ナル。不體裁ナル
не́куда 何所ヘ向テモ(何ヲスルニ)所ナシ
нельзя́ (61, 6) ナラヌ。能ハズ
немéдленно 程ナク。遲延セズシテ
немно́го, немно́жко 少々 по—гу, по—жку 少シヅヽ
ненави́дѣть (жу, дишь) 憎ム。嫌フ。忌ム
ненави́стный 憎ラシキ
не́нависть 3, 憎惡。忌嫌 117, 7
нена́стье 不勝ノ天氣
нену́жный 不用ノ。無用ノ
необходи́мость 3, 必要。要用
необходи́мый 必要ナル。要用ナル —мо 必ズ。要ス
неоднокра́тный 一度ナラザル —но 一度ナラズ
неожи́данный 不意ノ。意外ノ —но 不意ニ。突然
неопря́тный 不潔ノ。シダラナシノ
неопы́тный 無經驗ナル。熟練ナキ。慣レザル 124, II, 6
неосторо́жный 不用心ナル。不注意ナル
неохо́та 氣ノ向カザル事。欲セザル事
неподви́жный 動カザル。變セザル
непоколеби́мый 確固タル。不拔ノ
непоня́тный 解セザル。其意ヲ得ザル
непремѣ́нно 必ズ。急度
непреры́вный 絕ヘダル
непрія́тель I, 敵 —льскій 敵ノ
непрія́тность 3, 不快。不和。嫌惡
непрія́тный 意ニ適セザル。不快ナル
непродолжи́тельный (51, 7) 久シカラザル。暫時ノ
непроходи́мый 通行シ難キ
неразу́мный 無智ナル。愚慮ナキ
нерасчётливый 不經濟ナル。利心ナキ
нерѣши́тельный (51, 7) 優柔ナル。不決斷ナル 124, II, 6
неря́ха (38) シダラナシ
несмѣ́тный 無數ノ。無量ノ
несоразмѣ́рно 不相等ニ
неспосо́бный 無能ナル。堪ヘザル

несравненно 無比ニ
нести́ (106, 4), носи́ть (шу́, сишь) 108, 3 擔フ。負フ。着用ス
несча́стіе, несча́стье 不幸
несча́стный 不幸ナル
неуда́ча 不成就。失敗
неудо́бный 不便ナル
неудово́льствіе 不平。不愉快
неуже́ли 乎 (疑訝シテ問ヒ返ス) 130, 9
неуклю́жій 不格好ナル
неумоли́мый 制難キ。剛情ナル。酷ナル
неутоми́мый 倦マサル
неча́янно 不意ニ。心ナラズシテ
ни (130, 8, II) 何々モ……ナシ
ни́ва 田園。田圃
нигдѣ́ 何所ニモナシ
ни́жній 下ノ。下部ノ。下位ノ
ни́зкій (59, 3) 低キ。下賤ナル。卑劣ノ 159, 5
низойти́ (106, 9), нисходи́ть (жу́, дишь) 下タル。降タル
никако́й 如何ナル……モナシ
ника́къ 如何シテモ。少シモ
никогда́ 何時モ……ナシ。決シテ
никто́ 誰レモ……ナシ
ниско́лько 幾干モ……ナシ。毫モ
ни́тка 糸
ничто́жный 微々タル
ни́щій (41, II, 3) 赤貧ナル。乞食
но 然レ𪜈
новобра́нецъ (22, 1) 新徴兵
новогодній 新年ノ
новорожде́нный 新ニ生レタル
но́вость 3, 新事。新説。珍聞
но́вый, —венькій 新シキ
нога́, но́жка 足。脚 (机等ノ)
но́жницы(цъ) (37, I, 2) 鋏
ножъ, но́жикъ 庖丁。小刀
нора́ 穴 (獸ノ棲息ノ)
носи́ть—нести́
носово́й 鼻ノ。船首ノ
носъ (23, 5) 鼻。嘴。岬。船首
ночле́гъ 夜泊
ночь 3, 夜 ночно́й 夜ノ
но́ша 荷物。貨物
ноя́брь 十一月—рскій 十一月ノ
нра́виться, по—(влюсь, вишься) 心ニ適フ 157, 10
нравъ 氣質。品格 нра́вы 風俗。風習
ну サア。ソレカラ (迫促ノ辭) 174, I, 8 備考
нужда́ 入用。缺乏
нужда́ться 1, 要ス。缺乏ヲ感ス 124, II, 7
ну́жный 入用ナル—но 入用ナリ 157, 9
ны́нѣ 今。現今。今日
ны́нѣшній 今ノ。現時ノ
ныть (105, 7) 疼ム。悲酸ス
нѣ́жный 柔軟ナル。婉弱ノ。優厚ナル
нѣ́кій (68, 2) 或ル。某ノ
нѣ́когда 嘗テ。或時
нѣ́который (68, II) 或ル
нѣ́кто (68, 2) 或人。某
нѣ́мецъ 獨逸人—ме́цкій 獨逸ノ
нѣмо́й (41, II, 3) 啞ナル。啞者
нѣ́сколько (71, I) 若干。數個
нѣтъ 否。無シ
нѣ́что (68, 2) 或物。何ヤラ
ню́хать 1, по—嗅ク
ня́ня (30, 7), ня́нька (30, 5) 保姆

О.

о, объ, обо 126 ノ事。ニ就テ
о́ба, обѣ (83, 2, 3) 兩方ノ
обвива́ться 1, обви́ться (105, 85) 卷附ク。纏フ
обвине́ніе 誣告。擬罪
обвиня́ть 1, —ни́ть (ню́, ни́шь) 罪ス。擬律ス 124, II, 7
обгоня́ть 1, обогна́ть (105, 15) 追越ス。走越ス
обгорѣ́лый 表面ノ燒ケタル

обду́мать 1,—мывать 1, 思案ス。熟考ス
обезпе́чивать 1,—чить (чу, чишь) 安全ニス。擔保ス。無難ニス
обезья́на 猿
оберну́т.ся(ну́сь, нёшься),обора́чивать-ся 1, 廻轉ス。向ク。曲カル
обёртывать 1,—рну́ть (ну́, нёшь) 包ミ卷ク。繙クル—ся 身ヲ包ム
обже́чь (107, 2), обжига́ть 1 火傷ス
обжо́ра (38) 大食家
обзаводи́ться (жу́сь, дишься) —вести́сь (106, 16) 具備ス(要品ヲ)
оби́да 凌辱。損辱
обижа́ть 1, оби́деть (105, 99) 辱メル。侮辱ス。氣ヲ傷メシム
оби́ловать (лую, луешь) 豐富ス。饒多ナル
обкра́дывать——обокра́сть 多ク盜ム
облада́ть 1, 占有ス。統御ス。能ク有ス 159, 12
о́блако (24, 17) 雲
обла́пить (плю, пишь) 捉ヘル(熟足ニテ)。抱ク
о́бласть 3, 州。地方。域
облегча́ть 1,—чи́ть (чу́, чи́шь) 輕クス。容易ニス—ся 輕快ス。輕易トナル
облегче́ние 輕減。緩和
обли́ва́ться 1,—ли́ться (105, 66) 灌ビル。周ク灌カル
облича́ть 1,—чи́ть (чу́, чи́шь) 規責ス。證明ニテ責ム 124, II, 7
обма́нчивый 騙レ易キ。惑ハシ易キ
обма́нъ 詐欺。騙惑
обма́нывать 1,—ну́ть (105, 55) 欺ク。惑ハス—ся 誤ル
обмундиро́вка,—ва́ние 軍服裝
обме́нивать 1,—ня́ть 1,—ни́ть (ню, нишь) 交換ス。引替スル—ся 交代スル。換ヘラル
обме́нъ 交換。引替。въ——交換シテ
обме́ривать 1,—рить (рю, ришь) 測量ス。寸法ヲ取ル
обнажа́ть 1,—жи́ть (жу́, жи́шь) 露ハス。裸ニス—ся 露ハル。體ヲ顯ス
обнару́живать 1,—жить (жу, жишь) 顯ハス。發露ス
обноси́ть (шу́, сишь), обнести́ (106, 4) 持廻ハル
обню́хивать 1,—хать 1 嗅付ケル。嗅知ル
обога́ща́ть 1, обогати́ть (105, 110) 富マス。潤ス
ободря́ть 1,—рить (рю, рипь) 勵マス。奬勵ス
обожда́ть (105, 97) 待ツ。暫ク待ツ
обо́зъ 輜重
обойти́ (106, 8), обходи́ть (жу́, дишь) 迂廻ス。遣通ス—ся 取扱フ。切拔ケル。綻ス。費ス
обокра́сть (106, 19), обкра́дывать 1, 悉ク盜ム
оболща́ть 1,—сти́ть (щу́, сти́шь) 誘惑セシム
обоня́ние 嗅覺
обора́чиваться 1, оборо́ти́ться (чу́сь, тишься) 身ヲ廻轉ス。曲カル。背後ニ向フ。戻ル
оборва́ться (105, 84), обрыва́ться 1, 斷レル。解ケル。墜落ス
оборо́на 防衛
оборо́тъ 廻轉。方向ノ變動。用法(語句ノ)на—ソレニ反シテ。逆ニ
обра́довать (дую, дуешь) 悅バス—ся 悅ブ
образова́ние 開化。教育。開發
образо́ванный 文明ノ。開化シタル
образова́ть (зу́ю, зу́ешь),—вывать 1, 開發ヲ與フ—ся 開發ス。發達ス。發生ス
о́бразъ (24, 3) 外形。像。方法
обра́тный 裏ノ。逆ノ—но 逆ニ。反戻ニ。引返シテ
обраща́ть 1,—ти́ть (щу́, ти́шь) 向ケル。變ス 125, I, 17—ся 向ク。變化ス 117, 6
обраще́ние 回轉。待遇。變化
обременя́ть 1,—ни́ть (ню́, ни́шь) 煩ハス。厄介ヲ貧ハス

обри́ться (105. 68) 剃ル
обру́шиваться 1. ═шиться (шусь. шишься) 壞崩ス。墜落ス
обрыва́ться ═оборва́ться
обстано́вка 場合。陳列
обстоя́тельство (24, 16) 境遇。狀況
обстра́ивать 1,═ро́ить (о́ю. о́ишь) 建圖ス═ся 造リ建ヲ爲ス
обсыпа́ться 1. обсы́паться (плюсь), плешься) 撒布ス
о́бувь 3, 履物
обурева́ть (105. 46) 攪亂ス。漂ヽス
обу́ть 1. 履物ヲ着セシム。損耗ヲ來タスス
обуча́ть 1,═чи́ть (чу́. чишь) 敎フ═ся 習得ス 157, 10
обуче́ние 教授
обходи́ть═обойти
обхожде́ние 對遇。取扱
обши́рный 廣キ。博キ。廣大ノ
общежи́тie 共住。寄宿
о́бщество (24, 16) 會社。組合。社會
о́бщий 一般ノ。普通ノ。共有ノ
объѣзжа́ть 1,═е́хать (105, 61) 乘廻ル
объявле́ние 廣告
объявля́ть 1,═ви́ть (влю́, вишь) 廣告ス
объясне́ние 說明。解釋
объясня́ть 1,═ни́ть (ню́, нишь) 說明ス。解釋ス═ся 談合ス
объя́тie 抱合
обыкнове́ние 常例。通例
обыкнове́нный 通常ノ。平生ノ═нно 常ニ
обы́чай 風習。慣例
обѣдать 1, 晝食ス
обѣдня 日曜ノ祈禱
обѣдь 晝食
обѣща́ние 約束。結約
обѣща́ть 1, по═約束ス。保ス═ся 契約ス。結約ス 157, 10
обя́занность 3, 本分。義務
обя́занный 義務アル。恩顧ヲ受ケタル
обя́зывать (105. 25), обяза́ть (жу́, жешь) 義務ヲ負ハシム。負擔セシム═ся 義務ヲ負フ。擔任ス
овёсъ (22, 1) 燕麥
овладѣва́ть 1,═дѣть 1. 占有ス。手ニ入ル 159, 12
овца́ (ове́чка) 綿羊。牝羊
оглавле́ние 目次。目錄
огласи́ть (шу́. си́шь) 告知ス。宣言ス。發表ス
оглуша́ть 1,═ши́ть (шу́, шишь) 聾ニス
ого́нь (22, 1) 火 о́гненный 火ノ
огоро́дъ 菜園
огорча́ть 1,═чи́ть (чу́, чи́шь) 惱マス。煩ハス═ся 傷心ス。痛歎ス。悲憤ス
огра́би́ть (блю, бишь) 掠奪ス
огро́мный 廣大ナル
огуре́цъ (22, 1) 黃瓜
одари́ть (рю, ри́шь),═ривать 贈物ス。惠賜ス。
оде́жда 衣服
оде́рживать 1,═жа́ть (жу́, жишь) 占メ。勝ヲ占ム
одина́ковый 同一ナル。同樣ナル
одино́кій 單身ノ。孤立ノ。獨靜ノ
оди́нъ (68, 2; 76, 1) 或ル。バカリ。一ツノ。——и то́тъ же 同一ナル——друго́го (69 2) 互ニ
одна́жды 嘗テ。一次
одна́ко,—— же 然レドモ
одноэта́жный 一階ノ。——домъ 平家
одноко́лка 二輪車
однокра́тный 一回ノ
однообра́зный 一樣ナル。單調ナル
одобре́ние 稱贊。嘉納。贊成
одобря́ть 1,═рить (рю, ришь) 好ス。稱贊ス
одолжа́ть 1,═жи́ть (жу́, жи́шь) 貸ス。貸與ス。惠ヲ垂ル 151, III, 3
одолже́ние 貸與。垂憐
одоле́ть (ле́ю, ле́ешь 104, I, 7),═лѣва́ть 1, 勝ツ。克ツ

одряхлѣ́ть 1, 老衰ス
одѣва́ть, одѣ́ть (105, 29) 着服サス—ся 着服スル
одѣя́ло 夜着。掛布團
ожесточе́ніе 殘酷。刻薄
ожива́ть 1, ожи́ть (105, 76) 蘇生ス。快復ス
оживля́ть 1,—ви́ть (влю́, ви́шь) 活氣ヲ與フ
ожида́ніе 期望。待
ожида́ть 1, 待ツ。期望ス 151, III, 4
озабо́чивать 1, озабо́тить (чу, тишь) 心ヲ勞セシム。心配サセル—ся 心配ス
о́зеро 湖
означа́ть 1,—чить (чу, чишь) 表示ス。標記ス
озолоти́ть (чу́, тишь) 滅金ス。金儲サセル
озя́бнуть (ну, нешь) 凍ユ
ока́зывается 實ハ……タリト知レタリ
ока́зывать 1,—за́ть (жу́, жешь) 顯ス。表ス。施ス
ока́нчивать 1, око́нчить (чу, чишь) 終ル。完成セシム—ся 終ル
океа́нъ 大洋
оки́нуть (ну, нешь) 投ス。放棄ス
оклевета́ть (105, 106) 讒ス 123, II, 3
окно́ (око́шко, око́шечко) 窓
о́ко (24, 17) 眼
око́вы (ъ) 枷
о́коло 周邊。程。ノ位
оконча́ніе 終結。結尾。終リ
око́нчить—ока́нчивать
окоро́къ (22, 1) 豕ノ燻腿 (ラカン)
окре́стность 3, 近郊。附近
окружа́ть 1,—жи́ть (жу́, жишь) 圍ム。繞ラシム
окрѣ́пнуть (ну, нешь) 堅クス。固メル
октя́брь 十月—рскій 十月ノ
оку́тывать 1,—тать 1, 包纏フ
оле́нь 鹿 1
онѣмѣ́ть 1, 唖トナル。言フ能ハズ
опа́здывать 1, опозда́ть 1, 遲刻ス。後ル
опаса́ться 1, 危ブム 156, VIII
опасе́ніе 危懼
опа́сность 3, 危險
опа́сный 危險ノ。危篤ナル
о́пера 謠劇—рный 謠劇ノ
опера́ція 手術。運用 (資本等ヲ)
опеча́ливать 1,—лить (лю, лишь) 悲マス—ся 悲ム
описа́ніе 記事。描寫
опи́сывать 1,—са́ть (шу́, шешь) 記ス。描寫ス
опозда́ть—опа́здывать
опо́мниться (нюсь, нишься), 思ヒ浮ブ。氣ヲ吹返ス
оправда́ніе 分疏。言開キ。免訴
опра́вдывать 1,—да́ть 1, 免訴ス—ся 分疏ス。應スル
оправля́ться 1,—виться (влюсь, вишься) 直シ正ス。全快ス。整理ス
опредѣлённый 一定ノ。定限ノ。確定ノ
опредѣля́ть 1,—ли́ть (лю́, лишь) 定ム。入レル (學校等ヘ)
опроки́дывать 1, опроки́нуть (ну, нешь) 顛倒ニス。倒ス
опроти́вѣть 1, 氣ニ喰ハヌ。嫌ニナル 157, 10
опуска́ть 1,—сти́ть (щу́, стишь) 下ロス。放ツ。刪ル—ся 降下ス
опустоша́ть 1,—ши́ть (шу́, ши́шь) 荒ラス
опусте́ть 1, 荒廢ス。空虛トナル
о́пытность 3, 經歷。練磨
о́пытъ 經驗。試驗—тный 124, II, 6
опя́ть 再ヒ。復タ
ора́ть (105, 20) 鋤ク
ора́ть (105, 21) 叫歌フ
о́рганъ 機關。官 (五官ノ)
орга́нъ 大風琴
о́рденъ (24, 1) 勳章
орёлъ (22, 1) 鷲 орлёнокъ (24, 8) 鷲ノ子

оробѣть 1, 驚ス。恐怖ス
орудіе 器具。大砲
оружіе 武器
орѣхъ 胡桃。櫟
орѣшникъ 胡桃ノ木。櫟ノ木
освобождáть 1,—дúть (жу́, дúшь) 自由ニス。救フ。放免ス 116, VIII, 9
освѣщáть 1,—тúть (щу́, тишь) 照ラス
освѣщéніе 光耀。燭料
осёлъ (22, 1) 驢馬 ослúный 驢馬ノ、
óсень 3, 秋
осиротѣть 1, 孤ニナル
оскорблённый 侮辱サレタル。恥カシメラレタル
оскорблáть 1,—блúть (блю́, бúшь) 侮辱ス。恥カシム—ся 侮辱ヲ感ス
ослабѣвáть 1,—óбѣть 1, 衰弱ス。弛ム
ослýшаться 1,——шиваться 1, 逆フ。背違ス。不孝スル 156, VIII
ослéпнуть (ну́, нешь) 眩マス。昏迷ス
осмотрúтельный (51, 7) 注意深キ。思慮アル
осмотрéть (рю́, ришь) 見巡ス。熟覧ス
осмéливаться 1,—литься (люсь, лишься) 敢テス。恐ヲ顧ミス
осмéять (éю, éешь) 嘲笑ス。譏ル
основáніе 基礎。根據
основнóй 根本的。基本ノ
особенный 特殊ノ。格別ナル
осрамúть (млю́, мишь), 辱ム。汚ス
оставáться (таю́сь, таёшься), остáться (105, 102) 留ル。殘ル。餘ル
оставлять 1,—вить (влю, вишь) 遺置ク。罷メル。棄ル
остальнóй 殘餘ノ
останáвливать 1,—новúть (влю́, вишь) 止ム。中止ス—ся 止マル
останóвка 停止。中絶
остáтокъ (22, 1) 殘餘。殘物
остерегáться 1,—рéчься (107, 5) 戒慎。豫防ヘ。用心ス 156, VIII
осторóжный 謹愼ノ。注意ノ
óстровъ (24, 1) 島
остроýміе 頓智—мный 頓智ナル
óстрый (52, 2) 鋭キ。尖リタル。頭敏ナル
оступúться (плю́сь, пишься) 踏ミ誤ル
остúть (105, 11),—тывáть 1, 冷ヘル。冷却ス
осуждáть 1, осудúть (жу́, дишь) 非議ス。擬罪ス
осýнуться (нусь, нешься) 痩衰フ。入レ錯ル
осыпáть 1, осы́пать (плю, плешь) 撒ラス。振リ蒔ク—ся 散亂ル
осѣдлáть 1, 鞍ヲ着ケル。制ス
осязáніе 觸覚
отбивáть 1,—бúть (105, 82) 打返ス 116, IX, 6
отбирáть 1, отобрáть (105, 16) 取上ク 116, IX, 6
отóрный 精撰ノ。秀抜ノ
отваживаться 1,—житься (жусь, жишься) 険ヲ冒ス。敢テス 125, I. 17
отвáжный 勇敢ナル。大膽ノ
отвергáть 1, отвéргнуть (105 54) 排斥ス
отводúть (жу́, дишь), отвестú (106, 16) 脇ヘ引ク。誘導ス
отвозúть (жу́, зишь), отвезтú (106, 1) 運送ス。運漕ス
отворя́ть 1,—рúть (рю́, ришь) 開ク
отвратúтельный (51, 7) 嫌厭タル。穢ハシキ 51, 7
отвыкáть 1,—кнуть (ну, нешь) 習慣ヲ脱ス 116, VIII, 9
отвѣдывать 1,—дать 1, 味フ。試ム。嘗ル
отвѣтственность 3, 責任
отвѣтъ 返答。答辭
отвѣчáть 1, отвѣтить (чу, тишь) 答フ。返辭ス 121, I, 10; 125, I, 17
отвязывать 1,—зáть (жу́, жешь) 解放ス。解ク—ся 解ケル。解放サル
отговóрка 遁辭

отдава́ть (даю́, даёшь),—да́ть (105, 95) 返戻ス。捧ク ル。委托ス。表ス。渡ス

отдалённый 遠隔ノ

отдыха́ть 1. отдохну́ть (ну́, нёшь) 休息ス。寢ル

о́тдых 休息

отде́ле́ние 部類。班

отде́лывать 1,—лать 1, 完成ス。修飾ス —ся 免ル。脫ス 116, VIII. 9

отде́льно 別々ニ。離レテ

оте́ц (22. 1) 父。神父 (教父)

оте́ческій 父タルノ

оте́чество 生國。祖國

отка́зывать 1,—за́ть (жу́, жешь) 拒ム。遠謝ル。謝絕ス 157. 10—ся 辭ス。辭退ス 124, II. 7

откла́дывать 1, отложи́ть (жу́, жишь) 猶豫ス。別ツ

откли́каться 1,—кну́ться (ну́сь, нёшься) 應呼ス。叫答フ

отклоня́ть 1,—ни́ть (ню, нишь) 避ケシム。脫セシム

откровенный 露出ノ。打開ケタル—но 打開ケテ

открыва́ть 1,—крыть (105, 5) 開ク。公開ス。發見ス—ся 開ク。露顯ス。發明サル

откры́тый 開キタル。公開ノ。公然ノ

отку́да 何處カラ

отлета́ть 1,—те́ть (чу́, тишь) 飛出ル

отлича́ться 1,—чи́ться (чу́сь, чишься) 拔群ス。秀ツル。特異ス 159, 12

отли́чіе 特出。秀拔。最優

отли́чный 特異ノ。最佳ノ—но 最優ニ。最上ニ

отломи́ть (млю, мишь) 折離ス。離シ毀ス

отлуча́ться 1.—чи́ться (чу́сь, чишься) 離ル。遠カル。除名サル

отмежёвывать 1.—жева́ть (жу́ю. жу́ешь) 分界ス。畔ヲ立ツ

отме́рить (рю, ришь),—ривать 1. 測取ル

отнести́—относи́ть

отнима́ть 1. отня́ть (105. 1) 取上ル。奪フ 116, IX., 6

относи́тельно ニ關シテ。ニ就テ 132. 1

относи́ть (шу́, сишь). отнести́ (106. 4) 持去ル。歸ス—ся 關係ス 117. 6

отноше́ніе 關係。用文 (役所ノ)

отня́ть—отнима́ть

отовсю́ду 諸方ヨリ

отогнать (105. 15), отгоня́ть 1 逐出ス。逐斥ク

отодвига́ть 1.—двину́ть (ну. нешь) 動シ離ス—ся 遠カル

отозва́ть (105, 83), отзыва́ть 1. 呼出ス。呼戻ス—ся 應ス。批判スル

отойти́ (106, 9), отходи́ть (жу́, дишь) 立去ル。退ク

отомсти́ть, отмсти́ть (мщу́ мсти́шь), отмща́ть 1. 復讐ス

отосла́ть (105. 13) отсыла́ть 1, 送致ス。謫ス

отпира́ть 1,—отпере́ть (отопр-у́, ёшь) 開ク。開鎖ス—ся 開カル。食言ス 116, VIII, 9

отпла́чивать 1. отплати́ть (чу. тишь) 償フ。報酬ス

отправля́ть 1.—вить (влю, вишь) 遣ハス。途行ス—ся 出發ス

отпра́шиваться 1,—проси́ться (шу́сь, сишься) 暫時暇ヲ乞フ。願ヒ免カル

отпуска́ть 1,—сти́ть (щу́. стишь) 暇ヲ遣ル。宥免ス

о́тпуск 賜暇

отража́ться 1,—зи́ться (жу́сь. зи́шься) 反射ス

отраже́ніе 反射

отрека́ться 1—ре́чься (107 11) 棄ツ 廢ス 116. VIII. 9

отре́зывать 1. отре́зать (жу. жешь) 切去ル。截離ス

отрѣпа́ть 1,—пи́ть (пу́. пишь) 遠ク。斥ク 116. VIII. 9

отря́дъ 分隊。派遣隊
отста́ивать 1,—стоя́ть (ою́, ои́шь) 主張ス。立終ル
отста́ть (105, 102),—тава́ть (таю́, таёшь) 後ル。廢タル
отста́вка 退職
отстра́ивать 1,—стро́ить (ою́, о́ишь) 落成セシム
отступа́ть 1,—пи́ть (плю́, пишь) 退ク。退軍ス
отступле́ніе 退却。退去
отсыла́ть——отосла́ть
отсы́рѣть 1, 濕ケル
отсю́да 此處ヨリ
оттого́ 夫故ニ
отто́лкну́ть (ну́, нёшь), отта́лкивать 1, 推退ク。突キ離ス
отту́да 其處ヨリ
отуча́ть 1,—чи́ть (чу́, чишь) 習慣ヲ脫セシム。教ヘ終ル 116; VIII, 9
отходи́ть——отойти́
отцвѣта́ть 1, отцвѣсти́ (106, 30) 咲終ル。落花ス
отцо́вскій 父ノ。父ニ屬スル
отцо́въ (47, 3) 父ノ
отча́сти 一部ハ。幾分カ
отча́иваться 1,—ча́яться (ча́юсь, ча́ешься) 失望ス。落膽ス
отча́яніе 失望。落膽
отча́янно 失望シテ。必死ニ
отчего́ 何故ニ。何ヲ以テ
о́тчество 父稱
отчётъ 報告。年報
отъѣ́здъ 出發。發途
отъѣзжа́ть 1, отъѣ́хать (105, 61) 出立ス。立出ル
отыскивать 1,—ска́ть (щу́, щешь) 捜索ス
отягоща́ть 1,—готи́ть (105, 117) 難ヲ貢ハス。煩ハス
офице́ръ (24, 1) 士官
охлаждѣва́ть 1,—ди́ть 1, 冷淡ニナル。冷ヘル
охо́та 希望。志願。嗜好。獵 117, 9 охо́титься (чусь, тишься) 獵ス
охо́тникъ 獵人。嗜好者。志願人 116, IV, 10
охо́тничій, чье, чья 獵夫ノ
охо́тно 甘シテ。好デ
охра́на 守備。警護
охраня́ть 1,—ни́ть (ню́, ни́шь) 守ル。警衛ス
оцѣ́нивать 1,—ни́ть (ню́, нишь) 估價ス。重ス 124, I, 7
очарова́тельный (51, 7) 妖媚ノ。恍惚タラシムル。絶妙ノ
очеви́дный 現然タル。瞭然タル—но 現然トシテ—децъ (22, 1) 目擊者
о́чень 甚ダ
о́чередь 3, 順番。輪番 по—ди 順番ニ
о́черкъ 略記。輪廓
очини́ть (ню́, нишь) 削ル (鉛筆等ヲ)——каранда́шъ 鉛筆ヲ削ル
очи́стить (щу, стишь),—ща́ть 1, 淸ムル。掃除ス
очки́ (очко́въ) (24, 17; 37, I, 1) 眼鏡
ошиба́ться 1,—би́ться (105, 81) 誤ル
оши́бка 誤謬。過失
о́щупью 手探リ
ощупле́ніе 感觸

II.

па́даль 3, 鳥獸ノ屍
па́дать 1, пасть (106, 20) 109, II, 2 落ツ。墜落ス。下落ス
пала́та 官衙。部室
па́лецъ (22, 2) (па́льчикъ) 指
пали́ть (лю́, ли́шь) 燬ク。發砲ス。燒盡クス
па́лка 杖。棒
па́льма 棕櫚
пальто́ (35, 2) 外套
па́мятникъ 記念物。記念碑。像
па́мятный 記憶スル所ノ。記念ノ
па́мять 3, 記憶。記念 на—記念ノ爲ニ

па́па, папа́ша 父:樣。阿父
папиро́са,—ска 紙卷煙草
па́ра 一對
пара́дный 正式ノ。正裝ノ
па́рень (22, 1) 若者 (俗語)
пари́ (35, 2) 賭
паркъ 大園
паровóзъ 瀧車
пароходъ 瀧船
па́рта(30, 5 備考 2)教場卓(腰掛ヲ組付ケタル)
па́русъ (24, 1) 帆
па́смурный 曇リタル
па́спортъ 旅行免狀
пассажи́ръ 乘客 (瀧船鐵道等ノ)
пасте́ль, посте́ль 3, 寢道具。寢臺
пасти́ (106, 6) 牧養ス
пасть——па́дать
пастухъ 牧夫
патро́нъ 藥包。彈藥
паха́ть (пу́, пешь) 耕ス
па́хнуть (ну, нешь) 香フ 159, 12
пахучій 香氣アル
па́че всего́ 殊ニ。首トシテ
па́чкать 1, 汚ゴス
паять (105, 35) 鑄着ス
пе́нсія 恩給
пень (22, 1) 伐株
пе́рвенствующій 首位ノ。首座ノ
первонача́льный 最初ノ
перебива́ть 1,—би́ть (105, 82) 妨ク。打碎ク。他人ノ話ヲ途切ル
перевезти́ (106, 1),—вози́ть (жу́, зишь) 運送ス。運ビ移ス。渡ス (川ヲ)
перевести́ (106, 16),—води́ть (жу́, дишь) 反譯ス。移ス。書替ヘル(株券等ヲ)。爲替ヲ組ム 125, I, 17
перево́дчикъ 反譯者
перево́дъ 反譯。爲替 125, I, 17
перево́зка 運送。運移
перевяза́ть (жу́, жешь),—зывать 1, 更ニ縛ム。卷ク。束ル
перевя́зка 繃帶。紐。束
пе́ревязь 3, 肩ヨリ腰ニ斜ニ掛ケタル革紐
перегля́дываться 1,—гляну́ться (ну́сь, нёшься) 見交ハス。見合フ
перегова́риваться 1,—вори́ться (рю́сь, ри́шься) 協商ス。相談ス
переговори́ть (рю́ ри́шь) 商議ス。談判ス
переговóръ 談判
передава́ть (даю́, даёшь),—да́ть (105, 95) 傳フ。交ハス。渡ス
передвига́ть 1,—двину́ть (ну, нешь) 移ス。轉動ス
пере́дній 前部ノ。前面ノ
пере́дняя (41, II, 3) 前座敷。入口ノ室
переду́мать 1,—мывать 1, 思直ス。思改
передуши́ть (шу́, шишь) 絞殺ス
пе́редъ, предъ, пре́до 123 前ニ
переде́лать 1,—лывать 1, 繕フ。改造ス。改作ス
переждать (105, 97),—жида́ть 1. 待通ス
перезимова́ть (му́ю, му́ешь) 冬ヲ越ス
перейти́ (106, 5) переходи́ть (жу́, дишь) 移ル。通越ス
перекрести́ть (щу́, стишь) 再洗禮ヲ行フ —ся 再洗禮ヲ受ク。自身ニ十字拜ヲ行フ
перелета́ть 1,—те́ть (чу́, ти́шь) 飛移ル
переложи́ть (жу́, жишь),—лага́ть 1, 移シ置ク。詩ヲ散文ニ直ス。譜ヲ譯ス (日本樂譜ヲ西洋樂譜等ニ)。飜案ス 125, I, 17
переломи́ть (млю́, мишь) 打碎ク。折挫ク—ся 折毀レル。挫ケル
перемéжка 間斷。間歇 въ—ку 休憩ノ際
перемере́ть (мру́, мрёшь),—мира́ть 1, 斃ル。一時ニ多ク斃ル (傳染病等ニテ)
перемéна 變更。動易—нчивый 變シ易キ。一定セザル
перемéни́ть (ню́, нишь),—ня́ть 1, 變ヘル。改ム 125, I, 17—ся 變ハル。交換スル
перенести́ (106, 4),—носи́ть (шу́, сишь) 運ビ移ス。忍ブ—но́ска 運移

перенима́ть 1,—ня́ть (105, 1) 模倣ス 116, IX, 6
переодѣва́ться 1,—де́ться (де́нусь, де́нешься)服ヲ更ム
перепа́рхивать 1,—по́рхнуть (ну, нешь) 飛移ル(鳥ノ)
переписа́ть (шу́, шешь),—сывать 1. 清書ス。寫ス—ся 文通ス 128, III, 3
перепи́ска 文通。清書。謄寫
пе́репись 3, 目錄。戸籍檢記
перепи́счикъ 寫筆者
переплета́ть 1,—пле́сть (106, 26) 製本ス。表紙ヲ附ク。組ミ編ム
переплёть 表紙。組合セ
перепра́ва 渡過。川越
переправля́ться 1, — ви́ться (влюсь, вишься) 渡ル。越ユ
перепры́гивать 1,—гну́ть (ну, нешь) 跳越ス
переса́живаться 1, — се́сть 座ヲ移ス (106, 22)
перескакивать 1,—скочи́ть (чу́, чишь) 跳越ス。跳越シテ讀ム
пересла́ть (105, 13),—сыла́ть 1, 送遣ル。屆ケル
пересма́тривать 1, — смотре́ть (рю, ришь) 再閱ス。熟視ス
переставать (стаю, стаёшь), — стать (105, 102) 止ム。罷ム
перестре́лка 交射(双方ヨリ)
пересчита́ть 1,—тывать 改算ス。再ヒ計算ス
пересы́лка 送遣。護送
пересе́сть——переса́живаться
перетаскать 1,—тащи́ть (щу́, щишь) 運ヒ移ス。曳キ移ス
перехитри́ть (рю́, ри́шь) 狡猾ニヤリ過キル
переходи́ть——перейти́
перехо́дъ 越路。通越(嶮路ノ)
пе́рецъ (22, 1) 胡椒
перечи́тывать 1,—чита́ть 1, 復讀ス
переѣзжа́ть 1,—е́хать (105, 61) 移轉ス。引越ス
переѣздъ 移轉。經行
перо́ (24, 2) (пёрышко) 羽毛。ペン
перочи́нный но́жикъ 鵞ペン切ノ小刀
пёрстъ 指
перча́тка 手袋
песо́къ (22, 1) (песо́чекъ) 砂。砂子
са́харный——ザラメ песча́ный 砂ノ
пёстрый (52, 2) 斑々タル
пёсъ (22, 1) 牡犬
печа́литься (люсь, лишься) 悲ム 125, II, 5
печа́ль 3, 悲哀
печа́льный (51, 7) 悲哀ノ
печа́тать, на—1, 印刷ス
печа́ть 3, 印。印刷
печенье ビスケット
печь 3, пе́чка 爐。煖爐
печь, с—(107, 10) 煎ル。焼ク
пи́во 麥酒
пи́ка 槍。矛
пике́тъ 控兵
пила́ 鋸
пиро́гъ (пирожо́къ) 饅頭ニ類シタル食物
пиро́жное (41, II, 3) ジヤム ト牛酪ヲ入レタルパン菓子
пи́ршество (24, 16) 筵。宴會
пиръ 酒宴
пи́сарь (24, 1) 寫字生。書記
писа́тель 1, 文人。著述者—льница 女文人
писа́ть (шу́, шешь) 書ク
пистоле́тъ 拳銃(ピストル)
пи́счій 書用ノ
письмо́ (17, 4) 書簡。書文
пита́тельный (51, 7) 滋養ノ
пита́ть 1, 養フ。抱持ス ——уваженіе 尊敬ヲ抱ク—ся 食ト ス。營養ス
питомица 養女。養育ヲ受ケシ女

пить, вы—(105, 94) 飲ム
пи́ща 食物。食料
пла́вать (105, 42), плыть (105. 9) 108 3 浮ブ。游グ。航行ス
пла́кать (чу, чешь) 泣ク 1.6, II, 5; 127, III, 2
пла́кса (38) 泣傍者
пла́мя (33, 3) 炎
план̀ъ 圖。計企。考案
пла́стырь 1, 膏藥
пла́та 代價。給料。賃
плати́ть, за—, у—(чу́, тишь) 拂フ 121, I, 7
плато́къ (22, 1) (плато́чекъ) 手巾。風呂敷
пла́тье (24, 15) 衣服
плева́ть (плю-ю́, ёшь), плю́нуть (ну́, нешь) 唾ヲ吐ク
пле́мя (33, 3) 民族。人種
племя́нникъ 甥—ница 姪
плести́ (106, 26) 編ム。組ム
плечо́ (24, 17) 肩
плодъ 果實。結果—доро́дный 肥沃ノ
пло́тникъ 大工
пло́тный 密ナル。緻密ノ
плоть 筏
плохо́й 不良ノ。惡シキ。拙ナル—хо 不良ニ(マヅク)。宜シカラズ
пло́щадь 3, 廣場。市場
плугъ 犁
плу́тня (30, 7) 欺騙
плыть——пла́вать
плѣнъ (23, 4) 擒。捕囚—нникъ 捕虜—нный 擒ニサレタル
плѣня́ться 1,—ни́ться (ню́сь, ни́шься) 心ヲ奪ハル 159, 12
по 127 ニ依テ。由テ。ノ後ニ
побере́чь (107, 1) 暫ク守ル (大切ニス)
поблагодари́ть (рю́, ри́шь) 感謝ス。報謝ス。謝體ス
поблѣднѣть 1, 青ザメル。蒼白トナル
побоя́ться (о́юсь, ойшься) 少シ恐ル
побрани́ть (ню́, нишь) 叱責ス。少シ叱ル
побу́дить (жу, дишь), побужда́ть 1, 動因ス。勵マス 116, 6
побыва́ть 1, 訪問ス。伺候ス
побы́ть (99) 往キ居ル (一定ノ時間中)
побѣда 勝利
побѣди́тель 1, 勝利者
побѣди́ть, побѣжда́ть 1, 勝ツ
побѣжа́ть (105, 71) 走リ出ス。急航ス
повали́ть (лю, лишь) 倒ス。轉カス—ся 倒ル。轉倒ス
по́варъ (24, 1) 料理人
поведе́ніе 行狀。品行
повезти́ (106, 1) 運送シ始ム。乘セ往ク
повели́тель 1, 命令者。操縱者
поверну́ть (ну́, нёшь) 一方ニ道ヲ轉ズ
повертѣть (105, 105) 廻轉ス—ся 體ヲグルグル廻ス
пове́рхностный 淺薄ナル。皮相ノ—но 皮相的ニ
пове́рхность 3, 表面。外面。面積
повеселя́ться (ля́сь, ли́шься) 暫時樂シム。暫時遊興スル
повести́ (106, 16) 導ク。爲シ始ム—— разговоръ 談話ヲ爲ス
повиди́мому 見タ所ハ。外面ハ
повинова́ться (ну́юсь, ну́ешься) 服從ス 157, 10
повинове́ніе 從順。服從
повлія́ть——влія́ть
по́водъ 起因。誘因 117, 9
повозка 車 (席ナドニテ覆フタル農民ノ)
поворачивать 1,—роти́ть (чу́, тишь) 反轉ス。曲リ行ク—ся 反側ス。廻轉ス
повреди́ть (жу́, ди́шь),—жда́ть 1, 害ス。損フ。傷ツク
повсю́ду 各處ニ。方々ニ
повтори́ть (рю́, ри́шь),—ря́ть 1, 復ス。再ビス—ся 復サル。重復サル

повторительный 復習ノ——курсъ 重級(同級ニ二年學ブ)
повѣрить (рю, ришь) 信用ス。委托ス。監査ス
повѣрять 1, 委任ス。監査ス
повѣсить (шу, сишь) 懸カル。釣リ下グ
повѣстка 召喚狀
повѣсть 3, 物語(小說ノ)
повѣтріе 瘴氣
повязка 女ノ頭飾。編ミタル布切。包
погаснуть (сну, снешь) 消ユル。消滅ス
погасить (шу, сишь) 消ス
погибать 1, —бнуть (бну, бнешь) 滅亡ス
погибель 3, 滅亡。絕命
поглощать 1, —лотить (щу, тишь) 丸呑ニス。沈沒セシム
поговорить (рю, ришь) 暫時話ス
погода 天氣
погоняцикъ 馬卒。馬追。飛脚
погорѣть (рю, ришь) 燒失ス。日ニ燒ケル
погорѣлецъ (22, 2) 類燒者
пограничный 國境ノ。境邊ノ
погребать, —бсти (106, 11) 埋葬ス
погребеніе 埋葬
погребъ (24, 1) 穴倉
погружать 1, —зить (жу, зить) 沈メル——ся въ воспоминанія 追想沈思ス
погубить (блю, бишь) 亡ボス。害ス
подавать (даю, даёшь), —дать (105, 95) 手渡ス。與フ。施ス。出ス
подальше (=далёкій) 少シ遠ク
подарить (рю, ришь) 贈ル。進呈フ。下賜ス
подарокъ (22, 1) 贈物。進物
подать 3, 租稅
подать = подавать
подаяніе 施物。惠與品
подобѣгать 1, —кать (105, 71) 走リ着グ
подвергать 1, —гнуть (105, 54) 投ス。附ス——ся 蒙セラル。投ゼラル 157, 10
подвести (106, 16) —водить (жу, дишь) 引寄ス。下ニ伏セル
подвигъ 功德。苦行
подводный 水中ノ——ная скала 暗礁
подвязать (жу, жешь), —зывать 1, 結付ケル。足場ヲ架ケル
подвязка 下ヲ結付ルコ。靴下ヲ留ル紐
подданный (41, II, 3) 臣民——нство 臣下。國籍
поддержать (жу, жить), —живать 1, 支フ。扶ク。保ツ
поддѣлать 1, —лывать 1, 製造ス——ся 媚テ行フ。僞造サル。態度音聲ヲ摸ス 122, I, 3
подержанный 持チ古セタル——ная книга 古本
поджигать 1, —жечь (107, 2) 放火ス。煽動ス
подкапываться 1, —копаться 1, 穿陷ス 122, I, 3
подкладывать 1, —класть (106, 18) —ложить (жу, жишь) 下ニ置ク。裏地ヲ附ク
подкова 蹄鐵——вать (кую, куёшь) 蹄鐵ヲ嵌ム
подкрадываться 1, —красться (106, 19) 窃ニ近ヅク。忍ビ入ル
подкрѣпленіе 援兵。加勢
подлогъ 僞作。僞造
подложить = подкладывать
подлежать (жу, жишь 屬ス 157, 10
подлѣ 傍ニ
подмастерье (24, 15), 助手(職工ノ)
подмѣтить (чу, тишь) —чать 1, 窺ビ見ル。覗ク 121, II, 3
поднести (106, 4), —носить (шу, сишь) 献呈ス。捧ク。供ス(盆上ニテ)
поднимать 1, —нять (105, 1) 上ク。擧ク——ся 持上ル。勃興ス
подножный 脚下ノ——ная скамеечка 足臺
поднести = поднести
подносъ 盆
подобный 斯カル。此類ノ 157, 9
подобрать (105, 16), подбирать 1, 類集ス。拾フ 122, I, 3
подогнать (105, 16) подгонять 1, 逐寄ス。逐込ム

подозрѣва́ть 1. 嫌疑ス、疑惑ス 124, II, 7
подойти́ (106, 9), подходи́ть (жу́, дишь) 近ツク。下ヲ行ク。適合ス
подоко́нникъ 窓ノ下縁?
подпада́ть 1,—па́сть (106,20) 投下ス。飛着ク。遇ス
подписа́ть (шу́, шешь),—сывать 1, 下記ス。記名ス—ся 記名ス。署名ス
подпуска́ть 1,—сти́ть (щу́, стишь) 近寄ス
подража́ніе 摸倣。擬似
подража́тель 1, ,—тельница 摸倣者。雷同者
подража́ть 1, 倣フ。擬ス 157, 10
подразумѣва́ть 1, 意ヲ含マス 122, II, 3
подро́бно 詳細ニ
подроста́ть,—раста́ть 1,—рости́ (106, 27) 生長ス。生育ス
подру́га 女友。仲善キ女
подру́жески—дру́жески 親友的ニ
подружи́ться (жу́сь, жишься) 親シム。別懇トナル 128, III, 3
подря́дъ 逐次。順序ヲ以テ。請負
подсказа́ть (жу, жешь),—зывать 1, 窃ニ助言ス
подслу́шать 1,—шивать 1, 立聞ク
подсма́тривать 1, —смотре́ть (рю, ришь) 密ニ窺フ。偵察ス 121, II, 3
подступа́ть 1,—пи́ть (плю́, пишь) 近ツク。近接ス
подтвержда́ть 1,—рди́ть (ржу́, рдишь) 證定ス。確定ス—ся 證定サル。確定サル
поду́мать 1, 思考ス
поду́шка 枕
подходи́ть=подойти́
подходя́щій 適合ノ 157, 9
подчини́ть (ню́, ни́шь),—ня́ть 1, 従属セシム。服従セシム—ся 服従ス подчинённый 下級者。従属者
подъ, подо 122 下ニ
подъёмный 吊上ケノ。起シ上ゲノ
подъѣзжа́ть 1,—е́хать (105,61) 乗近ク。近接ス
подыскиваться 1,—ска́ться (щу́сь, щешься) 窺探ル。ツケ覗フ 122, I, 3
подѣли́ть (лю́, лишь) 分與ス
подѣ́лывать 1, 少シツヽ仕事スル
пожа́ловать (лую, луешь) 下賜ス。恵ヲ垂ル—ся 訴フ 125, I, 17
пожа́луй 大方(譲リ諾スル意) пожа́луйте 何々シ賜ヘ
пожа́луйста 何卒
пожале́ть (104, I, 7) 憐ム。惜ム。残念ガル
пожа́ръ 火事—рище 大火
пожа́ть (105, 72)—жима́ть 揉ム。壓ス пожа́тіе 壓搾。緊縮
пожа́ть (105, 73) 刈ル。收獲ス
пожела́ть 1, 望ム。希望ス
поже́ртвованіе 義捐。寄附
поже́ртвовать (вую, вуешь) 寄附ス。犠牲ニ供ス
пожива́ть 1, 消光(日ヲ送ル)ス
пожило́й 初老ノ(五十歳頃ノ)。生料ノ
позаба́вить (влю, вишь) 面白カラシム。興ヲ與フ—ся 慰ム。樂ム
позади́ 背後ニ
позва́ть (105, 83) 呼ブ。招ク
позволе́ніе 許可。允可
позво́лить (лю, лишь),—ля́ть 1, 許ス。諾ス
позвони́ть (ню́, нишь) 鐘ヲ鳴ス。鈴ヲ振ル
по́здній (59, 2) 遅キ。遅刻ノ。後レタル
поздоро́ваться (105, 44) 面接ノ挨拶ヲ述フ 128, III, 4
поздоро́вѣть 1, 壯健ニナル。強壯トナル
поздравле́ніе 祝賀。祝辞
поздра́вить (влю, вишь),—вля́ть 1, 祝ス。賀ス 128, III, 4
познако́мить (млю, мишь) 知己ニス。紹介ス—ся 知己トナル。識合フ 128, III, 3
позна́ніе 知識。識通

позолоти́ть (чу́, ти́шь) 滅金ス
позо́рить (рю, ришь) 辱シム。恥ヲ與フ
по́искъ 探索
пои́ть (105, 63) 飲マシム
пойти́ (106, 10) 歩行ス
поймáть 1, лови́ть (влю, вишь) 109, III 捕フ 124, II, 7
пока́ 當分ノ間。何々迄ノ際間
показáть (жу́, жешь),—зывать 1, 示ス。表白ス—ся 見ユル。顯ハル 159, 12
покачáть 1, 揺カス。首ヲ揺ル
покая́ніе 悔悟
покáяться (áюсь, áешься) 悔ユ
покидáть 1,—кúнуть (ну́, нешь) 投ス。放棄ス
поклáжа 積貨
поклевáть (люю, люёшь) 啄ム
поклони́ться (нюсь, нишься) 禮拜ス。伏拜ス
покло́нъ 敬拜 передáйте мой——私ヨリ宜シク御傳ヘ被下度
поко́й 安息。平安。隱居
поко́йникъ 死人
поко́йный (51, 7) 平穏ナル。故人
поко́иться (юсь, ишься) 安心ス。息ム
покорми́ть (млю́, мишь) 飼養ス。育テル
покори́ть (рю́, ришь),—ря́ть 1, 征服ス。服從セシム—ся 降伏ス。服從ス 157,10
поко́рность 3, 從順。順眞
поко́рный 眞和ノ。低心ノ—но,—нѣйше прошу́ 伏シテ請フ
покоро́че (коро́ткій) 簡單ニ。短略ニ
покраснѣ́ть 1, 赤面ス
покрови́тельство 保護。庇蔭
покрови́тельствовать (ствую, ствуешь) 保護ス。庇フ 157, 10
покрыва́ть 1,—кры́ть (105, 5) 覆フ。補フ。隱ス
поку́да 何々ノ間。ソレ迄ノ間
покупáть 1, купи́ть (плю, пишь) 109, II, 2 買フ 116, IX, 6; 121, I, 7, 9 —ся 買ハレル
поку́пка 買物
пола́ 裾
полага́ть 1,—ложи́ть (жу́, жишь) 置ク。定ム—ся 信用ス。置カル。定メラル 125, I, 17
полго́да (84, 6) 半年
по́лдень (22, 7) 正午
по́ле 田野。地。場
полево́й 田野ノ—ва́я мышь 野鼠
поле́гче (лёгкій) 尚輕ク。尚易ク
поле́зный 有益ナル。便益ナル 157, 9
по́лзать 1,—зти́ (106, 5) 108, 3 匍匐ス。諂屈ス
полиза́ть (жу́, жешь) 舐ル
поли́ть (105, 66) 灌ク。水ヲ掛ク—ся 則ニ響キ渡ル。降リ灌ク
полице́йскій (41, II, 3) 警察ノ。
поли́ція 警察
по́лка 棚。架
полко́вникъ 陸軍大佐
полкъ (23, 4) 聯隊。軍隊—ково́дець (22, 1) 將軍
полново́дный 滿水ノ
по́лночь (32, 3) 夜半。深夜
по́лный (52,3) 全キ。充滿ノ 156, IV, 7
полови́на (84, 1-6) 半分
положе́ніе 位置。有樣。說。規程
положи́ть＝полага́ть
полома́ть 1, 挫ク。破損ス—ся 破損サル。反抗ス
полоса́ 線條
полтора (84, 8) 一個半
полтора́ста (84, 8, 9) 百五十
полувселе́нная (41, II, 3) 半世界
полузаму́ченный 半殺シニ遇タル
получа́ть 1,—чи́ть (чу́, чишь) 得ル。貰フ。受ク 116, VIII, 8; 128, I, 9
по́лчаса (84, 6) 半時間
полъ (25, 5) 床。男女ノ性
полъ, пол (＝половина 84, 6) 半
по́льза 利益。効益 въ по́льзу ни́щаго 乞食ノ爲ニ

пóльзоваться (зуюсь, зуешься) 利用ス。乗ズル。保養ス 159, 12
полéно (24, 2) 薪一本
помóлвить (влю, вишь) 縁組ヲ發表ス 121, I, 11
помúловать (лую, луешь) 憐ム。恕ス
помирúть, мирúть (рю, рúшь) 和睦セシム ═ся 和睦ス
пóмнить (ню, нишь) 記憶ス。思起ス
помнóгу 甚タ多ク。夥シク
помогáть 1, ═мóчь (107, 4) 助ク。補助ス
помóщникъ 助役。補助者
пóмощь З, 助佑
помчáться (чýсь, чúшься) 疾駈ス
помѣня́ть 1, 換ヘル。交換ス ═ся 交換ス。交換サレル
помѣстúть (щý, стúшь), ═щáть 1, 置ク。据ユ ═ся 場所トル。居ヲ占ム
помéстье (27, 15) 拝領地
помѣшáть 1, 妨ク。雑フ。擾乱ス
помѣщéніе 居所。位地
помѣщикъ 地主
помянýть (нý, нешь), вспоминáть 1, 記念ス
понадóбиться (блюсь, бишься) 入用ヲ感ス 157, 10
понедѣльникъ 月曜日
понемнóгу 少シツヽ。少許
понестú (106, 4) 荷フ ═сь 疾駈ス лошадь понеслáсь 馬ハ駈飛ダ
понúже (нúзкій) 今少シ低ク
поникáть 1, ═кнуть (ну, нешь) 俯ス。下目ヲ使フ ——головóю 頭ヲ垂ル
понимáть 1, ═нять (105, 1) 解ス。暁トル
понрáвиться (влюсь, вишься) 氣ニ適フ
понятіе 理解。概念
понятливый 穎悟ナル
понятно 解シ易シ。明白ナリ。知レタ事ダ
попадáть 1, ═пасть (106, 20) 命中ス。偶中ス ═ся 出偶フ。抽マル 124, II, 7
поперéчникъ 經線。横幅
поплатúться (чýсь, тишься) 拂濟ス。酬ヲ得ル。
поплы́ть (105, 9) 浮遊ス。航始ム
пополáмъ 等分ニ
попóна 馬衣
поправлéніе 快復、修正
поправля́ть 1, ═вúть (влю, вишь) 矯正ス。改良ス ═ся 全快ス。改善ス
попрóбовать (бую, буешь) 試ム
попросúть = просúть
попустóму 徒空ニ。無益ニ。
попущéніе 宥許。放任。Бóжіе ——神意
порá 時機。期。節
поражáть 1, ═зúть (жý, зúшь) 打ツ。敗ル。驚カス поражённый 驚カサレタル ═жéніе 破壊。敗軍
порáньше (рáннійヨリ) 今少シ早ク
порвáть (105, 84) ═рывáть 1, 破ル。絶ツ
пóровну 平均ニ。等分ニ
порóда 性。類。素性
породúть (жý, дишь), порождáть 1, 産ム。生ズ
порóкъ 惡癖。瑕疵。惡弊
поросёнокъ (24, 8) 豕ノ兒
пóрохъ 火薬
поропóкъ (22, 1) 粉。散剤
портнóй (41, II, 3) 裁縫師
пóртить (чу, тишь) 害ス。傷フ。毀ツ ═ся 腐敗ス。損ハル
портрéтъ 肖像
портсигáръ 巻莨入レ
портъ (23, 4) 港
по-рýсски 露西亜的ニ。露語ニテ
поручéніе 委托。依頼
поручáть 1, ═чúть (чý, чишь) 委托ス ═ся 保證ス 124, II, 7
пóрхать 1, ═хнýть (ну, нёшь) 飛移ル(鳥ノ)
порывъ 激動。感激——вѣтра 風ノ暴發 ═вистый 激迅ナル

порядокъ (22, 1) 順序。秩序
порядочный 順序アル。可ナリノ═но 可ナリニ
посадить (жу́, дишь) 据ユ。植ユ
посвятить (щу́, ти́шь)═ща́ть 1, 叙聖ス。奉献ス——время 時ヲ費ス
посидеть (жу́, ди́шь) 暫時腰掛ク
поскользну́ться (ну́сь, нёшься) 滑ル
поскорее 今少シ早ク。ヨリ疾ク
посла́нникъ 使者。公使
посла́ть (105, 13),═сыла́ть 遣ス。送ル
посло́вица 諺
послуша́ніе 從順
послу́шать 1, 聞ク。從フ═ся 聽從フ 156, VIII
послу́шный 從順ナル
послы́шать (шу, шишь) 聞受ク,═ся 聞ヘル
по́слѣ 後。以後——того́ какъ ノ後
послѣ́дній 最後ノ
послѣ́довать (дую, дуешь) 從フ。次ク
послѣ́дствіе 結果
посмотрѣ́ть (рю́,ришь) 暫ク見ル。眺ム
посмѣ́ть 1, 敢テスル
посмѣ́яться (ѣю́сь, ѣёшься) 少シ笑フ。嘲ケル
пособіе 扶助。參考物
посовѣ́товать (тую, туешь) 相談ヲ與フ。助言ス═ся 相談ス。商議ス
посо́льство (24, 16) 公使館
поспѣва́ть 1,═пѣть 1, 熟ス。捗ドル。間ニ合フ
поспѣши́ть (шу́, ши́шь) 急ク
посреди́ 間ニ。中間ニ
посре́дствомъ ニ藉テ。以テ
поссо́рить (рю, ришь) 爭ハシム═ся 爭フ。喧嘩ス
поста́вить (влю, вишь) 立ツ。定ム。具備ス
постара́ться 1, 心掛ク。努ム
посто́ль 3,═пасте́ль 3
постла́ть (105, 14) 敷ク。床布ヲ敷ク
по́стный 齋日ノ
посторони́ться (нюсь, нишься) 脇ヘ寄ル。退ク
постоя́нный 平常ノ。不斷ノ═но 不斷。常ニ
постро́йка (30, 5) 建築。建物
постро́ить (бю, бишь) 建ツ。編成ス
поступа́ть 1,═пи́ть (плю́, пишь) 行フ。就任ス。入門ス
посту́покъ (22, 1) 行狀。擧動
посу́да 食器
посыла́ть═посла́ть
посѣдѣ́ть 1, 白髮ニナル
посѣти́тель 1, 訪問者
посѣти́ть (105, 116),═ща́ть 1, 訪問ス。見舞フ。赴ク
посѣще́ніе 訪問。見舞。臨席
потемнѣ́ть 1, 暗クナル。日昏ル
потеплѣ́ть 1, 溫暖ニナル
поте́ря 喪失。損耗。遺失物
потеря́ть 1, 失フ
потихо́ньку 靜ニ。徐々。密カニ
потому́ 夫故ニ——что 如何トナレバ——то ダカラサ
пото́мъ 其後
потре́бность 3, 需要。要品
потре́бовать (бую, буешь) 要求ス。請求ス
потрепа́ть, трепа́ть (плю́, плешь) 撫テ觸ル
потруди́ться (жу́сь, дишься) 勞ス
потуши́ть (шу́, шишь) 消火ス。鎭ム
по́тчивать (105, 27) 馳走ス。饗應ス
потыка́ть 1, 刺込ム。衝入レル
потъ (23, 4) 汗
потѣ́ть 1, 汗ヲ流ス
потяну́ть (105, 57) 引張ル
похвала́ 稱贊。頌詞 157, 3
похвали́ть (лю́, лишь) 譽メル═ся 自慢ス。譽ラル
похвата́ть 1, 摑ム。握ル

похи́тить (105, 112),—ща́ть 1, 奪去ル。
奪取ス 116, IX, 6
похо́дка 步行。步キ工合
походи́ть (жу́, дишь) 散步ス。似ル 125,
I, 17
похо́дъ 軍。戰役
похо́жій 似タル
по́хороны (нъ) 葬式
поцѣлова́ть (лу́ю, лу́ешь) 接吻ス
поцѣлу́й 接吻
по́чва 地質
почему́ 何ニ由テ——и 夫故ニ
почёмъ 幾干ヴヽデ это не почёмъ (是レ
ハ幾ラノ價モシナイ)
по́черкъ 手跡。書風
по́честь 2, 尊敬。名譽
почёть 榮譽。敬禮
почита́тель 1, 崇拜者
почита́ть 1, 尊敬ス
почи́ть (105, 77) 存ス。安息ス
по́чта 郵便—то́вый 郵便ノ
почта́лiо́нъ 郵便配夫
почте́nie 尊敬 117, 7—нный 敬スベキ
почти́ 殆ンド。大抵
почти́тельный (51, 7) 敬禮厚キ。謹重ナル
117, 10
почу́вствовать (ствую, ствуешь) 感ス
почу́ять (ую, уешь) 感得ス。嗅附ク
по́ѣздка 旅行
по́ѣздъ 列車(汽車ノ)— туда́ и обра́тно
往復列車
пое́хать (105, 61) 乘行ク
поэ́тому 之ニ由テ
поэ́тъ 詩人
появи́ться (влю́сь, вишься),—вля́ться
1, 現ハル
по́ясъ (24,1) 帶
пра́вда 正義。公道。眞實
пра́ведникъ 義人
пра́вило 方則。規程
пра́вильный (51, 7) 眞直ノ。方正ナル。正
當ノ
прави́тельство (24, 17) 政府
пра́вить (влю, вишь), управля́ть 1, 支配
ス。理ム 159, 12
пра́во 權利。本當ニ
правосла́вный 正教ノ
пра́вый 右ノ。正當ノ。正シキ
пра́дѣдъ,—дѣдушка 曾祖父
пра́здникъ 祭日。祝日
пра́здновать (ную, нуешь) 祭ル。祝フ
пра́ктика 實地。練習
практи́чный 實際ノ
прахъ 塵埃。土
пра́чка 洗濯人
пребыва́ть 1, 滯在ス。在留ス
превзойти́ (106,9), превосходи́ть (жу́,
дишь) 卓越ス 124, II, 7; 159, 12
прегради́ть (жу́, ди́шь),—жда́ть 1, 遮ル
продава́ть 1, (даю́, даёшь)—да́ть (105,
95) 交附ス。渡ス—ся 耽ル。信服ス
преда́nie 傳。交附
пре́данный 忠順ナル。信服ノ
преда́тель 1, 反逆者。變心者
предводи́тельство 引率。先導。指揮—тель
1, 先導者。指揮者
предводи́тельствовать (вую, вуешь) 指
導ス 159,12
предлага́ть 1,—ложи́ть (жу́, жишь) 供
ス。前ニ置ク。勸メル 121, I, 7
предло́гъ 辭柄。前置詞
предложе́nie 文句。成句。提供。申込
предме́тъ 事物。題目
пре́докъ (22, 1) 先祖
предоста́вить (влю, вишь),—вля́ть 1,
委任ス。許與ス
предостерега́ть 1,—стере́чь (107, 5)
豫戒ス 116, VIII, 9
предохрани́ть (ню́, ни́шь),—ня́ть 1,
豫防ス。保安ス 116, VIII, 9
предполага́ть 1,—ложи́ть (жу́, жишь)
豫想ス。假定ス

предположе́ніе 豫想。假定
предпочте́ніе 特重。尊重(他ニ比シテ)
предпринима́ть 1,—ня́ть (105, 1) 企ツ。計畫ス
предпріи́мчивый 企謀ノ。計畫好ナル
предпрія́тіе 計畫
пре́дставля́ть 1,—вить (влю, вишь) 代表ス。演ス。表象ス
представле́ніе 表象。演技
представи́тель 1, 代表者
предста́ть (105, 102) 前ニ立ツ。出頭ス
предстоя́ть (ою́, ои́шь) ス可キヲ要ス。前ニ立ツ。逼リ居ル 157, 10
предубѣжде́нный 先入ノ。偏執ノ
предупреди́ть (жу́, ди́шь),—жда́ть 1, 警戒ス。先ンズ。豫告ス
предъ, пе́редъ 123
преде́лъ 境界。疆域。分限
пре́жде (прежній) 以前。前ニ——чѣмъ ニ先ツテ
пре́жній (59, 2) 以前ノ по-пре́жнему 以前ノ通リ
презре́ніе 嫌厭。蔑視 117, 7
преиму́щество 特異點。特權 по—ву 殊ニ
прекосло́вить (влю, вишь) 反口ス。言フ
прекра́сный 結構ノ。美事ナル。華美ナル
прекрати́ть (щу́, тишь),—ща́ть 1, 絕ツ—ся 消滅ス。斷絕ス
пре́лесть 3, 美好。優美 что за—如何ナル美事ゾ
прельсти́ть (щу́, сти́шь),—ща́ть 1, 誘惑ス。迷ハス—ся 氣ヲ奪ハル。惚レル
пренебрега́ть 1,—бре́чь (107, 1) 輕蔑ス。等閑ニ付ス 159, 12
пренебреже́ніе 輕蔑。等閑
преобрази́ть (жу́, зи́шь) 改革ス。改造ス
препя́тствіе 妨害。障碍
препя́тствовать (ствую, ствуешь) 妨ク
прерва́ть (105, 84),—рыва́ть 1, 中斷ス。絕ツ
преслѣдовать (дую, дуешь) 追蹤ス。追害ス—ваніе 追害。追擊
преспоко́йно 安閑トシテ。樂々トシテ
преступле́ніе 犯罪
при 117 ノ傍ニ。ノ際
прибавка 附加。增加
прибавить (влю, вишь),—вля́ть 1, 附加ス。增ス—ся 加ハル。附加セラル 117, 5
прибива́ть 1,—би́ть (105, 82) 打附ケル 117, 5
приближа́ть 1,—зить (жу, зишь) 近ツケル—ся 近ツク。親近ス—жённый 近侍
приближе́ніе 近接
прибре́жный 沿岸ノ
прибѣга́ть 1,—гнуть (гну, гнешь) 救助ヲ乞フ 117, 6
прибѣжа́ть (105, 71),—бѣга́ть 1, 馳來ル
прибы́ть (99) 到着ス。增ス
привлека́ть 1,—вле́чь (107, 8) 惹ク。誘フ
привезти́ (106, 1),—вози́ть (жу́, зишь) 運途ス。運ヒ來ル
привести́ (106, 16),—води́ть (жу́, дишь) 伴行ク。引用ス。誘引ス
привлека́ть 1,—вле́чь (107, 8) 招致ス。引ク 117, 6
приво́льный 便利ナル。自在ナル
привыка́ть 1,—кнуть (кну, кнешь) 慣ル 117, 6
привы́чка 習慣
привѣтливый 鄭重ナル。慇懃ナル 117, 10
привѣтствіе 敬禮。挨拶。會釋 157, 3
привѣтствовать (ствую, ствуешь) 迎接ス。歡迎ス
привѣтъ 鄭重ナル挨拶 157, 3
привя́занность 3, 愛着。懷慕
привяза́ть (жу́, жешь),—зывать 1, 繋ク。懷ケル—ся 懷ク。繋カル 117, 6
пригласи́ть (шу́, си́шь),—ша́ть 1, 招ク

приговáривать 1, 附ケテ言フ
приговорúть (рю́, рúпь) 宣告ス 117, 6
приговóръ 宣告
прúгородный 市町附近ノ。近在ノ
придáвливать 1,—давúть (влю́, вишь) 壓シ着ケル
придáное (41, II, 3) 持參物(嫁ノ)
прúдворный 宮中ノ。宮廷吏
придéрживаться 1, 操守ス。支ヘラル 156, VIII
придтú (106, 9),—ходúть (жу, дишь) 來ル—сь 場合ニ陷ル
придѣлывать 1,—дѣлать 1, 造リ加フ。爲シ終ル 117, 5
прижáть (105, 72),—жимáть 抱シメル。壓迫ス
призадýмываться 1,—маться 1, 少シ思案ス
призвáть (105, 83),—зывáть 呼寄ス。呼出ス
признавáть 1,—нáть 1, 認ム。認定ス 121, I, 9—ся 認メラル。自白ス 124, II, 7; 159, 12
признáтельность 3, 感恩。深謝
призрѣвáть 1,—зрéть 1, 眷顧ス。救濟ス
приказáніе 命令。指令
приказáть (жу́, жешь),—зывать 1, 命令ス。指令ス
прикладывать 1, приложúть (жу́, жишь) 附ス。置ク 117, 5
приклéивать 1,—ить (éю, éишь) 貼着ケル (糊膠ニテ) 117, 5
прикомандирóвать (рýю, рýешь) 出張ニ隨從セシム 117, 5
прикрѣпúть (плю́, пишь),—плять 1, 固ム。固着セシム
прилежáніе 勉勵
прилéжный 勉勵ノ—но 丹精ニ。努メテ
прилетáть 1,—тéть (чу́, тúшь) 飛來ル
прилúчествовать (ствую, ствуешь) 適當ス。應分ス。相應ス
прилúчіе 禮節。適宜
прилúчный 適當ナル。分ニ適フタル
примкнýть (ну́, нёшь),—мыкáть 1, 閉ツ。附着ス。近接ス
примѣривать 1,—рять 1,—рить (рю, рить) 度ル。寸法ヲ取ル
примѣръ 例。模範 на—例ヘバ
примѣрный 模範的ノ
примѣчáть 1,—мѣтить (чу, тить) 見止ム。目ヲ着ク
принадлежáть (жу́, жúть) 屬ス 117, 6
приноравливаться 1,—ровúться (влю́сь, вúшься) 準ス。適應ス 117, 6
принестú (106, 4),—носúть (шу́, сишь), 持來ル。捧ク。生產ス
принимáть 1,—нять (105, 1) 受ク。思ヒ受ク—ся 着手ス。採用セラル 121, I, 6
принуждáть 1,—нýдить 强迫ス。强ヒ—нуждённый 强ラレタル
принуждéніе 强迫
припоминáть 1,—пóмнить (ню, нишь) 記憶ス 157, 10
прирóда 自然。天性。蔦有
прирóдный 天然ノ。生來ノ
присáживаться 1,—сéсть (106, 22) 仕事ノ爲ニ着座セシメラル
прискакáть (чу́, чешь) 馳來ル。跳着ク
прислáть (105, 13),—сылáть 1, 遣ハス。送致ス
прислýга 僕婢。召使
присмáтривать 1,—мотрéть (рю́, ришь) 監視ス。見張ル—ся 視察ス 116, 6
присмирéть 1, 穩ニナル
присмóтръ 監視。注目
присовокупля́ть 1,—пúть (плю́, пúшь) 附加ス 117, 5
присоединя́ть 1,—нúть (ню́, нúшь) 合ース 117, 5
пристрáивать 1,—рóить (рóю, рóишь) 增築ス 117, 5

пристрасти́ться (щу́сь, сти́шься) 耽ル 117, 6
приступа́ть 1,—пи́ть (плю́, пишь) 着手ス。近ク 117, 6
при́ступъ 襲撃。接近。着手
присужда́ть 1,—ди́ть (жу́, дишь) 審議シテ與フ 117, 6
прису́тствіе 存在 потеря́ть—ду́ха 氣オクレス въ—віи бра́та 兄弟ノ臨席ニ於テ
прису́тствовать (ствую, ствуешь) 存在ス。居合ハス。臨席ス
присыла́ть=присла́ть
присѣ́сть=приса́живаться
присяга́ть 1,—гну́ть (гну́, гнёшь) 宣誓ス 125, I, 17; 157, 10
притвори́ться(рю́сь, ришься),—ря́ться 1, 佯ル。假擬ス 159, 12
прито́къ 支流。充積
при́тча 比喩
приходи́ть=придти́
прихо́дъ 入來。入金。檀家
прихо́жая (41, II, 3) 扣室
прицѣ́ливаться,—литься (люсь, лишься) 狙フ。照準ス
прицѣ́лъ 表尺(銃ノ)
причаща́ться 1, —сти́ться (щу́сь, сти́шься) 領聖ス 156, VIII
причи́на 源因 117,9
причини́ть (ню́, ни́шь),—ня́ть 1, 招ク(結果ヲ)。來タス
причисля́ть 1,—лить (лю, лишь) 枚擧ス。計算ス 117, 5
пришпо́ривать,—рить (рю, рищь) 刺ス(靴ノ刺金ニテ)
пріёмный 收納ノ。迎受ケノ—сынъ 養子—день 應接日
пріёмъ 面謁。服量。接待
пріобрѣсти́ (106, 28),—рѣта́ть 1, 得ル。求ム
пріобрѣ́теніе 得物。所得
пріуча́ть 1,—чи́ть (чу́, чишь) 馴ラス。習ハス—ся 習得ル。馴ル 117, 6
пріѣ́здъ 乘込。到着
пріѣзжа́ть I,—ѣ́хать (105, 61) 乘來ル。來着ス
пріѣ́зжій (41, II, 3) 渡來ノ。乘行キノ
прію́тъ 養育院。避難所。慈善院
прія́тель 1, 好友。懇意ノ人
прія́тный 快ナル。適意ノ
про 118, I 通越ヘテ。ノ事
пробива́ть 1,—бить (105, 82) 開通ス。打込ム
пробормота́ть (чу́, чешь) 口籠リテ言フ
пробра́ться (105, 16),—бира́ться 1, 潜リ通ル
про́бовать, попро́бовать (бую, буешь) 試ム
пробужда́ться 1,—буди́ться (жу́сь, дишься) 目醒ム
пробы́ть (99) 居留ス。暮シ通ス
пробѣжа́ть (105, 71) 走リ通ル(間ヲ)
проваля́ться 1, 久シク臥ス。横タハリ居ル
провезти́ (106, 1),—вози́ть (жу, зишь) 運送ス。運ビ通ス
провести́ (106, 16),—води́ть (жу́, дишь) 送リ越ス。伴レ通ス。撫チ通ス
прови́зія 糧食
провини́ться (ню́сь, ни́шься) 過失ニ陷ル 123, II, 3
прови́нція 地方。田舍—ціа́лъ 地方ノ人
провіа́нтъ 兵粮
проводни́къ 案内者
провожа́ть 1,—води́ть (жу́, дишь) 案内ス。送ル(時ヲ)。送別ス
провозглаша́ть 1,—си́ть (шу́, си́шь) 宣言ス。告示ス 159, 12
провози́ть=провезти́
провози́ться (жу́сь, зишься) (俗語) 世話ガ燒ケル

провóрный 敏捷ナル—но 素早ク
проглáтывать 1,—глоти́ть (чу́, тишь) 呑入ル
проговори́ть (рю́, ри́шь) 言ヒ切ル。口ニ出ス
прогоня́ть 1,—гнать (105, 15) 逐出ス。放逐ス
прогрызáть 1,—гры́зть (106, 2) 嚙穿ル
прогу́ливаться 1,—ля́ться 1, 散歩ス。逍遙ス
прогу́лка 散歩。逍遙
продавáть (даю́, даёшь),—дáть (105, 95) 賣ル—ся 賣ラルヽ 121, I, 7, 9
продиктовáть (тую, туешь) 口授ス
продовóльствіе 給養物。生計品
продолжáть 1,—жить (жу, жишь) 續ケル。延ス—ся 續ク。延ビル
продолжéніе 間。續キ въ——間ニ於テ
продолжи́тельный (51,7) 引續キタル。長キ
проду́ктъ 產物
продѣ́лка 詭行。惡戲
прождáть (105, 97) 待通ス
проживáть 1,—жи́ть (105, 76) 生活ス。活計ス
прозвáть (105, 83),—зывáть 1, 綽名ヲ附ク—ся 綽名サル прозвáніе 綽名
прозрáчный 透明ノ
прозя́бнуть (ну, нешь), 冷凍ヘル。芽ヲ出ス
произвести́ (105, 16),—води́ть (жу́, дишь) 製造ス。作爲ス
произвóдство (24, 16) 製作。構成。執行
произнести́ (105, 4),—носи́ть (шу́, сишь) 發言ス
произношéніе 發音。讀聲。發言
происходи́ть (жу́, дишь), произойти́ (106, 9) 116, VIII, 8 生ス。發ス
происхождéніе 發生。素性
пройти́ (106, 10),—ходи́ть (жу́, дишь) 通行ス
проклинáть 1,—кля́сть (106, 32) 詛フ
прокричáть (чу́, чи́шь) 絕叫ス
прокурóръ 撿事。省ノ長官
пролежáть (жу́, жи́шь) 臥通ス。臥過コス
проливáть 1,—лить (105, 66) 流ス。注グ—ся 流レ出ル。淋ル
проложи́ть (жу́, жишь), проклáдывать 1, проклáсть (106, 18) 通設ス。布設ス
промокáть 1,—кнуть (ну, нешь) 濡透ル。ビシヨ濡ニナル
промóлвить (влю, вишь) 言出ス。吐露ス
прóмыслъ Бóжій 神ノ接理
промѣня́ть 1,—нивать 1, 交換ス 125, I, 17
проникáть 1,—кнуть (ну, нешь) 貫ク。徹通ス。浸入ス
проны́ра (38) 奸計者
пропадáть 1,—пáсть (106, 20) 紛失ス。亡ブ。無効トナル—пáжа 紛失
прописáть (шу́, шешь) 書通ス。處方ヲ書ク
пропитáть 1,—тывать 1, 養フ。加フ
проповѣ́дникъ 說教師
проповѣ́дывать (105, 26),—дать 1, 說教ス
прóповѣдь 3, 說教
пропѣ́ть (105, 31) 歌ヒ通ス
прорвáть (ву́, вёшь),—рывáть 1, 突壞ル。引裂ク
прорóчество (24, 16) 豫言
прорѣ́зывать 1,—зать (жу, жешь) 切穿ツ。切拔ス
просвѣщéніе 文化。教育
просёлочный 村間ノ
проси́тель 1, 請願者
проси́ть, по—(шу́, сишь) 請願ス 116, IX, 6; 121, I, 8; 126, II, 5; 128, I, 9; 151, III, 4
прослáвиться (влюсь, вишься) 榮ユ 159, 12
прослужи́ть (жу́, жишь) 勤メ通ス
прослу́шиваніе 答ヲ聞ク。聞キ通スコ

прослу́шивать 1,—шать 1, 聞キ通ス
просмотре́ть (рю́, ришь),—сма́тривать 1, 検閲ス。見落ス
просмо́тръ 検閲。遺漏
проснýться (нýсь, нёшься),—сыпа́ться 1, 目醒ム
просо́хнуть (ну, нешь),—сыха́ть 1, 乾シ透ス
проспа́ть (105, 91),—сыпа́ть 1, 眠通ス。眠過ス
просро́чка 期限超過
просто́й (59, 5, 3) 單純ノ。質朴ノ。容易ナル。平凡ノ
простоя́ть (тою́, тои́шь) 立通ス
просту́да 感冒
простуди́ться (жу́сь, дишься),—ту́живаться 1, 風ヲ引ク
просу́шивать 1, просуши́ть (шу́, шишь) 乾上ゲル
просыпа́ть 1, просы́пать (плю, плешь) 散ラス (粉等ヲ)
про́сьба (30, 5, 1) 請願。歎願 116, IV, 7
протека́ть 1,—те́чь (107, 13) 過流ス。經過ス。漏ル
протеста́нтъ 基督新教派—тскій 同上ノ
проти́виться (влюсь, вишься) 反抗ス 157, 10
проти́вникъ 反對者
противополо́жный 對向ノ。反對ノ
проти́вный 反對ノ。氣ニ適ハヌ 157, 9
про́тивъ 反對シテ。向テ
протя́жный 延長シタル
протяну́ть (ну, нешь),—тя́гивать 1, 伸バス。延長セシム
профе́ссоръ (24, 1) 教授
прохла́дный 涼シキ。冷淡ナル
проходи́ть=пройти́
прохо́жій (41, II, 3) 通行人
проче́сть (106, 31), — чи́тывать, — чита́ть 1, 讀通ス
про́чее (68, 2) 他ノ。外ノ。餘ノ
прочь 脇ヘ往ケ。其處ヲ除ケ не— イヤデモナイ
проше́нie 請願。請願書
пропепта́ть (чу́, чешь) 呟ク
про́шлый 過去リシ。去ル——годъ 昨年
проща́нie 暇乞
прощéнie 宥恕。赦免
проща́ть 1,—сти́ть 赦免ス прощáйте 左樣ナラ—ся 暇乞スル 128, III, 3
проѣзжа́ть 1,—е́хать (105, 61) 通リ越ス。通行ス
прутъ (24, 2) пру́тикъ 枝。小枝
пры́гать 1,—гнуть (гну, гнешь) 跳ル。躍ル
прямо́й 直ナル。實直ノ пря́мо 直チニ。マ直クニ
прясть (106, 21) 紡ク
пти́чій, чье, чья 鳥ノ。鳥類ノ
пти́ца, пти́чка 鳥。小禽
пу́бlика 公衆
пу́бли́чный 公ノ。公開ノ。公衆ノ
пу́говица,—вка 鈕
пузырёкъ (22, 2) 球壜
пукъ (пучёкъ) 把。束
пуска́ть 1,—сти́ть (щу́, стишь) 放ス。投ス пускай 勝手ニセヨ。ヨシヤ—ся 投身ス。進發ス
пусто́й 空ナル。無益ノ。愚ナル
пусты́ня 荒野。砂漠
пусть 1, 空漠トナル
пусти́к (ко́въ) 空妄。些屑
путеше́ственникъ 旅行者
путеше́ствie 旅行
путеше́ствовать (ствую, ствуешь) 旅行ス
путь (31, 1 ; 32, 5) 途。道 117, 9
пучёкъ=пукъ
пуши́стый 毛深キ (草木、禽獸ノ)
пу́шка 大砲
пыла́ть 1, 燃ユ。激ス пылъ 焔。激怒
пы́лкій 性急ナル。激シ易キ

пыль 3, 塵。埃═ный 塵多キ
пыта́ть 1, 試驗ス。拷問ス═ся 自カラ試ム。計ル
пья́ный 酩酊ノ。醉漢
пья́ница (38) 飲拔ケ (酒癖者)
пѣве́цъ (22, 1) 歌手 пѣви́ца 女優。歌妓
пѣ́вчій (41, II, 3) 唱歌者。吟聲ヲ有スル
пѣ́на 泡
пѣни́ться (нюсь, ни́шься) 泡ヲ立ツ
пѣ́ніе 唱歌
пѣ́сня (30, 6) (пѣ́сенка) 歌
пѣту́хъ (пѣтушо́къ 22, 1) 雄鷄
пѣть (105, 31) 歌フ
пѣхо́тный 步兵ノ
пѣ́шій (41, II, 3) 徒步ノ。步者
пѣшко́мъ 徒步シテ
пя́тка, пята́ 踵
пятокъ (22, 1) 五個
пя́тница 金曜日
пятно́ 汚點

P.

рабо́та 工事。事業。勞 испо́лненная═ 仕上ゲタル作
рабо́тать 1, 作ル。勞働ス
рабо́тникъ, 職工。工夫═ница 女工
рабо́чій (41, II, 3) 勞働者。勞働ノ═день 作工日
рабъ 奴隷
равни́на 平原。平地
равновѣ́сіе 平衡。平均力
равноде́нствіе 晝夜平分 (春分。秋分)
равноду́шіе 冷淡。平氣═шный 117, 10
ра́вный 平等ナル。均一ナル═но 同シ。均シ всё равно́ ドウデモ宜シ。同シク
равня́ть, с═1, 平均ス。一樣ニス。同クス
ра́ди 116, III ノ爲ニ
ра́довать (дую, дуешь) 悦ハス═ся 悦ブ 157. 10
ра́достный 悦ハシキ。樂シキ
ра́дость 3, 喜悦
радýніе 懇懃。懇切═шный 懇懃ナル
радъ (52, 3) 喜バシ。嬉シ 157, 9
радѣ́ніе 配慮。盡力
радѣ́ть (104, I, 7) 配慮ス。盡力ス。世話ス
разбива́ть 1, ═би́ть (разобью́ 105, 82) 打砕ク。破毀ス
разбира́ть 1, разобра́ть (разберу́ 105, 16) 分解ス。辨識ス。評論ス
разбо́йникъ 盜賊。暴漢。剽盜
разбо́рчивый 辨ヘ深キ。精撰ノ。明白ナル
разбуди́ть (жу́, дишь) 目ヲ醒サシム。眠ヲ覺サシム
разбѣ́гъ 急走
развáлина 墟址。廢趾
развести́ (106, 16), ═води́ть (жу́, дишь) 蕃殖サス。分配ス。離婚ス═сл 發生ス。開ハル
развива́ть 1, ═ви́ть (разовью́ 105, 85) 啓發サス。發展ス。解ク═ся 發達ス。開發ス
разви́тіе 發達。啓發
ра́звѣ 豈ニ。乎(疑ヲ抱テ問フ)
развяза́ть (жу́, жешь), ═зывать 1, 解ク。放免ス
разгова́ривать 1, 談話ス。相語ル
разгово́ръ 談話。會話
разгорѣ́ться (рю́сь, ри́шься) 熾ニ燃ユ。紅ク燒ケル
разгра́бить (блю, би́шь) 掠奪ス
разграфи́ть (флю, фи́шь) 分界ス。罫ヲ引ク
разгрыза́ть 1, ═гры́зть (106, 2) 嚙碎ク
раздава́ть (даю́, даёшь), ═да́ть (105, 95) 分配ス。割與ス═ся 嚙渡ル。分與サル
раздира́ть 1, разодра́ть (105, 18) 裂ク
раздражи́тельный 激シ易キ。刺衝シ易キ
раздроби́ть (блю́, би́шь), ═бля́ть 1, 小分ス。細ニ碎ク

раздѣва́ть 1,—дѣ́ть (105, 29) 脱衣サス —ся 脱衣ス
раздѣли́ть (лю́, лишь),—ля́ть 1, 分割ス
раздѣ́лъ 分離。分配
раззолоти́ть (чу́, тишь) 鍍金ス
разлива́ться 1,—ли́ться (105, 66) 氾濫ス。溢ル
различа́ть 1,—чи́ть (чу́, чи́шь) 見分ク。差別ス。區別ス
разли́чіе 差別。區別
разли́чный 各種ノ。種々ノ
разлуча́ть 1,—чи́ть (чу́, чишь) 離ス。別ツ —ся 離。訣別ス
размышля́ть 1,—мы́слить (105, 69) 思想ス。熟考ス
размѣ́нивать 1,—мѣня́ть 1, 交換ス。兩替ス (小錢ニ) 125, I, 17
размѣ́ръ 分量。寸度
ра́зница 差異
ра́зный 種々雜多ノ
разозли́ться (лю́сь, ли́шься) 激怒ス
разори́ть (рю́, ри́шь),—ря́ть 1, 破壞ス。荒ス。破産ス
разочарова́ніе 失望。自失(按ニ相違シテ)
разруби́ть (блю́, бишь),—ба́ть 1, 切斷ス
разруша́ть 1,—шить (шу, шишь) 破毀ス。破滅ス —ся 滅裂ス。破滅サル
разрыва́ть 1,—ры́ть (105, 8) 堀散ラス
разрѣ́зать (жу, жешь),—зывать 裁斷ル。分裁ス
разрѣша́ть 1,—ши́шь (шу́, ши́шь) 決ス。解ク。放釋ス
разрѣше́ніе 決定。認可
разря́дъ 等級。部類
разсерди́ть (жу́, ди́шь) 激セシム。怒ラス —ся 激怒ス
разсвѣта́ть (а́етъ), разсвѣсти́ (106, 29) 夜明ケル。天明トナル
разсвѣ́тъ 黎明
разсказа́ть (жу́, жешь),—зывать 1, 物語ル
разска́зъ 物語。譚 —скащикъ 話者
разслы́шать (шу, шишь) 聞取ル。聞別ケル
разсмотрѣ́ть (рю́, ришь),—сма́тривать 1, 注視ス。熟視ス
разсмѣши́ть (шу́, шишь) 笑ハセル
разсмѣя́ться (ю́сь, ёшься) 笑フ
разстава́ться (та́юсь, таёшься),—ста́ться (105, 102) 訣別ス。離ル
разставля́ть 1,—вить (влю, вишь) 配置ス
разстёгиваться 1,—стегну́ться (ну́сь, нёшься) 鈕ヲ脱ス
разстила́ть 1, разостла́ть (105, 14) 配布ス。廣ケ敷ク
разстоя́ніе 距離
розстро́ить (ро́ю, ро́ишь),—ивать 1, 調子ヲ亂ス。害ス —ся 亂ル。不調トナル
разстро́йство 亂調。壞亂。亂脈
разсуди́тельный (51, 7) 思慮アル。分別アル
разсужде́ніе 議論。判論。討論
разсужда́ть 1,—суди́ть (жу́, дишь) 議論ス。討論ス
разсче́сть (106, 31),—счита́ть 1,—счи́тывать 1, 計算ス。支拂フ —ся 勘定ヲ濟ス
разсчётъ=расчётъ
разсыпа́ть 1, разсы́пать (105, 2) 撒布ス。落散ラス
разсѣ́янный 頓狂ナル —ность 3, 頓狂
разумѣ́ется 勿論。如何ニモ
разумѣ́ть (104, I, 7) 解ス
разъ 一度。回 какъ—恰度。スツカリ
разъѣзжа́ть 1, 乘廻ル。諸方ヲ巡行ス
разъѣ́хаться (105, 61) 乘去ル (會ヲ散シテ)。見失フ (乘車ニテ)。通過ス (兩方ヨリ摩合フテ)
разыска́ть (щу́, щешь),—кивать 1, 搜索ス
рай (23, 4) 天國
ракъ 蝦 (鋏ハ蟹ノ如シ)

ра́ма 枠。匡
ра́на 創傷
ра́неный 傷ヲ負フタル
ра́нить (ню, нишь) 傷ツケル
ра́нній (59, 2) 早キ。早刻ノ
ра́но 早ク
рапортова́ть (ту́ю, ту́ешь) 報告ス。上申ス
ра́портъ 申上。報告ス
раска́иваться 1, ═ ка́яться (ка́юсь, ка́ешься) 悔悟ス
раскали́ть (лю́, лишь), ═ ливать 1, 赤ク燒ク
раска́тъ 雷ノ響。斜滑ノ地
раскла́дывать 1, ═ кла́сть (106, 18) 配置ス。排列ス
раскла́ниваться 1, ═ кла́няться 1, 面會ノ禮ヲ表ス (垂頭シテ)
разкида́ть 1, ═ дывать 1, 投ケ散ラス。投ケ廣ケル
расколо́ть (лю́, лешь) 打割ル。打裂ク
раскрыва́ть 1, ═ кры́ть (105, 5) 開ク。露ハス。蓋ヲ開ク
распина́ть 1, ═ пя́ть (105, 3) 磔ス
распи́сывать 1, ═ са́ть (шу́, шешь) 割付ケル。彩飾ス ═ ся 受領證ニ署名ス
расплати́ться (чу́сь, тишься), ═ пла́чиваться 1, 拂濟ス
располага́ть 1, ═ ложи́ть (жу́, жишь) 所有ス。配置ス 159, 12 ═ ся 位置ヲ取ル。志ス
расположе́ніе 排列。志向 ── ду́ха 心地
распоряди́тель 1, 管理者。幹事
распоряди́ться (жу́сь, ди́шься), ═ ряжа́ться 1, 取扱フ。管理ス 159, 1
распоряже́ніе 處置。管理
распра́шивать 1, ═ проси́ть (шу́, сишь) 問質ス。究問ス
распродава́ть 1, ═ дать (105, 95) 賣盡ス。賣切ル
распростран́ить (ню́, ни́шь), ═ ня́ть 1, 廣ム。弘ム ═ ся 廣マル。廣大ニナル
распуска́ть 1, ═ сти́ть (щу́, стишь) 解散ス。解放ス ═ ся 散ス。溶ケル
распя́ть ═ распина́ть
растеря́ть 1, 次第ニ紛出ス ═ ся 喪沮ス
расти́ ═ рости́
растопи́ть (плю, пишь), ═ пля́ть 1, 燃ス。溶カス ═ ся 燃ヘ附ク。溶ケル
расточи́тельный 浪費ノ 125, I, 13 ═ но 濫費シテ
расходи́ться, (жу́сь, дишься), разойти́сь (106, 8) 離散ス。不和トナル。出拂フ
расхо́дъ 支出。費用
расхохота́ться (чу́сь, чешься) 哄笑ス。大笑ス
расцвѣта́ть 1, ═ вѣсти (106, 30) 花咲ク
расчётливый ═ разсчётливый 利心深キ
расчётъ 胸算。打算。利得心
расчита́ть 1, ═ разсчитать
расши́рить (рю, ришь), ═ ря́ть 1, 擴張ス。廣ゲル
рвать (105, 84) 引裂ク。摘ム。嘔吐ス ═ ся 引裂ケル。脱レントス
ребёнокъ (24, 3; 32, 9) 兒。孩兒 ребя́та 兒輩。衆卒 (モノドモ)
ревнова́ть (ну́ю, ну́ешь) 嫉妬ス 117, 6
ре́вность 3, 熱心。嫉妬
ревѣ́ть (105, 88) 吼ル。喚叫ス рёвъ 吼聲
результа́тъ 結果。成効
рекоменда́ція 紹介
рекомендова́ть (ду́ю, ду́ешь) 紹介ス
рели́гія 宗教
ремесло́ (24, 16) 工藝。職業
рестора́нъ 料理店
речь, рещи́ (107, 11) 言フ
ржа́вчина 銹
ржать (105, 74) 嘶ク
рискну́ть (ну́, нёшь), ═ кова́ть (ку́ю, ку́ешь) 冒ス (險ヲ)。投機ス
рисова́ніе 繪畫執筆
рисова́ть (су́ю, су́ешь) 畫カク
рису́нокъ 繪畫

рисъ 米
рóбкій 臆病ナル
рóбость 3, 臆病
ровéсникъ 同年ノ人—ница 同年ノ女
рóвный 平ナル。緩カナル—но 平カニ。丁度
ровъ (23, 4) 堀。溝
рогóжка 蓙。席
рогъ (24, 1) 角。角笛
рóдина 生國。故郷
родúтель 父—тели (24, 5) 兩親
родúть (жу, дить), рождáть 1, (109, II, 2) 生ム。起ス—ся 生マル 116, VIII, 8; 159, 12
роднóй 親身。血族ノ
роднá 親族。親類
рóдственникъ 親族,—ница 親族(女)
рожь (32, 2) 裸麥
рóза 薔薇—зовый 薔薇ノ。桃色ノ
роптáть (105, 107) 怨ム。不平ヲ鳴ラス 125, I, 17
рóскошь 3, 奢侈。榮耀
росписка—расписка 受領證
Россія 露西亞
ростú (106, 127) 生長ス
ростъ 身幹 ростомъ 身幹ハ 128-II, 1
рóта 中隊
ротъ (23, 4) 口
рóща 森
рубáшка シヤツ
рубúть (блю, бишь) 伐ル。切ル
рубль 1, ルーブル(凡我一圓)
ругáть, вы—1, 罵ル 159, 12
ружьё (24, 17) 小銃
рукá 手
рукáвъ (24, 1) 袖。河口ノ支流
руководúться (жýсь, дúшься), руководствоваться (вуюсь, вуешься) 指南セラル 159, 12
руковóдство 案內。指南 117, 9
рукопáшный 摑合ノ。拳撃ノ—бой 肉薄ノ接戰(武器ヲ棄テ)
рýкопись 3, 草稿。寫書。手書
рукоплескáніе 拍手
руль 1, 梶
румя́нецъ (22, 1) 紅色
румя́ный 紅色ノ
рýсскій 露西亞ノ Рýскій (41, II, 3) 露西亞人
ручáться 1, 保證ス 124, II, 7
ручéй (22, 6) 小河。溪流
рýчка 柄。把手
ручнóй 手ノ。手馴ラシタル
ры́ба (ры́бка) 魚
рыбáкъ 漁夫
ры́бный 魚ノ—ная лóвля 漁獵
рыдáть 1, 號泣ス。慟哭ス 127, III, 2
рыкáніе 咆哮
рыкáть 1, 吼ユ。咆哮ス
ры́нокъ (22, 1) 市。市場
ры́сью 急步ニテ(馬ノ)
рыть (105, 8) 堀ル—ся 捜索ス(多數ノ物ノ中)
ры́царь 1, 武士
рѣ́дкій (59, 3) 稀有ノ
рѣ́дька (30, 5) 大根。蕪菁
рѣ́зать (жу, жешь) 切ル。屠殺ス。彫ル
рѣкá (рѣ́чка) 河。小河
рѣчнóй 河ノ
рѣчь 3, 詞。演說。句調
рѣшáть 1,—шить (шý, шишь), 決定ス —ся 決心ス。決着ス 125, I, 17
рѣшéніе 決定。決裁
рѣшётка 格子。鐵網
рю́мка 酒盞。
рядъ (23, 4-5) 列。列次。連續 рядомъ 相連リテ。相並ヒテ

С.

сáбля 刀。劍
садúть (жý, дить), сажáть 1, 据ヘル。植ユル

садúться (жýсь, дúшься), сéсть (105, 22) 腰掛ク。坐ス 121, I, 1
садóвникъ 園丁
садъ (сáдикъ) (23, 4) 園。庭
сáжень, сажéнь (32, 7) 尺度ノ名(我七尺強)
самовáръ 茶鼎
самолюбúвый 自愛ノ。我利的ノ
самоувéренный 自信強キ。自惚ナル —ность 3, 自信。自惚
самоýчка (38) 獨學者。自修者
самъ (68, 6) 自身。自ラ самó собóю 自然ト
сáмый (68, 7) 眞ノ。最モ。極テ въ сáмомъ дéлѣ 本ニ
сáни (нéй) (37, I, 2), —ночки 雪車。橇
сапóгъ (24, 14) 長靴
сарáй 物置
сáхаръ 砂糖 —ный 砂糖ノ —— песóкъ ザラメ
сберегáть I, —рéчь (107, I) 保存ス。貯フ。大切ニス
сбóръ 集合。勢揃。摘取 сбóры 支度。用意
сбѣгáть I, сбѣжáть (105, 71) 馳下ル —ся 群集ス。馳附ク
сбѣгать I, 馳テ往復ス
свáдьба (30, 5) 婚禮
свалúть (лю́, лишь), —ливать I, 倒ス,
свáтать I, по—媒妁ス 121, I, 11
сверкáть I, —кнýть (нý, нёшь) 閃ク。輝ク
свернýть (нý, нёшь) 路ヲ轉ス
свéрху 上ヨリ。上ニ
сверхъ 上ニ。以上 —— того́ 其上ニ —— ожидáнія 案外ニ
свидáніе 面會。密會。會見
свидѣтель I, 證人
свидѣтельство (24, 16) 證據
свинéцъ (22, 1) 鉛
свинья́ (свúнка) 豕
свирѣпость 3, 猛烈。殘忍 —ный 猛烈ナル
свистáть (щý, щешь), —стѣть (щý, стишь) —стнуть (ну, нешь) 嘯ク
свисть 口笛。嘯
свúта 從者。供奉
свобóдный 自由ナル。隨意ノ —ное врéмя 閑暇
своевóльный (51, 7) 自恣ナル。我儘ナル
свозúть (жý, зишь), свезти́ (106, I) 伴行ク。運送ス
свой 自身ノ。自身ニ屬スル所ノ
свóйственный 生得ノ。固有ノ。特色ノ
свóйство (24, 16) 特質。性質
свыкáться I, —кнýться (нýсь, нешься 熟慣ス。馴ル
свѣдѣніе 通知。知識
свѣжій (59, 4) 新鮮ナル。
свѣтúть (чý, тишь) 光ル。照ル
свѣтлый 光明ナル。喜バシキ
свѣтъ 光。世界。社會
свѣчá (30, 9), —чка 蠟燭
связáть (жý, жешь), —зывать I, 結フ。束ル。縛ル
связка 束。把
святки (токъ) 基督降誕祭ヨリ洗禮祭マテノ期日 (十二月廿五日ヨリ一月六日迄ノ間)
святóй (59, 5, 3) 聖ナル
священникъ 司祭(中位僧職)
сговáриваться I, сговорúться (рю́сь, рúшься) 申合ス。相約ス。商議ス
сгóрбиться (блюсь, бишься) 背ヲ高スル (猫ガ延上リテ)
сгорáть I, —рéть (рю́, рúшь) 燒失ス。焦ル
сдавáться (даю́сь, даёшься), сдáться (105, 95) 降服ス
сдвигáть I, —нуть (ну, нешь) 推動カス。引寄セル
сдéрживать I, —жáть (жý, жишь) 制ス。支ユ —ся 支ヘラル。制セラル
сдёрнуть (ну, нешь), —ргивать I, 剝ク。皮ヲ剝ク
сдѣлать I, 作ル。爲ス。行フ —ся 爲ル 145, 11; 159, 12

сего́дняшній 今日ノ
сейча́съ 直チニ。即刻
секре́тничать 1, 秘シ行フ。秘密話ヲ爲ル
селе́ніе 村落
селя́ться (ля́юсь, ля́шься) 居住ス。移住ス
село́ 里(寺院アル村)
семе́йство (24, 16) 家族
семидесятиле́тній 七十歳ノ
семина́рія 宗教中學。師範校—рскій 仝上ノ—ри́стъ 仝學生
семья́ (=семе́йство ト同シ)
сентя́брь 九月—рскій 九月ノ
сердечный 實意アル。親愛ノ。哀情ノ
серди́ть, раз—(жу, дишь) 激セシム。怒ラス—ся 怒ル 125, I, 17
сердобо́льный 慈悲深キ。憫察ノ
се́рдце 心。心臟
серебре́ный, серебря́ный 銀ノ。銀製ノ
серебро́ 銀
сестра́ (30, 5 備考 2), (сестри́ца) 姉妹 ——милосе́рдія 慈惠姉妹
серьга́ (30, 5) 耳環
серьёзный 老實ナル。眞面目ナル
сестри́нъ (47, 1) 姉妹ノ
сжа́литься (люсь, литься) 憫ム 119, 3
сжать (105, 72), сжима́ть 1, 壓迫ス。搾ル。縮メル
сжига́ть 1, сжечь (105, 72) 燒盡ス
сиде́ть (жу́, ди́шь), си́живать 1, 腰掛ル。坐ス
си́зый (59, 5, 2) 鳩羽鼠色
си́ла 勢力。力
си́льный (51, 7) 強キ。勢力アル
симпати́чный 愛嬌アル。人好キノスル
си́ній 青キ
сирота́ (38) 孤
сія́тельство 公伯爵ニ對スル敬稱 ва́ше—— 閣下(公伯爵ノミニ云フ)
сія́ть (105, 37) 光ル。輝ク
сказа́ніе 物語。說話
сказа́ть (жу́, жешь), —зывать 話ス。語ル。言フ
ска́зка (30, 5 備考 2) 昔話
скала́ 岩石
скаме́йка (30, 5), —ме́ечка, —мья́ 長腰掛
ска́терть 3, 卓布。机掛ケ
сквёрный 不貞ナル。粗惡ナル。汚ナル
сквози́ть (и́ть, и́ло) 吹通ス(閉タル窓ヨリ) 148, 7
скворе́цъ (22, 1) (скво́рушка) 椋鳥
скита́ніе 流浪。漂泊
скла́дчина 出シ合ノ金。醵集
скла́дывать 1, сложи́ть (жу́, жишь), скласть (106, 18) 積重ヌ。合計ス。下ロス—ся 積重ラル。卸ロサレル
склони́ть (ню́, нишь), —ня́ть 1, 傾ケル。說服ス—ся 傾ク。從フ 117, 6
скокну́ть, скакну́ть (ну́, нёшь), скака́ть 1, 跳越ス。跳躍ス
скола́чивать 1, —лоти́ть (чу́, тишь) 打落ス。打緊ム
сколь (коль, ско́лько) 幾許。何程
ско́лькій 幾許ノ
ско́лько 幾許——ни 幾ラ……トモ—— сто́лько ダケソレダケ
сконфу́зить (жу, зишь) 羞ヲ與フ—ся 羞ヲ含ム
скончáться 1, 死ス。終ル
скопля́ться 1, —пи́ться (плю́сь, пишься) 積聚ス。集合ス
скорлупа́ 殼
ско́рый 速ナル。急ナル——по́ѣздъ 急行列車 какъ мо́жно скоре́е 成ルベク速カニ
скотъ 家畜 ме́лкій——小家畜 кру́пный——大家畜
скрежета́ть (105, 108) 切齒ス
скрести (106, 12) 削ル
скри́пка 提琴(バイオリン)
скро́мный 謙ナル。溫和ナル。質素ナル
скрыва́ть 1, —рыть (105, 8) 隱ス。秘ス —ся 隱ル。潛ム
скры́тный 隱蔽ノ。秘シタル
ску́дный 缺乏ノ。貧シキ

скýка 退屈。鬱憂
скупáть 1,—пúть (плю́ пишь) 買占ム。買集ム
скупúться (плю́сь, пúшься 吝嗇ス
скупóй 吝嗇家 125, I, 13
скýпость 3, 吝嗇
скучáть 1, 退屈ス
скýчный 退屈ナル。困倦的ノ
слáбкій (59, 3) 弛ルキ。緩キ
слáбость 3, 衰弱。薄弱。缺點
слáбый 弱キ。薄弱ノ 124, II, 6; 159, 5
слабéть 1, 弱クナル。衰フ
слáва 光榮。名譽——Бóгу 難有ヤ
слáвиться, про—(влюсь, вúться) 榮ユ。譽ヲ得ル 159, 12
слáвный 光榮アル。高名ノ。眞實ノ 159, 5
славянúнъ (24, 6) スラブ人
слáдкій (59, 3) 甘味ナル。愉快ナル
слеза́ 涙
слетáть 1,—тéть (чý, тúшь) 飛去ル。飛下ル
слúва 梅。李
сливáться 1, слúться (105, 66) 混合ス。合流ス
слúвки (вокъ) 精乳(牛乳ノ上澄)
сличáть 1,—чúть 對照ス。比考ス 128, III, 4
слúшкомъ 餘リ。餘程
словáрь 1, 字引。辭書
слóво 語。言 дать——約言ス—вомъ 言スルニ。恰モ
сломáть 1,—мúть (млю́, мúшь) 折ル。挫ク—ся 挫ケル。毀ル
слóнъ 象
слонóвый 象ノ—вая кость 象牙
слугá 家僕
служáнка 家婢
слýжащій 奉職ノ。奉公人
слýжба 勤務。奉事(祈禱)
служéбный 勤務上ノ
служúтель (24, 3) 小使。勞役者
служúть (жу́, жúшь) 勤ム。祭儀ヲ行フ 157, 10; 159, 12
слухъ 風聞。聽官
слýчай 機會。事件 пóльзоваться слýчаем 機ニ乘シテ при слýчаѣ 機ヲ見テ по слýчаю болѣ́зни 疾病ナルニ由テ въ слýчаѣ болѣ́зни 疾ニ罹リシ際ニハ
случáйный 偶然ノ
случáться 1,—чúться (чýсь, чúшься) 遭遇ス 128, III, 4
слýшатель 1, 聽聞者
слýшать 1, 聞ク。從順ス—ся 順奉ス 156, VIII
слыть, прослы́ть (105, 10) 世評ヲ有ス 159, 12
слы́шать (шу, шúшь), слыхáть (110, I, 3 備考) 聞受ク。聞及ブ—ся 聞ベル 116, VIII, 8
слы́шный 聞ユル所ノ
слѣ́ва 左方ヨリ
слѣдúть (жу́, дúшь) 跡ヲ附ケル。監ス——за рабóтами 勞役ヲ監視ス
слѣ́довательно 是故ニ。之ヲ以テ
слѣ́довать (дую дуетъ) 從フ。從行ス。次ク 157, 10 слѣ́дуетъ, слѣ́довало 當然タリ слѣдующій 次ノ。當然タル
слѣ́дствіе 結果。成行
слѣдъ 跡
слѣзáть 1,—зть (106, 3) 攀下ル。脫落ス
слѣпóй (41, II, 3) 瞽者。盲ナル
слюна́ (30, 2) 唾液
смеркáться (кáется),—кнуться (нется) 日暮ル 148, 1
смéртный 死スベキ。死ノ。人間
смерть 3, 死亡
смúловаться (луюсь, луешься) 憫察ス 119, 3
смирéніе 謙遜
смирéнный 謙遜ナル。溫順ナル

сми́рный 溫良ナル。柔和ナル
смолча́ть (чу, чи́шь) 默ス
смотри́тель I, 取締人。監事—— учи́лища 高等小學校長
смотръ (23, 5) 視覽。視兵式。檢閱
смотре́ть, по—(рю́, ришь) 見ル。眺ム 125, I, 17 не смотря́ на э́то 之ニモ拘ラズ
смути́ться (щу́сь, ти́шься), смуща́ться I, 騷擾ス。動搖ス。臆ス
смуще́ніе 心氣動搖。錯亂
смы́слить (лю, лишь) 解ス。曉ト ル。識通ス
сме́лость 3, 果敢。大膽
сме́лый 勇敢ナル。大膽ナル
сме́ть I, 敢テス。忍フ
смѣхъ 笑
смѣша́ться I, 狼狽ス。マゴツク
смѣшно́й 可笑シキ
смѣя́ться (ю́сь, ёшься) 笑フ。嘲ケル 119, 3; 157, 10
снабди́ть (жу́, ди́шь),—бжа́ть I, 給與ス。裝フ
снача́ла 最初ハ
снести́ (106, 4), споси́ть (шу́, сишь) 携行ク。忍フ。持逃グ
снима́ть I, снять (105, 1) 取外ス。脫ク。寫ス
сно́ва 再ビ。更ニ。新ニ
снѣгъ (24, 1) 雪
снѣжный 雪ノ
соба́ка, соба́чка 犬
соба́чій, ье, ья 犬ノ
собра́ть (105, 16), собира́ть I, 集メ—ся 集マル。用意ス
соблазни́тельный (51, 7) 誘惑的ノ
соблюда́ть I,—люсти́ (106, 13) 守ル。遵守ス
соболѣзновать (ную, нуешь) 共ニ悼ム。哀悼ヲ表ス 157, 10
собо́ръ 大寺院。集會
собра́ніе 集會
со́бственно 實ハ。本來
со́бственность 3, 所有物
собы́тіе 事件
соверша́ть I,—ши́ть(шу́, ши́шь) 行フ。遂ク—ся 成就ス。行ハル—шённый 行ハレタル
соверше́нный 完全ノ。全備ノ。純然タル
соверше́нство 全備。完全
совре́менникъ 同時代ノ人
совреме́нный 現時ノ。當時ノ(同時代ノ)
совсѣмъ 全ク。一切
со́вѣститься (щусь, ститься) 忍ビズ 156, VIII
со́вѣсть 3, 良心
сове́товать (тую, туешь) 勸ム。忠告ス—ся 商議ス。相談ス
сове́тъ 相談。忠告。計策
совѣща́ться I, 合議ス。談合ス
согласи́ться (шу́сь, си́шься), соглаша́ться I, 同意ス。諾ス。一致ス 125, I, 17; 128, III, 4
согла́сный 同意ノ。一致ノ—но 132, 2; 4
согласова́ться (су́юсь, су́ешься) 調和ス。符合ス
согна́ть (105, 15), сгоня́ть I, 逐拂フ。追込ム。
согну́ть (ну́, нёшь), сгибать I, 撓ム。曲ゲル—ся 曲ガル
сограждани́нъ (24, 6), 同國民
согрѣва́ть I,—ре́ть I 暖ム。焙ル—ся 身ヲ暖ム。暖マル
содержа́ніе 俸給。維持費。內容 казённое ——官費
содержа́тель I, 持主。給養者
содержа́ть (жу́, жишь) 保持ス。給養ス。包有ス—ся 保タル。給養セラル。包有サル
содрать (105, 18), сдира́ть I, 剝去ル。强奪ス
содрога́ться I,—гну́ться (ну́сь, нёшься) 戰慄ス

содѣ́йствіе 助力。加勢
содѣ́йствовать (ствую, ствуешь) 助力ス。加勢ス 157, 10
соединя́ть 1,—ни́ть (ню́, ни́шь) 合一セシム—ся 合同ス。聯合ス
сожалѣ́ніе 憐憫。哀惜 къ—нію 惜哉
сожалѣ́ть (104, I, 7) 憐ム。惜ム
созва́ть (105, 83), 召集ス
созда́ніе 創造。造物
созда́ть (105, 96), создава́ть (даю́, даёшь) 創造ス 159, 12
сознава́ть 1,—на́ть (зна́ю, зна́ешь) 認識ス—ся 白狀ス。承伏ス (знаю́, ёшь)
созна́тельный 意識的ノ—но 意識的ニ
созрѣва́ть 1,—рѣ́ть 1, 熟ス。成熟ス
сойти́ (106, 9), сходи́ть (жу́, дишь) 去ル。降ル。離ル—ся 氣ノ合フ。出會ス
сокраща́ть 1, сократи́ть (105, 112) 簡略ス。縮少ス
сокро́вище 財寶。寶物
сокруша́ться 1, 愁傷ス。破壞サル
сокъ 汁。液
солга́ть (105, 58) 詐ル。虛言ス
солда́тъ (24, 14) 兵卒
солёный (52, 3) 鹽味アル。鹽漬ニシタル
со́лнце (24, 17) (со́лнышко) 太陽
солове́й (22, 6) 鶯
соло́ма 藁—менный 藁ノ。藁製ノ
соль 3, 鹽
сомнѣва́ться 1, усомни́ться (ню́сь, ни́шься) 疑フ。訝ル 124, II, 7
сонъ 睡眠。夢
сообразова́ться (зу́юсь, зу́ешься) 準ス。適應ス 128, III, 4
сообрази́тельность 3, 考察力。敏察
сообра́зный 準シタル—но 準シテ
сообща́ть 1,—щи́ть (щу́, щи́шь) 傳フ。通告ス—ся 傳ハル。交通ス
сообще́ніе 交通。通信 пути́—нія 通路。道達
сопровожда́ть 1, 同伴ス。送行ク—ся 同伴サル。送行カル
сопу́тствовать (ствую, ствуешь) 同行ス。同道ス 157, 10
сорва́ть (105, 84), срыва́ть 1, 摘取ル。剝去ル
сортъ (24, 1) 種質。品ノ質
соръ 塵芥—рный 芥ノ
соса́ть (105, 100) 吸フ。嚥ル
соска́кивать, соскочи́ть (чу́, чишь) 跳下ル。外レル
сосла́ться (105, 13), ссыла́ться 1, 引用ス。憑據ス。追逐サル
сослужи́вецъ (22, 1) 同役。同僚
сосна́ 松—новый 松ノ
составля́ть 1,—вить (влю, вишь) 成シ立ツ。編成ス——состоя́ніе 財產ヲ作ル—ся 成リ立ツ
соста́въ 組織。編成
состарѣ́ться 1, 老ユ
состоя́ніе 財產。狀態 въ—ніи 能クス
состоя́ть (ою́, ои́шь) 就ク。成立ツ 124, II, 7
сострада́ніе 同感。同情 117, 8
сострада́тельный (51, 7) 慈悲アル
сострада́ть 1, 憐ム。同感ヲ表ス
сосу́дъ 器具
сосчита́ть 1,—тывать 1, счёсть (106, 31) 計算ス
сосѣ́дъ 隣人—дка 隣ノ女—дній 隣ノ
сотвори́ть (рю́, ри́шь) 創造ス 159, 12
со́тня (30, 6) 百。百個
со́хнуть (ну, нешь), засыха́ть 1, 乾燥ス
сохраня́ть 1,—ни́ть (ню́, ни́шь) 守ル。保ツ。蓄フ
сочине́ніе 文章
со́чный 汁多キ
сочувствова́ть (вую, вуешь) 同感ヲ表ス 157, 10
сою́зъ 同盟—зный 同盟ノ。聯合ノ

со́я 醤油
спа́льня (30, 6) 寢室
спаси́бо 難有シ。多謝
спаса́ть 1, ═сти́ (106, 6) 救フ ═сь 救ハル。身ヲ救フ
спать (105, 91) 寢ル。眠ル
сперва́ 最初ハ。當初ハ
спёртый 壓迫ノ ——воздухъ 密閉ノ空氣
спина́ 背
списа́ть (пу́, шешь), ═сывать 1, 寫ス
спи́сокъ (22, 1) 名簿。表目。謄寫
спи́чка 燐寸
сплётничать, на═1, 虚構ノ說ヲ傳フ。噂ス 125, I, 17
сплетня (30, 7) 噂。虚說
споко́йный (51, 7) 安心ナル。靜ナル。溫和ナル
спо́рить (рю, ришь) 爭フ。論爭ス 128, III, 3
споръ 爭論
спосо́бность 3, 才能。堪能 157, 10
спосо́бный 才能アル。堪ユル 117, 10
споткну́ться (ну́сь, нёшься), ═тыка́ться 1, 躓ク
спра́ва 右方ヨリ
справедли́вый 公平ナル。正義ナル
спра́вить (влю, вишь), ═вля́ть 1, 正ス。直フス。行フ
спра́шивать 1, спроси́ть (шу́, сишь) ヘ問フ。質問ス。請求ス 116, IX, 6
спросъ 許可ノ請求。質問。註文
спря́тать 1, 秘ス。隱クス ═ся 隱クル。身ヲ隱クス
спуска́ть 1, ═сти́ть (щу́, стишь) 放發ス。下ス ═ся 放タル。下ロサル спустя́ 經過シテ 132, 2
спу́тникъ 同行者
спѣлый 成熟シタル
спѣть (105, 31) 熟ス
спѣши́ть (шу́, ши́шь) 急ク
сра́внивать 1, ═вни́ть (ню́, ни́шь) 比較ス 128, III, 4 ═ся 比較サル
сразйться (жу́сь, зи́шься), ═жа́ться 1, 戰フ。交戰ス 121, I, 8; 128, III, 3
сраже́ніе 戰鬪
сра́зу 一度ニ。一時ニ
среда́ 水曜日。場裡。社會
среди́ 間ニ。中ニ
середи́на 中心。中央
сре́дство (24, 16) 方法。資產
сровня́ть 1, 平等ニス。均一ニス。平坦ニス
срокъ 期限。定期 въ ——期限內ニ
сруба́ть 1, ═би́ть (блю́, бишь) 伐リ倒ス
срыва́ть ═сорва́ть
сря́ду 打續ケテ。陸續
ссо́ра 口論。喧嘩
ссо́рить (рю, ришь) 爭ハシム ═ся 相爭フ。喧嘩ス 128, III, 3
ста́вить, по═(влю, вишь) 立テル。置ク ═ся 立テラル
ста́до 牧群
стака́нъ コップ
сталь 3, 鋼鐵 ═ной 鋼鐵ノ ═ное перо́ 鐵筆 (ペン)
становйться (влюсь, вишься), стать (105, 102) 爲ル。立ツ。始ム。至ル 146, II; 159, 12
ста́нція 停車場。宿驛
стара́ніе 勉勵。盡力
стара́ться 1, 勉勵ス。心掛ク 126, II, 5
ста́рецъ (22, 1) 老翁
стари́къ 老人 ═ру́ха 老婆
старина́ 古時。古風。老人
ста́роста 村長。執事
ста́рость 3, 老年
ста́ршій (ста́рый) 年長ノ ═сынъ 長男, ═братъ 兄
ста́рый (59, 2) 古ルキ。老タル 159, 5
старѣть 1, 老ユ。古クナル
ста́тность 3, 體格ノ整然 ═ный 身丈高キ
ста́туя 彫像
статья́ 章。款。文章

стащи́ть (щу́, щишь), ста́скивать 1, 曳下ス

ствóлъ 幹

стека́ть 1, стечь (108, 13) 合流ス。流下ス—ся 集合ス

стекло́ 硝子

стемне́ть 1, 日暮ル

степь 3, 荒野

стере́ть (сотр-у́, ёшь), стира́ть 1, 拭去ル

стере́чь (107, 5) 防守ス。警衛ス

сти́снуть (ну, нешь),—скивать 1, 切歯ス。壓搾ス

стихі́я 元行 (火風水土)

стихъ 詩。句節

сто́ить (105, 65) 價ス。要ス 151, III, 5

столбъ 柱

столи́ца 首都

столкнове́ніе 衝突

столо́вая (41, II, 3) 食堂

столъ (сто́ликъ) 机。食卓。食料

столь 夫程

сто́лько 夫程。夫レ位

столе́тіе 百年。世紀

стонъ 呻聲。號哭

сто́рожъ (24, 1) 番人。守兵

сторона́ 方面。側 съ той и друго́й—ны 兩方ヨリ отойти́ въ—ну 片脇ヘ寄ル

сторо́нній 他方ノ。他人ノ

стоя́ть (ою́,ои́шь) 立ツ—за 121, I, 6

стоя́чій 立チタル。動カザル

страда́ніе 苦痛

страда́ть, по—1, 苦ム。害ヲ受ク 159, 12

стра́жа 警衛。衛戍

стражъ 番兵。警護人

страна́ 方。地方

страни́ца 頁

стра́нникъ 行脚。流顚者。彷徨者。旅人

стра́нный 奇怪ノ。奇異ノ

стра́сть 3, 情慾 117, 9

страши́ться (шу́сь, ши́шься) 畏怖ス 156, VIII

стра́шный 恐ロシキ

страхъ 恐怖

стреми́ться (млю́сь, ми́шься) 傾ク。傾向ス。向ク 117, 6

стре́мя (33, 4) 鐙

стричь, о—(107, 6) 剪ム。剪取ル—ся 斬髪ス

стро́гій (59, 3) 嚴重ナル。嚴酷ナル

строево́й 操練ノ。建築用ノ—ва́я лошадь 操練用馬

строй (23, 4) 戰列。構造—ный 整然タル

стро́ить (бю, о́ишь) 建ツ。作ル。調ベル—ся 整列ス。建ツ。建ラル

строка́ 行 (クダリ)

струкъ (24, 2) 莢 (豆類ノ)

струпъ (24, 2) 痂

струя́, стру́йка 水流。噴出

стрѣла́ 箭

стрѣля́ть 1, 射ル。發射ス 116, V, 9

студе́нтъ 大學生

студёный 冷タキ。冱ヘタル

сту́жа 冱寒。凍冷

стукъ 叩ク音。丁々

стулъ (24, 2) 椅子

ступа́ть 1, 歩ム。進ム ступа́й прочь 外ヘ往ケ。其處立退ケ

стуча́ть (чу́, чи́шь), сту́кнуть (ну, нешь) 叩ク。敲キ鳴ラス—ся 面會ノ爲ニ戸ヲ叩ク 124, I, 12

стыди́ть (жу́, ди́шь) 辱カシム—ся 恥ヅ 156, VIII.

стыдъ 恥辱—ный 恥ヅヘキ。恥カシキ

стыть (105, 11), сты́нуть (ну, нешь) 冷ヘル

стѣна́ 墻垣。壁。城壁

стѣсни́ть (ню́, ни́шь),—ня́ть 1, 壓ス。虐ク—ся 逼慮ス。推合フ стѣснённое се́рдце 痛心

суббо́та 土曜日

суде́бный 裁判ノ

су́дилище (24, 18) 裁判所
суди́ть (жу́, дишь) 裁判ス。判定ス
су́дно (24, 4) 船。艦 военное——軍艦
судъ 裁判
судья́, судія́ 裁判官
су́етный 虚栄ノ。瑣末ノ。多忙ノ
сукъ (24, 2) 枝株
султа́нъ 回教國王
су́мерки (рокъ) (37, I, 3) 黄昏
су́мма 總數。總計。合額
сумасше́дшій 發狂者。狂氣ノ
сумѣ́ть (104, I, 7) 能クス
сундýкъ 櫃。箱
сýнуть (ну, нешь) 挿入ル。入ル
супру́гъ 夫——га 妻——ги 夫婦
супъ ソップ
суро́вый 峭刻ナル。粗キ——вость 峭刻
су́тки (токъ) 一晝夜
сухо́й 乾燥ノ——хо 冷淡ニ。無味ニ
сухопу́тный 陸上ノ。陸軍ノ
су́ша 陸地
суши́ть (шу́, шишь) 乾カス。晒ス
существо́ (24, 16) 物。實體。水體
существова́ть (ствýю, ствýешь) 存在ス。有ル
схвати́ть (чу́, тишь),——тывать 攫ム。握ル 121, I, 6
сходи́ть (жу́, дишь) 往キ來ル
сходи́ть——сойти́ (108, 7)
схо́дство 類似。彷彿
сце́на 舞臺。光景。場面
сча́стіе (ье) 幸福
счастли́вецъ (22, 1) 幸福者。好運者
счастли́вый 幸福ナル
счётъ 計算。勘定
счесть (106, 31), сосчита́ть 1, 計算ス。撿算ス 121, I, 9; 159, 12——ся 勘定ヲ濟ス。爭フ。思ハル 146; 2
сшива́ть 1, сшить (105, 78) 縫合ハス。綴合ハス

съ, со 128 ヨリ。ト共ニ。程
съѣда́ть 1, съѣ́сть (106, 23) 食盡ス
съѣде́ніе 食盡シ。喰殺
съѣзжа́ть 1, съѣ́хать (105, 61) 乘下ル 轉居ス——ся 往逢フ。會合ス
сыгра́ть 1, 奏演ス
сынъ (24,4) (сынóкъ 22, 1) 子。子息
сы́пать (105, 92) 撒布ス——ся 撒布サル
сыпу́чій 撒布シ易キ
сыро́й 濕氣アル。生ノ
сы́рость 3, 濕氣
сыръ 乾酪
сы́тый 飽食シタル。滿腹ノ
сѣ́верный (59, 2) 北ノ——ро-восточный 東北ノ——ро-западный 西北ノ
сѣ́веръ 北
сѣдло́ 鞍
сѣдо́й (59, 5, 1 例外) 白髪ノ
сѣдо́къ 騎者。乘車人
сѣ́мя (33, 4) 種子
сѣ́но 刈草。乾草
сѣнокóсъ 草刈
сѣ́рый (сѣ́ренькій, сѣрова́тый) 鼠色ノ
сѣсть (106, 28), сади́ться (жу́сь, ди́шься) 腰掛ル。坐ス
сѣ́товать (тую, туешь) 歎ク
сѣть 3, 網
сѣчь (107, 12) 斬ル。切ル
сѣ́ять (сѣ́ю, сѣ́ешь) 蒔ク
сюда́ 此處へ
сюрту́къ フロクコート

Т.

таба́къ 煙草
та́йна 秘密。秘術
тайко́мъ 密カニ
таи́нственный 秘密ナル。奥妙ナル——но 奥妙ニ。秘密ニ
та́кже, такъ же (133. 3) 矢張リ

такóвъ 斯ノ如キモノ
такóй 斯ノ如キ。其様ナル
такъ 斯ノ如ク。然リ。同シク。眞ニ。何氣ナク——что 夫故ニ——какъ 何ヤナルヲ以テ
талáнтъ 才能。古代希臘ノ貨幣(數千金)
тамóжня (30, 6) 稅關
тамъ 彼處ニ
тáнецъ (22, 1) 舞踏
танцовáть (цýю, цýешь) 舞踏ス
тарéлка 皿
таскáть 1,—щúть (щý, щишь) 曳上ク。運ブ。引摺ル—ся 出入ス
татáринъ (24, 7) 韃靼人
тáять (тáю, тáешь) 融解ス。消ユ
тварь 3. 萬物。造物
твёрдый (59, 5) 堅キ。硬ナル。確實ナル 124, II, 6
творéцъ (22, 1) 造物主。著作者
теáтръ 劇場
текýщій 流過ノ——годъ 今年——мéсяцъ 今月
телегрáмма 電信。電報
телеграфúровать (рую, руешь) 電信ヲ打ツ
телегрáфъ 電信機
телёнокъ (24, 8) 犢
телéга (телéжка) 貨車。運送車
тёмный 暗キ。黑色ノ。曖昧ノ
темнотá 暗黑
тенéрь 唯今。目下—решній 目今ノ。現時ノ
тёплый 暖キ
терéть (тр-у, ёшь) 拭フ。摩擦ス
терпéніе 忍耐
терпéть (плю́, пишь) 忍ブ。容忍ス
терáть, по—1, 失フ。遺失ス。損ス
тетрáдь 3,—дка 假綴帳。手帳。册子
тётушка, тётя (30, 10), тётка 伯叔母
теченіе 流。流通。經過 въ——года 一年中 съ—ніемъ врéмени 時ヲ經レバ
течь (107, 13) 流ル。漏ル
тёща (30, 9) 妻ノ母
тигръ 虎—грёнокъ (24, 9) 虎兒
тирáнъ 暴君
тифъ 窒扶斯
тúхій (59, 3) 靜穩ナル—хо,—хóнько 靜ニ
тишинá 寧靜。閑靜
ткать (105, 60) 織ル
то 若シ何ヤナレバ何ヤスル時ハ等ノ受ケ語ニシテ「其時ハ」ノ意ナリ то онъ, то она 彼モ彼女モ代ルヤヤ。或ハ彼或ハ彼女
то-то (俗語) ソレダヤヤヤ。ソノ事ヤヤヤ
товáрищъ 同僚
товáръ 貨物 мéлочный——雜貨
тогдá 其時ハ——то ソノ時コソ——какъ 然ルニ
то есть (т. е.) 是レ即
тóже 同ク。亦——что 或ハ。同然
толкáть 1,—кнýть (нý, нёшь) 衝ク。打ツ
толковáть (кýю, кýешь) 解釋ス
толóчь (107, 14) 搗ク
толпá 群集。凡俗
толпúться (плюсь, пúшься) 群集ス
тóлстый (59, 5, 3 例外) 太キ。肥滿ナル
тóлько 唯。バカリ лишь——, какъ——何ヤスルヤ否ヤ直ニ——что 何ヤセシバカリノ際
томúть (млю́, мúшь) 疲ラス。苦メル—ся 疲勞ス。苦惱ス
тóнкій (59, 3) 細キ。薄キ。銳キ。精密ノ
тóнуть (105, 53) 沈沒ス。溺ル
тóня (30, 7) 網打場
топúть (плю́, пишь) 焚ク。暖ム。沈メル。溺ラス
топóръ 斧
тóпотъ 跫音。踏足
торговáть (гýю, гýешь) 賣買ス。貿易ス —ся 直切ル 159, 12
торгóвля 貿易。商賈
торгъ 市。賣買。糶糴

торже́ственный 盛擧ノ。祝賀ノ——обѣдъ 祝宴

торопи́ть (плю́, пишь) 急ガス。促迫ス—ся 急グ

торопли́вый 急キタル。慌テタル

тоска́ 憂悶。鬱閉

тоскова́ть (ку́ю. ку́ешь) 憂悶ス。心塞ク 127, III, 2

тостъ 祝盃。擧盃式

то́тчасъ, тотча́съ 直チニ。即刻

точи́ть (чу́, чи́шь) 砥ク。磨ク

то́чность 3, 正確。確的

то́чный 確實ノ。正確ノ то́чно такъ ソレト同シク。正ニ然リ

точь въ точь 似タリヤ似タリ。丸出シ

топни́ть (ни́ть, ни́ло) 嘔氣ヲ催ス

то́щій (59, 4) 痩タル。素腹ノ(食セザル)

трава́,—вка 草

трактирщикъ 割烹店主

трактиръ 割烹店

тра́тить (чу, тишь) 費ス—ся 費ス

тра́урный 喪ノ

тра́уръ 喪

тре́бовать, по—(бую, буешь) 要求ス 116, IX, 6, 128, I, 9; 151, III, 5

трево́га 警報。不穏

трево́жить (жу, жишь) 驚カス。不安ヲ來タス

трепета́ть (105, 109) 戰慄ス

тре́петъ 戰慄。惴心

трескучій 爆シ易キ——моро́зъ ピチヽヽ音ヲ發スル酷寒

тре́тій, ье, ья 第三ノ тре́тьяго дня 一昨日

треть (84, 1-5) 三分ノ一

трёхъ-эта́жный 三層ノ

треща́ть (щу́, щи́шь) 裂ハチル。爆ル

три́жды 三度

трio 三人合唱(聲樂ノ)

тро́гать 1, тро́нуть (ну, нешь) 觸ル。動カス。感動ヲ與フ—ся 感動ス

тро́йка (30, 5) 三點——лошаде́й 三匹立(馬車ノ)——ка́ртъ 骨牌ノ三點

трость 3, 杖。芦

труба́ 管。筒。喇叭—бка 煙管

труби́ть (блю́, бишь) 喇叭ヲ吹ク

труди́ться (жу́сь, дишься) 働ク。勞ス 119, 2

тру́дность 3, 困難。勞苦

тру́дный 困難ナル。難キ

трудолюби́вый 勤勉ナル。精根ナル

трудолю́біе 勤勉。精勤

трудъ 勞。勞力。作業

трупъ 屍

тру́сить (шу, сишь) 怯ル 156, VIII

трусъ 臆病者

тря́скій 震動ノ。ガタヽヽスル

трясти́ (106, 7) 震ハス。振動サス

туда́ 其處へ

тужи́ть (жу́, жишь) 悼ム。悲ム 127, III, 2

ту́ловище 胴

тума́нъ 霞。霧。靄

тупо́й 鈍ナル。愚鈍ノ

туре́цкій 土耳古ノ

ту́рокъ 土耳古人

Ту́рція 土耳古

тутъ 此處ニ。該處ニ

ту́ча 黑雲

тщесла́віе 虚榮心。虚誇

тщесла́вный 虚榮心ノ。虚誇ノ

ты́ква 南瓜

тылъ (23, 4) 背後

тѣло 體。肉身。軀

тѣлосложе́ніе 體格。骨格

тѣлохрани́тель 1, 護衛士

тѣни́стый 日蔭ノ。緑蔭ノ

тѣнь 3, 影 въ тѣни́ 蔭ニ於テ

тѣсни́ть (ню́, ни́шь) 狹クス。壓ス—ся 壓シ合フ

тѣснота́ 狹隘。雜沓

тѣсный 狹キ。密ナル

тюрьма́ (30, 5) 獄。監獄
тяжёлый 重キ。難キ。苦シキ
тя́жесть 3, 重力。重量。困難
тя́жкій (59, 3) 苦シキ。重大ノ。難ナル
тя́жущійся 訴訟者
тяну́ть (105, 57) 曳ク。引張ル。引延ハス —ся 延長ス。亘ル

У.

у 116, IX 何々ニハ
убива́ть 1, уби́ть (105, 82) 殺ス
убира́ть 1, убра́ть (105, 16) 收ル。片附ル。飾ル
уби́йство (24, 16) 殺害
уби́йца (38) 人殺。刺客
убѣга́ть 1, убѣжа́ть (105, 71) 出奔ス。避ク。遁ル
убѣжда́ть 1, убѣди́ть 說服ス。勸誘ス —ся 納得ス。信服ス 124, II, 7
убѣжде́ніе 意見。持說。勸誘
уважа́ть 1, 尊重ス。尊敬ス
уваже́ніе 尊敬 съ—ніемъ 敬意ヲ以テ
увезти́ (106, 1), увози́ть (жу́, зишь) 寄ニ持去ル。私ニ運出ス
увести́ (106, 16), уводи́ть (жу́, дишь) 伴去ル。率テ去ル
увели́чивать, —чить (чу, чишь) 增ス。大ニス —ся 擴張サル。大クナル
увива́ться 1, 附キ纏フ。狎レ戲ル
увида́ть (110, I, 3 備考), уви́дѣть 見ル
увлека́ть 1, увле́чь (107, 8) 心ヲ奪フ。誘フ —ся 心ヲ奪ハル。誘ハル
уво́лить (лю, лишь), —льня́ть 1, —льни́ть (ню́, ни́шь) 暇ヲ與フ。外出ヲ許ス 116, VIII, 9
увѣдомить (млю, мишь), —мля́ть 1, 通告ス。通達ス
увѣрить (рю, ришь), —ря́ть 1, 信用サス。保證ス 124, II, 7 —ся 信用ス。信認ス
увѣчье 不具 (傷ニ由テ)。毀傷
увѣщева́ть (105, 47), увѣща́ть 1, 勸告ス
увя́нуть (105, 51), увяда́ть 1, 凋ム。萎衰ス
угада́ть 1, —дывать 1, 當テ判ス。推量ス
угна́ть (105, 15), угоня́ть 1, 追放ス。驅逐ス
угова́ривать, —вори́ть (рю́, ри́шь) 勸說ス。說得ス —ся 打合ス。說得サル
уго́дно 氣ニ適フ сколько—幾許デモ
угоди́ть (жу́, ди́шь), —жда́ть 1, 媚フ。氣ヲ迎フ 125, I, 17
у́голъ (23, 5) 角。隅。端
у́голь (24, 2) 炭
угоня́ть = угна́ть
у́горь (22, 1) 鰻
угости́ть (щу́, сти́шь), угоща́ть 1; 響應ス。馳走ス
угрожа́ть 1, 威嚇ス
угро́за 威嚇。恐嚇
удава́ться (уда-ю́сь, ёшься), уда́ться (105, 95) 成就ス。似ル。儕輩ニ成ル
удале́цъ (22, 2) 勇敢者。冒險者
удали́ть (лю́, ли́шь), —ля́ть 1, 遠サク。離ス —ся 遠カル。退去ス 156, VIII
удальство́, у́даль 3, 武勇。冒險
уда́рить (рю, ришь), —ря́ть 1, 打ツ。敲ク —ся 突當ル。觸ル 124, I, 12
уда́ръ 打擊。卒中——гро́ма 落雷
уда́ться = удава́ться
уда́ча 儕輩。成就 на—чу 僥倖的ニ
уда́чный 儕輩ノ。首尾能キ
удвоя́ть (105, 38) 二倍ニス
удержа́ть (жу́, жишь), —живать 1, 止ム。支ヘル。遮ル —ся 節制ス。忍ブ 116, VIII, 9
удиви́тельный 奇異ナル。奇妙ノ
удивле́ніе 奇訝。驚異
удиви́ть (влю́, ви́шь), —вля́ть 1, 驚カス。怪マス —ся 驚ク。怪ム 157, 10
удо́бный 便利ナル。容易ナル

удовлетворе́ніе 滿足
удовлетвори́тельно 可ナリニ。首尾能ク
удовлетвори́ть (рю́, ри́шь),—ря́ть 1, 滿足サス 157, 10—ся 滿足ス
удово́льствіе 快樂
удосто́ивать 1,—о́ить (о́ю, о́ишь) 榮ヲ與フ。與カラシム—ся 榮ヲ得。與カル 156, VIII
ужаса́ться 1,—снýться (нýсь, нёшься) 愕ク。恐怖ス。戰慄ス 156, VIII
ужа́сный 恐ロシキ。竦然タル
у́жасъ 驚愕。恐怖
уже́, ужъ 旣ニ
у́же——у́зкій
у́жинать 1, 晩食ス
у́жинъ 晩食
узда́ 轡
у́зелъ (22, 1) 結目。包物
у́зкій (59, 3) 狹キ。細キ
узнава́ть (узна-ю́, ёшь),—на́ть 1, 認識ス。知ル。探知ス。見覺ユ
у́зы (узъ) 枷
уйти́ (106, 9),уходи́ть (жу́, дишь) 去ル。逃ル
указа́ть (жу́, жешь),—зывать 1, 指示ス。指摘ス
ука́зъ 指令
укла́дывать 1, укла́сть (106, 18), уложи́ть (жу́, жишь) 納ム。仕舞フ。眠ラシム—ся 片附ル。準備ス
укло́ня́ться 1,—ни́ться (ню́сь, нишься) 遠カル 116, VIII, 9
укороти́ть (чу́, ти́шь) 短クス。縮メル
укоря́ть 1, 譴ム。懲ラス 124, II. 7
у́красть——красть
украше́ніе 粧飾。修飾
укроща́ть 1, укроти́ть (105, 113) 鎭ム。抑制ス。和ラグ
укрыва́ться 1,—ры́ться (105, 5) 隱ル。密ム
ула́дить (жу, дишь), ула́живать 1, 停調ス。理ム。和ス
ула́нъ (24, 14) 槍騎兵
у́лей (22, 6) 蜜蜂ノ巢
улета́ть 1,—те́ть (чу́, тишь) 飛去ル
у́лица 市街。通衢
улича́ть 1,—чи́ть (чу́, чи́шь) 罪跡ヲ證ス 124, II, 7
уловѝть (влю́, вишь) 捕フ。捉フ。捕縛ス
улóвка 巧機。機術。詭策
улыба́ться 1,—бну́ться (ну́сь, нёшься) 微笑ス
улы́бка 微笑
умáлчивать 1, умолча́ть (чу́, чи́шь) 默ス
уменьша́ть 1,—ши́ть (шу, ши́шь) 減少セシム—ся 減少ス
умере́ть (умр-у́, ёшь), умира́ть 1, 死亡ス 116, VIII, 9; 121, I, 8
умерщвля́ть 1, умертви́ть (105, 87) 殺ス
умилосе́рдиться (жусь, дишься) 憐憫ス
уми́льно 快ク。感動シテ
у́мница (38) 悧巧者
у́мный 賢ナル。智アル
умнѣ́ть 1, 智慧ツク。智ヲ增ス
умолка́ть 1,—кнуть (ну, нешь) 默ル。靜マル
умъ 智力。才智
умыва́ться 1, умы́ться (105, 7) 面ヲ洗フ。手水ヲ遣フ
у́мыселъ (22, 1) 惡謀。故意
умѣ́нье 熟通。堪能
умѣ́ренный 中正ノ。穩ナル 124, II, 6
умѣ́ть (104, I, 7) 能クス。出來ル
унести́ (106, 4), уноси́ть 持去ル。盜ム
университе́тъ 大學
унижа́ть 1, уни́зить (жу, зишь) 下ク。卑下ス。低クス—ся 身ヲ卑クス 123, II, 3
уничтожа́ть 1,—жить (жу, жишь) 消滅ス。亡ス
у́нтеръ-офице́ръ 下士官。下士官以下

унывáть I, унúть (105, 7) 沮喪ス。憂愁ス
упадáть 1, упáсть (106, 20) 落ル。倒ル。亡ブ
упирáться 1, упереться (упрýсь, упрёшься) 強情ヲ張ル。踏張ル
уплатúть (чý, тишь) 拂濟マス 121, I, 7
уповáть (105, 48) 嘱望ス。信頼ス 125, I 17
уподобля́ться 1,—биться (блюсь, бишься) 則トル。似ル。比ベラル
упомина́ть 1,—мянýть (нý, нешь) 少シク論及ス。言ヒ置ク
упóрный 強情ナル。確執ナル
упóрство 強情。頑固
упóрствовать (вую, вуешь) 強情ヲ張ル。固執ス 124, II, 7
употребúть (блю́, бúшь),—бля́ть 1, 使用ス—ся 使用サル
управлéние 支配。管理
управúть (влю, вишь),—вля́ть 1, 支配ス。管理ス 159, 12—ся 支配サル。管理サル
упражнéние 練習。教練
упрáшивать 1,—росúть (шý, сишь) 切願ス。懇願ス
упрекáть 1, —кнýть (ну, нёшь) 責ム。罵ル 129, II, 7
упрёкъ 叱責
упрямство 執拗。固執
ура́ 萬歳
уравня́ть 1,—нивать 1, 平等ニス。均一ニス уровня́ть 1, 平坦ニス
уродúться (жýсь, дúшься) 似テ生ル。稔ル 124, I, 12
урожáй 豐熟。豐作。收穫
урóкъ 日課。課程。教訓
урóнъ 鉄損。損失
усадúть (жý, дишь), усáживать 1 着座サス。植込ム
усвáивать 1, усвóивать 1, усвоя́ть (105, 36), усвóить (óю, óишь) 我カ有トス。領得ス 116, VIII, 8
усéрдie 熱心。奮發 117, 8
усéрдный 熱心ナル。懇切ノ
усéрдствовать (ствý-ю, ешь) 奮發ス。懇切ニス
усúленный 伸張ノ。盡力ノ—но 強ク。勤メテ
усúливать 1,—лить (лю, лишь) 強クス。勢ヲ増ス—ся 強盛トナル。増大トナル
усúлie 努力。盡力。骨折
ускакáть (чý, чешь) 跳逃ル。驅去ル
услóвie 約束。條件
услóвиться (влюсь, вишься),—вливаться 1, 約束ス。條件ヲ結ブ
услóвный 約束ノ。條件的ノ
услýга 勤勞。世話
услыхáть (110,I,3),—шать (шу, шишь) 聽ク。聞入ル
усмотрéть (рю́, рить) 見付ケル。監守ス。悟ル
усомни́ться——сомнéваться 疑フ
успокоéние 安心
успокóивать 1,—óить (óю, óишь) 安ンズ。宥ム—ся 安心ス。鎭マル
успéвáть 1,—пéть 1, 進行ス。進歩ス 124, II, 7
успéхъ 進歩。成蹟。成功
успéшный 捗リタル。首尾能キ
устáвать (таю́, таёшь),—тáть (105, 102) 疲勞ス
устáлый 疲勞ノ
установúться (влю́сь, вúшься),—нáвливаться 1, 定マル。整頓ス
устрашáть 1,—пúть (шý, пúть) 驚カス。恐嚇ス
устремúться (млю́сь, мúшься),—мля́ться 1, 向ク。突進ス
ýстрица 牡蠣
устрóивать, —рáивать 1, —óить (óю, óишь) 整ヘル。設立ス。催ス—ся 整フ。設ケラル

уступать 1, ~пить (плю, пишь) 譲ル。劣ル。負ケル 121, I, 7; 157, 10
уступчивость 3, 謙譲。從順
у́стье 河口。口
усъ 髭(片髭)
усыпа́ть 1, усы́пать (плю, плешь) ヨボス(紛ヲ)。撒布ス
ута́ивать 1, ~ая́ть (аю́, аешь) 秘ス。隠クス
утвердя́ть (жу́, дя́шь), ~рждя́ть 1, 定ム。確定ス~ся 定マル。確定サル
утиха́ть 1, ути́хнуть (ну, нешь) 靜マル。平穏ニナル
у́тка 鴨 ди́кая——野鴨 дома́шняя——家鴨
утоля́ть 1, ~ли́ть (лю́, ли́шь) 渇ヲ止ム
утоми́ться (млю́сь, ми́шься), ~мля́ться 1, 疲勞ス。困ル
утону́ть (105, 53), 溺ル。沈沒ス
утопи́ть (плю́, пишь) 沈メル。溺ラス
у́тро 朝 у́тромъ 朝ニ於テ
утроя́ть (105, 39) 三倍ニス
утѣше́ніе 安慰。撫慰
утѣша́ть 1, ~шить (шу, шишь) 慰ム。撫恤ス~ся 心ヲ慰ム。樂ム
уха́живать 1, 看護ス。機嫌ヲ取ル 121, II, 3
ухвати́ться (чу́сь, тишься) 捉フ。摑マル。身ヲ支ユ 121, I, 6
ухо́дъ 看護。世話
у́хо, у́ши (124, 17) 耳
уходи́ть——уйти́
уцѣлѣть 1, 無難ニ殘ル(火災等ヨリ)
уча́ствовать (вую, вуешь) 與カル。關係ス 124, II, 7
уча́стіе 關係。參與
уча́стокъ (22, 1) 分地。分區——земли́ 分地
у́часть 3, 運命
уча́щійся 學生
уче́бникъ 教科書
уче́бный 教科ノ。學業ノ~ное заведе́ніе 學校

ученикъ 生徒~ница 女生徒
уче́ніе 教。授業。稽古。學
учёный 學識アル。學者
уче́нье, уче́ніе 稽古。演習。教說
учи́лище 學校
учи́тель 1; 教師~ница 女教師
учи́тельскій 師範ノ。教師ノ
учи́ть (чу, чишь) 教フ~ся 學ブ 116 IX, 6; 157, 10
уѣзжа́ть 1, уѣ́хать (105, 61) 乘去ル。出立ス

Ф.

фа́брика 製造場。工場
фактъ 事實
факульте́тъ 分科(大學ノ)
фами́лія 姓。族
февра́ль 二月~скій 二月ノ
фельдма́ршалъ 元帥
фе́льдшеръ 病院醫員助手(代診ノ如キ)
фигу́ра 形狀。體。像
фи́зика 物理學
фило́софъ 哲學者
фи́никъ 棗子
фисъ-гармо́нія 風琴
фла́гъ 旗。國旗
фланга́ъ 左右ノ翼(軍陣ノ)~говый 翼隊ノ兵。側面(陣ノ)ノ
флотъ 海軍
фо́кусникъ 手品師
фона́рь 1, 提燈。角燈
фо́рма 形式。制 ученическая——生徒ノ制服
форси́ть (105, 101) 華飾ス
фотографи́ческій 寫眞ノ~кая ка́рточка 寫眞
фотогра́фія 寫眞術
фотогра́фъ 寫眞師
франкъ 法(佛國ノ錢位)

фронтъ 正面。隊列
фрукто́вый 果實ノ——садъ 果園
фруктъ 果實
фунтъ 衡量(我百〇九匁)
футъ 尺度(我一尺强)

X.

хала́тъ 寢間着(長裾ノ)
ханжа́ (38; 30, 8) 僞熱信家
характе́ръ 氣質。性質。性格
ха́та 木造ノ小屋
хвали́ть, по—讃ム(лю́, лишь) 121, I, 10
—ся 誇ル。自慢ス 159, 12
хвата́ть 1, с—ти́ть (чу́, тишь) 捉ム。握ル
хвора́ть 1, 病ム
хвостъ 尾
хи́жина 小屋。茅屋
хи́на 愛那
хи́трый (52, 21) 機巧ナル。狡猾ナル
хи́трость 3, 機智。狡猾
хи́щность 3, 强暴。强奪。猛悍
хи́щный 猛キ。肉食ノ
хладнокро́вный 平氣ノ。沈着ノ
хлопота́ть, по—(чу́, чешь) 配慮ス。盡力ス 126, II, 5
хло́поты (—потъ) 周旋。掛慮。多忙
хлопъ (24, 2) バタリ(打ツ音)
хлѣбный 穀物ノ。麵包ノ
хлѣбъ (24, 3) 麵包。穀物
хлѣвъ (23, 4; 24, 1) 家畜小屋
хо́боть 長鼻(象等ノ)
ходатайствовать (вую, вуешь) 代願ス。中保ス 121, I, 8; 126, II, 5
ходи́ть (жу́, дишь), ха́живать 1, идти́ (106, 8) 108, 3 步行ス。出入ス——за больны́ми 看護ス 121, II, 3
ходъ 成行。動靜
хозя́инъ (24, 7) 主人—я́йка (30, 5) 主婦
хозя́йство (24, 16) 家事。家政。經濟
хо́лить (лю, лишь) 清潔ニス
холо́дный 冷淡ナル。寒冷ナル 117, 10
хо́лодъ (24, 1) 寒冷。寒氣
холосто́й (52, 2) 獨身ノ。無妻ノ
хоро́шій (59, 4) 良好ノ。佳良ノ—шо́, —ше́нько 宜シ。善シ。佳良ニ
хоръ 歌隊。諸唱
хотѣть (105, 104) 欲ス хо́чется 何々シタクナル
хоть, хотя́ ト雖モ。トモ
хра́брый (52, 2) 勇敢ナル。勇ナル
храмъ 堂。寺院。神社
хране́ніе 保存。守護
храни́ть (ню́, ни́шь) 保存ス。守護ス
христіани́нъ (24, 6) 基督教徒
христіа́нскій 基督教ノ
христіа́нство 基督教
хромо́й (41, II, 3) 跛者
худо́жественный 技藝ノ。美術ノ—ство 美術
худо́жникъ 技藝者
худо́й (59, 5) 瘦タル。惡シキ
худоща́вый 瘦タル。脫肉シタル

Ц.

ца́пля 青鷺
ца́рскій 王ノ
ца́рственный 王タル 。王權ノ
ца́рство (24, 16) 國。界(植物動物界ナド)。王權—вованіе 在位
царь 1, 王—ри́ца 女王—ре́вичъ 王子, —ре́вна 王女
цвѣсти́ (106, 30) 花開ク。盛ニナル
цвѣти́стый (59, 5, 3) 花多キ。飾多キ
цвѣтни́къ 花壇。花園
цвѣтно́й 彩色ノ。着色ノ
цвѣтъ (24, 3), —то́къ, (22, 1) —то́чекъ 花。色
церко́вный 教會ノ。會堂ノ
це́рковь (32, 2) 教會。會堂

цесаре́вичъ 皇太子
циркъ 演技場(圓形)。曲馬館
цыплёнокъ (24, 8) 雛。雞兒
цѣлова́ть (лу́ю, лу́ешь) 接吻ス
цѣль 3, 目的
цѣ́лый 完全ノ。全キ——день 全日 всецѣло 全ク。悉皆
цѣна́ 價 цѣ́ною 價ヲ以テスレバ 124, I, 7
цѣни́ть (ню́, нишь) 價ス。貴重ス—ся 價ヲ附セラル。貴重サル 124, I, 7
цѣ́почка 小鎖
цѣпь 3, 鎖。鏈

Ч.

чай 茶—никъ 急須。鐵瓶—ница 茶入レ。茶罐—ный 茶ノ—ная ча́шка 茶碗—ная посу́да 茶器
ча́рка 酒杯
часово́й (41, II, 3) 歩哨。時計ノ。一時間ノ
часовщи́къ 時計師
ча́стый (59, 5, 3) 屢々ナル。稠密ノ。緻密ノ—то 屢々。稠密ニ
часть 3, 部分 по бо́льшей ча́сти, бо́льшею ча́стью 大抵。概シテ
часъ (23, 4) 一時間
часы́ (овъ) (37, I, 1) 時計 стѣнные——柱時計 карма́нные——懐中時計——стоя́ть 時計ハ止ル——заводи́ть 時計ヲ巻ク——иду́ть вѣрно 正シク進ム стоя́ть на часа́хъ 番守ス
ча́шка, —шечка 茶碗。杯
ча́ща 密林
ча́ять (а́ю, а́ешь) 希望ス 156, VIII
чей (65, 3) 誰レノ
человѣкъ (24, 12, 14) 人。給仕(飲食店ノ)
человѣческій 人間ノ。人タルノ
че́люсть 3, 腮
чемода́нъ 提革。鞄
черво́нецъ (22, 1) 金貨ノ名
че́рвякъ, —чёкъ 這虫。蛆
черезчу́ръ 法外ニ。非常ニ
че́резъ, чрезъ 118, II 過キテ。通リテ。經テ
черни́ла(лъ) (37, I, 3) インキ
черни́льница インキ壺
черноти́ 黒。非道
чёрный 黒キ。非道ナル Чёрное мо́ре 黒海
черне́ть 1, 黒クナル。黒ク見ユル
черта́ 界。線。相—ты лица 面相
чёртъ 悪魔。外道—тёнокъ (24, 9) 鬼ノ子
че́стность 3, 廉潔。清廉。方正
че́стный 正直ノ。方正ノ。清廉ノ
честолю́біе 名譽心—бецъ (22, 1) 名譽家
че́сть 3, 名譽。尊敬
четве́ргъ 木曜日
че́тверть (84, 1-5) 四分ノ一。穀量(我一斗四升五合強)
чижъ, —жикъ 鶸
чино́вникъ 官吏
чинъ 位。位階
чи́рей (26, 2) 腫物
число́ 数。日
чисти́льщикъ 清拭者。掃除人
чи́стить (щу, стишь) 清ム。掃除ス
чистота́ 清潔。純潔
чи́стый (59, 5, 3), —тенькій 清キ。純粋ノ 159, 5
чита́ть 1, 讀ム—ся 讀マル
членъ 會員。支體 чле́ны тѣла 肢體
чрезвыча́йный 非常ノ。格外ノ。臨時ノ
чте́ніе 誦讀
чтить (105, 103) 尊敬ス
что 何。ソレハ
чу́вство (24, 16) 感。感覺。感觸。肉感
чу́вствовать (ствую, ешь) 感ス—ся 感セラル
чуда́къ 奇人
чуде́сный 奇異ノ。不思議ノ。極善キ

чу́дный 絶妙ノ。奇妙ノ。稀有ノ
чу́до (24, 4) 奇蹟。異事
чужда́ться 1, 遠カル。避ケル 156, VIII
чу́ждый 他人ノ。縁故ナキ。遠サカル 156, VIII
чужо́й 他人ノ。他ノ。別ノ 157, 9
чуло́къ (24, 14) 靴足袋
чуть-чуть 稍ク。辛フシテ。將ニ。殆ト
чѣмъ ヨリ(比較)。程

Ш.

шага́ть 1, шагну́ть (ну́, нёпь) 歩ム。行ク。
шагъ 歩。一投足 ша́гомъ 並足ニテ
шали́ть (лю́, ли́пь) 惡戯ス
ша́лость 3, 惡戯
шалу́нъ 惡戯者—нья 惡戯女
ша́пка 毛皮ノ冬帽。冠。縁ナキ帽
шаръ 球。圓球
шата́ть 1, 揺ル。動カス—ся 揺レル。ブラツキ歩ム
ша́хматы (тъ) 將棊
ша́шка 十六むさしノ類。挟將棊
Шве́ція 瑞典 шве́дскій 瑞典ノ
шевели́ть (лю́, ли́шь)—льну́ть (ну́нёшь) 揺カス—ся 揺ク
шёлкъ, шолкъ, 絹布—ковый 絹ノ
шепта́ть (чу́, чешь) 私語ス。呟ク
ше́рсть 3, 絨毛 вскло́ченная——縺レタル毛(獣ノ)
шерстяно́й 絨毛ノ。毛糸ノ
ше́ствіе 進行。通行
ше́я 頸
ши́ло (24, 2) 大針
шине́ль 3, 外套。雨合羽
ширина́ 横幅。幅 124, I, 9
ши́рмы(мъ) 屏風
широ́кій (59, 3) 廣キ
широта́ 幅。緯度。廣サ
шить, с— (105, 78) 縫フ
шитьё 縫
шкафъ, шкапъ 戸棚。架
шки́перъ 管船手。商船長
шко́ла 學校。學派—льный 學校ノ
шку́ра 毛皮
шля́па 帽子
шо́потъ, шёпотъ 私語。耳語
штабъ 參謀 главный—參謀本部
шту́ка 個。顆。物。業。詭計
шу́ба 裘。毛皮外套
шу́мный 喧シキ。雑沓ノ
шумѣть (млю́, ми́шь) 喧ク
шумъ 喧鬧。動聲
шу́ринъ (24, 7) 妻ノ兄弟
шути́ть (чу́, тишь) 戯ル。笑談ス
шу́тка 諧戯。滑稽

Щ

щади́ть (жу́, ди́шь) 恕ス。宥免ス。惜ム
щебета́нье 囀聲
ще́дрость 3, 仁恵。寛大
ще́дрый 仁恵ノ。大量ノ。裕カナル
щека́ 頬
щекотли́вый クスグッタキ。氣ヲ傷メ易キ。手ノ着ケ悪クキ—вое дѣло 致シ悪クキ事件。憚リアル事件
щено́къ (24, 9) 犬ノ兒
щепа́,—пка 木片。木屑
щётка 刷毛
щи (щей) スープ(キャベツヲ入タル)

Ъ.

ѣда́ 食事。食物
ѣзда́ 旅行。乗行
ѣздить (ѣзжу, ѣздишь), ѣхать (105, 61) 108, 3 乗行ク
ѣсть (106, 23) 食フ

Э.

экзаме́на́торъ 試驗員

экзаменова́ть (ну́ю ну́ешь) 試驗ス—ся 試驗サル

э́кза́менъ 試驗

экземпля́ръ 一部（書籍ノ、標本ノ）

экипа́жъ 車。乘車

э́мигра́нтъ 外國移住者

эска́дра 艦隊

эскадро́нъ 騎兵大隊ノ分隊

эта́жъ 層。階

э́тотъ. э́то. э́та 此ノ

э́хо (35, 2) 反響

Ю.

ювели́ръ 飾師

югъ 南 юго-востокъ 東南 юго-западъ 西南

ю́жный (59, 2) 南ノ

ю́нкеръ (24, 1) 士官候補生

ю́ноша (30, 9) 少年。青年

ю́ношескій 青年ノ

ю́ношество 青年期

юный 幼年ノ

Я.

я́блоко 林檎ノ果

я́блонь 3, я́блоня 林檎ノ木

яви́ть (влю́, вишь), явля́ть I. 現ハス— ся 現ハル

ягнёнокъ (24, 8) 小羊。羔

я́года 木ノ實

ядови́тый 有毒ノ。毒ノ

ядро́, —рышко 砲彈。丸子。核

ядъ 毒

язы́къ 舌。國語。鈴鐶ノ振子

языческій 異教ノ（基督教。猶太教。回教以外ノ）

язы́чникъ 異教信徒

яи́чный 卵ノ

яйцо́ (24, 17) 卵

я́ма 穴。坑。窩

январь, генва́рь 一月—рскій 一月ノ

япо́нецъ (22, 1) 日本人—нка 日本婦人

Япо́нія 日本

япо́нскій 日本ノ по—ски 日本的ニ。日本語ニテ

я́ркій 玲瓏ノ。清朗ノ。光輝アル

я́рмарка 市。定期市

я́рость 3, 憤怒。激怒

я́сный 清朗ノ。明白ノ—пая погода 晴天

ячме́нь I, 大麥

я́щикъ 箱



大正六年五月廿八日印刷
大正六年六月　三日發行
大正八年五月　五日四版

不許複製

編　者　グレー
譯　者　岩澤丙吉
發行者　大倉保五郎
印刷者　武木勝治郎
東京市神田區三河町三丁目四番地
印刷所　武木凸版印刷所

發行所
大倉書房
東京市日本橋區通り一丁目十九番地
電話本局　四一四番
　　二四〇四番
振替東京　二三八番

露西亞文法
定價金三圓

瀬川龜著
馬來語獨修
袖珍洋綴 全一冊
正價 金四拾錢 郵税金四錢

文學士 松井知時著
佛蘭西語教科書
四六判美製 全一冊
正價 金九拾錢 郵税金六錢

文學士 松井知時著
佛語の發音及文法
四六判美製 全一冊
正價 金八十五錢 郵税金八錢

法學博士 和田垣謙三著
英文 落葉籠
新形美製 全一冊
正價 八拾五錢 郵税金八錢

文學博士 上田敏著
英國散文集
洋裝ロクロース 全三冊
一卷二各卷金參拾五錢 郵税金六錢
三卷 金六拾錢 郵税金八錢

鹽谷榮譯 幸田露伴原著
英文 五重塔
四六判美製 全一冊
正價 金七拾錢 郵税金六錢

著亨泰村野

スーロク總裝洋 新佛和辭典 增訂
一冊全

正價 金貳圓五拾錢 郵稅金八錢

著共時知井松 士學文 郎一駿田上 士學文

製美形新裝洋 新佛和辭典
一冊全

正價 金 貳圓五十錢 郵稅金八錢

著共亨泰村野 郎次文澤中 漸 部阿

製美形新裝洋 佛和新辭典
一冊全

正價金壹圓六拾錢 郵稅金六錢

著三謙垣田和 士博學法

製美形新裝洋 新英和辭典 增新
一冊全

正價 金一 圓 郵稅金六錢

著成久野星

製美形新裝洋 中等英和辭典
一冊全

正價 金一圓十錢 郵稅金八錢

著三謙垣田和 士博學法

製美形新裝洋 新和英辭典
一冊全

正價 金一 圓 郵稅金六錢

文學士 小島伊佐美編
獨逸文法教科書 洋裝全一冊
正價 金六拾錢 郵稅金六錢

文學士 八木光貫著
正則 獨逸語獨修 洋裝全一冊
正價 金八拾錢 郵稅金六錢

文學士 登張信一郎著
獨逸新讀本 洋裝全六冊
四卷上金四拾五錢 自一至三各金六錢 郵稅各冊金六錢
五卷 金六拾錢 四卷下 金六拾錢

醫學士 大黑安三郎 山田基 文學士 登張信一郎共著
新和獨辭典 洋裝新形總クロース美製箱入全一冊
正價 金一圓卅錢 郵稅金六錢

文學士 登張信一郎著
新譯 獨和辭典 洋裝新形總クロース美製箱入全一冊
正價 金壹圓八拾錢 郵稅金八錢

文學士 登張信一郎著
新式 獨和大辭典 洋裝新形總クロース美製箱入全一冊
正價 金 參圓五十錢 郵稅金拾貳錢